(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第169集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告集第23集

黒熊中西遺跡

(2)

1994

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第169集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告集第23集

黒熊中西遺跡

(2)

1994

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団

序

西毛の鏑川流域は武蔵国から信濃国への交通の要路として早くから開けてきました。その要路に高速道の上信越自動車道が建設され、平成５年３月に藤岡市から長野県佐久市までが開通しました。この上信越自動車道の建設に伴い、数多くの埋蔵文化財が発掘調査され、記録保存されました。

高速道が通過する多野郡吉井町黒熊の中西地区も、埋蔵文化財調査の対象となりました。中西地区は、上毛三山を始め上信越国境の山々が一望できる景観の良き地であります。当地区は吉井町内にある特別史跡「多胡碑」の碑文中「給羊」の「羊」の解釈をめぐって識者の注目をひいた「辛子三」の文字瓦が出土した地として第２次世界大戦前より知られている地であります。平成元年度・２年度の２年間の発掘調査の結果、丘陵上の遺跡より平安時代の寺院跡、集落跡等貴重な遺構・遺物が発見され、本県の古代寺院の研究を進める上で大いなる調査成果がありました。

これら貴重な遺構・遺物等の資料は、平成３年度より調査報告書刊行のための整理作業を行い、既に寺院跡については「黒熊中西遺跡(1)」として報告書を刊行しました。この度、これに続いて集落跡関係の整理が終了したので、ここに「黒熊中西遺跡(2)」の報告書を刊行する運びとなりました。本書には先に報告された寺院跡と密接に関連する住居跡を始め貴重な調査結果が報告されています。特に、10号住居跡から出土した「元慶四年」（880年）刻字の紀年銘のある砥石は注目されています。

発掘調査から報告書刊行に至るまで日本道路公団東京第２建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、吉井町教育委員会、地元関係者等より種々のご援助、ご指導、ご協力を賜りました。ここに深甚なる感謝の意を表し、本報告書が本県の歴史の解明および古代寺院の研究を進める資料として広く活用される事を願い序とします。

平成６年３月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　小寺弘之

例　　言

1．本書は、関越自動車道上越線建設工事に伴い事前調査した、事業名称「栗崎八幡遺跡」の発掘調査報告書である。栗崎八幡遺跡は中西区・八幡区・栗崎区に分けられ、本書はそのうち中西区を扱い、黒熊中西遺跡と呼称した。報告書は第１分冊（寺院跡編）と第２分冊（住居跡編）の２分冊からなり、本書は第２分冊にあたる。尚、第１分冊は平成３年度「黒熊中西遺跡(1)」として刊行されている。

2．遺跡所在地　群馬県多野郡吉井町大字黒熊字中西

3．事 業 主 体　日本道路公団

4．調 査 主 体　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団

5．調 査 期 間　平成２年２月８日～平成３年３月31日

6．調 査 組 織　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団

事務担当　邊見長雄　松本浩一　田口紀雄　神保侑史　岩丸大作　須田朋子　吉田有光　柳岡良宏

関越自動車道上越線調査事務所

高橋一夫　片桐光一　徳江　紀　鬼形芳夫　宮川初太郎　国定　均　笠原秀樹

調査担当者　平成元年度　須田　茂　山口逸弘　小林　徹

平成２年度　須田　茂　鹿沼英輔　小林　徹

7．整 理 主 体　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

8．整 理 期 間　平成４年４月１日～平成５年３月31日

9．整 理 組 織　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団

事務担当　邊見長雄　中村英人　近藤　功　佐藤　勉　神保侑史　岸田治男　斎藤俊一　国定　均

笠原秀樹　須田朋子　吉田有光　柳岡良宏　船津　茂　高橋定義

関越自動車道上越線調査事務所

吉田　肇　依田治雄　吉田有光

整理担当　山口逸弘　長岡美和子　土田三代子　富沢スミ江　茂木良子　高橋優子　新井雅子

榊原浩美　猪野熊洋子　阿久沢明子

機械実測　長沼久美子　伊藤淳子　尾田正子　筑井弘子　戸神晴美　佐子昭子　千代谷和子

遺物写真　佐藤元彦

保存処理　関　邦一　土橋まり子　小材浩一　樋口一之

10．本書の編集は山口があたり、本文執筆は第Ⅲ章を神谷佳明、他は山口が行っている。また、鉄器の観察の一部は杉山秀宏が行った。

11．本書使用の遺構・遺物図面の一部のトレースは株式会社測研に委託した。

12．調査資料は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保存してある。

13．発掘調査に際して吉井町教育委員会、及び地元関係者の多大なる御支援を戴いた。
ここに感謝の意を表す次第である。

14．報告書作成にあたり、下記の諸氏にご教示、ご指導をいただいた。記して謝意を表す（敬称略）。
市川淳子　鈴木徳雄　田中広明　利根川章彦　外山政子　羽鳥政彦　三浦京子　茂木由行　山下歳信
渡辺　一　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員諸氏

凡　　例

1．挿図中に使用した方位は、真北である。

2．遺構実測図は下記の縮尺で掲載した。それぞれ図中のスケールを参照されたい。

住居……1/60	掘立柱建物跡……1/60
住居のカマド……1/30	遺物集積……1/60
土坑……1/40	井戸跡……1/40

3．遺物実測図は下記の縮尺率を基本に図示した。それぞれ図中に付記したスケールを参照されたい。

坏・椀類……1/3	石製品……1/3
羽釜・甕類……1/4	鉄製品……1/3
瓦類……1/4	

尚、実測図の網がけ部分の標記は下図のとおりであり、残存率1/2以下の個体については、中心線の両脇を離すことで標記した。

4．土器の色調の断定は、農林省農林水産技術会議事務局監修財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」昭和45年を使用した。

5．遺物の計測に際し、長さ・幅は小数点第２位を四捨五入し㎝単位で、重量は電磁式はかり（EY－2200A）を使用し、小数点第２位まで g 単位で表示した。

目　　次

序
例　言
凡　例
抄　録

第Ⅰ章　遺跡の概要 …… 3
　第1節　周辺遺跡と歴史的環境 …… 3
　第2節　遺跡の概要 …… 10
　　i）遺跡の全体像　　ii）基本土層

第Ⅱ章　遺構と遺物 …… 18
　第1節　黒熊中西遺跡 …… 18
　　i）概要　　ii）住居跡
　　iii）土坑・井戸　　iv）掘立柱建物跡
　　v）溝　　vi）遺物集積遺構
　第2節　黒熊庚申山区の調査 …… 303
　　i）調査の経緯と概要　　ii）住居跡
　　iii）土坑　　iv）溝　　v）庚申山区グリッド出土遺物
　第3節　黒熊中西遺跡グリッド出土遺物 …… 318
　第4節　計測表 …… 323
　　i）遺構計測表
　　ii）遺物計測表

第Ⅲ章　成果と問題点 …… 391
　1．出土土器について …… 391
　2．まとめにかえて …… 405

写真図版

抄　　録

1　概　要

本遺跡は群馬県多野郡吉井町大字黒熊字中西に所在する。鏑川右岸の上位段丘高標高部に位置し、北側へ下る急斜面地形に占地する。発掘調査は関越自動車道上越線建設に伴い、平成元年11月から平成３年３月まで行われた。

2　内　容

調査区内は中西区と庚申山区に区分され、中西区では礎石建物６棟を中心とする平安時代の寺院跡と集落跡が検出されている。そのうち、寺院跡などは『黒熊中西遺跡(1)』で報告済である。

遺構の数量は以下のとおりである。

	種　別	時　代	数　量	備　考
中西区	道路遺構	平安	7	前報告
	礎石建物	平安	6 (8)	前報告　瓦葺２棟　10～11世紀
	テラス	平安	9	前報告　工房など
	鍛冶炉	平安	10	前報告
	竪穴住居跡	奈良・平安	78	本報告
	土坑	奈良・平安	200以上	本報告
	掘立柱建物跡	平安	2	本報告
	遺物集積遺構	平安	3	本報告
	溝	主に平安	5	本報告
	井戸	平安	1	本報告
庚申山区	竪穴住居跡	奈良・平安	3	本報告
	土坑	奈良・平安	6	本報告
	溝	奈良・平安	1	本報告

3　まとめ

① 本書にまとめた竪穴住居跡はその多くが平安時代の所産であり、先に報告された寺院跡との関連は密接なものである。

② 土坑も同時期の所産のものが多い。その中で、80・81号土坑のように隣合う土坑から鉄製品が多量に出土したことは、鍛冶作業の工程を類推するに良好な資料となろう。

③ 出土遺物には大型品が多く、特に煮沸具としての羽釜の出土が目立つ。該期羽釜の様相の一側面を提示している。

④ その他の出土遺物では、10号住居跡の紀年銘（「元慶四年」(880年)）が刻字された砥石が注目されよう。

発掘調査報告書抄録

フリガナ	クロクマナカニシイセキ
書名	黒熊中西遺跡(2)
副書名	関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第23集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第169集
編著者名	山口　逸弘
編集機関	群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377　群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2
発行年月日	西暦　1994年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東緯 °′″	調査機関	調査面積 m²	調査原因
クロクマナカニシイセキ 黒熊中西遺跡	タノグンヨシイマチオオアザ 多野郡吉井町大字 クロクマ 黒熊	10363	10005 00286	36°14′25″	139°0′40″	19891101－ 19910331	16,780	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
黒熊中西遺跡	居住	奈良・平安時代	竪穴住居跡	78軒	土師器･須恵器･灰釉陶器･瓦	寺院跡（既報告）と共に検出された集落跡。主に9～10世紀前半。須恵器大型品多く、当地域の該期集落の様相を良好に示す。
			土坑	200基以上	土師器･須恵器･灰釉陶器･瓦	
			掘立柱建物跡	2棟	土師器･須恵器･灰釉陶器･瓦	
			遺物集積遺構	3基	土師器･須恵器･灰釉陶器･瓦	
			溝	5条	土師器・須恵器	
			井戸	1基	土師器・須恵器・瓦	

黒熊中西遺跡

(2)

第Ⅰ章　遺跡の概要

第１節　周辺遺跡と歴史的環境

黒熊中西遺跡を取り巻く各時期の概観は既に「黒熊中西遺跡(1)」で述べられており、本書では触れ得ない。ここでは、本遺跡の主体となった平安時代の様相を中心に周辺遺跡を概観する。

本遺跡は鏑川右岸に位置し、丘陵状地形に乗る寺院跡と集落が検出されている。この丘陵は周辺地形においては普遍的であり、樹枝状に伸びる小谷によって開析された洪積台地で形成される丘陵地形である。
平安時代においては、この鏑川右岸に、様々な性格を持つ遺跡が濃密に展開する。ここでは、それらの遺跡群の中で集落、窯跡群、寺院跡を中心に概略的ではあるが、紹介をしておきたい。

ⅰ）集落　当地域の著名な平安時代集落跡としては矢田遺跡（56）が挙げられる。矢田遺跡は鏑川右岸の上位段丘上に占地する集落跡で、平安時代の住居跡を多数検出している。特に古墳時代後期～平安時代の住居跡より石製紡錘車の出土が顕著に見られ、「八田郷」などの線刻がなされたものが知られている。

この上位段丘に展開する集落跡は多く、例えば椿谷戸遺跡（57）、多胡蛇黒遺跡（59）、神保富士塚遺跡（63）、多比良追部野遺跡（50）、黒熊遺跡群（30）が比較的広がりを持って、上位段丘の平坦地上に集落を選地する傾向が見られる。

ただ、本遺跡および黒熊八幡遺跡（27）などは上位段丘より高標高地にあり、かつ急斜面地形においても、平安時代の集落が乗る様相は、該期の集落の拡散現象とも捉えられよう。これは、下位段丘の遺跡にも見られ、若干集落規模は小型になるようだが、確実に低地への進出も果たしている。

地点は違うが、緑埜遺跡群（20）や白石根岸遺跡（24）、長根羽田倉遺跡（64）で検出されたＢ下水田跡の存在も忘れてはならず、低位段丘では一層の水田生業とのかかわりが予測される。おそらく存在する条里制遺構をも考慮にいれ、当該地域の集落拡散現象の背景を明確にしなければならないだろう。

ⅱ）窯跡群　当地域の集落域の背後、つまり南側に展開する山地部分には、多くの窯跡群が分布する。もっとも著名な窯跡としては金山瓦窯跡（33）が挙げられよう。上野国分寺創建時の瓦を供給した窯として位置付けられている。

その他に、国分寺補修期に生産が推定される滝の前窯跡（38）、８世紀中頃の所産とされる末沢窯跡、９世紀～10世紀段階の操業とされ、風字硯なども出土した下五反田窯跡もある。また、藤岡市教育委員会が調査した藤岡窯跡群（32）も複数の窯跡の存在が確認されており、当地域の山地部分における窯跡の分布はかなり濃密なものと考えられよう。調査の手が広がるに従い、今後もさらにその量的な保証は確保されて行くだろう。

その際には、窯跡群の移動形態、中核的な窯跡の確定、各窯跡の器種組成さらに工人集落や粘土採掘坑などの存在も念頭におかねばならず、当地域の窯跡研究がかかえる問題は山積しているといえよう。

尚、本遺跡と鏑川を挟んだ南陽台住宅団地周辺にも窯跡の存在が予想されている[1]。当地域の詳細も今後明らかにしなければならないだろう。

ⅲ）寺院跡　近年の調査では、黒熊中西遺跡（本遺跡）の礎石を持つ寺院跡が注目される。本遺跡では７棟の礎石建物とテラス状遺構など付帯設備も確認されており、該期の寺院跡構成の一端を窺い知ることができる。詳細は前報告書を参照されたい。

この他に、当地域の寺院跡と推定される遺跡は、吉井町と藤岡市境に位置する塔之峰遺跡（26）や馬庭東遺

跡（11）、岡遺跡（78）雑木味遺跡（75）などが知られる。特に近年、馬庭東遺跡・岡遺跡・雑木味遺跡などの表採資料を元に西毛地域の寺院跡の在り方を示唆した川原氏の精力的な研究（文献29）も本地域の寺院跡研究には欠かせない分析となっている。また、黒熊八幡遺跡や矢田遺跡、多胡蛇黒遺跡などでも瓦が出土しており、当該地域の特徴である、樹枝状に伸びる台地・丘陵毎に集落と寺院跡が存在する傾向も予測されよう。「西毛寺院連合」ともいわれる所以かもしれない。

本遺跡の寺院跡を山岳寺院ないしは山地寺院と性格付ける傾向もあるが、当地域の寺院跡およびその推定地の様相を概観すると、１集落に１寺院ないしは１台地に１寺院という形態に近い傾向もあるのではないだろうか。寺院跡は郡衙あるいは窯跡との関連も強く、一概に独立した寺院形態を確定する必要は無いと思われる。

以上のように、集落遺跡は上位段丘から下位段丘へ展開し、その集落の構成員の生業によって選地に様々な傾向が見られるようである。当該地域の集落研究は矢田遺跡の一連の報告で明らかになりつつあるが、文献上解釈に傾斜しており、あくまでも考古学上の資料を操作した論及は見られない。個々の集落の性格を特定する作業には確かに文献上の要素を加味せざるを得ないかもしれないが、考古遺物の特性を生かした分析も必要であろう。

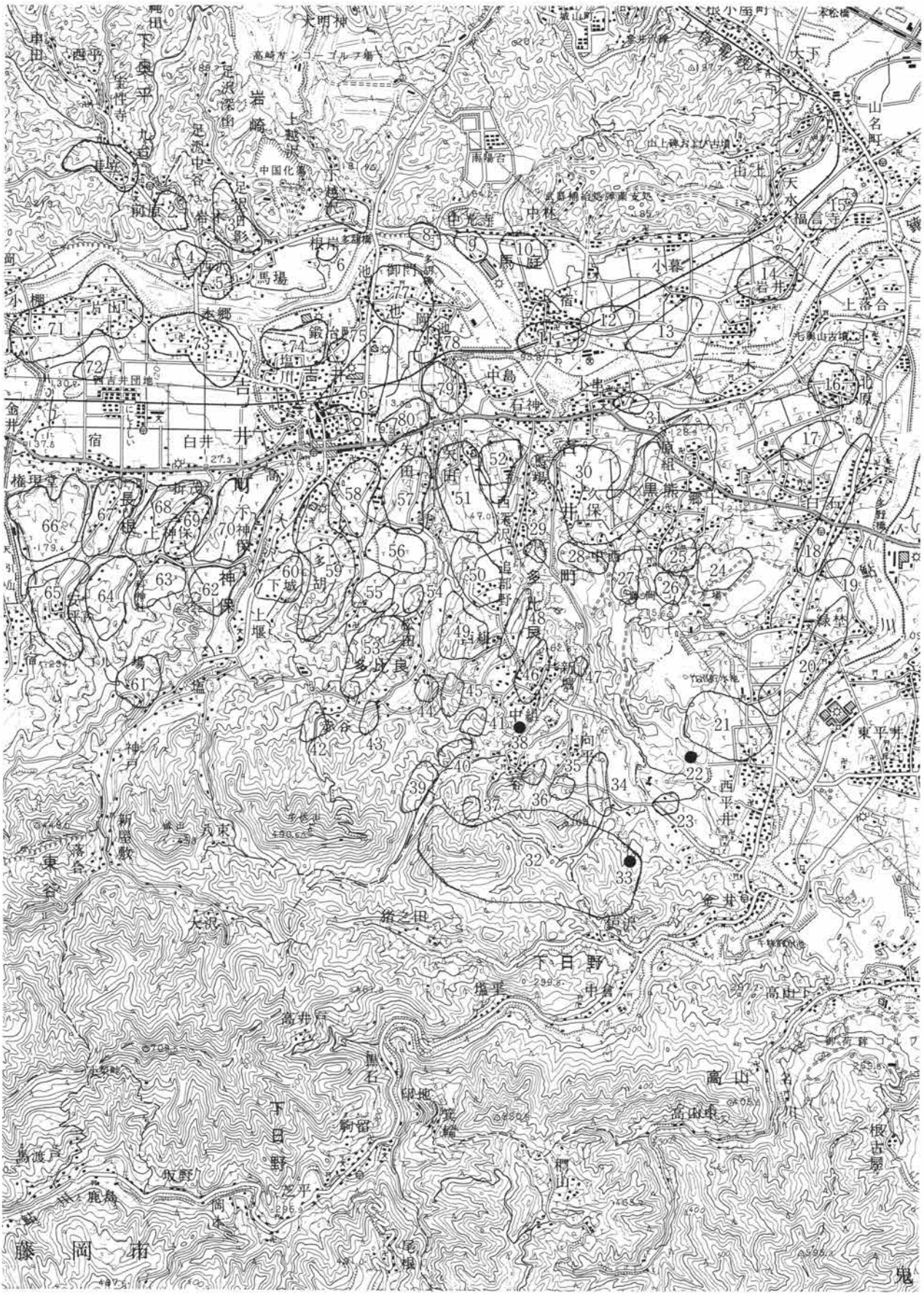
次に窯跡群に目を向けると、山間地域に集中する傾向が一般化している。調査例が少ないため、判然としない部分が多く、例えば工人集落や採掘坑などの存在を示唆する遺跡は見られない。この窯跡群が供給する須恵器・瓦類が当該地域にどのように反映したのであろうか、興味は尽きないが、操業年代・器種構成の変化等を明らかにしなければならないだろう。

最後に寺院跡について触れると、本遺跡とその周辺は「西毛寺院連合」とも言われる寺院の濃密な地域である。その背後にある要因を、一概に東山道や国分寺と関連付けるのは暴挙であり、短絡的と言わざるを得ない。当該地域のみならず他地域における寺院跡の分布を鑑み、また集落内の寺院跡、窯跡群と寺院跡というような比較分析が必要ではないだろうか。

上記のように、当該地域の平安時代諸遺跡は集落・窯跡群・寺院跡などその性格に多様性が見られ、単純な位置付けはできない。この諸要素に加え、水田・畠などの生産遺構の在り方を考えると、平安時代の遺跡群は様々な要素が複雑に絡み合い、遺跡間相互関与の頻繁な動態が窺えよう。

註

(1)　南陽台窯跡は、『多胡蛇黒遺跡』（中沢　1993）（文献30）でその存在が指摘された。


大明神
岩崎
上越沢
中国化薬
南陽台
中林
中光寺
馬庭
小暮
岩井
上落合
山名町
大下
根岸
馬場
本郷
鍛冶
塩川
吉井
中島
石神
小串
白井
宿
長根
上神保
神保
下城
多比良
中組
向平
西平井
東平井
金井
下日野
塩平
高山
高山中
高山下
鹿島
藤岡市
鬼

１図　周辺の遺跡

第１表　周辺遺構一覧表

No	時期 遺跡名	奈平	瓦	窯跡	遺　跡　の　概　要	参考文献
1		○				
2		○				
3		○				
4		○				
5	東吹上遺跡	◎			平安時代住居跡１軒。	3
6	富岡遺跡	◎			吉井町教委調査。平安時代住居跡４軒。	21
7		○				
8	川福遺跡	◎			奈良・平安時代住居跡５軒、竪穴３基・溝２条・土壙１基・土器集中地点１箇所など。	12
9		○				
10		○				
11	馬庭東遺跡	○	○		多胡郡域の寺院跡といわれる（推定多胡寺か）。複弁七葉軒丸瓦と轆轤挽き三重孤文軒丸瓦が知られる。	4
12		○				
13		○				
14		○				
15		○				
16	東原遺跡	○				
17		○				
18		○				
19	白石大御堂遺跡	◎			事業団調査。中世寺院跡として著名。上谷戸区において平安時代の住居跡３軒・集石遺構と土坑が検出されている。	25
20	緑埜遺跡群	◎			藤岡市教委（1982～1986）・事業団（1990）が調査。平安時代住居後およびAs－Ｂ下の水田などを検出。	33
21	竹沼遺跡	◎			藤岡市教委調査。平安時代の遺物散布。奈良時代の住居跡１軒。	5
22				◎		
23	上の場遺跡		○			
24	白石根岸遺跡	◎	◎		事業団調査。平安時代住居跡５軒と土坑を数基検出。他にAs－Ｂ下の水田跡を確認している。	32
25	黒熊栗崎遺跡	◎	◎		事業団調査。平安時代住居跡27軒・小鍛冶遺構２基・土坑数基を検出。塔之峰遺跡に北接する。出土瓦は少量。	33

No	時期 遺跡名	奈平	瓦	窯跡	遺跡の概要	参考文献
26	塔之峰遺跡	○	○		寺院跡といわれる。瓦採集。	33
27	黒熊八幡遺跡	◎	◎		事業団調査。奈良・平安時代の住居跡を150軒以上を検出。	33
28	黒熊中西遺跡	◎	◎		本報告書掲載の遺跡。	28
29	多比良平野遺跡	◎	◎		事業団調査。平安時代の住居跡１軒。	32
30	黒熊遺跡群	◎	◎		本遺跡北に近接し、低位標高に位置する。吉井町教委調査で住居跡５軒が検出されている。	6
31	塚原遺跡	◎			吉井町教委調査。平安時代住居跡１軒など。	8
32	藤岡吉井窯跡群		◎	◎	藤岡市調査。他に製鉄遺構が検出されている。	
33	金山瓦窯跡		◎	◎	上野国分寺創建期の瓦窯として著名。２基が調査。トンネル式無段登窯。瓦の他に須恵器甕等が出土。	2
34		○				
35		○				
36			○			
37	不動沢遺跡		○			
38	滝の前窯跡			○	須恵器坏・甕・文字瓦などが散布。国分寺補修期の瓦とされ、平安時代以降の瓦窯ともいわれる。	18
39	末沢窯跡			◎	昭和53年、地下式無段無階登窯１基を国士館大学が調査。蓋・坏・甕・瓦・土鈴などが出土している。大半は須恵器であり、報告では８世紀中頃とされる。	10
40		○	○			
41		○				
42		○				
43		○				
44		○				
45		○				
46		○				
47	下五反田窯跡			◎	昭和51年、地下式無段無階登窯２基とステバを国士館大学が調査。ステバからの出土遺物は、坏・多量の甕・風字硯・鬼瓦が出土している。須恵器が大半を占め、報告では９世紀末～10世紀にかけてと遺物の年代を与えている。	10
48		○				
49	東沢遺跡	◎			奈良時代２軒・平安時代の住居跡３軒。	17
50	多比良追部野遺跡	◎	◎		事業団調査。大型の集落跡。主に古墳時代中～後期だが、平安時代の住居跡も検出され、他にAs－B下の水田も確認されている。	33
51	千歩原遺跡	○	○			

No	時期 遺跡名	奈平	瓦	窯跡	遺　跡　の　概　要	参考文献
52	入野遺跡	◎			主に古墳時代の集落跡。平安時代住居跡。	1 11
53		○	○			
54		○				
55	柳田遺跡	◎			吉井町教委調査。矢田遺跡南に近接。平安時代の住居跡など。	20
56	矢田遺跡	◎	◎		古墳～平安時代の大型集落跡。平安時代の住居跡は271軒で刻字のある出土紡錘車が著名。事業団調査。	23 24 26
57	椿谷戸遺跡	◎			吉井町教委調査。矢田遺跡北に近接する。奈良時代14軒・平安時代13軒などが検出されている。	19
58	川内遺跡	◎			吉井町教委調査。奈良・平安時代の集落跡。	7
59	多胡蛇黒遺跡	◎	◎		事業団調査。矢田遺跡の西に隣接。平安時代の住居跡44軒以上を検出。	30
60	神保下條遺跡	◎			事業団調査。奈良時代の住居跡３軒を検出。	27
61		○				
62	神保植松遺跡	◎			事業団調査。平安時代の住居跡。	33
63	神保富士塚遺跡	◎			事業団調査。奈良・平安時代の住居跡144軒・土器集積を検出。	31
64	長根羽田倉遺跡	◎	◎		事業団調査。平安時代の住居跡45軒を検出。他にAs－B下の水田。	22
65	長根安坪遺跡	◎			事業団調査。平安時代の住居跡。	33
66		○				
67	西場脇遺跡	◎	◎		吉井町教委調査。平安時代の住居跡１軒を検出。	16
68	折茂上野場遺跡	○	○			
69	折茂東遺跡	◎			吉井町教委調査。平安時代の住居跡13軒を検出。	17
70		○	○			
71		○				
72		○				
73	道六神遺跡	◎	◎		吉井町教委調査。平安時代の住居跡１軒を検出。	13
74		○				
75	雑木味遺跡		○		複弁六葉軒丸瓦・ヘラ描き三重孤文軒平瓦の出土が知られる。礎石類の存在も伝えられ、寺院跡・郡衙の存在も示唆されている。	4 29
76	砂井戸遺跡	○	○		遺物散布地。	
77		○				
78	岡遺跡	○	○		多胡碑に西接する。複弁六葉軒丸瓦・ヘラ描き三重孤文軒平瓦の出土が知られることから、寺院跡・郡衙の存在も示唆されている。	4 29

No	遺跡名　時期	奈平	瓦	窯跡	遺　跡　の　概　要	参考文献
79		○				
80		○				

参考文献

1　尾崎喜左雄　『入野遺跡』1962
2　坂詰秀一　『上野・金山瓦窯跡』1966
3　外山和夫他　『東吹上遺跡』『群馬県立博物館研究報告　第８集』1973　群馬県立博物館
4　吉井町誌編集委員会　『吉井町誌』1974
5　前原　豊他　『Ｆ１　群馬県藤岡市竹沼遺跡』1978　藤岡市教育委員会
6　茂木由行　『黒熊遺跡群調査報告書』(1)～(5)　1981～1985　吉井町教育委員会
7　茂木由行　『川内遺跡－図版編－』1982　吉井町教育委員会
8　茂木由行　『塚原・黒熊第１遺跡発掘調査報告書』1983　吉井町教育委員会
9　大江正行　「群馬県における古代窯跡群の背景」『群馬文化』199　1984　群馬県地域文化研究協議会
10　戸田有二他　「下五反田窯跡」「末沢窯跡」『考古学研究室発掘調査報告書』1984　国士館大学文学部考古学研究室
11　茂木由行　『入野遺跡』1986・1987　吉井町教育委員会
12　茂木由行　『川副遺跡調査報告書』1986　吉井町教育委員会
13　茂木由行　『道六神遺跡』1986　吉井町教育委員会
14　古郡正志他　『緑埜遺跡群Ⅰ』1986　藤岡市教育委員会
15　田野倉武男　『緑埜遺跡群Ⅱ』1987　藤岡市教育委員会
16　茂木由行　『西場脇・長根・宿遺跡調査報告書』1987　吉井町教育委員会
17　茂木由行　『東沢遺跡・折茂東遺跡』1987　吉井町教育委員会
18　須田　茂　「吉井町・滝の前窯跡の採集遺物とその性格」『群馬文化』1989　群馬県地域文化研究協議会
19　茂木由行　『椿谷戸遺跡発掘調査報告書』1989　吉井町教育委員会
20　茂木由行　『柳田遺跡発掘調査報告書』1989　吉井町教育委員会
21　茂木由行　『富岡遺跡』1989　吉井町教育委員会
22　鹿沼英輔　『長根羽田倉遺跡』1990　群馬県埋蔵文化財調査事業団
23　春山英幸他　『矢田遺跡　平安時代住居跡編(1)』1990　群馬県埋蔵文化財調査事業団
24　関口功一他　『矢田遺跡　平安時代住居跡編(2)』1991　群馬県埋蔵文化財調査事業団
25　綿貫鋭次郎　『白石大御堂遺跡』1991　群馬県埋蔵文化財調査事業団
26　富田一仁他　『矢田遺跡　平安時代住居跡編(3)』1992　群馬県埋蔵文化財調査事業団
27　右島和夫　『神保下條遺跡』1992　群馬県埋蔵文化財調査事業団
28　須田　茂　『黒熊中西遺跡(1)』1992　群馬県埋蔵文化財調査事業団
29　川原嘉久治　「西上野における古瓦散布地の様相」『研究紀要』10　1992　群馬県埋蔵文化財調査事業団
30　中沢　悟　『多胡蛇黒遺跡』1993　群馬県埋蔵文化財調査事業団
31　小野和之　『神保富士塚遺跡』1993　群馬県埋蔵文化財調査事業団
32　斎藤利昭　『白石根岸・多比良平野遺跡』1993　群馬県埋蔵文化財調査事業団
33　『年報』８～11　1989～1992　群馬県埋蔵文化財調査事業団

第2節　遺跡の概要

ⅰ）遺跡の全体像：本遺跡の概要は『黒熊中西遺跡(1)』に詳しく述べられている。その詳細は前冊を参照していただき、ここでは、概略的な全体像を述べる。

本遺跡は、鏑川右岸の上位段丘の高標高部分に位置し、南側にかけて丘陵・山地が展開する急斜面地形に存在する。前冊にも述べらているように本遺跡の遺構の構成は大別して、寺院跡と集落跡に分けられる。前冊でも各遺構の性格的区分は「無意味であり不可能」と判断したように、各遺構が複雑に入り組む様相を示している。巨視的にみると調査区内は高標高部分に礎石建物による寺院跡が占め、一段低い比較的平坦な地形を選び住居跡などが集中する。しかしながら、例えば寺院跡と住居跡の重複や、痩せ尾根上に占地する掘立柱建物跡、さらに寺院跡より下位の平坦面に密集する住居跡と土坑群など、個々の遺構は平凡な要素なのだが、その組成は特殊な在り方を見せている。

また、本遺跡内の微地形は、小尾根と小谷が入り組み、地形的に数単位のまとまりを見ることができる。発掘調査および前冊報告では、この微地形に沿って「東尾根区」・「中尾根東区」……というように地形による区分けを行い、調査・整理を行った経緯を持つ。本書においてもこれを踏襲し、遺構の説明などにこの地形区割り名称を使用したが、前冊よりやや大まかな区割りにした（2図）。

これらの区割りは便宜的なものではあるが、本遺跡が見せる住居跡配置の様相は、当該地域の平安時代集落の一形態として、小尾根上に占地する住居群の景観を良好に示している。ここでは、小尾根上の住居跡の様相を述べる。

小尾根は大別すると3つに区分される。西尾根・中尾根・東尾根であるが、高標高部分は整地され、寺院跡である礎石建物が位置している。尾根地形は北側へ下る傾斜面を持ち、また東西へも傾斜しているため、平坦面は狭小な範囲でしかない。そのため、各住居跡は緩やかな斜面地点を選び占地する傾向が見られた。

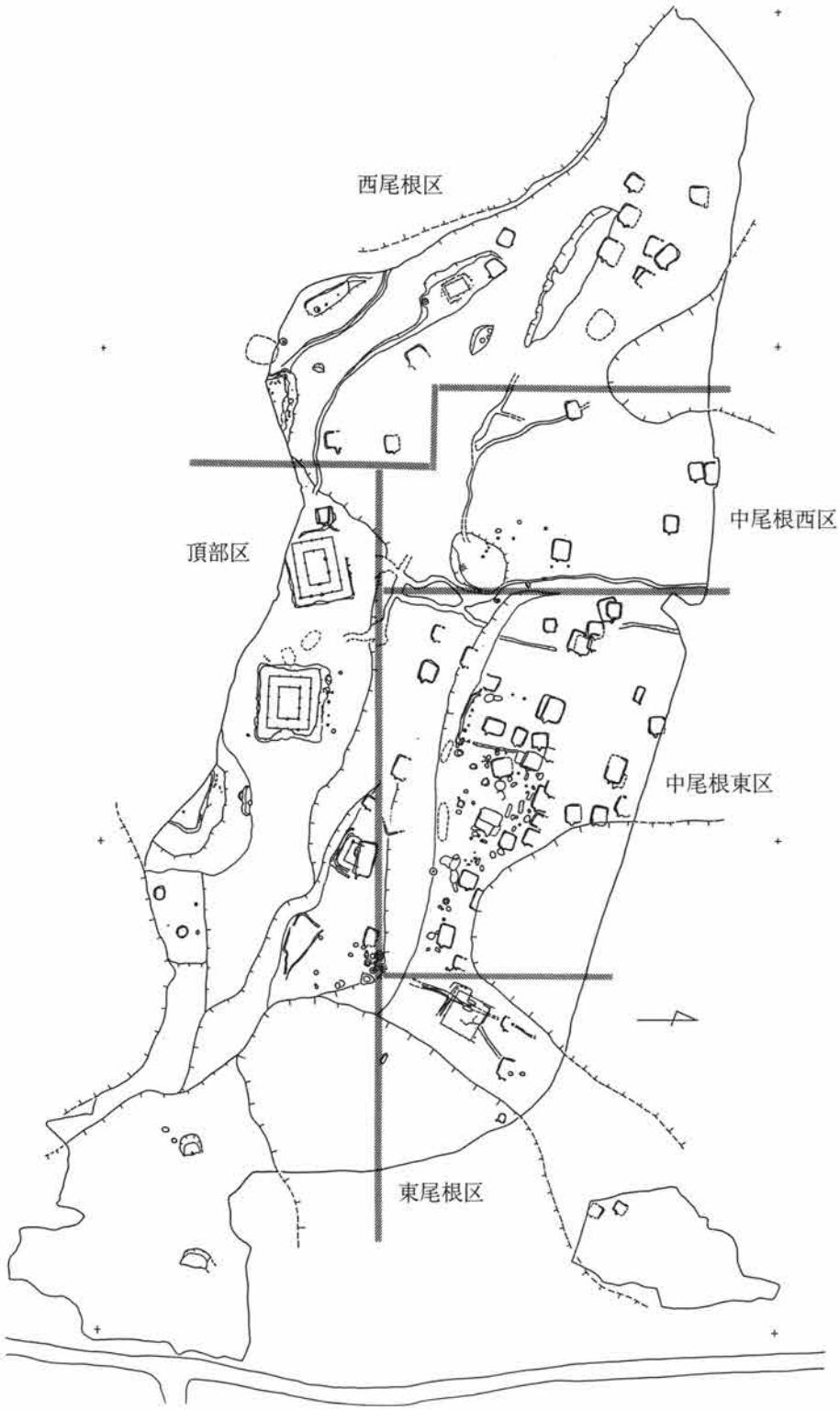
特に、東尾根は東側斜面が急傾斜のため、馬の背状の尾根であり、頂部部分に1号掘立柱建物跡・54～59号住居跡などの遺構が密集し、著しい重複が見られた。しかし、この重複地点を除くと14・15・70・71号住居跡は単独の検出であり、住居跡の集中は希薄になる。その他に、7号溝が南北に検出されている。

中尾根は、本遺跡で最も広範囲な平坦面を誇る。住居跡の集中も多く、土坑も80・81号土坑などに見られるように集落に有機的な関連を想起させるものも確認された。この平坦地形は、中尾根の東側部分で顕著であり、住居跡も東側に集中する。しかしながら、重複住居跡も見られるものの、単独のものもあり、平坦地形とはいえ、ある程度の距離を保ち占地されたものと考えられよう。1～12号・16号・25～36号・38～44号・46～49号・53号・60号・61号・67号・68号・73号・80号住居跡や1号・2号集積遺構など遺構・遺物が多く検出された。寺院跡を除くと本遺跡の中核的な地点でもある。

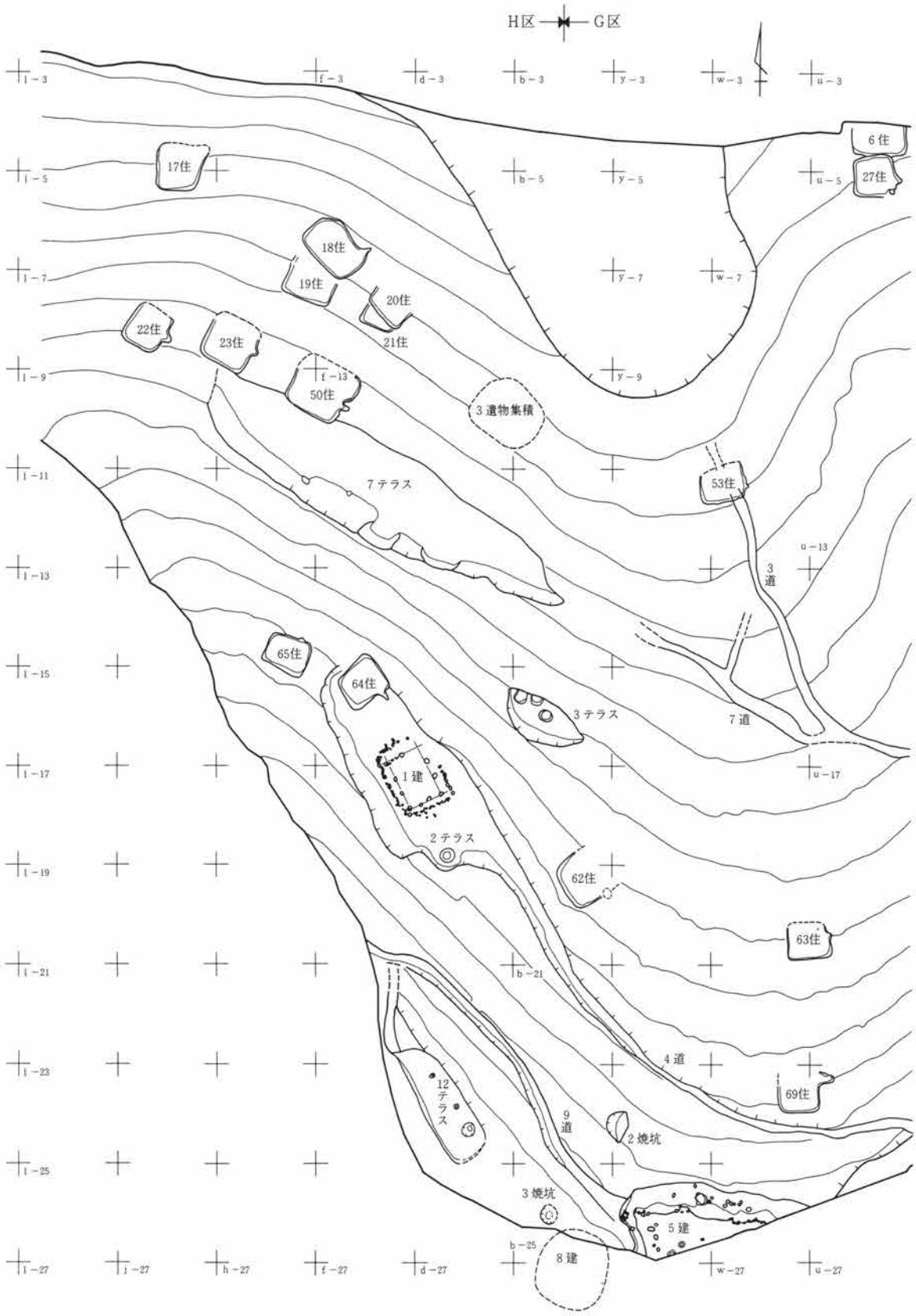
西尾根も東尾根同様の急斜面地形を東西に持つ。しかしながら、17～23号・50号・62～65号住居跡や3号集積が検出されており、また1号礎石建物も良好な遺存を見せている。中尾根ほどの遺構の集中は見られなかったが、斜面地形に反して居住域として選ばれた西尾根は、何等かの性格を位置付けなければならないだろう。また、中尾根と西尾根の間には浅い谷地形が横切る形となるが、この部分に遺構が集中しない傾向も興味深い。中尾根と西尾根の集落の差も念頭に置かねばならないだろう。

頂部区とした、礎石建物と整地遺構の集中する地点にも住居跡が検出されている。75・78号住居跡などがそれにあたり、細かな時期的な因果関係などを検証していないが、寺院跡との関連も考えねばならない。

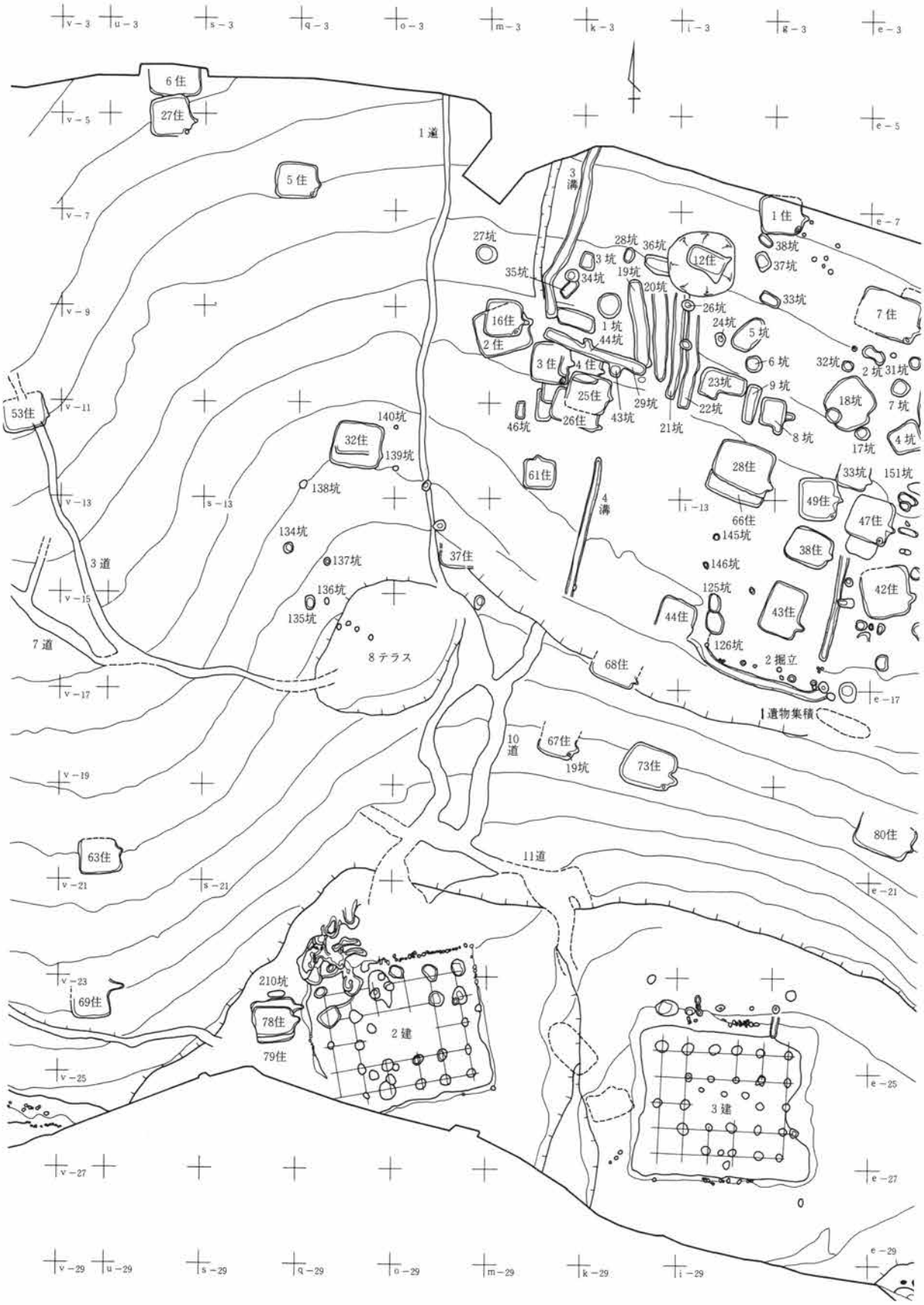
これらの検出された住居跡の殆どが主軸を東西に持ち、一定の規則性が看取された。また、狭小な尾根地形



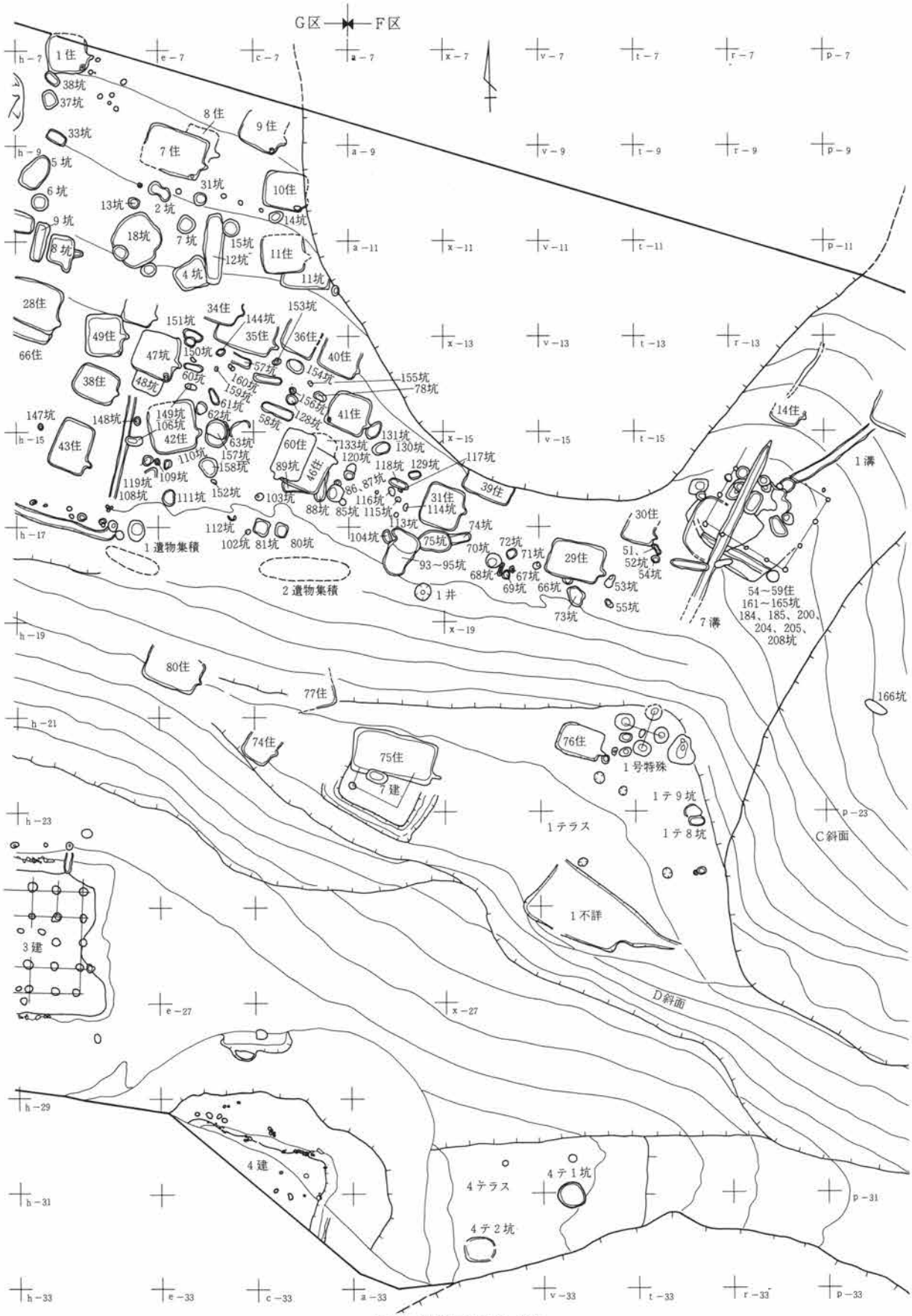
２図　調査区分図


H区
G区
l－3
f－3
d－3
b－3
y－3
w－3
u－3
l－5
b－5
y－5
u－5
l－7
y－7
w－7
l－9
y－9
l－11
l－13
u－13
l－15
l－17
u－17
l－19
l－21
b－21
l－23
l－25
b－25
l－27
j－27
h－27
f－27
d－27
w－27
u－27
6住
27住
17住
18住
19住
20住
21住
22住
23住
f－13
50住
3遺物集積
7テラス
53住
3道
7道
65住
64住
3テラス
1建
2テラス
62住
63住
4道
69住
12テラス
9道
2焼坑
3焼坑
5建
8建

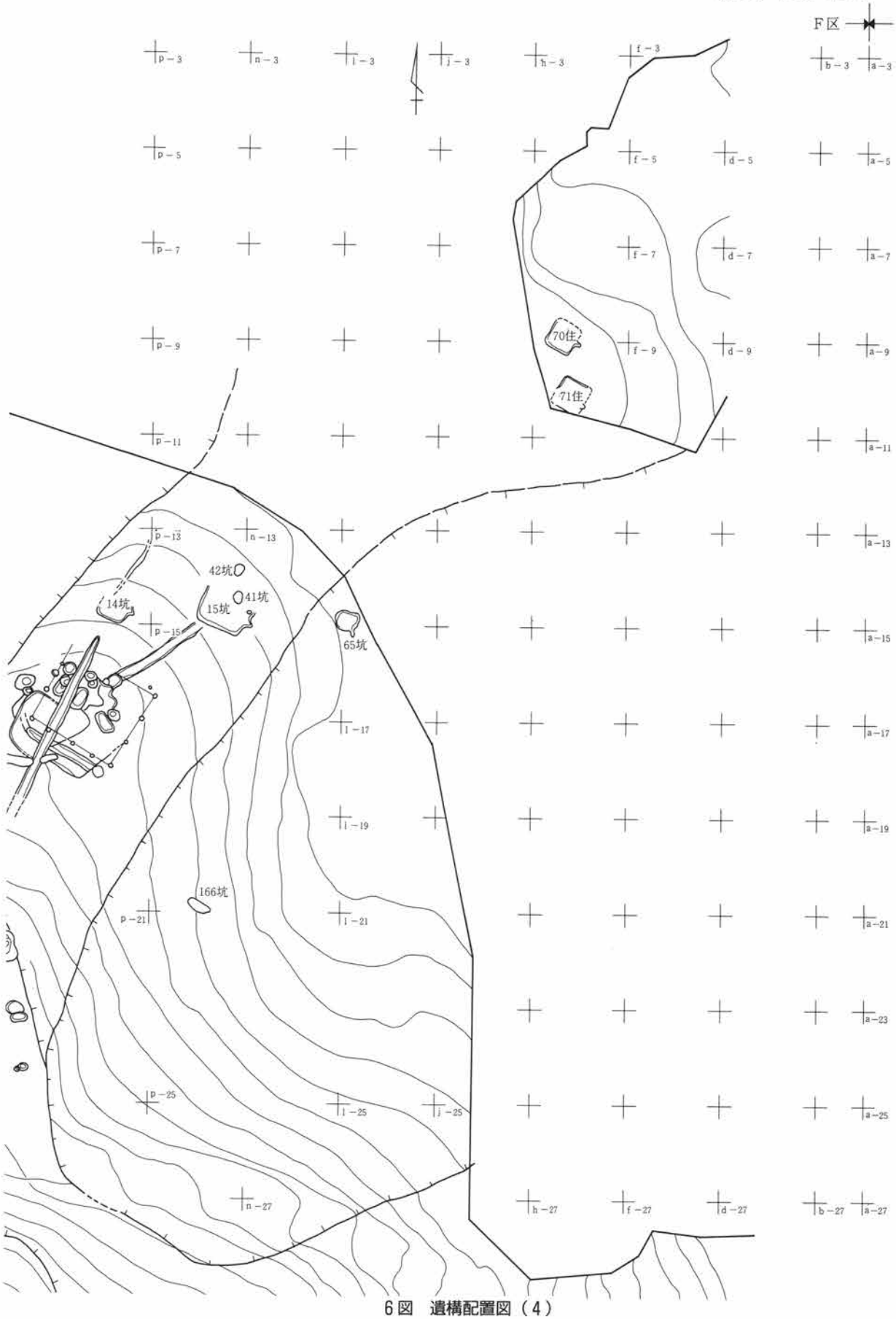
3図　遺構配置図（1）


6住
27住
1道
5住
3溝
1住
27坑
28坑
36坑
38坑
3坑
12住
37坑
35坑
34坑
19坑
20坑
33坑
7住
16住
1坑
26坑
24坑
5坑
2住
44坑
3住
4住
6坑
32坑
2坑
31坑
23坑
9坑
25住
29坑
18坑
7坑
53住
46坑
26住
43坑
22坑
21坑
8坑
17坑
4坑
140坑
32住
139坑
61住
28住
33坑
151坑
138坑
4溝
49住
47住
66住
145坑
134坑
38住
137坑
37住
146坑
3道
136坑
125坑
42住
135坑
44住
43住
7道
8テラス
126坑
2掘立
68住
遺物集積
10道
67住
19坑
73住
80住
63住
11道
210坑
69住
78住
2建
79住
3建

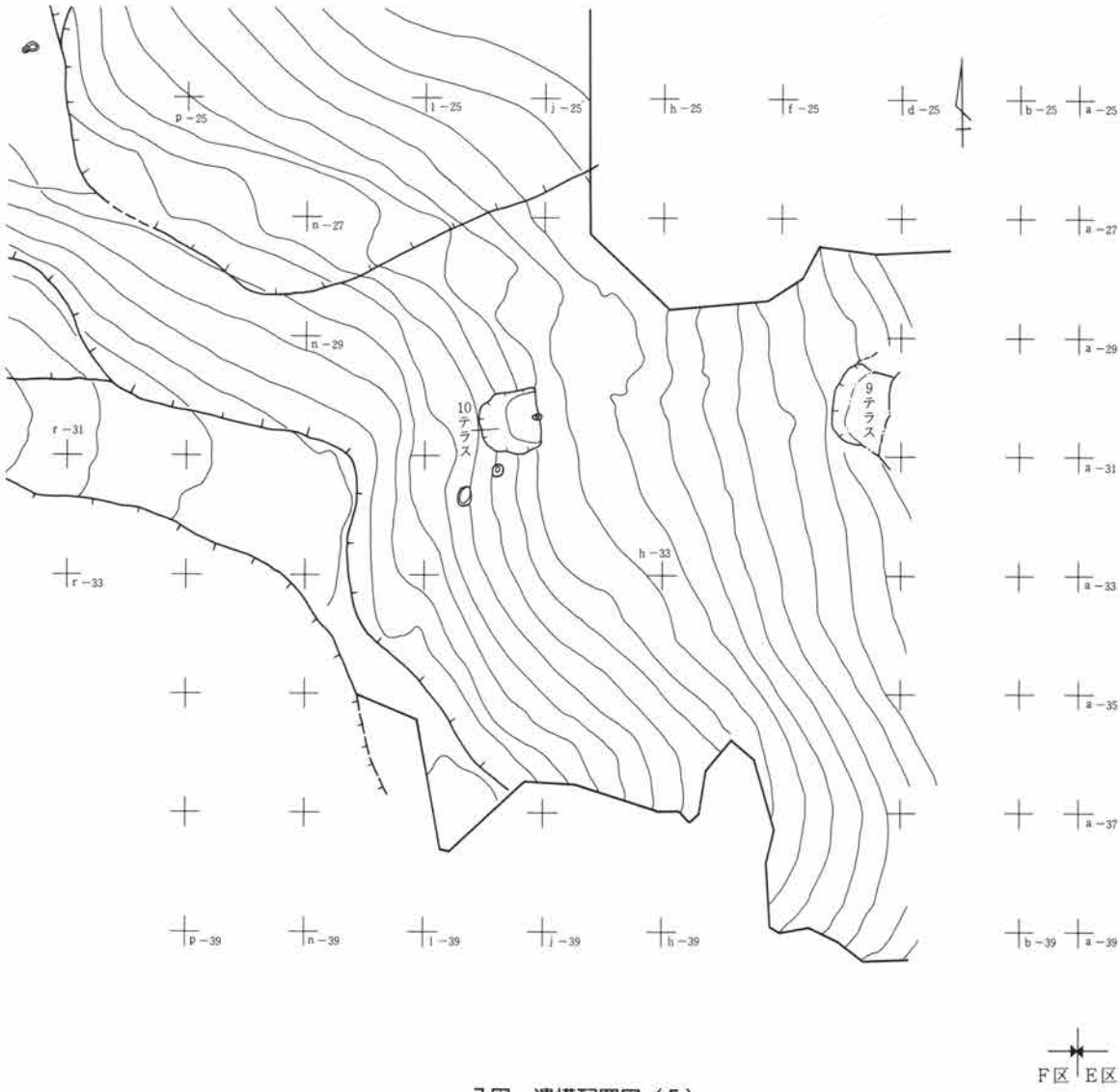
4図　遺構配置図（2）


G区
F区
1 遺物集積
2 遺物集積
1 井
1 溝
7 溝
C斜面
D斜面
1 号特殊
1 テラス
1 不詳
3 建
4 建
4 テラス
4 テ 1 坑
4 テ 2 坑
1 テ 9 坑
1 テ 8 坑
54～59住
161～165坑
184、185、200、
204、205、
208坑

5図　遺構配置図（3）


F区
p－3
n－3
l－3
j－3
h－3
f－3
b－3
a－3
p－5
f－5
d－5
a－5
p－7
f－7
d－7
a－7
p－9
f－9
d－9
a－9
70住
71住
p－11
a－11
p－13
n－13
a－13
42坑
41坑
14坑
15坑
p－15
65坑
a－15
l－17
a－17
l－19
a－19
166坑
p－21
l－21
a－21
a－23
p－25
l－25
j－25
a－25
n－27
h－27
f－27
d－27
b－27
a－27

6図　遺構配置図（4）



7図　遺構配置図（5）

に占地しながら、重複した住居跡は少なく、単独の検出が多い。さらに、希少的存在とはいえ該期集落に見られる大型住居跡も無いことから、数棟1単位の集落の小単位を抽出するよりも、尾根毎のまとまりをもって集落構成を考えることが可能である。

その他の本遺跡の特徴としては、出土遺物が豊富に見られた。器種構成としては、平凡な構成を示すが、量的には他地域の該期集落跡出土遺物量より群を抜く。これは矢田遺跡などにも見られる現象ではあるが、おそらく生産跡としての窯跡群が南側に展開する山地に多数存在するためといえよう。

ii）基本土層：層序も「黒熊中西遺跡（1）」で詳細に述べられている。ここでは、ローム層中の説明を行い、周辺遺跡の今後の報告に伴い参考となるようにしたい。（3図）

Ⅰa層　淡褐色土　表土。As－A（浅間A軽石）を含む。

Ⅰb層　褐色土　表土。As－Aを塊状に含む。

Ⅰc層　鈍～暗褐色土。　地点によってはAs－Bを含む。平安時代の遺物包含。下面遺構検出面。住居跡

覆土も均質な鈍褐色土が主体となる。

Ⅱ層　鈍褐色土　白色粒子混入。希に縄文時代の遺物包含。高標高部分及び西尾根地区では礫が混入する。

Ⅲ層　黄褐色ローム層　軟質。As－YP（浅間板鼻黄褐色軽石）を少量含む。下面の不連続面はⅥ層にまで達する箇所もある。

Ⅳ層黄褐色ローム層　硬質。As－SP（浅間白糸軽石）を少量含む。比較的層厚が厚く安定した層序を見せる。

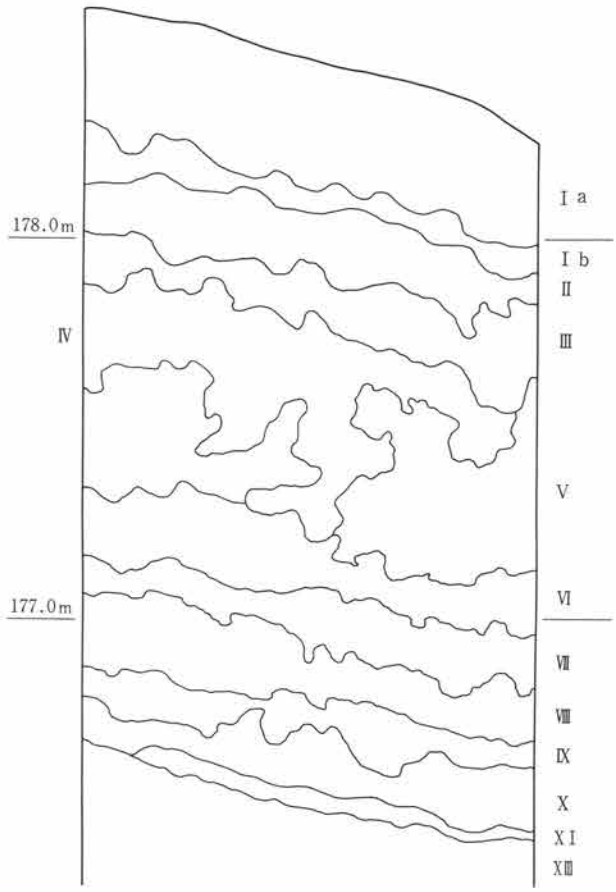
Ⅴ層　黄褐色ローム層　硬質。As－BP(浅間板鼻褐色軽石）を粒状に含む。

Ⅵ層　黄褐色ローム層　硬質。As－BP（灰褐色）を塊状に含む。

Ⅶ層　暗褐色ローム層　軟質。粘性に富む。低位標高部ではこの層から湧水する。

Ⅷ層　黄褐色ローム層　軟質。粘性に富むが、塊状の硬質土も混入する。下位にAs－MPが混じる。

Ⅸ層　明褐色ローム層　軟質。As－MP（浅間室田軽石）混土層。台地部分では安定して見られた。



8図　基本土層図

Ⅹ層　灰白色ローム層　軟質。As－MP混土層。純層に近い。下面はやや粘性を帯びる。

ⅩⅠ層　暗褐色粘土層　いわゆる暗色帯上層。下面にAT極大値を持つといわれる。

ⅩⅡ層　姶良Tn火山灰層が対応するが、本遺跡では検出されなかった。

ⅩⅢ層　暗褐色粘土層　硬質。いわゆる暗色帯。周辺遺跡では本層位で石器が出土している。

以上が基本土層の概略であるが、本遺跡の東西における洪積台地での調査、すなわち黒熊八幡遺跡と多比良追部野遺跡では、暗色帯中より石器の出土が確認されている。本遺跡でも平坦地形において、ローム層の発達が良好なため、数箇所の試掘を行ったが石器の出土は見られなかった。調査区内の高標高部分－寺院跡が検出された地点では基壇削平状況の調査に伴い、ローム層中の調査も併せて行ったが、その調査深度は暗色帯中にまでは及ばなかった。

今回は、基本土層の提示にとどまり、周辺遺跡の基本土層との対比を目的としたが、将来的には本遺跡のような急傾斜地形の丘陵部にも精力的な旧石器時代調査が必要となるだろう。

第Ⅱ章　遺構と遺物

第1節　黒熊中西遺跡

本遺跡の主な遺構は、平安時代の寺院跡と78軒の住居跡である。このうち、化粧基壇などを擁する礎石建物である寺院跡は7棟が検出され、当該地域の平安時代寺院跡としては画期的な規模を誇っている。この寺院跡の詳細は『黒熊中西遺跡（1）』で述べられており、本報告では省くが、ここに報告する竪穴住居跡・土坑は寺院跡とは全く無関係のものではなく、配置、性格など密接な関連を示唆している。以下概要を述べる。

(i) 概　要

竪穴住居跡（以下住居跡）は、76軒を調査した。本遺跡の高標高部分には前述の寺院跡が占地し、今回の調査で検出された住居跡は調査区域内全体に分布していたが、その中心は、丘陵部の裾にあたる寺院跡北に密集している。丘陵部の裾部は急勾配を呈する北側斜面であり、そのため、大半の住居跡の北壁は残存率が悪く、平面形や住居跡規模の統一的な傾向を把握するには、資料的な制約があるだろう。

この傾斜地形は、住居跡埋没過程において、急激な埋没が予想され、地山である黄褐色ロームに近似する均質な鈍褐色土を堆積する結果となった。この覆土が地山に近似する原因は、他にも風性堆積によるものや冷温性の気候の場合による土壌腐食化が未発達なことなどが考えられるが、本遺跡の場合は、斜面地形による一種の地山の地滑りが要因のひとつとして考えられよう。地山と覆土の色調が近似するため、発掘調査においては、平面形確認や壁・床の調査に支障をきたし、また、著しい重複遺構の存在からも、調査手順などに不都合が生じる要因ともなった。

住居跡は竈を持つものが殆どであり、竈方位は東を向くものが多く、ある程度の統一性が看取された。柱穴は4本柱の規則的な配置をもつものは1軒であり、殆どが不規則な2～3本の柱穴を設けていた。この時期に多々見られる無穴の住居跡も検出されている。貯蔵穴は竈の向かって右側（東竈の場合は南側）に設けられる例が大半で、浅い皿状を呈している。壁は前述のように北壁を逸失しており、反面南壁は深いもので1ｍを超える壁も見られた。住居跡規模は、大型のものはなく、辺4ｍ前後の中型のもの、辺2.5ｍの小型のものと、一般的な平安時代の住居の規模に沿うものであるが、前述のように、統一的な傾向や詳細な規格性は全住居跡を対象にしては把握できないだろう。このように、該期の一般的な集落として捉えられよう。

住居跡の配置は、尾根状の地形の制約からか、各尾根にまとまりをもって占地していた。前述の寺院跡北側の住居跡密集地点は尾根状の地形とはいえ、ある程度の平坦性が保証された地形であり、居住・活動に最も最適な地点として位置付けられる。

住居跡出土遺物は、該期の出土遺物としては多量であり、特に、寺院跡の影響で瓦類の出土や、本集落跡の特徴のひとつである、甕類・羽釜類の出土が目立った。無論、坏・椀類も多く出土している。これらは、須恵器窯跡などの生産地に近いという地理的な条件が影響しているのであろう。

特筆すべき遺物としては、10号住居跡出土の砥石が挙げられよう。表面に「元慶四年・・」の線刻が認められ、少量の伴出とはいえ、共伴する坏・椀類、瓦は該期土器編年の基準資料となろう。

出土土器から時期は8世紀後半から11世紀にかけての居住が考えられるが、主な時期は10世紀前半と捉えられ、寺院跡との関連が想起されよう。

土坑は120基あまりを検出した。出土遺物を持つ土坑は47基であり、それらから、墓壙としての土坑や鉄生

産・加工にかかわる土坑などが検出されている。とくに10号土坑や80・81号土坑などは大型の甕・鉄製品が出土しており、寺院跡建立・補修の際に有機的な関係が予測されよう。

その他の遺構では掘立柱建物跡が２棟検出されているが、寺院跡との関係などは不明点が多く、性格を特定できない。このうち２号掘立柱建物跡は出土遺物も豊富であり、時期的な追証は可能である。ただ、掘立柱建物跡としては各柱穴に規則性が認められず、竪穴状遺構・テラスとしての遺構名称に妥当性が残る。

土器集積遺構は３基検出されている。多量の土器・瓦が出土した２号集積は、特に大型甕類が豊富で、一括性に富むものである。これらの遺物集積は、遺物廃棄に伴う祭祀的な性格や住居以外の大型器種備蓄場所としても考えられよう。

(ii)　住居跡

前述のように、本遺跡からは76軒の竪穴住居跡が検出されている。平安時代の住居跡が主体を占め、該期の集落様相の一端を提示する。しかしながら個々の住居跡の遺存度は総てが良好とは言えず、住居跡およびその出土遺物の一括性が希薄な住居も見られる。本文中において、その住居跡と遺物の信憑性について、なるべく言及を図るが、編者として判断が困難な住居跡もある。また、記述も時期順ではなく、発掘調査時の遺構番号を重視した。整理作業において、遺構名が変更した住居跡も本文中に記述している。

１号住居跡

調査区中央の中尾根東区（Ｇ区）北に位置する。北壁の一部と北東隅が区域外に存在するため、未調査である。南西隅には、38号土坑が接するが新旧関係が不明である。南西約５ｍに12号住居跡、北西約８ｍに７号住居跡が位置する。

１辺３ｍ前後の方形を呈し、北壁に比べ南壁がやや長く若干歪みが生じている。深さは確認面より約40㎝を測り、概ね良好な残存である。

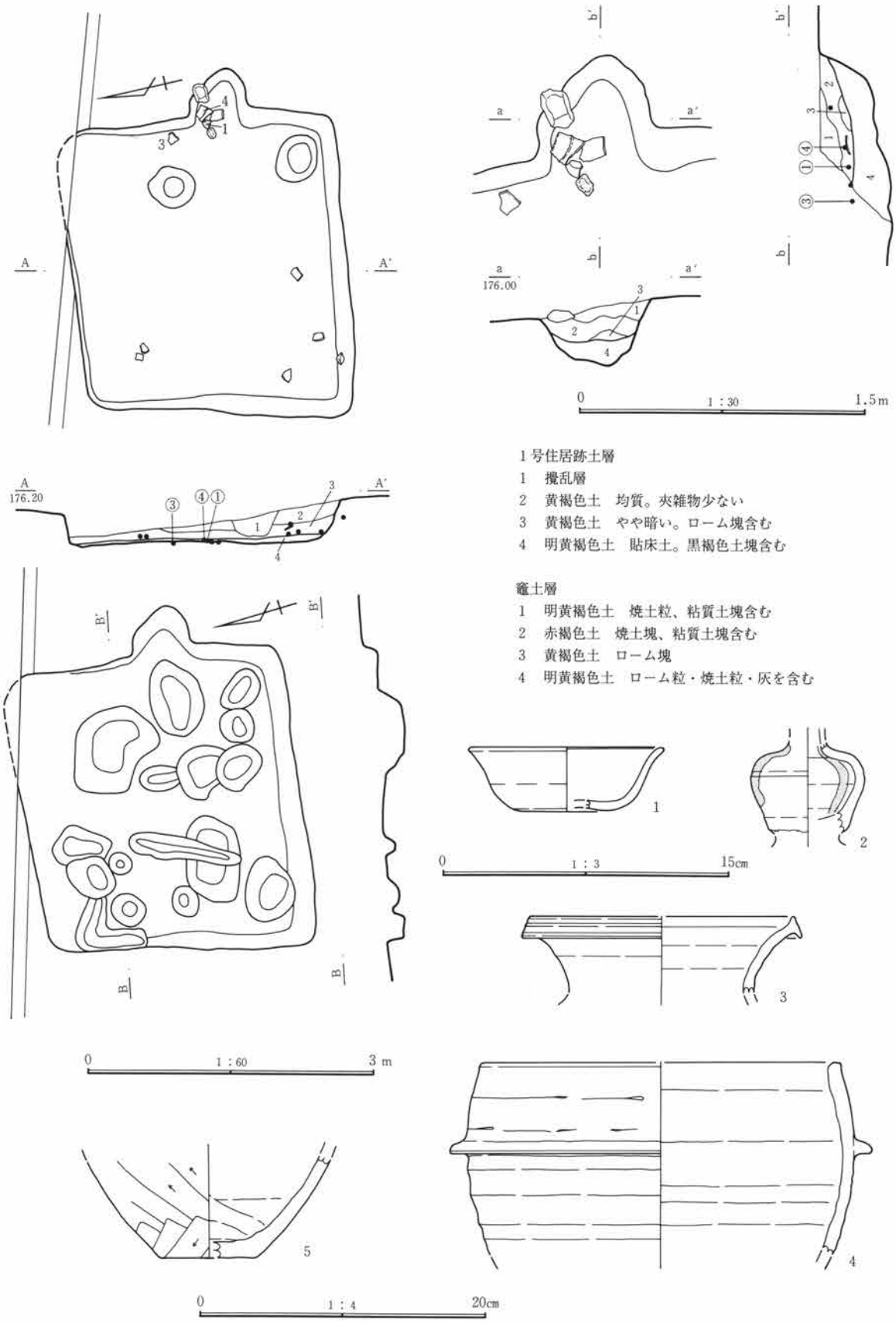
床面は平坦だが、地形傾斜に沿い僅かに北側に傾斜する。貼り床で、ローム塊と黒褐色土塊からなる。床面中央から東側にかけて硬くしまるが、顕著な硬化面ではない。柱穴は、深さ・位置に相当するピットがなく、確認できなかった。貯蔵穴は竈南側の小穴があたるが、浅く、遺物の出土も見られなかった。

竈は東壁のほぼ中央にやや小降りの竈が設けられる。自然石を構築材の一部に使用しているが、袖・支脚などは明瞭ではない。火床面には焼土・炭化物が散布し、掘り込みは持たない。竈掘り方においては、主体部にも掘り込みがなかったが、前庭部に浅い床下土坑が認められた。少量の炭化物を含み、竈に付帯する施設の可能性もある。

床下遺構としては十数個の床下ピットが検出されたが、規則性・規格性は認められず、形状も不定形なものである。用途など性格不明である。

出土遺物破片総数は140点と少ない。竈内の出土のものが主体で、図示した１の坏、３の甕、４の羽釜が出土している。覆土からは、２の花瓶、５の羽釜底部が出土している。１の底面は回転糸切り後撫で調整を施し、凹凸が著しい。２の花瓶は灰釉陶器製で小型の高台が付されるのであろう。精緻な作りである。３の甕は右回転の轆轤整形でしっかりした作り、５の底部外面は箆削り、内面は箆撫でを施し、腰部に煤が付着する。４、羽釜口縁部の鍔は短く、下位を向く。口縁が長く、あるいは甑の可能性もあろう。

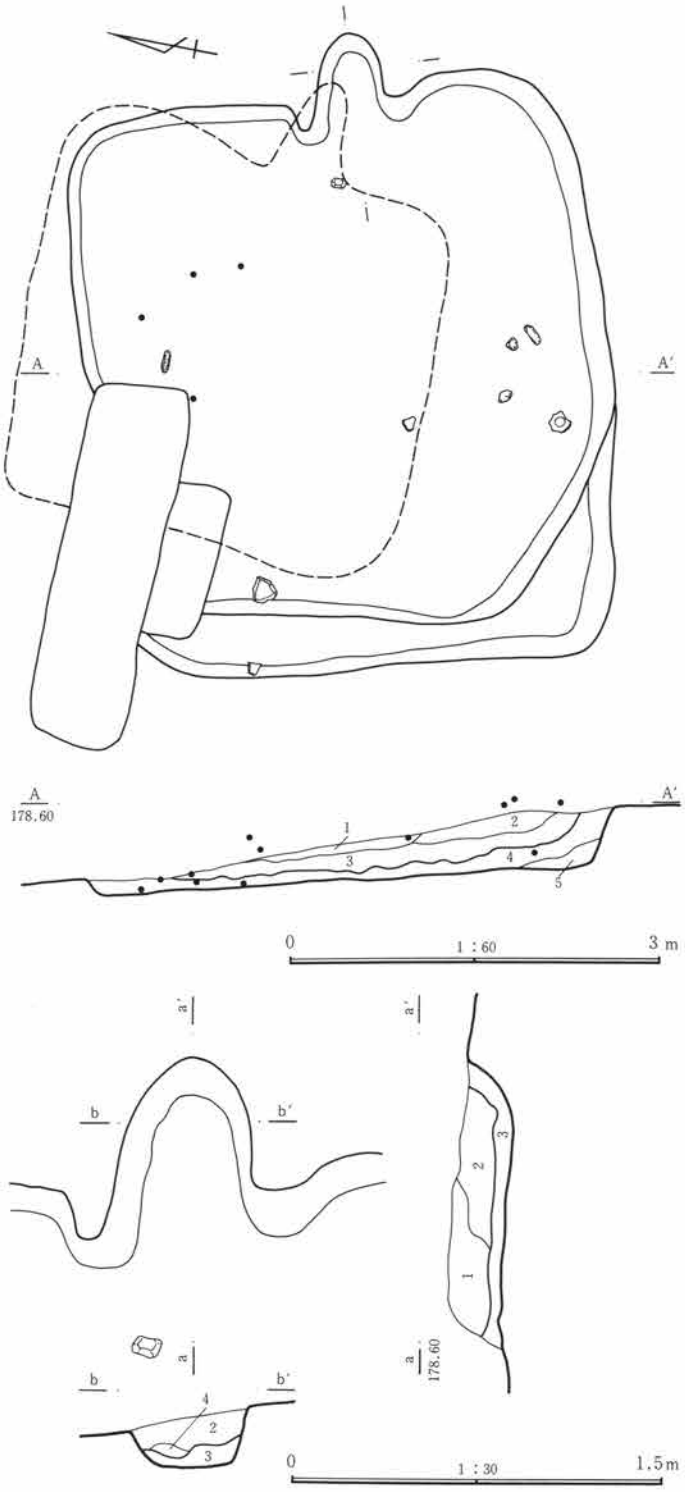
その他の出土遺物としては、瓦片が十数点出土したが細片で図示し得なかった。



1号住居跡土層
1　攪乱層
2　黄褐色土　均質。夾雑物少ない
3　黄褐色土　やや暗い。ローム塊含む
4　明黄褐色土　貼床土。黒褐色土塊含む

竈土層
1　明黄褐色土　焼土粒、粘質土塊含む
2　赤褐色土　焼土塊、粘質土塊含む
3　黄褐色土　ローム塊
4　明黄褐色土　ローム粒・焼土粒・灰を含む

9図　1号住居跡・出土遺物



2号住居跡土層

1	鈍黄褐色土	しまり弱く、夾雑物少ない
2	〃	やや明るい
3	〃	ローム塊を含む
4	暗黄褐色土	しまり強い
5	〃	ローム塊を多く含む

竈土層

1	黄褐色土	包含物少ない
2	明褐色土	焼土塊を少量含む
3	〃	ややしまり強い
4	黄褐色土	炭化物を多く含む

10図　2号住居跡

2号住居跡

調査区中央の中尾根東区（G区）のやや北よりに位置する。16号住居跡（破線で示した）と重複し、南東隅に3号住居跡が近接するように、周辺には重複住居が群在する地点でもある。さらに、27号土坑・3号溝も北側に接しており、本住居跡周辺の平坦地を選び、遺構が設けられた様相が看取され、重複が著しく、非常に複雑な遺構配置を呈する。

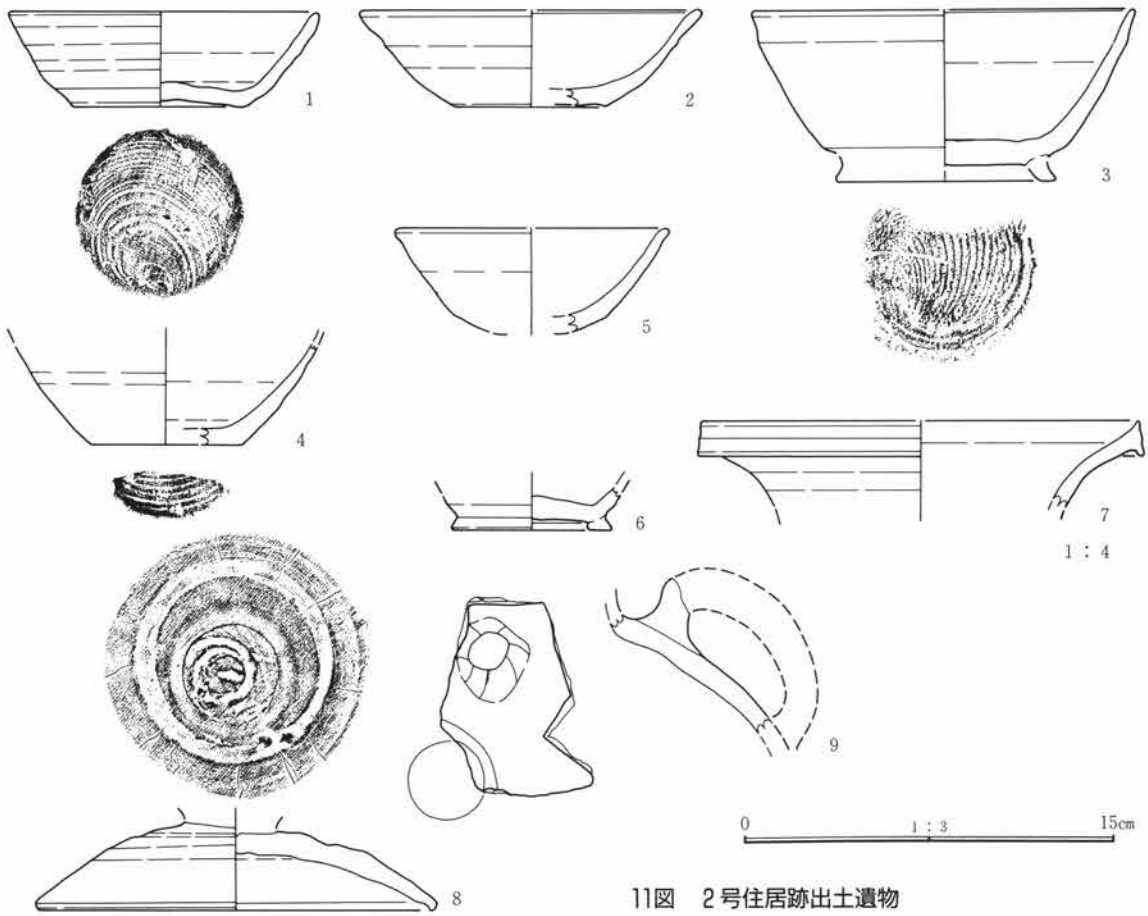
調査当初、本住居跡と16号住居跡の竈が近接する事由もあり、1軒の住居跡として調査をした。その後、16号住居跡を確認し、2軒を分離して調査したが、土層軸などの設定に不手際が生じてしまった。ただし、床面のレベルと竈のありかたから、本住居跡（新）と16号住居跡（古）の新旧関係は捉え得た。

住居跡長軸方位に注目すると、周辺の3号住居跡や16号住居跡は90度前後の傾きに対し、本住居跡は78度であり、明らかに方位軸に相違点が見いだせる。

本住居跡自体は、西側壁が2段に渡って検出され、同一長軸上の重複あるいは拡張が考えられるが、土層の差が認められず判然としなかった。しかしながら、床面差を考慮に入れると、西側の壁は内側のそれが重視され、規模・平面形などは内側壁で判断した。

平面形は南壁と南西隅が歪むものの、1辺が約2.4mを測るほぼ正方形を呈しており、深さも約60cmと深い。ただ、北壁は傾斜のため薄くなっており、現代の攪乱坑のため破壊される部分もあり、明確ではない。

床面は平坦で、地床である。中央部分より南側にかけて硬くしまり、顕著な硬化床面といえよう。柱穴・貯蔵穴は無



11図　2号住居跡出土遺物

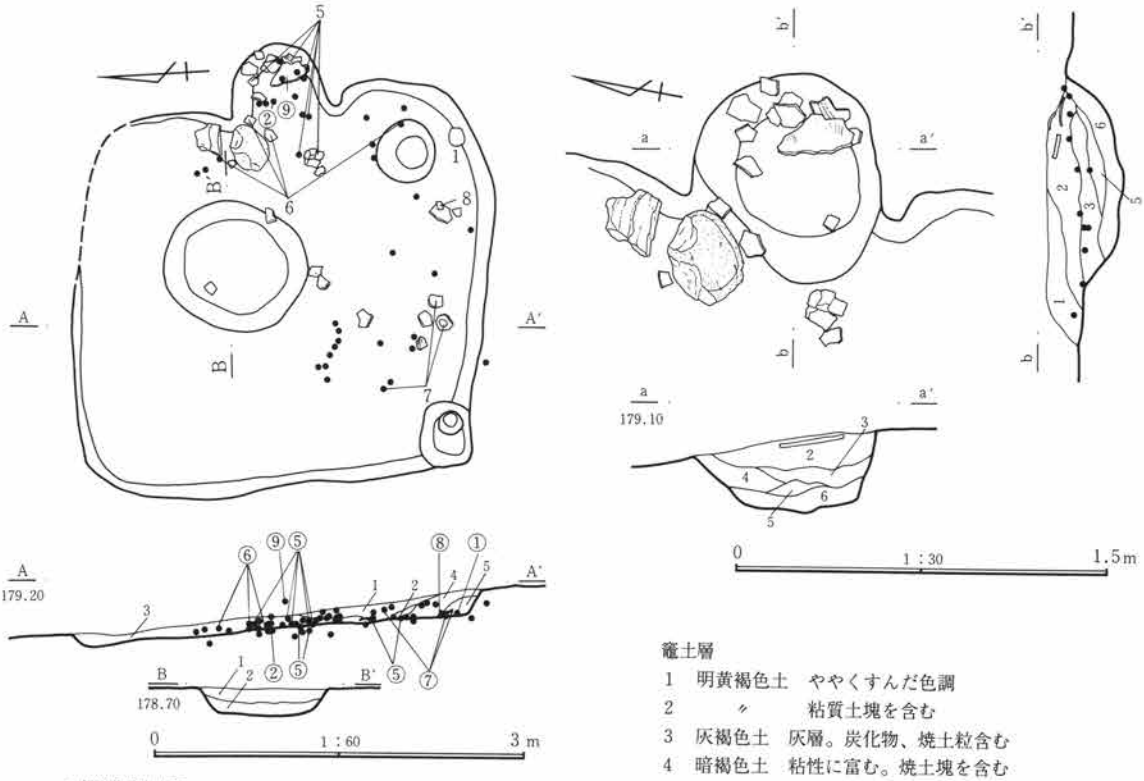
く、平板な床面といえよう。

竈は、東側壁ほぼ中央に設けられ、短い袖が突出する。北側の袖は16号住居跡と重複するため、暗褐色土が袖材として使用されていたが、南袖は地山ロームであり、粘土や自然石を使用していない。燃焼面も床面を掘り込まず、比較的単純な作りの竈といえよう。なお、竈西床面上に自然石が出土しているが支脚ではない。床下遺構は無く、床面上の施設と合わせ、特徴的な施設を持たない。

遺物は総破片数258片を数える。殆どが覆土中からの出土で細片が多く、9点を図示し得たのみである。竈からの完形個体の出土は無く、本住居の時期的な判断に苦しむ出土状態を示す。

1は床面中央やや北よりの床直上出土の完形の坏である。出土土器のうち最も本住居跡に近い存在の資料である。右回転整形でやや厚手の器厚を呈す。2は床面中央の覆土出土の坏。底面は摩滅して判然としない。3も覆土出土。高台部分を欠損する椀。口縁部下に浅く段を持ち体部に丸みを持たせる。底部は厚手である。4は南側床直上より出土。坏底部破片である。体部は摩滅する。5は覆土出土。内面剝落あり。6の高台付椀も南側で出土している。高台端部に平坦面を築く。底面は高台貼付後撫でる。7は甕口縁部破片、覆土出土。8は南側覆土上層出土の蓋。鈕が欠損するが、外縁は丁寧な横撫でを施し、器厚は厚く重量感を持つ。9は甕あるいは瓶肩部に付される橋状把手であろう。把手の多くが欠損し全体感が判然としないが、器形垂線に比し装着部にやや歪みを持って設けられるようだ。

遺物出土状態は、本住居跡に伴うものは少なく、床面上からも安定した出土を見せてはおらず、住居跡出土遺物としては芳しいものではない。敢えて、近い存在とすれば前述の1の坏に該当性が残る。



3号住居跡土層
1　黄褐色土　包含物僅少
2　明黄褐色土　ローム塊
3　暗褐色土　緻密。炭化物、焼土粒少量含む
4　鈍黄褐色土　やや砂質。包含物僅少
5　黄褐色土　軟質ローム層土。均質。包含物僅少

竈土層
1　明黄褐色土　ややくすんだ色調
2　〃　粘質土塊を含む
3　灰褐色土　灰層。炭化物、焼土粒含む
4　暗褐色土　粘性に富む。焼土塊を含む
5　赤褐色土　焼土層
6　黄褐色土　焼土粒少量含む。掘り方埋土

床下土坑土層
1　鈍黄褐色土　ローム粒を含む
2　〃　暗い。暗褐色土塊を含む

12図　3号住居跡

3号住居跡

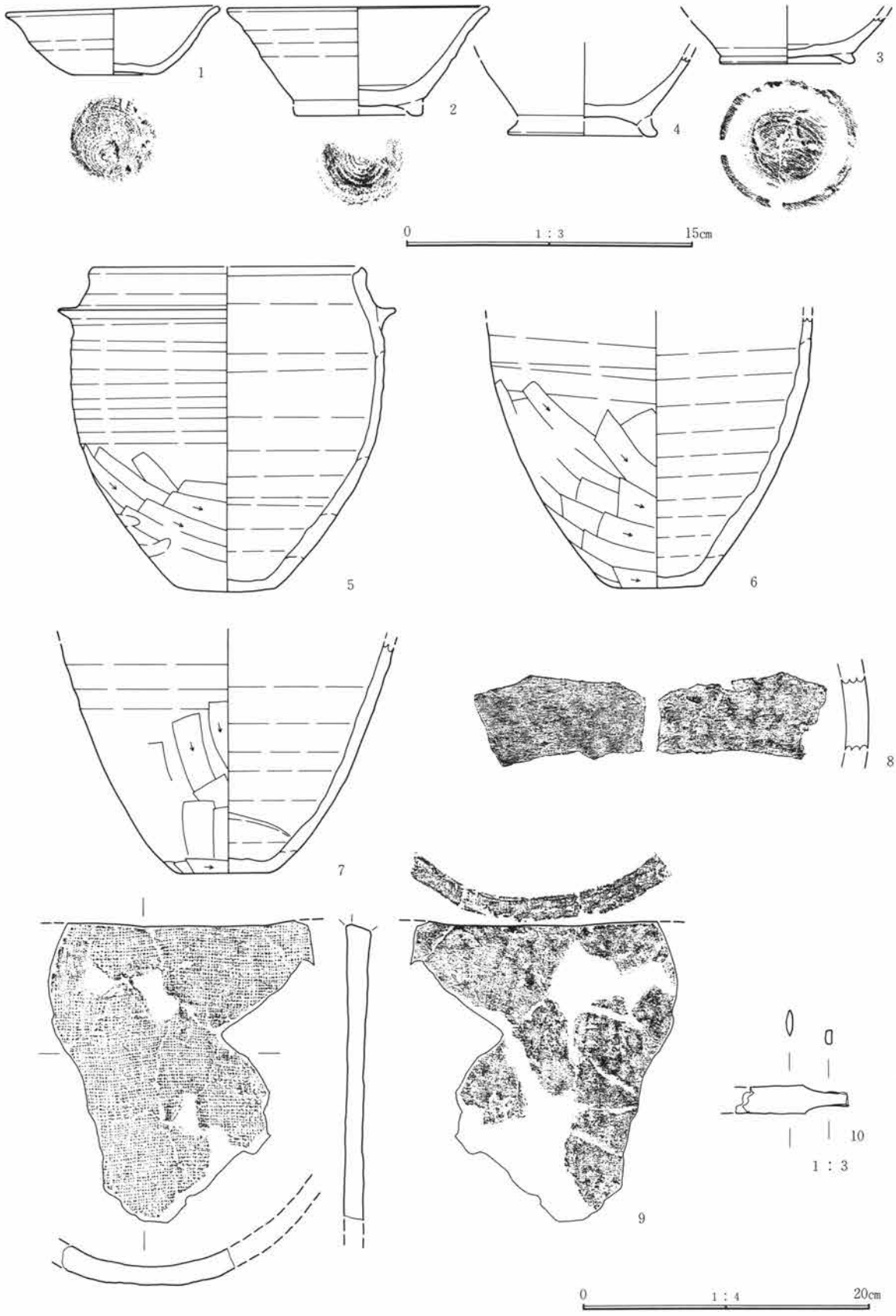
前記の２号住南東隅に接する住居跡である。北側の４号住居跡を切り、東側に25・26号住居跡が接する。また、北東隅を14号土坑に切られる重複状態である。

辺長３ｍ余りの隅丸の小型正方形を呈し、深さは約20㎝を測る。床面は平坦面を意識されながらも、北側の傾斜に沿って緩やかに傾く。地床を基本とするが、竈周辺から床面中央にかけて、褐色土で薄く貼り床を形成する。柱穴に該当するピットは確認できなかったが、南西隅に小ピットが検出されており、本住居に伴う柱穴として捉えられよう。貯蔵穴としては、竈南側に浅い小ピットが確認された。

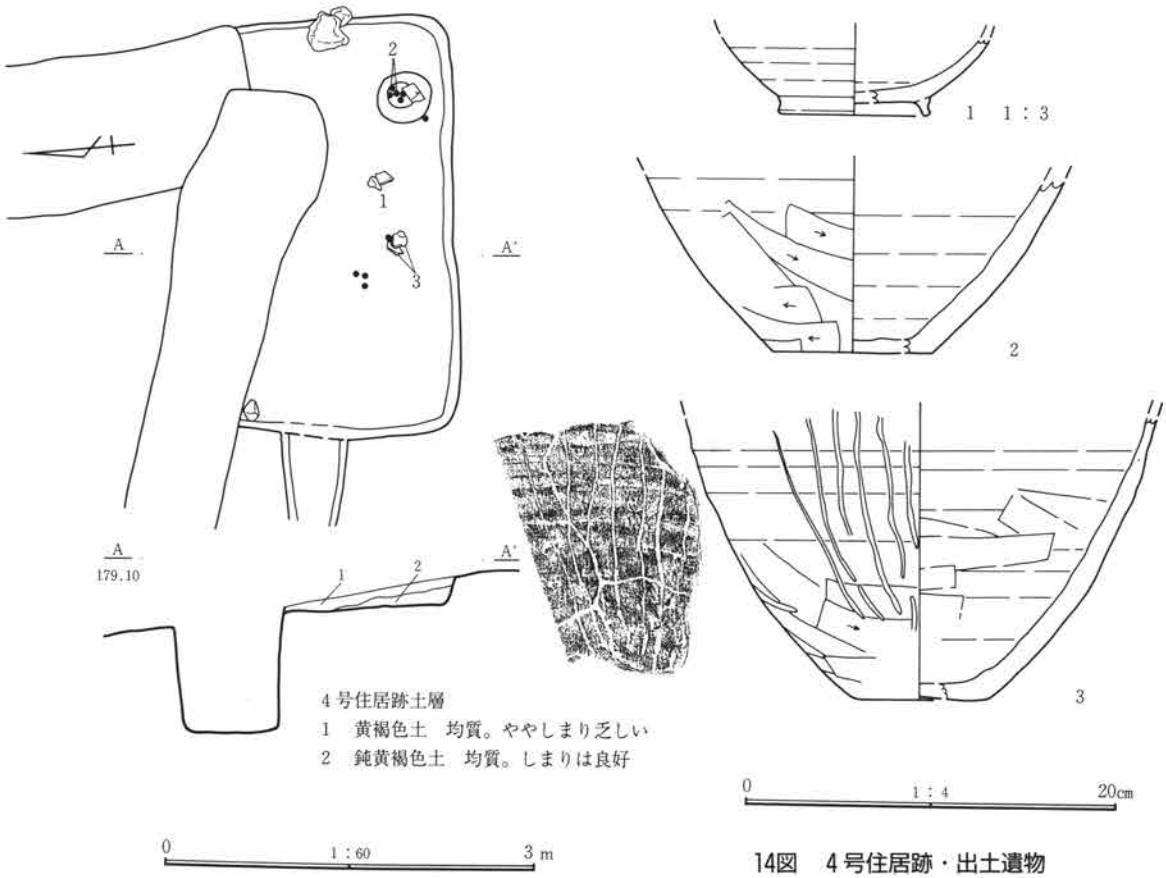
竈は、東壁ほぼ中央に設けられている。短い袖を持ち、馬蹄形の燃焼部が壁外に突出し、火床面に掘り込みを持つ。覆土は上層に構築材崩壊土が堆積し、下層に灰・焼土層が検出された。また、竈北側に大型の自然石が置かれていることからも、遺棄された竈と見られる。おそらく、燃焼部より出土した瓦も構築材あるいは燃焼に伴う道具として使用されたものであろう。

床下遺構としては、床面中央やや北よりに円形の大型床下土坑が検出された。鈍黄褐色土が埋土である。

出土遺物は比較的大型の破片が多く、瓦を含め283点の破片総数を数える。１の坏は完形で、南東壁下出土である。轆轤右回転で、やや薄手の器厚を呈す。２の椀は竈から、２・４とも高台部を欠損する。３は椀底部だが、放射状に破砕されている。椀底部中央に何等かの圧力が加わったのだろうか。５・６の羽釜も竈



13図　3号住居跡出土遺物



14図　４号住居跡・出土遺物

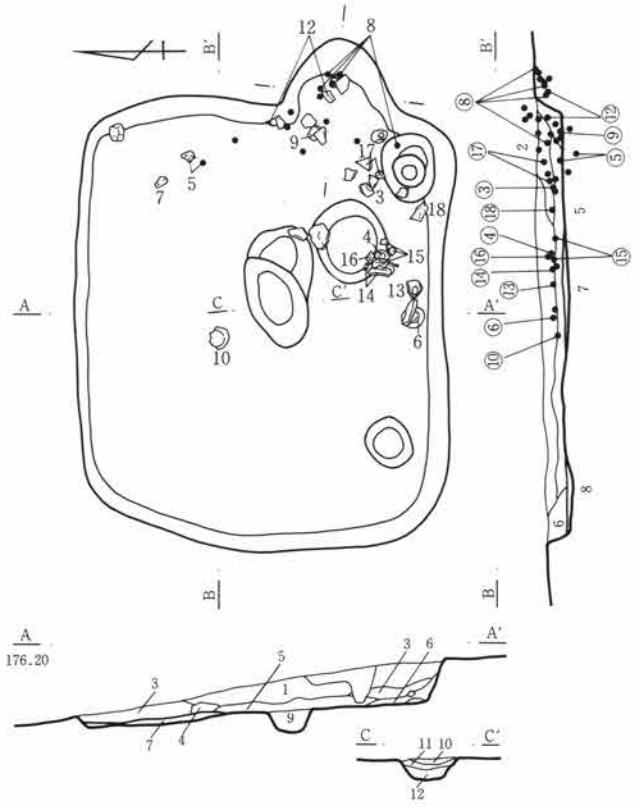
と周辺から出土している。轆轤右回転整形で、体部下半に箆削りを施し、一部撫でが加わる。５の口唇部端部は特徴的に凹む。７の羽釜は南西隅より若干浮いた状態で出土した。８の須恵器大甕片は南壁下より、内外面とも撫でを施す。９の瓦は前述の竈内の構築材に使用されたものである。また、覆土中より鉄鏃片が出土している。

３号住居跡に密接に関係する遺物としては、１の坏、２の椀及び竈で使用されていたと思われる５の羽釜が挙げられよう。

４号住居跡

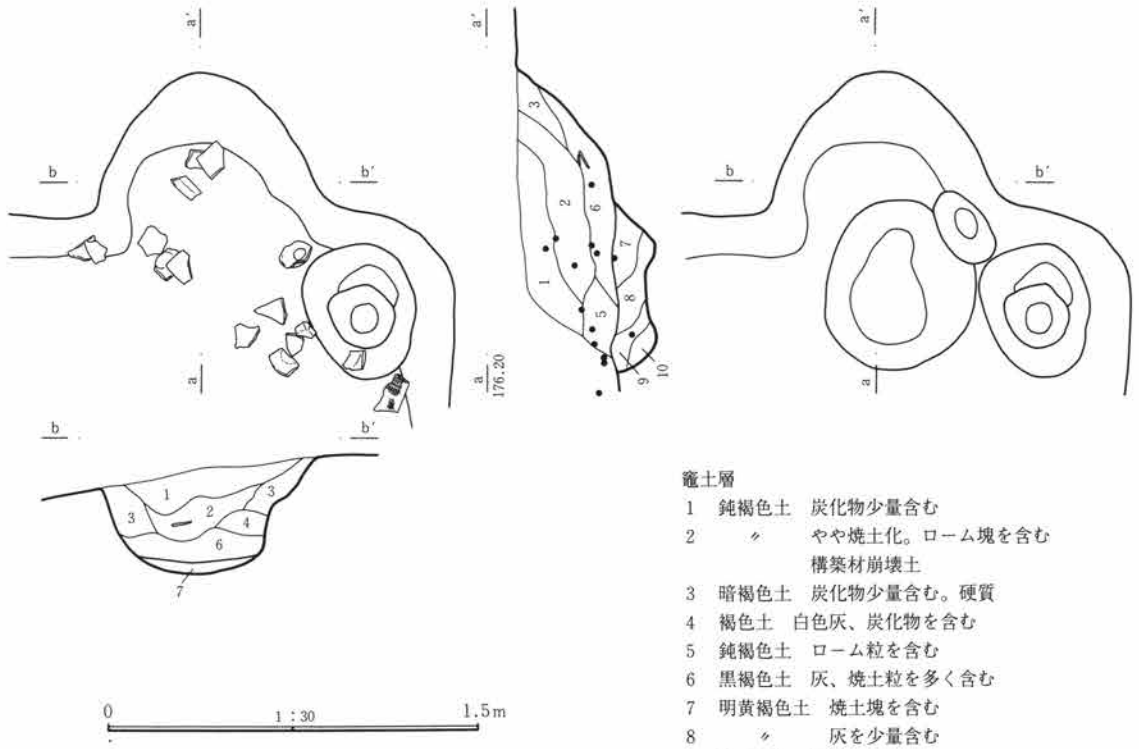
３号住居跡北に重複されて位置する。南側の壁は３号住居後に切られ、北側は方形の土坑群によって逸失しているため、平面形は判然とはしないが、恐らく方形を呈するのであろう。僅かに残る南側の床面は地床であり、平坦面を築き、東側は若干ながら硬化面が認められた。柱穴は無く、貯蔵穴として南東隅に小型の浅い小ピットを検出した。竈は明確な施設として残っておらず、恐らく東側壁の大型の自然石とその周辺の微量の炭化物が竈の痕跡として位置付けられよう。

遺物は総破片数106点が出土した。瓦を含め細片が多く、図示し得た個体は３個体である。貯蔵穴上位より自然石と数点の椀類が出土したが、細片のため図示し得なかった。１の椀は床直で出土したもので、右回転で薄手の器厚を呈し、しっかりした作りである。２は覆土中より、外面横・斜めのへら削りを施す。３は床直出土。轆轤整形後外面横箆削り内面は箆撫でを施す。外面に焼成後の懸垂状の線刻が施される。



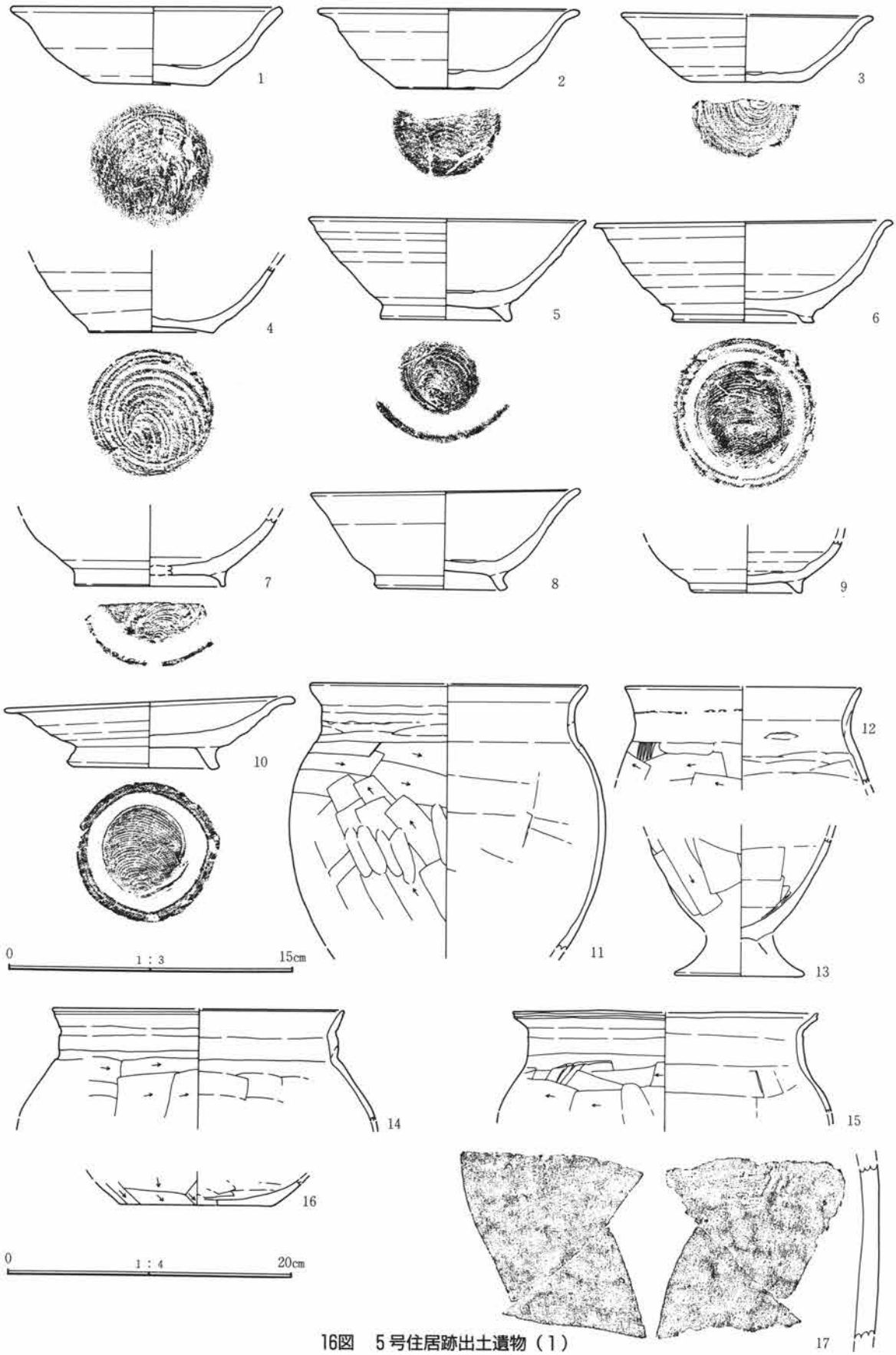
5号住居跡土層
1　暗褐色土　均質、炭化物少量含む
2　鈍褐色土　炭化物・焼土粒微量含む
3　〃　均質。ローム粒を含む
4　明褐色土　軟質ローム塊
5　〃　ローム塊、炭化物を含む
6　〃　軟質ローム主体。壁崩壊土
7　〃　ローム塊を多く含む。貼床土
8　〃　大型のローム塊を含む。貼床土
9　明黄褐色土　床下土坑埋土（10～12層）

床下土坑土層
10　明黄褐色土　焼土、灰、ローム塊を多く含む
11　白色粘土　薄く堆積する
12　黄褐色土　包含物僅少

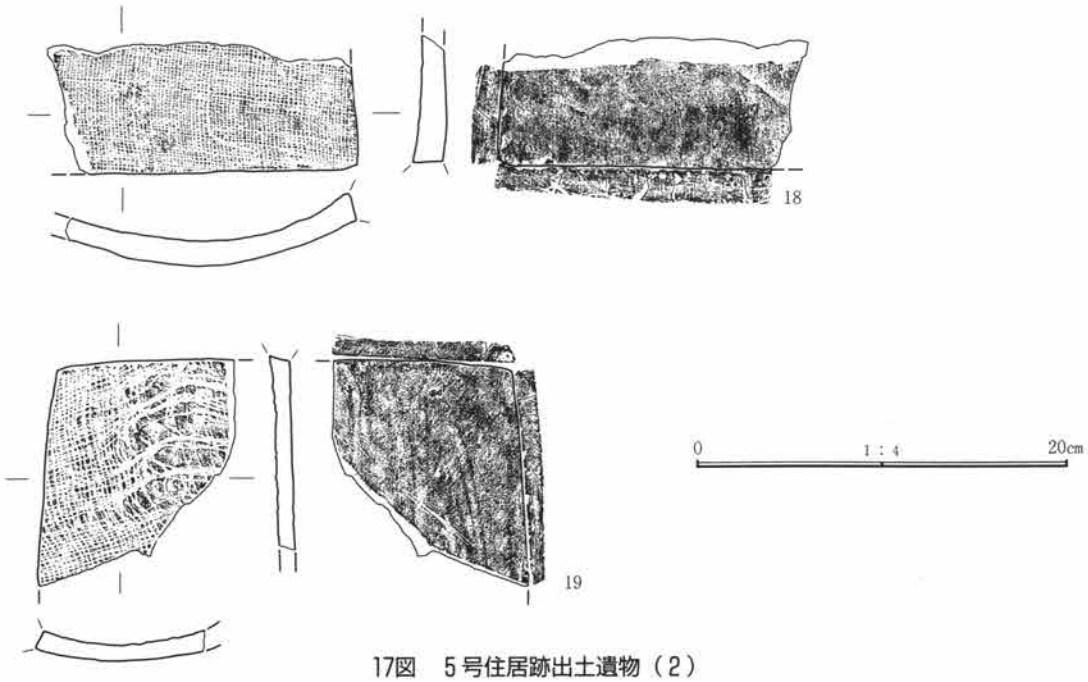


竈土層
1　鈍褐色土　炭化物少量含む
2　〃　やや焼土化。ローム塊を含む
構築材崩壊土
3　暗褐色土　炭化物少量含む。硬質
4　褐色土　白色灰、炭化物を含む
5　鈍褐色土　ローム粒を含む
6　黒褐色土　灰、焼土粒を多く含む
7　明黄褐色土　焼土塊を含む
8　〃　灰を少量含む
9　褐灰色土　灰層
10　黄褐色土　ローム塊、炭化物、焼土粒を含む

15図　5号住居跡



16図　５号住居跡出土遺物（１）



17図　5号住居跡出土遺物（2）

5号住居跡

調査区中央の中尾根西区（G区）の北よりに位置する。近接する住居跡はなく、北西10m程に6・27号住居跡があるが、本住居跡は単独の占地といえよう。周辺の地形は北西に傾斜している。

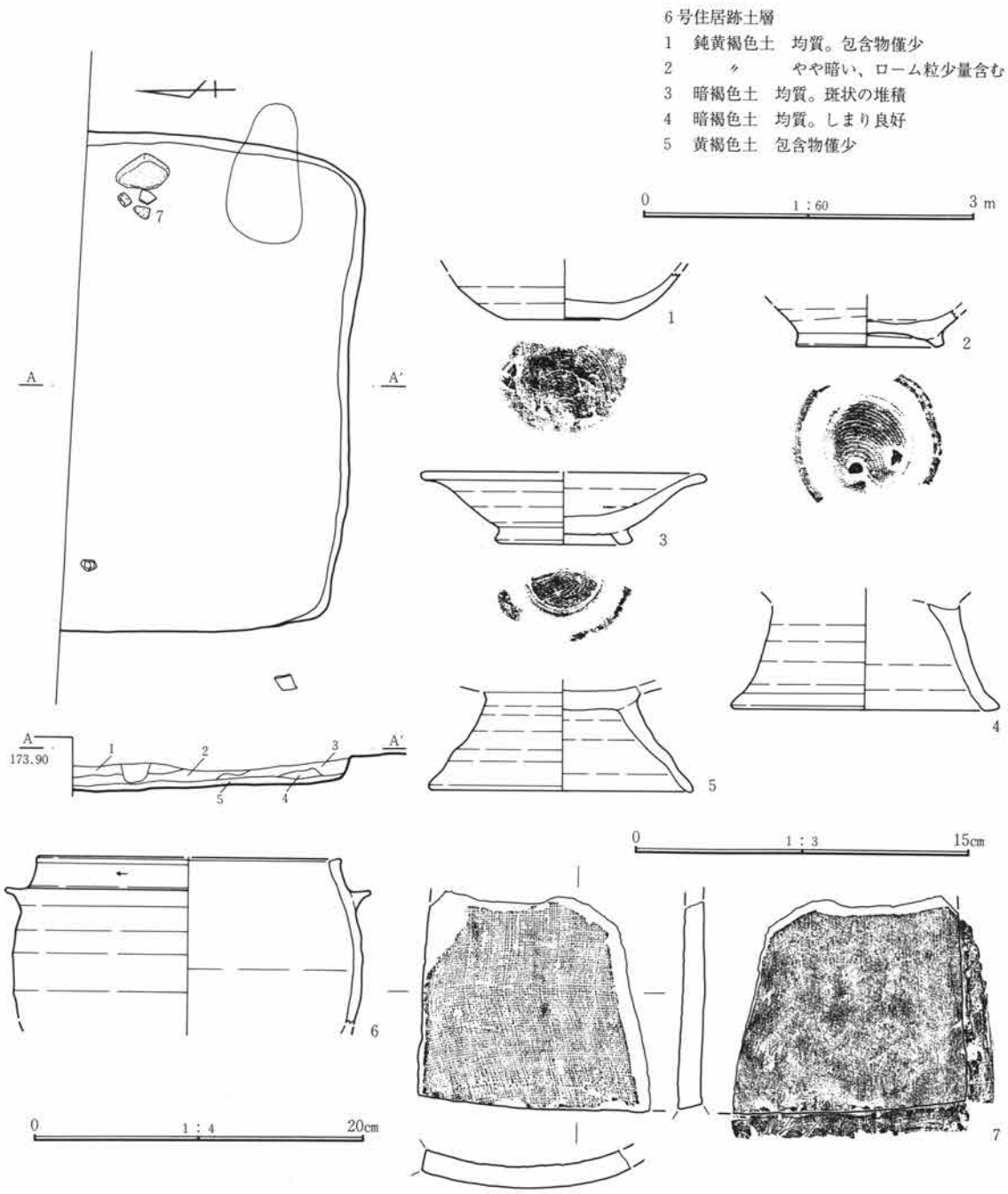
比較的急傾斜面に位置するためか、遺構密度はさほど高くない。住居跡規模は3.3×2.9mの隅丸長方形の平面形を呈し整然としたプランである。深さも40cmあまりと良好な遺存状態を示す。

床面は、僅かな凹凸をもちながらも平坦面を意識している。ただ、急傾斜地形の影響か北側に緩やかに傾く傾向は認められた。貼り床は、北側と西側の一部に顕著に見られ、貼り床土による床面平坦化を図ったようだ。床面全体は硬く締められ、特に竈周辺や床面中央やや西よりに硬化面が見られた。

柱穴は西南隅のピットがあてられよう。貯蔵穴は南東隅に接する小穴である。床面中央から竈にかけて中型の浅いピットが3ケ検出されたが、いずれも床下土坑である。

竈は東壁の南寄りに設けられる。馬蹄状の燃焼部で、顕著な袖はなく、構築材としての自然石・粘土も検出していない。火床面は掘り込みを持たないが、掘り方として落ち込みがあり、灰・焼土塊が埋まる。掘り方調査で、竈南壁に小穴が検出されたが、構築材の自然石などの抜き取り穴として可能性を持つ。

遺物は総破片点数343点が出土し、19個体を図示した。1は竈と貯蔵穴との間から出土した坏で、右回転整形でやや厚手。2も竈内出土。底部にやや厚みを持たせる。3は貯蔵穴北西出土。4は南壁中央のまとまりの中から14～16の土師器甕と伴出する。6は南壁下床直で出土した。しっかりした作りで重量感ある椀である。7は北東の床直上から5の椀と近接して出土した。高台端部が鋭い作りである。8は貯蔵穴と竈覆土出土の椀。9は全体が摩滅する。10の皿は他の遺物と離れて床面中央でやや浮いて出土した。底部～高台が厚い。11・12は竈覆土出土のいわゆる土師器「コ」字甕で、肩～体部を横篦削りと斜め篦削り、一部に縦位の撫でが加わる。体部内面は横篦撫でを施す。13は台付き甕脚部。脚部分は復元図示した。体部は縦位篦削りで接合部分は横撫でが施される。南壁下で6に近接する。14・15・16は南壁中央のまとまりより4などと伴出した。13とも近距離にある。15の肩部には「ノッキング」が顕著に観察される。16の底面も篦削りが施される。17、大甕破片。内外面とも撫でが施される。18の平瓦は貯蔵穴西の覆土下位で出土している。



18図　6号住居跡・出土遺物

6号住居跡

中尾根西区（G区）の北よりに位置する。27号住居跡と南壁で接するが、重複部分が狭小で土層観察による新旧関係の把握にまで至らなかった。また、北壁が調査区域外に伸びるため全容も把握できない。平面形はおそらく長方形で、長軸は４ｍ30㎝、深さ28㎝を測る。床面は僅かな凹凸は見られるが、ほぼ平坦である。柱穴・貯蔵穴は無い。また、竈も判然とせず、東壁南よりに焼土の散布が見られたが、明確な掘り込みもなく、またその北側には自然石が出土しているが、構築材としての用途は見いだせなかった。遺物も170点と少なく、図示し得た７点も破片状態ですべて覆土中の遺物である。４・５は高盤かあるいは足高椀の脚部であろう。６の羽釜は薄手の器厚で、内面は摩滅する。

7号住居跡

調査区中央の中尾根東区（G区）のやや北よりに位置する。8号住居跡と重複し、東約4m前後に9～11号住居跡が近接する。更に東には、急傾斜地形が展開し9～11号住居跡の遺存を悪くしているのだが、本住居跡の周辺及び西側は、北に緩傾斜する程度の平坦面であり、安定した地形といえよう。

8号住居跡との重複は北東に見られ、土層の観察及び竈・床面の在り方から新旧関係は本住居跡を新しく見た。ただし、後述する竈石材の関連から、不明確な部分も存在し、確定的な新旧ではない。

平面形は5×3.7mの整った縦長方形で、深さは70cm以上を測り、比較的良好な遺存状態を示す。

床面はほぼ平坦で全面を貼り床が覆う。鈍褐色土と明褐色土を基調にした貼り床で、上面を硬く締める。特に竈周辺に顕著な硬化面が見られたが、硬さ自体は他の床面と差は無い。

柱穴は南西隅やや中央よりに浅い小ピットが検出されたが、柱痕は確認できなかったため、柱穴としては特定はできない。ただし位置的には、南西隅に設けられる柱穴例と類縁性が求められ、積極的な確証には至らなくも可能性は指摘しておきたい。

貯蔵穴は、竈南側の南東隅の浅い小穴を考えた。暗褐色土を基調に埋土状態を呈し、大型の炭化物を含む褐色土が坑底面で検出した。また、同様の土層を床面中央やや北よりの土坑内部から検出しており、この土坑も規模・深さから貯蔵穴と同様の性格を有する遺構としておきたい。

東南隅の貯蔵穴より南壁から西壁の一部にかけて壁溝を検出した。緩やかな蛇行を示すが、ほぼ南壁に沿っており、掘り込みもしっかりしていた。

竈は東壁、極僅かに南へ寄る傾向も見られるが、ほぼ中央に設けられる。馬蹄形状の燃焼部が住居外に張り出し、掘り込みはしっかりしており、壁も急激な立ち上がりを呈す。袖は無く構築材として、燃焼部を囲むように自然石が3個と立てられた状態の平瓦（34）が出土し、大きく動いた形跡は無いものと考えられた。これらの自然石・瓦を核にローム塊を主体にした明褐色土も構築材として使用されたのであろう。覆土は崩落状況を示す赤褐色土と炭化物・焼土粒を含む褐色土が確認されている。

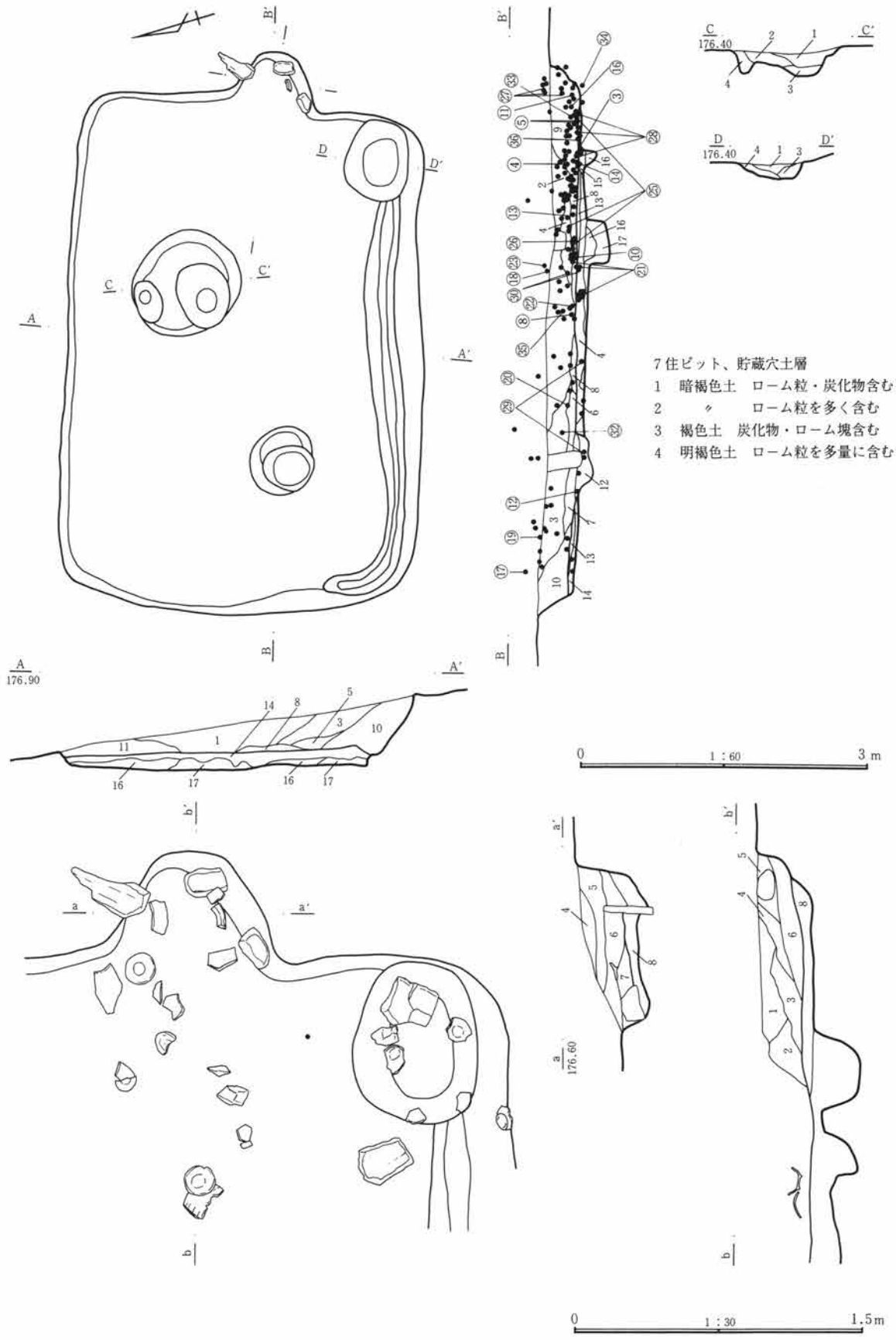
また、本住居跡北側壁にかかる板石状の石材は、8号住竈の南袖部分にかかる。例えば、8号住の竈構築材を利用したものという解釈も成り立つが、判然としない部分が多く、両住居の新旧を考える際に問題が多い出土状態である。

その他の竈設備としては、貯蔵穴周辺の大型の自然石や瓦（36）が挙げられる。おそらく、構築材の一部あるいは天井懸架材の可能性もあろう。これらの竈周辺の散乱した構築材から、本住居跡の竈は住居廃絶後一部の構築材を残し破壊し、その後崩落土の堆積を見たようだ。このことは、竈内に残された遺物からも窺われ、構築材として使用されたであろう、その他の瓦（33）が竈外に散乱し、煮沸に使用したはずの羽釜の出土も口縁部破片（27）などが出土したに過ぎなかった。

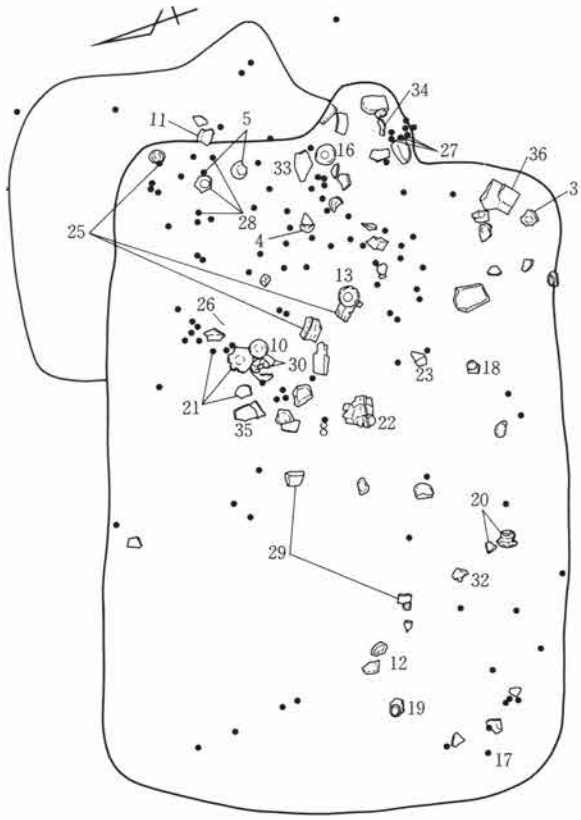
床下遺構としては、住居跡中央東よりに床下土坑がまとまって検出された。また、中央より南西よりにも小型の床下土坑を1基検出した。また、北西隅に大きく大型の土坑が絡むが、本住居跡に切られる重複遺構と思われ、時期も不明である。覆土は均質土で、遺物の出土もない。ただし該期の住居に本例のような施設が付帯する可能性もあるため、別種の遺構と断定はできない。

さて、竈が破壊された住居跡の割りには、出土遺物は総破片数1130点と多い。これは70cm以上の深さの遺存度が大きく関与しているのであろう。ただし、覆土下位から床直の遺物が主体を占める。

1・2は土師器坏。覆土上層の出土である。本住居跡に直接かかわる遺物ではないだろう。3は貯蔵穴上端より出土。右回転底部糸切り。4は竈南の床直上出土。厚手の器厚を呈す。5は竈北の床直。底部撫でを施


7住ピット、貯蔵穴土層
1　暗褐色土　ローム粒・炭化物含む
2　〃　ローム粒を多く含む
3　褐色土　炭化物・ローム塊含む
4　明褐色土　ローム粒を多量に含む
176.40
176.90
176.60
0　1：60　3 m
0　1：30　1.5m

19図　７号住居跡

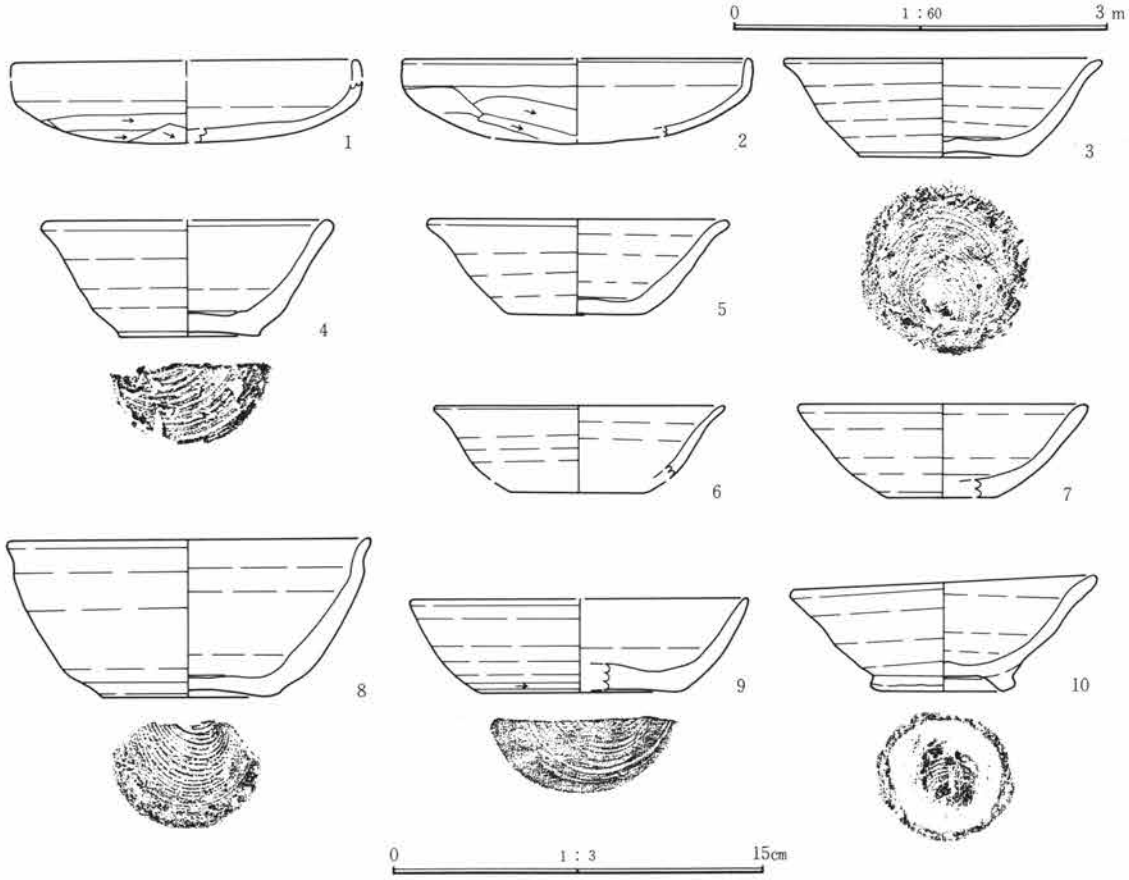


7号住居跡土層

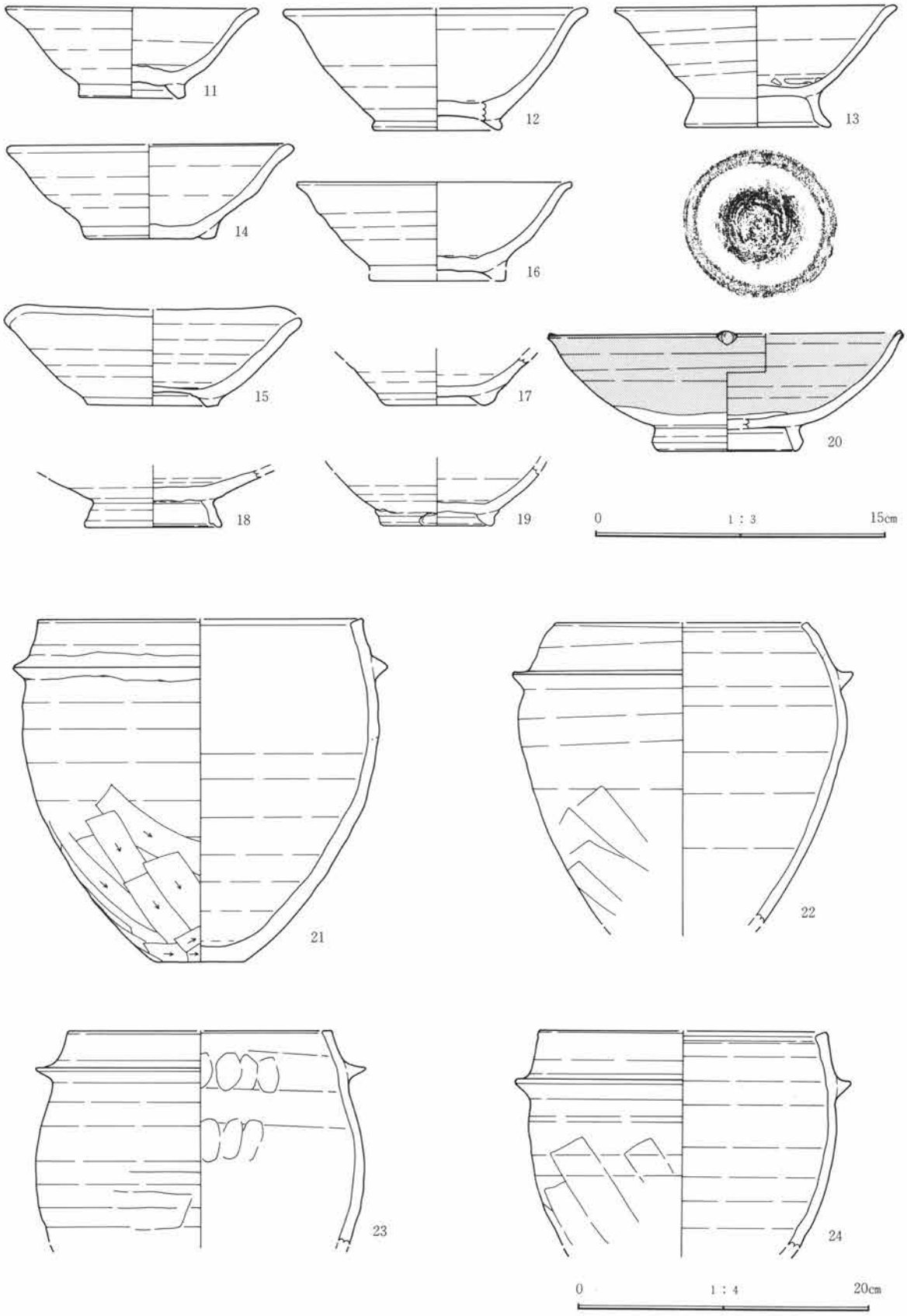
1　暗褐色土　均質。斑状堆積を呈し、炭化物を含む
2　〃　炭化物・焼土粒を含む。しまり乏しい
3　〃　軟質ローム塊・炭化物を少量含む
4　鈍褐色土　小形ローム塊を含む
5　〃　均質。黒褐色土塊を含む
6　暗褐色土　ローム塊・炭化物を少量含む
7　〃　ローム塊・大形の炭化物を多く含む
8　〃　粘質。大形の炭化物を多く含む
9　〃　焼土・炭化物を含む竈覆土
10　鈍褐色土　均質。ローム粒・炭化物を含む
11　明褐色土　ローム粒を多く含む
12　暗褐色土　軟質。ローム・炭化物を含む。
13　鈍褐色土　ローム粒を主体とする。硬くしまる貼床土
14　明褐色土　ローム塊を主体とする。貼床土
15　黒色土　炭化物を主体とする
16　暗褐色土　ローム粒を主体とし、炭化物を含む
17　黄褐色土　ローム塊を主体とする床下埋土

竈土層

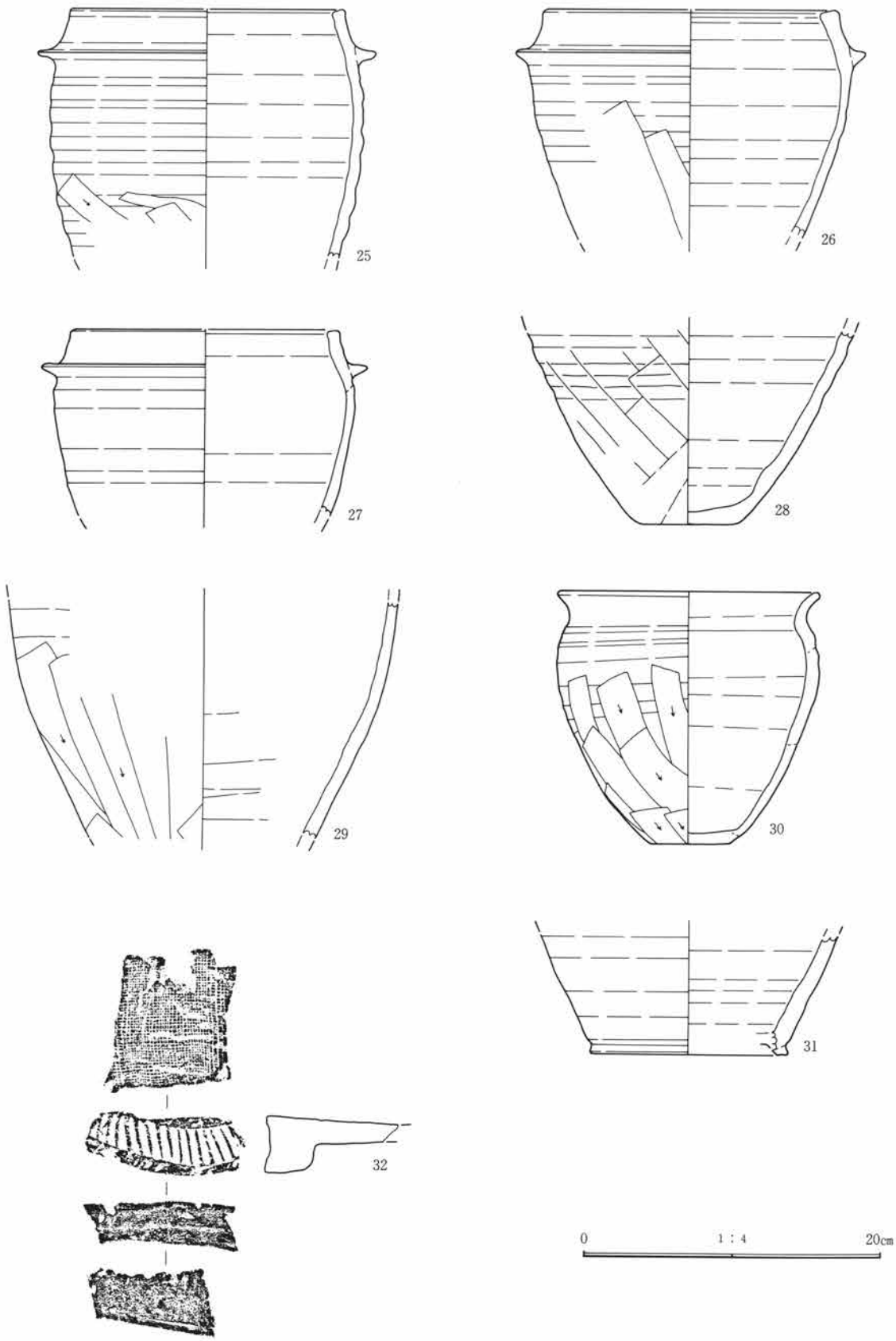
1　暗褐色土　焼土粒・炭化物を含む
2　赤褐色土　焼土化したローム塊含む。崩壊土か
3　暗褐色土　炭化物を多く含む
4　褐色土　ローム粒を多量に含む
5　明褐色土　ローム塊を多量に含む
6　〃　焼土粒を少量含む
7　鈍褐色土　炭化物を少量含む
8　黒色土　炭化物を主体をする。ローム塊を含む



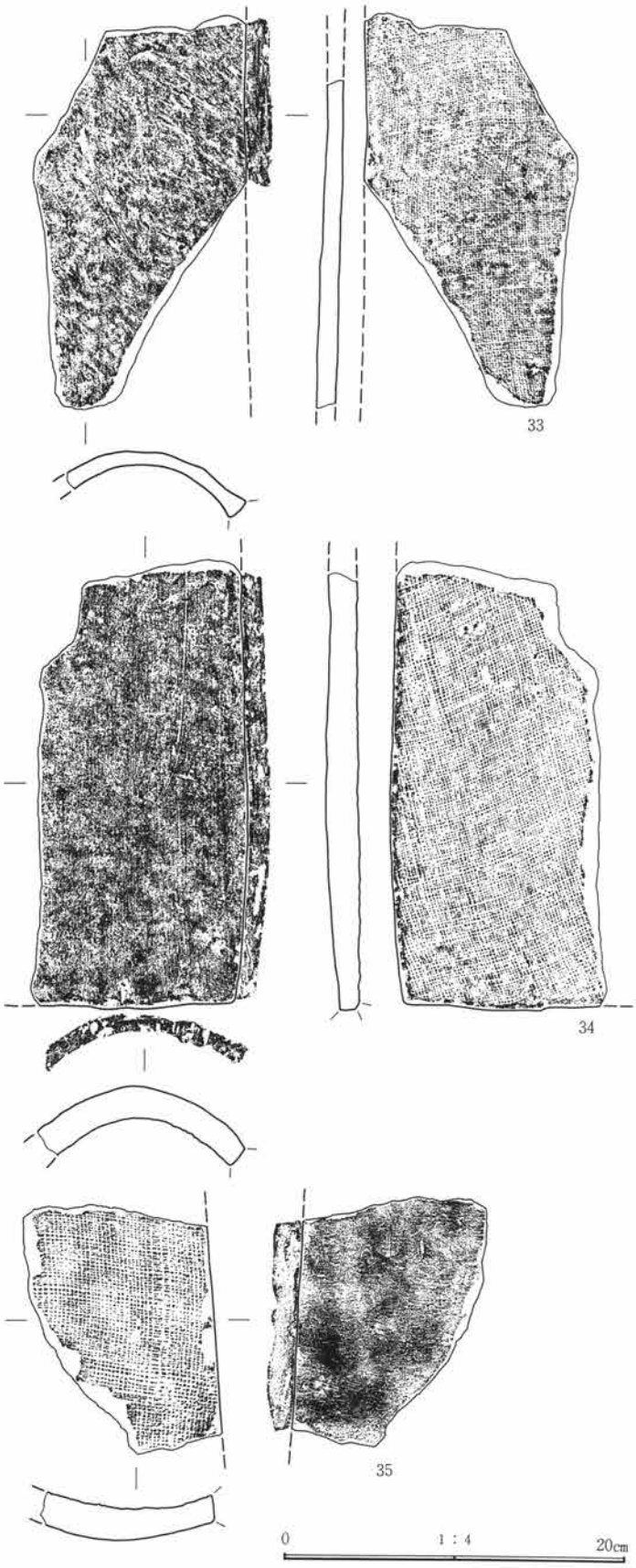
20図　7号住居跡遺物分布・出土遺物（1）



21図　７号住居跡出土遺物（２）

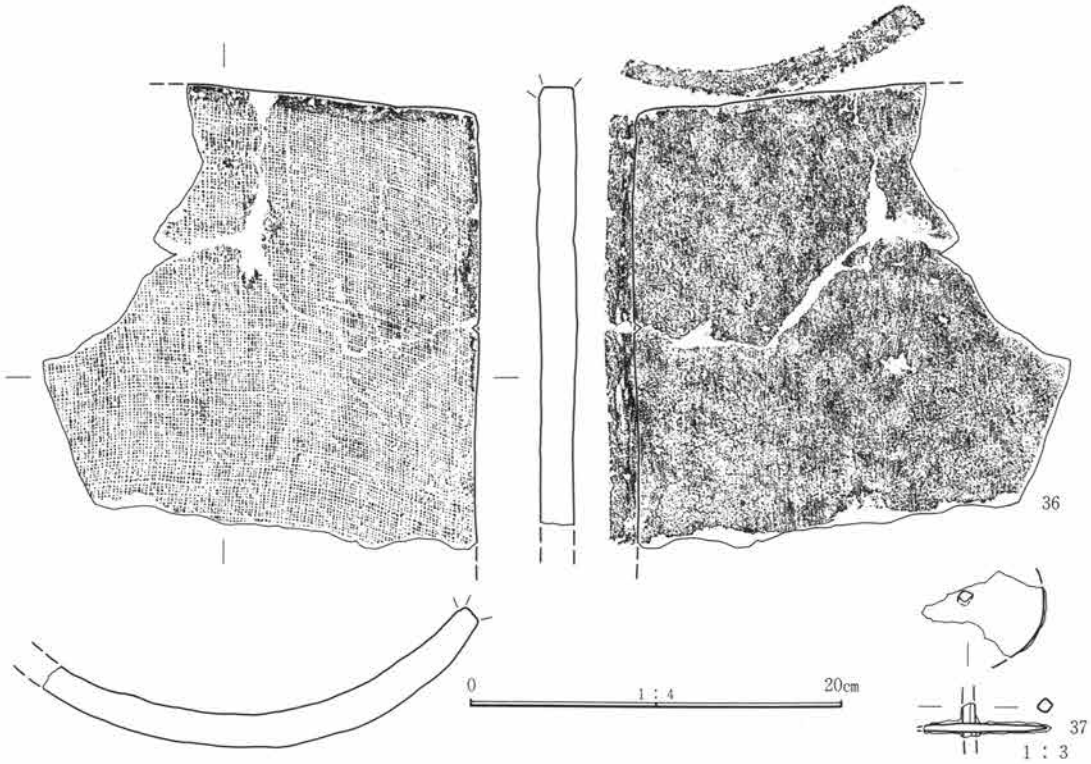


22図　7号住居跡出土遺物（3）



23図　７号住居跡出土遺物（４）

す。６・７は床下埋土より出土。７の器厚は厚手である。８は無台の椀。住居跡中央覆土下位からの出土。口縁部横撫でによる外湾。底部の外縁は摩滅する。右回転。９の坏も覆土出土。右回転で腰部に回転篦削りが施される。また、底部は厚く、内底面は平滑である。１・２と同様に本住居跡に伴う遺物ではない。10は完形の椀。床面中央のやや北よりで21の羽釜や30小型甕と伴出した。高台の貼付はやや雑。器厚は薄手ながら重量感を持つ。11は北東壁上より出土。当初８号住への帰属も考えられたが、敢えて本住居に属した。12の椀は床面西側の比較的遺物希薄な地点の床直上。13の長脚の椀は、床面中央やや東で床直上から25の羽釜と共に出土している。内底面に重ね焼きの痕跡である粘土粒が付着する。14は貯蔵穴上位。腰部の高台内面に凹線が巡る。肥厚口縁。15は覆土。口縁部に著しい歪み。16は竈内。高台を欠損。17、南西隅の覆土から。器面の摩滅著しい。18の皿は床面中央やや南よりの覆土下位より。細身の高台端部が鋭い反面底部は厚手である。19は椀底部。12の西側の覆土下位より出土。高台に粘土粒が付着。20の灰釉陶器椀は床面中央やや南西よりの床直上。施釉は漬け掛けで、口縁部に輪花を持つ。21は床面中央やや北よりで前述の10などと伴出した。轆轤整形で体部下半に斜め篦削りが加わる。22は床面中央で床直で出土。口縁部は内傾し、体部上半に膨らみを持たせる。轆轤整形、体部下半篦削り。23は中央やや南東、覆土中位より。轆轤整形で胴部中位に膨らみがある。外面横位篦撫でが看取され、内面撫で調整と指頭圧痕が施される。24は住居跡外から。内面口縁下に凹線が巡る。25は中央やや東および北東隅の床直から出土。直立気味の体部形態で、轆轤目が

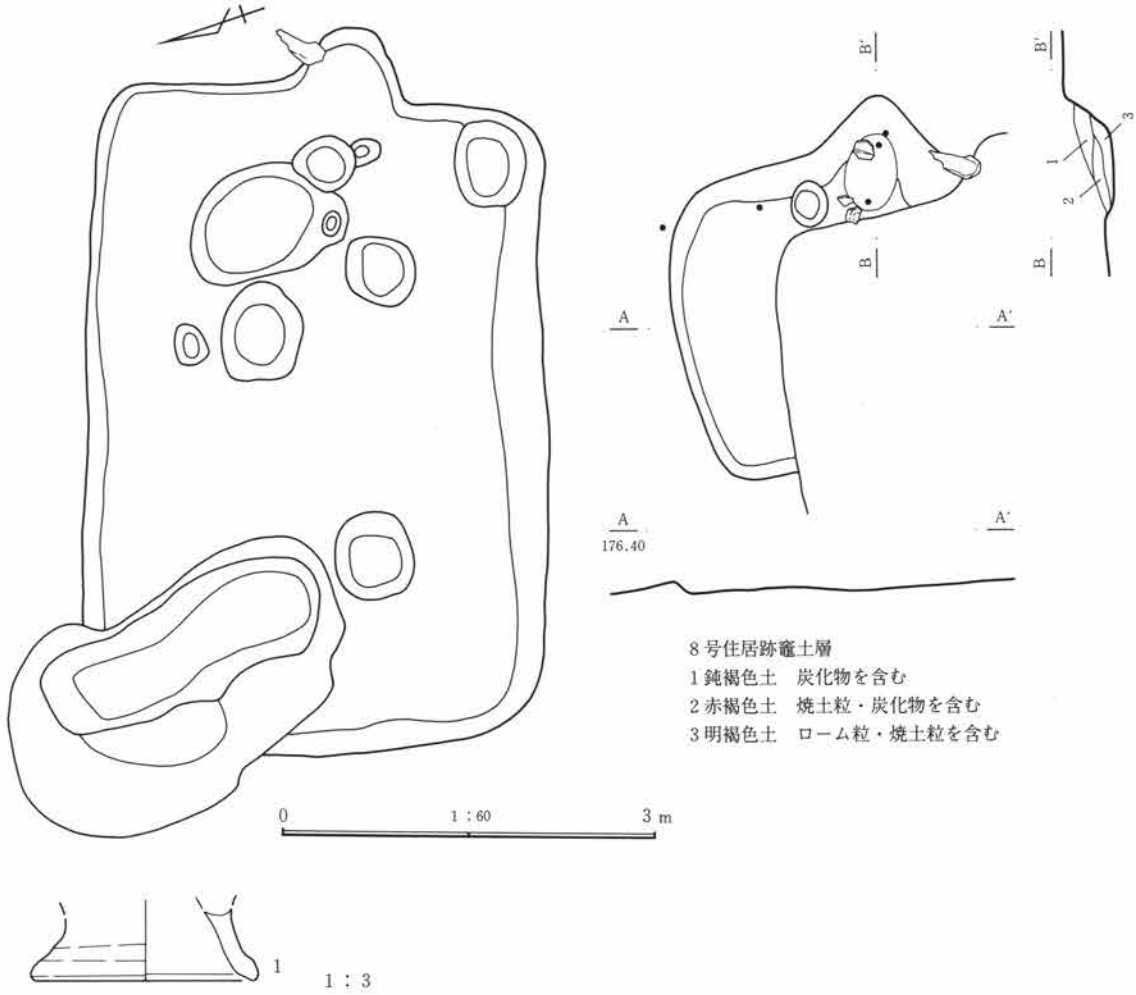


24図　7号住居跡出土遺物（5）

強く残る。26は中央やや北よりの覆土中位より。体部は全体的に摩滅。27は竈内出土。口縁部破片で出土位置から構築材の可能性もある。28は北東隅の覆土上位より比較的まとまって出土。羽釜体部下半～底部である。外面下位に箆撫でが見られる。29、床面中央西よりの覆土中位と床直が接合。羽釜体部下半。内面は横撫でが施される。30は中央やや北よりで、21・10などとまとまって伴出した。小型の「ロクロ甕」で右回転で体部下半に縦位箆削りが加わる。轆轤目も強く、鋭角的な印象を得る。31は高台付甕あるいは瓶か。外面は轆轤整形後横位箆撫でが施される。床下埋土出土。32は軒平瓦。床面南西よりの床直上より出土。33は丸瓦。竈北側から、34の丸瓦は竈内立位で出土した。構築材として使用されたのであろう。35は平瓦。中央やや北より覆土下位から。36の平瓦は貯蔵穴上より出土した。前述のとおり、おそらく竈に関連するのであろう。この他に、鉄製紡錘車が覆土より出土している。

7号住居跡の遺物は、比較的まとまった出土の傾向を呈し、一括遺物としての可能性を得るだろう。しかし、このような住居跡においても、1・2・9のような古相を呈する土器も混入する事象は踏まえておくべきであろう。また、遺構外の出土遺物である24も扱いに注意を要す。

本住居跡は、周辺地形からも安定したあり方を示し、また、平面形も整然とした長方形を呈す。この長方形プランの住居跡は本遺跡において、一群の中核ともなる位置を占める。住居群の単位・各住居の連環性・間取り傾向を看取するに、本住居跡のような縦長方形プランの住居の位置付けを明確にする必要もあろう。



25図　7号住居跡掘り方　8号住居跡・出土遺物

8号住居跡

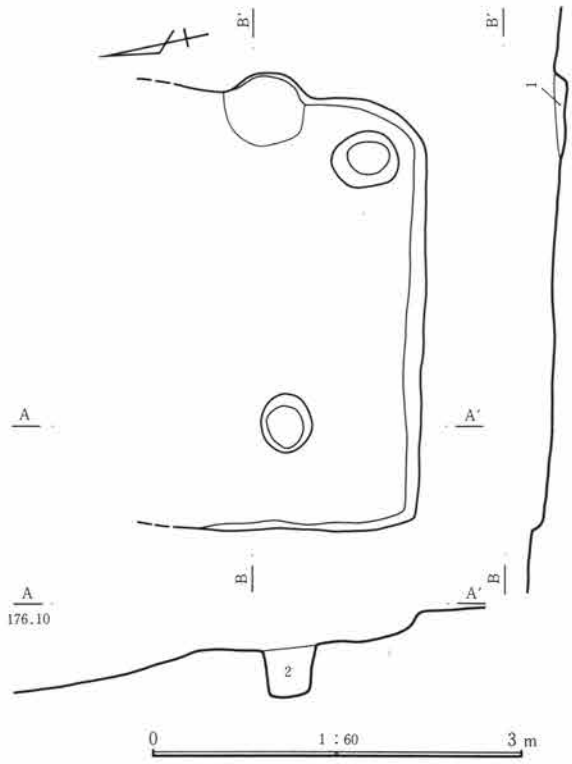
7号住居跡北東隅に重複して検出された。調査当初7住の一部とみられていたが、新たに竈の痕跡が7住壁外に検出され、本住居跡が認知された。長軸2ｍ30㎝あまりの小型の正方形を基調とした平面形と見られ、現存壁高も7㎝と浅く、遺存度は不良といえよう。

明確な床面は検出できなかった。貼り床・硬化面など使用面は痕跡をとどめておらず、調査は掘り方埋土の痕跡を精査し床面検出を試みた。

柱穴は検出できなかった。竈北側に小ピットを1基確認したが、袖材の抜き取り穴の可能性や別種遺構の場合も想定でき特定には至らなかった。貯蔵穴も相当する場所が、7号住居跡の床下土坑群に当たるため、特定できない。

竈は、東壁に設けられている。住居規模の割りには不釣り合いの大きさだが、焼土粒・炭化物を含む層位を確認した。袖材として、7号住にかかる板石が考えられるが、燃焼部より距離があり、可能性は薄い。掘り込みは比較的しっかりしており、燃焼部は浅く凹む。

遺物は、この竈から羽釜破片と床面（床下）より高台椀脚部が出土した。1が図示し得るのみである。脚部のみの残存で、端部がやや丸みを帯びる。



9号住居跡土層
1　鈍褐色土　焼土粒・炭化物含む。竈覆土
2　鈍黄褐色土　やや砂質。ローム塊含む。ピット埋土

26図　9号住居跡

9号住居跡

7・8号住居跡の北東に近接する。また、南東に10号住居跡も近接する。東側は急傾斜地形が展開し、また、本住居跡の北側は傾斜面のため削られていた。調査では南側約1/2の検出にとどまった。

正方形に近い平面形を呈し、深さも最深部で32㎝を測るに過ぎない。全体的に浅く遺存度の悪い住居である。

床面は凹凸を持ちながら、平坦が意識される。貼り床・硬化面は顕著ではなく、地床である。

柱穴は南東隅やや中央よりに小ピットが確認されている。砂質の鈍い黄褐色土が充満しており、深さも条件を十分満たす。しかし、住居覆土が薄いため、別種遺構との重複も考慮にいれなければならないだろう。

貯蔵穴は、竈南の小穴である。13㎝と浅いが、位置的に特定できよう。

竈は、東壁に設けられる。浅く遺存度も悪い。出土遺物は総破片数26点と少なく、図示し得る破片も無かった。

10号住居跡

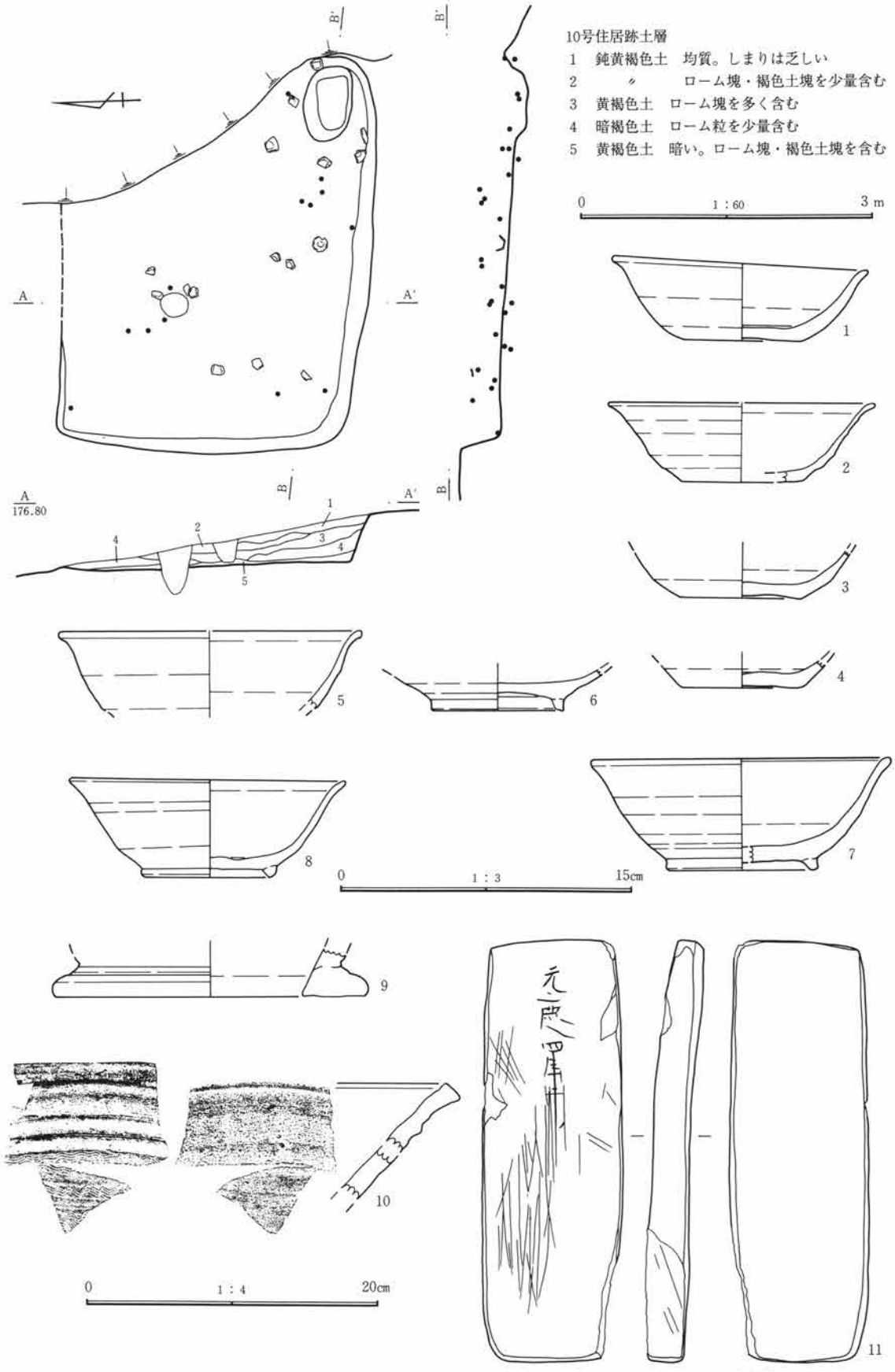
調査区中央中尾根東区の北東よりで検出した。前述の9号住居跡は北約4ｍに、11号住居跡は南に近接する。また、西8ｍには縦長方形プランの7号住居跡が本住居跡と軸を同様にして位置する。本住居跡の東側は急傾斜地形のため崖状となっており、そのため、本住居跡の竈・東壁は削り取られていた。ただし、西側は比較的平坦であり、当時の地形は東側に斜面が展開するとはいえ、斜面とは距離を置いて占地されていたものと考えられよう。

平面形は恐らく長方形で、壁高は最深部を約50㎝を測るが、北側への傾斜のため北壁は逸失していた。また土層観察の際、数個の攪乱ピットを確認したが、1個が床面を破壊するのみで、他は、土層中途でとどまっている。

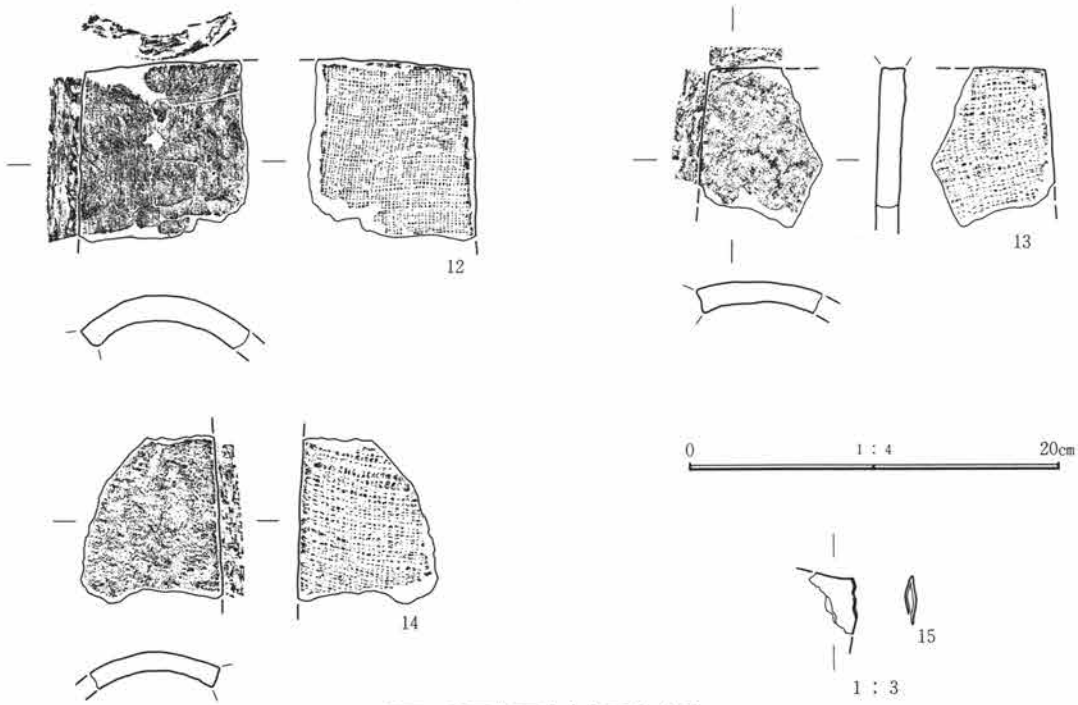
床面は北傾斜にありながら、ほぼ平坦面を築く。若干ながら、北東側に傾斜する傾向が見られたが、微差である。黄褐色ロームによる地床で、貼り床はされていなかった。硬化面は床面中央部分から、東壁にかけて認められたが、範囲としてまとまっておらず顕著ではなかった。

柱穴は無い。貯蔵穴は南東隅に楕円形状の土坑が充てられよう。やや浅い深度だが、掘り込みはしっかりしていた。

竈は、検出され得なかった。ただし、東の崖上端部にかけて、焼土が比較的まとまって検出されたが、掘り込みをもたず、当住居跡の竈が流出した結果、崖斜面に堆積したと解釈し、当住居跡の竈は崖の崩落により消失したものとした。故に、竈の位置は東側に設けられていたものと認定できよう。



27図　10号住居跡・出土遺物（１）



28図　10号住居跡出土遺物（2）

出土遺物は総破片数226点と少ない。1は南壁下床直上より出土した完形の坏。口縁部は緩やかに外反し、丸みを帯びる体部はやや摩滅する。右回転。2は覆土中より出土。薄手の器厚を呈する坏。轆轤目は比較的顕著。3、貯蔵穴西の床直上より出土。坏底部。体部上半の器厚は薄い。4も坏底部。覆土上層より出土。5は椀の口縁部破片。貯蔵穴上端の壁より出土。玉縁状の口縁部である。6は中央やや西南の覆土上位より出土。高台付皿であろう。高台端部は面を持つ。7は南壁東寄で壁にかかるようにして覆土中位より出土した高台付椀。底部器厚は厚手で、内外面の器壁は剝落が多い。8は貯蔵穴北西寄覆土下位より出土の高台付椀。高台は短く、体部下半に変換点を持つ。内底面に粘土を付加した痕跡があり、あるいは焼成前補修の可能性もある。9は甑であろう。床下調査の際に出土した。幅広の接地面を有し、裾部に1条の凹線が巡る。内外面とも器壁の剝落が著しい。10は須恵器甕口縁部破片。南西隅覆土上位より出土。口縁下の横位隆線以下に、波状文3段以上が施される。11は砥石。貯蔵穴南の壁下よりほぼ床直で出土。砥沢石製品で、長さ14.1㎝、幅4.6㎝の比較的大型の砥石である。当該期の砥石としては、形態的にも例が少ないだろう。しかしながら、厚さ1.3㎝と薄く、かつ4面とも滑沢な面を持ち頻繁な使用を物語る。使用痕は長軸方向に擦痕が見られる。本砥石には、線刻により紀年銘が刻字がなされている。表面先端部の中央に「元慶四年」と記されており、以下何等かの文字が記されているようだが、擦痕により判然としない。12～14は丸瓦。12は覆土中より、13は中央やや北西よりの覆土上位から、14は貯蔵穴北の床直より出土した。いずれも、薄手で13・14は還元焰焼成である。あるいは同一個体かもしれない。その他の遺物では15の鉄製品が覆土上層より出土している。薄い鉄板を折り曲げたもので、器種・用途は不明である。

本住居跡出土遺物は少量ながら、紀年銘が刻字された砥石の存在から注目され得る遺物群となろう。刻字は、薄く判読が困難である。「元慶四年二」とも読めるが、確実な文字は「元慶四年」であり、西暦880年にあたるとされている。このことから、本住居跡出土土器は9世紀後半の土器年代を探る上で絶好の資料となり得よう。また、本住居跡からは数点ではあるが瓦の出土を見ている。瓦－寺院跡という関係を重視すると、本遺跡には9世紀後半に、寺院跡あるいは関連遺構（前身的施設）が存在していた可能性が強まる。前回の報告で

ある『黒熊中西遺跡（１）』では、寺院跡の造営時期は10世紀前半においていたが、本住居跡出土瓦から、造営時期に関しては検討を要する。

ただし、出土土器・出土瓦をすべて９世紀後半に比定する作業は早計であり、慎重な分析が要求されよう。例えば、砥石と出土土器の層位的な関係、砥石の使用年数、流通、あるいは本砥石そのものの対象物を想起せねばならず、本住居跡出土土器を無批判に編年基軸に据える研究は避けなければならないだろう。

このことは、他の遺跡の年代基準資料にも言え、例えば綿貫邦男氏は愛宕山遺跡４号住居跡の須恵器を再検討し（綿貫1992)、「萬年通寶」から得られた年代（760～）に対し、銅製・石製品の腰帯具の共伴から３度の共伴時期を文献から求め、愛宕山４住出土須恵器の上限・下限の定点を796～810年とされている。このように一個の共伴資料から年代を即決する短絡的な方法ではなく、綿貫氏が行ったように、多角的な視点で年代を検証せねばならないのである。その意味では、本遺跡の砥石と伴出土器は紀年銘のみの比較資料であり、土層や鉄製品に追証材料としての性格を持たない。今後は前述した砥石の使用年数など、様々な要素を検討し、より確かな年代を与えるべきだろう。

11号住居跡

調査区中央の中尾根東区（Ｇ区）に位置する。北に10号住居跡が近接し、南側には34～36号住居跡などが群在する。また、東側は９・10号住と同様に崖状の斜面となっており、本住居跡の東壁と北壁の大半は流失している。

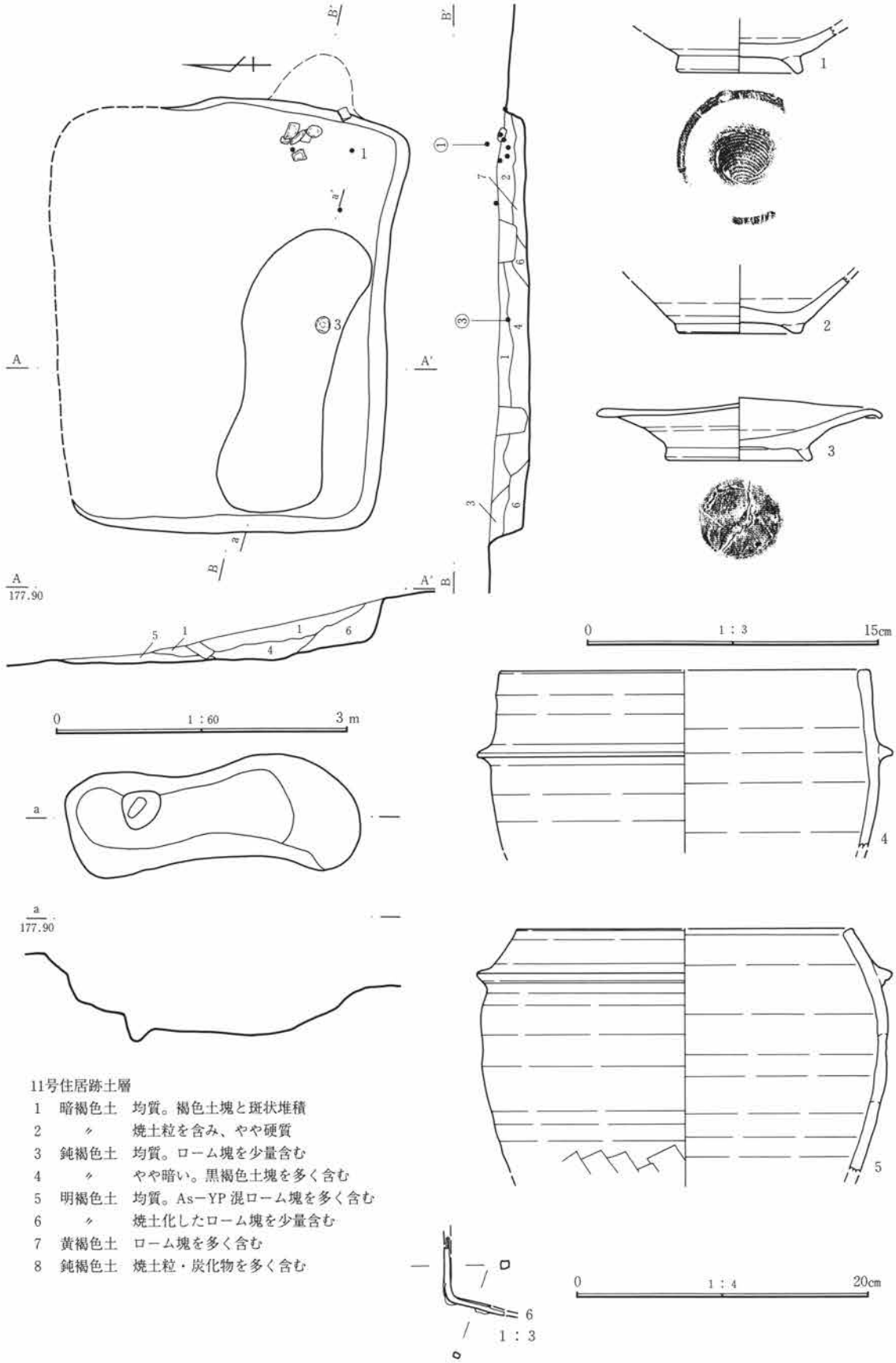
平面形はおそらく長軸４ｍ短軸３ｍ前後の長方形と思われ、壁高は遺存の良好な部分で64cmを測る。床面はローム土を基調とした地床で平坦面を築くが、僅かな凹凸を持ち北側に傾斜する。顕著な硬化面は確認できなかった。柱穴・貯蔵穴は無い。竈は東崖斜面のため流失している。東壁中央南寄に、数個の自然石が覆土上層より比較的まとまって出土し、焼土・炭化物も微量認められたが、東壁自体に明確な掘り込みも無く、竈として特定できなかった。床下遺構は無かったが、床下調査の際に大型長楕円形の土坑が検出された。住居の設備として断定できないが、７号住居跡掘り方調査で検出された土坑と覆土・形態が類似しており、検討を要するだろう。

出土遺物は総破片数236点と少ない。覆土中より出土したものが多く、床面上からのものは図示に耐え得る個体ではなく細片であった。１は高台付皿で、覆土上層より出土した。２はおそらく椀であろう。体部器厚薄く、外面器壁は摩滅する。３、高台付皿。覆土中より出土。口縁部に歪みが認められ、外反する口唇部は比較的鋭い。高台端部が欠損する。４、羽釜。覆土出土。口縁部は長く僅かに内傾する。あるいは甑の可能性もある。５の羽釜も覆土より。口縁部内傾し、体部は膨らみを持つ。体部下半に篦削りが認められる。６の鉄器は頭部が欠損しているが釘と考えられる。

12号住居跡

調査区中央の中尾根東区（Ｇ区）北に位置する。北東に１号住居跡が近接するが、密接する住居跡は無く、群在する住居群の中にあって距離を保つ住居跡と言えよう。周辺地形は北側に緩やかに傾斜し、比較的平坦な場所である。周囲には近世～現代の土坑が多く検出されている。

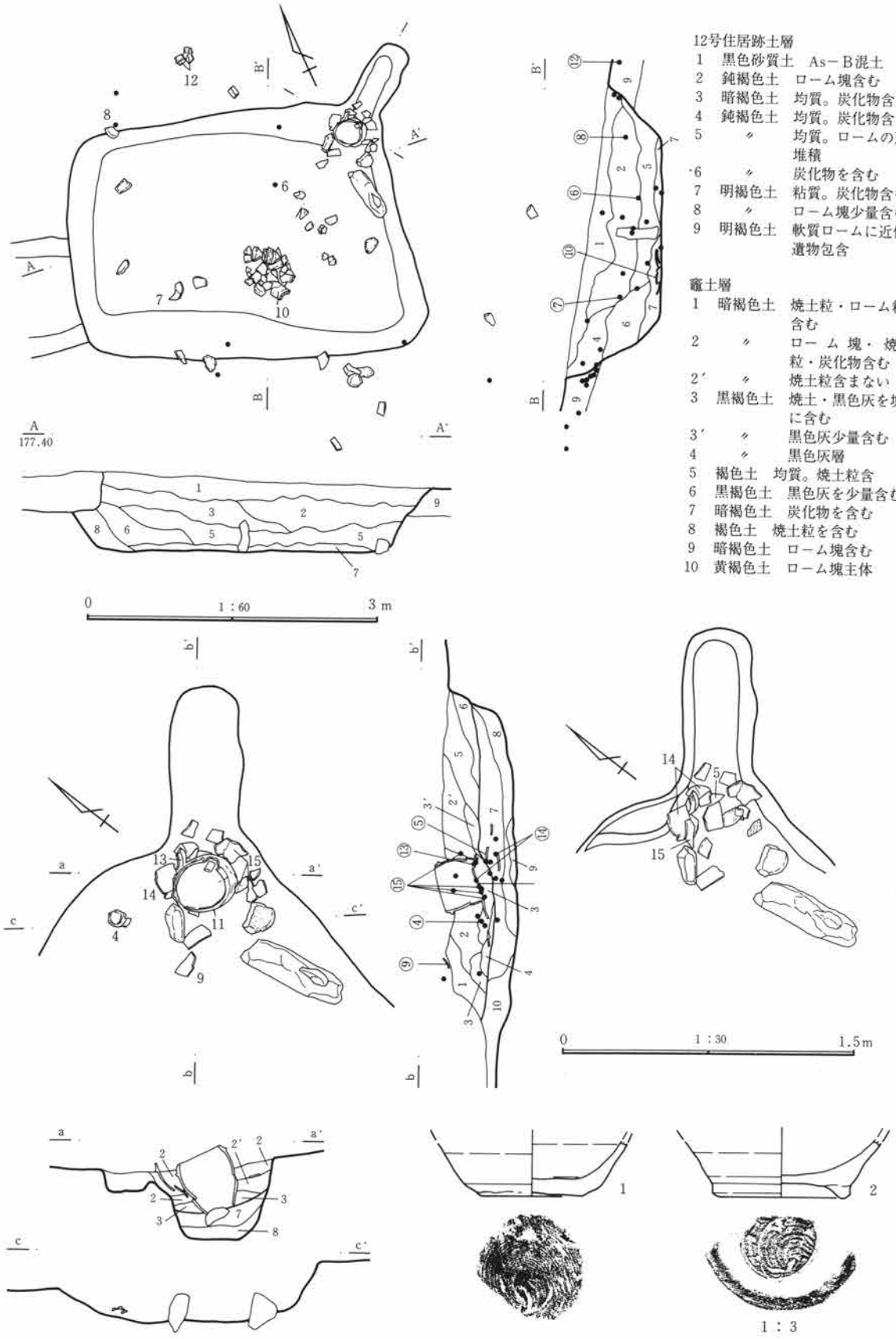
平面形は、2.4×3.3ｍの横長方形を呈し、南隅が土坑と重複するため明確なプランを確認できなかったが、均整のとれた平面形である。深さも約80cmと良好な遺存だった。



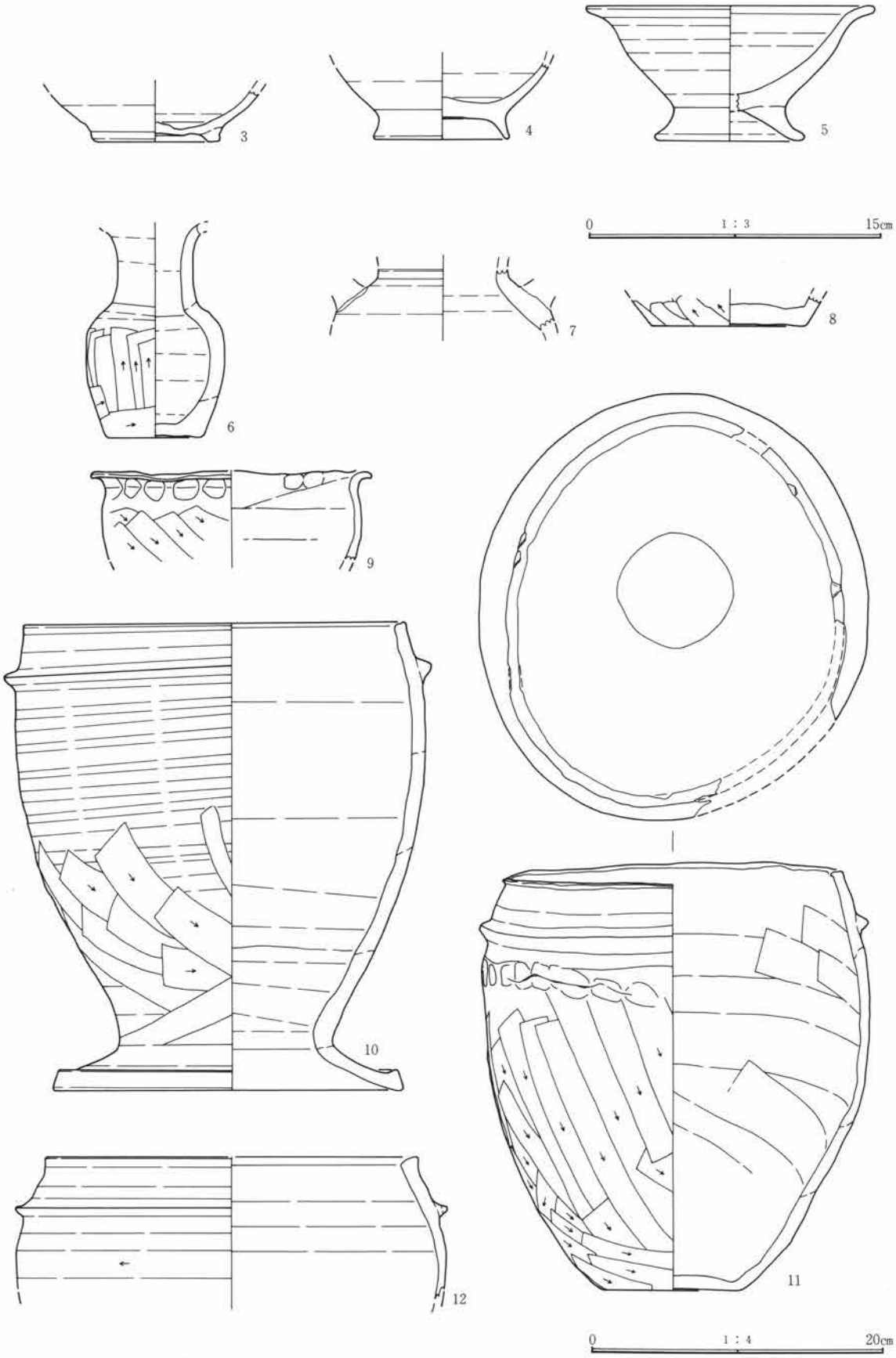
11号住居跡土層

1　暗褐色土　均質。褐色土塊と斑状堆積
2　〃　焼土粒を含み、やや硬質
3　鈍褐色土　均質。ローム塊を少量含む
4　〃　やや暗い。黒褐色土塊を多く含む
5　明褐色土　均質。As－YP 混ローム塊を多く含む
6　〃　焼土化したローム塊を少量含む
7　黄褐色土　ローム塊を多く含む
8　鈍褐色土　焼土粒・炭化物を多く含む

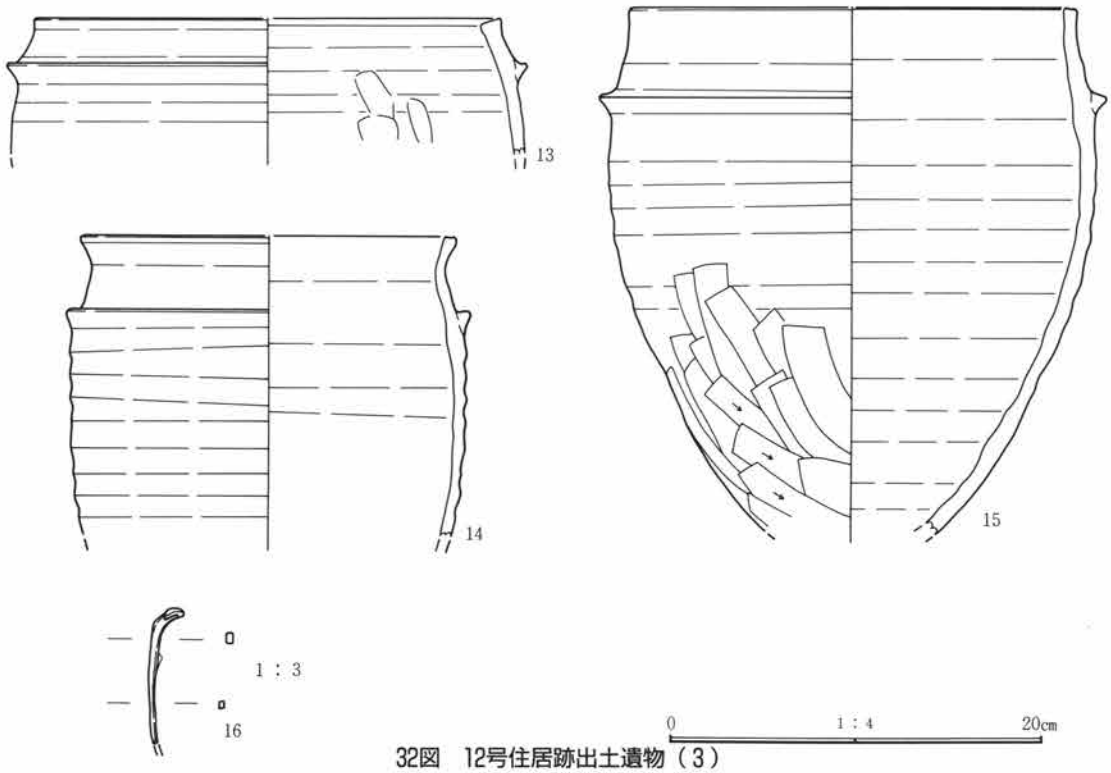
29図　11号住居跡・出土遺物



30図　12号住居跡・出土遺物（１）



31図　12号住居跡出土遺物（2）



32図　12号住居跡出土遺物（３）

覆土は黒色砂質土（As－Ｂ含）が上層に堆積しており、中層の鈍褐色土や暗褐色土と明確に分層できた。反面、中層以下は地山の明褐色土との区分が容易ではなく、床面・壁の検出が手間取った。上層の黒色土は広い範囲で堆積しており、本住居跡周辺を浅く掘り窪む落ち込みとして検出した。おそらく、As－Ｂ堆積時には本住居跡は埋没が完了しておらず、周辺は広く窪む状態だったのであろう。

床面は狭く、僅かな凹凸が認められるもののほぼ平坦面を築く。ローム層土を基調とした地床で中央部分から竈にかけて硬化面が広がる。なお、柱穴・貯蔵穴は検出されなかった。

竈は北東隅に煙道を突出して検出された。煙道部分には焼土粒と黒色灰が散布していたが、濃密ではなかった。燃焼部では羽釜が据えられた状態で出土し、周辺を自然石や羽釜破片で固めていた。また、南側には砂岩製の板石状の自然石が出土したが、これは懸架状の天井石として位置付けられよう。覆土は上層に焼土塊・中層に黒色灰や焼土粒が遺存していたことから、天井石を除去し、構築材の崩壊を伴いながらも放置され、住居の廃絶・自然埋没を迎えたものと考えられよう。なお、床下遺構は精査したが検出されなかった。

遺物は遺存度の良好な割りには、出土総破片点数568点と以外に少ない。自然埋没も急激な埋没なのかも知れない。16点を図示し得たが、坏・椀類が少なく居住者の移動と共にこれら小型器種の移動も考慮される現象である。１～３は覆土上層より出土した高台付椀である。４は竈燃焼部下面より出土。尖り気味の高台端部を呈す。５は竈覆土より。外反気味の口縁部・内傾する高台部を呈す。いずれも椀類は右回転整形である。６は酸化焔焼成の小型の瓶。口縁部を欠損する。左回転の轆轤整形で体部は縦位篦削り、腰部は横位篦削りが施される。７は広口の甕かあるいは瓶。覆土出土。肩部に把手が付されるが剝落する。内面は横撫でが施されるが凹凸が著しい。８は甕あるいは羽釜底部。覆土出土。轆轤整形、外面篦削り。９は土師器甕。口縁部歪みあり。外面、口縁～頸部指頭圧による横撫で、体部斜位篦削り。内面、口縁部指頭圧横撫で、体部横・斜位撫で。薄手の器厚を呈す。竈上層より出土。10は甑。床面中央でほぼ密着して出土。右回転轆轤整形で体部下半斜・横位篦削り。裾部は回転横撫で。内面も回転横撫でだが、体部下半より変色する。全体的に整った作りで鋭い印

象を得る。11は竈に架けられた状態で出土した羽釜。器形全体に著しい歪みがあり整円ではない。内傾する口縁部に僅かに口唇部が突出し、短い鍔が貼付される。鍔以下は指頭圧による横撫でにより鍔が貼付され、体部上半より篦削りが顕著に施される。内面は横・斜位の篦撫で。12は住居外出土。体部上半に横位篦撫でが看取される。13～15は竈内出土。おそらく構築材として使用されたものか。口縁部形態に多様性が認められよう。15の体部下半の篦削り上部は撫で状となる。16は鉄釘。覆土出土である。

以上のように、本住居跡の出土遺物は竈を中心に煮沸にかかわる遺物の出土が良好である。特に、10の甑は完形であり、竈に架けられていた羽釜11との関連は強いものと窺われよう。しかしながら、前述のように11は器形全体の歪みが著しく、整った10とのセットを考えると接点に隙間が生じ、熱効率に問題が残る。これを解消するには、竈の構造内の工夫かあるいは羽釜口縁部に粘土などの補強材が必要であり、竈による煮沸行為も土器のみを問題視せず、構築材や補強材の存在を念頭においておくべきだろう。ともあれ、本住居跡の出土遺物の一括性は10・11を中核に考えるべきである。

14号住居跡

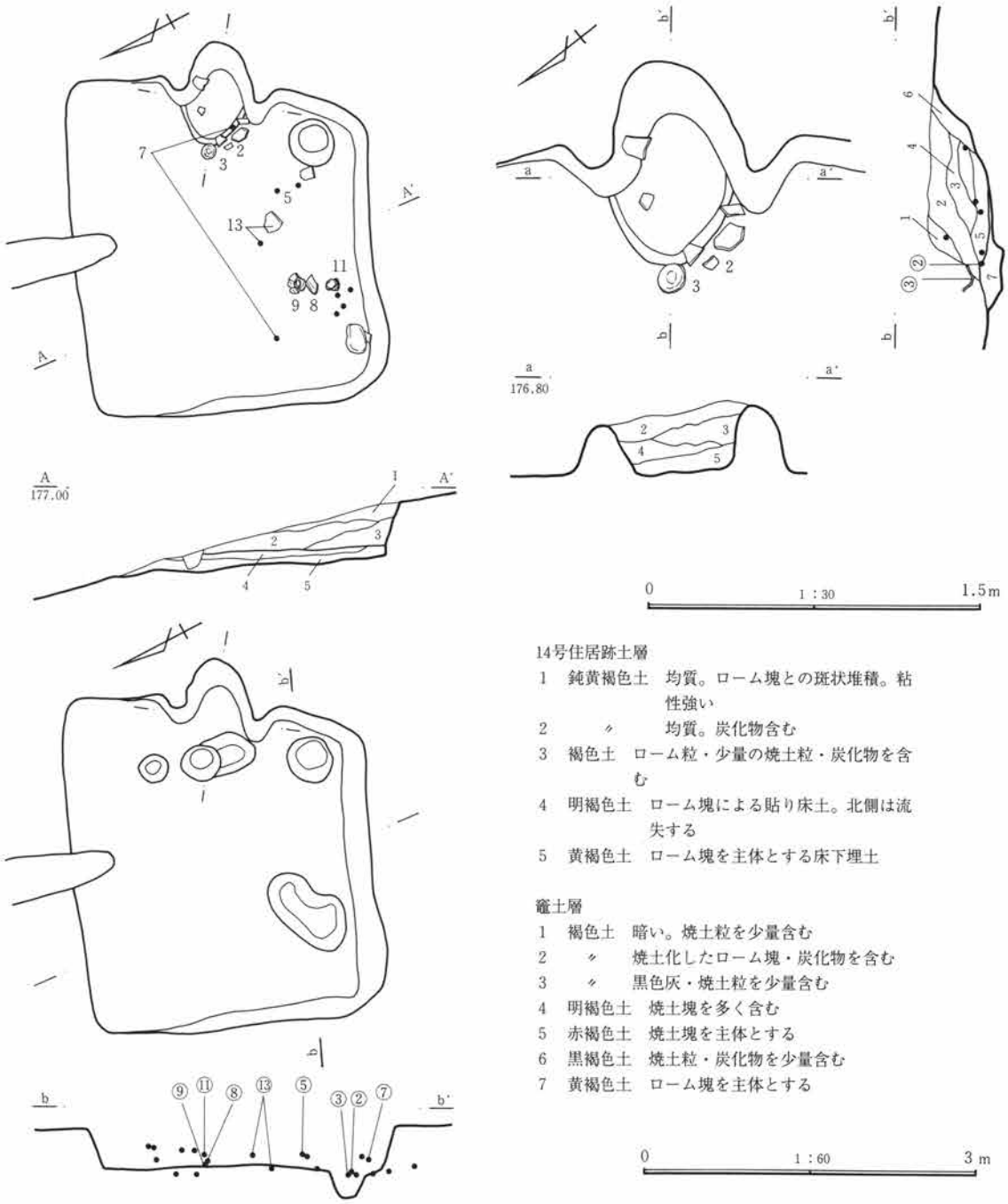
調査区東側東尾根区（F区）の狭小な尾根上に立地する。東に15号住居跡、南に54～59号住居跡が近接するが、本住居跡は重複せず距離を保つ。周辺地形は馬の背状の尾根地形で全体に北側に傾斜する。本住居跡西側・東側とも崖状の傾斜となり、南側が辛うじて安定していると言えよう。

平面形は北側壁をほぼ逸失しているため判然としないが、1辺2.6m前後の小型の不整正方形を呈し、深さは最深部で80cmを測る。床面は北側に若干傾斜するが平坦である。貼床は明褐色土によるもので、硬化面は顕著ではなかった。柱穴は見られなかったが、小型の貯蔵穴が竈南西に開けられていた。

竈は東壁のほぼ中央で馬蹄状に設けられており、燃焼部に緩やかな掘り込みを持つ。袖は両袖とも地山ロームを使用したもので短い。覆土下層には大型の焼土塊が堆積しており、破壊された状態を呈す。

床下調査により、竈前庭部と床面南西部分に不整形の床下土坑を検出したが性格は不明である。

遺物は、総破片点数333点が出土し13点を図示した。坏・椀類が多い。1は覆土出土。右回転で内外面は摩滅している。2・3は竈前の使用面より出土の坏。2の内底面器壁は剝落し、外面も摩滅が多い。3の身浅の坏口縁部は玉縁気味に外反する。内面に極微量の油煙が付着する。4、覆土出土。口縁部はやや外反気味である。5は覆土中位出土の椀底部。比較的薄手の器厚を呈す。6も覆土出土。身深の椀である。7は竈内と西側覆土中位よりの接合。外反気味の口縁部と体部下半に膨らみを持たせる器形である。器厚は薄手。8は床面南

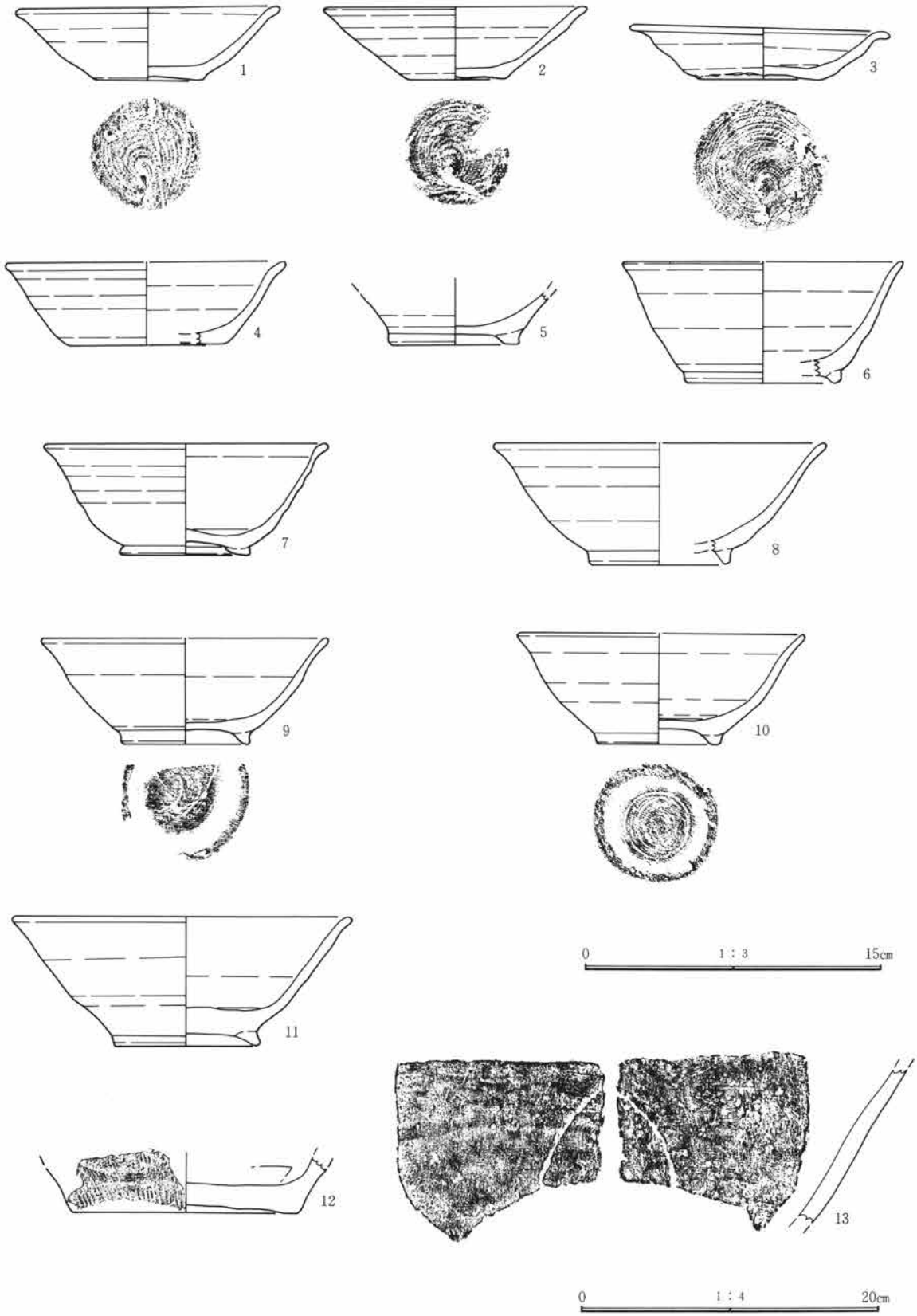


14号住居跡土層
1　鈍黄褐色土　均質。ローム塊との斑状堆積。粘性強い
2　〃　均質。炭化物含む
3　褐色土　ローム粒・少量の焼土粒・炭化物を含む
4　明褐色土　ローム塊による貼り床土。北側は流失する
5　黄褐色土　ローム塊を主体とする床下埋土

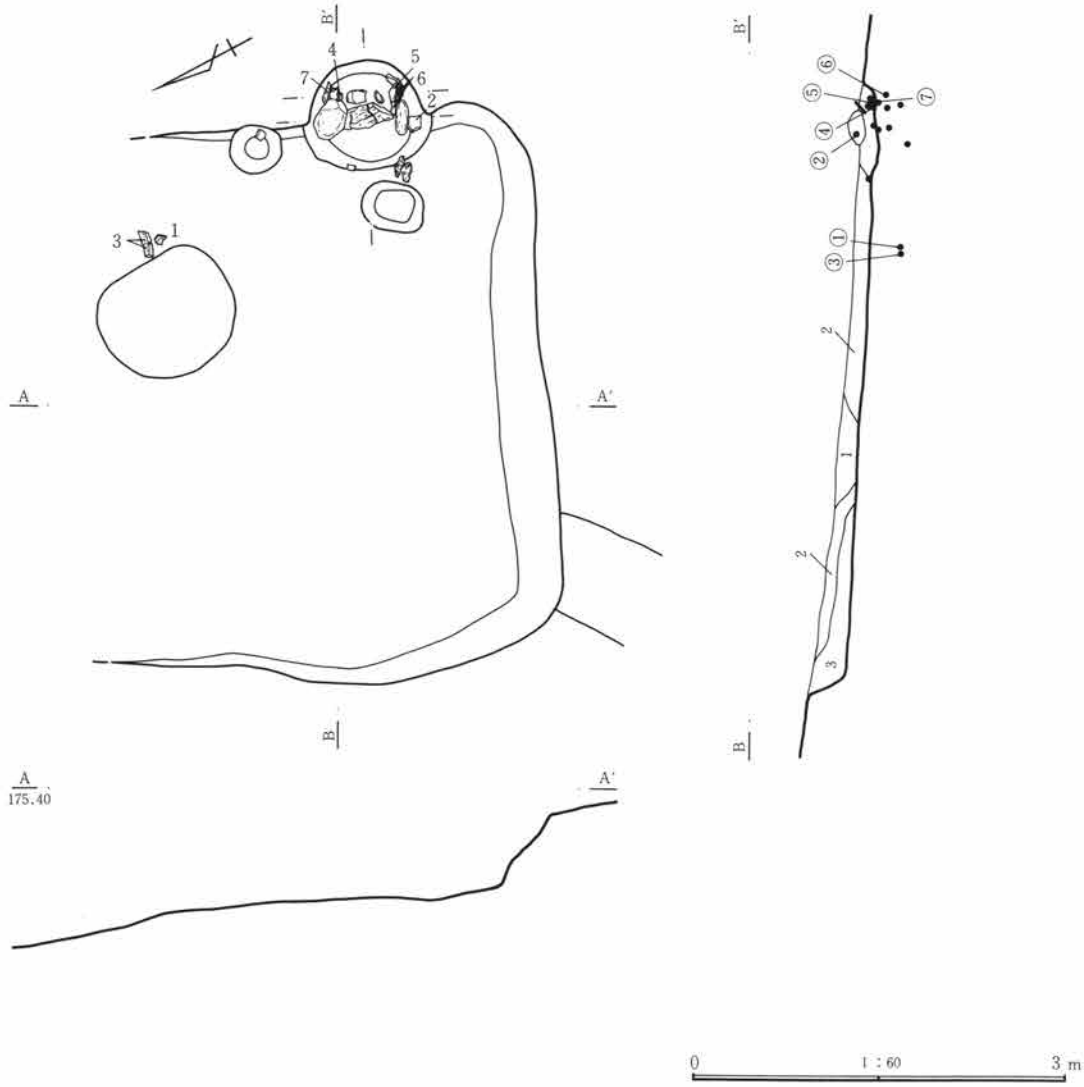
竈土層
1　褐色土　暗い。焼土粒を少量含む
2　〃　焼土化したローム塊・炭化物を含む
3　〃　黒色灰・焼土粒を少量含む
4　明褐色土　焼土塊を多く含む
5　赤褐色土　焼土塊を主体とする
6　黒褐色土　焼土粒・炭化物を少量含む
7　黄褐色土　ローム塊を主体とする

33図　14号住居跡

側の床直上より出土。内外面とも器壁剝落が著しい。９も８と同様の地点より出土。底部は薄く、高台部に若干の歪みがある。10は覆土中位より出土。外面は右回転轆轤整形後撫でにより平滑な仕上げを施している。内底面器壁剝落。11も９・８と近接して出土。高台短く、底部器厚が厚く重量感がある。口縁に僅かな歪みが認められる。12は甕底部。轆轤整形で外面は平行叩き。内面は撫でが施される。覆土出土。13も須恵器甕体部破片。やや軟質な焼きである。外面は横・斜位の撫で、内面は横位ハケ撫で。



34図　14号住居跡出土遺物



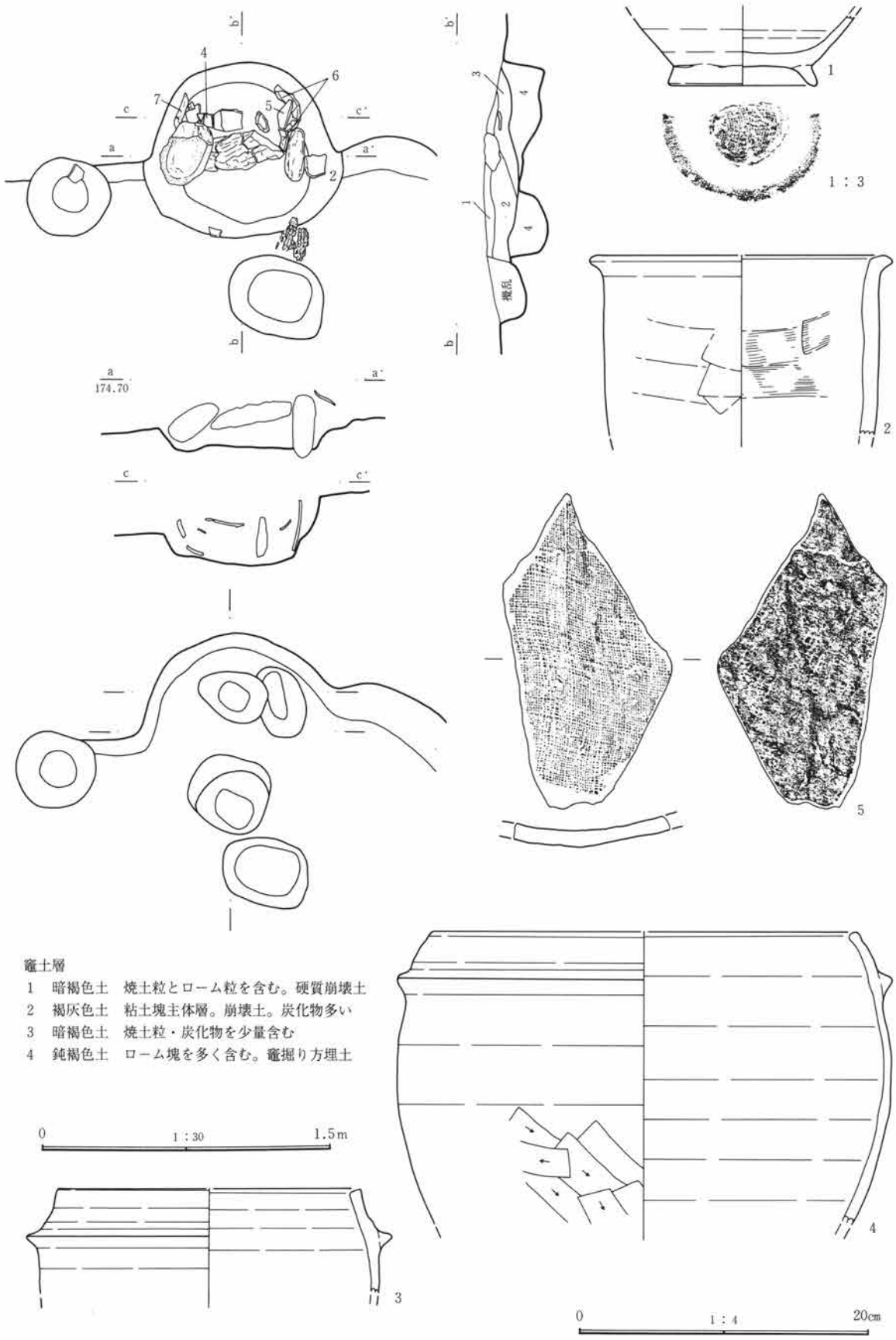
35図　15号住居跡

15号住居跡

14号住居跡の東に近接する。同様に狭小な尾根上に位置し、単独の検出となった。北側の壁を流失するため、平面形は判然としないが、長軸4.3ｍあまりの方形を呈するのであろう。深さは最深部で46㎝を測る。柱穴に相当するピットは検出できず、貯蔵穴も竈前に小穴があるが、確定的ではない。また、東壁にも小ピットが確認されたが、柱穴としては特定できない。床面は北側に傾斜しつつもほぼ平坦であるが全体に遺存が悪く、現代の攪乱坑も重複していた。貼床はなされず、ローム層土の地床である。

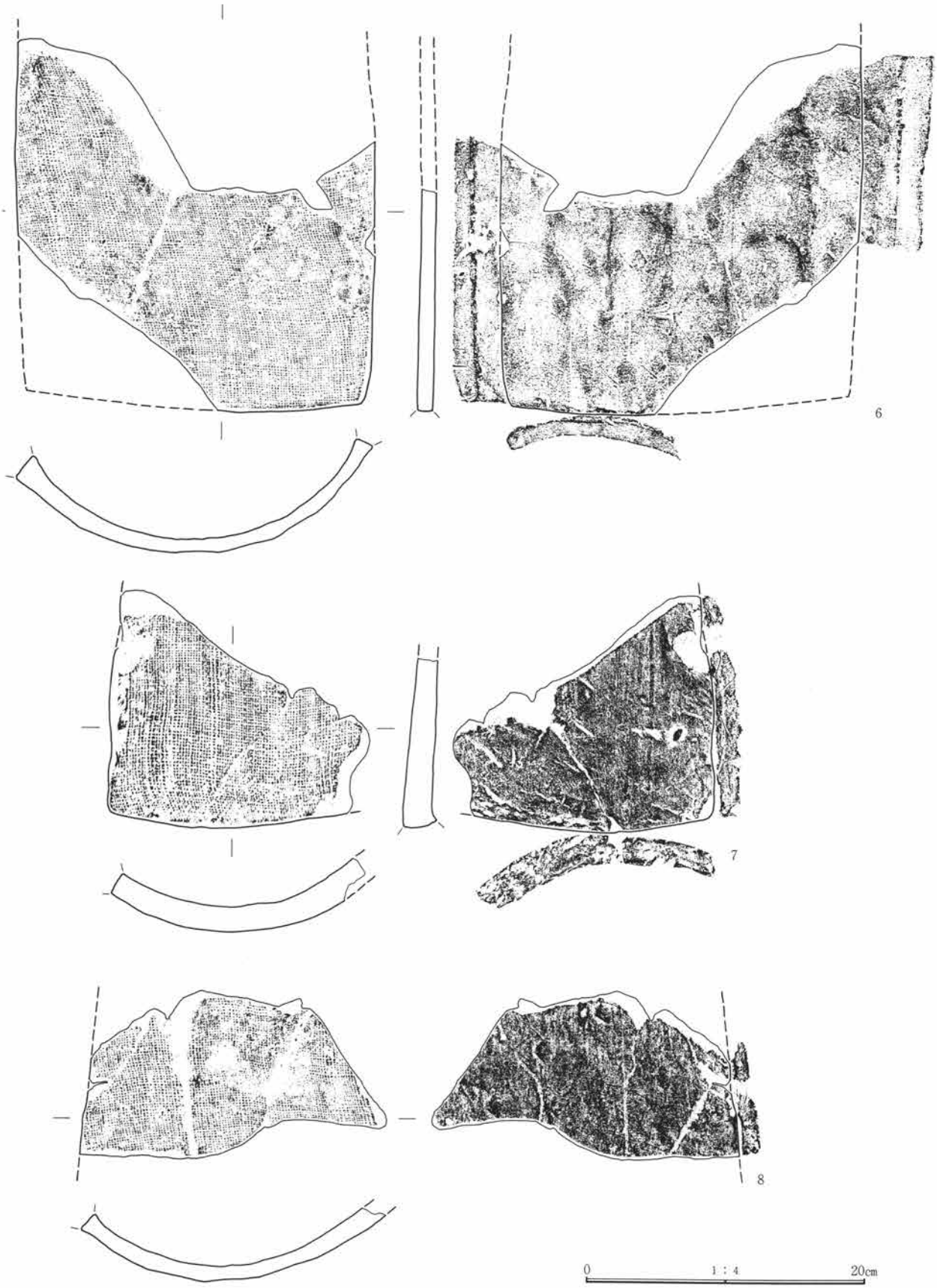
竈は東壁南寄りに設けられる。半円形の燃焼部で若干の掘り込みを持つ。構築材として大型の自然石を両脇に立て、砂岩製の天井石を架けていた。また、瓦・甕破片を自然石の奥に立て補強していた。

出土遺物は総破片点数56点と少なく８点を図示した。１の椀と３の羽釜は北側の傾斜部より出土した。床直とは言いがたいが、下位の出土である。２の甕は竈補強材として出土した。内面刷毛撫でが顕著。長胴形の器形を呈し器厚は厚い。４の羽釜も竈内出土。体部下半に箆削りが施される。５～８は平瓦。２と同様に竈補強材として使用されていた。

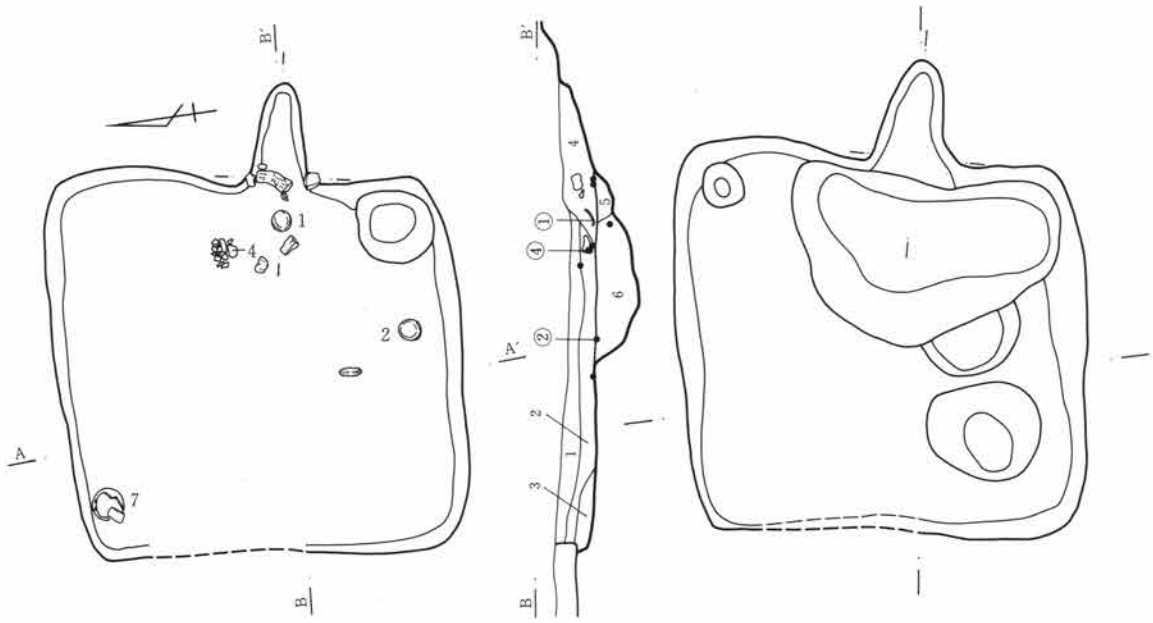


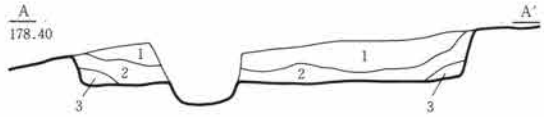
竈土層
1　暗褐色土　焼土粒とローム粒を含む。硬質崩壊土
2　褐灰色土　粘土塊主体層。崩壊土。炭化物多い
3　暗褐色土　焼土粒・炭化物を少量含む
4　鈍褐色土　ローム塊を多く含む。竈掘り方埋土

36図　15号住居跡竈・出土遺物（1）



37図　15号住居跡出土遺物（２）





16号住居跡土層

1　鈍黄褐色土　均質。軟質ローム粒を主体とする

2　〃　やや暗い。ローム塊との斑状堆積

3　黄褐色土　均質。壁崩壊土

4　黄褐色土　赤みを帯びる竈覆土

5　暗灰色土　黒色灰・ローム塊を含む

6　鈍黄褐色土　焼土塊・ローム塊を含む

竈土層

1　住居跡１層に相当

2　住居跡２層に相当

3　黄褐色土　緻密。焼土化したローム塊を含む

4　〃　灰を混入する

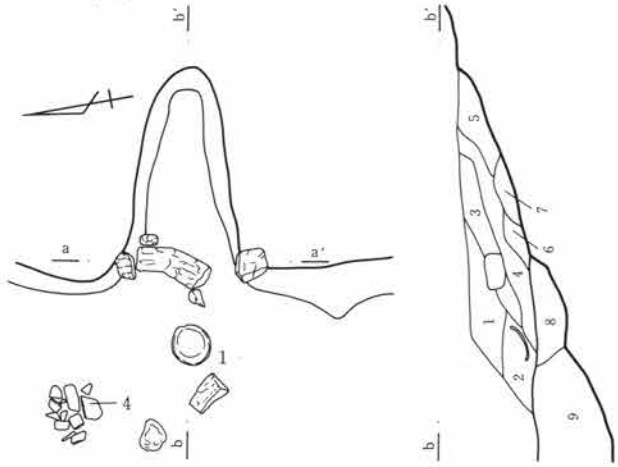
5　暗赤褐色土　ローム塊、焼土塊を含む。

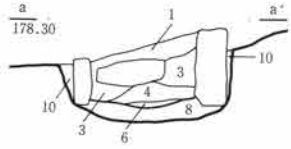
6　赤褐色土　焼土層

7　灰褐色　黒色灰層

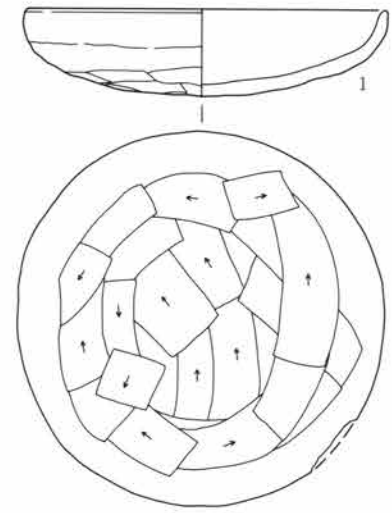
8　暗灰色土　黒色灰・ローム塊を含む

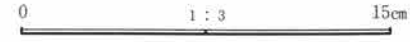
9　鈍黄褐色土　焼土塊・ローム塊を含む



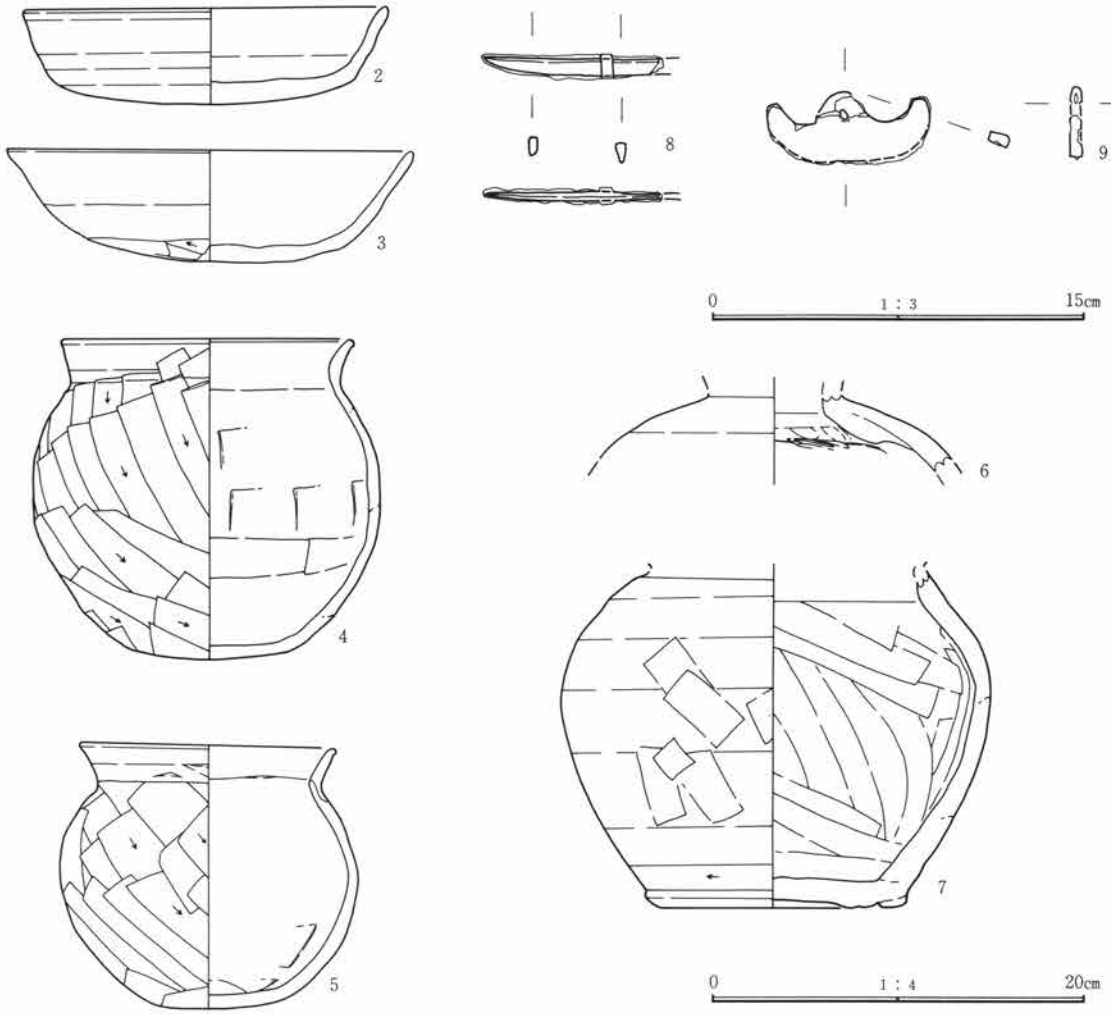


カマド１：30





38図　16号住居跡・出土遺物（１）

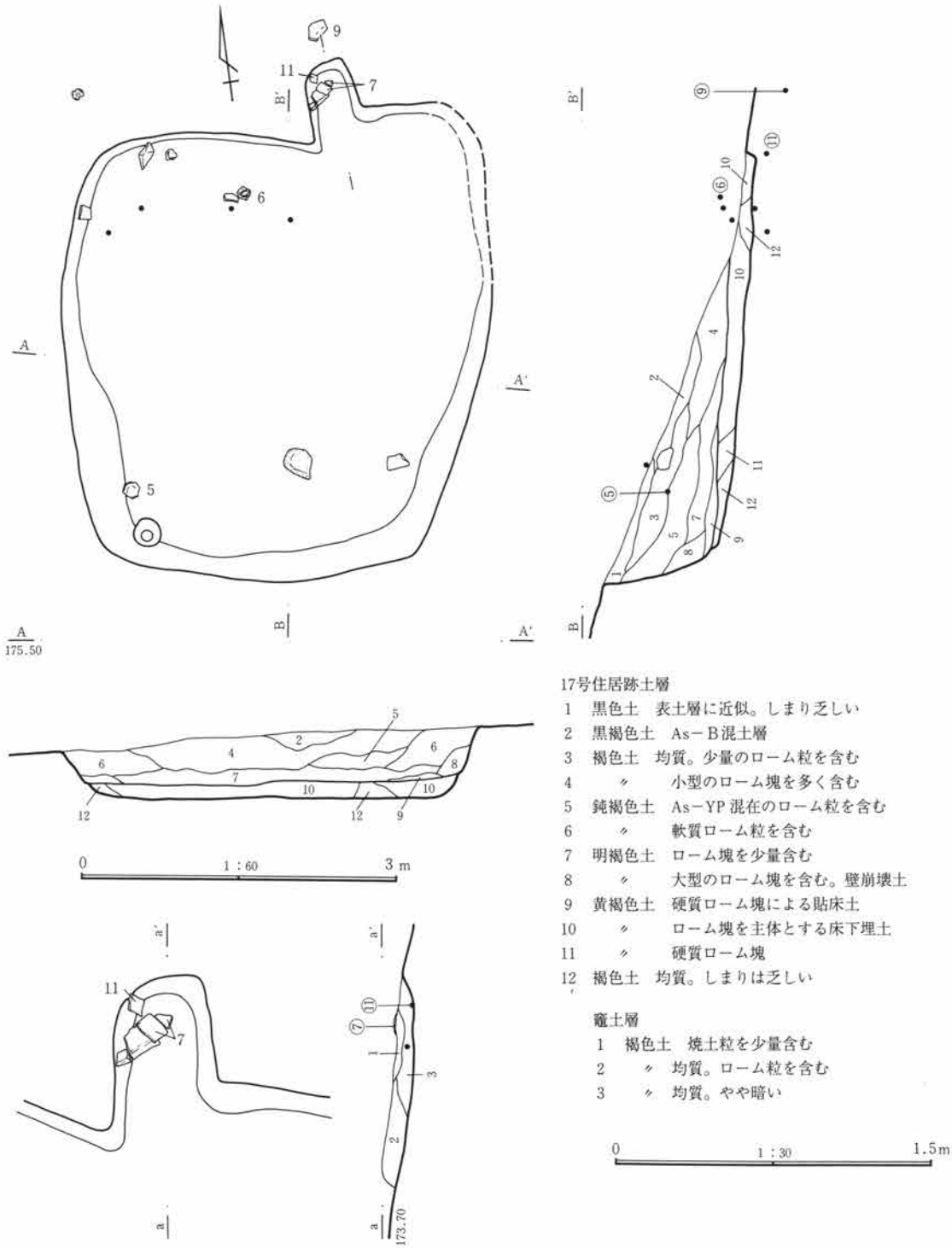


39図　16号住居跡出土遺物（２）

16号住居跡

調査区中央の中尾根東区のやや北寄りに位置する。２号住居跡床面下で重複して検出された。平面形は、辺長３ｍ前後の正方形を呈し、深さは約45㎝を測る。床面は、平坦であり貼床はなされないものの全体に硬く締められ、中央部を中心に硬化面も認められた。貯蔵穴は、竈南側の住居隅に検出した。竈は、東壁に大きく煙道を突出して設けられている。袖は無いが両側に自然石を立て、天井石が燃焼部に浮いた状態で出土した。覆土には焼土塊が上層に含まれることから、破壊された竈と思われる。床下遺構は竈前庭部に大型の土坑が、南西に中型の土坑が確認されたが性格は不明である。大型の土坑には焼土塊が含まれていた。

遺物は総破片数181点と少量で９個体を図示した。１は土師器坏で竈前庭部の使用面上より出土。口縁部横撫で、体部の篦削りは細かい。２は須恵器坏。轆轤右回転で底部は回転篦削りを施すが顕著ではない。南壁下床直出土。３は土師器坏。覆土出土。外傾する口縁部は横撫で、体部摩滅し遺存率は悪い。４・５は竈前庭部床直上よりまとまって出土。一部の破片が床下土坑より出土している。両個体とも口縁部横撫で後体部篦削り、内面は横篦撫でが施される。６は須恵器長頸瓶。肩部破片。轆轤整形で外面は平滑に仕上げる。内面は強い横撫でが施され指頭圧痕が残る。覆土出土。７は北西隅で床直上より出土。須恵器甕で短い高台が付される。轆轤整形で体部内外面に篦撫でが施される。８の刀子、９の火打ち金は覆土出土である。

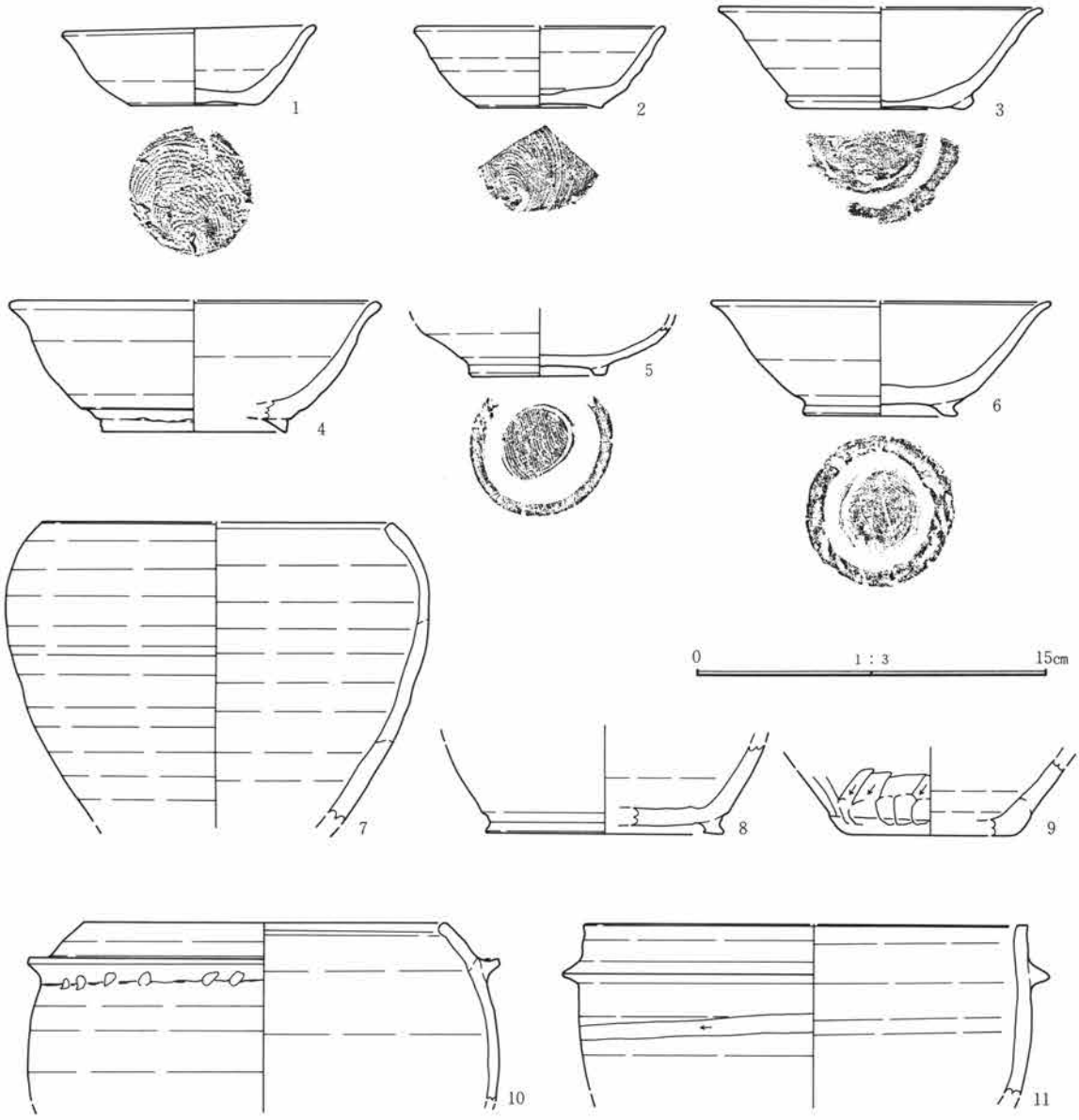


40図　17号住居跡

17号住居跡

調査区北西端の西尾根区（H区）で検出した。急斜面地形を呈する周辺であり、本住居跡は傾斜の下りきった変換点に位置する。周辺には近接した住居跡がなく、単独の検出となった。

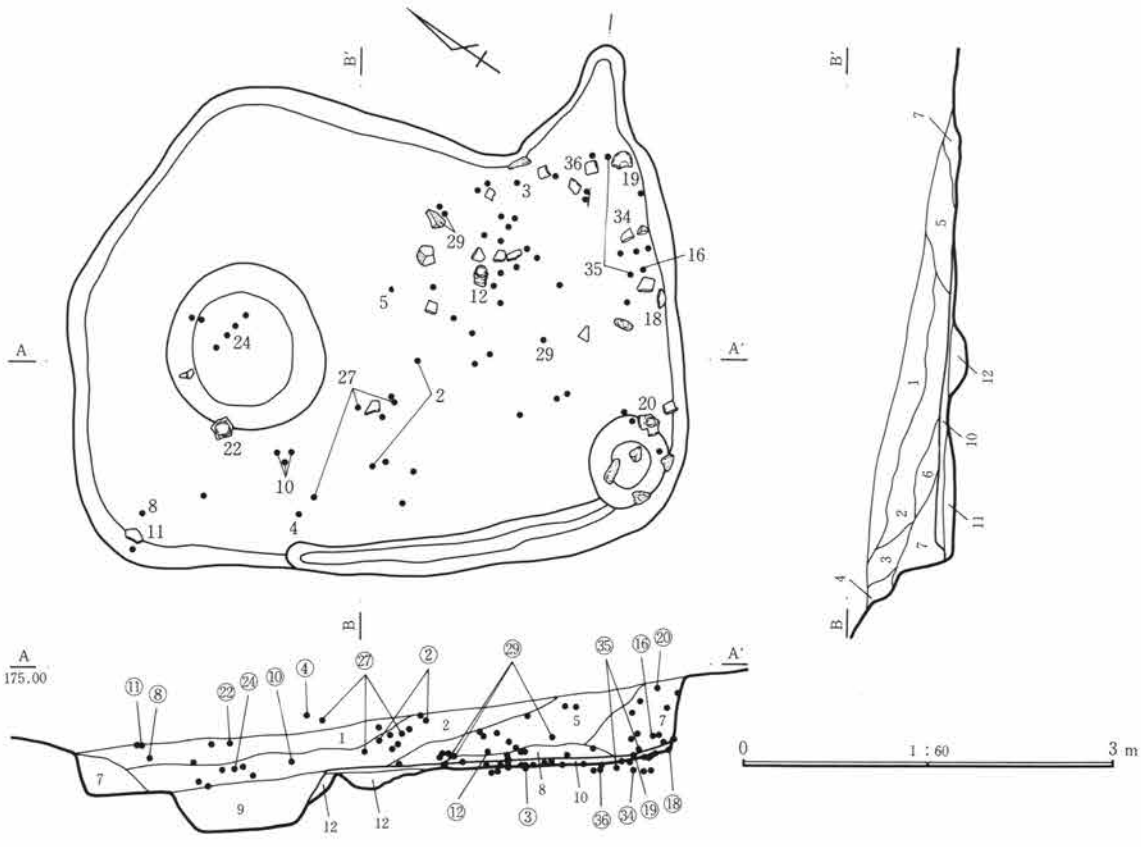
北側に急傾斜するため、北東壁は流失し、北西側もやや不安定な形態のため平面形は歪んだ方形を呈す。深さは約70㎝を測る。床面は北側に緩やかに傾斜し僅かな凹凸が見られた。貼床は黄褐色土を基調として全面に貼られるが、硬化面は特に顕著ではなく中央部分が若干硬く締められていた。柱穴・貯蔵穴は検出でき

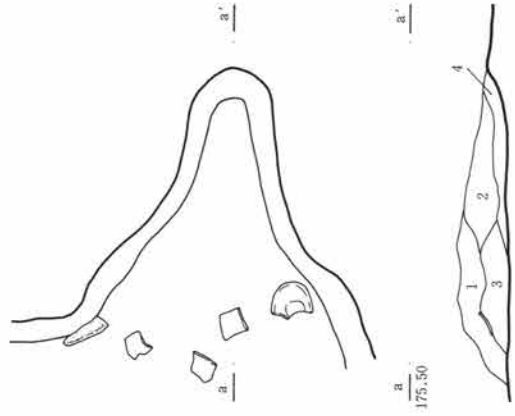


41図　17号住居跡出土遺物　0　1：4　20cm

なかった。竈は北側壁に僅かな痕跡として検出した。焼土・炭化物の散布も少量であり、明瞭な掘り込み・構築材も確認できなかった。ただし、遺物の多くがこの周辺からの出土である。

遺物は194点と少なく11点を図示し得た。１は住居外出土。帰属は判然としないが完形の坏である。２～４は覆土出土。２の口縁部に歪み有り。３、底部の器厚薄く口縁部は外反する。４、尖り気味の高台端部と装着の横撫でが顕著である。５は南西隅覆土上層より出土。器厚はやや薄手。６は竈前庭部西で床下埋土出土。高台はやや短めで開く。７は右回転轆轤整形の鉢。酸化気味の焼成である。竈燃焼部より出土。８は覆土出土。高台付甕あるいは瓶。外面は箆撫で内面は横撫でが施される。高台貼付後に周縁を強く撫でる。９は竈北の住居外から。酸化焔焼成の甕底部。轆轤整形で外面は箆削り後腰部に指押さえ。10も竈外出土の羽釜。内傾する口縁部、体部は丸みを帯びる。鍔下位には横撫でに伴う指頭圧痕が見られる。11は竈内出土の羽釜口縁部破片。直立気味の口縁部を呈す。体部には横方向の箆削りが認められ、内面は横撫でを施す。



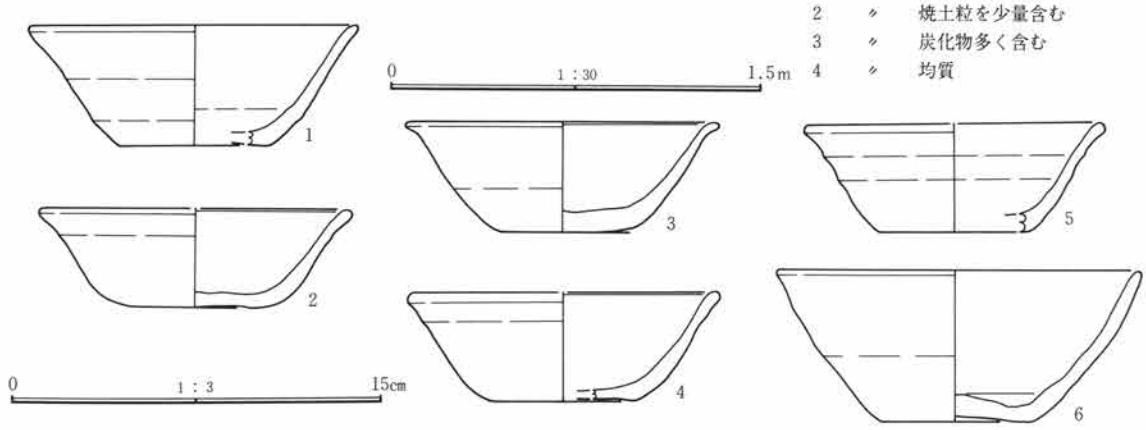


18号住居跡土層

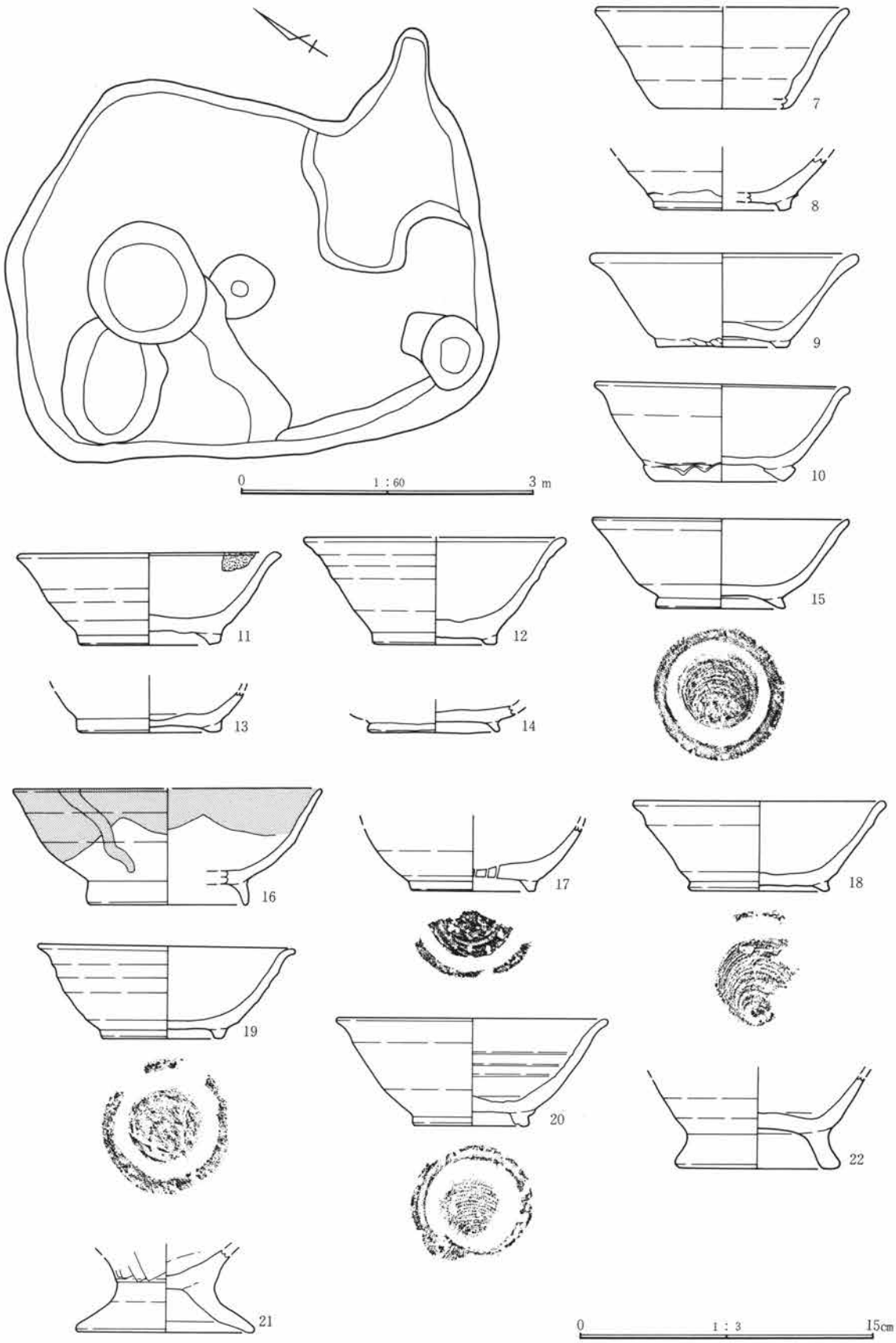
1　鈍褐色土　均質でやや暗い。ローム塊と斑状堆積を呈す
2　暗褐色土　小型のローム塊を少量含む
3　〃　均質。壁崩壊土か
4　〃　砂質土
5　〃　ローム粒を少量含む
6　〃　大型の炭化物・小型のローム塊を含む
7　褐色土　均質。ローム粒を多く含む。壁崩壊土
8　〃　炭化物を含む
9　暗褐色土　均質。少量のローム粒を含み、しまりは乏しい
10　黄褐色土　ローム塊を主体とする貼床土
11　〃　硬質ローム塊を主体とする
12　鈍黄褐色土　ローム塊を多く含む。床下土坑埋土

竈土層

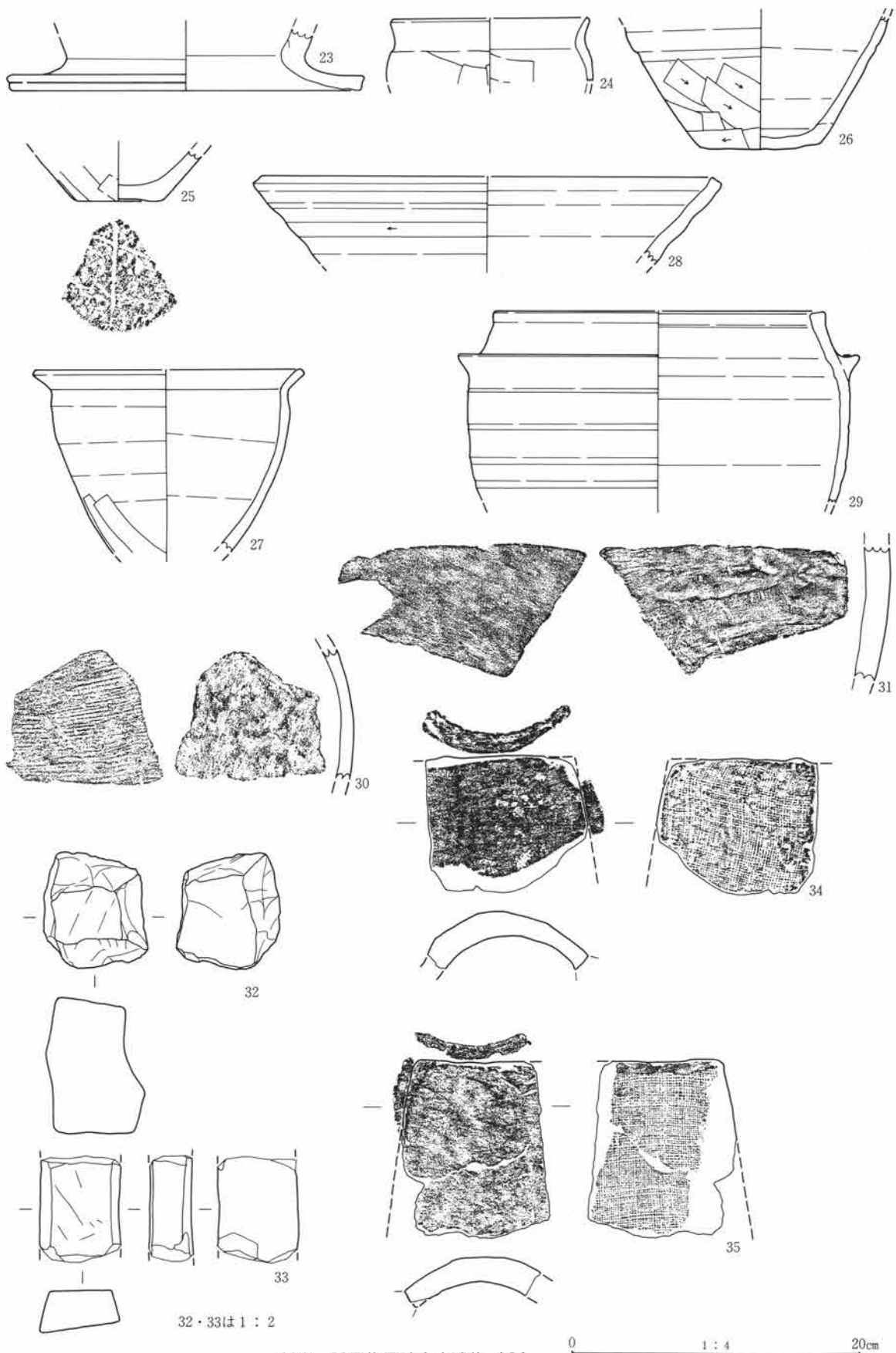
1　褐色土　ローム粒・炭化物を含む
2　〃　焼土粒を少量含む
3　〃　炭化物多く含む
4　〃　均質



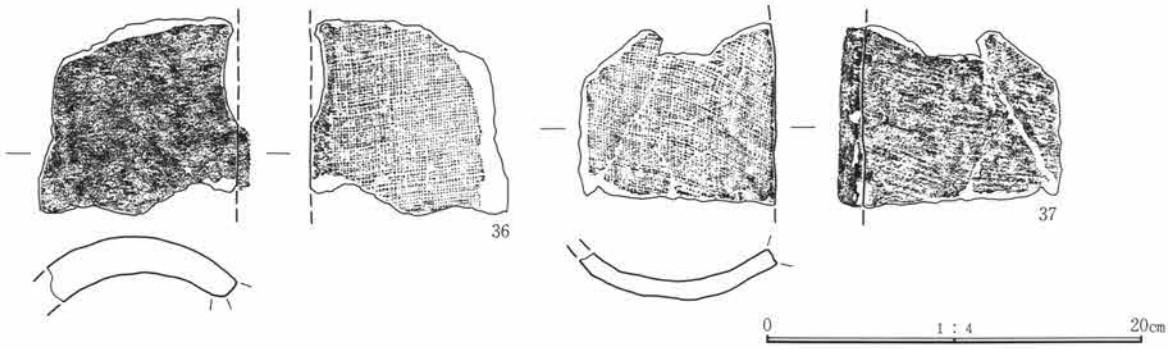
42図　18号住居跡・出土遺物（1）



43図　18号住居跡掘り方・出土遺物（２）



44図　18号住居跡出土遺物（3）



45図　18号住居跡出土遺物（４）

18号住居跡

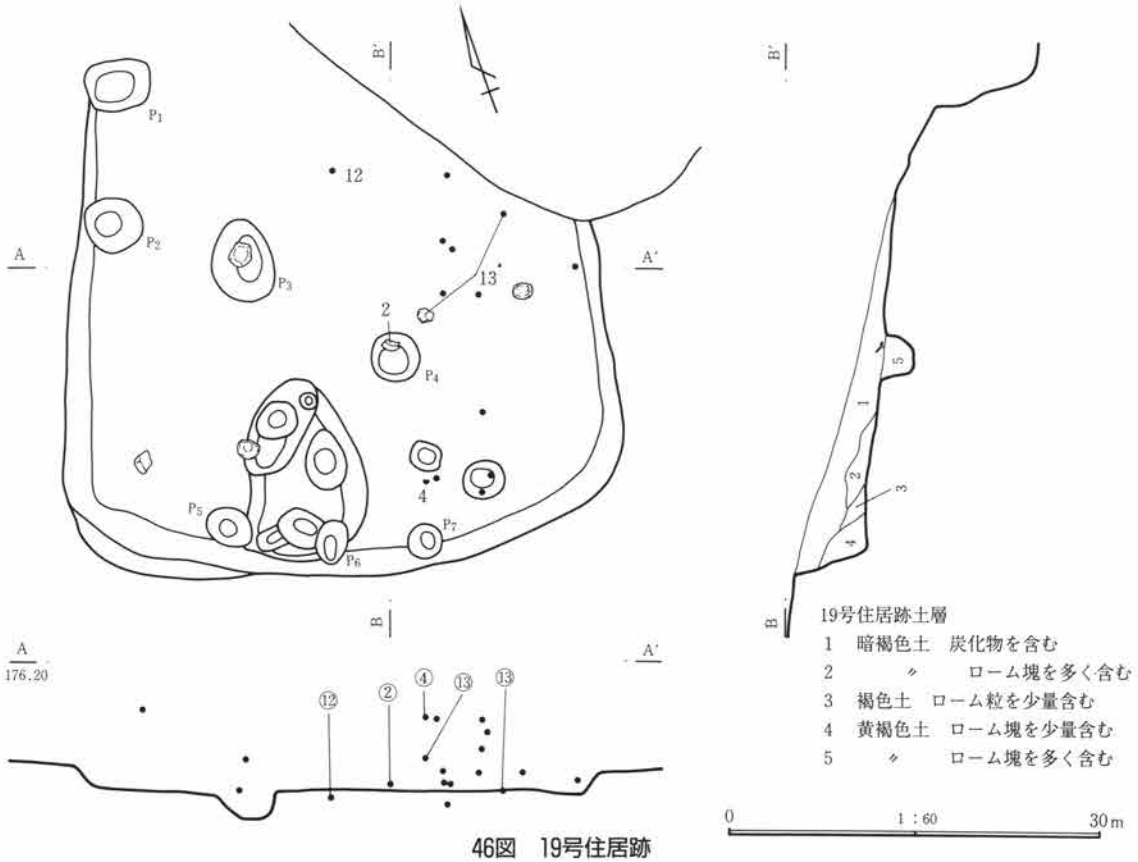
調査区西端の西尾根区（Ｆ区）に位置する。急傾斜地形に占地し、19号住居跡と重複するが本住居跡を新しく見た。南東に20・21号住居跡が近接するが、本住居跡がこの４軒の一群では最も良好な遺存を示す。

平面形は横長の不整方形を呈し、深さは70cmと良好である。床面は、緩やかに北側に傾斜するが、ほぼ平坦面を築く。黄褐色ローム層土を基調とした貼床がなされ、竈周辺に硬化面を確認した。柱穴は、確定的ではないが南西隅の小ピットの可能性もある。この小ピットから西壁に沿って壁溝が西壁中位にまで伸びる。貯蔵穴として、床面中央やや北寄りに大型の円形土坑が想起されるが、大型であり確定的ではない。あるいは柱穴とした南西隅の小ピットの方が貯蔵穴としての蓋然性が強いだろう。

竈は、南東隅に煙道を突出して確認された。斜面の下側に当たるため遺存は良くない。袖・構築材などは確認できなかったが、覆土の褐色土には炭化物が多く含まれていた。

床下遺構としては、前述の大型円形土坑周辺に床下土坑が数基重複して検出されたが性格は不明である。

遺物は、総破片点数760点と比較的多く、図示し得た遺物は37点である。竈とその周辺の集中が目立つ。１は覆土出土のやや身深の坏。２は覆土上層。体部下半に丸みを帯びる。３、竈内。体部中位に丸みを持ち、口縁部は外反。４、覆土上層。口唇部はやや肥厚。５も覆土上層。やや小振りの坏で口縁部に歪みがある。６は覆土。大振りの坏である。７も覆土。轆轤整形後撫でが加わる。８は高台付の椀。南西隅の覆土上層。高台貼付痕が顕著。９、覆土。口唇部が肥厚。10、西側の覆土下位出土。器壁の剝落著しい。高台貼付痕明瞭。11、北西隅の覆土上層出土。内面口唇部に少量の油煙が付着。12、竈前庭部で覆土下位より出土。厚手の底部で内底面は剝落がある。13・14は覆土出土。14は皿の可能性もある。15も覆土。内面に微量の油煙が付着する。16は竈南で覆土下位出土の灰釉陶器椀。施釉は漬け掛けで高台は細く鋭い。17、覆土出土の高台付椀。底面に焼成前の小孔が斜位に貫く。18は南壁下床直で出土。口縁部は強い回転横撫でで外反する。高台短い。19は竈内。体部に丸みを帯び整った器形を呈す。高台短い。20、南西隅の上層より出土。内面に轆轤目が強く残る。高台端部には凹線が巡る。21は土師器台付甕底部。縦位箆削り後接合部に横撫でを施す。22は西側覆土上層。しっかりした作りで体部器厚は薄手。23は覆土。右回転整形後横撫でを施した甑である。24は土師器小型甕。中央西寄りの覆土中位より。口縁部横撫で体部横位箆削り。内面体部は箆撫で。25、覆土の羽釜底部。底面に「×」状の焼成前線刻がある。26、覆土。右回転轆轤整形の羽釜底部。下半は箆削り。27は小型甕。右回転轆轤整形で下半に箆削り。酸化焔焼成。中央やや西より覆土上層出土。28は鉢口縁部。轆轤目強く体部中位回転箆削りを施す。29、竈前庭で覆土下位出土。体部の轆轤目強く凹線状となる。30・31は覆土出土の甕体部破片。30の外面は平行叩き、内面撫で。31、内外とも撫でが施される。32・33は覆土出土の砥石。34～36は竈内及び前庭部覆土下位・床直より出土の丸瓦である。37は覆土出土の平瓦。

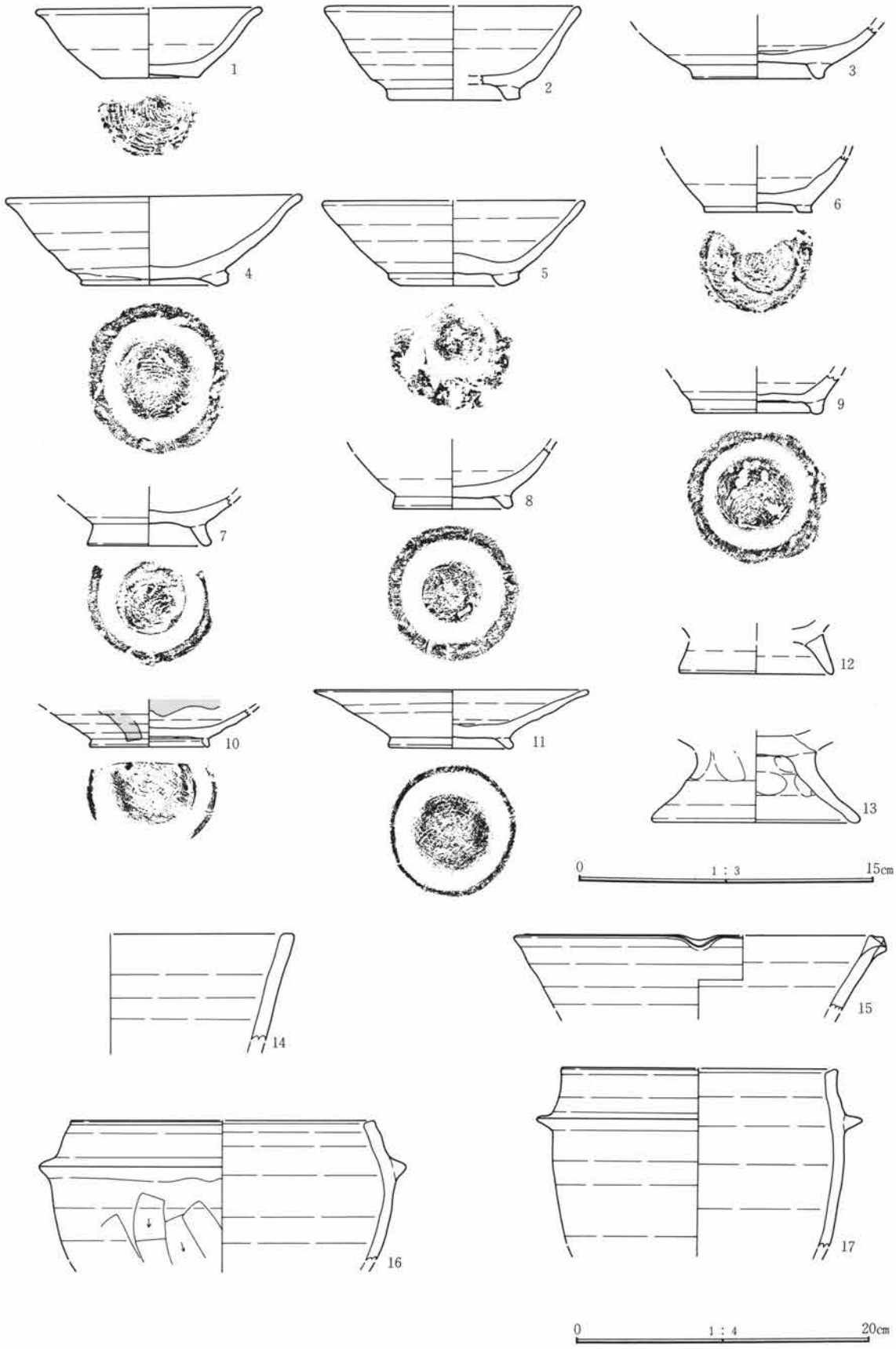


46図　19号住居跡

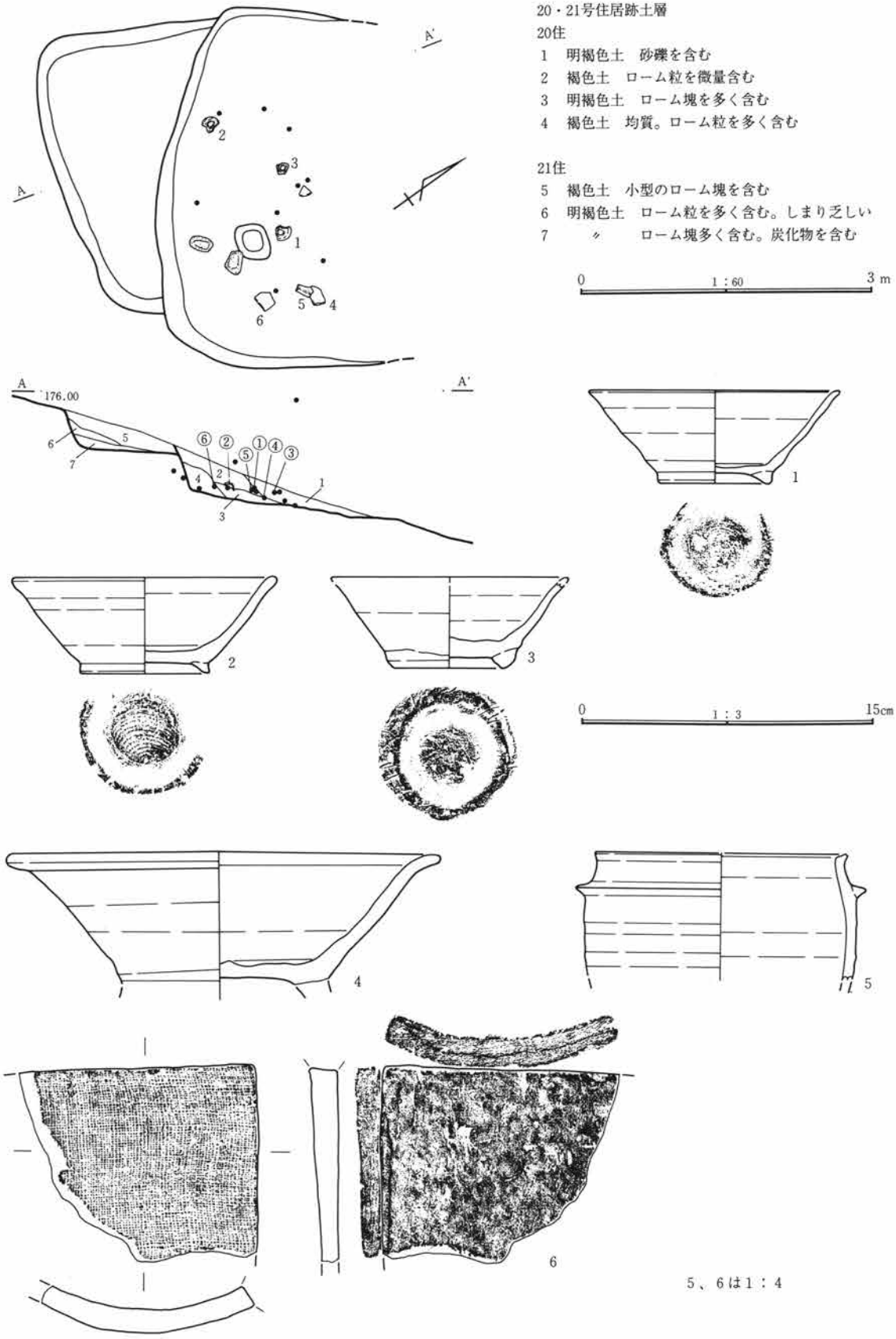
19号住居跡

18号住居跡の南西に重複して検出された。竈及び北壁を18住と北斜面のため逸失しており、明確な平面形や方位軸は判然としない。おそらく方形を平面形とし、竈は東壁あるいは北壁に設けられると考えられる。床面は、僅かな凹凸を持ち緩やかに北側へ傾く。黄褐色ローム層土の地床である。床面上には多くの小ピットが群在して確認されたが、柱穴や貯蔵穴として規則性・規模に方向性が見られるものが無く特定はできない。ただ、壁柱穴に類するものとして、P_1・P_2・P_7～P_9が挙げられよう。更に、P_3・P_4も大きさ・深さとも柱穴に値する規模ではある。竈は前述のように検出できなかった。

出土遺物は総破片点数315点を数え、17個体を実測した。全体的に散布する出土状況を見せ、覆土出土が多い。1は覆土出土。体部中位に僅かな丸みを持つ坏。2は床面中央の床直より出土の椀。高台貼付後の横撫では強い。器厚はやや厚手。3は大型の椀か。覆土出土。内底面が凹む。4、覆土上層出土。高台短く貼付痕明瞭。体部は大きく開く。口縁部に僅かな歪みあり。5、覆土。底面肥厚し、体部は薄手の器厚を呈す。高台端部に棒状の圧痕が顕著である。6～9は覆土出土の小振りの椀。6の高台剝落部分に回転糸切り痕が明瞭に残る。7の高台は長い。9、底部は薄手。10は灰釉陶器高台付皿。覆土出土。施釉は漬け掛け。11は高台付皿。外面は摩滅し体部器厚は薄い。床面北側で床直上より出土。12は椀の高台部分のみ残存。丁寧な仕上げである。13は土師器台付甕脚部。厚手でしっかりした作り。丁寧な横撫でが施され、接合部分及び内面には指頭圧痕が見られる。中央東側で床直のものと覆土上層が接合する。14、覆土出土。右回転轆轤整形の鉢口縁部破片である。15は片口鉢。片口部分は小さく、右回転轆轤整形後撫でによって作出される。覆土。16・17も覆土出土の羽釜。16、体部に篦削りが施される。



47図　19号住居跡出土遺物



48図　20・21住居跡・20号住居跡出土遺物

20・21号住居跡

調査区西端の西尾根に位置する。18・19号住居跡の東に近接し、急傾斜地形に占地する。２軒が重複した状態で検出され、新旧関係は土層の観察により20号住を新しく捉えた。両住居跡とも方形を基調とした平面形を呈すると思われるが、重複状況と北側への斜面のため住居跡の半分以上が逸失しており、明確な判断はできない。

20号住の床面は凹凸があり北側に傾斜するが、地形傾斜よりは緩やかであり平坦を意識している。21号住の床はほぼ平坦である。両住居跡とも地床であり貼床はなされていない。柱穴・貯蔵穴は確定できないが、20号住南東に小ピットが開けられており、柱穴としての可能性を指摘しておきたい。竈は両住居跡とも検出できなかった。

遺物は、20号住で17点の破片の出土を見た。21号住からは遺物の出土は無い。20号住の遺物は比較的床面から浮き上がって出土したものが多く、住居跡の帰属遺物として断定はできない。

１は覆土中位の出土の薄手の高台付椀。内面色調は黒褐色を呈する。２は南壁下で覆土中位より出土した高台付椀。轆轤整形後の撫でが丁寧である。３は中央やや南寄りで覆土中位より出土した高台付椀。口唇部が欠損する。高台貼付痕が明瞭である。４は中央南東よりの覆土下位より出土した大型の高台付鉢。高台部分は欠損する。口縁部は外反し、直線的な体部器形を呈し、底部・体部ともに器厚は薄い。右回転轆轤整形で、高台貼付時の横撫でが強く残る。内面の器壁の剝落著しい。５も中央南東寄りの覆土中位より。小型の羽釜口縁部破片である。口唇部端部が突出気味に外傾する。６も南東寄りの覆土中位より出土した平瓦である。

22号住居跡

調査区西端の西尾根区（Ｆ区）に位置する。黒熊中西遺跡調査区では17号住居跡と並び最も西端である。17～21住と同様に急傾斜地形に占地しているが、掘り込みが深く良好な遺存状態を示す。23号住居跡が東に近接するが単独の検出である。

平面形は、辺長４ｍ前後の正方形を呈し、深さは最深部で１ｍ30㎝以上を測る。ただし、北側の壁は傾斜のため逸失しており、床面と掘り方の壁を確認したにとどまる。

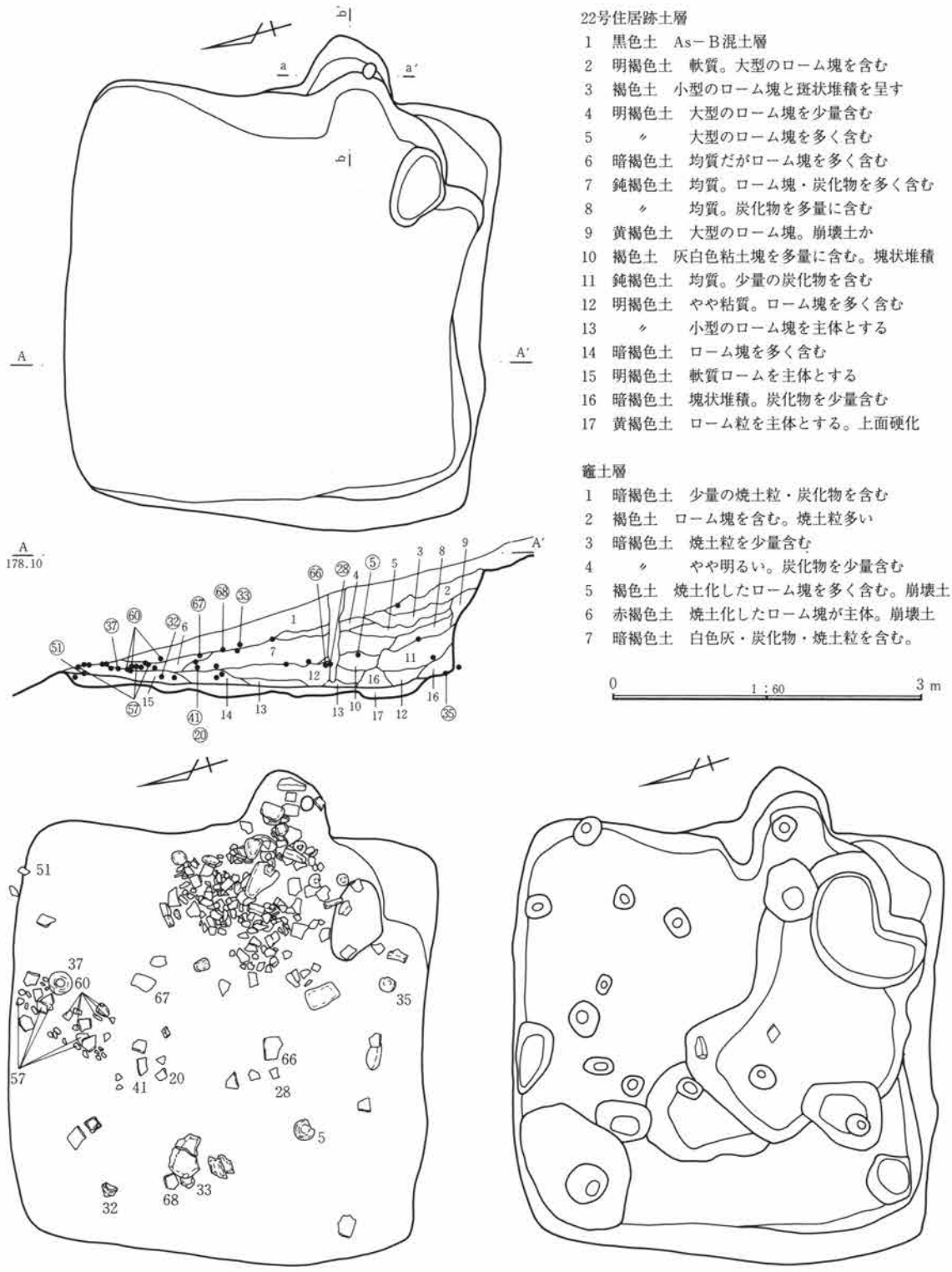
床面は、僅かな凹凸と傾斜が認められるが平坦面を築く。貼床も黄褐色ローム層土を基調として全面にわたって貼られており、硬化面も竈西側から中央を中心に広域に認められた。

柱穴は使用面では認められなかったが、掘り方調査で南西隅と北西隅に相当する小ピットを検出した。貯蔵穴は竈南西側に長円形の平面形を呈する土坑を充てたい。土坑内からの遺物の出土は無かった。

竈は東壁やや南寄りに馬蹄形状に設けられている。燃焼部は顕著な掘り込みを持たず、袖・構築材も確認できなかった。ただ、竈奥の自然石は壁及び竈掘り方に埋め込まれており、構築材としての可能性は高い。その他自然石は大型で火熱を受けたものが竈前庭部に集中しており、構築材として使用されていた自然石が遺棄された痕跡として捉えられよう。覆土下層には赤褐色を呈する崩壊土が堆積しており、住居跡廃時あるいは早い段階に竈を破壊したものと考えられる。

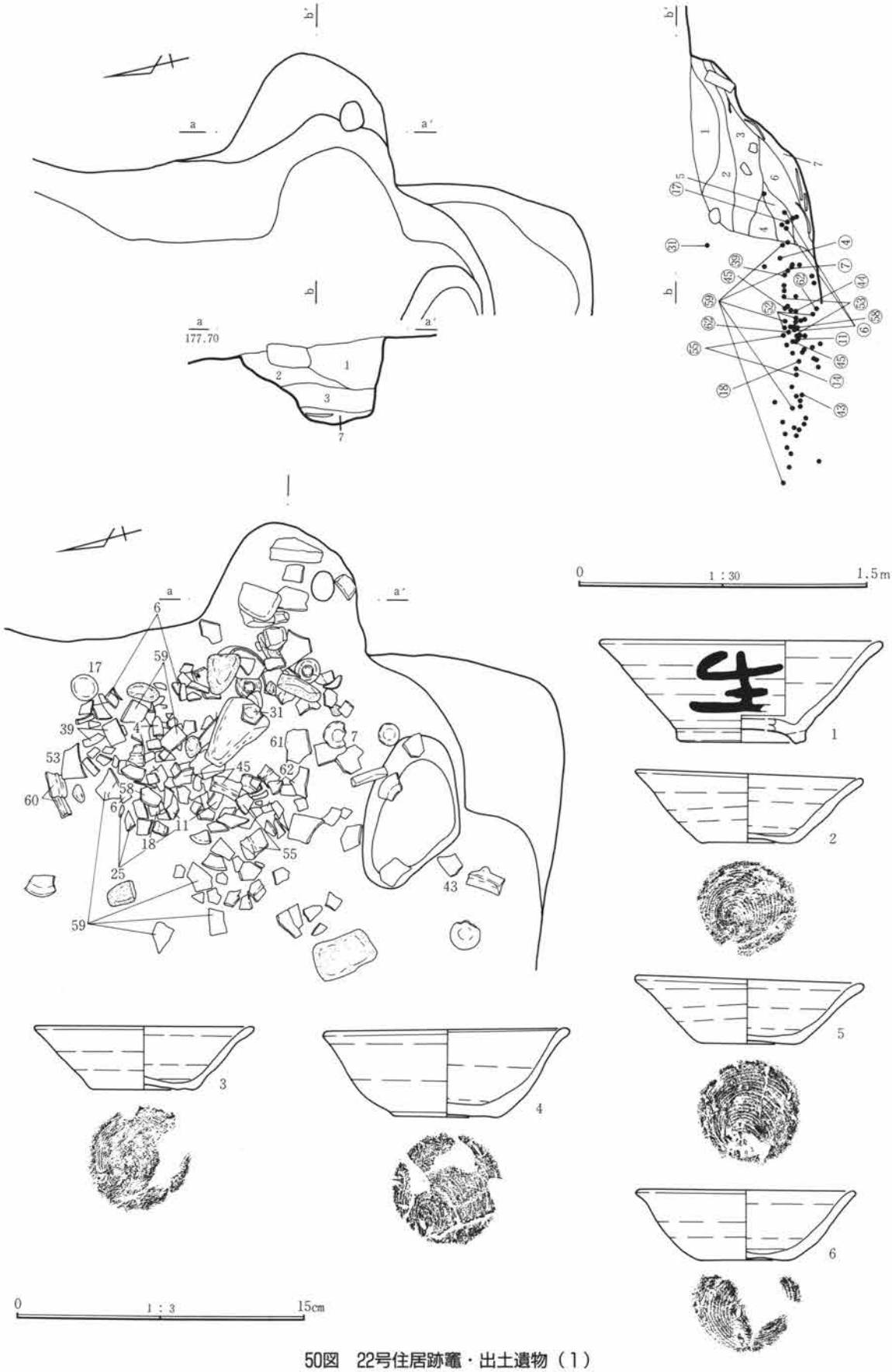
掘り方調査では多くの小ピットや土坑が床下遺構として検出された。前述の柱穴に相当するピットもこの段階で確認された。明確な床下遺構としては、竈前庭部より南側にかけて大型の土坑を中心にして数個土坑ピットが重複する。いずれも黄褐色土が埋土として確認されたが、性格は不明である。また竈の燃焼部奥でも小ピットが確認されたが、支脚の抜き取り穴として位置付けたい。

本住居跡の特徴の一つに、豊富な遺物量が挙げられよう。出土総破片数3428点で本遺跡の遺構中最大の出土



49図　22号住居跡

量である。ただし、器種組成としては坏・椀類と羽釜に偏りが見られ、皿・瓶・甕類は少ない。このことは、本住居跡出土遺物が日常什器や煮沸具を具現化したものではなく、何等かの理由で大量廃棄された遺物として捉えておくべきである。

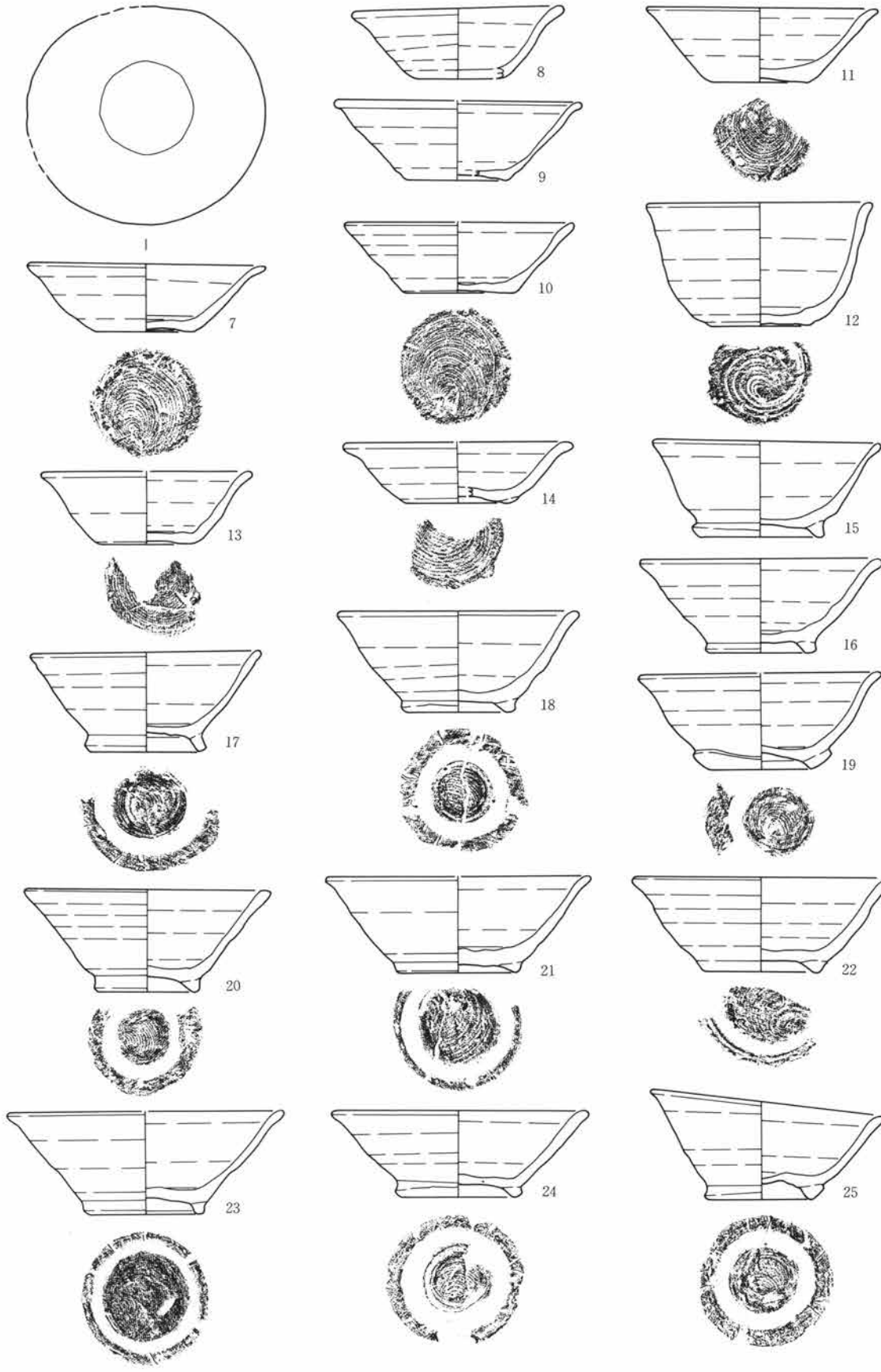


50図　22号住居跡竈・出土遺物（１）

出土状況を見ても、竈前庭部に集中する傾向が見られ、かつ同一レベルでは無くかなりの厚さを持って出土している。これは、使用した日常什器を遺棄した状態ではなく、住居外より短時間に廃棄した行為に近い。その他に、北側にも遺物のまとまった出土が見られたが、床直のものは無く、やや浮き上がった状態のものが多かった。

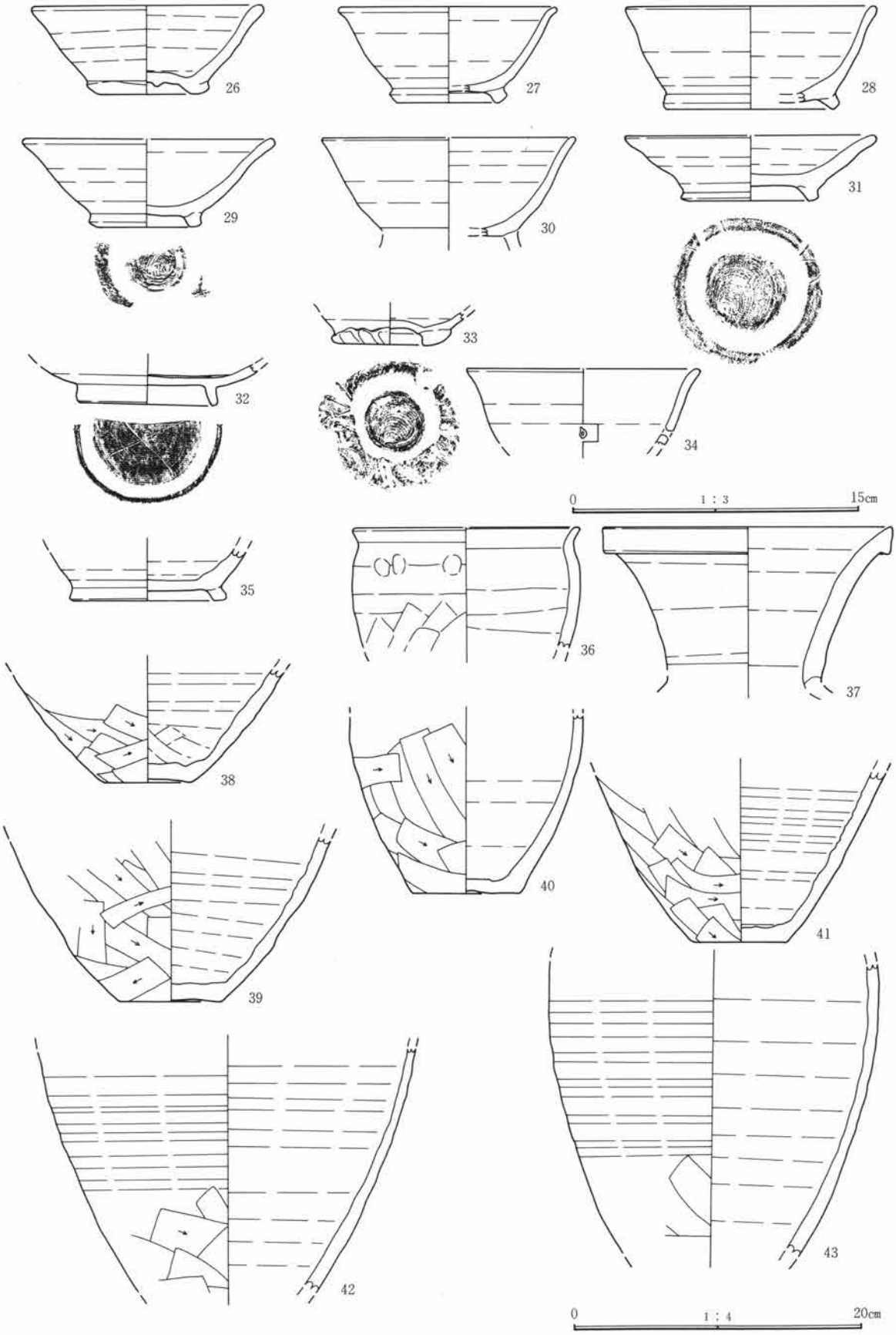
個々の遺物の色調に目を向けると、浅黄色や黄橙色を呈する個体が多い。おそらく酸化焔気味の焼成によるものであろうが、住居跡より同一の色調の土器がまとまって出土する傾向は他に類を見ない。さらに、これら黄色味の強い土器群の多くは器壁の剝落が著しく、坏・椀類には歪みが認められるものも多く、羽釜は火を受けた痕跡が少ない。また、口唇部などは摩耗しておらず、使用された土器とは言い難い。このことから、この黄色味あるいは橙色味の強い土器群は土器生産地（須恵器窯跡）からの失敗作流入とする仮説も成り立つのではないだろうか。

1は墨書土器、「生」であろう。高台は短めで直線的な体部器形を呈する椀。2・3は、やや浅めの坏。2の底部器厚は薄手。4は身深の坏。腰部に厚みを持つ。5は中央やや南西の覆土中位出土。口縁部に歪みがある。6、竈前庭部北で出土。底部器厚薄い。7は竈前庭部やや南出土で、口縁部に歪みがある。8は覆土上層出土。外面の轆轤目強く、口縁部歪む。底部のみ欠損。9も覆土上層。玉縁風の口唇部を呈し、腰部に緩やかな段を持つ。色調は灰色。10、覆土出土。外面の轆轤目強く、口縁部内面に浅い稜が見られる。11、竈前庭部出土。口唇部は尖り気味。12は無台の椀。覆土出土。13・14の口縁部は緩やかに外反する。13、竈上層。14、竈前庭部より出土。15は覆土出土の椀。高台貼付時の横撫で強く、腰部は彎曲気味。16、体部器厚やや厚手。体部轆轤目強い。底面に亀裂がある。17も体部轆轤目強く、高台貼付時の横撫でが体部中位にまで及ぶ。竈前庭部北出土。18、竈前庭部出土。体部下半に僅かな丸みを持つ。19、轆轤目強い。不安定な高台である。20、覆土中位より。体部上半の轆轤目強く、全体の歪み著しい。21、覆土出土。22、轆轤目強い。体部下半に僅かな丸みを持つ。23、覆土出土。体部器厚は薄手。24はやや身浅で体部器厚は厚手。25、竈前庭部出土。轆轤目強いが、口縁部・底部の歪みが著しい。26、厚手の椀。高台貼付後強い撫でを施す。高台は潰れている。内面に黒色斑あり。27、覆土出土の小型の椀。体部中位に僅かな丸み。28、底径比に特徴がある。覆土下位出土。29、覆土出土。轆轤目弱い。30、覆土出土。高台欠損。31、図示し得た唯一の皿。器厚は厚手。竈前庭部上層出土。32は灰釉陶器椀。底面に「×」の線刻あり。覆土下位出土。33は覆土中位出土。椀底部で高台部が歪み、棒状工具の当て目が残る。34、覆土出土。椀口縁部破片。体部中位に焼成前貫孔あり。35は貯蔵穴南西で床直出土の高台付甕底部。高台は丁寧な横撫でを施す。外面自然釉がかかる。36は酸化焔焼成の小型甕。轆轤整形後横撫でを施し、体部下半は篦削りを行う。内面横撫で。37は北側壁際で床直上出土の瓶。右回転轆轤整形で内面口縁部に少量の煤が付着する。38、竈前庭部上層。羽釜底部。轆轤整形で外面体部下半には篦削りが施され内面には篦撫でが見られる。39、竈前庭部下層出土の羽釜体部下半。右回転轆轤整形で不定方向の篦削り。40、瓶あるいは甕の体部下半。右回転轆轤整形後篦削り。41は覆土下位出土。轆轤整形後篦削り。内面轆轤目強く凹線状となる。42は羽釜体部のみの残存。外面轆轤目強く下半は篦削りを施す。43は羽釜あるいは瓶。竈前庭部下位出土で体部のみ残存。轆轤目強く篦削りも見られる。44～51、羽釜口縁部破片。45は竈前庭部より出土。口唇端部鋭い。46は鍔欠損。47、焼成時の歪みが著しい。48は鍔貼付時の横撫でが強い。50の口縁部は短く内傾する。右回転。51は体部が歪む。北東隅上層出土。52、口縁部は内傾し、体部上半の器厚はやや薄手。53、体部外面は縦位篦撫で後下半斜位篦削りを施す。竈前庭部出土。54も内傾する口縁部で器厚は薄い。55の鍔貼付時の横撫で強く口縁部器厚薄くなる。体部は篦削りを施す。竈前庭部出土。56は強く外傾する体部器形を呈す。轆轤目も強い。57は床面北側の覆土下位より出土。鍔下位に焼成前の補修が見られる。鍔は

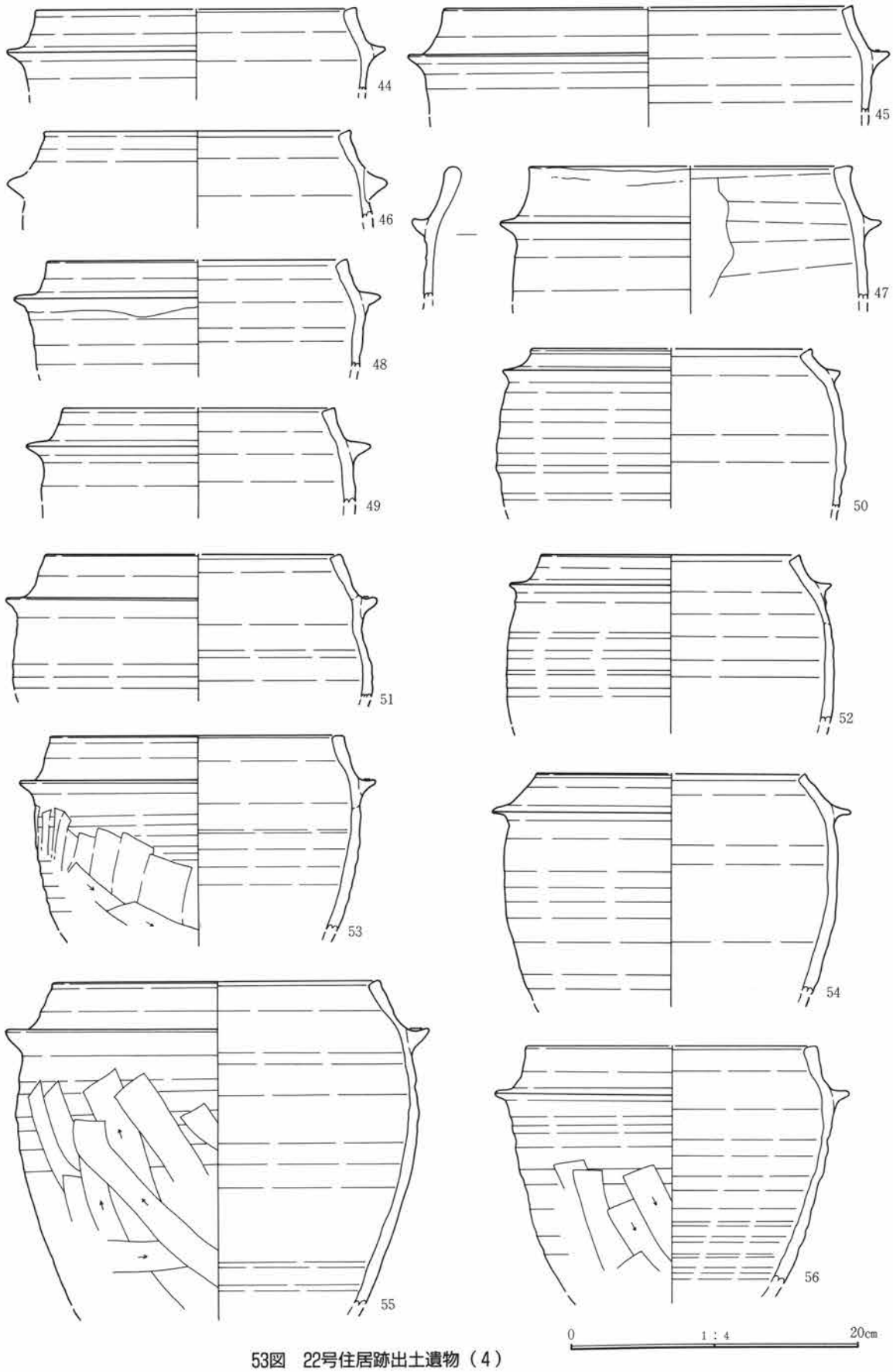


51図　22号住居跡出土遺物（２）

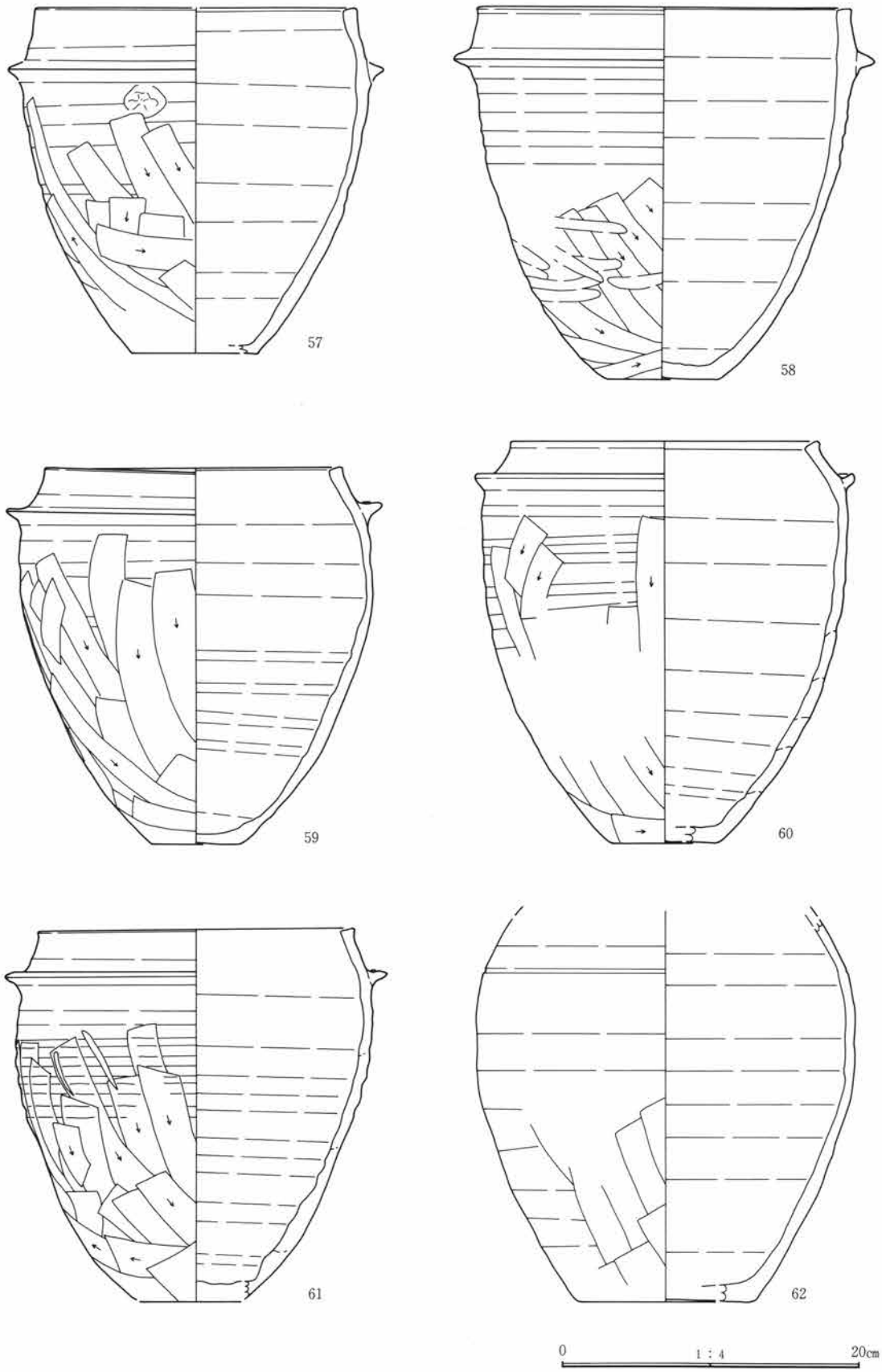
0　1：3　15cm



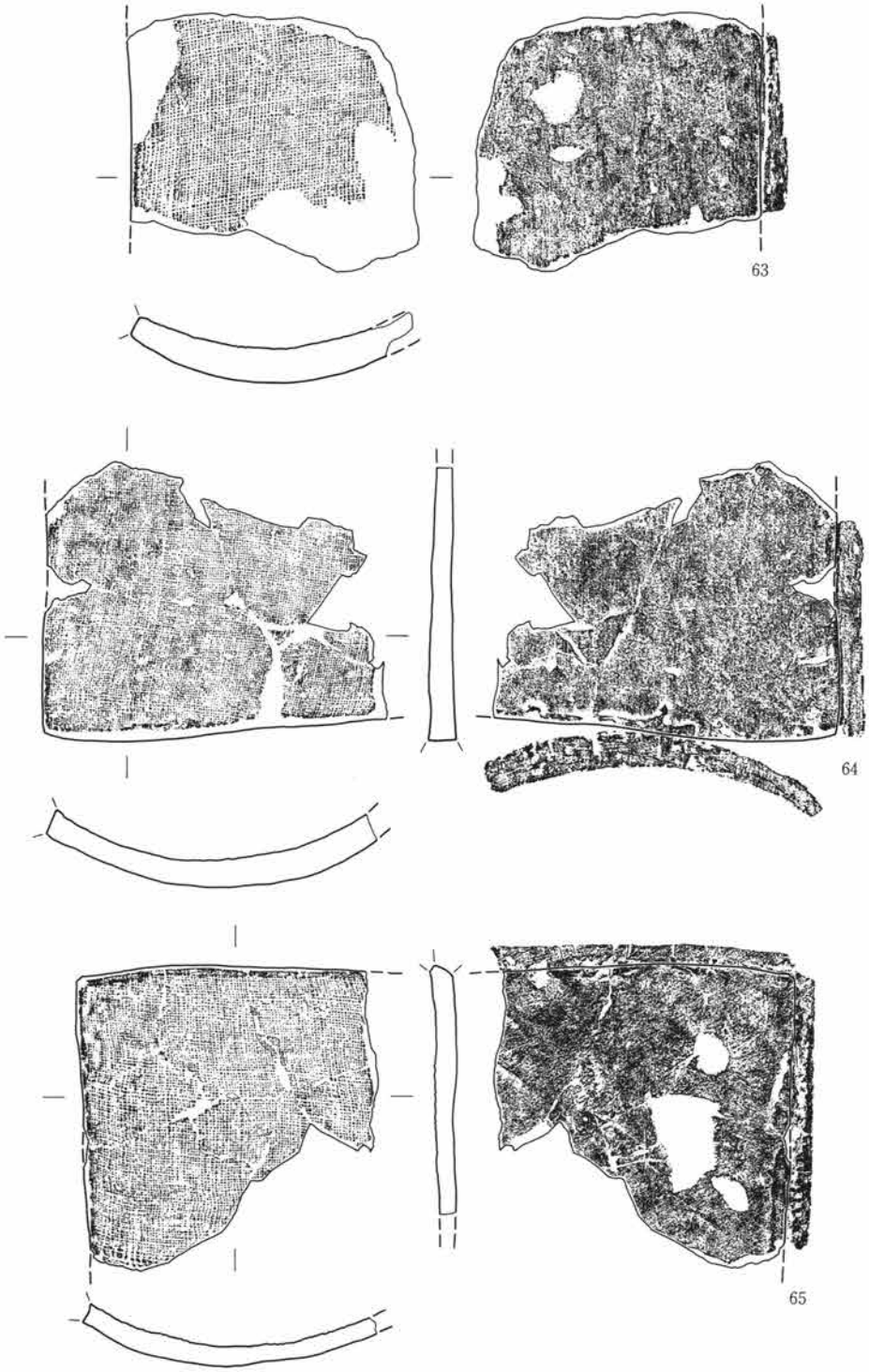
52図　22号住居跡出土遺物（3）



53図　22号住居跡出土遺物（４）

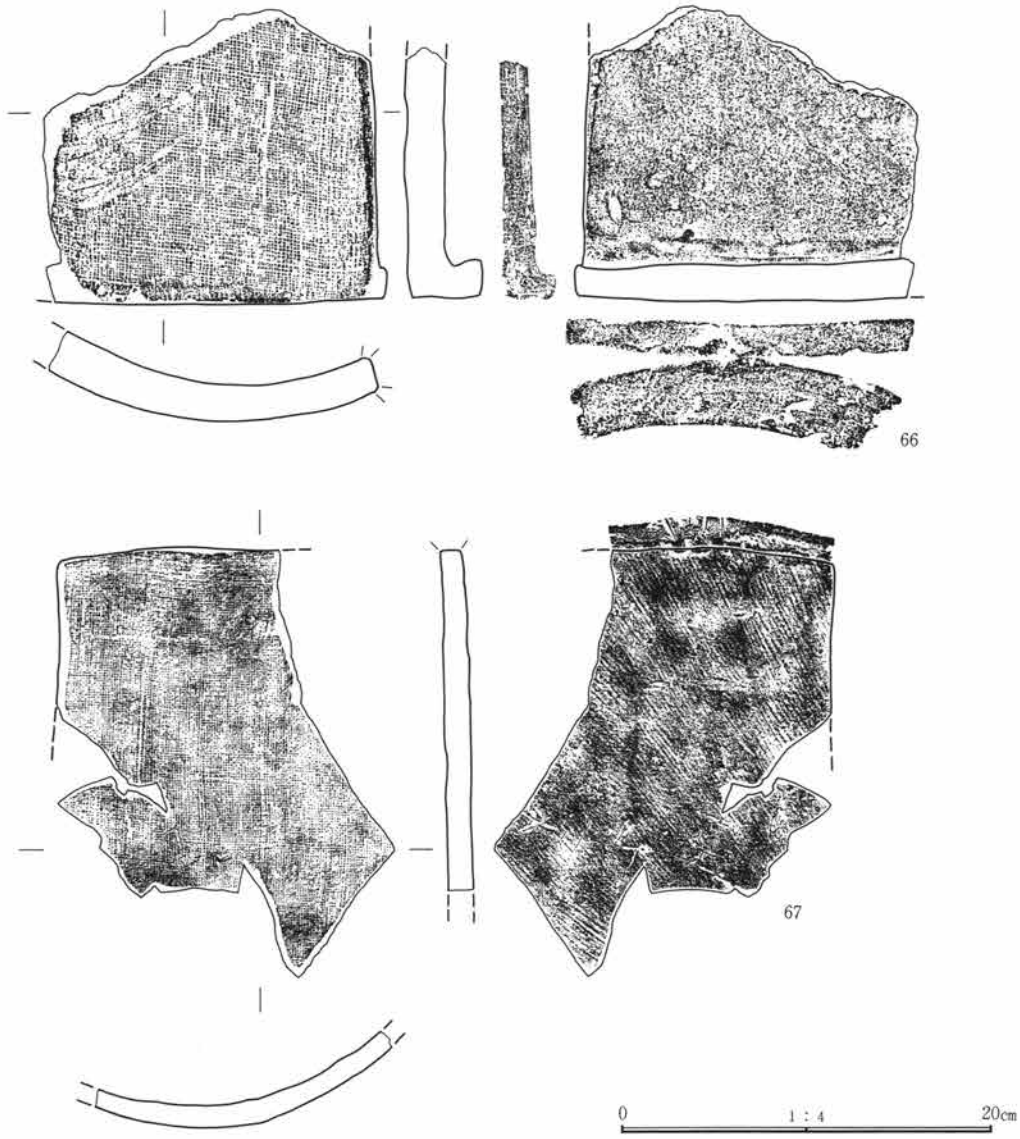


54図　22号住居跡出土遺物（5）



55図　22号住居跡出土遺物（６）　0　1：4　20cm

欠損する。58、器壁の剝落著しい。体部下半は箆削り後棒状工具による横位撫でが施される。59は竈前庭部出土。口縁部に歪みが見られ、底面も剝落がある。轆轤目強く、箆削りも顕著である。60、体部中位が大きく欠損する。床面北側覆土中位より出土。61、体部中位の轆轤目強い。体部は箆削り後下位は横位箆撫でを施す。62は瓶体部。竈前庭部出土。体部上半に膨らみを持ち、下半に箆削りが施される。あるいは37の口縁部と同一

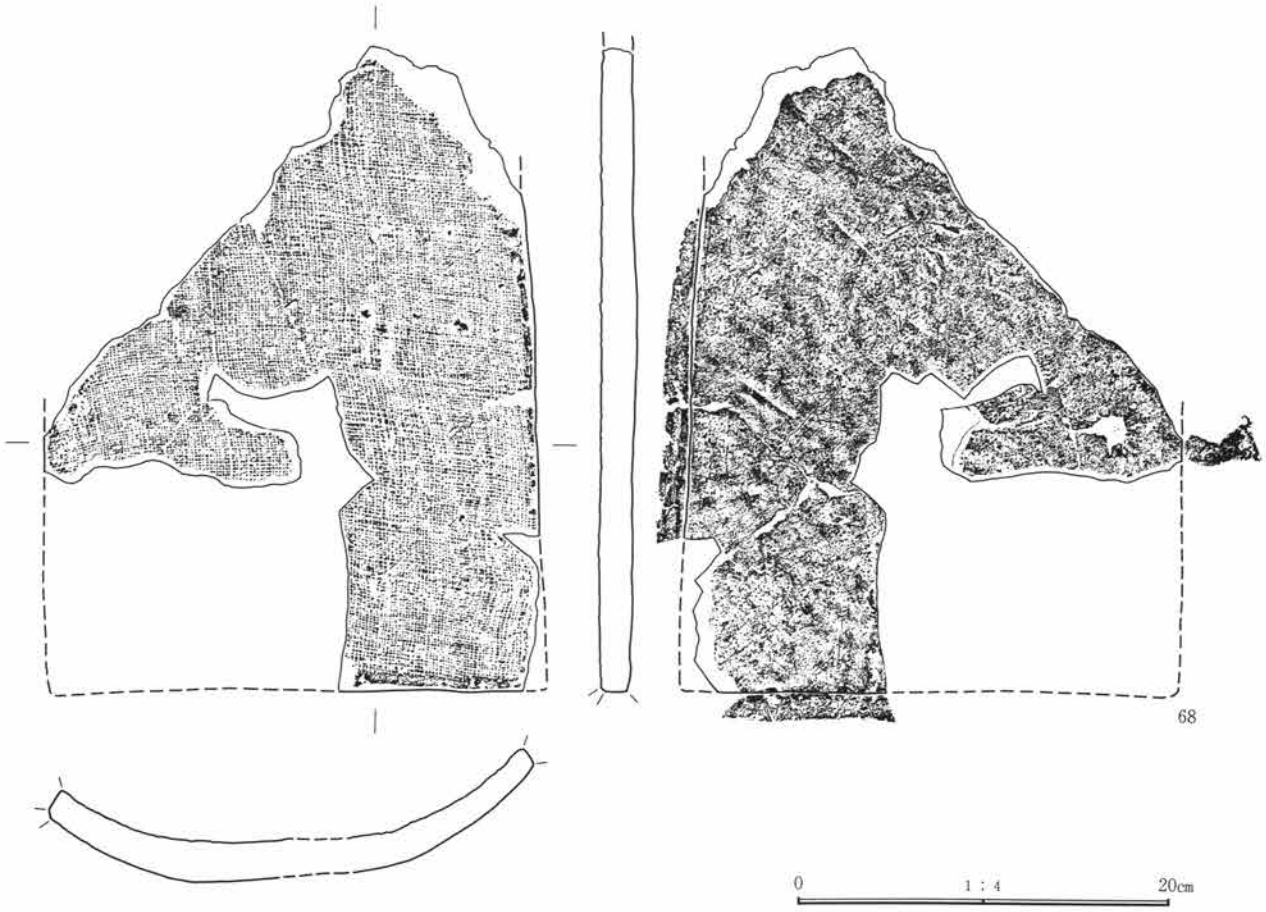


56図　22号住居跡出土遺物（7）

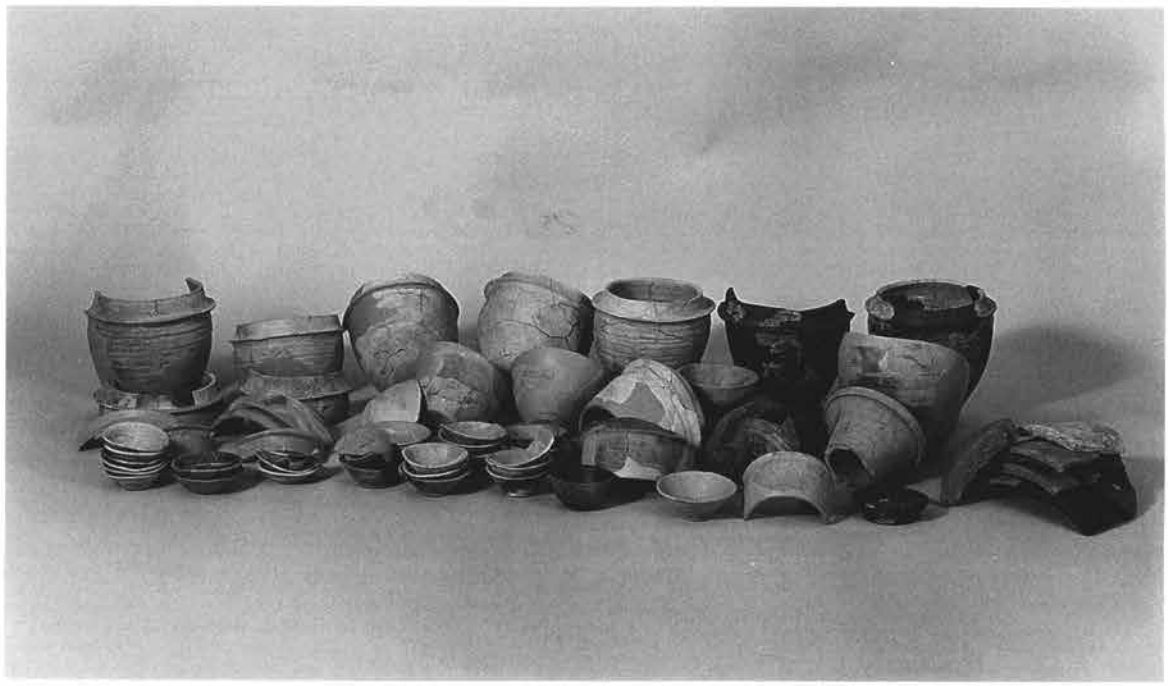
個体か。63～65は平瓦である。いずれも覆土出土。66の軒平瓦は床面中央覆土中位より、67の平瓦は中央やや北で上層より。68は西寄りで上層から出土している。

以上のように、22号住居跡の出土遺物は他の住居跡出土遺物と比して多量であり、かつ一括性に富むものである。前述のように、住居の什器としてのセットではなく一括廃棄に伴う同時性の強い出土遺物である。問題点としては、住居の居住期間と廃棄時期の差を明らかにしなければならず、この差を明確にする遺物を抽出することはできない。一概にこの一括性で、土器群の序列や住居跡の時期決定は行えないが、ただ、一括廃棄された黄色味の強い土器が床面直上より出土していることからも、住居跡廃絶後時間を置かずにこれらの多量の遺物が投げ込まれた様相は見られる。

また、本住居跡の他にも、黄色味の強い土器が出土した住居跡（73号住居跡など）がある。このことからも、本遺跡の近隣に生産地やそれに付随する遺跡が存在した蓋然性を指摘しておきたい。さらに、本住居跡と同様に2号集積なども遺物出土が多量である。他の遺跡でも、遺物を多量に出土する遺構が見られ、その性格・配置などを検討しなければならない。本住居跡の出土状態も併せて、今後の課題としておきたい。

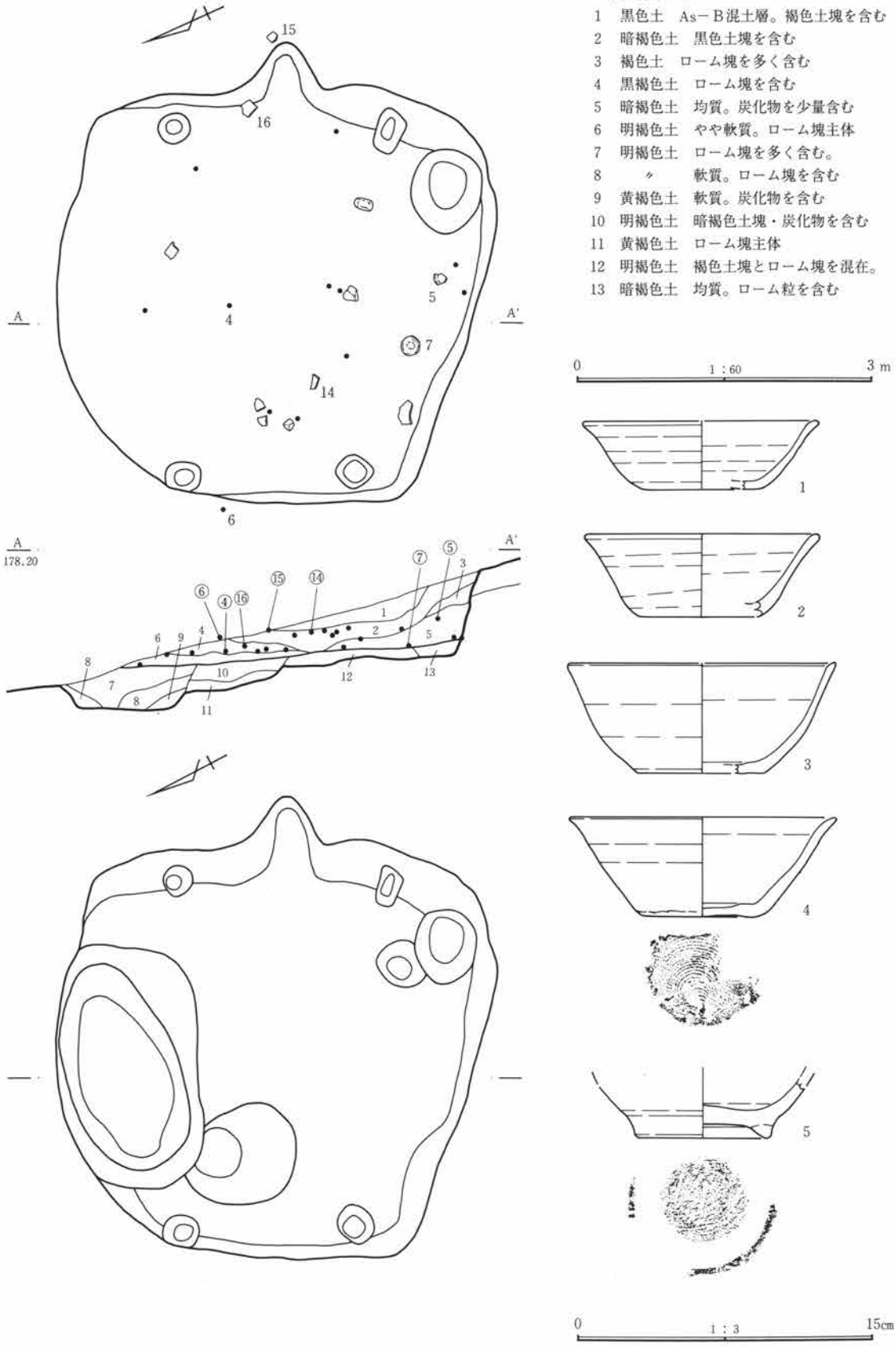


57図　22号住居跡出土遺物（８）

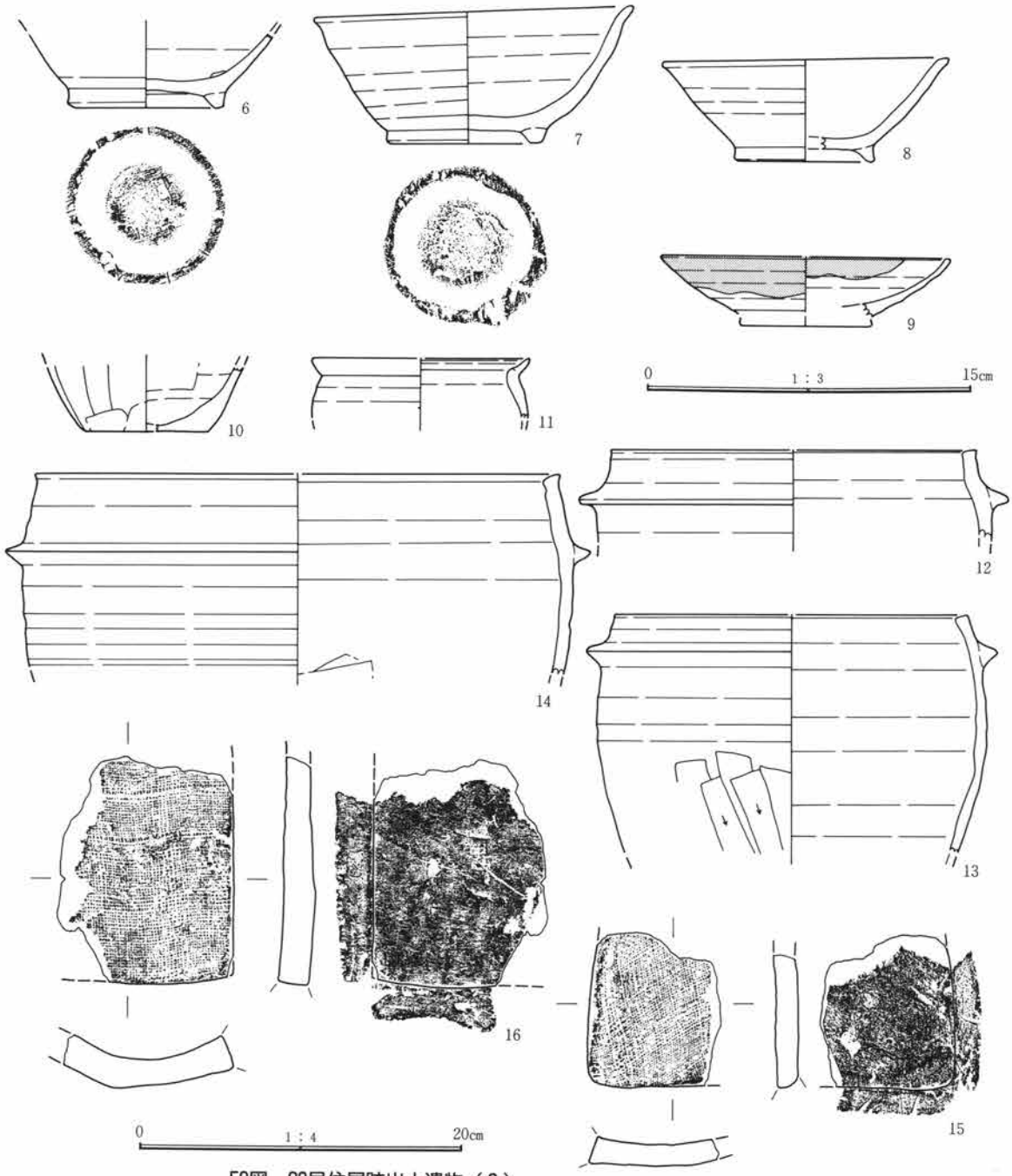


23号住居跡土層

1　黒色土　As－B混土層。褐色土塊を含む
2　暗褐色土　黒色土塊を含む
3　褐色土　ローム塊を多く含む
4　黒褐色土　ローム塊を含む
5　暗褐色土　均質。炭化物を少量含む
6　明褐色土　やや軟質。ローム塊主体
7　明褐色土　ローム塊を多く含む。
8　〃　軟質。ローム塊を含む
9　黄褐色土　軟質。炭化物を含む
10　明褐色土　暗褐色土塊・炭化物を含む
11　黄褐色土　ローム塊主体
12　明褐色土　褐色土塊とローム塊を混在。
13　暗褐色土　均質。ローム粒を含む



58図　23号住居跡・出土遺物（1）



59図　23号住居跡出土遺物（２）

23号住居跡

調査区西端の西尾根区（Ｆ区）に位置する。22住と50号住の間にあり両住居跡と長軸方位を同様にする。また、北に18・19号住居跡があるが距離を置く。本住居跡の東南には７号テラス状遺構が接するが、両者の新旧関係は判然としない。

平面形は、ややいびつな正方形を呈し、最深部で約100㎝を測る。ただし北側は斜面のため使用面調査の段階では判然とせず、掘り方調査で北東・北西隅を検出したため規模が把握できた。

床面は平坦面を築く。黄褐色土による貼床が全面になされており、中央部分が硬化面として顕著であるがその範囲は狭い。

柱穴は東壁際と西壁際に２基ずつ検出した。浅い小ピットだが配置から柱穴として特定した。貯蔵穴は南東隅の浅い土坑を充てたい。

竈は東壁ほぼ中央で検出されたが、調査の不手際により土層の観察などが果せなかった。前庭部の掘り込みはなく、袖も検出されなかった。燃焼部の灰・炭化物・焼土粒も極少量で、遺物の出土も細片で図示し得なかった。

床下遺構として、貯蔵穴北の小ピットと北壁際に大型の土壙が検出された。大形土坑は重複しており、新旧２回の設置が窺われる。

遺物は、竈内及び周辺の出土が顕著ではないためか総破片数259点とやや少なく、覆土中のものが多かった。１～３は覆土出土の坏。１の底部は歪む。２は口縁部に歪みが見られる。３は薄手で比較的身深。口唇部端部は鋭い。４は住居跡中央の覆土中位出土。薄手の器厚を呈す。底部円柱作りの痕跡顕著。５の高台付椀は南壁寄りで覆土中位出土。やや厚手。６は西壁外。重ね焼きの粘土粒が内底面に付着する。７は南壁際で床直より出土。口縁部僅かに外反し身深。高台部分に棒状工具の当て目が残る。８は覆土。内面に器壁剝落あり。９は覆土。灰釉陶器高台付皿。内底面は滑沢で、あるいは転用硯の可能性もある。10は覆土。土師器甕底部。篦削り後撫でが施される。11は覆土。轆轤整形の甕。口縁部形態に特徴がある。酸化焔焼成。12・13、覆土出土の羽釜。轆轤整形で13の体部下半には篦削りを施す。14は中央西寄りで覆土上位出土。体部内面下位に篦撫で。15は竈外より、16は竈南で覆土下位出土の平瓦。

25号住居跡

調査区中央の中尾根区に位置し、４号・26号住居跡と重複する。周辺は比較的平坦な地形を呈し、そのためか遺構の密度も比較的高い。４号住調査後新たに南側で検出された住居跡で、重複関係は４号・26号住を切る。また、３号住とも西側で接するが新旧は判然としない。

平面形は約3.9×３ｍのやや縦長の方形を呈し、壁高は約52㎝を測る。床面はほぼ平坦で黄褐色土の貼床がなされていた。貼床は北側の一部には及んでおらず、また硬化面も顕著ではなかった。柱穴・貯蔵穴は検出に努めたが確認できなかった。

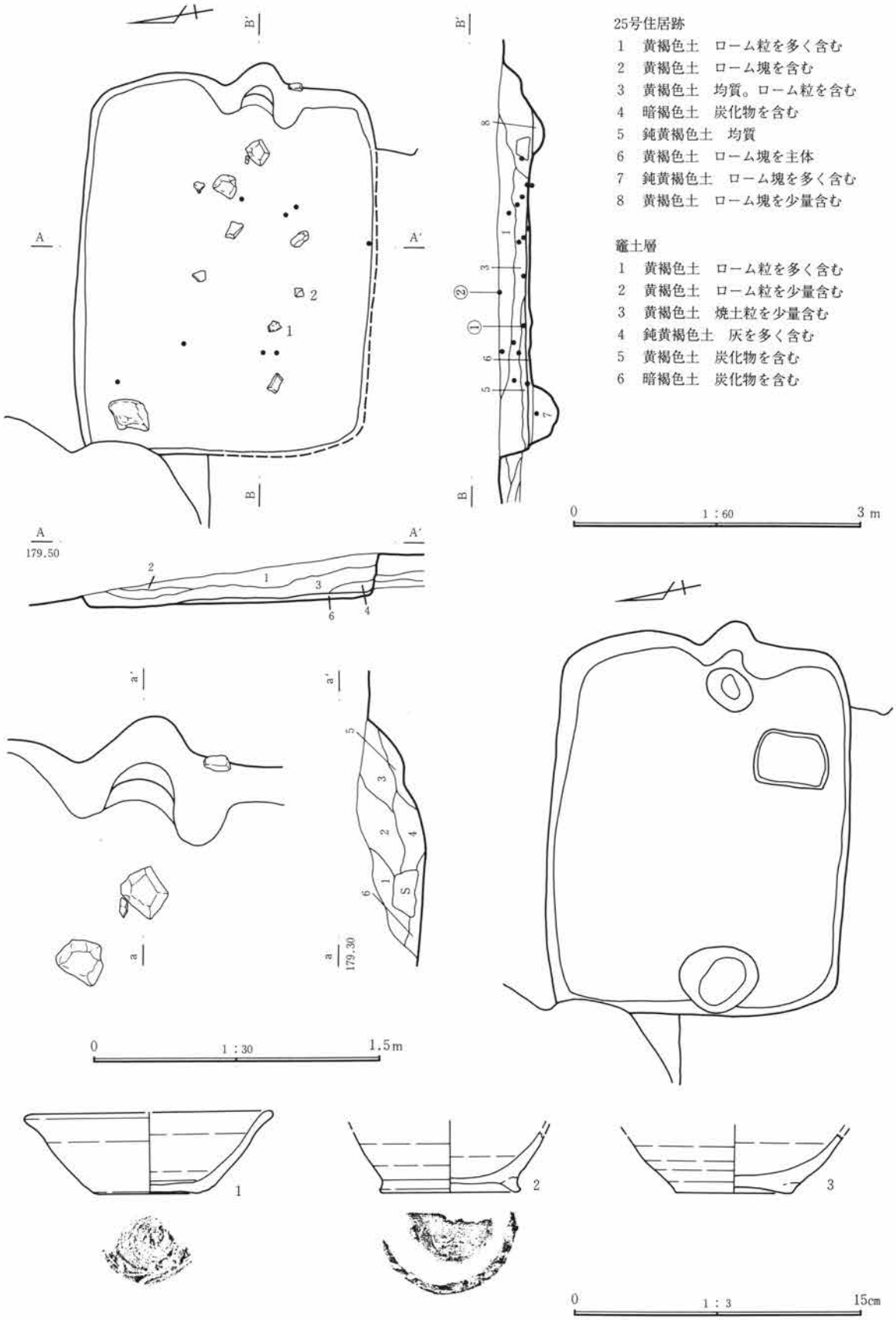
東壁中央には小型の竈が設けられる。袖は、構築材を使用した顕著なものではないが、燃焼部を囲み短く突出する。燃焼部は緩やかな段を持って立ち上がり、灰・炭化物が少量ながら堆積する。竈内からは遺物は出土せず、前庭部の大形の自然石は構築材として使用されたものが、散乱したものであろう。このことから、本住居跡の竈は破壊されたものと考えられよう。

床下遺構としては、竈掘り方において燃焼部に掘り込みが見られた。また、南壁東寄りに方形の土坑、西壁に不整形の土坑が検出された。いずれも用途・性格など明らかではない。

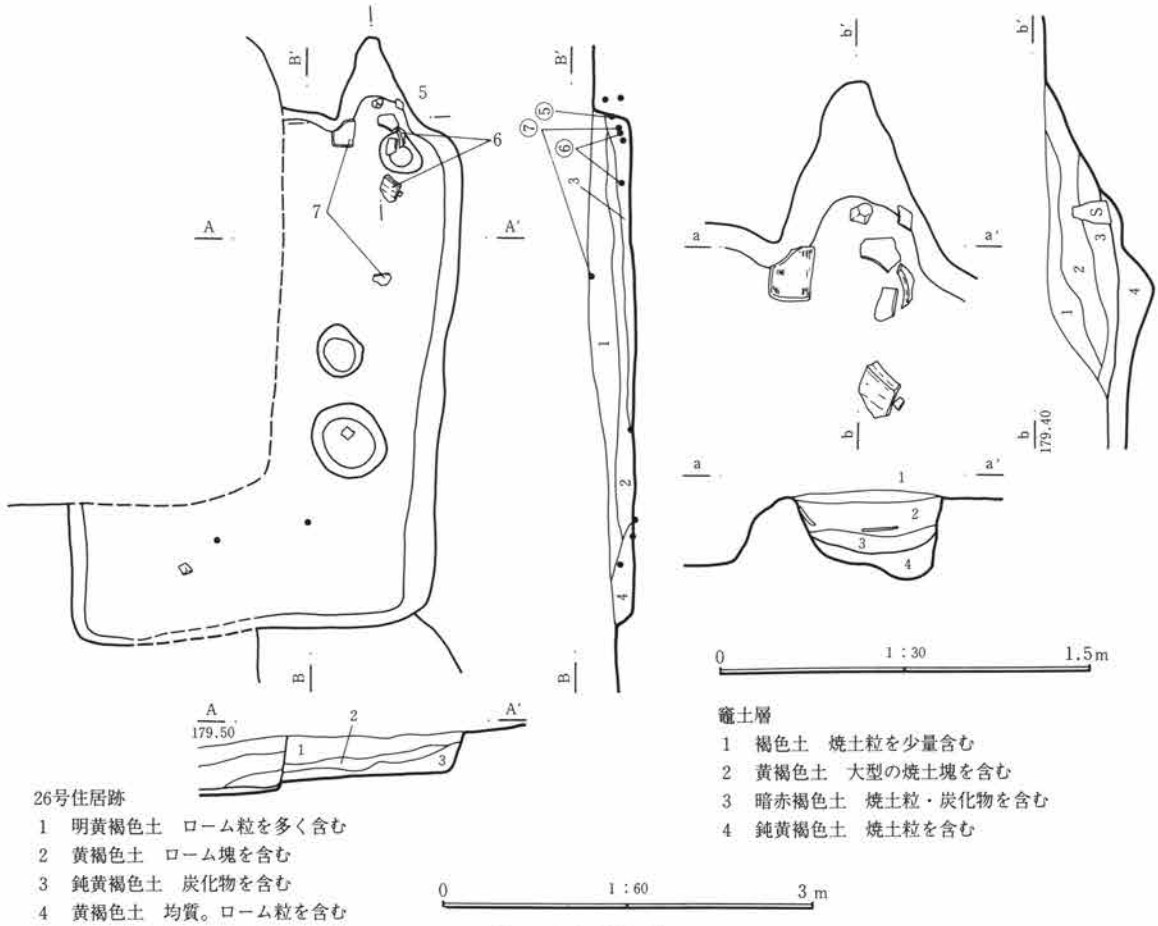
遺物は総破片数150点と少ない。図示し得た１の坏は中央南西寄りの床直上からの出土。口唇部が肥厚し体部に丸みを帯びる。２は覆土上層出土である。高台貼付時の横撫で強い。３は覆土。高台付椀で高台部分が著しく摩滅する。

26号住居跡

前述の25号住居跡と重複して検出された。長軸方位が25号住と一致し、そのため調査着手時は、１軒の住居跡として確認されていた。その後、本住居跡の竈と平面形の誤差を認識し２軒として分別でき、土層の観察により本住居跡を古く捉えた。



60図　25号住居跡・出土遺物



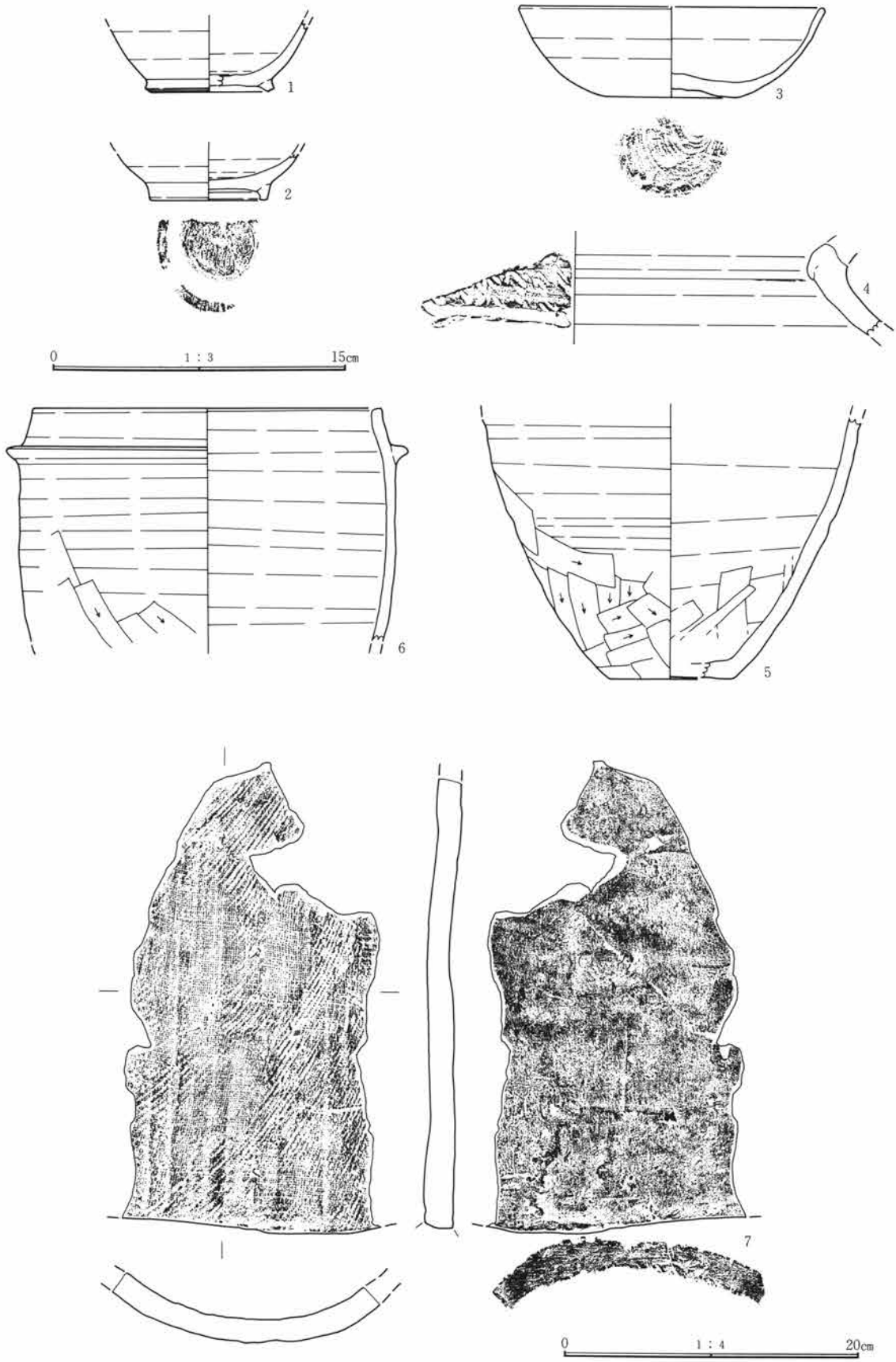
61図　26号住居跡

平面形は25住と同様の縦長の方形を呈し、深さはやや浅く約40cmを測る。床面は僅かな凹凸が見られるものの平坦面を築き、地山のロームを床としている。硬化面は顕著ではなかった。

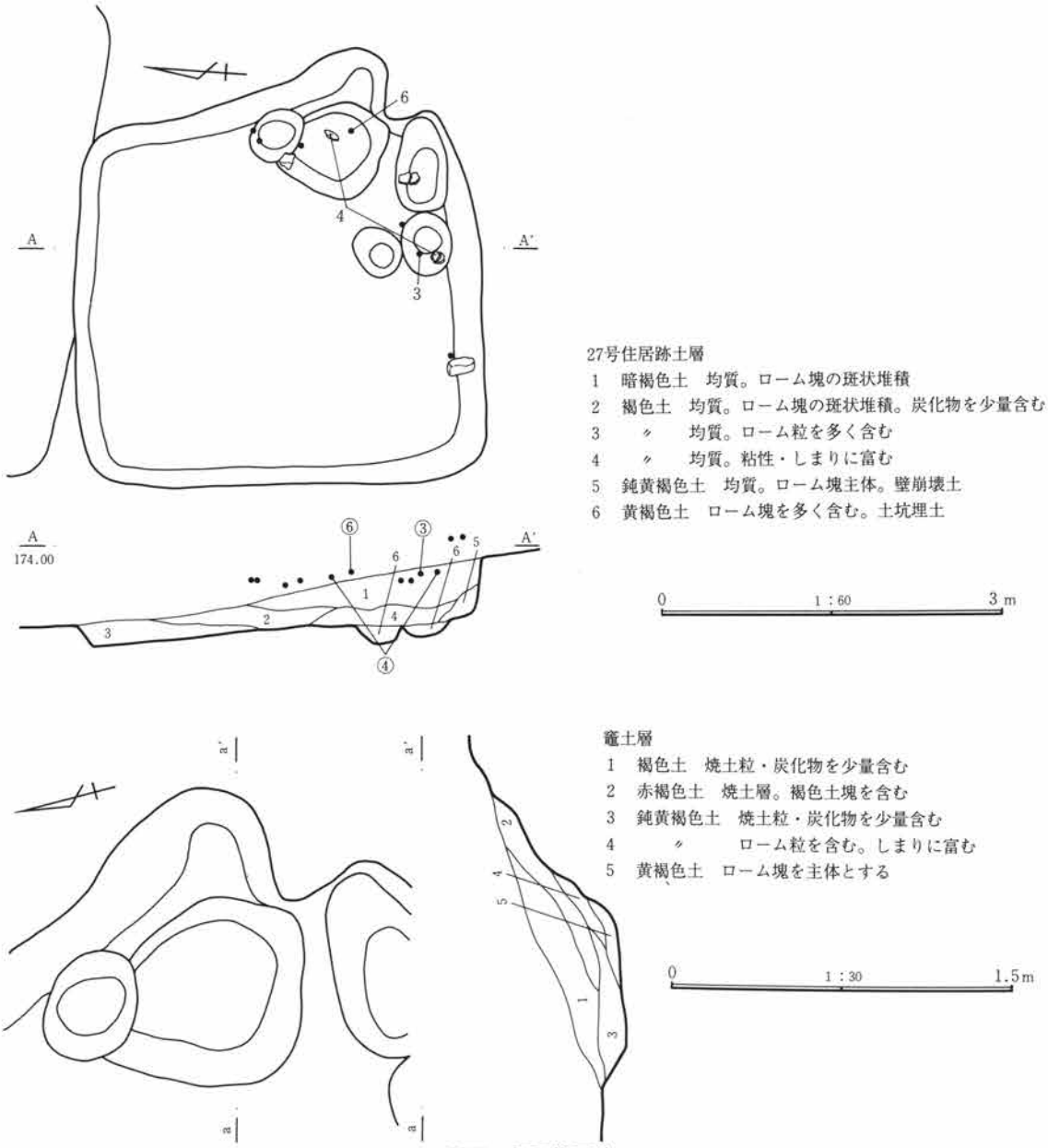
床面上からは3基のピット・土坑が検出されたが、柱穴として特定できるものはなく、僅かに竈西の小土坑を貯蔵穴として認定できたのみである。この貯蔵穴も、位置的に竈との使用に問題が残り、確定的な根拠持たない。

竈は東壁の南端で煙道を大きく突出して設けられる。袖は北側のものが短く突出し、南側は住居跡隅と融合する。北側の袖には瓦が構築材として使用され、対称の南側には、羽釜が立位で出土しており、これも構築材であろう。さらに燃焼部のやや奥には自然石が掘り方にかけて刺さるように出土した。支脚として位置付けられよう。尚、床下遺構は検出できなかった。

遺物は総破片点数144点が出土し7点を図示した。主に覆土中位、竈周辺にかけての出土である。1の椀は覆土。高台部分は鋭く薄手ながらしっかりした作り。2も覆土出土。3は大型の坏で体部に丸みを帯び、薄手の体部器厚を呈す。覆土出土。4の甕肩部も覆土。波状文3段を看取する。5、羽釜底部。轆轤整形で下半に篦削り。内面には篦撫でを施す。竈内出土。6・7は竈構築材と覆土中のものが接合した。6の羽釜口縁部は比較的短く、体部が直線的に落ちる。7の平瓦の凹面には篦状工具による剝ぎ取り痕及び分割線の圧痕が見られる。



62図　26号住居跡出土遺物



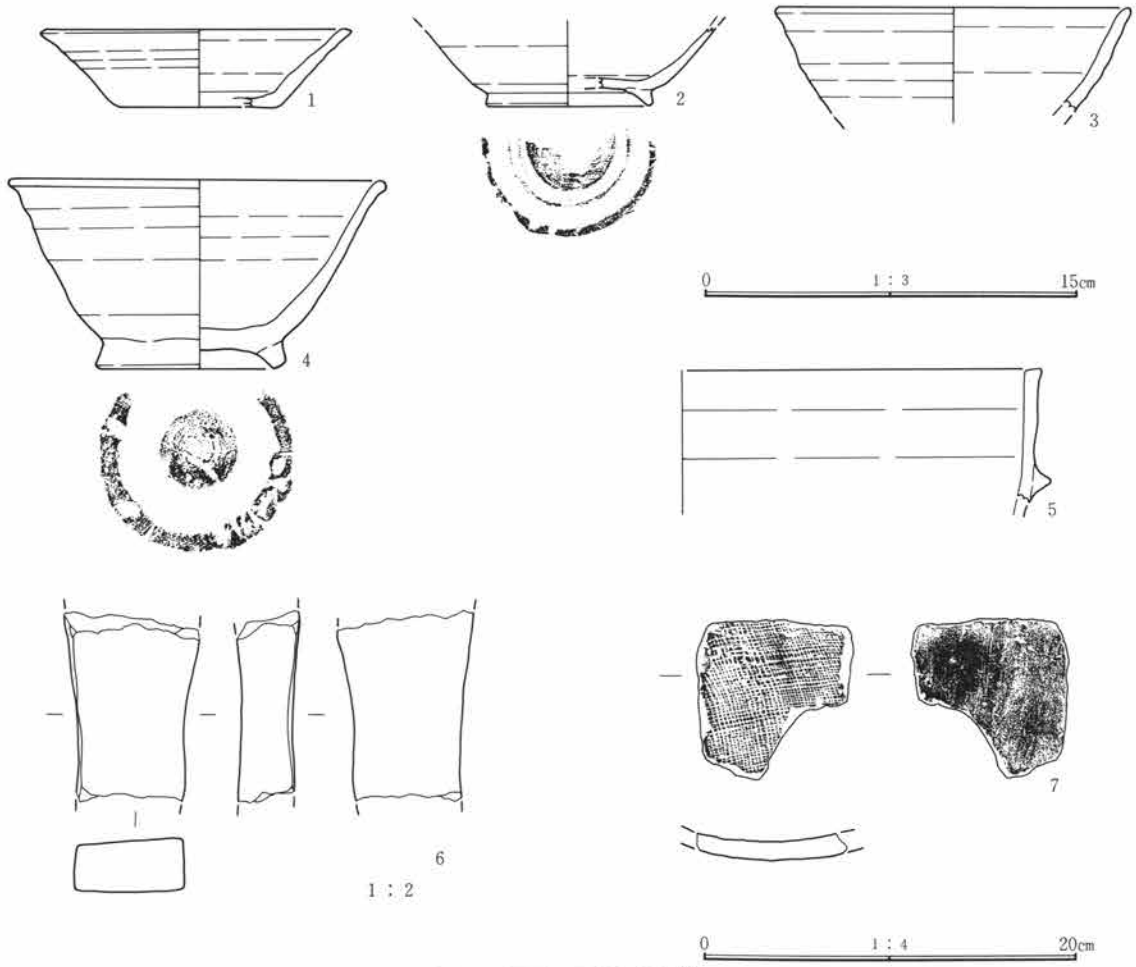
63図　27号住居跡

27号住居跡

中尾根西区（G区）の北寄りで、前述の6号住と重複して検出された。周辺の遺構密度は比較的低く、東に5号住が見られるだけである。にもかかわらず、6号住と重複する状況は不自然である。この重複は、6号住居住者と本住居跡の密接な関係として見いだすより、本住居跡北側に住居跡密集地点が存在する可能性として想起するべきであろう。

本住居跡平面形は6号住とはちがい、やや不整の正方形を呈し、長軸方位など6号住とは異なる様相を呈す。壁高は約70㎝と比較的遺存が良いものの、出土遺物量・竈などの要素は必ずしも良好とは言いがたい。

床面は僅かな凹凸をもち、北側へ緩やかに傾斜し地山ロームの地床である。柱穴は良好な配置は示さず、敢えて南側壁際の2個のピットを充てたが、確定的ではない。貯蔵穴は南東隅の楕円形の土坑である。



64図　27号住居跡出土遺物

竈は東壁の南寄りに設けられている。やや不整形の平面プランを呈し、燃焼部には掘り込みを持つ。顕著な袖・構築材は検出されなかったが、燃焼部の掘り込み北の小ピットは袖芯材の抜き取り穴の可能性を持つ。遺物は総破片数93片と少量である。１は厚手の坏。口縁部に僅かな歪みがあり、口唇部端部は鋭い。体部外面には火襷の痕跡が残る。覆土出土。２は高台付椀。比較的薄手で、小型の台を付す。覆土出土。３の椀口縁部は覆土上層出土。口縁部横撫でによりやや外反気味。４はほぼ完形の椀。口唇部は玉縁状で身深の体部を呈す。しっかりした高台端部には棒状工具の圧痕が残る。５は羽釜口縁部破片。歪みが著しく径を測りだせなかった。薄手の器厚。６は砥石。長軸方向の擦痕が見られる。７は平瓦破片。

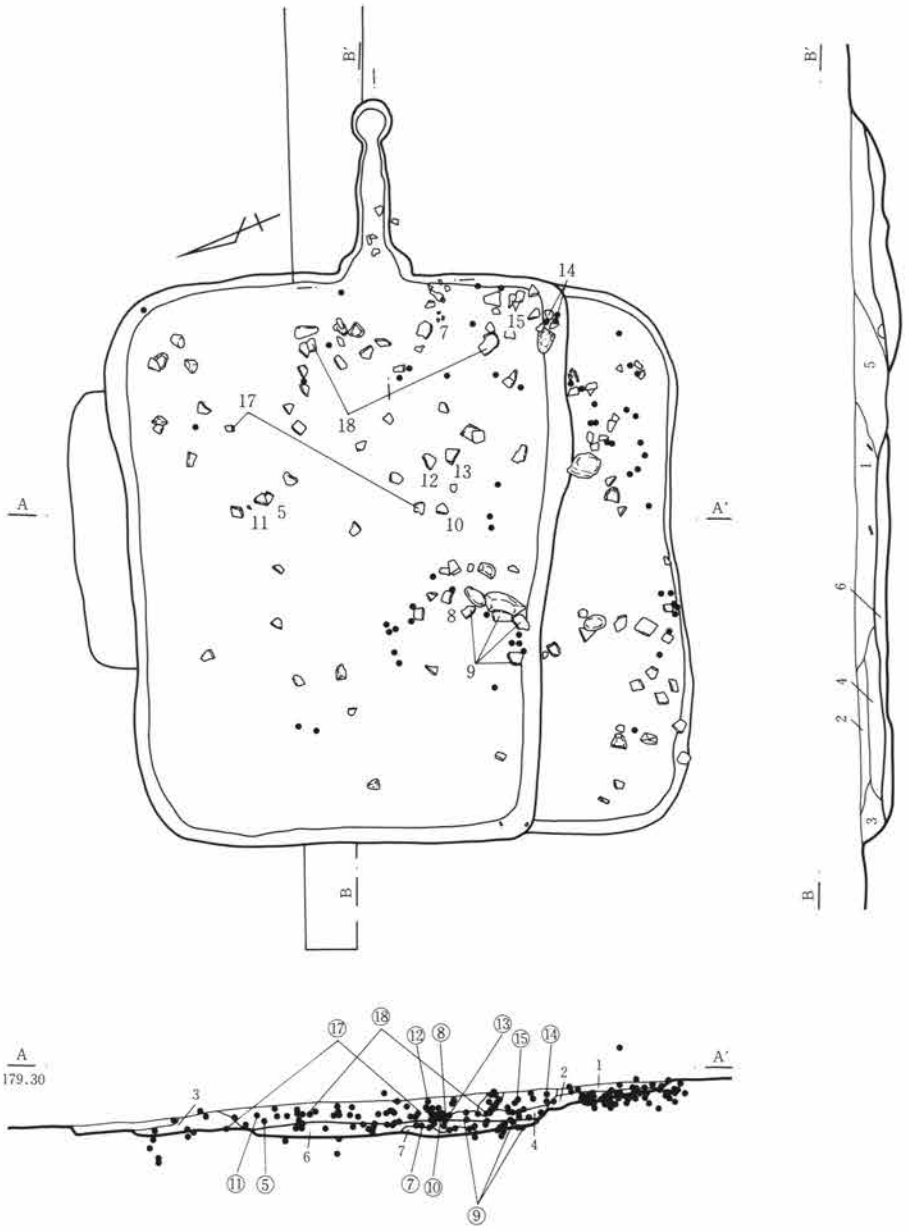
28・66号住居跡

調査区中央の中尾根東区（Ｇ区）に位置し、東に33号住居跡・49号住居跡・38号住居跡などが群在する。

調査当初は、28号住単独の平面形と捉えていたが、土層観察により28号住南に66号住を確認できた。両住居跡も主軸方位・規模を一致し、建替え・あるいは反復といった密接な居住関係が想起されよう。

新旧は28号住が66号住を切り、平面形・竈などの観察は28号住が優勢である。28号住はやや縦長の長方形を呈し、壁高約46㎝のやや浅い遺存度である。特に北側の壁の一部は近世の土坑と重複し、また北斜面のため遺存は悪いといえよう。66号住も長方形の平面形を呈すると思われる。

28号住床面は貼り床で黄褐色ロームと黒褐色土を基調とし、やや軟弱で凹凸も見られる。66号住は地床であ



28号住居跡土層

1　暗褐色土　均質。炭化物・焼土粒を少量含む
2　〃　やや明るく均質。1に近似
3　〃　均質。ローム粒を含む
4　明褐色土　均質。少量のローム塊を含む
5　〃　灰色粘土塊を少量含む
6　黄褐色土　やや暗い。黒褐色土塊を斑状に含む
7　鈍褐色土　ローム塊を主体とする

66号住居跡土層

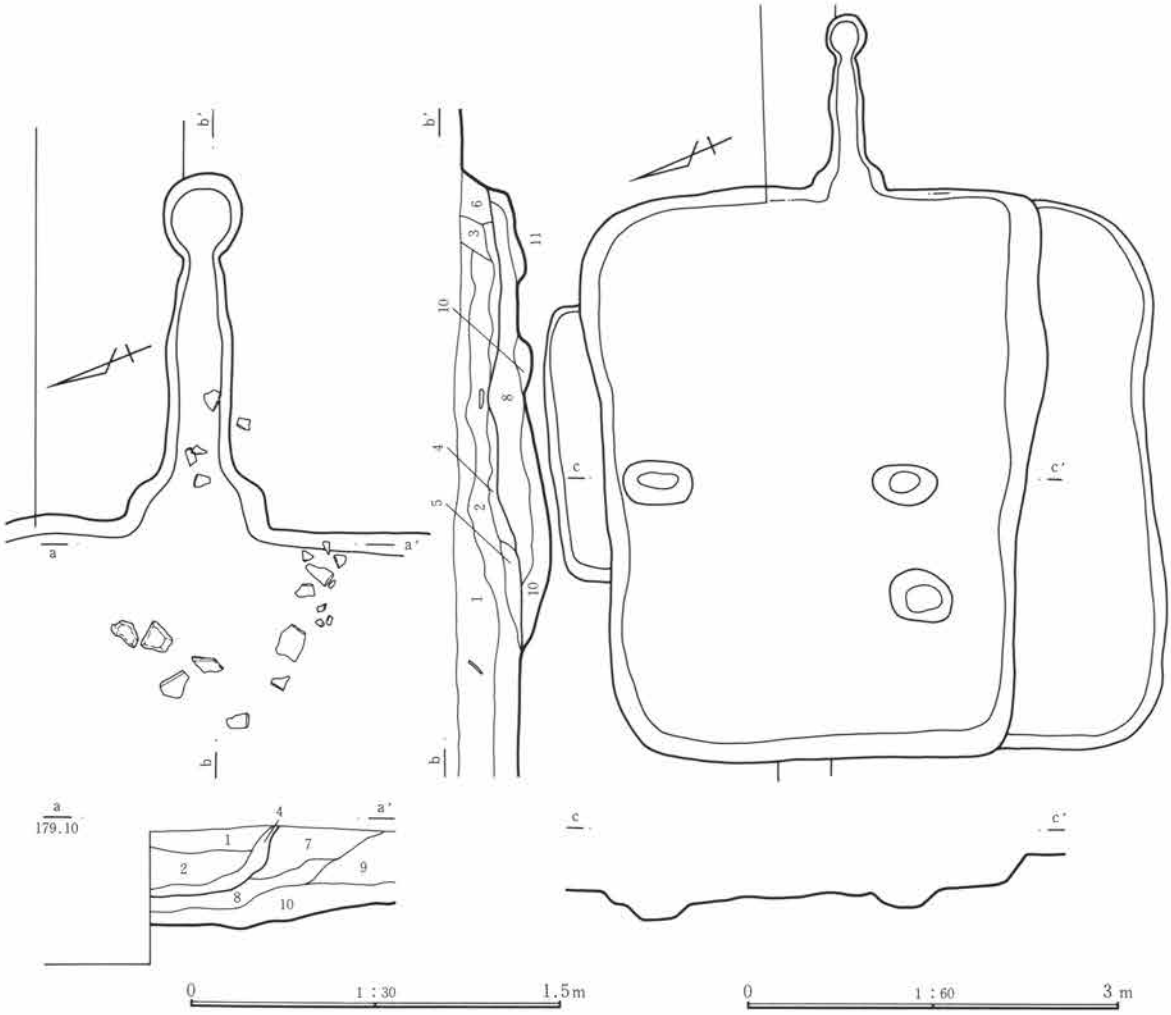
1　暗褐色土　明るい。炭化物・焼土粒を多く含む
2　明褐色土　大型のローム塊を多く含む

竈土層（28住）

1　暗褐色土　焼土粒少量含む。住居跡1層に類似
2　〃　焼土　粒・炭化物を多く含む
3　暗赤褐色土　焼土塊を主体とする。崩壊土か
4　〃　焼土粒・炭化物を多く含む
5　黒褐色土　黒色灰・焼土粒を多量に含む
6　暗褐色土　焼土塊・炭化物を含む。煙道
7　〃　焼土粒・炭化物を含む
8　暗赤褐色土　焼土粒含む。掘り方埋土
9　暗褐色土　褐色土塊の斑状堆積
10　〃　ローム塊を少量含む
11　〃　ローム粒・焼土粒を少量含む

0　1：60　3 m

65図　28・66号住居跡（1）



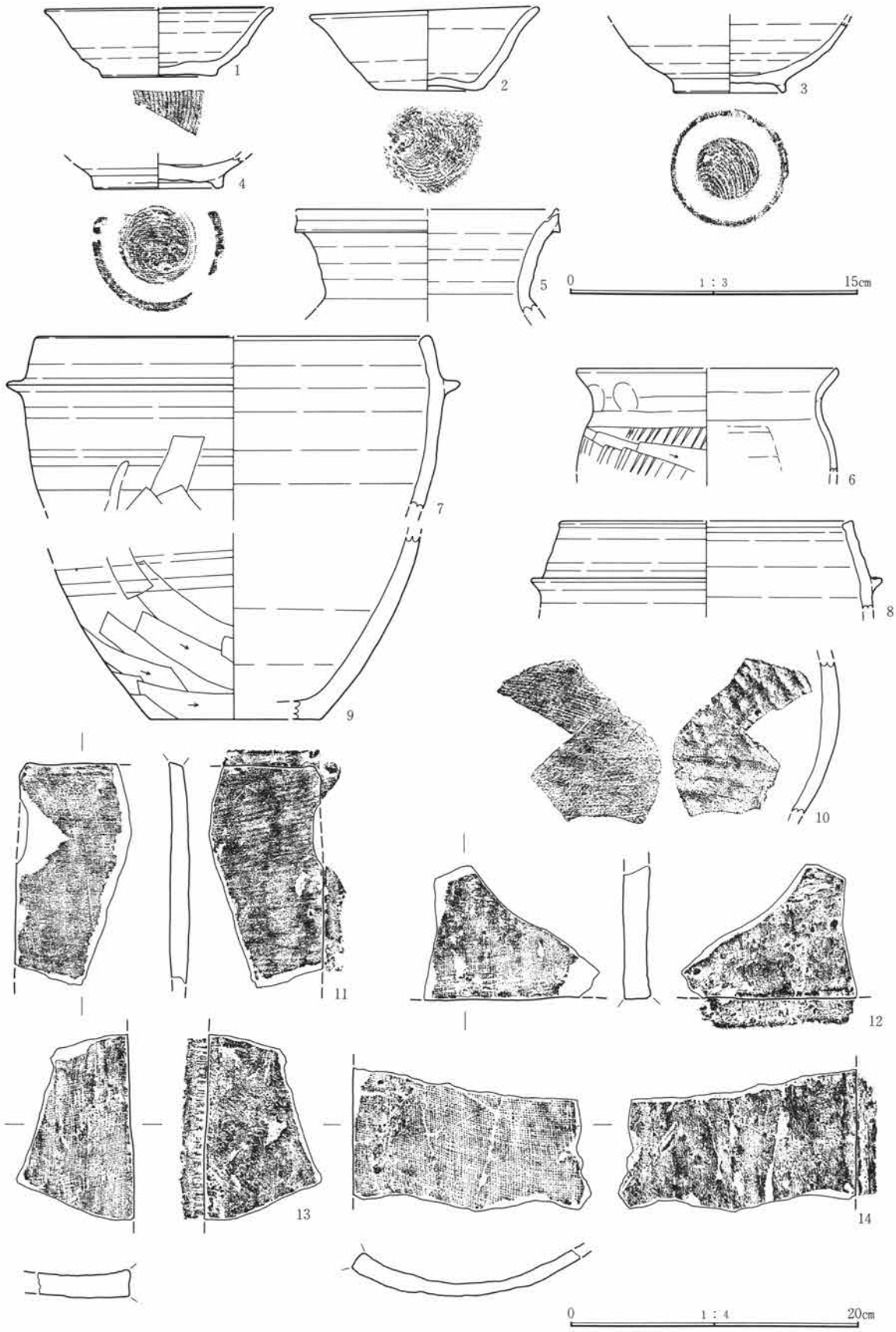
66図　28・66号住居跡（２）

る。柱穴は掘り方調査において、南壁際と北壁際に楕円状の小ピットを検出した。対になるピットであり柱穴として捉えたい。貯蔵穴は検出できなかった。

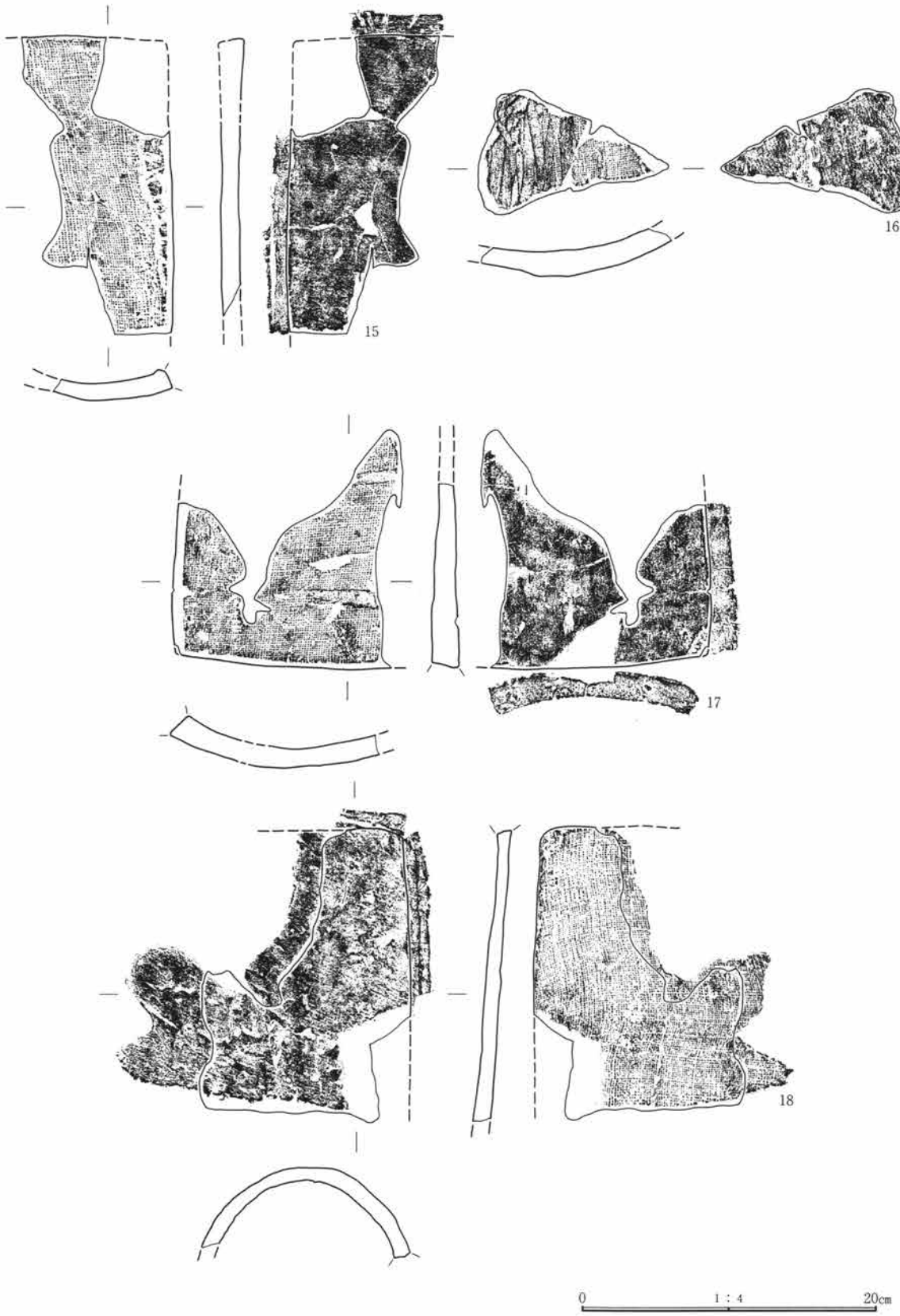
28号住竈は、東壁に設けられており煙道を著しく突出する。小円形の煙道末端で、緩やかに立ち上がる。袖・構築材は確認できなかったが、燃焼部は壁外を掘り窪み、馬蹄状の平面形を呈する。

明瞭な床下遺構は検出されなかった。前述の掘り方調査で確認した柱穴以外に、南西部に小ピットがある。柱穴として特定はできないが、66号住に付帯する施設の可能性も念頭におきたい。

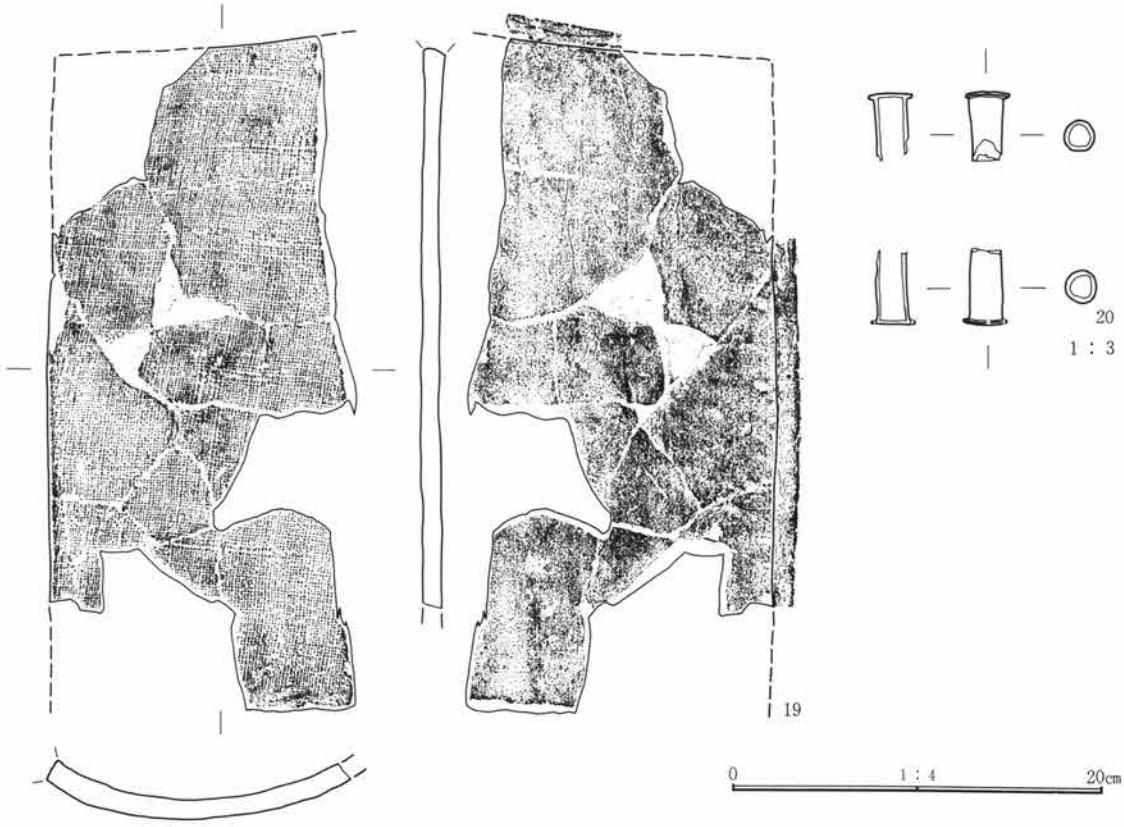
遺物は、28・66号住を併せて593片が出土した。これは前述のように調査当初単独住居として遺物の取りあげを行ったので、２軒の出土遺物が明確に分離し得ないためである。１・２は28号住覆土と66号住覆土出土破片の接合による。１はやや薄手の器厚を呈し、底部は僅かに立ち上がる。２は上げ底気味の底部で体部器厚はやや厚手。３、覆土下位出土。底部中央薄い。４も覆土下位出土。厚手の底部。５は中央やや北東寄りの覆土下位出土の須恵器甕。口唇部欠損。６は覆土上層出土の土師器甕破片。口縁部は横撫で、体部外面は横箆削り。体部内面は箆撫でを施す。７の羽釜は竈前庭部の使用面上より出土した。体部は箆削りの他箆撫でも見られる。８の羽釜も竈前庭部出土。口唇部は僅かに肥厚する。９は南壁際床直で出土の羽釜底部。右回転轆轤整形で箆削りが施される。10は中央南寄りの床直上で出土した須恵器甕破片。外面は平行叩。内面は箆撫で。11～17・19は平瓦。18は丸瓦。11は５と近接して、12～16は覆土上層より、17は覆土下位及び床直、18は竈前庭部



67図　28号住居跡出土遺物（1）



68図　28号住居跡出土遺物（２）

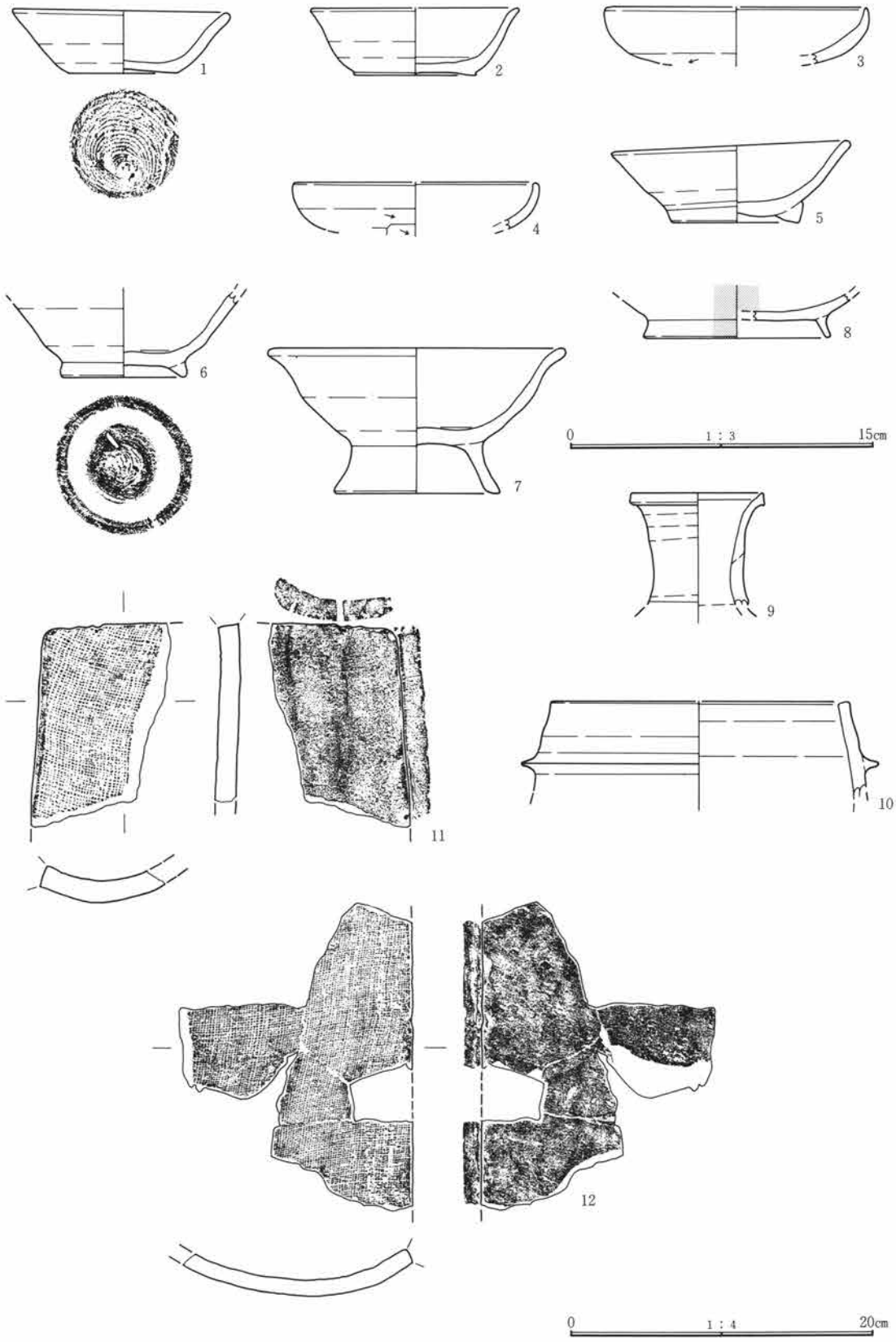


69図　28号住居跡出土遺物（3）

覆土下位より出土した。これらの瓦は、竈構築材ではなく流入によるものであろう。

19の平瓦は28号住覆土と66号住覆土が接合したものである。また本住居出土遺物に、20の経軸端がある。出土状態からも２個１対のものであろう。しかしながら、これも28号住と66号住の重複部分からの出土で帰属がはっきりしない。１枚の銅板を巻き、円盤を貼付し、薄く丁寧に仕上げられている。住居跡出土遺物のうち最も寺院跡と関連する遺物である。

66号住出土遺物は12点を図示した。いずれも覆土中よりの出土である。１は完形の坏。やや厚手の器厚。２は比較的薄手。口縁部が僅かに外反する。３・４は土師器坏。体部篦削り。内面平滑な撫でが施される。５の高台付椀は口縁部がやや歪む。器厚はやや厚手で高台端部は尖り気味。６の椀は高台貼付時の横撫でが強い。器厚はやや薄手。７は足長の高台付椀。口唇部は丸みを帯び、口縁部は僅かに外反する。体部は緩やかな膨らみを持ち台部に至る。高台部貼付後入念な横撫でが施され、全体に丁寧な仕上げといえよう。８は灰釉陶器椀。釉は看取できない。９は長頸瓶口縁部。紐作りで右回転轆轤整形。内面肩部に絞り目がある。薄手でしっかりした作りである。10の羽釜は左回転轆轤整形である。11・12は平瓦。



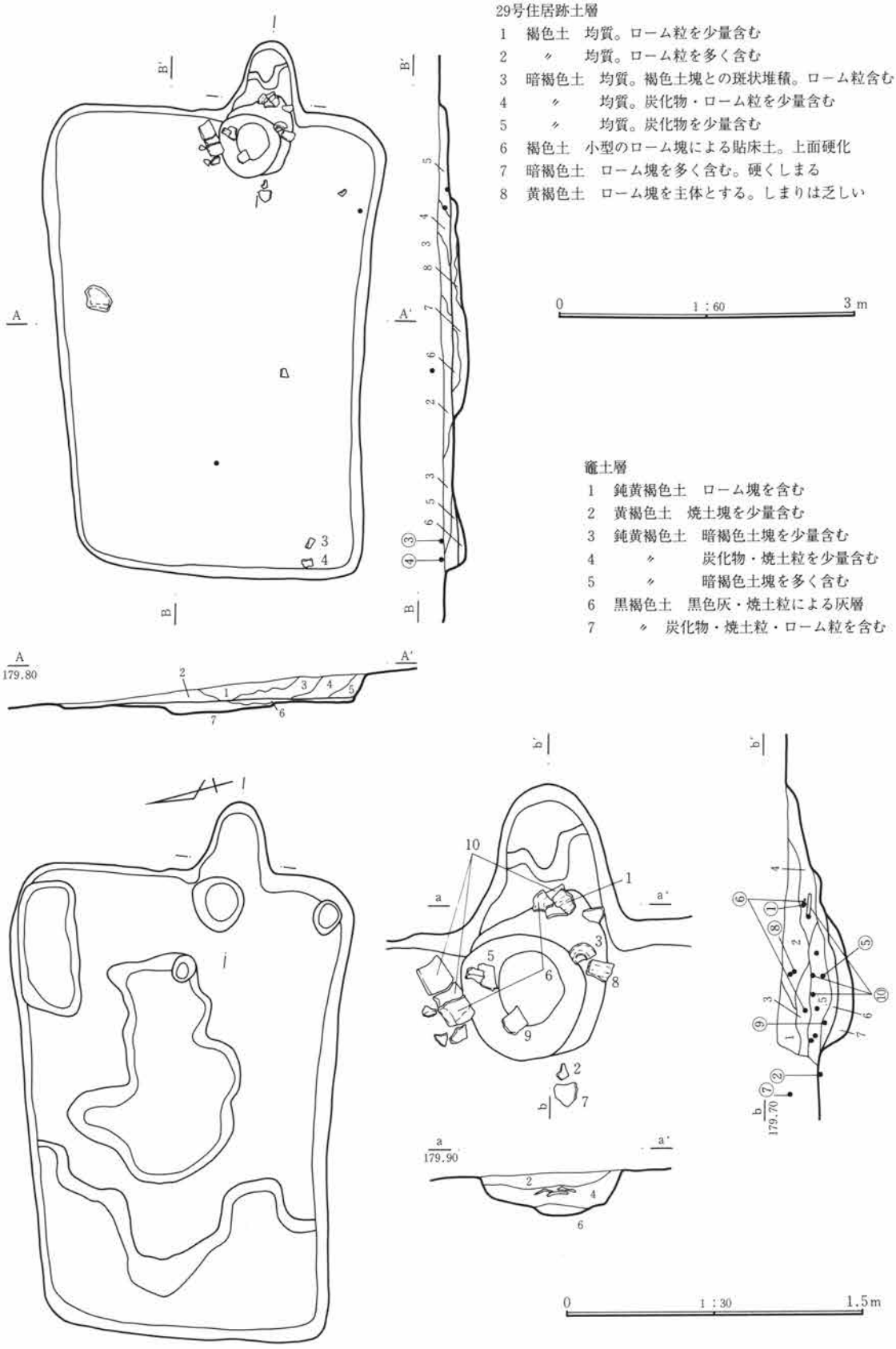
70図　66号住居跡出土遺物

29号住居跡土層

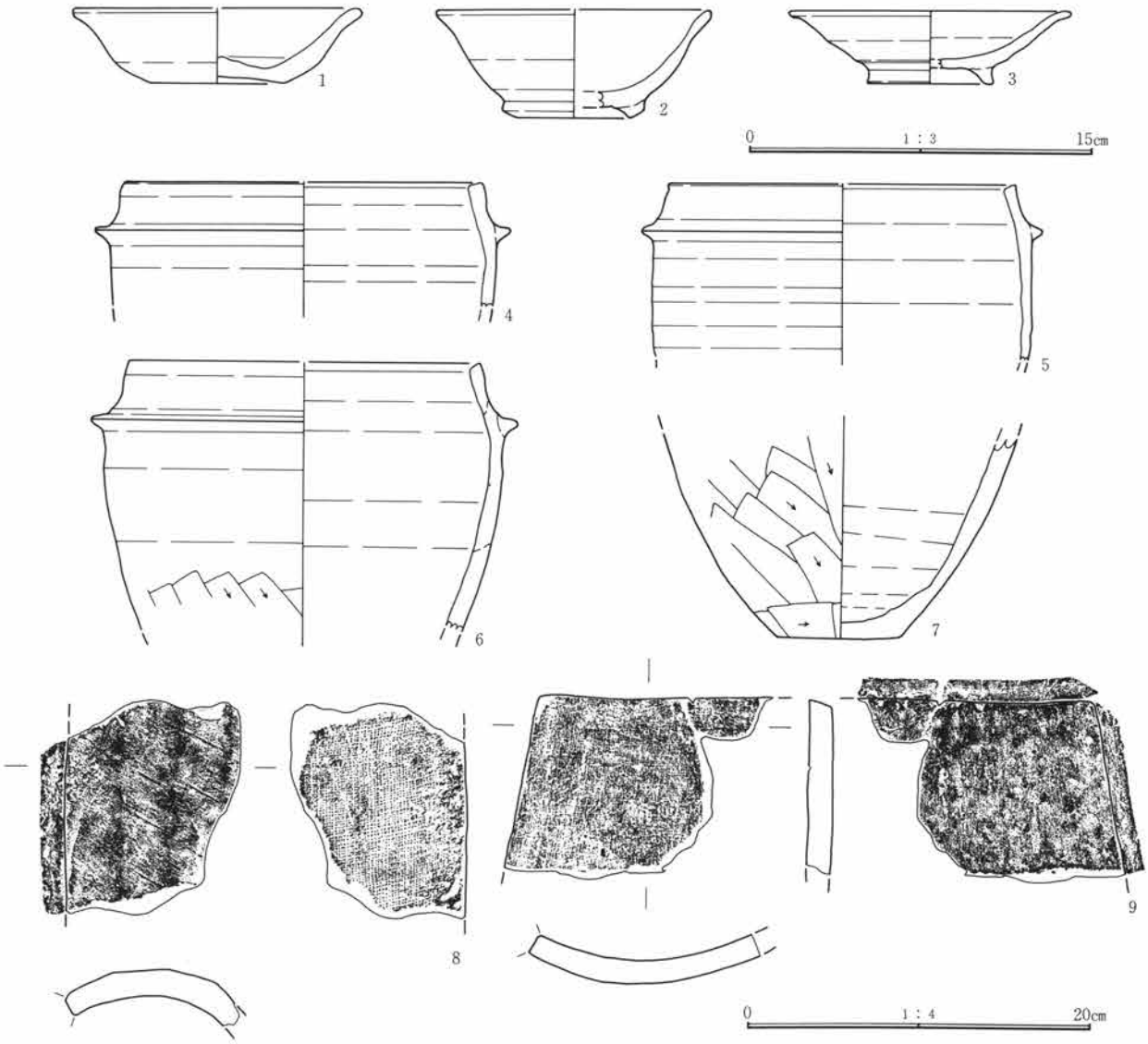
1　褐色土　均質。ローム粒を少量含む
2　〃　均質。ローム粒を多く含む
3　暗褐色土　均質。褐色土塊との斑状堆積。ローム粒含む
4　〃　均質。炭化物・ローム粒を少量含む
5　〃　均質。炭化物を少量含む
6　褐色土　小型のローム塊による貼床土。上面硬化
7　暗褐色土　ローム塊を多く含む。硬くしまる
8　黄褐色土　ローム塊を主体とする。しまりは乏しい

竈土層

1　鈍黄褐色土　ローム塊を含む
2　黄褐色土　焼土塊を少量含む
3　鈍黄褐色土　暗褐色土塊を少量含む
4　〃　炭化物・焼土粒を少量含む
5　〃　暗褐色土塊を多く含む
6　黒褐色土　黒色灰・焼土粒による灰層
7　〃　炭化物・焼土粒・ローム粒を含む



71図　29号住居跡



72図　29号住居跡出土遺物（１）

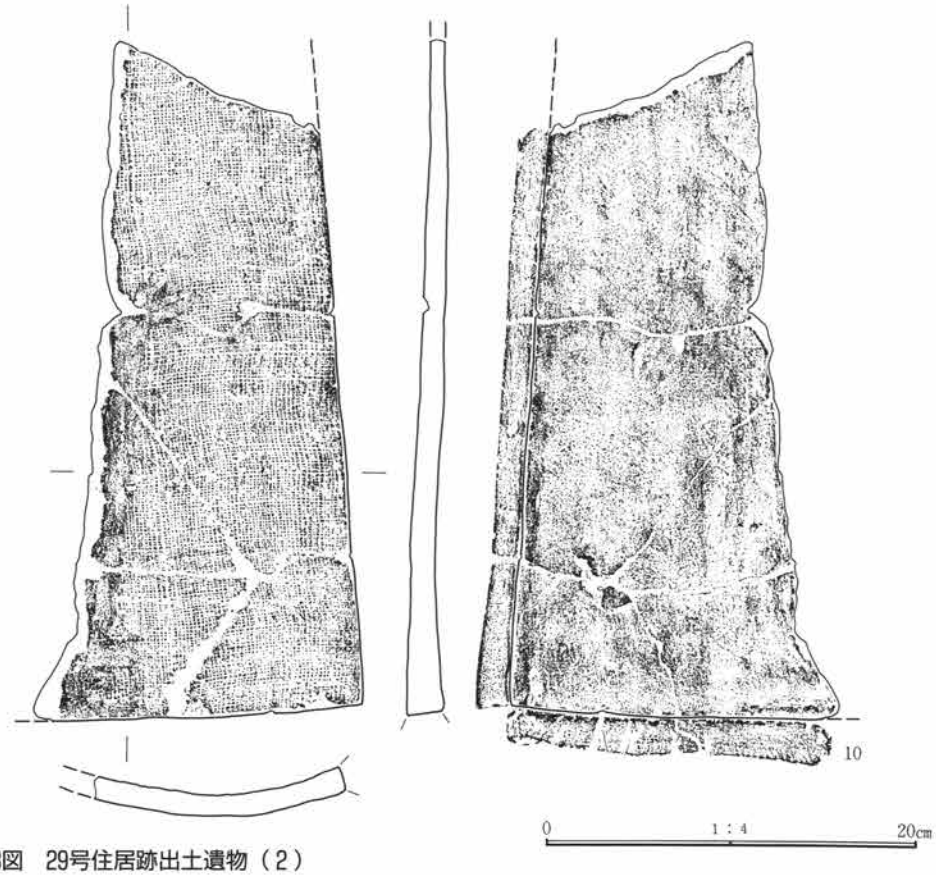
29号住居跡

調査区東端の東尾根区（Ｆ区）に位置する。南東に30号住居跡が近接するが、他に重複・密接する住居もなく単独の検出となった。東尾根区は馬背状の台地が主体だが、本住居跡周辺は比較的平坦で占地には適しているといえよう。

平面形は縦長の長方形を呈し、深さは約40㎝を測りやや浅い。南北の壁が緩やかに湾曲し、これは前述の28号住とも共通する形態である。

床面はほぼ平坦で、褐色土と暗褐色土の貼床がなされていた。硬化面は中央部分と西側で顕著であり、竈周辺はやや弱かった。柱穴・貯蔵穴は使用面では確認できなかったが、掘り方調査で検出した南東隅の小ピットは貯蔵穴として位置付けられよう。

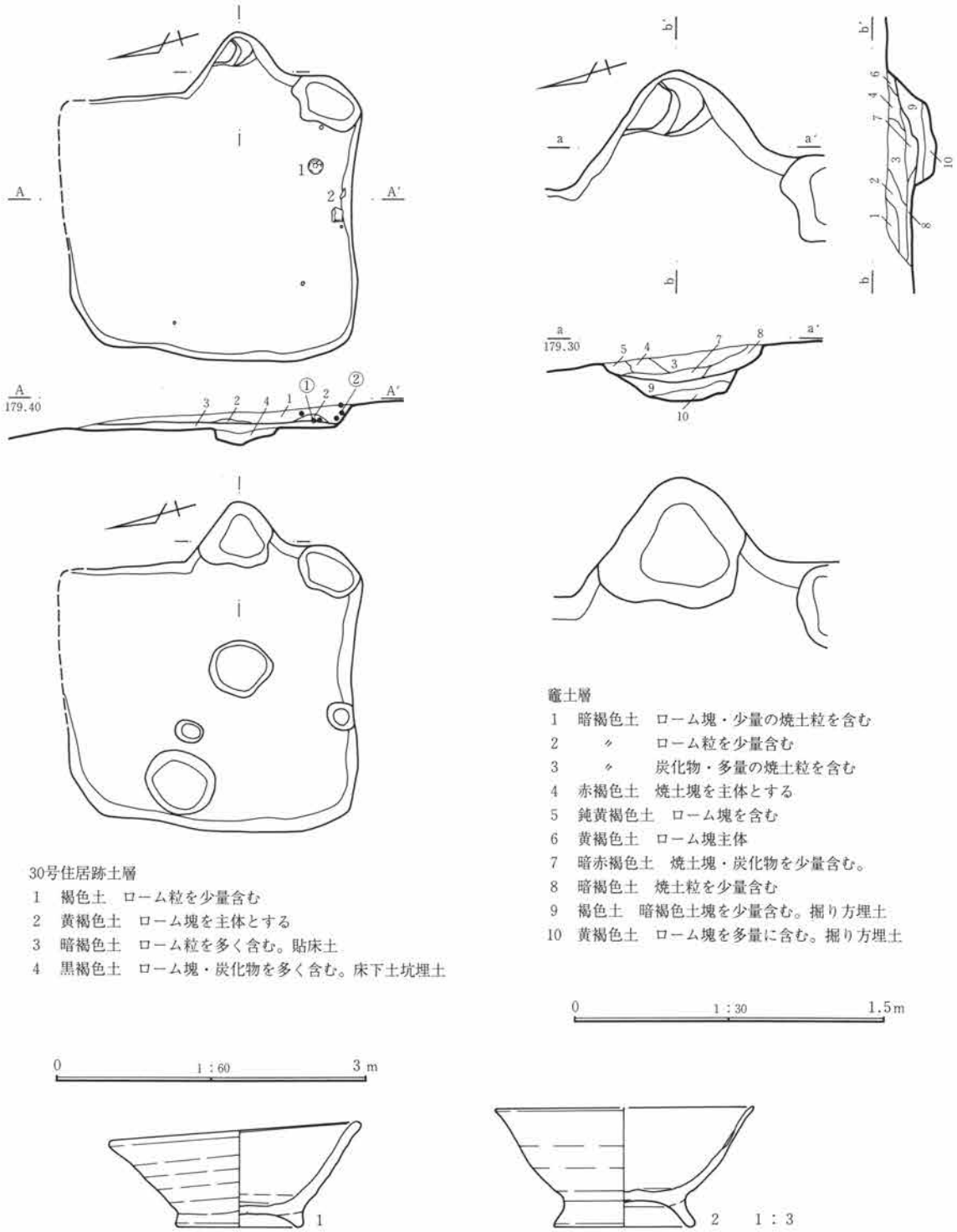
竈は東壁南寄りに設けられていた。馬蹄状に張り出し、燃焼部には掘り込みを持つ。袖は顕著ではなく、構築材も明瞭には遺存していなかった。おそらく、燃焼部や前庭部に散乱する瓦や羽釜片が構築材の一部を構成していたと思われる。また、竈土層に見られた暗褐色土塊も構築材として考えられよう。また、使用面下で確認された燃焼部の掘り込みには焼土・灰・炭化物が埋められ、頻繁な使用が看取される。



73図　29号住居跡出土遺物（2）

床下遺構は、床面中央に不整形の落ち込み、北東隅に方形の土坑が検出された。また西側は緩やかに落ち込む。埋土はローム塊が主体である。

出土総破片数は98点と少なく、10点を図示した。竈出土のものが主体であり、1は燃焼部の中層より出土した坏である。浅く、厚手の器厚を呈す。口縁部は外傾気味で底部中央は盛り上がる。2は前庭部床直出土。厚手の椀で口縁部は僅かに歪む。口縁部は緩やかに外反し体部は丸みを帯びる。3は竈内と南西隅上層。高台付皿で口縁部は外反する。内面の摩滅著しい。4も南西隅で覆土上層より出土の羽釜。5・6は竈内出土の羽釜。構築材の一部に使用されたものであろう。6の体部下半には箆削りが施される。7は羽釜底部。竈前庭部上層出土。斜位・縦位箆削り後腰部は横位箆削りを施す。8は丸瓦、9・10は平瓦でいずれも竈内出土。9は薄手である。



74図　30号住居跡・出土遺物

30号住居跡

前述の29号住の北東に位置する。東に54～57号住居跡・７号溝などが密集しているが、本住居跡は単独の検出となった。

辺長約2.7ｍの小型でやや不整正方形の平面形を呈し、壁高は約30㎝とやや浅い。また、南側壁は緩やかに湾曲し、北側壁は斜面のため逸失している。

床面は、ほぼ平坦で暗褐色土による貼床がなされていた。硬化面は顕著ではなく、全体に軟弱な床面である。柱穴は床面上では検出できなかったが、掘り方調査によって得られた南側壁に接する小ピットと中央やや西寄りで開く小ピットにその可能性が見いだせよう。貯蔵穴は南東隅に確認した。

竈は東側壁やや南寄りに設けられる。煙道突出部は掘り込みの乱れが見られるが、緩やかに燃焼部に至る。その他の構築材は検出されず、竈覆土には焼土化したローム塊が堆積しており、住居廃絶前後の破壊が想起されよう。また、遺物も細片が数点出土したのみで、有機的な出土とは言えず図示し得なかった。

床下遺構は、床面中央と西壁に不整円形の土坑が２基検出された。いずれも黒褐色土を埋土とし、炭化物が含まれていた。用途・性格などは不明である。

出土遺物は総破片点数45点と極めて少なく、図示し得る個体も２個体と少ない。完形の椀１は貯蔵穴西の床直より出土。口縁部に歪みがあり、全体に摩滅する。２は南壁際の覆土中位より出土。やはり器面は摩滅しており、そのため口縁部は薄い器厚を呈す。

31号住居跡

中尾根東区（Ｆ区）に位置する。29号住の西約10ｍにあたり、北に39号住居跡が近接する。また、周辺は狭小ながら平坦地形であり、74・75号土坑や91～95号土坑なども群在する。この平坦地形は西側で顕著になり、多くの住居跡が展開するのだが、本住居跡はやや距離を置き、39号住と近接するのみである。

平面形は辺長約３ｍの整った正方形を呈し、深さは約46㎝を測る。全体に遺存度も良く掘り込みのしっかりした住居跡である。

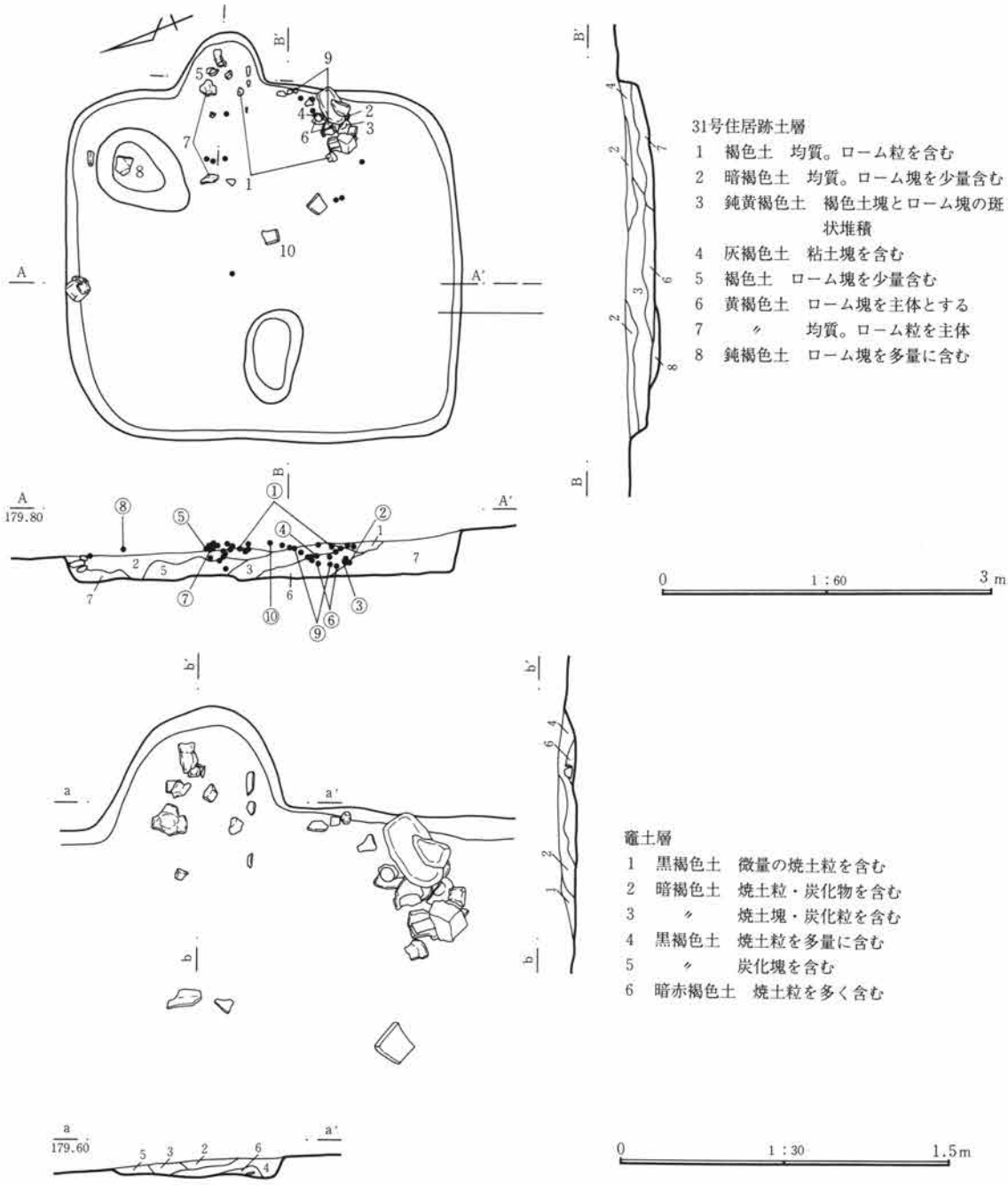
床面は、地山の黄褐色ロームによる地床で、僅かな凹凸が見られ、緩やかに中央部分にかけて落ち込む。ただ、全体的には平坦面を築くといえ、貼床がなされなかった故の傾斜と捉えたい。

貯蔵穴は、他の住居跡とは異にして北東の隅に設けられる。不整形の平面形で浅く、均質な暗褐色土が埋まっていた。柱穴は無い。

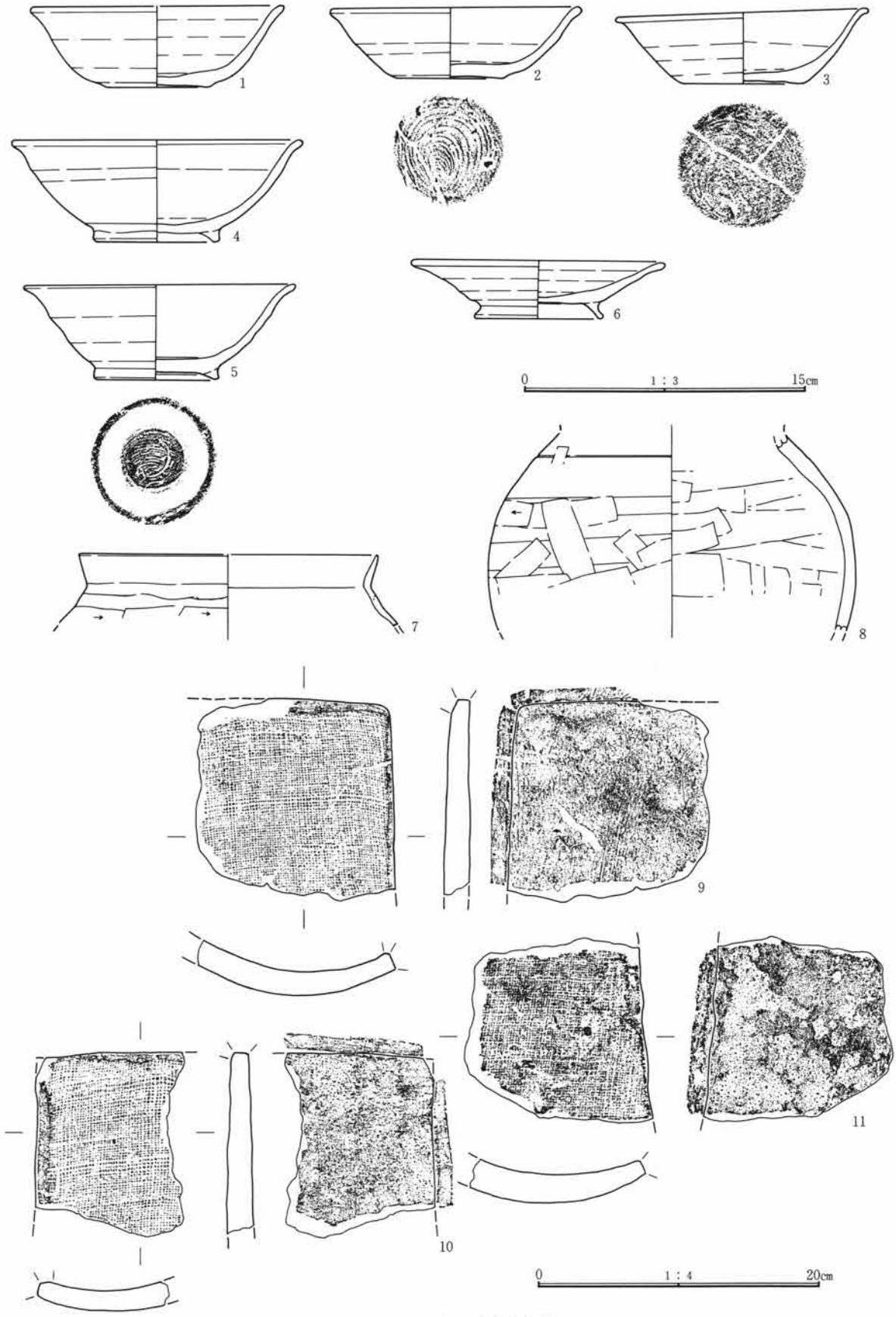
竈は、東壁の北寄りで検出された。これも他の住居跡とは反対称の位置であり、前述の貯蔵穴もこの配置によるものであろう。馬蹄状の燃焼部で、袖・天井材などの構築材の残存は無かった。ただし、竈南側の東壁際に大型の自然石の出土が見られ、おそらく天井石として使用されたものが遺棄されたのであろう。

床下遺構は見られなかったが、床面中央西寄りに不整楕円形の土坑が検出されている。貼床がなされないことから、厳密な床下遺構ではないが、ローム塊を多量に含む埋土状態から、床下土坑と同等の性格を有するといえよう。

遺物は、208点の総破片数を数える。覆土中出土の遺物が殆どで、主に竈南で前述の天井石などとまとまって出土している。１は体部下半に僅かな丸みを帯びる坏で、器面全体が摩滅する。上層出土。２は比較的浅身の坏。竈南で覆土下位出土。３、器厚は薄く口縁部は玉縁状に外反する坏。竈南の覆土下位出土。４の高台付椀は竈南で中層より。口縁部の横撫では強く、緩やかに外反する。５の口縁部も外反し高台は短くやや薄手の器厚を呈す。体部外面の轆轤目強く残る。覆土上層出土。６は竈南で覆土下位出土の高台付皿。台部は薄手ながら、体部はやや厚手である。高台貼付時の横撫で強い。７は土師器甕口縁部破片。口唇部は尖り気味。口縁部内外面とも横撫で、体部外面は横箆削りが施される。上層出土。８、須恵器甕体部破片。貯蔵穴上層出土。球形の体部で、肩部に浅い沈線が巡る。右回転轆轤整形後内外面とも箆撫でを施す。９～11は平瓦。覆土上層出土で、竈構築材としてではなく流入によるものであろう。９・10は側部・端部の面取りが２回に及ぶ。


31号住居跡土層
1　褐色土　均質。ローム粒を含む
2　暗褐色土　均質。ローム塊を少量含む
3　鈍黄褐色土　褐色土塊とローム塊の斑状堆積
4　灰褐色土　粘土塊を含む
5　褐色土　ローム塊を少量含む
6　黄褐色土　ローム塊を主体とする
7　〃　均質。ローム粒を主体
8　鈍褐色土　ローム塊を多量に含む
0　1：60　3 m
竈土層
1　黒褐色土　微量の焼土粒を含む
2　暗褐色土　焼土粒・炭化物を含む
3　〃　焼土塊・炭化粒を含む
4　黒褐色土　焼土粒を多量に含む
5　〃　炭化塊を含む
6　暗赤褐色土　焼土粒を多く含む
0　1：30　1.5m
179.80
179.60

75図　31号住居跡



76図　31号住居跡出土遺物

32号住居跡

中尾根西区（Ｇ区）で検出された。１号道路状遺構の西側にあたり、周辺に住居跡は近接しておらず、単独の占地である。周辺の地形は、南側に存在する２・３号礎石建物から北西に伸びる舌状の台地の頂部にあたり、本住居跡の東西および北側は強く下る。特に北側への傾斜は著しく、居住地としての適正には欠け、そのため、周辺は希薄な住居分布を呈するのであろう。

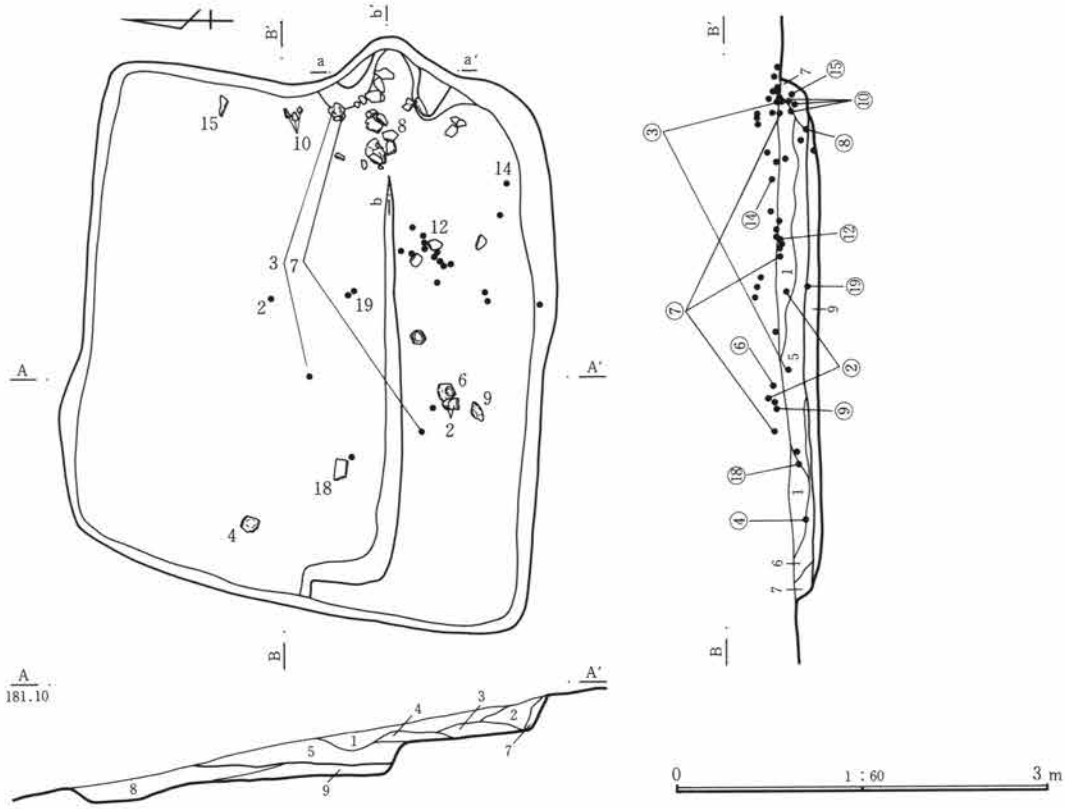
平面形は中規模の不整長方形を呈し、四隅はいずれも直角ではなく、辺長もまちまちであり規格性に乏しい平面である。特に南側壁と北側壁の長さは著しい差が見られ、そのため、西側壁の傾きに不統一が生じたものと考えられる。深さは約68㎝で遺存度は良好とはいえない。

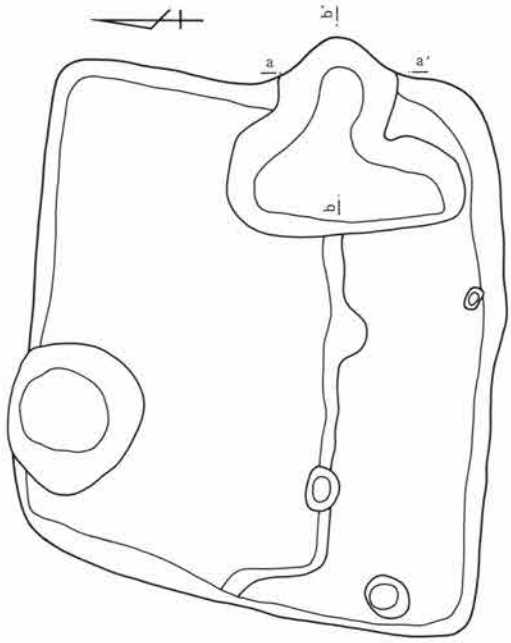
本住居跡の床面の遺存も良好とはいえず、調査時よりその確認に苦慮した。二段の床を検出し、平面図にもその段差を表現したが、下段の床面は貼床がなされており、上段は地床である。硬化面は確認されなかったが、二段ともほぼ平坦面を意識して築かれている。柱穴・貯蔵穴は使用面においては確認されなかったが、掘り方調査において柱穴状の小ピットを３基検出した。いずれも、壁際・段際に穿たれており、壁柱穴としての機能が想定されるが、群在せず積極的な根拠を持たず確定的ではない。

竈は東側壁の南寄りに設けられる。両袖は、地山のロームを基調とし、自然石などで補強している。天井部などの構築材は残っておらず、使用面上面の焼土塊が構築材崩落土と思われる。燃焼部には炭化物・焼土粒が少量散布し、坏・椀類が出土している。尚、使用面下には広く掘り込みがあり、住居構築時における竈の設計が窺われる。

床下調査では、前述の柱穴状の小ピットの他、北西部に不整円形の土坑が検出された。貯蔵穴としても考えられるが、規模はやや大型であり、ここでは床下土坑の種類として捉えたい。また、床下においても床面の段差に沿って、掘り込まれていた。このことから、当住居跡の床面の段差は構築時の企画により意図されたものと捉えられよう。床面に段差を設ける例は本遺跡ではなく、特殊な用途も想起されるが、間仕切りや急斜面立地の対応とも考えられ、上屋構造を含めて検討しなければならないだろう。

遺物は総破片点数337点と多い。主に竈周辺の出土が目立つが、南側に集中する坏・椀類が比較的良好な出土状態である。１は竈前庭部出土の完形の坏。使用面より僅かに浮いて出土した。外面の器壁は剝落が多く、摩滅も見られる。体部の轆轤目は弱い。２は南壁際の坏・椀類の集中部より出土。覆土中位出土である。また住居跡中央の上層出土の破片とも接合した。やや厚手の器厚を呈し、口縁部には若干の歪みがある。３の坏は竈北側の袖前より出土した。口縁部僅かに肥厚気味に外反し、比較的薄手の器厚を呈す。外面は摩滅する。４、床面西側で単独で出土。覆土中位。厚手の器厚を呈し、重量感ある坏である。５は身深の坏。覆土上層出土。口縁部は外反し比較的薄手の器厚を呈す。体部の轆轤目は多く看取されるが弱い。６は２とともに南側壁際で出土の高台付椀。床直上で逆位である。しっかりした作りで、口縁部および高台部分の横撫では入念で丁寧に仕上げる。口唇部が僅かに外反する。７は竈北側袖前と覆土上層の破片が接合した。やや大振りの高台付椀で高台部分の多くが欠損する。口縁部は外反し器厚は薄く体部下半は丁寧な横撫でが施される。８も大振りの高台付椀。竈前庭部より出土。高台貼付時の横撫でが顕著である。９の高台付皿は２・６と同様に南側壁際で横位で出土した。ほぼ完形。口縁部緩やかに外反し底面の器厚は薄い。僅かな歪みがある。10は竈内使用面上で出土。土師器台付甕脚部である体部外面は箆削り、脚部は横撫でが施される。内面は撫でられるが器壁の剝落著しい。脚部内面は丁寧な横撫でを施す。11・12は土師器甕底部。共に覆土上層出土。外面縦位箆削り、内面横位箆撫で。13、土師器甕口縁部破片。覆土出土。肩部横位箆削りが施される。14は土師器小型甕。南東で覆土上層出土。口縁部は強い横撫でが施され肩部に薄い稜線が巡る。体部外面は横位・斜位の箆削り。内面





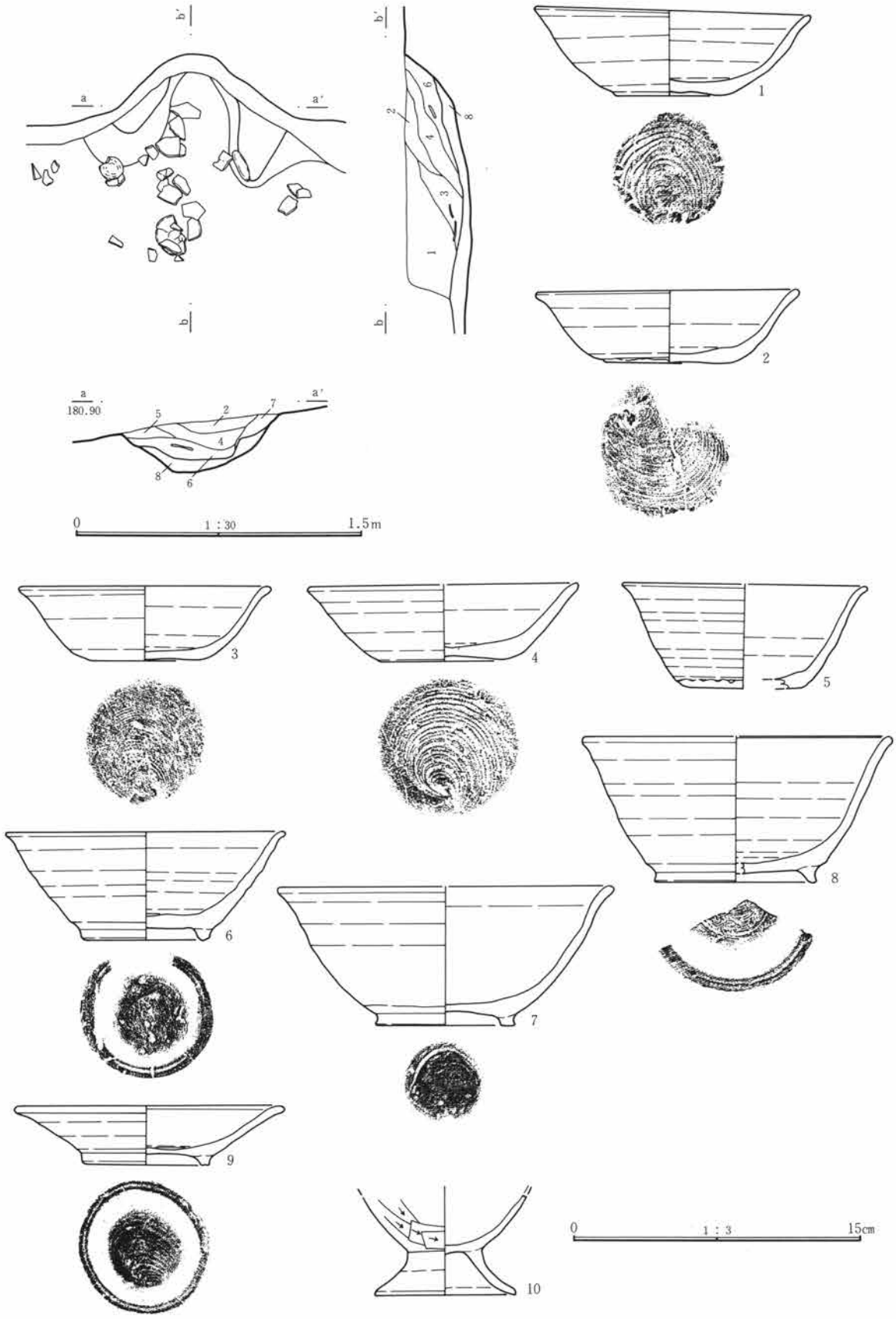
32号住居跡土層

1　鈍黄褐色土　炭化物を多く含む
2　〃　やや明るい色調を呈す
3　黄褐色土　ローム粒を主体とする
4　〃　ローム塊を主体とする
5　鈍黄褐色土　褐色土塊と斑状堆積。炭化物を少量含む
6　〃　小型のローム塊を含む
7　黄褐色土　ローム塊を主体とする。壁崩壊土
8　〃　大型のローム塊を多く含む。床下埋土
9　〃　小型のローム塊・褐色土塊による床下埋土

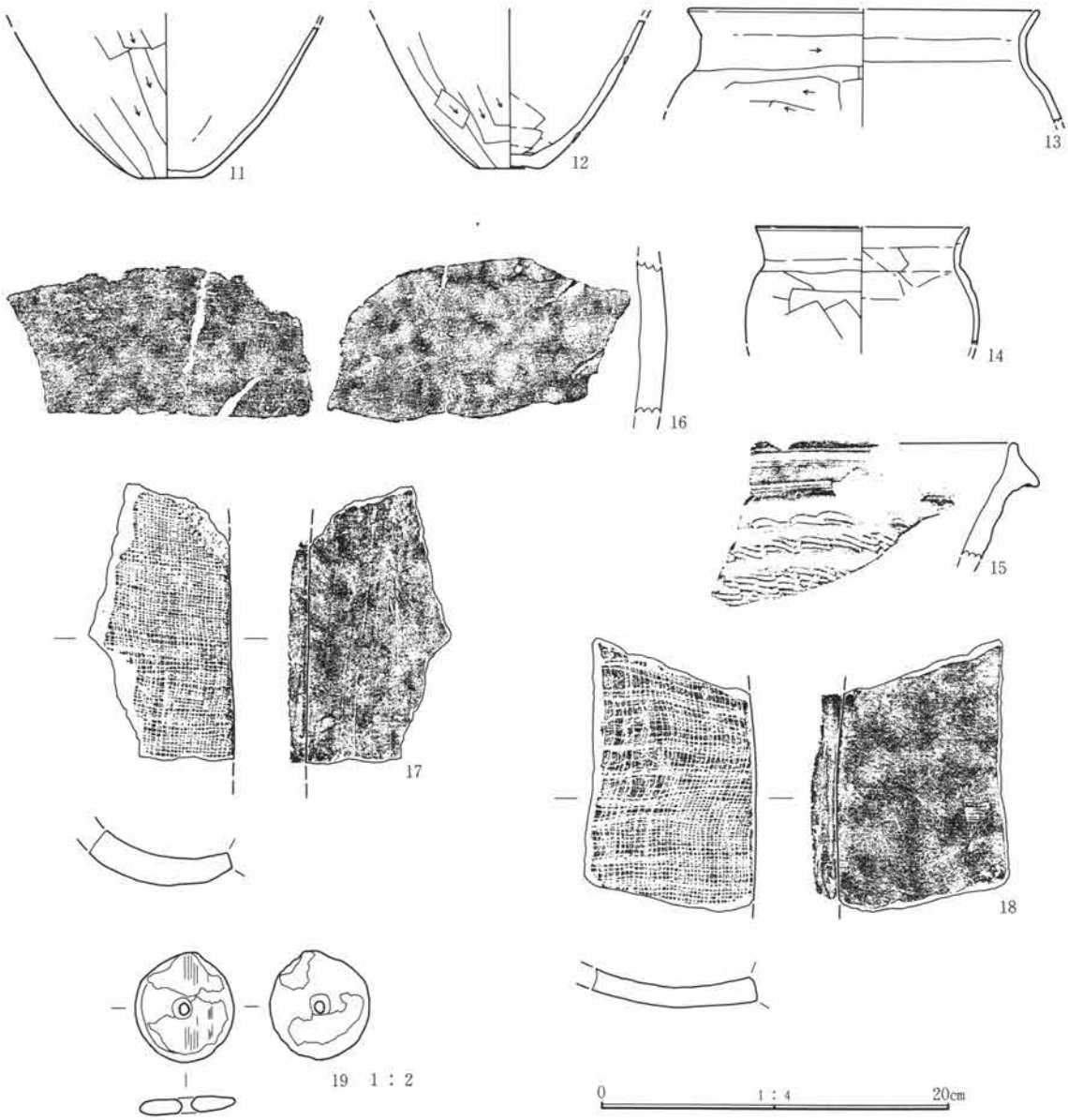
竈土層

1　暗褐色土　炭化物を少量含む
2　褐色土　焼土粒・炭化物を少量含む
3　〃　ローム塊と斑状堆積
4　暗赤褐色土　焼土塊を多く含む
5　黄褐色土　ローム粒主体。焼土粒・炭化物を含む
6　赤褐色土　焼土塊主体
7　〃　5層近似。炭化物が多い
8　黄褐色土　ローム粒主体。掘り方埋土

77図　32号住居跡

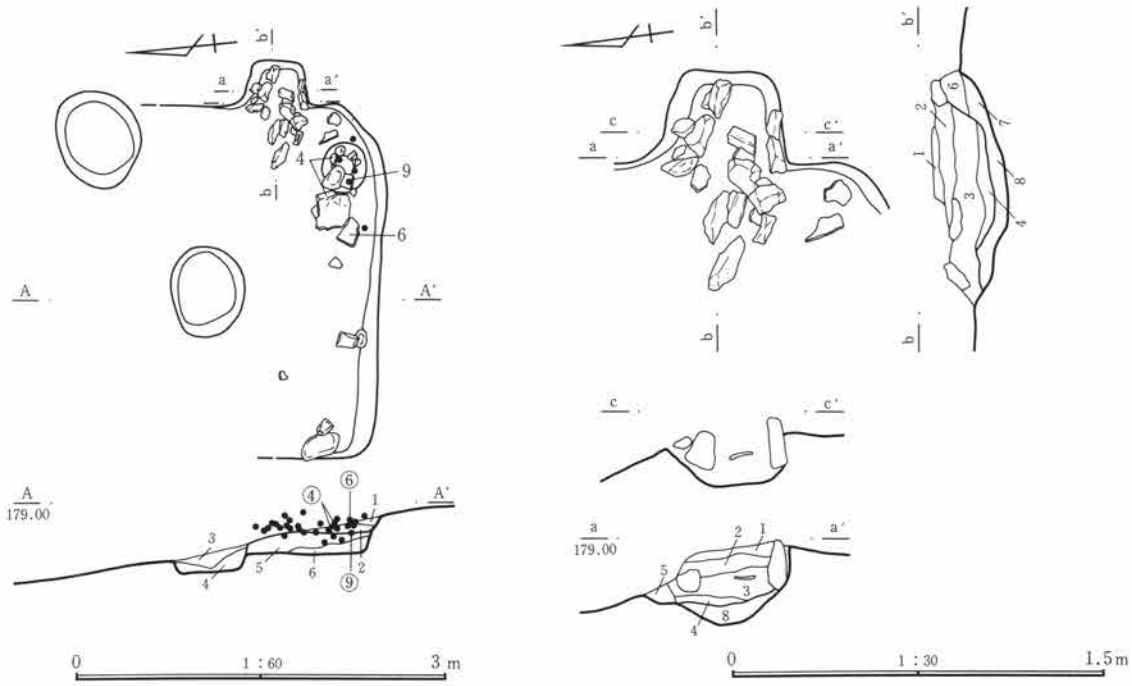


78図　32号住居跡出土遺物（１）



79図　32号住居跡出土遺物（2）

は横位箆撫で。15は竈北側で覆土下位出土の須恵器大甕口縁部破片。波状文を3段以上施す。16も須恵器甕体部破片。覆土出土。外面は撫でが施され、内面は円環状の当て目が残る。17・18は平瓦。18は中央やや西寄りで覆土下位出土。19は有孔円盤。薄い滑石を素材とし、一定方向の擦痕が看取されるが、表面の剝落が多い。中央の床直で出土した。



33号住居跡土層
1　暗褐色土　炭化物を少量含む
2　〃　褐色土塊と斑状堆積。炭化物を含む
3　鈍褐色土　ローム塊を少量含む。床下土坑埋土
4　〃　ローム塊を多く含む。床下土坑埋土
5　褐色土　不均質。ローム塊を多く含む。掘り方埋土
6　暗褐色土　褐色土塊の斑状堆積。

竈土層
1　暗褐色土　焼土粒・炭化物を含む
2　〃　焼土粒を多く含む
3　黒褐色土　黒色灰を混入する。焼土粒・炭化物を含む
4　赤褐色土　焼土層。炭化物を含む
5　暗赤褐色土　焼土粒・炭化物を少量含む
6　褐色土　炭化物を含む。粘性強い。掘り方埋土
7　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。掘り方埋土
8　〃　ローム塊・炭化物を含む。掘り方埋土

80図　33号住居跡

33号住居跡

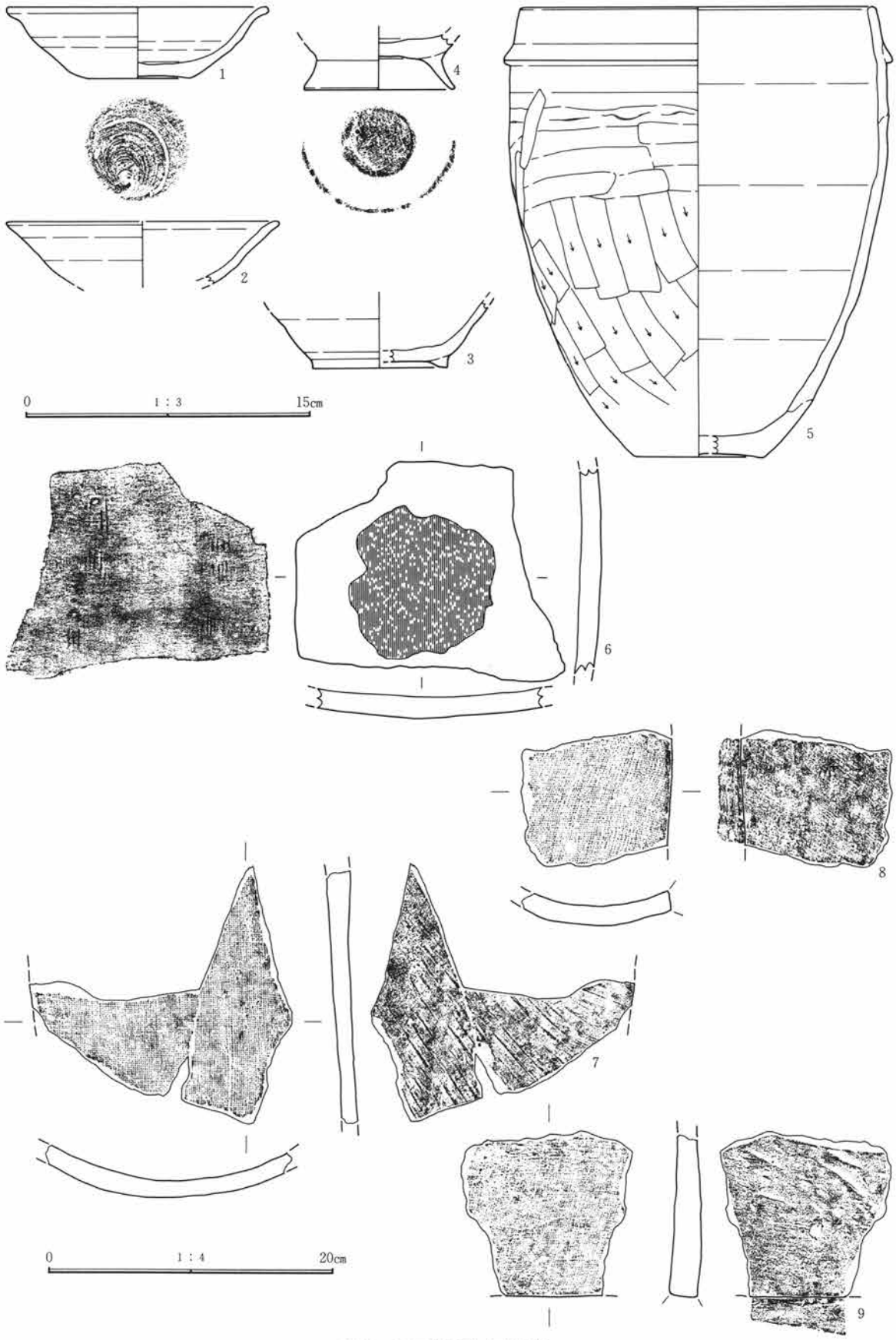
中尾根東区のほぼ中央に位置する。周辺地形は緩やかな北斜面で住居跡も密集しており、南側には47号・49号住居跡が接する。

掘り込みは約38㎝と浅く、北側への傾斜のため遺存する壁は南側と西側の一部で平面形は判然としないが、主軸辺長約2.8ｍの小型の方形を呈すると思われる。

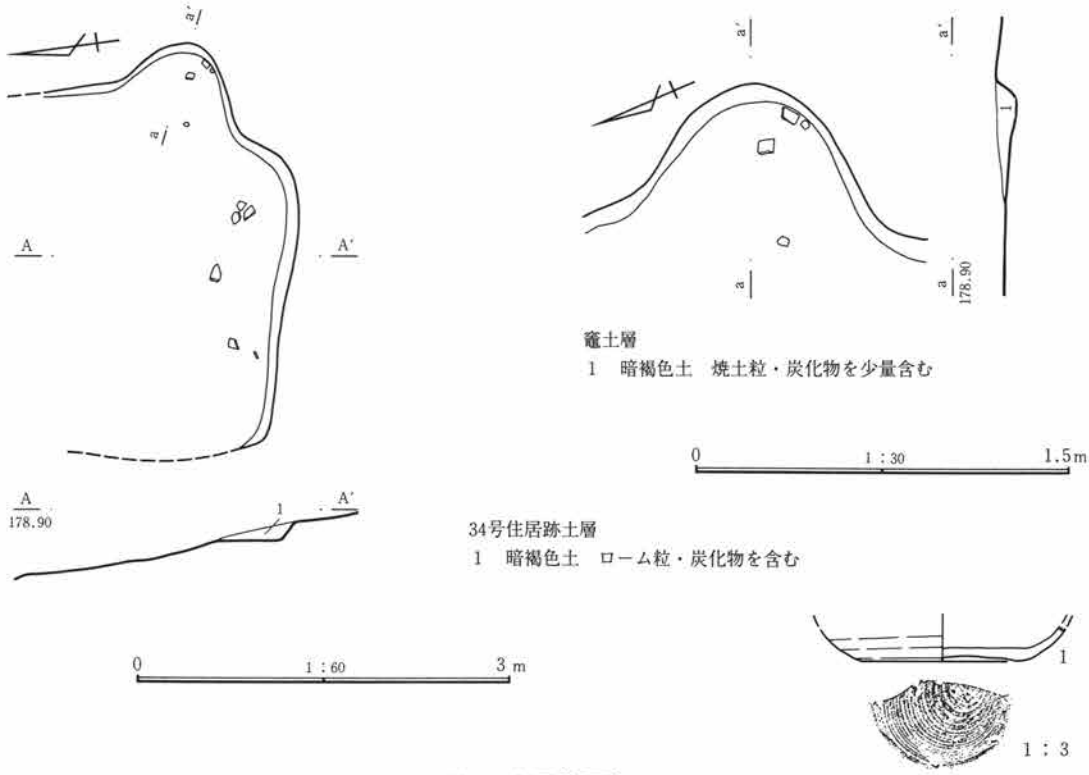
床面の残りも悪く、南側と竈前庭部が顕著であり、その他は僅かな痕跡を確認するに止どまった。柱穴は無く、中央の土坑も土層の観察では別時期のものとも考えられるが、土層そのものの残りも悪いため判然としない。貯蔵穴は、南東隅やや西寄りで検出した小土坑が当たる。また、推定北東隅で検出された円形の土坑はあるいは床下土坑の可能性もある。

竈は、東壁南寄りに設けられる。方形の燃焼部で顕著な袖は検出されなかったが、側面を補強する構築材の自然石が見られた。また、おそらく天井部を構成する自然石が前庭部を中心に散乱しており、このことから、竈上部は破壊されたものと捉えられる。

出土遺物は、総破片数96点と少ない。主に竈周辺の出土であり貯蔵穴上の集中が目だった。１は浅身の坏。外反する口縁部には僅かな歪みが見られる。２は坏口縁部破片。内面は外傾し浅い内稜が巡る。３、高台付椀底部。覆土出土。４は脚長の椀底部。貯蔵穴上と周辺より出土。底部器厚に比して台部は薄手である。台部の横撫では丁寧。５は貯蔵穴西の床直上出土。鍔は下方を向き短い。口縁部は横撫でを施し、体部上半は指な



81図　33号住居跡出土遺物



82図　34号住居跡

いしは棒状工具による横撫で。下半は篦削りが施される。内面は横撫で。全体に厚手の器厚で、ずんぐりした印象を得る。６は須恵器甕破片。内面を転用硯とする。外面の叩き目も摩滅しており、硯反対面の使用痕として捉えられる。７～９は平瓦。７、外面の平行叩が顕著。８は側面の面取り１回、９は無文の叩き。貯蔵穴上より出土。

34号住居跡

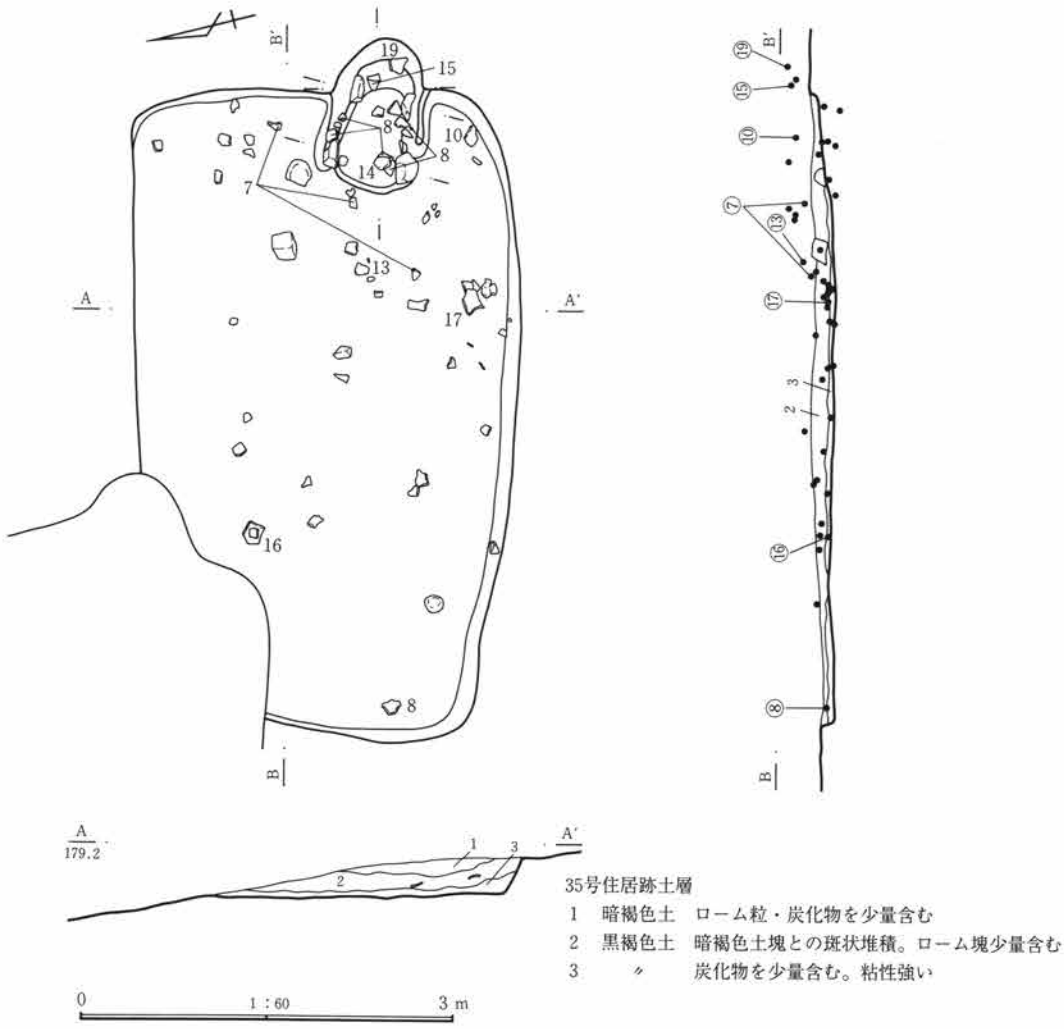
中尾根東区のほぼ中央、33号住の東で検出した。南東隅で35号住居跡と重複する。周辺は33号住と同様緩やかな北斜面地形であるが、他の急傾斜地形と比べると平坦地形に近く、遺構の集中も多い地形である。本住居跡の検出は35号住検出中であり、35号住床面調査中に少量の焼土粒と不明瞭なプランが確認されたためである。しかしながら、土層軸の設定は本住居跡にはかかっておらず、床面の状態も斜面部にあたるため判然とせず、両住居の新旧関係は不明確と言わざるを得ない。

本住居跡は35号住床下に重複しており、そのため遺存状態も不良である。平面形はおそらく不整正方形で、主軸の長さ約3.3m、深さ約38cmを測る。非常に浅く検出した。

床面の残存状態も悪く、竈周辺から南側壁にかけて一部が残っているのみである。顕著な硬化面も認められなかった。また、貼床もなされてはいない。

竈は東壁の南東隅寄りに設けられる。浅く、焼土・炭化物を少量確認したに過ぎないが、馬蹄状の燃焼部で少量の須恵器甕片などが出土している。

遺物も20点と極端に少なく、図示し得たのは覆土中より出土した須恵器坏底部破片１点だけである。体部下半はやや丸みを帯び、薄手の器厚を呈す。



83図　35号住居跡（1）

35号住居跡

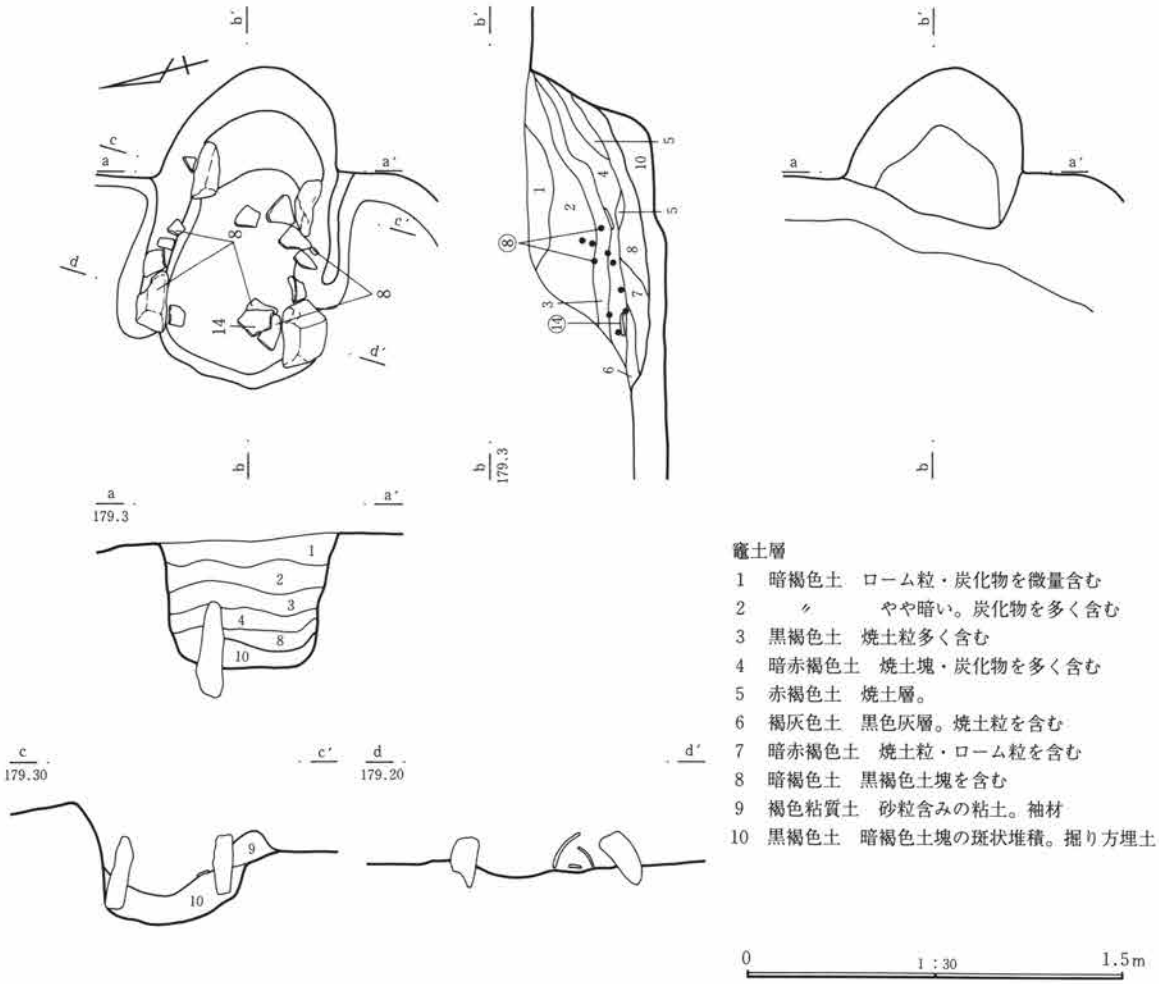
中尾根東区の中央で前述の34号住と重複して検出された。東に36号住居跡が近接する。

長辺約5.1m、短辺約3.0mのやや不整の縦長長方形を呈す平面形で、約40cmの壁高を測る。北側への斜面のため、北壁は殆ど逸失しており、北東隅と床面の範囲から住居規模を捉えた。全体に遺存状態は良好とは言えず、住居跡確認時も竈周辺の焼土や遺物の露出が際立った。

床面は、地床で黄褐色ロームを基調とする。僅かな凹凸が見られるが、ほぼ平坦を意識して築かれている。硬化面は中央部分が顕著であったが、その範囲は狭い。

貯蔵穴・柱穴など床面上の施設は検出されなかった。

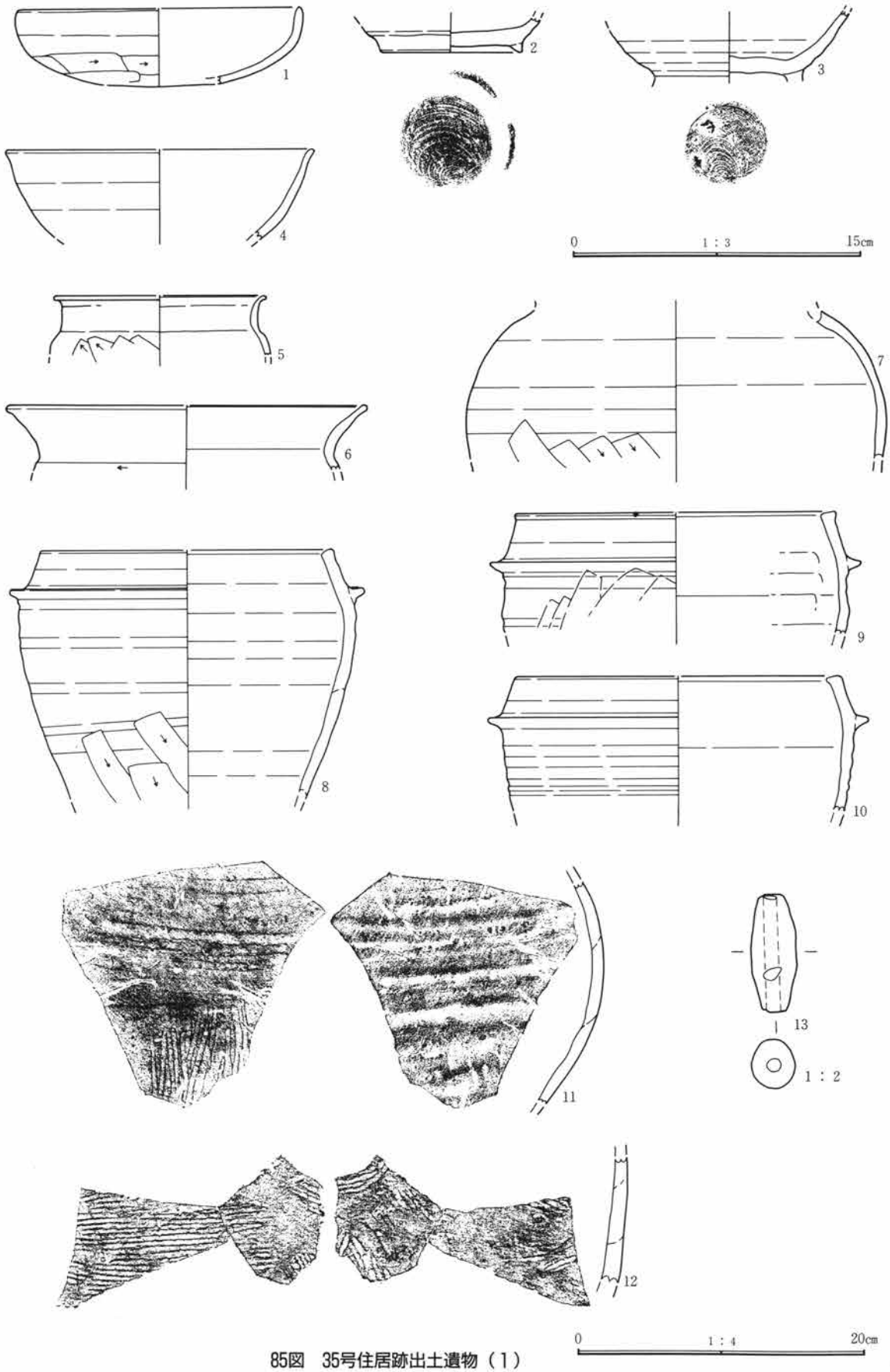
竈は、東側壁の南東隅寄りに設けられていた。馬蹄状の燃焼部を突出し、ロームを盛った袖が付せられる。袖・及び燃焼部内側には自然石と羽釜片、瓦片が補強材として据えられていたが、周辺には、自然石などが散乱し、住居跡廃絶時の竈破壊行為を物語る。燃焼部は浅く掘りくぼめられ、大量の焼土塊・炭化物・黒色灰が堆積していた。尚、掘り方調査によって燃焼部下面の掘り込みを期待したが、埋土を盛っただけであり、自然石などの構築材は突き立てられた状態のものが多かった。掘り方埋土には焼土粒などは含有されていなかった。



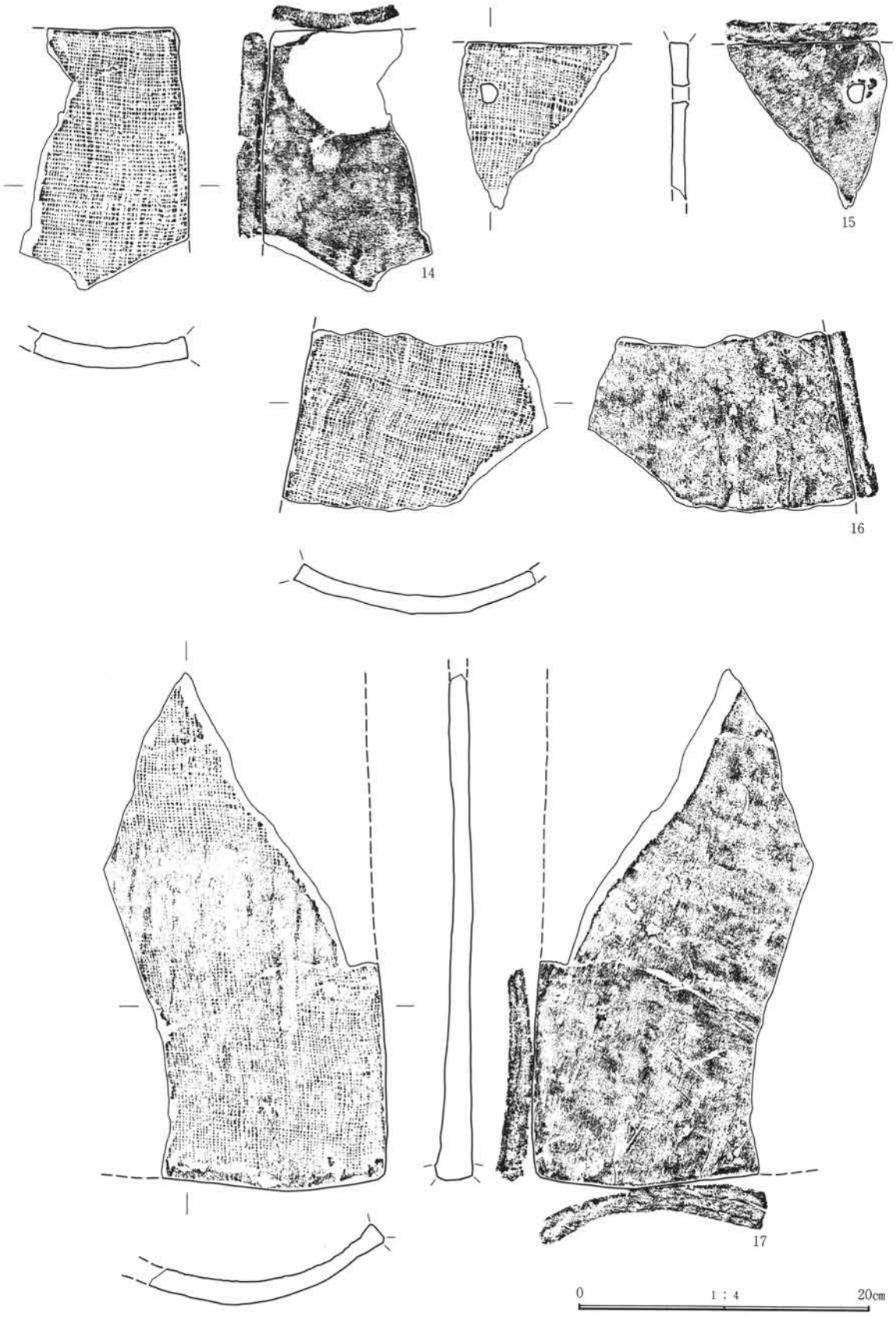
84図　35号住居跡（２）竈

出土遺物は、総破片点数317点と比較的多い。住居跡の遺存状態に比して、量的に充実しているといえよう。ただし、その殆どが覆土上層から中層にかけての出土であり、住居跡に帰属する遺物は少なく、前述の竈構築材やその周辺の出土遺物が僅かに居住に伴う遺物といえよう。他の覆土中の遺物も、居住に密接なつながりを持つ遺物もあろうが、完形の個体は無く、おそらく流入による所産のものが大多数を占めるものと思われる。

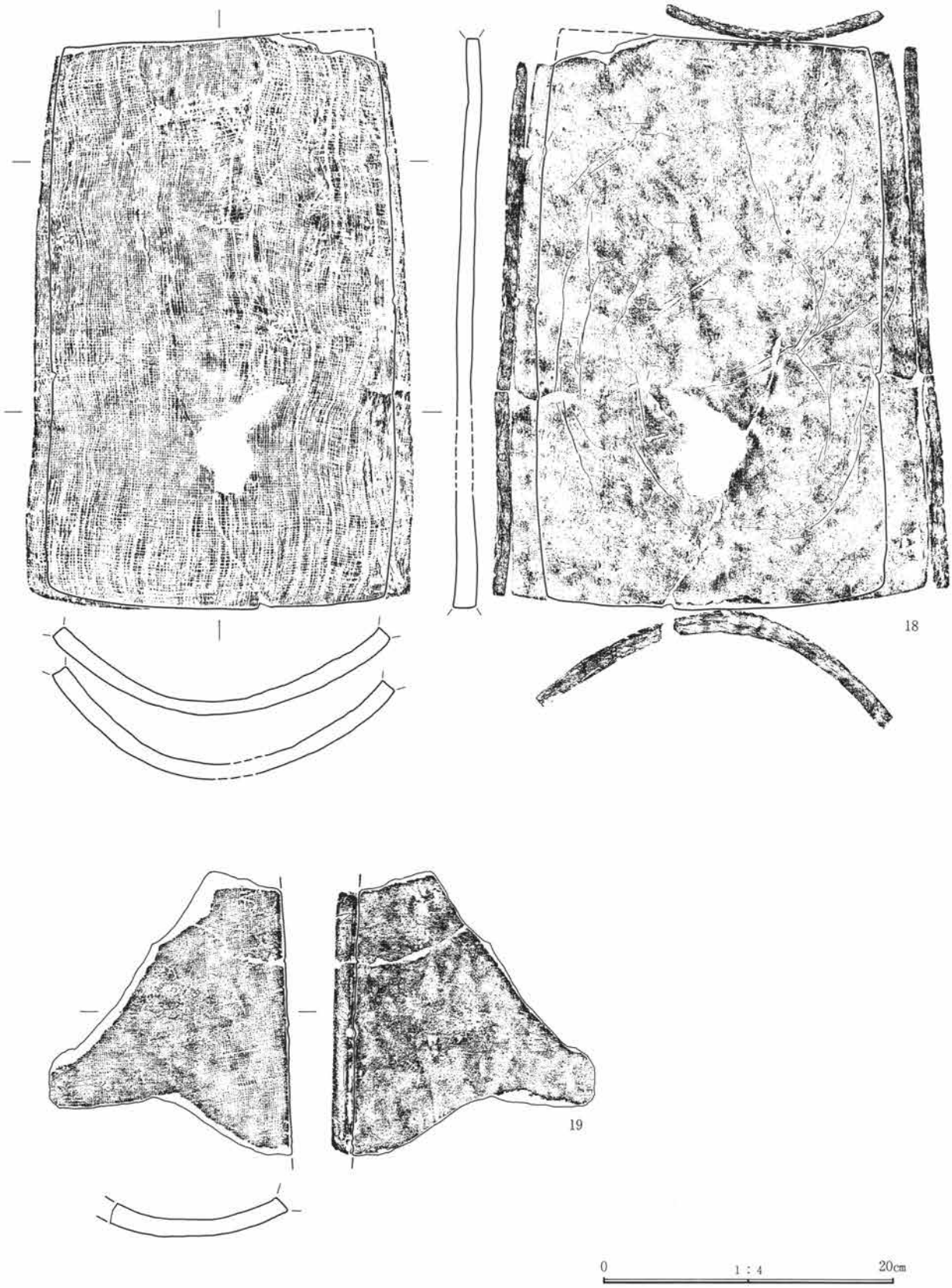
１は土師器坏。約1/3程の残存であるが、覆土上層の出土である。外面口縁部は丁寧な横撫でが顕著である。以下、撫でが不明瞭な体部上半を経て、体部下半～底部は箆削りが横位に施される。内面は丁寧な撫でにより平滑である。２は高台付椀。底部器厚は厚く、高台部は短い。内面の器壁剝落が著しい。覆土出土。３も高台付椀。高台部が欠損する。右回転轆轤整形後浅く横撫でを施す。底部～腰部はしっかりした作りである。覆土出土。４は椀口縁部破片。比較的薄手で、口縁部の外反は短い。覆土出土。５の土師器小型甕も覆土出土。口縁部破片。口縁部内外面とも横撫で、体部外面は箆削りが施される。内面は横撫で。６も土師器甕。覆土出土。外反する口縁部は横撫でが施され、体部外面は遺存が少ないが、横位箆削りが巡る。７は須恵器甕体部。あるいは広口の瓶か。轆轤整形酸化焰焼成で、体部下半には斜位の箆削りを施す。器面は摩滅する。竈周辺の覆土上層より出土する。８の羽釜は竈構築材として出土している。器面は摩滅するが比較的薄手で、体部下半には箆削りが行われる。９は竈内覆土出土の羽釜口縁部破片。体部上半より箆削りが及び、内面も横位箆撫で



85図　35号住居跡出土遺物（1）



86図　35号住居跡出土遺物（２）



87図　35号住居跡出土遺物（3）

を施す。10も羽釜口縁部破片。南東隅上層で出土。11・12は須恵器甕体部破片。11は竈内覆土出土。轆轤整形で、外面下半に棒状工具による縦位磨きが密に施される。自然釉が付着する。内面は横撫で。12は覆土出土。外面は平行叩、内面は青海波文。13は土錘。表面に傷があるが後世のものである。外面は入念に撫でられ丁寧に仕上げられる。断面はやや不整の円形で中位に穿たれる孔は、ほぼ直線的に貫孔する。竈前庭部の覆土上層より出土。14の平瓦は竈内出土。あるいは補強材の一部であろうか。凸面は無文の叩き後縦位撫で。側部・端部とも面取りは１回である。15も竈内出土の平瓦。薄手で凸面は縦位撫で。１辺１㎝程度の方形の孔が穿たれる。端部面取り１回。16は床面中央やや北西寄りでほぼ床直上で出土した平瓦。やはり薄手で凸面は平行叩後縦位撫で。側部の面取りは１回。17の平瓦は南壁際で床直上で出土した。薄手で凸面は平行叩後縦位撫で、凹面は布目だが指による縦位撫でが施される。面取りは側部２回、端部３回。18は掘り方調査で得られた平瓦。中位に欠損が見られるがほぼ完形といえよう。１枚作りで凸面は無文の叩、凹面は布目。各側部・端部の面取りは１回である。19の平瓦は竈燃焼部奥上層で出土した。凸面は無文叩、側部面取りは１回。

以上のように、本住居跡の遺物は居住に伴う日常什器の出土が極めて貧弱である。８～10の羽釜にしても、竈構築材の可能性が高く、煮沸に使用されたとは言い難い。また、坏・椀類も破片の出土で、良好なセットを構成していない。これは、住居跡廃絶時に日常什器類は遺棄されず持ち去られた状況と判断できよう。故に、本住居跡出土遺物は竈周辺の遺物以外は、廃絶後の流入と捉え得る。ただし、18の完形の平瓦はその状況に置くことはできず、床面下への何等かの利用を考えなければならない。しかしながら、本瓦の出土位置、レベルなどが判然とせず、明確な意義づけは避けなければならない。調査における反省材料である。

その他に、覆土中からではあるが、土錘の出土を見ている。１点のみの出土ではあるが、周辺遺跡の該期住居跡出土遺物に頻繁に見られる遺物であり、土錘による労働対象を想起せねばならないだろう。一般には魚網用の錘りとして位置付けられているが、１軒から出土する土錘の出土量は網錘としての数量には達しておらず、別の用途として使用される可能性も念頭におかなければならないだろう。また、魚類捕獲の場合、魚種・捕獲場所・網の形態などに興味が及ぶ。当地域における捕獲場所としては、鏑川や鮎川が指摘されるが、網が使用される場所は限定されるものと思われる。例えば両河川の合流地点などは、おそらく水深・魚量ともに良好な捕獲場所と考えられるが、このような場所は河川の場合、非常に限られた場所に限定されてしまう。その場合、１住居－１場所ではなく、共同作業による魚類捕獲を想定しなければならないだろう。１集落ないしは複数集落の共同作業が位置付けられれば、１軒当たりの土錘出土量の貧弱さも肯首できよう。

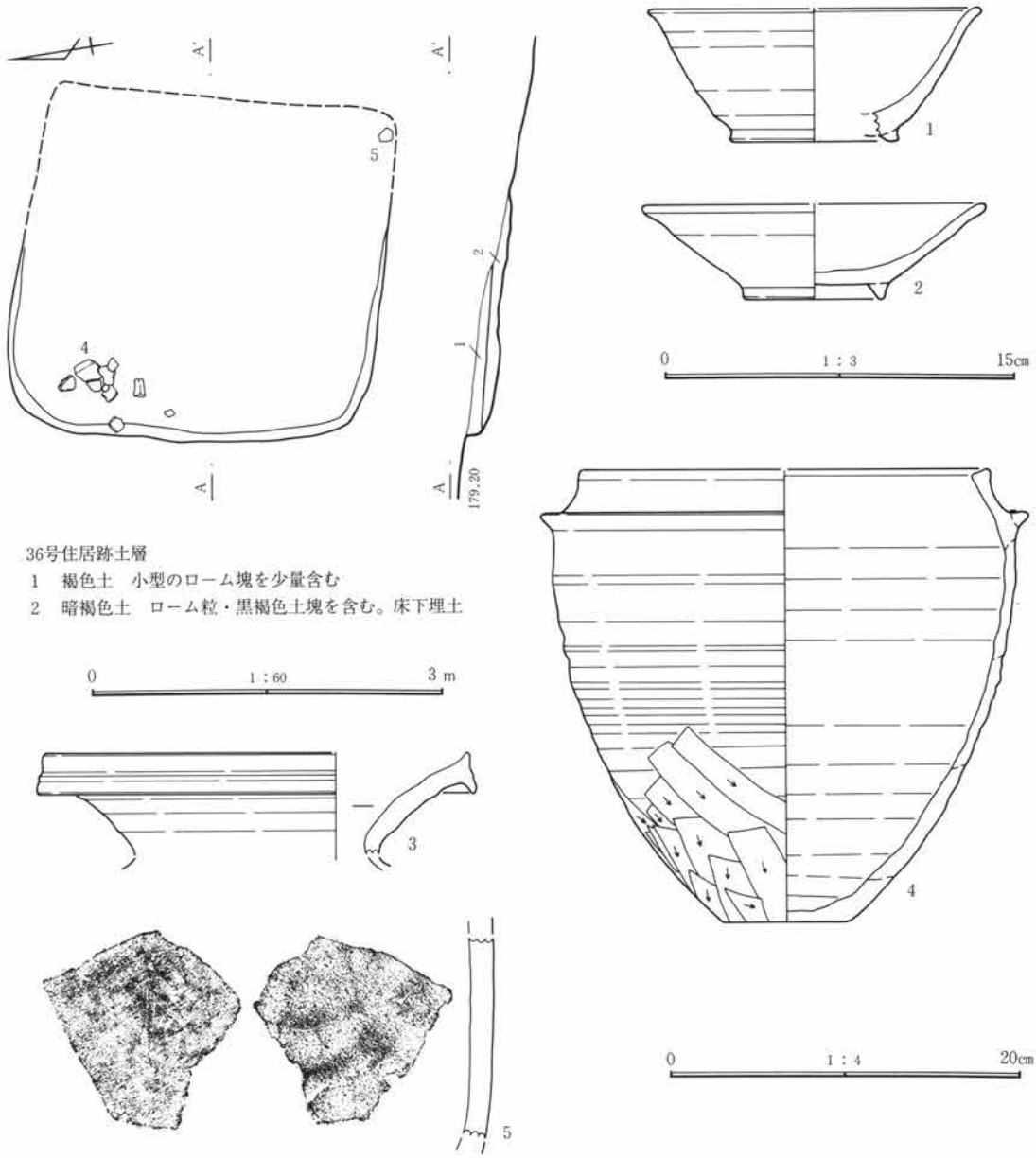
36号住居跡

中尾根東区の中央で前述の35号住の東に近接する。また、本住居跡の東には40号住居跡が接するが、重複はしていない。南側は比較的平坦な地形が展開し、土坑群が群在するが、本住居跡と重複するものは無く、単独の検出となった。

北側と東側は斜面地形のため、逸失しており平面形は不明である。北西隅と南西隅、および床面の痕跡からは大型の住居跡にはなり得ないようである。深さも約40㎝と浅く、遺存状態は不良である。

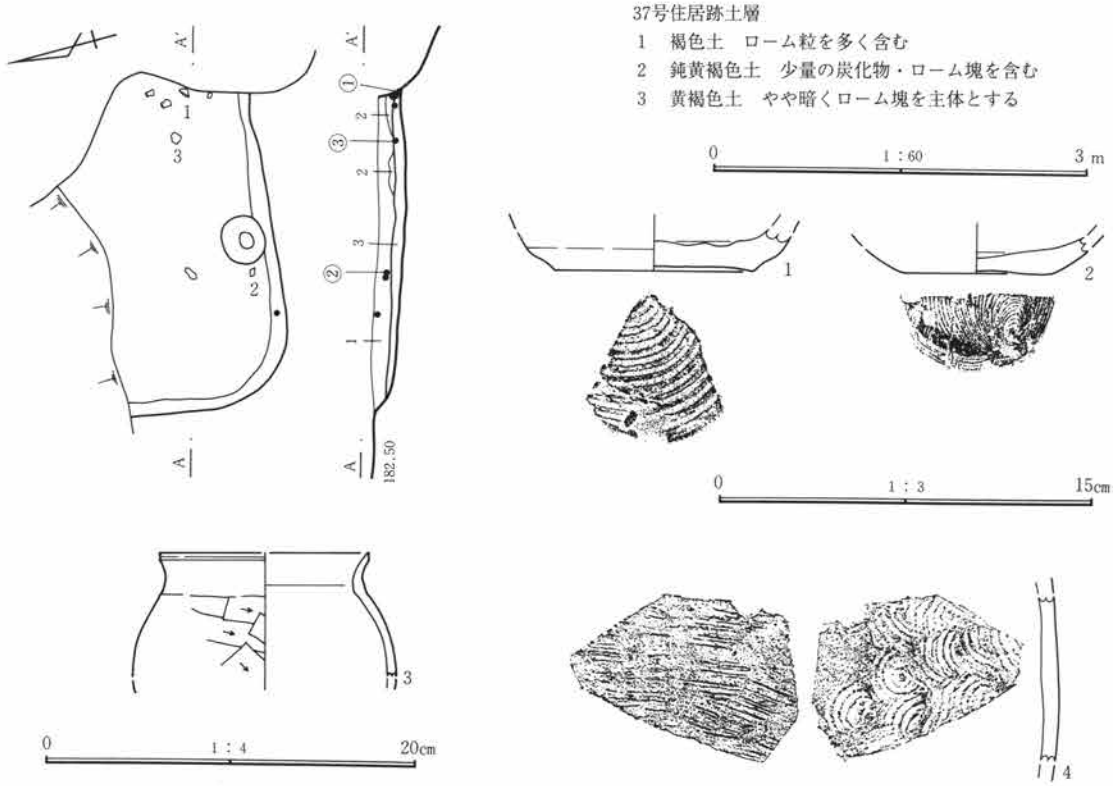
床面は、貼床がなされておりほぼ平坦面を築く。遺存状態は良くなく、硬化面も検出できなかった。貯蔵穴・柱穴・竈も検出されなかった。竈は南北西壁に痕跡が認められなかったことから、おそらく東壁に設置されたものと類推しその確認に努めたが、焼土・炭化物の散布も見られなかった。

出土遺物は総破片点数236点で遺存状態と比して多い。５点を図示し得た。１の高台付椀は床下出土。口縁部は外反し、高台は短い。内外面とも器壁剝落する。２の高台付皿も床下出土。比較的薄手の器厚を呈す。



88図　36号住居跡・出土遺物

3、須恵器甕口縁部破片。やはり床下調査で得られた。内傾する有段口縁中位に浅い沈線が巡る。4の羽釜は北西隅の床直よりまとまって出土した。床面が最も安定していた地点でもある。口縁部は湾曲を持ち内傾する。鍔は上位を向き短い。体部上半に膨らみを持ち、丸みを持って底部に至る。右回転轆轤整形で体部外面の轆轤目は強く凹線状になる。体部下半は縦位・斜位の篦削りが加わる。5は推定南東隅で出土した須恵器甕破片。内外面とも撫で調整が施される。器面の彎曲から大型の甕と思われる。



89図　37号住居跡・出土遺物

37号住居跡

調査区中央の中尾根東区と西区の境界で検出された。８号地壇状遺構（テラス）の北で１号道路上遺構の東に占地する。周辺は32号住の立地と同様に狭小な台地で急斜面が展開する。そのため、本住居跡も殆どが斜面のため流失状態を呈し、南壁と西壁の一部が検出されたのみで、遺存状態は不良と言えよう。また、東側には近世の耕作による攪乱坑や木根があり、斜面地形以上に本住居跡の遺存を悪くしている。

平面形はおそらく方形を呈するものと思われ、深さ約24cmと浅い。壁形状も緩やかな傾斜であり、プラン、床面形状などの資料としては積極性は無い。

床面は黄褐色ローム層土により貼床がなされている。ほぼ平坦面を築くが、東側には凹凸が見られ、北側へは若干ながら傾斜する。

柱穴は、南壁際に相応の小ピットを検出した。比較的深く、規模からも柱穴として位置付けたい。貯蔵穴・竈は検出されなかった。ただし、床面東側には炭化物と遺物の散乱が見られ、おそらく竈は東側に設置されたものと考えられる。

遺物は非常に少なく、出土総破片点数41点を数える。４点を図示したがいずれも破片状態のもので、本住居跡との密接な関連は疑問である。１は坏底部破片。外面は灰白色だが内面は鈍橙色を呈す。底部器厚は厚い。２も坏底部破片。外面は摩滅しており、器壁剝落する。３、土師器甕口縁部破片。小型甕である。口縁部は横撫で、体部外面は横位・斜位の篦削りが施される。内面は横撫で。全体に器面は摩滅する。４は須恵器甕体部破片。外面は平行叩、内面は青海波文。器厚は薄手である。その他に平瓦の細片が出土している。

38号住居跡

中尾根東区（G区）で検出された。単独の検出ながら周辺には28号・42号・43号・47号・49号住居跡が群在する。これらの住居跡の殆どが単独の検出であり、密集地域とはいえ、各々の住居跡の占地状況に一定の方向性が見られるのは興味深い。本住居跡の周辺地形はほぼ平坦である。この地形も住居跡が群在する一員となっているのだが、同時に遺存状態の良好さをも示す。

本住居跡の遺存も非常に良好で、深さ約82㎝を測る。平面形は約3.2×３ｍの長方形を呈すが、西辺が東辺に比べ短くやや不整な形状を取る。また、本住居跡の掘り込みの深さから、上層の堆積土が広く堆積し、かつ地山との区分に困難な均質土が見られたため、平面プラン確認に誤差が生じた。北側壁から西側壁にかけて著しく主軸の差が見られることになった。いわゆる過掘であるが、調査を進めるに従いしっかりした壁を検出し、90図に示したように内側の線を住居規模として捉え得た。

しかしながら、東側壁周辺は遺物が出土しており、一概に過掘として片付けられない。竈上段の棚（テラス）状遺構の可能性も、遺存状態の良さからも注視しておかなければならないだろう。

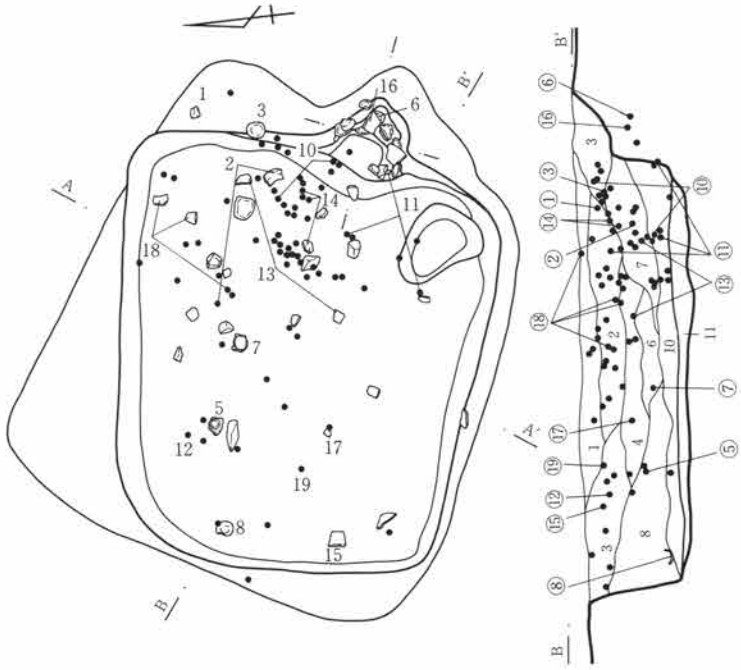
床面は平坦で、ほぼ全面にわたって鈍褐色土を堅く締めた貼床がなされていた。硬化面も全面に見られた。柱穴は見られず、貯蔵穴として南東隅に不整形の土坑が検出された。

竈は東壁やや南寄りに設けられる。燃焼部から奥壁にかけて自然石が検出された。構築材・補強材として壁に接するように埋められていたが、燃焼部の袖、天井部の自然石は検出できなかった。

床下遺構として、竈北側にかかる大型の土坑が確認された。不整形の平面形を呈し比較的深く、小型の自然石などの出土を見た。

出土遺物は多い。総破片点数676点を数え、19個体を図示した。図示し得なかった遺物では平瓦破片３点がある。遺物の分布は、平面的には竈前庭部および北東側に散漫ながらも、集中する傾向は見られた。層位置的には上層から中層にかけてが多く、床面に密着するものは少ない。土層の堆積線に沿う兆しもあり、自然埋没の伴う遺物の転落・廃棄が想起されよう。

１は東壁外より出土の坏。横撫でにより口縁部は緩やかに外反し体部下半に丸みを持たせる。２は直線的な体部形態を呈する坏。重量感がある。覆土出土。３は東壁に掛かるようにして出土した土師器坏。口縁部は横撫で、体部上半は篦削り後撫で、下半～底部は篦削りが施される。４、厚手の底部器厚を呈する坏。腰部は回転篦削り、撫でも加える。覆土出土。５の高台付椀は中央やや北西寄りの覆土中位より出土。轆轤目強く残る。６、大型の高台付椀。底部器厚は著しく厚い。高台内面は丁寧な撫で。竈内出土。７は中央部覆土下位出土の高台付椀。底部器厚は厚く高台端部は鋭い。重量感ある。８は北西隅覆土下位出土の須恵器坏。底部右回転篦削り。９、竈内および床下出土の蓋。上半は右回転篦削りを施す。10は竈内と前庭部覆土下位出土の大振りの須恵器坏。歪みがあり、薄手で緩やかな外反を見せる口縁部。体部は浅いもののやや古手の様相である。11は長頸瓶か、肩部に１条の沈線が巡る。竈内と前庭部・貯蔵穴覆土下位出土。12は５と共に覆土上層出土の大型の高台付椀。轆轤左回転整形で薄手の器厚を呈す。特に高台部は薄く鋭い作りを見せる。内面は橙色だが外面は灰色を呈す。13、短頸瓶。口唇部は復元実測である。体部外面平行叩が顕著である。前庭部覆土下位と中央覆土中位より出土。14は前庭部覆土上層出土の土師器甕。頸部は「く」字状に屈曲し、口縁部は直線的に開く。口縁～頸部横撫で後体部篦削りを施し、内面は横位篦撫で。15、須恵器甕口縁部破片。西壁寄りで覆土上層出土。口唇部に擦痕、波状文４段を看取する。16、竈内出土の須恵器大甕体部破片。外面叩き後撫で、内面同心円状当て目。17も須恵器大甕体部破片。中央覆土中位出土。外面平行叩後撫で、内面同心円状当て目。18も須恵器大甕破片。外面平行叩、内面同心円状の当て目。北東側で覆土上層。16～18は同一個体の可能性も



38号住居跡土層

1	暗褐色土	黒褐色土と斑状堆積。炭化物・ローム粒を含む
2	〃	均質でやや明るい。炭化物を少量含む
3	鈍褐色土	均質。炭化物を少量含む。しまりに富む
4	暗褐色土	均質。大型の炭化物を多く含む
5	〃	均質でやや暗い。ローム粒を少量含む
6	〃	炭化物を多量に含む。焼土も認められる
7	〃	ローム塊を斑状に含む。焼土粒微量含む
8	明褐色土	均質でやや明るい。ローム粒を含む
9	〃	明るい。ローム塊の斑状堆積
10	鈍黄褐色土	ローム塊を主体とする。しまり乏しい
11	鈍褐色土	ローム塊を主体とし、上面硬化。灰色粘土塊を含む

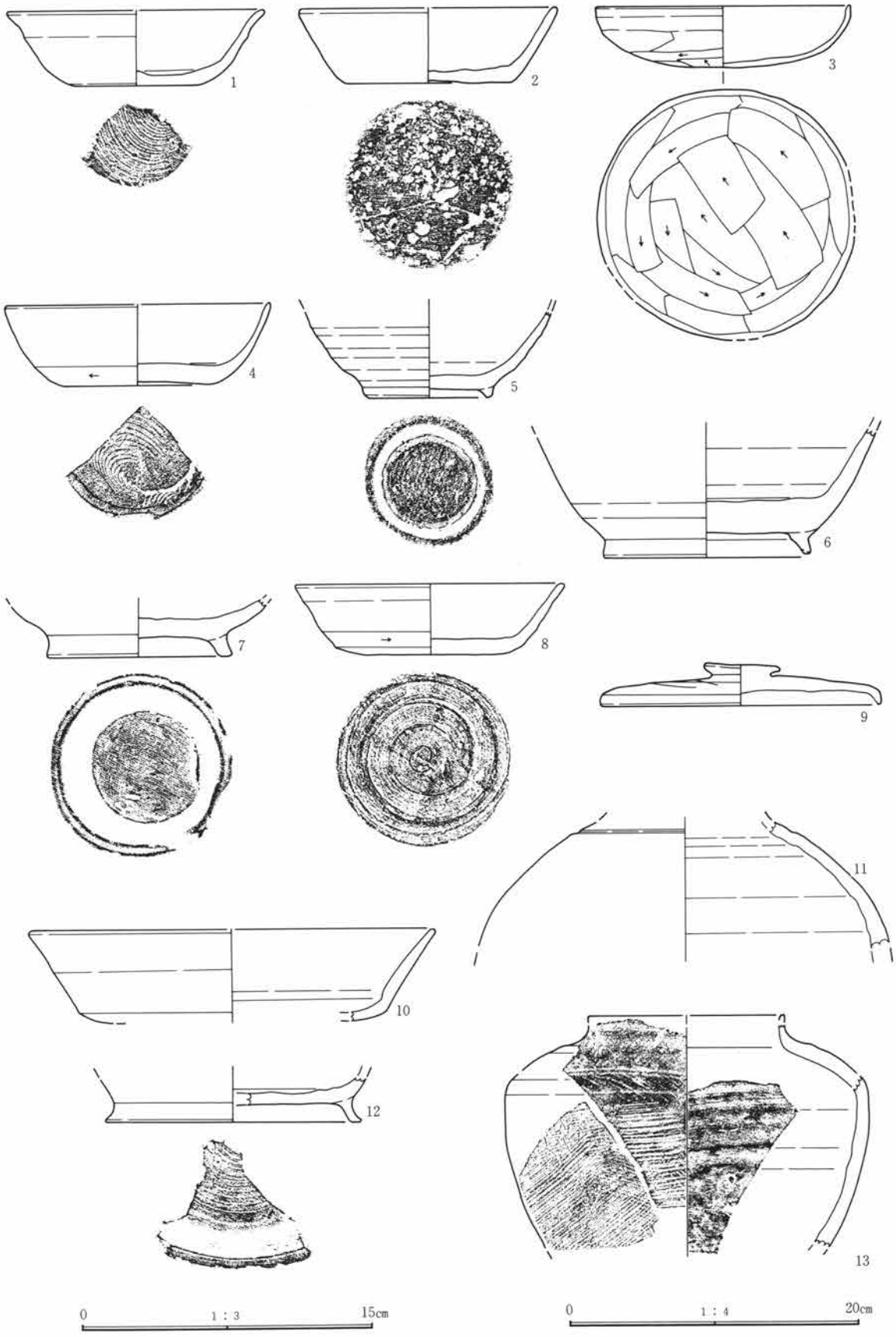
竈土層

1	鈍褐色土	少量の炭化物を含む
2	〃	均質。焼土粒を少量含む
3	黒褐色土	黒色灰・焼土粒を含み、しまりは乏しい
4	暗赤褐色土	焼土塊を含む。崩壊土か
5	暗褐色土	少量の炭化物を含む
6	赤褐色土	焼土層。堆積は比較的厚い
7	明褐色土	ローム塊を主体とする。掘り方埋土

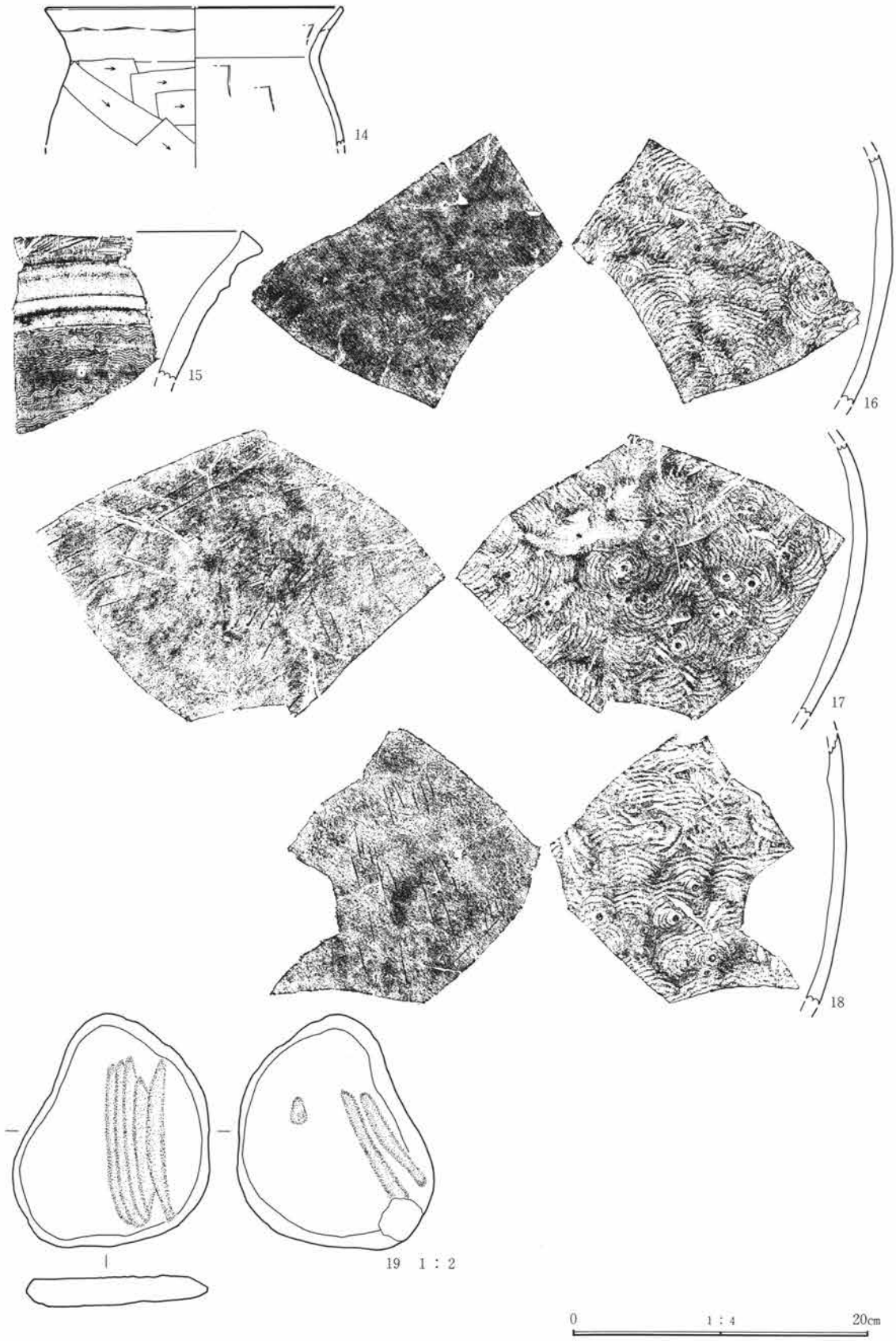
0　1：60　3 m

0　1：30　1.5m

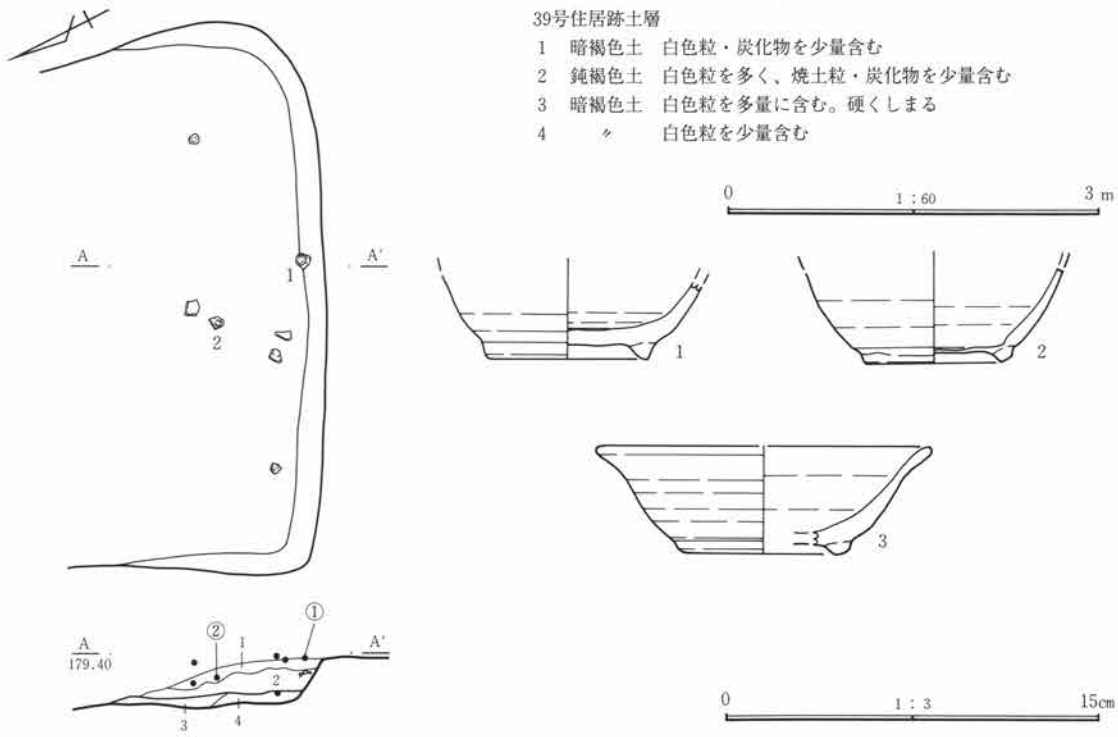
90図　38号住居跡



91図　38号住居跡出土遺物（1）



92図　38号住居跡出土遺物（２）



93図　39号住居跡・出土遺物

ある。19は中央やや西寄りで覆土上層出土の有溝砥石。砂岩製で両面に数条の同一方向の研磨痕がある。

本住居跡の出土遺物は多く、遺存状態も良好である。壁外とはいえ１・３の坏、２・８・９の小型器種の一括性はある程度の保証があるが、10の大型の坏は口縁部の歪みを考慮に入れても、やや古い様相も看取され、疑問が残る。また、16～18の大甕破片は竈構築材としての使用もあろう。

39号住居跡

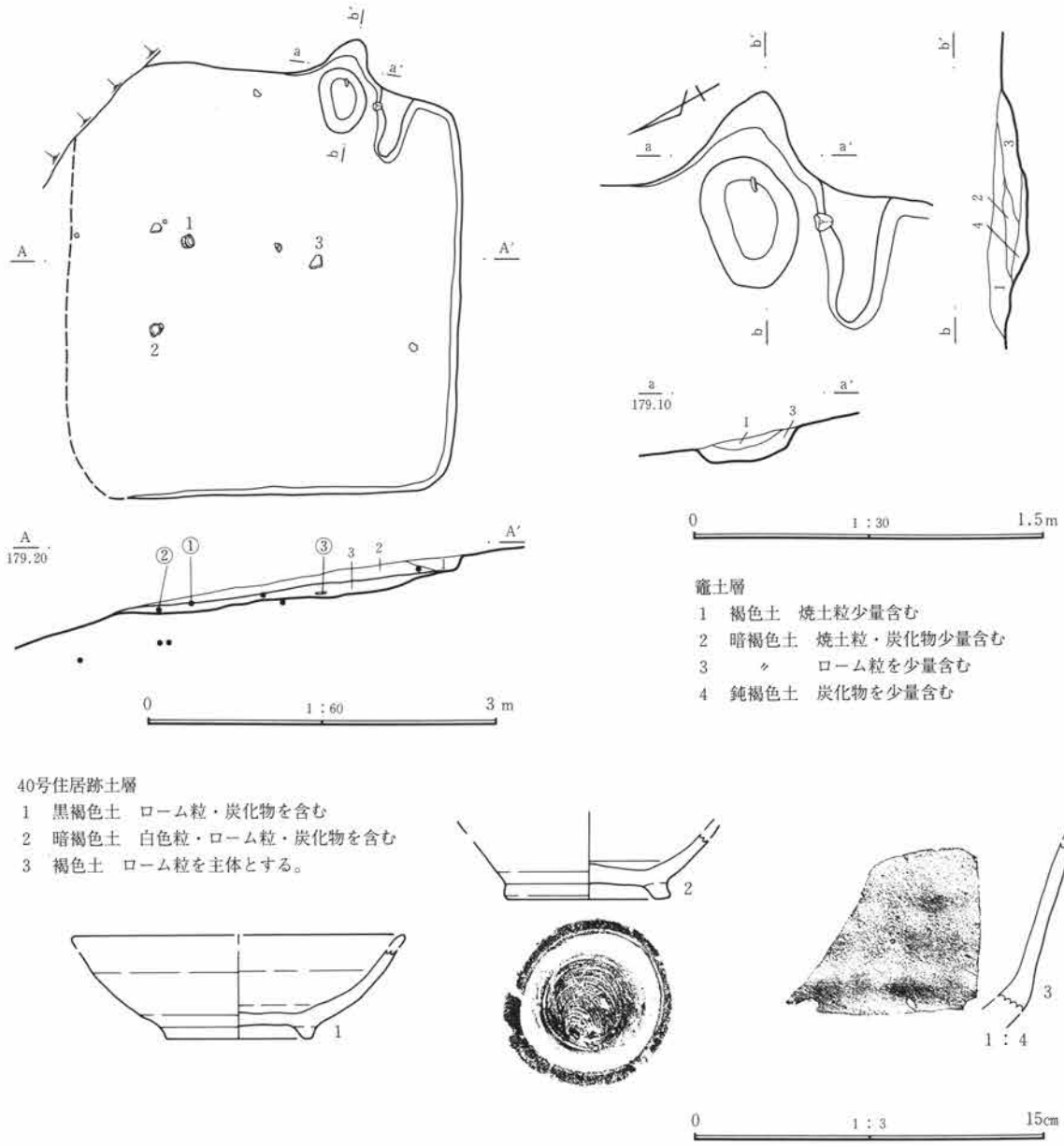
中尾根東区（Ｆ区）の東方で検出した。31号住の北東に近接する。北側は崖状の急斜面であり、そのため本住居跡の北半分は大きく逸失している。

平面形は判然としないがおそらく主軸長約4.3m程度の長方形を呈するものと思われ、遺存の良好な箇所で壁高約40cmを測る。遺存は不良といえよう。ただ、南側の壁の掘り込みはしっかりしており、床面の状態も加味して住居跡としての妥当性は非常に高い。

床面の遺存も悪く南側壁に沿って貼床が確認されたにすぎない。貼床は暗褐色土を基調としており、硬化面は中央部分に僅かに確認できた。

竈・柱穴・貯蔵穴も検出できなかったが、床面北東側に少量の炭化物が散布しており、あるいは東側壁に竈が設けられていた可能性もある。

出土遺物総破片数は68点と少なく、３点が図示し得たのみである。この他に、瓦小片が数点出土している。１は南側壁上層で出土した高台付椀。高台は短い。やや砂質で全体に摩滅している。２は中央やや南寄り上層出土。やはり高台は短く、底部器厚は著しく薄い。３は覆土出土。口縁部は外反し高台は短い。体部下半～底部器厚はやや厚手である。



94図　40号住居跡・出土遺物

40号住居跡

中尾根東区のＧ区とＦ区の境界にあたる中央部分に位置する。西に36号住、南東に41号住居跡が近接するが、重複しておらず、単独の検出となった。本住居跡の北側は崖状の急斜面であり、住居跡北側は逸失している。ただし南側は平坦地形であり、土坑群などの遺構が密集している。

平面形は北東隅が逸失してるものの、床面の状態から推定を及ぼし、辺長約3.3ｍの正方形を呈する住居と確認した。尚、壁高は約42㎝と遺存が悪い。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南側と西側で辛うじて確認でき、他は斜面地形のため浅く判然としない。

床面は、褐色土（３層）を埋めた貼床であり、西側から南側にかけて中央部分を中心に硬化面が確認できた。北側は斜面地形だが、埋土の褐色土が散乱しており地山ロームとの色調差から床面範囲を確定した。

柱穴・貯蔵穴は無かった。また、掘り方調査を試みたが、明瞭な床下遺構は確認できなかった。

竈は東壁の南東隅寄りに設けられる。南側に袖が検出されたが、おそらく北側袖は逸失されたのであろう。馬蹄状の燃焼部で中央に僅かな掘り込みを持つ。掘り込み内には炭化物が少量含まれるが、灰・焼土は微量である。おそらく、掘り込みは竈掘り方と同様の性格といえよう。袖はローム塊と褐色土によるもので、内面が僅かに焼土化していた。その他の構築材・遺物の出土は無く、遺存状態は良くない。

遺物は総破片数68点と少なく、3点を図示し得たのみである。この他に、瓦小片が出土している。1は中央やや北寄りの床直で出土した高台付椀。口唇部は欠損する。口径は若干大きく、底部器厚は薄手である。2は北西寄りの床直より出土。高台付椀底部である。高台は開き気味で、全体的にやや厚手の器厚を呈す。3は須恵器大甕体部破片。おそらく底部付近の部位と思われるが、器面全体の歪みが著しく判然としない。また器肉は多孔質で製品としては不完全な焼成である。

41号住居跡

中尾根東区、前述の40号住南東に位置する。本住居跡南には46・60号住居跡が重複して近接するが、本住居跡に重複する住居跡は無く、単独の検出となった。本住居跡に重複する遺構は竈煙道部に僅かに131号土坑がかかるが、新旧は本住居が切る状態であり、竈の遺存度には影響は無い。ただし、南東隅は近代の攪乱坑によって破壊されている。また、39・40号住の北側部分を逸失した因である崖状の急斜面は本住居跡の北側にあたるが、傾斜は本住居跡には及ばず、住居跡遺存に影響は無かった。

平面規模は約3.4×3.3mで主軸が僅かに優勢ながら、正方形に近い平面プランを呈す。壁高は約60cmと比較的良好な状態であり、壁も緩やかな立ち上がりながらしっかりした掘り込みである。

床面は、僅かな凹凸をもつもののほぼ平坦面を築き、灰褐色土による貼床がなされていた。硬化面は全面に渡って認められたが、特に中央部分と竈周辺にかけて著しく硬く叩き締められており、床面の検出は比較的容易だった。

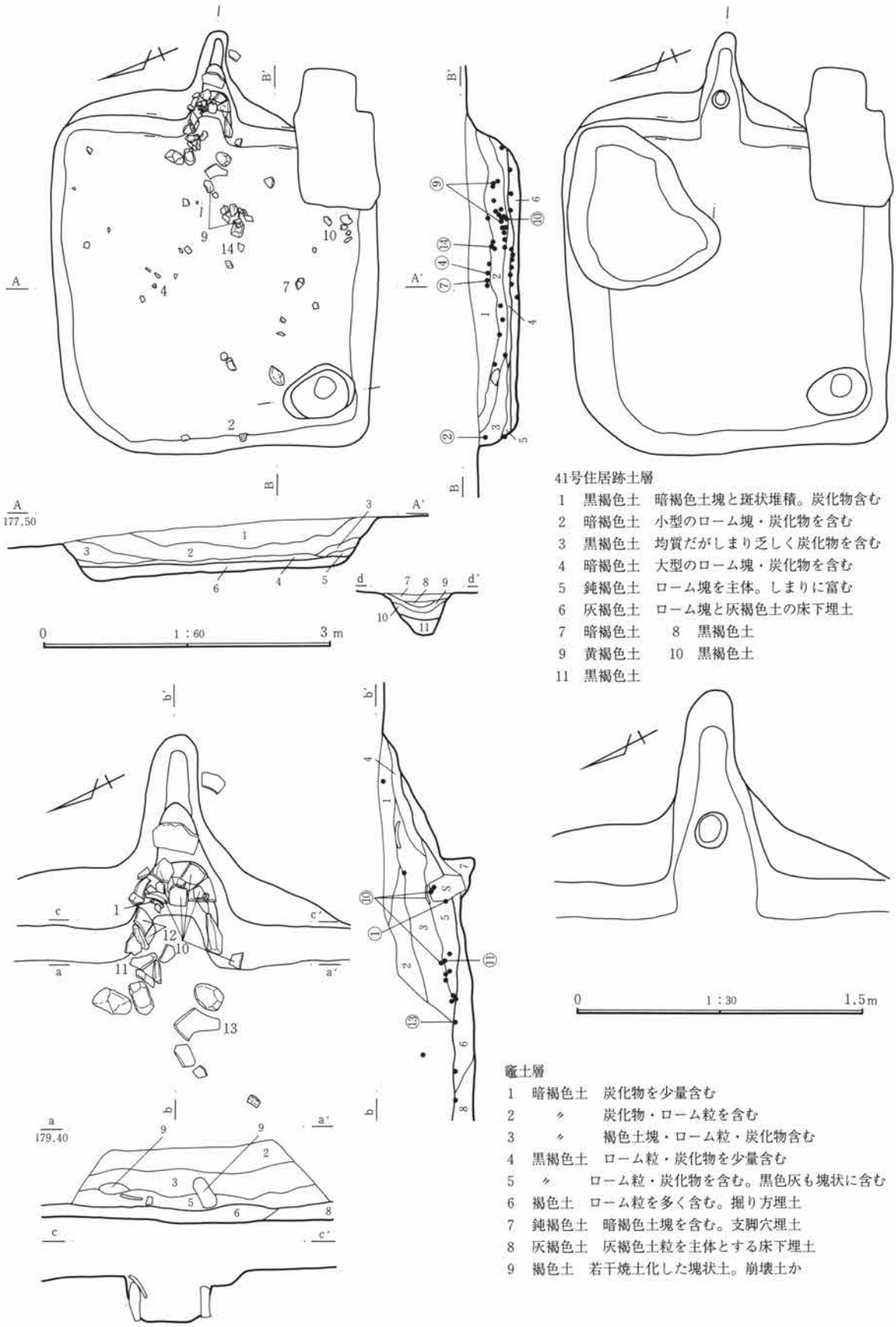
調査当初、竈南西部分に円形の土坑状プランがありこれを貯蔵穴として考えたが、非常に浅くあるいは重複遺構の可能性も覆土から考えられたため、貯蔵穴としての可能性を希薄なものとした。一方南西隅に不整形の土坑が検出され、掘り込み・規模・覆土の様相からこちらを貯蔵穴として位置付けた。尚、壁周溝・柱穴は無かった。

竈は東側壁のほぼ中央に設けられる。煙道を突出し馬蹄状の燃焼部を持つ。燃焼部中央には棒状自然石の支脚が差し込まれ、上端には土釜体部破片が置かれていた。この土釜破片は燃焼部を囲むように出土し、補強材として使用されたものと思われる。補強材は自然石も利用されており、両脇に立位で検出されている。また、煙道部と燃焼部の境には羽釜体部破片が出土しているが、これも天井材として使用されたものであろう。竈前庭部に散乱する自然石、瓦破片も構築材・天井材の可能性が強い。

竈北側と南側で棚状の段が検出されている。38号住竈周辺の様相と類似しており、この段を壁崩落によるものと短絡的には考えず、何等かの設備としての位置付けも今後必要であろう。

床下遺構としては、北東隅に大型の土坑が検出されている。埋土はローム塊を含む褐色土で、床下土坑として認定したが、性格などは不明である。

遺物は比較的多く出土した。出土総破片数は483点を数え、14個体を図示した。特に竈周辺と床面中央部にかけて密度が濃く、南側壁際や西側にかけても少量ながら出土している。出土層位は中層より床直上が最も目立ち、上層出土の遺物は小破片である。1は小型の坏。竈内使用面上より出土した。薄手ながらしっかりした作りで丁寧な仕上げである。2は西壁上層出土の坏。口縁部は緩やかに外反し比較的大口径を測る。



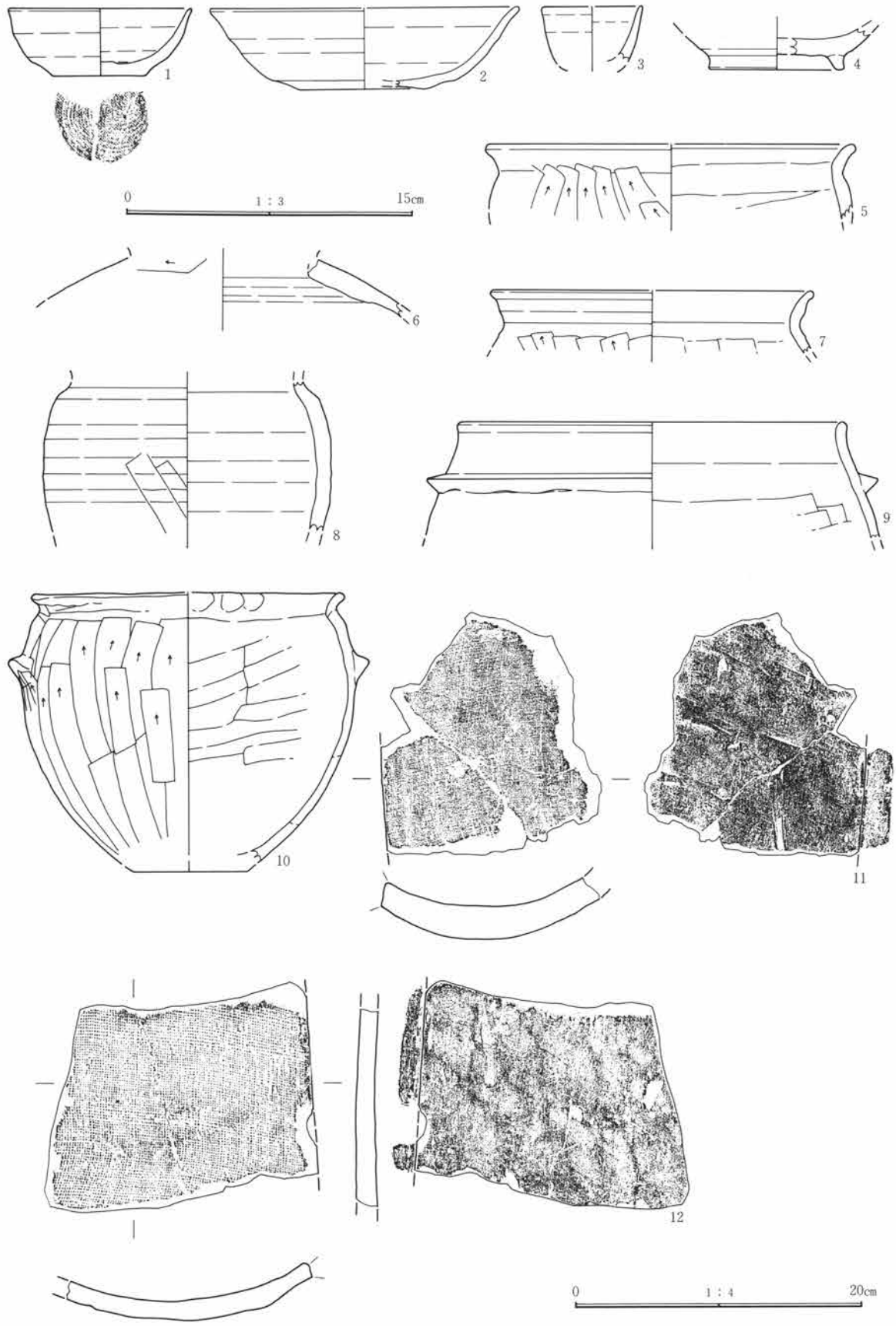
41号住居跡土層

1　黒褐色土　暗褐色土塊と斑状堆積。炭化物含む
2　暗褐色土　小型のローム塊・炭化物を含む
3　黒褐色土　均質だがしまり乏しく炭化物を含む
4　暗褐色土　大型のローム塊・炭化物を含む
5　鈍褐色土　ローム塊を主体。しまりに富む
6　灰褐色土　ローム塊と灰褐色土の床下埋土
7　暗褐色土　　8　黒褐色土
9　黄褐色土　　10　黒褐色土
11　黒褐色土

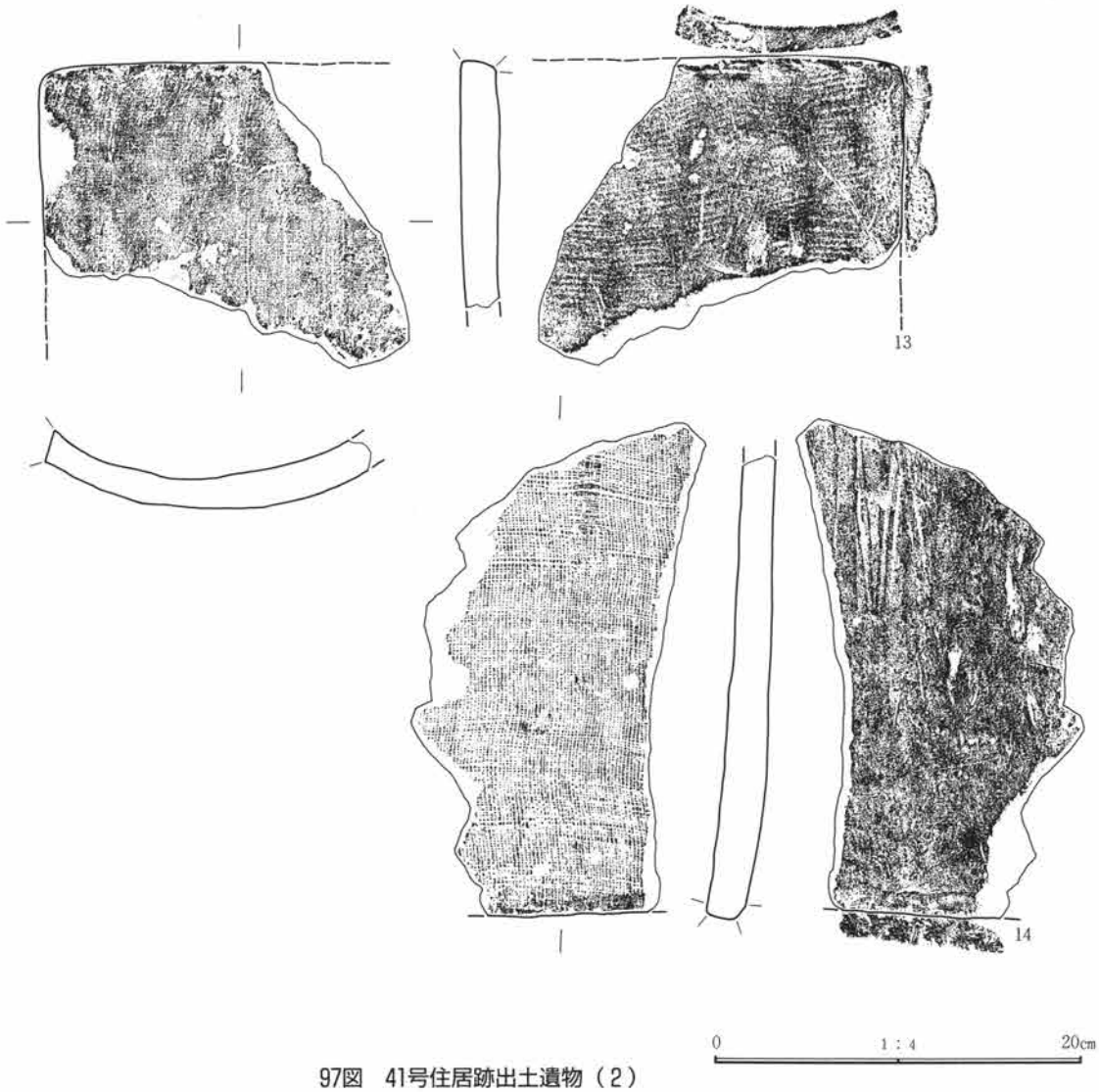
竈土層

1　暗褐色土　炭化物を少量含む
2　〃　炭化物・ローム粒を含む
3　〃　褐色土塊・ローム粒・炭化物含む
4　黒褐色土　ローム粒・炭化物を少量含む
5　〃　ローム粒・炭化物を含む。黒色灰も塊状に含む
6　褐色土　ローム粒を多く含む。掘り方埋土
7　鈍褐色土　暗褐色土塊を含む。支脚穴埋土
8　灰褐色土　灰褐色土粒を主体とする床下埋土
9　褐色土　若干焼土化した塊状土。崩壊土か

95図　41号住居跡



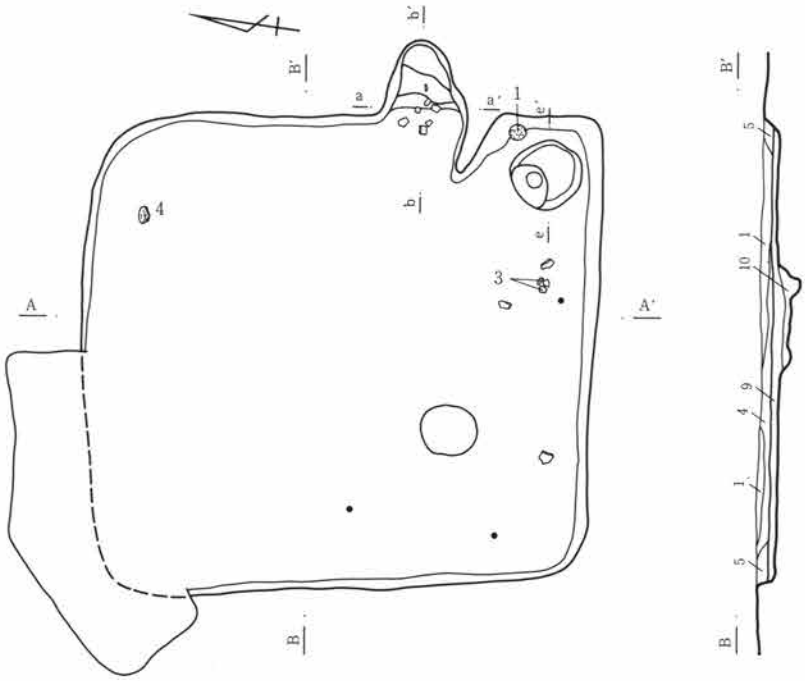
96図　41号住居跡出土遺物（1）



97図　41号住居跡出土遺物（２）

３は小坏であろうか。還元焔焼成で器肉は多孔質である。口縁部に歪みもあり製品とは思えない。覆土出土。４は中央やや北寄りの上層出土の高台付椀底部片。５は土釜。酸化焔焼成で口縁部横撫で後体部縦位箆削り。覆土出土。６は長頸瓶。轆轤整形で肩部には横位箆削り。覆土出土。７も土釜である。５と口縁部形態に差がある。内面体部に横位箆撫で。中央南寄りの上層出土。８、甕体部破片。轆轤整形で体部下半に斜位箆撫でが及ぶ。覆土出土。９は羽釜。中央と竈前庭部の覆土中位出土。体部箆削り後撫でを施す。内面箆撫で。10、両鍔の土釜。口縁部横撫で後体部外面箆削り。下半の一部には撫でが及ぶ。体部内面は横位箆撫で、下半は器壁剝落が著しい。竈内出土、補強材としてか。11の平瓦も竈内。補強材としてか。側部面取り１回。凸面は無文叩き後撫で、凹面の布目は細かい。12も平瓦。凸面は無文叩き後撫で、側部面取り１回。覆土出土。13の平瓦は竈前庭部より出土した。これも竈補強材の可能性がある。側部１回、端部の面取りは２回。凸面調整は平行叩き後撫で。14は中央覆土中位出土。端部に３回の面取り。凸面は縦位箆削り。厚手である。

本住居跡の特殊な遺物として、10の両鍔の土釜が挙げられる。日常什器ではなく竈補強材としての出土であり、居住に伴うものとして位置付けられる。鍔を両端に設ける本器種の類例は少なく、土釜と羽釜の関係を考える際の資料となろう。



42号住居跡土層

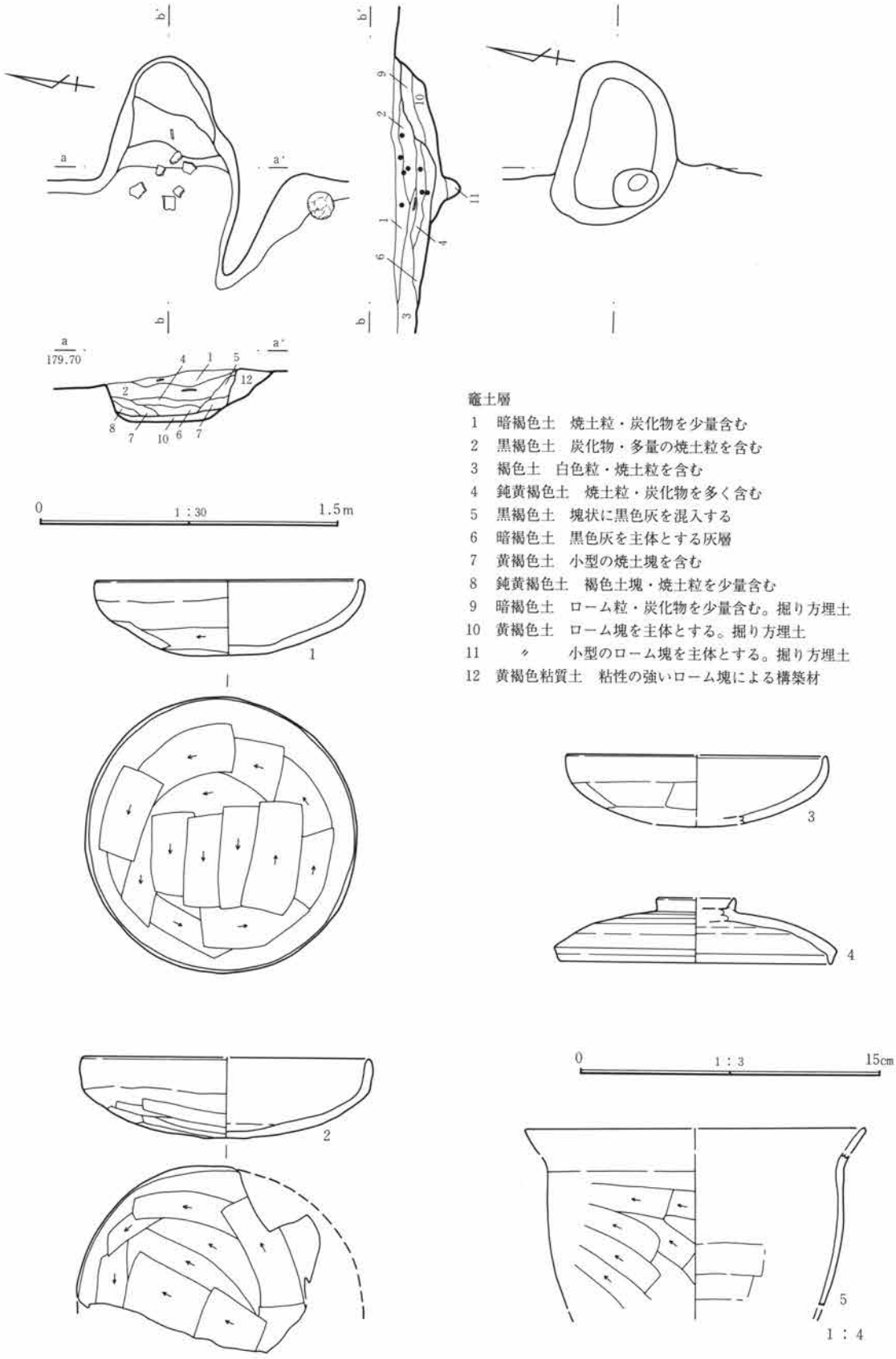
1　鈍褐色土　均質。白色粒を多く含む
2　鈍黄褐色土　均質。白色粒・ローム粒を多く含む
3　褐色土　均質。焼土粒を少量含む
4　鈍褐色土　均質。ローム塊を少量含む
5　褐色土　均質。白色粒を少量含む
6　〃　ローム粒を少量含む
7　赤褐色土　焼土塊主体。床下土坑埋土
8　黄褐色土　ローム塊主体。床下土坑埋土
9　鈍黄褐色土　ローム塊を主体とした貼床土
10　〃　ローム塊は少量。床下埋土

貯蔵穴土層

11　暗褐色土　焼土粒・炭化物を少量含む
12　〃　やや明るい。
13　黒褐色土　焼土粒・炭化物を多く含む

0　1：60　3 m

98図　42号住居跡



99図　42号住居跡竈・出土遺物

42号住居跡

中尾根東区のほぼ中央で、38号・43号・47号・48号住居跡や６号溝、土坑群などの遺構が密集する地点に位置する。本住居跡は76号土坑と重複するが、他の住居跡とは重複せず住居自体は単独の検出と言えよう。76号土坑は本住居跡の北側から北西隅に重なり、本住居跡を切る新旧関係を見せる。また、近代の攪乱が北壁に沿い、試掘時の小トレンチも南西床面を壊す。

平面形は辺長約3.6ｍのほぼ正方形で、壁高は約36㎝とやや遺存は悪いといえよう。床面は平坦で貼床をなす。硬化面は顕著ではなく、脆弱な床面である。柱穴は確認されず、唯一南西寄りに検出された小ピットも浅く、覆土から近代の所産と認定した。貯蔵穴は竈南側の小土坑が充てられる。

竈は東壁やや南寄りに設けられる。南側の袖のみが残存していた。地山ロームの作り出しで、低く遺存は悪い。燃焼部は馬蹄状で比較的しっかりした掘り込みである。土師器甕の細片や焼土粒が散布していた。掘り方調査において、燃焼部の南側で小ピットが検出されたが、あるいは支脚の抜き取り穴の可能性もある。

出土遺物は少なく総破片点数は158点を数え、５個体を図示し得た。尚、瓦細片も出土している。１は竈南側の袖際で出土した土師器坏である。口唇部は僅かに内彎し、口縁部内外面とも横撫で、体部外面は篦削りを施す。内面は撫で調整が及ぶが凹凸が大きい。２は竈内覆土出土。土師器坏。比較的直立気味の口縁部を呈し身浅である。口縁と体部の境界は篦削り後撫でが及ぶ。３も土師器坏。貯蔵穴西側の床直で出土。口縁部横撫で、体部篦削り後撫で。内底面の器壁剝落多い。４は須恵器坏蓋。頂部は回転篦削り。薄手ながらしっかりした作り。外面に凹凸が僅かに見られる。５は土師器甕。口縁部は欠損。緩やかに外彎する頸部形態であろう。器厚は薄く、体部外面は横位・斜位の篦削り。内面は横位篦撫でを施す。

43号住居跡

横長長方形の住居跡である。６号溝を挟んで42号住の西にあたる。周辺は平坦地形で遺構密集地域だが、本住居跡は他の住居跡の重複は無い。ただし、住居跡中央に試掘トレンチが東西に走り竈を破壊している。

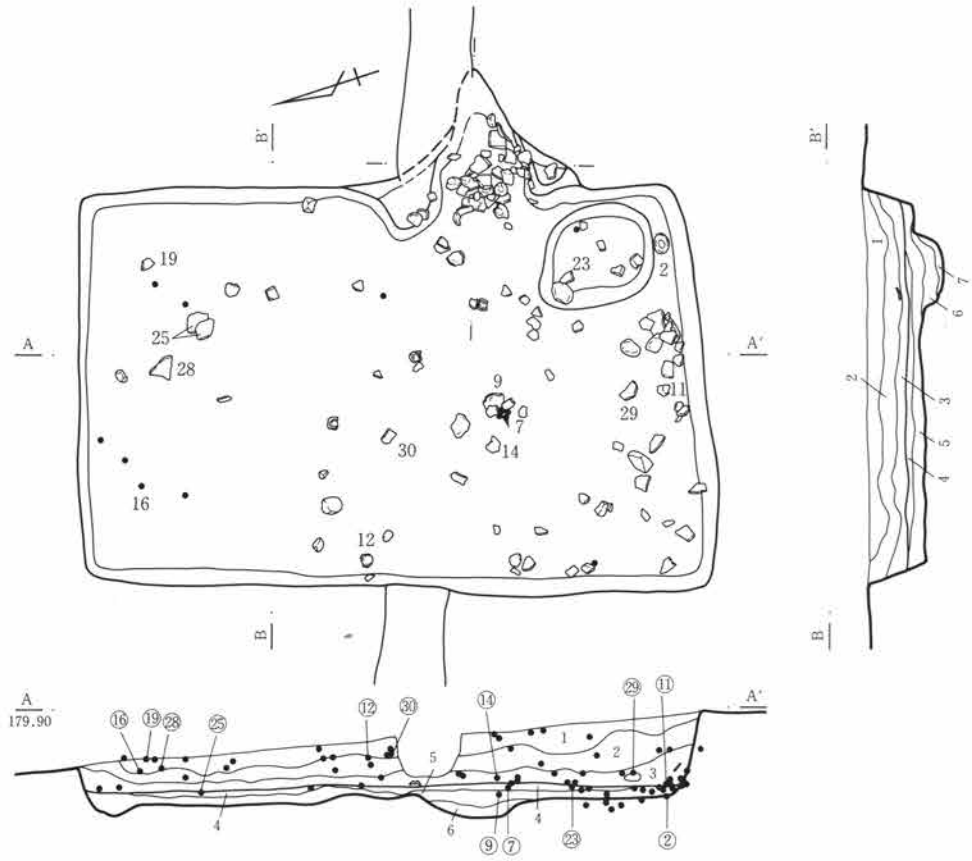
平面形は約3.2ｍ×５ｍの横長長方形で、深さは約48㎝を測り比較的良好な遺存状態を呈している。壁も直立気味に立ち上がり、しっかりした掘り込みである。

床面はほぼ平坦面を築き、鈍黄褐色土の貼床がなされていた、上面は硬く叩き締められ、特に竈前と中央部分に顕著な硬化面が確認された。柱穴は確認されなかったが、貯蔵穴は南東隅に設けられている。比較的大型の土坑だが、床面確認段階では検出されず掘り方調査によって得られた。

竈は東壁やや南寄りで検出された。舌状の燃焼部と短い煙道で、前述の試掘トレンチで北側の上半部分を逸失している。袖は両袖とも短いものの、北側袖は比較的顕著である。南側袖は瘤状で両袖が非対象な状態で検出された。構築材は残っておらず、燃焼部に散乱する羽釜底部や瓦が破壊された状態を呈している。ただし、燃焼部中央僅かに南寄りで出土した高台付椀は使用面で逆位出土であり、その上面には小型の自然石が置かれたような状態で検出できた。あるいは支脚としての機能を果たし得た可能性もある。竈掘り方調査では、焚き口部分に小ピットが検出されている。ローム塊などを含むことから、構築時の所産であろう。

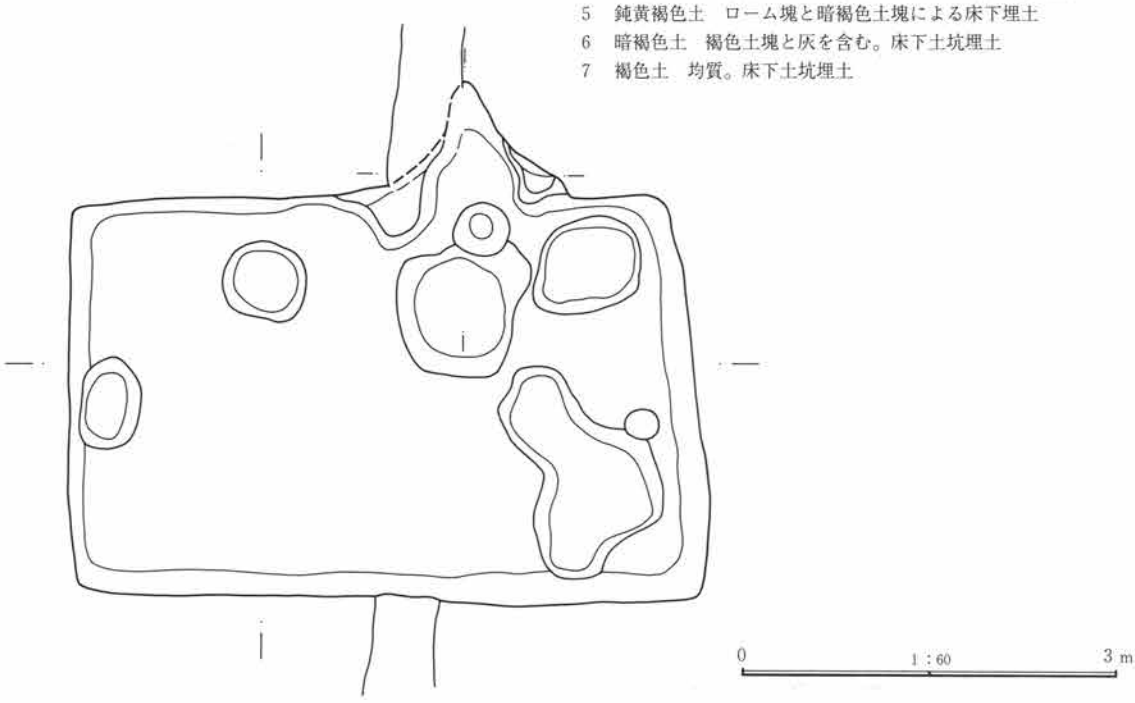
その他の床下遺構として竈前庭部分に大型の土坑、やや北東寄りと北壁際に小型の土坑、及び南西隅に不整形の土坑が検出された。床下土坑として位置付けられる。

出土遺物は総破片点数478点を数え、多くの遺物を得た。住居跡全面から満遍なく出土しており、特に竈周辺の集中が見られる。１の坏口縁部は緩やかな外反を呈し底部中央肥厚する。竈内出土。２は南東壁際床直出土。口縁部内外面に微量の油煙付着。３は竈内出土。高台貼付時の横撫で強い。４も竈内。前述の支脚として

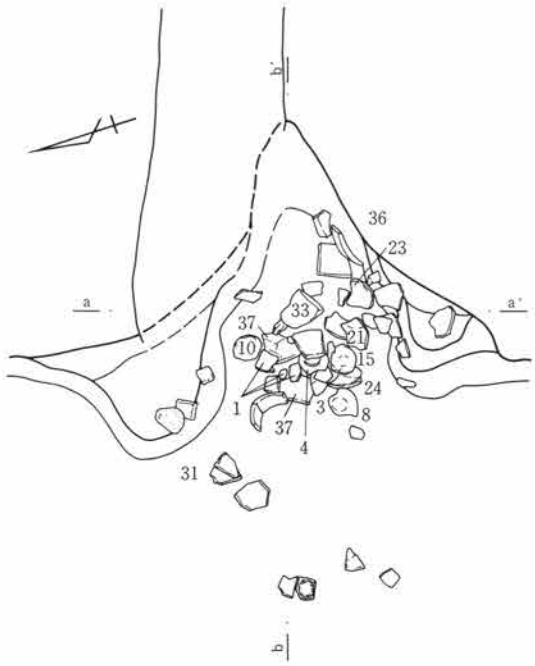


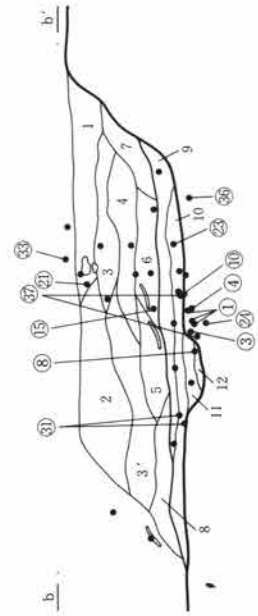
43号住居跡土層

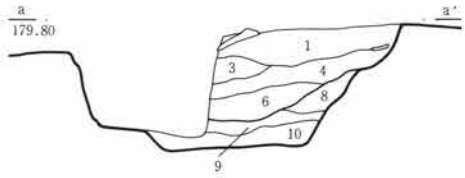
1　暗褐色土　均質。ローム粒・炭化物を少量含む
2　黒褐色土　均質。暗褐色土塊と斑状堆積。炭化物を微量含む
3　黒褐色土　均質。暗褐色土塊を多く含む。
4　暗褐色土　黒褐色土塊と暗褐色土塊による貼床土。硬化
5　鈍黄褐色土　ローム塊と暗褐色土塊による床下埋土
6　暗褐色土　褐色土塊と灰を含む。床下土坑埋土
7　褐色土　均質。床下土坑埋土



100図　43号住居跡（１）

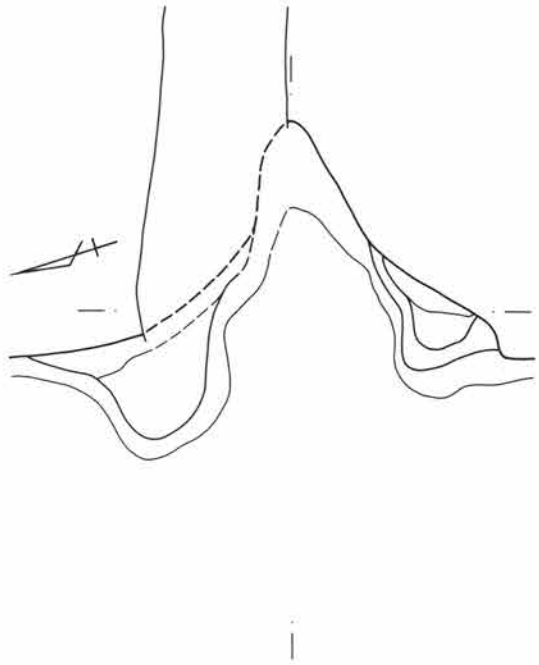


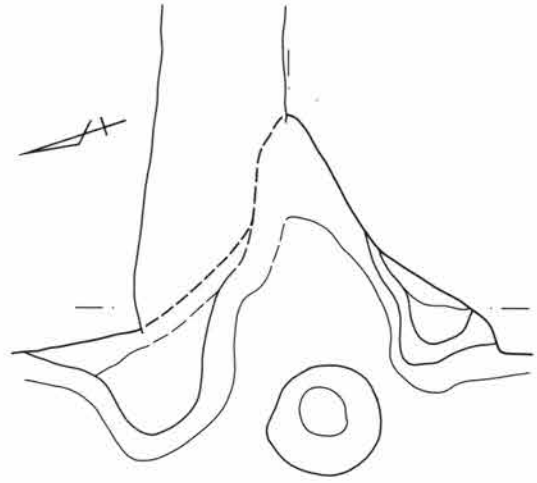




竈土層

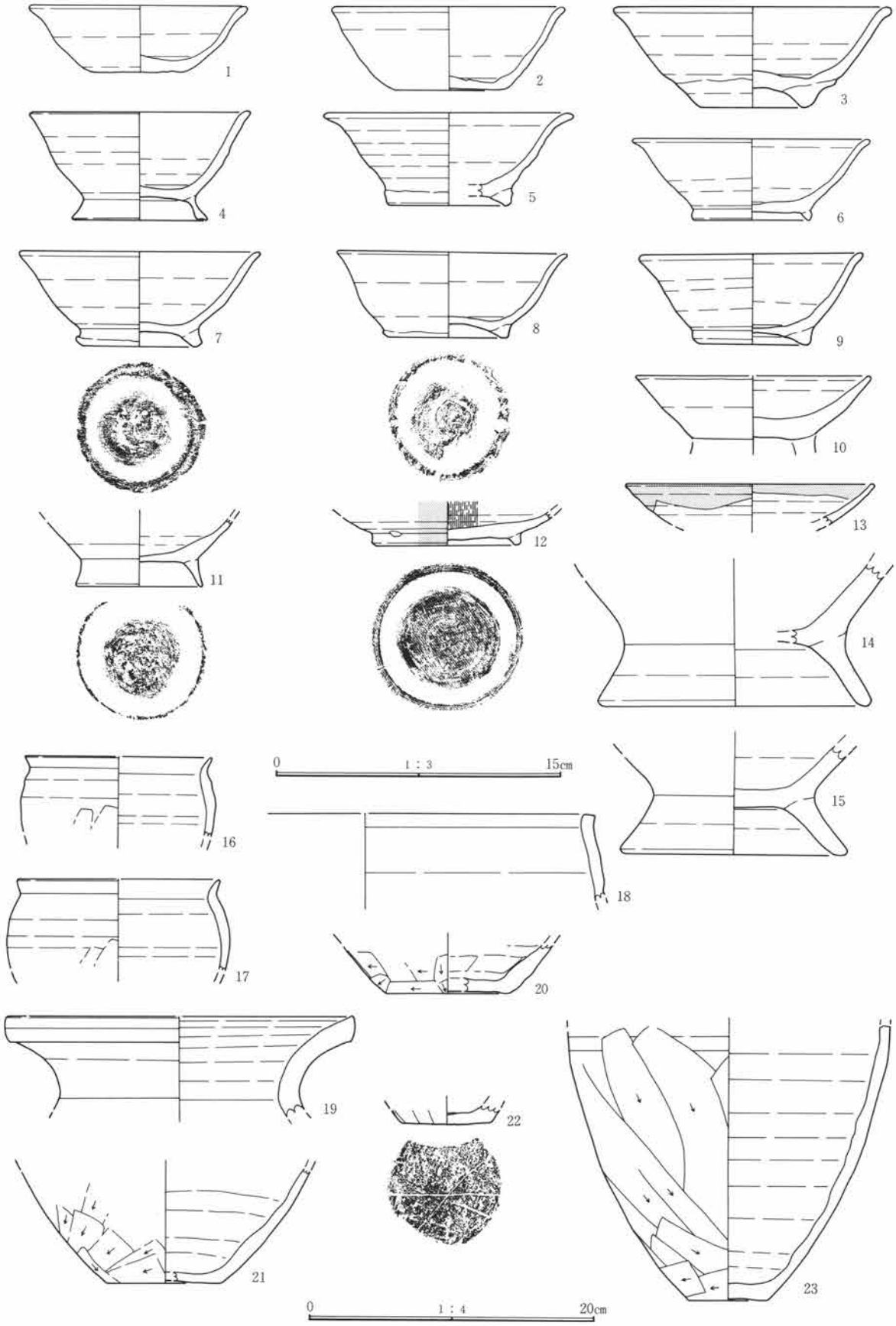
1　褐色土　ローム塊を多く含む。焼土粒少量
2　〃　ローム塊少量含む
3　暗褐色土　白色粒・焼土粒を含む
3′　〃　白色粒・焼土塊を含む
4　鈍褐色土　均質。しまりは非常に強い
5　〃　ローム塊・焼土塊を少量含む
6　暗赤褐色土　焼土塊を多く含む
7　褐色土　焼土粒を少量含む
8　暗褐色土　焼土粒を多く含む
9　褐色土　ローム粒を少量含む。掘り方埋土
10　鈍黄褐色土　小型のローム塊を多く含む。掘り方埋土
11　暗褐色土　ローム粒を多く含む。床下土坑埋土
12　〃　ローム塊を多く含む。床下土坑埋土



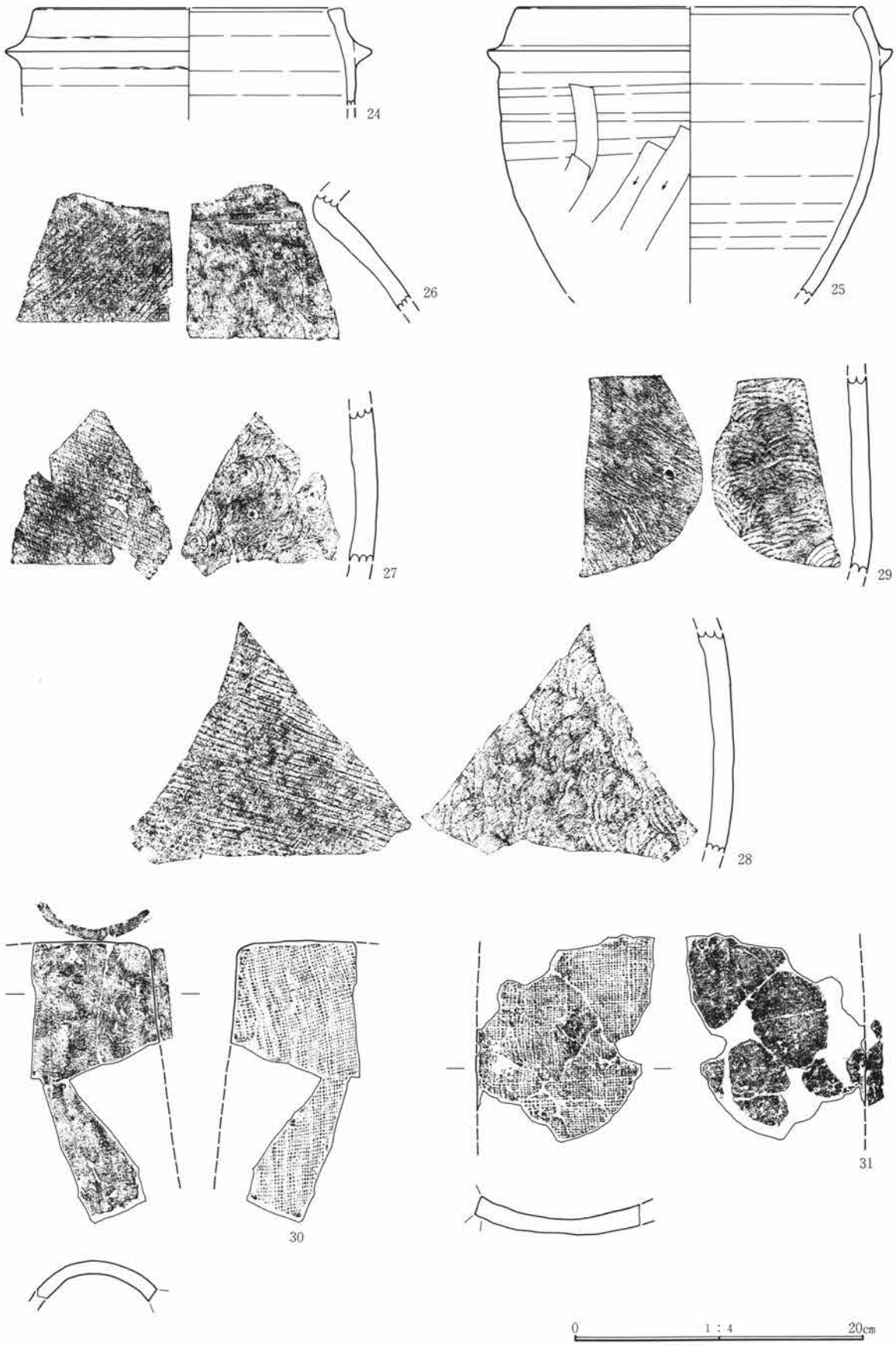


0　1：30　1.5m

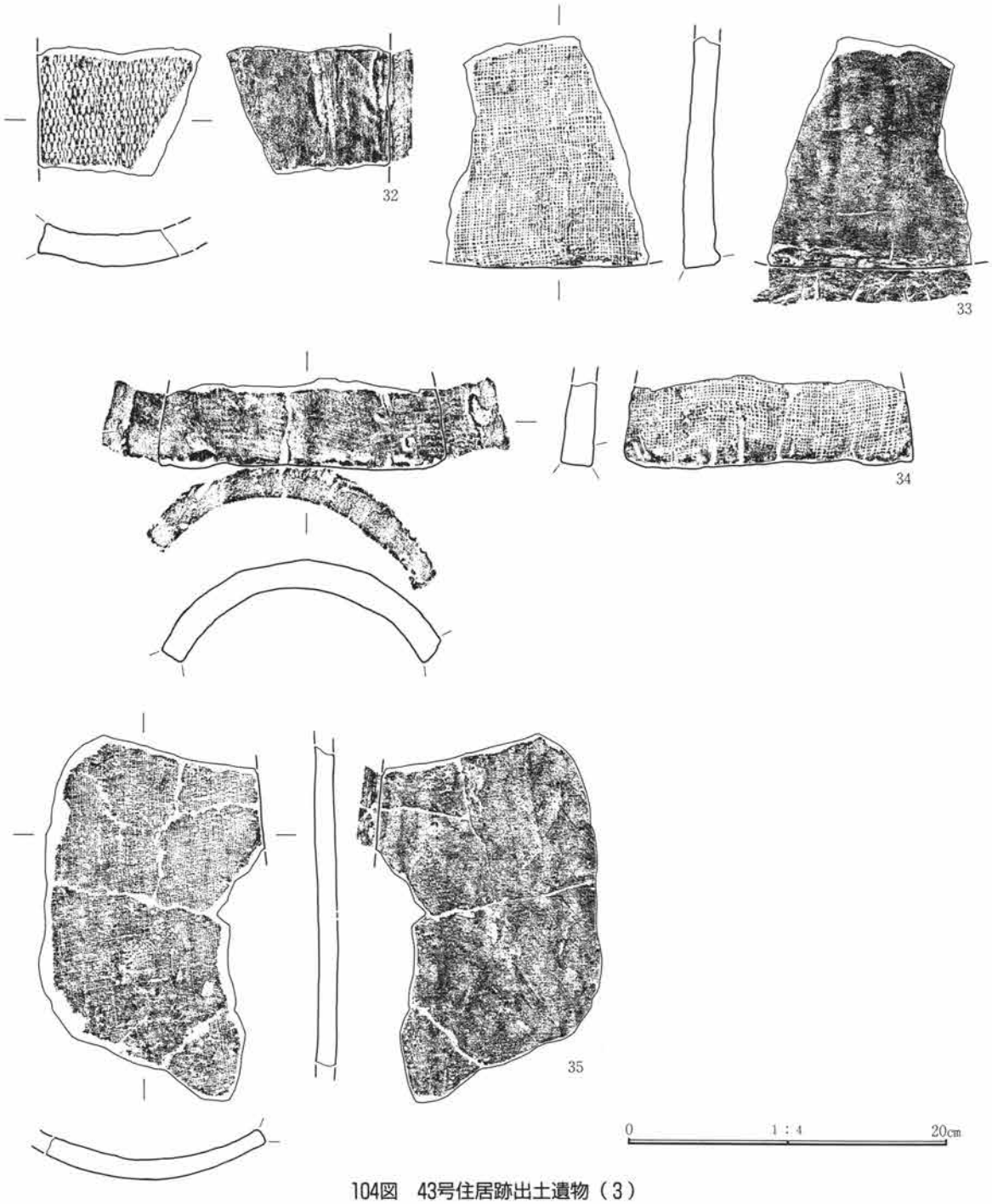
101図　43号住居跡（2）竈



102図　43号住居跡出土遺物（１）

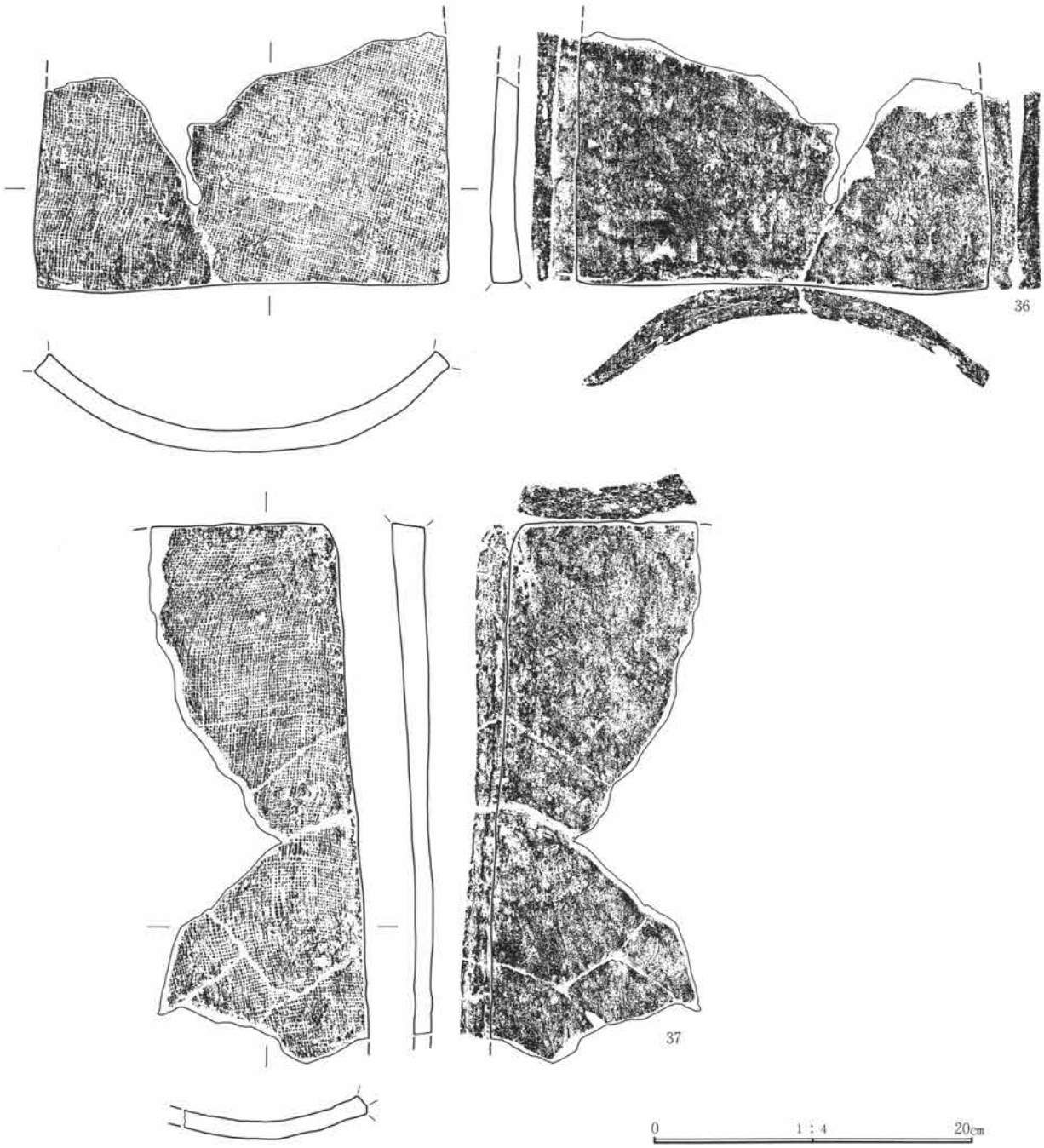


103図　43号住居跡出土遺物（2）



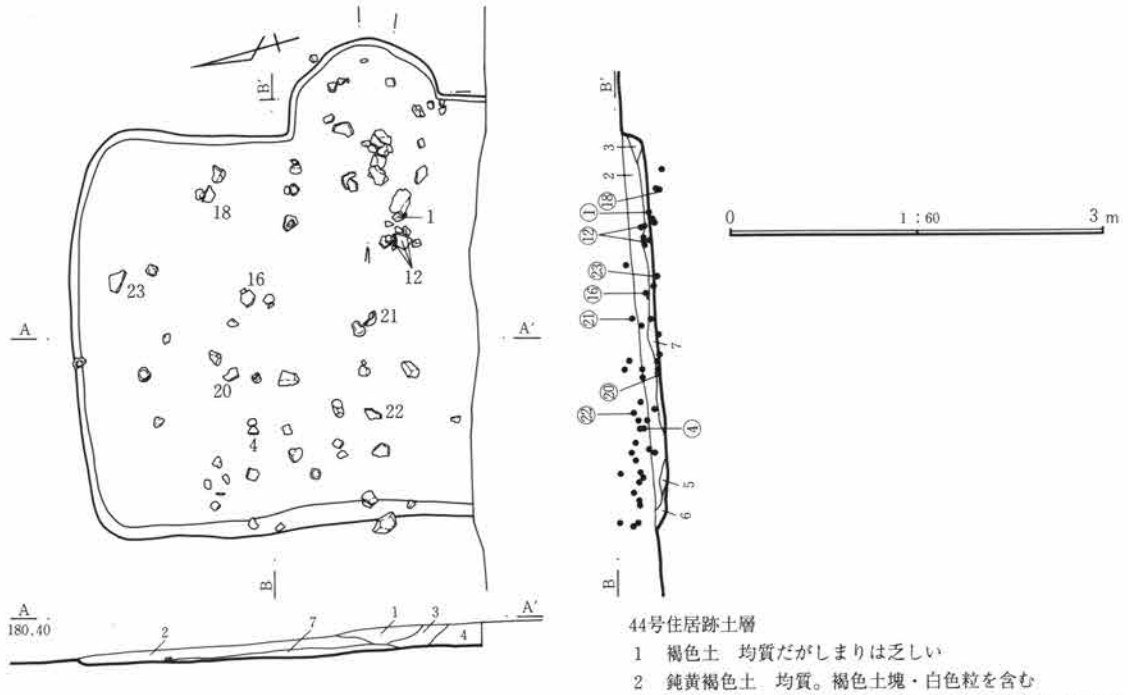
104図　43号住居跡出土遺物（３）

の可能性を持つ椀。脚長で薄手である。５・６は覆土出土。７、薄手で整った体部器形を呈する椀。中央で床直より出土。８は竈使用面下出土。全体に歪みが著しい。９は７と共に床直より出土。内外面器壁剝落。10は高台欠損する。厚手で体部中位で疑口縁にしている。竈使用面上出土。11、南壁際で床直。脚長の高台である。12は西壁寄り覆土上層の灰釉陶器椀。外底面・内面研磨。13の灰釉陶器皿は覆土。14は７・９と共に床直上出土。台付甕か。鉢の可能性もある。底面は薄手。15も同種の器形。竈内出土。重量感ある。16は北西隅上層出土の小型甕。轆轤整形で体部下半縦位箆撫で。17も覆土出土の小型甕。18は鉢・羽釜の口縁部破片。19は北東隅で上層の甕。轆轤左回転整形。あるいは甑脚部としても考えられる。20は覆土。甕・羽釜底部。外面箆



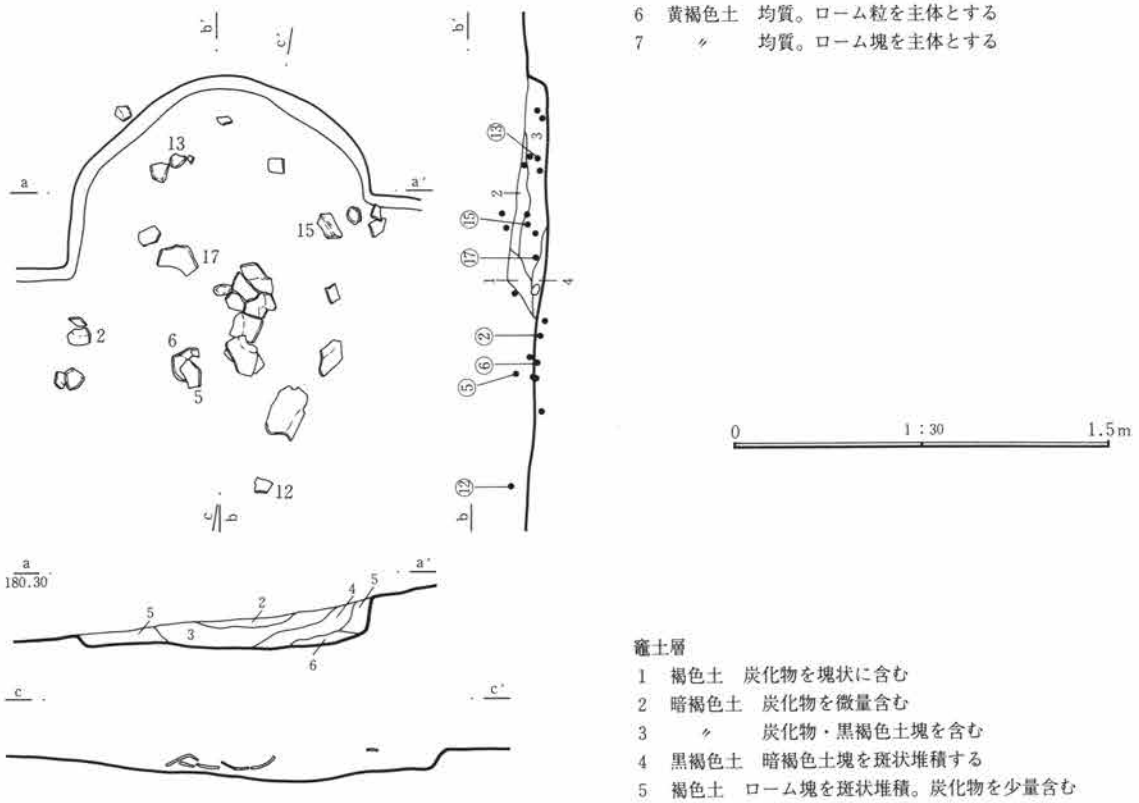
105図　43号住居跡出土遺物（4）

削り後撫で。21も甕・羽釜底部。轆轤整形後篦撫で。竈内上層。22は覆土出土の底部。外底面に「×」状の線刻が刻まれる。23は羽釜。体部上半～底部。轆轤整形後縦位・横位篦削り。上端部は光沢を持ち疑口縁か。竈内出土。24の羽釜は竈使用面下出土。25の羽釜は北東寄りで床直。轆轤整形後縦位篦削り。26の須恵器大甕頸部破片は覆土出土。外面平行叩、内面円環状当て目。27も覆土。外面平行叩、内面青海波文。28は北寄りの上層出土。27と同一個体か。29は南寄りの覆土下位で出土。30は中央上層の丸瓦。側部面取り1回。凸面は無文叩き。31～33は1枚作りの平瓦。31、竈焚き口部出土。側部面取り2回。32は凹面は筵目。33は竈内上層。34・35は覆土出土。34の丸瓦は端部面取り2回。36は竈南壁に設置。構築材か。37の側部面取りは2回。竈内使用面下出土。



44号住居跡土層

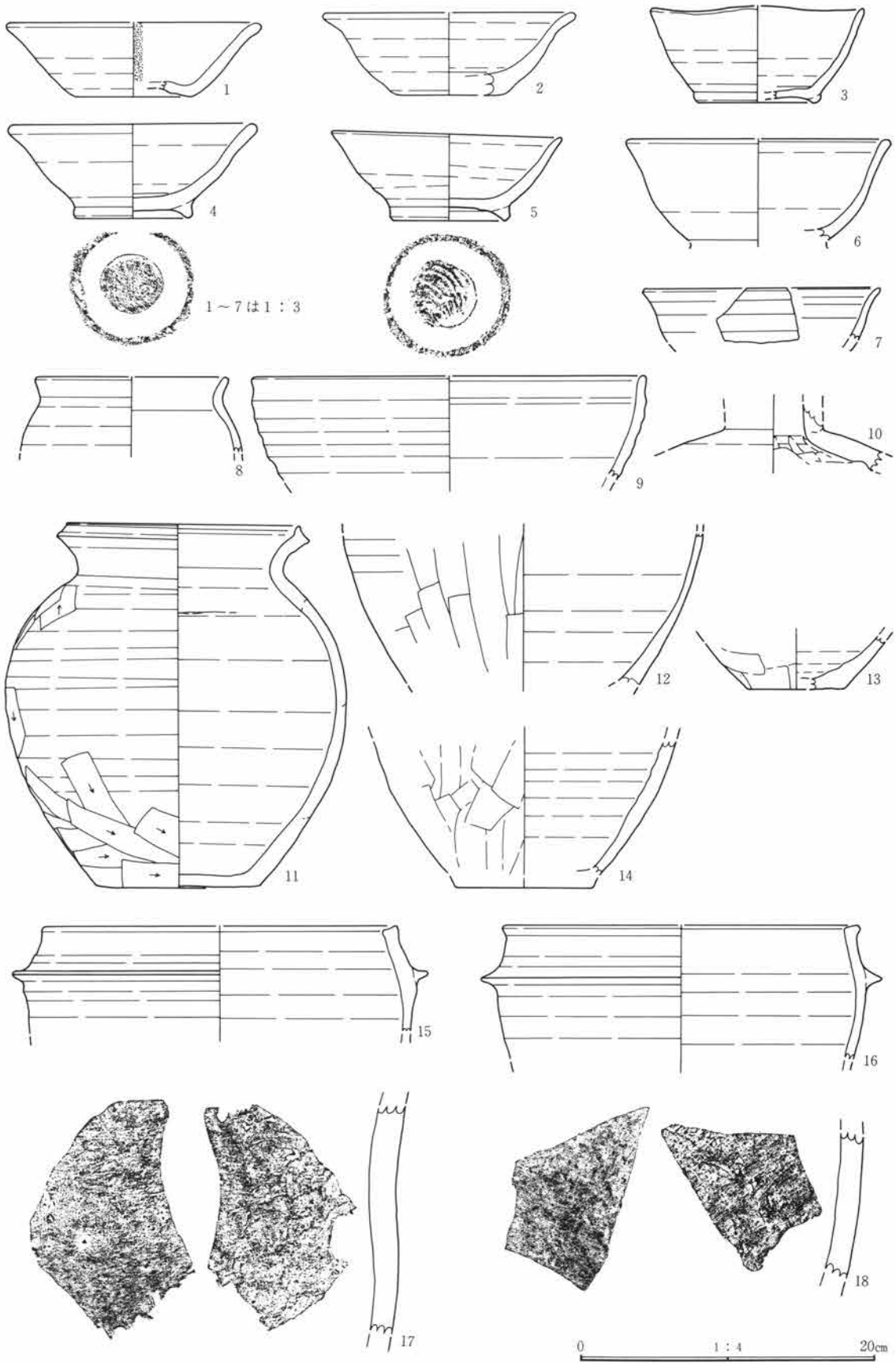
1　褐色土　均質だがしまりは乏しい
2　鈍黄褐色土　均質。褐色土塊・白色粒を含む
3　〃　均質。暗い。褐色土塊・白色粒を少量含む
4　〃　均質。ローム塊を多く含む
5　〃　均質。ローム粒を主体とする
6　黄褐色土　均質。ローム粒を主体とする
7　〃　均質。ローム塊を主体とする



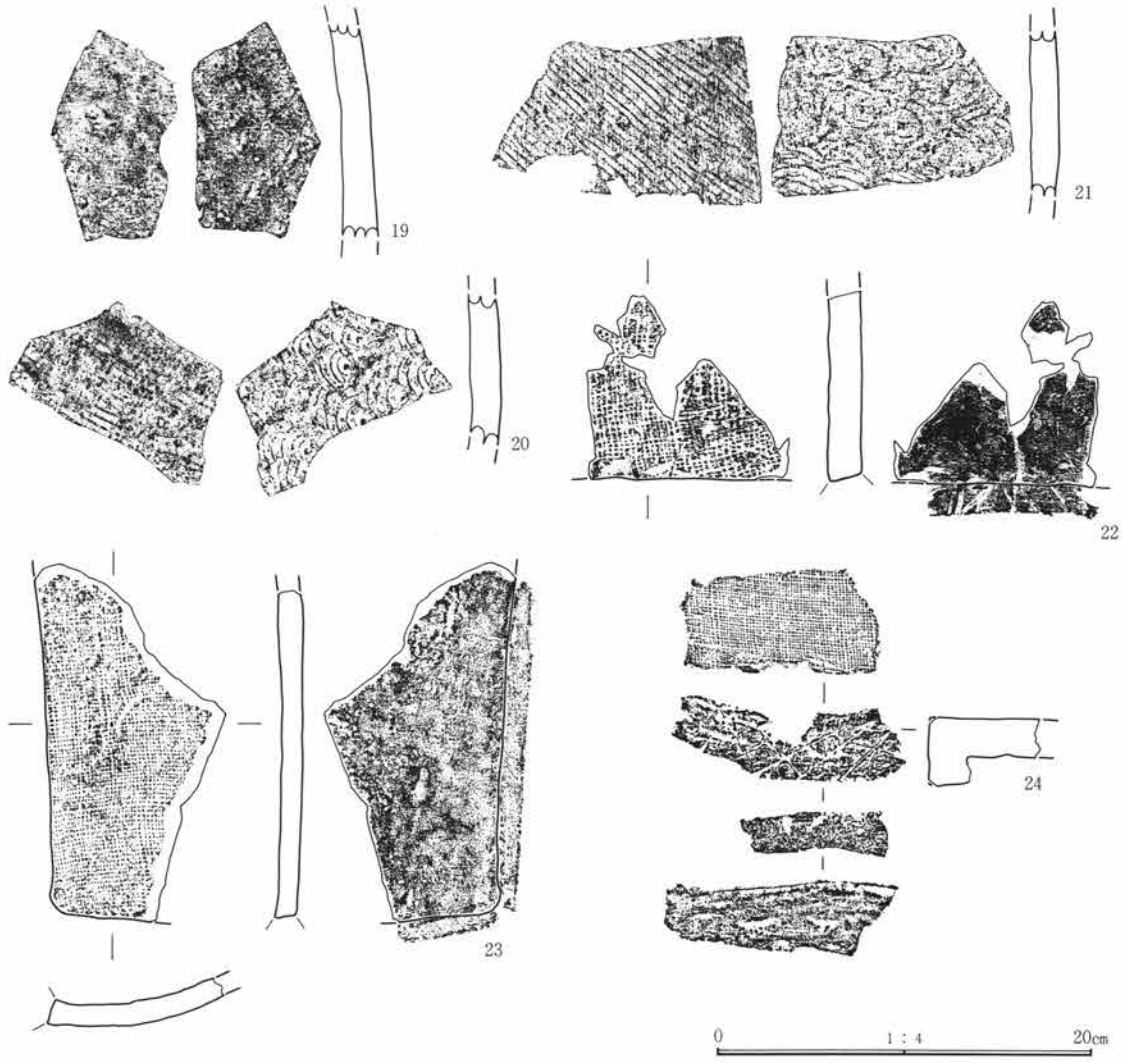
竈土層

1　褐色土　炭化物を塊状に含む
2　暗褐色土　炭化物を微量含む
3　〃　炭化物・黒褐色土塊を含む
4　黒褐色土　暗褐色土塊を斑状堆積する
5　褐色土　ローム塊を斑状堆積。炭化物を少量含む
6　黄褐色土　ローム塊を主体とする

106図　44号住居跡



107図　44号住居跡出土遺物（1）

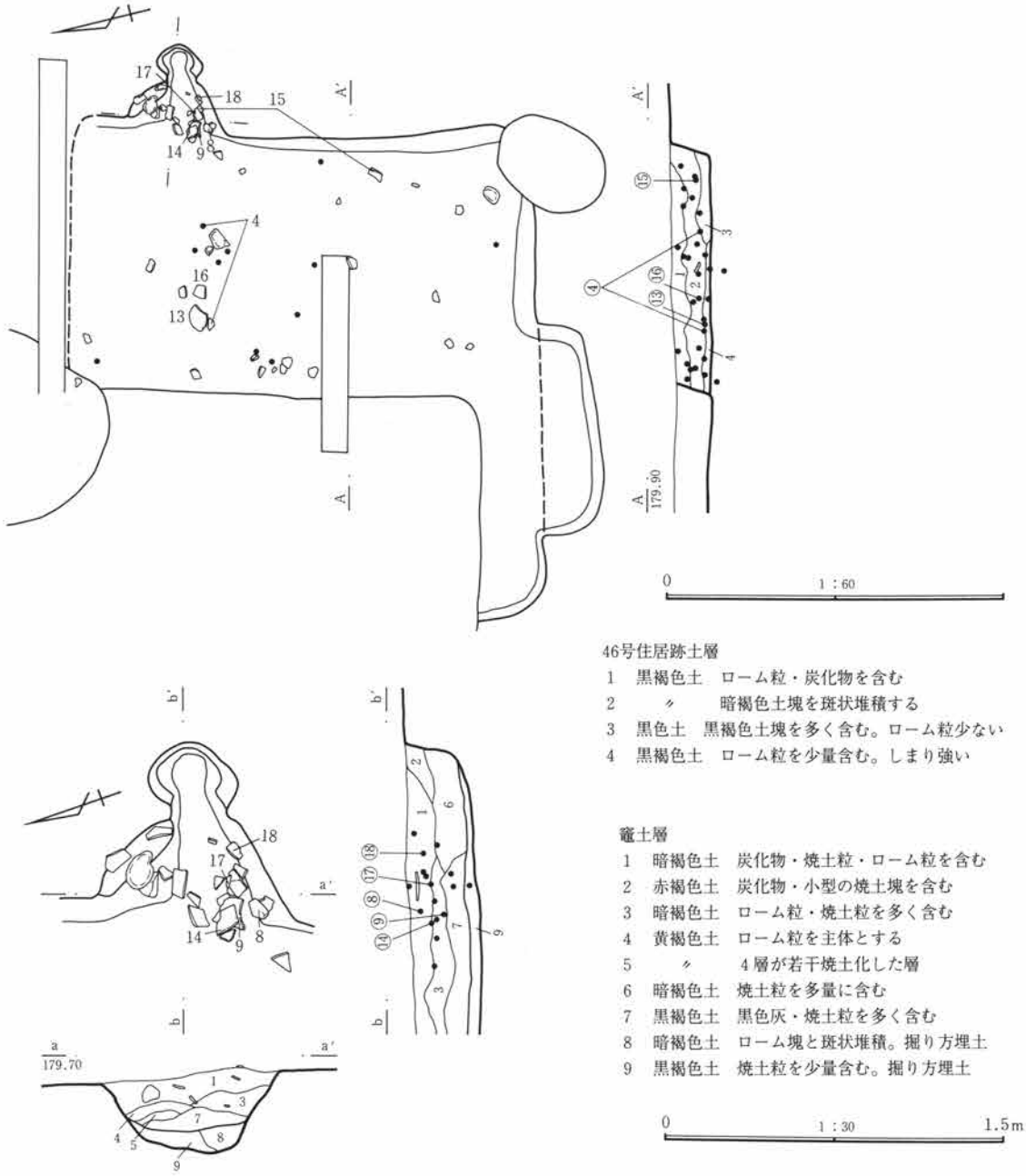


108図　44号住居跡出土遺物（２）

44号住居跡

43号住の西に位置する。やや距離を保ち単独の検出となった。南側壁を逸失しているため全容は把握できないが、やや横長の長方形を呈するものと思われる。深さは約28cmと浅く遺存は悪い。床面は地床でほぼ平坦である。貯蔵穴は確認できず、柱穴も見られなかった。竈は東壁に設けられ、やや大型の半円状の燃焼部を持つが、袖・構築材は残存していなかった。

遺物は出土総破片数209点と遺存の割りには多く、住居跡全体に散乱した状態が見られた。１の坏は竈西側床直より。口縁部は歪み内面に油煙付着。２は竈前庭部北床直。厚手。底面は撫でる。３の椀も口縁部歪む。４、厚手で重量感ある椀。覆土中位。５は竈前庭部床直上。６は竈前庭部床直。薄手。７、緑釉陶器椀口縁部破片。覆土。８の小型甕は轆轤整形後撫でが及ぶ。９は内面黒色処理で研磨する鉢。あるいは大型の椀か。10は長頸瓶。11は須恵器甕。轆轤整形後箆削りを施す。前庭部床直上。12、羽釜体部か。竈西で床直。13、甕・羽釜の底部。轆轤整形後撫で。竈内。14、羽釜体部下半か。轆轤整形後箆撫で。15は羽釜口縁部破片竈内。16も羽釜口縁部破片。中央北東寄りの床直上。17、焼成時の歪みによる彎曲。竈内。18は竈北側で床直。19、覆土。20・21は同一個体か。外面平行叩。内面は青海波文。20、中央北西寄りで床直。21は中央部の覆土中位。22の平瓦は中央西寄りで覆土中位。23は北壁寄り床直。24は覆土より出土した軒平瓦。



46号住居跡土層
1　黒褐色土　ローム粒・炭化物を含む
2　〃　暗褐色土塊を斑状堆積する
3　黒色土　黒褐色土塊を多く含む。ローム粒少ない
4　黒褐色土　ローム粒を少量含む。しまり強い

竈土層
1　暗褐色土　炭化物・焼土粒・ローム粒を含む
2　赤褐色土　炭化物・小型の焼土塊を含む
3　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を多く含む
4　黄褐色土　ローム粒を主体とする
5　〃　4層が若干焼土化した層
6　暗褐色土　焼土粒を多量に含む
7　黒褐色土　黒色灰・焼土粒を多く含む
8　暗褐色土　ローム塊と斑状堆積。掘り方埋土
9　黒褐色土　焼土粒を少量含む。掘り方埋土

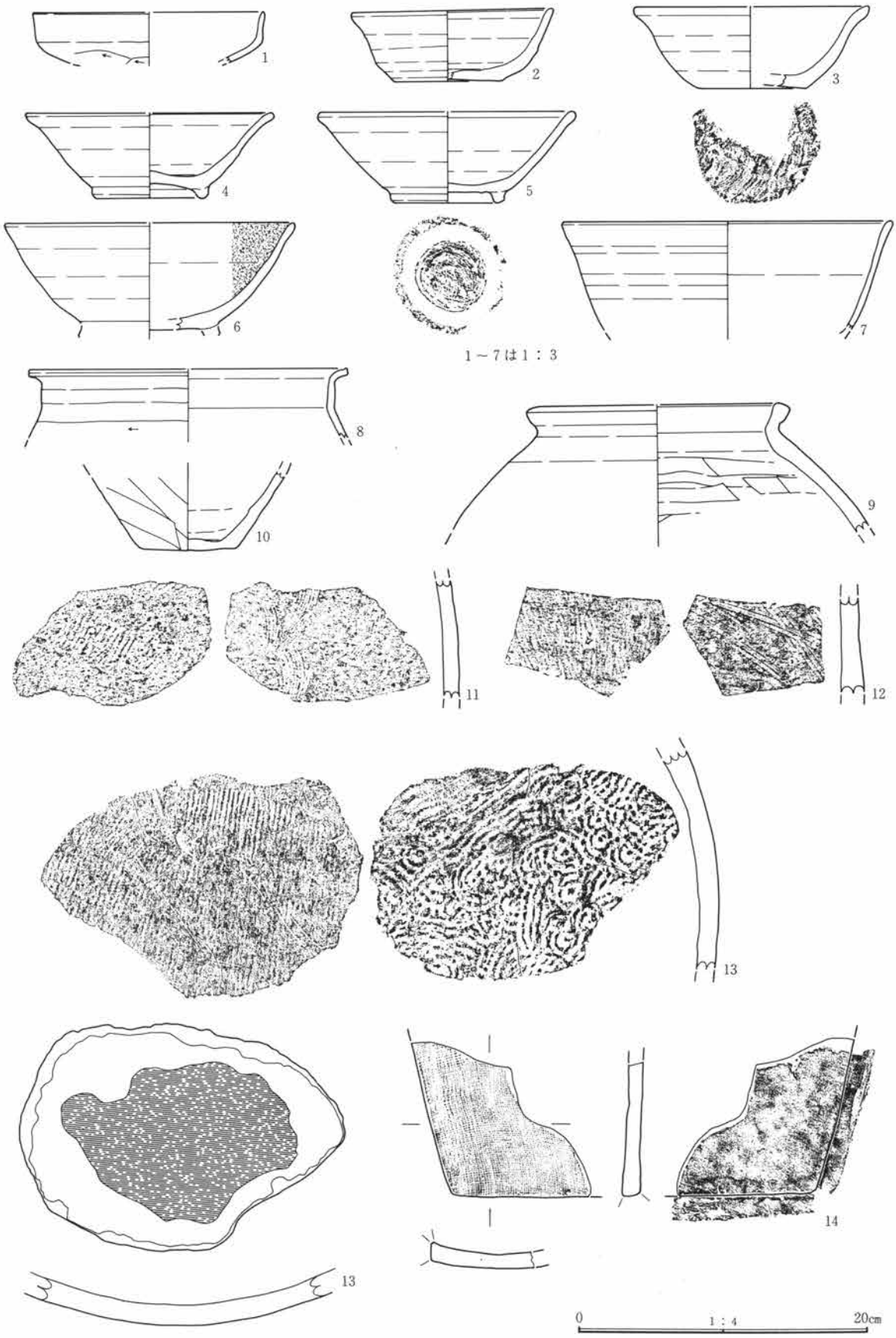
109図　46号住居跡

46号住居跡

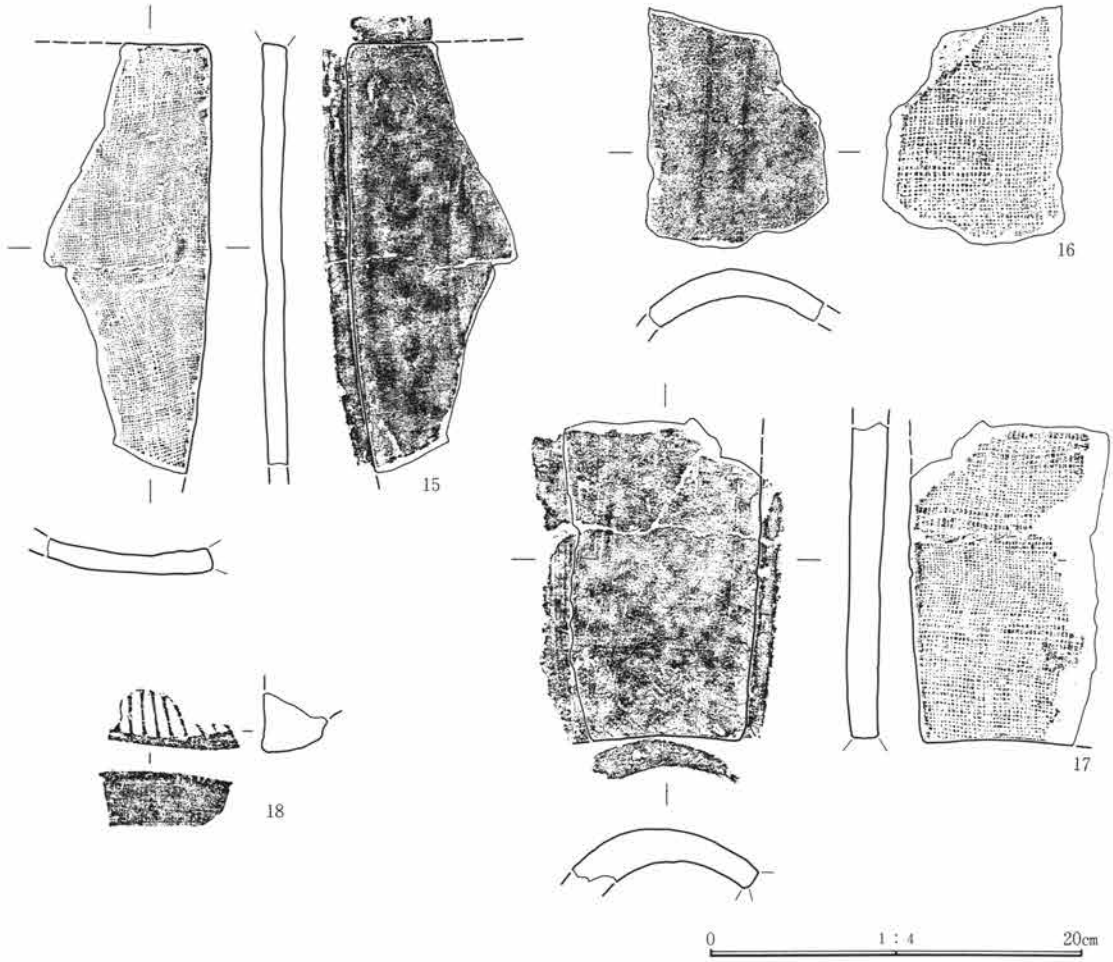
中尾根東区の東端で検出された。最も遺構の密集する地点であり、本住居跡も60号住居跡や土坑群と重複する。60号住とは西側で重複し、新旧関係は本住居跡が切られる。また、北側壁は遺構確認トレンチなどで検出が不可能になった。その他、南東隅は小型の土坑によって破壊されている。

このように重複の著しい状況のため平面形は判然としないが、おそらく辺長4.3m前後の大型の正方形を呈するものと思われ、深さは約38cmを測るが東壁のみが良好な残存であり全体的な遺存度は悪いといえよう。

床面は地床でほぼ平坦だが、60号住床面との明瞭な差が見られず検出は困難を極めた。竈は、東壁の北寄りに設けられていた。燃焼部奥の天井部分が残存しており、煙道末端が円形の平面形を呈し直立気味に立ち上



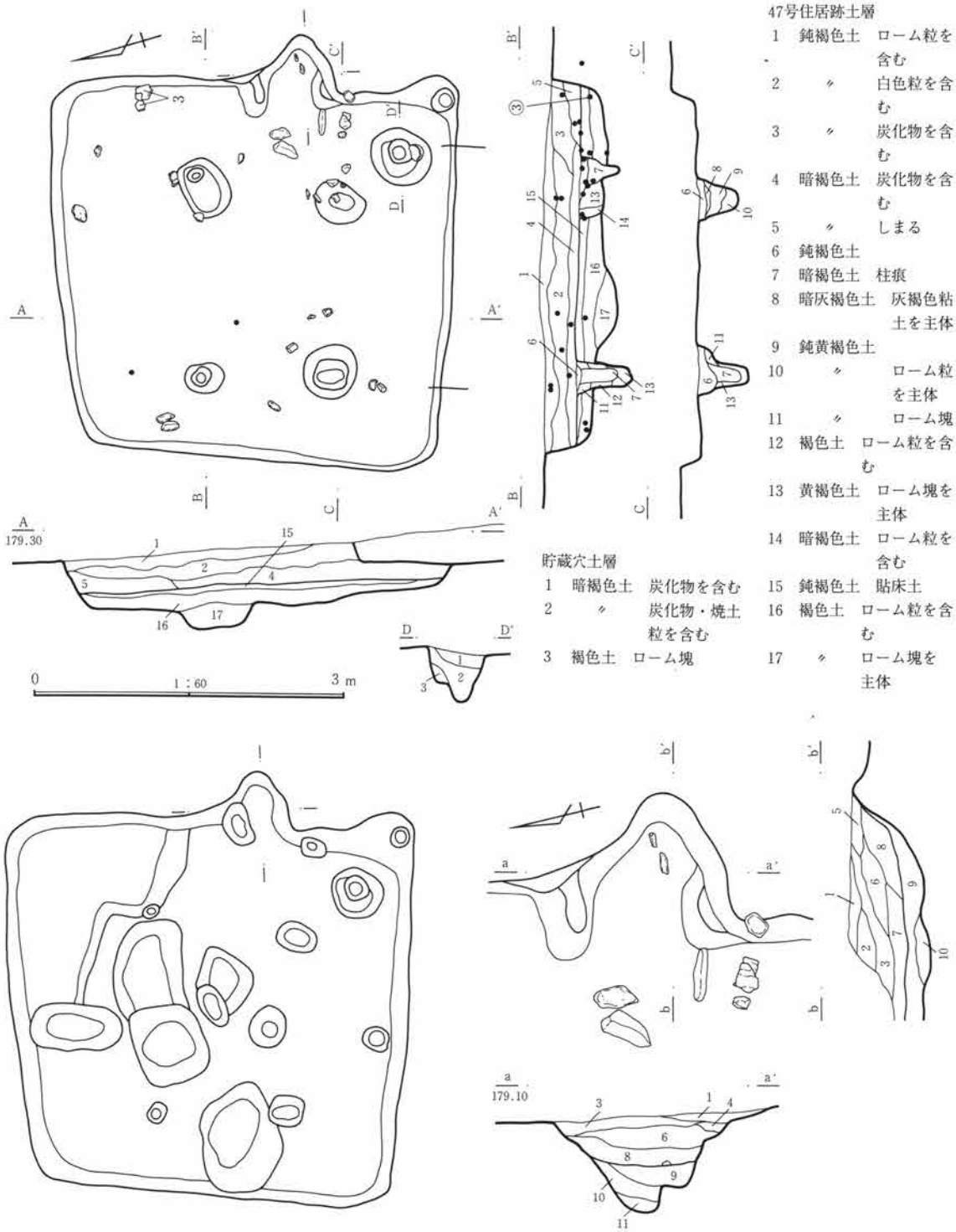
110図　46号住居跡出土遺物（１）



111図　46号住居跡出土遺物（2）

がっていた。袖は検出されなかったが、北側と南側の壁の差が見られ南側壁が袖と同様の機能を有していた可能性もある。燃焼部壁に沿って、幾つかの自然石や瓦が出土したが補強材として捉えた。

遺物は総破片点数648点と非常に多いが、覆土出土の細片が多く図示し得た個体は17個体のみである。1は覆土出土の土師器坏口縁部破片。2も覆土出土の須恵器坏。小型で口縁部僅かに歪む。底面は回転糸切り後撫でを施す。3も覆土出土。器厚はやや厚手で口縁部は外反する。4は薄手の高台付椀。高台は短く、貼付後の撫では丁寧。竈西の床直上で出土した。5は覆土出土。体部は直線的に立ち上がり高台は短い。6は内面黒色処理を施した椀。高台を欠損する。覆土出土。7、覆土出土の椀。器厚は薄い。8の土師器甕は竈南壁上位で出土。口縁部は強い横撫でにより屈曲し、体部外面は横箆削り。内面撫で。9の須恵器甕も南壁中位出土。轆轤整形で外面は撫で、内面は箆撫でが施される。断面内半の色調は赤褐色を呈する。10、羽釜・甕の底部。轆轤整形で外面箆削りを施す。覆土出土。11は須恵器大甕体部破片。外面平行叩、内面青海波文。覆土出土。12も覆土出土の須恵器甕体部破片。外面平行叩、内面撫でを施す。13の須恵器大甕体部破片は竈西側で床直上で出土。外面は平行叩、内面青海波文。転用硯で内面に研磨による平滑な面が看取される。墨痕は顕著ではない。14は竈内出土の平瓦。凸面は縦位撫で、側部の面取りは2回。15は竈内および東壁際覆土下位出土。凸面は縦位撫で。端部・側部の面取りは1回。一枚造り。16は丸瓦。竈西の覆土下位出土。凸面は無文叩。17も丸瓦。凸面は平行叩、側部の面取りは2回、端部は1回。竈内上層出土。18は竈覆土上層出土の軒平瓦である。



47号住居跡土層

1　鈍褐色土　ローム粒を含む
2　〃　白色粒を含む
3　〃　炭化物を含む
4　暗褐色土　炭化物を含む
5　〃　しまる
6　鈍褐色土
7　暗褐色土　柱痕
8　暗灰褐色土　灰褐色粘土を主体
9　鈍黄褐色土
10　〃　ローム粒を主体
11　〃　ローム塊
12　褐色土　ローム粒を含む
13　黄褐色土　ローム塊を主体
14　暗褐色土　ローム粒を含む
15　鈍褐色土　貼床土
16　褐色土　ローム粒を含む
17　〃　ローム塊を主体

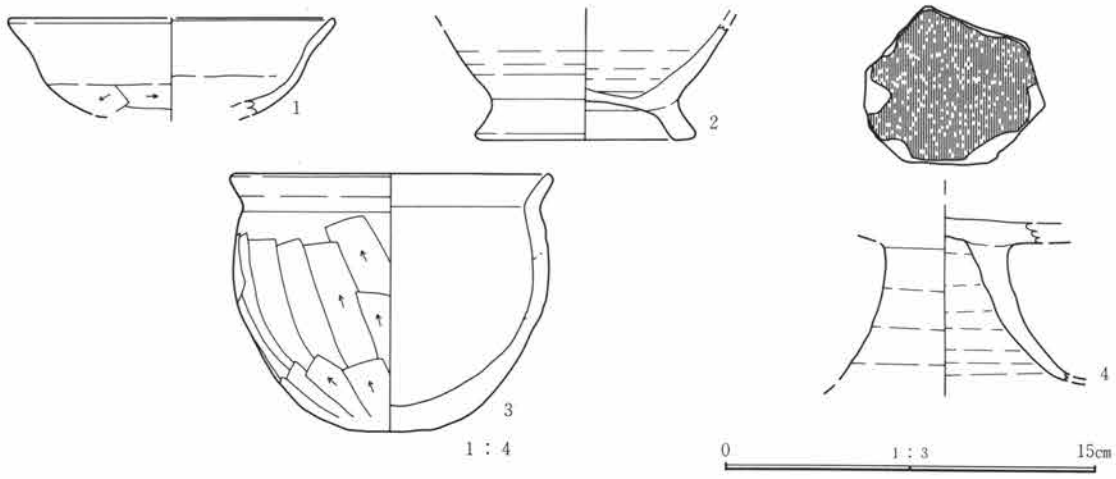
貯蔵穴土層

1　暗褐色土　炭化物を含む
2　〃　炭化物・焼土粒を含む
3　褐色土　ローム塊

47号住居跡竈土層

1　暗褐色土　ローム粒・白色粒を含む
2　褐色土　白色粒・焼土粒を含む
3　〃　ローム粒・炭化物を含む
4　灰褐色土　焼土化した粘土粒を主体
5　暗褐色土　灰・焼土粒を含む
6　褐灰色土　灰・焼土粒・炭化物含む
7　黒褐色土　灰が塊状に点在する
8　黒褐色土　黒色灰・焼土塊を含む
9　暗赤褐色土　焼土塊・炭化物を含む
10　〃　焼土・ローム塊を含む
11　暗褐色土　ローム塊・炭化物を含む

112図　47号住居跡



113図　47号住居跡出土遺物

47号住居跡

中尾根東区のほぼ中央に位置する。周辺は住居跡・土坑群が密集し、西側には33号・38号・49号住居跡、南東には42号住、北東には34号・35号住が近接する。また48号住居跡が本住居跡の南側壁に重複している。このように遺構密集地域で他の住居跡も重複しているが、本住居跡は掘り込みも深く、そのため遺存度は良好だったといえよう。しかしながら、覆土の状況と周辺遺構との関連から、平面形確定までに難渋し、特に西側は大きく過掘してしまった。そのため、壁高などはセクションベルトからの復元を重視し、平面形も床面形状から確定した。

平面形は辺長約3.8m程度で西壁がやや短くそのため若干いびつな正方形を呈している。深さは約72cmを測り、前述のように遺存度は良かった。壁は四辺とも斜位に立ち上がり、しっかりしている。

床面は鈍褐色土を基調とした貼床がなされ、上面は硬く叩き締められる。特に中央部分に良好な硬化面を確認した。しかしこの床面も過掘が及び、北側1/3の状況はセクションベルトから類推したものである。

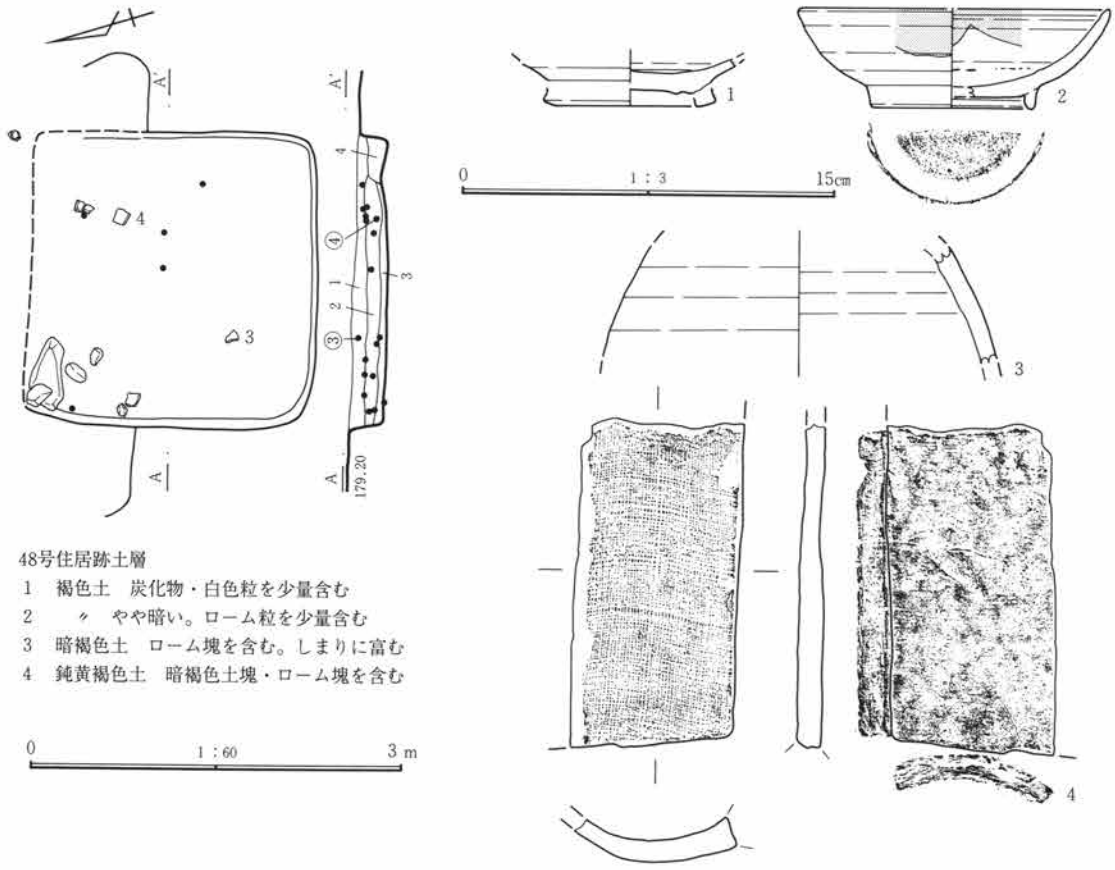
貯蔵穴は南東隅の壁よりやや離れて円形の平面形を呈する土坑を充てたい。他の住居跡貯蔵穴より若干深く、掘り込みもしっかりしていた。柱穴は四本柱を想起させる配列で検出された。ただし、壁と同様に西側の柱穴間距離はやや短く若干いびつな配列といえよう。また柱痕跡は西側の二本に確認されている。

竈は東壁やや南寄りに設けられる。短めの袖を持ち、南袖はその痕跡を残すのみである。その他の構築材は遺存していなかったが、前庭部に片岩質の自然石が出土しており、これが天井材として位置付けられよう。また、近接して棒状の自然石も出土した。支脚としての用途も考えられるが、竈掘り方調査では支脚設置穴は確認されておらず、少なからず疑問は残る。

床下遺構は、床面中央より北側にかけて多数の土坑を検出した。床下土坑として位置付けたが、形状・深さとも多様で、明確な用途は判断できない。

出土遺物は遺存度が良好にもかかわらず、総破片点数92点と少ない。尚、瓦細片も出土している。1は土師器坏。口縁部は広く外反し体部は浅めである。体部外面は篦削りが施される。2は須恵器高台付椀。左回転轆轤整形で高台貼付後に撫でを施す。3は土師器小型甕。頸部は「く」字状に屈曲し口縁部は短く外傾する。体部は球形で底部器厚は厚い。体部外面は縦位篦削りが施され、底部は撫でが及ぶ。内面は撫でにより平滑である。4は須恵器高坏。左回転轆轤整形。内底面は研磨され転用硯として位置付けられる。

本住居跡は平面形・出土遺物とも本遺跡住居跡中最も古相の様相を呈する。



114図　48号住居跡・出土遺物

48号住居跡

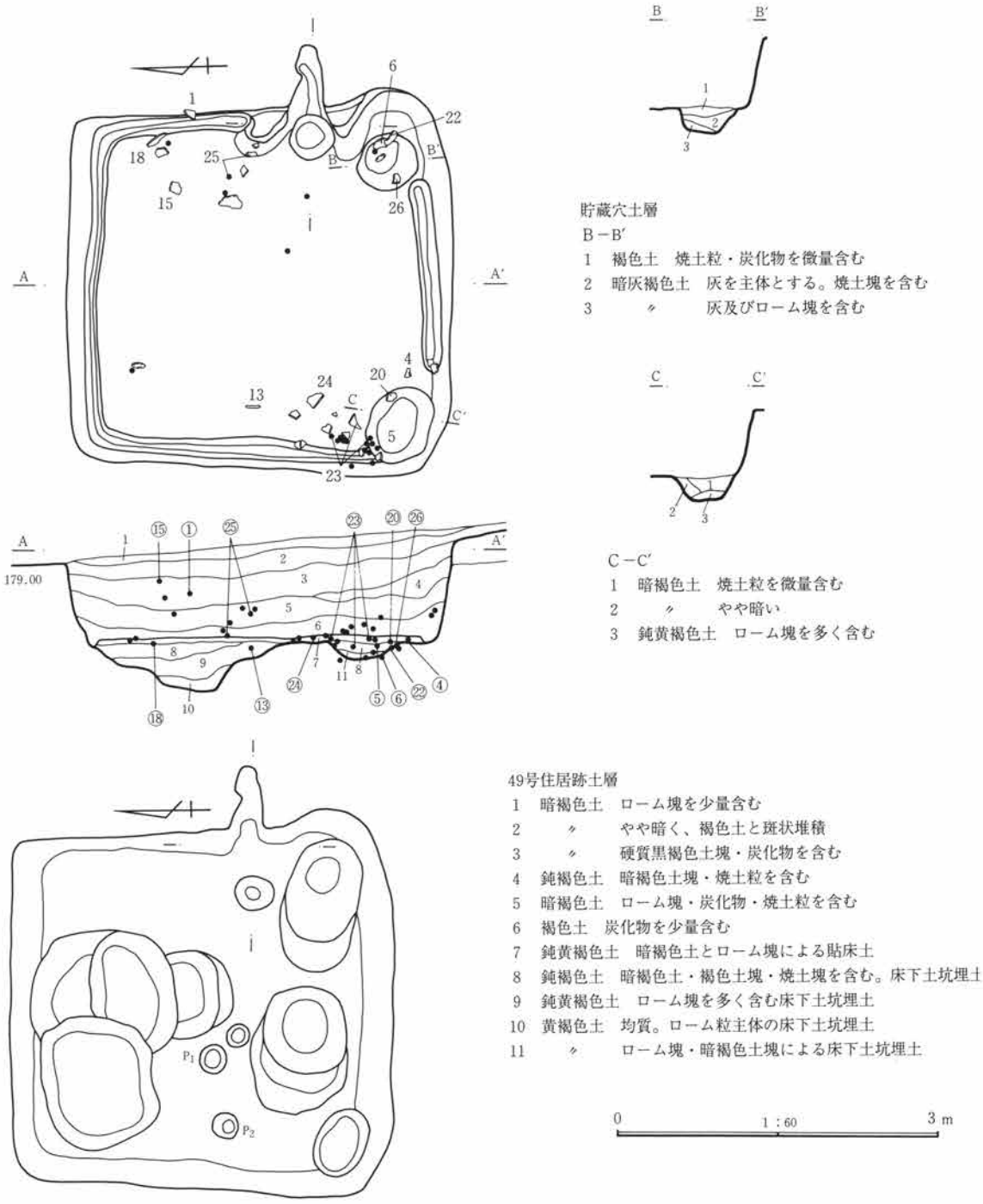
前述の47号住の南壁に重複して検出された。調査着手時は、48号住の張り出しとして位置付けていたが、南北の土層観察において、明瞭に重複関係が認められ、かつ出土遺物にも著しい時期差が見られたため、47号住を切る本住居跡を確認した。ただし、47号住を切る重複を確認したものの、竈の検出が果たせず、住居跡として条件を満たしていないため、方形の土坑として位置付ける要素も考慮に入れておかなければならないだろう。

平面形は辺長約2.3ｍの小型の正方形を呈する。北側の壁は47号住覆土にかかるため、判然とせず土層の観察によって得た。深さは約32㎝と浅いが、東西南壁は比較的しっかりした立ち上がりを呈していた。

床面は、僅かな凹凸を持つもののほぼ平坦で、黄褐色ロームの地床である。柱穴・貯蔵穴などの床面上の施設は検出できなかった。

また、前述のように竈も見られなかった。竈として北西隅で出土した大型の自然石周辺などを想定し、精査を重ね検出に努めたが、床面には焼土・炭化物の散布も無く、竈位置すらも推定できなかった。

出土遺物は極めて少なく、総破片点数29点を数えるのみで、４個体を図示し得た。１は高台付椀で高台部欠損する。覆土出土。２は灰釉陶器椀。施釉は漬け掛けで内面には重ね焼きの痕跡が残る。覆土出土。３は中央やや南西寄りの覆土上層より出土した瓶肩部破片。轆轤整形で外面には自然釉がかかる。４は平瓦。中央やや北東寄りの覆土下位で出土。凸面は無文叩き後撫で調整。側部・端部の面取りは各１回。

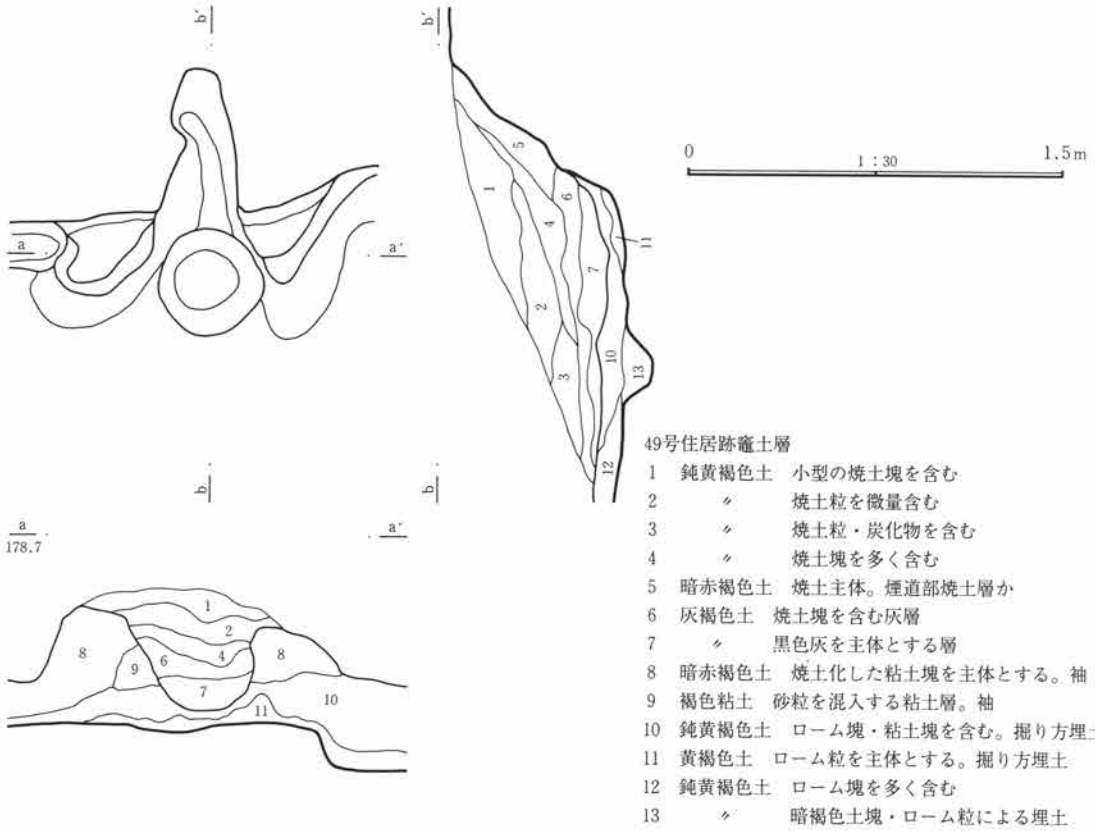


115図　49号住居跡

49号住居跡

中尾根東区のほぼ中央の平坦面に位置する。前述のように周辺は住居跡密集地点であり、33号・38号・47号住居跡が近接する。しかしながら、本住居跡には33号住が北東隅に接するのみで著しい重複は無く単独の検出となった。

平面形は辺長約3.4ｍの整った正方形を呈すが、南壁がやや長く取られている。これは、後述する南東と南西に穿たれる貯蔵穴の存在も要因の一つとして、捉えられるだろう。深さは約84㎝と非常に良好な遺存を



116図　49号住居跡竈

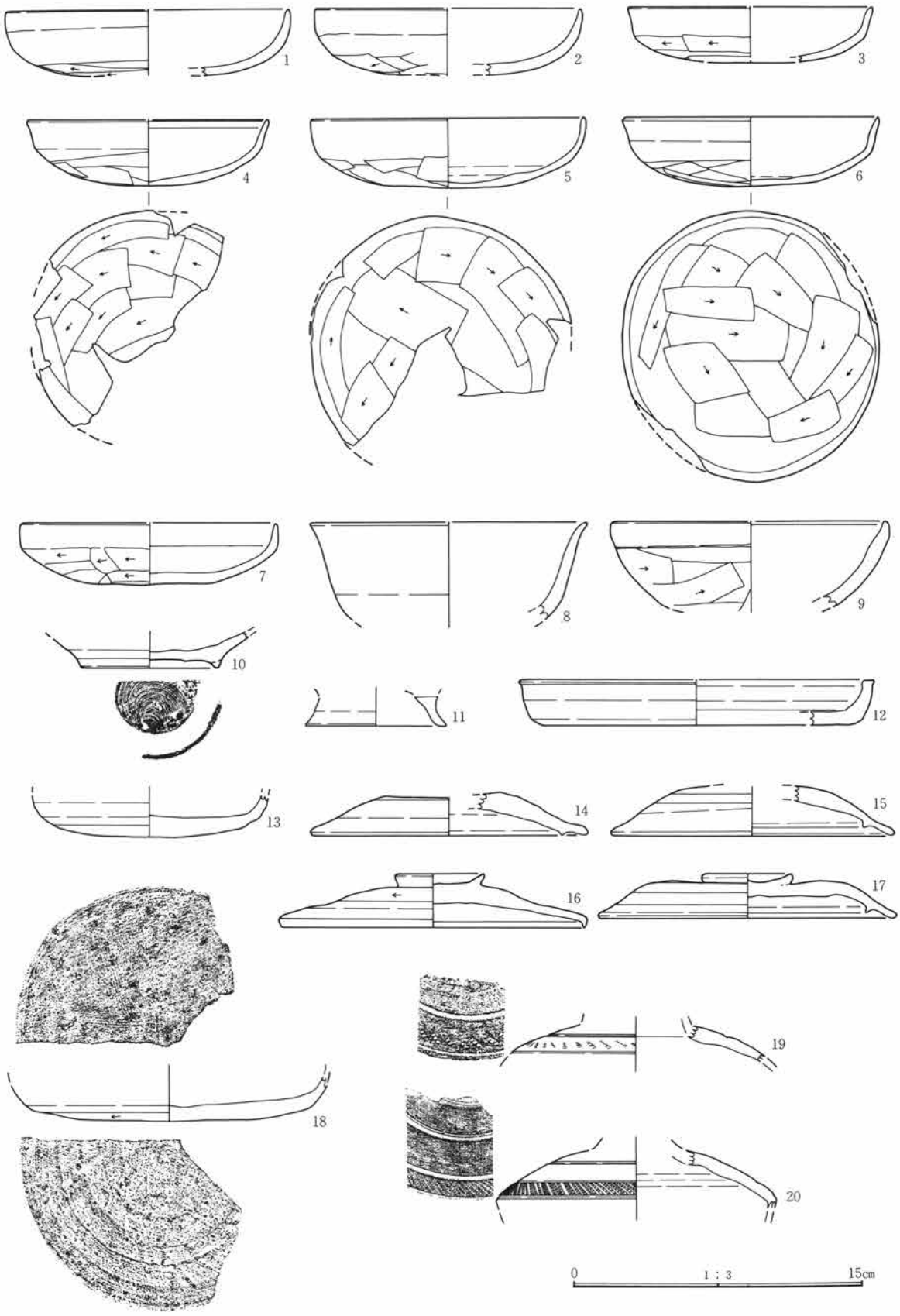
見せ、床下下面は板鼻褐色軽石層にまで達していた。壁は四辺とも垂直気味に立ち上がり、しっかりと形作られている。覆土の上層は均質土で自然堆積状態を見せるが、中層より塊状土が主体を占め、人為的な埋土と捉えられよう。

床面は僅かな凹凸を持つものの、ほぼ平坦面を築き、鈍黄褐色土による貼床がなされていた。硬化面は中央部分が特に顕著だが、全面にわたって確認された。また、床面壁際に沿って壁周溝が検出された。竈・貯蔵穴以外は全周する様相を見せている。柱穴は床面上では見られなかったが、掘り方調査において、中央西寄りに２対の小ピットが検出された（Ｐ１・Ｐ２）。あるいは柱穴としての用途も考えられる。

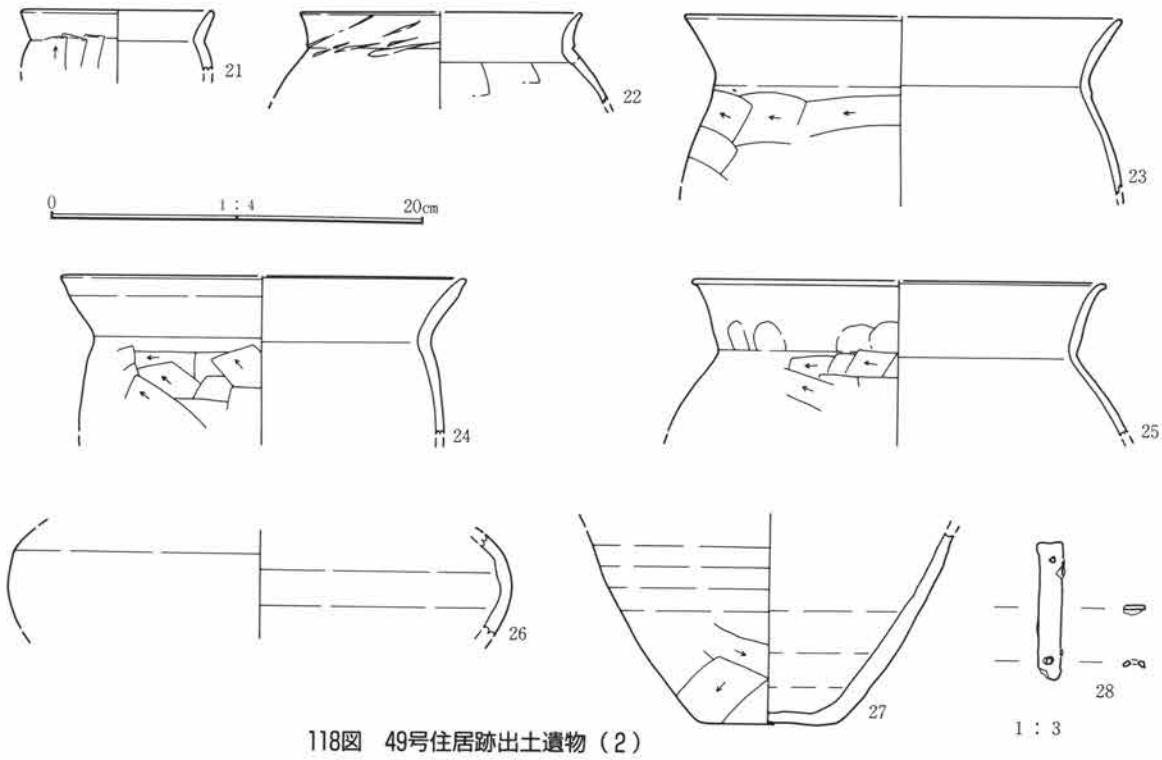
前述したように、本住居跡には南東隅と南西隅に貯蔵穴が２箇所で確認されている。深さ・規模とも貯蔵穴として一般的であり、遺物も周辺および上面に集中していた。南東隅の貯蔵穴埋土には焼土・灰が混入し、南西隅貯蔵穴の埋土はローム塊が多く含まれる。南東隅は竈の影響が多く認められる箇所であるが、あるいはこの貯蔵穴は灰・焼土の貯蔵施設という性格も捉えられよう。

竈は東壁の南寄りに設けられる。２箇所の貯蔵穴の存在から、他の四辺の壁も精査を施したが、本住居跡の竈は１箇所のみである。突出した煙道を持ち、末端は北側へ歪む。使用面からの立ち上がりは急激で、上位にかけて緩やかな傾斜を見せる。袖は短く、褐色粘土で構築されていた。その他の構築材は出土しておらず、天井石などの散乱も見られないことから、竈天井部は粘土を主に使用したものと思われる。燃焼部は円形の凹みを持ち、黒色灰や焼土粒を残存していた。

床下遺構は円形・楕円形の土坑が多く検出された。重複した状態での検出だが、新旧は無く同時期の所産である。北西側の一群と南東側の一群及び南西側の一群に分けられ、住居構築時に、貯蔵穴などはある程度意識



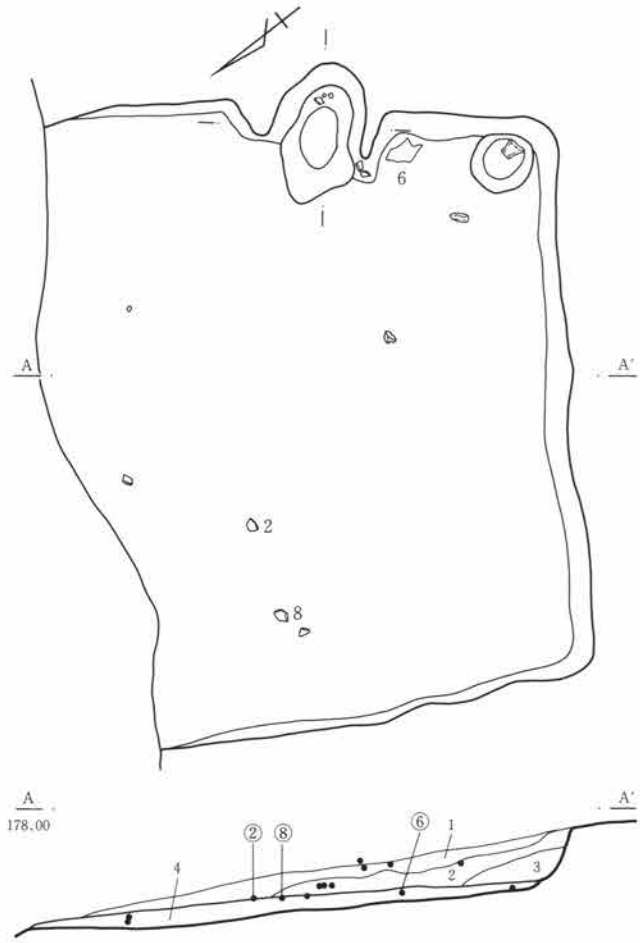
117図　49号住居跡出土遺物（1）



118図　49号住居跡出土遺物（２）

されて掘削されたものと理解できよう。

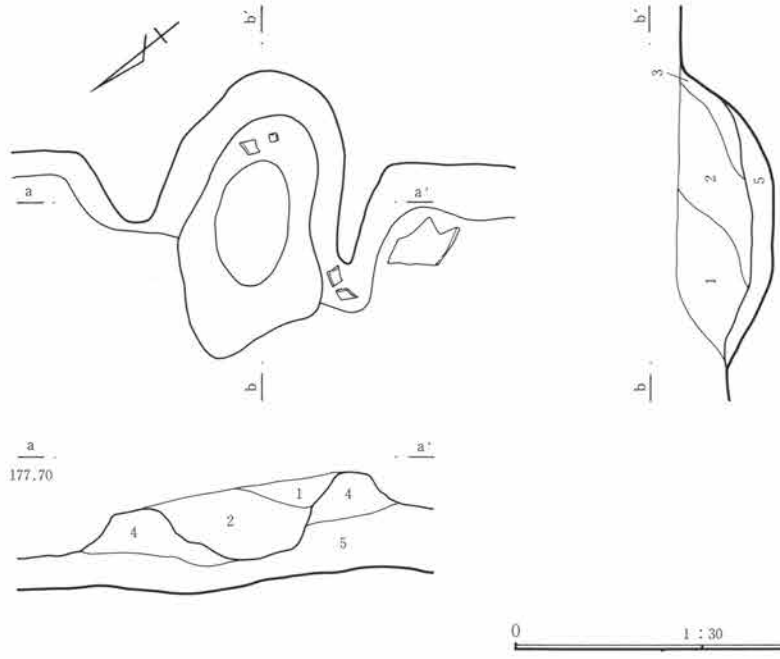
遺物は総破片点数826点と非常に多い。しかしながら、覆土中からの細片が多く、平面図に図示したものは覆土中位のものを主体にして示した。遺物の集中は特に顕著ではなかったが、竈周辺と南西隅貯蔵穴周辺に固まる傾向が見られた。実測できた個体は28点だが、瓦類は出土していない。１～３は覆土出土の土師器坏。１・２の体部上半は篦削り後撫でが施される。４は南西隅床直出土。口縁部は外傾気味で、内底面は凹凸がある。５の内底面も凹凸が著しい。南西隅貯蔵穴上出土。６は南東隅の貯蔵穴覆土出土。体部上半は篦削り後撫で調整。内底面は凹凸あり。７は床下埋土中より出土した。直立気味の口縁部を呈す。８は須恵器椀口縁部破片。竈内覆土。自然釉が掛かる。あるいは他地域の生産品か。９は厚手の器厚を呈する土師器椀。覆土出土。10は須恵器高台付椀底部。覆土出土。11は高台部分のみが残存。覆土出土。12は盤の破片。底面は回転篦削りが施されるが、摩滅のため判然としない。13の須恵器坏身は西壁寄りの床直出土。底部は右回転篦削り。14は坏蓋。天井部は右回転篦削り後撫でを施す。覆土出土。15は北東寄りの覆土上層出土。天井部は篦削り。丸みを帯びる。16も覆土出土。天井部右回転篦削り。17も天井部右回転篦削りが施され、鈕が貼付される。床下埋土。18は坏身。東壁際床直より出土。外底面右回転篦削り。内面は不定方向の撫でが加わる。19、長頸瓶肩部破片。覆土出土。20も長頸瓶肩部破片。南西隅貯蔵穴上出土。19に比して丁寧な仕上げである。21、土師器小型甕。体部外面縦位篦削り後撫で、内面は横位篦撫で。覆土出土。22は頸部が屈曲する土師器甕。体部は篦削り後丁寧に撫でる。全体に砂質である。南東隅貯蔵穴上。23の土師器甕体部は横位篦削りが施される。南西隅床直で２片が接合した。24も南西隅床直出土。体部は横位・斜位篦削り。25も横位・斜位の篦削りを施す。頸部に指頭圧痕が残る。竈北で覆土下位。26は北東隅貯蔵穴上出土の壷か。体部破片で外面に自然釉が掛かる。27は甕あるいは羽釜の底部片。左回転轆轤整形後下半に篦削りが施される。覆土出土。28は鉄製品。薄手で両端に小孔が穿たれる。覆土出土。



50号住居跡土層
1　鈍黄褐色土　やや明るく均質。
2　黄褐色土　炭化物を少量含む
3　〃　炭化物を少量含む。しまり強い
4　鈍黄褐色土　焼土塊を少量含む。床下埋土

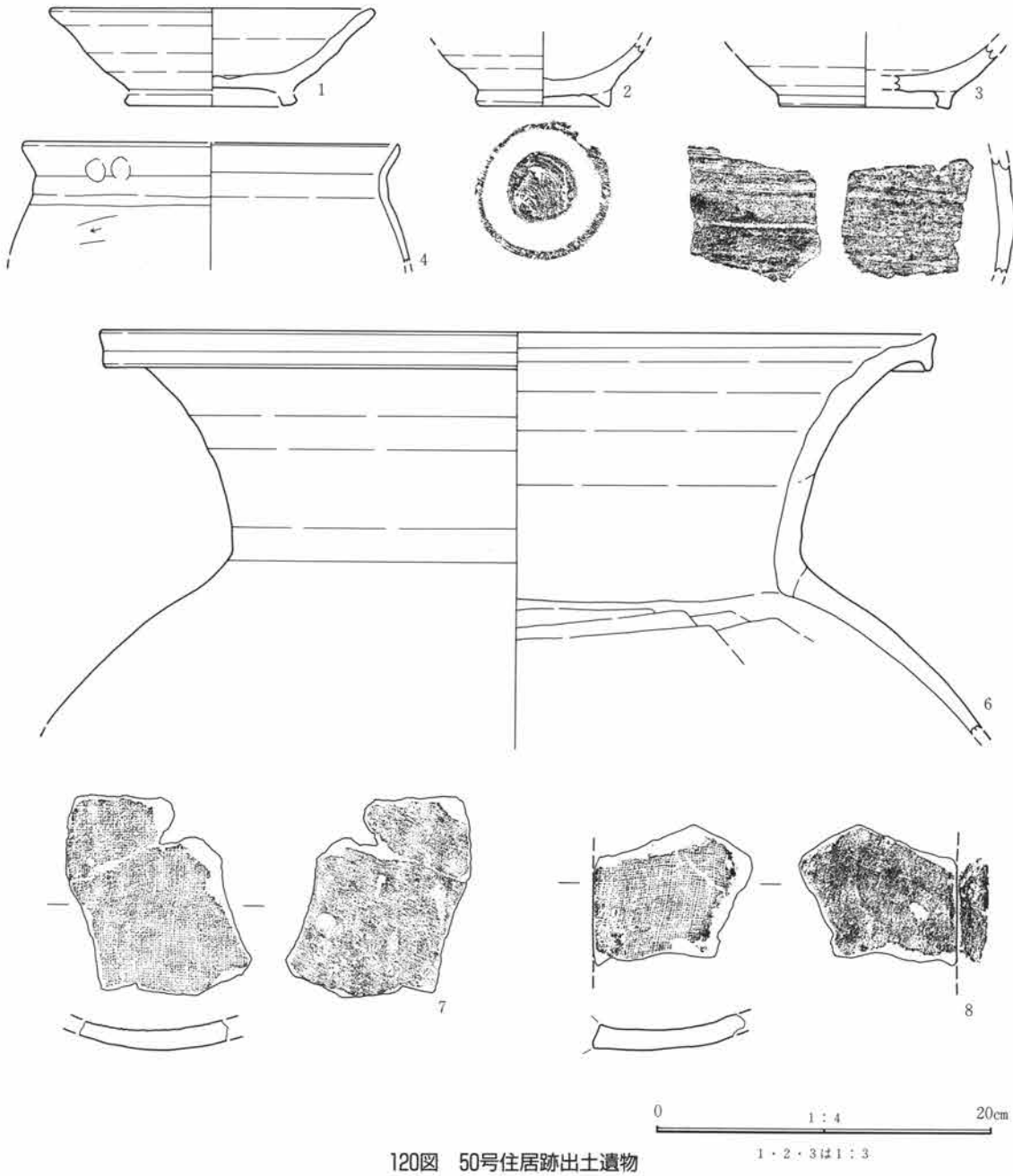
0　1：60　3 m

竈土層
1　鈍黄褐色土　均質。しまりは弱い
2　〃　焼土粒を多く含む
3　黄褐色土　焼土粒を少量含む
4　〃　ローム塊を主体とした袖
5　鈍黄褐色土　粘性に富む。小型の焼土塊を含む



0　1：30　1.5m

119図　50号住居跡



120図　50号住居跡出土遺物

50号住居跡

調査区西端の西尾根区（H区）で検出された。７号テラス状遺構に南壁が重複し、西に23住が近接する。周辺は北側への急斜面地形であり、そのため本住居跡の北壁も大きく逸失している。７号テラス状遺構との新旧関係は、重複部分が少なく、一概には確定できないが、覆土の様相からは本住居跡が７号テラス状遺構を切る関係を看取した。その他の周辺遺構としては３号集積遺構が東に距離を保って位置する以外は見られず、斜面地形を因としてか居住地点としては積極性を持たなかったようだ。

平面形は判然としないが、主軸辺長約4.7ｍの方形を呈するものと思われ、北壁は確認できなかったが、壁高は南壁で約68㎝を測る。壁の掘り込みはしっかりしていた。

床面は、鈍黄褐色土が全体にわたって貼られているものの、硬化面は顕著ではなく、やや軟弱な床面といえよ

う。柱穴は無いが、貯蔵穴は小型で浅い土坑が南東隅で検出された。

竈は東壁に設けられており、南側の袖が残存していた。その他の構築材は無く、燃焼部も緩やかな掘り込みを持つが、上層に焼土塊が堆積していることから、構築材の粘土が崩落したものと思われる。

掘り方調査によって、貼床を除去したが、明確な床下遺構は検出できなかった。地山は角礫まじりの黄褐色ロームだが、掘り方面はほぼ平坦に築き上げられていた。

出土遺物は総破片点数160点で、やや少なく８個体を図示し得たのみである。明瞭な集中は無く、細片は覆土中よりの出土が目立った。全体的に散漫な出土状態といえよう。１は高台付椀で高台部分が欠損する。比較的厚手の器厚を呈し、やや口径が広く浅めの体部を見せる。覆土出土。２も高台付椀。中央やや北西寄りの覆土下位より出土。内面の器壁剝落著しい。３は床下埋土出土の高台付椀。厚手で、高台部分はしっかりした作りである。４は覆土出土の土師器甕口縁部破片。いわゆる「コ」字甕で、口縁部の横位横撫では強い。体部外面は横位箆削りで内面は横位撫でが施される。内面の器壁剝落著しい。５は須恵器甕体部破片。覆土出土。６は竈南で床直出土。須恵器大甕。紐作り叩き整形で、体部外面は撫でを施し器面を整え、内面は横位箆撫でが加わるが、内外面とも器面の摩滅著しく判然としない。７・８は布目の平瓦。７の凸面は無文の叩きを施した後撫でを加える。８は西寄りの床下埋土より出土した。側部面取りは１回で、凸面は撫で調整が及ぶが器面摩滅著しい。

53号住居跡

調査区西方の中尾根西区の最西端に位置する。３号道路状遺構と重複して検出されたが、周辺には他の住居跡は占地しておらず、単独の検出といえよう。周辺地形は北側への斜面地形で、北側へは埋没谷が展開する傾向を見せる。本住居跡の位置する地点は谷頭部にあたり、起伏に富む地形である。そのことからも周辺に住居が営まれなかった原因も想定できよう。

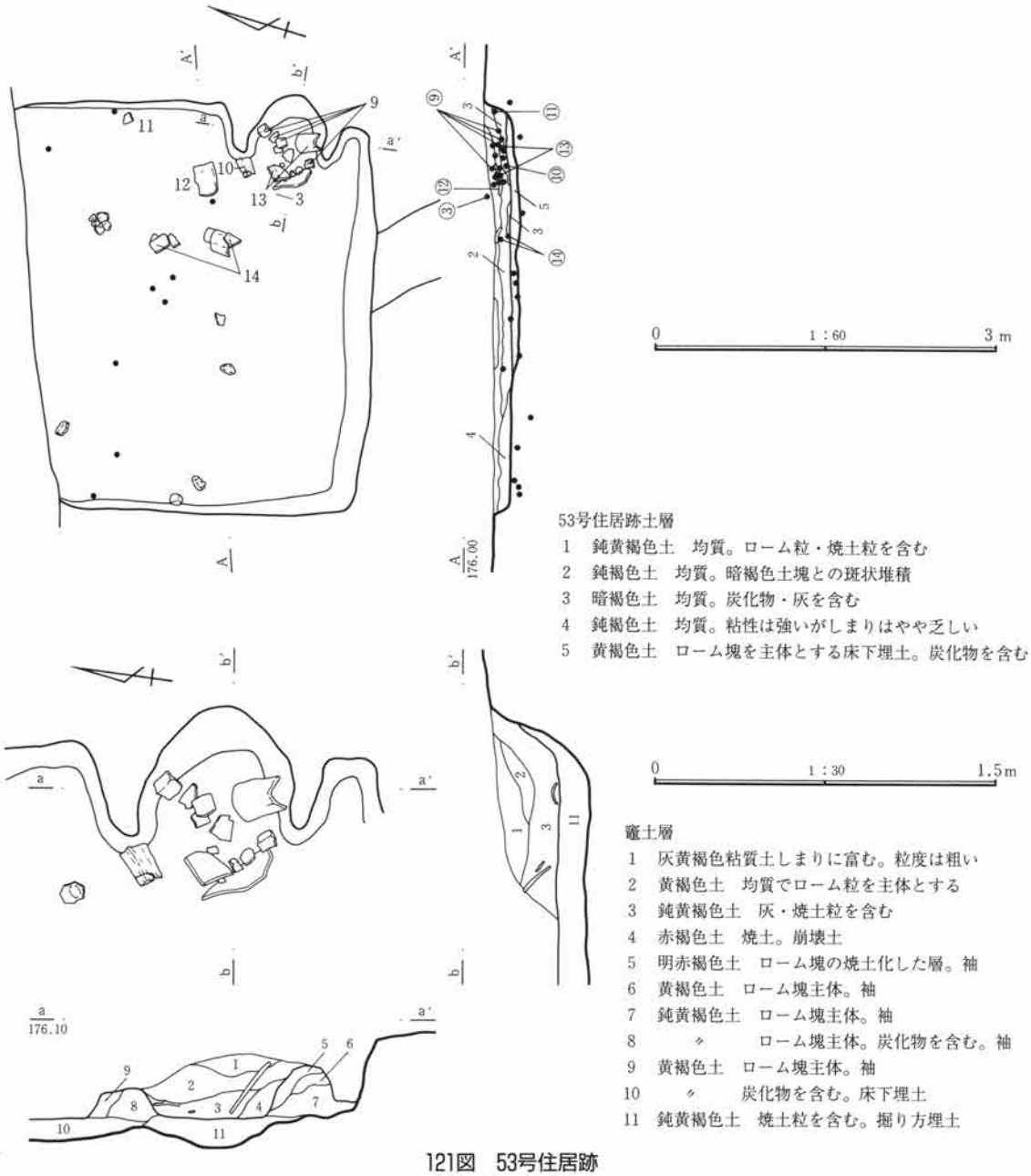
このように、住居跡群からやや距離を置いて単独で検出される住居跡は、当該期の集落内に多々見られる様相である。おそらく、居住者の生業や性格、あるいは微地形に影響されたためと考えられるが、本住居跡の場合は、その背景を地形に置いておきたい。やや消極的な意見かも知れないが、当時の集落構造の分析は未だ解明には至ってはおらず、本遺跡が示す例のように、馬の背状台地や狭小な台地に展開する該期集落にも視点を当て、立地要件や性格を今後更に煮詰める必要があるためである。

平面形は北壁が斜面地形のため逸失しており全体感は判然としないが、おそらく主軸辺長約3.6ｍの正方形を呈すると思われる。深さは約32㎝を測り、遺存度はやや悪いといえよう。壁の掘り込みは北側を除きしっかりしていた。

床面はほぼ平坦面を築き、黄褐色土による貼床がなされていたが、西側から北側にかけては地山のロームによる地床である。遺存が悪く硬化面などは竈周辺に限り確認された。柱穴・貯蔵穴は確認できず、おそらくは設けられないものと考えた。

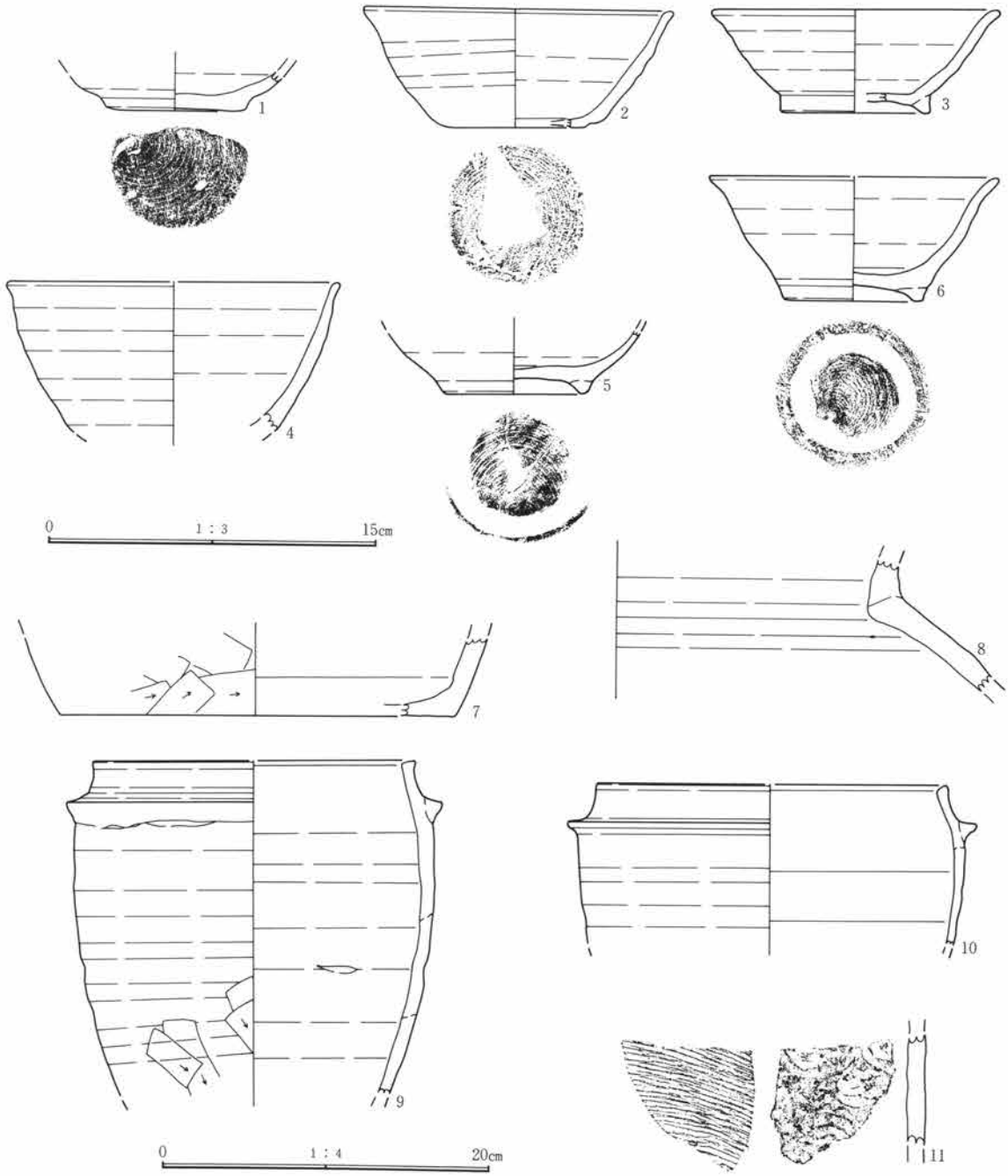
竈は東壁の南東隅寄りに設けられていた。馬蹄状の燃焼部を呈し、煙道の突出は短い。また袖も短く、ローム塊を主体にした盛土でかなり焼土化していた。その他の天井材などの構築物は残存していなかったが、周辺出土の丸瓦や羽釜片が構築材の一部を構成していた可能性は強い。また、燃焼部には焼土塊が厚く堆積しており、これが天井部や側壁を構成していた粘土材崩落土と思われる。

掘り方調査によって、床下遺構の検出を努めたが、明瞭な掘り込み・土坑は無く、僅かな凹凸が掘り方下面に見られたのみである。



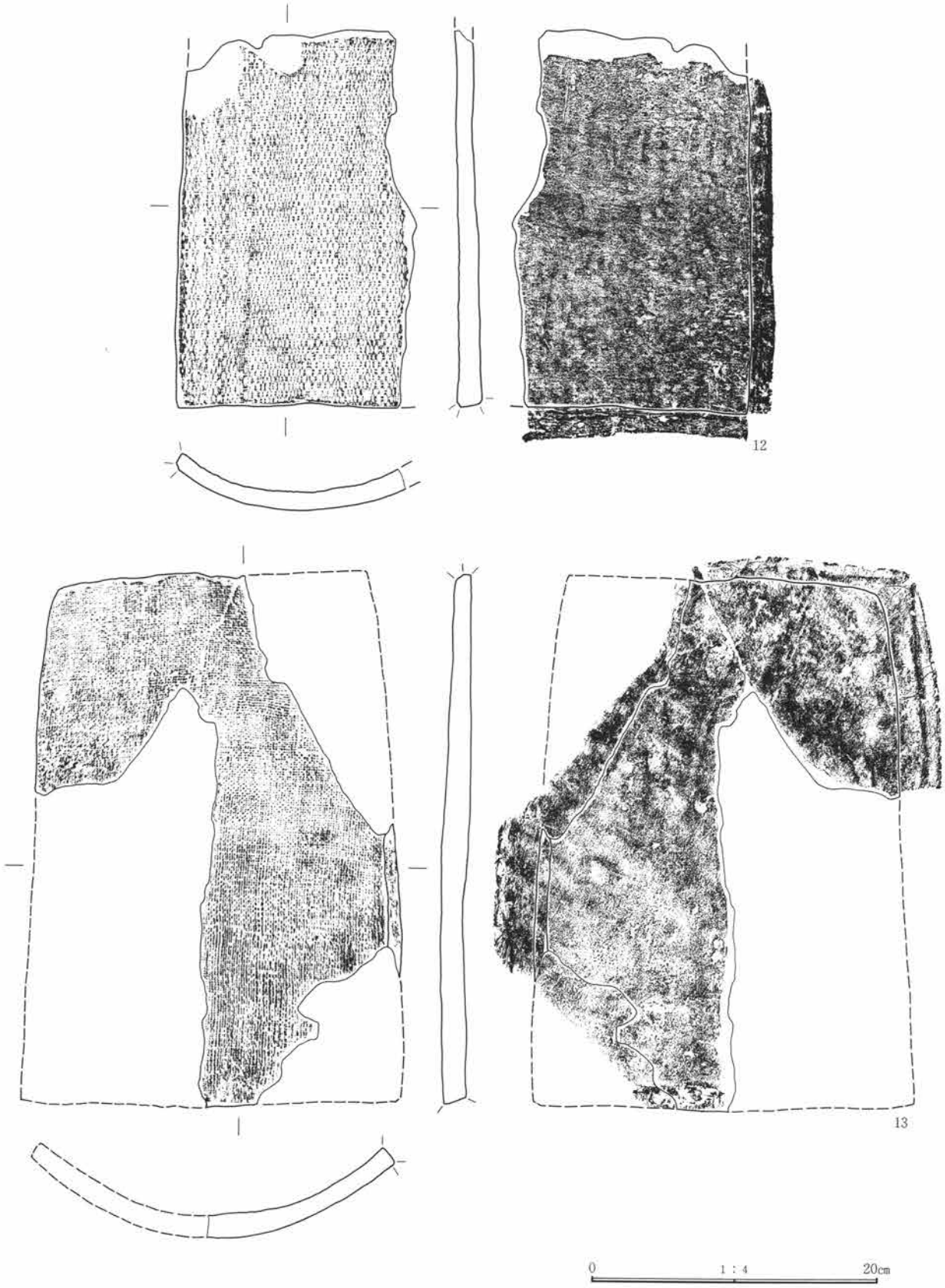
121図　53号住居跡

遺物は出土総破片数319点と比較的多く見られたが、覆土中の細片が多く、接合関係も特に積極的ではなかった。17点を図示し得たのみである。竈周辺に集中が見られるが、これは前述の竈構築材の瓦や羽釜の出土のためである。床面上の出土は散漫といえよう。１は覆土出土の坏底部。腰部は僅かに立つ。２は床面中央北寄りのほぼ床直よりまとまって出土している。身深の坏で全体に器厚は薄く、口縁部は僅かに外反する。３の高台付椀は竈前庭部覆土上層で出土した。若干開き気味の高台形態を呈し、口縁部は僅かに外反する。４は覆土出土。身深の椀、あるいは坏か。口縁部は僅かに外反し、薄手の器厚を呈す。体部の轆轤目強い。５は床下埋土中より出土した高台付椀底部。体部の器厚は薄く、高台部は丁寧に仕上げられる。轆轤目弱い。６の高台付椀は竈北側の床直出土。緩やかに外反する口縁部形態を呈し、高台は短くやや内傾気味である。７は覆土出土の大甕の底部破片。轆轤整形で外面は横位・斜位の箆削りが施される。内面は撫でが加わる。８も覆土出

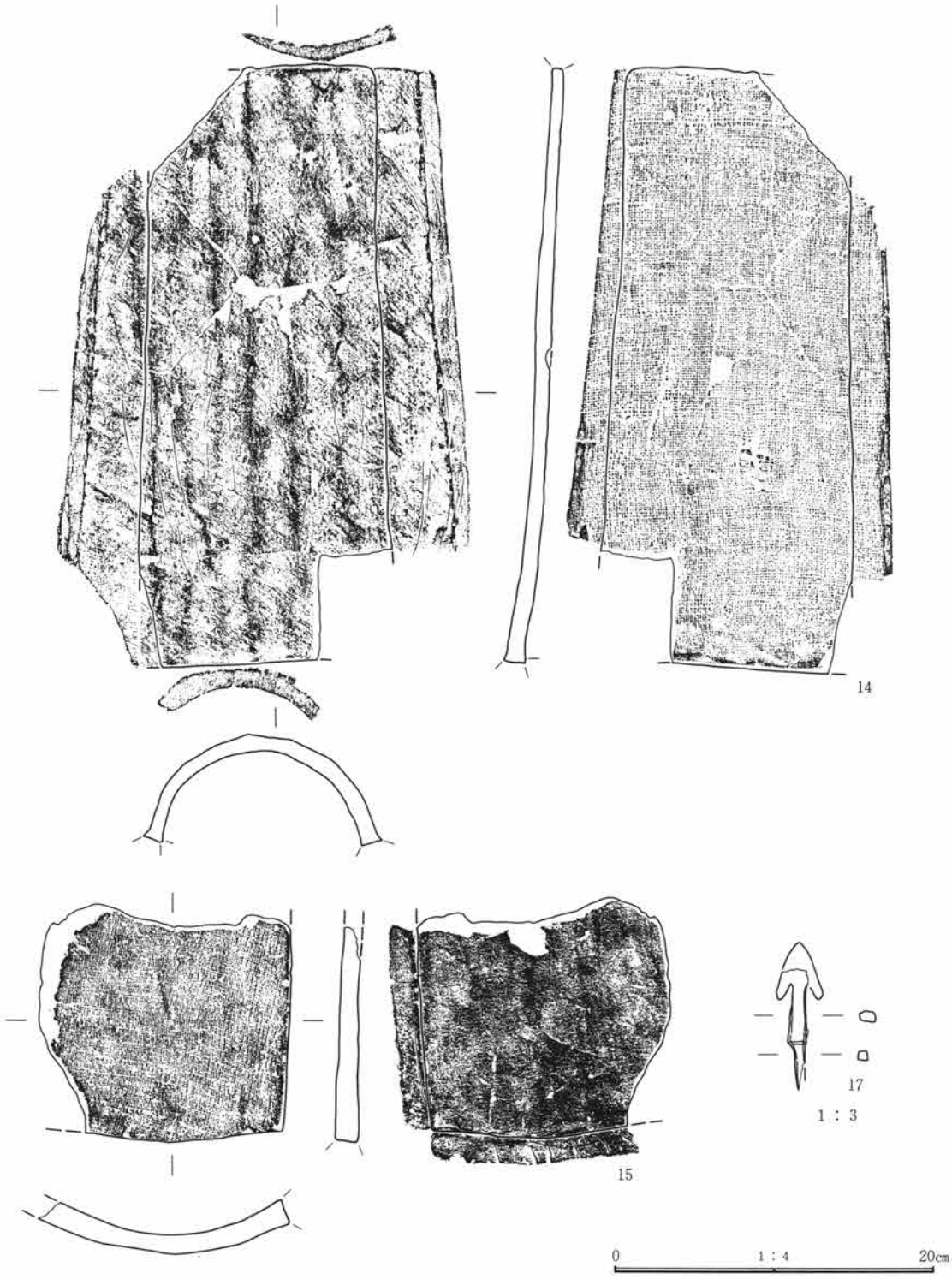


122図　53号住居跡出土遺物（1）

土。大甕の頸部破片。轆轤整形で外面は丁寧に撫でられる。内面は横位撫で。頸部の輪積み痕（巻き上げ痕）は直線的である。9は羽釜。竈燃焼部と周辺より出土した。構築材か。内傾気味に直立する口縁部に短い鍔が貼付される。右回転轆轤整形で外面の下半には縦位・斜位の篦削りが施される。内面は横撫でだが、篦の当て目が残る。10は竈北袖前の床直より出土した羽釜口縁部。9と同様に内傾気味に直立する口縁部に短い鍔が付く。右回転轆轤整形でおそらく下半には篦削りが施されるのであろう。11は大甕体部破片。外面は平行叩、内面は青海波文。内面の一部には撫でが加わる。東壁際覆土中位出土。12は竈北側の中層より出土した筵目の平瓦。1枚造りで側部面取り2回、端部は3回に及ぶ。凸面は無文叩後丁寧に撫でられる。13は竈燃焼部内出土の布目瓦。おそらく1枚造りであろう。側部面取りは2回、上端1回・下端部は1回である。凸面は無文叩後

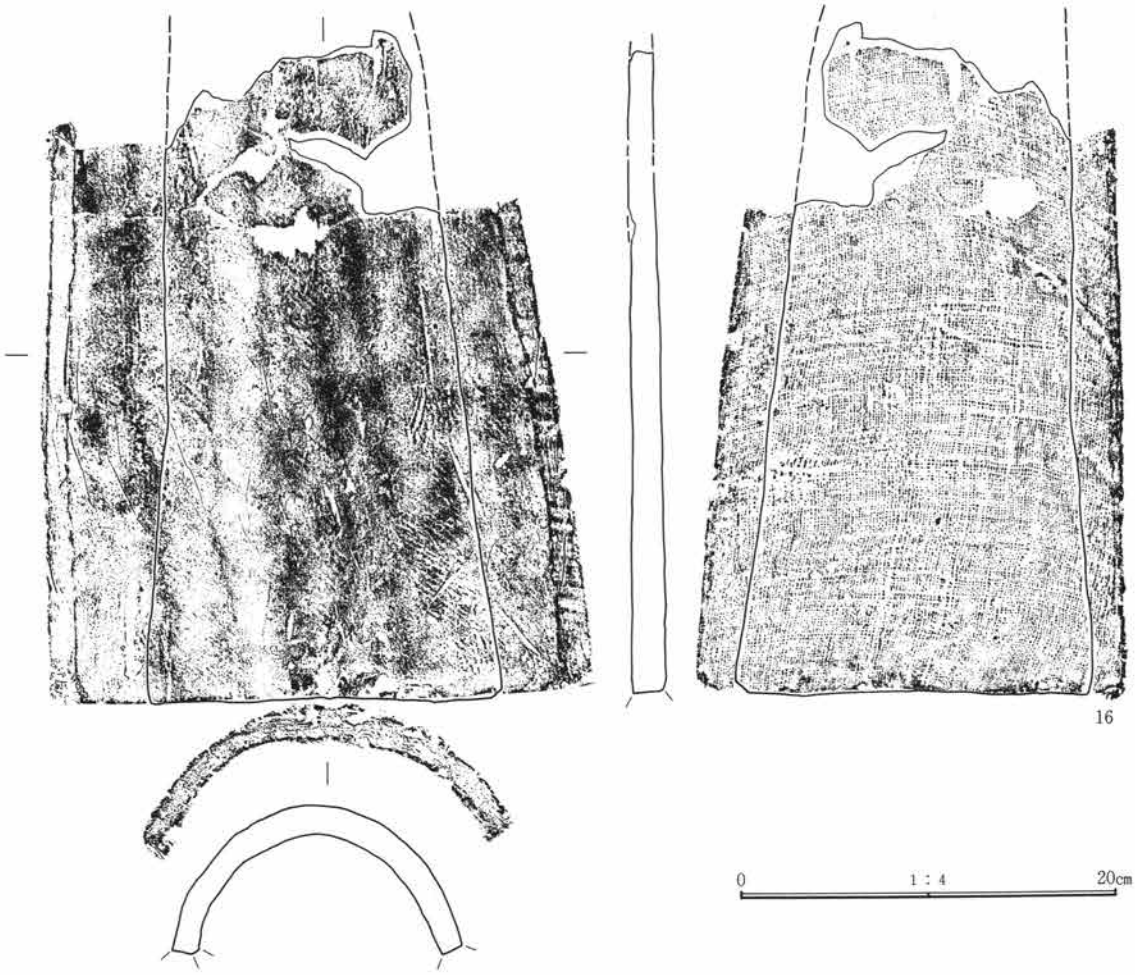


123図　53号住居跡出土遺物（２）



124図　53号住居跡出土遺物（3）

縦位撫でが及ぶ。14は床面中央で2片が接合した。床直出土の丸瓦。1枚造り。左側部2回・右側部は1回、上端部は1回・下端部は2回の面取りが行われる。凸面は平行叩。薄手で還元焔焼成である。15の平瓦は覆土。側部、端部とも1回の面取り。凸面は無文叩後撫でが施される。16は竈燃焼部より出土した丸瓦。構築材



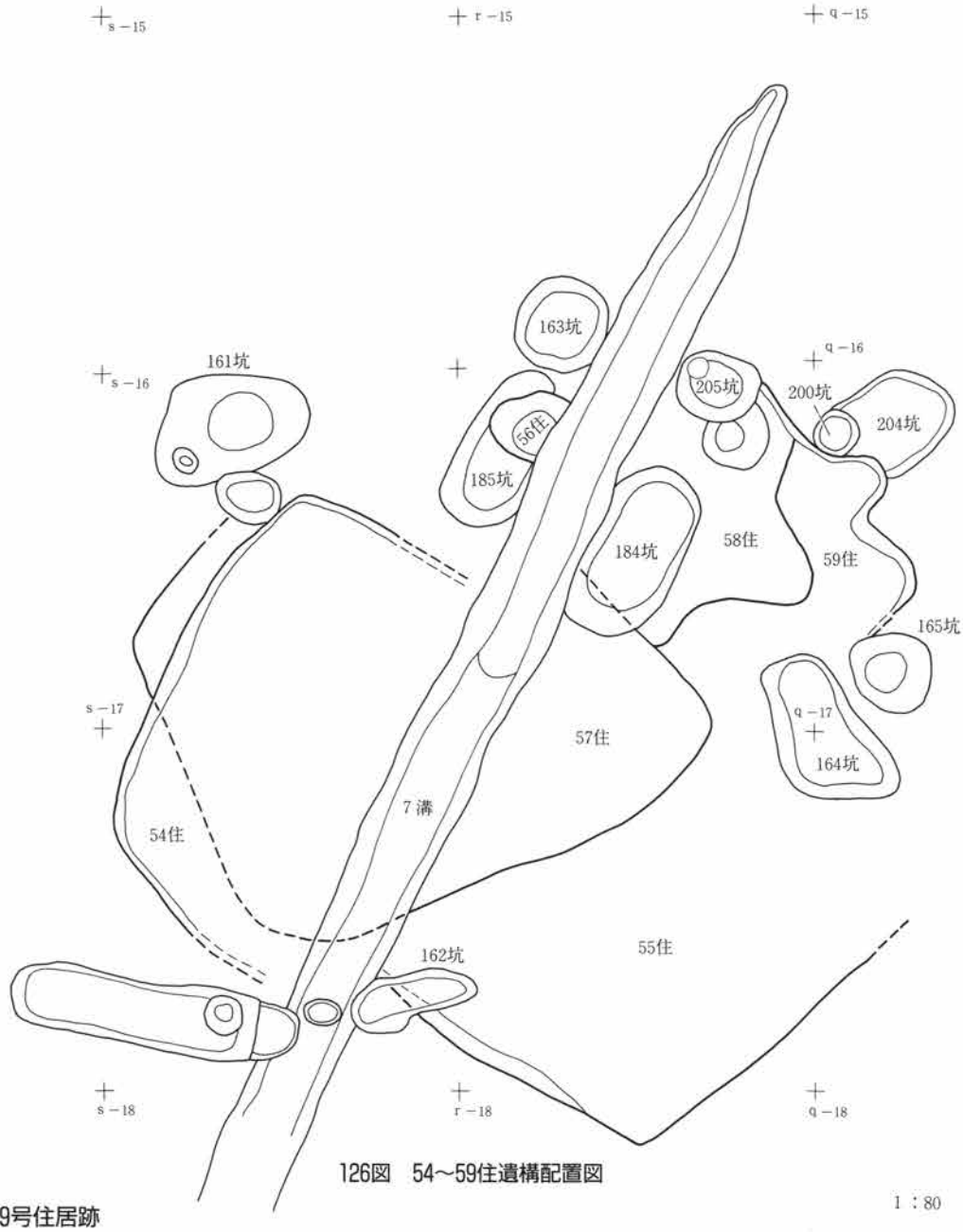
125図　53号住居跡出土遺物（４）

であろう。左側部２回・右側部は１回、端部は１回の面取り。凸面は平行叩。１枚造りである。17は覆土中より出土した鉄鏃。短頸腸抉長三角形鏃。刃部½・逆刺片方は欠失し、断面三方形状である。

以上のように、本住居跡の出土遺物は個体資料は少ないながらも、半完形の瓦や鉄鏃も出土しており、他の住居跡出土遺物組成とは若干ながら性質を異にする。瓦は本住居跡南に展開する寺院跡とその周辺からの持ち込みと思われ、半完形の個体の状態からも寺院跡廃絶後の持ち込みの可能性もあるが、寺院跡と本住居跡の出土遺物の時期差は大きな隔たりは無い。本遺跡の他の住居跡竈に見られる瓦の使用状態や寺院跡と住居跡の廃絶時期の問題、更に、上野国分僧寺・尼寺中間地域などに見られる竈構築材の瓦の様相など比較しなければならない材料は多く、検討方法も多岐にわたる。今後の研究の進展を望みたい。

また、１点のみだが鉄鏃の出土が見られたことから、居住者の性格・生業確定には至らないまでも、本遺跡の性格を一概に寺院跡とその関連に置く作業に対しても慎重にならざるを得ない。

ともあれ、本遺跡の様々な住居跡支群から距離を離して占地する本住居跡から鉄鏃のような性格が反映でき得る遺物が出土した要素は軽視すべきではない。



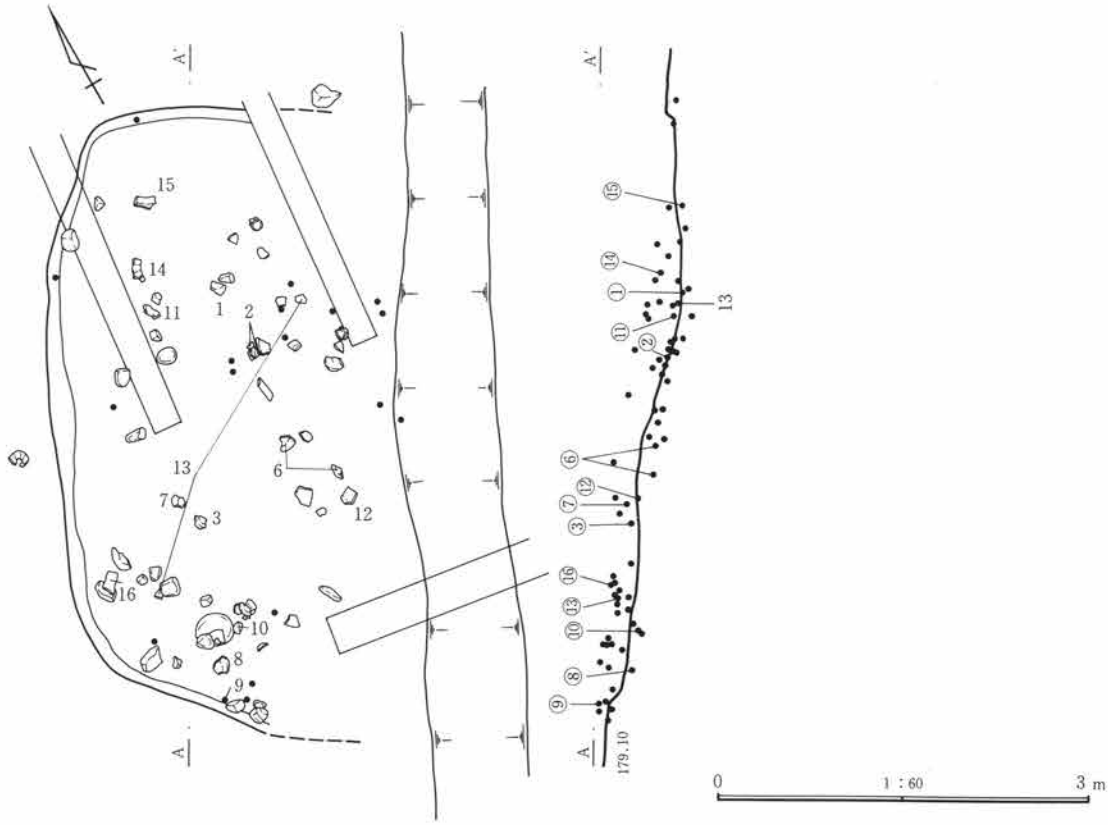
126図　54～59住遺構配置図

1：80

54～59号住居跡

本住居跡群は東尾根区の頂部で検出した。痩せ尾根状の地形ながら、頂部部分に1号掘立柱建物跡や7号溝・土坑群などが密集した地点であり、プラン確認の段階で黒色土が広範囲に認められた箇所である。調査はこの黒色土の広がる範囲に、セクションベルトを設けて、複数遺構の確認を行った。その結果、54～59号住居跡など確認したが、セクションベルトの方向が必ずしも遺構に沿う方向ではなく、新旧の確定、遺構の範囲などに関しては手違いが生じ把握できなかった。また、住居跡としてもその形状・床面の状態に関して不明瞭な部分が多く、住居としての確定そのものに疑問もある。例えばテラス状遺構や整地の痕跡としての性格も可能性を残す。また、1号掘立柱建物跡との関連をも考えなければならないだろう。

本報告では、住居跡として記述をするが、上記のような理由から重複住居跡群と確定せず、平坦地形と出土遺物と捉える方向も望ましい。

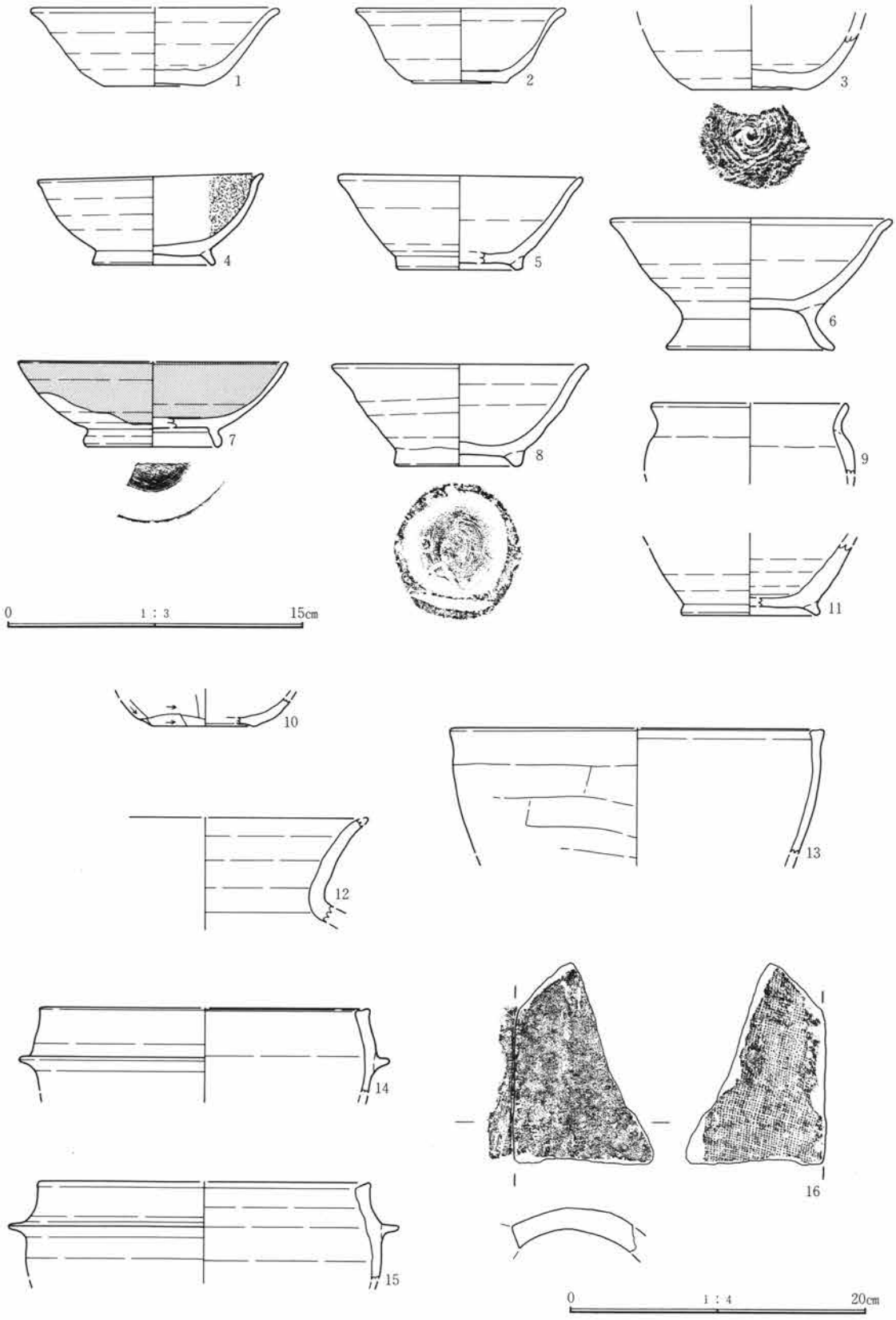


127図　54号住居跡

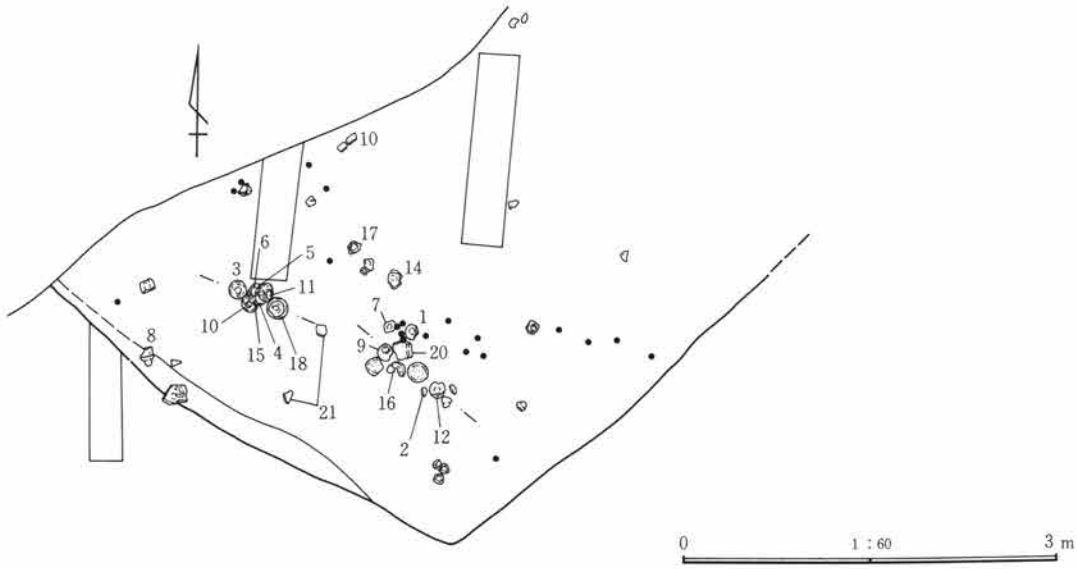
54号住居跡

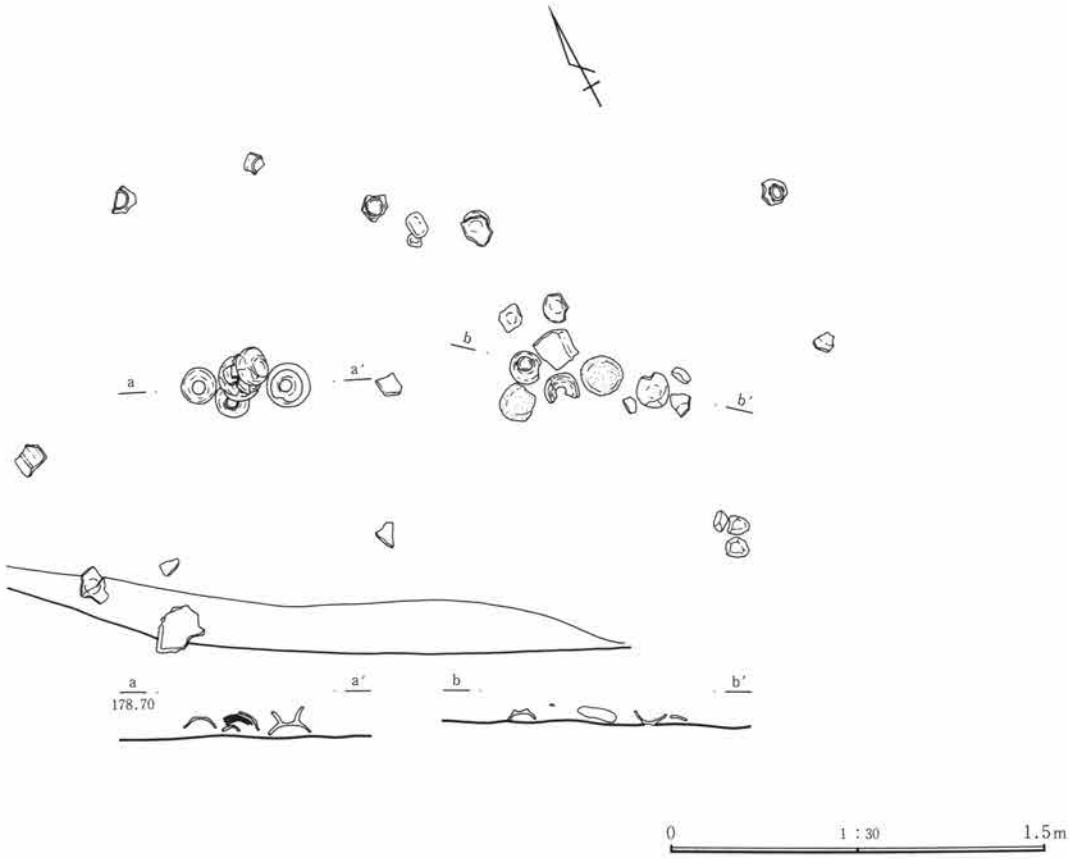
西端で検出された。東側には７号溝が重複し、新旧は判然としないが57号住居跡も重複する。辺長約4.7m望ましい規模であるが、深さは約6.0cmで住居跡としては遺存は悪い。床面はロームの地床で凹凸も顕著である。竈・貯蔵穴・柱穴といった施設は検出できず、全体に散布した状態で出土した遺物を確認できたのみである。遺物も特に集中が見られる傾向は無かった。

出土遺物総破片数は200点と多く、16点を図示した。１は床直より出土した坏。やや厚手で口縁部は外反する。２は薄手の器厚を呈する坏。床直出土。３は覆土下位より出土。坏底部で丸みを帯びる体部器形を呈す。４は覆土下位出土の内面黒色処理を施した小型の椀。口縁部は強い横撫でで外反する。器厚は薄手。５も覆土出土の高台付椀。口縁部は僅かに外傾し、体部は直線的な器形。６は足長の高台付椀。床直出土。高台貼付時の横撫では丁寧である。７の灰釉陶器椀は覆土中位出土。薄手で施釉は漬け掛けである。８、高台付椀。床直出土。やや厚手で口縁部は僅かに外反する。９は南壁上で出土。轆轤整形の小型甕口縁部破片。体部は撫でが施される。酸化焔焼成。10は土師器甕底部破片。床直出土。外面横位箆削り。11は甕底部破片。体部の器厚厚く重量感ある。左回転轆轤整形。覆土下位出土。12は須恵器甕口縁部破片。頸部の屈曲部に自然釉が付着する。覆土中位出土。13も覆土中位。片口鉢の口縁部破片であろうか、口唇部に僅かな歪みが認められる。轆轤整形で口縁部は丁寧な横撫で、体部外面は横位箆撫でが施される。14は羽釜口縁部破片。右回転轆轤整形。覆土中位出土。15は覆土下位出土の羽釜。器面摩滅する。16は覆土上層出土の丸瓦。厚手で側部面取りは１回。凸面は無文叩後撫で。

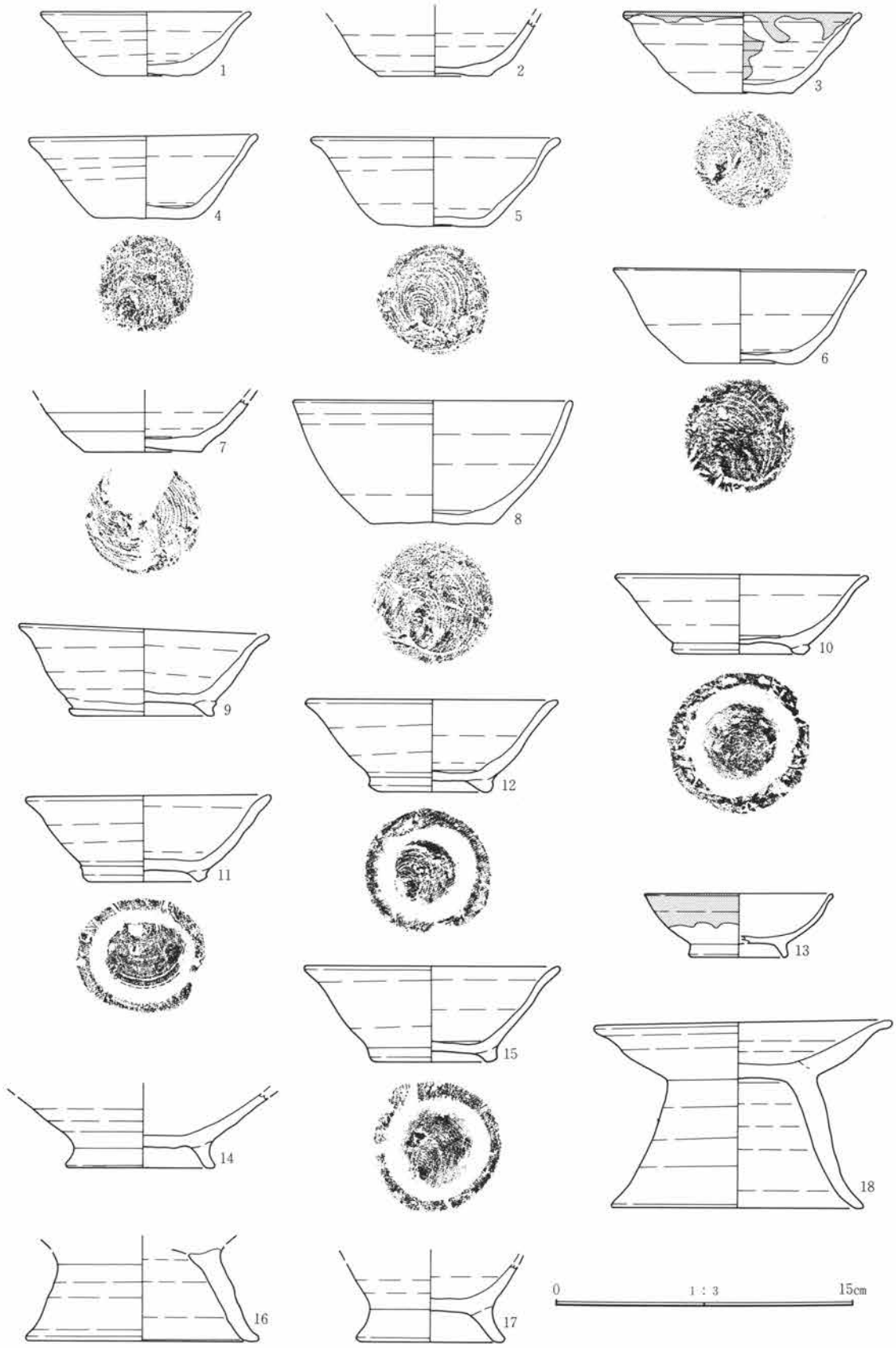


128図　54号住居跡出土遺物

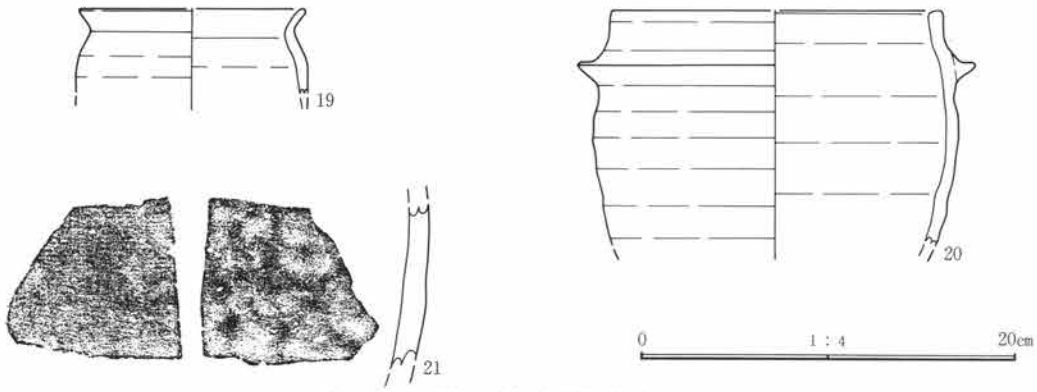

10
17
6
5
14
3
11
7
1
10
8
9
20
15
4
18
16
21
12
2
0
1：60
3 m


a
a'
b
b'
a
178.70
a'
b
b'
0
1：30
1.5m

129図　55号住居跡



130図　55号住居跡出土遺物（1）



131図　55号住居跡出土遺物（２）

55号住居跡

東側で検出された。57号住居跡と重複した状態だが、床面のレベル差は特に顕著ではなく、壁の様相から57住を新しく見たが確定的ではない。また、本住居跡西側は57住と７号溝で、北側は土坑や59号住居跡とも重なるため判然としない。本住居跡の明確なプランは南側の一部の壁のみである。東壁は不明瞭だが、床面の状態で判断した。

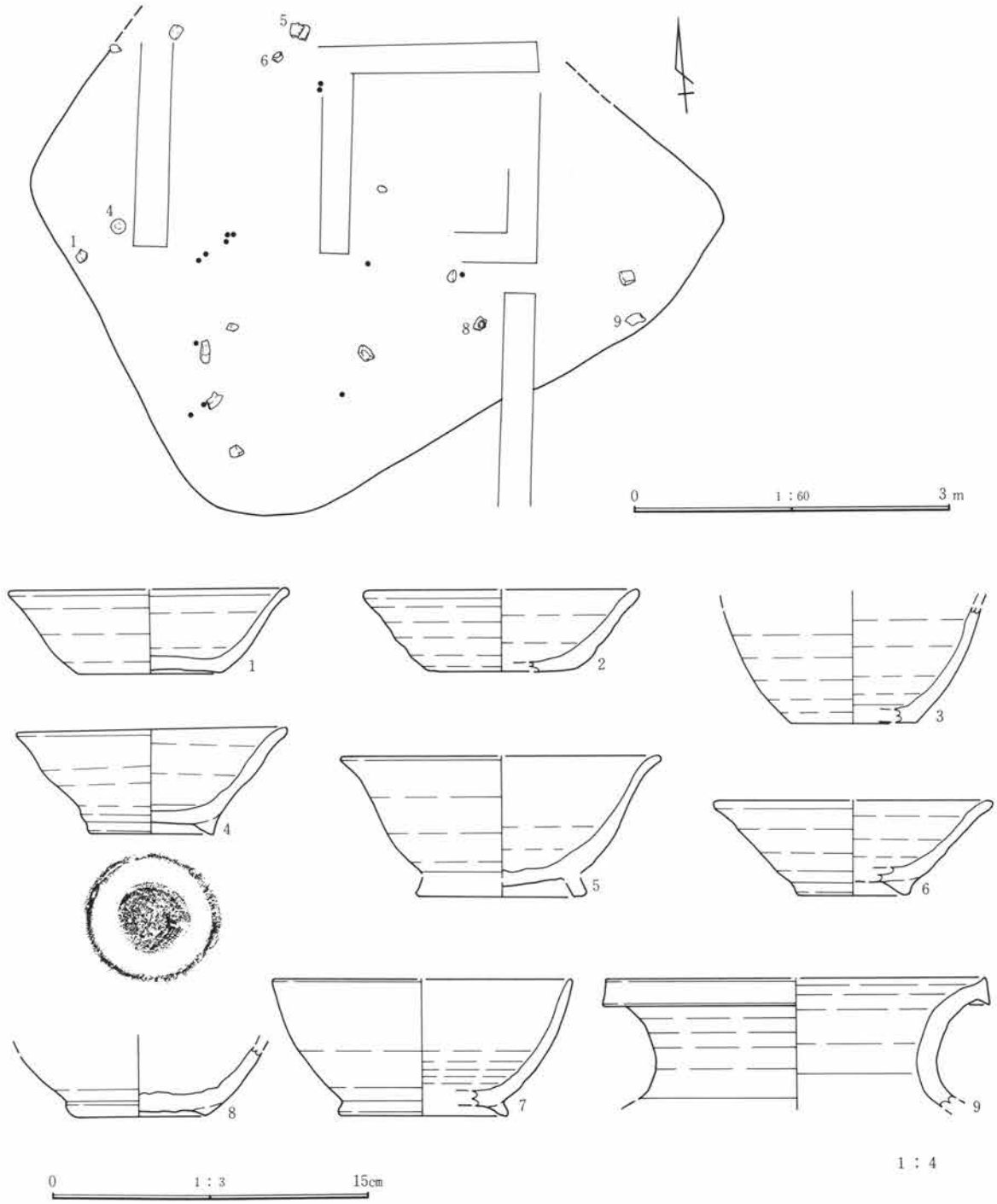
平面形はおそらく不整方形を呈し、南側の壁高も浅く、全体的に遺存度は不良である。

床面は比較的平坦であり、ローム層土による地床である。硬化面の広がりは認められなかった。また、竈・柱穴・貯蔵穴も検出できなかった。このことからも、本遺構を住居跡として確定できない根拠となろう。

しかしながら出土遺物は比較的豊富で、総破片点数は150点を数え、完形土器なども見られ、遺物の遺存は良かった。これは、床面にほぼ密着した状態で２群の遺物集中箇所が見られたためで、東側の一群と西側の一群に分けられており、なんらかの祭祀行為に伴う遺物群とも捉えられる出土状態である。１の小型坏は東群より出土した。体部下半に丸みを持ち、口縁部はやや歪む。２も東群出土の坏。薄手の器厚である。３は西群。内外面に油煙が付着し口唇部内面に浅い凹線が巡る。４も西群出土。直線的な体部で下半には撫でを施す。５の器厚は薄く口縁部は外反する。西群出土。６も西群。轆轤目は弱く体部上半は薄手。７は東群出土。内面は黒色処理が施される。８は西壁上出土の身深の坏。器厚は比較的薄手。９は東群出土の高台付椀。高台は短く器厚は厚手。10は西群。底部器厚は薄く高台は短い。11も西群。口縁部・高台部とも僅かに歪む。やや厚手。12は東群出土。13、灰釉陶器椀。小型で内底面は滑沢である。あるいは転用硯か。覆土出土。14は東群の北寄りで出土。開き気味の高台部で体部器厚は比較的薄手。15は西群。口縁部内面に薄い内稜が巡る。16は東群。高盤などの脚部。厚手でしっかりした作りである。17、西群の北東寄り出土の高台付椀脚部。丁寧な撫でを施す。18は高盤。西群出土。口縁部は強い横撫でが施され外反気味の形態を呈す。体部浅く内面には粘土粒が残る。脚部はややいびつな広がりを呈す。器厚は厚手だが全体に轆轤目が強く、鋭角な印象を得る。19・20は覆土出土。19は轆轤整形の小型甕。酸化焔焼成。20の羽釜体部下半には箆削りが看取される。21は西群南寄りの覆土出土の大甕体部破片。外面平行叩。内面は円環状当て目。やや軟質な焼成である。本住居跡にはこの他に鬼瓦破片が西壁上より出土しているが、既報告済みである。

56号住居跡

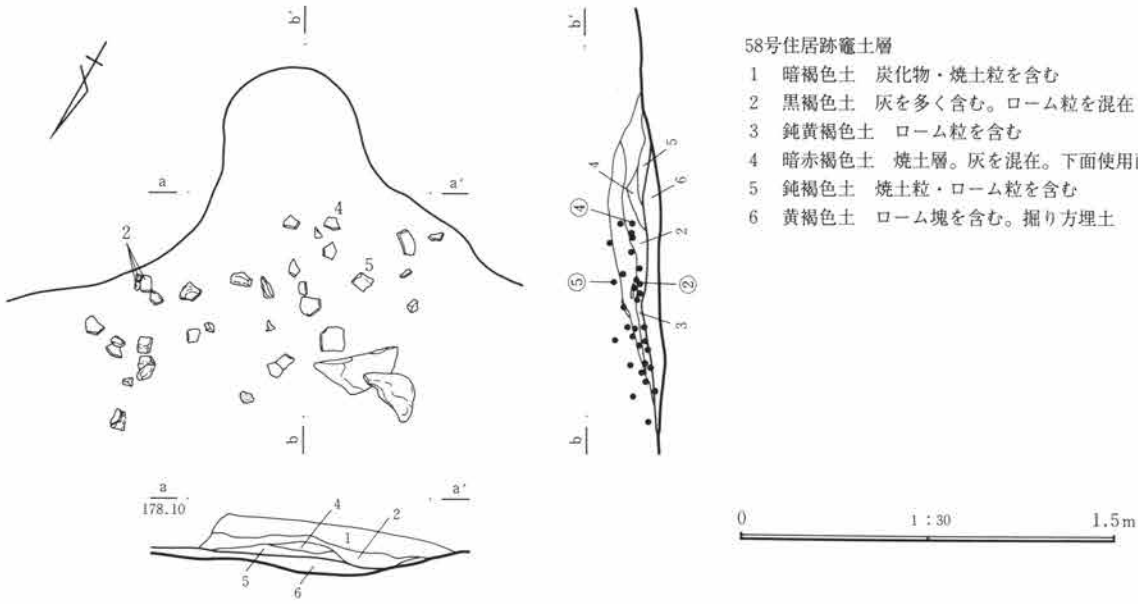
７号溝西に竈様に焼土の範囲を検出したが、掘り込みも極端に浅く、竈としては確定的ではない。また、遺物も出土しておらず、住居跡として積極的な根拠は持たない（126図）。



132図　57号住居跡・出土遺物

57号住居跡

7号溝を挟んで、54・55号住と重複して検出された。床面の状態も判然とせずサブトレンチを縦横に設定したが、壁・竈・柱穴などの諸施設は確認できなかった。故に本住居跡も住居としての性格を具備しておらず、その存在に疑問が持たれる。しかし、遺物の出土は見られ、9点を図示し得た。1は口唇部が僅かに外反する坏。底面は摩滅する。2はやや厚手の器厚を呈す。底面は摩滅するが体部轆轤目は強い。3は無台の椀で



133図　58号住居跡竈

あろうか。底面には撫でが及ぶ。４は高台付椀。高台部は短いが撫でによる段を持ち、体部上半は厚手である。口縁部は僅かに外反する。５も椀。高台部分を欠損する。口縁部は外反し上半は薄手だが下半は厚い。６の椀は体部がやや浅く、比較的厚手の器厚を呈す。高台部は短い。７は身深の椀。高台は開き気味で短い。内外面とも器壁剝落多いが内底面の轆轤目は顕著である。８の椀高台部は極めて短く、器壁剝落は著しい。厚手。９は須恵器大甕口縁部破片。左回転整形。口縁部は幅狭で若干内傾気味である。

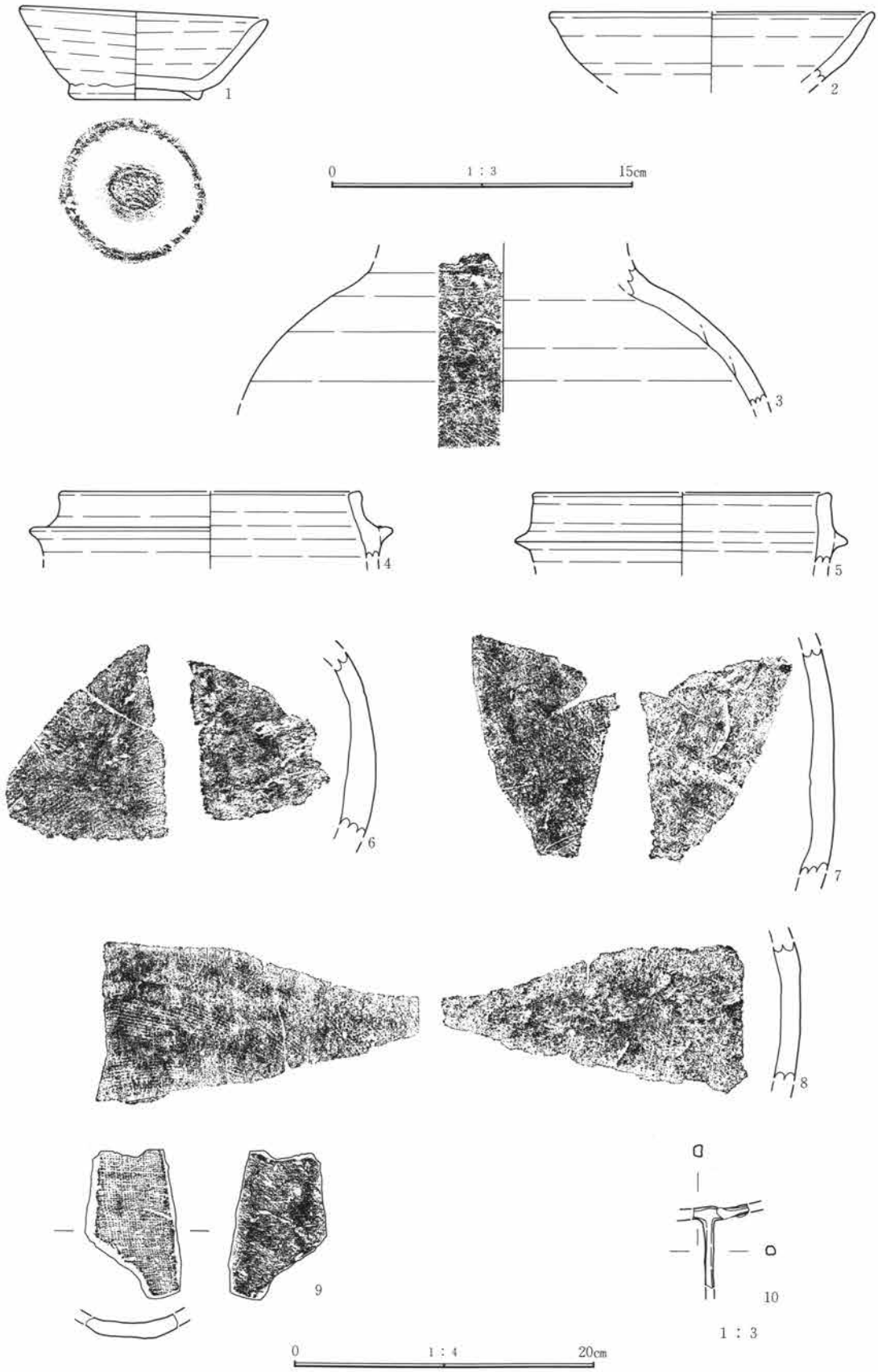
58号住居跡

竈のみが検出された。主軸方位は南東方向で、竈としての可能性は一応あるが、掘り込みが浅く、焼土の堆積も他の住居跡竈とは様相を異にすることから、疑問は多く、確定的に竈とはできないだろう。焼土は薄く堆積しており、その散布範囲から馬蹄状の燃焼部を想定した。また、住居跡平面形も57住と59住に挟まれる空間に重複する方形を基調としたプランを想定したが、顕著な壁の立ち上がりは検出できなかった。本遺構を住居跡と位置付けたとしても、57住と59住に壊されて竈の痕跡のみが遺存する住居跡とされよう。

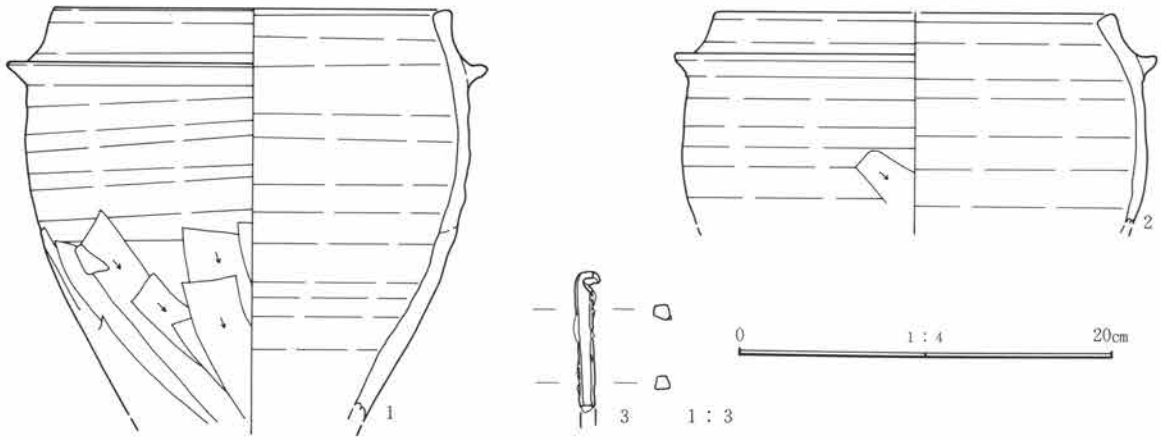
また、遺物も出土しているが主体的な出土とはいえず、散漫な状態を見せる。１は高台付椀。体部器厚は厚手で、重量感がある。高台は短い。内面の器壁剝落多い。２は椀の口縁部破片。厚手である。３は須恵器甕肩部破片。外面は平行叩、内面は横撫でが施される。４・５は羽釜口縁部破片。４の口縁部は強い横撫でにより彎曲が顕著である。５は小径直立気味の口縁部形態を呈す。６～８は須恵器大甕体部破片。あるいは同一個体か。外面は平行叩後撫で、内面は円環状の当て目が残るが下半は撫でが施される。９は平瓦小片。10は鉄製品。鉸具と考えられる

59号住居跡

前述の58住の東に重複して検出された。竈主軸を北東に持ち、南東隅を検出したが、壁は浅く遺存は不良である。また竈部分の焼土の堆積も極微量であり、あるいは58住竈部分との近距離性からも、竈としての積極的根拠を持たない。遺物も出土したが、出土状態も明瞭に図化されておらず、判然としない要素が多い。



134図　58号住居跡出土遺物



135図　59号住居跡出土遺物

１は羽釜。右回転轆轤整形で体部下半には箆削りが施される。体部の轆轤目は強く残り、比較的鋭角な印象を得る。２残る羽釜も１と同様な器形を呈し、下半には箆削りが施されるが、轆轤目は弱い。３は鉄釘。頭部は欠損するが、折り曲げが看取される。

以上のように、本住居跡群は、広範囲に堆積する黒色土除去後の、地形の凹凸や焼土の散布から推定したものであり、住居跡としての積極的な根拠を多く持たない。前述のように、テラス状遺構として、あるいは１号掘立柱建物跡関連遺構として捉えておくべきであろう。瓦の出土が極端に少ないことからも、瓦葺ではない建物遺構を想定して、寺院跡との関係を想定しておきたい。これも確定的ではないが、礎石建物ではなく瓦を葺かない屋根構造を持つ寺院跡関連遺構（堂宇など）も位置的には考えられるのではないだろうか。

いずれにしろ、調査手順の不手際から、本遺構群の性格が不明瞭になった反省は残り、また整理作業においても、最後まで住居跡としても他の寺院跡関連遺構としても、性格を確定できなかった。編者としても残念であり、本遺構群を報告するのにも戸惑いを隠せない。

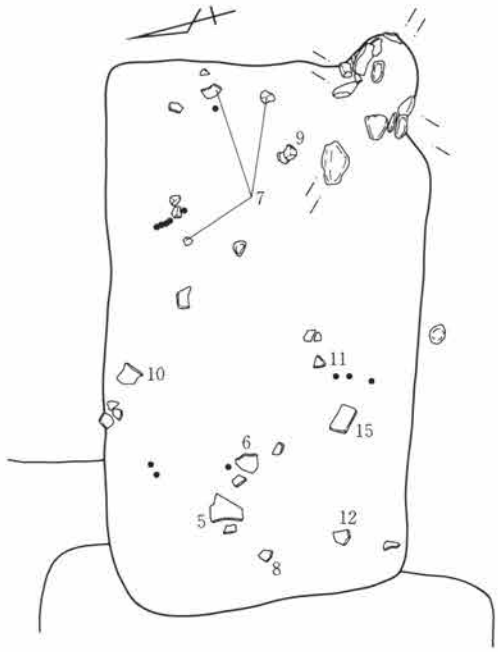
しかしながら、狭小な馬の背状台地においても、平坦面と遺物の散布が認められたことから、この地点が、居住域ではないが、何等かの有機的な拘わりを持った地点として、寺院跡遺構としての可能性を指摘しておきたい。

60号住居跡

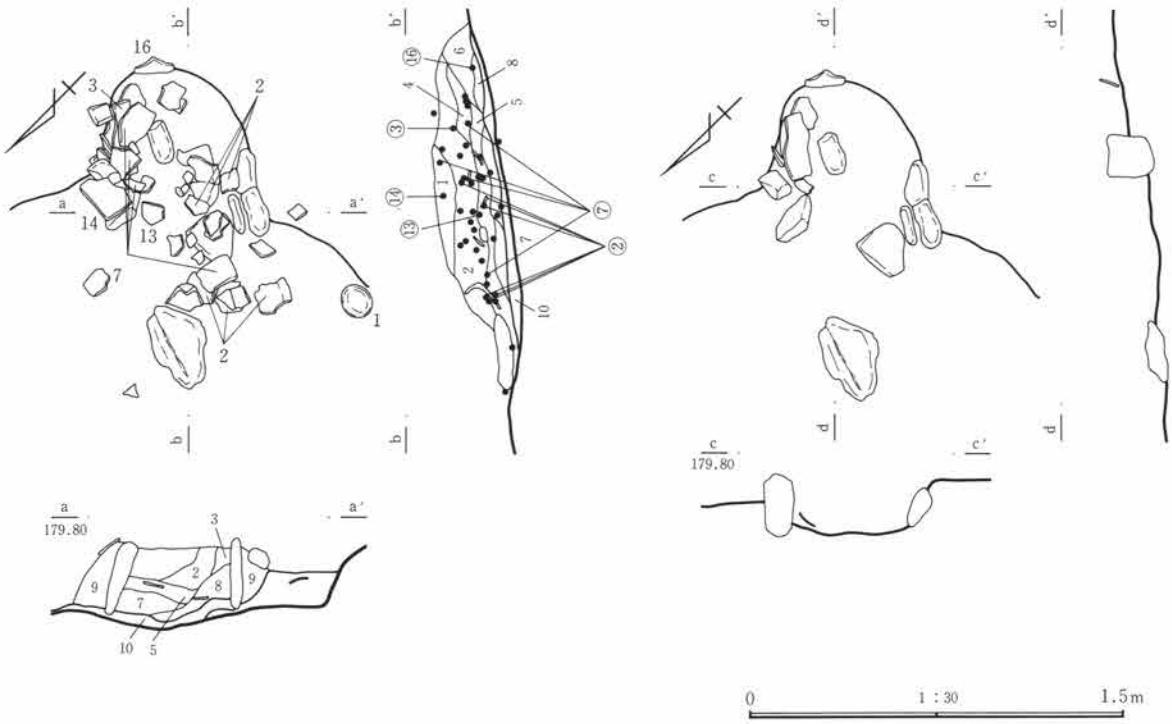
中尾根東区のほぼ中央で46号住と重複して検出された。周辺は平坦地形で遺構密集地点であり、特に土坑の検出が顕著であった。これら土坑群の調査の際、本住居跡の竈が確認され、平面形・床面の検出に努めたが、土坑群の存在のため、明確な壁を検出できず、僅かに残る地床の範囲を確認することによってその全容を把握するに至った。

平面形は約4.2×2.5ｍの縦長長方形を呈す。前述のように遺存度は悪く壁は確認できなかった。また、床面はロームによる地床であり、若干ながらの硬化面を検出し得た。尚、柱穴等はなかった。

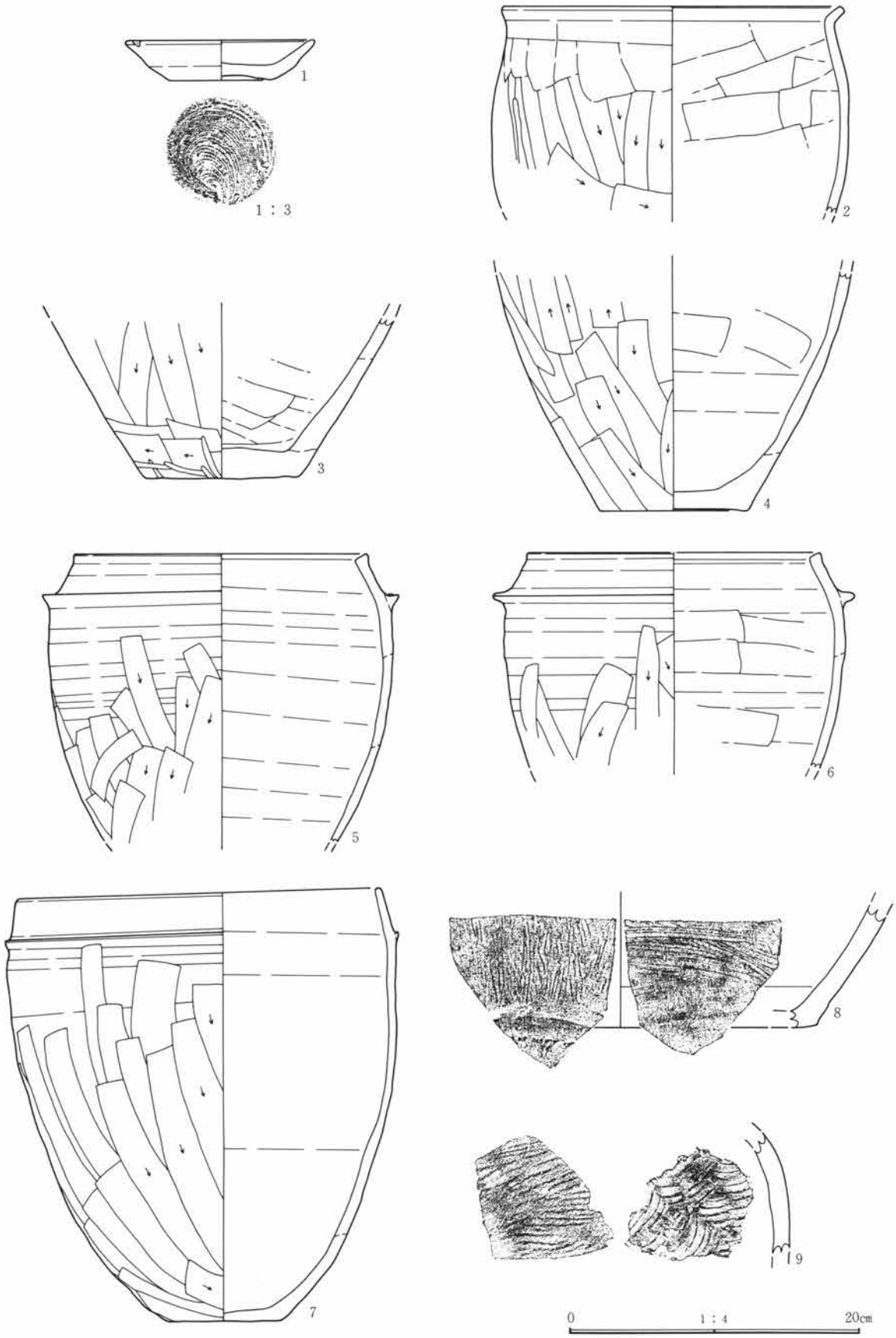
竈は南東隅に設けられる。馬蹄状の燃焼部を突出させるが、立ち上がりは緩やかで壁などは焼けていなかった。構築材は片岩質の自然石を両脇に立て、前庭部におかれる大型の自然石が天井材として懸架されていたようである。自然石と伴って出土した羽釜破片や瓦破片は補強材として利用されていた可能性が高い。



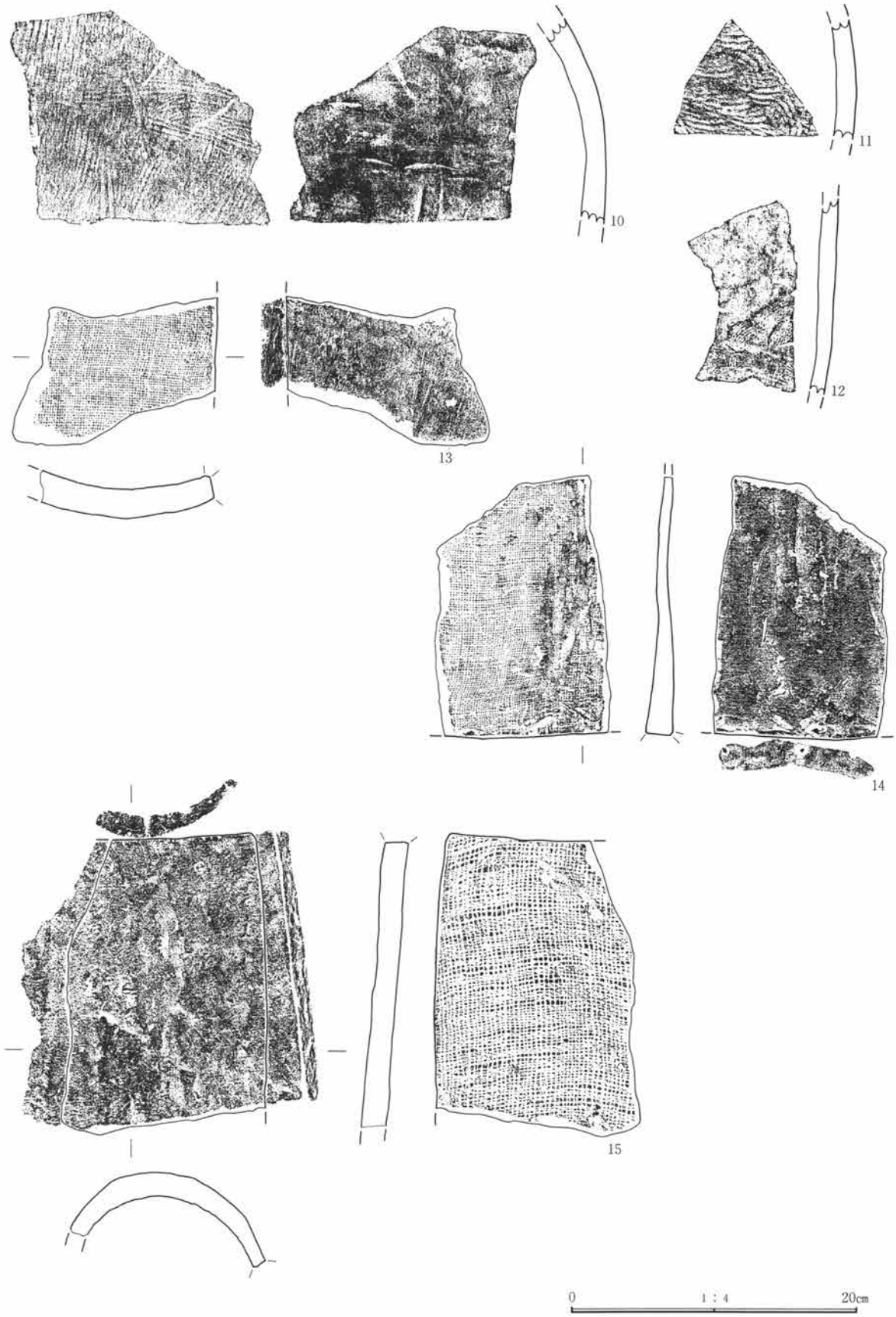
60号住居跡竈土層
1　暗褐色土　炭化物・焼土粒少量含む
2　〃　焼土塊を多く含む
3　暗赤褐色土　焼土塊を主体とする。白色粒混入
4　赤褐色土　焼土塊を主体とする。
5　灰褐色土　炭化物・焼土粒を多く含む
6　暗褐色土　焼土塊を多く含む
7　黒褐色土　灰を多く含む。焼土粒・炭化物は少量
8　〃　焼土粒・炭化物・灰を多く含む
9　暗褐色土　ローム粒炭化物を少量含む。しまり強い
10　褐色土　黒褐色土塊・ローム塊による掘り方埋土



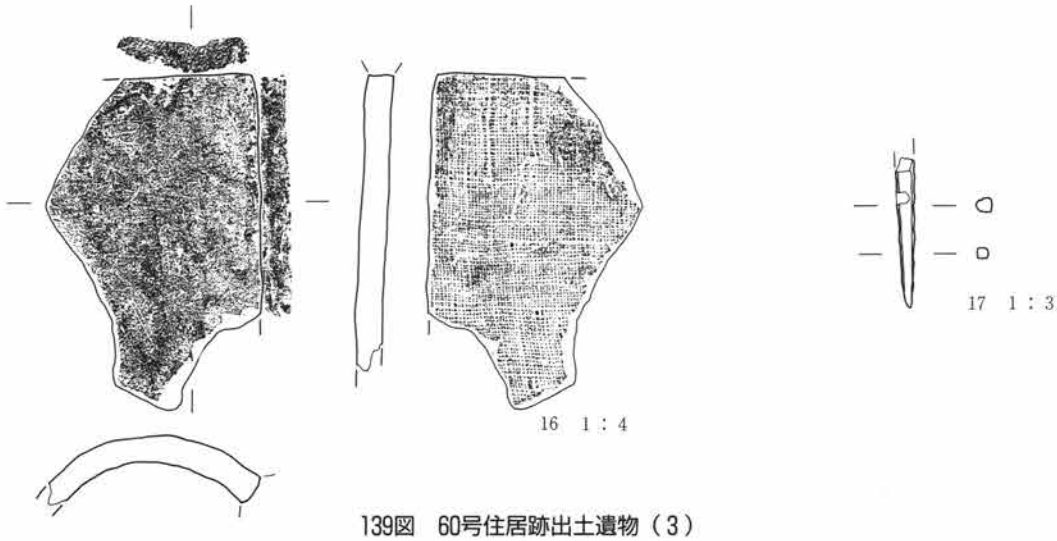
136図　60号住居跡



137図　60号住居跡出土遺物（１）



138図　60号住居跡出土遺物（2）



139図　60号住居跡出土遺物（３）

出土遺物は、総破片点数130点とやや少ないが、比較的大破片のものもあり、17個体が図示し得た。１は完形の小皿。口縁部に僅かに油煙が付着することから、灯明皿であろう。強い横撫でにより、体部中位に薄い段が認められる。南東隅で出土。２は竈焚き口部と燃焼部で覆土中位～下層で出土。土釜である。外面口縁部は横撫で、体部上半は指による撫で、中位は縦位箆削り、下半は横位箆削り。内面は横位箆撫でが施される。３は甕あるいは羽釜の底部。轆轤整形で縦位箆削り後下端は横位箆削り。内面は箆撫で。竈内出土。４も甕ないしは羽釜の底部。轆轤整形後縦位箆削り、内面は横位箆撫でを施す。底部外面は平滑に撫でられる。竈前庭部で出土。５は床面西側のほぼ床直で出土の羽釜。右回転轆轤整形で体部下半には箆削り、内面は横撫で。６も床面西側で床面出土の羽釜。器形・整形は５と類似する。内面は箆撫でが及ぶ。７、竈内及び床面東側で出土の羽釜。鍔は短く、鍔下端より箆削りが縦位に施される。右回転轆轤整形。８は須恵器甕底部破片。外面は平行叩、内面は箆撫で（刷毛？）が施される。西辺寄りで出土。９は前庭部出土の甕体部破片。外面平行叩、内面は青海波文。内面の一部に研磨痕が認められる。あるいは転用硯か。10～12も甕体部破片。９と同様に内面研磨痕がある。10、北辺寄りで、11は中央やや南寄りで、12は南西隅でほぼ床直で出土。13は竈内出土の平瓦。凸面は縦位撫でが施され、凹面は布目に縦位撫で。側部の面取りは２回。14は竈北壁に接して出土。補強材か。凸面は縦位撫で、端部の面取りは２回。15も竈内。14とほぼ同一の地点で出土。凸面は無文叩後縦位撫で、側部・端部とも面取りは１回。16は竈奥壁で出土。凸部は無文叩、側部・端部の面取りは１回。17は鉄釘足端部。覆土出土。

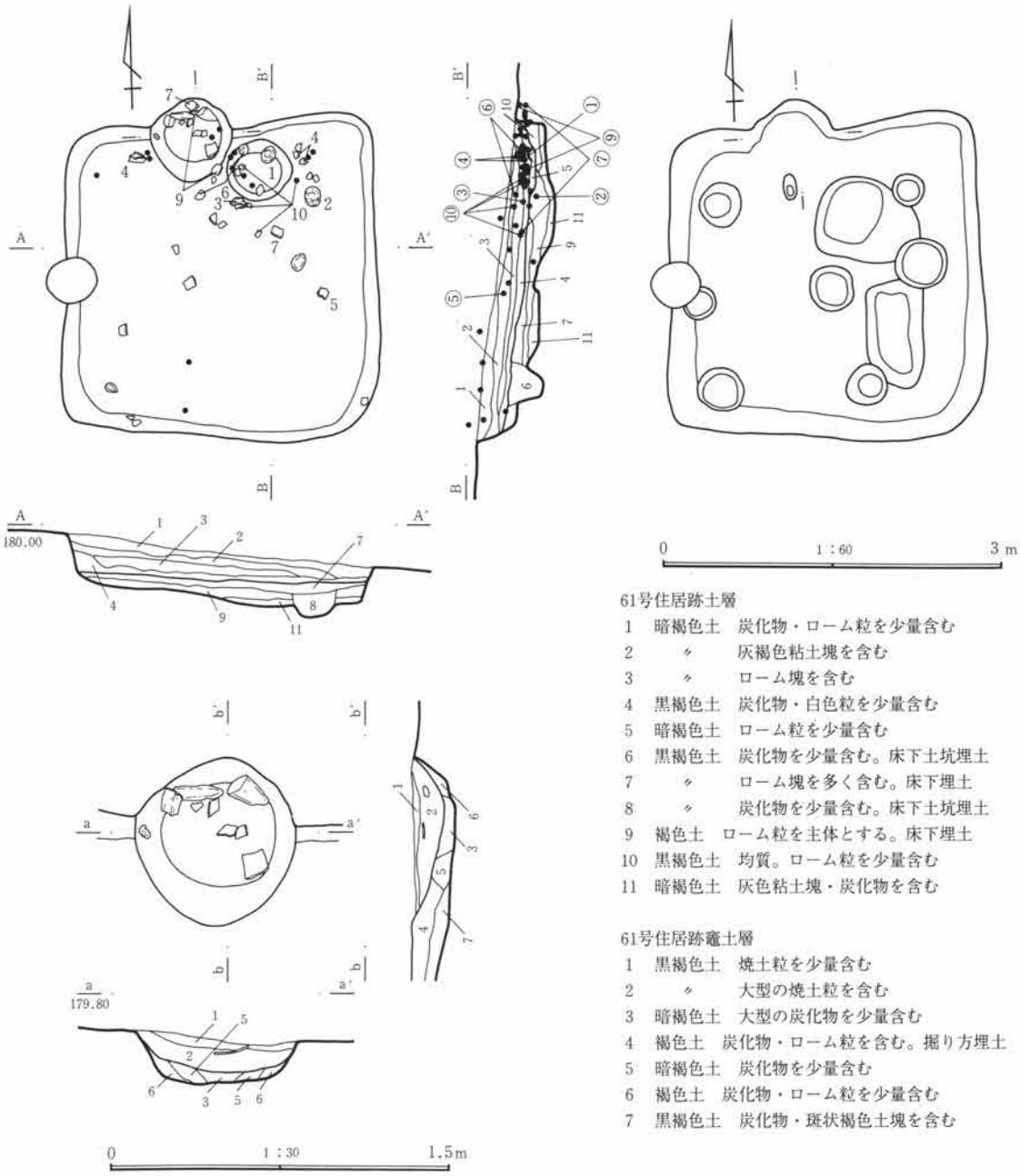
61号住居跡

中尾根東区と西区の境界付近で検出された。単独の検出であり、その他の重複はない。北側に25・26号住などの住居跡群が近接するが、これらとの近縁性は薄いものと思われる。

辺長約2.7ｍの小型正方形を呈し、東辺と西辺の長さに差があるため、ややいびつな平面形を呈す。深さは約64㎝と比較的良好な遺存を見せる。

床面は褐色土による貼床がなされるが、凹凸に富み顕著な硬化面も認められなかった。床面上の施設としては、竈東側に小型の貯蔵穴が見られるが柱穴は認められなかった。ただし、掘り方調査において得られたＰ１～Ｐ７は位置的にも形状も柱穴として規模を見せ、可能性を示唆しておく。

竈は北側壁に設けられ、円形の燃焼部で小型である。奥壁に沿って自然石や羽釜破片が出土したが構築材の



61号住居跡土層
1　暗褐色土　炭化物・ローム粒を少量含む
2　〃　灰褐色粘土塊を含む
3　〃　ローム塊を含む
4　黒褐色土　炭化物・白色粒を少量含む
5　暗褐色土　ローム粒を少量含む
6　黒褐色土　炭化物を少量含む。床下土坑埋土
7　〃　ローム塊を多く含む。床下埋土
8　〃　炭化物を少量含む。床下土坑埋土
9　褐色土　ローム粒を主体とする。床下埋土
10　黒褐色土　均質。ローム粒を少量含む
11　暗褐色土　灰色粘土塊・炭化物を含む

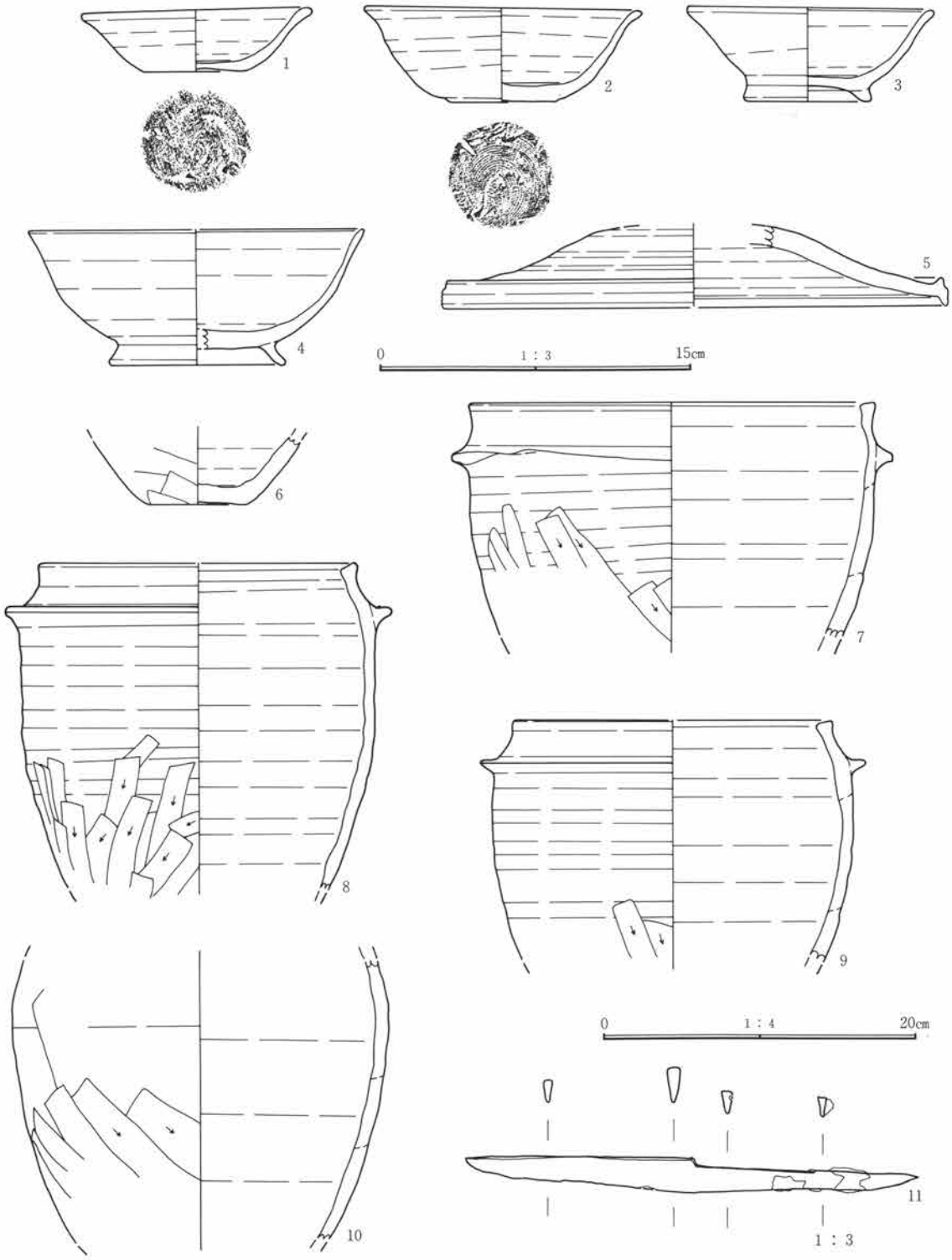
61号住居跡竈土層
1　黒褐色土　焼土粒を少量含む
2　〃　大型の焼土粒を含む
3　暗褐色土　大型の炭化物を少量含む
4　褐色土　炭化物・ローム粒を含む。掘り方埋土
5　暗褐色土　炭化物を少量含む
6　褐色土　炭化物・ローム粒を少量含む
7　黒褐色土　炭化物・斑状褐色土塊を含む

140図　61号住居跡

可能性は高い。それ以外の袖などの構造物は無く、簡素な様相を見せる。

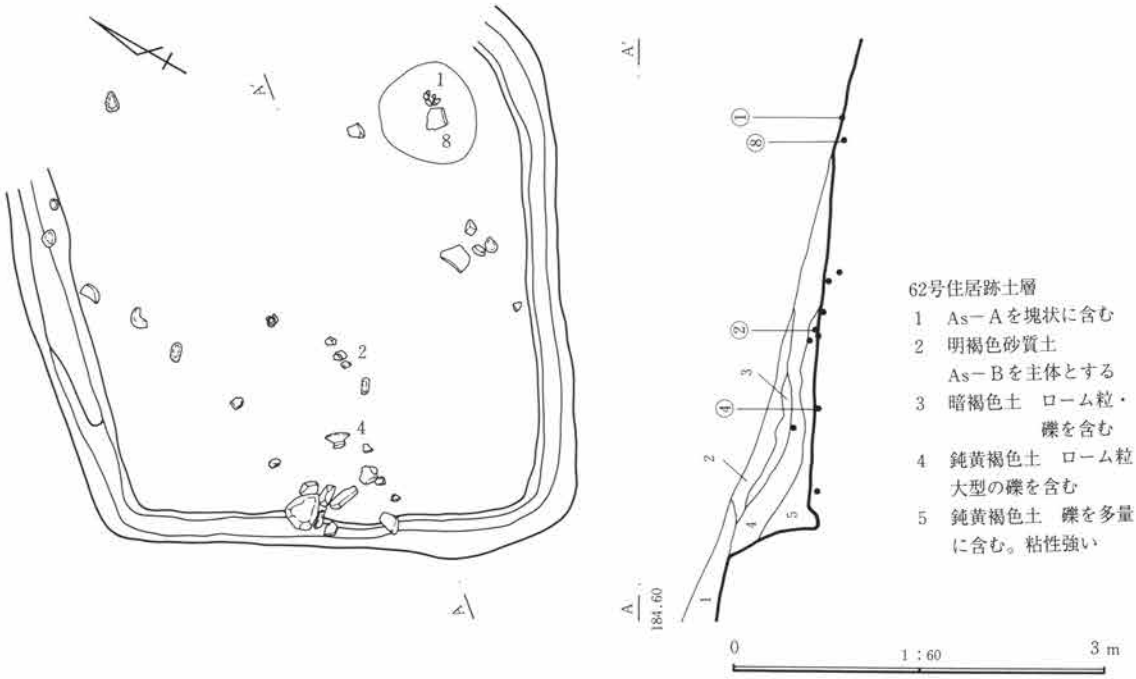
床下遺構は前述のＰ1～Ｐ７の他に２基の土坑を検出した。床下土坑として位置付けたい。

遺物は竈・貯蔵穴周辺に集中が見られるが、総破片点数131点と遺存度の割りには少ない。１は貯蔵穴上出土の完形の坏。口縁部は外反する。２も完形の坏。貯蔵穴東で床直上出土。外反する口縁部器厚は薄手。３の高台付椀もほぼ完形。小径で高台は開き気味。貯蔵穴南で床直。４は口縁部に歪みがあるが大振りの椀。高台は開き、薄手の器厚を呈す。貯蔵穴東で床直上。５、東壁寄りの覆土上層出土の蓋。口縁部に緩やかな段を持つ。６、羽釜・甕底部。貯蔵穴西で覆土上層。轆轤整形後外面の篦削りは底面に及ぶ。７は竈出土の羽釜。右回転轆轤整形後体部下半縦位篦削り。口縁部内面は強い横撫でで彎曲する。８は覆土出土の羽釜。９は竈



141図　61号住居跡出土遺物

内出土の羽釜。いずれも右回転轆轤整形後に篦削りが施される。口縁部形態も類似する。10は羽釜体部。貯蔵穴周辺出土。体部上半に内彎する傾向が見られ、壷などの別器種の可能性もある。11は覆土出土の大形で細身の刀子。木質が遺存し鞘と考えられる。



142図　62号住居跡

62号住居跡

西尾根区の南側で検出された。単独の検出で重複遺構は無い。周辺には住居跡の分布は希薄であり、63～65号住居跡や69号住居跡が距離をかなり置いて散発的に分布する。また、本住居跡の西側には1号礎石建物が2号テラス状遺構と共に占地しそこから派生する4号道路状遺構が本住居跡の南側を通る。周辺はこのように居住痕跡が少なく、これは、本住居跡周辺の地形が北側への急斜面地形を呈するためと考えられよう。

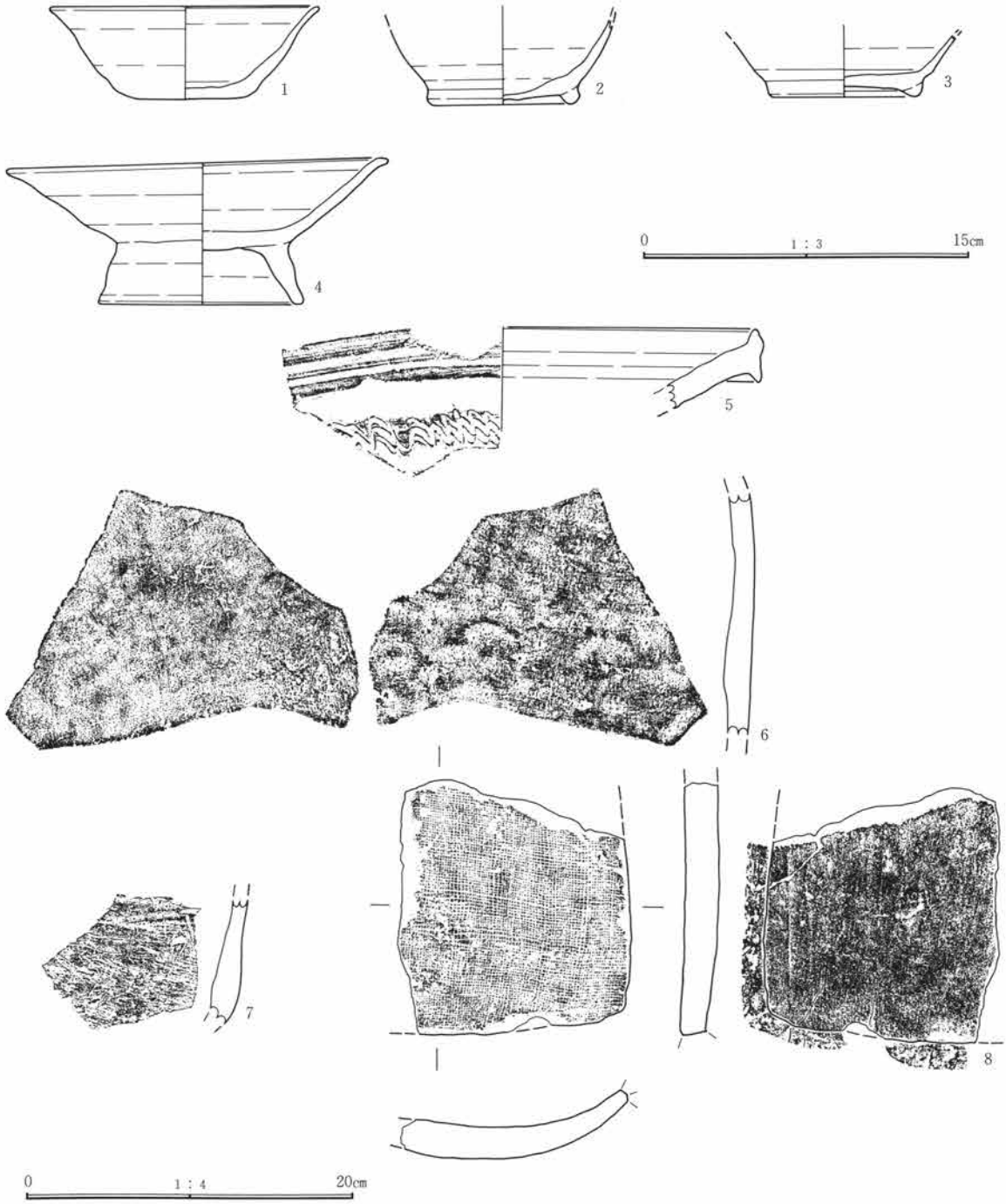
この急斜面地形のため、本住居跡の北側から東側にかけての壁は逸失しており、前葉は把握できない。ただし、南東隅部分が僅かにその痕跡を残すため、概略的な規模は捉え得た。

平面形は判然としないが、北辺の向きが西辺に直交しないため不整形態を呈するが、辺長約4m程度の不整正方形を呈するものと思われる。深さは遺存の良い南壁と西壁で約60cmを測るが、北壁の一部と東壁の計測は不可能である。

床面はロームの地床であり、顕著な硬化面は認められなかった。また、図示し得なかったが北側への傾斜に沿って、床面の傾斜も緩やかながら認められた。ただし東西方向はほぼ平坦面が意識して築き上げられる。柱穴は認められなかったが、貯蔵穴は南東隅にその痕跡が見られた。明瞭な掘り込みでは無かったが、僅かな床面とのレベル差が見られ、これを貯蔵穴として認定した。遺物も坏・瓦が出土している。また、本住居跡には周溝が巡る。南壁・西壁・北壁の一部で確認されたが、東壁にかけては傾斜のため検出できなかった。しかしながら、周溝の規模・南東隅の様相から東壁にまで達するものと思われる。

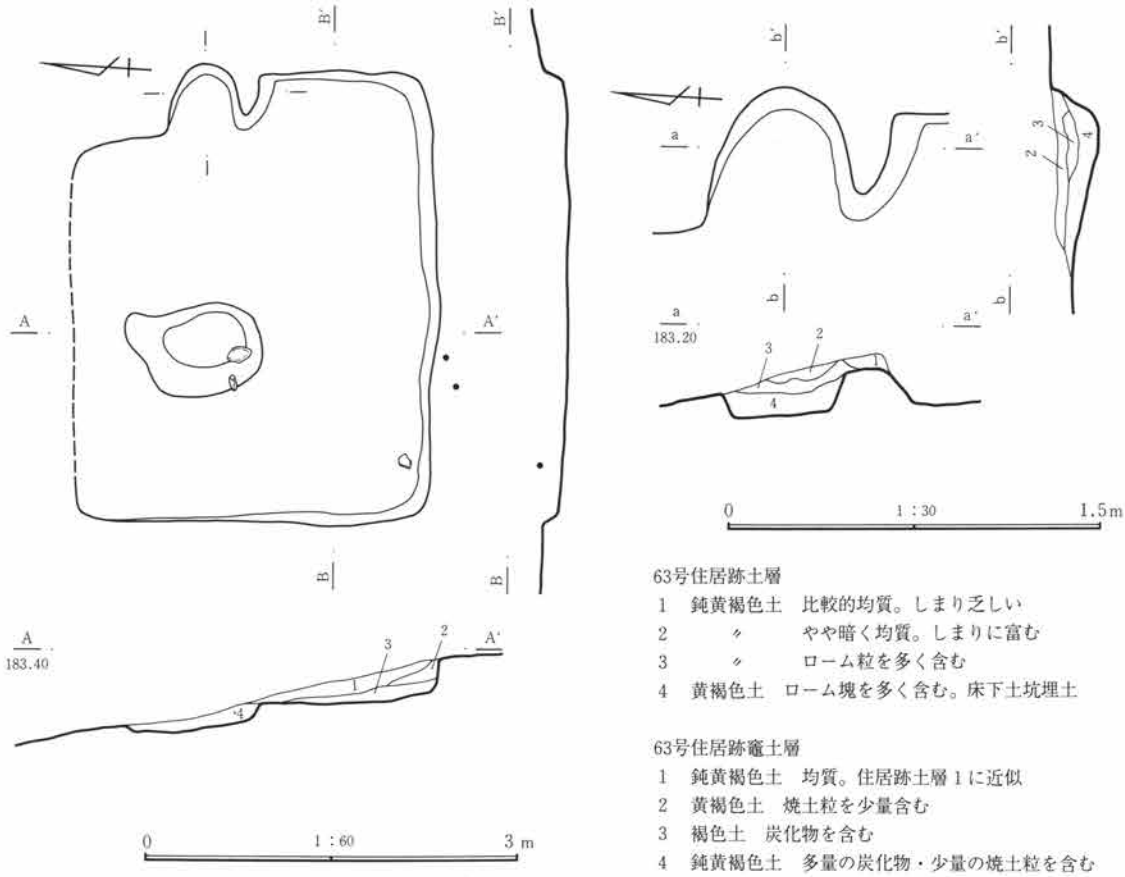
竈は東壁が逸失しているため、検出できなかった。また、西壁に自然石の集中が見られ、竈としての可能性も考えられたが、焼土の散布もなく下端を周溝が巡ることからも、竈ではないだろう。

遺物は総破片点数191点と少ない。竈が逸失しているため東壁周辺の散布は見られないが、貯蔵穴と床面中央部分にかけての出土が見られた。尚、前述の西壁の自然石は住居外からの流入と捉え、昇降施設としての性格は与えていない。1は貯蔵穴より出土。口唇部は緩やかに外反し、薄手の器厚を呈す。2は床面中央の床直より出土。高台付椀破片で器面は摩滅する。3は覆土出土の高台付椀底部破片。体部器厚は薄手だが底部は



143図　62号住居跡出土遺物

厚い。器面摩滅する。４は西壁寄りの床直で横位に出土した足高高台の椀。ほぼ完形である。口縁部は僅かに外反し体部は浅い。脚部は厚手で開く。脚部貼付後入念な横撫でを施し丁寧に仕上げる。器面摩滅するが体部の轆轤目は強く残る。５は須恵器甕口縁部破片。波状文が施される。６は須恵器甕体部破片。外面は叩き調整後撫でが施される。内面は円環状の当て目が残る。７も須恵器甕体部破片。薄手で歪みが見られ断面色調の差が見られる。外面は平行叩、内面は横撫でが施される。８は貯蔵穴出土の平瓦。凸面は縦位撫で。側部面取り２回、端部は１回。



144図　63号住居跡

63号住居跡

調査区南西において単独で検出された。中尾根区・西尾根区・頂部区の境界にあたる箇所である。周辺には遺構はなく、1号・5号・2号礎石建物に囲まれた空白地点の占地である。近接する住居跡も無く、かなりの距離を置いて南に69号住居跡、西に62号住が位置する。周辺は北側への急斜面地形で、そのため本住居跡の北壁および東壁の北側は逸失している。

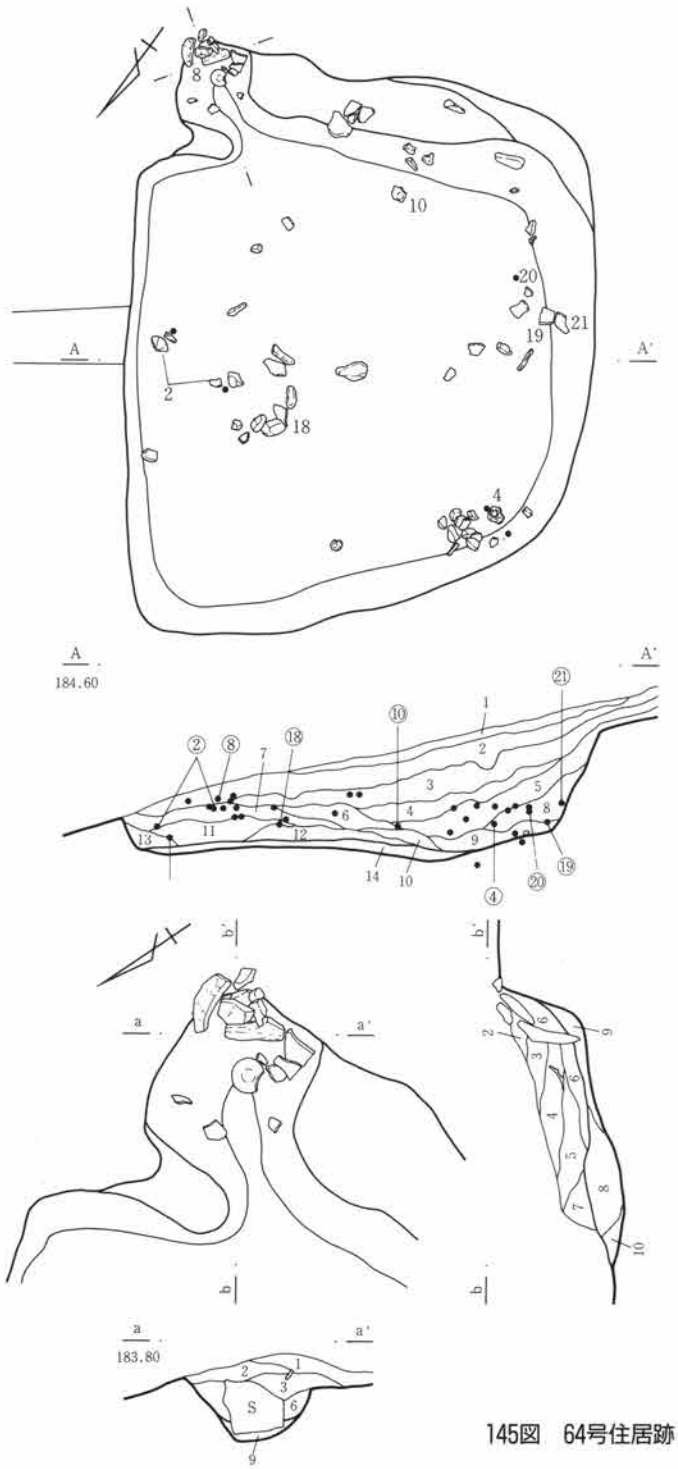
平面形は約3.5×2.8mの小型の長方形を呈すが、北側壁が確定的ではないため判然としない。深さは遺存の良い南壁で約30cmを測るが、斜面地形のためその他の壁は僅か数cmの遺存しかない。

床面の遺存も南側に偏る。ほぼ平坦面を意識して築き上げられているが、貼床も顕著ではなく地床と考えられる。硬化面も竈周辺に点在する程度で、全体に軟弱な床面といえよう。

柱穴・貯蔵穴は検出に努めたが確認できなかった。その他では、床面中央北寄りで不整形の土坑を1基検出したが、土層の観察では床面下であり、居住に伴うものかは確定できないが、周辺に土坑・ピットなどが存在しないことから、とりあえず本住居跡に伴う施設とした。おそらく床下土坑と同等の性格を有するのであろう。

竈は東壁の北寄りに設けられる。北側の袖を流失しているが、南側袖は地山ロームにより短く遺存していた。燃焼部は馬蹄状に突出し、底面には焼土粒や炭化物が散布していた。他の構築材や補強材は検出できず、堆積土にも粘土塊や焼土塊は検出されていない。比較的簡素な作りの竈である。

遺物は羽釜体部破片と平瓦細片が見られたが、住居に伴うものではなくかつ細片のため図示し得なかった。



64号住居跡土層
1　明黄褐色土　As－A下の降灰層。粒子粗い
2　〃　均質。白色粒子を含む
3　黒褐色砂質土　As－Bを主体とする
4　暗褐色土　As－Bを少量混入する
5　黄褐色土　均質。包含物は無く粘性強い
6　鈍黄褐色土　礫を含む。しまりはやや乏しい
7　明褐色土　均質。粘性強い
8　黄褐色土　やや暗い。均質で粘性強い
9　鈍黄褐色土　均質だがしまりはやや乏しい
10　暗褐色土　白色粘土塊を少量含む
11　明褐色土　均質だがしまりはやや乏しい
12　褐色粘質土　白色粘土塊を主体に炭化物や褐色土塊を含む
13　明黄褐色土　均質。粘性強い
14　褐色粘質土　褐色土・白色粘土塊による床下埋土

0　1：60　3m

64号住居跡竈土層
1　灰褐色土　やや暗い。炭化物・ローム粒を含む
2　暗褐色土　均質。少量の炭化物を含む
3　暗赤褐色土　焼土塊を主体とする
4　暗褐色土　焼土粒を少量含む
5　〃　焼土粒を多く含む
6　〃　均質。焼土粒を少量含む
7　灰褐色土　暗い。硬くしまる
8　褐色土　焼土粒・炭化物を微量含む。掘り方埋土
9　〃　ローム粒を含む。掘り方埋土
10　褐色粘質土　粘性強い。貼り床土

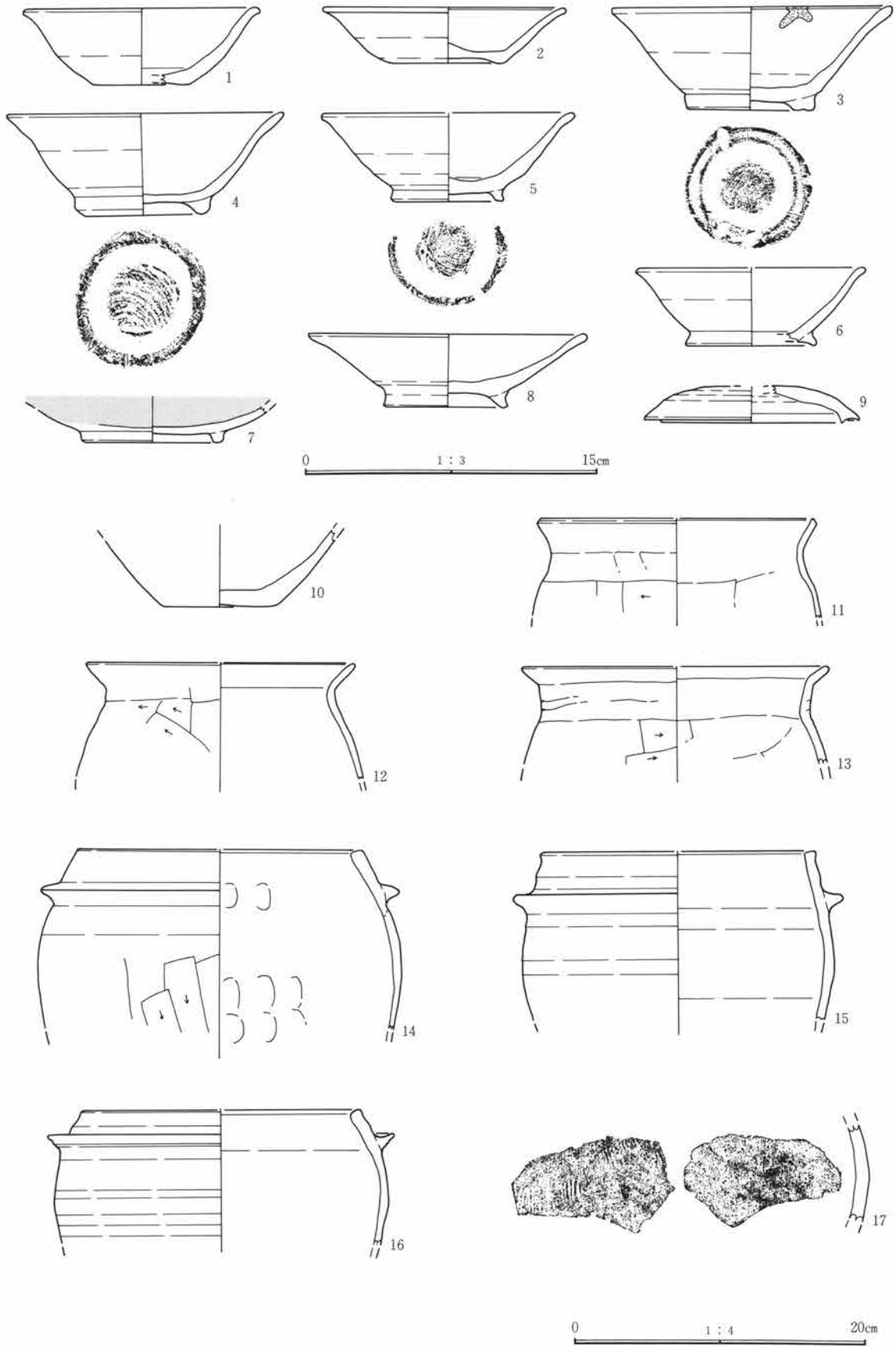
0　1：30　1.5m

145図　64号住居跡

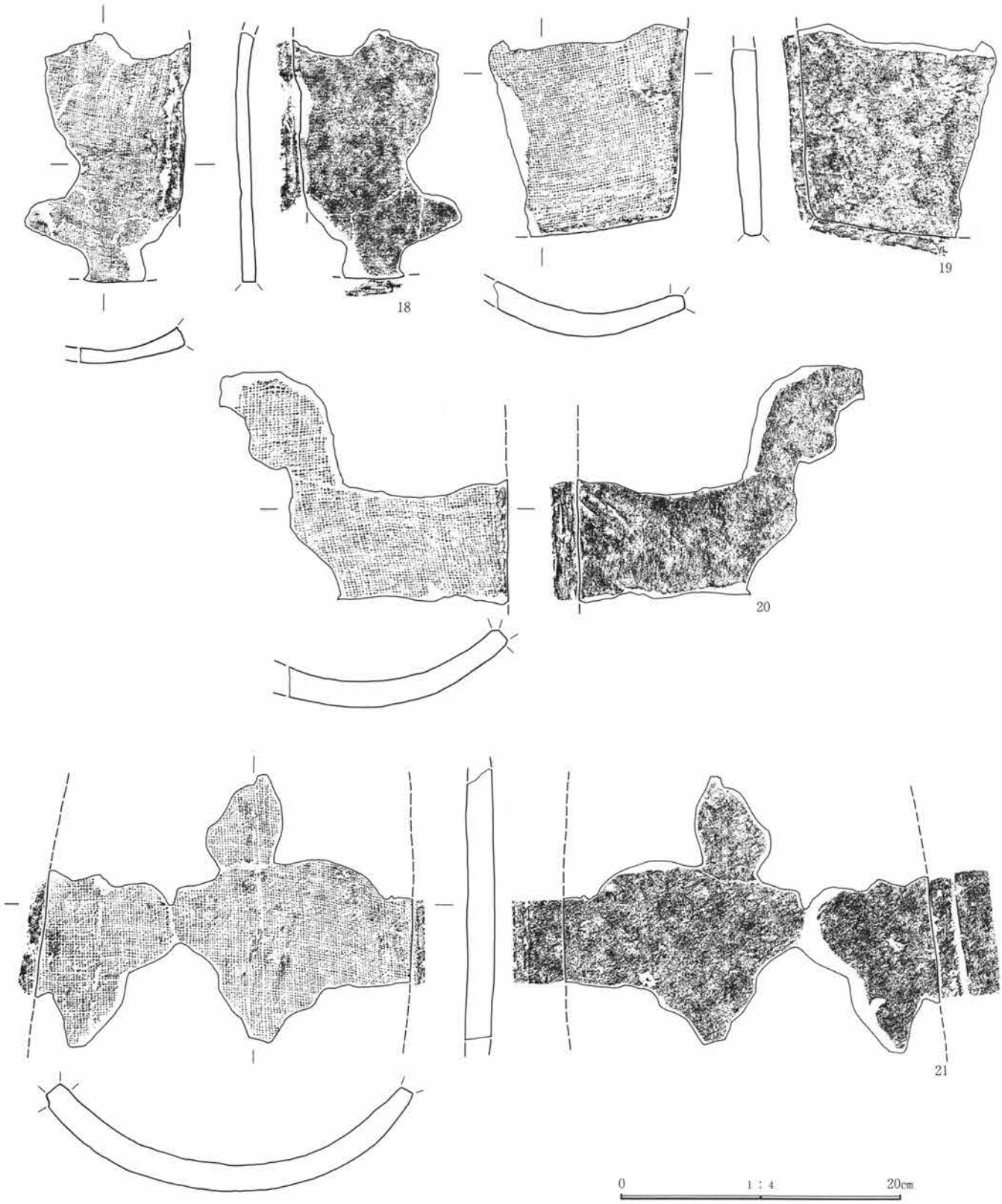
64号住居跡

西尾根区の南側、１号礎石建物が乗る２号テラス状遺構と重複するように占地している。単独の検出だが、後述する65号住居跡が西に近接する。

平面形は約4.1×3.7ｍの不整方形を呈す。四隅が直角には交わらず、不定角度で設定されているため四辺の長さも安定していない。壁高は南側で約122㎝を測り、良好な遺存状態を示す。



146図　64号住居跡出土遺物（1）



147図　64号住居跡出土遺物（２）

床面は凹凸があり、全体的には中央部分にかけて緩やかに上がる傾向が見られる。貼床はなされず、ロームによる地床である。硬化面は中央部分と竈前庭部に小範囲で見られたが、全体に軟弱な床面といえよう。尚、柱穴・貯蔵穴は検出に努めたが確認されなかった。

竈は北東隅の東壁寄りに設けられる。不整形の燃焼部を持ち、北東隅の彎曲を利用して北袖が作られる。南袖は顕著ではないが、東壁一部の緩やかな彎曲が袖に当たるのであろう。この両袖の彎曲により、焚き口部分が狭小になり、燃焼部にかけて再び広くなる平面形態を呈す。燃焼部奥には数個の自然石が組み込まれており、奥壁の補強をしていた。側壁には自然石などの補強は見られなかった。燃焼面には焼土粒・炭化物が多く散布し、濃密な使用が想起される。また、燃焼部中央でやや浮き上がり須恵器高台付皿が正位で出土している。

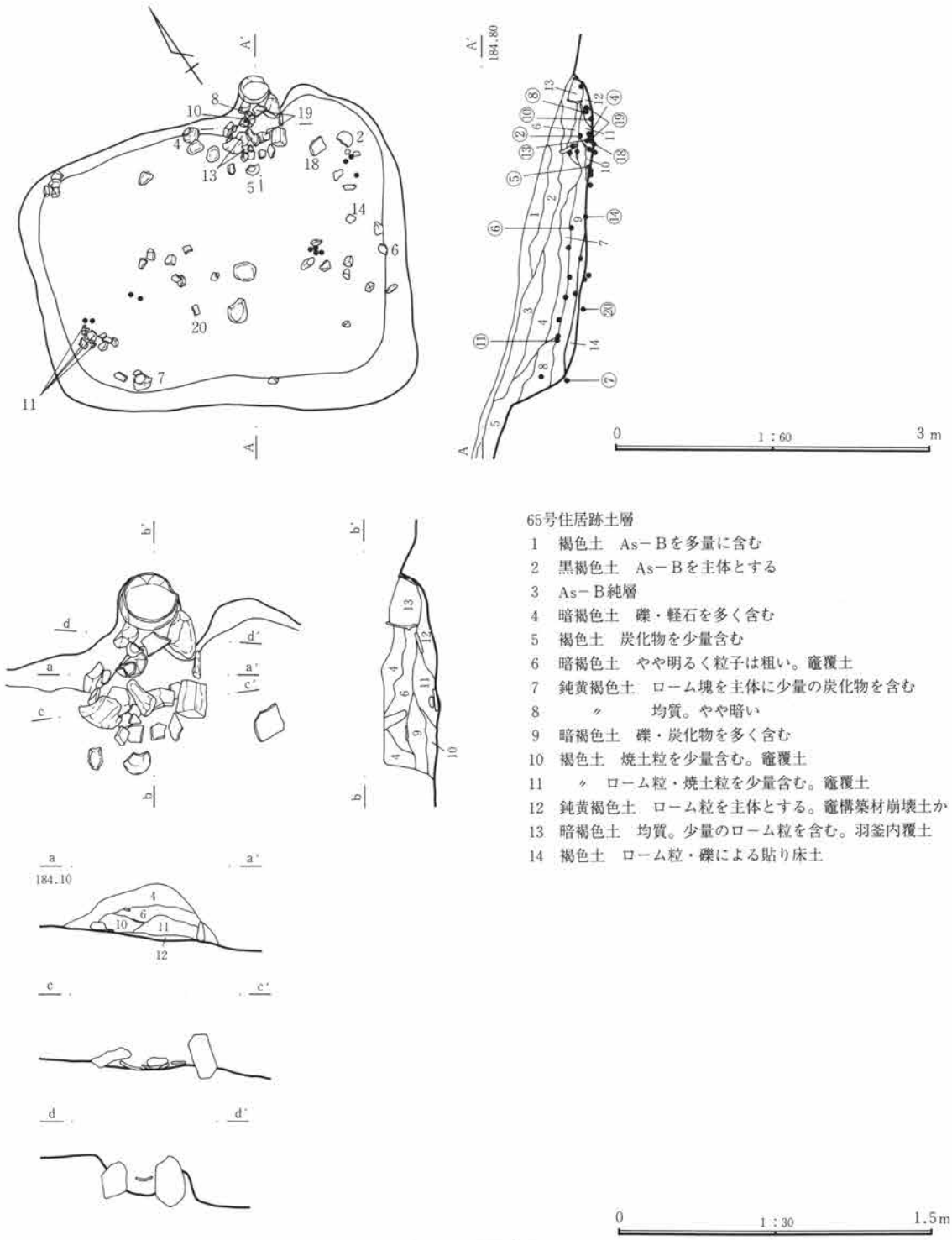
その他の施設としては、東壁上端の乱れが注目される。緩やかな傾斜による乱れであるが、棚状の施設の可能性も指摘しておきたい。遺物も破片ながらも出土している。
また、明瞭な貼床はなかったものの、使用面における床面の凹凸があるいは床下遺構の可能性もある。調査による過掘も想定でき、床面の認定、土層の把握に誤りも生じていたと思われる。反省点である。

遺物は出土総破片点数502点と多く、良好な遺存状態に比例するものであろう。平面的にも垂直分布においても濃密な集中は見られなかったが、竈・南壁～南西隅・中央北壁寄りに若干のまとまりが看取できる。1は覆土出土の坏。底部外面の器壁剝落が著しい。2は浅身の坏。口縁部は僅かに外反気味で、体部は直線的に開く。内底面中央は盛り上がる。器面は摩滅する。北壁寄りの覆土中位出土。3の高台付椀は覆土出土。内面に油煙が付着する。高台は直立し短く端部に凹線が巡る。4の高台付椀は体部上半で外傾する。やや薄手。南西隅でほぼ床直出土。5は覆土出土。やや厚手の器厚を呈す。6は薄手の器厚を呈し、高台は短く開く。覆土出土。7は灰釉陶器皿。施釉は漬け掛け。内面全面に及ぶ。覆土出土。8は竈燃焼部で正位で出土した高台付皿。全体に摩滅が著しい。9は蓋。上半は右回転篦削り。鋭角的な印象を得る。覆土出土。10は東壁際で床直上出土の甕底部。内外面の器壁剝落著しい。11は覆土出土の土師器甕口縁部破片。口縁部は横撫で。外面頸部は篦撫で、体部は横位篦削り。内面は篦撫で。12も覆土出土の土師器甕口縁部破片。体部は横位斜位の篦削り。13も土師器口縁部破片。覆土出土。口縁部は外傾し横撫でが施される。体部は横位篦削り。体部内面は篦撫で。14の羽釜は体部に最大径を持ち、球胴状の器形を呈す。鍔は丁寧な貼付で、体部には篦削りを施す。内面は指頭圧痕が見られる。左回転轆轤整形。覆土出土。15の羽釜も覆土出土。右回転轆轤整形。口縁部破片で小径である。口縁部は内傾気味で、器厚も薄手である。16の羽釜口縁部も著しく内傾し薄手である。鍔端部は鋭い。覆土出土。17は覆土出土の須恵器甕体部破片。外面平行叩。18は中央北寄りで覆土下位出土の平瓦。凸面は無文叩後縦位撫で調整。側部・端部とも面取りは1回。19の平瓦は南壁際で床直出土。凸面は無文叩後撫で。側部面取り2回、端部は1回。20の平瓦の凸面も無文叩後撫でが及ぶ。側部面取りは3回。南壁際で床直上。21は19の上から出土。南壁際で瓦の集中が見られたのは示唆的である。南側には1号礎石建物が占地する。凸面は無文叩後縦位撫で。両側部ともに2回の面取りが行われる。図示した4点の瓦とも還元焔焼成である。

65号住居跡

前述の64号住の西側に近接して占地する。単独の検出で他の重複遺構はない。周辺は急斜面地形で本住居跡は痩せ尾根の鞍部に当たる地点に乗る。

平面形は約2.7×3.5mのやや横長の隅丸不整長方形を呈す。これは東壁と西壁の辺長に差があるためで、ま

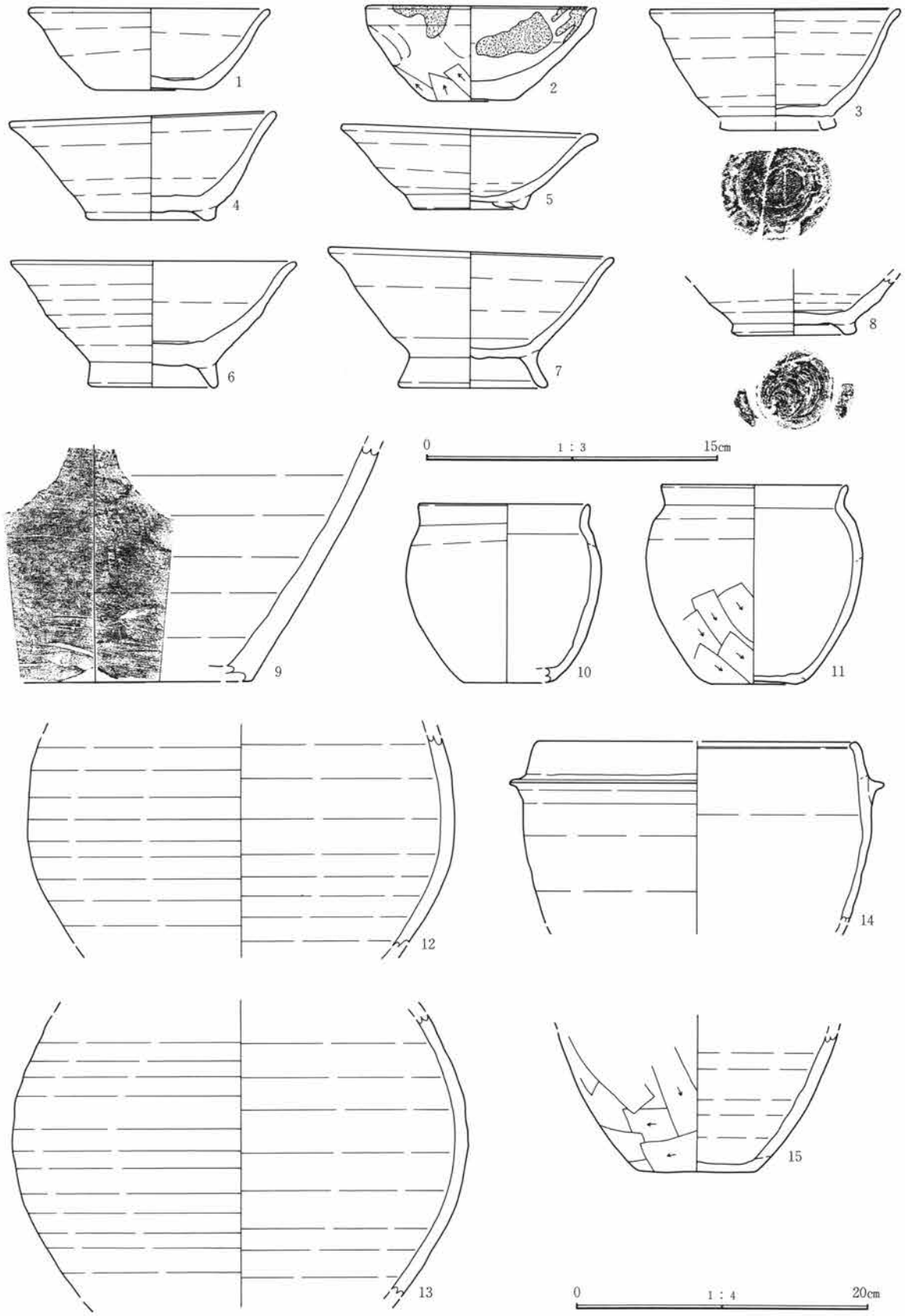


65号住居跡土層
1　褐色土　As－Ｂを多量に含む
2　黒褐色土　As－Ｂを主体とする
3　As－Ｂ純層
4　暗褐色土　礫・軽石を多く含む
5　褐色土　炭化物を少量含む
6　暗褐色土　やや明るく粒子は粗い。竈覆土
7　鈍黄褐色土　ローム塊を主体に少量の炭化物を含む
8　〃　均質。やや暗い
9　暗褐色土　礫・炭化物を多く含む
10　褐色土　焼土粒を少量含む。竈覆土
11　〃　ローム粒・焼土粒を少量含む。竈覆土
12　鈍黄褐色土　ローム粒を主体とする。竈構築材崩壊土か
13　暗褐色土　均質。少量のローム粒を含む。羽釜内覆土
14　褐色土　ローム粒・礫による貼り床土

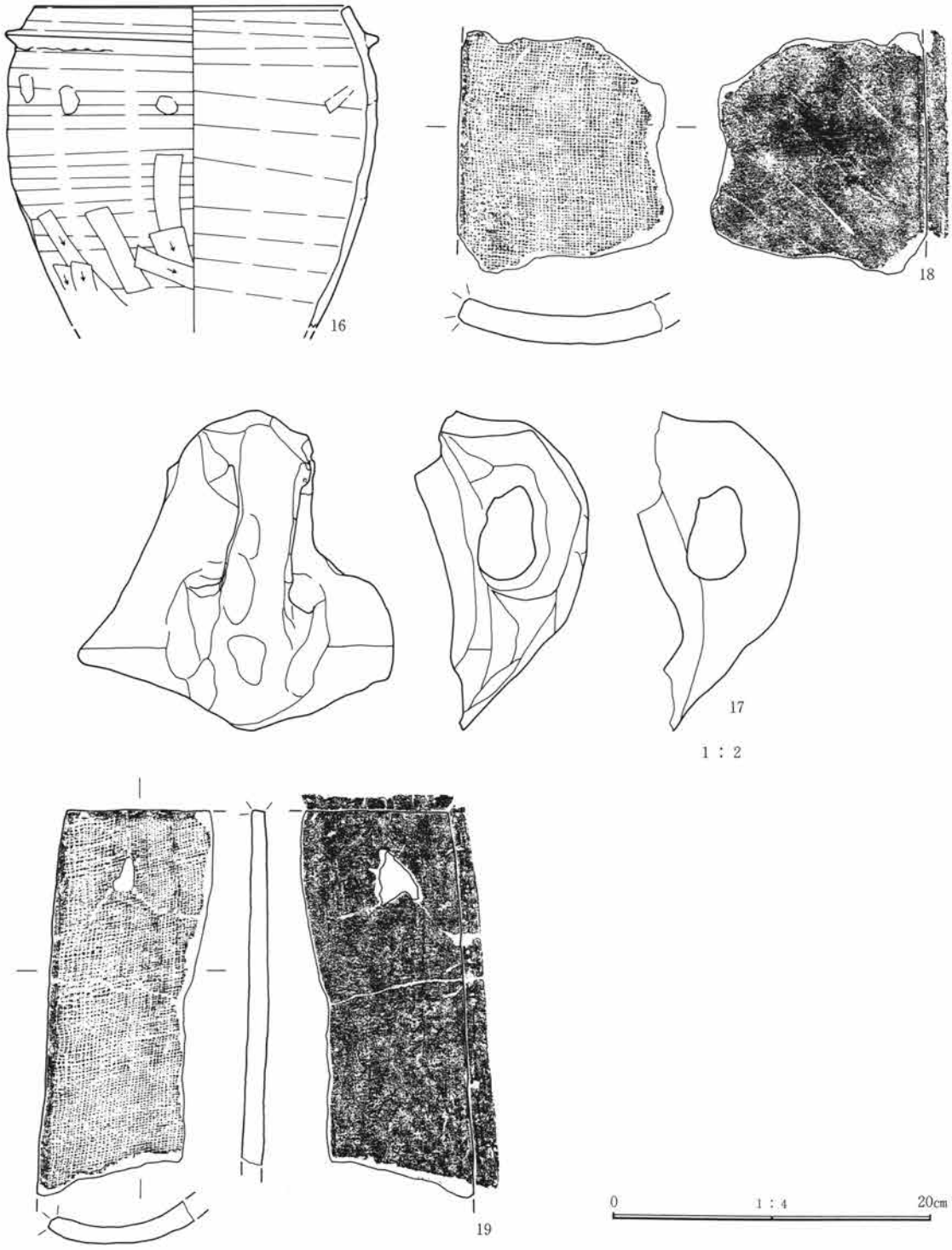
148図　65号住居跡

た南東隅の形状も若干丸みが大きい。深さは約98cmと非常に遺存が良く、壁も鈍角ながらしっかりした立ち上がりを見せる。

床面は北側へ緩やかに傾斜するが平坦面を意識しており、一部を貼床して整えていた。貼床は褐色土を基調に、主に南側と北東側の一部に見られ、北東側の貼床によって床面を平坦に築き上げている。尚、柱穴・貯蔵穴はなかった。

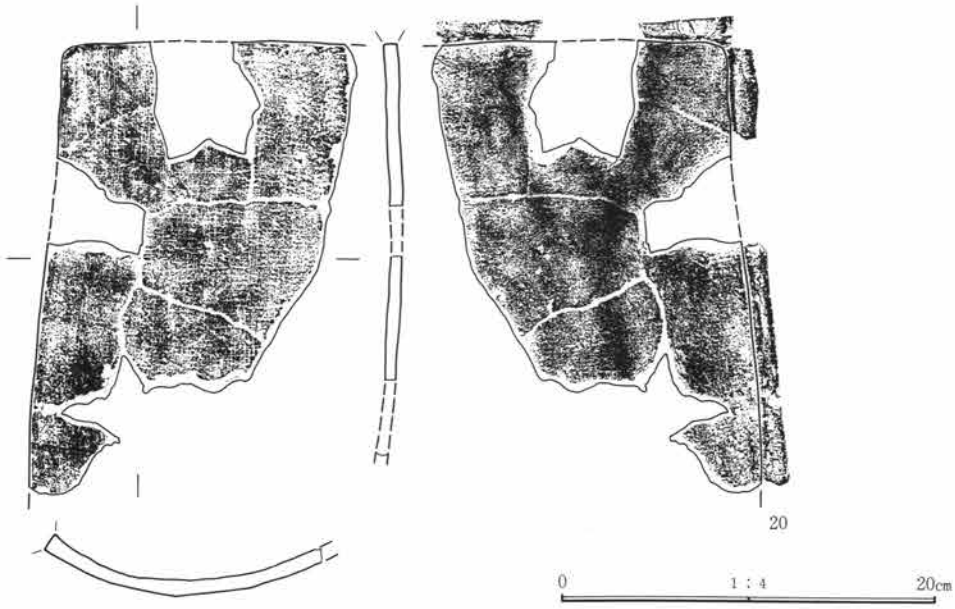


149図　65号住居跡出土遺物（1）



150図　65号住居跡出土遺物（２）

竈は北側の東寄りに設けられる。燃焼部奥に羽釜が逆位の状態で遺存しており、これは煙道の施設として捉えられよう。また、燃焼部の両側面には壁体の補強として自然石が埋められていた。この自然石の延長にも並列して石が設けられており、確認できなかったが、袖の芯材として利用されたものであろう。土層の観察では袖を構築する粘土の存在は見られず、袖構築材として褐色土が用いられた可能性が強い。前庭部には自然石が

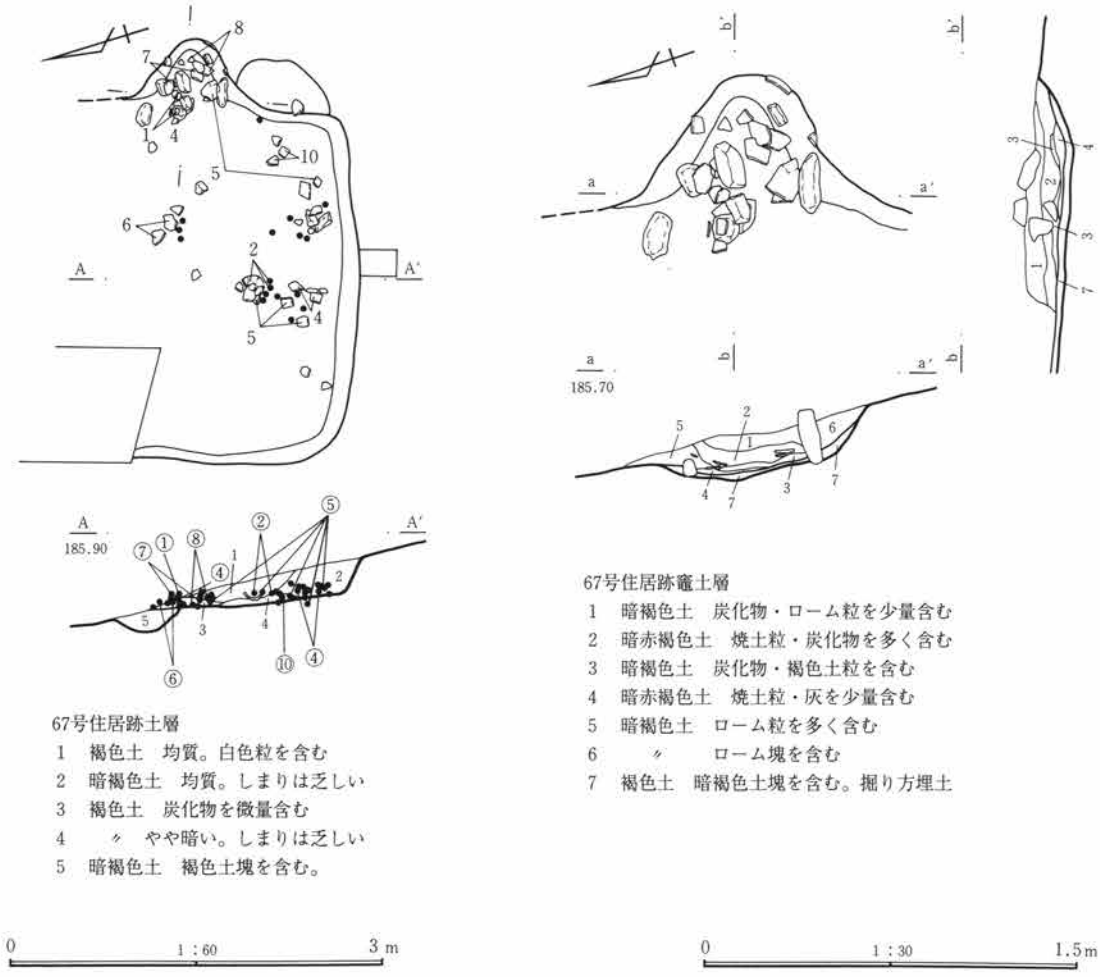


151図　65号住居跡出土遺物（3）

散乱していたが、これらは天井材や補強材の一部に使用されていたものであろう。

出土遺物は、総破片点数326点と多い。竈周辺および床面全体に散布していたが、北西隅はやや少ない傾向を見せる。垂直分布は図では覆土下層に集中するが、これは上層の遺物分布図に不手際が生じて図化できなかったためである。ただし上層の遺物は、小破片のものが多く、本報告では下層から床直のものを重視して20点を図示した。

1は注記番号も付された完形の坏だが、平面図に記載が無い。おそらく覆土中位出土と思われる。器面は摩滅する。2は北東隅の床直上出土の土師器坏。厚手で重量感有る。口縁部内外面には油煙が付着する。外面体部上半は指頭圧痕残る。下半は篦削り。底面には砂が付着し、「砂底底部」として注目されよう。内面の撫では丁寧で平滑に仕上がる。底面に篦の当て目が残る。3は竈覆土出土の高台が欠損する椀。やや薄手。4は竈西の壁際出土。高台は短い。5は身浅の高台付椀。口縁部は肥厚し、高台の仕上げは雑である。竈前庭部の床直出土。6の椀は口縁器厚に比して底部が厚く安定感ある。高台は開く。東壁覆土下位出土。7は南西隅の床直出土。高台は比較的長く、器厚は全体的に薄手である。器面摩滅する。8は高台付椀底部。高台は短い。竈燃焼面出土。9は覆土上層出土の須恵器鉢あるいは甕体部下半の破片。外面横位削り、内面は横撫で。内面には円環状の当て目が僅かに残る。10は酸化焔焼成の小型甕。轆轤整形で篦削り後撫でを施す。器面摩滅。竈燃焼面出土。11は10と同様の小型甕。口縁部は外傾する。南西隅の覆土下位出土。12・13は須恵器甕の体部破片。同一個体か。12は覆土、13は竈燃焼面出土。14は東壁際の床直出土の羽釜。口唇部が内彎し、口縁部も丸みを帯びる。器厚は薄手。15は羽釜底部。体部下半は篦削り。覆土出土。16は前述の竈煙道端部で逆位で出土した羽釜。薄手で口縁部にかけて内彎する。外面体部下半は縦位篦削り、一部に篦撫でが施される。17は覆土。甕あるいは長頸瓶肩部に付される橋状把手。装着部は指による撫でを施す。18は竈南東部で床直出土の平瓦。凸面は平行叩後撫で。側部の面取りは3回か。19の平瓦は竈内覆土下位出土。凸面は縦位撫で。側部・端部とも面取りは2回。20は中央やや南西寄りの床直出土。平瓦で酸化焔焼成ながら薄手である。凸面は撫で調整。側部・端部とも面取りは1回。



152図　67号住居跡

67号住居跡

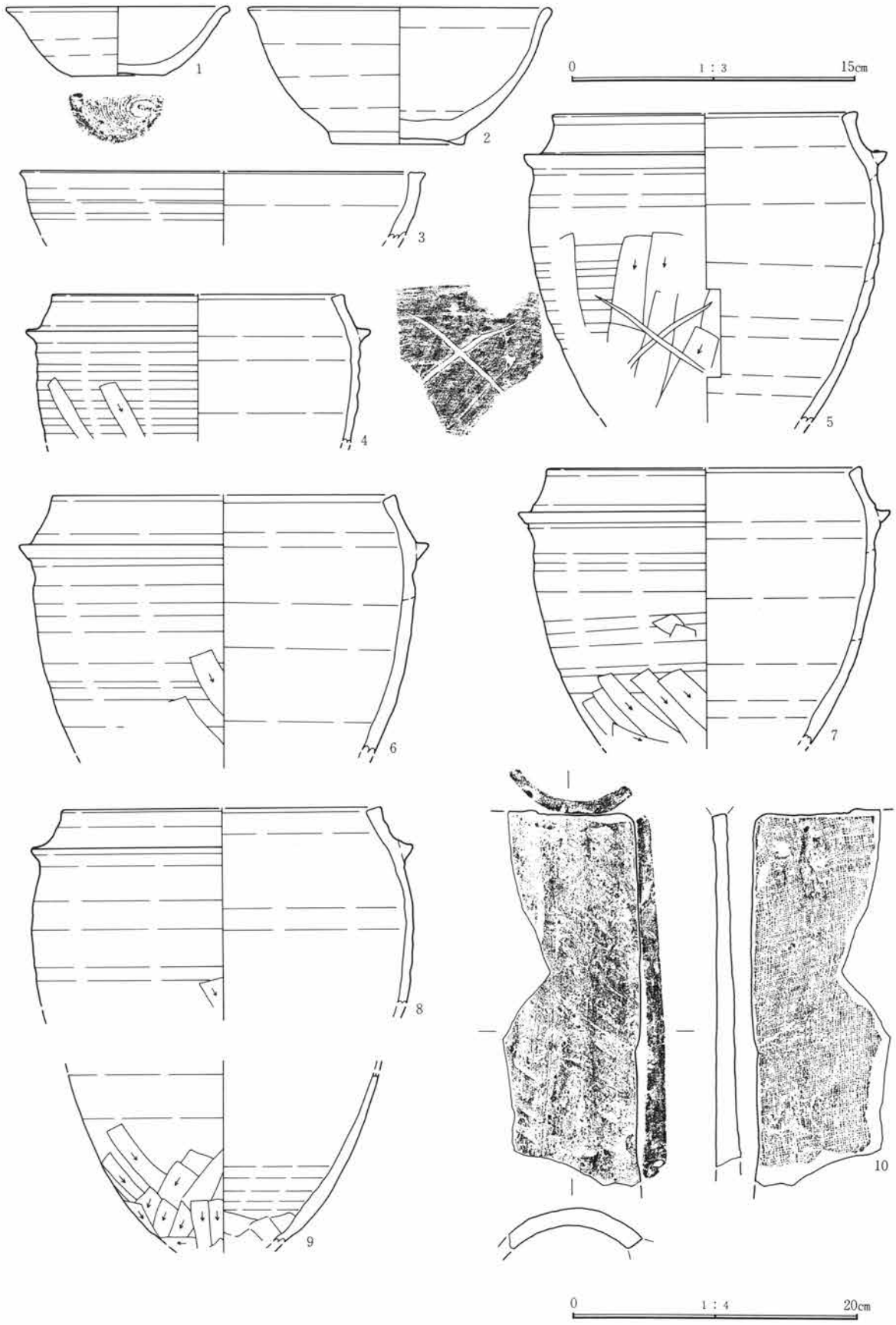
調査区のほぼ中央の中尾根東区の南側に占地する。住居跡としては単独であり、東に73号住居跡、北に68号住居跡がやや距離を置いて近接する。周辺の地形は北側への急傾斜地形であり、そのため本住居跡の北側半分が大きく流失している。

平面的な遺存は良くなく、平面形は主軸辺長約2.8ｍの方形を呈するものと思われ、残存する南東隅と南西隅の形状は比較的整っている。深さは南壁でも約30㎝を測り、必ずしも良好な遺存とはいえない。

床面は南側だけが残るが、僅かに北側へ傾斜する傾向が看取される。ただし、東西の床面レベルはほぼ平坦であり、全体的には平坦面を意識した床面といえよう。硬化面は竈前庭部から中央にかけて狭い範囲で確認された。尚、柱穴・貯蔵穴は検出されなかった。

竈は東壁の南寄りに設けられる。袖を持たず、馬蹄状の燃焼部が突出する。構築材として自然石が燃焼部に散乱していたが、南側面に掛けられたものと、北側の袖にあたる箇所に残されたものがその位置をとどめていた。燃焼部奥壁には平瓦が補強材として置かれていた。

出土遺物は少なく総破片点数119点を数える。１は竈焚き口部の燃焼面出土の坏。比較的厚手で口縁部が僅かに外反する。２は身深の高台付椀。中央南西寄りの床直上出土。高台は短く貼付時の横撫でが底面にまで及ぶ。３の鉢は覆土出土。右回転轆轤整形で口唇部が僅かに外反する。４は１と同地点及び南壁際で出土した羽釜。器厚は薄く体部轆轤目強い。鋭角な印象を得る。外面体部中位より箆削りが施される。口唇部には棒状工具の当て目が残る。５の羽釜も南壁際床直で散乱する。体部上半は緩やかに膨らむ。薄手で整った器形であ



153図　67号住居跡出土遺物

器形である。体部中位より篦削り。焼成前の線刻「×」が見られる。６の羽釜は中央部の床直。体部下半に篦削り。７の羽釜も下半に篦削りを施す。鍔貼付時の横撫でが強く鍔上下端が凹線状となり巡る。竈内出土。８も竈内出土の羽釜。内面に煤が付着する。９は覆土出土の羽釜体部下半。外面篦削り、内面下位には篦撫でが及ぶ。10は南東隅で出土した丸瓦。凸面は平行叩後撫で。側部・端部とも面取りは１回。

68号住居跡

67号住の北にやや距離を置いて占地する。北東に44号住も近接するが、本住居跡も単独の検出である。周辺地形は北側への急斜面で崖状となる地点であり、本住居跡の北側が大きく逸失する原因となっている。

上記のように北側の大部分が判然としないため、平面形は確定できない。主軸辺長約3.3ｍの方形を呈するものと思われる。深さは約82㎝である。

床面は貼床がなされ、ほぼ平坦面を築く。硬化面は範囲として把握できず、軟弱な床面といえよう。柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

竈は東壁の南東隅よりに設けられる。半円状の燃焼部を突出し、特筆すべきは天井石が遺存していた。偏平な砂岩質の石材を懸架し、竈北隅に置かれた片岩製の石で支持されていた。また、この天井石に掛かるように燃焼部南より羽釜（11）が正位で出土している。その他にも竈出土遺物は多く、この羽釜北側にも同様に羽釜の出土が見られ、あるいは２連の煮沸機能を有していたのかもしれない。

床下遺構は多く、床面中央部に小土坑が集中して検出された。床下土坑としたが、性格は不明である。

出土遺物は総破片点数248点を数える。竈内出土が多く他に中央部分付近に若干の集中が見られた。14点を図示した。１は竈内覆土出土の坏。口縁部は外反し歪みがある。２は床面中央南寄りで床直出土。口縁部外反する。３は竈燃焼面出土。口縁部外反し底部器厚は薄い。４は竈奥壁出土。口縁部は外反する。５は竈前庭部床直出土。口縁部は肥厚し外反する。６は竈覆土上層出土の高台付椀。高台は開き気味で体部は丸みを帯びる。７は覆土出土。高台は開き気味で体部は直線的である。器厚は薄手。器面は摩滅する。８も覆土出土の椀。口縁部には撫でによる浅い外稜が巡る。体部は丸みを帯び、高台は直立気味である。器厚は厚く重量感ある。９は竈奥壁出土。口縁部は外反し高台は開く。10の椀は中央部の床直出土。口縁部は僅かに外反する。器厚は薄手。11は竈内出土の羽釜。内傾する口縁部で鍔は短い。左回転轆轤整形で外面体部下半に篦削りを施す。口唇部に棒状工具の当て目が残る。12も竈内出土の羽釜。やや大振りである。左回転轆轤整形で体部下半に篦削りを施す。上半の轆轤目強く残り凹線状に巡る。13、覆土出土の平瓦。凸面は平行叩、側部面取り１回。14の平瓦は中央部分の覆土上層より出土。凸面の調整は平行叩。

69号住居跡

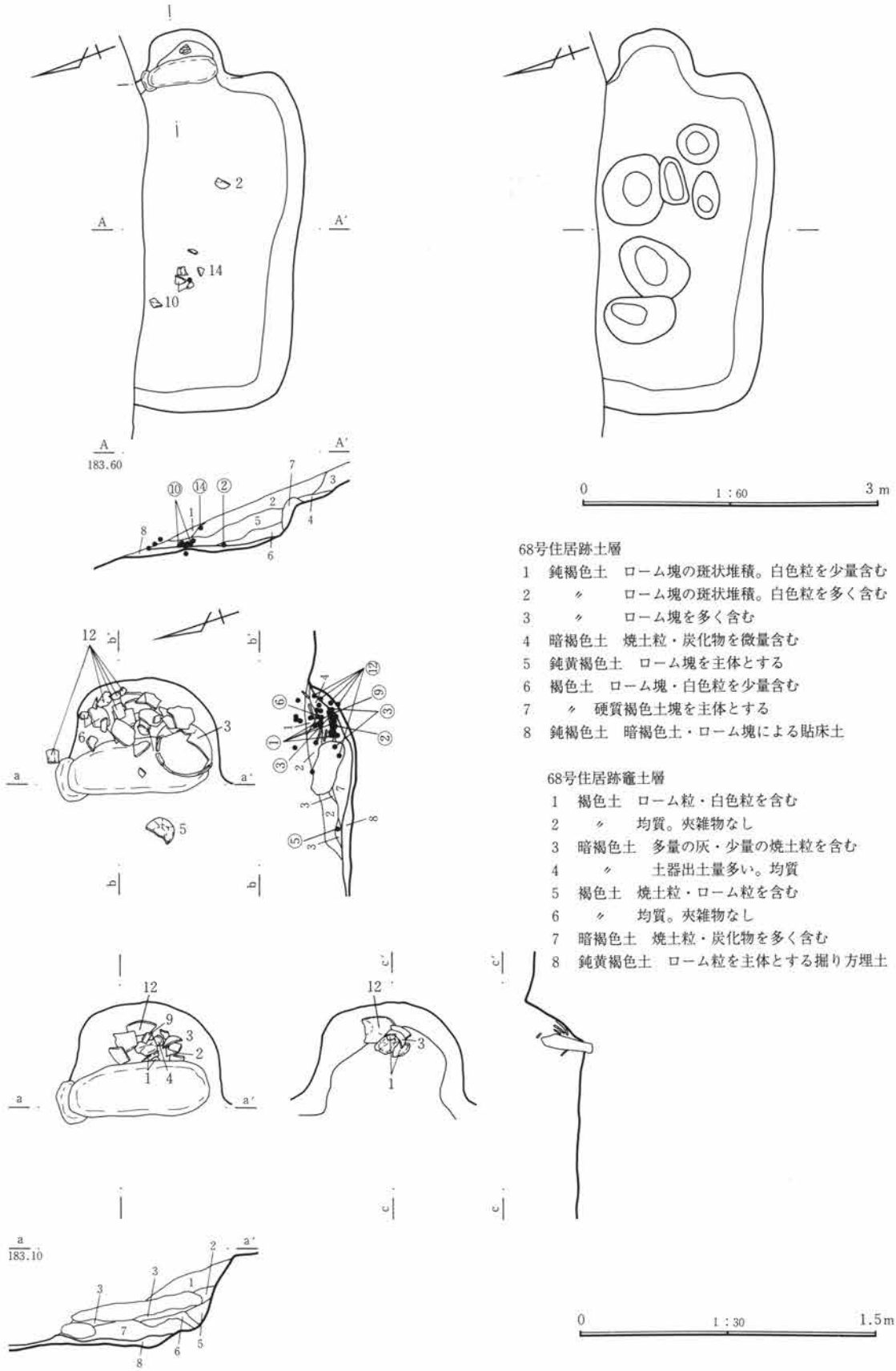
63号住の南、４号道路状遺構の北に挟まれた位置で検出された。北側は急斜面地形のため大きく逸失し、竈と南側のみの検出となった。

平面形は主軸辺長約3.4ｍ程度の恐らく横長の方形を呈するのであろう。深さは約46㎝と遺存は悪い。

床面はほぼ平坦を意識し、貼床がなされていた。硬化面は塊状に地点的に見られるのみで範囲をなさず、脆弱な床面といえよう。柱穴・貯蔵穴はなかった。

竈は東壁に大きく煙道を突出して検出された。袖・構築材の出土は無く、遺物も少ないため簡素な印象を得る。燃焼部は掘り込みを持つが、焼土・灰の堆積は薄かった。

掘り方調査で大型の土坑を検出した。均質土が堆積しており性格は不明である。



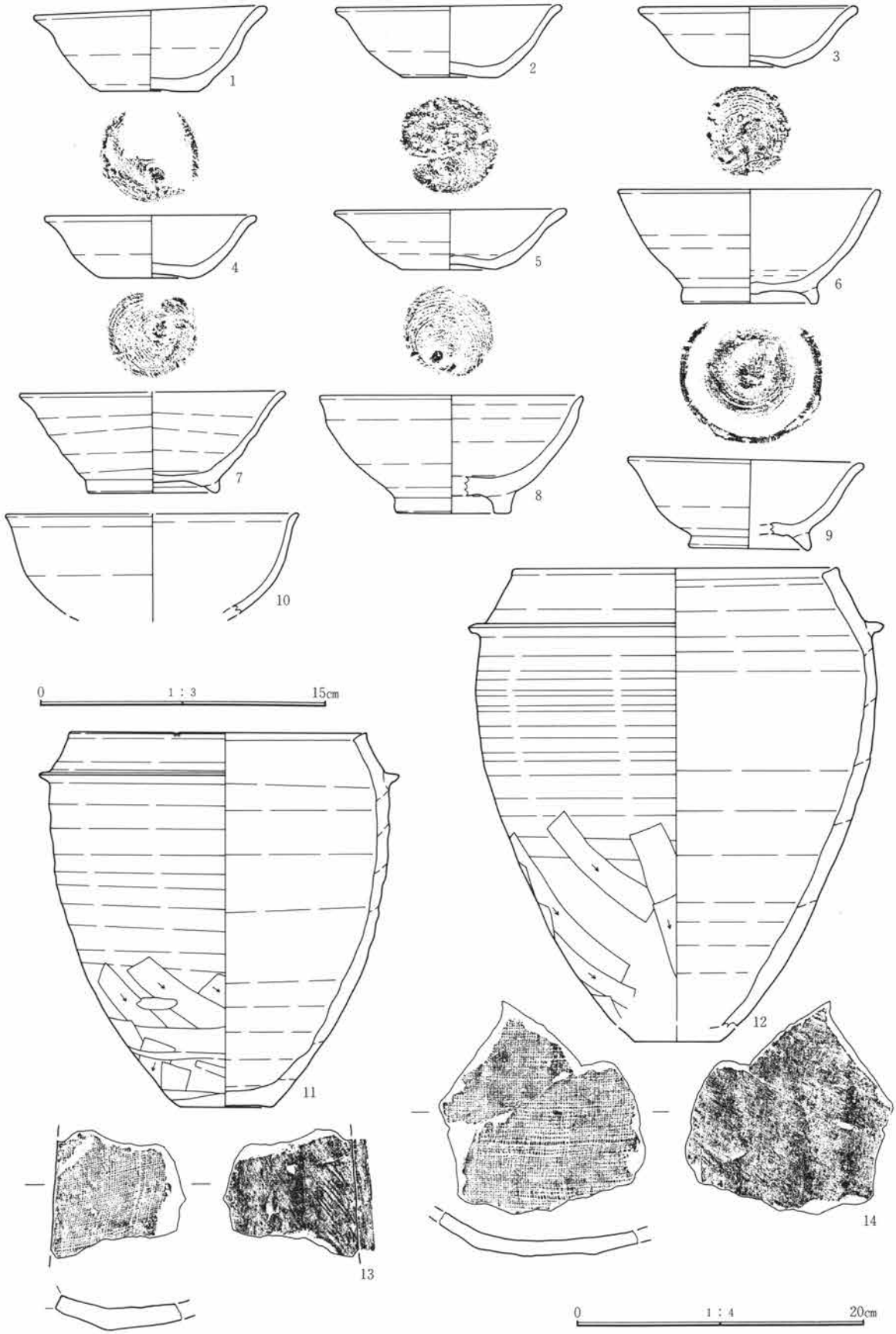
68号住居跡土層

1　鈍褐色土　ローム塊の斑状堆積。白色粒を少量含む
2　〃　ローム塊の斑状堆積。白色粒を多く含む
3　〃　ローム塊を多く含む
4　暗褐色土　焼土粒・炭化物を微量含む
5　鈍黄褐色土　ローム塊を主体とする
6　褐色土　ローム塊・白色粒を少量含む
7　〃　硬質褐色土塊を主体とする
8　鈍褐色土　暗褐色土・ローム塊による貼床土

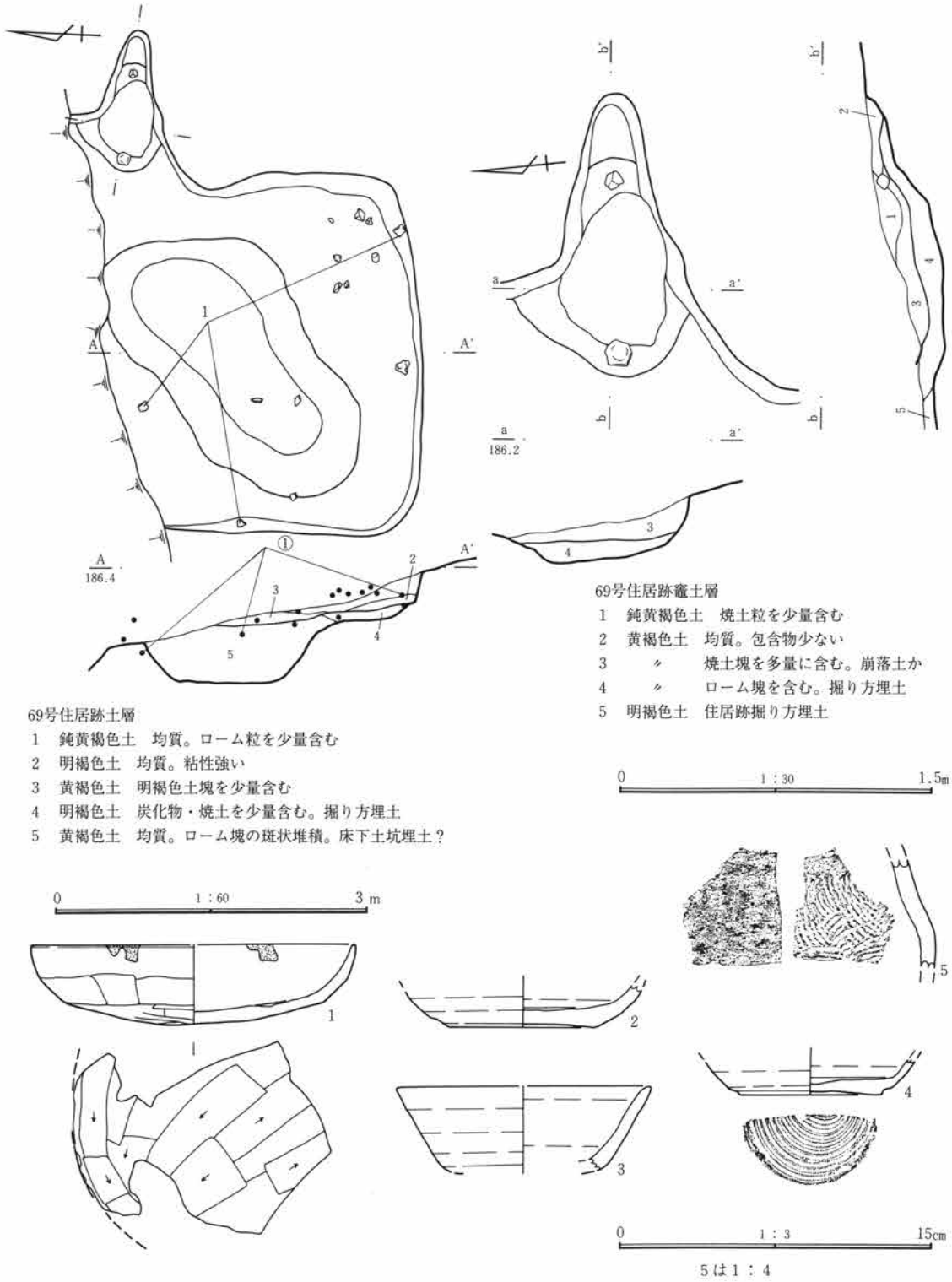
68号住居跡竈土層

1　褐色土　ローム粒・白色粒を含む
2　〃　均質。夾雑物なし
3　暗褐色土　多量の灰・少量の焼土粒を含む
4　〃　土器出土量多い。均質
5　褐色土　焼土粒・ローム粒を含む
6　〃　均質。夾雑物なし
7　暗褐色土　焼土粒・炭化物を多く含む
8　鈍黄褐色土　ローム粒を主体とする掘り方埋土

154図　68号住居跡

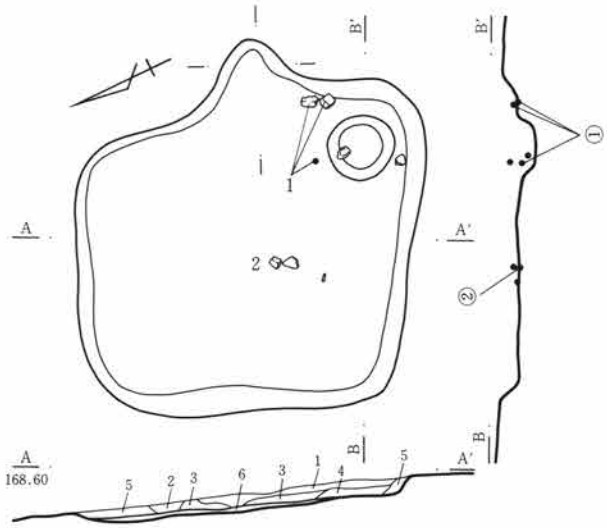


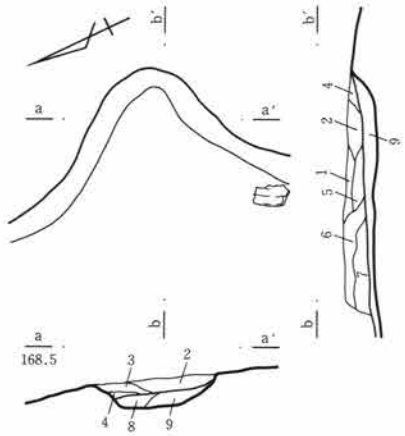
155図　68号住居跡出土遺物



156図　69号住居跡・出土遺物

遺物は総破片点数88点と少なく、5点を図示した。1は3点の接合が見られ土師器坏。口縁部に油煙が付着する。体部上半は横位箆削り。底部は箆削り。2は竈前庭部出土の須恵器坏底部。器面摩滅。3は坏口縁部破片。覆土出土。口唇部が尖り気味である。4は覆土出土の坏底部破片。5は須恵器甕体部破片。外面撫で、内面は青海波文が見られる。



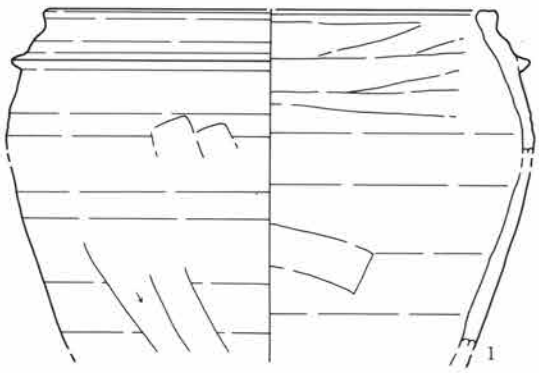


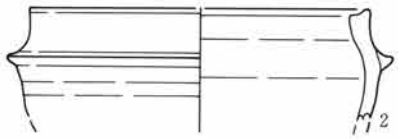
70号住居跡土層
1　褐色土　しまり乏しく不均質
2　橙褐色土　As－MP混土層
3　黄褐色土　ローム塊を少量含む
4　褐色土　ローム粒を多く含む
5　〃　均質。ローム粒少量含む
6　鈍黄褐色土　ローム塊を主体とする貼床土

70号住居跡竈土層
1　黒褐色土　炭化物・灰を多く含む
2　褐色土　焼土粒を含む
3　暗褐色土　焼土粒・炭化物・灰を含む
4　赤褐色土　焼土塊を多量に含む
5　鈍黄褐色土　ローム粒を多く含む
6　褐色土　均質。ローム粒を微量含む
7　黄褐色土　均質。ローム粒を主体とする
8　褐色土　ローム粒を含む。掘り方埋土
9　黄褐色土　ローム塊を主体とする掘り方埋土

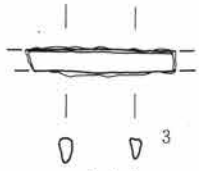
0　1：60　3 m

0　1：30　1.5 m





0　1：4　20cm



1：3

157図　70号住居跡・出土遺物

70号住居跡

調査区北東端の東尾根区に占地する。他の住居跡とは別地点で、飛び地といってもよい。東尾根区にある15号住と大きく距離を離す。周辺地形は狭小な平坦地形であり、本調査区の中でも最も低標高部分でもあるこの平坦地形は、近世～近代の民家による削平とされ、そのため本住居跡の遺存は非常に悪かった。本住居跡は単独の検出でその他の重複遺構はなく、南に後述する71号住居跡が近接するのみである。

斜面による壁の流失はみられなかったものの、前述の近代の削平は硬質ローム上面にまで及び、そのため本住居跡の壁高は約32㎝と低く、壁・覆土そのものの遺存も良好ではなかった。平面形は辺長約2.6ｍ程度の小型の正方形を呈す。

床面は鈍黄褐色土による貼床が全面にわたって確認された。大きな傾斜はなく、僅かな凹凸が見られるもの

のほぼ平坦面を築く。硬化面は中央部分から竈前庭部にかけて顕著だった。柱穴は検出されなかったが、貯蔵穴は南東隅に小型の円形土坑が充てられる。

竈は、東壁中位に設けられる。浅く、遺存も良くないが、焼土・炭化物が散布していた。袖・構築材の検出はないが、竈覆土中の焼土塊はおそらく構築材の粘土・ローム塊が崩落したものであろう。燃焼面の掘り込みも無く、簡素な印象を得る。

貼床を除去し掘り方調査を行い、床下遺構の検出を試みたが、明瞭な土坑などの検出はできなかった。

遺物は出土総破片点数31点と極めて少ない。覆土中のものは細片で床直出土の羽釜２個体と鉄器が図示し得た。１は竈南から貯蔵穴にかけて出土した。口唇部が短く外傾するが口縁部は内傾気味である。鍔は短く、鍔直下に膨らみを持たせる。外面、口縁部横撫で、体部は上半は篦撫で、下半は篦削りが施される。内面、口縁部は横位篦撫で、体部も篦撫でが見られる。尚、本資料の口縁部分と体部破片は接合し得なかった。出土地点が極めて近く、胎土・整形からもほぼ同一個体と判断したが、器形などの信用性は薄い。２は床面中央で出土した口縁部破片。小径で、口縁部は内彎気味に直立する。口唇端部に浅い凹線が見られる。３の鉄製品は覆土下位出土。恐らく刀子であろう。

71号住居跡

前述の70号住の南に近接する。同様に単独の検出であはあるが、本住居跡の南側は近代の削平によって崖状となり、西壁から南壁にかけての様相は判然としない。また、70号住と同様に近代の削平が全面にわたっており、本住居跡も遺存は良くなかった。

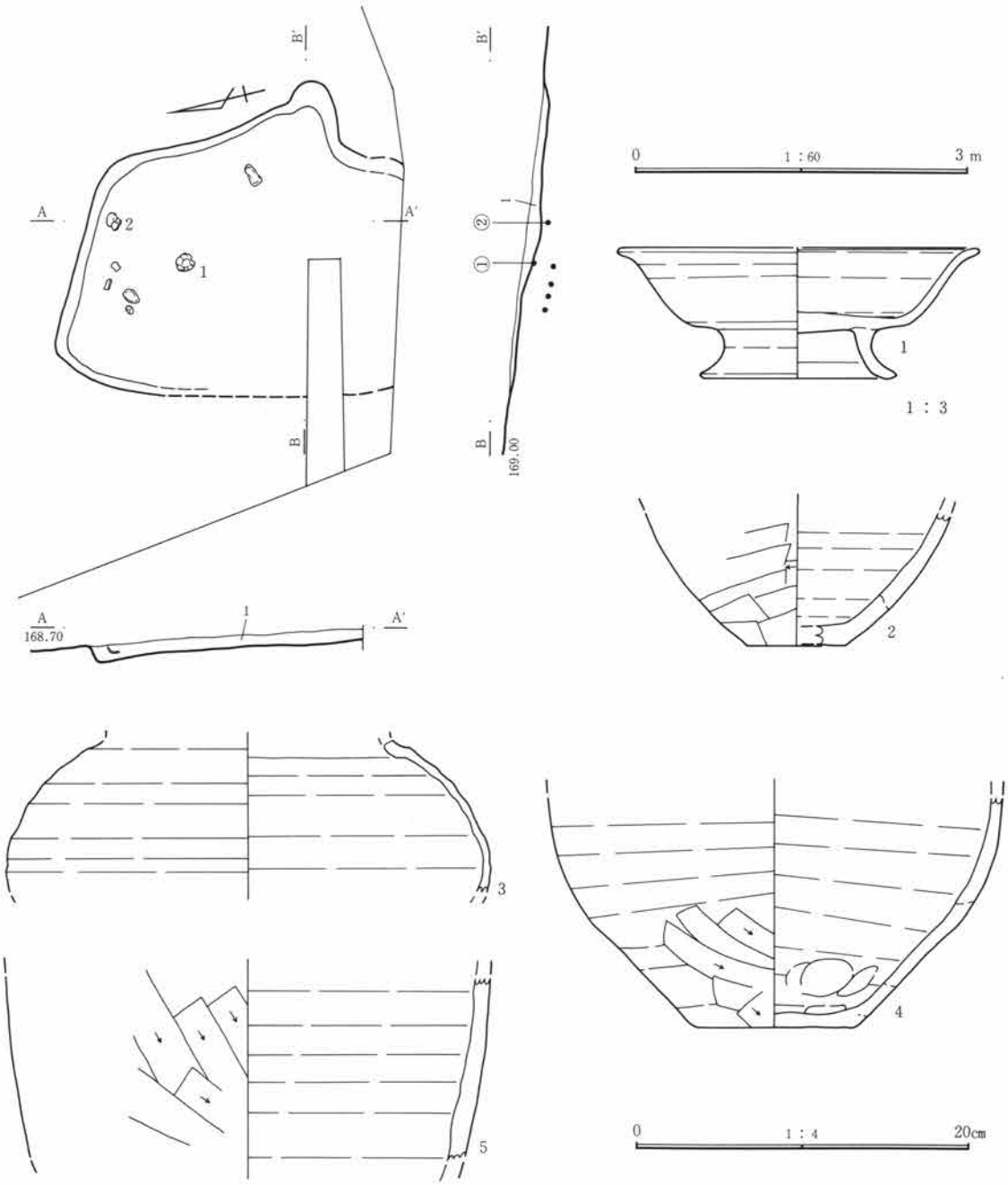
調査当初、当地点では近世民家の存在を予想し、その検出を主目的に調査されており、本住居跡はその竈部分などを含めて、近世遺構として捉えた経緯がある。しかしながら、近世遺構によく見られる、掘り込みのしっかりした遺構ではなく、サブトレンチの観察から、覆土の様相と掘り込み底面に硬化面が見られ、出土遺物も平安時代の土器群が主体を占めたため、本遺構を平安時代の住居跡として認知した。ただしその時点で既に竈は完掘され、竈の詳細は把握できなかった。

住居跡の平面形は主軸辺長約2.2ｍのやや横長の方形を呈すが、東側壁から北東隅へはややいびつな形状を見せる。深さは約20㎝と非常に遺存は悪い。

床面は、西側から南側にかけて逸失していたが、中央から北側壁にかけてロームによる地床を確認した。中央より西側に至り若干凹む傾向があるが、全体的には平坦面を築く。硬化面は中央部分にごく狭い範囲で検出された。尚、柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

竈は、東壁中位に設けられる。浅く、遺存は悪い。焼土・炭化物の堆積も薄く、竈としての認定にも困難が伴った。袖・構築材などの出土もなく、簡素な印象を得る。また、竈南側面と壁は若干乱れが生じており不整形な平面形状を見せる。

出土遺物は総破片点数77点と少ない。５点を図示したが、この他に数点の平瓦破片が覆土中より出土している。細片のため図示はし得なかった。竈周辺からの出土は見られず、中央より北側にかけて床直・床直上より散漫な分布が見られた。１は中央やや北寄りの床直上より出土した足高高台付椀。全体に薄手で、口縁部は緩やかに外反する。体部は偏平な感を受け丸みを帯びて底部に至る。内彎する脚部は貼付後入念に横撫でが施され丁寧に仕上げられている。２は北東隅付近で出土した羽釜あるいは甕底部破片。ほぼ床直である。外面体部は篦削り後撫でが及ぶ。内面は横撫で。３は甕あるいは壷の肩部から体部にかけての破片。恐らく右回転轆轤整形で酸化焔気味の焼成である。薄手の器厚を呈し、やや異質な器種である。４も甕あるいは壷の体部から



158図　71号住居跡・出土遺物

底部。上半に膨らみを持たせる。右回転轆轤整形で外面体部下半から底部にかけて縦位・斜位篦削りが施され、一部に篦撫でが及ぶ。内底面は指頭圧痕が残る。５は羽釜体部破片。竈覆土上層。直立気味の体部形態を呈す。右回転轆轤整形で、外面は縦位篦削り、内面は横撫でが施される。

70・71号住居跡は、前述のように他の住居跡群とは距離を保ち、別地点で検出された住居跡である。標高もやや低く、高標高部に展開する本遺跡の住居跡と占地形態を異にするものかもしれない。また、上面が近代の削平によって攪乱を受けているとはいえ、出土遺物も少なく消極的な遺存である。濃密な出土状態を呈す本遺跡の様相と性格が異なる。本遺跡の低標高部分つまり北側への集落展開が予測されるなかで、その範囲と性格を予測するうえで、２軒の住居跡の示す様相は示唆的でもある。

73号住居跡

中尾根東の南東部に位置し、東に67号住が近接する。また、南には２号・３号礎石建物が見られ、本住居跡は礎石建物群の外縁地点に占地するともいえよう。

近接する礎石建物（寺院跡）の存在からも、本住居跡は調査当初６号テラス状遺構として認定されていたが、調査の進行に伴い、北壁・竈などの検出によって住居跡として位置付けた経緯がある。

平面形は、約4.5×3.5ｍのやや縦長の隅丸長方形を呈し、北辺と南辺長に差があるため、ややいびつな形状を取る。南側の壁高は約90㎝と深く、良好な遺存状態である。

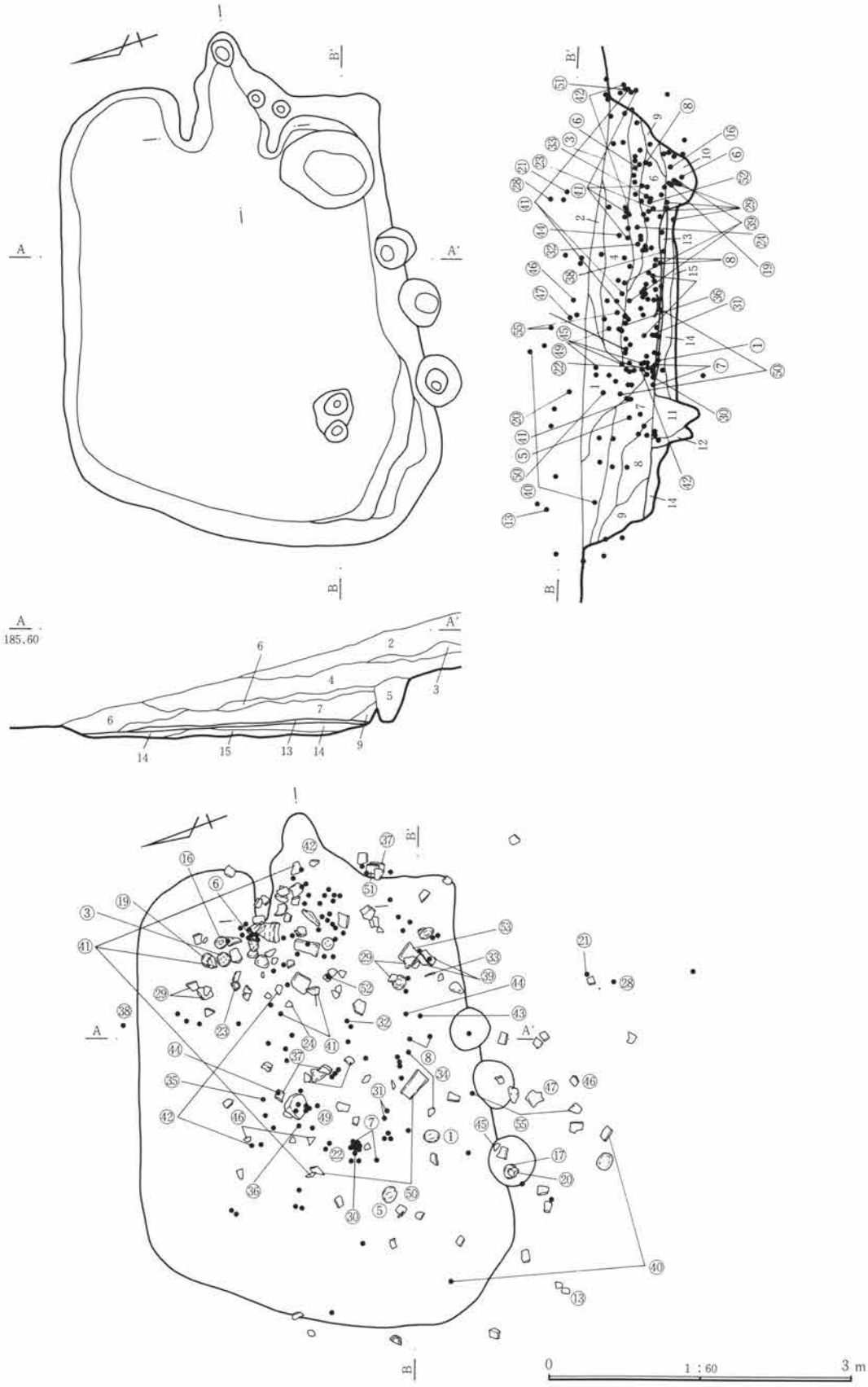
柱穴は、床面上では南西隅で検出された小ピットが相当する。また、北壁に沿って３基の小ピットが並列するが、土層の観察からは住居跡覆土と新旧が見られ、本住居に帰属する施設としての可能性は少ない。

貯蔵穴は、南東隅の大型の土坑を充てる。不整円形の平面形を呈し、比較的深く掘り込められていた。

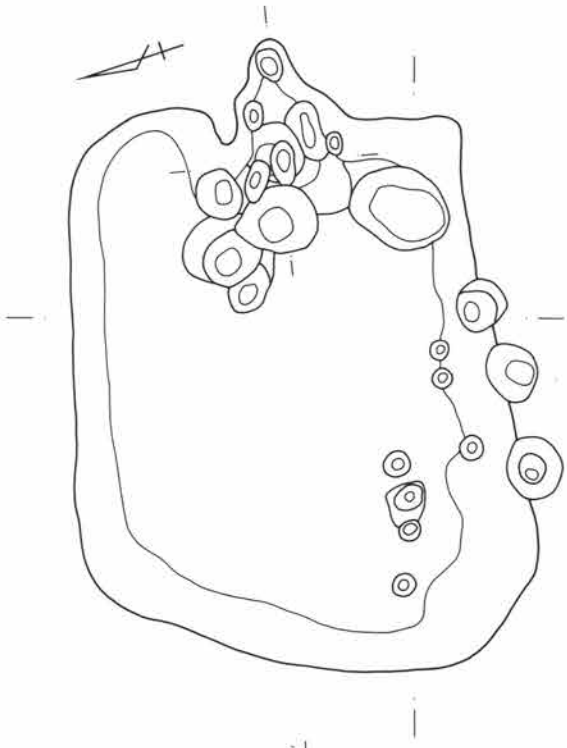
竈は、東壁のほぼ中央に設けられていた。煙道を突出し、両袖とも残存している。北側の袖はローム塊を主体とし、南側は褐色粘質土で構成されていた。燃焼面には顕著な掘り込みは確認されなかったが、黒色灰・焼土粒が堆積し、その上部に焼土化したローム塊が構築材崩壊土として確認された。構築材はこの他に、燃焼面より出土した瓦・土器片・自然石が相当されるが、原位置を保つ、または想定し得る出土状態ではなく、構築構造などは特定できない。また、燃焼面のほぼ中央で横位に出土した片岩質の縦長自然石は、支脚としての可能性が強い。

床下遺構としては明確なものは無かった。竈周辺部に大小のピットが群在するが、性格は特定できない。煙道奥の小ピットも、土層に新旧が見られ付属施設とは断定し得ない。

遺物は総破片点数660点と多い。その多くが覆土中位から床面上の出土であり、特に竈周辺の出土遺物は住居跡に帰属する遺物として捉え得る。１は床面中央やや南西寄りの床直より出土。小径で薄手の坏である。２も小径で薄手の坏だが、口唇部が肥厚する。覆土下位。３の坏口唇部も肥厚する。小径で薄手。竈北西部の覆土中位出土。４も小径で薄手、底部に凹凸を持ち口唇部は外反する。竈内出土。１～４は黄色味を帯びる色調で特徴的な焼成の坏である。５は中央やや南西寄りの覆土下位出土の坏。やや身深で体部中位に僅かな屈曲がある。厚手の器厚。６は竈北袖端下端で床直出土。小径で体部に丸みを持ち、薄手である。口縁内面に油煙が付着する。７も北袖下端及び床面中央やや西寄りの床直。１～４の坏と類似するが、やや口径が広く厚手である。８の口縁部は緩やかに外反し、やや厚手。南壁寄りで床直上出土。９は厚手の器厚を呈し、口縁部外反する。覆土出土。10は竈覆土。１～４と類似する。11は竈内覆土中位出土。身深で厚手の器厚を呈す。12の口唇部は強く外反し内稜を持つ。覆土出土。13は住居南西隅外出土の坏底部。14の坏口唇部は僅かに外反し玉縁状である。体部も丸みを帯びる。竈燃焼面より出土した。15の坏体部は直線的で上位で僅かに屈曲する。口唇部は尖り気味。覆土出土。16は高足の椀。台部はしっかりした作りで全体に薄手である。竈北西部より床直で出土。17の高台付椀は南壁上端より出土。口縁部は僅かに外反し比較的薄手。18は覆土出土。口縁部は外反しやや厚手。19は竈北西部の床直出土の高台付椀。口縁部外反し、体部は丸みを帯びる。20は南壁上端出土の高台付椀底部。割れ口に糸切り痕が明瞭である。21は身深の高台付椀。高台は短く、厚手の器厚を呈す。住居外南側出土。22は中央やや西寄りで床直上出土。高台部欠損。体部下半に丸みを帯びる。23は竈北西部の覆土下位。高台付椀台部部分のみ。台部下端部が僅かに突出する。24は中央やや東寄りで覆土中位出土。椀の口縁部。口径は比較的広い。口唇部端部に狭い平坦面を持つ。25は覆土出土。足高椀の台部分。外面に逆位に「佛」の墨書あり。26は竈北袖上。台付瓶の底部破片。轆轤整形で酸化気味の焼成である。外面は縦位の撫でが加わる。27は竈内出土の灰釉陶器皿。施釉は漬け掛けで、外面は全面に及ぶ。体部下半は回転篦削り。28は



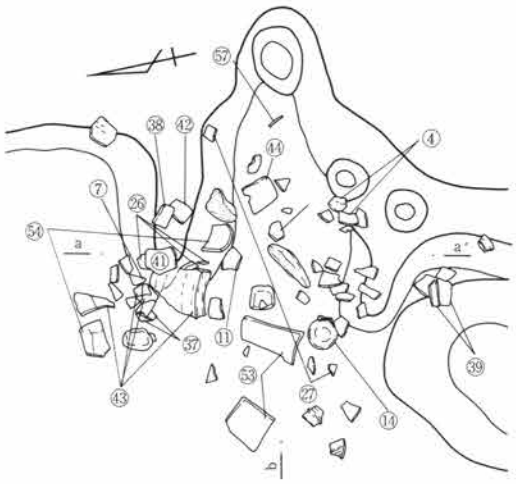
159図　73号住居跡（１）

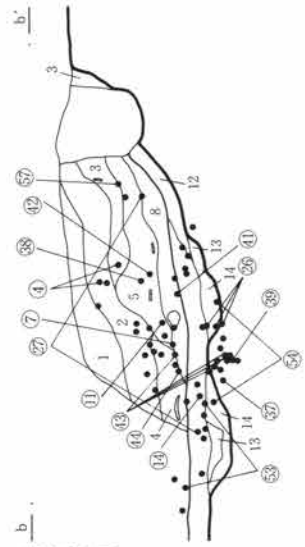


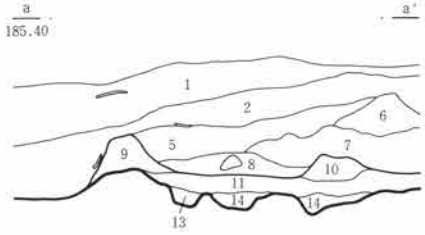
73号住居跡土層

1　暗褐色土　ローム粒・炭化物を含む均質土。別種遺構覆土
2　黒褐色土　As－Bが塊状に点在。ローム塊も含む
3　暗褐色土　やや暗い。ローム粒・土器粒を含む
4　鈍黄褐色土　均質。炭化物・ローム粒を含む。
5　鈍褐色土　しまりの乏しいピット埋土
6　褐色土　均質。ローム粒・白色粒を少量含む
7　暗褐色土　均質。炭化物・焼土粒を少量含む
8　〃　均質。ローム粒・炭化物を少量含む
9　褐色土　明るい均質土。ローム粒・白色粒少量含む
10　暗褐色土　暗い均質土。少量のローム粒を含む。貯蔵穴埋土
11　〃　炭化物微量含む。柱穴埋土
12　〃　11より暗い
13　鈍黄褐色土　褐色土塊とローム塊による貼床土。上面硬化
14　〃　焼土粒を少量含む。掘り方埋土
15　〃　暗褐色土塊とローム塊による掘り方埋土

0　1：60　3 m





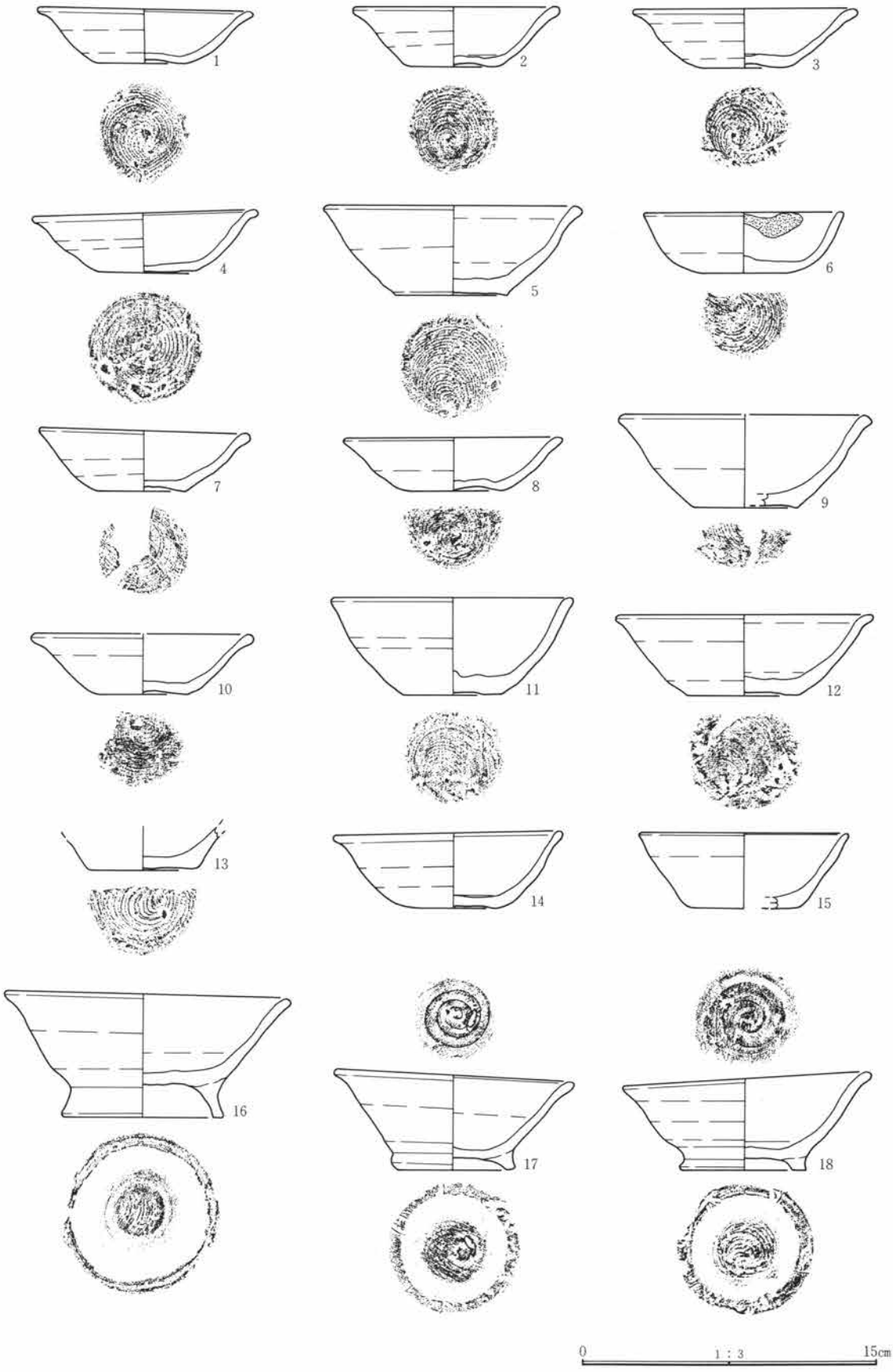


73号住竈土層

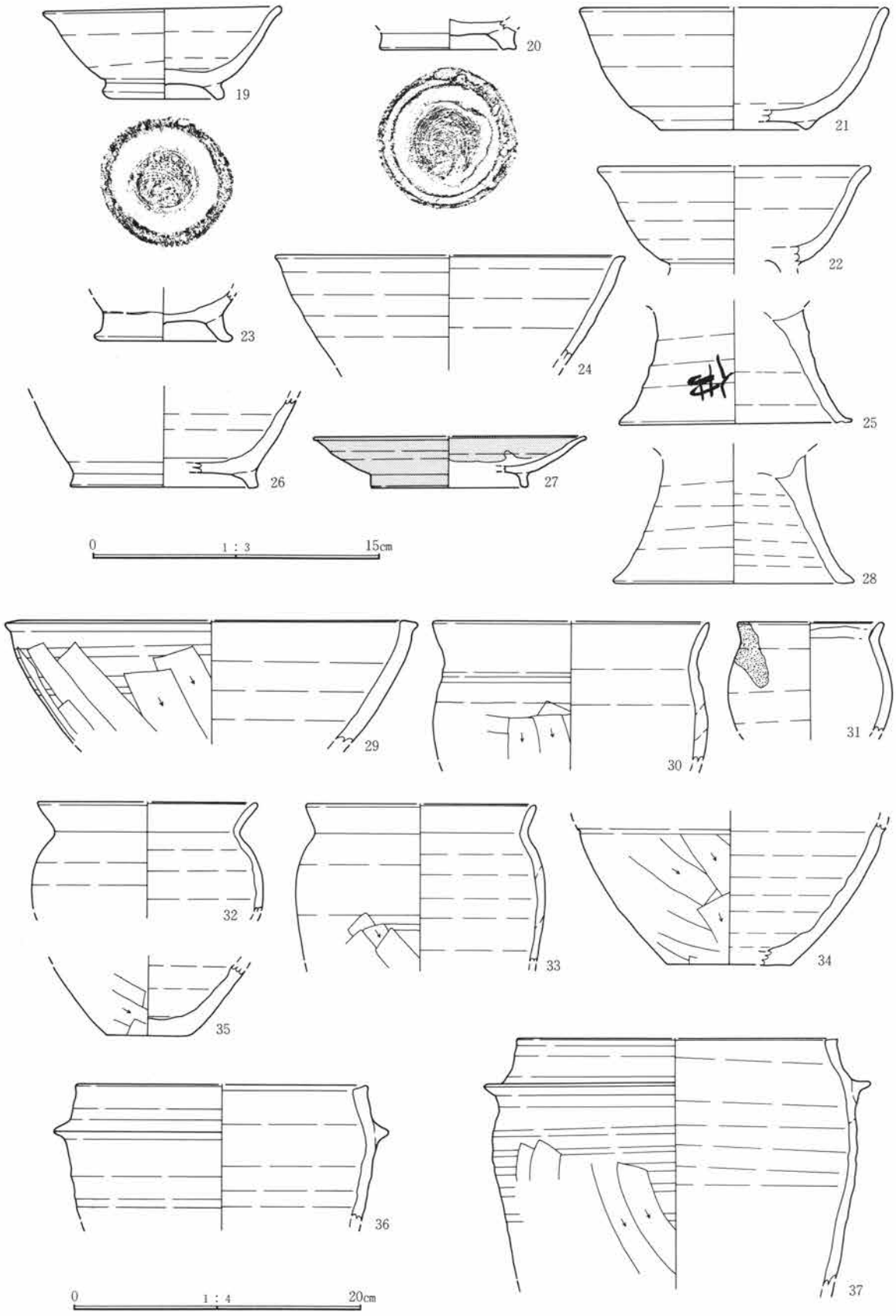
1　黒色土　炭化物を含みしまりは乏しい
2　鈍褐色土　均質。ローム塊の斑状堆積。炭化物少量含む
3　鈍黄褐色土　均質。ローム粒・炭化物を少量含む
4　暗褐色土　均質。焼土粒・炭化物を少量含む
5　褐色土　小型の焼土塊・ローム塊を含む
6　黄褐色土　僅かに焼土化したローム塊を多く含む
7　鈍黄褐色土　焼土化したローム塊主体。崩落土か
8　黒褐色土　灰主体。炭化物・焼土粒を多く含む
9　黄褐色土　大型のローム塊を主体とする袖材
10　褐色土　粘性の強い褐色土塊を主体とする袖材
11　暗赤褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物を含む。掘り方埋土
12　〃　少量の炭化物・ローム粒を含む。掘り方埋土
13　黒褐色土　小型のローム塊・炭化物を含む埋土
14　黄褐色土　ローム塊を主体とする埋土

0　1：30　1.5m

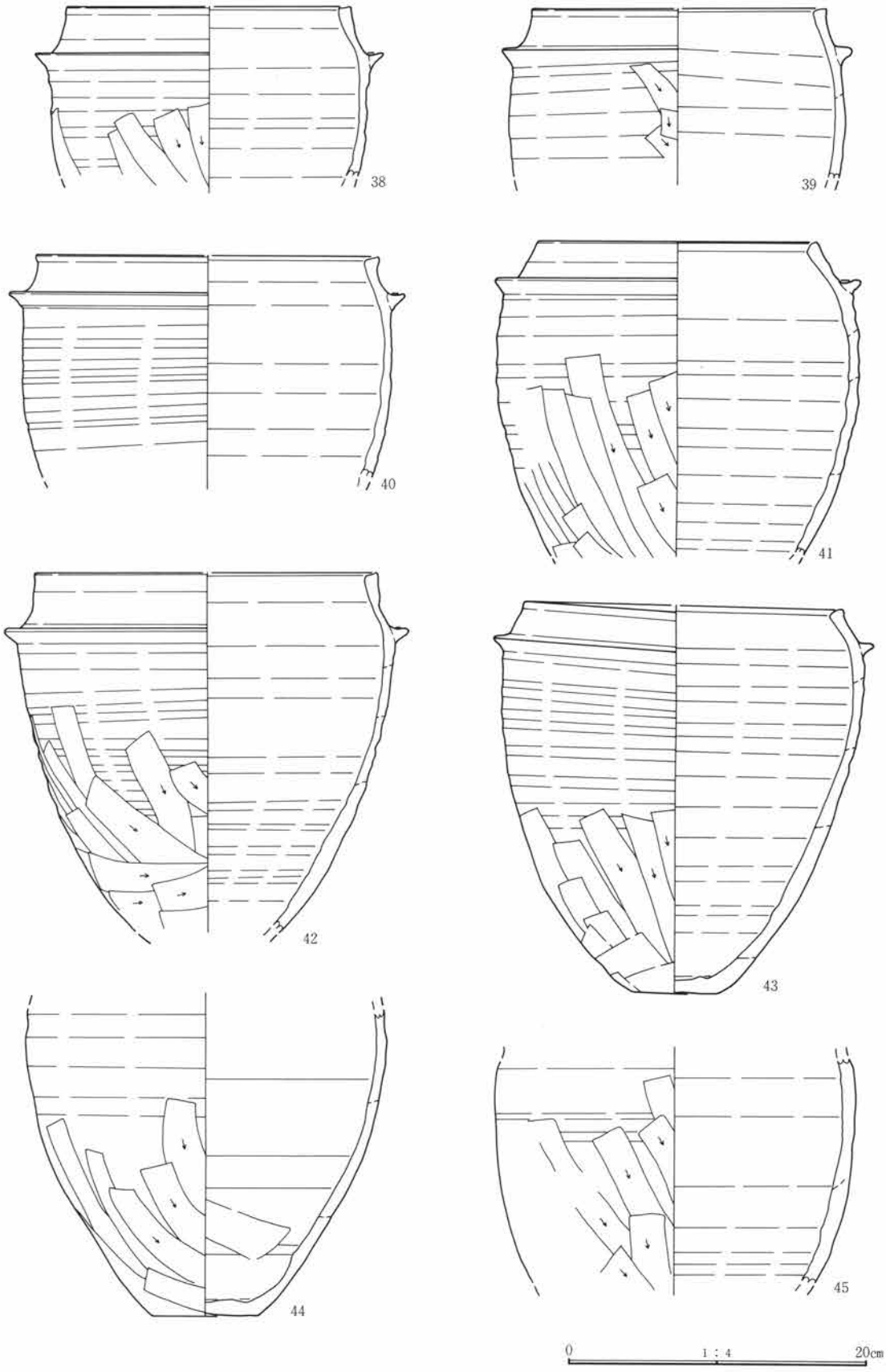
160図　73号住居跡（2）



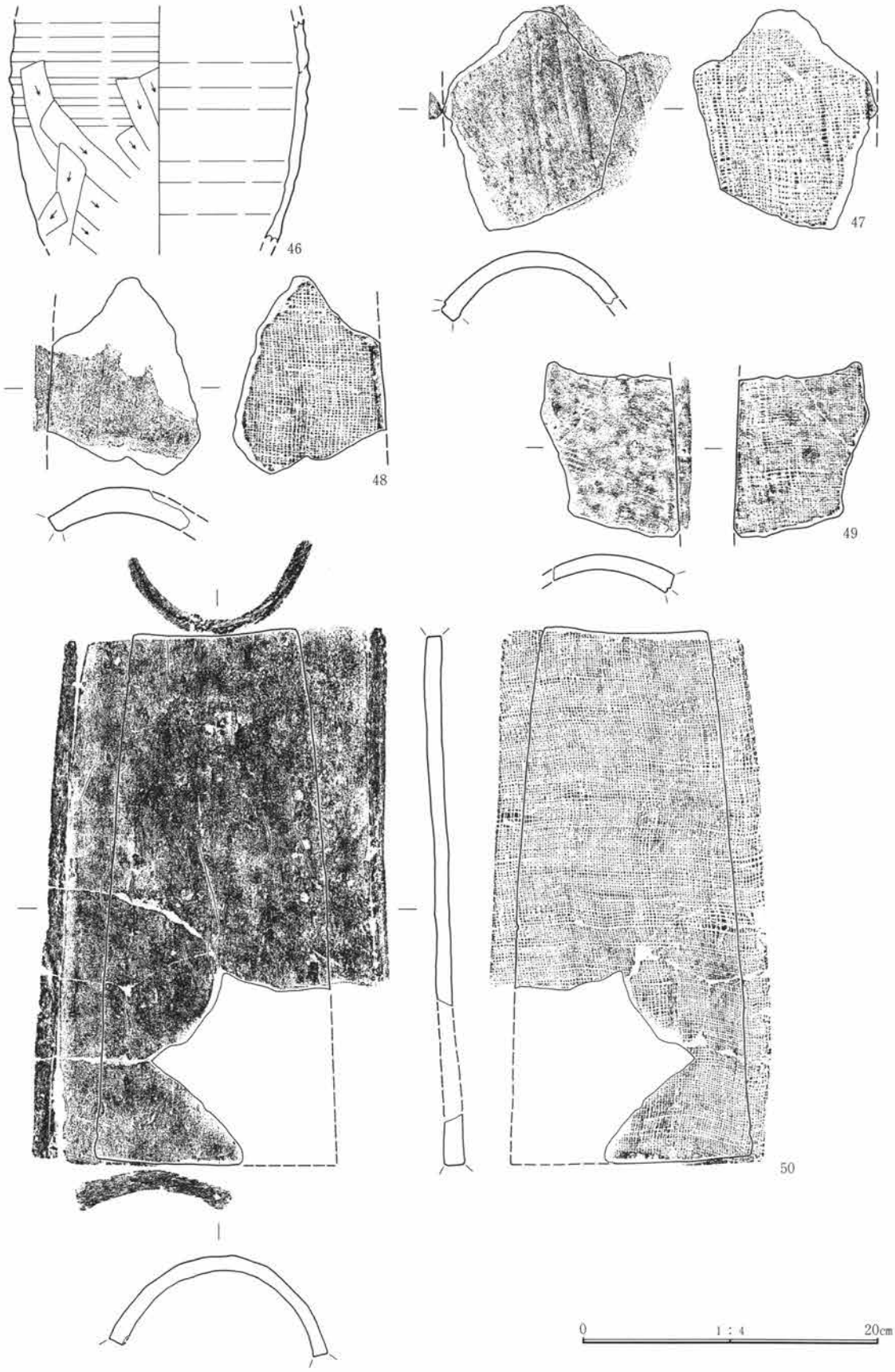
161図　73号住居跡出土遺物（１）



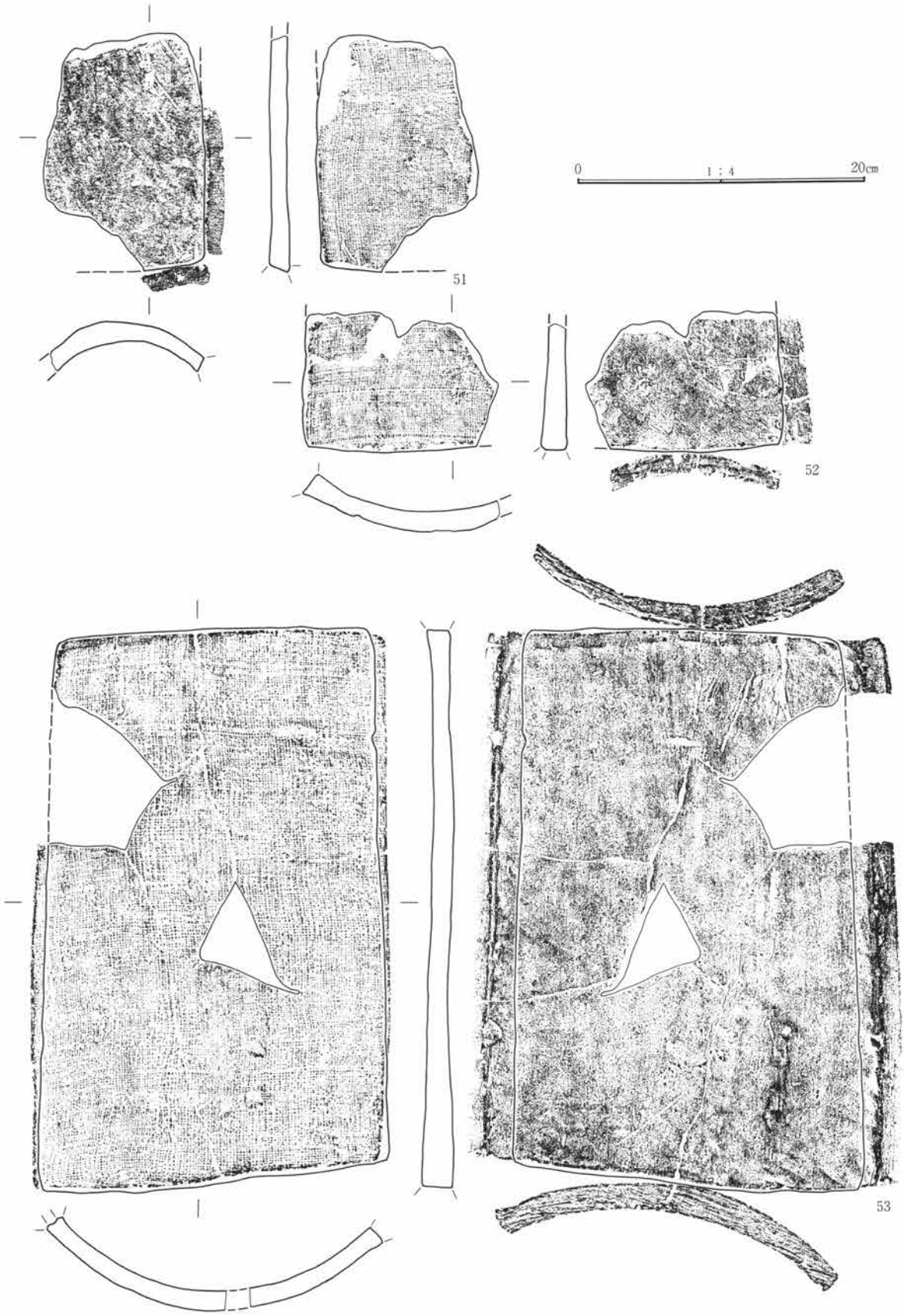
162図　73号住居跡出土遺物（2）



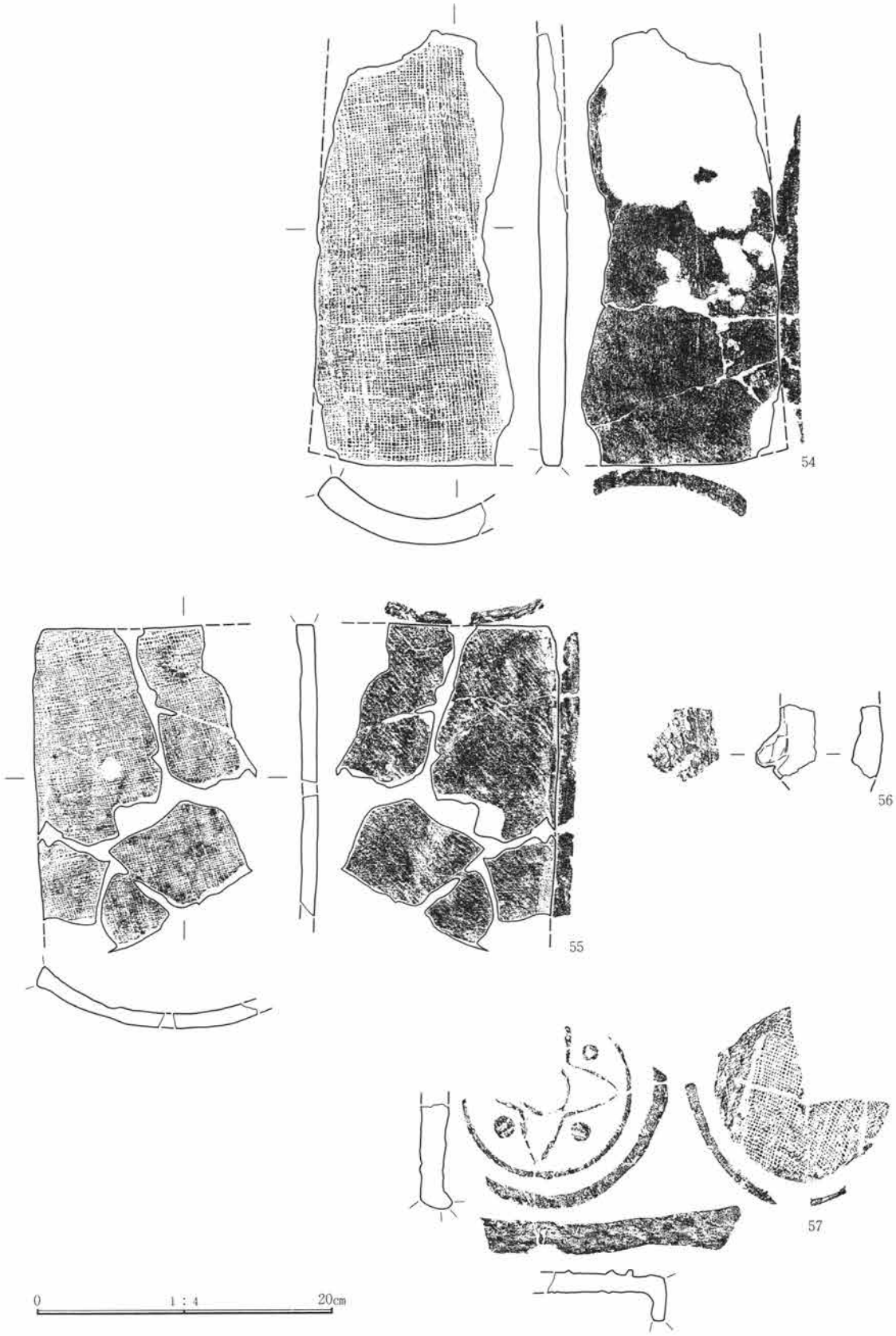
163図　73号住居跡出土遺物（３）



164図　73号住居跡出土遺物（4）



165図　73号住居跡出土遺物（５）



166図　73号住居跡出土遺物（6）

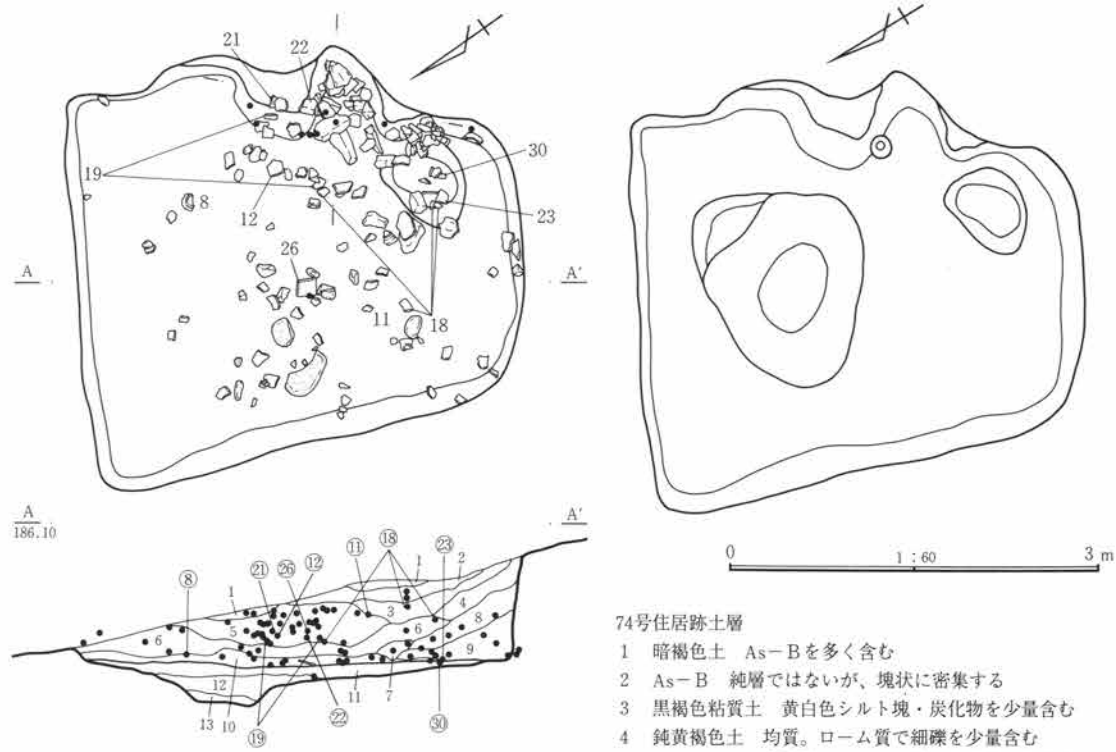
住居外南側。足高椀あるいは高盤の脚部。29は中央やや北東寄りと南東寄りでほぼ床直出土の鉢。右回転轆轤整形で体部外面は幅広の篦削りが縦位に施される。30は小型甕。中央西寄りで床直出土。轆轤整形であろうか、酸化焔焼成である。口縁部～肩部は強い横撫でを施し、体部は縦位篦削り。31も小型甕。轆轤整形酸化焔焼成。口縁部内外面に油煙が付着する。床面中央やや南西寄りで床直出土。32はほぼ中央の覆土中位出土の小型甕。やはり酸化焔焼成轆轤整形である。頸部が屈曲し体部も膨らむ。33の小型甕は南壁の東よりで覆土下位出土。轆轤整形酸化焔焼成。体部下半に篦削りが施される。34は羽釜底部。轆轤整形後外面縦位斜位の篦削り。中央南寄りで床直上出土。35も羽釜底部。轆轤整形後外面篦削り。底面は丁寧に撫で。中央北寄りで覆土下位出土。36は中央北西寄りの覆土中位出土の羽釜口縁部破片。体部外面轆轤目強い。37の羽釜は中央の覆土下位及び竈北袖下端出土。右回転轆轤整形で、体部中位より篦削りが及ぶ。外面轆轤目強く凹線状となる。鍔端部は鋭い。38、竈北袖上及び住居外北側出土の羽釜。鍔は鋭く、体部轆轤目も強い。39は貯蔵穴及び中央覆土中位出土。体部轆轤目は弱い。40の体部轆轤目も弱いが、鍔端部は鋭い。南西隅覆土上層及び住居外南側出土。41の羽釜体部は丸みを帯び膨らむ。外面の轆轤目は強く、中位より篦削りが及ぶ。竈及び竈北西部覆土中位出土。42は竈北袖上及び中央覆土下位出土の羽釜。轆轤整形後体部中位より縦位篦削り、下半は横位篦削りが施される。43の羽釜は竈北袖下端及び中央南側で覆土下位出土。体部外面轆轤目強い。下半は縦位篦削り後腰部に横位篦撫でを施す。44は竈燃焼面上及び南側で覆土中位出土の羽釜体部下半。轆轤目弱く縦位斜位の篦削りを施す。45は南壁上端出土の羽釜体部破片。直立気味の器形を呈す。46も直立気味の体部器形を呈す羽釜体部。轆轤目強く、縦位篦削りも顕著である。住居外南側出土。37～44の羽釜は黄色味が強く、前述の22号住出土の羽釜と近似する。47～57は瓦類である。出土量は多く、このことが本住居跡を調査当初テラス状遺構として把握した要素となった。47は住居外南側出土の丸瓦。側部の面取りは２回、凸面は縦位撫で。48の丸瓦は覆土出土。側部面取り２回、凸面は無文叩後縦位撫で。49は中央覆土中位出土の丸瓦。側部面取り２回、凸面は平行叩後縦位撫で。50の丸瓦は側部・端部とも面取りは１回。凸面は無文叩後縦位撫で。中央南側床直で出土。51は東壁上端で出土。丸瓦で側部は１回、端部は２回の面取り、凸面は平行叩後縦位撫で。52は平瓦。中央東寄りで覆土中位出土。側部は１回、端部は２回の面取り。凸面は平行叩後縦位撫で。53の平瓦は貯蔵穴上及び竈燃焼面出土。側部・端部とも面取り１回。凸面は平行叩後縦位撫で。54も竈燃焼面出土の平瓦。側部・端部とも面取りは２回。凸面は縦位撫で。55は住居外南側で出土。側部・端部とも面取りは１回。凸面は平行叩。56は覆土出土の鬼瓦破片。57の四弁の軒丸瓦は竈内覆土中位出土。

74号住居跡

頂部区の１号テラス状遺構内で検出された。頂部区には寺院跡である２～４号礎石建物跡や７号建物跡が占地するが、このうち７号建物が一段低い１号テラス状遺構内に位置する。本住居跡はこの７号建物の西に近接し、周辺には後述する75号・77号・80号住居跡があるが、住居跡自体は単独の検出となった。

平面形は著しく歪む横長方形を呈する。これは、南辺（約3.2m）と北辺（約2.2m）とその差が大きく、かつ、斜面地のため北壁の検出に困難が伴い、土層と床面の範囲の認定及び遺物の散布状況から、その規模を推定した要因も影響している。但し、全体的には約3.1×3.5mの該期の住居跡としては平均的な規模であり、深さも約100cmを測る良好な遺存を誇る。

床面は、僅かな凹凸が見られるもののほぼ平坦であり、黄褐色ローム塊を固めた貼床土である。硬化面は中央部と竈周辺で顕著であった。貯蔵穴は南東隅の浅い落ち込みを充てたい。埋土は鈍褐色土が主体で、遺物の出土は無かった。柱穴は見られなかった。

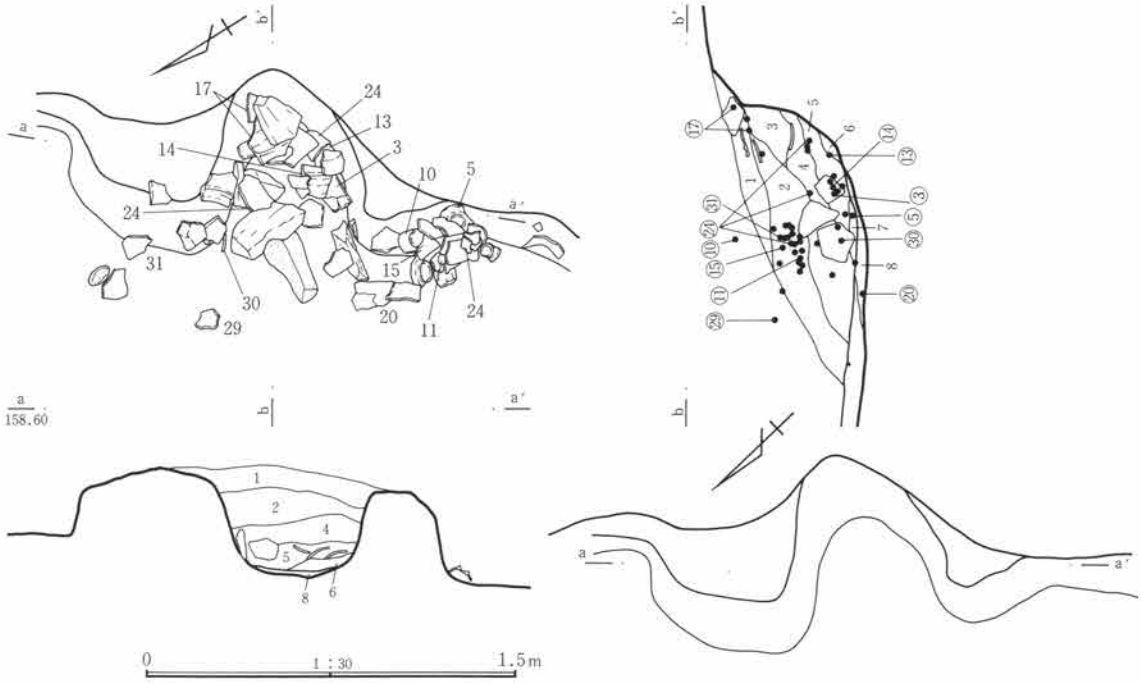


74号住居跡竈土層

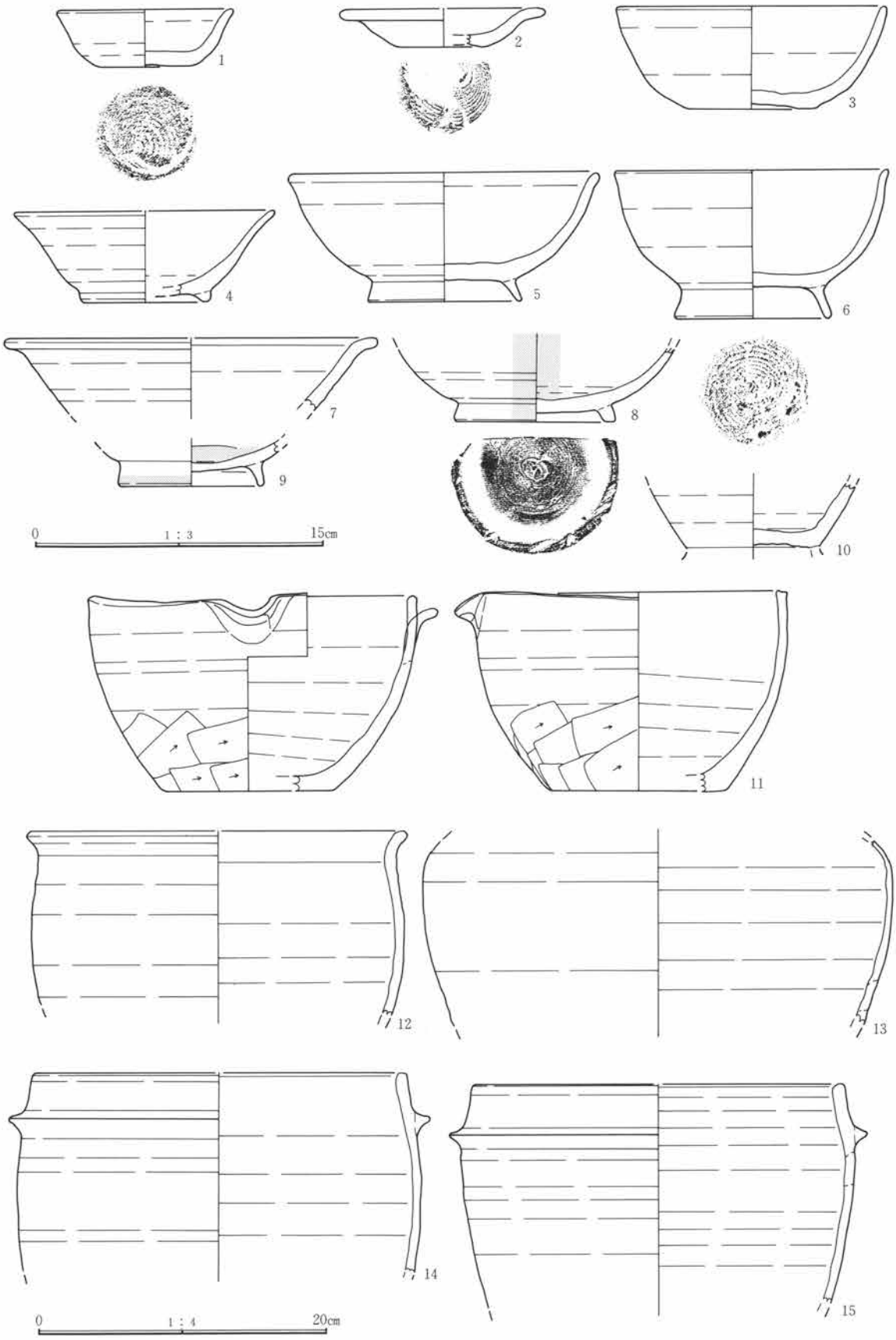
1　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を少量含む
2　〃　やや明るい。ローム粒・炭化物を含む
3　〃　均質。炭化物を少量含む
4　暗赤褐色土　焼土塊を多量に含む。崩落土か
5　〃　炭化物・焼土粒を多量に含む
6　褐灰色土　灰層。焼土粒を含む。２次使用面
7　〃　灰層。炭化物混じりの１次使用面
8　鈍黄褐色土　ローム塊主体の掘り方埋土

74号住居跡土層

1　暗褐色土　As－Bを多く含む
2　As－B　純層ではないが、塊状に密集する
3　黒褐色粘質土　黄白色シルト塊・炭化物を少量含む
4　鈍黄褐色土　均質。ローム質で細礫を少量含む
5　〃　粘性強い。シルト塊・炭化物を少量含む
6　〃　粘性強い。炭化物を多く含む
7　暗褐色土　塊状堆積。焼土粒を少量含む
8　黄褐色土　均質。ローム粒主体。細礫を少量含む
9　褐色土　均質。細礫は含まない
10　〃　粘性・しまり強い。焼土粒・炭化物を少量含む
11　黄褐色土　ローム塊主体の貼床土
12　〃　やや暗い。ローム塊を多く含む。床下土坑埋土
13　褐色土　ローム粒を含む。しまり乏しい。床下土坑埋土



167図　74号住居跡

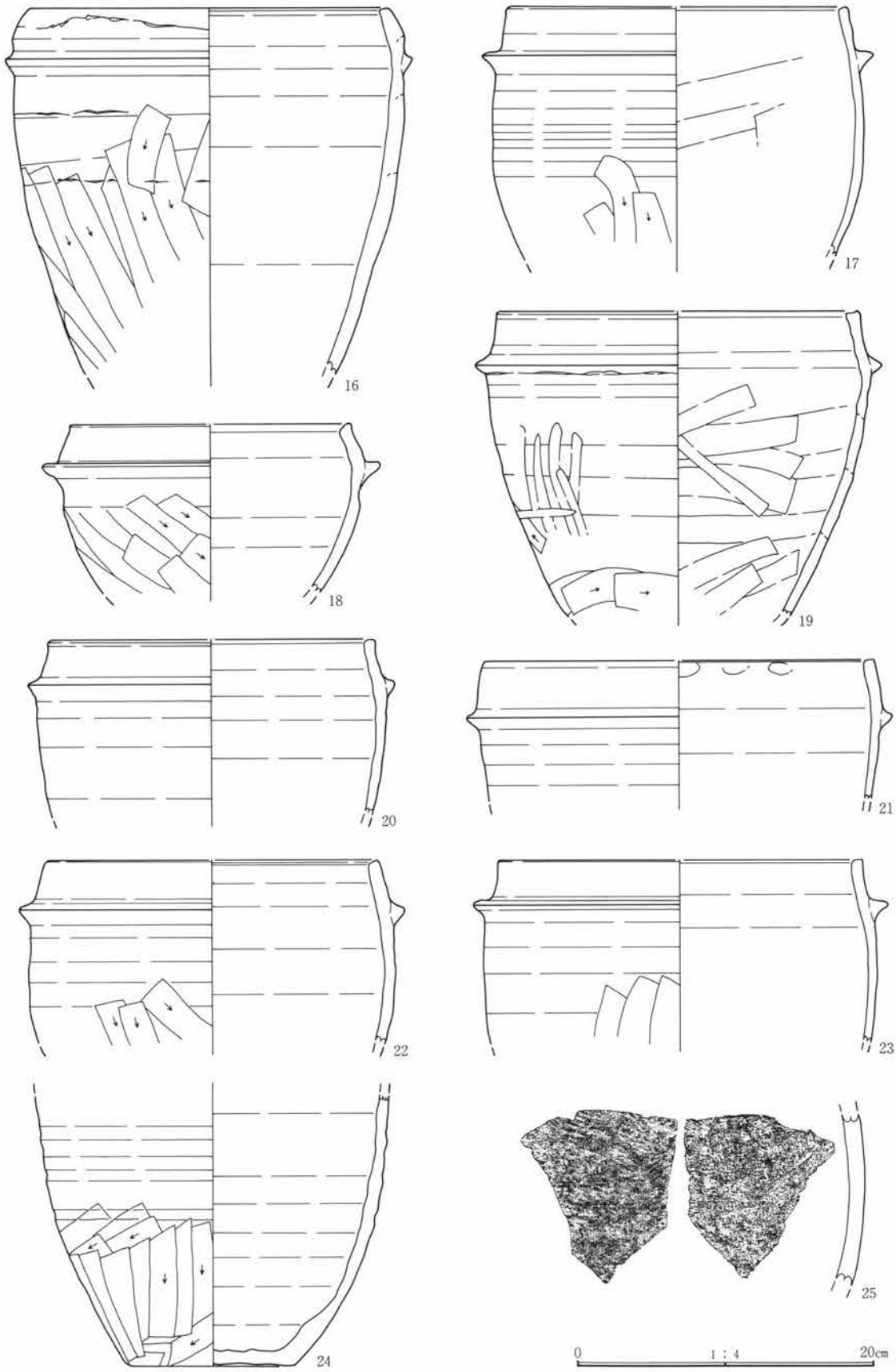


168図　74号住居跡出土遺物（１）

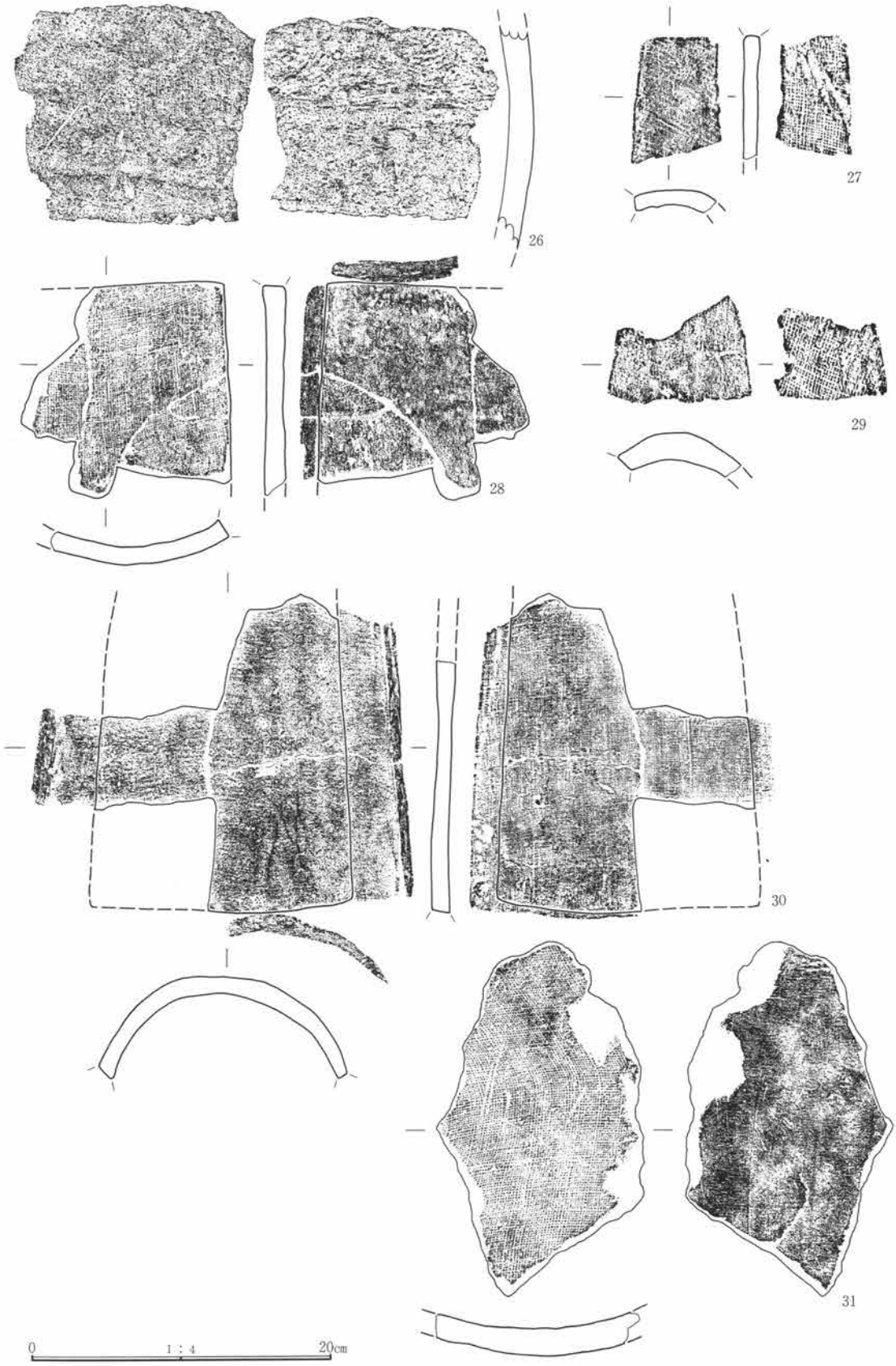
竈は、東壁の南寄りに設けられていた。地山ロームによる短い袖を持ち、構築材である自然石が燃焼部に散乱した状態で検出された。土器類も破片状態での出土であり、構築材あるいは日常容器としての特定はできなかったが、遺物の散布状況からは破壊された竈が想定できる。燃焼面には褐灰色の灰層が2層にわたり検出され、複数回の使用が看取された。灰層の上部には焼土塊が多量に堆積しており、このことからも、住居跡廃棄時の竈破壊が理解されよう。

床下遺構は、住居跡中央のやや北よりに大型の土坑が検出された。黄褐色土と褐色土を埋土としており、掘り込みもしっかりしていた。。

出土遺物は、総破片点数418点と比較的多い。住居跡中央と竈周辺の散布が著しく、また覆土上層のものが目立った。1は覆土出土の小型坏。厚手で口縁部は僅かに外反する。右回転轆轤整形の土師質坏である。2も覆土出土の土師質皿。轆轤整形で厚手である。口縁部は著しく外反し玉縁状を呈す。3は無台の土師質椀。右回転轆轤整形。内面に褐色付着物あり。竈内燃焼面出土。4は覆土出土の高台付椀。口縁部は薄手で、高台は短い。5の高台付椀は口径が広く、口縁部は僅かに外反し、体部は丸みを帯びる。高台は開き気味である。土師質であるが丁寧な作りで端正である。内面は平滑な仕上げである。竈南袖下端出土。6も同様に体部に丸みを帯びた高台付椀。土師質で薄手である。外器壁は摩滅するが内面は平滑に仕上げる。覆土出土。7、覆土出土の椀口縁部破片。あるいは鉢か。口縁部は強く外反し、体部は直線的である。8は中央東寄り覆土下位出土の灰釉陶器高台付椀底部。施釉は漬け掛けで口縁部内外面に及ぶ。9も灰釉陶器椀底部。覆土出土。10は竈南袖上端出土の須恵器甕底部破片。高台部欠損し自然釉が内面に付着する。11も竈南袖上から出土の片口鉢。右回転轆轤整形で外面体部下半は横位斜位の篦削りを施す。片口部は丁寧に撫でる。全体に整った器形である。12は竈前庭部覆土中位出土の甕。轆轤整形後横撫でを施す。酸化焔焼成で、口縁部と体部の区分は明瞭ではない。13は竈内燃焼部より出土した甕肩部。轆轤整形酸化焔焼成だが薄手の器厚を呈す。14は竈内燃焼部出土の羽釜口縁部破片。薄手で直立気味の体部である。15も薄手の羽釜。竈南袖中位より出土。16は覆土出土の羽釜。全体に歪みが著しい。口縁部は内傾し、鍔は短い。轆轤整形だが轆轤目は弱く、体部上位より篦削りが及ぶ。全体に厚手で酸化焔焼成。17の羽釜は竈燃焼面上出土。左回転の轆轤整形で体部外面中位より篦削りを施す。内面は篦撫でが横位に施される。18は小型の羽釜。体部器高は低く丸みを帯びる特徴的な器形を呈す。轆轤整形後鍔貼付時に強い横撫でを施し、体部は斜位の篦削り。住居跡中央南寄り上～中層の3点が接合した。19の羽釜鍔はやや短い。左？回転轆轤整形後外面体部上半は棒状工具による撫で、下半は横位篦削り後撫で。体部内面は横位篦撫でを施す。中央南寄り覆土中位及び竈北袖上端で出土した。20は竈南袖下端出土。鍔は同様に短い。轆轤整形後横撫でを施す。薄手である。21の鍔も短い。口唇部内面には指頭圧痕が看取される。竈北袖上出土。22も北袖上出土の羽釜口縁部破片。鍔は短く、篦削りが体部に及ぶが器面は摩滅する。23はやや体部に丸みを帯びた羽釜。鍔は短い。貯蔵穴上出土。24は羽釜体部～底部。轆轤整形後斜位及び縦位の篦削りを施す。縦位方向の篦削りは平滑である。竈内覆土中位で出土。25は覆土出土の甕体部破片。外面平行叩、内面は撫で。26の甕体部破片は中央覆土中位より出土。外面は撫で、内面に青海波文が残る。27は覆土出土の丸瓦。側部・端部の面取りは各1回。凸面は平行叩。28は平瓦。側部・端部とも1回の面取り。凸面は縦位撫で調整。覆土出土。29も覆土出土。丸瓦で側部面取り1回、凸面は平行叩後撫で。30は竈内及び貯蔵穴上より出土した丸瓦。両側部・端部とも面取りは1回。凸面は平行叩。31は平瓦。凸面は無文叩後縦位撫で。竈内覆土中位で出土。



169図　74号住居跡出土遺物（２）



170図　74号住居跡出土遺物（3）

75号住居跡

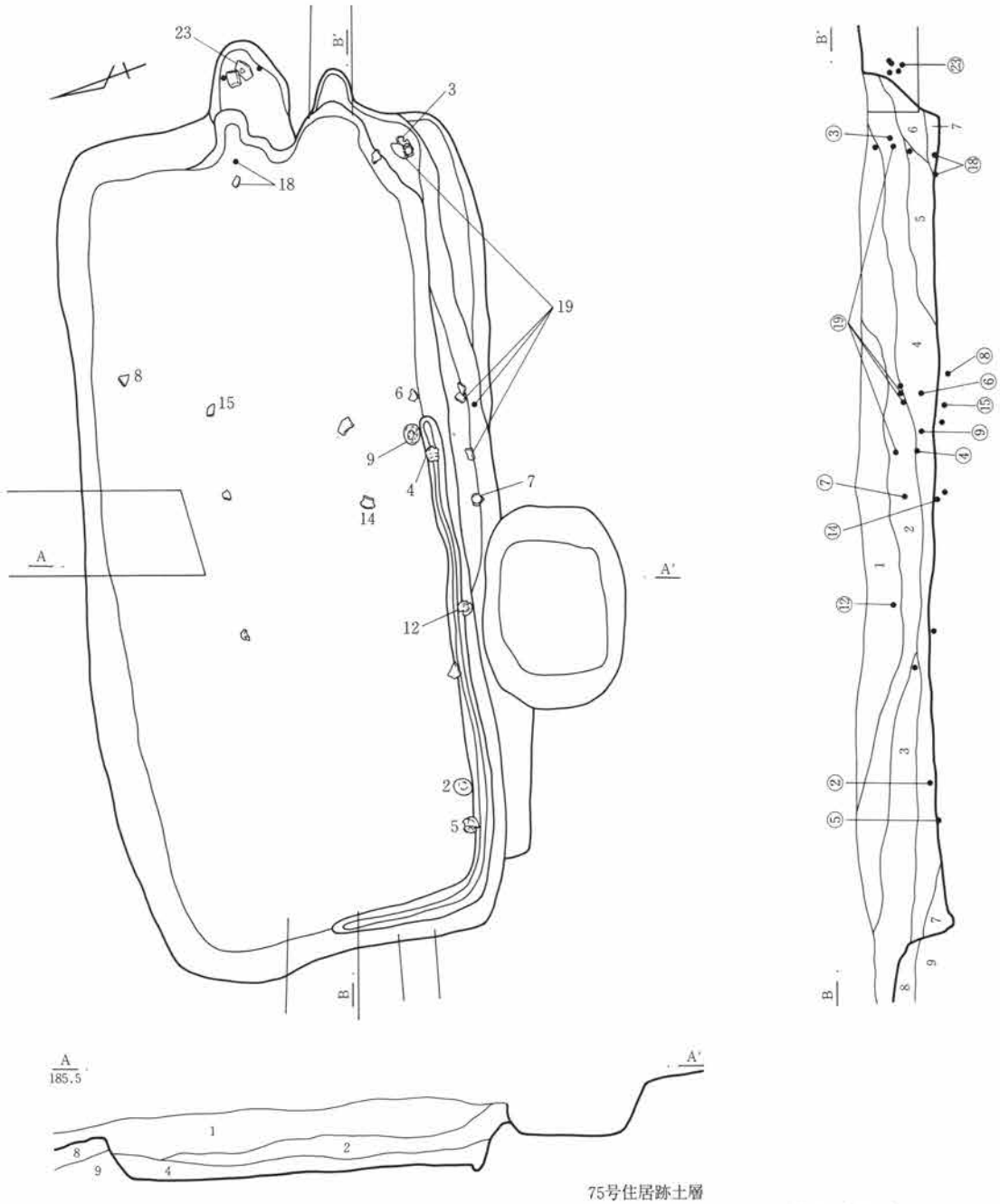
１号テラス状遺構内の７号建物跡と重複して検出された。７号建物跡構築面下で検出されたことから、本住居跡が先行する新旧関係と捉え得る。また、７号建物跡との関連が指摘されている１号石組遺構とは明瞭な新旧が土層軸に表されており、本住居跡がこれら寺院跡関連遺構に先行する様相は注視しておきたい。

顕著な縦長の長方形を平面形とし、その規模は約7.5×3.5ｍを測る。また遺存度も良好で深さは平均して約80㎝である。調査当初は複数軒の住居跡の重複をも念頭に置き、清査を重ねたが、土層及び床面の状態からは長軸方向の重複は存在しないため、縦長長方形の住居跡として確定した。ただし、長軸方向の土層観察のため設定したサブトレンチが竈に重なり、竈調査に不手際が生じた。竈埋土などは土層観察の際に確認したが、構築材などの出土が見られなかったため、竈主軸のみの観察にとどまってしまった。加えて北側からも新たに別の竈が検出され、そちらも詳細な調査の手が及ばなかった。この後出した北側の竈は、煙道部にしか焼土などが確認されず、焚き口部などには見られなかった。故に、本住居跡の竈は北側から南側への付け替えと考えられ、本住居跡は住居の重複は無いものの、竈の移動が看取される住居として位置付けたい。

床面はロームの地床であり、ほぼ平坦面を築く。硬化面は、竈周辺部に僅かに認められた。床面上には、柱穴・貯蔵穴は検出されなかったが、壁周溝が南壁中位より西壁中位にかけて検出された。

竈は前述のように調査の不手際があったが、東壁南よりと東壁中位の２箇所があたる。焼土の散布状況などから南側の竈を新たに設定したものと思われ、このことは、本住居跡の縦長化に伴うものとも仮定できる。すなわち、北から南側への竈移動の際に、住居跡西側への拡張が果たされ、拡張時に南壁中位に見られる壁周溝が設定されたとも考えられる。北側の竈に対応する住居は、壁周溝が切れる東半分とも想定できよう。

出土遺物は総破片点数265点と、住居跡規模と遺存度の割りには少ない。濃密な集中は見せないが、南壁際に偏る傾向を見せる。１の坏は口縁部は緩やかに外反し、薄手の器厚を呈す。覆土出土。２の坏も薄手。口縁部内面には油煙が付着する。南壁の西寄りで床直出土。３は無台の椀。口縁部は外反し器厚は薄い。南東隅覆土中位出土。４の椀は高台が欠損し摩滅のため平坦化する。口縁部外反し薄手。南壁際覆土下位出土。５も薄手の高台付椀。底面に歪みがある。南西隅で床直出土。６は南壁際覆土下位出土の椀底部。薄手で高台も短い。７も椀底部。南壁上端で出土。８の椀は北壁下端の床直で出土。厚手の器厚を呈す。９は高台付皿。口縁部は僅かに肥厚するが薄手である。器面摩滅。南壁下端で床直上出土。10、覆土出土の高台付皿。やや身深で薄手の器厚を呈す。あるいは椀か。11も覆土出土の高台付皿。口縁部は薄手だが底部に至り厚手の器厚を呈す。12の高台付皿は南壁際覆土上層より出土。口縁部は外反し底部器厚はやや厚い。13は皿口縁部破片。覆土出土。14の須恵器甕は左回転轆轤整形。薄手で器表面は暗灰色だが断面色調は暗赤褐色を呈す。床面中央やや南寄りの床直出土。15は壷あるいは瓶体部破片。丸胴状の体部。断面色調は赤褐色である。中央北東寄り床直上出土。16は高台付瓶あるいは壷底部破片。右回転轆轤整形後腰部外面横位箆削りを施し高台を貼付する。覆土出土。17、覆土出土の鉢口縁部破片。内外面とも器壁剝落が著しい。18は竈前庭部床直上出土の甕。右回転轆轤整形で肩部と腰部に横位箆撫でを施す。19は南壁際及び南東隅覆土中位出土の甕。轆轤整形で外面は撫で、内面は円環状の当て目と箆撫で。20の甕は轆轤整形後外面縦位箆撫で、内面円環状当て目と撫で。覆土出土。21も覆土出土。甕頸部～肩部破片。外面平行叩、内面円環状当て目。22は甕体部破片。外面平行叩及び自然釉。内面は横撫で。覆土出土。23は竈内出土の甕体部破片。外面撫で、内面は青海波文と横撫で。24～28は覆土上層出土の瓦である。７号建物跡に伴う可能性もある。24、側部３回、端部２回の面取り、凸面は撫でが及ぶ。厚手の平瓦である。25・26の平瓦は側部・端部とも１回の面取り。凸面は縦位撫で。27は丸瓦。凸面の調整は縦位撫で。28は平瓦。側部は１回の面取り、凸面は縦位撫で。

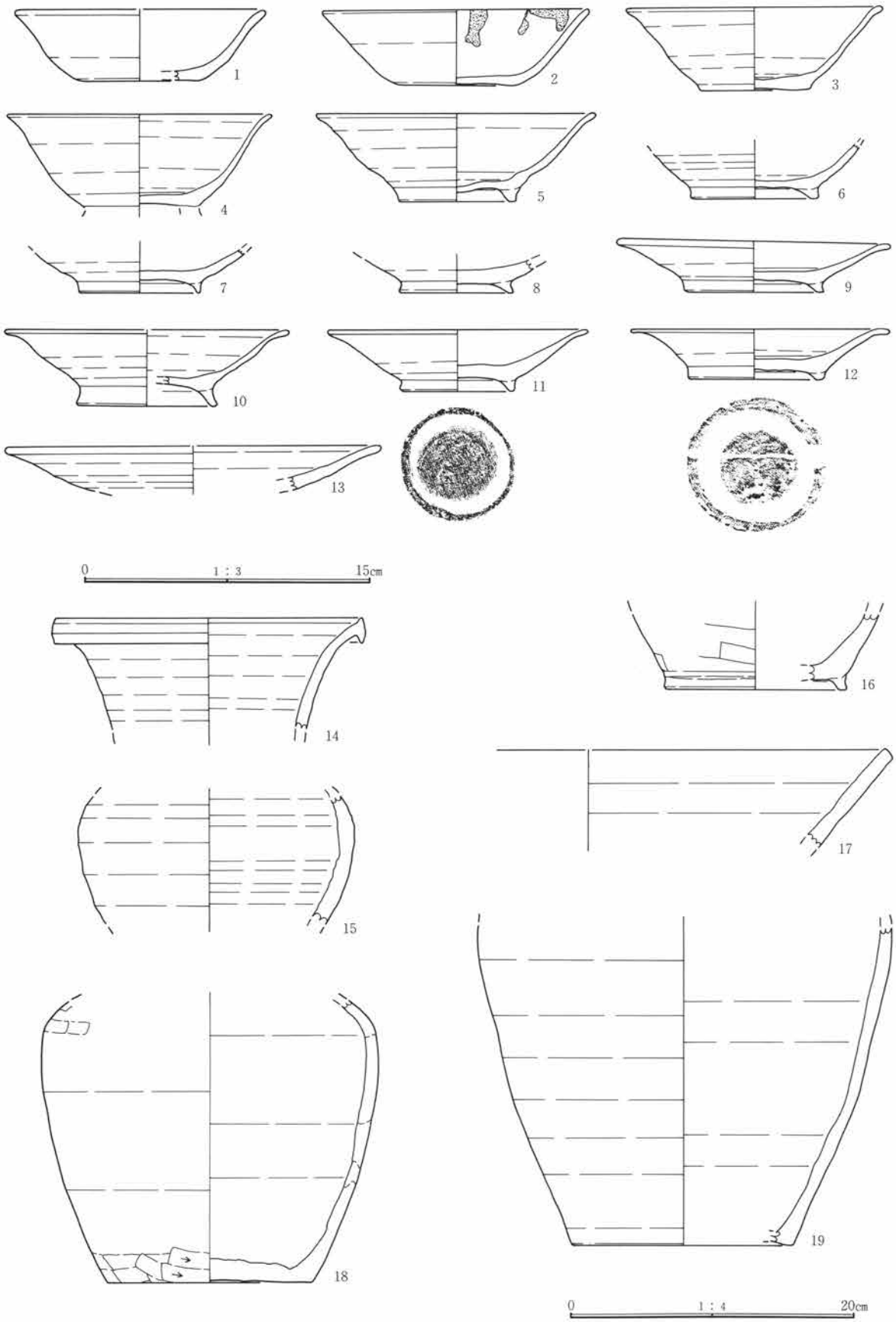


75号住居跡土層

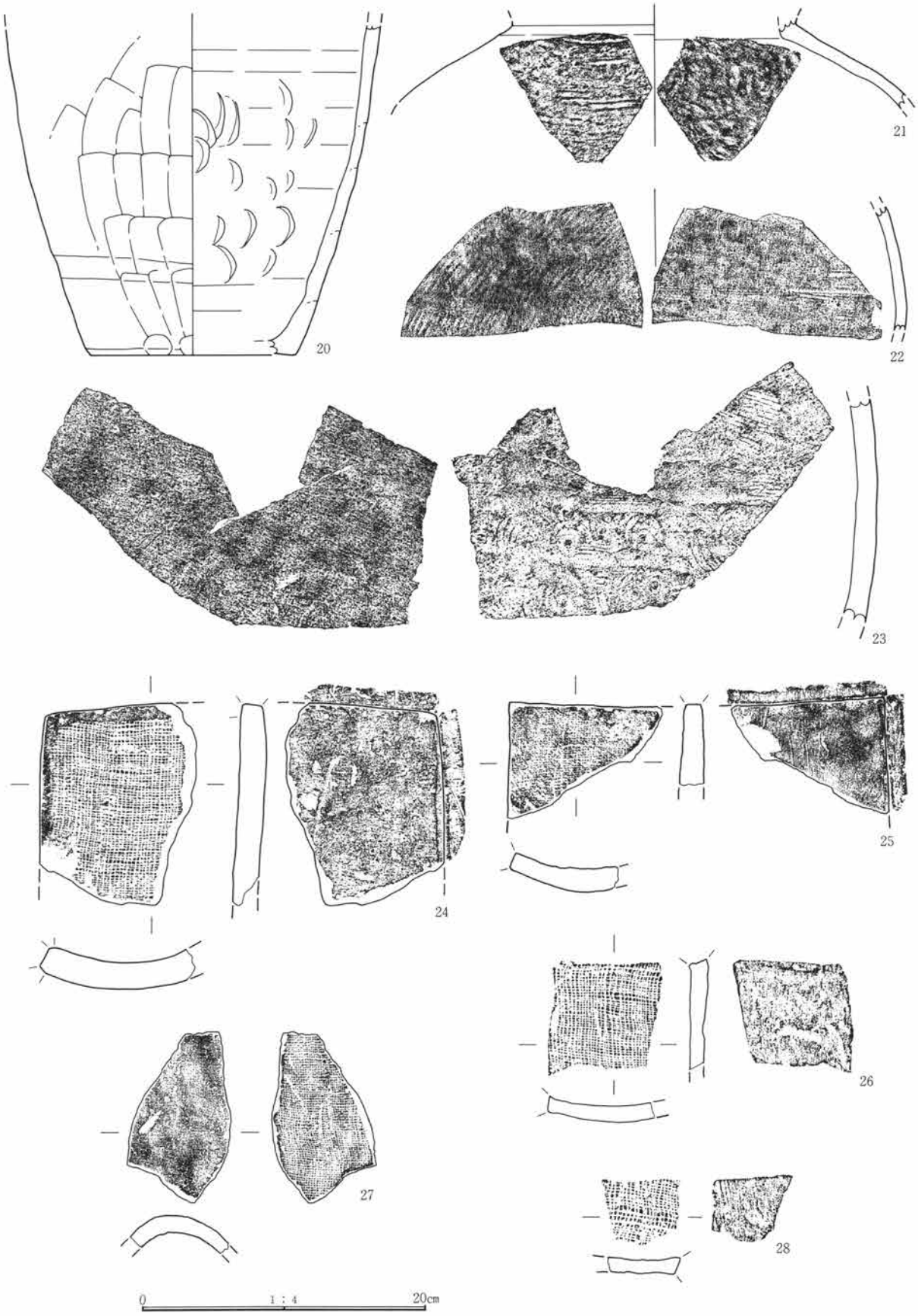
1　褐色土　黄白色シルト質礫を多量に含む
2　〃　黄白色シルト質礫を微量含む
3　〃　黄白色シルト質礫を多量に含む
4　〃　均質。礫を微量含む
5　暗褐色土　均質。礫を含む
6　〃　均質。焼土粒・炭化物を含む
7　〃　灰・焼土粒・炭化物を多く含む
8　褐色土　小型の自然石を混入する。上面生活面か
9　暗褐色土　地山に近似

0　1：60　3 m

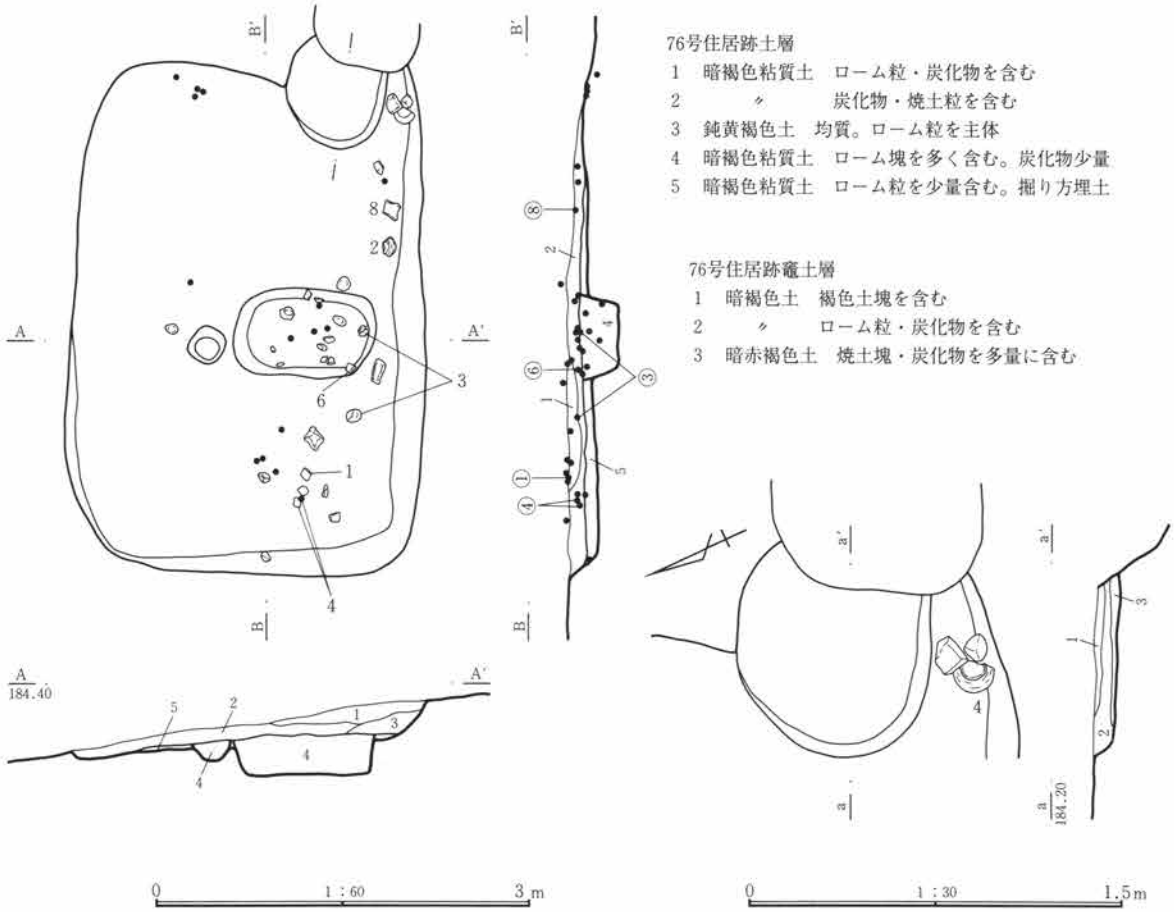
171図　75号住居跡



172図　75号住居跡出土遺物（１）



173図　75号住居跡出土遺物（2）



174図　76号住居跡

76号住居跡

前述の75号住の西に距離を置いて位置し、１号特殊遺構に近接して検出された。周辺には住居跡が無く、単独の検出となったが、１号特殊遺構と近接する土坑群が群在し、本住居跡の竈はそのうちの１ケに切られる重複関係を見せる。また、住居跡覆土１層は１号テラス状遺構の構築土であり、そのことからも、一連の寺院跡関連遺構に先行する住居跡と捉えられよう。

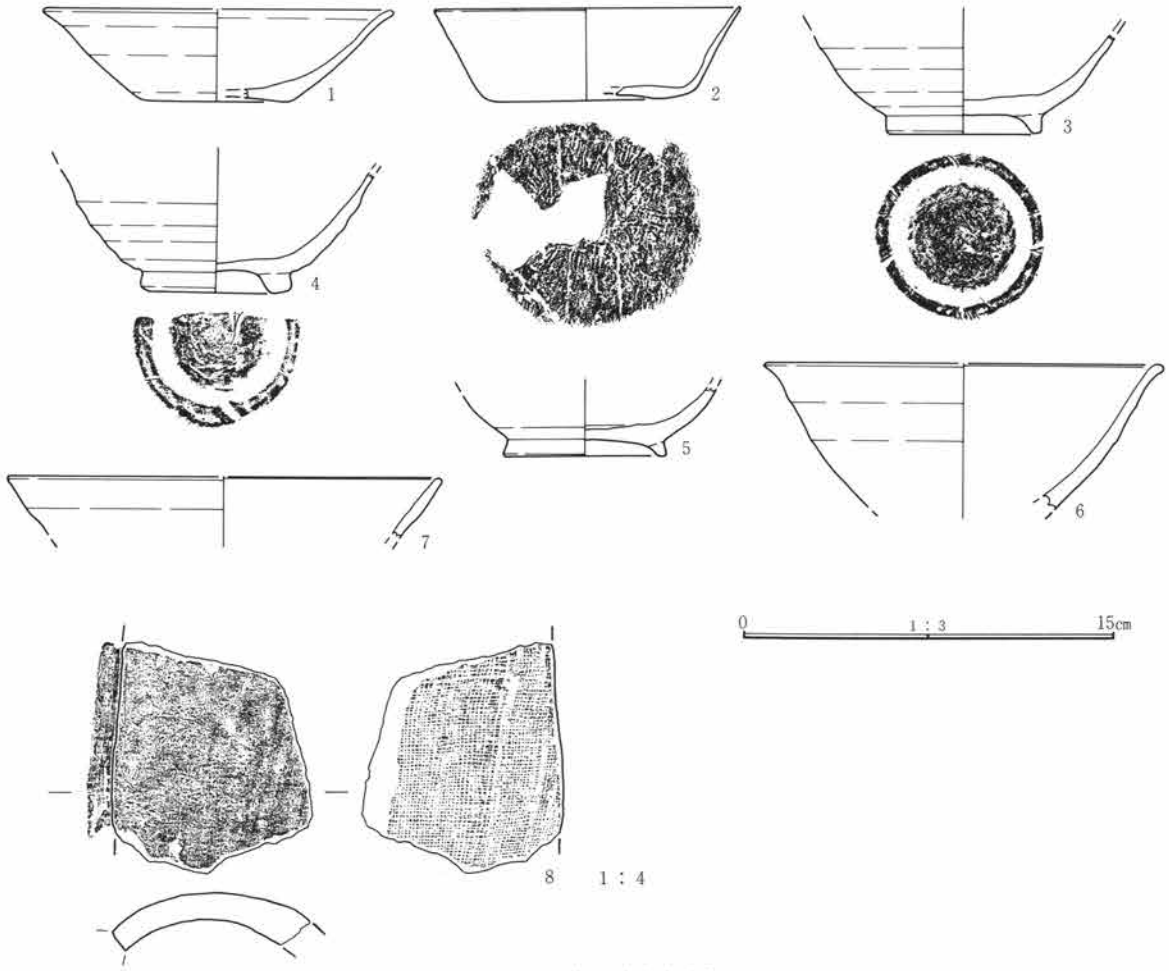
平面形は約3.8×2.7ｍの長方形を呈し、深さは約50㎝を測る。尚、北側への傾斜地での占地のため、東壁の北半及び北壁の東半は流失していた。

床面は、暗褐色粘質土を基調とした貼床である。ただし、明瞭な硬化面は確認されないため平面的な使用面の確定が難しく、その判断は覆土層の観察によった。

柱穴も位置・規模とも相応する良好なピットは検出されなかったが、床面中央の浅い小ピットが床面を切っており、１本柱穴として考えておきたい。また、貯蔵穴も竈周辺には見られなかった。小ピットの南側に開く隅丸方形の土坑が掘り込みもしっかりしているが、可能性を指摘するにとどめたい。

竈は、南東隅に設けられていた。前述のように、土坑が重複しており遺存は良くない。不整円形の燃焼部を持ち、袖・構築材などは確認されず、簡素な印象を得る。焼土・炭化物は最下層に薄く堆積していた。尚、竈南に小型の自然石と椀（４）が床面に接して出土している。

床下遺構は検出されなかった。床下の確認ではないが、前述の床面中央で検出された土坑が、規模・位置とも蓋然性は強い。



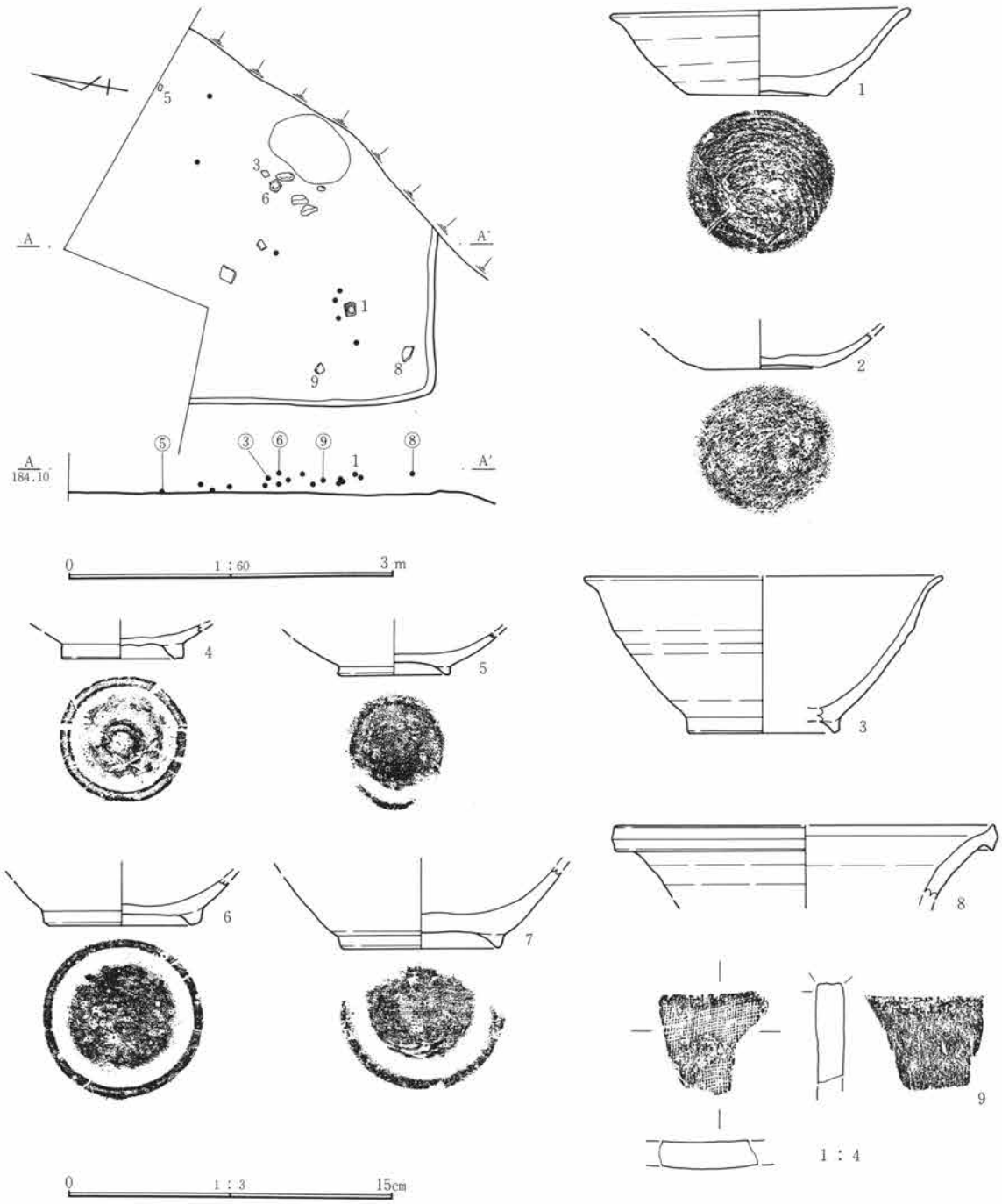
175図　76号住居跡出土遺物

遺物は、出土総破片点数40点と非常に少ない。分布は、竈周辺の出土が少なく住居跡中央から西壁にかけて偏りを見せる。また、覆土中の出土が多い。1は南西隅覆土上層出土の坏。開き気味の体部器形を呈し、身浅である。器厚も薄手。2は土師器坏。南壁際の床直上で出土した。薄手で直線的な体部器形を呈す。体部上半は横撫でが施されるが、底部に放射状の皺が見られる。全体に黒ずんだ色調を呈す。3は中央南寄りで床直出土の高台付椀。丸みを帯びた体部下半にやや短めの高台が付す。4も高台付椀。竈南床直と南西隅の覆土上層出土。体部下半は丸みを帯び、短めの高台が付される。器面摩滅する。5、高台付椀。覆土上層出土。短い高台がやや開き気味に付される。全体に摩滅する。6は中央南西寄り覆土下位出土の椀口縁部破片。口縁部は僅かに外反する。7も椀口縁部破片。覆土出土。口縁部の横撫でが顕著。8は南壁際覆土上層出土の丸瓦片。側部面取り1回、凸面は縦位撫でが及ぶ。

77号住居跡

1号テラス状遺構北端の段部分で検出された。北側へ急激に下る傾斜地であり、おそらく、テラス状遺構築造の際に大きく削平された住居跡と捉えられよう。住居跡上面もこの整地のため大きく逸失しており、壁の確認は不可能に近く、南壁と西壁の一部の僅かな立ち上がりが見られたのみであった。

平面形はおそらく方形を呈するものと思われるが、深さも無く判然としない。床面は地床で平坦面を築く。床面上の柱穴・貯蔵穴も検出されなかった。竈も東壁が逸失しているため確認できなかったが、焼土の散布は



176図　77号住居跡・出土遺物

床面上に見られ、おそらく東壁に設けられていたものと考えられる。

出土遺物は総破片点数40点と極めて少なく９点を図示し得た。殆どが覆土中の出土である。１は中央南西寄りで出土した坏。口縁部は緩やかに外反する。胎土は縞状を呈す。２も覆土出土の坏底部。薄手の器厚を呈し、器面摩滅著しい。３の高台付椀は中央東寄りで出土。口縁部は外反し、薄手の器厚を呈す。４も覆土出土の高台付椀底部。器厚は薄い。５、北西部で床直出土の高台付椀。薄手で高台は僅かに開く。６は中央東寄りで出土。全体に摩滅する。７は厚手の高台付椀。器面摩滅する。８は南西隅で出土した須恵器甕。轆轤整形後撫でを施す。９は西壁近くで出土した平瓦片。端部の面取りは２回。凸面は縦位撫で。

78・79号住居跡

頂部区の２号礎石建物跡西に接して検出された。重複住居跡である。２号礎石建物跡以外には北側に210号土坑が接する。頂部区は本遺跡調査区内で最も高標高部分にあたり、丘陵地形の頂部である。２号礎石建物跡はこの丘陵地形を整地し平坦面を確保して選地しているが、本住居跡もこの平坦面の西端部に位置する様相となる。２号礎石建物との新旧関係は、重複など層位的な確証がないため不明だが、78住と２号礎石建物跡出土の遺物に遺構間接合が見られたことからも、あるいは同時期の可能性も考えておかねばならないだろう。また、両住居跡とも、主軸をほぼ同一とした重複状態を見せることから、関係性の深い性格を有するものと想起される。新旧はやや規模が小型化する78住が新しいが、新住居に壁周溝を巡らし壁の補強を測っており、79住埋没後78住がほぼ同一主軸で、縮小した「建て替え」を行った行為も考えに入れておきたい。これは、両住居跡居住者と２号礎石建物跡関係者のつながりも想起され、興味深い様相である。
以下住居毎の説明をする。

（78号住居跡）

平面形は約3.4×2.6ｍのやや縦長の長方形を呈し、深さは約75㎝を測る。平面形も整っており遺存度も良好である。壁も直立気味に立ち上がり、しっかりした掘り込みといえよう。

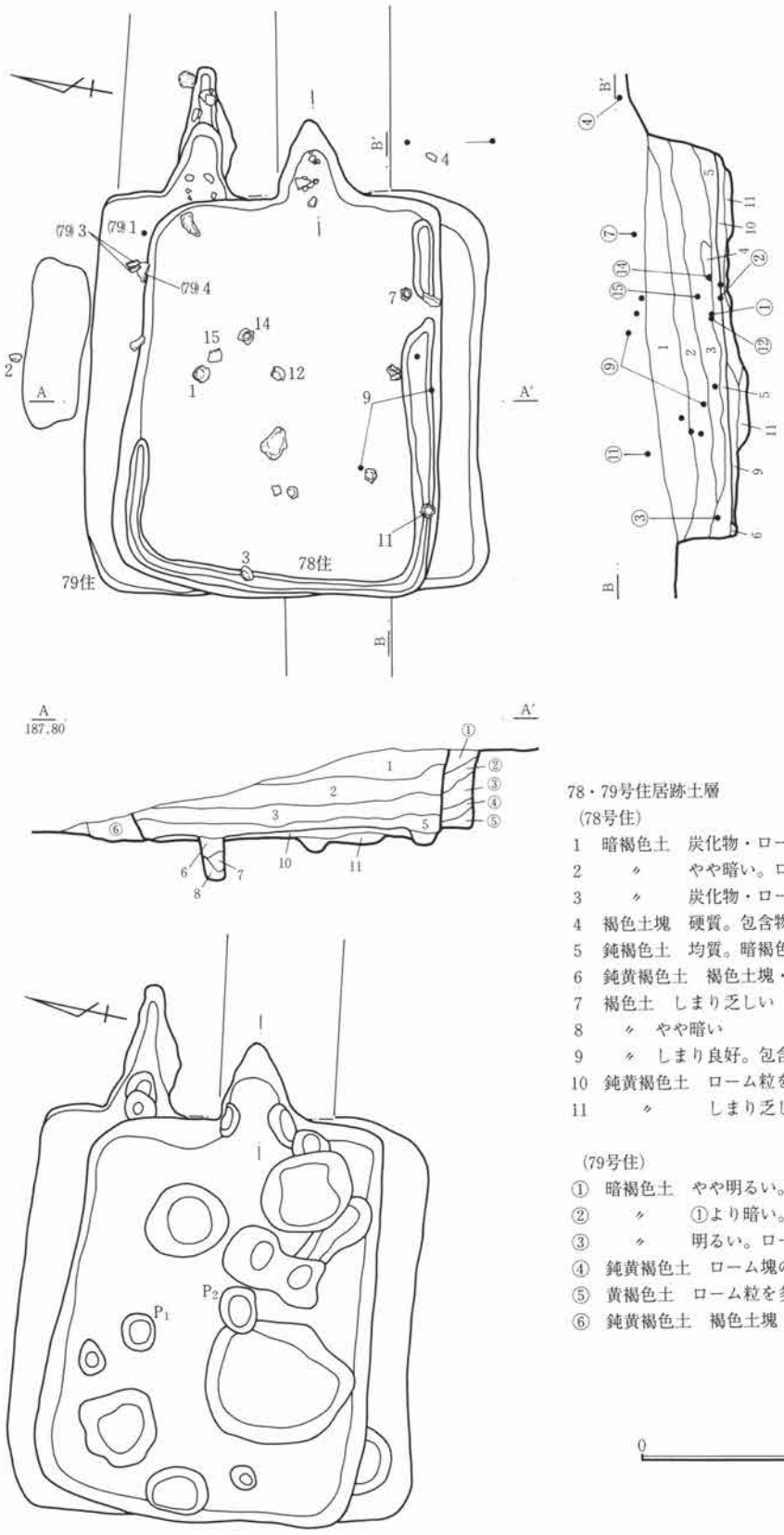
床面もほぼ平坦面を築き、鈍黄褐色土による貼床がなされていた。硬化面は中央部が特に顕著だった。

柱穴は床面上では確認できなかったが、掘り方調査で得られたＰ１やＰ２が規模としては妥当性がある。貯蔵穴も掘り方調査で検出した竈南の不整円形の土坑があたるが、土層の観察からは床下遺構にあたる。または、79号住居跡の貯蔵穴としても考えられよう。

また、南壁・西壁・北西隅にかけて壁周溝が検出されている。南壁東寄りで１回途切れるが、住居壁をほぼ半周する。

竈は東壁の中位に設けられる。袖・構築材の検出は果たせなかったが、掘り方調査では焚き口部両側に袖石を抜き取った痕跡として小ピットが認められた。燃焼面の上部には焼土塊を含む暗赤灰色土が厚く堆積しており、このことからも破壊行為の伴った竈として位置付けられよう。

遺物は総破片点数199点が出土した。散布は集中箇所もなく散漫な出土状態といえる。１は中央部北寄りで覆土下位より出土した土師器坏。口縁部は横撫で体部は指押さえ、底部は篦削りを施す。内面器壁の剝落多い。２は覆土出土の須恵器坏。２号建物跡基壇上出土の１点と接合した。内底面は滑沢で墨痕も見られる。転用硯である。既報告（『黒熊中西遺跡』（１）第48図）済み。３は西壁際覆土下位出土の坏。内面黒色処理で油煙も付着する。また外底面に「大□」の墨書が見られる。器厚は薄手で直線的な体部器形である。内外面とも器壁の剝落多い。４は住居外南東隅出土の土師器坏。内面口唇部下に凹線が巡る。口縁部は横撫で、外底面は篦削りを施す。５は覆土出土の須恵器坏。比較的厚手の器厚を呈し、体部中位で緩やかに屈曲する。上半の轆轤目強く鋭利な印象を受ける。６は覆土出土の坏底部。内面剝落多い。７も坏底部。内底面は滑沢で転用硯として位置付ける。南壁覆土上層で出土した。８は体部下半に丸みを持たせた土師器坏底部。内面黒色処理。縦位の磨きが施される。体部外面は撫で、外底面は篦削りを施す。覆土出土。９の高台付椀は南壁寄り覆土出土。２点の接合。高台は短く開き、体部は直線的に立ち上がる。体部器厚は薄いが底部は厚手である。10は覆土出土の椀。薄手の器厚を呈し身深である。11は南壁覆土上層出土の高台付皿。器厚は厚手でやや小振りである。高台端部はやや肥厚する。体部外面に墨書あり。判読不能。12は床面中央で床直上出土の無台の皿。口唇部は肥厚し体部中位は丸みを帯びる。小振りで底部器厚はやや厚手。体部に焼成前線刻による「代宮」の刻字がある。13は覆土出土の土師器小型甕口縁部破片。口縁部と肩部は強い横撫でで明瞭に区分される。体部外面



78・79号住居跡土層

（78号住）

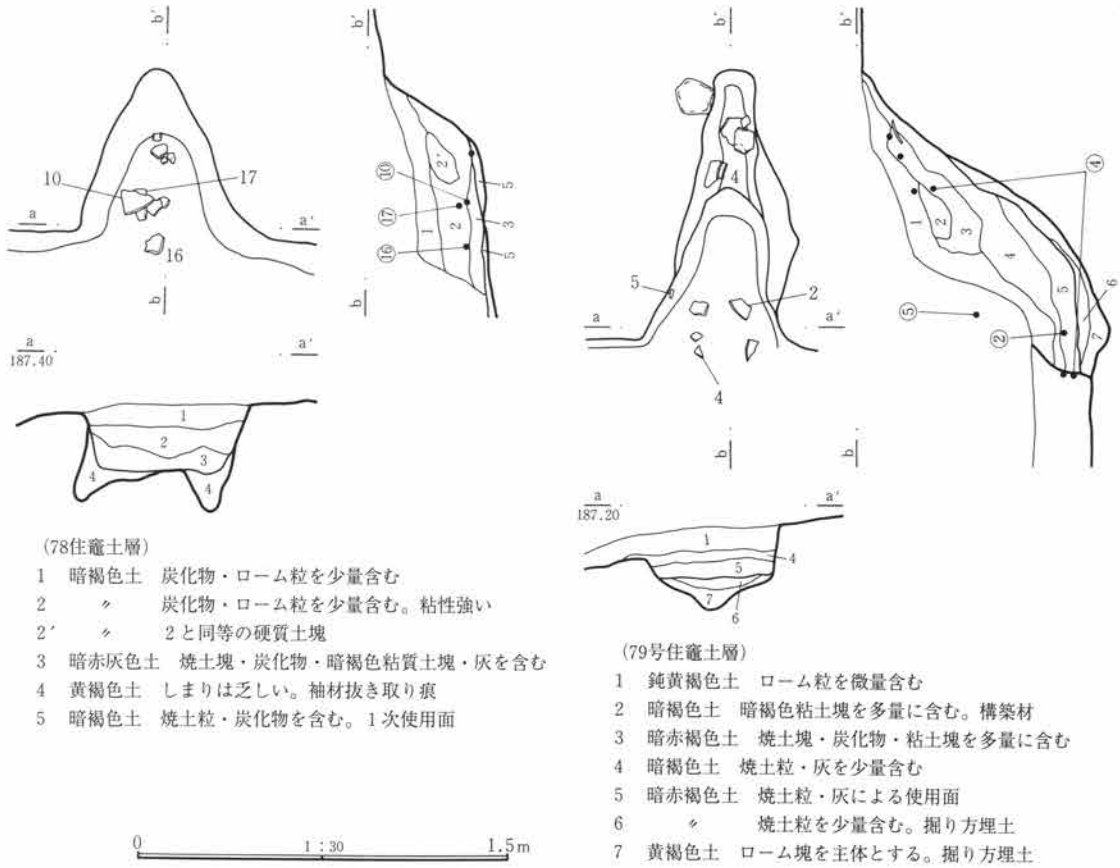
1　暗褐色土　炭化物・ローム粒を少量含む
2　〃　やや暗い。ローム粒を多く含む
3　〃　炭化物・ローム粒を多く含む
4　褐色土塊　硬質。包含物はない
5　鈍褐色土　均質。暗褐色塊を少量含む
6　鈍黄褐色土　褐色土塊・ローム塊を含む
7　褐色土　しまり乏しい
8　〃　やや暗い
9　〃　しまり良好。包含物はない
10　鈍黄褐色土　ローム粒を少量含む
11　〃　しまり乏しい。ローム塊を含む

（79号住）

①　暗褐色土　やや明るい。ローム塊を含む
②　〃　①より暗い。ローム粒を多く含む
③　〃　明るい。ローム粒を多含む
④　鈍黄褐色土　ローム塊の斑状堆積
⑤　黄褐色土　ローム粒を多く含む
⑥　鈍黄褐色土　褐色土塊・ローム粒を少量含む

0　1：60　3 m

177図　78・79号住居跡（1）



178図　78・79号住居跡（2）竈

は横位・斜位の箆削り。薄手で整った作りである。内面は撫で。14は瓶あるいは甕の高台部分。外面に自然釉が付着する。外底面は研磨され滑沢である。転用硯か。床面中央北寄りで床直上出土。15は須恵器甕体部破片。轆轤整形で外面に削りが施される。中央北寄りで覆土下位出土。16・17は覆土出土の平瓦。16の側部面取りは2回、凸面は平行叩。17、端部面取り2回、凸面は平行叩。18は鉄釘の軸部分。覆土出土。

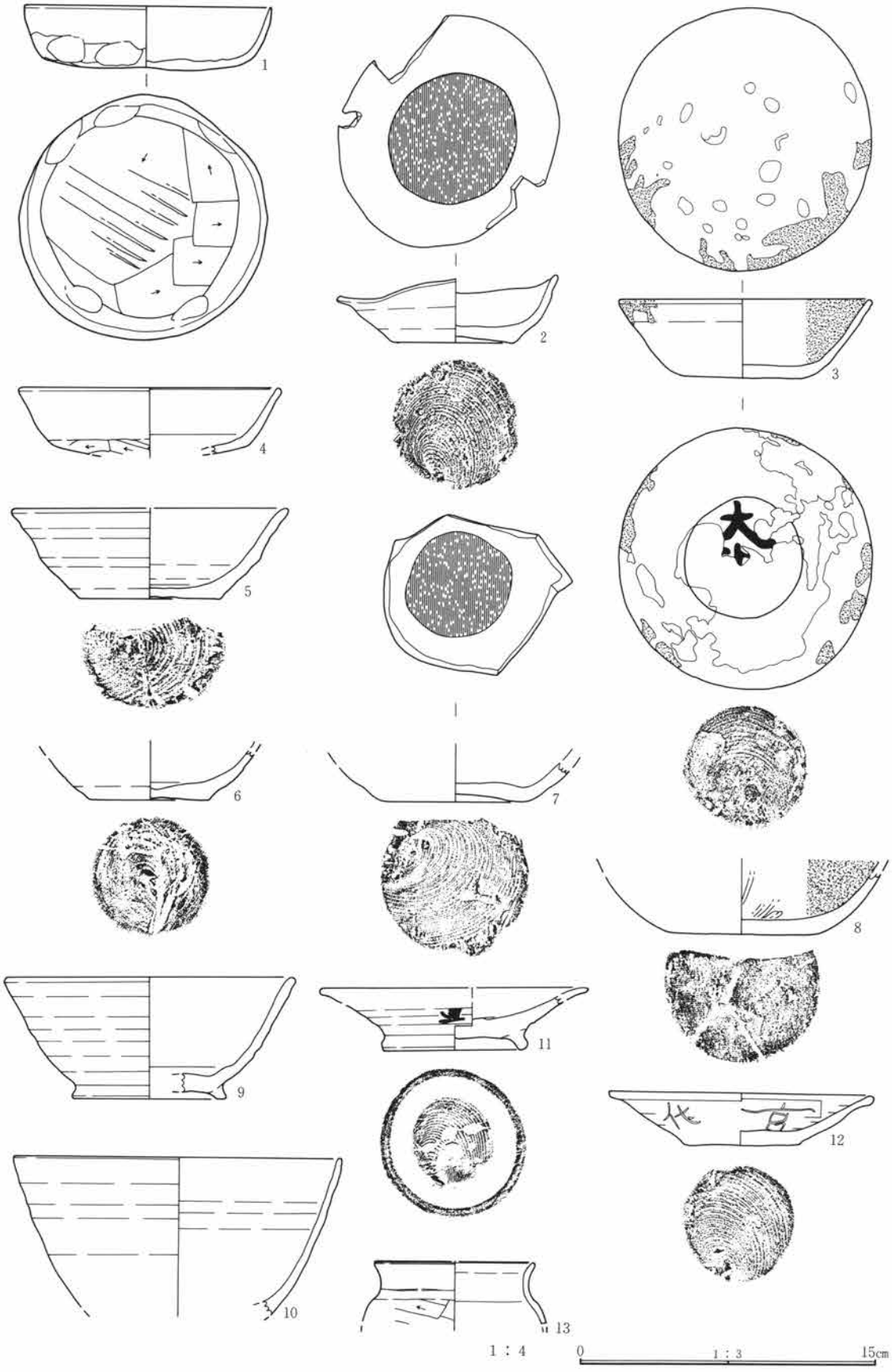
(79号住居跡)

78号住の外側を囲むように検出された。新旧関係は土層観察により、内側で78号住に切られる重複を見せる。前述のように両住居跡とも床面の段差や主軸方位差が同一に近く、「建て替え」など両住居跡の近縁性が窺われる。

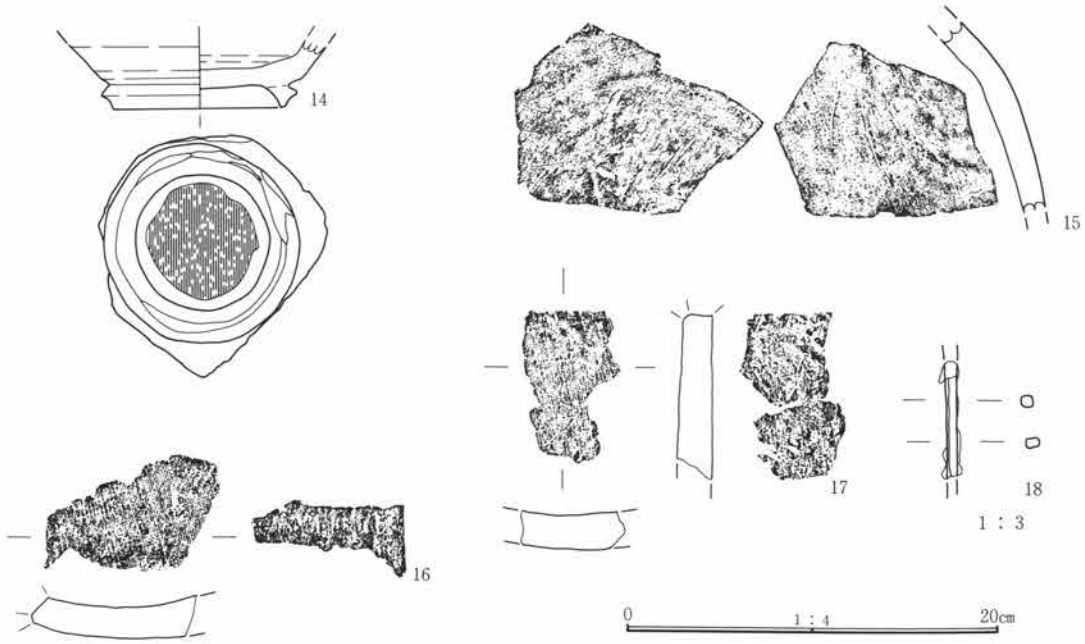
平面規模は、辺長約3.4mの正方形を呈し、深さは78住と同様に南側で約75cmと良好な遺存状態を示す。しかしながら、中央部は78住によって大きく逸失しており、床面などの状況は把握できない。また、北側は、急傾斜地形の変換点にあたるため、遺存がやや悪く、北壁は土層の把握によって捉えた。

床面は78号住に大きく切られるため判然としないが、おそらく地床で78住と同レベルの床面と思われる。柱穴・貯蔵穴は検出されなかったが、掘り方調査で得られた南西隅の土坑があるいは貯蔵穴としての可能性を持つ。

竈は、東壁北東隅寄りで煙道が突出して検出された。78住と同様に構築材や袖の顕著な出土は見られず、簡素な竈である。掘り方調査において燃焼部中央に小ピットが検出されたが、支脚の抜き取り穴と捉えた。

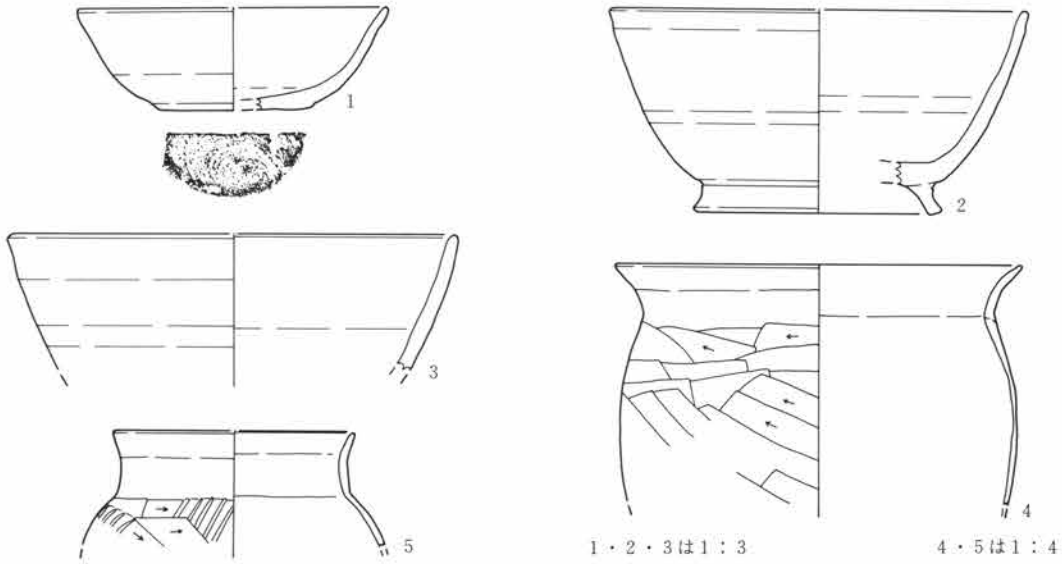


179図　78号住居跡出土遺物（１）



180図　78号住居跡出土遺物（2）

出土遺物は総破片点数42点を数え、少量である。78住に殆どを重複され、竈周辺の出土遺物が少ないためでもある。1は覆土出土の坏。体部は緩やかな丸みを帯び、口唇部端部は比較的鋭い。内外面とも器壁の剝落著しい。2は住居外北側で出土した大型の高台付椀。口縁部の横撫でにより薄く稜が巡る。底部より体部は急激に立ち上がり、底部器厚はやや厚手。高台貼付時の横撫でも強く、薄く丁寧に仕上げられている。3は北西部覆土下位出土の椀。口縁部破片。内外面に微量の油煙が付着する。4は北西部床直上出土の土師器甕。口縁部横撫で後外面肩部は横位箆削り、体部は斜位箆削りが施される。内面は横撫でが施され、平滑だが下半は剝落が著しい。5は覆土出土の土師器小型甕。いわゆる「コ字甕」である。口縁部の横撫では丁寧で口唇部端部は尖り気味である。体部は横位箆削りが施されるが、肩部の「ノッキング」が顕著である。内面は撫でが施され平滑。



181図　79号住居跡出土遺物

80号住居跡

中尾根東区と頂部区の境で検出された。１号テラス状遺構内の74号・77号住の西に近接するが単独の検出となった。周辺は崖状の急傾斜地形が東西に走り、その変換点に本住居跡が占地している。調査当初は、この崖状斜面を削平することから11号テラス状遺構として確認していたが、竈の検出によって80号住居として認定した。本住居跡の占地する崖状の斜面下は、平坦地形が確保され、住居跡や土坑群が密集している。地形的には、本住居跡はこれら住居跡群より高位置にあたり、同一の群をなさない。地形分類上は、74～77号住や73号住と群をなすものと思われる。また、本住居跡より高標高部に選地する２～４号礎石建物などの寺院跡との関連も考慮しなければならないだろう。

平面形は、約4.4×3.4ｍのやや縦長の長方形を呈すが、南辺と北辺の差があるため、やや不整の形状を取る。深さは約50㎝を測るが、斜面地形のため遺存は悪い。

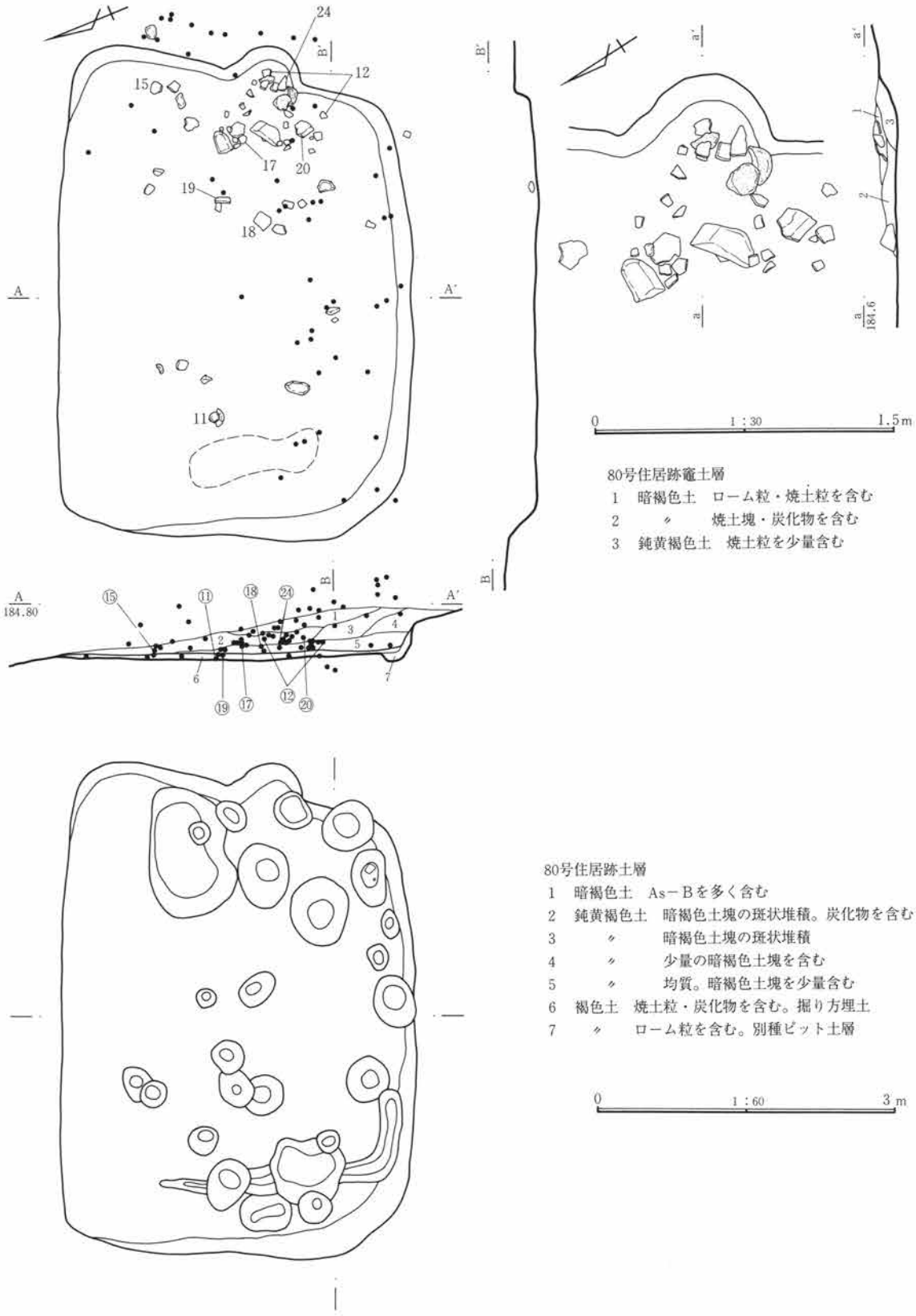
床面は焼土粒混じりの褐色土による貼床で、ほぼ平坦面を築く。硬化面は中央部が特に顕著だった。また、西側壁際に小範囲であるが焼土粒の濃密な分布範囲が見られた。この地点の床下はピットや壁周溝が密集する箇所で、貼床を施す際に焼土を集中的に埋め床面や部材のの強度を図る行為が想起される。

柱穴・貯蔵穴は床面上では検出されなかったが、掘り方調査で得られた多数のピット・土坑にその可能性を求め得るが、規則性も見られず、規模も妥当性のあるものが無く、特定は避けたい。また、壁周溝も掘り方調査で西壁近くで直角に折れ曲がる幅狭の溝が検出され、壁周溝と位置付けるが、拡張に伴う所産としても考えておきたい。

竈は、東壁中位のやや南寄りに設けられる。馬蹄状の燃焼部で、煙道の突出は無い。袖は検出されなかったが、構築材である自然石や瓦が燃焼部から前庭部にかけて散乱した状態で出土した。しかし、原位置をとどめるものはなく、掘り方調査で得られた燃焼部両脇の小ピットが袖芯材の抜き取り穴として位置付けられるのみである。覆土の堆積も薄く良好な使用面は確定できなかった。

床下遺構は、多数のピット・土坑が検出されたが、前述のように床面上の施設としても考えられることから、その総てを床下遺構として特定はできない。その中で竈北側で検出された不整形の土坑は、床下遺構の可能性は強い。

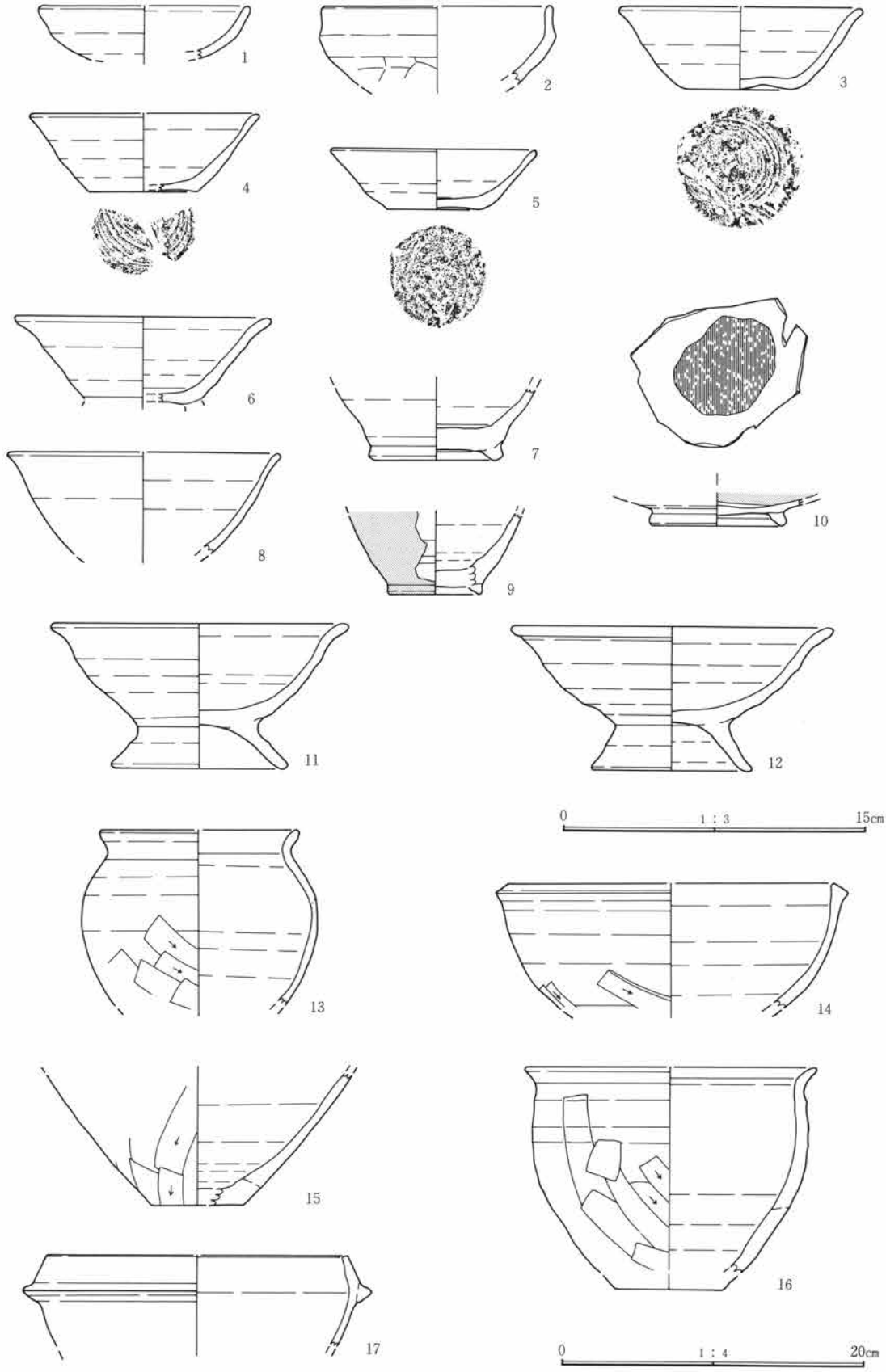
出土遺物は総破片点数250点を数える。24点を図示し得た。覆土上層から床直上まで満遍なく出土したが、細片が多く、居住に伴う出土状況は見られなかった。また、住居外東側でも出土が見られ、施設としては把握できなかったが棚状遺構なども想定された。１～10は覆土内の出土である。１は轆轤整形の土師質小型坏。酸化気味の焼成である。口唇部僅かに肥厚する。２も酸化気味の焼成で轆轤整形。土師質坏。口縁部は横撫で、体部上半は撫で、下半～底部は篦削り後撫でが施される。３は須恵器坏。口縁部は若干外反し、体部は直線的に立ち上がる。底部は歪む。４の体部も直線的に立ち上がる。５は口径10㎝の小型坏。底部器厚はやや厚手。口縁部は僅かに歪む。６は高台付椀。高台部分は欠損する。口縁部は僅かに外反する。７も高台付椀。底部器厚は厚手。高台は短く開き気味に貼付される。８は椀口縁部。口縁部は外反し薄手の器厚を呈す。９は灰釉陶器。高台付瓶底部破片。外面に厚く釉が掛かる。10も灰釉陶器。高台付皿。内底面中央に研磨による滑沢部分がある。転用硯か。11は高台付椀。いわゆる足高椀で丁寧な高台貼付である。口縁部は強い撫でにより外反し体部は丸みを帯びる。床面中央西寄りで床直より出土した。12も足高椀。同様に貼付時の横撫でが丁寧である。口唇部は丸みを帯び玉縁状を呈し体部上位までの強い横撫でにより外反する。体部は丸みを帯びる。竈内及び竈南で出土。13は覆土出土の小型甕。轆轤整形酸化焔焼成である。体部下半に篦削りを施す。14は覆土出土の鉢。左回転轆轤整形。口唇部は内傾し尖り気味である。体部下半に篦削りを施す。内面に篦撫での痕跡



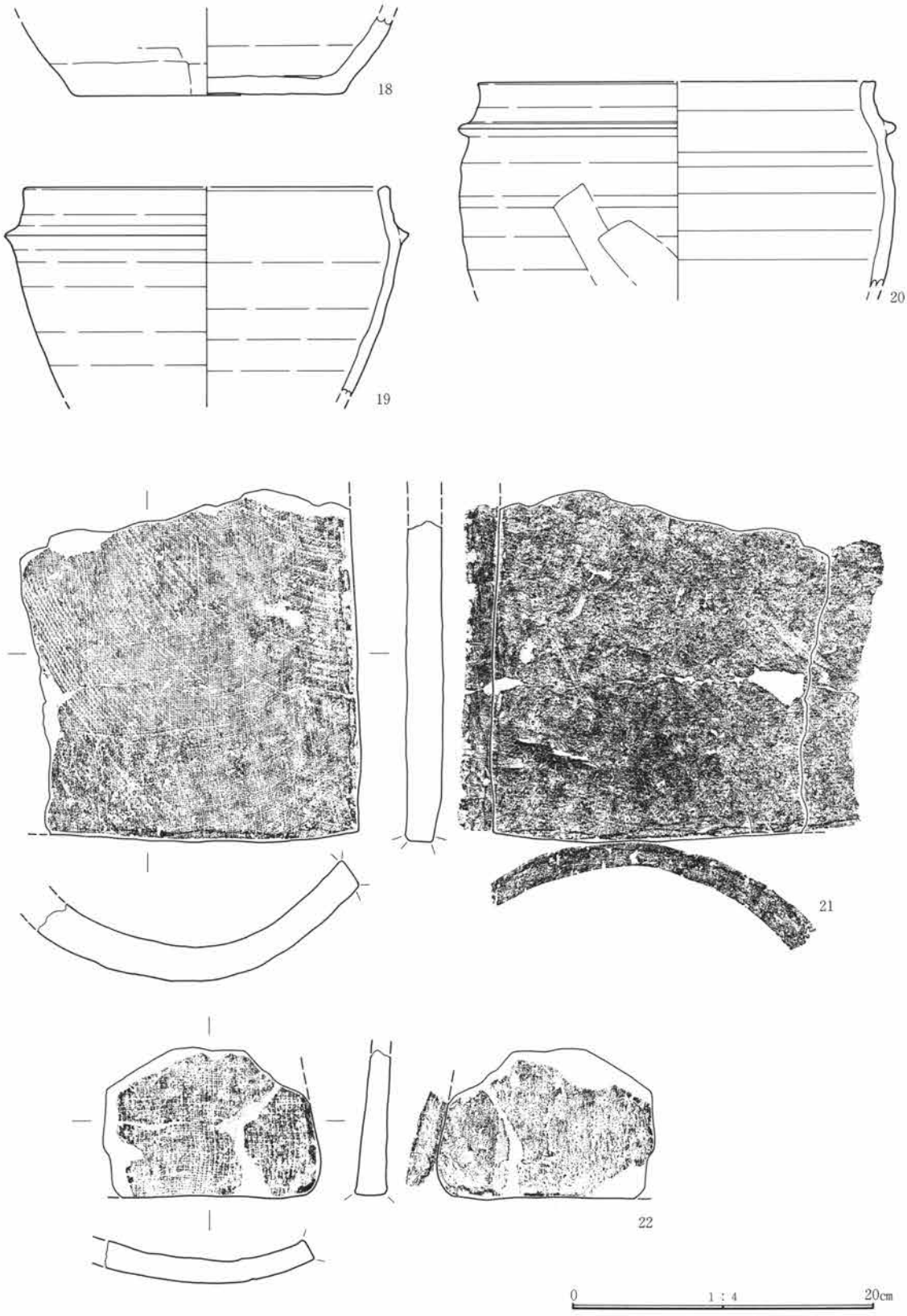
80号住居跡竈土層
1　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を含む
2　〃　焼土塊・炭化物を含む
3　鈍黄褐色土　焼土粒を少量含む

80号住居跡土層
1　暗褐色土　As－Bを多く含む
2　鈍黄褐色土　暗褐色土塊の斑状堆積。炭化物を含む
3　〃　暗褐色土塊の斑状堆積
4　〃　少量の暗褐色土塊を含む
5　〃　均質。暗褐色土塊を少量含む
6　褐色土　焼土粒・炭化物を含む。掘り方埋土
7　〃　ローム粒を含む。別種ピット土層

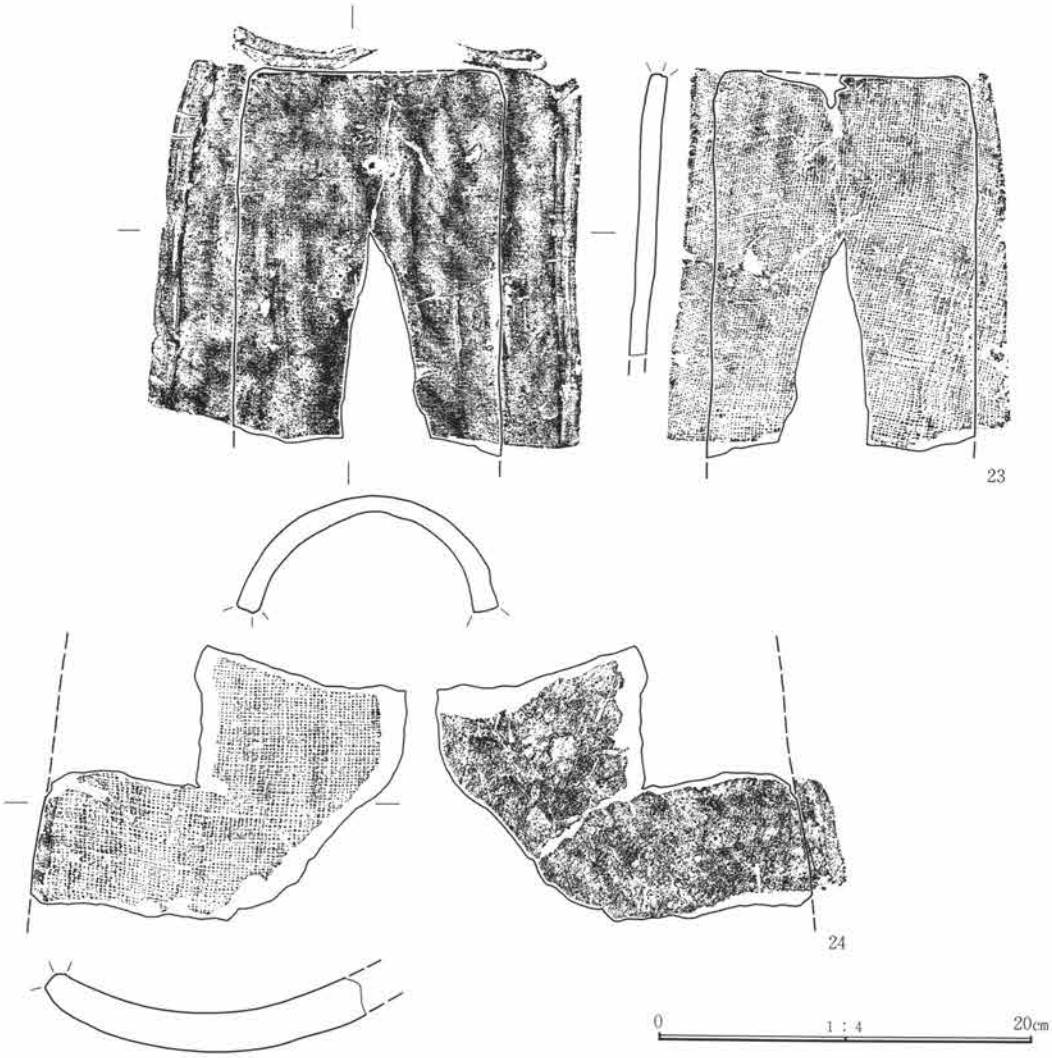
182図　80号住居跡



183図　80号住居跡出土遺物（１）



184図　80号住居跡出土遺物（2）



185図　80号住居跡出土遺物（３）

があるが顕著ではない。全体に灰白色の色調だが口縁部破片の一つが橙色を呈し、二次焼成によるものと思われる。15は羽釜底部。轆轤整形で体部下半は篦削り。焼成は酸化気味である。東壁の北側床直上で出土した。16は覆土出土の小型甕。轆轤整形酸化焔焼成である。口縁部は強い横撫でで外反し、体部は膨らみを持つ。体部は縦位・斜位の篦削り後撫でを施す。17は羽釜口縁部破片。薄手の器厚を呈し、体部は大きく開くため体部器高は著しく低いものと思われる。器面は摩滅する。竈前庭部覆土下位出土。18は須恵器甕底部。外面腰部横位篦撫で、内面は横撫でが施される。床面中央やや東寄りで床直上出土。19は羽釜口縁部破片。中央やや東寄りで床直出土。17と同様に体部器高は低いものと思われる。20も羽釜。口縁部は外反し鍔は短い。轆轤整形で体部下半に縦位篦撫でが見られる。竈前庭部の覆土中位出土。21は平瓦。側部・端部とも３回の面取り。凸面は無文叩後撫で。凹面は布目だが撫で痕跡著しい。竈内覆土出土。22、覆土。側・端部とも面取りは１回。凸面は撫でが施される。23の丸瓦は竈内覆土出土。両側部・端部の面取りは２回。凸面は縦位篦削り。24も竈内出土の平瓦。側部は３回の面取りが及ぶ。凸面は縦位撫で。

(iii)　土坑・井戸

本遺跡からは、180基以上の土坑が検出された。平面形、深さ、出土遺物など多様で各々が時期・性格が異なるものである。分布は、住居跡と同様に中尾根東区の平坦面に集中する傾向があり、居住に伴う土坑群として位置付けられる。しかし、形状の不定形なものや小ピットのように小型のものまでが含まれ、必ずしも総ての土坑が有機的な所産ではない。また、土坑そのものの性格も、規模・配置・覆土の様相・遺物の出土状態などから、想定を重ねたが特定できなかった。

ここでは、形状や出土遺物などから平安時代の集落内居住・生産にかかわると思われる土坑を中心に説明を加える。時期は、その出土遺物を参考にするが、かなりの遺物がその土坑に客体的な流入と思われ、出土遺物のみでは時期類推はできなかった。遺構の重複や土層の状態を加えて判断し、平安時代とした土坑覆土は住居跡覆土と類似するものに限った。近世のおよび近・現代の土坑は明瞭な遺物が出土していない。故に覆土からの判断となるが、近世の土坑は覆土中にAs－Bを含むものが多い。本文では触れ得ないが土層説明を参考にしていただきたい。尚、位置・規模は巻末の計測表を参照されたい。

（土坑）

2号土坑は7号住南で重複して検出された。新土坑の覆土中より椀と灰釉陶器皿が出土した。覆土からも平安時代の所産と思われる。6号土坑はしっかりとした掘り込みの円形土坑。28号住と12号住の間で検出された。平瓦片が出土している。覆土からも平安時代とする。7号土坑は2号坑の南に位置する。不整形だが約70cmと深く掘り込まれ、遺物も土師器坏・甕など破片ながら出土している。覆土から平安時代としたい。

10号土坑は26号住に切られる。須恵器大甕を覆土上層に置く。平安時代の所産であるが、住居跡重複地点であり、あるいは住居設備の一部（例えば張り出し部）とする可能性もある。

11号土坑は11号住東で重複し、11住を切る。覆土から平安時代か。この11号坑も調査当初住居跡としての可能性を考えたが、床面が認められないことから土坑とした。小型円形の13号土坑覆土からは椀の高台部が出土している。時期不明。15号土坑は11号住の西で検出された。円形でしっかりした掘り込みを呈す。覆土中より高台付椀底部が2点出土している。覆土からも平安時代であろう。

19～22号土坑は溝状を呈し、サク状の配列をなすが深く、いわゆる「ゴボウ穴」に近い。20号・21号坑は出土遺物が多いが、近距離にある3・4号住や12号住・25・26号住からの流入と捉え得る。覆土はしまりのない褐色土で、近世以降の所産とした。同地点で検出された25・26号土坑も近世以降である。同様な溝状の土坑は例えば12号坑・29号坑・50号坑・171号坑なども近世の所産である。

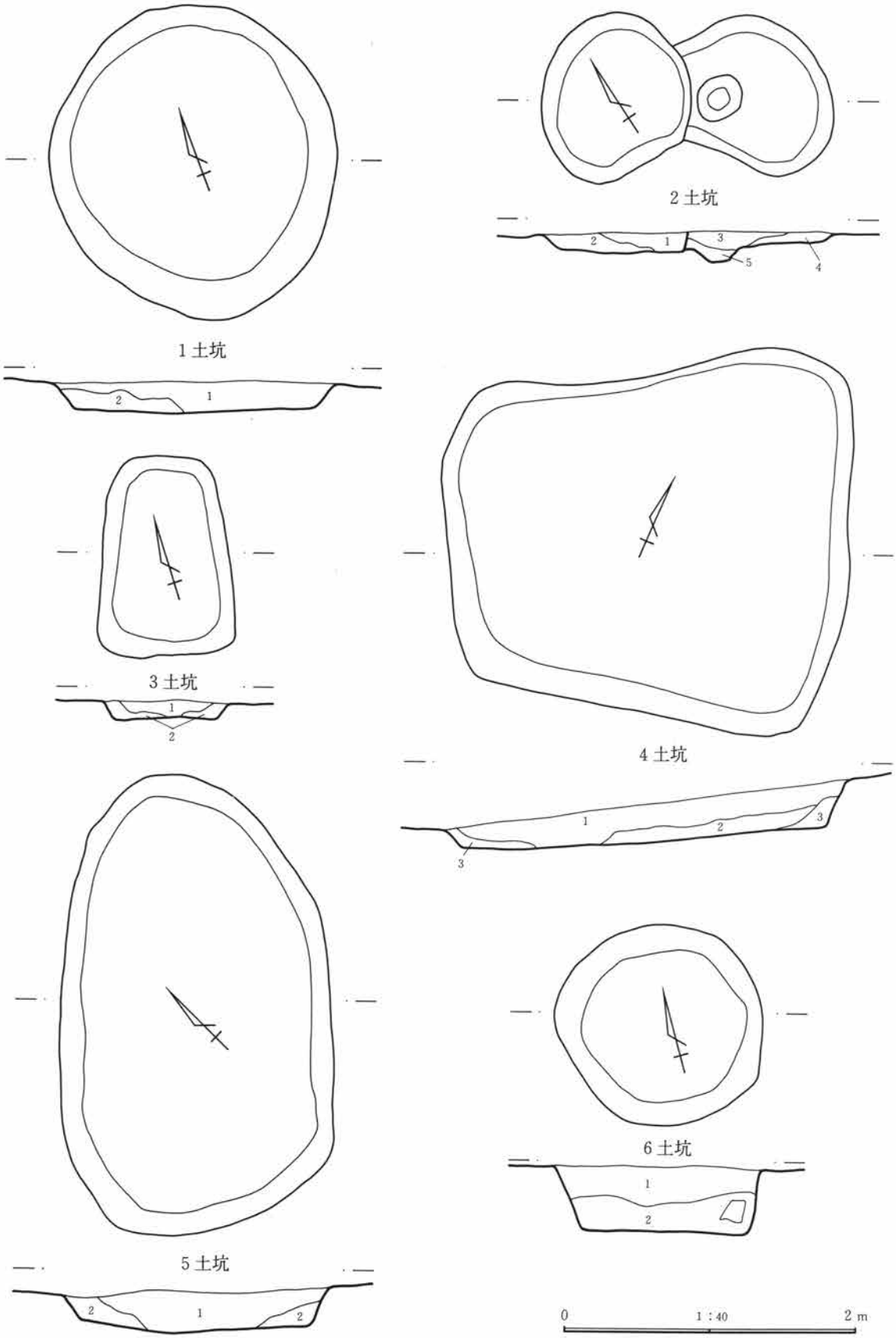
27号土坑は16号住の北で検出された。円形の整った平面形を呈す。須恵器椀破片や鉄釘が出土しており、覆土からも平安時代とする。

45号土坑は小型円形の平面形で、覆土から平安時代の所産と思われる。50号土坑は溝状で近世と思われる。小型の坏が2個体出土しているが流入である。51・52号土坑と53号土坑は覆土からは平安時代か。

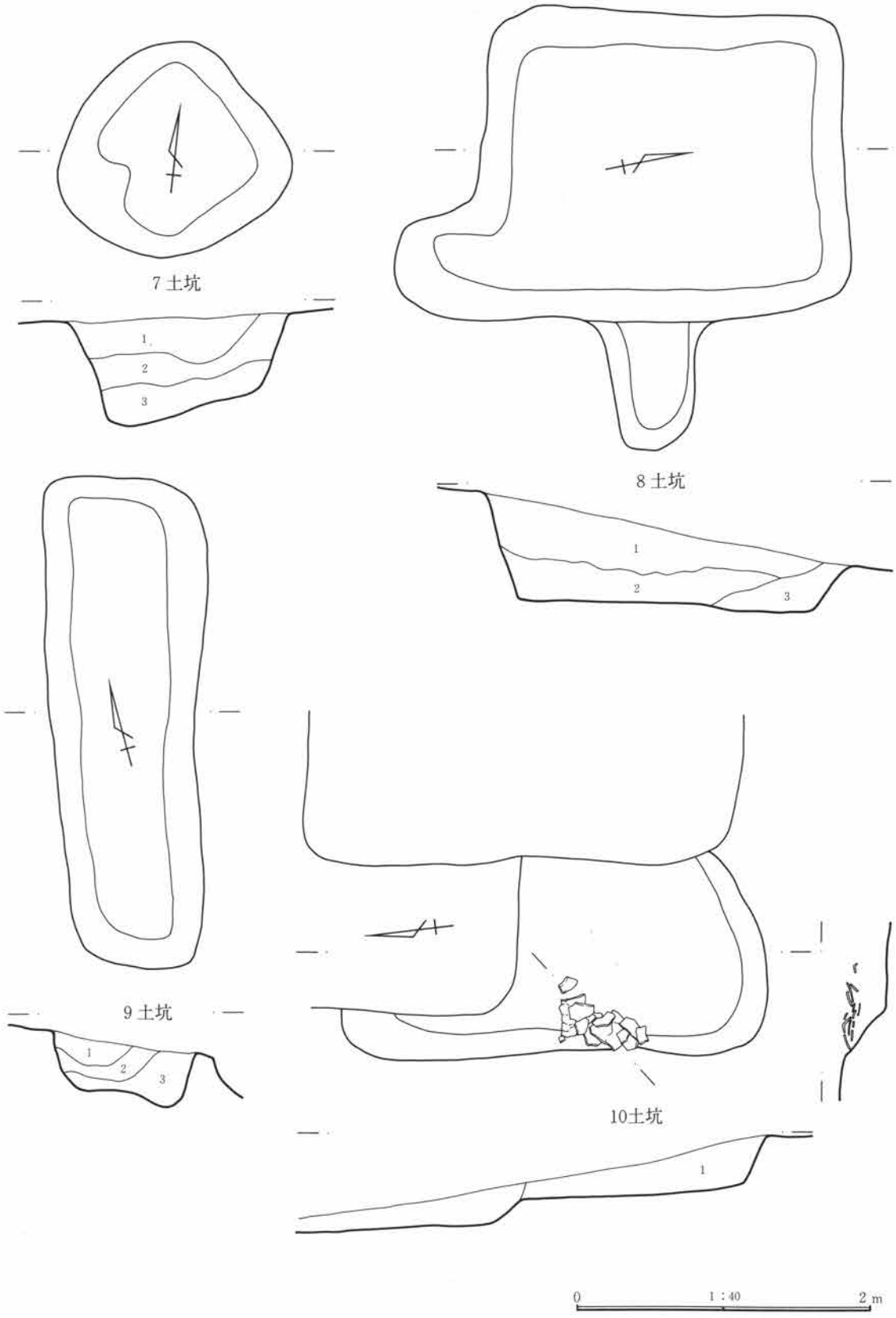
65号土坑は東尾根東斜面で検出された。不整形で深さも不規則であるが、礫が上層から坑底面にかけて出土している。炭化物を含む覆土からは平安時代の可能性もある。

66号～72号土坑は29号住西でまとまって検出された。69号土坑は不整形で小型の土坑。覆土中より高台付椀片が出土したが流入と捉えたい。70号土坑覆土は、均質であるいは平安時代所産の可能性もある。72号土坑は浅い不整円形を呈す。覆土は平安時代に近い。

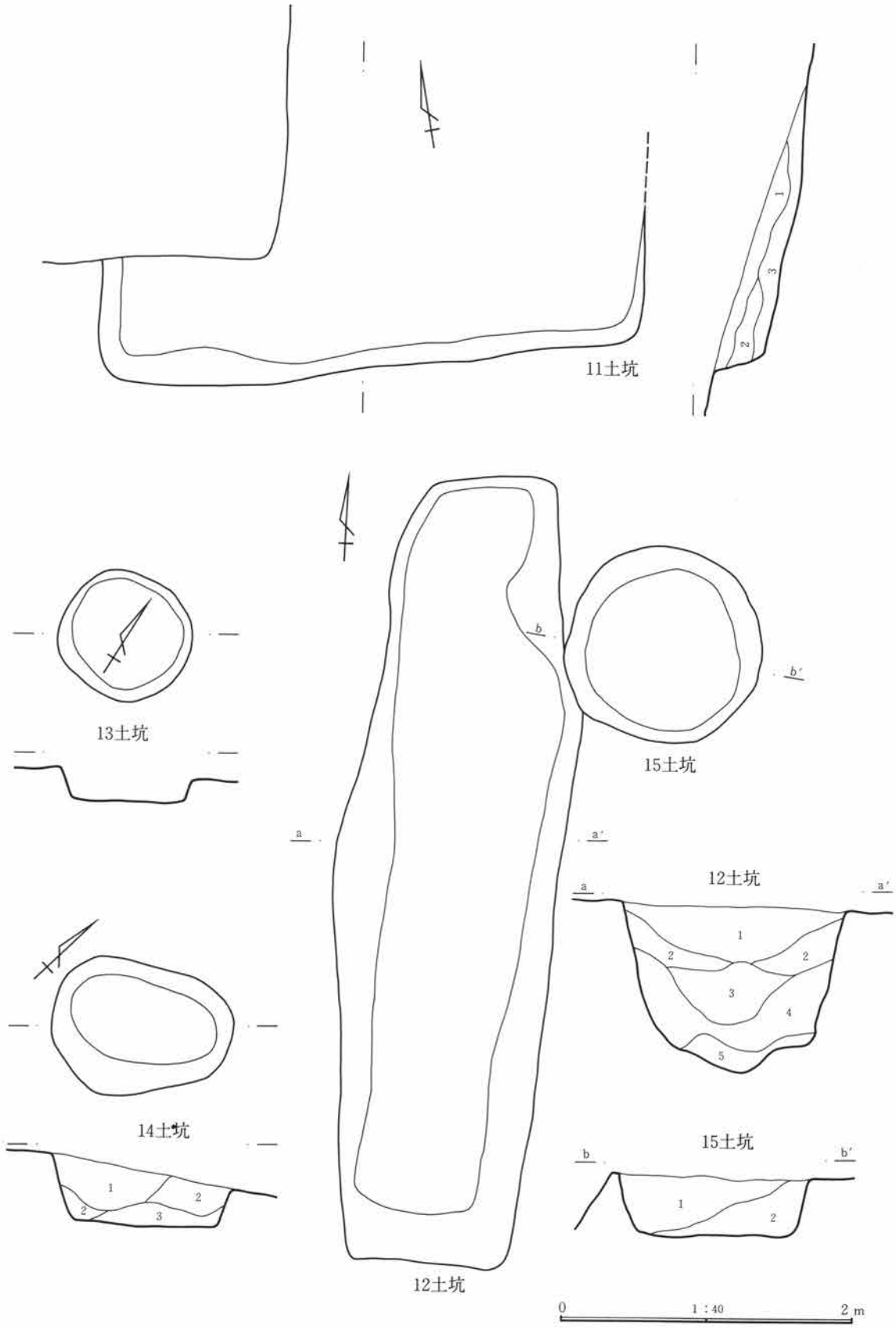
73号土坑は浅く不整形な形態を取るが、覆土中に焼土塊を含み、平瓦片を出土する。近接する29住も瓦を出土しており、性格は不明だが平安時代の所産としたい。



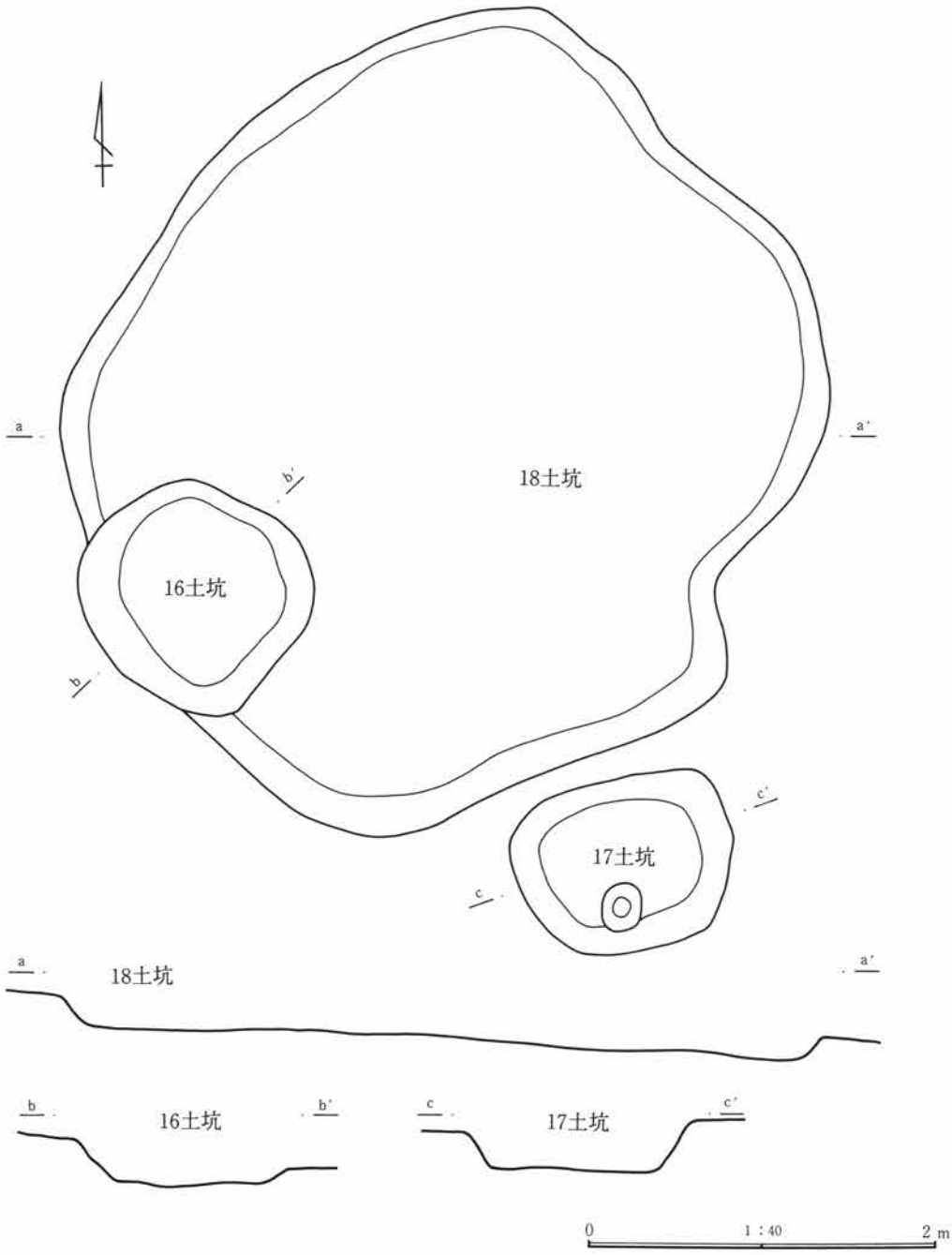
186図　土坑（1～6号）



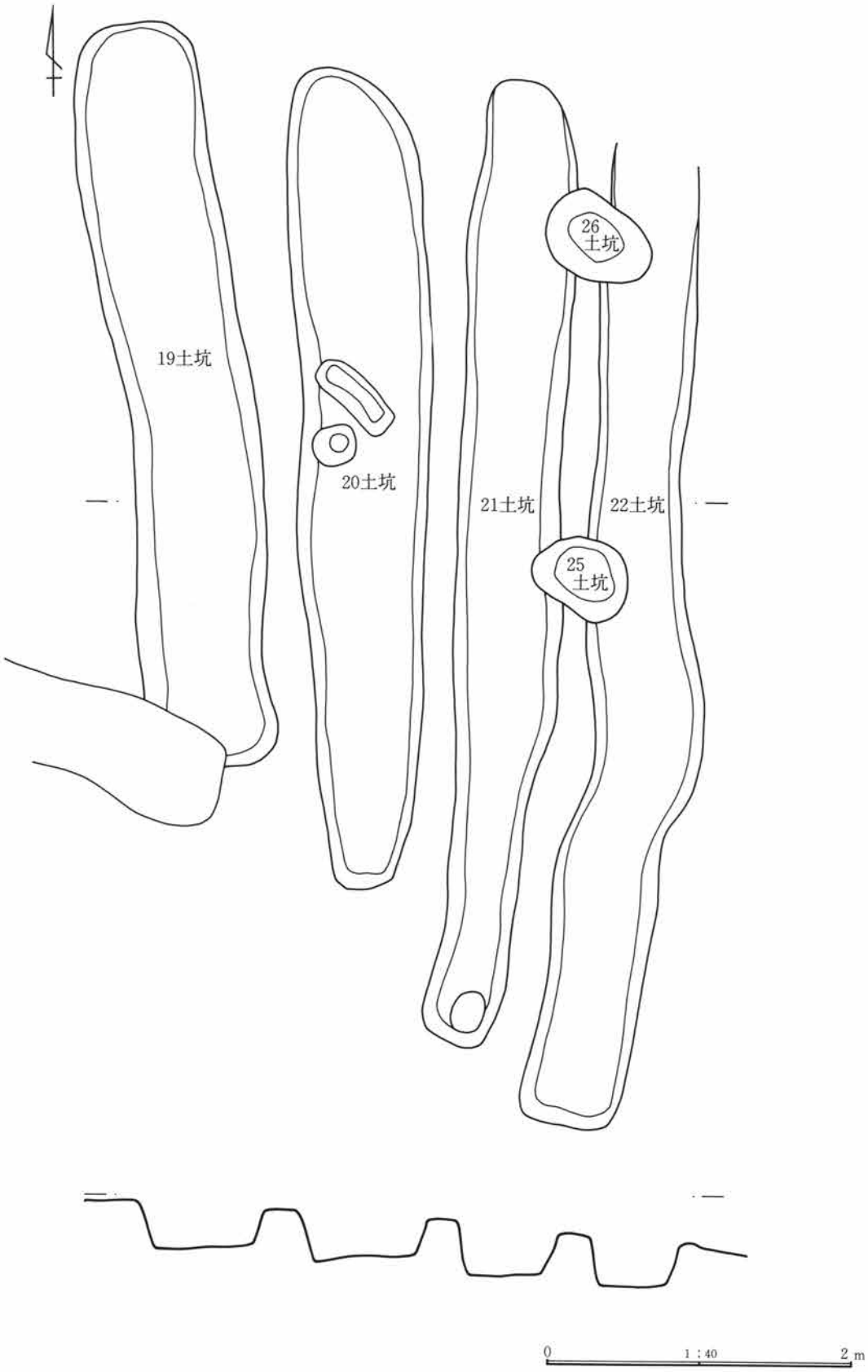
187図　土坑（7～10号）



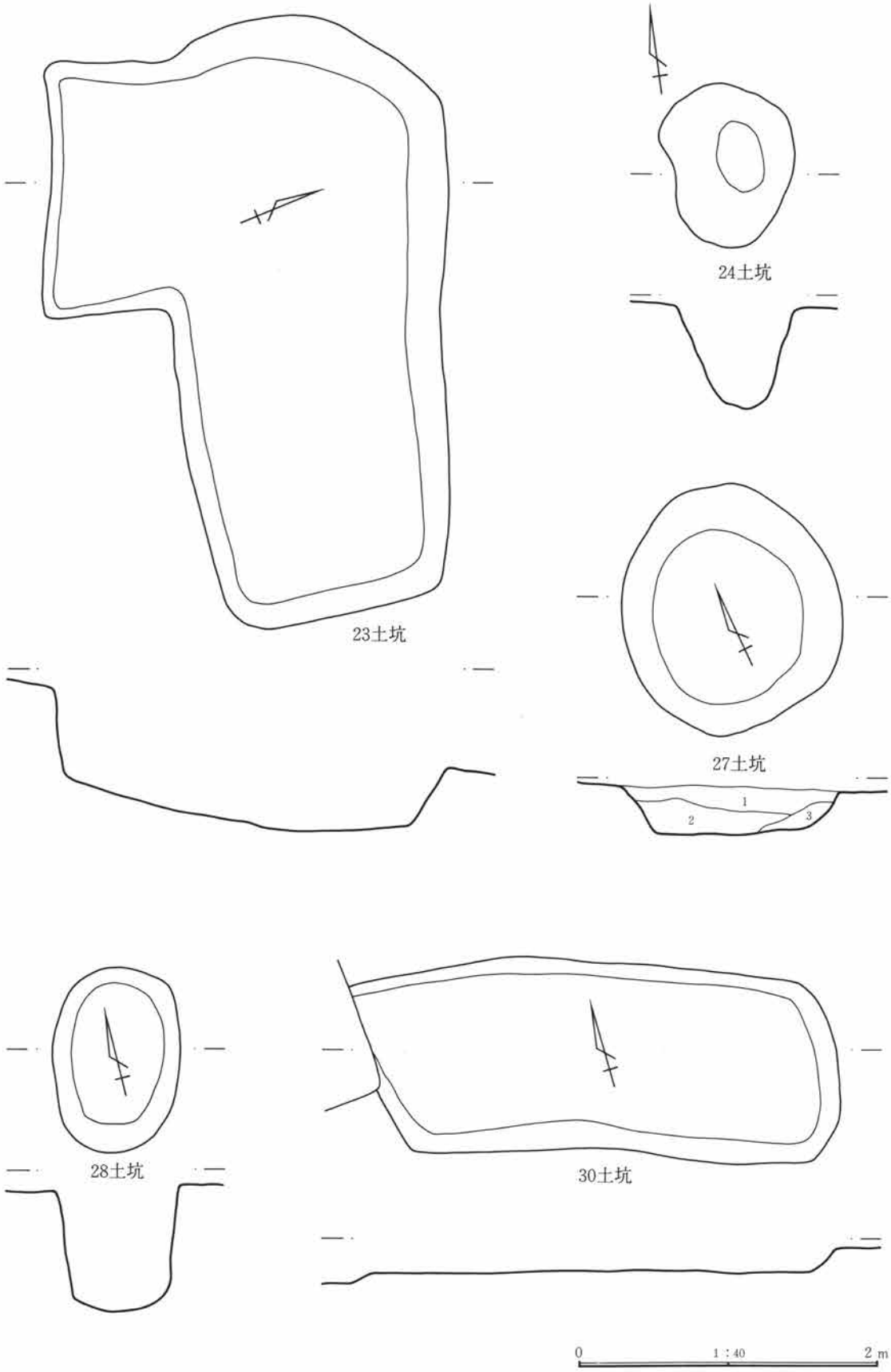
188図　土坑（11～15号）



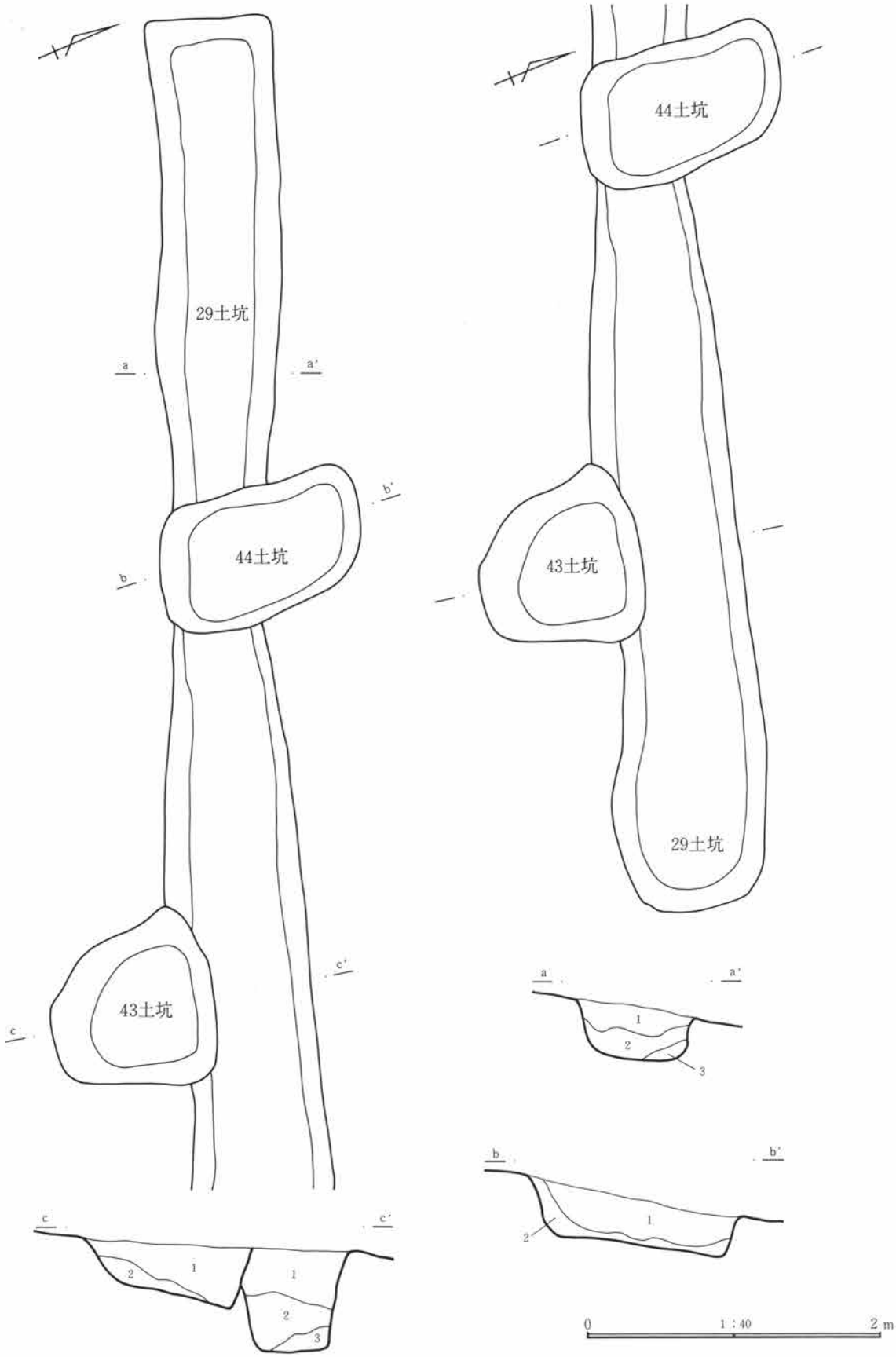
189図　土坑（16～18号）



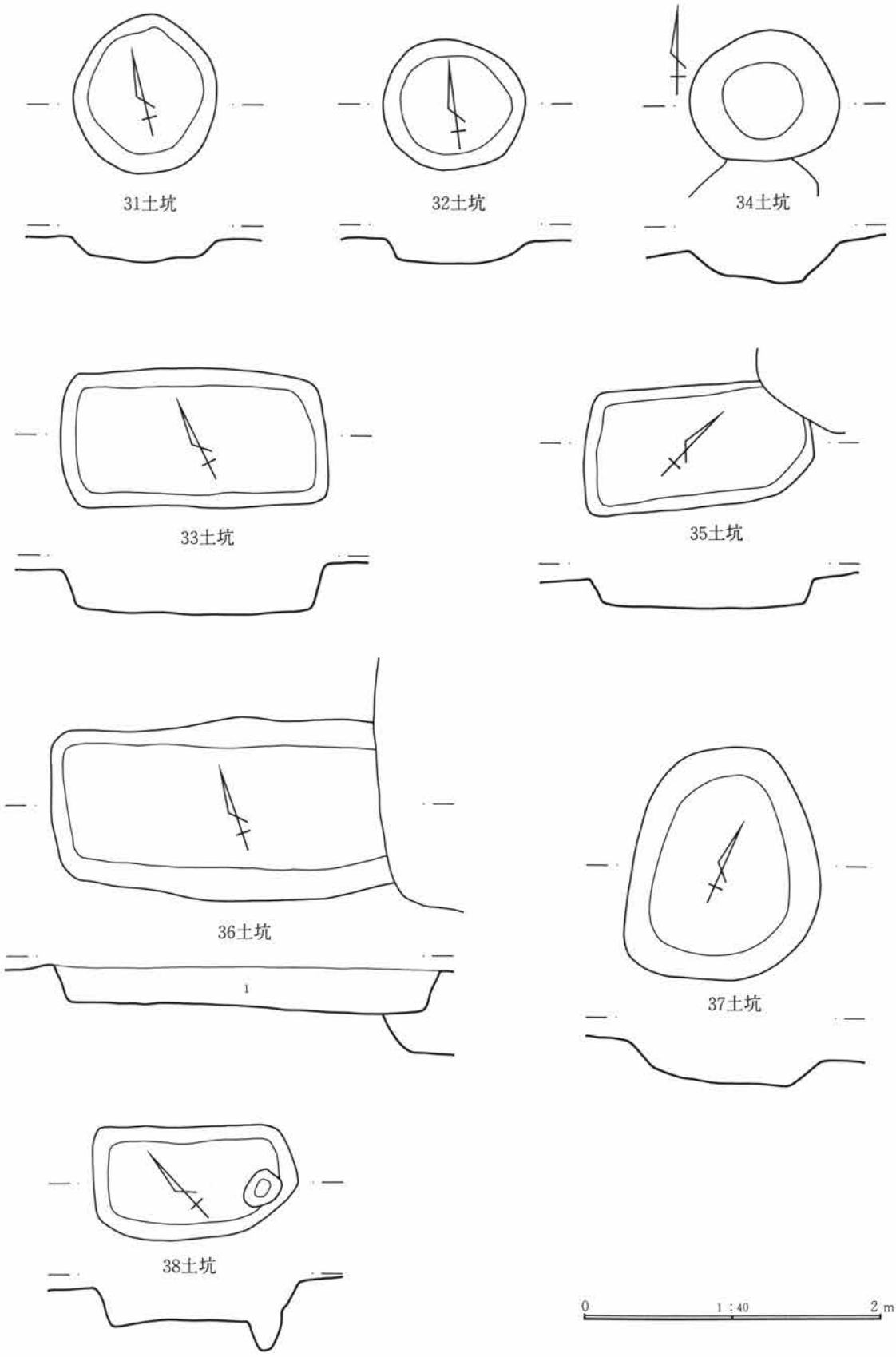
190図　土坑（19～22・25・26号）



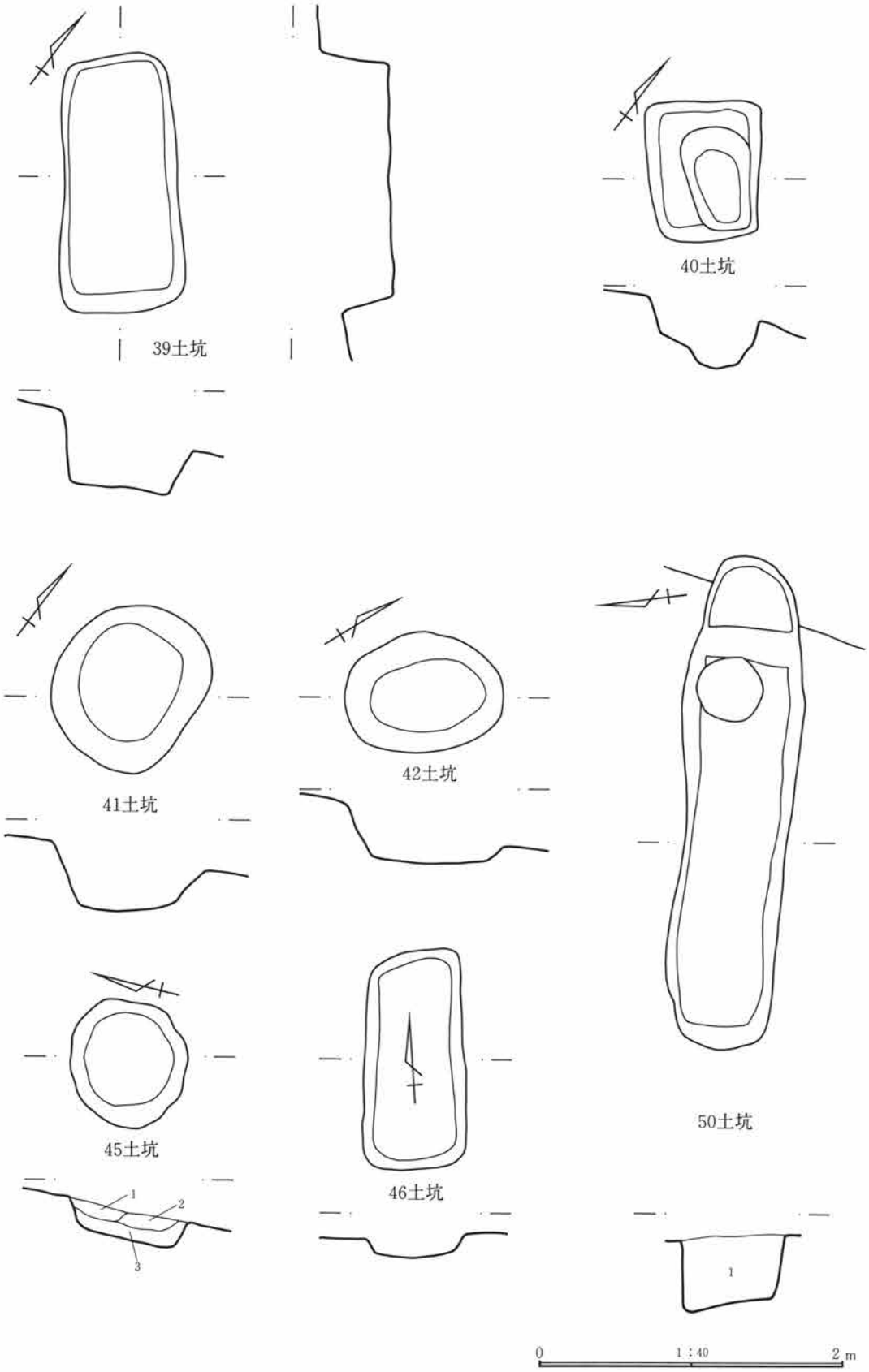
191図　土坑（23・24・27・28・30号）



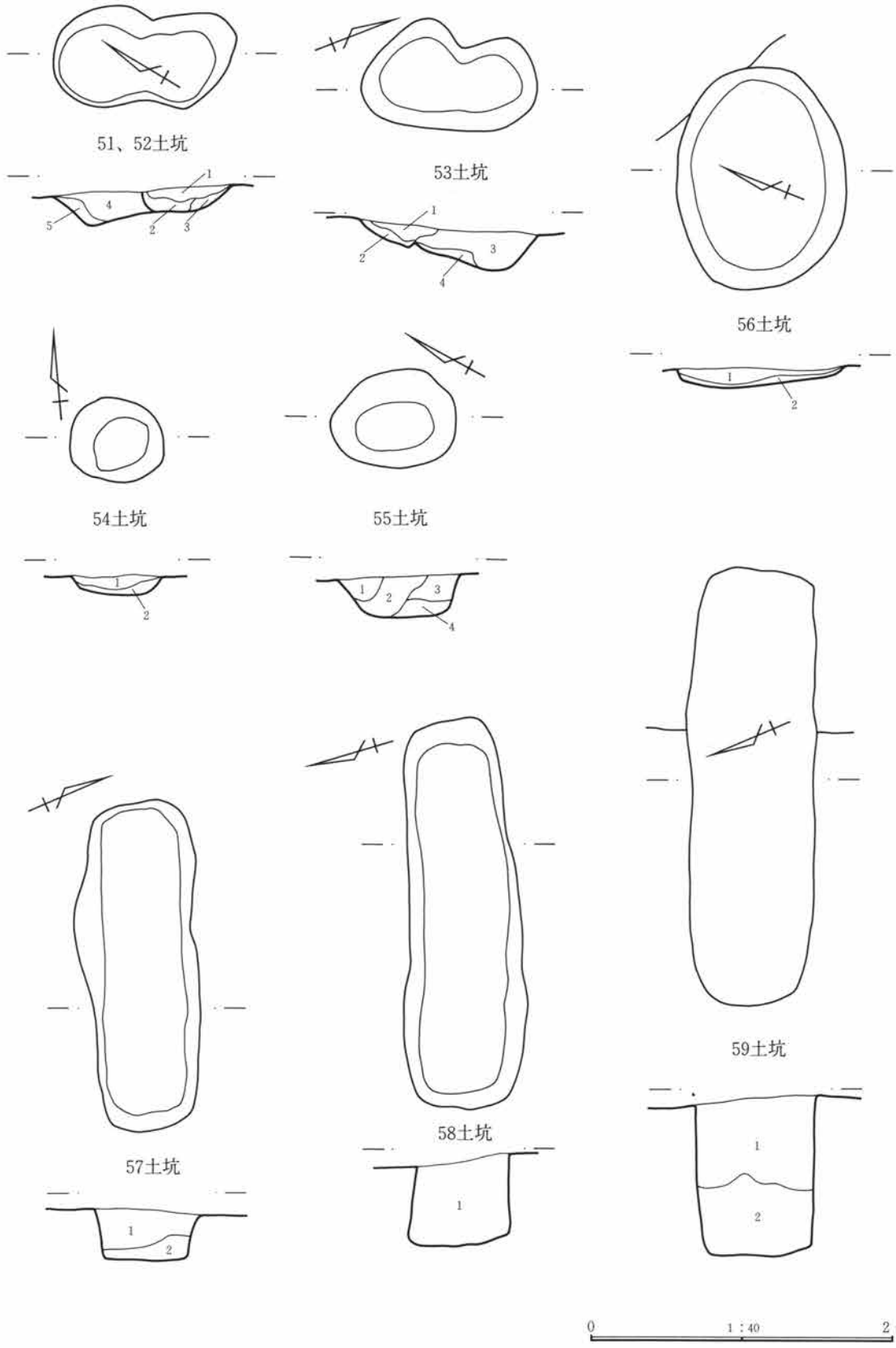
192図　土坑（29・43・44号）



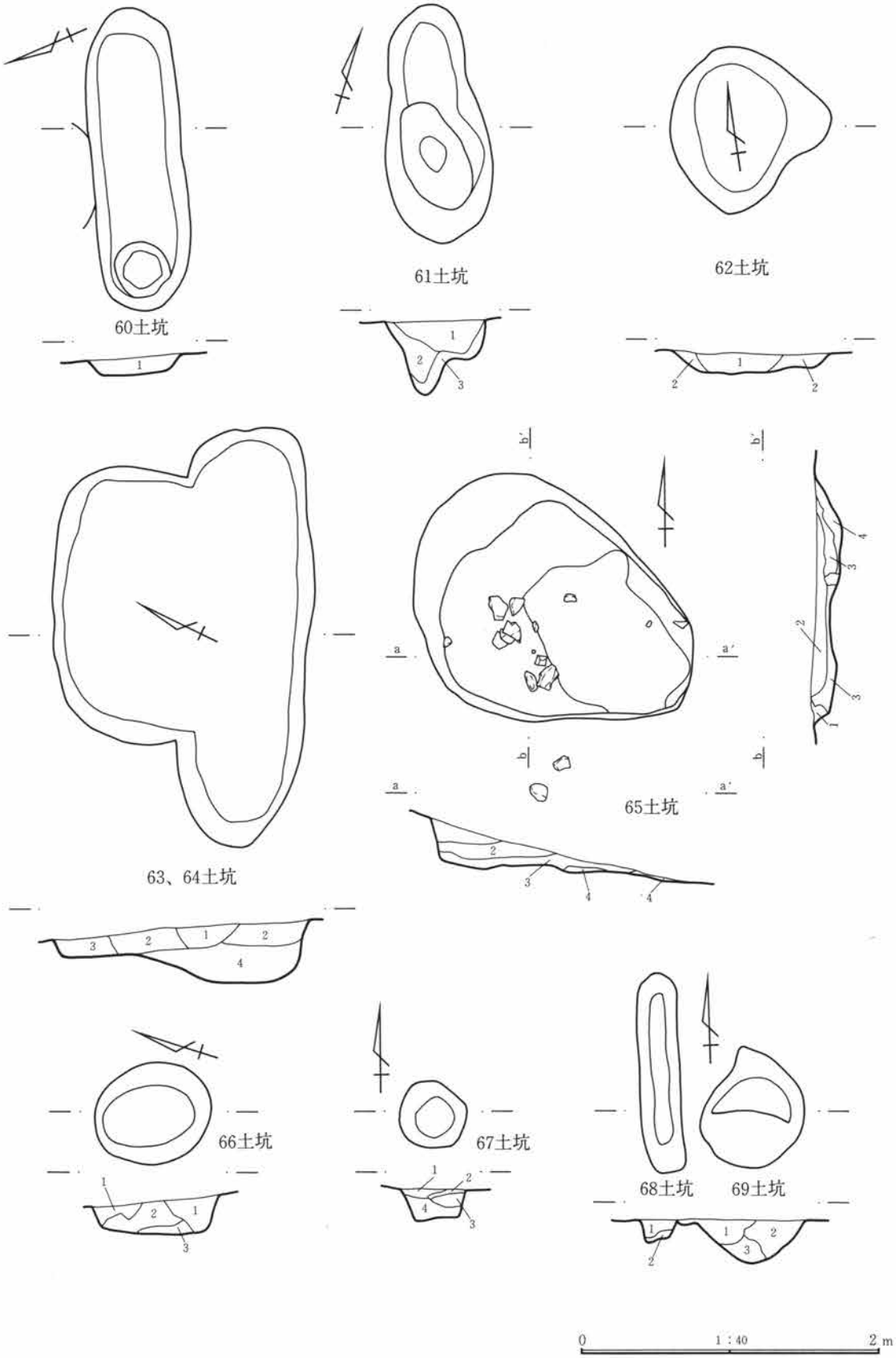
193図　土坑（31～38号）



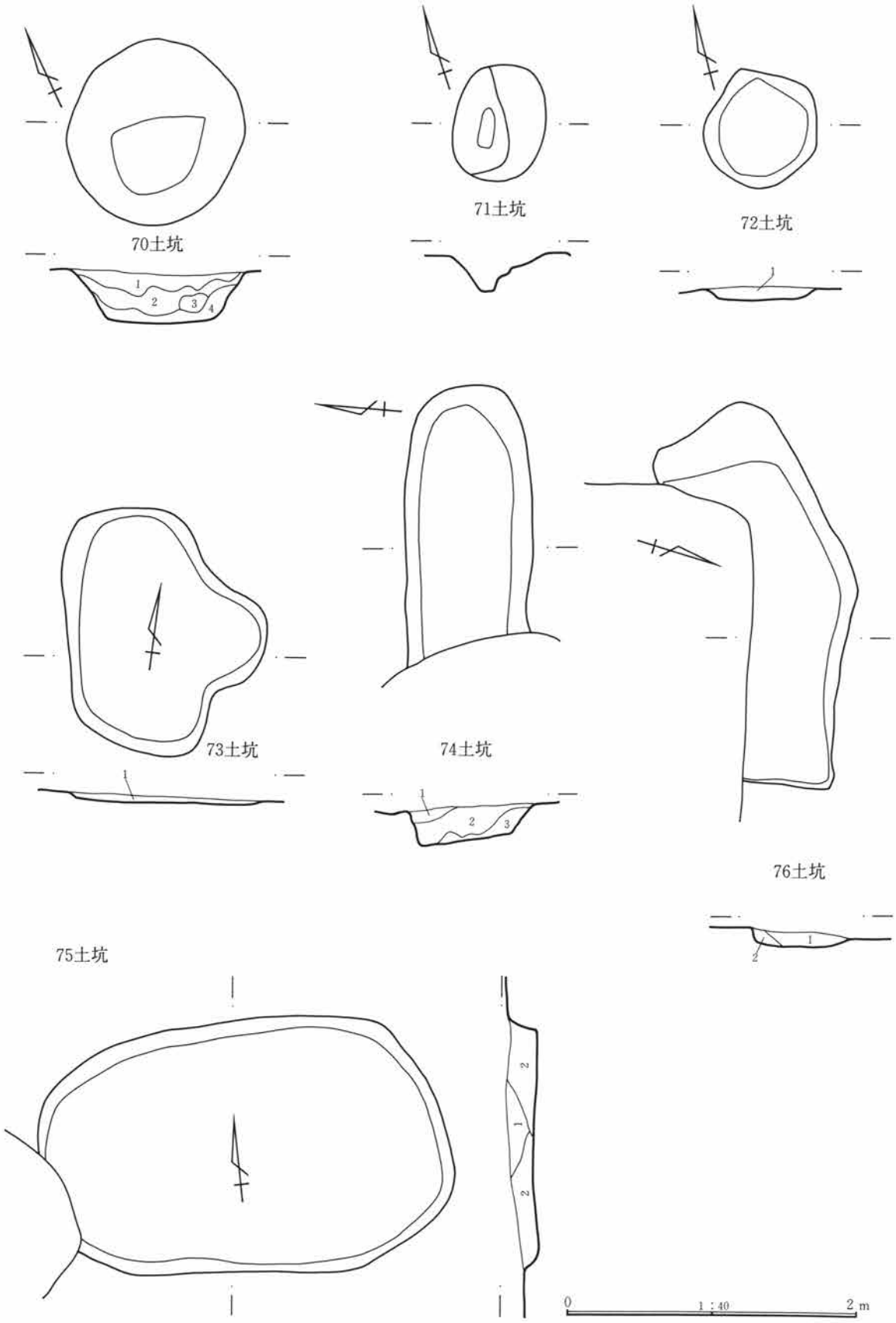
194図　土坑（39～42・45・46・50号）



195図　土坑（51～59号）



196図　土坑（60～69号）



197図　土坑（70～76号）

（80・81号土坑）

本遺跡で検出された土坑の中で、最も特異な例が80・81号土坑である。両土坑とも中尾根東区のほぼ中央、後述する２号遺物集積遺構の北側に近接して検出された。隣合う土坑であり、東側に80号土坑、西側に81号土坑が、その間の距離約30㎝を保って位置するように、両者の密接な関係を想起させる。

80号土坑は1.4×1.1ｍの方形を基調としたややいびつな平面形を呈し、深さは約20㎝を測る。坑底面は東側に傾斜し、南東隅が最も凹む。壁はしっかりした掘り込みで垂直気味に立ち上がるが、北側にやや乱れが見られ、若干緩やかな傾斜を見せる。東側の壁上端には粘土塊が設けられ、焼土化していた。おそらく壁の補強と思われる。覆土は上層から下層にかけて多量の焼土・炭化物が検出され、土坑内部での燃焼行為が想起された。出土遺物も多く、須恵器坏・砥石・鉄釘などが出土している。

一方の81号土坑は、1.4×1.3ｍの方形の整った平面形で、深さは60㎝を測る。平面形は80号土坑と相似している。坑底面はほぼ平坦で、壁もしっかりした掘り込みを見せ、ほぼ垂直に立ち上がる。南側の壁にやや乱れが見られるが、上端のみの乱れである。覆土は80号土坑と同様に多量の焼土・炭化物が見られるが、壁の補強は見られなかった。出土遺物も多く、須恵器坏・高台付椀・大型の甕が破片状態で、鉄釘・鉄製紡錘車なども出土している。

両土坑とも方形を基調とした平面形を呈し、良好な掘り込みで、覆土に焼土・炭化物を含む共通点がある。時期差は顕著ではないが、出土土器からは若干80号土坑が先行する傾向がある。

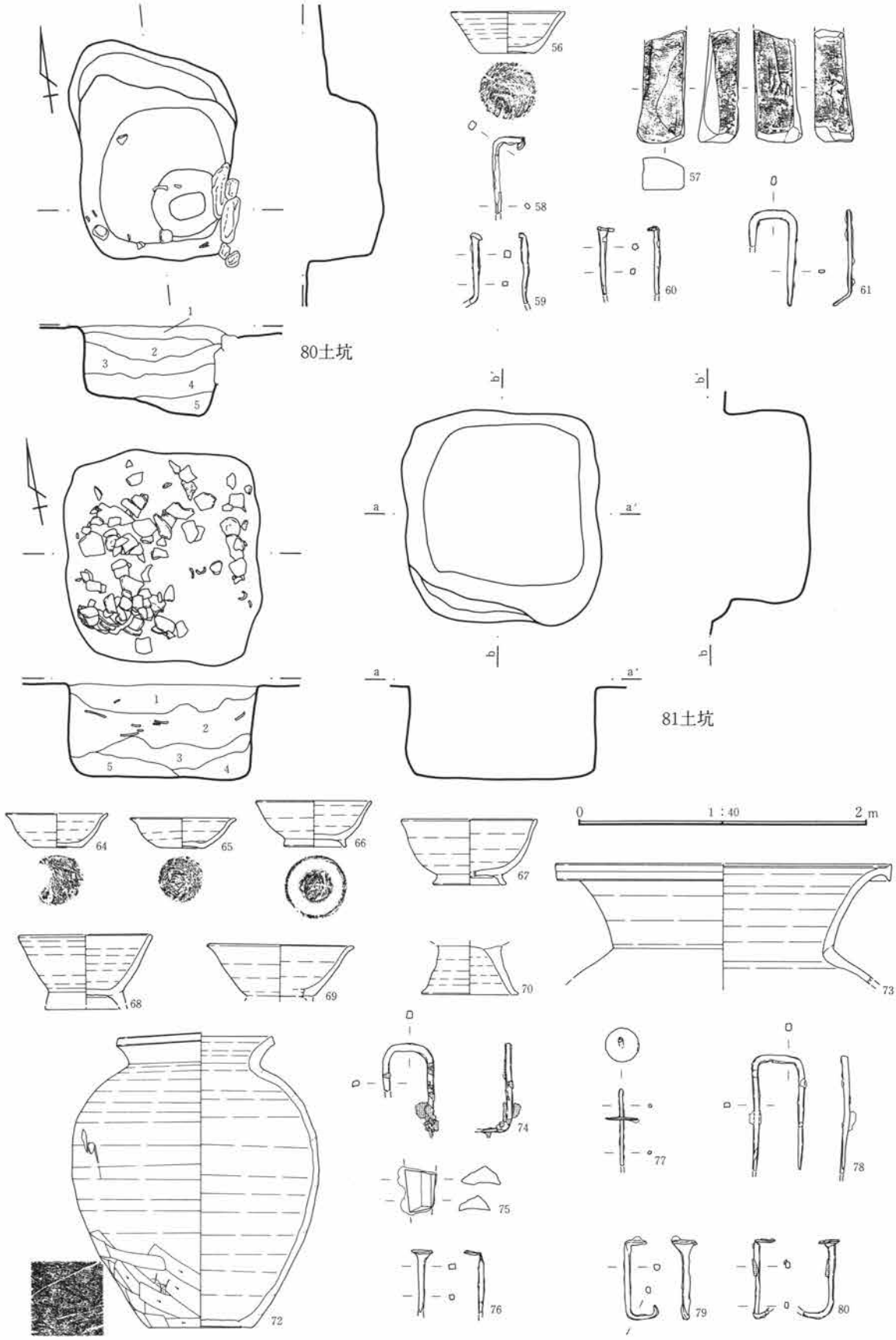
また、鉄製品の出土量は他の遺構と比して群を抜く。燃焼施設であるものの、鉄製品を出土することから、製鉄遺構として位置付けられない。鍛冶遺構などに見られる羽口・椀型鉄滓などが見られないことからも、小鍛冶作業の施設とは思われない。

方形の平面形は、対象物を備蓄する貯蔵穴あるいは墓壙としても集落内で見られる。隣合う位置関係からも貯蔵穴・墓壙に見られる関係である。さらに、80号坑北側の壁と81号坑南側壁の乱れにも注目すると、南北方向からの作業が予想されよう。

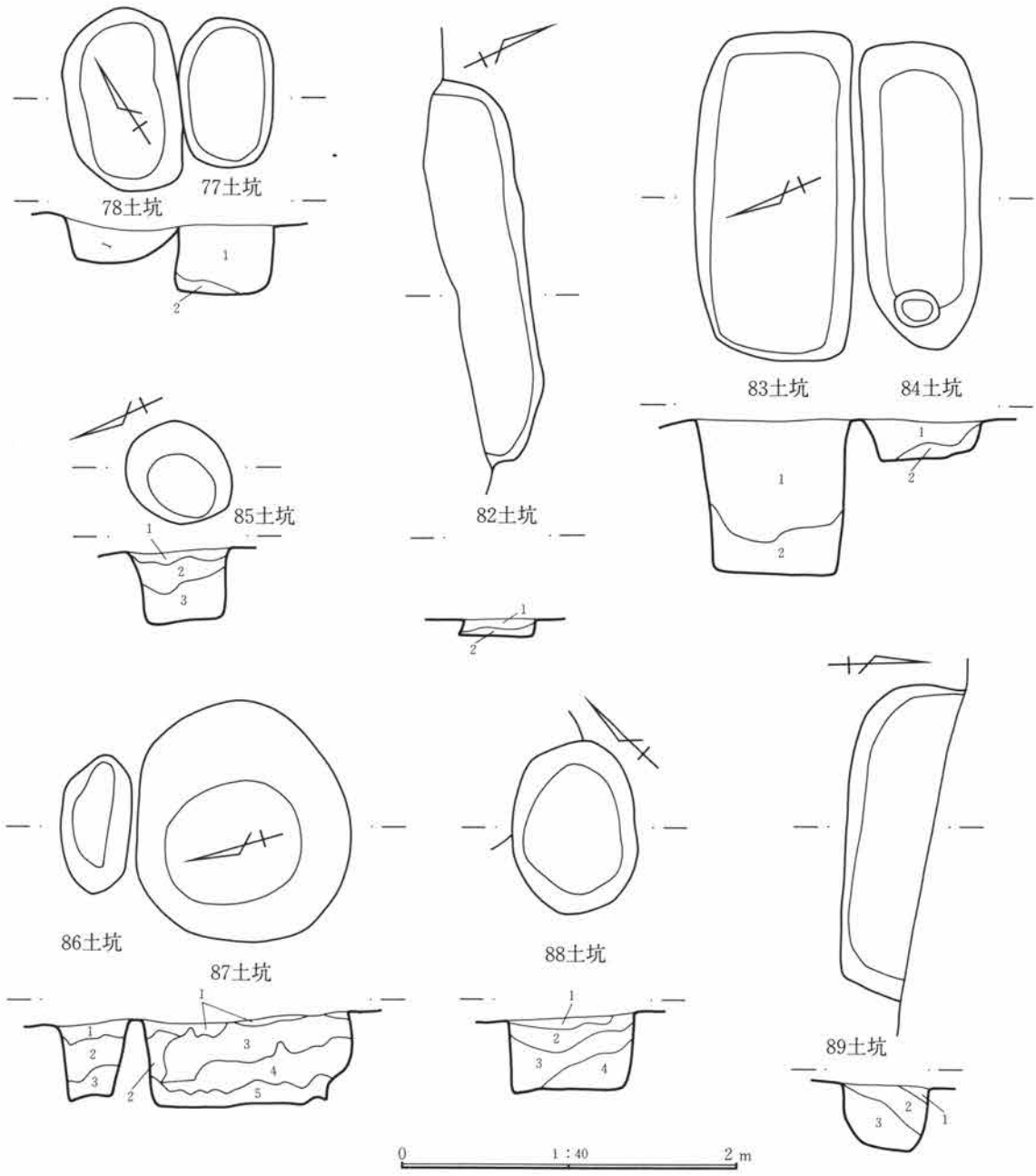
鉄製品以外の出土遺物からは、80号坑の砥石や81号坑の大型の甕に注意を要する。砥石は鉄製品製作・管理工程に付随する工具だが、大甕の関連性は希薄である。本土坑の南側には大甕を多量に出土した２号遺物集積遺構が近接しており、この関係も無視できないだろう。２号遺物集積遺構とセットで考えを巡らさなければならないかも知れない。

燃焼施設としては、墓壙としての焼土坑が想起され、鉄釘は棺桶などに付随するものであろうか。鉄製品以外の出土遺物は副葬に付されたものとも考えられよう。または、鉄製品の最後の焼き入れを施し、備蓄する施設としても考えられる。この場合は２号遺物集積遺構、さらに１号遺物集積遺構との関連も念頭に置き、集落内の居住空間以外の作業・備蓄場所として、両土坑及びその周辺を位置付けなければならない。さらに、本遺跡で検出された寺院跡－礎石建物跡上屋は鉄釘が使用されている。この寺院建築物に供された鉄釘にかかわるアトリエー工房施設としても、可能性が高い。

本報告では、両土坑の性格を「墓壙」あるいは「焼き入れ備蓄」空間、さらに、寺院跡建築補修の「工房施設」とした考えを提示したが、この他にも例えば、２号遺物集積と関連付けて「祭祀」または「廃棄」の所産として考える事も可能であろう。故に、両土坑の性格を結論的に位置付けることはせず、様々な可能性を指摘するに止どめておきたい。



198図　土坑（80・81号）



199図　土坑（77・78・82～89号）

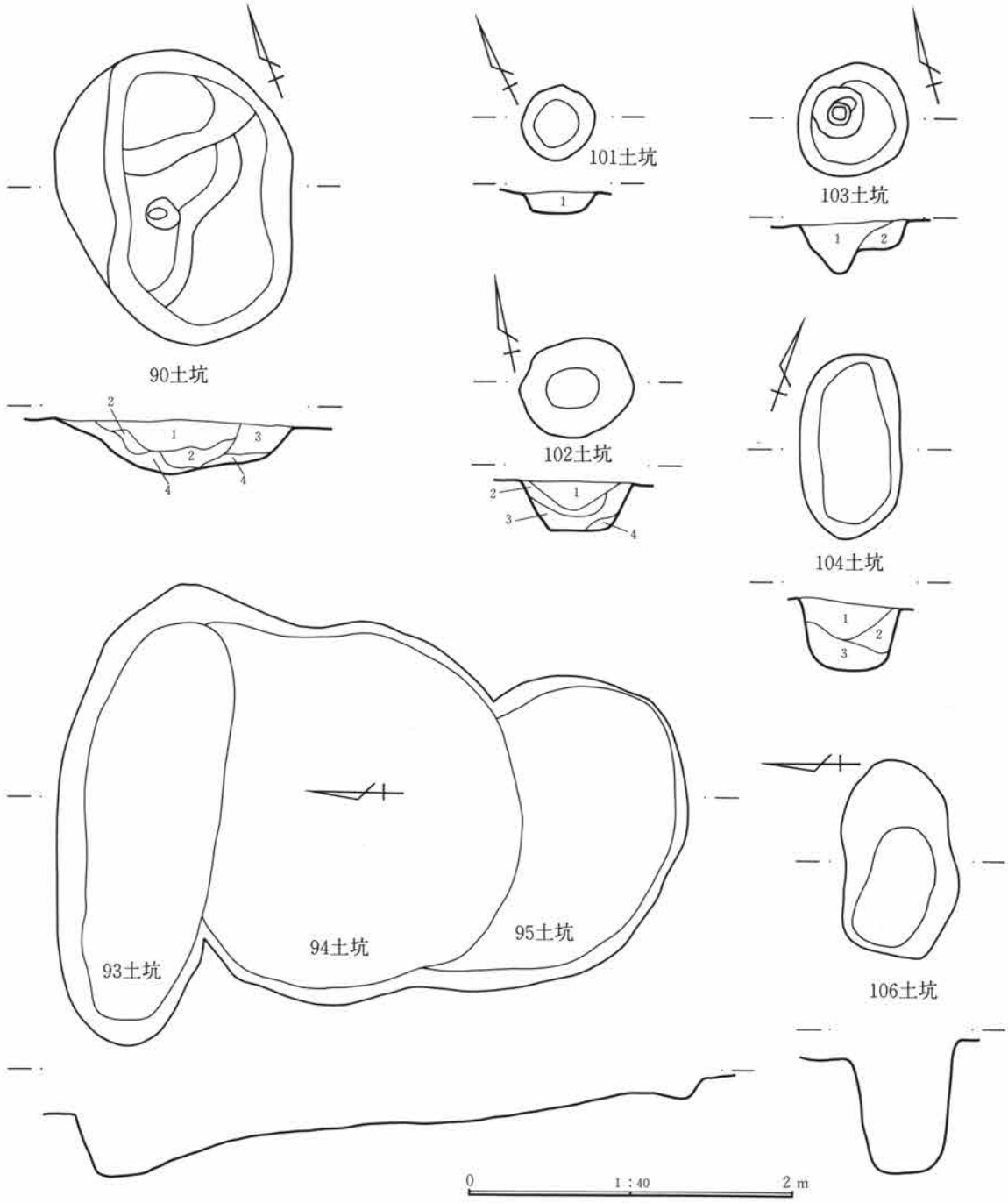
85～88号土坑は、覆土からは平安時代に比定される。46号住東でまとまって検出された。特に、87号・88号坑は掘り込みも深くしっかりしている。

108号～110号土坑は、42住の南に位置する。覆土から平安時代の所産と思われ、110号土坑は平瓦片が出土している。

112号土坑は81号坑の西で検出した。焼土・炭化物を含む覆土中に自然石と瓦などが集中した。平安時代としたが性格は不明である。あるいは竈などの残骸かもしれない。

113号～117号は小ピットである。31号住の西に群在する。覆土は平安時代に近く、115号坑は焼土塊と共に甕底部破片と鉄釘が出土した。

120号土坑は46号住の東に位置する。平面形は、不整楕円形で覆土に焼土粒・炭化物を含み、大甕体部破



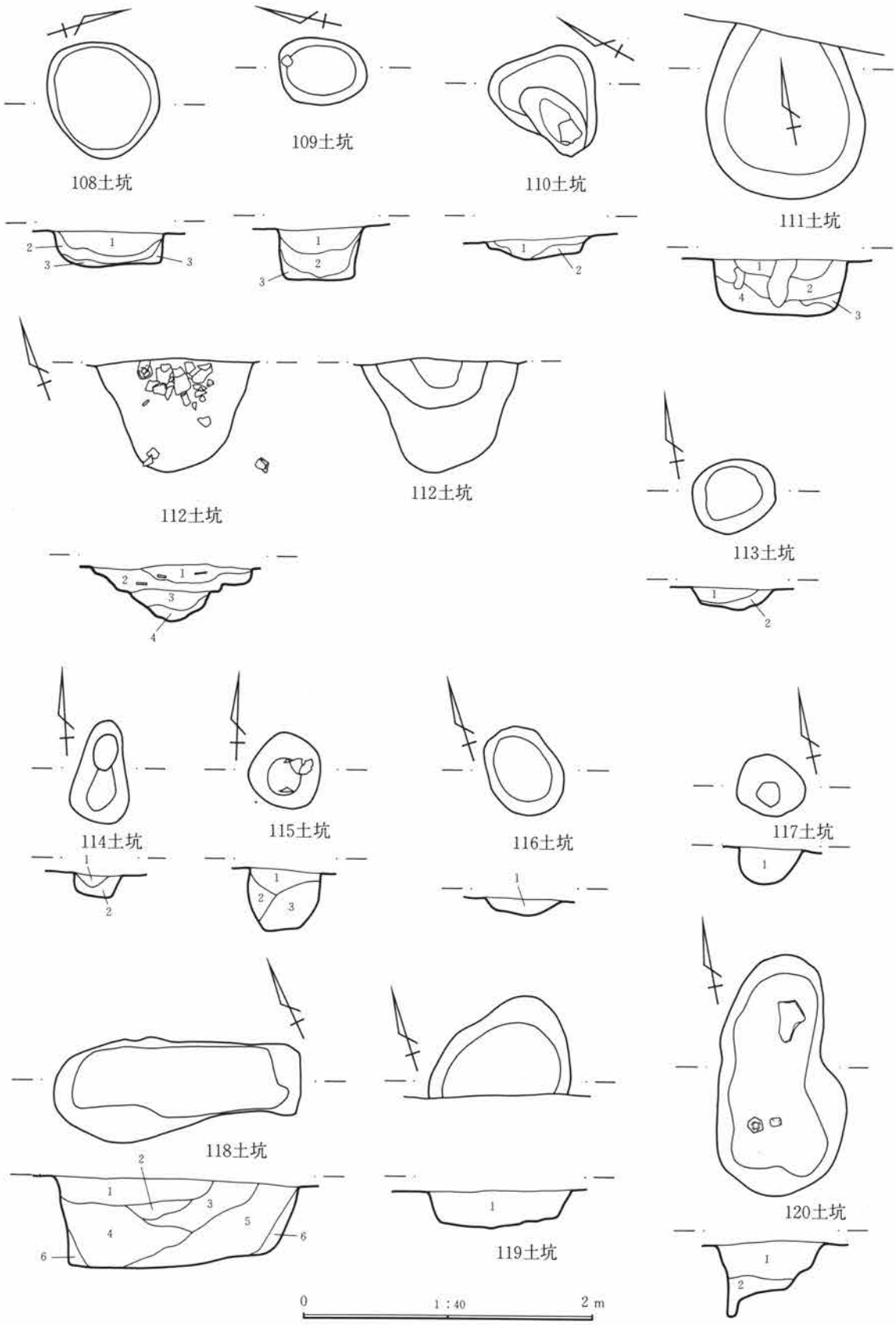
200図　土坑（90・93～95・101～104・106号）

片を出土している。平安時代の所産。122号土坑は坏・羽釜・平瓦を出土した。平安時代である。123号土坑は中尾根東区に位置し、高台付椀と小型甕の出土が見られ、良好な共伴を示すが、残念ながら平面図の記録が無く全体図にも位置は記載されていない。遺物のみの報告である。

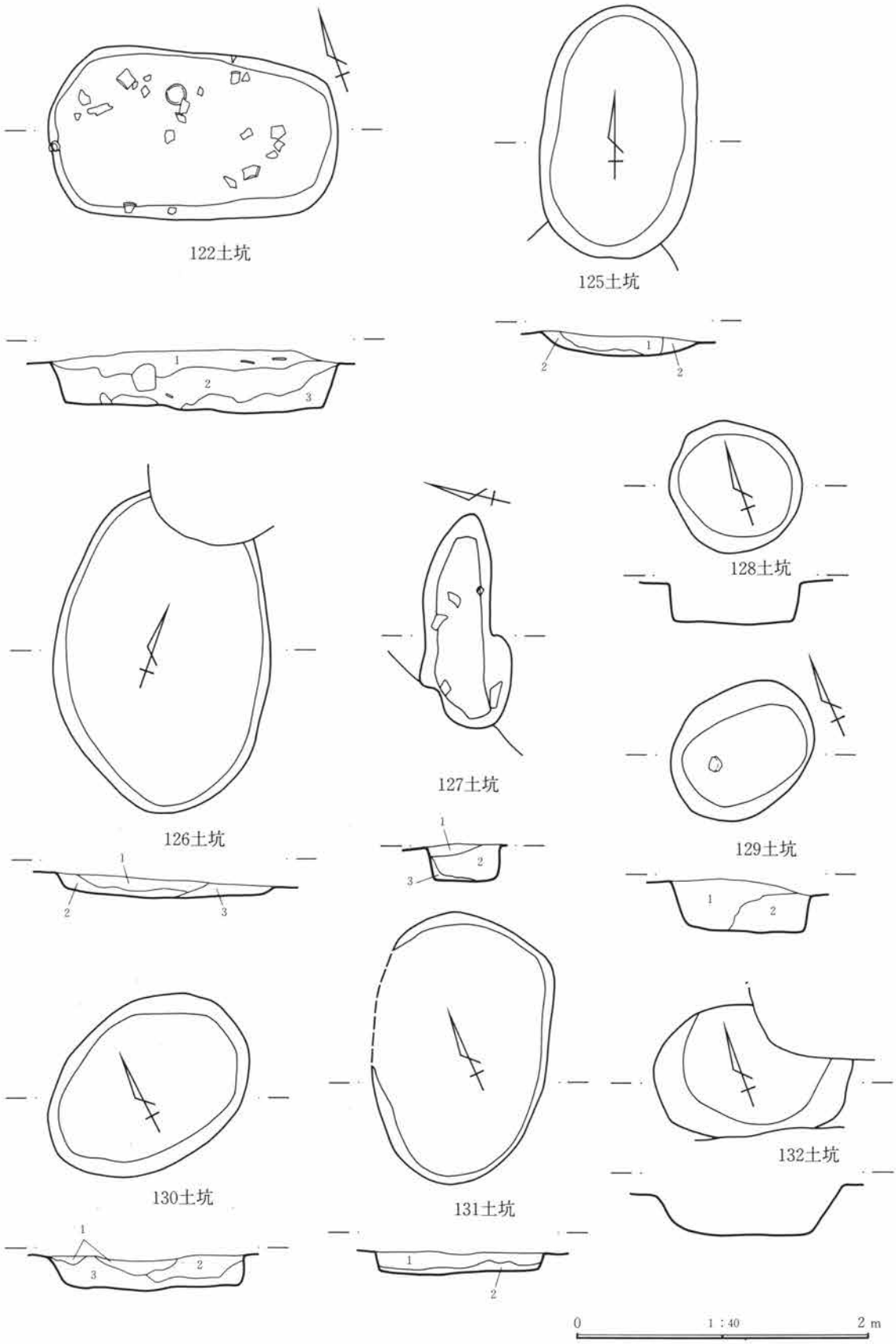
125号・126号土坑は44号住の東で重複して検出された。両者とも覆土は平安時代である。

129号～131号は41号住の東でまとまって検出された。覆土からは平安時代であろう。

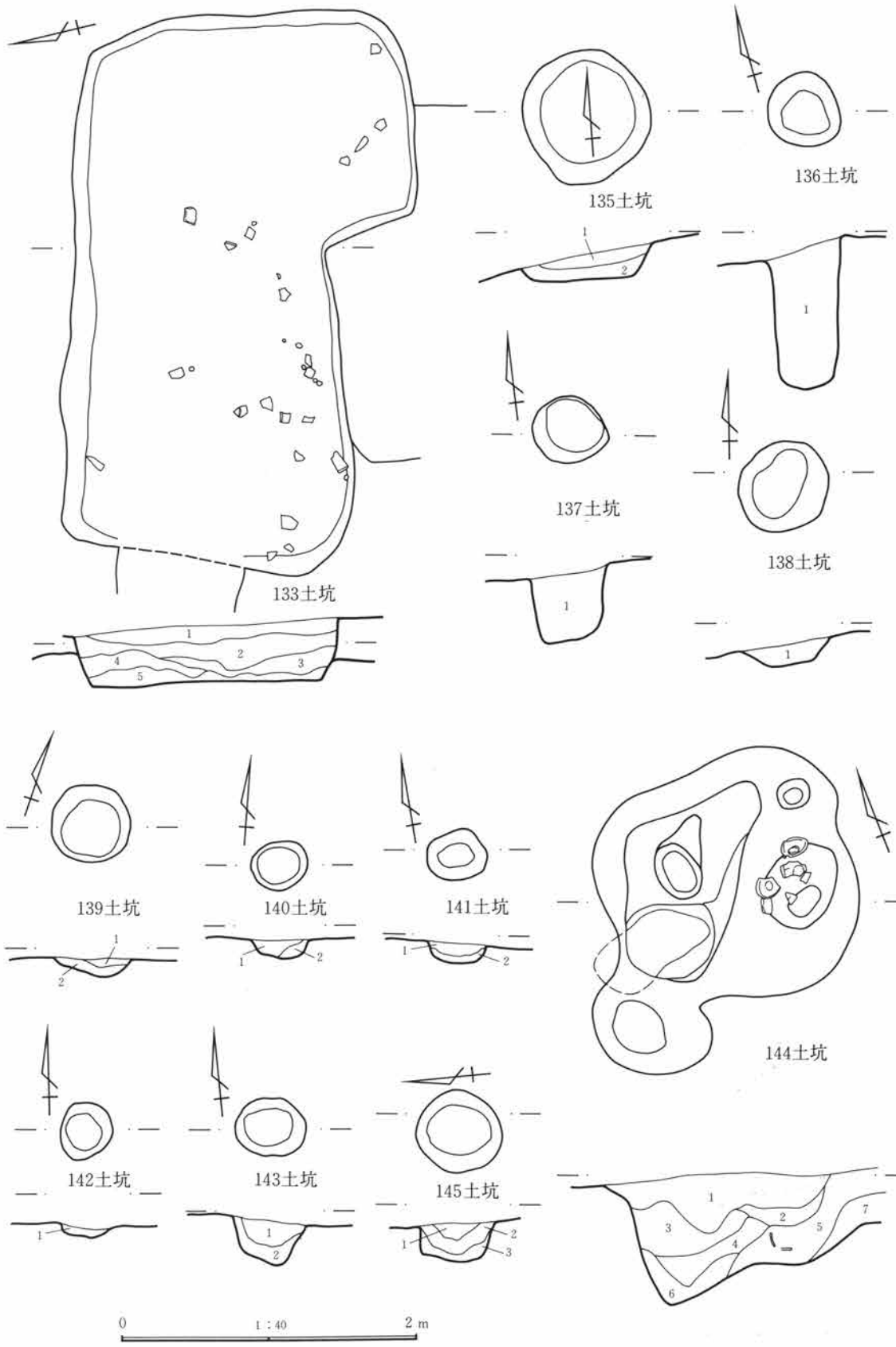
133号土坑は大型の不整長方形の土坑で、60号住・46号住を切る。椀・甕・瓦破片を出土し、覆土の様相から、平安時代の所産と思われる。



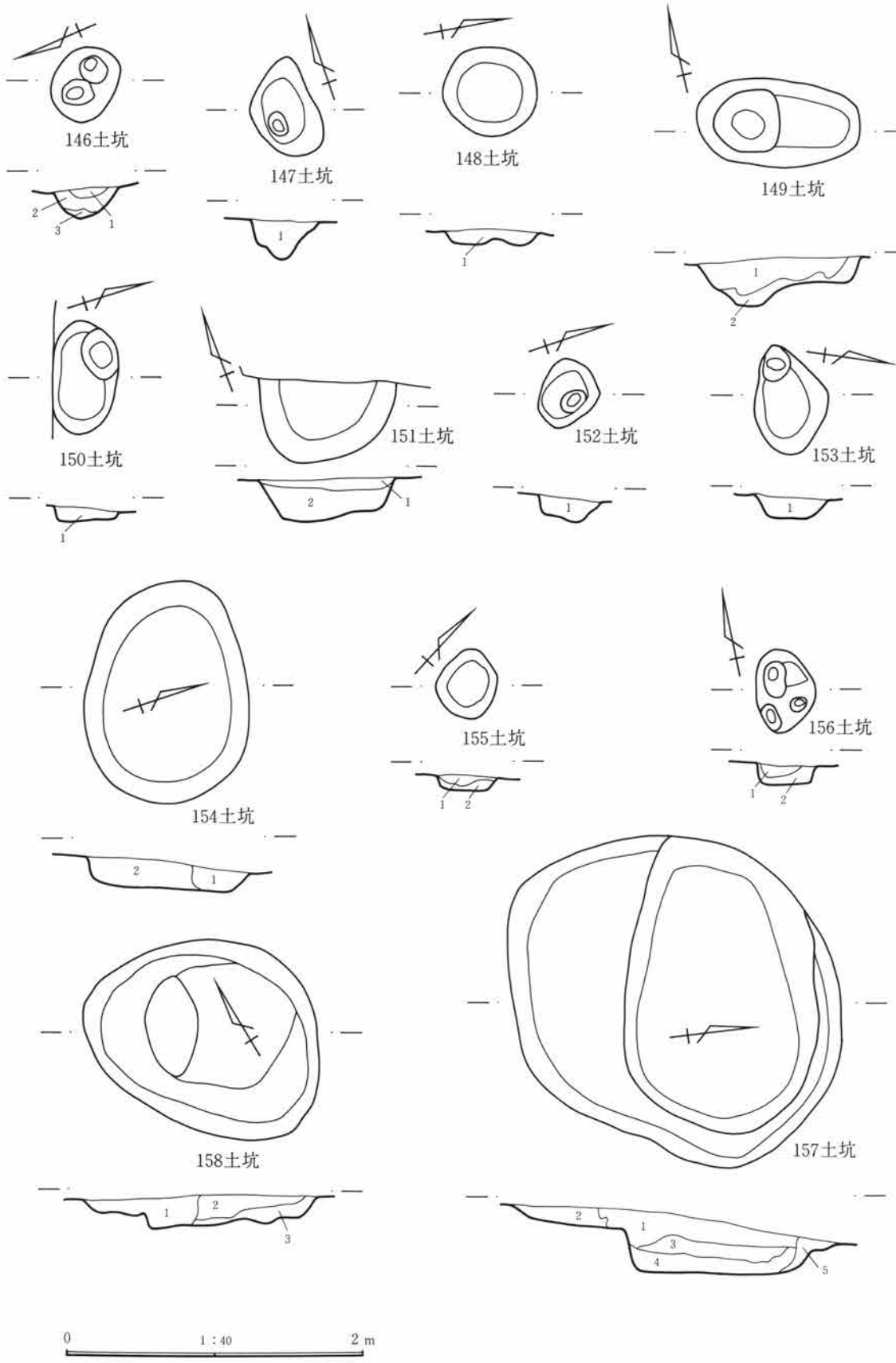
201図　土坑（108～120号）



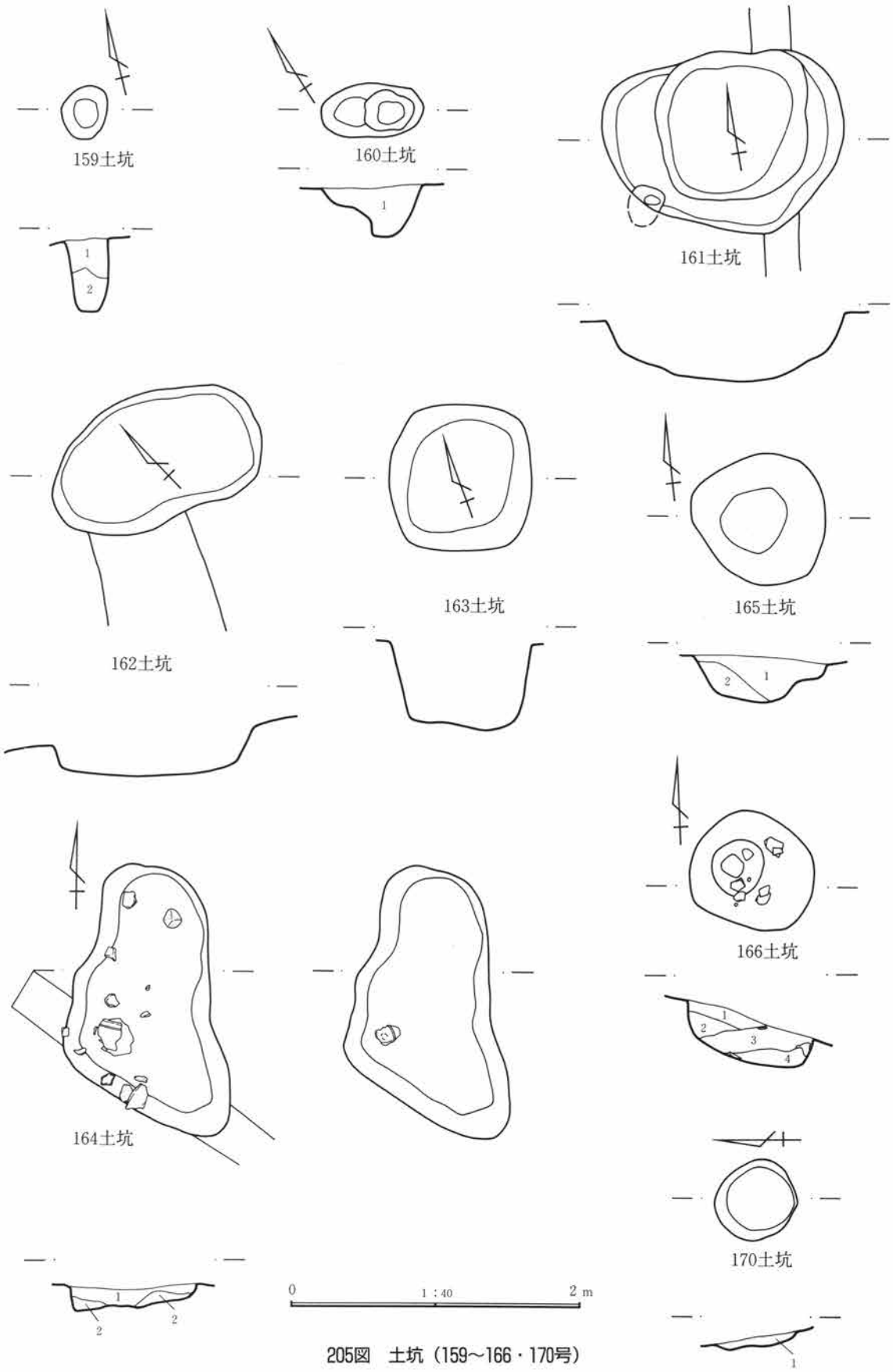
202図　土坑（122・125～132号）



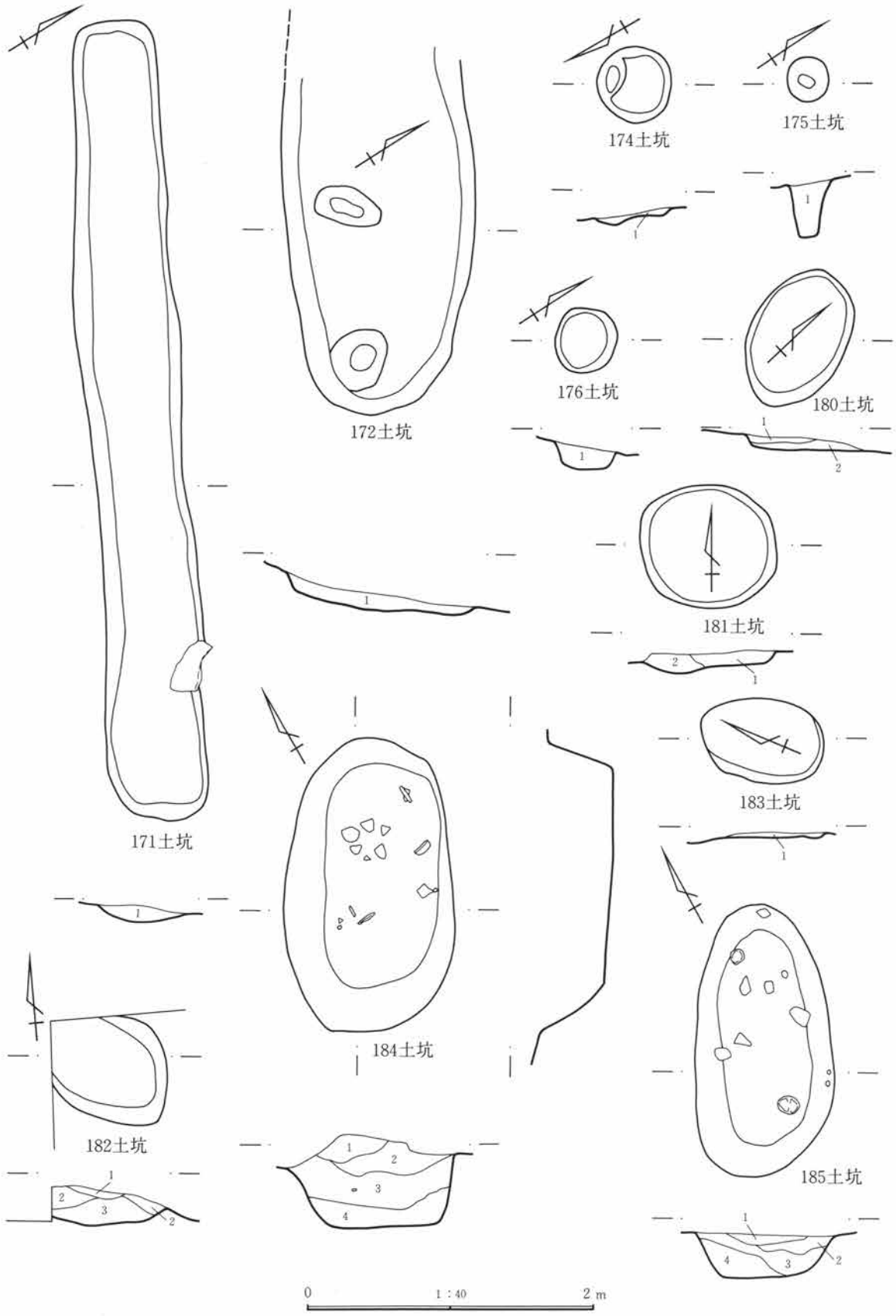
203図　土坑（133・135～145号）



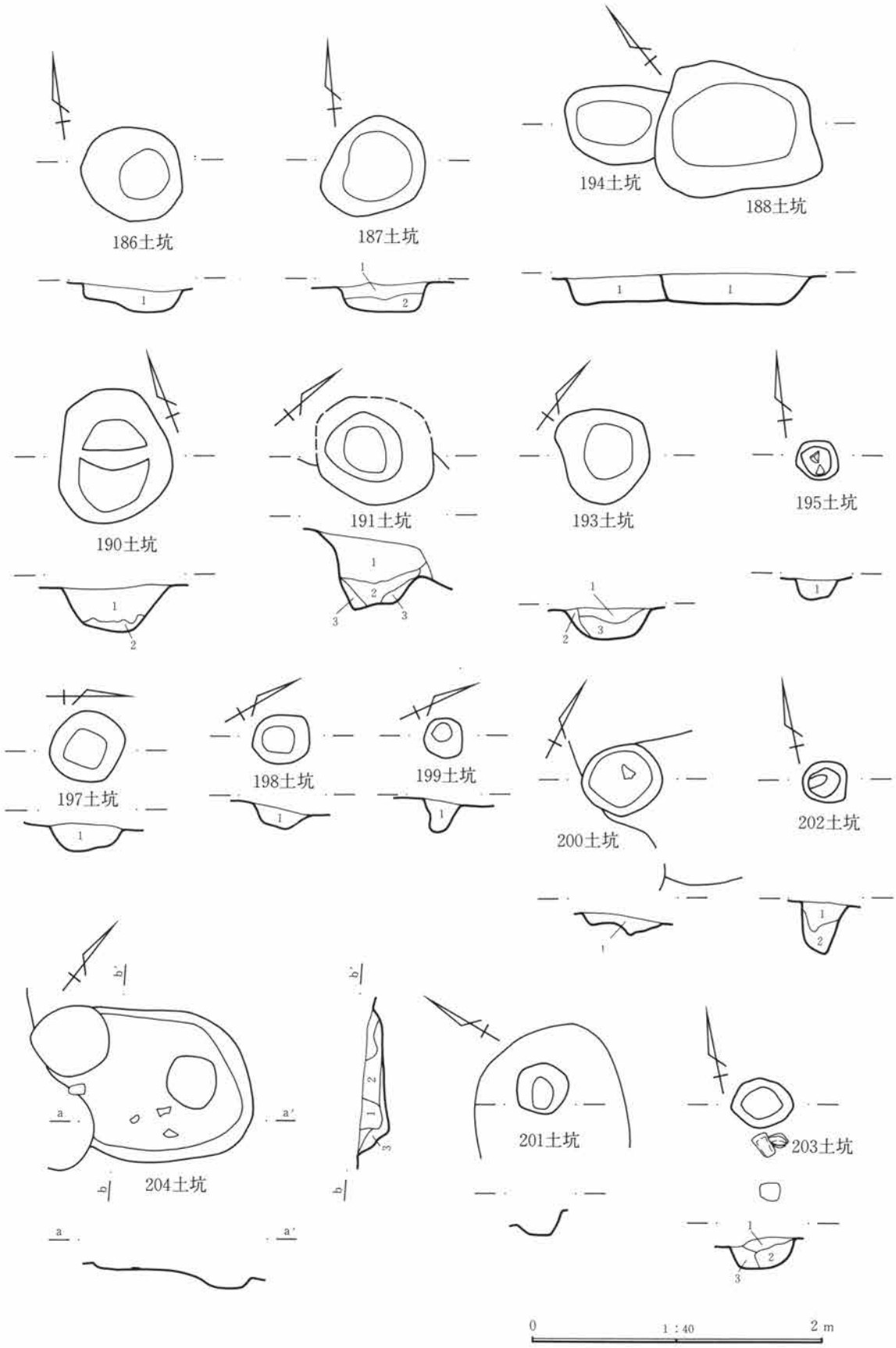
204図　土坑（146～158号）



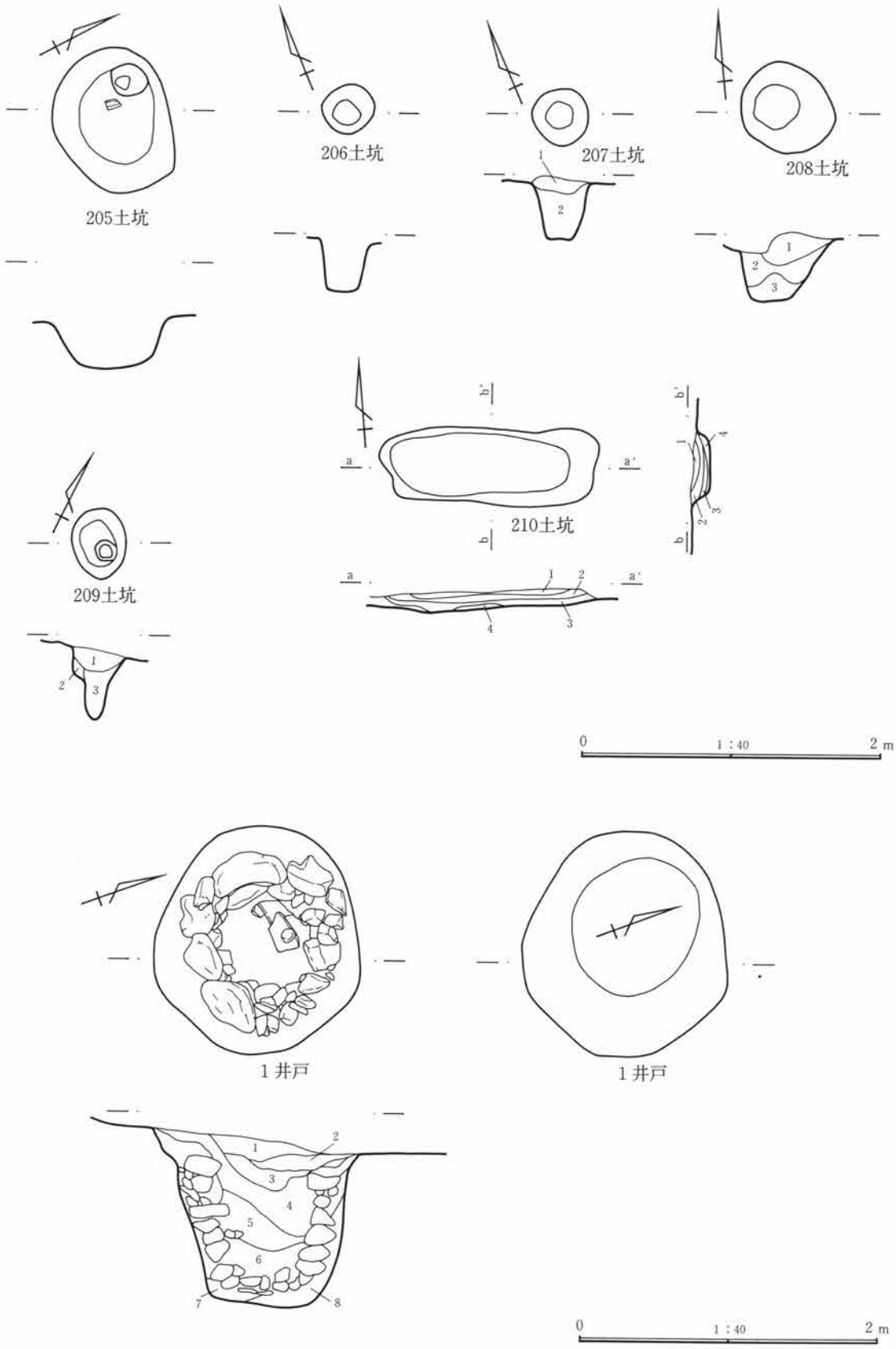
205図　土坑（159～166・170号）



206図　土坑（171・172・174～176・180～185号）



207図　土坑（186～188・190・191・193～195・197～204号）



208図　土坑（205～210号）・1号井戸

土坑土層註　Ｌ＝水糸標高値（単位ｍ）

1号土坑　Ｌ＝177.9
1　鈍褐色土　ローム粒を少量含む
2　黄褐色土　ローム粒を主体とする
2号土坑　Ｌ＝177.1
1　暗褐色土　褐色土塊と斑状堆積
2　鈍褐色土　ローム粒を含む
3　褐色土　ローム粒・炭化物含む
4　黄褐色土　ローム粒を多く含む
5　〃　ローム塊を含む
3号土坑　Ｌ＝177.3
1　暗褐色土　ローム粒を少量含む
2　黄褐色土　ローム粒を多く含む
4号土坑　Ｌ＝178.4
1　鈍黄褐色土　ローム塊を含む
2　黄褐色土　均質。しまり乏しい
3　暗褐色土　少量のローム塊を含む
5号土坑　Ｌ＝177.5
1　褐色土　ローム粒を少量含む
2　鈍黄褐色土　ローム粒を主体とする
6号土坑　Ｌ＝177.8
1　暗褐色土　ローム粒・炭化物含む
2　鈍褐色土　暗褐色土塊と斑状堆積
7号土坑　Ｌ＝178.4
1　暗褐色土　褐色土塊の斑状堆積
2　〃　均質。褐色土塊少量
3　黒褐色土　少量のローム粒を含む
8号土坑　Ｌ＝178.7
1　黒褐色土　褐色土塊の斑状堆積
2　暗褐色土　褐色土塊の斑状堆積
3　褐色土　均質。ローム粒を主体
9号土坑　Ｌ＝178.3
1　黒褐色土　粘質土。白色粒を含む
2　〃　ローム粒を多く含む
3　褐色土　ローム塊を多く含む
10号土坑　Ｌ＝179.6
1　褐色土　ローム塊を多く含む
11号土坑　Ｌ＝177.9
1　鈍黄褐色土　褐色土塊と斑状堆積
2　暗褐色土　粘質土
3　黄褐色土　ローム粒を主体
12号土坑　Ｌ＝177.6
1　褐色土　白色粒を多く含む
2　〃　白色粒を少量含む
3　暗褐色土　均質
4　黒褐色土　褐色土塊の斑状堆積
5　灰黄褐色土　粘質土が塊状に堆積
13号土坑　Ｌ＝177.4
14号土坑　Ｌ＝177.0
1　暗褐色土　白色粒を多く含む
2　褐色土　ローム粒を多く含む
3　暗褐色土　均質。粘性強い
15号土坑　Ｌ＝177.3
1　褐色土　ローム粒・炭化物を多く含む
2　鈍黄褐色土　ローム粒・炭化物を少量含む
16～18号土坑　Ｌ＝177.9
19～22号土坑　Ｌ＝178.2
23号土坑　Ｌ＝178.7
24号土坑　Ｌ＝177.7
27号土坑　Ｌ＝177.4
1　暗褐色土　白色粒を多く含む
2　褐色土　ローム粒を多く含む
3　黄褐色土　均質。ローム塊主体
28号土坑　Ｌ＝176.9
29号土坑　Ｌ＝
1　黄褐色土　As－Ａを多量に含む
2　〃　ローム塊の斑状堆積
3　褐色土　ローム粒を少量含む
30号土坑　Ｌ＝178.1
31号土坑　Ｌ＝177.0
32号土坑　Ｌ＝177.3
33号土坑　Ｌ＝176.8
34号土坑　Ｌ＝177.5
35号土坑　Ｌ＝177.8
36号土坑　Ｌ＝177.0
1　褐色土　As－Ａを少量含む
37号土坑　Ｌ＝176.5
38号土坑　Ｌ＝176.1
39号土坑　Ｌ＝174.2
40号土坑　Ｌ＝174.2
41号土坑　Ｌ＝174.5
42号土坑　Ｌ＝174.2
43号土坑　Ｌ＝
1　黄褐色土　As－Ａを多く含む
2　褐色土　均質。しまり良好
44号土坑　Ｌ＝
1　黄褐色土　As－Ａを多く含む
2　褐色土　均質。しまり良好
45号土坑　Ｌ＝
1　黒色土　炭化物を塊状に含む
2　〃　炭化物を粒状に含む
3　鈍褐色土　均質。ローム塊を含む
46号土坑　Ｌ＝179.6
50号土坑　Ｌ＝179.4
1　褐色土　As－Ａを多く含む
51・52号土坑　Ｌ＝179.4
1　暗褐色土　ローム塊少量含む
2　褐色土　ローム粒を含む
3　〃　白色粒を含む
4　暗褐色土　粘性強い
53号土坑　Ｌ＝179.7
1　黒褐色土　ローム粒・炭化物含む
2　暗褐色土　ローム粒を含む
3　黄褐色土　ローム塊主体
4　褐色土　粘質土
54号土坑　Ｌ＝179.5
1　鈍黄褐色土　均質
2　黄褐色土　均質
55号土坑　Ｌ＝179.9
1　暗褐色土　粘質土　礫混入
2　鈍黄褐色土　粘質土　ローム粒含む
3　鈍褐色土　粘質土　礫混入
4　〃　粘質土ローム粒含む
56号土坑Ｌ＝179.4
1　褐色土　As－Ａ・焼土粒含む
2　鈍黄褐色土　均質。しまりは乏しい
57号土坑　Ｌ＝178.2
1　鈍褐色土　As－Ａを多く含む
2　鈍黄褐色土　ローム塊含む
58号土坑　Ｌ＝179.4
1　暗褐色土　As－Ａを含む
59号土坑　Ｌ＝179.6
1　鈍褐色土　As－Ａを多く含む
2　鈍黄褐色土　ローム塊含む
60号土坑　Ｌ＝179.1
1　暗褐色土　ローム粒を少量含む
61号土坑　Ｌ＝179.4
1　褐色土　白色粒を少量含む
2　暗褐色土　ローム塊を多く含む
3　鈍黄褐色土　ローム塊を多く含む
62号土坑　Ｌ＝179.2
1　暗褐色土　白色粒を含む
2　黄褐色土　ローム粒を主体とする
63・64号土坑　Ｌ＝179.7
1　褐色土　白色粒を含む
2　〃　ローム粒を含む
3　黄褐色土　ローム粒を主体とする
4　〃　ローム塊を主体とする
65号土坑　Ｌ＝173.1
1　暗褐色土　ローム粒を多く含む
2　鈍褐色土　ローム粒・炭化物含む
3　褐色土　明るい。炭化物を含む
4　黄褐色土　ローム塊を主体とする
66号土坑　Ｌ＝179.9
1　暗褐色土　ローム塊を含む
2　黄褐色土　均質。粒子粗い
3　〃　ローム塊を主体
67号土坑　Ｌ＝179.8
1　黒褐色土　焼土粒・炭化物を含む
2　黄褐色土　ローム塊を主体とする
3　黒褐色土　しまり乏しい
4　暗褐色土　小型のローム塊を含む
68号土坑　Ｌ＝179.9
1　暗褐色土　黒褐色土塊を含む
2　黄褐色土　ローム塊を主体
69号土坑　Ｌ＝179.9
1　褐色土　ローム粒を少量含む
2　暗褐色土　黒褐色土塊を含む
3　鈍黄褐色土　ローム塊を主体とする
70号土坑　Ｌ＝179.8
1　褐色土　均質
2　鈍黄褐色土　ローム粒を少量含む
3　〃　ローム塊
4　〃　均質
72号土坑　Ｌ＝179.7
1　褐色土　ローム粒を含む
73号土坑　Ｌ＝180.0
1　暗褐色土　焼土塊を含む
74号土坑　Ｌ＝179.7
1　暗褐色土　白色粒少量含む
2　黒褐色土　白色粒・ローム粒含む
3　暗褐色土　褐色土塊含む
75号土坑　Ｌ＝179.5
1　暗褐色土　白色粒・ローム粒含む
2　黒褐色土　白色粒多く含む
3　暗褐色土　褐色土塊含む
76号土坑　Ｌ＝179.8
1　暗褐色土　ローム粒を含む
2　褐色土　ローム粒を含む
77号土坑　Ｌ＝179.4
1　暗褐色土　ローム粒・白色粒含む
2　黄褐色土　ローム粒を多く含む

78号土坑　L＝179.4
1　暗褐色土　ローム粒を含む
80号土坑　L＝180.1
1　灰褐色土　焼土塊・炭化物を含む
2　黒褐色土　灰色味帯びる。焼土塊・炭化物を多量に含む
3　暗赤褐色土　灰色味帯びる。大型の焼土塊・褐色土塊含む
4　赤褐色土　灰色味帯びる。焼土粒を多く含む
5　褐色土　粘性に富む。焼土粒を少量含む
81号土坑　L＝180.1
1　暗褐色土　焼土粒・炭化物を含む
2　黒褐色土　灰色味帯びる。焼土塊・炭化物を多量に含む
3　黒褐色土　焼土塊を含む
4　暗赤褐色土　褐色土塊・焼土塊含む
5　黄褐色土　灰色味帯びる。炭化物を多く含む。粘性富む
82号土坑　L＝179.3
1　暗褐色土　白色粒を含む
2　褐色土　ローム粒を主体
83号土坑　L＝180.0
1　鈍褐色土　As－Aを多く含む
2　鈍黄褐色土　ローム塊含む
84号土坑　L＝180.0
1　暗褐色土　白色粒を多く含む
2　〃　ローム塊を多く含む
85号土坑　L＝179.9
1　鈍黄褐色土　白色粒・ローム粒含む
2　黒褐色土　均質
3　暗褐色土　ローム塊を多く含む
86号土坑　L＝179.9
1　黄褐色土　白色粒・ローム粒含む
2　黒褐色土　白色粒・ローム塊含む
3　〃　均質
87号土坑　L＝179.9
1　鈍黄褐色土　白色粒・ローム粒含む
2　褐色土　ローム粒を少量含む
3　黒褐色土　均質
4　暗褐色土　ローム塊を多く含む
5　鈍黄褐色土　ローム塊を含む
88号土坑　L＝179.9
1　鈍黄褐色土　ローム粒を少量含む
2　暗褐色土　ローム塊と斑状堆積
3　鈍黄褐色土　黒色土塊の斑状堆積
4　褐色土　黒色土塊の斑状堆積
89号土坑　L＝179.9
1　暗褐色土　白色粒を多く含む
2　〃　ローム塊と斑状堆積
3　褐色土　ローム塊と斑状堆積
90号土坑　L＝179.7
1　暗褐色土　As－Aを多く含む
2　〃　ローム塊・焼土粒含む
3　褐色土　焼土塊を多く含む
4　鈍黄褐色土　ローム塊主体
101号土坑　L＝180.1
1　暗褐色土　ローム粒を含む
102号土坑　L＝180.2
1　褐色土　ローム粒・炭化物含む
2　黄褐色土　ローム塊を主体
3　褐色土　ローム粒・焼土粒含む
4　黄褐色土　ローム
103号土坑　L＝179.9
1　暗褐色土　ローム塊と斑状堆積
2　鈍黄褐色土　ローム塊主体
104号土坑　L＝179.9
1　暗褐色土　白色粒を多く含む
2　〃　やや明るい
3　鈍黄褐色土　ローム塊主体
106号土坑　L＝179.7
108号土坑　L＝179.8
1　黒褐色土　炭化物・暗褐色土塊含
2　〃　暗褐色土塊と斑状堆積
3　褐色土　ローム粒を主体とする
109号土坑　L＝179.8
1　黒褐色土　炭化物・ローム塊含む
2　〃　炭化物・褐色土塊含む
3　〃　粘性強い
110号土坑　L＝179.9
1　黒褐色土　炭化物を多く含む
2　褐色土　ローム粒を含む
111号土坑　L＝180.0
1　黒褐色土　白色粒・褐色土塊含む
2　〃　白色粒・炭化物を含む
3　〃　暗褐色土塊・炭化物含
4　暗褐色土　黒褐色土塊・炭化物含
5　黒褐色土　炭化物を多く含む
112号土坑　L＝180.1
1　暗赤褐色土　焼土塊・炭化物を含む
2　〃　焼土の塊状堆積
3　黒褐色土　大型の炭化物・焼土塊を多く含む。もろい
4　暗褐色土　少量の焼土粒を含む
113号土坑　L＝179.8
1　鈍黄褐色土　ローム塊を含む
2　褐色土　均質
114号土坑　L＝179.8
1　褐色土　ローム塊を含む
2　鈍黄褐色土　ローム塊を主体
115号土坑　L＝179.8
1　鈍黄褐色土　ローム塊の斑状堆積。焼土粒・炭化物を含む
2　〃　ローム塊・炭化物含む
3　褐色土　炭化物・大型の焼土塊を多く含む
116号土坑　L＝179.8
1　褐色土　焼土粒・炭化物を含む
117号土坑　L＝179.7
1　褐色土　焼土粒を少量含む
118号土坑　L＝179.7
1　鈍黄褐色土　ローム塊を多く含む
2　褐色土　ローム塊を多く含む
3　暗褐色土　As－Aを多く含む
4　鈍黄褐色土　ローム塊を多く含む
5　暗褐色土　As－Aを多く含む
6　黄褐色土　ローム塊を主体とする
119号土坑　L＝179.9
1　暗褐色土　ローム塊を含む
120号土坑　L＝179.8
1　暗褐色土　ローム塊・焼土粒・炭化物を多く含む
2　鈍褐色土　均質。ローム粒を含む
122号土坑　L＝179.8
1　暗褐色土　炭化物・白色粒を含む
2　黒褐色土　炭化物・土器粒を含む
3　暗褐色土　炭化物・褐色土塊を含
125号土坑　L＝180.0
1　褐色土　焼土粒を少量含む
2　鈍黄褐色土　白色粒を多量に含む
126号土坑　L＝180.1
1　褐色土　白色粒を少量含む
2　〃　均質
3　鈍黄褐色土　白色粒を多量に含む
127号土坑　L＝179.0
1　褐色土　ローム粒を含む
2　暗褐色土　均質
3　鈍黄褐色土　ローム粒を主体
129号土坑　L＝179.6
1　暗赤褐色土　焼土塊・炭化物を含む
2　暗褐色土　炭化物・礫を含む
130号土坑　L＝179.6
1　灰黄褐色土　炭化物・ローム粒含む
2　暗赤褐色土　炭化物・焼土粒を多量に含む。赤みを帯びる
3　暗褐色土　炭化物・ローム塊含む
131号土坑　L＝179.6
1　暗赤褐色土　炭化物・焼土粒含む
2　暗褐色土　炭化物・焼土粒含む
132号土坑　L＝179.8
133号土坑　L＝179.5
1　暗褐色土　炭化物・白色粒を含む
2　〃　炭化物・白色粒・土器粒を含む
3　黒褐色土　暗褐色土塊と斑状堆積。炭化物・土器粒を含む
4　褐色土　炭化物微量含む
5　黒色土　暗褐色土塊を含む
135号土坑　L＝182.5
1　黄褐色土　白色粒少量含む
2　〃　ローム塊主体
136号土坑　L＝182.7
1　黄褐色土　ローム塊主体
137号土坑　L＝182.7
1　黄褐色土　均質
138号土坑　L＝181.0
1　黄褐色土　均質
139号土坑　L＝181.1
1　黄褐色土　均質
2　明黄褐色土　ローム塊主体
140号土坑　L＝180.5
1　褐色土　砂質
2　明黄褐色土　ローム塊主体
141号土坑　L＝180.2
1　鈍黄褐色土　白色粒を含む
2　黄褐色土　ローム塊主体
142号土坑　L＝180.0
1　黄褐色土　褐色土塊と斑状堆積
143号土坑　L＝180.0
1　黄褐色土　白色粒含む
2　鈍黄褐色土　均質

144号土坑　L＝179.0
1　暗褐色土　白色粒と粘土を含む
2　〃　粘土塊を含む
3　褐色土　ローム粒を多く含む
4　〃　均質
5　〃　ローム粒を多く含む
6　暗褐色土　砂質
7　褐色土　均質。地山近似
145号土坑　L＝179.6
1　暗褐色土　炭化物・黒褐色土塊含
2　黒褐色土　炭化物・暗褐色土塊と斑状堆積
3　〃　白色粒・暗褐色土塊と斑状堆積
146号土坑　L＝179.0
1　暗褐色土　炭化物を含む
2　黒褐色土　白色粒・褐色土塊含む
3　暗褐色土　均質
147号土坑　L＝179.7
1　黒褐色土　ローム粒を含む
148号土坑　L＝179.6
1　黒褐色土　炭化物を含む
149号土坑　L＝179.7
1　暗褐色土　ローム粒・炭化物含む
2　黒褐色土　炭化物を微量含む
150号土坑　L＝179.0
1　暗褐色土　炭化物・ローム粒含む
151号土坑　L＝178.9
1　黒褐色土　炭化物・白色粒を含む
2　暗褐色土　炭化物・白色粒を含む
152号土坑　L＝179.3
1　暗褐色土　白色粒・褐色土塊含む
153号土坑　L＝179.3
1　暗褐色土　As－Aを少量含む
154号土坑　L＝179.4
1　暗褐色土　炭化物・白色粒を含む
2　〃　明るい。しまり良好
155号土坑　L＝179.4
1　暗褐色土　炭化物を少量含む
2　〃　褐色土塊の斑状堆積
156号土坑　L＝179.5
1　暗褐色土　炭化物・白色粒を含む
2　〃　褐色土塊の斑状堆積
157号土坑　L＝179.7
1　暗褐色土　白色粒・ローム塊多く含む。炭化物少量
2　〃　ローム塊・土器粒含む
3　〃　暗い色調
4　鈍褐色土　炭化物・土器粒含む
5　黄褐色土　ローム塊主体
158号土坑　L＝179.8
1　暗褐色土　白色粒を多く含む
2　〃　炭化物・土器粒を含む
3　〃　暗い色調
159号土坑　L＝178.8
1　暗褐色土　炭化物・白色粒を含む
2　黒褐色土　暗褐色土塊を斑状堆積
160号土坑　L＝178.9
1　黒褐色土　均質。炭化物を含む
161号土坑　L＝178.5
162号土坑　L＝179.3
163号土坑　L＝178.0
164号土坑　L＝178.0
1　黒褐色土　白色粒・炭化物含む
2　暗褐色土　ローム粒を多く含む
165号土坑　L＝178.1
1　暗褐色土　ローム粒・炭化物含む
2　〃　ローム粒を少量含む
166号土坑　L＝179.5
1　褐色土　白色粒を多く含む
2　〃　焼土粒・炭化物を含む
3　暗赤褐色土　焼土塊・灰・炭化物を含む
4　褐色土　焼土粒・炭化物を含む
170号土坑　L＝178.1
1　鈍褐色土　炭化物を含む
171号土坑　L＝178.5
1　明黄褐色土　粘性・しまりに富む
172号土坑　L＝178.5
1　明黄褐色土　粘性・しまりに富む
174号土坑　L＝178.4
1　明黄褐色土　粘性・しまりに富む
175号土坑　L＝178.4
1　鈍黄褐色土　ローム塊主体
176号土坑　L＝178.6
1　鈍黄褐色土　ローム塊主体
180号土坑　L＝178.6
1　褐色土　白色粒を多く含む
2　鈍黄褐色土　砂質。固くしまる
181号土坑　L＝178.6
1　褐色土　ローム粒を多く含む
2　〃　白色粒を多く含む
182号土坑　L＝178.5
1　暗褐色土　焼土粒・炭化物を含む
2　褐色土　ローム粒・炭化物を含
3　鈍黄褐色土　ローム粒・焼土粒含む
183号土坑　L＝178.5
1　暗褐色土　焼土粒を少量含む
2　〃　ローム塊を多く含む
184号土坑　L＝178.1
1　暗褐色土　粘土塊・ローム塊含む
2　鈍褐色土　ローム塊を多く含む
3　暗褐色土　炭化物・焼土粒を含む
4　〃　炭化物を少量含む
185号土坑　L＝178.1
1　黄褐色土　炭化物を含む
2　褐色土　ローム粒・炭化物含む
3　〃　やや暗い色調
4　暗褐色土　炭化物を多く含む
186号土坑　L＝178.1
1　暗褐色土　粘土塊・ローム塊含む
187号土坑　L＝178.1
1　褐色土　ローム塊・炭化物含む
188号土坑　L＝178.1
1　褐色土　粘土塊多く含む
190号土坑L＝179.3
1　暗褐色土　炭化物多く含む
2　黒褐色土　ローム粒を少量含む
191号土坑　L＝185.8
1　暗褐色土　炭化物微量含む
2　〃　暗い色調
3　黒褐色土　炭化物を多く含む
193号土坑　L＝178.1
1　褐色土　炭化物を少量含む
2　〃　ローム粒を少量含む
3　黄褐色土　ローム塊主体
194号土坑　L＝178.1
1　褐色土　均質
195号土坑　L＝178.1
1　暗褐色土　炭化物・ローム粒含む
197号土坑　L＝177.9
1　暗褐色土　炭化物・灰を含む
198号土坑　L＝177.9
1　暗褐色土　粘質土
199号土坑　L＝177.4
1　暗褐色土　炭化物を含む
200号土坑　L＝178.0
1　暗褐色土　白色粒を含む
201号土坑　L＝177.8
202号土坑　L＝177.9
1　褐色土　ローム塊を少量含む
2　暗褐色土　均質
203号土坑　L＝178.3
1　褐色土　均質
2　〃　やや暗い色調
3　〃　粘性・しまりに富む
204号土坑　L＝177.9
1　暗褐色土　焼土粒を少量含む
2　褐色土　炭化物・ローム粒含む
3　鈍黄褐色土　ローム塊を主体とする
205号土坑　L＝178.2
206号土坑　L＝178.2
207号土坑　L＝178.2
1　褐色土　炭化物を少量含む
2　〃　粘性強い
208号土坑　L＝178.2
1　褐色土　白色粒を含む
2　黄褐色土　ローム塊を主体
3　褐色土　ローム粒を含む
209号土坑　L＝177.8
1　褐色土　ローム粒を含む
2　暗褐色土　均質
3　〃　ローム粒を含む
210号土坑　L＝186.0
1　暗褐色土　炭化物主体
2　褐色土　炭化物主体
3　炭化物層
4　鈍黄褐色土
1号井戸　L＝179.5
1　暗褐色土　やや暗い色調。ローム塊を含む
2　〃　粘質土。大型のローム塊を多く含む
3　〃　粘質土。小型のローム塊を含む
4　黒褐色土　大型のローム塊・礫を含む。しまりは乏しい
5　〃　大型のローム塊・小型の礫を含む
6　〃　小型のローム塊・炭化物を含む
7　黄褐色土　ローム塊を主体とする
8　〃　やや鈍い色調を呈す

144号土坑は坏２・高台付皿が出土している。不整形の平面形・断面形を呈すことから、あるいは他の自然的な落ち込み（風倒木など）が重複するのかもしれない。平安時代の所産としたい。

164号土坑も不整形な平面形ながら、坏・羽釜・大甕口縁部を出土した。東尾根の１号掘立柱建物跡などと近接し、当地点の濃密な遺物・遺構分布の一端である。

166号土坑は東尾根の東斜面で検出された小型円形の土坑。高台付椀・甕・羽釜の破片、平瓦片が出土している。覆土にも焼土・炭化物が含まれており、同様に、東尾根斜面に位置する65号坑との関連も念頭に置きたい。

181号土坑は浅い円形の規模で、高台付椀を出土した。覆土も平安時代に近い。

184号土坑は楕円形の平面形を呈し、深さも約60㎝と深い。出土遺物は多く、高台付椀・灰釉陶器椀・羽釜・大甕が見られ、特筆すべきは鉈も出土している。平安時代。185号土坑は184号坑東に並ぶ。故に両土坑とも墓壙としても位置付けられている。坏・椀が出土している。

186号土坑は小型のピットである。その周辺より７号溝にかけて灰釉陶器皿が目立って出土した。これらの灰釉陶器は本土坑に帰属するものではないが、７号溝・54号住・55号住・184号坑からも灰釉陶器が出土しており、東尾根区の性格に複雑さを増す。

210号土坑は頂部区の79号住北に接して検出された。焼土坑とされる。不整楕円形を呈し、焼土・炭化物が薄く層をなす。

（井戸）

中尾根東区の南東に位置し、１号テラス状遺構の北側崖状斜面の下端で検出された。石組の井戸である。平面形はややいびつな円形を呈し、その径は約1.4ｍ程度である。深さは約116㎝を測り、井戸としては浅い深度である。しかし、調査中より少量ながら湧水し、当地域の地下水位の高さを実感した。石組は大型の自然石を使用し、壁を補強する形で整然と組まれていた。井戸底面からも自然石が出土したが、石敷きではなく、崩落によるものである。井戸覆土は明らかに人為的埋没で、ローム塊および炭化物・焼土が混入していた。石組外側の土層は黄褐色土を基調としており、下半は灰褐色粘土で補強されていた。

出土遺物は少ないながら、底面より平瓦・丸瓦と高台付椀底部が出土している。故に時期は平安時代の所産としたい。

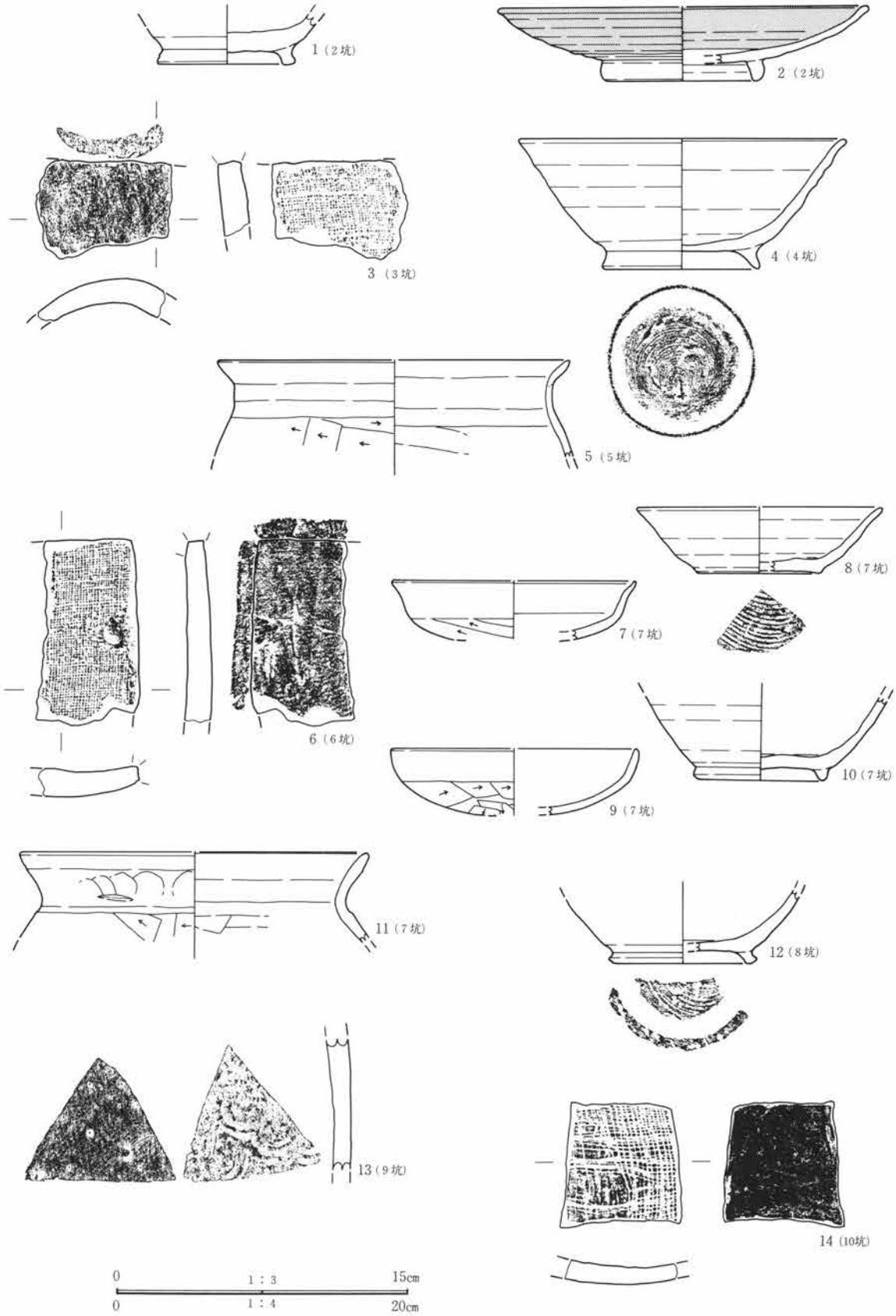
（土坑・井戸出土遺物）

ここでは、土坑出土遺物を概観するが、前述のように、土坑出土遺物の中には、流入によるものが多く、その土坑に主体的に出土したものは少ない。また、土坑そのものの性格を示唆し得る出土状態を見せた遺物も多くはない。

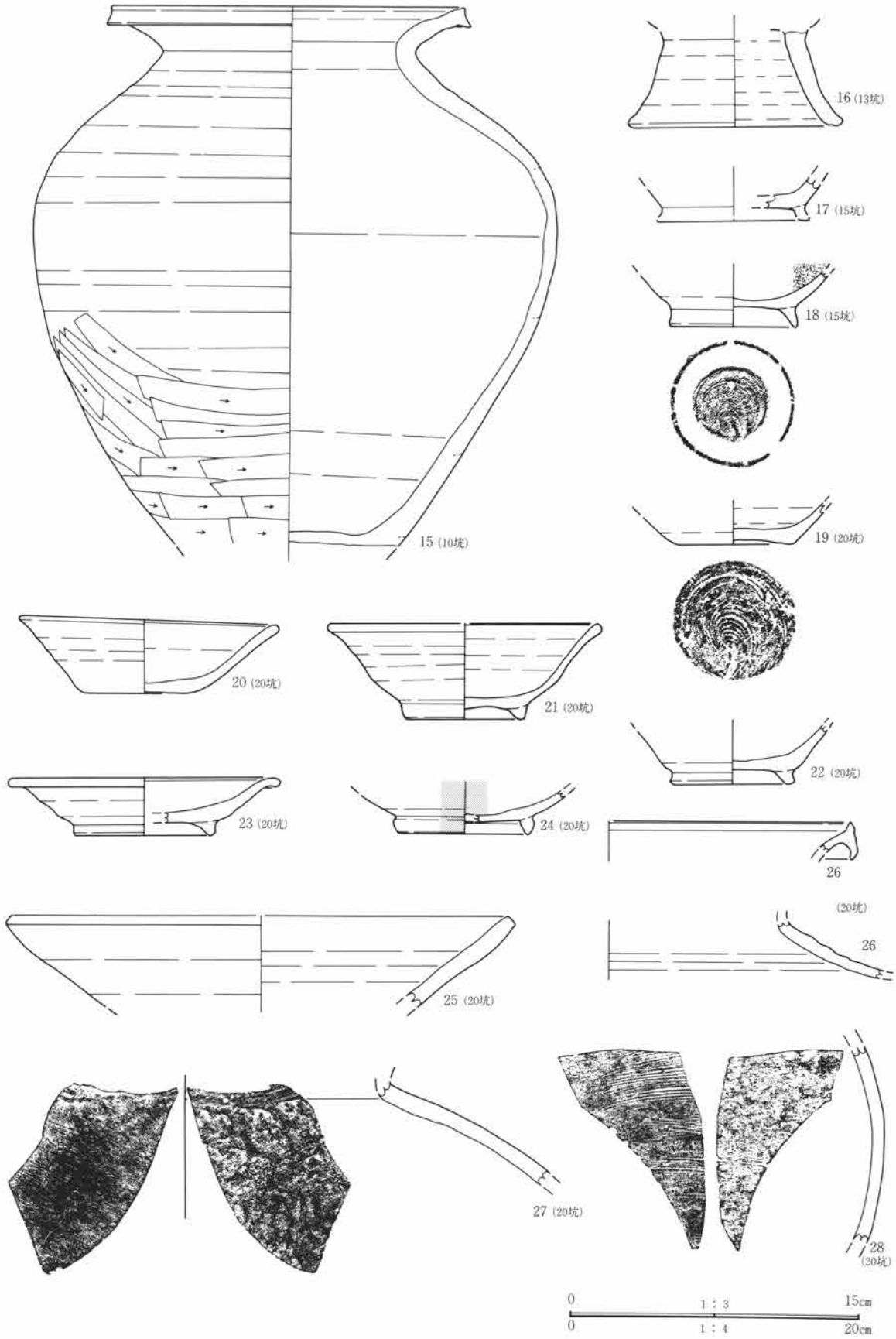
１・２は２号坑（平安）出土。１の高台付椀底部は底部器厚厚く、器面は脆弱である。２は灰釉陶器高台付皿。体部下半は回転篦削り。施釉は漬け掛け。

３は３号坑（近世）出土の丸瓦。４は４号坑（近世）出土の高台付椀。薄手の器厚を呈し、強い轆轤目で口縁部は外反する。５は５号坑（近世）出土。「コ」字甕である。口縁部横撫で、体部外面は横位篦削り。内面は篦撫で。

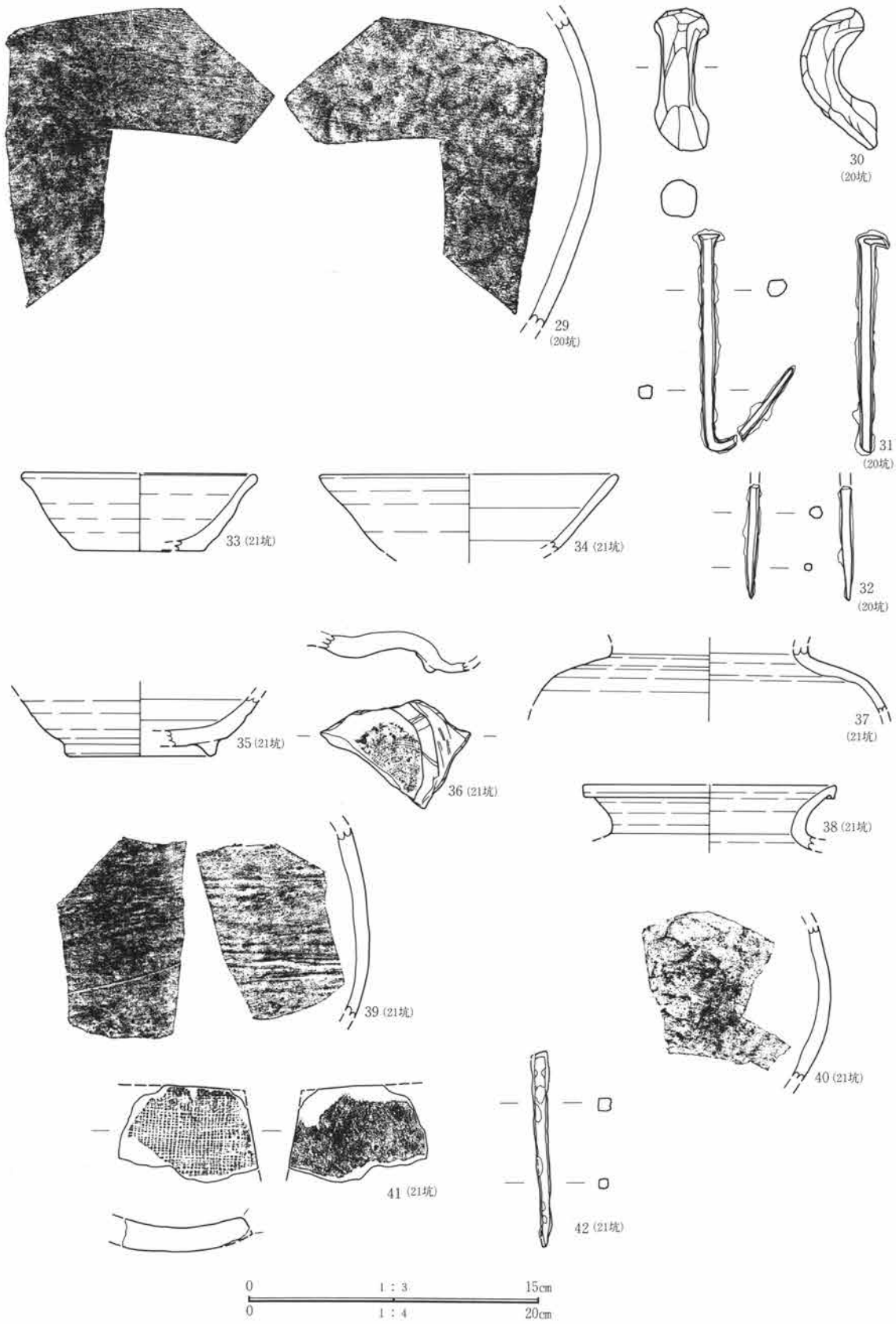
６の平瓦は６号坑（平安）出土。７～11は７号坑（平安）出土。７・９は土師器坏口縁部破片。７の口縁部は外反し口唇部にかけてやや内彎する。体部は篦削り。９の口縁部は丸みを帯び、内彎気味。体部の篦削りは



209図　土坑出土遺物（２～10号）



210図　土坑出土遺物（10・13・15・20号）



211図　土坑出土遺物（20・21号）

不定方向。8は須恵器坏。胎土は緻密で、断面色調は赤褐色を呈す。体部中位に僅かな膨らみを持たせる。10は高台付椀。高台はやや短い。11は土師器甕。頸部は屈曲し、やや厚手の器厚を呈す。口縁部指頭圧痕。体部篦削り。体部内面は篦撫で。

12は8号坑（近世）出土の高台付椀底部破片。13の大甕体部破片は9号坑（近世）出土。外面平行叩、内面青海波文が残る。

14、10号坑（平安）出土の平瓦。15も10号坑出土。大甕で底面が欠損する。口縁部は大きく開き、頸部は屈曲する。体部中位に最大径を持ち、外面下半に斜位・横位の篦削りを施す。内面剝落多い。

16は13号坑（近世）出土の高台部破片。器厚は厚い。17・18は15号坑（近世）出土の高台部。17はあるいは高台付瓶か。18は高台付椀底部で内面は研磨黒色処理される。

19～32は近世土坑である20号坑出土。19・20は坏。20の口縁部は僅かに歪む。21・22は高台付椀。21、薄手で口縁部は外反し体部下半に膨らみを持つ。高台は直立気味。22はやや厚手。23は高台付皿。口唇部は外反し玉縁状となる。全体に厚手の器厚を呈す。24は灰釉陶器皿。施釉は漬け掛け。25は鉢であろう。口縁部破片。轆轤整形で口縁部は歪む。片口鉢の可能性もある。26は大甕口縁部・肩部破片。薄手である。27は大甕肩部破片。外面平行叩、内面円環状当て目。28も大甕体部破片。外面平行叩、内面円環状当て目。29もあるいは同一個体か。30は甕あるいは瓶の肩部に付される把手。小型で削りによる整形を施す。31・32は鉄釘。31の頭部は折り返し処理。下半は折り曲げている。33～43は21号坑出土。この土坑も近世の所産である。33は坏破片。体部下半の器厚は厚く口縁部は若干外反する。34は椀口縁部破片。体部下半に丸みを帯びる。35は高台付椀底部破片。やや厚手。36も高台付椀底部破片。著しく歪み、器肉も多孔質である。37は甕肩部破片。38と同一個体の可能性がある。39は大甕体部破片。外面叩き後撫で。内面も横撫で。40も大甕体部破片。内面は円環状当て目。外面には自然釉付着。41は平瓦。42は鉄釘。43は軒平瓦。44・45も近世の22号坑出土。土師器甕破片である。46・47は26号坑出土。土坑は近世の所産。46は坏底部。47は高台付椀底部。底部器厚は薄手である。

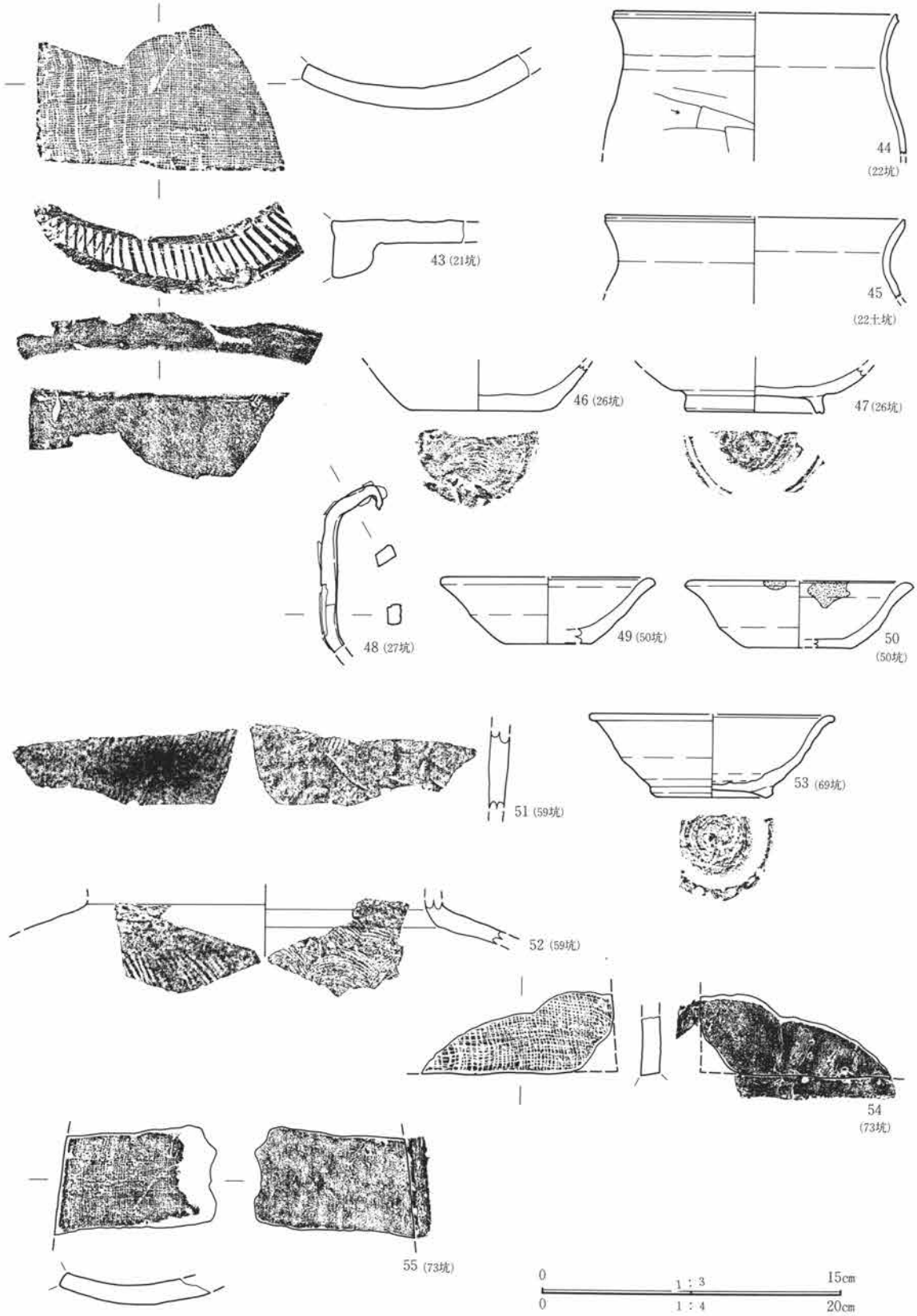
48は27号坑（平安）出土の鉄釘。頭部は折り返し。上半と下半で湾曲する。

49・50は50号坑（近世）出土の小型坏。酸化焰焼成で油煙が付着する。51・52は59号坑（近世）出土の大甕破片。外面平行叩、内面青海波文。

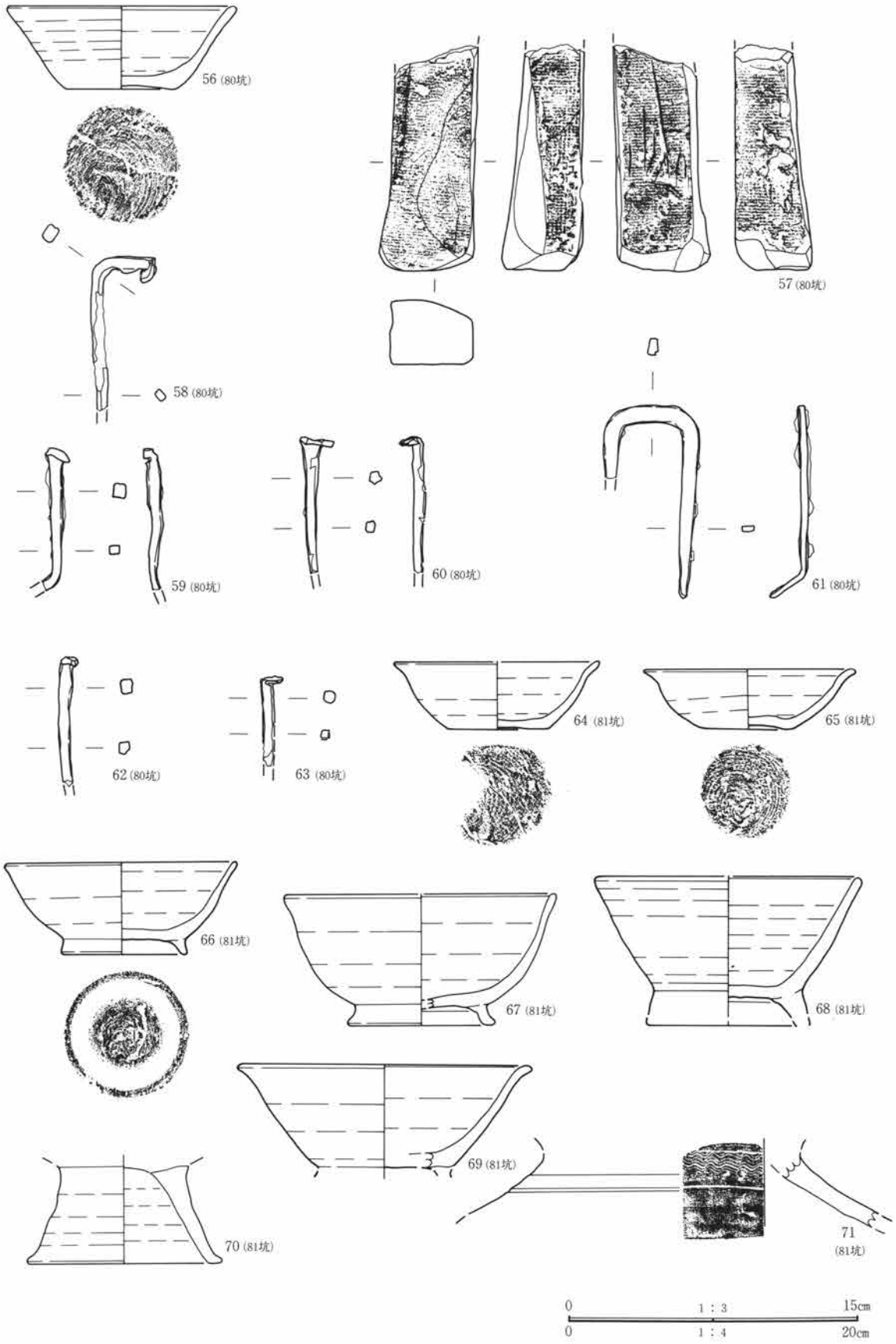
53の高台付椀は69号坑（平安）出土。薄手で口縁部は外反し体部中位に膨らみを持つ。高台は短い。54・55は73号坑（平安）出土の平瓦。

56～63は80号坑出土遺物。56の小型坏はほぼ完形で、直線的な体部を呈す。80号坑出土破片とも接合した。57は砥石。手持ち砥で半折している。左端に図示した1面が多使用面で他の面の使用は少い。また右側面に櫛歯状の「タガネ」が看取される。反対面には線状の使用痕が見られるが、摩滅度は少ない。石材は白色の砥沢石製である。58～63は鉄製品。61は鎹であろう。末端は折れる。他は鉄釘。頭部は折り返し処理。

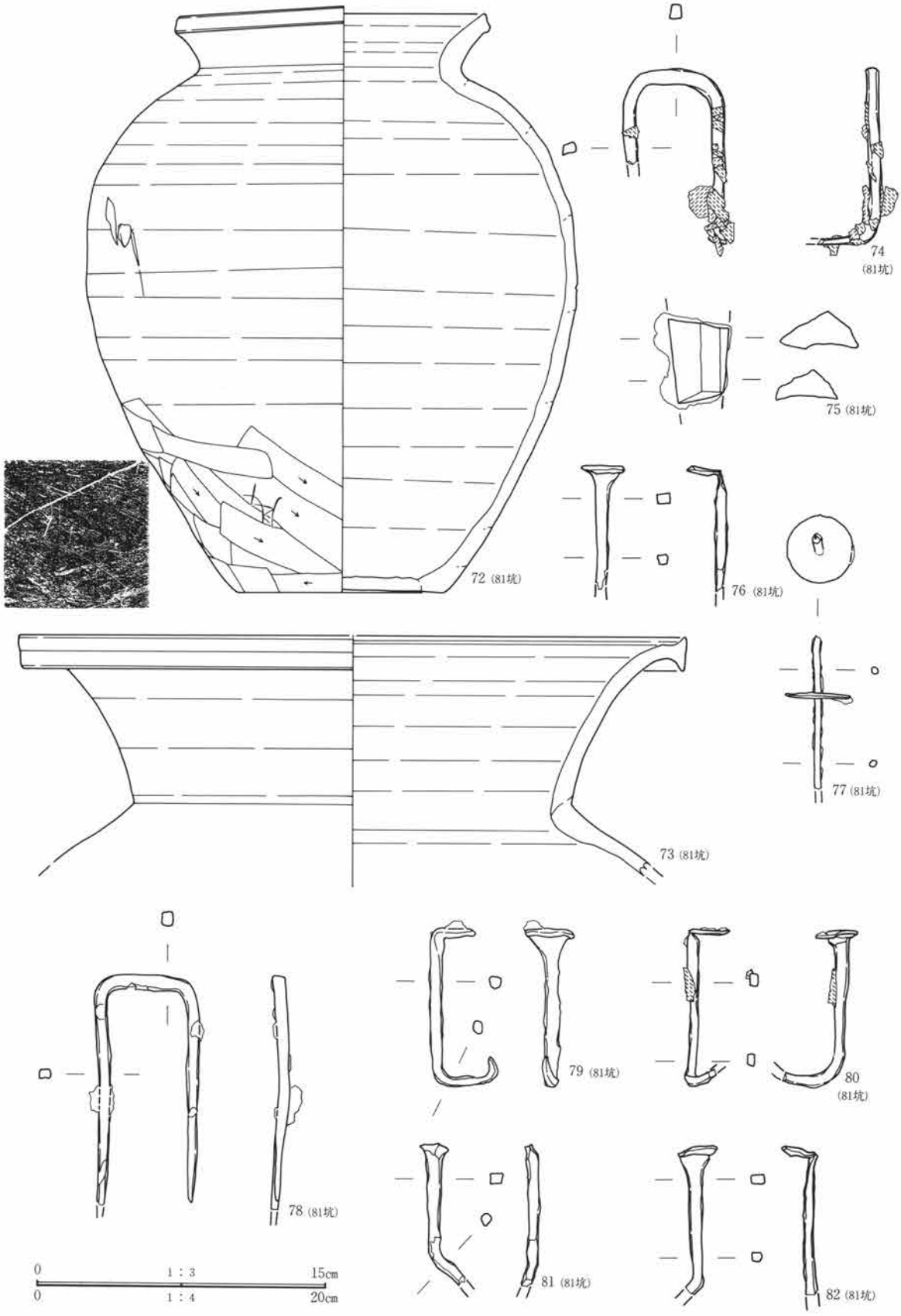
64～82は81号坑出土。64・65は小型で口縁部は外傾し、体部に膨らみを持つ坏。器厚は薄手。65は完形である。66は高台付椀。口縁部はやや薄手の器厚を呈し、高台は開き気味に貼付される。67はやや大振りの高台付椀。高台は開き、体部下半に安定感を持つ。口縁部に歪みがある。68は直線的な体部形態を呈す椀。身深で体部器厚は薄手。端部欠損する高台は厚手である。酸化焰気味の焼成。69の高台付椀も高台が欠損する。口縁部は緩やかに外反し、体部は開き気味ながら直線的である。70は高足椀高台部。轆轤目強く上端部は丁寧な横撫で。71は大甕頸部破片。横位沈線と波状文が施される。72は須恵器大甕。右回転轆轤整形で、整った作りである。口縁部径は比較的小さく、体部上半に最大径を持つ。外面体部下半に斜位・横位篦削りと一部に横位篦撫でが施される。薄く線刻が看取されるが、判読不能。73は大甕口縁部。頸部に波状文3段が施される。器面は



212図　土坑出土遺物（21・22・26・27・50・59・69・73号）



213図　土坑出土遺物（80・81号）



214図　土坑出土遺物（81号）

内外とも著しく摩滅している。74～82は鉄製品。74は鎹か。軸部末端に木質の付着物。75は不明品。全体の半分以上を欠失か。76は鉄釘。頭部は薄く折り返し処理。77は紡錘車。軸部両端とも欠損。78は鎹。先端部欠損。79～82は鉄釘で軸部下半より折り曲げる。79は先端部も折り曲げている。頭部は折り返し処理。

83は89号坑出土の平瓦。84～86は90号坑出土。84・85は須恵器大甕体部破片。86も甕体部破片だが、内面は研磨され、おそらく転用硯であろう。89・90号坑とも近世の所産と思われる。

87は110号坑出土の平瓦。土坑覆土は平安時代。やや薄手の酸化気味の焼成で凸面は無文叩後縦位撫でが加わる。

88～90は112号坑（平安）出土。88は大甕頸部破片。横位沈線と波状文を施す。81号坑71と同一個体の可能性は強い。89・90は平瓦。凸面は撫でが加わる。本土坑は焼土・炭化物も検出され、これら甕・瓦破片も共伴することから、竈の残骸とも思われる。

91・92は115号坑（平安）出土。91は甕、あるいは羽釜底部。轆轤整形で篦削り後撫でを施す。酸化焔焼成であろうか色調は橙色を呈す。92は鉄釘。先端にかけて折れ曲がる兆しを見せる。

93・94は120号坑（平安）出土。93は小型の坏で器厚は薄手。94は大甕体部破片。外面平行叩後撫で、内面は円環状当て目。積み上げの痕跡が明瞭である。

95～98は122号坑（平安）出土。95は油煙が多量に付着する坏。厚手の器厚を呈し、体部は直線的である。底面には棒状工具の当て目が残る。器面は摩滅。96は羽釜。口縁部は内傾し、全体に膨らみを持つ。鍔は鋭い。体部外面に篦撫でが僅かに看取される。97・98は平瓦。97の凸面は縦位撫で。98は平行叩。

99・100は123号坑（平安？）出土。99は高台付椀。口縁部～体部の歪みが著しい。高台は薄手で丁寧な横撫でで貼付される。高台部底面に油煙が付着する。あるいは逆位利用がなされたのかもしれない。100は小型甕。口縁部は直立気味で体部は緩やかに膨らむ。轆轤整形で体部の轆轤目強く鋭い印象を得る。酸化焔焼成。

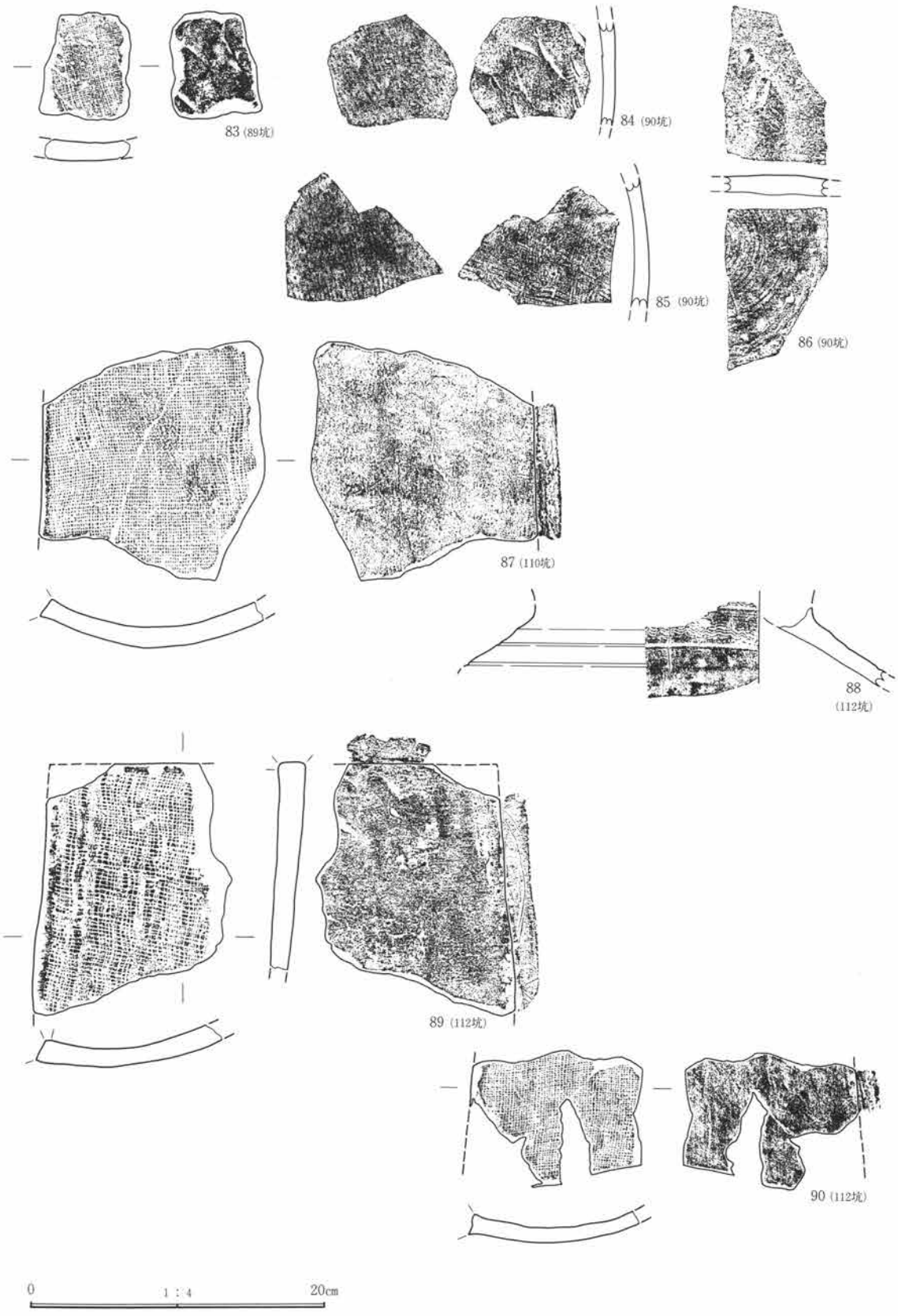
101は129号坑（平安）出土の平瓦。102の刀子は130号坑（平安）出土。片刀である。103は131号坑（平安）出土。口縁部が強く内傾する羽釜。104は132号坑（近世？）出土。高台が欠損する椀で、口縁部は外反する。口唇部は比較的鋭い。

105～111は133号坑（平安）出土。105は高台付椀底部。高台はやや開き気味に貼付される。やや厚手の器厚を呈す。106は椀口縁部破片。口縁部は僅かに外反する。107は大甕口縁部破片。器厚はやや厚手。内外面に自然釉が付着する。108は大甕体部破片。外面には自然釉が薄く付着。外面は平行叩、内面は円環状の当て目と横位撫で。109も大甕体部破片。外面は平行叩、内面は横位撫で。110も大甕体部破片。外面削り後撫で、自然釉が掛かる。内面は横位撫で。111は丸瓦。凸面は縦位削りが施される。

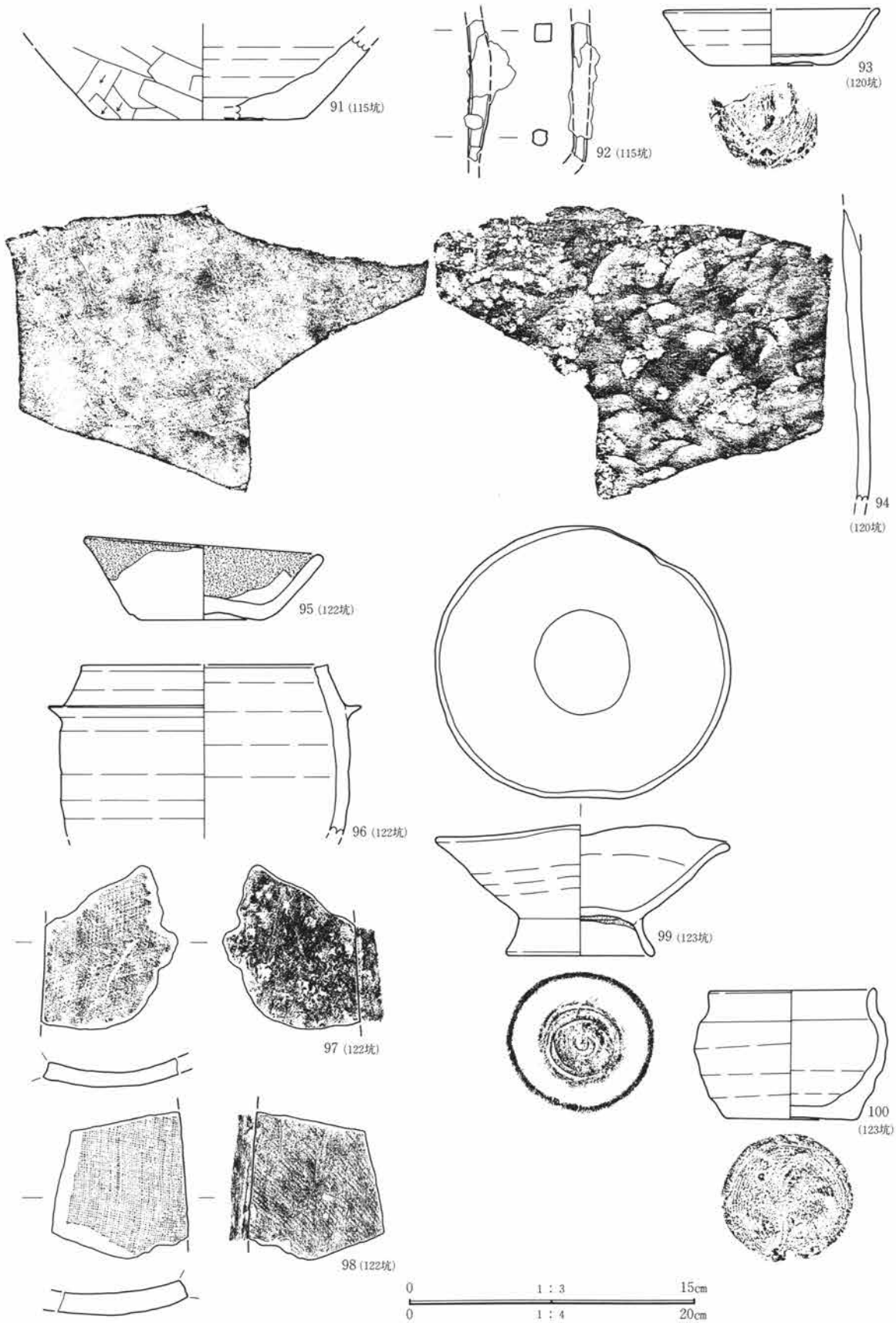
112～117は144号坑（平安）出土。112の坏体部は直線的に大きく開く。器厚は薄手で全体に摩滅する。113も同型の坏。底部器厚はやや薄手。114は坏底部。底面は撫でが及ぶ。115は完形の高台付皿。口縁部は外反する。体部は直線的で高台はしっかりしている。底部器厚は厚手。116は高台付椀。内外面の器壁剝落著しい。117は大甕口縁部破片。外面は自然釉付着、内面は撫で。薄手の器厚を呈し、器肉は多孔質である。

118は162号坑（近世）出土の羽釜。口縁部は直立気味。119は158号坑（近世）出土。平瓦片。凸面は叩後縦位撫で。

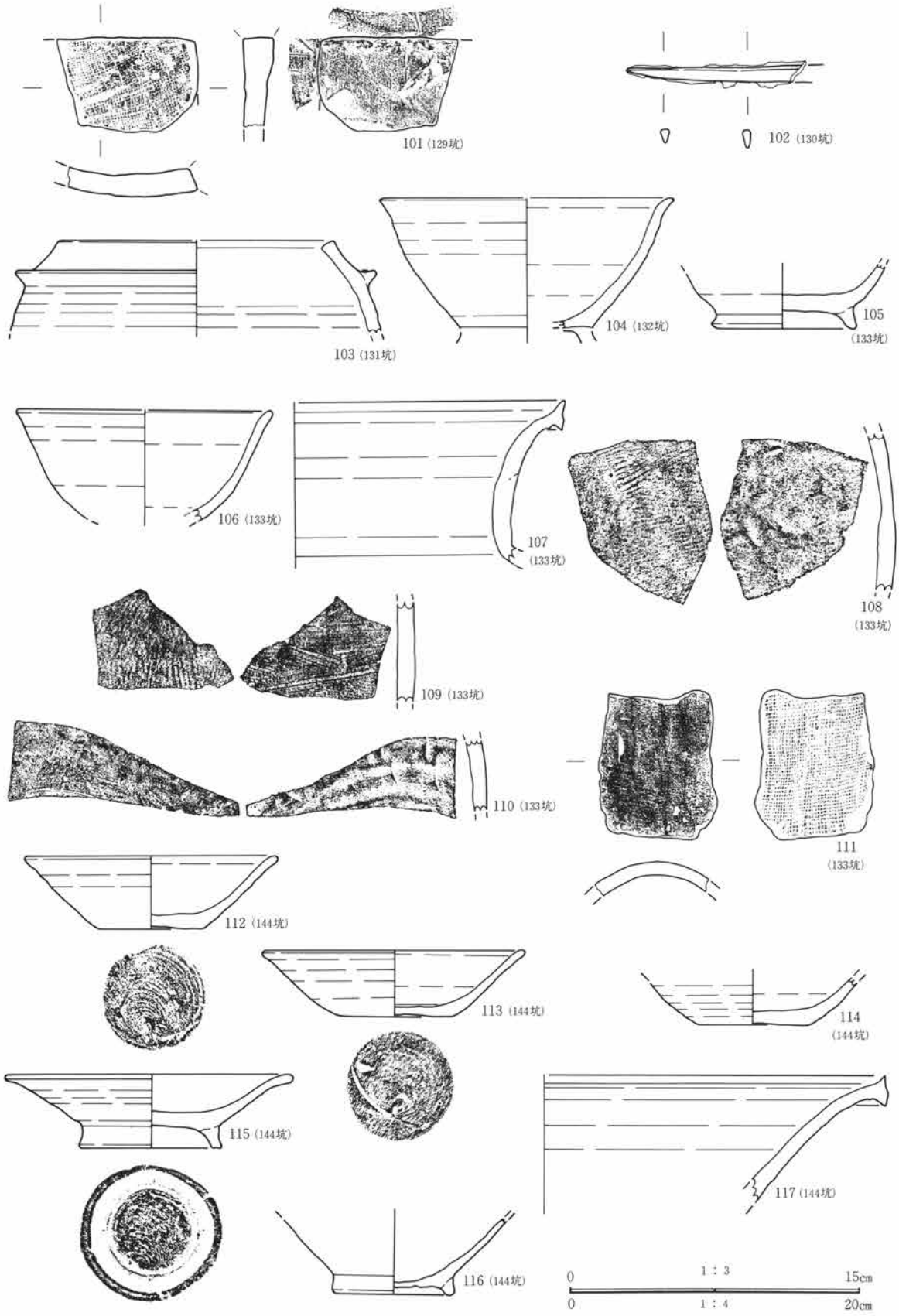
120～125は164号坑（平安）。120の坏は完形ながら内外面器壁の摩滅著しい。口縁部外反し、体部は膨らみを持つ。121は高台付椀。同様に摩滅が著しい。口縁部は外反し、体部中位で僅かな丸みを帯びる。122は羽釜。口縁部は内傾し、鍔は鋭く貼付時の横撫でが強い。体部は膨らみを持たせ、下半外面は縦位篦削りが施される。123は甕体部破片。球胴の体部形態を呈し、外面は撫で、内面は横位篦撫でを施す。124は大甕口縁部。



215図　土坑出土遺物（89・90・110・112号）



216図　土坑出土遺物（115・120・122・123号）



217図　土坑出土遺物（129～133・144号）

外反気味の口縁部には箆書きの雑な波状文が施される。頸部は屈曲する。

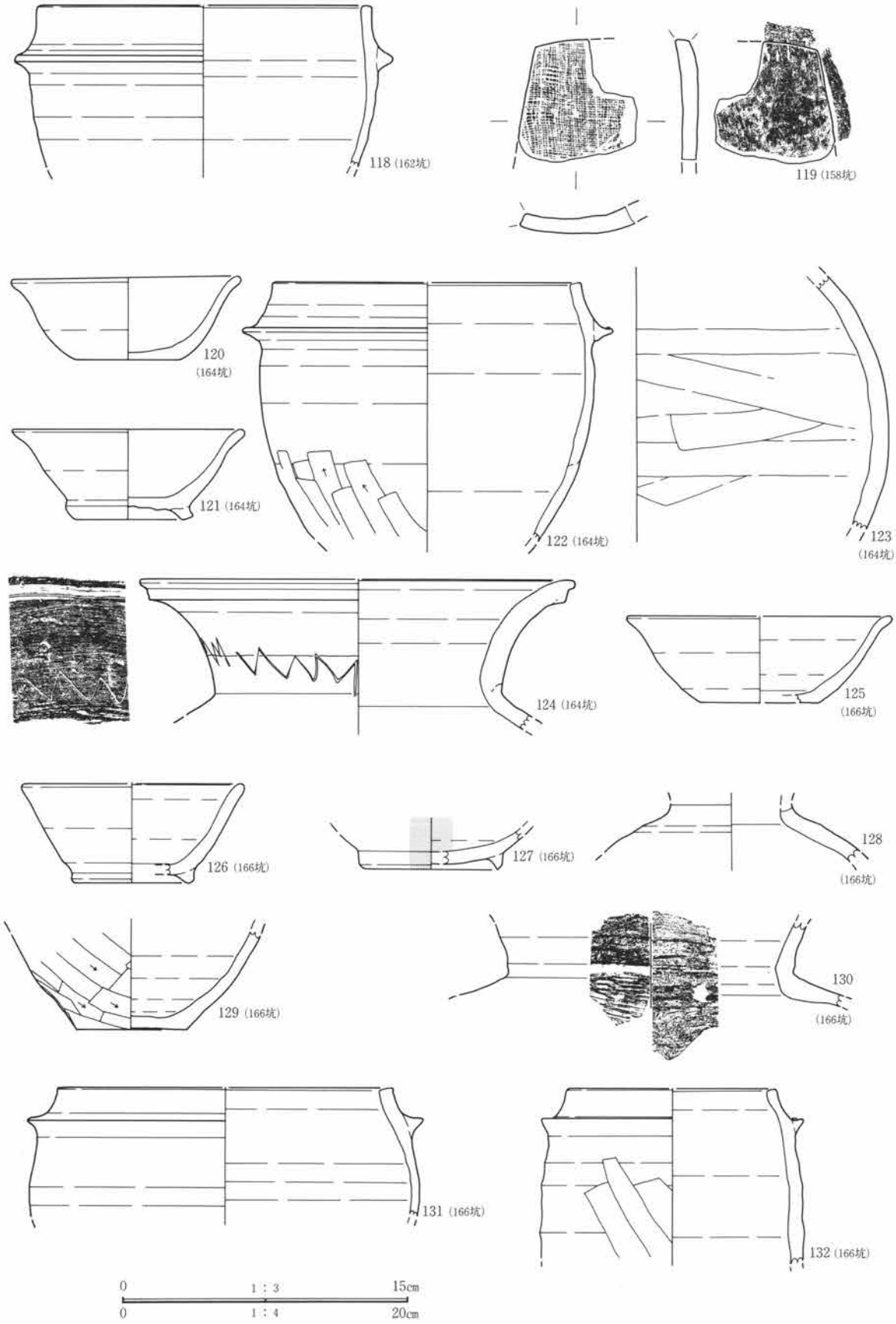
125～134は166号坑（平安）出土。125は坏。口縁部は外反し、体部中位は僅かに丸みを帯びる。器面摩滅。126は小型の高台付椀。体部は直線的でやや厚手の器厚を呈す。高台は短く貼付時の横撫で強い。127は灰釉陶器高台付椀。内底面に研磨痕が看取される。あるいは転用硯か。128は長頸壺あるいは甕か。轆轤整形で内外面とも横撫でを施す。器面摩滅。129は羽釜。轆轤整形で外面下半は斜位箆削りが施される。外底面は丁寧に撫でられる。内面は横撫で。130、大甕頸部破片。強く屈曲する。おそらく体部は張るのだろう。肩部外面は平行叩が見られ、内面は円環状の当て目が残る。131は羽釜口縁部破片。口縁部は内傾し、体部は緩やかに膨らみを持つ。体部器厚は薄い。器面摩滅。132も羽釜口縁部破片。口縁部残存部が少なく口径、傾きは不確定。体部外面の轆轤目強く、斜位の箆削りが施される。133は平瓦。凸面の調整は無文叩。凹面の布目は密だが摩滅する。134も平瓦。凸面は無文叩、側部の面取りは２回。

135・136は180号坑（平安）出土。135の坏口縁部は僅かに外反する。136は甕口縁部破片。口唇端部など比較的鋭い。137は181号坑（平安）出土の高台付椀。口唇部が僅かに外反。体部は比較的直線的で、高台は短く貼付される。

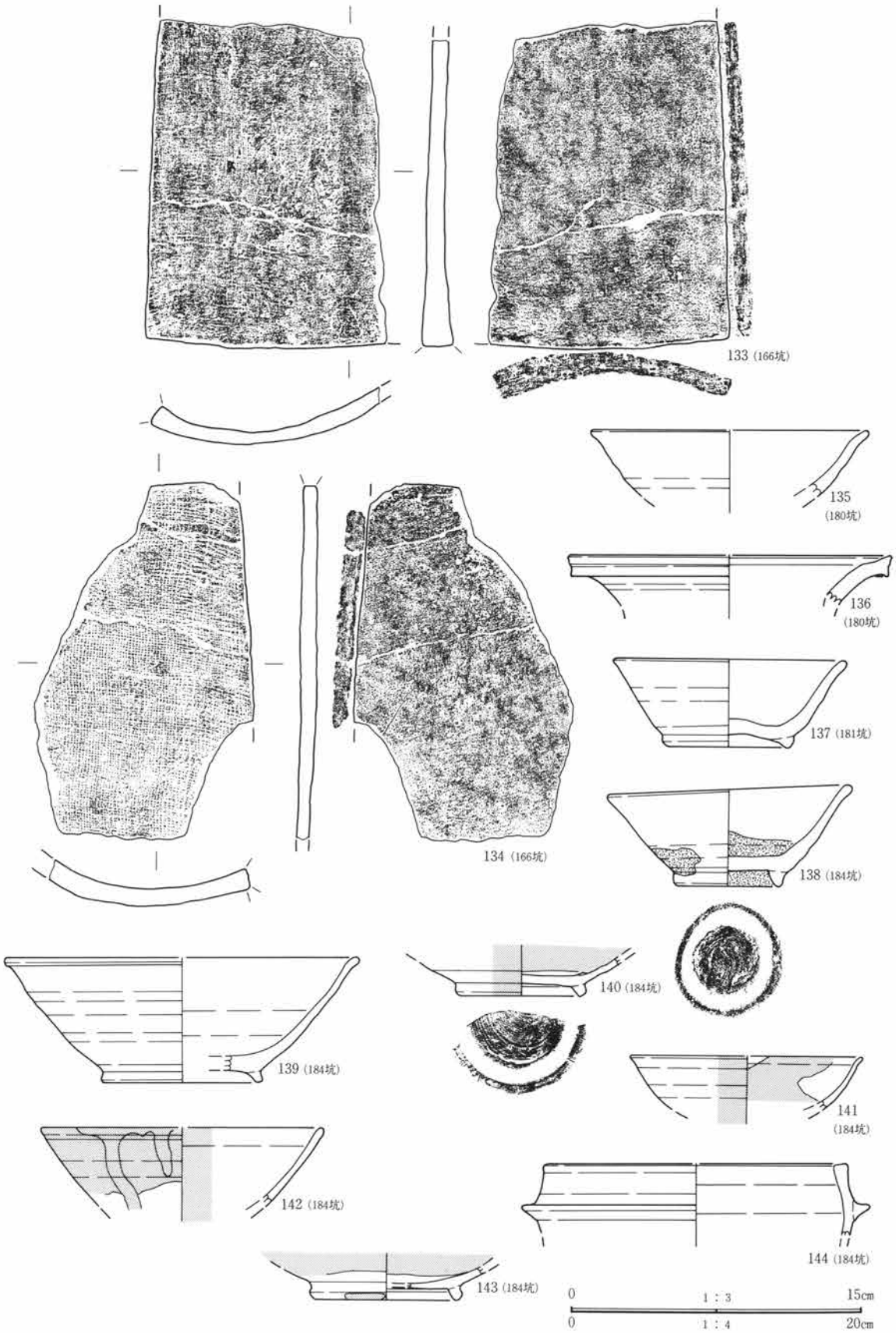
138～148は184号坑（平安）出土。138は油煙付着の高台付椀。高台は直立気味に貼付される。油煙は外面体部下半、内底面に付着し、高台内底面にまで及ぶ。あるいは逆位利用か。139は大振りの高台付椀。口唇部は外反し玉縁状を呈す。体部は緩やかに膨らみ、器厚は薄手である。高台は短く貼付され、底部器厚は厚手である。140は灰釉陶器高台付椀。施釉は漬け掛け。体部器厚は薄く、内底面に重ね焼きの痕跡がある。141も灰釉陶器椀。口縁部破片。口唇部は玉縁状を呈す。漬け掛けの施釉は内面に顕著である。142も灰釉陶器椀。内面は全体に釉を帯びる。143は灰釉陶器高台付皿底部。144は羽釜口縁部。鍔先端の欠損部多い。口縁部は内傾気味である。145は大甕口縁部。口唇部は内傾し、口縁部は緩やかに外反する。頸部の屈曲は強くない。右回転轆轤整形。146～148は鉄器。146と148は鉈である。刃部は薄く仕上げられ、軸部から刃部にかけて彎曲する。147は不明鉄製品。断面方形の板状の柄部である。184号坑にはこの他に鉄釘が５点ほど出土しているが、遺存が悪く図示し得なかった。

149～151は185号坑（平安）出土。前述のように、185号坑は184号坑と並列し墓壙などとして両者の関連は深いものと思われる。149は薄手の器厚を呈する坏。口縁部は僅かに外反する。150の坏はやや小型。口縁部は緩やかに外反する。器厚はやや厚手。151は大振りの高台付椀。高台部は欠損する。口縁部は薄く外反し、体部は膨らみを帯びる。器面は摩滅する。

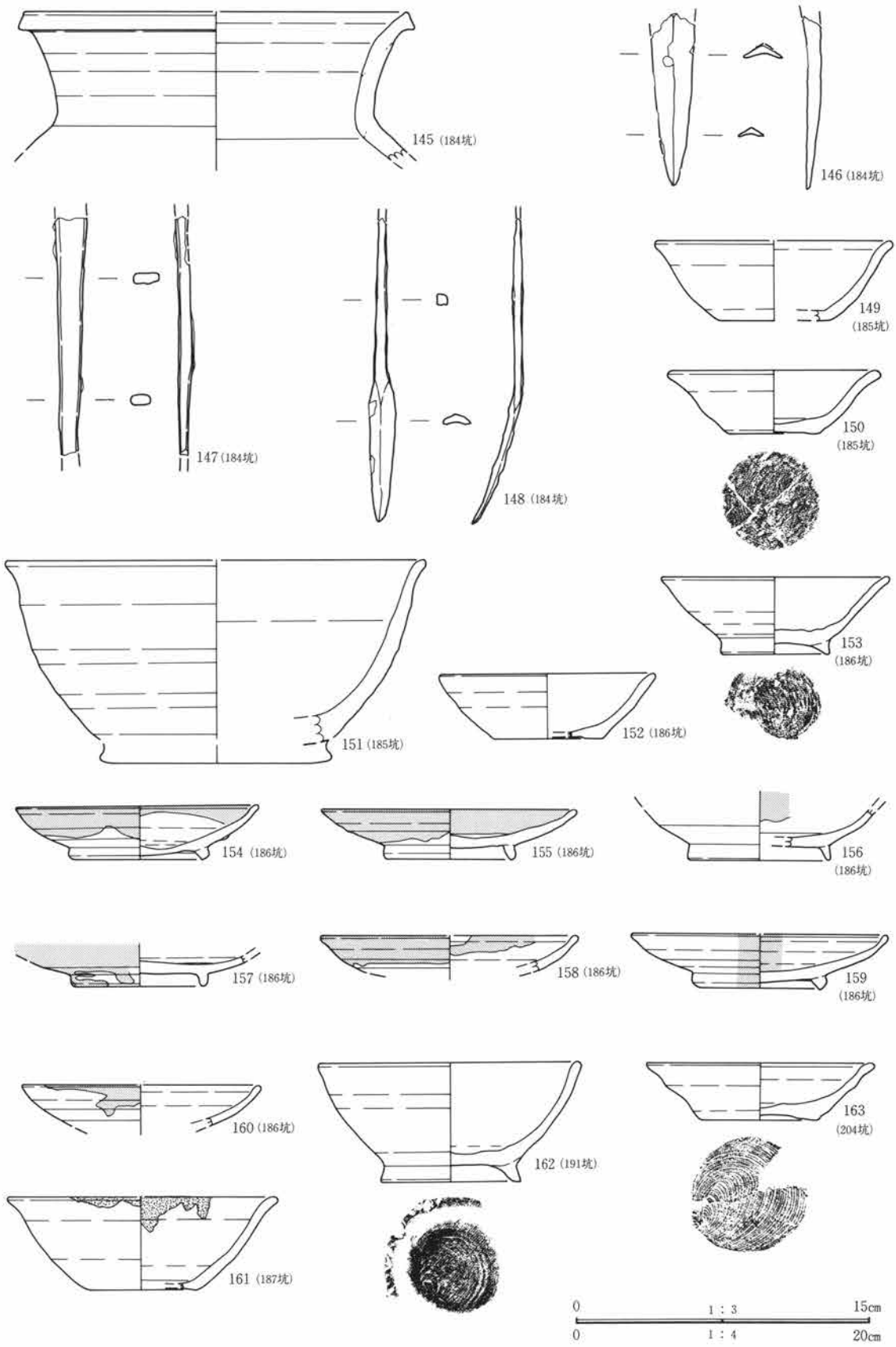
152～160は186号坑周辺より出土した坏・椀類。152はやや厚手の器厚を呈する坏。器面は摩滅する。153は高台付椀。ほぼ完形でやや小型である。体部上半に若干の丸みを帯び、高台は直立気味に付される。内面の器壁の剝落著しい。154～160は灰釉陶器。154は完形の高台付皿。やや身深の体部。口唇部は肥厚する。体部下半は左回転箆削り。155も高台付皿。体部下半は左回転箆削り。口唇部は内面にやや肥厚する。外面上半の釉は剝落する。156は高台付椀であろう。下半は左回転箆削り。施釉は内面に顕著。157は高台付皿。高台貼付の痕跡は不明瞭。外面の釉だれは高台部にまで及ぶ。158は皿口縁部。体部下半は左回転箆削り。口唇部は肥厚する。159も高台付皿。施釉範囲不明瞭。体部下半は左回転箆削り。口唇部は肥厚。160は皿口縁部破片。体部下半左回転箆削り。内面全体に釉が及ぶ。



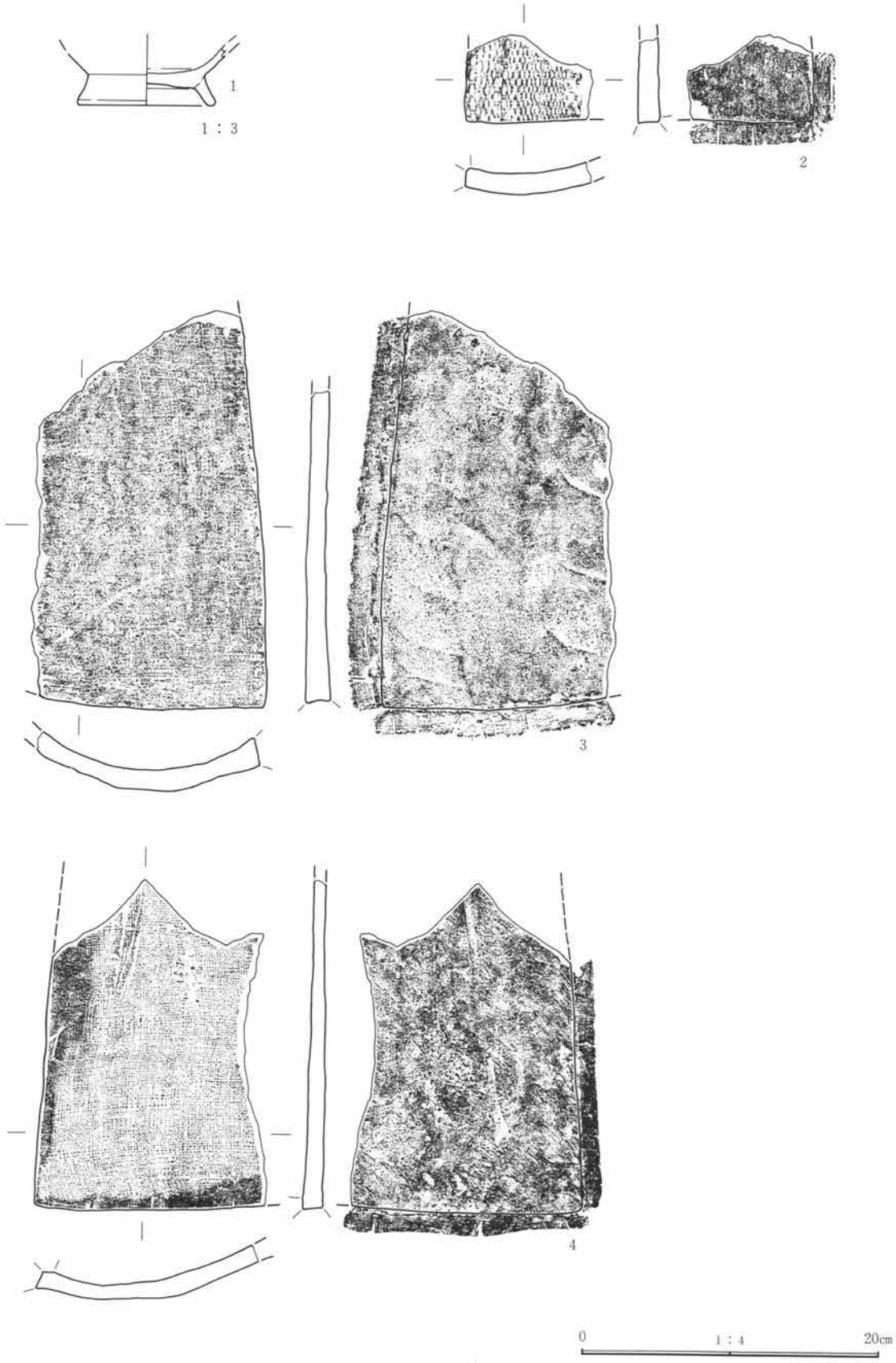
218図　土坑出土遺物（158・162・164・166号）



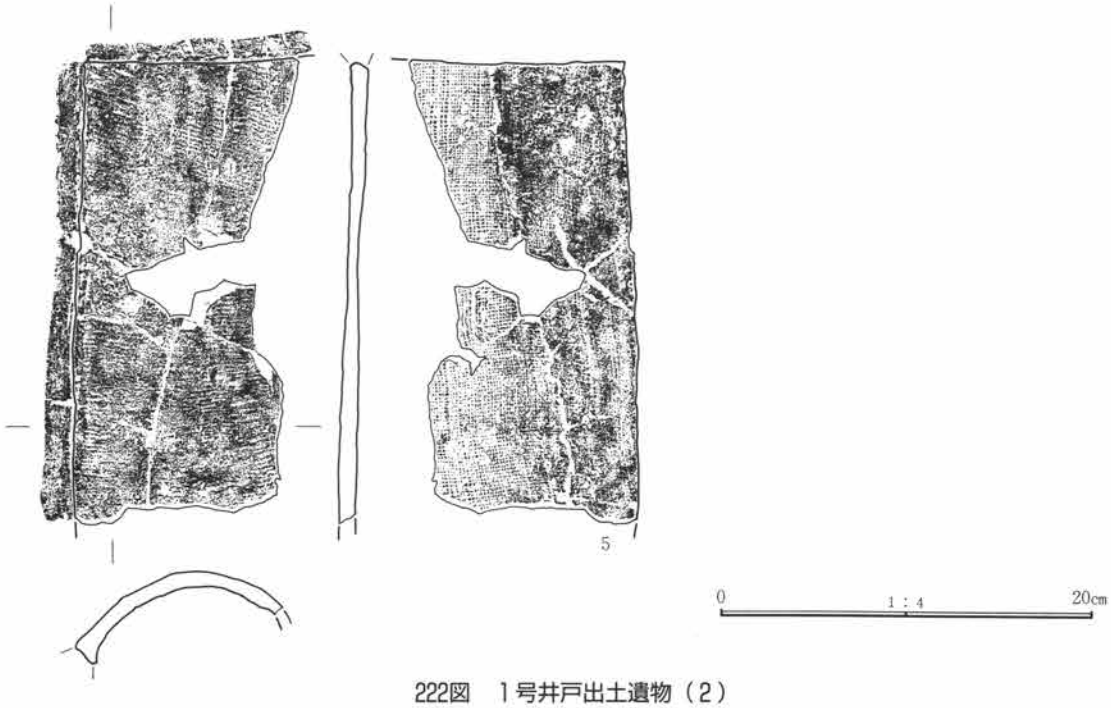
219図　土坑出土遺物（166・180・181・184号）



220図　土坑出土遺物（184～187・191・204号）



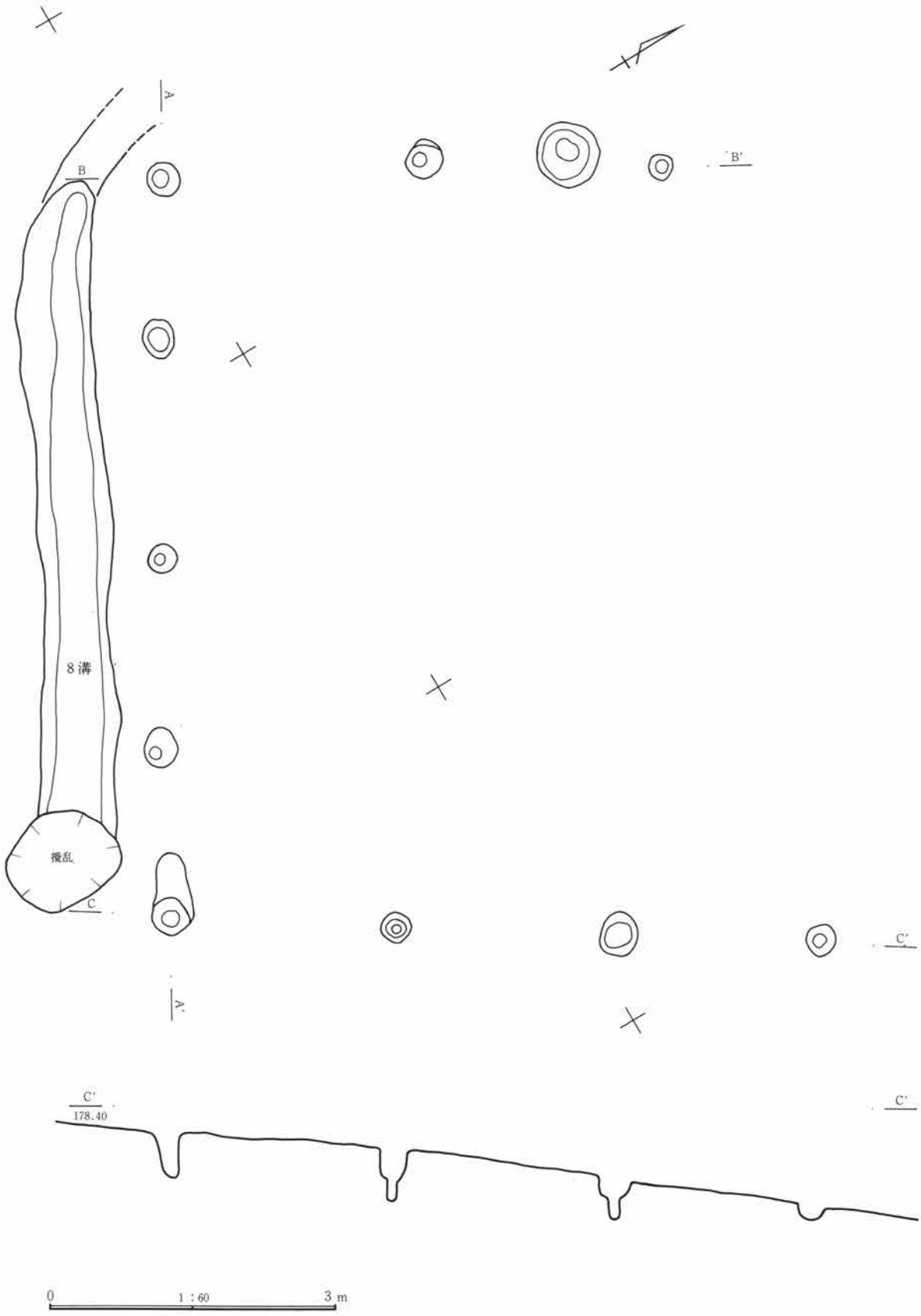
221図　1号井戸出土遺物（1）



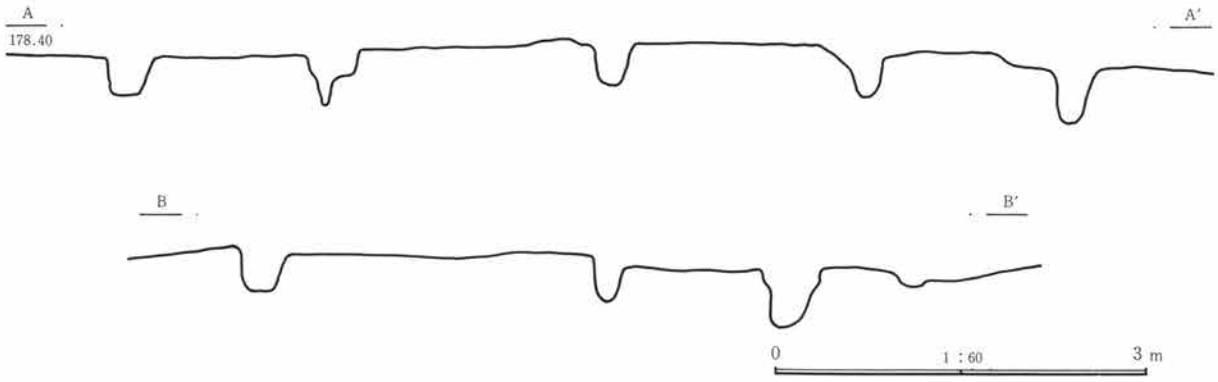
222図　１号井戸出土遺物（２）

161は187号坑（時期不明）出土の坏。口縁部内外面に油煙が付着する。口縁部は外反し体部は緩やかに膨らみを持たせる。162は191号坑（時期不明）出土。身深の高台付椀。高台は開き気味に貼付される。高台端部には棒状工具の当て目が残る。163は204号坑（時期不明）出土の坏。口縁部は強い轆轤目で外反する。体部下半から底部にかけての器厚は厚い。

１号井戸出土遺物は５点を図示した。１は高台付椀。高台はやや長く貼付時に丁寧な横撫でを施す。２は平瓦。側部・端部とも２回の面取り。凸面は無文叩後撫で、凹面は筵目。３の平瓦の凸面は無文叩後撫でを施す。４の側部・端部とも２回の面取り。凸面は無文叩後縦位撫で。５は丸瓦。側部・端部とも１回の面取り。凸面は平行叩後縦位撫で。厚さは薄く還元焔焼成である。



223図　1号掘立柱建物跡（1）



224図　１号掘立柱建物跡（２）

(iv)　掘立柱建物跡

黒熊中西遺跡では２基の掘立柱建物跡を検出した。既報告のように、この他に７棟の礎石建物が検出されており、この礎石建物跡を寺院跡として位置付けている。本書で報告する２基の掘立柱建物跡は礎石を持たないピット列として調査した。

１号掘立柱建物跡

東尾根で検出された。住居跡の項で述べたように、７号溝及び54号～59号住とされた住居跡や184～186号坑など遺構群が密集するため、黒色土が広範囲で確認された箇所である。柱穴列はこの遺構群の調査中に検出された。柱穴の土層観察が及ばなかったため、新旧関係は判然としないが、本掘立柱建物の軸に沿った８号溝が54号住床下で確認されたことからも、住居跡群より古く位置付けられる可能性がある。

平面形は２間×４間で、その規模は6.6×7.6ｍを測る。現状では長方形を呈するが、北辺と西辺北側は斜面地形のため、遺存が悪く全体像は確定的ではない。遺存の良い南辺と東辺の柱穴が本掘立柱建物跡の根拠である。長軸棟の走行はおよそＮ－120°－Ｅである。

柱穴は南辺と東辺に規則性が見られた。西辺も方向性は良好だが、配置・ピット規模に不統一が見られた。柱穴としたピットの深さは40～60㎝で、北側の遺存の悪いもので10～20㎝を測った。しかし掘り込んだ底面のレベルは意識されたようで、西辺北端のピット以外は、底面の高さを揃える様相が見える。また、東辺中位の２穴などに柱痕状の掘り込みが見られ、これらのピットが柱穴用に使用された状況が理解できよう。

南辺の柱穴間は（東から）約1.7・2.2・2.0・1.7ｍで中間の３穴間をやや広く取る。東辺柱穴間は（南から）約2.3・2.3・2.1ｍとほぼ等距離を意識する。東辺北側２穴間が短いのは斜面地形のためと思われる。この東辺に対応させた西辺柱穴は不規則で、その柱穴間は（南から）約2.7・1.5・1.5ｍと東辺とは対応しない。また、西辺北側３穴中央のやや大型のピットはその軸線上に乗るとはいえ、通常の柱穴とは趣を異にするのかもしれない。北東方向への傾斜が強いため、これ以外の柱穴は痕跡も見いだせなかった。

その他の付属設備として、南辺に沿って走行する８号溝を挙げたい。幅約80㎝、深さ約20㎝程度で、攪乱坑より伸びるため、近現代の溝として疑ったが、土層観察の結果54号住や57号住に切られる重複関係を見せた溝である。溝は、１号掘立柱建物跡南西隅を湾曲しながら曲がる傾向を見せ、南辺と沿うことからも、１号掘立柱建物跡に付帯する設備と捉えた。尚、焼土などの範囲は確認されず、柱穴内や掘立柱建物跡に伴う遺物は出土しなかった。

以上のように１号掘立柱建物跡は、南側に溝を付帯した建物で、住居跡群より先行する可能性が見いだせる。もし、住居跡群としてではなく、整地遺構あるいはテラス状遺構としてこの平坦面を考えるならば、１号掘立柱建物跡は、寺院跡関連遺構として位置付ける可能性は高くなる。東尾根区の南側には１号テラス状遺構が展開し、７号礎石建物や１号特殊遺構などが帰属している。これら寺院跡関連遺構と１号掘立柱建物跡の位置関係も重視しなければならないだろう。瓦葺を持たない、堂宇的性格の建物も想定しておきたい。

本報告では、１号掘立柱建物跡と重複する遺構群が住居跡として、発掘調査によって位置付けられているため、東尾根区を密接な居住域として報告せざるを得ない。しかし、上記のような仮説も成り立つ可能性もあり、慎重な資料操作が望まれよう。

２号掘立柱建物跡

中尾根東区の中央で43号住の南側、44住の東側で検出された。北側には住居跡や土坑が群在し、南には急斜面地形が展開し、73号住などが点在する。また、北東には６号溝が南北に走り、本遺構の南辺の溝と直交する位置関係を見せる。

調査当初は、平坦面を持ち、遺物が多量に出土することから72号住居跡として調査が進められた経緯があるが、平面形が確定せず、竈も検出されないまま、土坑・ピット群が検出されたことから、２号掘立柱建物跡として処理された。

しかしながら、ピット群も土坑も柱穴として列をなさず、また土層にも柱痕は見られなかった。ピットそのものの断面形状も柱穴としては積極的な根拠を持たない。

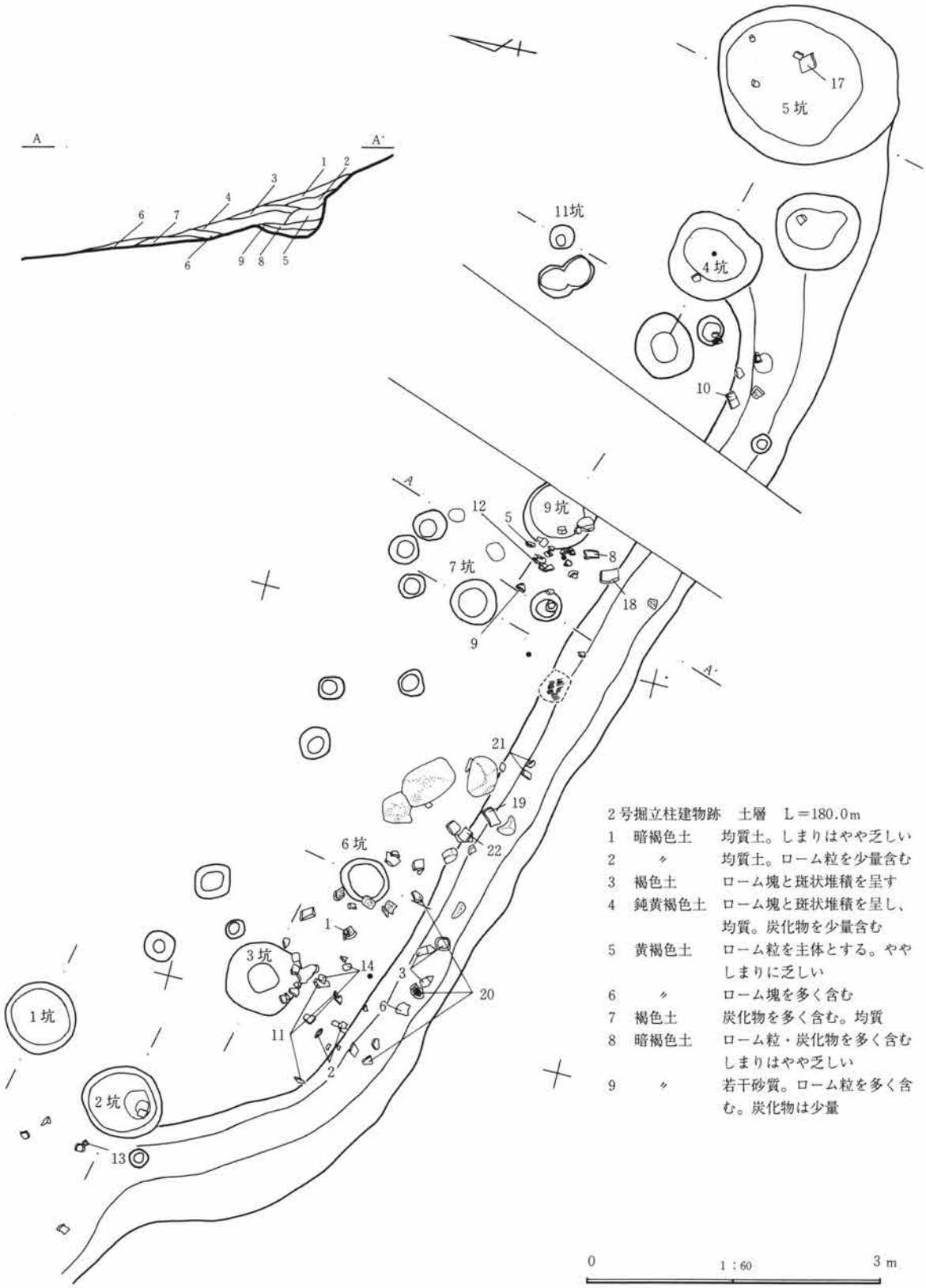
ここでは敢えて、発掘調査で確定した遺構名称を踏襲して掘立柱建物跡として掲載するが、遺構そのものの在り方からは、テラス状遺構あるいは遺物集積遺構として認定するべきであろう。例えば、前述の６号溝との位置関係を考えると、直交した南東隅から南辺にかけて遺物が集中する遺物集積遺構とも捉え得るのである。

本址は、南側の崖状斜面下端に平坦面を築いた遺構である。南側の斜面際には幅約80㎝のやや幅広の溝が掘り込まれる。溝は崖下端に沿うように走行し、東側と西側で湾曲する兆しを見せながら、斜面地形のため消える。

この溝の走行に沿うように多数の土坑・ピットが確認されたため、長軸を南北に持つ掘立柱建物跡の存在を類推した。前述のように、これら土坑・ピットは、配置・深さ・規模に規則性が認められない。敢えて、掘立柱建物跡として性格付けると、斜面地形を利用した片屋根状の上屋が想定できよう。

溝の北側は若干盛り上がるが、北側斜面に影響されるように緩やかに傾斜した平坦面が作出されていた。平坦面には硬化面や貼床は検出されなかったが、下部層位は焼土・炭化物粒が見られ、若干堅くしまった土層も認められたことから、居住に伴わないまでも、何等かの人為的行為の施設と思われる。なお、溝上層炭化物の集中が１カ所見られたが。火熱に伴うものではなく、流入として捉えておきたい。

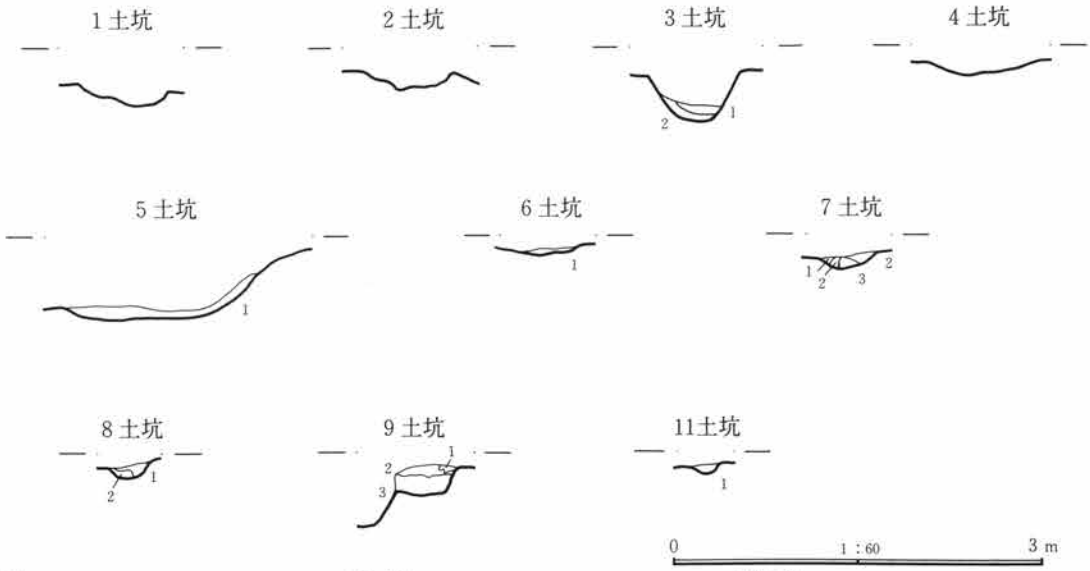
遺物は比較的多く出土し、323点を数え、22点を図示した。遺物の散布は南側溝上端および、平坦面の下層に若干の集中が見られた。瓦の出土量がやや多く見られ、その他土錘など比較的器種は多様性を帯びる。１は完形の小型坏。やや厚手で口縁部は僅かに外反し体部中位が若干丸みを帯びる。２も小型坏。ほぼ完形。口縁部に歪みがある。３は大型の高台付椀。器厚は比較的薄手。口縁部は緩やかに外反し、体部は膨らむ。高台は開き気味に貼付され、丁寧な横撫でが施される。１～３は溝西側で底面よりやや浮いて出土した。４は灰釉陶器高台付皿。口唇部は肥厚し、体部は薄く直線的に落ちる。高台は短い。施釉は漬け掛け。５も灰釉陶器高台付皿。内底面に滑沢な研磨痕がある。転用硯の可能性もある。Ｐ９の西で出土。６も灰釉陶器高台付皿。１



2号掘立柱建物跡　土層　L＝180.0m

1	暗褐色土	均質土。しまりはやや乏しい
2	〃	均質土。ローム粒を少量含む
3	褐色土	ローム塊と斑状堆積を呈す
4	鈍黄褐色土	ローム塊と斑状堆積を呈し、均質。炭化物を少量含む
5	黄褐色土	ローム粒を主体とする。ややしまりに乏しい
6	〃	ローム塊を多く含む
7	褐色土	炭化物を多く含む。均質
8	暗褐色土	ローム粒・炭化物を多く含むしまりはやや乏しい
9	〃	若干砂質。ローム粒を多く含む。炭化物は少量

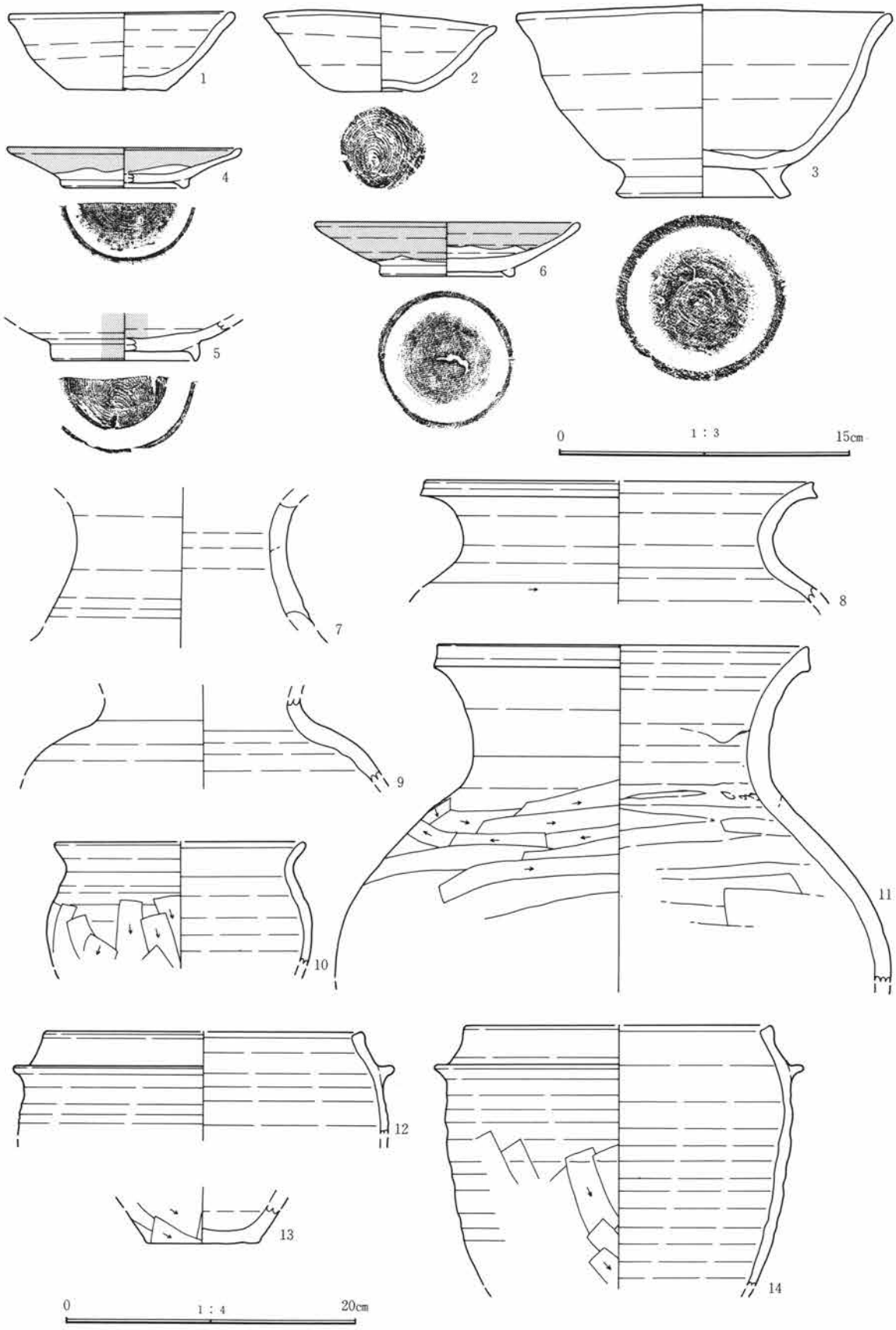
225図　2号掘立柱建物跡（1）



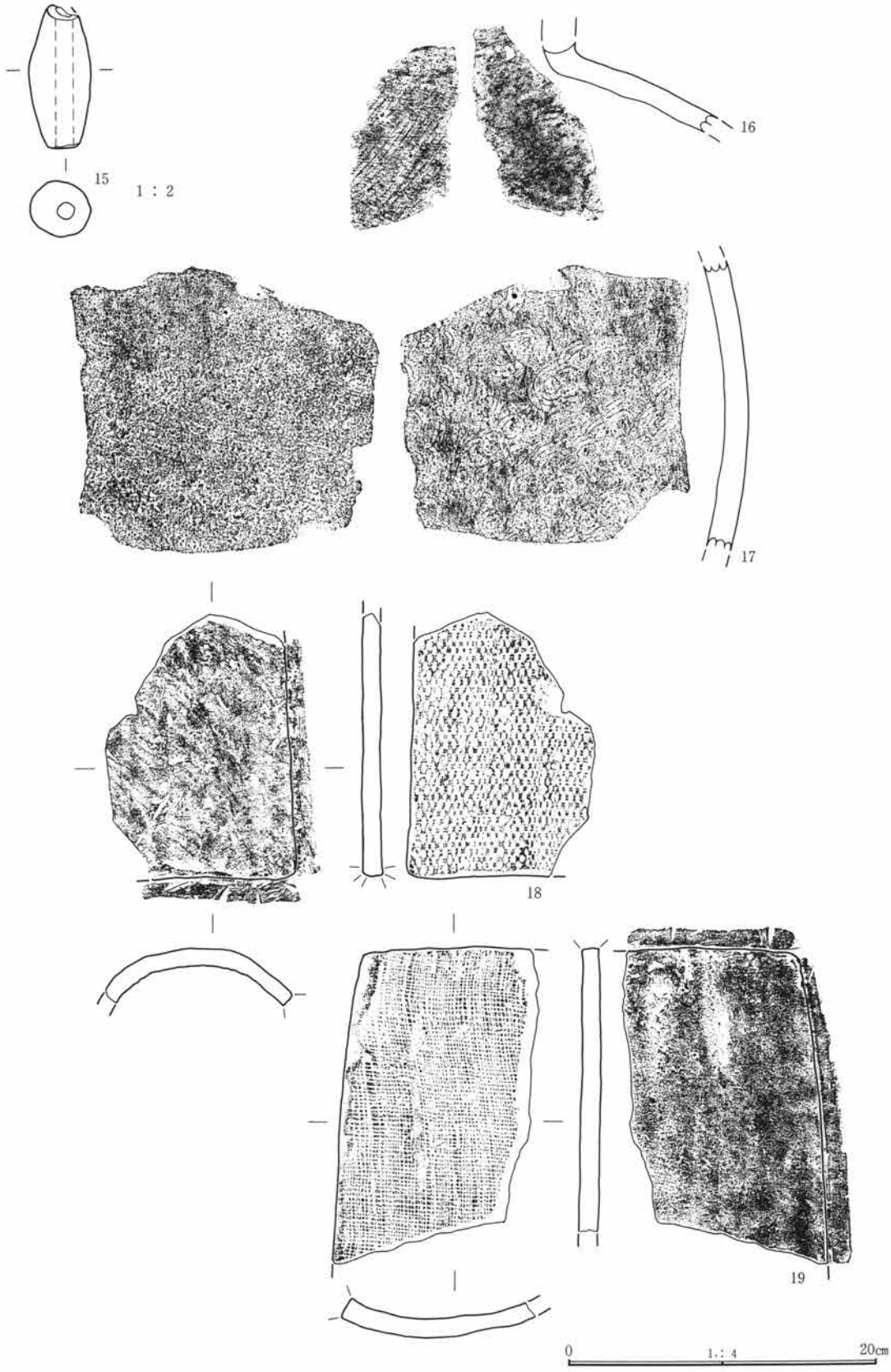
3号土坑
1　鈍黄褐色土　ローム塊との斑状堆積
2　褐色土　ローム粒を含む
5号土坑
1　鈍黄褐色土　ローム塊との斑状堆積
6号土坑
1　鈍黄褐色土　ローム塊との斑状堆積
7号土坑
1　鈍黄褐色土　ローム粒を少量含む
2　〃　ローム塊との斑状堆積
3　暗褐色土　締まりは乏しい
8号土坑
1　鈍黄褐色土　ローム粒を少量含む
2　〃　ローム塊との斑状堆積
9号土坑
1　暗赤褐色土　焼土粒・炭化物を含む
2　鈍黄褐色土　均質。しまりは乏しい
3　黄褐色土　ローム塊を主体とする
11号土坑
1　暗褐色土　しまりは乏しい

226図　2号掘立柱建物跡（2）

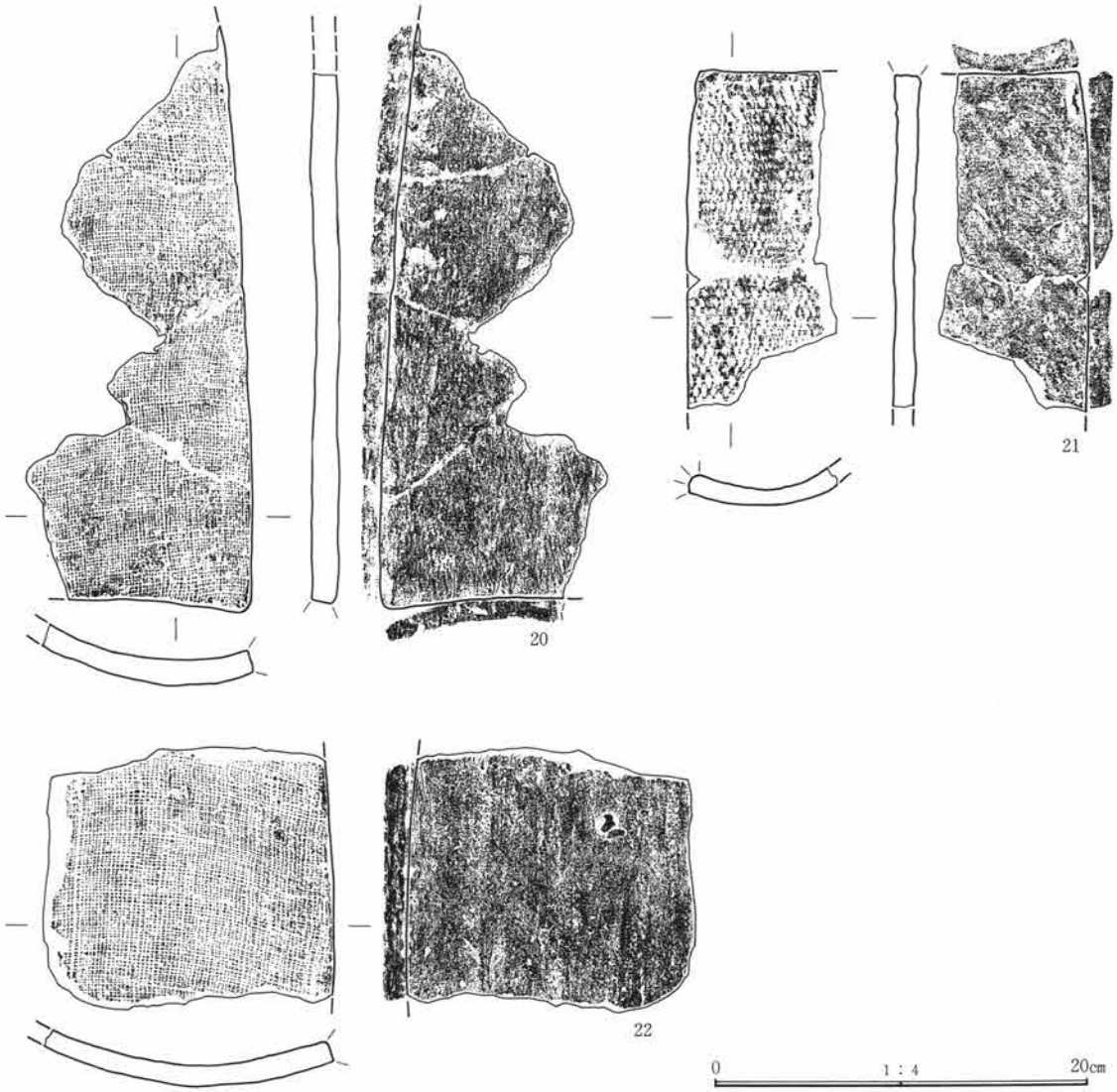
～3とともに出土。内底面に僅かに研磨痕が見られる。施釉は漬け掛け。内面に重ね焼きの痕跡有り。7は高盤の脚部であろうか。右回転轆轤整形後撫でを施す。厚手の器厚。軟質で酸化焔焼成である。8は中型の甕。左回転轆轤整形で頸部は強く湾曲する。体部上半に横削りが看取される。P9の南側で出土。9は甕か。あるいは瓶の可能性もある。軟質で酸化焔焼成である。7と焼成・胎土が類似する。轆轤整形。10は小型甕。轆轤整形で酸化焔焼成。体部外面は縦位篦削りを施す。内外面とも煤が付着。溝東側で出土。11は大甕。やや軟質で色調も黄橙色を呈す。頸部は緩やかに湾曲し、体部の張りは顕著ではない。肩部より横位篦削りが体部にかけて施される。内面は横位篦撫で。溝西側で1～3などと出土。12は羽釜。やや薄手の器厚を呈す。P9の西側で底面に接して出土した。口縁部は内傾。13は西端のP2西側で出土。甕あるいは羽釜の底部。轆轤整形で外面斜位の篦削りを施す。底面は撫でる。14は溝西側で3点が接合。土層中位にあたる。口縁部は内傾するが体部の張りは顕著ではない。轆轤整形で体部中位より篦削りを施す。薄手の器厚を呈し、体部の轆轤目は内外面とも強い。15は土錘。完形で1点のみの出土である。酸化焔焼成で表面は滑らかに仕上げる。16は大甕頸部破片。外面には自然釉が付着。体部上半平行叩。内面は円環状の当て目が残り撫でも加わる。17は大甕体部破片。東端のP5内で出土。外面平行叩後撫でを施す。内面は青海波文残る。外面に自然釉付着。18は丸瓦。P9の南側で出土。側部の面取りは1回だが、端部は入念に細かく5回に及ぶ。凸面の調整は平行叩、凹面は筵目。やや薄手で酸化焔気味の焼成である。19は平瓦。側部は2回、端部は1回の面取り。凸面は無文叩後撫で。凹面に縦位指撫でが見られる。溝中位で散乱した自然石とともに出土。20の平瓦は西側で土層中位より出土。側部は2回の面取り、端部は1回。凸面は無文叩。やや薄手である。21も平瓦。側部は3回の面取り、端部は1回。凸面は平行叩後撫で、凹面は筵目である。22は溝中位で19とともに出土した平瓦。側部の面取りは1回。凸面は平行叩後縦位削りが及ぶ。



227図　２号掘立柱建物跡出土遺物（１）



228図　2号掘立柱建物跡出土遺物（2）



229図　２号掘立柱建物跡出土遺物（３）

(v)　溝

本遺跡では、７条の溝を検出した（２号溝は欠番）。殆どの溝が傾斜に交わるように南北の走行を見せる。また、いずれも掘り込みが浅く、地境や区画溝のような明瞭な区分線を意識したものではないようだ。

溝覆土も底面に砂粒を残すものはなく、またAs－AやAs－Bを遺存する層は確認されなかった。しかし、住居跡覆土に比して、やや砂質であり水利に供された可能性を残す。

遺物も、溝そのものに伴う良好な出土状態を見せたものはなく、総て流入として把握した。時期は、覆土の様相から平安時代に属するものは８号溝以外はなく、近世あるいは近世以降の所産と思われる。

以下、概略を説明するが、平面図は３～７図を参照していただきたい。

１号溝は、東尾根区の15号住南で検出された。15号住を切る重複関係を見せる。東尾根の頂部で地形傾斜の長軸に沿って走行し、北側は15号住覆土内で消滅し、南側は１号掘立柱建物跡などの遺構密集地点で確認不可能となる。

規模は幅約80㎝、深さ約20㎝と浅く、断面形は浅い皿状を呈する。出土遺物は甕底部破片が見られた。覆土はやや砂質の鈍褐色土が単層で確認された。

３号溝は、中尾根東区と西区の境界で検出された。比較的傾斜の緩やかな地点だが南北に走行する。北側は近世に比定される土坑と重複する。重複関係は不明である。南側は調査区域外に伸びる。

規模は幅約110㎝、深さ約30㎝でやや幅広ながら浅く、皿状の断面形を見せる。出土遺物は見られず、覆土にも特徴がないため、時期特定はできないが、北側に群在する近世土坑との関連から近世としたい。

４号溝は、中尾根東西側の61号住東で検出された。３号溝と同様に南北に走行を持ち、南側の崖状の傾斜面下端で消える。北側は26号住南で消滅する。重複遺構はなく単独の検出となったが、前述の３号溝の延長としてもその可能性を残す。

規模は３号溝よりやや幅狭で約60㎝で、深さは25㎝を測る。覆土は暗褐色土を基調にし、単層の確認である。時期は不確定だが近世の可能性が高い。

５号溝は、中尾根東区の中央で６号溝と重複して検出された。６号溝とは直行するように重複するが、新旧関係は不明で、６号溝との規則性は見られなかった。高台付椀・甕体部破片が出土したが流入である。時期は不明だが、近世の土坑に比定される119号坑を切ることから、近世以降の所産としたい。

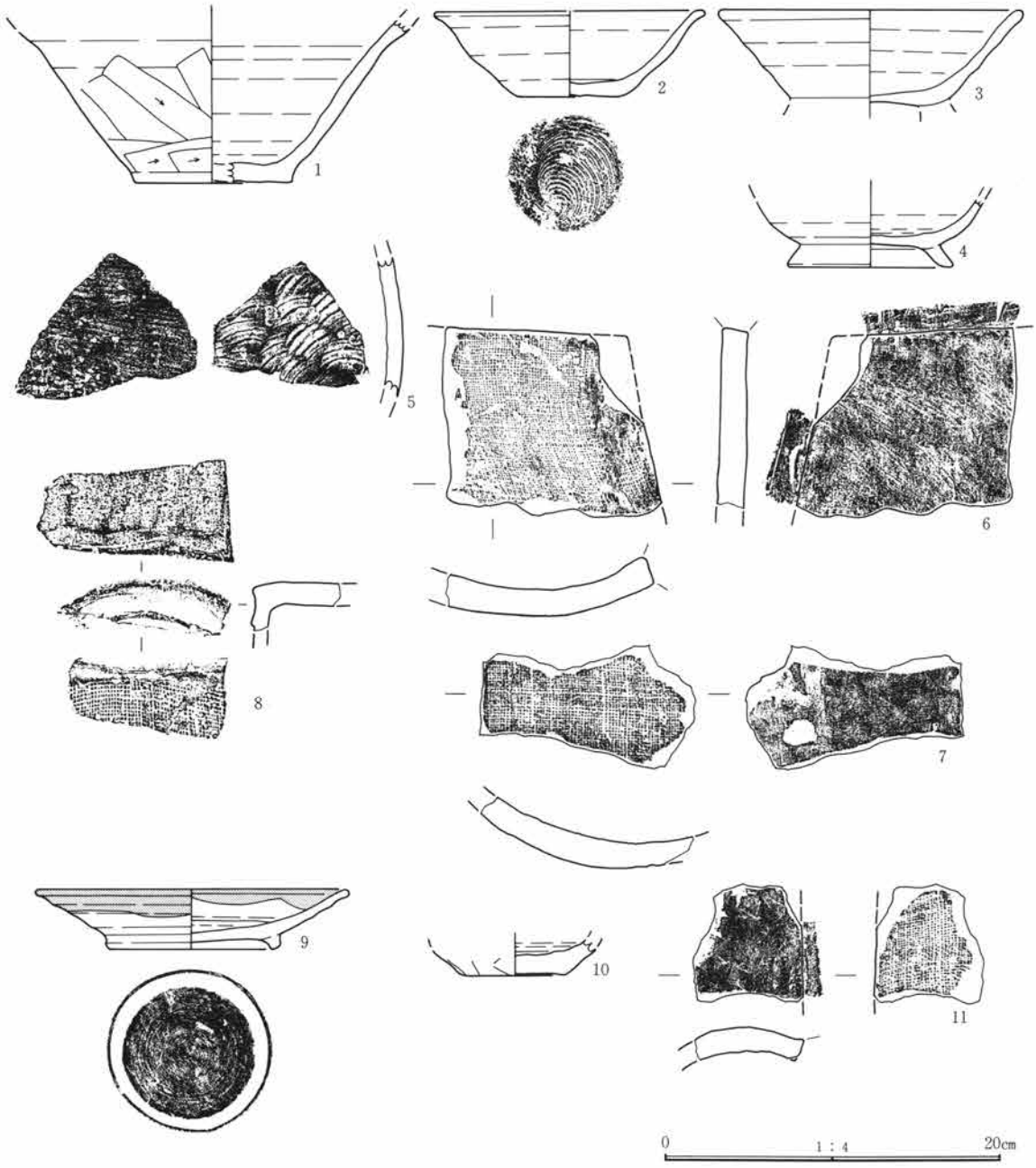
６号溝は、中尾根東区の中央で南北の走行を持って検出された。北側は38号住の東で消え、南は２号掘立柱建物跡に接する箇所で確認が不可能となる。

幅約70㎝、深さ約20㎝の規模を測る。覆土はやや鈍い褐色土が埋まっており、３・４号溝よりは住居跡覆土に近い。しかしながら、４号溝とほぼ平行する走行のため、近世の所産とも考えられる。また、２号掘立柱建物跡内の東西に走行を持つ溝との関連も無視できないが、問題は多い。

７号溝は、東尾根区で検出された。東尾根の頂部を地形傾斜に沿って走行することから、調査当初は１号溝の延長と捉えた経緯があるが、14号住北で７号溝の延長が確認されたことから、別種類の溝と判断された。

規模は、幅約100㎝、深さ約40㎝で比較的しっかりした掘り込みを見せる。覆土は褐色土を基調とした砂質土が埋まっていた。遺物は灰釉陶器皿・甕底部などが出土したが流入であろう。周辺は灰釉陶器皿が集中して出土した箇所でもある。尚、本溝は１号掘立柱建物跡などの遺構群と重複するが、本溝が総てを切る新旧である。

８号溝は、前述の１号掘立柱建物跡の南辺に平行した走行を見せるため、１号掘立柱建物跡に付帯する溝として位置付けた。



230図　溝出土遺物（１・５・７号）

（溝出土遺物）　前述のように、溝出土遺物は遺構の時期を確定するものではなく、流入によるものである。図示し得たものは総て平安時代の所産であり、近世遺物はなかった。溝番号順に列挙する。

１は１溝出土の甕底部破片。轆轤整形で外面下半に斜位・横位の箆削りが施される。２～８は５号溝出土。２は坏。口縁部は外反し体部は僅かに膨らむ。器厚は薄手。３は高台部が欠損する椀。直線的な体部形態を呈す。４は高台付椀底部。高台は強く開き、体部下半は膨らむ。５は甕体部破片。外面平行叩、内面青海波文。６・７は平瓦片。８は軒丸瓦片。９～11は７号溝出土。９は灰釉陶器高台付皿。口唇部は僅かに丸みを帯びる。体部器厚は薄手で、直線的に落ちる。高台は短く直立気味に立つ。施釉は漬け掛けで、口縁部内外面に及ぶ。10は甕底部。轆轤整形で外面は斜位箆削り後撫でを加え底部にも及ぶ。器厚は厚手で還元焔焼成である。11は丸瓦破片。

(vi)　遺物集積遺構

3箇所の遺物集積を見た。時期を問わず、集落内にはその斜面地形や谷頭を利用した、遺物廃棄の場所として遺物集積遺構が検出される。これらは廃棄のみならず、祭祀的意味合いを持った遺物集積としても報告されており、一器種のみの集合や出土状態の特異性などが注目されている。

本遺跡の遺物集積遺構は、やはり斜面上の集積であり、1カ所は谷頭の西側に位置している。しかし、本遺跡の場合、寺院跡が共存する要素から、これら遺物集積遺構が祭祀的な所産であれば、寺院関連の祭祀遺物が多数含まれる傾向が示されなければならない。遺物集積の内容は殆どが日常の什器であり、煮沸具である。また、瓦の出土を見ているが、これも祭祀遺物とは言いがたい。

また、一概に廃棄箇所として位置付ける要素もあるが、集落内の様相からも廃棄以外の性格をも類推して見るべきである。ここでは、個々の集積遺構に関して説明を述べるが、該期集落内で遺物を集積する意味を今後探る必要もあろう。多くの類例が必要ではある。

1号集積遺構

中尾根東区の2号掘立柱建物跡東に近接して検出された。2号掘立柱建物跡とともに南側の背後に崖状の斜面が控え、遺物は斜面から下端部にかけて集中していたが、濃密な集中ではなく、散乱した状態での出土である。また、大別して東側の一群と西側の一群に分けられ、東側の集中がやや優位である。

出土範囲は東西に長く5.4m、南北には2.5m程度の広がりで、掘り込みも持たず、傾斜に沿って出土が見られた。また、出土層位も一定しておらず、遺物が安定的に出土した層位はなかった。

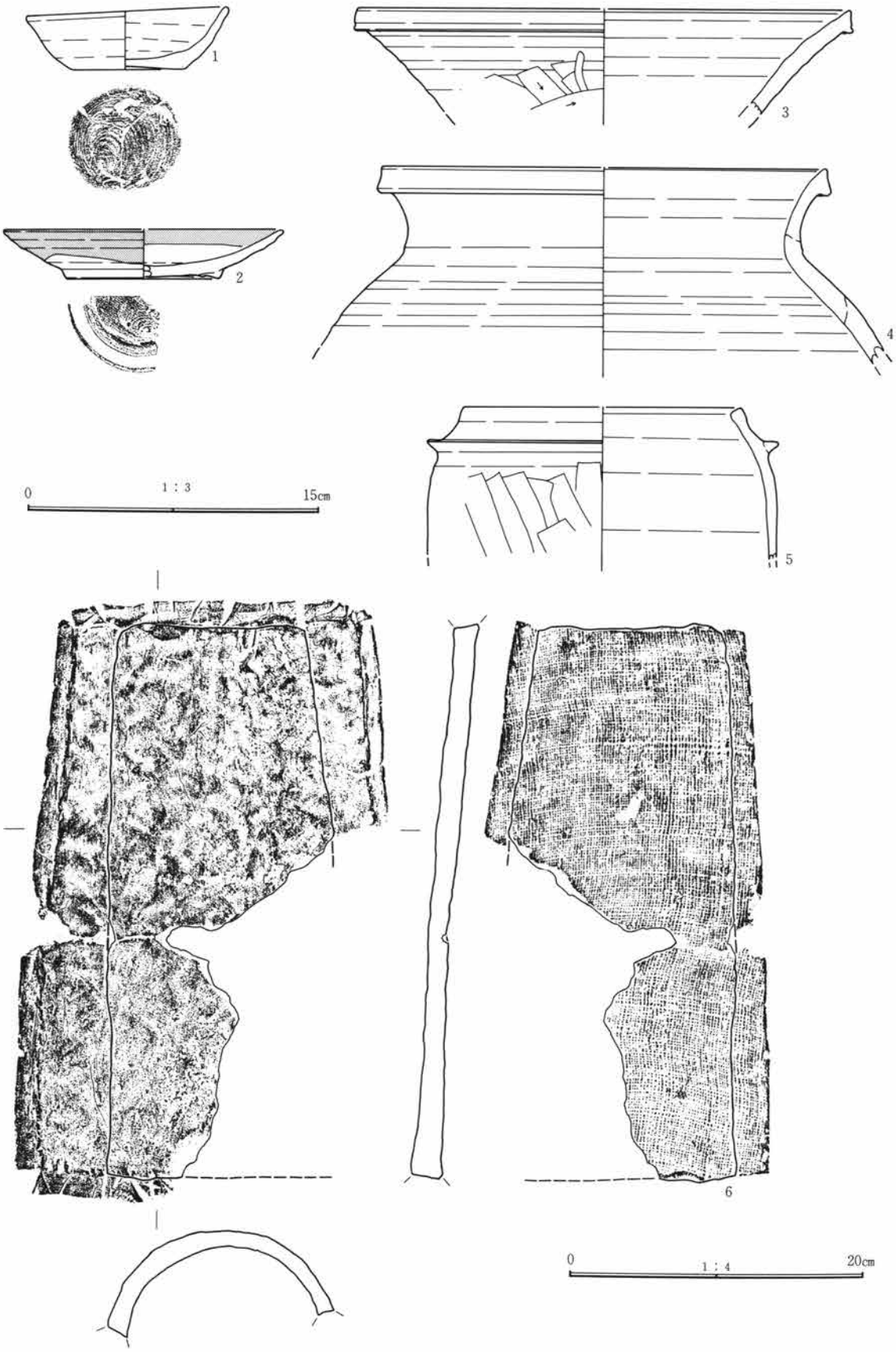
尚、焼土・炭化物、出土下面の硬化面などは見られなかった。

出土遺物総破片点数は61点と遺物集積としては少ない。14点を図示し得た。1は小型の坏。ほぼ中央西群寄りで出土した。右回転轆轤整形で酸化焔焼成である。やや厚手の器厚を呈す。2は灰釉陶器高台付皿。体部は大きく開き、高台は短く貼付される。西群西端で出土。3は大甕口縁部破片。西群で2点が接合した。あるいは鉢の可能性がある。轆轤整形後縦位・横位篦削りを施す。4は甕口縁部～肩部破片。頸部は緩やかに湾曲し、体部の張りは顕著ではない。轆轤整形後撫でを施す。西群1点と東群3点が接合した。5は羽釜。東群出土。口縁部は若干内傾気味で、鍔はやや上向きに貼付される。轆轤整形後体部中位より縦位の篦削りを施し横撫でを加える。

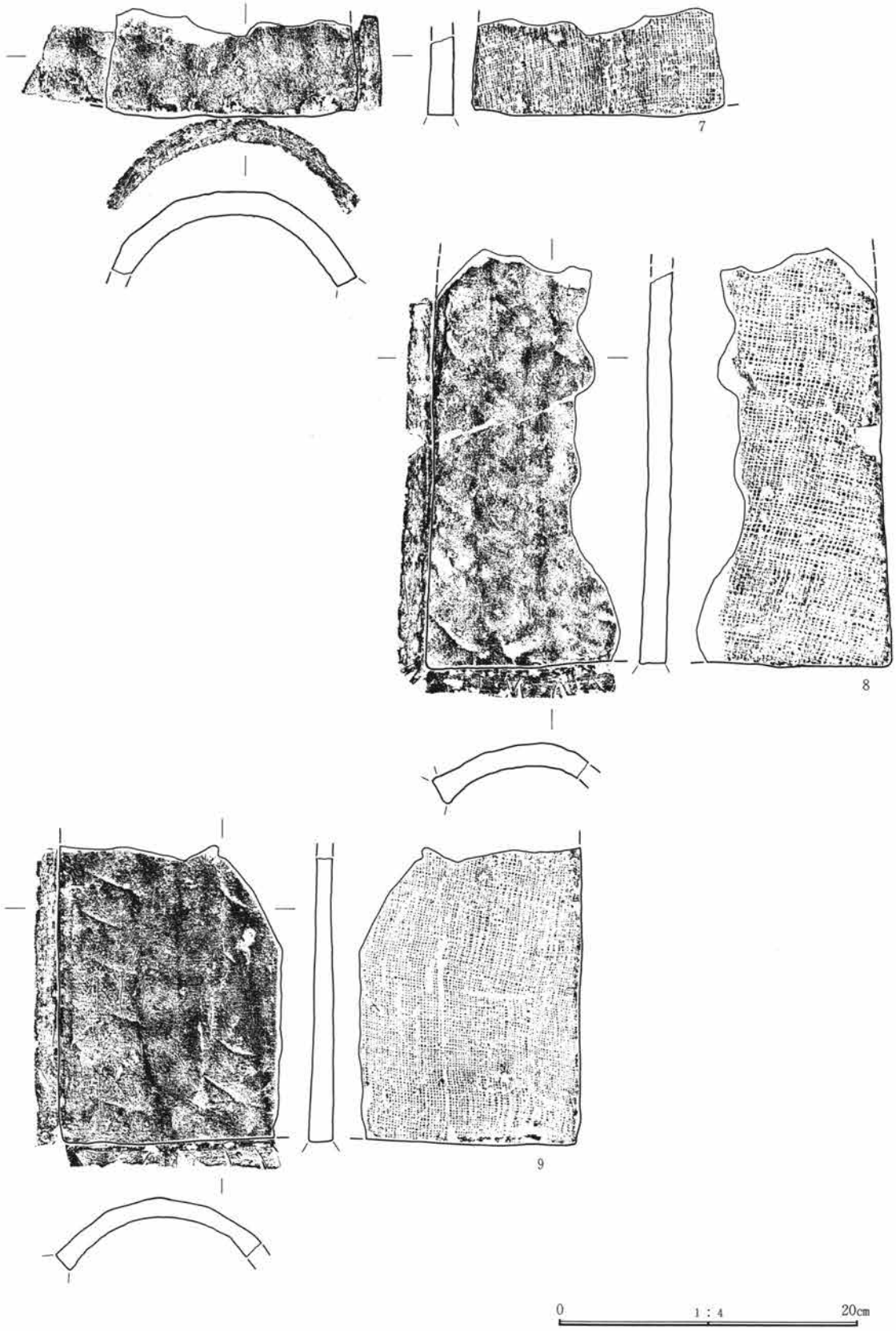
6～12は瓦。比較的出土量が多く、かつ大型の破片も見られる。これは、斜面上に位置する頂部区の礎石建物からの流入などの営力によるものと思われる。本集積遺構と礎石建物間の斜面地に位置する73号住や80号住にも瓦の出土が見られかつ大型破片である。流入と捉えると礎石建物廃絶後の流入あるいは建て替え時の廃棄とも想定されよう。これは瓦などと伴出した自然石にも反映され、これら大型の石は礎石の一部が転落・廃棄されたものとも考えられる。6は丸瓦。遺存は良好である。側部・端部とも面取りは1回。凸面の調整は平行叩である。東群出土。7の丸瓦も側部・端部とも面取りは1回。凸面は無文叩調整。東群で5・6・9などとまとまって出土した。8、東群出土の丸瓦。側部は2回、端部は1回の面取りが行われる。凸面調整は無文叩である。9の丸瓦は側部・端部とも1回の面取り。凸面は無文叩。東群出土。10は東群で2点が接合した平瓦。側部・端部とも面取りは1回。凸面調整は無文叩後縦位撫でが加わる。11は凹面筵目の平瓦。側部・端部とも2回。凸面は平行叩。12は軒平瓦片。西群出土。

13・14は鉄製品。13は刀子であろうか。摩滅が著しく判然としない。細身で先端部は尖り気味である。14は鉄斧。厚手で側面を折り曲げる。刃部はやや摩滅し丸みを帯びる。完形である。ほぼ中央部で出土。

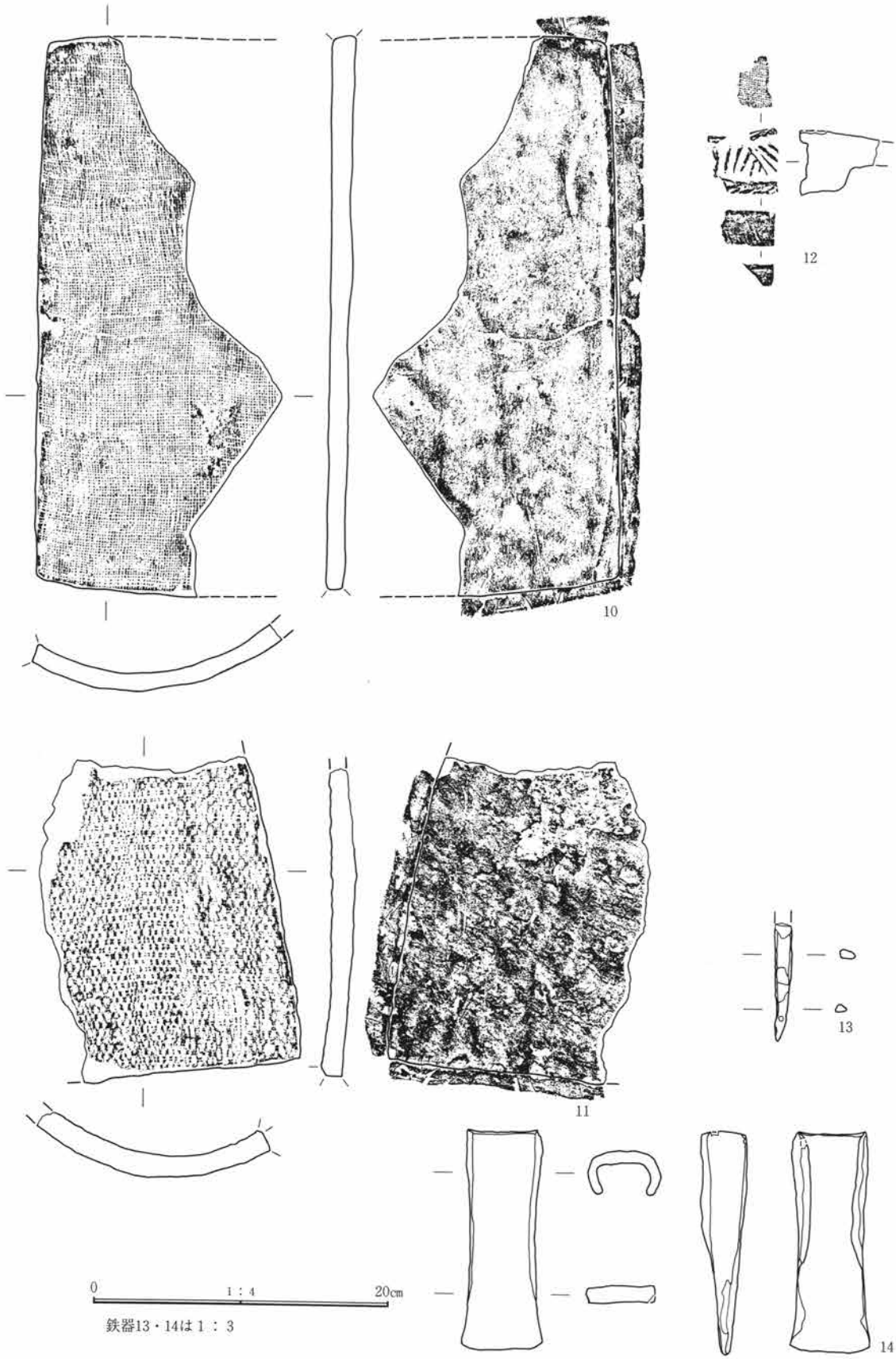
231図　１号遺物集積遺構



232図　1号遺物集積遺構出土遺物（1）



233図　１号遺物集積遺構出土遺物（２）



234図　1号遺物集積遺構出土遺物（3）

２号集積遺構

中尾根東区の中央やや南東よりで検出された。80号・81号土坑が北側に近接し、他の住居跡群とは距離を保つ。また、１号集積遺構や２号掘立柱建物跡と同様に南側に崖状斜面を控え、斜面際に遺物が集中する共通点を持つ。80・81号土坑やこれらの周辺遺構は、直接居住にはかかわらず、工房・備蓄・廃棄などの所産と捉え得る。これらの遺構が、住居跡群から一定の距離を置く要素も注意し、集落内に居住以外の空間利用を想定せねばならないだろう。

１号集積遺構は掘り込みを持たず、斜面上に遺物の集中が見られたが、２号集積遺構では、下端に溝状の落ち込みが確認された。崖状斜面に沿う走行で、幅約1.8～2.5ｍで、深さは約15㎝と浅い。周辺には土坑・小ピットが散見されるが、本遺構との関連は不明である。小ピットは規則的な配置ではないが、簡素な上屋も考えられる位置である。

溝の南辺の一部には段差が設けられており、遺物はこの段差の周辺に集中して出土した。完形の出土は見られず、総て破片状態で出土している。また、底面に密着して出土はしておらず、やや浮いた状態を呈していた。破片といっても、甕・羽釜類の大型破片が目立ち、それらが折り重なるように密着して出土している。集中は１箇所に見られ複数の群をなさない。集中するため出土の層厚は持つが、個体によって特定の出土層位はなく上位から下位にかけて同一の個体破片が出土している。このことから、本集積遺構出土遺物は原位置を保つものではなく、廃棄あるいは破壊された状態が想定できよう。

出土遺物の総破片点数は、794点と多い。１号集積遺構では瓦の出土を多く見たが、２号集積遺構は須恵器大甕の出土量が飛躍的に多い。81号土坑出土の甕などとの関係も注意しておきたい。

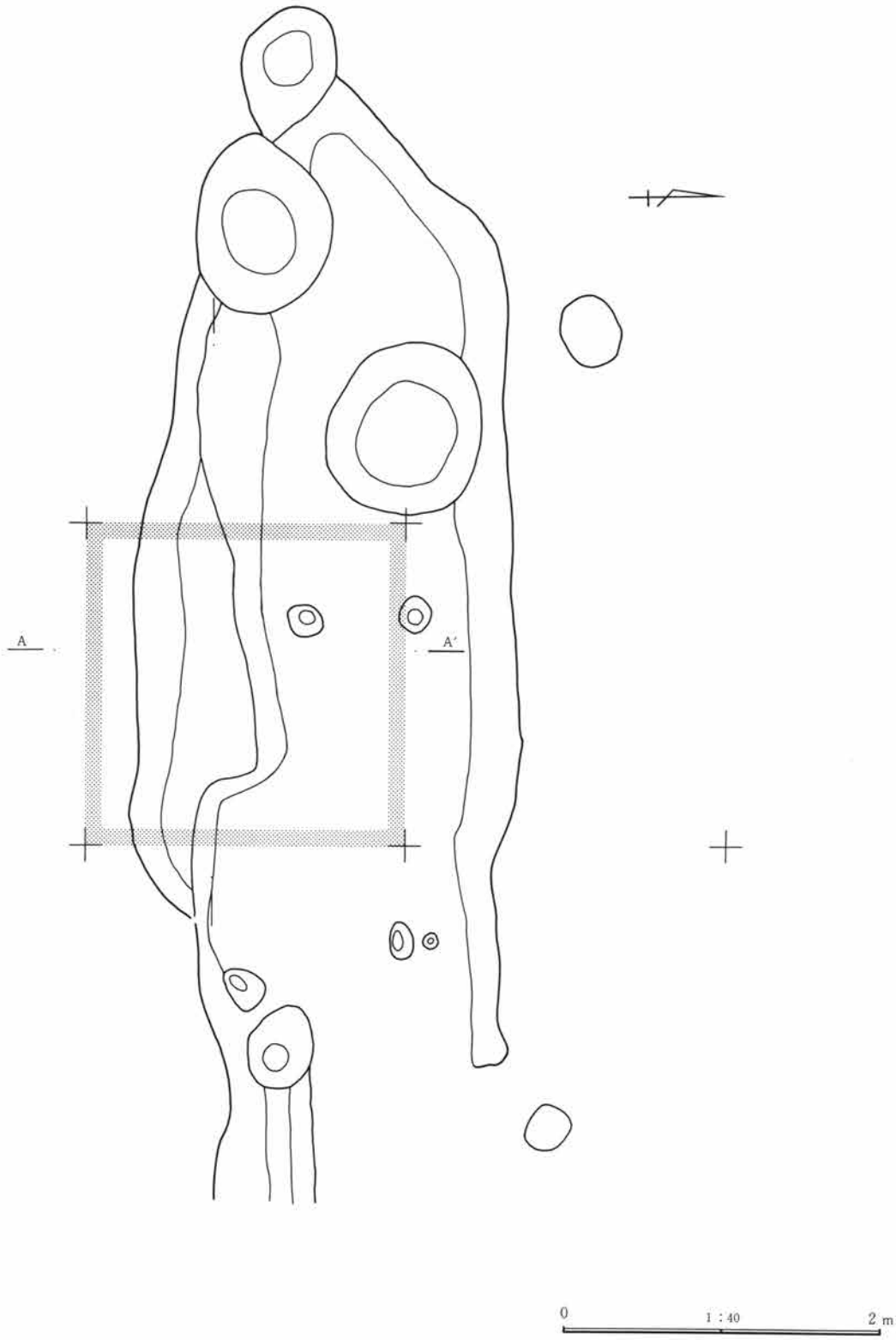
１・２は小型の坏。体部は直線的な形態を呈す。１の体部下半は回転撫でが顕著である。２の体部は若干内彎する。３は口縁部が外反する坏。体部は僅かに膨らみ、器厚は薄手である。４の高台付椀の口縁部も外反する。体部に膨らみを持ち、やや厚手の器厚を呈す。

５は高台欠損する椀。大振りで身深である。器厚は薄手である。口唇部は僅かに外反気味で体部外面の轆轤目強い。６も身深の椀。口縁部は僅かに外反し、体部は膨らみを持つ。内外面の器壁剝落著しい。７・８は４よりはやや大きめの高台付椀。７の体部は直線的に開き、高台も短く開き気味に貼付される。８は口縁部が外反し、体部は膨らみを持ち、高台は短く貼付される。９は椀の口縁部破片。口縁部は外反し、体部も膨らむ。10は無台の椀であろうか。11は椀底部破片。高台は短かく貼付される。内外面に油煙が付着する。12は灰釉陶器輪花椀である。薄手で、直線的な体部である。底部は広く、左回転轆轤整形で回転糸切り痕が明瞭に残る。13は高台付椀底部。高台は開き気味に貼付され、体部器厚は薄手である。14の高台付椀底部の高台は直立気味に貼付される。体部は内彎気味でやや器形を異にする。底部器厚は薄手である。15は足高の高台付椀。高台貼付時の横撫でが丁寧。16も椀高台部。剝落部における貼付痕が明瞭に残る。

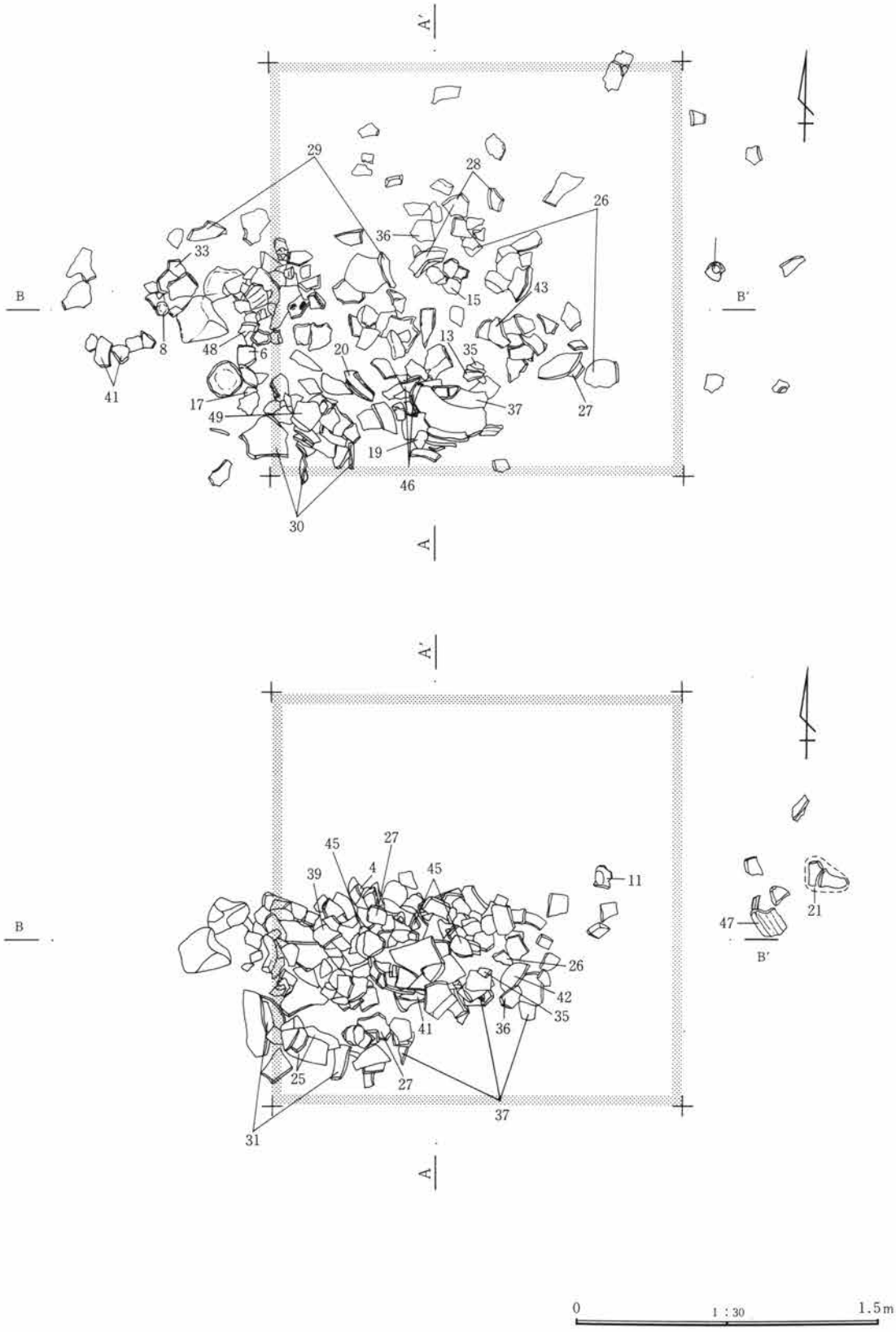
17は酸化焔焼成の鉢。轆轤整形後体部は斜位篦削りを施す。内面撫で。体部の轆轤目強い。18は酸化焔焼成小型轆轤甕。口縁部は短く開き、頸部は「く」字状に屈曲する。体部は縦位・斜位篦削りを施す。薄手でしっかりした作り。19も酸化焔焼成小型轆轤甕。口縁部強く開き、頸部は屈曲する。口縁～肩部の横撫でが顕著である。体部篦削りを施す。

20は須恵器甕。還元焔焼成である。厚手の器厚を呈す。21は中型の甕としたい。口縁部は短く開き、体部中位に最大径を持つ。体部下半に篦削りを施す。

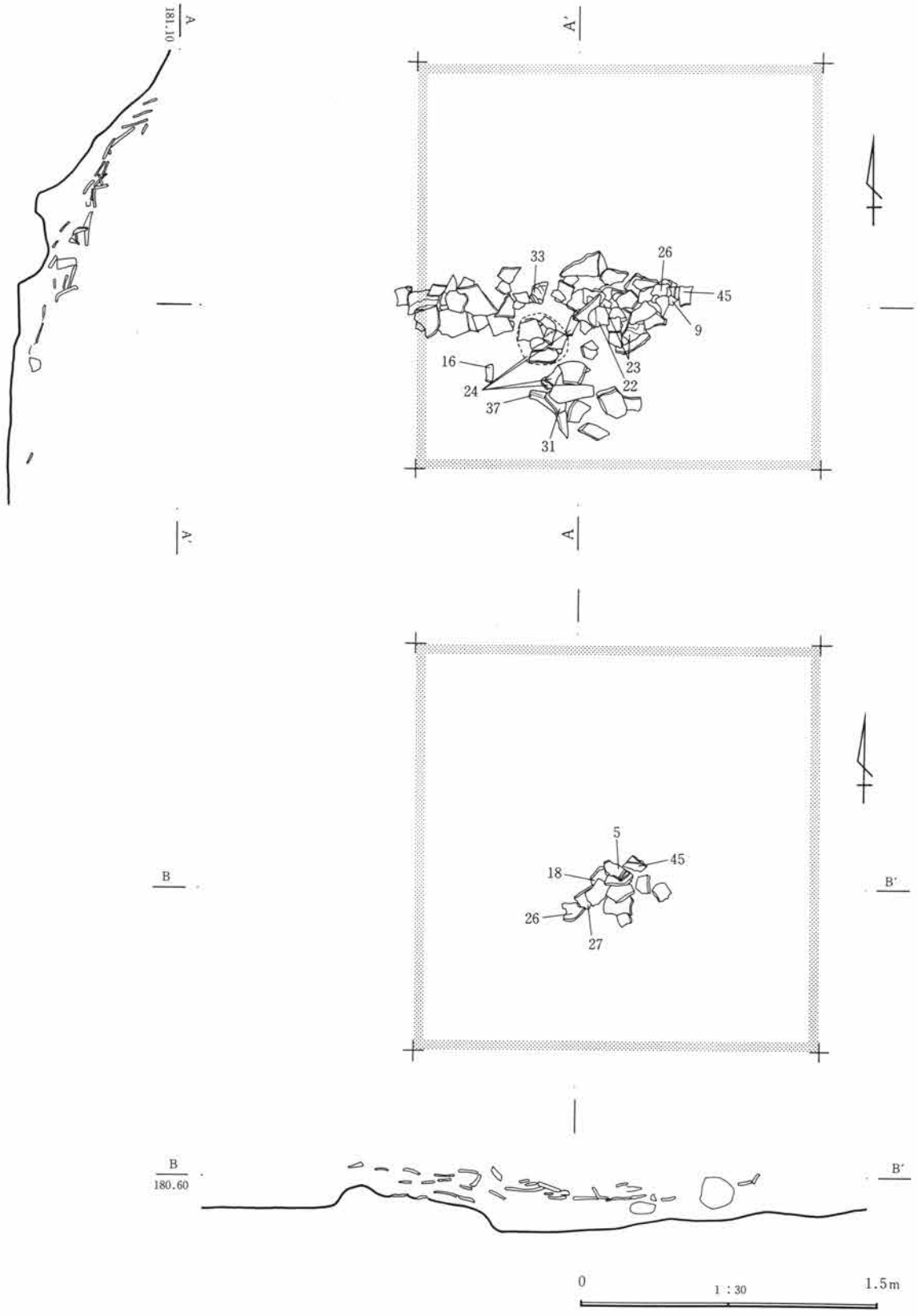
22～44までは大型の甕である。本遺構の主体ともなる器種で、図化できなかった小破片も多い。このような大型器種が集中する集積遺構は例が無いが、大型器種の住居跡などの居住空間には常置できない要素を考え



235図　2号遺物集積遺構（1）



236図　２号遺物集積遺構（２）

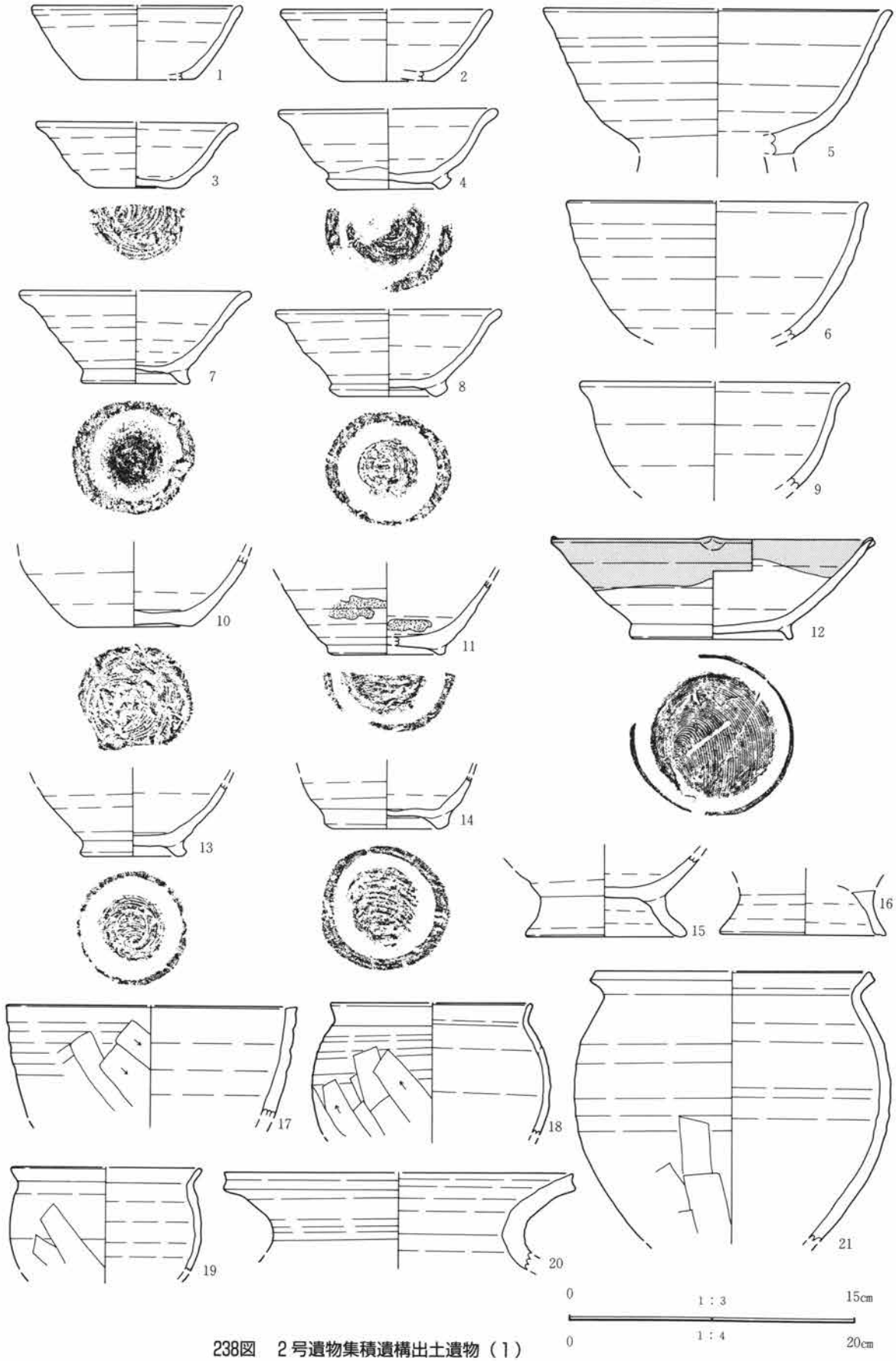


237図　2号遺物集積遺構（3）

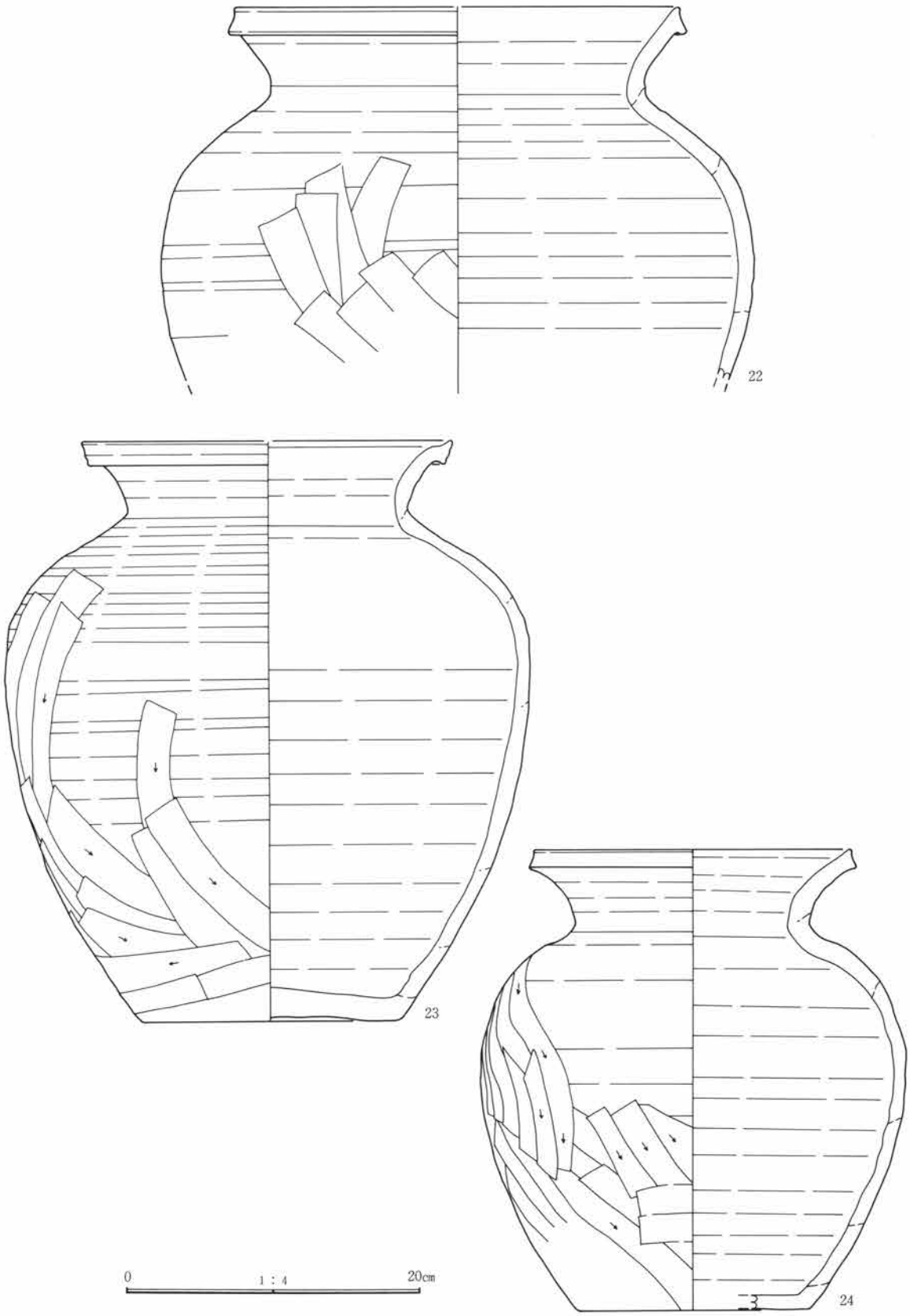
ると、集落内に一括して大甕を設置する空間も想定できよう。

22、口唇部は内傾し、頸部は内彎気味に屈曲する。体部上半に最大径を持つのであろう。右回転轆轤整形で体部は縦位斜位の篦削りを施す。色調は明黄褐色を呈す。23の口唇部は外傾する。頸部は強く内彎気味に屈曲し、体部上半に最大径を持つ。右回転轆轤整形で体部上半から篦削りが及ぶ。下半から底部にかけては横位篦削りを施す。肩部の轆轤目強い。色調は浅黄色。24、口唇部は内傾し、頸部は内彎気味に屈曲する。肩部は若干強く張り、体部に最大径を持たせる。左回転轆轤整形で肩部より体部に斜位篦削りを施すが一部篦撫でも加わる。黄灰色の還元色を呈し、しっかりした作りである。25、口唇部は直立気味に内傾する。頸部は内彎気味に屈曲し、体部中位に最大径を持たせる。やや緩やかな膨らみである。右回転轆轤整形で体部下半より斜位、腰部は横位の篦削りが施される。外面轆轤目強く内面器壁剝落する。色調は明黄褐色を呈す。26、口唇部は短く内傾し頸部の屈曲は緩やかな内彎を見せる。最大径を体部上半に持たせ、膨らみも若干弱い。左？回転轆轤整形で体部中位より斜位、腰部は横位篦削りを比較的入念に施す。色調は鈍黄橙色を呈す。27は器高約50㎝を測る大型品である。口唇部は内傾し頸部の屈曲はやや弱い。肩部の張りも緩やかで、体部の上半に最大径を持つ。右回転轆轤整形で下半に疎らな篦削りを施し撫でを加える。大型品に比して器厚は薄手である。色調は橙色を呈す。28、口唇部は外傾する。頸部は強く「く」字状に屈曲し、肩部も張る兆しを見せる。轆轤整形で口縁部外面平行叩後撫でを加える。体部も平行叩。内面口縁部は縦位指撫で、体部は青海波文。灰色の還元色を呈す。29は球胴状の大甕。本遺跡出土遺物で最大である。口唇部は直立し、頸部屈曲は強く「く」字状を呈す。球胴状の体部中位に最大径を持たせ、底部は特に作出されず、不安定な座りである。口縁部は轆轤整形、おそらく体部は紐作り叩き整形で外面は撫でが加わる。内面頸部に顕著な指頭圧痕が残る。色調は黒色で還元色である。30の口唇部は僅かに外傾する。口縁部は緩やかに外反し頸部は強く屈曲する、肩部の張りは顕著である。轆轤整形で体部外面は撫でが加わる。内面は肩部に指頭圧痕が残り、体部は篦撫でが施される。灰黄色を呈す。31は体部のみの残存。球胴状の形態を呈し、紐作り平行叩整形と撫で、内面は斜位縦位の篦撫でを施す。色調は灰黄色を呈し、あるいは30と同一個体の可能性もある。32は甕底部。直立気味の高台が貼付される。底面は撫で、内底面の回転撫で痕跡顕著。33は体部破片。外面は平行叩自然釉付着。内面は青海波文が深く当てられる。色調は黒褐色。34、頸部～底部。頸部の屈曲は残存が悪く判然としない。球胴状で31と同様の色調を呈す。紐作り平行叩整形で下半の撫でが顕著である。内面は横位を基調とした撫でを施す。35は肩部破片。外面は平行叩、内面は青海波文。還元色の暗灰黄色を呈す。36も外面平行叩、内面青海波文の体部破片。灰色を呈す。37は31・34と同様な体部。やや体部の張りは弱い。外面上半平行叩後撫で、下半は縦位なで、腰部は斜位篦削りを施す。内面は横位篦撫で。色調は鈍橙色を呈す。38、頸部～体部上半の大破片。やや直立気味の頸部形状が特徴である。口縁部は外反し、肩部は張る。口縁部は轆轤整形。体部は紐作り平行叩整形であろう。内面には青海波文。灰色を呈す。39はやや薄手の器厚を呈す頸部破片。口縁部は轆轤整形で体部紐作り平行叩整形、内面は青海波文。色調は鈍黄色。内外面に自然釉が付着する。40・41は体部破片。黒褐色を呈し、外面平行叩、内面青海波文。外面に自然釉付着。同一個体か。42・43も体部破片。外面平行叩、内面は円環状当て目。同一個体か。44は器壁剝落著しく、器形・整形は判然としない。櫛描き波状文が多段に看取される。

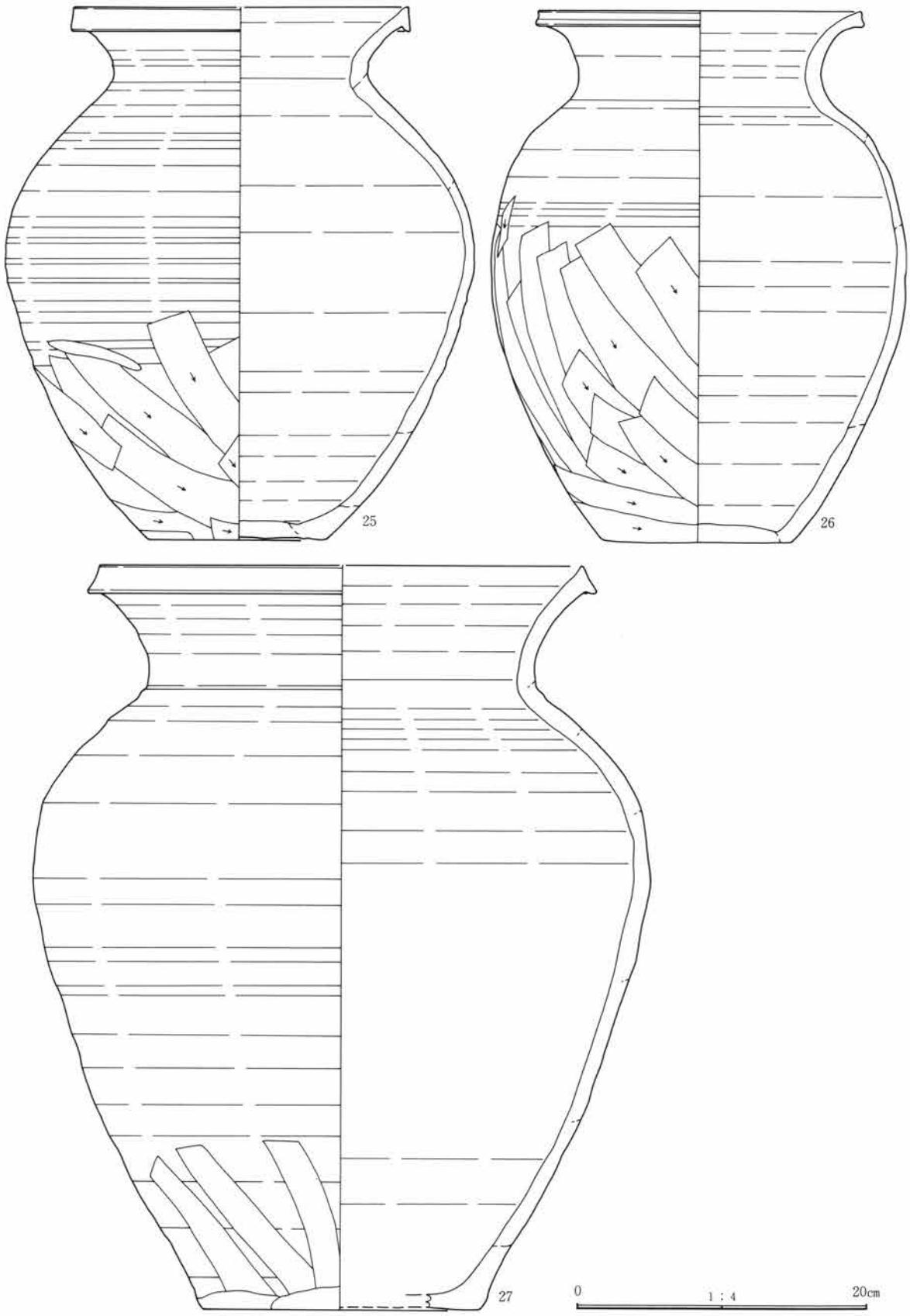
45～48は羽釜。完形の出土はなく、口縁部の図示となった。形態は多様性に富むが、色調は45を除き、黄褐色～鈍黄褐色を呈し、伴出した大甕類と近似する。45、口縁部は内傾気味に直立し、鍔は下がる。轆轤整形で体部外面は縦位篦削り後撫でを施す。色調は黄灰色を呈す。46の口縁部は強く内傾し体部の膨らみと連なる。鍔はやや上位を向き端部は比較的鋭い。左回転轆轤整形で体部は篦削りを施す。47、口縁部は彎曲気味に内傾



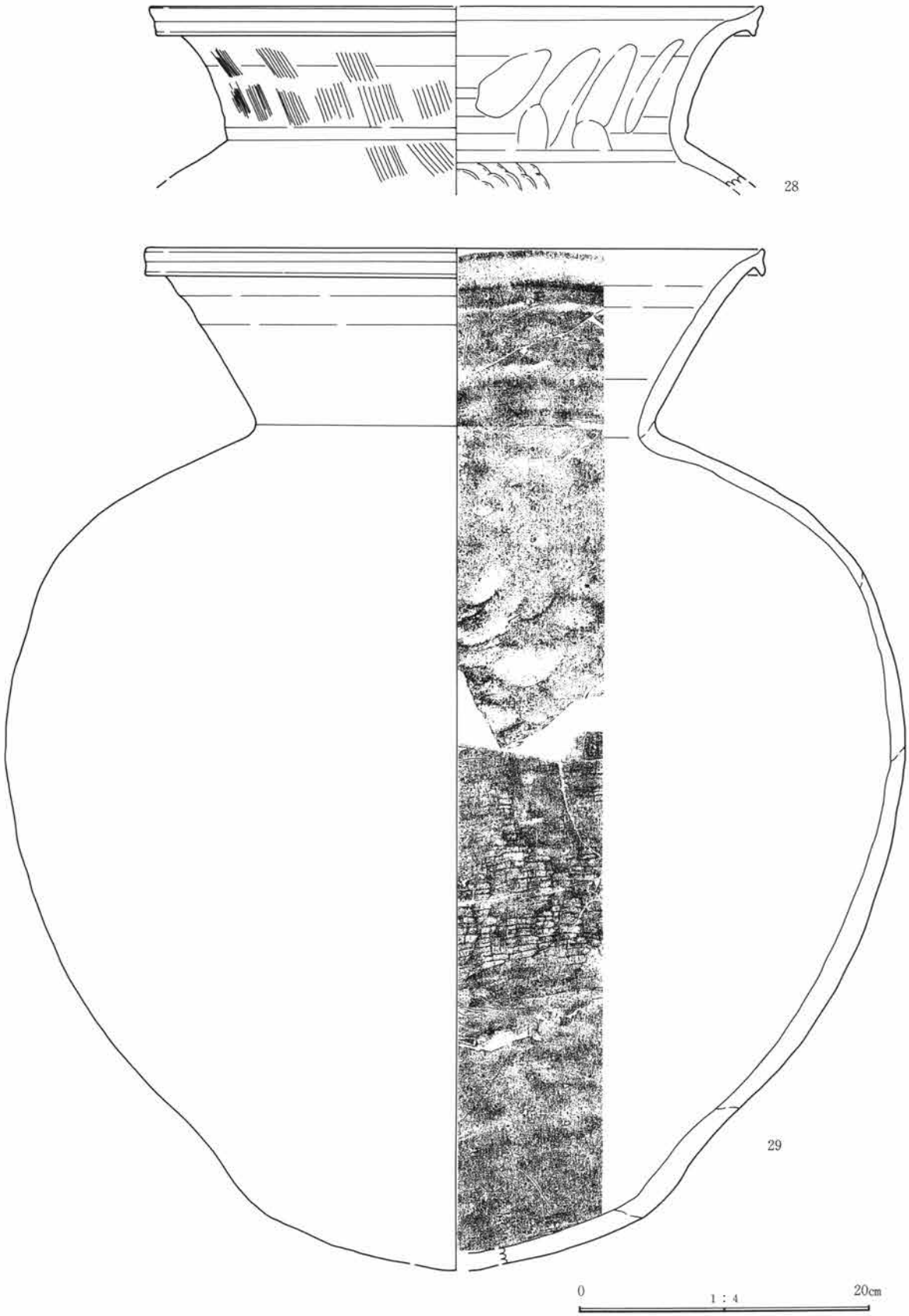
238図　2号遺物集積遺構出土遺物（1）



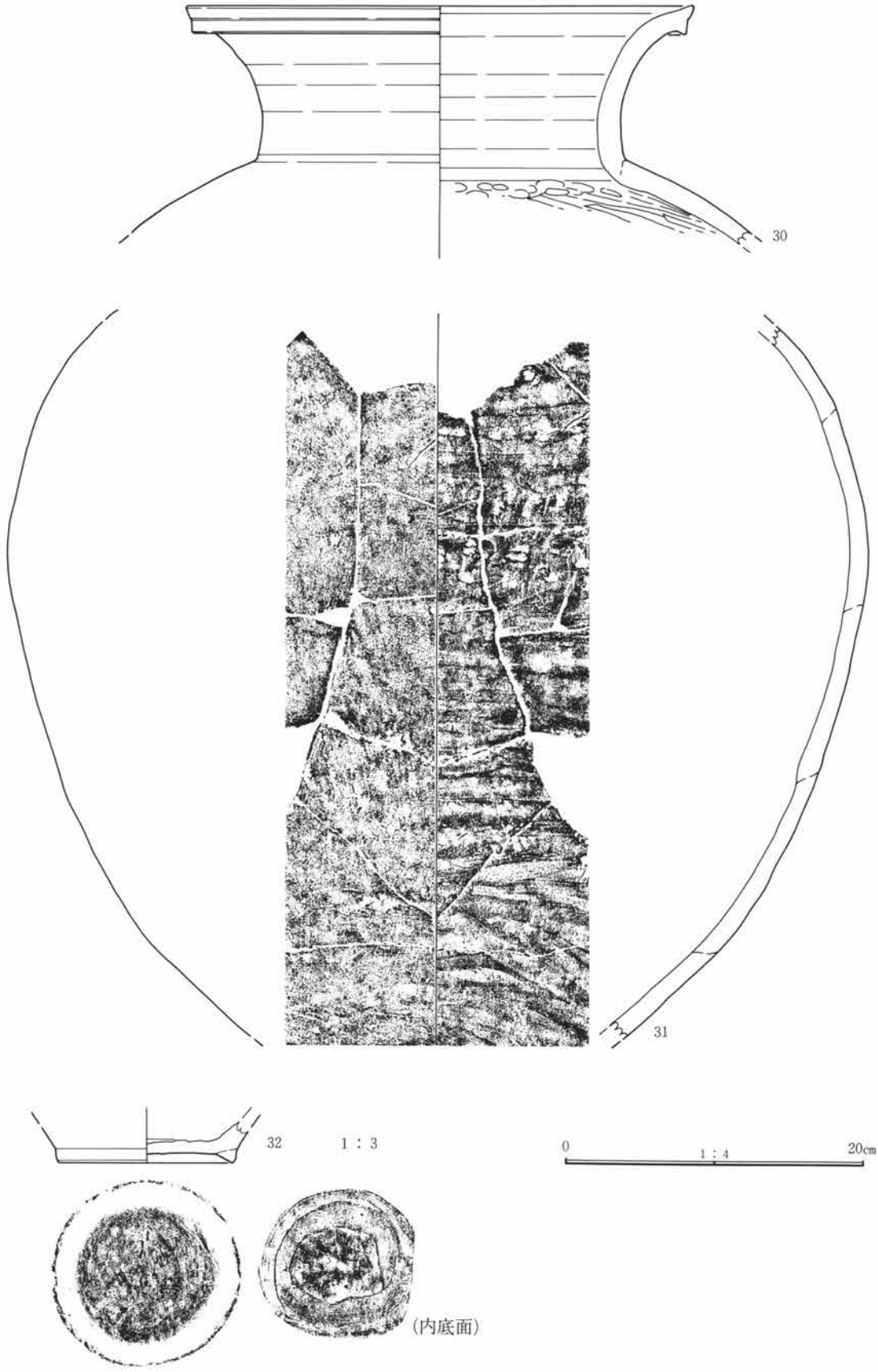
239図　２号遺物集積遺構出土遺物（２）



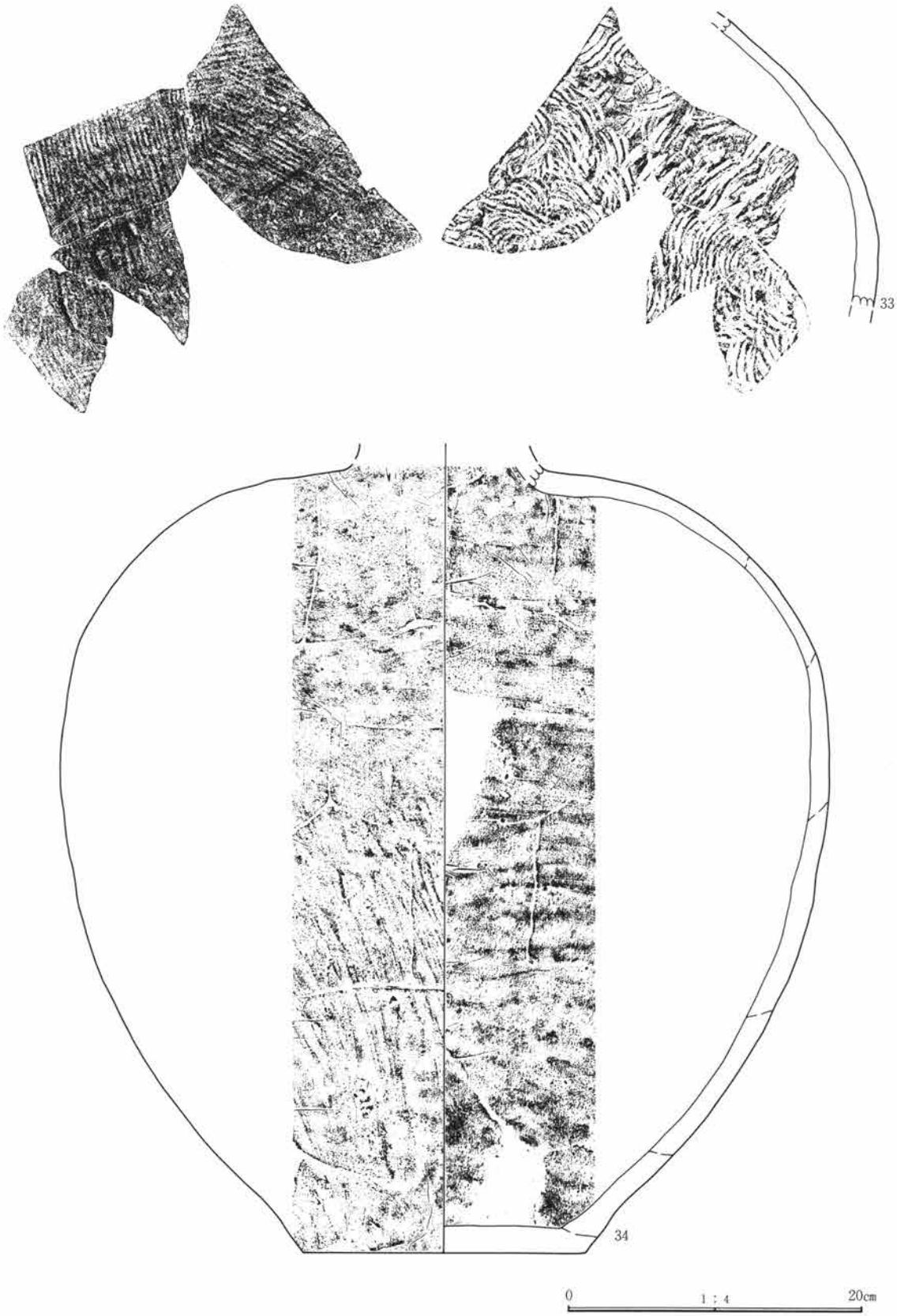
240図　2号遺物集積遺構出土遺物（3）



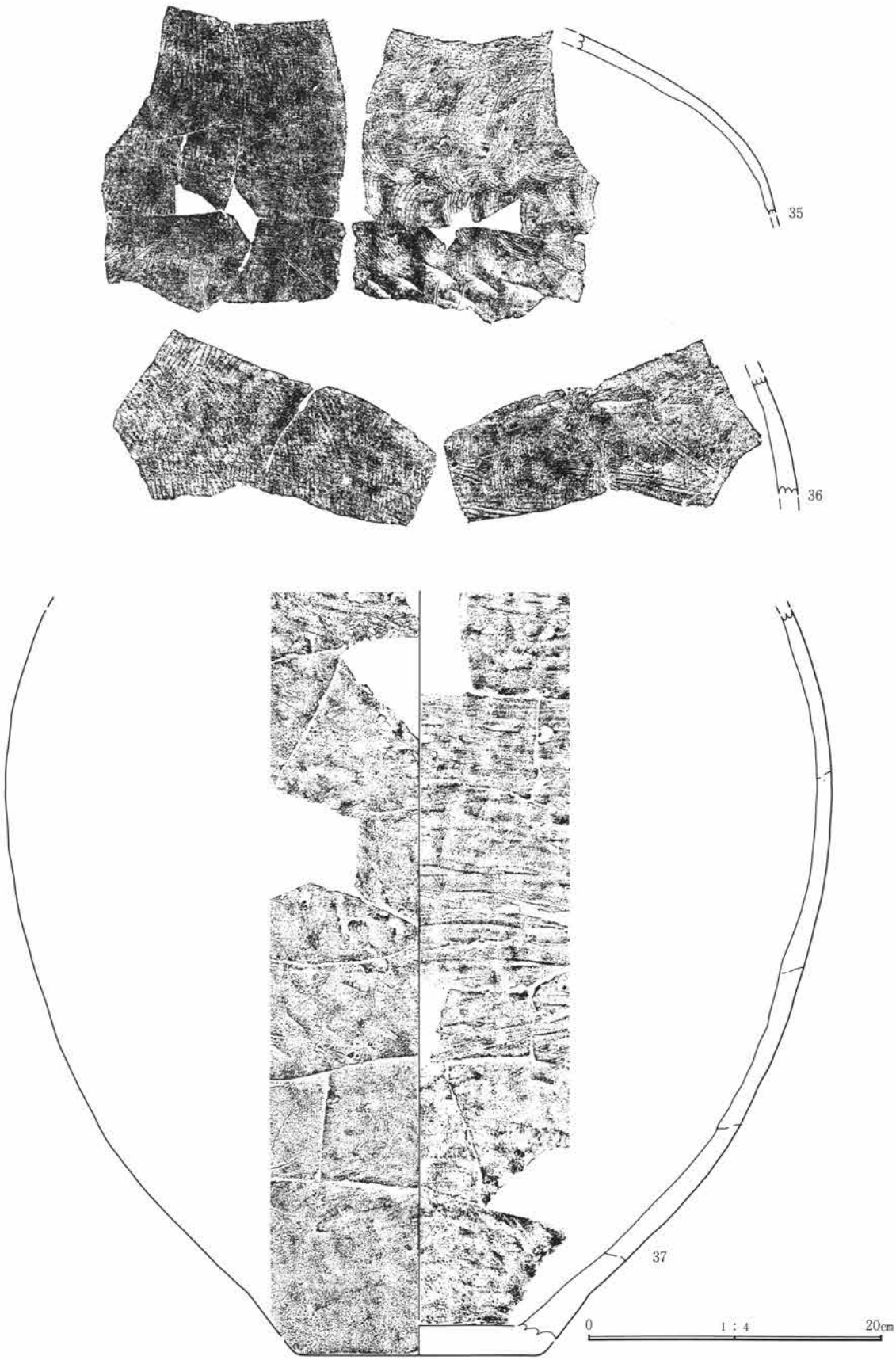
２号遺物集積遺構出土遺物（４）



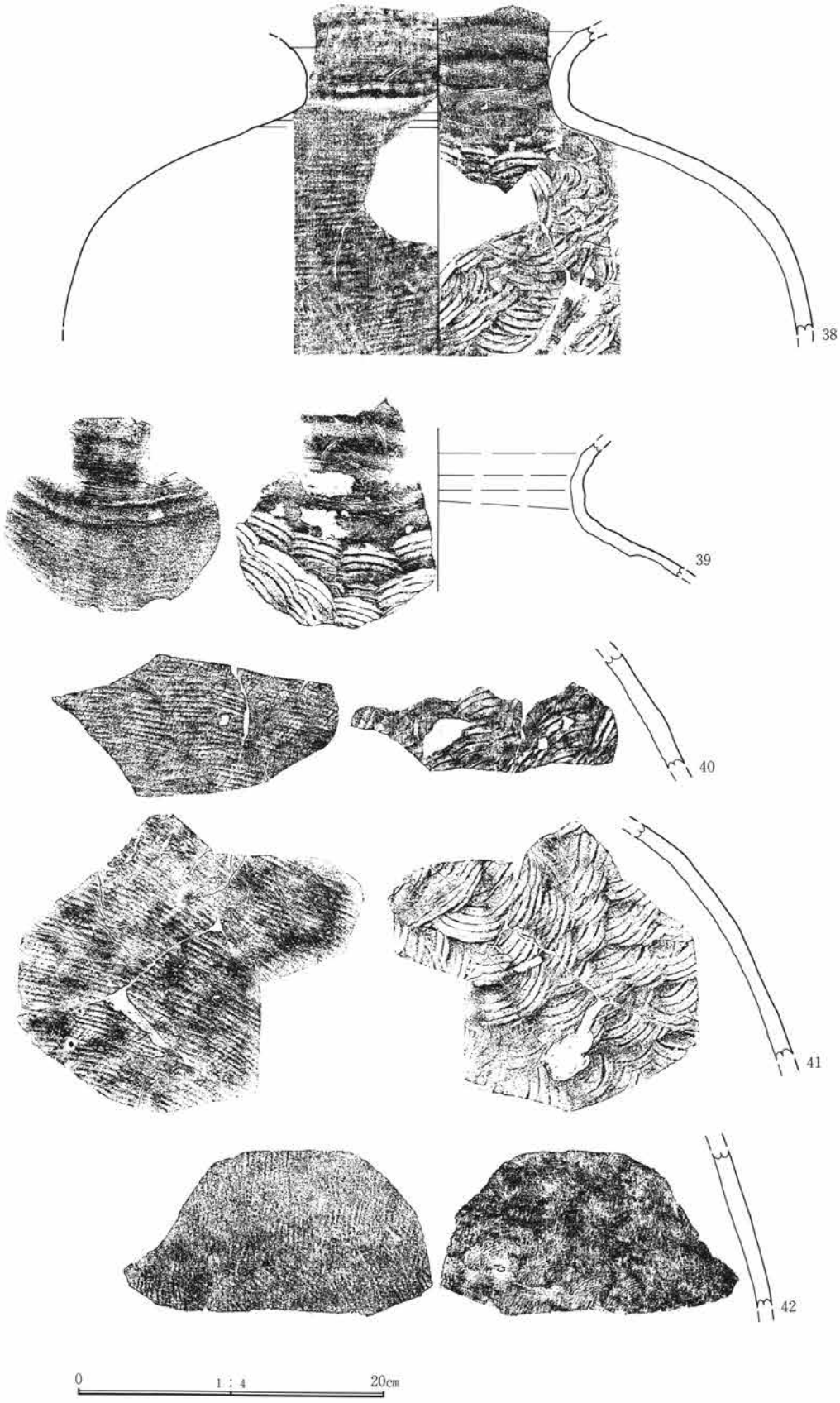
242図　2号遺物集積遺構出土遺物（5）



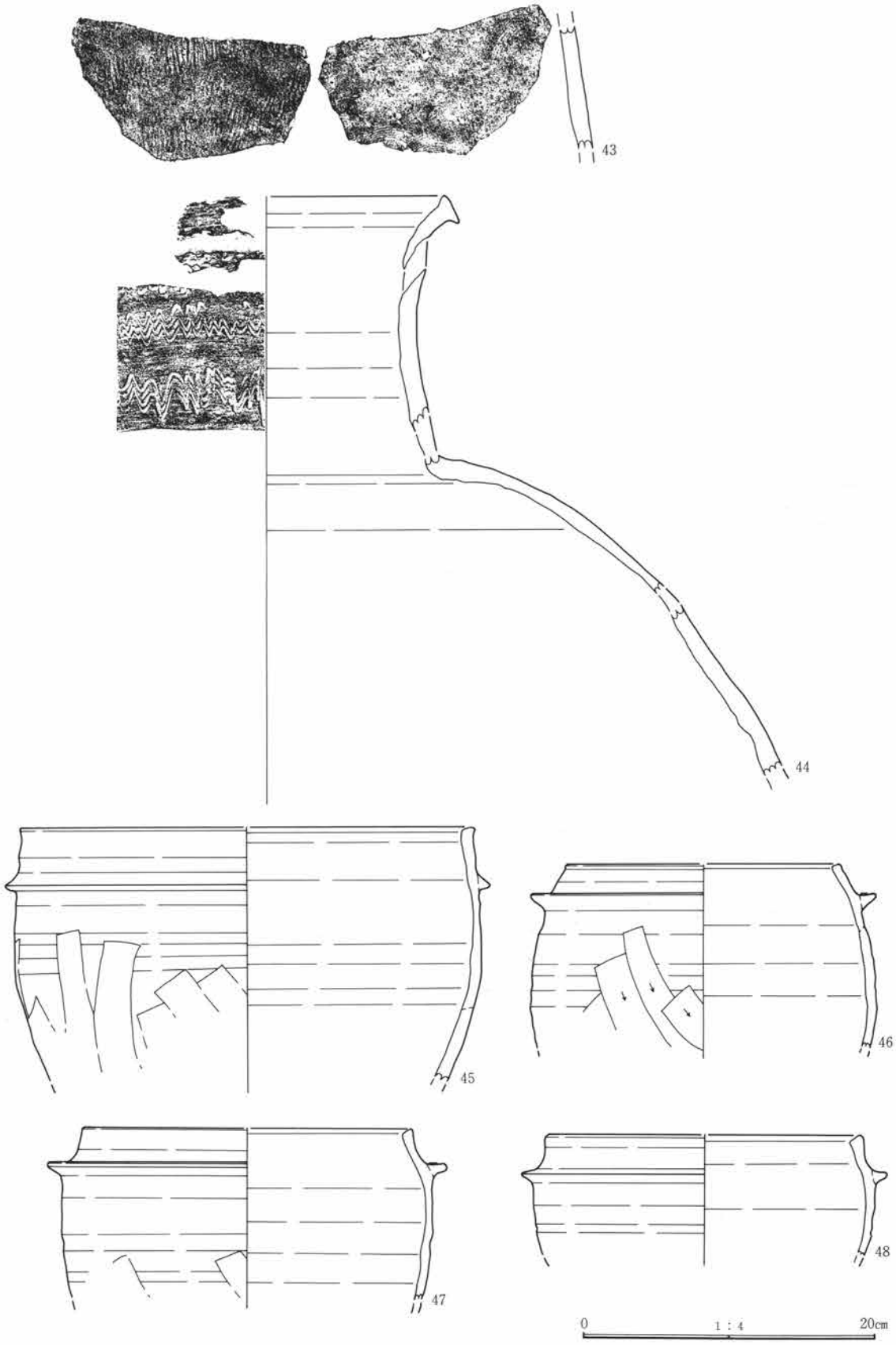
243図　２号遺物集積遺構出土遺物（６）



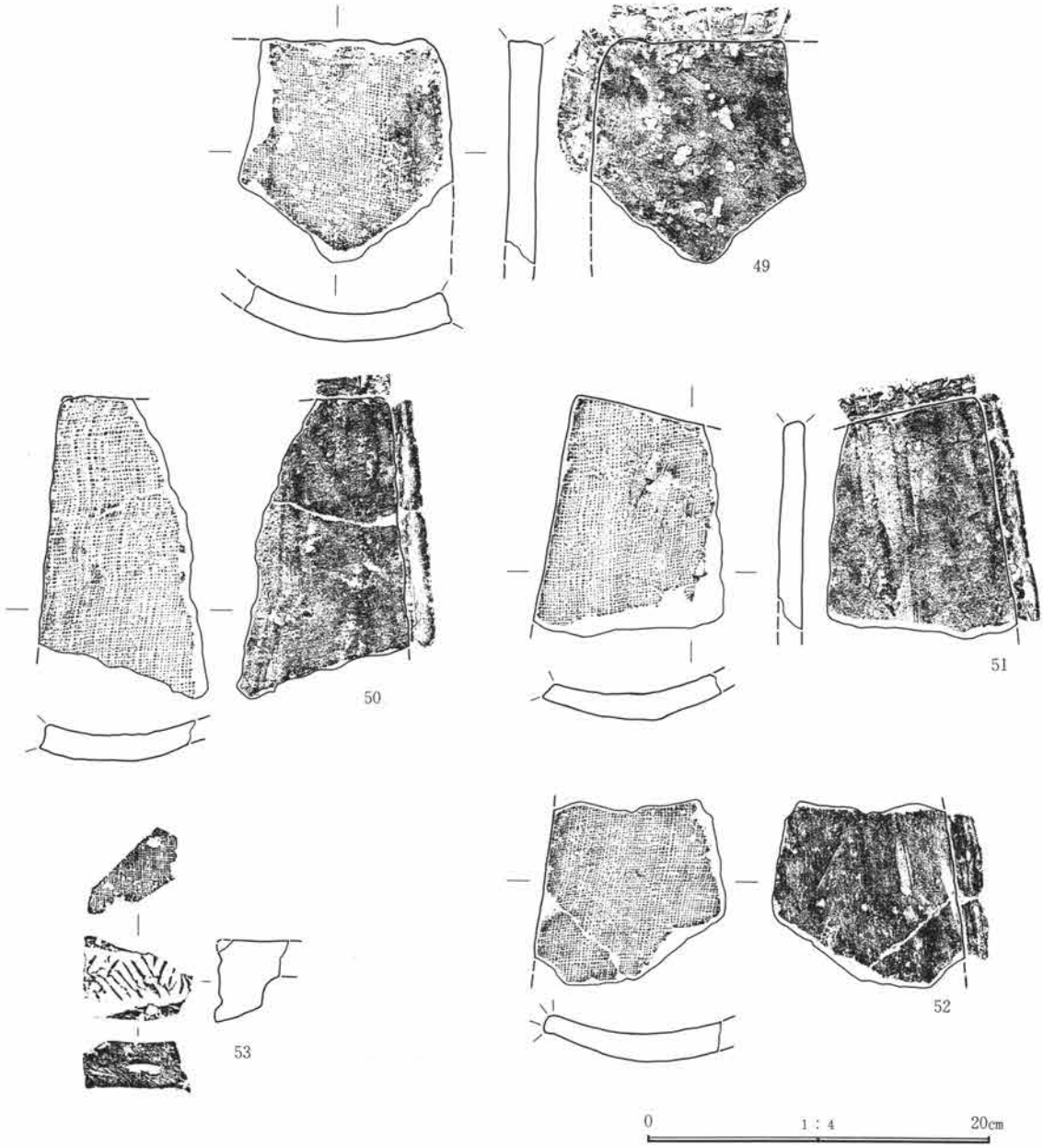
244図　2号遺物集積遺構出土遺物（7）



245図　２号遺物集積遺構出土遺物（８）



246図　2号遺物集積遺構出土遺物（9）



247図　２号遺物集積遺構出土遺物（10）

する。体部の膨らみは弱く、箆撫でが施される。器厚は薄手。48の口縁部も内傾する。体部下半は判然としないが、轆轤整形で比較的丁寧な作りである。

49～52は瓦。遺存状態は悪く客体的な存在である。７号礎石建物からの流入とも考えられるが、１号集積遺構で見られた瓦の出土量とは対称的である。各礎石建物に葺かれた瓦の量が、これら下位の遺構に流入した瓦出土量に反映されるものと思われる。49、平瓦。側部・端部とも面取りは１回で凸面の調整は無文叩後撫で。50、平瓦。側部面取り１回、凸面は叩調整後縦位撫でが及ぶ。51も平瓦。側端部とも面取りは１回、凸面は平行叩後撫で。52は側部面取りは３回。凸面は平行叩後撫で。53は鋸歯文を施した軒平瓦細片。

以上のように、２号集積遺構は大甕の出土量が他の器種に比較して非常に多い。前述のように、80・81号土坑との近距離性を考え、両土坑を工房址などの寺院跡関連遺構と考えれば、２号集積遺構もそれに付随する設備とも捉えられよう。

3号集積遺構

西尾根区で検出された。急斜面上の占地であり、南側に7号テラス状遺構、西側には22号住・23号住が近接する。本遺構は調査当初は、土器細片が上面より出土し、平面プランも方形を基調とすることから、24号住居跡として着手された。その後、床面・竈の存在が無いことから、遺物集積遺構として認定した経緯がある。尚、7号テラス状遺構は2基の掘り込み遺構を付帯する。この掘り込み遺構も調査当初51・52号住として認定されていた。

上記のように本遺構の南側・西側は住居跡・テラス状遺構が近接するが、北側には浅い谷地形が展開する。特に本遺構の占地する箇所は谷頭部の西になり、谷を望む地点に遺物が集中するともいえよう。調査・整理では7号テラス状遺構との関連を把握できなかったが、テラス周辺には炭化物や焼土の集中も見られ、遺物集積をも含めた密接な関連をもつ遺構群としても捉えられる。

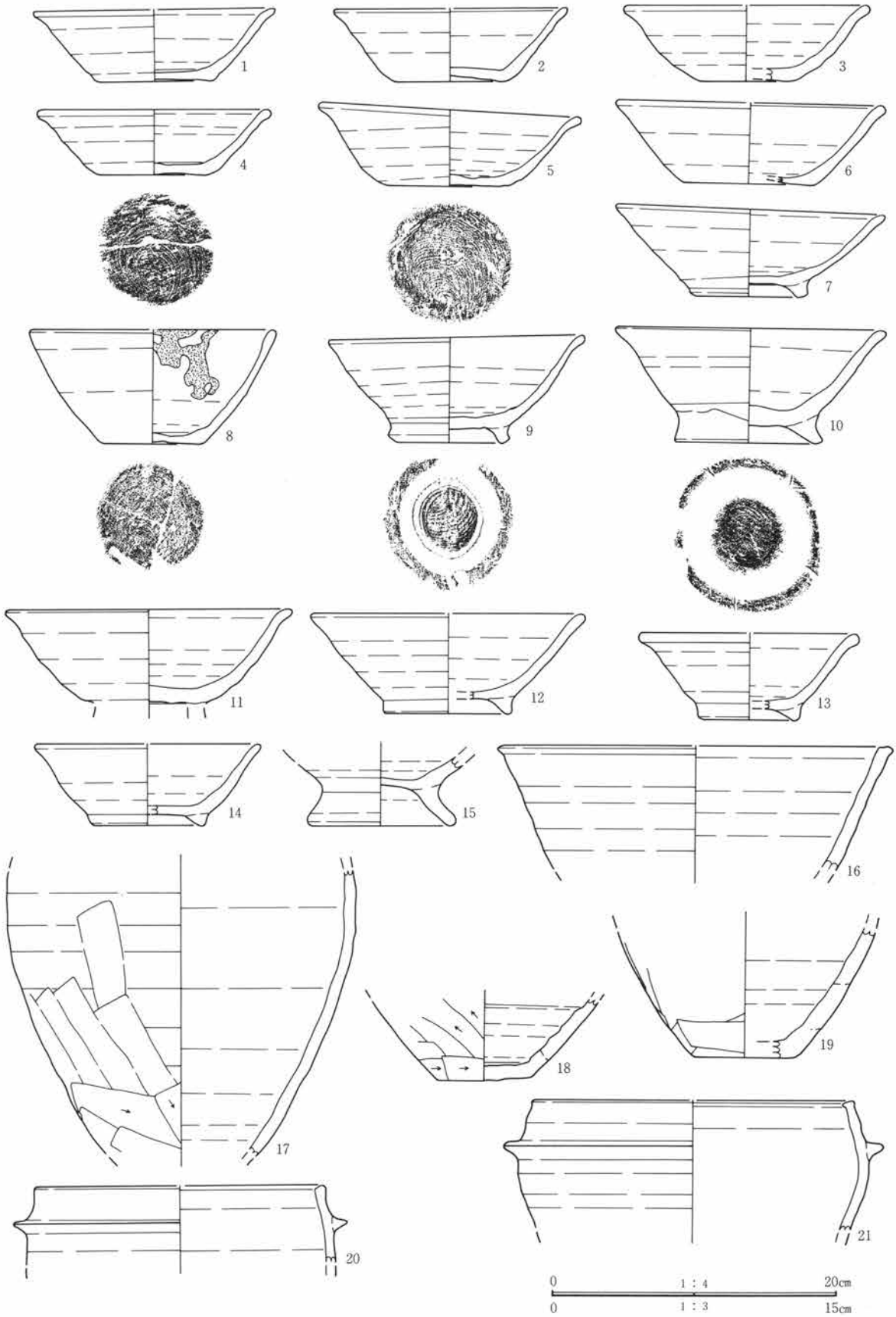
3号遺物集積遺構は、2号遺物集積遺構と同様に掘り込みを持つ。2号集積遺構は崖状斜面に沿った溝状の掘り込みに遺物が集中したが、3号遺物集積遺構は浅い不整方形を連続した平面形を呈す。長軸を東西に持ち、長さは約8mで幅1.0～1.5m、深さは浅く約20cm前後である。掘り込みの形状は直線上をなす部分や、不連続な溝状を呈する箇所もあり、一概に同時期の所産とは断定しずらい。おそらく数段階にわたって、遺物の集中が図られたものと思われる。ただし出土遺物の時期は地点において差は無く、短時間による遺物集中が想起されよう。図示し得なかったが、土層の観察では自然堆積状態による埋没が看取された。

遺物は、この掘り込みの周辺から掘り込みの坑底面にかけて集中した。図示したのは坑底面とその直上のレベルでの出土状態図である。自然石との伴出が見られるが、この石は、1・2号集積遺構や2号掘立柱建物跡に見られるような、寺院跡礎石の転石とは若干趣を異にし、7号テラス状遺構からの関係を重視しておきたい。遺物の集中箇所の特に密集する部分や特定器種が集中する箇所は見られず、全体に満遍なく出土した傾向が見られた。

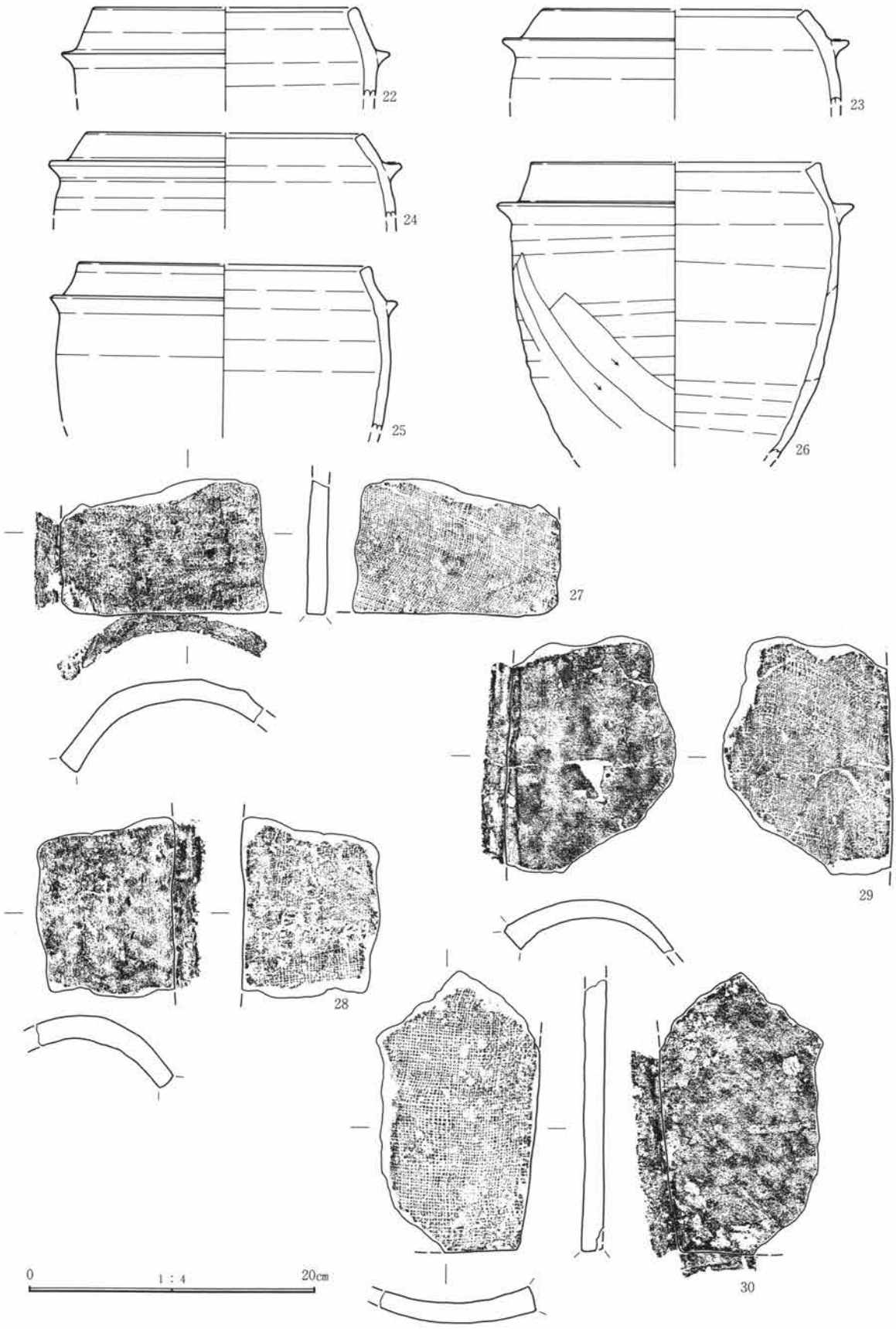
出土遺物総破片点数は1362点と非常に多い。近接する22号住出土遺物数に次いで多量の出土を誇る。しかしながら、2号集積遺構等と比して、細片の占める割合が多く、接合作業においても完形個体は高台付椀1個体（9）を得るのみであった。図示し得た遺物は35個体で、出土破片数の多さからは少ない。

1・2は体部が直線的な坏。口縁部が僅かに外反する。3の坏は体部に丸みを帯び、口縁部外反する。4の口縁部は肥厚し外反するため、玉縁状をなす。体部は直線状。5はやや薄手の器厚で、口縁部外反する。6は直線的で厚手の体部形態を呈するが、底部器厚は薄い。7は高台付椀。やや薄手の器厚を呈し、口縁部に歪みがある。器面は摩滅する。8は身深の坏。口唇部が僅かに肥厚し、体部は直線的に落ちる。口縁部内面に油煙が多く付着する。9は高台付椀。完形である。薄手の器厚で口縁部は僅かに外反し、体部が丸みを帯びる。高台はやや開き気味に貼付される。10はやや厚手の高台付椀。口縁部は若干外反する。高台は強く開き気味に貼付され、貼付時の横撫でが底面中央にまで及ぶ。11は高台欠損の椀。口縁部は外反し厚手の器厚を呈す。12の椀は直線状の体部器形を呈す。高台はやや短く開き気味に貼付される。13・14はやや小振りの高台付椀。13は器厚厚く、口縁部の外反が顕著。内面体部下半に焼成前の補修痕跡がある。14の口縁部外反は弱い。高台も短く直立気味に貼付される。15は足高椀。貼付時の横撫でが丁寧である。底部器厚は薄い。16は鉢。口唇端部に平坦面を持つ。轆轤整形後撫でを弱く加える。酸化焔焼成である。17は羽釜あるいは甕体部。轆轤整形後篦削りを施す。上半は削り整形後に再度撫でを加える。18は羽釜・甕底部破片。轆轤整形後斜位・横位の篦削りを施す。19は羽釜底部破片。轆轤整形後篦削りを施す。20、羽釜口縁部破片。直立気味の口縁部で、鍔は比較的鋭く貼付される。轆轤整形。21も羽釜口縁部破片。あるいは左回転轆轤整形か。器形全体に歪みがあり、鍔先

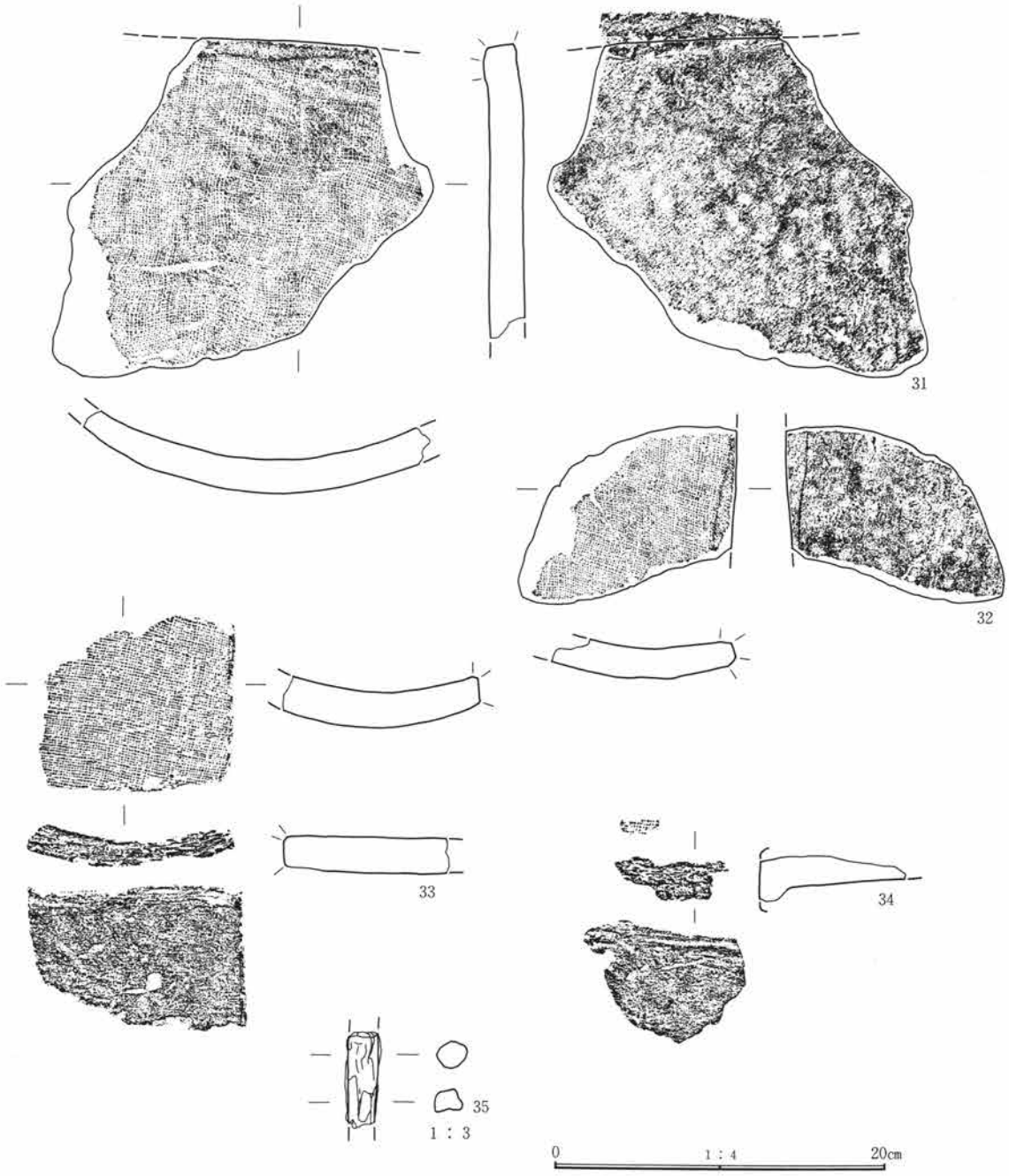
248図　３号遺物集積遺構



249図　3号遺物集積遺構出土遺物（1）



250図　３号遺物集積遺構出土遺物（２）



251図　3号遺物集積遺構出土遺物（3）

端部は摩滅する。22～25も羽釜口縁部破片。いずれも口縁部は内傾する。25の体部外面には撫でが看取される。26の羽釜は体部の篦削りが見られる。27～34は瓦破片。遺存は良くなく、全体感を把握できるものはない。27～29は丸瓦。いずれも凸面は平行叩後撫でを加え、凹面は布目である。29の側部面取りは2回。30～32は平瓦。凸面は叩後撫で調整。凹面は布目。31の上端部は3回の面取り、32の側部も3回の面取りが施される。あるい31・32は同一個体か。33・34は軒平瓦片。33の面取りは2回。35は円柱状の鉄製品。釘と考えられる。

(vii) 斜　面

黒熊中西遺跡は鏑川右岸の丘陵状地形に位置する遺跡である。この丘陵地形の北側斜面地形に、様々な遺構が群在し、その殆どが平安時代に比定されるものである。斜面には、削平あるいは自然的な営力によって平坦地形を呈する箇所があり、ここに基壇状あるいはテラス状の遺構が点在し、寺院跡関連遺構として位置付けられている。ここで扱う斜面は遺構ではなく、その出土遺物は本来ならば、グリッド扱いされるべきのものであるが、遺物の取り上げが斜面として取り上げられているため、正確なグリッド位置は不明である。また、各斜面の上位には寺院跡関連遺構が存在するため、斜面出土遺物をグリッド出土遺物とは離して掲載することにより、通常のグリッド出土遺物よりは斜面出土遺物が寺院跡に何等かの関連を示唆できるものと考えた。

Ａ斜面は中尾根東区と頂部区にまたがる。頂部区には２～４号礎石建物があり、Ａ斜面出土遺物はこれらの礎石建物との関係が想起されるものである。

Ｂ斜面は中尾根東区にあり、１号テラス状遺構の下位にあたる。１号礎石建物には７号礎石建物が占地し、Ｂ斜面の直上になる。

Ｃ・Ｄ斜面は東尾根区にあたり、東側への急激な斜面地形である。遺物は数点の須恵器片や瓦片を得たが、図示に耐え得る破片ではなく、また遺構群に直接的関連は見いだせない。

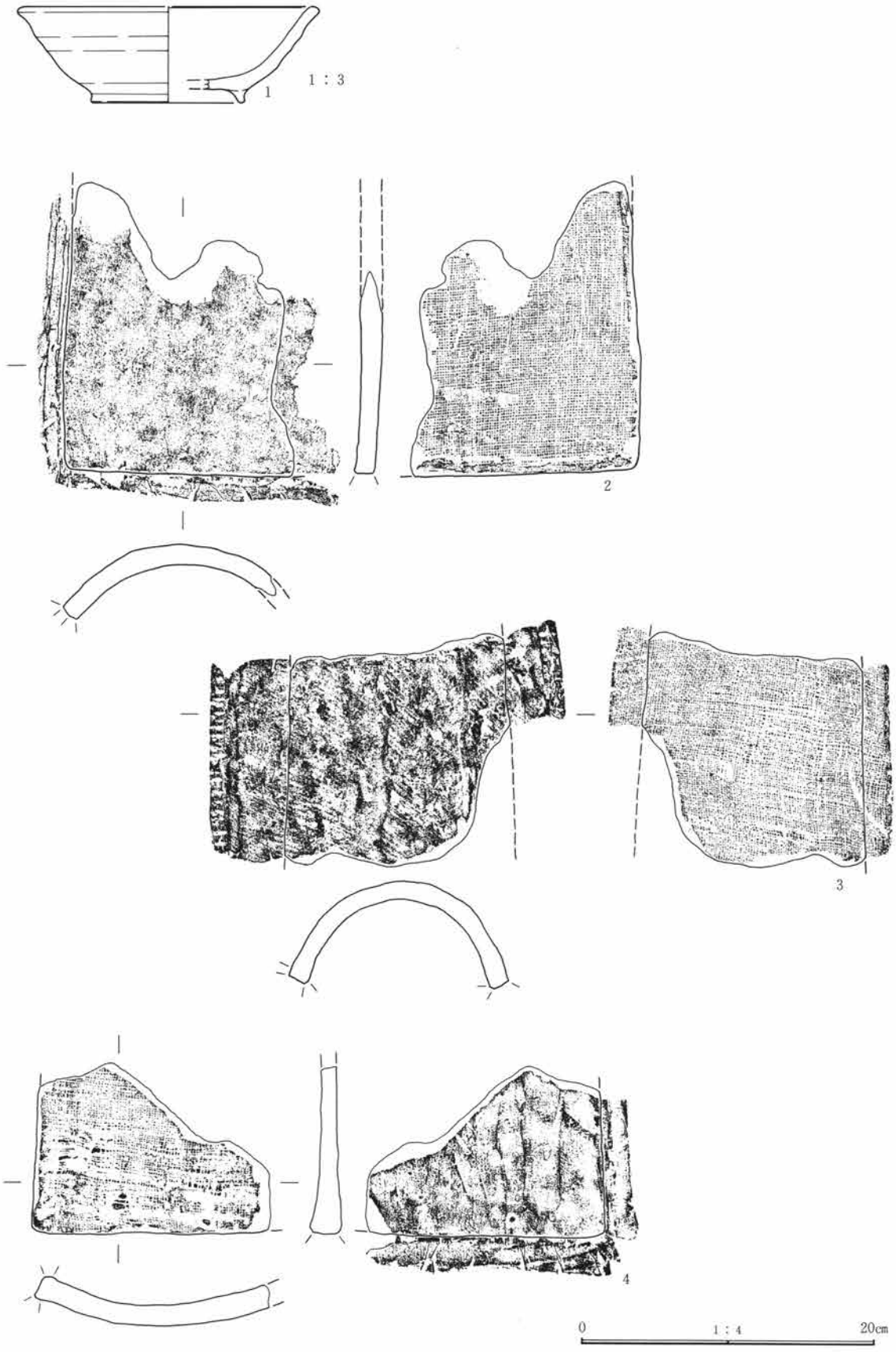
Ｅ斜面は同様に東尾根区にあたる。急激な斜面地形ではあるが、上位に１号掘立柱建物跡や54～59号住居跡が存在する。出土遺物はＣ・Ｄ斜面と同様に細片が多いが、須恵器大甕片１点を図示し得た。

Ｃ～Ｅ斜面は、東斜面であり、急激な崖状を呈することから、遺物の遺存も良くなく、出土遺物の遺構帰属の可能性も少ないと考えられる。以下Ａ・Ｂ・Ｅ斜面の出土遺物を順次掲載する。

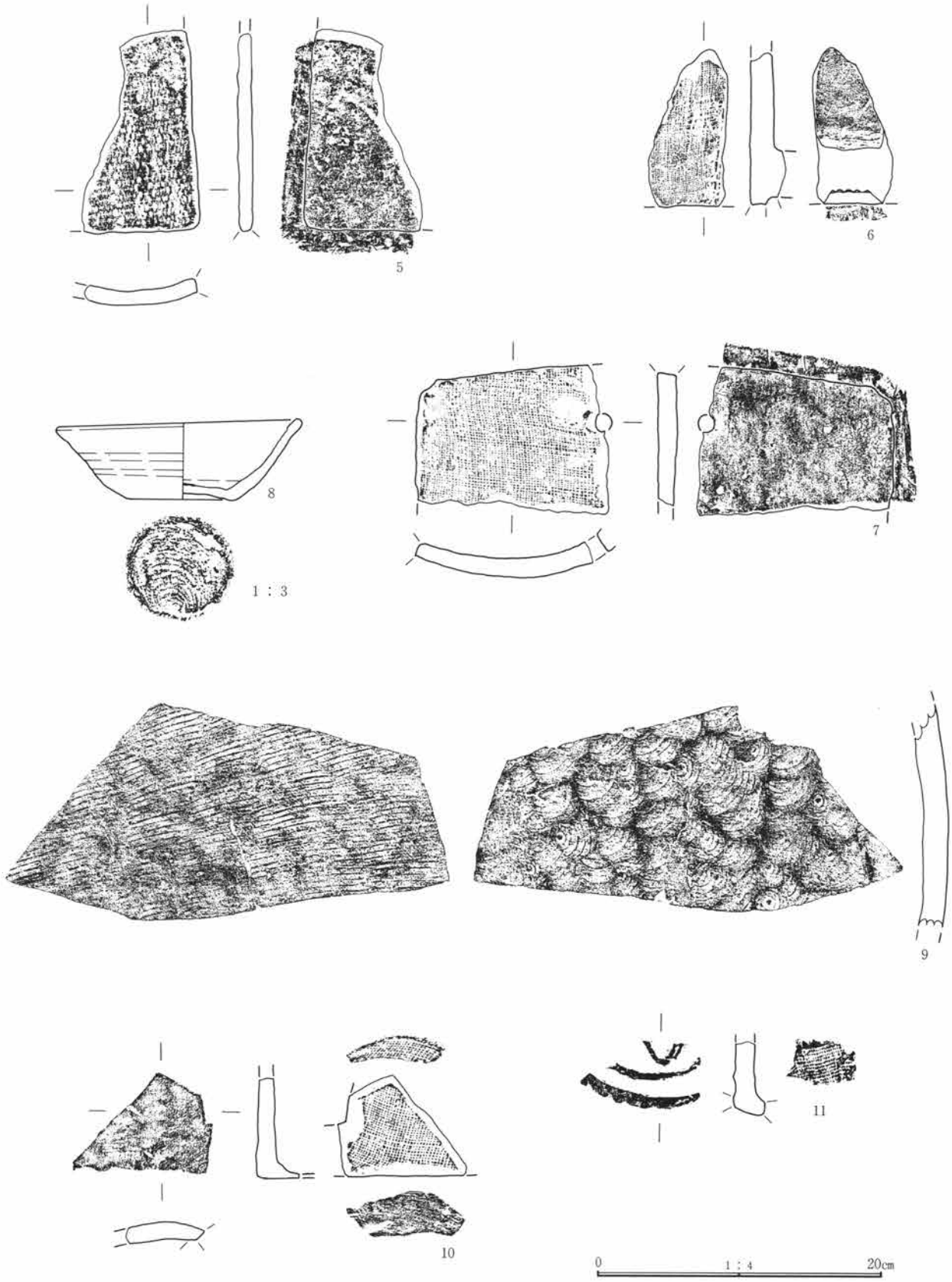
１～７はＡ斜面出土遺物。瓦片を多く得た。１は高台付椀。口縁部が僅かに外反し、体部に緩やかな膨らみを持つ。高台は短く、若干開き気味に貼付される。全体に厚手の器厚を呈す。２・３は丸瓦。２の側部は３回・端部は２回の面取りが行われる。凸面は撫で調整、凹面は布目で１条の横位指撫でが見られる。３の右側部は２回・左側部は３回の面取り。凸面は平行叩後撫で調整が及ぶ。４・５・７は平瓦。４は側部２回、端部は３回の面取り。凸面は平行叩後縦位削りが施される。凹面には横撫でが見られる。５の凹面は筵目である。側部・端部とも１回の面取り、凸面は縦位撫でを施す。７も側部・端部とも１回の面取り。凸面は無文叩後撫で調整。釘穴も認められる。焼成前の穿孔であろうか、比較的滑沢である。６は軒平瓦片。鋸歯文の一部が看取される。

８～12はＢ斜面出土遺物。８は小振りの坏。完形である。口縁部は僅かに外反気味だが、ほぼ直線状の体部器形を呈す。内面の器壁剝落著しいが、全体に薄手の器厚である。９は大甕体部破片。外面は平行叩で自然釉が付着する。内面には円環状の当て目が残る。厚手の器厚を呈す。10は軒平瓦。凸面は無文叩、面取りは２回施される。11は軒丸瓦破片。12は平瓦。側端部とも面取りは１回。凸面は無文叩。比較的薄手である。13はＥ斜面出土の大甕体部細片。内面に窯片の付着がある。外面は撫でが及ぶ。

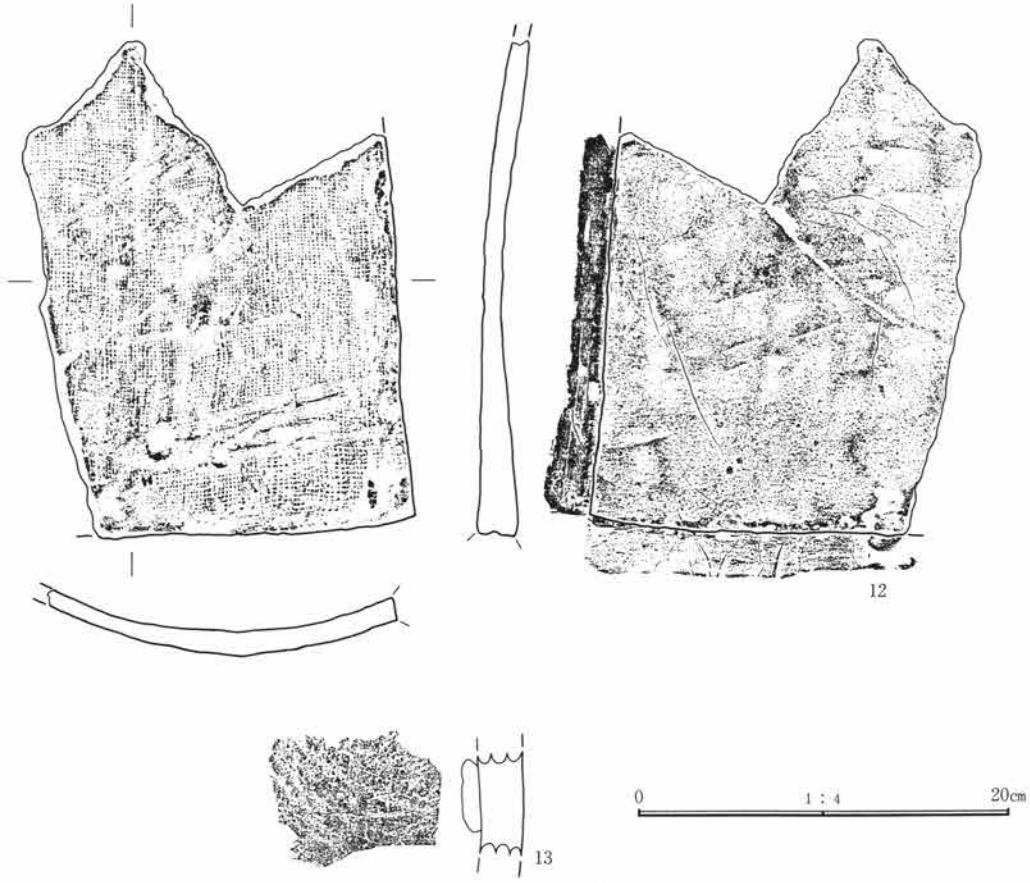
斜面地形と斜面出土遺物を扱ったが、前述のように本来ならばグリッド出土遺物として、遺構への帰属を射程におき、調査整理するべきであった。反省点である。今後、斜面地形での調査の際には、斜面出土遺物の出土状態や周辺遺構の観察を入念に行い、その遺物の帰属する遺構・あるいは原位置を類推するべきであろう。平坦地形での調査では、遺物原位置類推の方法は難しく、本遺跡のような時期が特定され、斜面を主体とする地形を持った場合可能な調査方法である。発掘調査・整理とも、常にその意識が念頭にはあったが、時間との調整に図らずも追われ、残念ながら断念せざるを得なかった。



252図　斜面出土遺物（1）



253図　斜面出土遺物（２）



254図　斜面出土遺物（3）

第２節　黒熊庚申山区の調査

(i)　調査の経緯と概要

黒熊庚申山区（以下庚申山区）は、黒熊中西遺跡の西方に接し、東側の急峻な斜面と、北側への斜面地形を持つ調査区である。調査着手前は山林部分のため、分布調査の手が及ばず、本線調査の範囲外とされていた箇所であるが、黒熊中西遺跡の調査が進展するにつれ、平安時代寺院跡や該期集落の西限を明確にする必要が生じ、平成２年５月に、本線内の東へ伸びる尾根に沿って、試掘調査を行った。その結果、溝状の落ち込みなど遺構が確認されたため、道路公団・県教育委員会保護課と協議の結果、継続調査とし本線調査区内を対象に本調査を行った。その結果、試掘調査で得られた、溝状の遺構は道路状遺構であり、庚申山頂部に伸びること、道路状遺構以外には３基の土坑が検出され、帰属する時期はほぼ平安時代と考えられる成果を得た。この本線内の調査は、検出された遺構密度が希薄なため、ほぼ１週間程度で終了した。

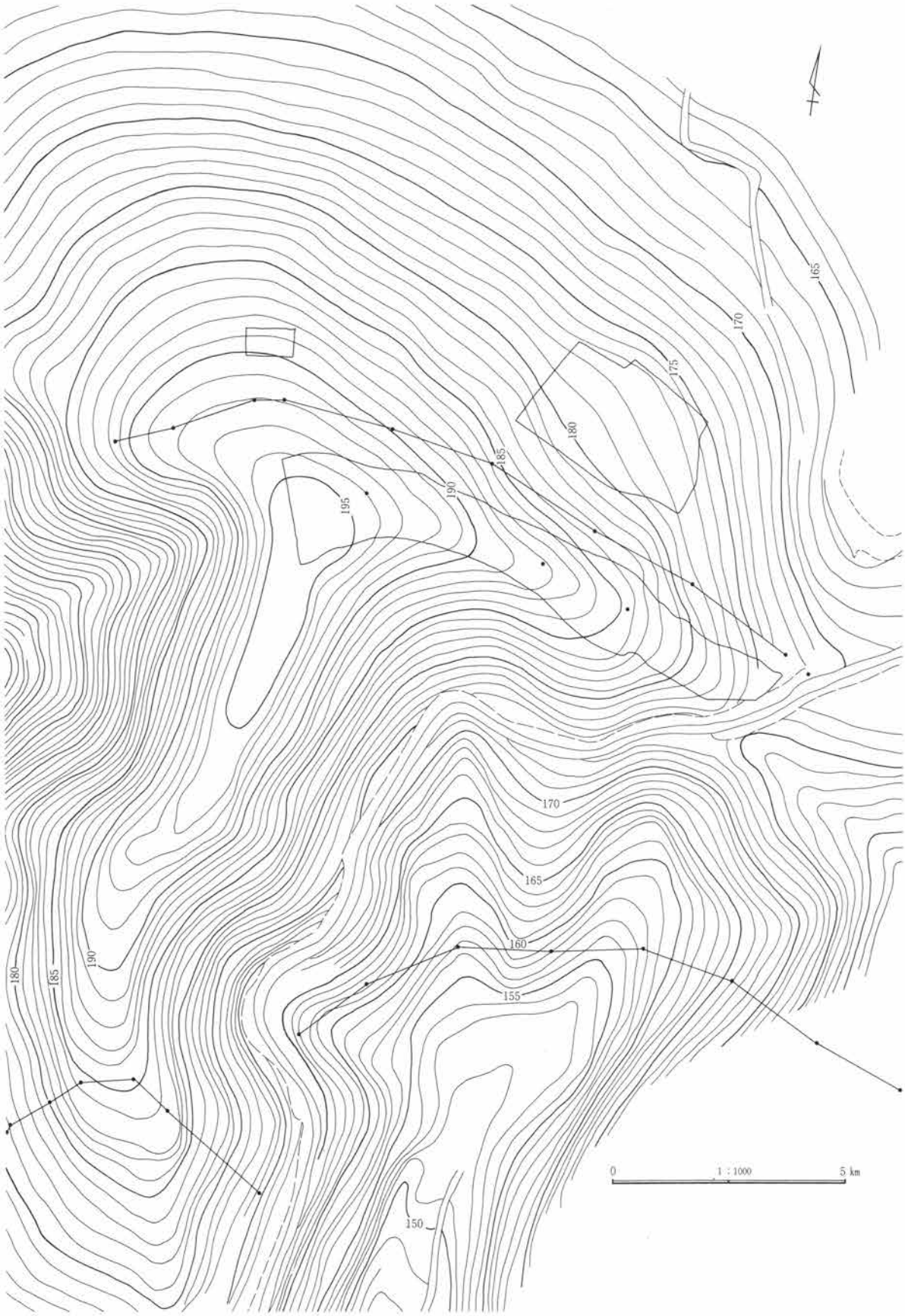
次に庚申山区に再度新たな調査が行われたのは、平成２年11月である。新調査地点は、前回の調査区の北側の路線外が対象となった。調査原因は、高速道路建設関連の土取り工事である。この、新たな調査地点ついては路線外という性格もあり、道路公団、県教育委員会保護課との調整は無論のこと、吉井町教育委員会をも交えて、調査範囲・調査期間等について協議が図られた。その結果、県教育委員会及び吉井町教育委員会によって、試掘調査が行われ、焼土の検出さらに瓦の出土を見る試掘成果となった。これら試掘調査の結果を元に、隣接地域を調査し、地形・調査手順に熟知した黒熊中西遺跡調査班が、路線外ながら本調査を行うこととなった。

本調査はただちに着手され、黒熊中西遺跡本線調査と平行して庚申山区調査が行われた。ただ、この際には、黒熊中西遺跡東側に展開する黒熊八幡遺跡本線部分の調査も着手されており、黒熊地区内で近接する３地点で発掘調査が同時平行する事態となった。この時期は、黒熊中西遺跡本線調査部分では、寺院跡関連遺構の調査がピークを迎えており、調査班の主力を寺院跡へ集中していた時期でもある。また、黒熊八幡遺跡では、他の遺跡の応援体制が組まれており、庚申山区への助力は不可能な状態であった。さらに、調査期間も終了を間近に控え、工事工程との調整等から調査進度を速める段階となっていた。

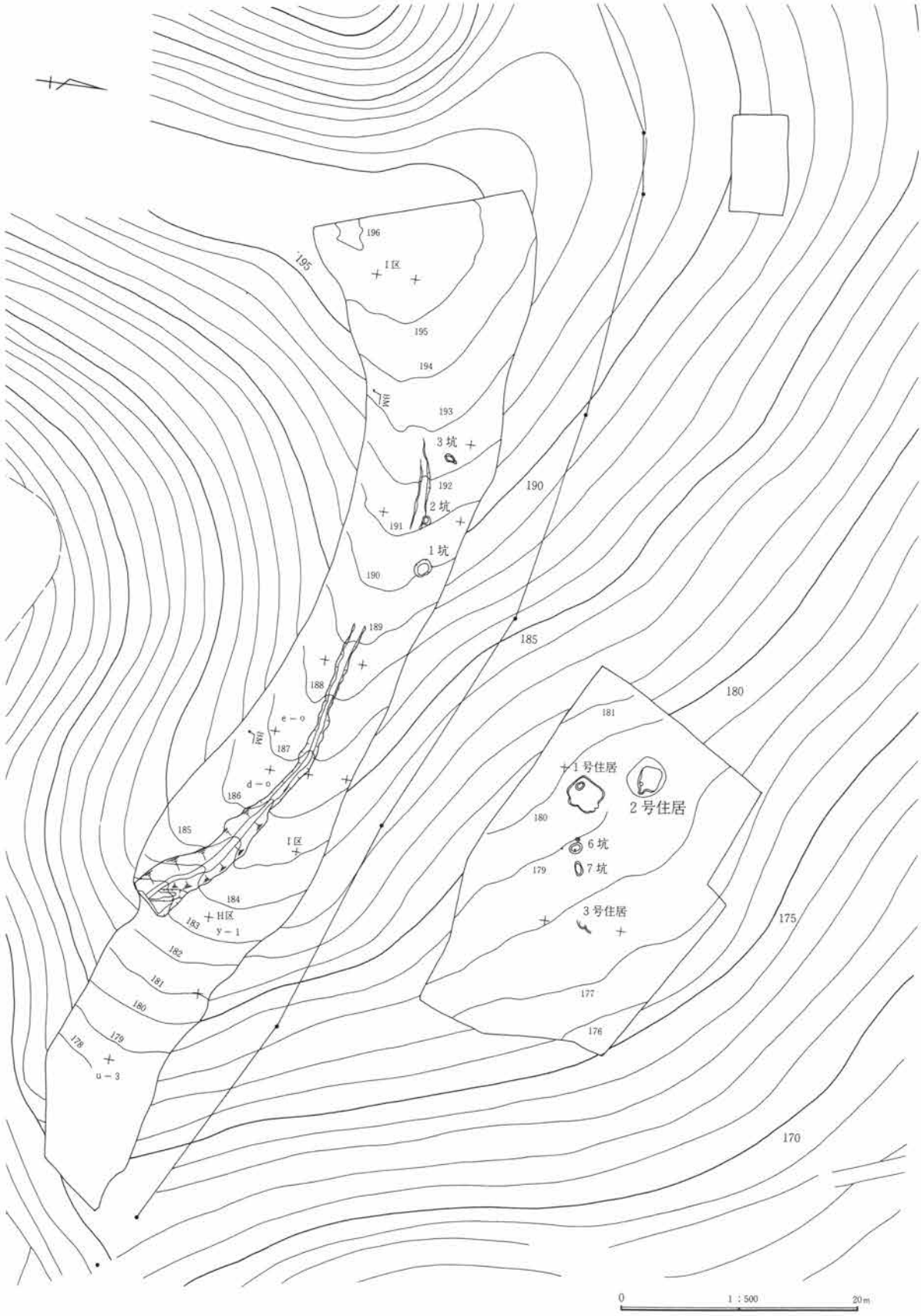
調査は、狭い範囲ながら北側への斜面地形上での作業となり、霜解け時期でもあるため、調査上の危険を常に意識して行われた。従事した作業員の精神的・肉体的な疲労は通常の調査より倍加した感を持った。また、遺跡地の地山は角礫含みの山土のため、遺構内覆土にもかなりの礫の量が含まれ、厳冬時の凍土化に伴い非常に堅く締まった土を掘削する調査となった。さらに北側への斜面地形のため、遺構そのものの遺存が悪く、個々の遺構の全体像を把握するに困難が生じた。

これらの困難を越え、庚申山区の調査では、住居跡３軒、土坑４基を検出した。帰属する時期も平安時代であり、瓦の出土も見られることから、黒熊中西遺跡で検出された寺院跡関連遺構との密接な関係が想起されよう。また、新たな寺院跡や集落が周辺に分布する可能性もあり、庚申山区の調査は、黒熊地域の平安時代寺院跡・集落跡の一側面を明確にする作業として、余りある結果をもたらしたといえよう。尚、本調査期間は10日あまりで終了している。

本来ならば、本報告書への掲載は「黒熊庚申山遺跡」として、黒熊中西遺跡とは別個の遺跡として認知され得るべきの調査区である。ただ、黒熊中西遺跡調査班による対応と、黒熊中西遺跡寺院跡との関連からも本報告書では庚申山区として遺構・遺物を掲載するが、将来的には周辺の調査の進展に伴い独立した遺跡として検討しても良いのではないだろうか。



255図　庚申山区周辺地形図



256図　庚申山区遺構配置図

(ii)　住居跡

庚申山区では３軒の住居跡が検出されている。すべて、第２次調査ともいうべき路線外調査で得られており、北側への斜面に占地していた住居跡群である。調査区周囲の斜面は急傾斜であり試掘においても、遺構は検出されていない。ただし、斜面下の緩やかな傾斜地における桑畑からは須恵器片などが採取され、平安時代の集落は群を別にして広がる様相を見せる。また本調査区の東には、黒熊中西遺跡西尾根区があり、同様な急斜面地形上の住居跡群が８軒検出されている。しかし、本調査区と西尾根区の間には浅い谷地形が存在しており、別群の住居群として位置付けられよう。時期的にも、庚申山区で検出された住居跡出土遺物は若干ながら西尾根区出土遺物より先行する傾向が見られ、同時期の併存する住居群としては認められない。

３軒の住居跡は、北側急傾斜面に占地するため、やや遺存が悪く、２号住は北側壁を逸失した状態で、３号住は竈のみの検出となった。また、地山と覆土の色調差が少なく、平面形や壁の判断が難しく、土層判断と副次試掘坑を設け確認に努めたが、前述のように北側壁等の検出は斜面地形に影響された調査となった。

庚申山区１号住居跡

東側と北側壁に３基の竈を持つ住居跡である。２号住居跡の南東に近接して検出された。

平面形は、辺長約3.3m程度の不整方形を呈し、西壁に歪みが見られた。この歪みは、あるいは重複によるものとも捉えられ検討を要する。尚、深さは約50cmを測り、壁・床面の遺存は良好である。

床面は凹凸を持ち、北側へ緩やかに傾くがほぼ平坦面を意識して構築されている。貼床土は明確ではないが、黄褐色土を基調とした床下埋土が埋まっていた。硬化面も顕著ではなかった。柱穴は認められなかったが、南壁際に大型の不正方形を呈する浅い土坑が検出された。床下土坑の可能性も強いが、東側壁に設けられた竈に対応する貯蔵穴としても考えられる。尚、北側壁の竈に対応する貯蔵穴として、北東隅で確認された焼土の範囲をも考えておきたい。

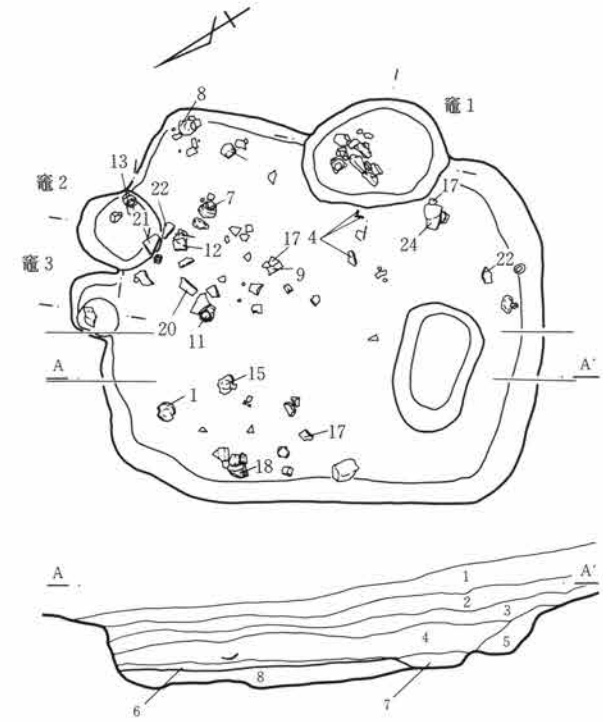
前述のように３基の竈が検出されているが、おそらく同時併存ではないだろう。竈１と竈２の前後関係は不明だが、竈３は竈１・竈２に先行する要素が調査によって把握できた。

東側の壁やや南寄りにに設けられた竈１は、半円状の燃焼部を持つ大型の竈である。使用面よりやや浮いた状態で、焼けた自然石がまとまって出土した。おそらく、崩落した天井部などの構築材であろう。また、小型甕（17）の大型破片も伴出しており、構築材として再使用されたものと思われる。さらに、前庭部南寄りに丸瓦が見られ、構築材の散乱した状況が看取できよう。

北側壁東寄りで検出された竈２は小型である。使用面は浅く凹み、焼土塊が多量に検出された。燃焼部の中央やや東寄りに自然石が立ち、支脚として認識した。甕の大型破片が周囲に散乱していたが、構築材あるいは、支脚上の置き台として再利用されたものと考えられよう。本竈の前庭部にも平瓦の出土が見られ、これらが構築材として使用された後破棄された状況が理解されよう。

竈３は竈２の西側で検出された。本住居跡の床下遺構調査の際に検出されたもので、調査時の所見からも、最先行する竈として確認し得た。竈本体の規模・平面形等に竈２との共通性が見られ、あるいは、北壁における竈の作り替えとも考えられる。

尚、本住居跡は、覆土中にAs－A・Bが確認されたことから、覆土堆積にかなりの時間を要した様相が理解できた。このことは、住居跡の壁体等の崩壊が進む要因であり、上端の平面規模に大きな差が生じる要素を示唆する。例えば、住居跡上端による平面形・規模の比較研究は、上端の崩壊を考慮に入れたとしても、慎重な数値の検討が必要であり、本来ならば床面規模の比較が尊重され得るべきである。



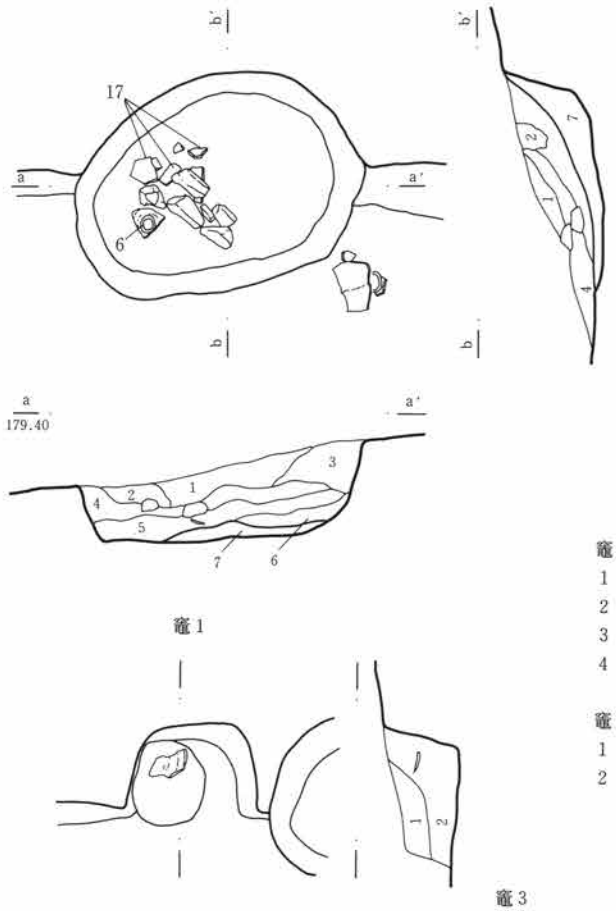
庚申山区１号住土層

1	暗褐色土	灰色味を帯びる。As－Aの塊状堆積が認められる
2	〃	ローム粒を多く含む。As－B混入し不均質な感を受ける
3	極暗褐色土	ローム粒を多く含む As－B混入
4	黒褐色土	As－Bを塊状に含む。下層に顕著
5	極暗褐色土	均質。粘性強い。床面直上堆積土
6	〃	均質。粘性強い。壁崩落土か
7	黒褐色土	ローム粒を少量含む。土坑埋土。
8	暗褐色土	ローム塊・炭化物を多く含む。床下埋土

竈１土層

1	暗褐色土	粘質土。炭化物・焼土粒微量含む
2	〃	粘質土。白色粘土塊含む
3	極暗褐色土	均質
4	暗褐色土	焼土塊を含み、赤味を帯びる
5	〃	焼土粒・炭化物を多く含む
6	〃	焼土粒・炭化物を微量含む。均質
7	黒褐色土	灰褐色土塊を多く含む。粘質土

0　1：60　3 m



竈２土層

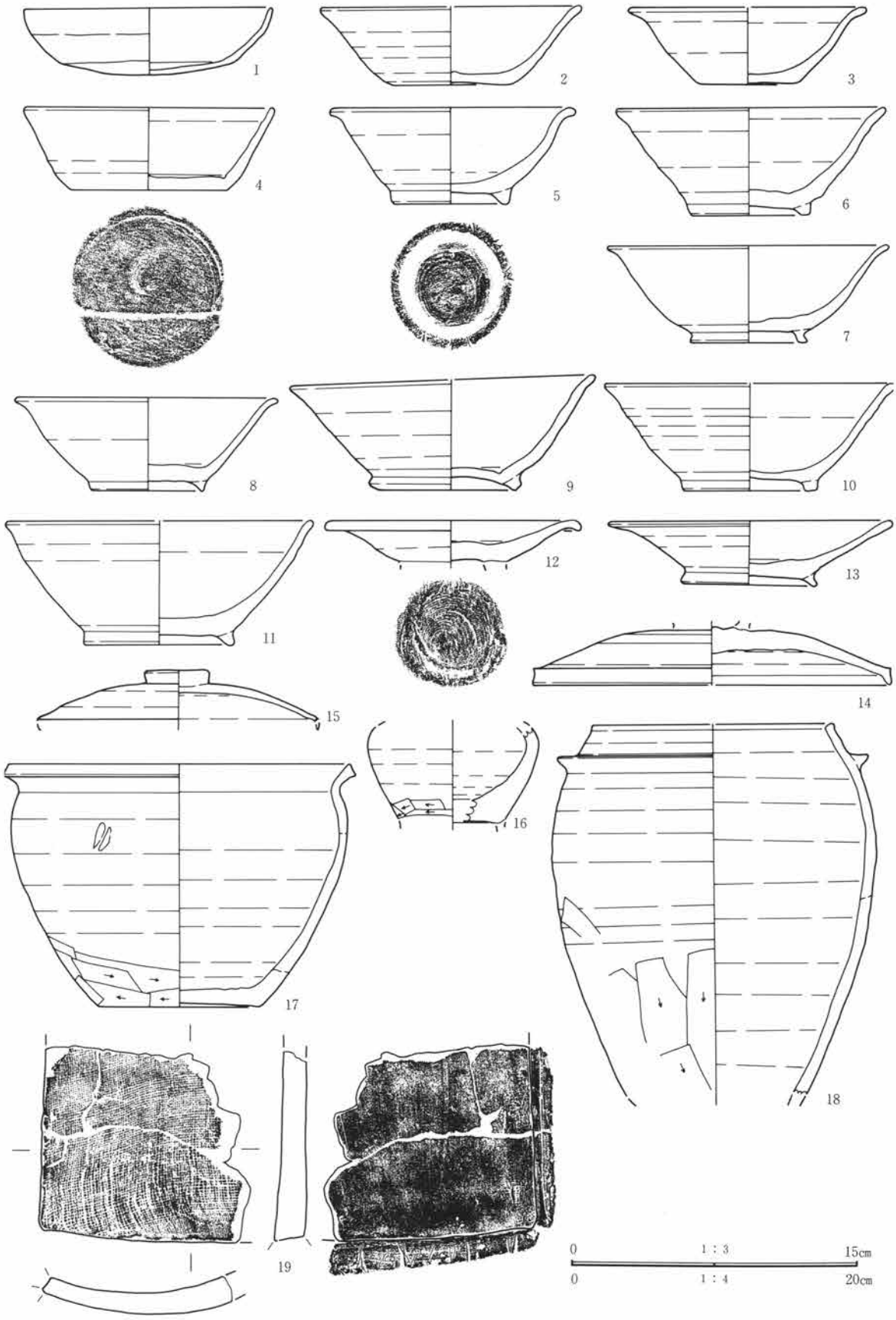
1	暗褐色土	粘質土。焼土粒・炭化物少量含む
2	暗赤褐色土	焼土塊多量に含む。炭化物少量含む
3	〃	焼土塊を主体とする。
4	極暗褐色土	粘質土。黒褐色土塊を含む

竈３土層

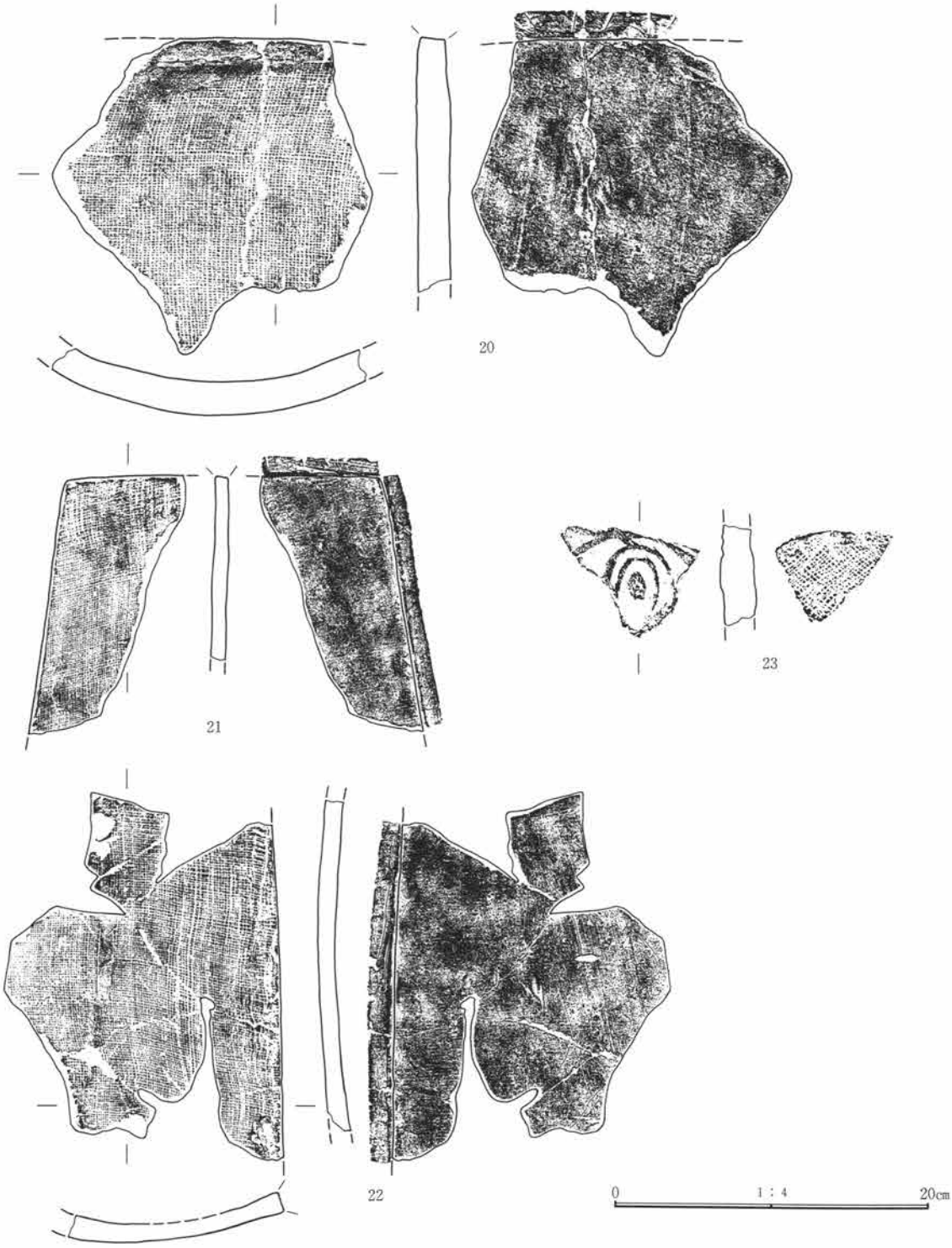
1	暗褐色土	焼土塊・炭化物・土器粒を多量に含む
2	〃	粘質土。小礫含む

0　1：30　1.5m

257図　庚申山区１号住居跡



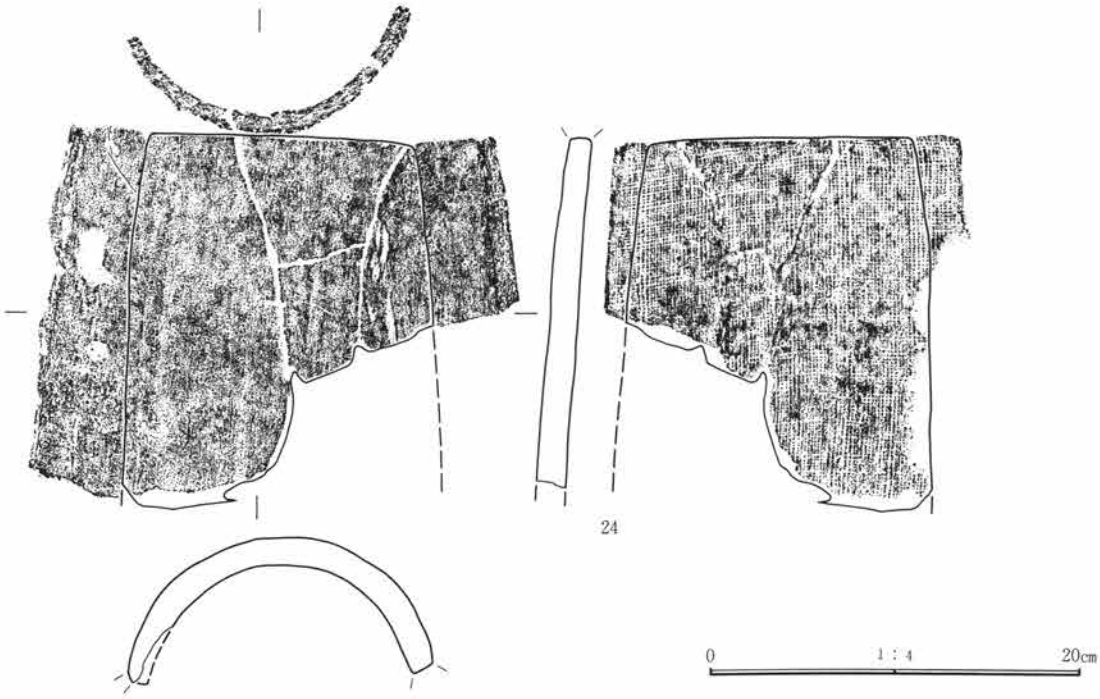
258図　庚申山区１号住居跡出土遺物（１）



259図　庚申山区１号住居跡出土遺物（２）

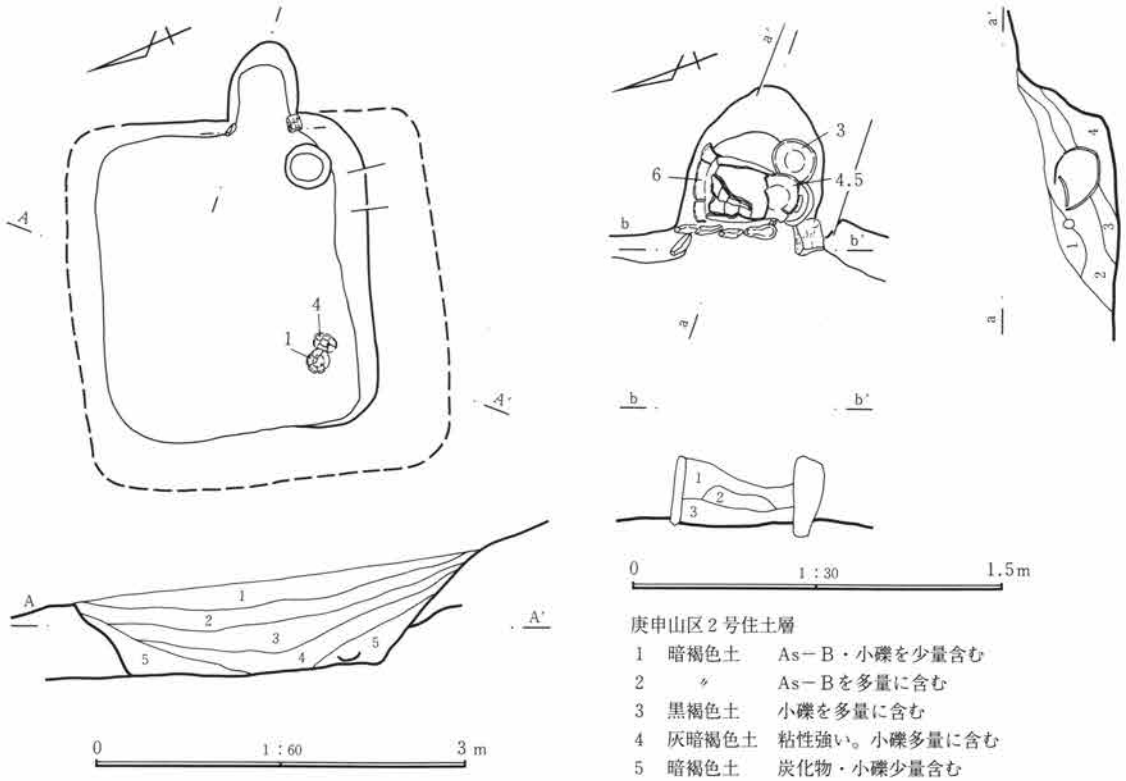
出土遺物は、総破片点数430点を得ている。庚申山区では豊富な出土量を呈するが、出土遺物には時期差が見られる。これは前述の３基の竈の存在や、住居跡平面形の乱れなどから重複住居の存在が背景にある。しかしながら、遺物の出土状態および土層は重複を示しておらず、遺物を分離できなかった。故に、本住居の出土遺物は、多量ながら一括性には信用度に欠ける。

１は土師器坏。体部は箆削り後撫で、底面は箆削りを施す。器面は著しく摩滅する。北西隅の床直で出土。



260図　庚申山区１号住居跡出土遺物（３）

２は須恵器坏。胎土が縞状を呈する。北東壁際の床直上で出土した。３の坏は器面摩滅する。薄手の器厚を呈す。覆土出土。４は体部が直線的な坏。内面のみこみ部に沈線が巡る。１と共に古相を呈する。竈１の前庭部で覆土下位より出土。５は覆土出土の高台付椀。口縁部は外反し体部は丸みを帯びる。高台は短く直立状に貼付される。６は薄手の大型の椀。高台は開き気味に貼付される。器面摩滅。竈１燃焼部で出土した。７、竈２の前庭部覆土中位より出土した椀。口縁部は短く外傾する。８は南東隅で床直より出土した。口縁部は短く外反し、端部は比較的鋭い。高台も短く直立状に貼付される。器面摩滅。９は住居跡中央覆土下位より出土した椀。直線的な体部形態を呈す。高台は開き気味に貼付される。10は竈１の覆土中より出土した。器厚は薄手。11はやや酸化焔気味の焼成。底部器厚は厚手で高台はやや開く。中央やや北寄りの覆土下位で出土した。12は高台を欠損する皿。竈２の前庭部覆土中位より出土した。口縁部は強く開き、玉縁状となる。厚手の器厚を呈す。13は竈２の覆土上層より出土した高台付皿。直線状の体部を呈し、高台は外反気味に貼付される。底部器厚に厚みがある。14は竈３より出土の蓋。鈕が剝落する。天井部は回転篦削り後に鈕が付される。15の蓋は著しく薄手である。中央北西よりの床直で出土。４の坏と胎土や色調に近縁性がある。器面摩滅。16は小型の長頸壷。高台が欠損する。体部下半に横位篦削りを施す。覆土出土であるが６号土坑出土の破片とも接合した。17は小型の甕。左回転轆轤整形で、体部下半に横位篦削りを施す。竈１の燃焼部より出土した。構築材としての再利用であろう。18は羽釜。やや長胴の体部形態が特徴である。西壁側で覆土上層より出土している。轆轤整形後体部下半縦位篦削りを施す。鍔は鋭い。19～24は瓦。中西区出土の瓦と比して全体に薄手で、還元焔焼成気味である。19は平瓦。側部２回・端部は１回の面取り。凸面は叩後縦位撫でを施す。20は竈２・３の前庭部分で覆土下位より出土した平瓦。端部面取りは１回。凸面は撫で。21・22の平瓦は竈２前庭部の覆土中位より出土。いずれも凸面は縦位撫でを施し薄手である。23は覆土出土の軒丸瓦片。全容は判然としない。24は竈１前庭部で床直上より立位に近い状態で出土した丸瓦。左側部は２回、右側部は１回。端部は１回の面取り。凸面は無文叩後に縦位撫でを施す。



庚申山区２号住土層

1	暗褐色土	As－Ｂ・小礫を少量含む
2	〃	As－Ｂを多量に含む
3	黒褐色土	小礫を多量に含む
4	灰暗褐色土	粘性強い。小礫多量に含む
5	暗褐色土	炭化物・小礫少量含む

261図　庚申山区２号住居跡

庚申山区２号住居跡

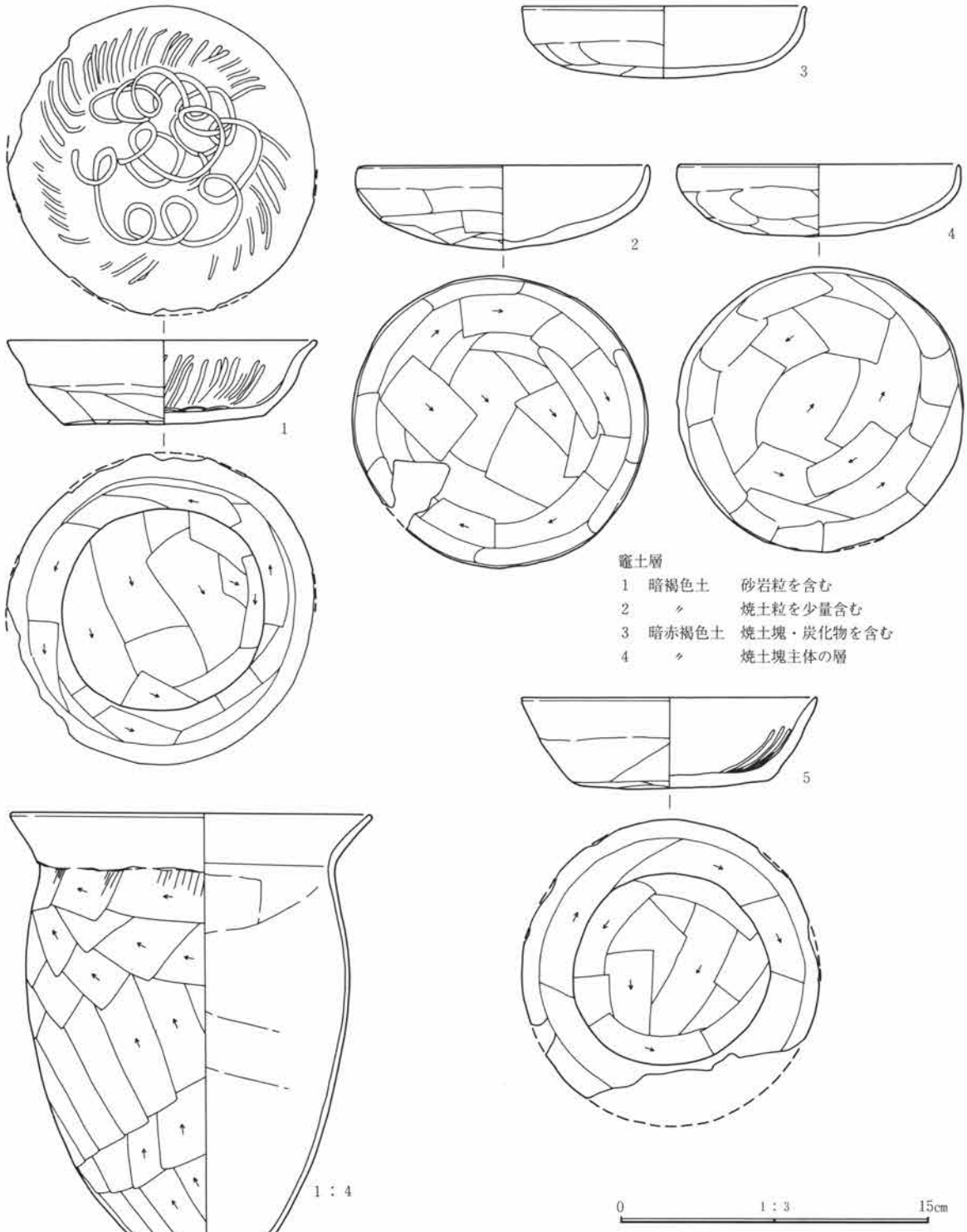
１号住の西に近接して検出された。単独の検出であり、重複住居はない。１号住と同様に斜面地形と地山と覆土の色調差が少ないため、平面形の確認に手間取り、土層観察軸の設定等にずれが生じた。また、壁の確認も実際の上端より下位において確定したため、断面図における上端とその規模には大きな差が生じている。断面図の上端を復元し図では破線で示した。

平面形は確認面では小型の長方形を呈するが、断面図よりの復元では辺長約3.02ｍの大型正方形を呈する。深さも約96㎝が遺存し、北壁は逸失していたが、断面図では約68㎝と良好な深さを誇る。

床面は小礫が混入する黄褐色ロームによる地床である。斜面地形に構築されながら、ほぼ平坦面を築く。尚、硬化面は顕著ではなかった。柱穴は確認されず、貯蔵穴は南東隅の浅い小ピットを充てたい。

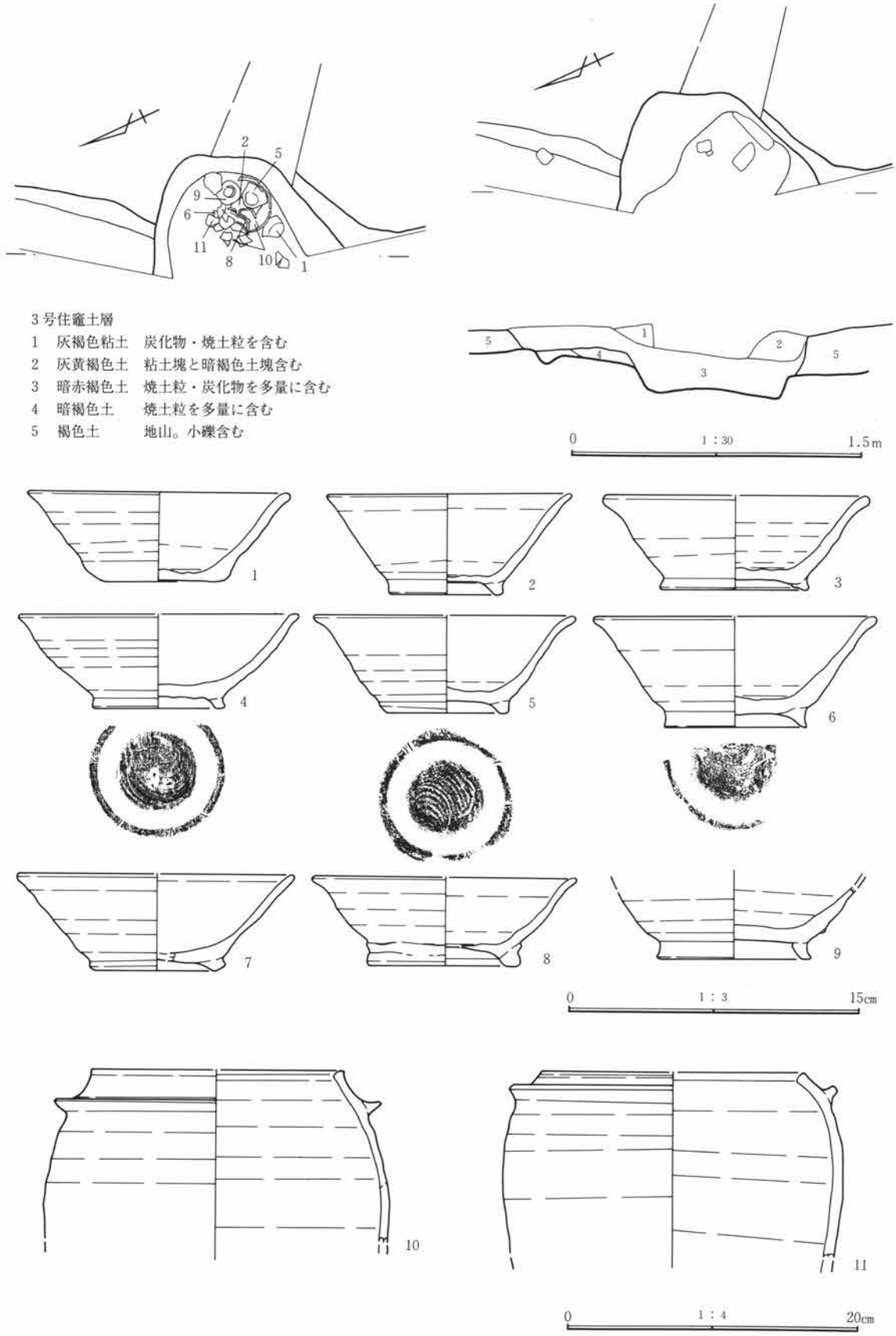
竈は、東壁のやや南寄りに設けられる。上面では確認が難しく、副次試掘坑を設け検出した。馬蹄状の燃焼部で、両袖に自然石を立て、土師器甕が横位に出土した。この土師器甕の外側を柱状の自然石が両袖石を渡るように出土しているが、天井部の補強材として捉えたい。また、土師器甕底部付近－燃焼部南では土師器坏３個体が重なるようにして出土した。支脚としての使用状態も考えられるが、特に加熱の痕跡は少なく、積極的ではない。ここでは煮沸具と供膳具との共伴例としておく。

遺物は総破片点数63点と非常に少ない。ただし、完形個体６個体の図示が果たし得た。いずれも竈内および床直の出土である。尚、瓦の出土は見られなかった。１は土師器坏。内底面には螺旋状、体部には放射状の暗文を施す。口縁部は緩やかに外反し、底面は平坦である。外面は体部・底部に箆削りを施す。南西隅の床直より出土。４の土師器坏と伴出している。２～４は丸底の土師器坏。２は竈内より出土。口縁部横撫で、体部は箆削り。口縁と体部境は箆削り後撫で。３も竈内。２と同様の整形だが、器面が摩滅する。４も同様の調整で、体部上半は箆削り後指撫でか。５は竈内。２・３と重なって出土した。平底で体部上半は大きく箆削りを

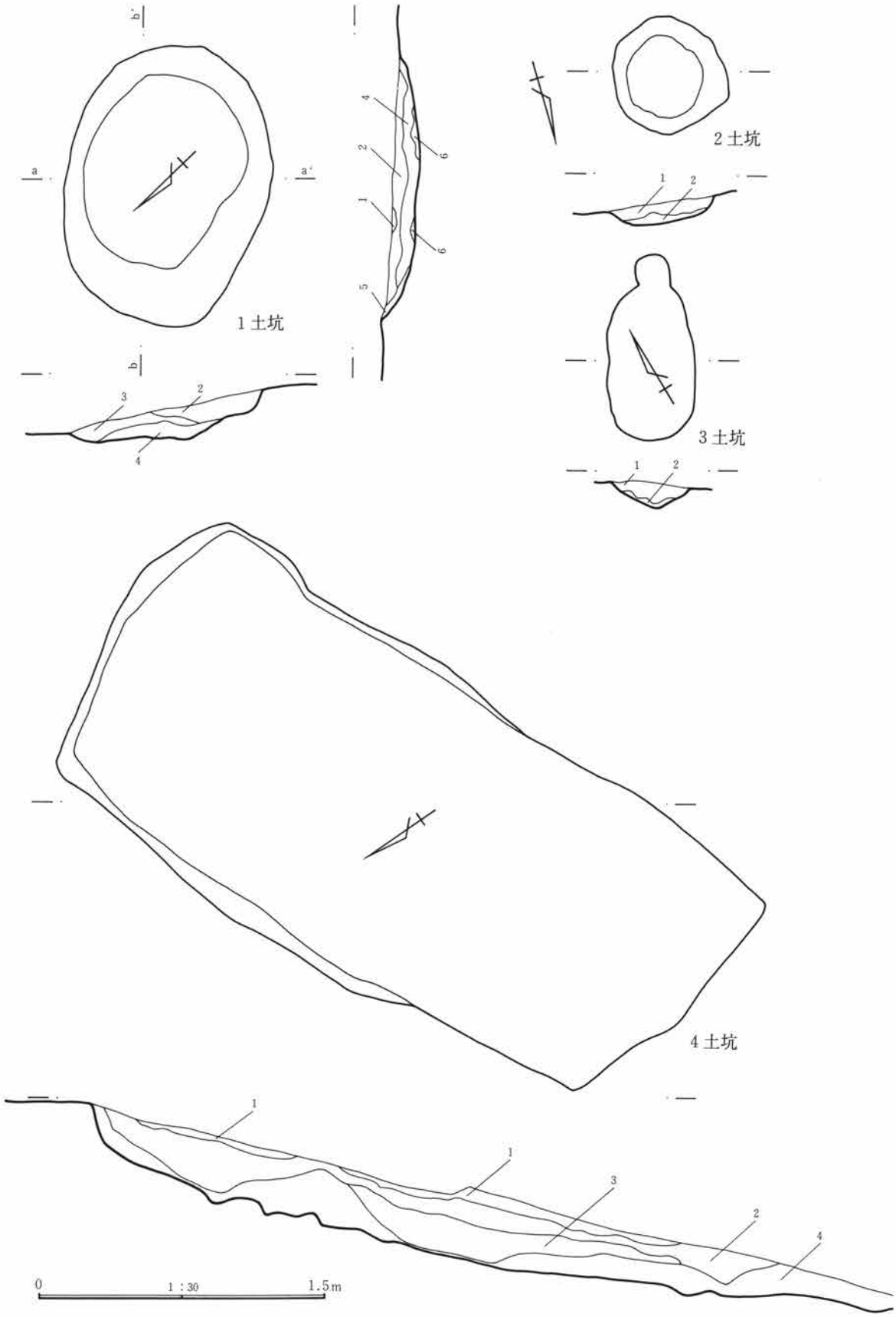


262図　庚申山区２号住居跡出土遺物

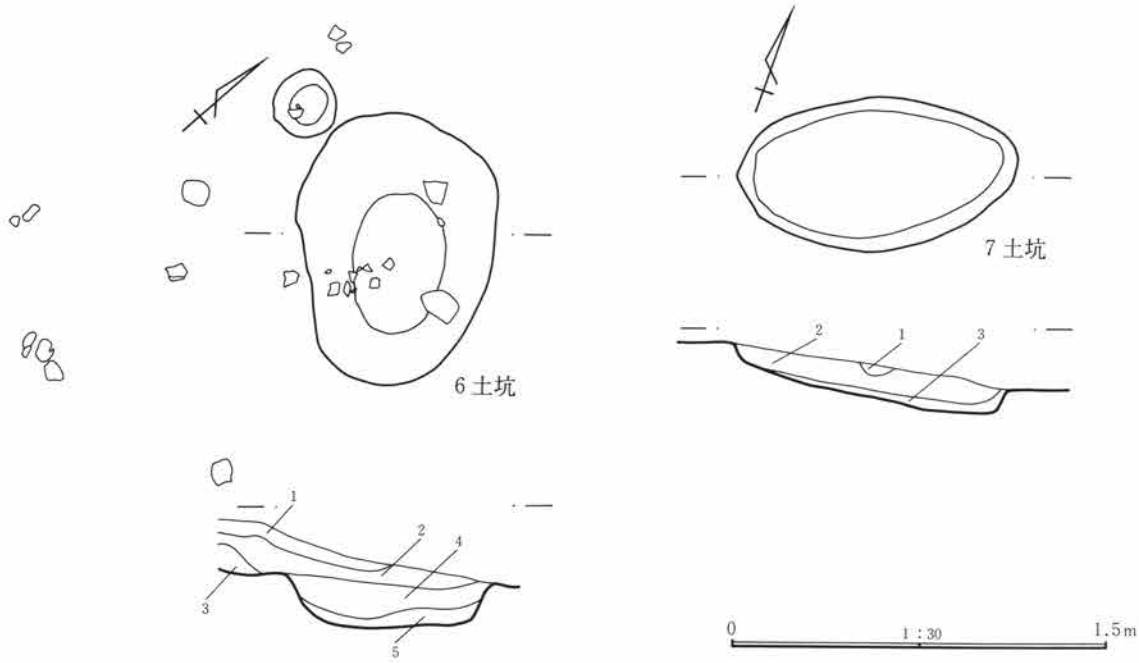
施す。内面は放射状の暗文が施されるが、残存が悪い。６は竈内出土の土師器甕。頸部の屈曲は緩やかだが、体部の篦削りによる段差が明瞭である。体部上半は横位篦削り、下半は縦位篦削りを施す。内面は篦撫で。以上のように本住居跡出土遺物は少量ながら、完形個体での出土状況は良好であり、一括性に富むものである。



263図　庚申山区３号住居跡・出土遺物



264図　庚申山区土坑（1～4号）



265図　庚申山区土坑（６・７号）

３号住居跡

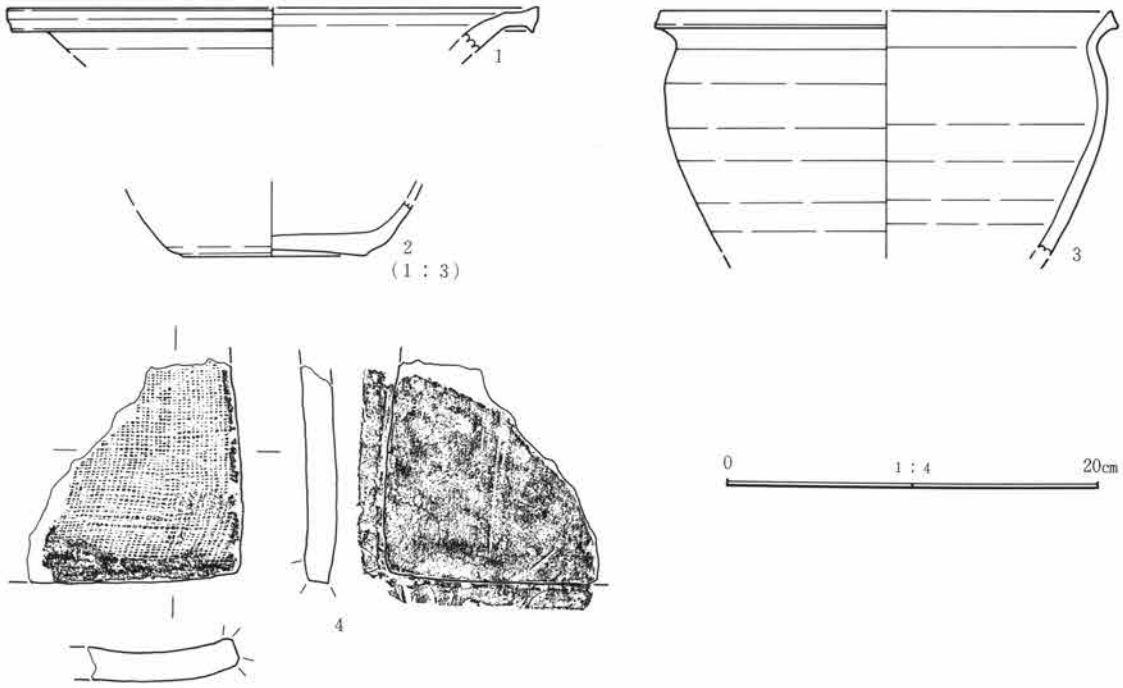
住居跡本体は斜面地形に大きく流出しており、竈のみの検出となった。調査当初は、焼土が散布するのものの周辺には落ち込みも無く、住居跡としての認定はできなかった。試掘坑を設定し、掘り下げを行ったところ、遺物及び竈燃焼部の検出が果たせ、竈が東側に設置された住居跡として把握した。竈は馬蹄状の燃焼部で、浅い掘り込みを持つ。焼土の塊状堆積が見られ、燃焼面に棒状の自然石などが出土することから、破壊・廃棄の状況が看取できたが、前提部の遺存も無いため詳細は不明である。

竈出土遺物は多く、168点の破片を得た。図示し得た個体は11個体で瓦の出土は無かった。１は須恵器坏。体部は直線的で、腰部に丸みを帯びる。体部の轆轤目強い。２は高台坏椀。口縁部は若干外反するが体部は直線的である。高台は短く直立気味に貼付される。３はやや厚手の器厚を呈す椀。口縁部は外反し、体部は丸みを帯びる。高台は開き気味に短く貼付され、内面に凹線が巡る。４は薄手の器厚を呈す。口縁部は緩やかに外反し高台は開く。５は口縁部の外反が顕著。高台は直立気味に貼付される。６はやや厚手。高台は内彎気味に開き、貼付痕が明瞭である。７は薄手。高台は短く貼付される。口縁～体部は直線的に落ちる。８、口縁部外反し、体部は丸みを帯びる。高台厚く雑な貼付を施す。底部器厚は著しく薄い。９の底部は厚手で、重量感有る。体部に重ね焼きの粘土粒が付着する。10・11は羽釜。内傾する口縁部で、鍔は上方を向く。体部の丸みが顕著で、器厚は比較的薄手である。

(iii) 土　坑

庚申山区では、６基の土坑を検出した。平面形状・土層に特徴的な様相は見られず、また出土遺物も破片類であるため、時期・性格等不明である。

１号土坑は不整円形を呈し、浅く皿状の断面形態を見せる。須恵器甕口縁部破片が覆土中より出土したが、土坑に伴うものではない。２号土坑は、小型円形のピット状の土坑で浅く皿状の断面形態を呈す。出土遺物は



266図　庚申山区土坑出土遺物

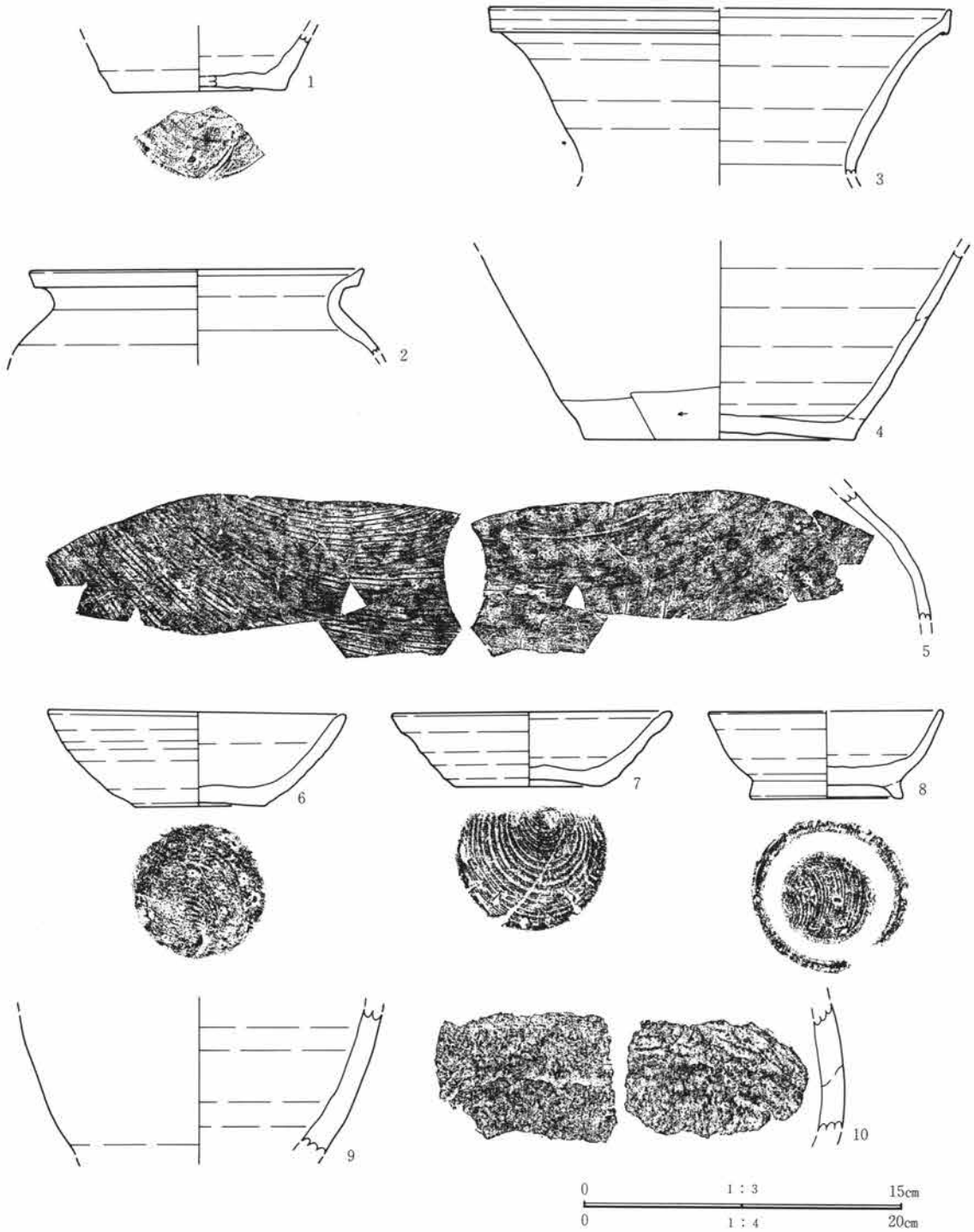
無い。3号土坑は不整楕円形の形状を取るが、立ち上がり、壁は判然としない。遺物は出土していない。4号土坑・5号土坑は、平面図にグリッド位置が無く、全体図に対象できない。特に5号土坑は平面図の記載もなく写真が残されているのみである。調査中の不手際であり、反省を残す。4号土坑は大型の方形を平面形状とし、傾斜地形に沿った坑底面を見せる。As－Bを混入し、平安時代の所産と考えられるが、2基以上の土坑重複の可能性も調査所見で述べられ取り、断定的ではない。5号土坑は円形の平面形を呈し、掘り込みもしっかりしている。遺物も土師器坏が出土しているが、残念ながら不明である。6号土坑は2次調査区で検出された。不整円形の平面形を呈し、掘り込みはしっかりしている。覆土中より須恵器破片・瓦破片が出土しており、3点を図示し得た。7号土坑も2次調査区で検出した、不整楕円状の平面形で浅い。出土遺物は無い。

1号土坑出土遺物は1の甕である。口縁部破片で右回転轆轤整形。2～4は6号土坑出土遺物。2は須恵器坏。比較的薄手の器厚を呈し、器面は内外面とも摩滅する。3の甕は庚申山1号住17と同一個体であろう。4は平瓦。側部は3回、端部は2回の面取りが施され、凸面の調整は縦位撫でである。

(iv)　溝

1号溝は、第1次調査区である本線調査で、尾根状地形の長軸に沿って検出された（256図）。標高下位は幅広で、高位になるに従い幅狭の形状を取るが、尾根地形に沿うことからも、あるいは道路状遺構としての可能性もあろう。本溝が道路状遺構とすれば、庚申山1号住等で出土している、瓦の存在から、高標高部分あるいはその周辺に寺院跡関連遺構の存在も想起されよう。

出土遺物はすべて覆土出土遺物である。須恵器坏。鋭角的な立ち上がりを呈す。やや厚手の器厚を呈す。2は小型甕。轆轤整形で薄手の器厚を呈す。3は大甕口縁部破片。右回転轆轤整形後外面は横位撫でが加わる。器厚は薄手。4は大甕底部破片。轆轤整形で外面下半に横位箆削りを施す。器厚は薄手。5は大甕体部破片。外面平行叩、内面円環状当て目後撫で。器厚は薄い。



267図　庚申山区溝・グリッド出土遺物

(v)　庚申山区グリッド出土遺物

遺構外出土遺物であるが、殆どが第2次調査区で得られた遺物を抽出した。6は須恵器坏。器面は摩滅するが、厚手で重量感有る。内底面に微量の油煙状付着物が見られる。7は浅身の坏。体部の轆轤目が強く残る。口唇部内面に、撫でによる浅い凹線が巡る。厚手の器厚を呈す。8は小型の椀。底部器厚に比して、口縁部は薄手である。還元焔焼成で他の椀器種との差は明瞭である。内底面の轆轤目が顕著。9、甕あるいは瓶の体部

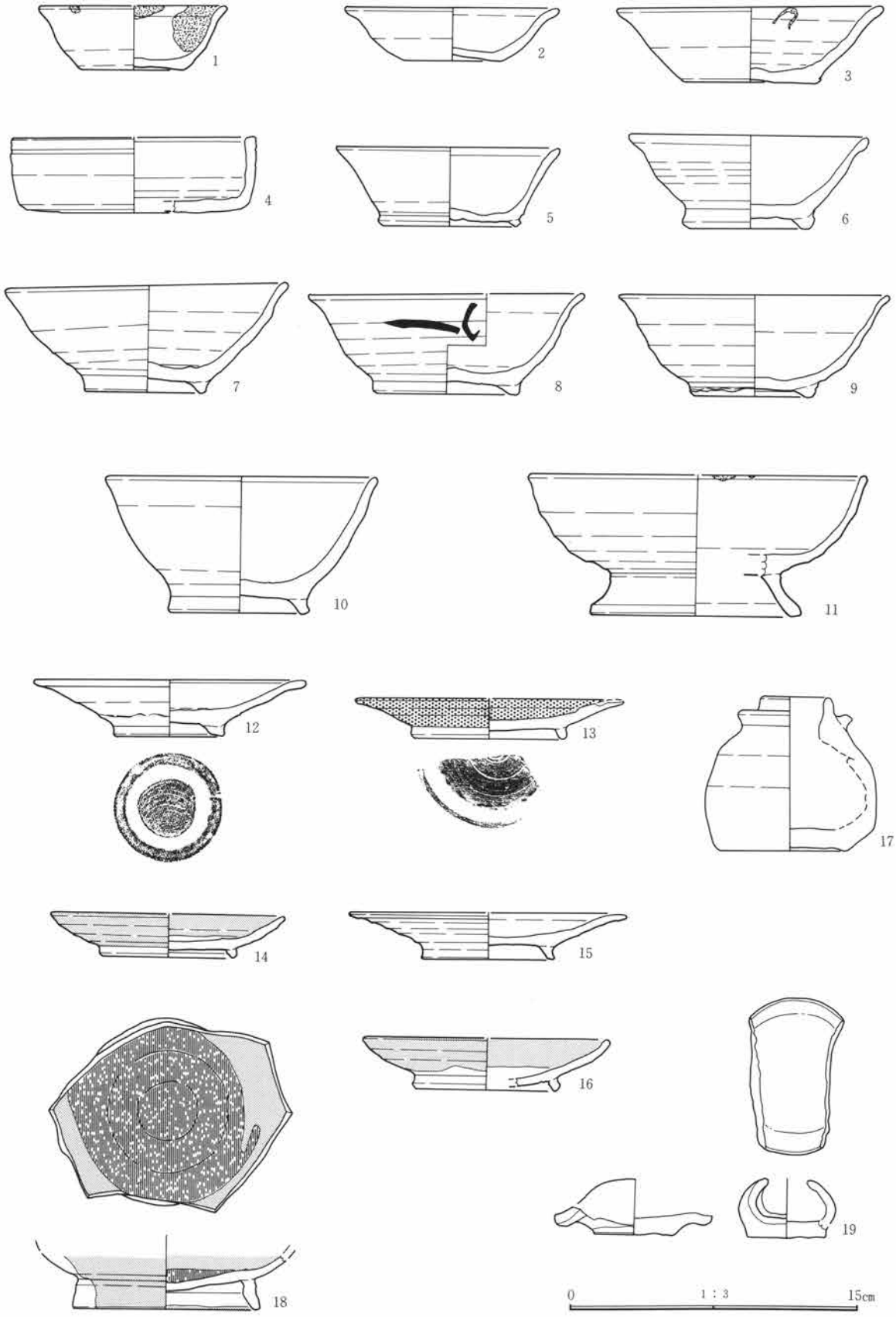
破片。あるいは高台が付されるかもしれない。轆轤整形後外面は撫でを施す。器厚は厚手である。10は大甕体部破片。外面は撫でが加わる。内面は摩滅するが青海波文が看取される。

第3節　黒熊中西遺跡グリッド出土遺物

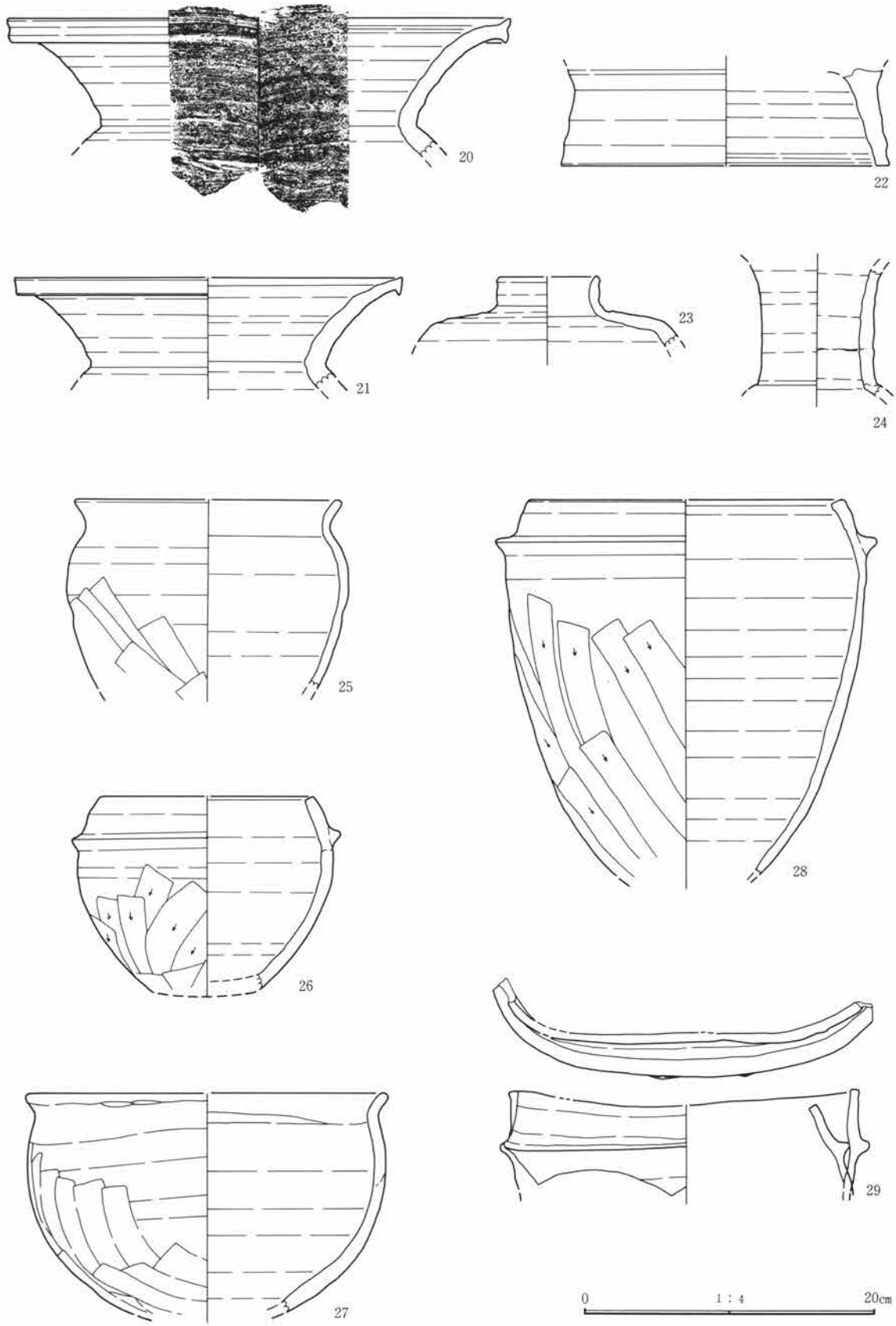
ここに挙げる遺物は本来ならば、前項の黒熊中西遺跡の項末に掲載する予定だったが、整理作業の都合で巻末に掲載する不手際となった。

黒熊中西遺跡の調査では、寺院跡検出の際に基壇上・基壇下から寺院跡に伴う、あるいは密接な関連が窺われる遺物が出土しており、幾つかの遺物はグリッド出土遺物として、『黒熊中西遺跡（1）』に掲載されている。本節で掲載するグリッド出土遺物は、これら寺院跡関連遺構とは別地点より出土した遺物を集めたもので、住居跡や土坑との関連が想起されよう。これらの遺物は、主に遺構平面確認時に出土したものや表土出土のものが多く、直接的に生活痕跡としての関係は見いだせない、いわゆる遺構外出土遺物ではあるが、竪穴遺構以外の平地遺構等の検出も、遺物の分布等から類推する研究方法が模索されており、今後の調査方法の転換を踏まえると軽視する遺物ではない。ここでは、遺存の良好なものや特徴的な土器を抽出して掲載したが、出土地点等の注記に不明な部分もあり、上記のような遺物分布から竪穴遺構以外の生活痕跡を語れる資料にはなりえない。反省材料である。

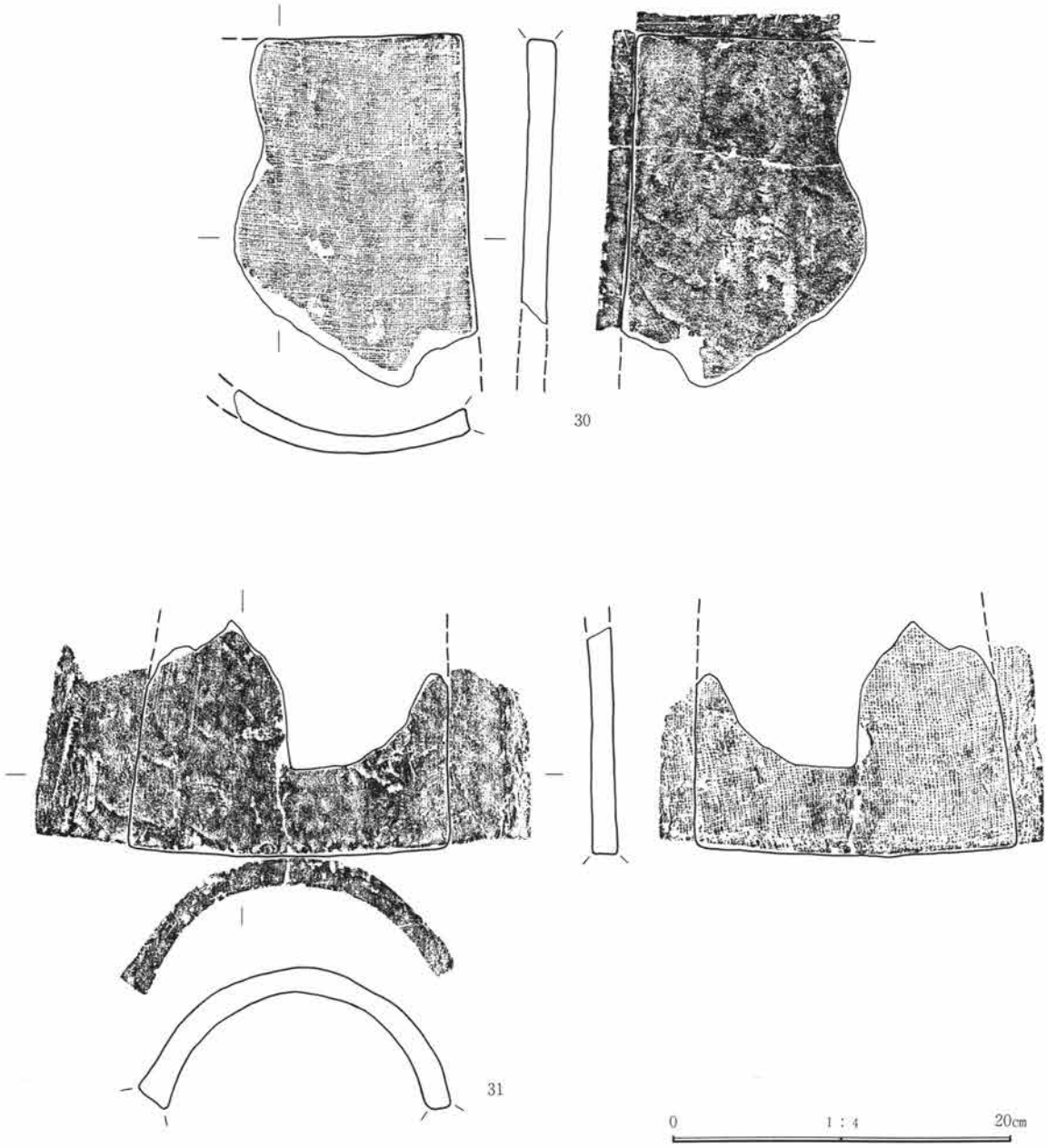
1～4は須恵器坏。1・3には油煙が付着する。浅身の2の口唇部には異種の粘土が看取される。3は器厚に顕著ではないが重量感が有る。4は蓋の可能性もある。体部は直立し、口縁部外面には凹線が巡り、口唇端部に平坦面を持つ。外面に自然釉が付着し、丁寧な作りである。5～11は高台付椀。5の高台は短く、開き気味に貼付される。器面の摩滅著しい。6の高台は凹み、器形全体が傾斜する。雑な作りに比して薄手の器厚を呈す。内底面に黒斑がある。7は身深の椀。口縁部外面に撫でによる薄い稜が巡る。内底面に微量の煤が付着する。左回転轆轤整形。8は墨書土器。判読は不能。口縁部は外反し体部に丸みを帯びる。高台は直立気味に貼付される。9は薄手の器厚を呈す。直立気味に貼付される高台はやや雑な作り。10の口縁部は僅かに歪みが見られる。11は足高の椀である。高台は開き入念な撫でが施される。器厚は薄手で丁寧な作りと言えよう。口唇部に油煙が微量付着する。12～16は高台付皿。12の口縁部は大きく開き、直線的な体部形態を呈す。高台の貼付痕が明瞭である。13は緑釉段皿。研磨されず、軟質である。釉はやや鈍い色調で薄く全面に塗布される。14・16は灰釉陶器である。左回転轆轤整形。14の内底面は僅かに研磨痕が見られるが顕著ではない。16の体部下半は回転篦削り。東尾根区の表採品で、184・186号坑出土土器との関連も想起されよう。17は器種不明だが、とりあえず瓶子としたい。口径は小さく、口縁下に鍔が受け口状に貼付される。轆轤整形後体部下半に丁寧な撫でを施し、底部も糸切り後撫でを加える。酸化焰焼成である。18は灰釉陶器椀。転用硯で内底面は研磨され、墨痕も僅かに看取される。高台端部も摩滅し光沢を持つ。施釉は漬け掛けで、高台部内面に及ぶ。19は耳皿。上半は欠損する。内底面中央に孔は穿たれていない。20・21は大甕口縁部破片。右回転轆轤整形。21は外面に自然釉が付着する。22は甕脚部か。左回転轆轤整形で厚手の器厚を呈す。23は短頸瓶。しっかりした作りである。24は長頸瓶。轆轤整形後篦撫でが加わる。25は小型甕。轆轤整形で酸化焰焼成。体部下半に篦削りを施す。26は小型の羽釜。鍔は短く貼付され、口縁部が内彎し、体部の膨らみと併せて球形状を呈す。轆轤整形で体部下半より篦削りが施される。27は鉢。口縁部は外傾し、体部は膨らみ持たせる。轆轤整形後口縁部指撫で、体部に篦削りを施す。28は大型の羽釜。口縁部内傾し、鍔は短く貼付される。体部上半より比較的入念な篦削りが縦位に施される。器厚は薄手である。29は羽釜口縁部破片。口縁径等器形全体が著しく歪み、使用品とは捉え難い。生産地からの流入であろうか、口縁部や鍔の端部に摩滅が見られず、色調も橙色を呈す。胎



268図　グリッド出土遺物（1）



269図　グリッド出土遺物（2）



270図　グリッド出土遺物（３）

土・色調等は22号住・73号住出土羽釜に近似する。

瓦類も遺構外より多くの出土量を見たが、寺院跡や住居竈構築材として使用・再使用されたものが流入したものと考えられよう。遺構出土のものと比して遺存はやや悪く、図示に耐え得るものは少ない。ここでは、遺存の良好なものと特徴的なものを選び掲載した。

１は平瓦。側部は１回、端部は２回の面取りが行われ、凸面は無文叩後縦位箆削りが施される。31は丸瓦。側部・端部とも面取りは１回、凸面の調整はは無文の叩きを施す。32は軒平瓦。凸面は横撫でおよび指撫で、凹面は布目だが縫合痕が見られる。瓦当面文様は綾杉状文。33も軒平瓦。凸面は平行叩後横撫でが加わる。瓦当面は綾杉状文。34の軒平瓦は還元色を呈す。凸面の調整は縦位撫でを施す。瓦当面文様は格子目文であろう。35は軒丸瓦。瓦当面の文様は四弁文で、本遺跡出土軒丸瓦の普遍である。

271図　グリッド出土遺物（4）

第4節　計測表

本節では、本書に掲載した、遺構および出土遺物の計測値・諸特徴を表組にして集めた。尚、掲載順序は下記のとおりである。

(i)　遺構計測表

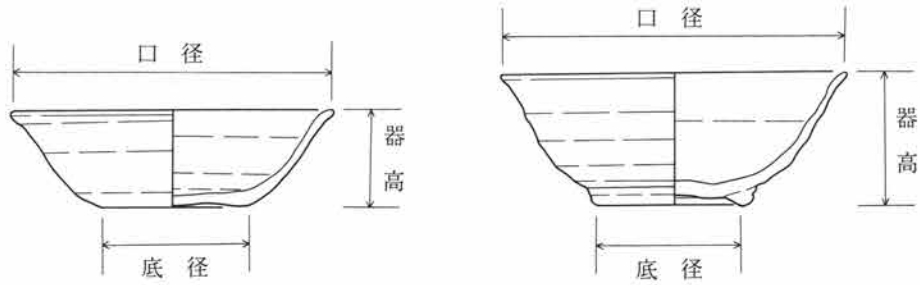
住居跡	p.325
土　坑	p.329

(ii)　遺物計測表

住居跡出土遺物	p.336
土坑出土遺物	p.374
井戸・掘立柱建物跡出土遺物	p.381
溝出土遺物	p.382
集積遺構出土遺物	p.382
庚申山区出土遺物	p.387
黒熊中西遺跡グリッド出土遺物	p.389

遺構計測値は、遺構の遺存の最も良好な箇所を選び、計測した。

遺物計測値も、残存部を主体に、原則として下図の箇所を計測した。



住居跡計測表

住居跡名	位　置	平面形	規　模（cm） 長軸×短軸×深さ	方　位	主な施設	主な遺物	重複遺構	備　考
1号住居跡	G区f～g －7～8	方形	312×284× 44	N103°E	貯蔵穴 床下土坑	坏1　小瓶1 壺1　羽釜2		
2号住居跡	G区l～m －10～11	正方形	245×222× 60	N78°E		坏4　椀2　壺1 蓋1　甕把手1	16号住居	
3号住居跡	G区k～l －10～11	小型正方形	312×326× 32	N91°E	貯蔵穴 大型床下土坑	坏1　椀3　甕3 羽釜1　鉄器1他	4号住居 44号土坑	
4号住居跡	G区j～k －11	方形	330×－× 30	N93°E	貯蔵穴	椀1　甕2	3号住居 25号住居	
5号住居跡	G区p～q －7	隅丸長方形	338×294× 42	N93°E	貯蔵穴 床下土坑	坏4　椀5　皿1 甕7　瓦2		
6号住居跡	G区s～t －5	長方形	438×－× 28	N94°E		坏1　椀1　皿1 高盤2　羽釜1他	27号住居	
7号住居跡	G区d～e －9～10	縦長方形	504×372× 78	N108°E	貯蔵穴土坑 床下土坑壁溝	坏8　椀10　皿2 羽釜9　紡錘車他	8号住居	
8号住居跡	G区c～d －9～10	小型正方形	238×－× 7	N102°E		脚1	7号住居	
9号住居跡	G区b～c －9～10	正方形	342×－× 32	N105°E	貯蔵穴			
10号住居跡	G区a～b －10～11	長方形	396×－× 54	N98°E	貯蔵穴	坏4　椀3　皿1 砥石1　甑1他		
11号住居跡	G区a～b －11～12	長方形	412×298× 64	N95°E	床下土坑	椀2　皿1 羽釜2　鉄器1	11号土坑	
12号住居跡	G区h －8～9	横長方形	244×330× 80	N21°E 竈N54°E		坏1　椀4　瓶1 羽釜5　甑1他	36号土坑	
13号住居跡	欠　番							
14号住居跡	F区p～q －15	不整正方形	278×268× 66	N112°E	貯蔵穴 床下土坑	坏4　椀7　甕2		
15号住居跡	F区m～n －15～16	方形	434×－× 78	N114°E	貯蔵穴	椀1　羽釜2 甕1　瓦4	41号土坑	
16号住居跡	G区l～m －9～10	正方形	294×316× 46	N92°E	貯蔵穴 床下土坑	坏3　甕類4 鉄器2	2号住居	
17号住居跡	H区h～i －5～6	方形	416×382× 66	N6°E		坏2　椀4　坩1 羽釜2　壺1他		
18号住居跡	H区e～f －7～8	横長 不整方形	322×490× 74	N144°E	壁溝 貯蔵穴	坏7　椀14　鉢1 甑2　羽釜2他	19号住居	
19号住居跡	H区e～f －7～8	方形	－×434× 18	N16°E		坏1　椀9　皿2 鉢2　羽釜2他	18号住居	

住居跡名	位　置	平面形	規　模（cm） 長軸×短軸×深さ	方　位	主な施設	主な遺物	重複遺構	備　考
20号住居跡	H区d －8～9	方形	362×－×98	N135°E		椀3　台付鉢1 羽釜1　瓦1	21号住居	
21号住居跡	H区d～e －8～9	方形	294×－×46	N105°E			20号住居	
22号住居跡	H区h～i －8～9	正方形	404×396×136	N111°E	貯蔵穴 床下土坑	坏12　椀21　甕3 羽釜25　瓦6		
23号住居跡	H区g～h －8～9	正方形	420×416×98	N126°E	貯蔵穴 床下土坑			
24号住居跡	欠　番							
25号住居跡	G区j～k －11～12	縦長方形	386×292×52	N103°E	床下土坑	坏2　椀1	26号住居	
26号住居跡	G区j～k －12	縦長方形	402×290×40	N105°E	貯蔵穴	坏1　椀4 羽釜1　瓦1	25号住居	
27号住居跡	G区s～t －5～6	正方形	330×350×68	N84°E	貯蔵穴	坏1　椀3　瓦1 砥石1　羽釜1	6号住居	
28号住居跡	G区g～h －12～13	横長長方形	448×352×46	N112°E		坏2　椀2　甕3 羽釜3　経軸端他	66号住居	
29号住居跡	F区t～u －18～19	長方形	462×302×40	N108°E	貯蔵穴 床下土坑	坏1　椀1　皿1 羽釜4　瓦3	66号土坑	
30号住居跡	F区s～t －17～18	不整正方形	270×272×30	N108°E	貯蔵穴	椀2		
31号住居跡	F区w～x －17～18	正方形	312×352×46	N110°E	貯蔵穴	坏4　椀1　皿1 甕2　瓦3		
32号住居跡	G区o～p －12～13	不整長方形	438×370×68	N90°E		坏5　椀3　皿1 盤1　石1　甕他		
33号住居跡	G区e～f －13	方形	278×－×38	N97°E	貯蔵穴	坏2　椀2　甕1 羽釜1　瓦2		
34号住居跡	G区c～d －13	不整正方形	－×－×38	N102°E		坏1	35号住居	
35号住居跡	G区b～c －13～14	縦長長方形	512×－×40	N108°E		坏1　椀3　甕5 羽釜3　土錘1他	34号住居	
36号住居跡	G区a～b －13～14	方形	－×－×40	——		椀1　皿1　甕2 羽釜1		
37号住居跡	G区m～n －15	方形	－×－×24	——		椀2　甕2		
38号住居跡	G区e～f －14～15	不整長方形	320×302×82	N108°E	貯蔵穴・棚？・ 床下土坑	坏4　椀3　蓋2 盤1　甕6　石1		

住居跡名	位　置	平面形	規　模（cm） 長軸×短軸×深さ	方　位	主な施設	主な遺物	重複遺構	備　考
39号住居跡	F区v～w －16～17	長方形	434×－×40	——		椀3		
40号住居跡	FG区y～ a～14	正方形	330×－×42	N113°E		椀2　甕1		
41号住居跡	FG区y～ a－15～16	正方形	340×332×60	N114°E	貯蔵穴・棚？	坏2　椀1　瓶1 手捏ね1　土釜他		
42号住居跡	G区d～e －15～16	正方形	362×408×36	N83°E	貯蔵穴 床下土坑	坏3　蓋1　甕1		
43号住居跡	G区f～g －15～16	横長長方形	320×500×48	N108°E	貯蔵穴 床下土坑	坏2　椀10　皿1 鉢3　羽釜3他		
44号住居跡	G区h～i －16	横長長方形	318×－×28	N100°E		坏2　椀6　鉢1 瓶1　羽釜3他		
45号住居跡	欠　番							
46号住居跡	FG区a～ b－16～17	正方形	428×－×38	N105°E		坏3　椀4　甕6 瓦5	60号住居 89号土坑	
47号住居跡	G区d～e －13～14	不整正方形	356×382×72	N109°E	四本柱穴 貯蔵穴	坏1　椀1　甕1 高盤1（転用硯）	48号住居	
48号住居跡	G区d～e －14～15	正方形	230×－×32	N106°E		椀2　壺1　瓦1	47号住居	
49号住居跡	G区e～f －13～14	正方形	330×356×84	N90°E	貯蔵穴2・周溝 床下土坑	坏7　椀4　盤1 蓋6　壺3鉄他		
50号住居跡	H区e～f －10～11	方形	464×－×68	N125°E	貯蔵穴	椀3　甕3　瓦2	7号 テラス	
51号住居跡	欠　番							
52号住居跡	欠　番							
53号住居跡	G区v～w －11～12	正方形	356×－×32	N78°E		坏2　椀4　鉄鏃1 羽釜2　甕3　瓦5		
54号住居跡	F区r～s －17～18	方形？	468×－×60	——		坏3　椀5　甕4 土釜1　羽釜2他	55号住居 57号住居	
55号住居跡	F区q～r －18～19	方形？	－×－×－	——		坏8　椀8　甕2 高盤2　羽釜1	57号住居 7号溝	
56号住居跡	F区g～r －17	竈？のみ遺存	－×－×－	——			185土坑 7号溝	
57号住居跡	F区q～r －17～18	方形？	－×－×－	——		坏2　椀6　甕1		

住居跡名	位　置	平面形	規　模（cm） 長軸×短軸×深さ	方　位	主な施設	主な遺物	重複遺構	備　考
58号住居跡	F区q～r －17	竈？のみ遺存	－×－×－	——		椀2　鉄1　甕4 羽釜2　瓦1	184土坑	
59号住居跡	F区q～r －18	方形？	－×－×－	——		羽釜2　鉄器1		
60号住居跡	G区a～b －15～16	縦長長方形	420×254×－	N108°E		皿1　甕7　鉄1 土釜1　羽釜3他	46号住居 133土坑	
61号住居跡	G区k～l －13	正方形	276×270× 64	N0.5°E	貯蔵穴	坏1　椀3　蓋1 羽釜4　鉄器1他		
62号住居跡	GH区y～ a－19～20	不整正方形	－×412× 90	——	貯蔵穴・壁周溝	椀3　甕3　瓦1 高盤1		
63号住居跡	G区t～u －21	長方形？	356×－× 40	N87°E	床下土坑	坏2　椀5　皿2 蓋1　羽釜3他		
64号住居跡	H区d～e －15～16	不整方形	412×368×122	N143°E	棚？			
65号住居跡	H区f～g －15～16	隅丸不整長方形	266×350× 98	N32°E		坏2　椀6　鉢1 羽釜3　甕5他		
66号住居跡	G区g～h －13～14	長方形	430×－×－	——		坏4　椀4　瓦2 羽釜1　長頸壺1	28号住居	
67号住居跡	G区k～l －18～19	方形	280×－×－	N109°E		坏1　椀1　鉢1 羽釜5　甕1他		
68号住居跡	G区i～j －16～17	方形	328×－× 82	N115°E	床下土坑	坏5　椀5　瓦2 羽釜2		
69号住居跡	G区t～u －24	横長？方形	336×－× 46	N89°E	大型床下土坑	坏2　椀2　甕1		
70号住居跡	F区g～h －9～10	正方形	260×264× 32	N119°E	貯蔵穴	羽釜2　鉄器1		
71号住居跡	F区f～g －10～11	不整横長方形	220×－× 20	N108°E		高盤1 甕又は羽釜4		
72号住居跡	欠　番							
73号住居跡	G区i～j －19	縦長隅丸長方形	424×－× 88	N103°E	貯蔵穴	坏15　椀9　皿1 鉢1　羽釜12他		
74号住居跡	G区b～c －22	不整横長方形	310×356×106	N120°E	貯蔵穴・棚？ 床下土坑	坏1　椀7　皿1 鉢1　土釜1他		
75号住居跡	FG区x～ y－22～23	縦長長方形	746×366× 82	N106°E	壁周溝	坏2　椀6　皿5 壺2　甕8　瓦5	7号建物	
76号住居跡	F区t～u －22	長方形	388×272× 48	N106°E	床下土坑	坏2　椀4　甕1 瓦1		

住居跡名	位　置	平面形	規　模（cm） 長軸×短軸×深さ	方　位	主な施設	主な遺物	重複遺構	備　考
77号住居跡	G区a～b －21	方形	－×－×－	——		坏2　椀5　甕1 瓦1		
78号住居跡	G区q～r －24～25	縦長長方形	340×262×76	N81°E	貯蔵穴・壁周溝 床下土坑	坏8　椀2　皿2 甕2　瓦2　鉄1	79号住居	
79号住居跡	G区q～r －24～25	正方形	342×334×76	N83°E	貯蔵穴	坏1　椀2　甕2	78号住居	
80号住居跡	G区d～e －20～21	縦長長方形	440×346×52	N110°E	床下土坑	坏5　椀6　瓶1 羽釜3　鉢1他		

土坑計測表

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
1号土坑	G区j －9～10	円形	212×196×22
2号土坑 （A）	G区d～e －10	円形	118×100×16
2号土坑 （B）	G区d －10～11	不整形	112×－×8
3号土坑	G区j～k －8～9	正方形	136×86×12
4号土坑	G区d～e －12	不整方形	272×260×44
5号土坑	G区g －10	楕円形	312×184×32
6号土坑	G区g －11	円形	142×136×44
7号土坑	G区d －11	不整形	158×146×70
8号土坑	G区f～g －11～12	方形	310×292×76
9号土坑	G区g －11～12	長方形	326×98×42
10号土坑	G区k～l －11～12	不整方形	284×－×42
11号土坑	G区a～b －12	方形	370×－×58
12号土坑	G区c －11～12	長方形	532×144×116

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
13号土坑	G区e －12	円形	92×90×24
14号土坑	G区b －11	不整形	124×92×50
15号土坑	G区c －11	円形	136×134×44
16号土坑	G区e －12	不整形	136×134×26
17号土坑	G区e －12	不整形	126×98×28
18号土坑	G区d～e －11～12	不整形	476×438×24
19号土坑	G区i～j －9～11	溝状	726×123×48
20号土坑	G区i －9～11	溝状	798×126×54
21号土坑	G区h～i －9～11	溝状	939×99×72
22号土坑	G区h －10～12	溝状	－×90×84
23号土坑	G区g～h －11	不整方形	398×268×96
24号土坑	G区h －10	不整形	110×82×70
25号土坑	G区h～i －10	不整形	96×76×－

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
26号土坑	G区h －9～10	不整形	111× 75× －
27号土坑	G区l～m －8～9	円形	168×148× 34
28号土坑	G区i～j －8～9	楕円形	124× 84× 84
29号土坑	G区i～k －10～11	溝状	900× 92× 40
30号土坑	G区k －9	不整長方形	310×122× 16
31号土坑	G区d －11	円形	106× 96× 18
32号土坑	G区e －11	円形	96× 86× 18
33号土坑	G区f～g －9	長方形	178× 94× 34
34号土坑	G区k －9	円形	100× 86× 26
35号土坑	G区k －9	長方形	154× 82× 22
36号土坑	G区i －8～9	長方形	－×122× 26
37号土坑	G区g －8～9	不整円形	156×126× 30
38号土坑	G区g －8	不整長方形	138× 76× 26
39号土坑	G区g －7	長方形	170× 76× 52
40号土坑	G区i －9	方形	92× 72× 46
41号土坑	F区n －15	不整円形	110×108× 46
42号土坑	F区n －14	楕円形	104× 80× 40
43号土坑	G区j －11	不整形	120×114× －
44号土坑	G区j －10	不整形	142× 88× 50
45号土坑	G区k －11	円形	86× 78× 30

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
46号土坑	G区l －11～12	長方形	142× 67× 11
47号土坑	欠番		
48号土坑	欠番		
49号土坑	欠番		
50号土坑	F区r～s －19	長楕円形	324× 70× 46
51号土坑	F区s －18	不整円形	66× －× 24
52号土坑	F区s －18	不整円形	62× －× 18
53号土坑	F区t －19	不整形	116× 72× 28
54号土坑	F区s －18	不整円形	62× 52× 12
55号土坑	F区t －19	楕円形	82× 64× 30
56号土坑	G区f －14	楕円形	146×112× 14
57号土坑	G区c －14	長楕円形	218× 76× 34
58号土坑	G区b～c －14	長楕円形	256× 74× 62
59号土坑	G区b －15	長楕円形	286× 80×104
60号土坑	G区d －14	長楕円形	202× 62× 14
61号土坑	G区c～d －15	不整形	158× 66× 26
62号土坑	G区c～d －15	不整形	112×106× 14
63号土坑	G区c －15～16	楕円形	180× －× 22
64号土坑	G区c －15～16	長楕円形	276× －× 40
65号土坑	F区k～l －15～16	不整形	208×154× 48

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
66号土坑	F区u −19	不整円形	79× 65× 21
67号土坑	F区v −18	円形	48× 46× 22
68号土坑	F区v −18～19	楕円形	132× 28× 14
69号土坑	F区v −18～19	不整形	80× 72× 30
70号土坑	F区v～w −18	円形	128×124× 36
71号土坑	F区u～v −18	楕円形	80× 62× 26
72号土坑	F区v −18	不整円形	82× 80× 10
73号土坑	F区u −19	不整形	172×135× 6
74号土坑	F区w −18	長楕円形	− × 88× 26
75号土坑	F区w～x −18	楕円形	276×174× 20
76号土坑	G区d～e −15	不整形	260× − × 14
77号土坑	G区a −14～15	楕円形	88× 56× 48
78号土坑	G区a −15	楕円形	108× 68× 28
79号土坑	欠番		
80号土坑	G区b −17～18	不整方形	142×108× 20
81号土坑	G区b～c −17～18	方形	144×134× 62
82号土坑	G区g −12～13	長楕円形	226× − × 10
83号土坑	G区a −17	長方形	192× 94× 92
84号土坑	G区a −17～18	不整長方形	178× 68× 24
85号土坑	G区a −17	円形	64× 56× 44

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
86号土坑	G区a −17	不整形	80× 42× 50
87号土坑	G区a −17	円形	140×126× 54
88号土坑	G区a −16～17	楕円形	102× 74× 46
89号土坑	G区a～b −17	長方形	182× − × 40
90号土坑	G区b −15～16	不整形	178×126× 32
91号土坑	欠番		
92号土坑	欠番		
93号土坑	F区x～y −18	楕円形	282× − × 60
94号土坑	F区x～y −18	不整円形	234× − × 32
95号土坑	F区w～x −18	不整形	184× − × 16
96号土坑	欠番		
97号土坑	欠番		
98号土坑	欠番		
99号土坑	欠番		
100号土坑	欠番		
101号土坑	G区b −18	円形	44× 44× 12
102号土坑	G区c −18	不整円形	68× 60× 30
103号土坑	G区b −17	円形	68× 66× 18
104号土坑	F区y −18	楕円形	112× 62× 44
105号土坑	欠番		

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
106号土坑	G区e −16	不整形	118× 70× 82
107号土坑	欠番		
108号土坑	G区e −16	不整円形	82× 64× 24
109号土坑	G区e −16	楕円形	60× 46× 36
110号土坑	G区d −16	不整形	72× 72× 16
111号土坑	G区d −17	不整円形	− ×106× 38
112号土坑	G区c −17	不整形	− ×104× 40
113号土坑	F区x～y −17	不整円形	56× 50× 16
114号土坑	F区x −17	不整形	70× 38× 18
115号土坑	F区x −17	円形	52× 50× 42
116号土坑	F区y −17	不整円形	62× 48× 12
117号土坑	F区y −17	不整円形	46× 40× 24
118号土坑	F区x～y −17	不整長方形	168× 68× 62
119号土坑	G区e −16	不整形	− × 96× 26
120号土坑	F～G区 y～a −16	不整楕円形	164× 88× 34
121号土坑	欠番		
122号土坑	G区b～c −16	楕円形	196×114× 40
123号土坑	欠番		
124号土坑	欠番		
125号土坑	G区h −15～16	楕円形	170×106× 16

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
126号土坑	G区h −16	楕円形	214×146× 18
127号土坑	F区r −19	不整楕円形	144× 60× 26
128号土坑	G区b −15	円形	92× 86× 28
129号土坑	F区x −16	楕円形	106× 84× 36
130号土坑	F区y −16	楕円形	148×108× 24
131号土坑	F区y −15～16	楕円形	182×118× 16
132号土坑	G区c −16	楕円形	134× − × 34
133号土坑	G区a～b −15～16	不整長方形	370×232× 44
134号土坑	G区q −14～15	不整円形	
135号土坑	G区p −16	円形	90× 88× 28
136号土坑	G区p −16	円形	52× 48×102
137号土坑	G区p −15	円形	52× 46× 54
138号土坑	G区p −13	不整円形	64× 60× 22
139号土坑	G区n～o −13	円形	54× 54× 12
140号土坑	G区n −12	不整円形	38× 32× 34
141号土坑	G区m −13	不整円形	40× 34× 16
142号土坑	G区m −12	不整円形	38× 36× 10
143号土坑	G区l −13	不整円形	48× 38× 32
144号土坑	G区c −14	不整形	238×178× 66
145号土坑	G区h −14	円形	58× 54× 28

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
146号土坑	G区h −15	不整円形	52× 42× 22
147号土坑	G区g −15	不整形	66× 42× 22
148号土坑	G区e −15	円形	62× 60× 10
149号土坑	G区d −15	楕円形	110× 58× 18
150号土坑	G区d −14	不整楕円形	76× 44× 10
151号土坑	G区d −13～14	不整円形	− × 92× 28
152号土坑	G区c −17	不整形	46× 38× 36
153号土坑	G区b −14	不整形	74× 50× 16
154号土坑	G区a～b −14	楕円形	148×112× 22
155号土坑	G区a −14～15	不整円形	46× 42× 10
156号土坑	G区b −15	不整形	56× 40× 16
157号土坑	G区c～d −15～16	不整形	242×202× 16
158号土坑	G区c～d −16	不整形	166×128× 20
159号土坑	G区c −14	不整円形	38× 30× 50
160号土坑	G区c −14	不整楕円形	68× 36× 22
161号土坑	F区r −17	不整形	164×120× 46
162号土坑	F区q～r −18	不整楕円形	150× 86× 80
163号土坑	F区q −16	方形	100× 98× 56
164号土坑	F区p～q −17～18	不整形	186×102× 16
165号土坑	F区p −17	不整円形	96× 88× 30

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
166号土坑	F区n～o −20～21	不整円形	84× 80× 44
167号土坑	欠番		
168号土坑	欠番		
169号土坑	欠番		
170号土坑	H区c −13	円形	56× 56× 12
171号土坑	H区c～d −12～13	溝状	546× 72× 14
172号土坑	H区d −12	楕円形	− ×132× 30
173号土坑	欠番		
174号土坑	H区e −11	円形	52× 50× 8
175号土坑	H区f −11	円形	32× 28× 22
176号土坑	H区g −10	円形	44× 42× 20
177号土坑	欠番		
178号土坑	欠番		
179号土坑	欠番		
180号土坑	F区q～r −18	楕円形	101× 66× 9
181号土坑	F区r −18	円形	94× 86× 12
182号土坑	F区q～r −17	不整形	− × 76× 28
183号土坑	F区q −18	楕円形	87× 56× 3
184号土坑	F区q −17	楕円形	202×118× 64
185号土坑	F区q～r −17	楕円形	188× 96× 32

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
186号土坑	F区q～r −18	円形	70× 64× 22
187号土坑	F区q −18	不整円形	76× 62× 20
188号土坑	F区q～r −17～18	不整形	112× 92× 20
189号土坑	F区p −18		
190号土坑	G区g −14	不整円形	92× 76× 30
191号土坑	G区k −19	不整円形	80× − × 52
192号土坑	欠番		
193号土坑	F区r −17	不整円形	66× 64× 20
194号土坑	F区r −17	不整形	− × 54× 18
195号土坑	F区q −17～18	円形	30× 28× 14
196号土坑	欠番		
197号土坑	F区p −17	不整円形	52× 50× 18
198号土坑	F区p −17	不整円形	40× 34× 18
199号土坑	F区o～p −17	不整円形	28× 28× 24

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
200号土坑	F区p −17	不整円形	54× 48× 10
201号土坑	F区p −17	不整円形	36× 36× 18
202号土坑	F区p −17	不整円形	32× 32× 34
203号土坑	F区r −18	不整円形	42× 34× 20
204号土坑	F区p −17	不整円形	− ×104× 14
205号土坑	F区q −16～17	不整円形	96× 78× 34
206号土坑	F区r −18	円形	34× 32× 36
207号土坑	F区p −18～19	円形	38× 36× 42
208号土坑	F区q～r −16～17	不整円形	64× 56× 46
209号土坑	F区p −17～18	不整円形	46× 36× 50
210号土坑	G区q −24	不整楕円形	146× 50× 12

井戸計測表

井戸名	位　置	平面形	規　模（cm）
1号井戸	F区x −19	円形	150×138×116

庚申山　住居跡計測表

住居跡名	位　置	平面形	規　模（cm）長軸×短軸×深さ	方　位	主な施設	主な遺物	重複遺構	備　考
1号住居跡	I区d −8～9	不整方形	330×330× 50	N131°E	竈3 貯蔵穴	坏4　椀7　皿2 蓋2　長頸壺1他		
2号住居跡	I区d～e −10	長方形	302×214× 96	N104°E	貯蔵穴	坏5　甕1		
3号住居跡	HI区y～a −8～9			N114°E		坏1　椀8 羽釜2		竈 のみ残存

庚申山　土坑計測表

土坑名	位　置	平面形	規　模（cm）
1号土坑	Ⅰ区i－3	不整円形	192×142× 38
2号土坑	Ⅰ区k～l－3	円形	82× 78× 24
3号土坑	Ⅰ区l－3	不整楕円形	130× 62× 18
4号土坑	ⅠJ区y～a－12～13	長方形	486×226×102
5号土坑	欠番		
6号土坑	Ⅰ区b～c－8	不整円形	144×106× 58
7号土坑	Ⅰ区b－8	不整楕円形	150× 82× 30

庚申山区土坑土層

1号土坑　L＝190.2m
1　黒褐色土　　砂質。攪乱か
2　暗褐色土　　ローム粒を少量含む
3　　〃　　均質。夾雑物はない
4　　〃　　ローム塊を多く含む
5　鈍褐色土　　ローム塊を主体とする
6　黄褐色土　　ローム塊

2号土坑　L＝191.3m
1　暗褐色土　　ローム塊を少量含む
2　褐色土　　ローム粒を含む

3号土坑　L＝192.5m
1　黒褐色土　　炭化物・焼土粒を多く含む
2　褐色土　　炭化物を少量含む

4号土坑　L＝189.6m
1　黒褐色土　　砂質。ローム粒を少量含む
2　暗褐色土　　均質。ローム塊と斑状堆積
3　暗褐色土　　暗い。ローム粒を少量含む
4　鈍黄褐色土　　ローム塊を多く含む

6号土坑　L＝178.9m
1　黒褐色土　　砂質。しまりは乏しい
2　鈍褐色土　　ローム塊を多く含む
3　黄褐色土　　地山ロームに近似
4　暗褐色土　　ローム粒を多く含む
5　鈍黄褐色土　　ローム塊・礫を多く含む

7号土坑　L＝178.8m
1　黒褐色土　　砂質。しまりは乏しい
2　暗褐色土　　ローム塊と斑状堆積
3　鈍黄褐色土　　ローム塊を主体とする

1号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
9図　1 坏 図版　43	口：(9.8) 高：　3.2 底：(4.5)	約　1/2 竈内	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③灰色 ④須恵器
9図　2 花瓶灰釉 図版　43	口：　－ 高：　－ 底：　－	約　1/2 覆土	①緻密 ②良　③灰色 ④
9図　3 甕	口：(18.0) 高：　－ 底：　－	口縁破片 竈内	①粗　石英 ②普通　③灰色 ④須恵器
9図　4 羽釜	口：23.0 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈内	①粗　石英 ②普通　③橙色 ④須恵器
9図　5 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：(6.4)	底部破片 覆土	①粗　白色粒 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器

2号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
11図　1 坏 図版　43	口：12.0 高：　3.7 底：　6.6	ほぼ完形 床直上	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③灰色 ④須恵器
11図　2 坏 図版　43	口：(13.4) 高：　3.8 底：(6.0)	約　1/3 覆土	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
11図　3 椀 図版　43	口：(15.0) 高：　－ 底：　－	約　1/5 覆土	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
11図　4 坏 図版　43	口：　－ 高：　－ 底：(6.0)	約　1/6 南側床上	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
11図　5 坏	口：(11.0) 高：　－ 底：　－	約　1/5 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③黒色 ④須恵器
11図　6 椀	口：　－ 高：　－ 底：(6.4)	底部のみ 覆土	①細　石英 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
11図　7 甕	口：(23.2) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗 ②良　③黒褐色 ④須恵器
11図　8 蓋 図版　43	口：(15.3) 高：　－ 鈕：　－	約　2/3 覆土上層	①粗　褐色鉱物 ②良　③灰黄色 ④須恵器
11図　9 甕把手	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 覆土	①粗　石英 ②普通　③灰色 ④須恵器

3号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
13図　1 坏 図版　43	口：10.7 高：　3.4 底：　4.2	完形 南東壁下	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
13図　2 椀 図版　43	口：(13.2) 高：　－ 底：(6.0)	約　2/3 竈内	①粗　石英 ②普通　③橙色 ④須恵器
13図　3 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.7	約　1/3 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③黄褐色 ④須恵器
13図　4 椀	口：　－ 高：　－ 底：　－	約　1/6 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 褐色鉱物　②普通　③ 鈍橙色　④須恵器
13図　5 羽釜 図版　43	口：(18.4) 高：22.0 底：(6.4)	約　1/3 竈	①粗　石英　片岩 ②不良　③灰黄色 ④須恵器
13図　6 羽釜 図版　43	口：　－ 高：　－ 底：　6.3	約　1/4 竈	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍赤褐色 ④須恵器
13図　7 羽釜 図版　43	口：　－ 高：　－ 底：　6.2	下部約　1/4 南西隅	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍黄褐色 ④須恵器
13図　8 大甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 南壁下	①粗　石英 ②普通　③灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
13図　9 平瓦 図版　43	1.7	褐色 酸化	粗　石英	凸；無文叩 凹；布目 端；1回

図　番号 種　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
13図　10 鉄鏃	5.8×1.4(0.6)；5.43g　短頸長三角形鏃　刃部先端欠失、頭部途中より欠損。斜め関を有し、鏃身部はやや細めの長三角形状をなす。

4号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
14図　1 椀	口：　－ 高：　－ 底：（5.8）	約　1/5 床直	①粗　片岩 ②良　③黒褐色 ④須恵器
14図　2 甕 図版　43	口：　－ 高：　－ 底：（8.3）	底部破片 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③鈍 褐色　④須恵器
14図　3 甕 図版　43	口：　－ 高：　－ 底：（6.8）	下部破片 床直	①粗　白色粒 ②普通　③灰黄色 ④線刻有り　須恵器

5号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
16図　1 坏 図版　43	口：13.8 高：4.0 底：6.0	約　3/4 竈	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
16図　2 坏 図版　43	口：(13.3) 高：4.1 底：（5.3）	約　1/2 竈内	①粗　褐色鉱物 ②普通　③淡黄色 ④須恵器
16図　3 坏 図版　43	口：12.8 高：3.5 底：5.6	約　1/4 貯蔵穴北西	①粗　白色粒　黒色粒 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
16図　4 坏 図版　44	口：　－ 高：　－ 底：6.6	約　1/3 南壁中央	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黄橙色 ④須恵器
16図　5 椀	口：(14.2) 高：5.2 底：（6.4）	約　1/2 床直上	①粗　褐色鉱物 ②普通　③明黄褐色 ④須恵器
16図　6 椀 図版　43	口：15.2 高：5.2 底：7.3	ほぼ完形 南壁下床直	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰黄褐色 ④須恵器
16図　7 椀	口：　－ 高：　－ 底：（7.8）	約　1/6 床直上	①細　黒色粒　白色粒 片岩　②普通　③浅黄 色　④須恵器
16図　8 椀 図版　43	口：13.7 高：5.0 底：6.3	約　3/4 竈覆土	①粗　石英　褐色鉱物 片岩　②普通　③黄褐 色　④須恵器
16図　9 椀	口：　－ 高：　－ 底：5.7	約　1/2 竈	①粗　石英　褐色鉱物 黒色粒　②普通　③浅 黄色　④須恵器
16図　10 皿 図版　44	口：14.8 高：3.3 底：7.4	ほぼ完形 床面中央	①粗　褐色鉱物 ②普通　③明黄褐色 ④須恵器
16図　11 甕 図版　44	口：19.0 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈覆土	①粗　黒色鉱物　片岩 ②普通　③鈍赤褐色 ④土師器
16図　12 甕 図版　44	口：(16.2) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈覆土	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④土師器
16図　13 台付甕 図版　44	口：　－ 高：　－ 底：　－	約　1/3 南壁下	①粗　石英　白色粒 ②普通　③褐色 ④土師器
16図　14 甕	口：(20.2) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 南壁中央	①粗　石英　黒色粒 白色粒　②普通　③赤 褐色　④土師器
16図　15 甕 図版　44	口：(21.0) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/4 南壁中央	①粗　石英　白色粒 ②普通　③赤褐色 ④土師器
16図　16 甕	口：　－ 高：　－ 底：(10.6)	底部破片 南壁中央	①粗　石英　片岩 ②普通　③褐色 ④土師器
16図　17 大甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 貯蔵穴北	①粗　石英 ②普通　③灰オリーブ ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
17図　18 平瓦	1.5	浅黄色 酸化	細 片岩	凸；無文叩　撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
17図　19 平瓦 図版44	1.0	灰色 還元	細 白色粒	凸；縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回

6号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
18図　1 坏	口：　－ 高：　－ 底：（5.2）	約　1/3 覆土	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③灰白色 ④須恵器
18図　2 椀	口：　－ 高：　－ 底：6.0	底部のみ 覆土	①細　片岩 ②普通　③灰白色 ④須恵器
18図　3 皿 図版　44	口：(12.8) 高：　－ 底：（5.8）	約　1/4 覆土	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③褐灰色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
18図　4 高盤脚部	口：　－ 高：　－ 底：(12.0)	脚部約 1/4 覆土	①細　石英 ②普通　③橙色 ④須恵器
18図　5 高盤脚部 図版　44	口：　－ 高：　－ 底：(11.6)	脚部約 1/4 覆土	①細　黒色粒　白色粒 ②良　③黒褐色 ④須恵器
18図　6 羽釜 図版　44	口：(18.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　石英 ②不良　③鈍橙色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
18図　7 平瓦 図版　44	1.3	灰白色 還元	細　石英	凸；平行叩　撫で 凹；布目 側；1回　端；1回

7号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
20図　1 坏 図版　44	口：　－ 高：　－ 底：　－	約 1/3 覆土上層	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③橙色 ④土師器
20図　2 坏 図版　44	口：(14.0) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/6 覆土上層	①細　石英　片岩 褐色粒　②普通　③鈍 橙色　④土師器
20図　3 坏 図版　44	口：(12.6) 高：　3.9 底：　6.6	約 1/2 貯蔵穴上端	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③鈍 黄橙色　④須恵器
20図　4 坏 図版　44	口：(11.6) 高：　4.6 底：(5.6)	約 1/3 竈南床直上	①粗　石英 ②普通　③黄灰色 ④須恵器
20図　5 坏 図版　44	口：12.0 高：　3.8 底：　5.4	ほぼ完形 竈北床直	①粗　石英 ②不良　③淡黄色 ④須恵器
20図　6 坏 図版　44	口：(11.6) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/2 床下埋土	①粗　石英　黒色粒 ②不良　③灰白色 ④須恵器
20図　7 坏 図版　44	口：(11.5) 高：　3.7 底：(4.3)	約 1/2 床下埋土	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
20図　8 坏	口：(14.3) 高：　6.2 底：(7.3)	約 1/2 覆土下位	①粗　石英　黒色鉱物 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
20図　9 坏 図版　44	口：(13.4) 高：　3.7 底：(7.7)	約 1/3 覆土	①緻密　黒色粒　白色 粒　②良　③灰白色 ④須恵器
20図　10 椀 図版　44	口：12.2 高：　4.3 底：　5.8	完形 床面中央	①粗　石英　片岩 ②良　③黒褐色 ④須恵器
21図　11 椀 図版　44	口：(13.0) 高：　4.6 底：(5.5)	約 1/2 北東壁上	①細　石英　片岩 ②普通　③鈍褐色 ④須恵器
21図　12 椀 図版　44	口：(15.4) 高：　6.2 底：(6.7)	約 1/5 床直上	①粗　石英　黒色粒 褐色粒　②良　③鈍黄 橙色　④須恵器
21図　13 椀 図版　44	口：14.4 高：　6.2 底：　6.6	ほぼ完形 床直上	①粗　石英　黒色粒 白色粒　②普通　③灰 色　④須恵器
21図　14 椀 図版　44	口：(14.6) 高：　4.8 底：　6.8	約 1/5 貯蔵穴上位	①粗　石英　褐色鉱物 白色粒　②普通　③鈍 黄橙色　④須恵器
21図　15 椀 図版　44	口：(15.2) 高：　4.9 底：　6.6	約 1/2 覆土	①粗　白色粒 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
21図　16 椀 図版　44	口：14.2 高：　－ 底：　－	ほぼ完形 竈内	①粗　石英　片岩 ②不良　③灰白色 ④須恵器
21図　17 椀	口：　－ 高：　－ 底：　5.2	底部のみ 覆土	①粗　石英　黒色粒 白色粒　②普通　③灰 白色　④須恵器
21図　18 高台付皿	口：　－ 高：　－ 底：(7.1)	底部のみ 覆土下位	①粗　黒色粒　褐色粒 ②普通　③灰白色 ④須恵器
21図　19 椀	口：　－ 高：　－ 底：　5.9	体部～底部 覆土下位	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
21図　20 椀　灰釉 図版　44	口：(18.2) 高：　6.0 底：(7.7)	約 1/3 床直上	①緻密　石英 ②良　③灰白色 ④大原2号
21図　21 羽釜 図版　45	口：(22.0) 高：23.0 底：　6.0	約 1/4 床面中央	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③灰黄 色④須恵器
21図　22 羽釜 図版　45	口：(17.2) 高：　－ 底：　－	約 1/4 床直	①細　白色粒　片岩 ②普通　③橙色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
21図　23 羽釜 図版　45	口：(18.0) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片 覆土中位	①粗　石英　褐色鉱物 ②不良　③浅黄橙色 ④須恵器
21図　24 羽釜	口：(19.4) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片 住居跡外	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
22図　25 羽釜 図版　45	口：(18.4) 高：　－ 底：　－	約　1/4 床直	①細　石英　白色粒 片岩　②良　③褐灰色 ④須恵器
22図　26 羽釜 図版　45	口：(19.6) 高：　－ 底：　－	約　1/4 覆土中位	①細　石英　白色粒 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
22図　27 羽釜 図版　45	口：(17.6) 高：　－ 底：　－	約　1/5 竈内	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②良　③灰色 ④須恵器
22図　28 羽釜 図版　45	口：　－ 高：　－ 底：　6.4	体部下半～ 底部 覆土上位	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黄灰色 ④須恵器
22図　29 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部下半破片 床直	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③灰黄 色④須恵器
22図　30 小型甕 図版　45	口：17.6 高：16.6 底：　5.8	約　3/4 床面中央	①細　石英　黒色鉱物 片岩　②良　③鈍褐色 ④轆轤整形酸化焰
22図　31 台付甕 図版　45	口：　－ 高：　－ 底：(13.2)	底部破片 床下埋土	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
22図　32 軒平瓦	3.8	褐灰色 還元	粗　石英 片岩	段顎 格子目文
23図　33 丸瓦 図版　45	1.2	鈍黄色 酸化	細　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目 側；2回
23図　34 丸瓦 図版　45	1.9	明黄褐 酸化	細　石英	凸；縦撫で 凹；布目 側；1回　端；2回
23図　35 平瓦	1.9	灰黄色 酸化	粗　石英 白色粒	凸；平行叩 凹；布目 側；1回
24図　36 平瓦 図版　46	2.0	灰黄褐 還元	粗　石英 片岩	凸；縦撫で 凹；布目 側；2回　端；2回

図　番号 種　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
24図　37 紡錘車	1.4×0.6；6.17g　鉄製紡錘車。円板部及び軸の一部破片。大型の円板部を有する。

8号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
25図　1 椀脚部 図版　46	口：　－ 高：　－ 底：　9.0	脚部のみ 床面(床下)	①細　石英 ②良　③明黄褐色 ④須恵器

10号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
27図　1 坏 図版　46	口：12.6 高：　3.8 底：　6.0	ほぼ完形 床直上	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③浅 黄色　④須恵器
27図　2 坏	口：(12.9) 高：(3.9) 底：(6.0)	破片 覆土	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③黄灰 色　④須恵器
27図　3 坏 図版　46	口：　－ 高：　－ 底：(6.0)	約　1/4 床直上	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄色 ④須恵器
27図　4 坏 図版　46	口：　－ 高：　－ 底：　5.8	底部のみ 覆土上層	①細　石英　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
27図　5 椀	口：(14.9) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 貯蔵穴上端壁	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰オリーブ ④須恵器
27図　6 皿 図版　46	口：　－ 高：　－ 底：　6.5	底部のみ 覆土上位	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③浅黄 色　④須恵器
27図　7 椀 図版　46	口：15.0 高：　5.6 底：　7.0	約　1/2 覆土中位	①粗　石英　白色粒 褐色鉱物　②普通　③ 明黄褐色　④須恵器
27図　8 椀 図版　46	口：13.7 高：　4.9 底：　6.2	約　3/4 覆土下位	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰白色 ④須恵器
27図　9 甑 図版　46	口：　－ 高：　－ 底：21.0	底部約　1/4 床下	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③黒褐 色　④須恵器
27図　10 甕 図版　46	口：　－ 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土上位	①緻密　石英　白色粒 ②良　③黒褐色 ④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ （長さ×幅cm；重量）
27図　11 砥石図版46	線刻有り。「元慶四年□」 14.1×4.6；150.4 g

図　番号 種　類	厚　さ （cm）	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
28図　12 丸瓦	1.3	橙色 酸化	細 白色粒	凸；叩　撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
28図　13 丸瓦	1.4	黒褐色 還元	粗　石英	凸；撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
28図　14 丸瓦	1.0	黒褐色 還元	粗　石英	凸；撫で 凹；布目 側；1回

図　番号 種　類	大　き　さ （長さ×幅cm；重量）
28図　15 鉄製品	2.4×1.8；1.10 g　不明鉄製品（鉄鏃か？）

11号住居跡

図　番号 器　種	法 量（cm） （　）推定値	残　存　率 出 土 状 態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
29図　1 皿 図版　46	口：　－ 高：　－ 底：　6.4	底部のみ 覆土上層	①細　白色粒 ②普通　③鈍黄褐色 ④須恵器
29図　2 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.4	底部のみ 覆土	①粗　石英 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
29図　3 皿 図版　46	口：13.6 高：（3.1） 底：（7.0）	ほぼ完形 （高台欠損） 覆土	①緻密　白色粒　黒色粒　②良　③灰黄色 ④須恵器
29図　4 羽釜 図版　46	口：(25.0) 高：　－ 底：　－	約　1/4 覆土	①細　石英 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
29図　5 羽釜 図版　46	口：(22.5) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片 覆土	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ （長さ×幅cm；重量）
29図　6 鉄釘	3.9×0.4；1.90 g　頭部欠損。足部端が直角に屈曲する。木質遺存なし。

12号住居跡

図　番号 器　種	法 量（cm） （　）推定値	残　存　率 出 土 状 態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
30図　1 椀	口：　－ 高：　－ 底：　5.2	底部約　3/4 覆土上層	①粗　黒色鉱物　白色粒　片岩　②普通　③浅黄色　④須恵器
30図　2 椀	口：　－ 高：　－ 底：（6.1）	底部約　1/2 覆土上層	①粗　石英　褐色鉱物　白色粒　②普通　③灰黄褐色　④須恵器
31図　3 椀	口：　－ 高：　－ 底：　5.5	底部約　1/2 覆土上層	①細　石英 ②普通　③暗灰黄色 ④須恵器
31図　4 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.7	口縁部欠損 竈内	①細　石英　片岩 ②普通　③鈍褐色 ④須恵器
31図　5 椀	口：14.4 高：　6.8 底：　7.2	約　1/2 竈覆土	①細　石英　黒色鉱物 ②良　③鈍黄褐色 ④須恵器
31図　6 小型瓶	口：　－ 高：　－ 底：　6.6	約　2/3 覆土	①粗　黒色鉱物　白色粒　②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
31図　7 広口甕	頸：（9.0） 高：　－ 底：　－	肩部約　1/2 覆土	①細　白色粒　黒色粒 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
31図　8 甕	口：　－ 高：　－ 底：10.0	底部のみ 覆土	①細　石英 ②良　③鈍褐色 ④須恵器
31図　9 甕	口：(18.2) 高：　－ 底：　－	口縁約　1/4 竈上層	①粗　石英 ②普通　③鈍黄橙色 ④土師器
31図　10 瓶 図版　47	口：25.5 高：31.3 底：(23.3)	ほぼ完形 床面中央	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
31図　11 羽釜 図版　47	口：23.0 高：28.7 底：　9.5	ほぼ完形 竈	①細　石英　黒色鉱物　片岩　②良　③鈍橙色 ④須恵器
31図　12 羽釜	口：(25.0) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/5 住居跡外	①粗　石英　黒色粒　片岩　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
32図　13 羽釜 図版　47	口：(26.6) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/4 竈内	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③橙色 ④須恵器
32図　14 羽釜 図版　47	口：(19.8) 高：　－ 底：　－	約　1/5 竈内	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　片岩　②普通　③鈍橙色　④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
32図　15 羽釜 図版　47	口：(23.6) 高：　－ 底：　－	約　1/5 竈内	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　片岩　②良 ③鈍橙色　④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ （長さ×幅cm；重量）
32図　16 鉄釘	5.3×0.4；3.01 g　ほぼ完形。やや頭部が斜めに曲がる。木質遺存なし。

14号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
34図　1 坏 図版　47	口：12.7 高：　3.6 底：　5.2	約　1/2 覆土	①粗　石英　黒色粒 褐色粒　片岩　②普通 ③灰黄色　④須恵器
34図　2 坏 図版　47	口：13.0 高：　3.6 底：　4.8	約　1/2 竈前使用面	①粗　石英　褐色鉱物 片岩　②普通　③鈍黄色　④須恵器
34図　3 坏 図版　47	口：12.5 高：　2.5 底：　6.1	完形 竈前使用面	①細　石英　片岩 ②良　③鈍橙色 ④須恵器
34図　4 坏　灰釉 図版　47	口：13.8 高：　4.1 底：　7.8	約　1/4 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③鈍褐色 ④須恵器
34図　5 椀	口：　－ 高：　－ 底：(　6.2)	底部のみ 覆土中位	①細　石英　褐色鉱物 ②普通　③鈍黄色 ④須恵器
34図　6 椀	口：13.8 高：　6.0 底：　7.2	約　1/3 覆土	①粗　石英 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
34図　7 椀 図版　47	口：13.8 高：　5.5 底：　6.0	約　3/4 竈内	①粗　石英　片岩 ②普通　③灰白色 ④須恵器
34図　8 椀 図版　47	口：16.4 高：　6.0 底：　6.4	約　1/3 床直上	①細　石英　片岩 ②良　③鈍黄色 ④須恵器
34図　9 椀 図版　47	口：(14.0) 高：　5.2 底：　6.1	約　1/4 床直上	①粗　石英 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
34図　10 椀 図版　47	口：(14.0) 高：　5.4 底：　6.0	約　1/3 覆土中位	①細　石英　片岩 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
34図　11 椀 図版　47	口：16.5 高：　6.3 底：　7.0	約　3/4 床直上	①粗　大粒の片岩　大粒の白色粒　②普通 ③灰黄色　④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
34図　12 甕	口：　－ 高：　－ 底：(15.0)	底部約　1/2 覆土	①緻密　白色粒 ②良　③赤黒色 ④須恵器
34図　13 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗　軟質 ②不良　③暗赤褐色 ④須恵器

15号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
36図　1 椀	口：　－ 高：　－ 底：(　7.6)	底部のみ 北側傾斜部	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③鈍黄色 ④須恵器
36図　2 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	口縁部約1/6 竈内	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　②不良　③鈍黄橙色　④須恵器
36図　3 羽釜	口：20.6 高：　－ 底：　－	口縁部約1/5 北側傾斜部	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③明黄褐色 ④須恵器
36図　4 羽釜 図版　47	口：(29.0) 高：　－ 底：　－	約　1/4 竈内	①細　石英　黒色鉱物 白色粒　片岩　②普通 ③橙色　④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
36図　5 平瓦 図版　48	1.2	鈍黄褐 酸化	粗　石英 片岩	凸；叩後縦撫で 凹；布目
37図　6 平瓦 図版　48	1.9	鈍黄褐 酸化	細　石英 片岩	凸；無文　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
37図　7 平瓦 図版　47	2.1	明黄褐 酸化	細　石英 片岩 砂質	凸；叩後縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
37図　9 平瓦 図版　48	1.4	鈍黄橙 酸化	細　石英 片岩	凸；平行叩後縦撫で 凹；布目 側；1回

16号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
38図　1 坏 図版　48	口：14.3 高：　3.4 底：　－	ほぼ完形 竈前庭部	①細　石英　白色粒 ②普通　③橙色 ④土師器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
39図 2 坏 図版 48	口：14.3 高：3.8 底：11.7	完形 南壁下床直	①粗 石英 ②普通 ③淡黄色 ④須恵器
39図 3 坏 図版 48	口：(16.0) 高：4.4 底：－	約 1/2 覆土	①細 石英 白色粒 ②普通 ③橙色 ④土師器
39図 4 甕 図版 48	口：15.2 高：16.8 底：－	約 3/4 竈前庭部	①粗 黒色鉱物 白色粒 片岩 ②普通 ③褐色 ④土師器
39図 5 小型甕 図版 48	口：13.1 高：13.8 底：6.6	約 3/4 竈前庭部	①粗 石英 褐色鉱物 片岩 ②普通 ③暗褐色 ④土師器
39図 6 長頸瓶 図版 48	頸：(7.0) 高：－ 底：－	肩部破片 覆土	①粗 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
39図 7 甕 図版 48	口：－ 高：－ 底：13.6	約 2/3 床直上	①粗 石英 白色粒 ②良 ③オリーブ黒 ④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
39図 8 刀子図版48	7.2×0.8；4.42g　小形の刀子。完存。小刀子ながら鋒(はばき)を有し、茎もしっかりとした造りである。
39図 9 火打金図版48	2.6×6.4；16.35g　火打ち金。下端に使用による痕跡はなく、左右先端部・凹部の形状に差が見られる。

17号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
41図 1 坏 図版 48	口：10.3 高：3.2 底：5.4	ほぼ完形 住居跡外	①粗 石英 黒色鉱物 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
41図 2 坏	口：(10.4) 高：3.4 底：(5.4)	約 1/5 覆土	①細 黒色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
41図 3 椀	口：(13.6) 高：4.2 底：(7.0)	約 1/6 覆土	①細 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
41図 4 椀	口：(15.4) 高：5.5 底：(7.8)	約 1/5 覆土	①細 黒色鉱物 褐色鉱物 白色粒 ②良 ③灰黄色 ④須恵器
41図 5 椀 図版 48	口：－ 高：－ 底：5.2	約 1/3 覆土上層	①粗 石英 片岩 ②普通 ③鈍黄色 ④須恵器
41図 6 椀 図版 48	口：(14.2) 高：4.8 底：6.2	約 1/3 床下埋土	①粗 白色粒 片岩 ②普通 ③黄灰色 ④須恵器
41図 7 鉢 図版 48	口：(20.0) 高：－ 底：－	約 1/5 竈内	①細 白色粒 片岩 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
41図 8 台付甕	口：－ 高：－ 底：(13.6)	底部破片 覆土	①粗 石英 白色粒 ②良 ③鈍褐色 ④須恵器
41図 9 甕 図版 48	口：－ 高：－ 底：(10.0)	底部破片 住居跡外	①粗 石英 黒色粒 ②普通 ③橙色 ④須恵器
41図 10 羽釜 図版 48	口：(20.4) 高：－ 底：－	口縁部約1/2 竈外	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③橙色 ④須恵器
41図 11 羽釜	口：(26.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 竈内	①粗 石英 白色粒 ②良 ③明褐色 ④須恵器

18号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
42図 1 坏 図版 49	口：12.8 高：4.7 底：5.8	約 2/3 覆土	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③鈍黄褐色 ④須恵器
42図 2 坏 図版 49	口：(12.4) 高：3.9 底：(5.5)	約 1/3 覆土上層	①粗 石英 片岩 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
42図 3 坏 図版 49	口：(12.6) 高：4.3 底：5.8	約 1/2 竈内	①粗 石英 褐色鉱物 片岩 ②やや不良 ③黒褐色 ④須恵器
42図 4 坏	口：(12.2) 高：(4.3) 底：6.0	約 1/4 覆土上層	①粗 白色粒 ②普通 ③灰黄褐色 ④須恵器
42図 5 坏 図版 49	口：(11.7) 高：4.3 底：(6.0)	約 1/4 覆土上層	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③黒褐色 ④須恵器
42図 6 坏 図版 49	口：14.2 高：5.9 底：6.0	約 4/5 覆土	①粗 石英 ②不良 ③灰黄色 ④須恵器
43図 7 坏 図版 49	口：(12.5) 高：5.1 底：(6.5)	約 1/4 覆土	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
43図　8 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.6	約 1/5 覆土上層	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
43図　9 椀 図版　49	口：13.2 高：　4.7 底：　6.6	約 3/5 覆土	①粗　石英　白色粒 ②やや不良　③灰黄色 ④須恵器
43図　10 椀 図版　49	口：(12.7) 高：　4.8 底：　6.5	約 2/3 覆土下位	①粗　黒色鉱物　褐色鉱物　白色粒　②不良 ③黒褐色　④須恵器
43図　11 椀 図版　49	口：(13.0) 高：　4.7 底：　6.6	約 1/2 覆土上層	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
43図　12 椀 図版　49	口：(13.1) 高：　5.3 底：(5.6)	約 1/4 竈前庭部	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黄褐色 ④須恵器
43図　13 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.5	約 1/3 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
43図　14 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.4	底部のみ 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③黄灰色 ④須恵器
43図　15 椀 図版　49	口：(13.0) 高：　4.5 底：　6.6	約 1/2 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③灰オリーブ ④須恵器
43図　16 椀　灰釉 図版　49	口：(15.4) 高：　5.3 底：(8.0)	約 1/3 覆土下位	①緻密　黄白色粒 ②良　③灰色 ④虎渓山1号
43図　17 椀	口：　－ 高：　－ 底：(6.1)	約 1/4 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③黄灰色 ④須恵器
43図　18 椀 図版　49	口：(12.5) 高：(4.5) 底：　7.0	約 1/2 南壁下床直	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄褐色　④須恵器
43図　19 椀 図版　49	口：12.7 高：　4.6 底：　5.7	約 3/4 竈内	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
43図　20 椀 図版　49	口：(13.6) 高：　5.3 底：　6.0	約 2/3 南西隅上層	①粗　石英 ②普通　③黒色 ④須恵器
43図　21 台付甕	口：　－ 高：　－ 底：(9.0)	底部のみ 覆土	①粗　白色粒　褐色粒 ②普通　③鈍赤褐色 ④土師器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
43図　22 椀	口：　－ 高：　－ 底：　7.6	約 1/3 覆土上層	①粗　石英　片岩 ②普通　③オリーブ黒 ④須恵器
44図　23 甑 図版　49	口：　－ 高：　－ 底：(24.0)	底部破片 覆土	①粗　石英　黒色鉱物　片岩　②普通　③黄橙色　④須恵器
44図　24 小型甕	口：(13.4) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土中位	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③鈍黄橙色 ④土師器
44図　25 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：(5.8)	底部破片 覆土	①粗　石英　白色粒 ②良　③鈍橙色 ④須恵器
44図　26 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：　8.4	底部約 2/3 覆土	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②不良　③鈍橙色　④須恵器
44図　27 小型甕 図版　49	口：(18.2) 高：　－ 底：　－	約 1/3 覆土上層	①細 ②普通　③橙色 ④須恵器
44図　28 鉢 図版　49	口：(32.0) 高：　－ 底：　－	約 1/8 覆土	①細　石英　片岩 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
44図　29 羽釜 図版　49	口：(23.0) 高：　－ 底：　－	口縁～体部破片 竈前庭部	①粗　石英　褐色鉱物　片岩　②普通　③暗褐色　④須恵器
44図　30 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗　石英 ②普通　③灰色 ④須恵器
44図　31 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗　黒色粒 ②普通　③灰白色 ④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
44図　32 砥石図版49	3.2×2.4；57.2g
44図　33 砥石図版49	3.4×2.2；23.0g

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
44図　34 丸瓦 図版　49	1.9	浅黄色 酸化	細　石英	凸；無文叩 凹；布目 側；1回　端；1回

図　番号 種　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
44図　35 丸瓦 図版　49	1.9	オリーブ黄色 還元	細　石英	凸；無文叩撫で 凹；布目 側；1回　端；2回
45図　36 丸瓦	2.0	鈍黄色 還元	粗　石英 白色粒	凸；撫で 凹；布目 側；2回
45図　37 平瓦	1.1	灰黄色 還元	細 白色粒	凸；平行叩 凹；布目 側；1回

19号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) (　)推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
47図　1 坏 図版　49	口：(11.3) 高：　3.5 底：(　4.8)	約　1/4 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③暗 灰黄色　④須恵器
47図　2 椀 図版　49	口：(12.8) 高：　4.7 底：(　6.7)	約　1/3 床直	①粗　石英　褐色鉱物 片岩　②普通　③明黄 褐色　④須恵器
47図　3 椀	口：　－ 高：　－ 底：(　6.5)	底部約　1/2 覆土	①細　石英　白色粒 ②良　やや軟　③浅黄 色　④須恵器
47図　4 椀 図版　49	口：14.6 高：　4.4 底：　7.4	約　2/3 覆土上層	①粗　石英　褐色鉱物 片岩　②普通　③鈍黄 橙色　④須恵器
47図　5 椀 図版　49	口：(13.0) 高：　4.3 底：　5.6	約　1/3 覆土	①細　白色粒 ②普通　③暗灰黄色 ④須恵器
47図　6 椀	口：　－ 高：　－ 底：　4.8	底部約　2/3 覆土	①粗　石英　褐色鉱物 片岩　②普通　③鈍黄 橙色　④須恵器
47図　7 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.2	底部のみ 覆土	①細　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③暗 灰黄色　④須恵器
47図　8 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.0	底部のみ 覆土	①粗　白色粒　砂礫 片岩　②普通　③暗灰 黄色　④須恵器
47図　9 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.0	底部のみ 覆土	①粗　石英　白色粒 ②不良　③暗灰黄色 ④須恵器
47図　10 皿　灰釉 図版　49	口：　－ 高：　－ 底：　5.8	底部約　1/2 覆土	①緻密 ②良　③灰白色 ④須恵器
47図　11 皿 図版　49	口：13.7 高：　3.0 底：　6.1	約　3/4 床直上	①粗　石英　黒色鉱物 褐色鉱物　片岩　②普 通　③鈍黄色　④須恵 器
47図　12 椀	口：　－ 高：　－ 底：　7.6	高台部のみ 覆土	①細　石英　白色粒 ②良　③橙色 ④須恵器
47図　13 台付甕	口：　－ 高：　－ 底：(10.2)	脚部約　1/2 床直	①粗　石英　白色粒 ②普通　③明褐色 ④須恵器
47図　14 鉢	口：(25.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　石英 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
47図　15 片口鉢	口：(23.2) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/8 覆土	①細　石英　黒色鉱物 褐色鉱物　②普通　③ 明褐色　④須恵器
47図　16 羽釜 図版　49	口：(20.5) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/4 覆土	①粗　石英 ②普通　③黄褐色 ④須恵器
47図　17 羽釜 図版　49	口：(18.4) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/5 覆土	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③鈍黄 色　④須恵器

20号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) (　)推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
48図　1 椀 図版　49	口：(12.4) 高：　4.6 底：　5.2	約　3/5 覆土中位	①細　石英 ②不良　③鈍黄橙色 ④須恵器
48図　2 椀 図版　49	口：(13.0) 高：　4.8 底：　6.4	約　1/2 南壁下覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
48図　3 椀	口：　－ 高：　－ 底：　5.4	底部のみ 覆土中位	①粗　褐色鉱物　片岩 白色粒　礫　②普通 ③橙色　④須恵器
48図　4 台付鉢 図版　50	口：21.4 高：　－ 底：　－	約　1/2 覆土中位	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③鈍 黄橙色　④須恵器
48図　5 羽釜 図版　49	口：(17.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土中位	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　②普通　③明黄 褐色　④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
48図　6 平瓦 図版　50	1.8	灰色 還元	粗　石英 白色粒 片岩	凸；平行叩　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；2回

22号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) (　)推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
50図　1 椀 図版　50	口：(14.2) 高：　5.2 底：(　6.0)	約　1/3 覆土	①粗　石英 ②普通　③明橙色 ④墨書土器
50図　2 坏 図版　50	口：　11.3 高：　3.5 底：　4.5	ほぼ完形 覆土	①粗　石英 ②普通　③浅黄橙色 ④須恵器
50図　3 坏 図版　50	口：　11.2 高：　3.2 底：　5.3	ほぼ完形 覆土	①細　石英　片岩 ②普通　③浅黄橙色 ④須恵器
50図　4 坏 図版　50	口：　12.2 高：　4.4 底：　5.2	ほぼ完形 覆土	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄色 ④須恵器
50図　5 坏 図版　50	口：　11.5 高：　3.3 底：　5.0	ほぼ完形 覆土中位	①細　石英　片岩 ②普通　③浅黄橙色 ④須恵器
50図　6 坏 図版　50	口：　11.8 高：　3.5 底：　4.7	ほぼ完形 竈前庭部北	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③淡黄色 ④須恵器
51図　7 坏 図版　50	口：　12.0 高：　3.4 底：　5.0	完形 竈前庭部	①粗　石英 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
51図　8 坏 図版　50	口：　10.4 高：　3.5 底：(　4.4)	ほぼ完形 覆土上層	①細　石英 ②良　③橙色 ④須恵器
51図　9 坏 図版　50	口：(12.2) 高：　3.9 底：(　5.0)	約　1/3 覆土上層	①細　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
51図　10 坏 図版　50	口：(11.4) 高：　3.5 底：　5.6	約　1/3 覆土	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰白色 ④須恵器
51図　11 坏 図版　50	口：(11.4) 高：　3.7 底：　4.7	約　1/2 竈前庭部	①粗　石英　片岩 ②普通　③黒色 ④須恵器
51図　12 椀 図版　50	口：　11.2 高：　6.1 底：　5.0	約　1/2 覆土	①緻密　石英　白色粒　片岩　②良　③黄灰色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) (　)推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
51図　13 坏 図版　50	口：(10.4) 高：　3.6 底：(　4.6)	約　1/3 竈上層	①細　石英　片岩 ②普通　③明黄褐色 ④須恵器
51図　14 坏 図版　50	口：(11.4) 高：　3.0 底：　5.2	約　1/3 竈前庭部	①細　石英　黒色鉱物　片岩　②良　③明黄褐色　④須恵器
51図　15 椀 図版　50	口：　11.2 高：　4.8 底：　6.0	ほぼ完形 覆土	①粗　礫　石英　片岩 ②普通　③橙色 ④須恵器
51図　16 椀 図版　50	口：　11.8 高：　4.6 底：　5.0	約　2/3 覆土	①細　石英　礫 ②普通　③橙色 ④須恵器
51図　17 椀 図版　50	口：　11.5 高：　5.0 底：(　5.5)	ほぼ完形 竈前庭部北	①細　石英　黒色鉱物　片岩　②普通　③淡黄色　④須恵器
51図　18 椀 図版　50	口：　12.0 高：　5.0 底：　5.2	約　2/3 竈前庭部	①細　石英　片岩 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
51図　19 椀 図版　50	口：(11.8) 高：　4.8 底：(　5.0)	約　1/3 覆土	①粗　石英　黒色鉱物　片岩　②普通　③浅黄橙色　④須恵器
51図　20 椀 図版　50	口：(12.0) 高：　5.1 底：(　4.6)	約　1/2 覆土中位	①粗　石英　黒色鉱物　片岩　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
51図　21 椀 図版　50	口：(13.2) 高：　4.8 底：　5.8	約　1/3 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③橙色 ④須恵器
51図　22 椀 図版　50	口：(12.8) 高：　4.7 底：　5.8	約　1/2 覆土	①粗　石英　黒色鉱物　片岩　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
51図　23 椀 図版　50	口：(13.8) 高：　5.1 底：　5.5	約　1/4 覆土	①粗　石英　白色粒　片岩　②普通　③浅黄色　④須恵器
51図　24 椀 図版　50	口：　12.8 高：　4.4 底：　5.6	約　2/3 覆土	①細　石英　片岩　礫 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
51図　25 椀 図版　50	口：　11.7 高：　4.9 底：　5.0	ほぼ完形 竈前庭部	①細　石英　片岩 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
52図　26 椀 図版　50	口：　11.6 高：　4.5 底：　5.6	約　2/3 覆土	①細　石英 ②普通　③橙色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
52図　27 椀 図版　50	口：11.1 高：4.9 底：（5.2）	約 3/4 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　②普通　③浅黄 橙色　④須恵器
52図　28 椀 図版　50	口：12.8 高：5.3 底：（8.6）	約 1/2 覆土下位	①細　白色粒　片岩 ②普通　③灰黄褐色 ④須恵器
52図　29 椀 図版　50	口：(12.8) 高：4.5 底：（5.0）	約 1/4 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通，③浅黄橙色 ④須恵器
52図　30 椀 図版　50	口：(12.9) 高：－ 底：－	約 2/5 覆土	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③橙色 ④須恵器
52図　31 皿 図版　50	口：(12.8) 高：3.3 底：6.2	約 1/3 竈前庭部上層	①細　石英　片岩 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
52図　32 椀　灰釉 図版　50	口：－ 高：－ 底：（7.0）	底部約 1/2 覆土下位	①緻密 ②良　③灰黄色 ④虎渓山１号
52図　33 椀 図版　50	口：－ 高：－ 底：4.6	底部のみ 覆土中位	①細　石英 ②普通　③淡黄色 ④須恵器
52図　34 椀	口：(12.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土	①細　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
52図　35 台付甕 図版　50	口：－ 高：－ 底：9.8	底部のみ 床直	①粗　石英　白色粒 ②良　③黄灰色 ④須恵器
52図　36 小型甕 図版　51	口：15.6 高：－ 底：－	口縁部約1/4 覆土	①粗　石英 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
52図　37 甕 図版　51	口：(19.8) 高：－ 底：－	口縁部のみ 床直上	①細　石英　白色粒 ②良　③橙色 ④須恵器
52図　38 羽釜 図版　51	口：－ 高：－ 底：6.0	底部約 1/2 竈前庭部上層	①細　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
52図　39 羽釜 図版　51	口：－ 高：－ 底：7.0	体部下半 竈前庭部下層	①細　石英　片岩 ②普通　③橙色 ④須恵器
52図　40 瓶 図版　51	口：－ 高：－ 底：7.4	約 1/2 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
52図　41 羽釜 図版　51	口：－ 高：－ 底：6.4	体部下半～ 底部 覆土下位	①緻密　石英　片岩 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
52図　42 羽釜 図版　51	口：－ 高：－ 底：－	体部約 1/2 覆土	①細　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
52図　43 羽釜 図版　51	口：－ 高：－ 底：－	体部約 1/2 竈前庭部下位	①細　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
53図　44 羽釜 図版　51	口：(22.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土	①細　石英　黒色鉱物 ②普通　③浅黄橙色 ④須恵器
53図　45 羽釜 図版　52	口：(24.0) 高：－ 底：－	口縁部約1/4 竈前庭部	①細　石英　黒色鉱物 片岩　②良　③橙色 ④須恵器
53図　46 羽釜 図版　52	口：(21.0) 高：－ 底：－	口縁部約1/2 覆土	①細　石英 ②良　③明黄褐色 ④須恵器
53図　47 羽釜 図版　51	口：(22.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土	①粗　石英 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
53図　48 羽釜 図版　52	口：(20.4) 高：－ 底：－	口縁部約1/6 覆土	①細　白色粒　片岩 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
53図　49 羽釜 図版　52	口：(18.4) 高：－ 底：－	口縁部約1/4 覆土	①細　白色粒　片岩 ②良　③浅黄色 ④須恵器
53図　50 羽釜	口：(19.2) 高：－ 底：－	口縁部約1/4 覆土	①細　石英 ②普通　③黄褐色 ④須恵器
53図　51 羽釜 図版　52	口：(20.0) 高：－ 底：－	口縁部約1/3 北東隅上層	①細　石英 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
53図　52 羽釜 図版　51	口：(17.5) 高：－ 底：－	口縁～体部 約 1/2 覆土	①細　石英 ②普通　③暗灰黄色 ④須恵器
53図　53 羽釜 図版　52	口：(19.8) 高：－ 底：－	約 1/2 竈前庭部	①細　石英　片岩 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
53図　54 羽釜 図版　52	口：(18.3) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
53図　55 羽釜 図版　52	口：22.6 高：　－ 底：　－	約　2/3 竈前庭部	①細　石英　白色粒 片岩　②普通　③鈍黄 橙色　④須恵器
53図　56 羽釜 図版　52	口：19.8 高：　－ 底：　－	約　1/4 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
54図　57 羽釜 図版　52	口：(21.2) 高：22.5 底：(8.4)	約　1/6 覆土下位	①細　石英 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
54図　58 羽釜 図版　52	口：(24.6) 高：24.3 底：(7.6)	約　1/4 竈前庭部	①細　白色粒 ②普通　③鈍黄褐色 ④須恵器
54図　59 羽釜 図版　52	口：19.4 高：24.6 底：(6.0)	ほぼ完形 竈前庭部	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
54図　60 羽釜 図版　52	口：20.0 高：26.3 底：7.0	約　1/2 覆土中位	①粗　石英　片岩 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
54図　61 羽釜 図版　52	口：20.6 高：24.2 底：7.4	約　3/5 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
54図　62 瓶 図版　51	口：　－ 高：11.2 底：　－	約　1/3 竈前庭部	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③橙色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
55図　63 平瓦 図版　53	2.0	灰黄色 還元	粗　礫 白色粒	凸；無文叩 凹；布目 側；2回
55図　64 平瓦 図版　53	1.7	灰色 還元	細　白色 粒　石英	凸；撫で 凹；布目 側；1回　端；2回
55図　65 平瓦 図版　51	1.3	鈍黄橙 酸化	細　石英	凸；無文叩 凹；布目 側；1回　端；2回
56図　66 軒平瓦	3.6	灰色 還元	細　石英	凸；撫で 凹；布目　撫で 側；3回
57図　67 平瓦 図版　53	1.4	灰色 還元	粗　石英 白色粒	凸；平行叩 凹；布目 端；1回
57図　68 平瓦 図版　53	2.1	灰色 還元	細　石英	凸；無文叩 凹；布目　右側；2回　左側；1回　端；2回

23号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
58図　1 杯	口：(11.6) 高：3.4 底：(5.8)	約　1/4 覆土	①細　石英　黒色鉱物 ②普通　③明黄褐色 ④須恵器
58図　2 坏 図版　53	口：(11.4) 高：(4.1) 底：(5.8)	約　1/2 覆土	①細　石英　片岩 ②良　③暗灰黄色 ④須恵器
58図　3 坏 図版　53	口：(13.0) 高：5.4 底：(6.0)	約　1/3 覆土	①粗　石英 ②不良　③橙色 ④須恵器
58図　4 坏 図版　53	口：(13.0) 高：4.9 底：5.7	約　1/2 覆土中位	①粗　石英　褐色鉱物 白色粒　②不良　③暗 黄灰色　④須恵器
58図　5 椀	口：　－ 高：　－ 底：(6.5)	底部約　3/4 覆土中位	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③橙色 ④須恵器
59図　6 椀	口：　－ 高：　－ 底：6.5	底部のみ 西壁外	①細　黒色鉱物　褐色 鉱物　②普通　③灰黄 色　④須恵器
59図　7 椀 図版　53	口：14.4 高：6.1 底：6.4	完形 南壁際床直	①粗　石英　片岩 ②普通　③灰黄褐色 ④須恵器
59図　8 椀 図版　53	口：12.8 高：4.6 底：6.2	ほぼ完形 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 褐色鉱物　②普通　③ 明黄褐色　④須恵器
59図　9 皿　灰釉	口：(12.9) 高：　－ 底：　－	約　1/3 覆土	①緻密 ②良　③灰白色 ④
59図　10 甕	口：　－ 高：　－ 底：(5.5)	底部約　1/2 覆土	①粗　石英 ②普通　③鈍黄橙色 ④土師器
59図　11 甕	口：(13.2) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/5 覆土	①細　石英　片岩 ②普通　③灰褐色 ④須恵器
59図　12 羽釜 図版　53	口：(22.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　石英　片岩 ②良　③オリーブ黒 ④須恵器
59図　13 羽釜 図版　53	口：(21.0) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片 覆土	①細　褐色鉱物　片岩 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
59図　14 羽釜 図版　53	口：(32.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土上位	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③黄 灰色　④須恵器

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
59図　15 平瓦	1.4	鈍褐色 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目 側；1回　端；2回
59図　16 平瓦 図版　53	1.9	鈍黄橙 酸化	粗　石英 片岩	凸；無文叩 凹；布目 側；1回　端；1回

25号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
60図　1 坏 図版　54	口：(12.4) 高：　4.1 底：(5.0)	約　1/4 床直上	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
60図　2 椀	口：　－ 高：　－ 底：(6.9)	底部約　1/2 覆土上層	①粗　石英　片岩 ②普通　③灰白色 ④須恵器
60図　3 椀	口：　－ 高：　－ 底：　5.5	底部約　1/2 覆土	①細　石英　黒色鉱物 ②良　③明黄褐色 ④須恵器

26号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
62図　1 椀	口：　－ 高：　－ 底：(5.8)	約　1/3 覆土	①緻密 ②良　③灰色 ④須恵器
62図　2 椀	口：　－ 高：　－ 底：　5.7	底部約　1/2 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
62図　3 椀 図版　54	口：(15.1) 高：　4.5 底：(6.6)	約　1/4 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
62図　4 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	肩部破片 覆土	①粗　石英　褐色粒 ②良　③黄灰色 ④須恵器
62図　5 羽釜 図版　54	口：　－ 高：　－ 底：(8.1)	体部～底部 約　1/3 竈内	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③灰黄色 ④須恵器
62図　6 羽釜 図版　54	口：(23.2) 高：　－ 底：　－	約　1/2 竈	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
62図　7 平瓦 図版　54	2.0	橙色 酸化	粗　石英 片岩 端；1回	凸；平行叩　横撫で 凹；布目　篦撫で

27号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
64図　1 坏 図版　54	口：11.8 高：　3.1 底：(6.3)	約　2/3 覆土	①細　石英　白色粒 片岩　②普通　③鈍黄 橙色　④須恵器
64図　2 椀	口：　－ 高：　－ 底：(6.4)	約　1/3 覆土	①細　石英　褐色鉱物 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
64図　3 椀 図版　54	口：(13.8) 高：　－ 底：　－	約　1/2 覆土上層	①粗　石英　黒色粒 礫　②不良　③黄褐色 ④須恵器
64図　4 椀 図版　54	口：14.8 高：　7.4 底：　7.0	ほぼ完形 覆土	①細　褐色鉱物　片岩 白色粒　②普通　③鈍 褐色　④須恵器
64図　5 羽釜	口：(36.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③橙色 ④須恵器

図番号 種類	大きさ (長さ×幅cm；重量)
64図　6 砥石図版54	4.5×2.7；43.4 g

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
64図　7 平瓦	1.0	灰黄色 酸化	粗　白色	凸；縦撫で 凹；布目

28号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
67図　1 坏 図版　54	口：(11.7) 高：　3.5 底：(5.2)	約　1/8 覆土	①粗　白色粒 ②良　③褐灰色 ④須恵器
67図　2 坏	口：11.7 高：　4.1 底：　5.1	約　2/3 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 黒色粒　②不良　③灰 白色　④須恵器
67図　3 椀	口：　－ 高：　－ 底：　5.8	底部のみ 覆土下位	①細　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③灰 色　④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
67図　4 椀	口：　－ 高：　－ 底：（6.6）	底部破片 覆土下位	①細　石英　片岩 ②普通　③灰白色 ④須恵器
67図　5 甕	口：(18.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土下位	①細　石英　白色粒 ②良　③褐灰色 ④須恵器
67図　6 甕 図版　54	口：(17.6) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片 覆土上層	①粗　黒色鉱物　片岩 白色粒　②普通　③橙 色　④土師器
67図　7 羽釜 図版　54	口：(26.5) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片 竈前庭部	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②良　③灰白色 ④須恵器
67図　8 羽釜	口：(19.8) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈前庭部	①粗　石英　褐色鉱物 白色粒　②良　③鈍橙 色　④須恵器
67図　9 羽釜 図版　54	口：　－ 高：　－ 底：(11.6)	約　1/2 南壁際床直	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　片岩　②普通 ③褐色　④須恵器
67図　10 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 床直上	①細　白色粒 ②良　③褐灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
67図　11 平瓦	1.3	明黄褐 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目 端；1回
67図　12 平瓦	1.7	灰白色 還元	粗　石英	凸；縦撫で 凹；布目　縦指撫で 端；1回
67図　13 平瓦	1.9	黄灰色 還元	粗　石英	凸；平行叩　撫で 凹；布目　縦指撫で 側；2回
67図　14 平瓦 図版　54	1.3	鈍黄橙 酸化	粗　石英 片岩	凸；無文叩　縦撫で 凹；布目 側；1回
68図　15 平瓦 図版　55	1.3	黄褐色 酸化	粗　石英 片岩	凸；無文叩　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
68図　16 平瓦	1.7	灰白色 還元	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目　縦指撫で
68図　17 平瓦 図版　55	1.8	橙色 酸化	粗　石英 片岩	凸；撫で 凹；布目　横撫で 側；2回　端；1回

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
68図　18 丸瓦 図版　54	1.2	褐色 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目 側；2回　端；1回
69図　19 平瓦 図版　54	1.3	明黄褐 酸化	粗　石英 片岩	凸；無文叩 凹；布目 側；1回　端；2回

図　番号 種　類	大　き　さ （長さ×幅cm；重量）
69図　20 経軸端	2.7×1.2；9.71 g　2.9×1.3；8.26 g ？

66号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
70図　1 坏 図版　67	口：10.4 高：3.0 底：5.2	ほぼ完形 覆土	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黄褐色 ④須恵器
70図　2 坏 図版　67	口：(10.0) 高：3.2 底：（6.0）	約　1/4 覆土	①粗　石英　白色粒 ②良　③橙色 ④須恵器
70図　3 坏	口：(12.6) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片 覆土	①細　白色粒 ②良　③鈍橙色 ④土師器
70図　4 坏	口：(11.7) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片 覆土	①細　白色粒 ②良　③鈍褐色 ④土師器
70図　5 椀 図版　67	口：11.3 高：3.6 底：6.1	完形 覆土	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③橙色 ④須恵器
70図　6 椀 図版　67	口：　－ 高：　－ 底：6.0	約　1/3 覆土	①粗　石英 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
70図　7 椀 図版　67	口：(14.2) 高：7.0 底：8.0	約　1/2 覆土	①粗　黒色鉱物　褐色 鉱物　②良　③鈍橙色 ④須恵器
70図　8 椀　灰釉	口：　－ 高：　－ 底：（8.8）	底部破片 覆土	①緻密 ②良　③灰色 ④虎渓山1号
70図　9 長頸瓶 図版　67	口：8.6 高：　－ 底：　－	口縁部のみ 覆土	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
70図　10 羽釜	口：19.2 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　石英 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
70図　11 平瓦	1.5	鈍黄橙 酸化	細 白色粒	凸；無文　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
70図　12 平瓦	1.2	灰黄褐 酸化	細 白色粒	凸；縦撫で 凹；布目 側；1回

29号住居跡

図　番号 器　種	法 量 (cm) (　)推定値	残　存　率 出 土 状 態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
72図　1 坏 図版　55	口：(12.2) 高：　3.3 底：(　5.8)	約　1/4 竈内	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③浅黄橙色　④須恵器
72図　2 椀 図版　55	口：(12.2) 高：　4.8 底：(　4.7)	約　1/4 竈前庭部床直	①粗　石英　片岩　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
72図　3 皿 図版　55	口：(12.2) 高：　3.1 底：(　5.4)	約　1/2 竈内	①細　白色粒　片岩　②不良　③明褐色　④須恵器
72図　4 羽釜 図版　55	口：(20.3) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土上層	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　片岩　②普通　③黒褐色　④須恵器
72図　5 羽釜 図版　55	口：(20.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈内	①粗　石英　黒色鉱物　②普通　③鈍橙色　④須恵器
72図　6 羽釜 図版　55	口：(20.0) 高：　－ 底：　－	約　1/8 竈内	①粗　石英　白色粒　片岩　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
72図　7 羽釜 図版　55	口：　－ 高：　－ 底：　7.0	底部破片 竈前庭部	①粗　石英　白色粒　片岩　②普通　③鈍黄褐色　④須恵器

図　番号 種　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
72図　8 丸瓦	1.5	鈍橙色 酸化	粗　石英 片岩	凸；無文叩 凹；布目 側；1回
72図　9 平瓦 図版　55	1.4	鈍黄色 酸化	粗　石英 片岩	凸；無文叩　撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
73図　10 平瓦 図版　55	2.0	明黄褐 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩　縦撫で 凹；布目 側；2回　端；1回

30号住居跡

図　番号 器　種	法 量 (cm) (　)推定値	残　存　率 出 土 状 態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
74図　1 椀 図版　55	口：11.7 高：　4.6 底：　5.8	完形 床直	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③黄灰色　④須恵器
74図　2 椀 図版　55	口：(12.2) 高：　5.6 底：　6.6	約　1/3 南壁際覆土	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②不良　③灰黄色　④須恵器

31号住居跡

図　番号 器　種	法 量 (cm) (　)推定値	残　存　率 出 土 状 態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
76図　1 坏 図版　55	口：(13.0) 高：　4.2 底：(　5.2)	約　1/3 覆土上層	①粗　石英　礫　白色粒　②普通　③明黄褐色　④須恵器
76図　2 坏 図版　55	口：12.9 高：　3.7 底：　5.5	約　4/5 覆土下位	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
76図　3 坏 図版　55	口：13.3 高：　3.7 底：　6.6	ほぼ完形 覆土下位	①粗　石英　褐色鉱物　白色粒　②不良　③灰白色　④須恵器
76図　4 椀 図版　55	口：15.0 高：　5.3 底：　6.3	約　1/2 竈南中層	①粗　石英　褐色鉱物　白色粒　②やや軟　③鈍黄橙色　④須恵器
76図　5 椀 図版　55	口：(14.2) 高：　5.0 底：　6.6	約　2/3 覆土上層	①粗　石英　褐色鉱物　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
76図　6 皿 図版　55	口：13.0 高：　3.0 底：　6.5	約　3/4 覆土下位	①粗　石英　褐色鉱物　白色粒　片岩　②普通　③鈍橙色　④須恵器
76図　7 甕	口：(21.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土上層	①細　黒色鉱物　白色粒　片岩　②普通　③鈍橙色　④土師器
76図　8 甕 図版　55	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 貯蔵穴上層	①粗　白色粒　黒色粒　②良　③灰色　④須恵器

図　番号 種　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
76図　9 平瓦 図版　56	1.2	黄灰色 還元	粗　石英	凸；撫で 凹；布目 側；2回　端；2回
76図　10 平瓦 図版　56	1.9	明灰黄 還元	粗　石英	凸；撫で 凹；布目 側；2回　端；2回

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
76図　11 平瓦 図版　56	2.1	明黄褐 酸化	粗　石英 片岩	凸；撫で 凹；布目 側；1回

32号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
78図　1 坏 図版　56	口：14.3 高：4.3 底：5.6	完形 竈前庭部	①細　石英　片岩 ②良　③橙色 ④須恵器
78図　2 坏 図版　56	口：13.6 高：3.7 底：6.8	約 2/3 南壁際覆土	①細　石英　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
78図　3 坏 図版　56	口：(13.0) 高：3.8 底：5.6	約 1/2 竈北側袖前	①粗　石英　褐色鉱物 白色粒　②不良　③灰 黄色　④須恵器
78図　4 坏 図版　56	口：13.7 高：3.9 底：6.5	約 2/5 覆土中位	①粗　石英　砂礫　片 岩　②普通　③鈍橙色 ④須恵器
78図　5 坏 図版　56	口：(12.6) 高：(5.3) 底：(6.0)	約 1/5 覆土上層	①細　石英　片岩　白 色粒　②普通　③淡黄 色　④須恵器
78図　6 椀 図版　56	口：14.8 高：5.6 底：6.2	約 3/5 南壁際床直上	①粗　石英　褐色鉱物 片岩　②良　③鈍黄橙 色　④須恵器
78図　7 椀 図版　56	口：(17.4) 高：－ 底：－	約 1/3 竈北側袖前	①細　石英　白色粒 ②不良　③鈍黄褐色 ④須恵器
78図　8 椀 図版　56	口：(15.6) 高：7.4 底：(8.0)	約 1/4 竈前庭部	①粗　石英　黒色粒 白色粒　②良　③灰白 色　④須恵器
78図　9 皿 図版　56	口：13.5 高：3.0 底：6.2	完形 南壁際	①粗　石英　白色粒 ②良　③灰白色 ④須恵器
78図　10 台付甕 図版　56	口：－ 高：－ 底：(9.6)	底部のみ 竈内	①細　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③鈍褐色 ④土師器
79図　11 甕 図版　56	口：－ 高：－ 底：3.6	底部のみ 覆土上層	①細　白色粒　片岩 ②普通　③鈍赤褐色 ④土師器
79図　12 甕 図版　56	口：－ 高：－ 底：3.6	底部のみ 覆土上層	①細　白色粒　片岩 ②普通　③鈍褐色 ④土師器
79図　13 甕	口：(20.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土	①細　白色粒 ②普通　③暗褐色 ④土師器
79図　14 小型甕 図版　56	口：(12.0) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 覆土上層	①細　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③鈍橙色 ④土師器
79図　15 大甕	口：－ 高：－ 底：－	口縁部破片 竈北側覆土	①細　石英　黒色粒 ②普通　③灰白色 ④須恵器
79図　16 甕	口：－ 高：－ 底：－	体部破片 覆土	①細　石英　褐色鉱物 白色粒　②良　③灰色 ④須恵器

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
79図　17 平瓦 図版　56	1.7	鈍赤褐 酸化	粗　石英	凸；縦撫で 凹；布目 側；2回
79図　18 平瓦 図版　56	1.4	暗灰黄 還元	細　石英	凸；平行叩　縦撫で 凹；布目 側；2回

図番号 種類	大きさ (長さ×幅cm；重量)
79図　19 石　図版56	有孔円盤　径3.8×厚0.4　12.1g

33号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
81図　1 坏 図版　56	口：13.3 高：3.6 底：5.3	完形 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 褐色鉱物　②普通　③ 灰オリーブ　④須恵器
81図　2 坏	口：(14.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍褐色 ④須恵器
81図　3 椀	口：－ 高：－ 底：(7.0)	約 1/4 覆土	①粗　黒色粒　白色粒 片岩　②普通　③浅黄 色　④須恵器
81図　4 椀	口：－ 高：－ 底：(7.6)	底部のみ 貯蔵穴上	①粗　石英 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
81図　5 羽釜 図版　56	口：(24.0) 高：30.9 底：(9.0)	約 1/4 床直上	①細　石英　礫　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
81図　6 甕 図版　56	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 覆土	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰オリーブ ④転用硯

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
81図　7 平瓦	1.6	鈍黄橙 酸化	細　片岩 白色粒	凸；平行叩 凹；布目 側；1回
81図　8 平瓦	1.3	黄灰色 還元	粗　石英 白色粒	凸；平行叩 凹；布目 側；1回
81図　9 平瓦 図版　57	2.0	鈍黄橙 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目 端；1回

34号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
82図　1 坏	口：　－ 高：　－ 底：（6.0）	約　1/5 覆土	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器

35号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
85図　1 坏 図版　57	口：(14.3) 高：　3.9 底：　－	約　1/3 覆土上層	①細　黒色鉱物 ②良　③褐色 ④土師器
85図　2 埦	口：　－ 高：　－ 底：　6.8	約　1/2 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
85図　3 埦 図版　57	口：　－ 高：　－ 底：　7.5	約　1/2 覆土	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰オリーブ ④須恵器
85図　4 埦 図版　57	口：(16.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
85図　5 小型甕 図版　57	口：(14.6) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　白色粒 ②普通　③褐色 ④土師器
85図　6 甕	口：(24.2) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①細　黒色鉱物　白色粒　②良　③橙色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
85図　7 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土上層	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　②普通　③暗オリーブ褐色　④須恵器
85図　8 羽釜 図版　57	口：(20.2) 高：　－ 底：　－	約　1/5 竈内	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
85図　9 羽釜 図版　57	口：(22.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈覆土	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③明赤褐色　④須恵器
85図　10 羽釜	口：(22.1) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 南東隅上層	①粗　黒色鉱物　褐色鉱物　白色粒　②普通 ③鈍黄褐色　④須恵器
85図　11 甕 図版　57	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 竈覆土	①粗　白色粒 ②良　③灰黄色 ④須恵器
85図　12 甕 図版　57	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
85図　13 土錘 図版　57	長：　4.0	完形 竈前庭部	①細　黒色鉱物　白色粒　②普通　③橙色 ④

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
86図　14 平瓦	1.4	鈍黄橙 酸化	細　石英 黒色鉱物	凸；無文叩　縦撫で 凹；布目 側；1回
86図　15 平瓦	1.2	オリーブ黒 還元	粗　石英 黒色鉱物	凸；縦撫で 凹；布目 側；1回
86図　16 平瓦 図版　57	1.3	灰色 還元	粗　石英 白色粒	凸；平行叩　縦撫で 凹；布目 側；1回
86図　17 平瓦 図版　57	2.6	鈍黄橙 酸化	粗　石英 黒色鉱物 片岩粒	凸；平行叩　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；3回
87図　18 平瓦 図版　57	1.5	鈍黄橙 酸化	細　石英 片岩	凸；無文叩　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
87図　19 平瓦 図版　58	1.4	鈍黄橙 酸化	粗　石英 黒色鉱物 片岩	凸；無文叩　縦撫で 凹；布目 側；1回

36号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
88図　1 椀 図版　58	口：(13.8) 高：　5.6 底：(　6.6)	約　1/4 床下	①粗　片岩 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
88図　2 皿 図版　58	口：(14.0) 高：　4.2 底：(　6.0)	約　1/4 床下	①粗　石英　白色粒 ②良　③灰オリーブ ④須恵器
88図　3 甕 図版　58	口：　－ 高：　－ 底：　－	口縁部破片 床下	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
88図　4 羽釜 図版　58	口：(22.7) 高：25.1 底：　7.0	約　1/3 北西隅床直	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
88図　5 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 南東隅	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黄灰色 ④須恵器

37号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
89図　1 坏	口：　－ 高：　－ 底：(　8.0)	底部破片 覆土	①粗　石英　褐色鉱物 ②良　③灰白色 ④須恵器
89図　2 坏	口：　－ 高：　－ 底：(　6.0)	底部破片 覆土	①粗　白色粒　片岩 ②良　③浅黄色 ④須恵器
89図　3 小型甕	口：(11.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　黒色鉱物　白色粒　褐色鉱物　②良　③鈍橙色　④土師器
89図　4 甕 図版　58	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗　石英　黒色粒　白色粒　②良　③灰色 ④須恵器

38号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
91図　1 坏 図版　58	口：(13.0) 高：　3.8 底：　6.4	約　1/3 東壁外	①粗　石英 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
91図　2 坏 図版　58	口：12.8 高：　3.8 底：　8.4	約　1/3 覆土	①粗　石英 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
91図　3 坏 図版　58	口：13.0 高：　3.1 底：　－	ほぼ完形 東壁	①細　黒色鉱物　白色粒　②普通　③明赤褐色　④土師器
91図　4 坏 図版　58	口：(13.4) 高：　4.1 底：　7.6	約　1/4 覆土	①細　黒色粒　白色粒 ②良　③灰白色 ④須恵器
91図　5 椀 図版　58	口：　－ 高：　－ 底：　6.0	約　1/4 覆土中位	①粗　黒色粒　白色粒　片岩　②良　③灰白色 ④須恵器
91図　6 椀 図版　58	口：　－ 高：　－ 底：(10.5)	約　1/2 竈内	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
91図　7 椀	口：　－ 高：　－ 底：　9.4	約　1/2 覆土下位	①粗　石英　黒色鉱物　褐色鉱物　②普通　③橙色　④須恵器
91図　8 坏 図版　58	口：13.6 高：　3.6 底：　6.7	ほぼ完形 覆土下位	①粗　石英 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
91図　9 蓋 図版　58	口：(14.2) 高：　2.1 鈕：　3.6	約　1/2 竈内	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
91図　10 坏 図版　58	口：(20.6) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈内	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③暗灰色 ④須恵器
91図　11 長頸瓶 図版　58	口：　－ 高：　－ 底：　－	肩部破片 竈内	①粗　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
91図　12 椀	口：　－ 高：　－ 底：(13.0)	底部破片 覆土上層	①粗　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
91図　13 短頸瓶 図版　58	口：　－ 高：　－ 底：　－	口唇部～体部破片 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 ②良　③灰黄色 ④須恵器
92図　14 甕 図版　58	口：(20.0) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/4 覆土上層	①細　黒色鉱物　白色粒　②良　③鈍赤褐色 ④土師器
92図　15 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土上層	①粗　白色粒 ②普通　③黄灰色 ④須恵器
92図　16 大甕 図版　58	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 竈内	①粗　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
92図　17 大甕 図版　58	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土中位	①粗　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
92図 18 大甕 図版 58	口：－ 高：－ 底：－	破片 覆土上層	①粗 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
92図 19 石 図版58	有溝砥石 7.5×5.5；61.1 g

39号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
93図 1 椀 図版 59	口：－ 高：－ 底：6.2	底部のみ 南側壁上層	①粗 黒色鉱物 褐色鉱物 白色粒 ②普通 ③灰オリーブ ④須恵器
93図 2 椀 図版 59	口：－ 高：－ 底：5.4	底部のみ 中央南上層	①粗 石英 白色粒 ②不良 ③黒灰色 ④須恵器
93図 3 椀 図版 59	口：(13.0) 高：(4.2) 底：(6.2)	約 1/3 覆土	①細 石英 黒色鉱物 白色粒 ②良 ③黄褐色 ④須恵器

40号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
94図 1 椀 図版 59	口：(14.0) 高：－ 底：6.0	約 1/3 中央北床直	①細 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③鈍黄色 ④須恵器
94図 2 椀	口：－ 高：－ 底：7.0	底部のみ 北西寄り床直	①粗 白色粒 ②普通 ③鈍黄色 ④須恵器
94図 3 大甕	口：－ 高：－ 底：－	体部破片 覆土	①細 石英 ②良 ③灰色 ④須恵器

41号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
96図 1 坏 図版 59	口：9.4 高：3.5 底：4.7	約 3/4 竈内	①粗 石英 片岩 ②普通 ③鈍褐色 ④須恵器
96図 2 坏 図版 59	口：(15.8) 高：4.2 底：(6.4)	約 1/5 西壁上層	①粗 石英 黒色鉱物 片岩 ②普通 ③鈍橙色 ④須恵器
96図 3 小坏 図版 59	口：(5.6) 高：－ 底：－	口縁部約1/4 覆土	①細 白色粒 ②良 ③暗灰黄色 ④須恵器
96図 4 椀	口：－ 高：－ 底：(6.9)	底部約 1/2 中央北上層	①細 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
96図 5 土釜 図版 59	口：(24.8) 高：－ 底：－	口縁部約1/5 覆土	①粗 石英 片岩 ②普通 ③鈍褐色 ④
96図 6 長頸瓶	口：－ 高：－ 底：－	肩部破片 覆土	①細 白色粒 片岩 ②良 ③灰白色 ④須恵器
96図 7 土釜 図版 59	口：(22.0) 高：－ 底：－	口縁部約1/4 中央南上層	①粗 石英 褐色鉱物 片岩 ②不良 ③橙色 ④
96図 8 甕	口：－ 高：－ 底：－	体部破片 覆土	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍褐色 ④須恵器
96図 9 羽釜 図版 59	口：(26.0) 高：－ 底：－	口縁部約1/2 竈前庭部	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
96図 10 土釜 図版 59	口：21.0 高：－ 底：－	約 1/3 竈内	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍黄褐色 ④

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
96図 11 平瓦 図版 59	2.2	鈍褐色 酸化	細 石英 片岩	凸；無文叩 撫で 凹；布目細い 側；1回
96図 12 平瓦 図版 59	1.4	鈍橙色 酸化	粗 石英 片岩	凸；無文叩 撫で 凹；布目 側；1回
97図 13 平瓦 図版 59	2.0	鈍褐色 酸化	粗 石英 片岩	凸；平行叩 撫で 凹；布目 側；1回 端；1回
97図 14 平瓦 図版 59	2.3	鈍赤褐 酸化	粗 石英	凸；縦篦削り 撫で 凹；布目 端；3回

42号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
99図　1 坏 図版　60	口：13.2 高：3.7 底：－	ほぼ完形 竈南側袖際	①細　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍褐色　④土師器
99図　2 坏 図版　60	口：(14.0) 高：4.0 底：－	約1/3 竈覆土	①細　黒色鉱物　白色粒　②普通　③橙色　④土師器
99図　3 坏 図版　60	口：12.7 高：(3.5) 底：－	口縁部約1/3 床直	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③橙色　④土師器
99図　4 蓋 図版　60	口：(13.3) 高：3.1 鈕：(3.7)	約1/4 覆土	①細　石英　黒色鉱物　②良　③灰色　④須恵器
99図　5 甕	口：－ 高：－ 底：－	体部破片 覆土	①粗　黒色鉱物　褐色鉱物　白色粒　②普通　③橙色　④土師器

43号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
102図　1 坏 図版　60	口：11.1 高：3.6 底：4.5	約3/4 竈内	①粗　石英　白色粒　②不良　③鈍黄橙色　④須恵器
102図　2 坏 図版　60	口：12.1 高：4.3 底：5.7	完形 南東壁際床直	①粗　石英　黒色鉱物　片岩　②不良　③黄灰色　④須恵器
102図　3 椀 図版　60	口：14.0 高：5.3 底：5.4	約1/2 竈内	①粗　石英　礫　②不良　③鈍褐色　④須恵器
102図　4 椀 図版　60	口：11.3 高：5.6 底：7.0	約3/4 竈内	①粗　石英　白色粒　②普通　③浅黄橙色　④須恵器
102図　5 椀 図版　60	口：(12.5) 高：4.8 底：6.0	約1/2 覆土	①粗　石英　褐色鉱物　②不良　③黒褐色　④須恵器
102図　6 椀 図版　60	口：12.0 高：4.2 底：(5.9)	約1/2 覆土	①粗　石英　黒色鉱物　褐色鉱物　②不良　③明黄褐色　④須恵器
102図　7 椀 図版　60	口：12.4 高：4.9 底：5.6	ほぼ完形 床直	①細　石英　白色粒　礫　②普通　③黒褐色　④須恵器
102図　8 椀 図版　60	口：(11.8) 高：4.3 底：5.9	約1/2 竈使用面下	①粗　石英　褐色鉱物　礫　片岩　②普通　③橙色　④須恵器
102図　9 椀 図版　60	口：11.3 高：4.7 底：5.5	完形 床直	①粗　石英　黒色鉱物　片岩　②不良　③灰黄色　④須恵器
102図　10 椀 図版　60	口：(12.2) 高：－ 底：－	約1/2 竈使用面上	①細　石英　黒色鉱物　褐色粒　②普通　③鈍褐色　④須恵器
102図　11 椀	口：－ 高：－ 底：6.4	底部のみ 南壁際床直	①粗　黒色鉱物　白色粒　②不良　③灰白色　④須恵器
102図　12 椀　灰釉 図版　60	口：－ 高：－ 底：7.0	底部のみ 覆土上層	①緻密　②良　③灰色　④須恵器
102図　13 皿　灰釉 図版　60	口：(13.0) 高：－ 底：－	口縁部約1/2 覆土	①緻密　②良　③明オリーブ灰色　④大原2号
102図　14 台付甕	口：－ 高：－ 底：(13.6)	胴部破片 床直上	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　礫　②不良　③橙色　④須恵器
102図　15 台付甕 図版　60	口：－ 高：－ 底：11.6	底部約1/2 竈内	①粗　石英　黒色鉱物　礫　片岩　②不良　③赤褐色　④須恵器
102図　16 小型甕 図版　60	口：(13.0) 高：－ 底：－	口縁部約1/8 北西隅上層	①細　石英　②良　③鈍黄橙色　④須恵器
102図　17 小型甕	口：(14.0) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 覆土	①細　石英　②良　③オリーブ黒　④須恵器
102図　18 鉢 図版　60	口：(30.4) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土	①細　白色粒　片岩　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
102図　19 甕 図版　60	口：(23.8) 高：－ 底：－	口縁部破片 北東隅上層	①粗　石英　片岩　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
102図　20 甕 図版　60	口：－ 高：－ 底：(8.6)	底部約1/4 覆土	①粗　石英　礫　片岩　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
102図　21 甕 図版　60	口：－ 高：－ 底：(8.0)	底部約1/4 竈内	①粗　石英　②普通　③浅黄色　④須恵器
102図　22 甕 図版　60	口：－ 高：－ 底：6.0	底部のみ 覆土	①粗　石英　黒色鉱物　②普通　③灰黄色　④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
102図　23 羽釜 図版　60	口：　－ 高：　－ 底：　5.4	約　1/5 竈内	①粗　石英　片岩 ②普通　③褐色 ④須恵器
103図　24 羽釜	口：(20.8) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/3 竈使用面下	①粗　白色粒 ②良　③浅黄色 ④須恵器
103図　25 羽釜 図版　60	口：(23.4) 高：　－ 底：　－	約　1/4 床直	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③暗褐色 ④須恵器
103図　26 大甕 図版　60	口：　－ 高：　－ 底：　－	頸部破片 覆土	①粗　石英 ②良　③灰褐色 ④須恵器
103図　27 大甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 覆土	①粗　石英 ②良　③灰褐色 ④須恵器
103図　28 大甕 図版　60	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 北寄り上層	①粗　石英 ②良　③灰褐色 ④須恵器
103図　29 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 覆土下位	①細　白色粒 ②良　③暗灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
103図　30 丸瓦 図版　60	0.9	褐灰色 還元	粗	凸；叩　削り 凹；布目 側；1回　端；1回
103図　31 平瓦 図版　60	1.3	暗褐色 酸化	粗	凸；無文叩　撫で 凹；布目 側；1回
104図　32 平瓦 図版　60	2.0	鈍黄橙 酸化	粗　石英	凸；縦篦削り 凹；筵目 側；1回
104図　33 平瓦 図版　61	2.2	明褐色 酸化	細　石英	凸；縦撫で 凹；布目 端；1回
104図　34 丸瓦	1.9	鈍橙色 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩　縦撫で 凹；布目 両側；1回　端；1回
104図　35 平瓦	1.3	灰黄色 酸化	粗　石英	凸；平行叩　撫で 凹；布目 側；1回
105図　36 平瓦 図版　60	1.8	鈍黄橙 酸化	粗　石英 片岩粒 黒色鉱物	凸；無文叩　撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
105図　37 平瓦 図版　61	2.0	橙色 酸化	粗　石英 片岩 黒色鉱物	凸；平行叩　撫で 凹；布目 側；2回　端；1回

44号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
107図　1 坏 図版　61	口：(12.8) 高：　3.7 底：(　6.0)	約　1/3 竈西側床直	①細　石英　白色粒 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
107図　2 坏 図版　61	口：(12.4) 高：　4.1 底：(　5.2)	約　1/5 竈前庭部床直	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
107図　3 椀 図版　61	口：(10.8) 高：　4.7 底：(　6.0)	約　1/4 覆土	①粗　黒色鉱物　白色粒　②不良　③灰オリーブ　④須恵器
107図　4 椀 図版　61	口：12.0 高：　4.7 底：　5.7	約　3/5 覆土中位	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　礫　②普通　③褐灰色　④須恵器
107図　5 椀 図版　61	口：(11.6) 高：　4.3 底：　6.1	約　1/2 竈前庭部床直	①粗　石英　白色粒　片岩　②普通　③鈍黄褐色　④須恵器
107図　6 椀 図版　61	口：13.0 高：　－ 底：　－	約　1/2 竈前庭部床直	①粗　白色粒　褐色粒 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
107図　7 椀　緑釉 図版　61	口：(11.9) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①緻密 ②良　③暗緑色 ④須恵器
107図　8 小型甕	口：(13.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　石英　片岩 ②不良　③鈍黄褐色 ④須恵器
107図　9 鉢	口：(19.6) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①細　石英 ②良　③鈍橙色 ④須恵器
107図　10 長頸瓶	口：　－ 高：　－ 底：　－	頸部破片 覆土	①粗　褐色粒　白色粒　石英　②普通　③灰色 ④須恵器
107図　11 甕 図版　61	口：(15.6) 高：24.0 底：(10.8)	ほぼ完形 床直上	①細　石英　黒色鉱物　白色粒　②良　③浅黄色　④須恵器
107図　12 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部約　1/4 竈西床直	①細　石英　白色粒　片岩　②普通　③鈍橙色　④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
107図　13 甕	口：　－ 高：　－ 底：（6.4）	底部破片 竈内	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
107図　14 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：（10.0）	体部下半破片 覆土	①細　石英　白色粒 ②普通　③明褐色 ④須恵器
107図　15 羽釜	口：（23.6） 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈内	①粗　褐色鉱物　片岩 白色粒　②普通　③浅 黄色　④須恵器
107図　16 羽釜	口：（23.6） 高：　－ 底：　－	口縁部破片 床直上	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③灰白 色　④須恵器
107図　17 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 竈内	①粗　黒色粒　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
107図　18 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 竈北側床直	①粗　黒色粒　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
108図　19 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 覆土	①粗　黒色粒　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
108図　20 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 床直	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
108図　21 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片 覆土中位	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
108図　22 平瓦	1.8	黒褐色 還元	粗　石英 片岩	凸；縦撫で 凹；布目 端；1回
108図　23 平瓦	1.3	浅黄色 酸化	粗　石英 片岩	凸；無文叩　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
108図　24 軒平瓦	3.3	浅黄色 酸化	粗　石英 片岩	段顎 格子目文

46号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
110図　1 坏	口：（12.0） 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①細　黒色鉱物　片岩 白色粒　②普通　③橙 色　④土師器
110図　2 坏 図版　61	口：（10.4） 高：　3.6 底：　5.6	約　2/3 覆土	①粗　黒色鉱物　片岩 白色粒　②普通　③褐 色　④須恵器
110図　3 坏 図版　61	口：（11.9） 高：　4.1 底：（5.5）	約　1/4 覆土	①粗　石英　白色粒 片岩　②良　③灰色 ④須恵器
110図　4 椀 図版　61	口：（12.8） 高：　4.3 底：（6.0）	約　1/4 竈西床直上	①細　白色粒　片岩 ②不良　③黄褐色 ④須恵器
110図　5 椀 図版　61	口：（13.0） 高：　4.6 底：（5.4）	約　1/4 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③褐 灰色　④須恵器
110図　6 椀 図版　61	口：（14.7） 高：　－ 底：　－	約　1/6 覆土	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
110図　7 椀 図版　61	口：（17.0） 高：　－ 底：　－	口縁部約1/2 覆土	①細　石英　褐色鉱物 白色粒　②不良　③灰 色　④須恵器
110図　8 甕	口：（11.8） 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈南壁上位	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③鈍褐色 ④土師器
110図　9 甕 図版　61	口：（16.0） 高：　－ 底：　－	口縁部約1/4 竈南壁中位	①緻密　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
110図　10 甕 図版　61	口：　－ 高：　－ 底：　6.6	底部約　1/4 覆土	①細　石英　白色粒 ②不良　③黄褐色 ④須恵器
110図　11 大甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
110図　12 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①細　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
110図　13 大甕 図版　61	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 床直上	①細　白色粒 ②良　③灰白色 ④転用硯

図　番号 種　　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
110図　14 平瓦	1.2	灰色 還元	粗 白色粒	凸；縦撫で 凹；布目 側；2回　端；1回
111図　15 平瓦 図版　61	1.3	灰オリーブ 還元	粗 白色粒　少	凸；縦撫で 凹；布目 側；1回　端；2回
111図　16 丸瓦	1.5	鈍橙色 酸化	粗　石英 片岩	凸；縦撫で 凹；布目
111図　17 丸瓦 図版　61	1.9	明褐色 酸化	粗　石英	凸；平行叩　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
111図　18 軒平瓦	－	灰オリーブ 還元	粗　石英	格子目文

47号住居跡

図　番号 器　　種	法 量 (cm) (　)推定値	残　存　率 出 土 状 態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
113図　1 坏 図版　62	口：(13.0) 高：　－ 底：　－	約　1/4 覆土	①細　石英 ②普通　③明赤褐色 ④土師器
113図　2 椀 図版　62	口：　－ 高：　－ 底：(8.6)	底部約　1/2 覆土	①細　石英　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
113図　3 小型甕 図版　62	口：16.6 高：13.5 底：　－	約　2/3 覆土	①粗　石英　小礫 ②普通　③鈍赤褐色 ④土師器
113図　4 高坏 図版　62	口：　－ 高：　－ 底：　－	脚部破片 覆土	①細　白色粒 ②良　③灰色 ④転用硯

48号住居跡

図　番号 器　　種	法 量 (cm) (　)推定値	残　存　率 出 土 状 態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
114図　1 椀	口：　－ 高：　－ 底：　－	底部のみ (高台欠損) 覆土	①細　石英　黒色粒 片岩　②普通　③淡黄色　④須恵器
114図　2 椀　灰釉 図版　62	口：(12.2) 高：　3.9 底：(6.3)	約　1/6 覆土	①緻密 ②良　③灰白色 ④
114図　3 瓶	口：　－ 高：　－ 底：　－	肩部破片 覆土上層	①細　石英 ②良　③黒色 ④須恵器

図　番号 種　　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
114図　4 平瓦 図版　62	1.5	灰白色 還元	粗　石英	凸；無文叩後撫で 凹；布目 側；1回　端；1回

49号住居跡

図　番号 器　　種	法 量 (cm) (　)推定値	残　存　率 出 土 状 態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
117図　1 坏 図版　62	口：(14.2) 高：(3.3) 底：　－	約　1/3 覆土	①粗　黒色鉱物　片岩 ②良　③明褐色 ④土師器
117図　2 坏 図版　62	口：(13.6) 高：　－ 底：　－	約　1/4 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②良　③明褐色　④土師器
117図　3 坏 図版　62	口：(12.6) 高：(2.8) 底：　－	約　1/3 覆土	①細　黒色鉱物　白色粒　②良　③明赤褐色 ④土師器
117図　4 坏 図版　62	口：(12.4) 高：　3.3 底：　－	約　1/3 南西隅床直	①細　黒色鉱物　片岩 白色粒　②良　③橙色 ④土師器
117図　5 坏 図版　62	口：14.0 高：　3.5 底：　－	約　1/2 貯蔵穴上	①細　黒色鉱物　片岩 白色粒　②良　③鈍橙色　④土師器
117図　6 坏 図版　62	口：13.0 高：　3.5 底：　－	ほぼ完形 貯蔵穴覆土	①細　黒色鉱物　片岩 白色粒　②良　③鈍赤褐色　④土師器
117図　7 坏	口：(13.2) 高：　3.1 底：　－	約　1/4 床下埋土	①細　黒色鉱物　片岩 白色粒　②普通　③赤褐色　④土師器
117図　8 椀 図版　62	口：(14.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈覆土	①粗　白色粒 ②良　③浅黄色 ④須恵器
117図　9 坏 図版　62	口：(14.0) 高：　－ 底：　－	約　1/6 覆土	①粗　片岩 ②良　③明褐色 ④土師器
117図　10 椀	口：　－ 高：　－ 底：(7.0)	約　1/3 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
117図　11 椀	口：　－ 高：　－ 底：　7.2	高台部のみ 覆土	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③灰黄色 ④須恵器
117図　12 盤 図版　62	口：(24.0) 高：　3.1 底：(21.0)	破片 覆土	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
117図 13 坏 図版 62	口：－ 高：－ 底：－	約 2/3 西壁寄り床直	①粗 石英 ②良 ③灰白色 ④須恵器
117図 14 蓋 図版 62	口：(14.0) 高：－ 鈕：－	約 1/2 覆土	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
117図 15 蓋 図版 62	口：(14.2) 高：－ 鈕：－	約 1/4 覆土上層	①粗 黒色鉱物 ②良 ③灰色 ④須恵器
117図 16 蓋 図版 62	口：(15.4) 高：－ 鈕：－	約 2/3 覆土	①粗 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
117図 17 蓋 図版 62	口：(14.8) 高：2.2 鈕：4.4	約 1/2 床下埋土	①粗 黒色粒 白色粒 ②良 ③灰白色 ④須恵器
117図 18 坏 図版 62	口：－ 高：－ 底：－	約 1/4 東壁際床直	①粗 石英 ②良 ③灰色 ④須恵器
117図 19 長頸瓶 図版 62	口：－ 高：－ 底：－	肩部破片 覆土	①粗 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
117図 20 長頸瓶 図版 62	口：－ 高：－ 底：－	肩部破片 貯蔵穴上	①粗 黒色粒 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
118図 21 小型甕	口：(10.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土	①粗 褐色鉱物 片岩 ②軟質 ③鈍褐色 ④土師器
118図 22 甕 図版 62	口：(14.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 貯蔵穴上	①細 砂質白色粒 片岩 ②良 ③鈍黄褐色 ④土師器
118図 23 甕 図版 62	口：(23.0) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 南西隅床直	①細 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍橙色 ④土師器
118図 24 甕	口：(21.6) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 床直	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③暗褐色 ④土師器
118図 25 甕 図版 62	口：(22.0) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 覆土下位	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③明赤褐色 ④土師器
118図 26 壺	口：－ 高：－ 底：－	体部破片 貯蔵穴上	①粗 石英 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
118図 27 甕 図版 62	口：－ 高：－ 底：(7.4)	底部破片 覆土	①細 石英 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
118図 28 図版 62	5.3×0.9；4.80g 鉄製板状品。ほぼ完存。両端より0.5cm程内側に直径0.25cmの小孔あり。

50号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
120図 1 椀 図版 62	口：(13.8) 高：3.7 底：(6.4)	約 1/2 覆土	①粗 褐色鉱物 白色粒 ②普通 ③灰オリーブ ④須恵器
120図 2 椀	口：－ 高：－ 底：－	底部のみ 覆土下位	①粗 黒色鉱物 片岩 白色粒 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
120図 3 椀	口：－ 高：－ 底：(7.4)	約 1/6 床下埋土	①粗 石英 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
120図 4 甕	口：(22.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②良 ③橙色 ④土師器
120図 5 甕	口：－ 高：－ 底：－	体部破片 覆土	①粗 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器
120図 6 大甕 図版 62	口：(49.0) 高：－ 底：－	口縁部約1/2 竈南床直	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③橙色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
120図 7 平瓦	1.2	浅黄色 酸化	細 白色粒 片岩	凸；無文叩 撫で 凹；布目
120図 8 平瓦	1.4	灰オリーブ 還元	粗 石英	凸；撫で 凹；布目 側；1回

53号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
122図 1 坏	口：－ 高：－ 底：6.3	底部約 3/4 覆土	①細 白色粒 片岩 ②不良 ③灰白色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
122図　2 坏 図版　62	口：13.7 高：5.4 底：6.0	約 3/4 床直	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
122図　3 埦 図版　62	口：(12.8) 高：4.6 底：(6.0)	約 1/2 竈前庭部	①細　石英　白色粒 ②普通　③明黄褐色 ④須恵器
122図　4 埦 図版　62	口：(15.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③鈍赤褐色 ④須恵器
122図　5 埦 図版　62	口：－ 高：－ 底：(6.0)	底部のみ 床下埋土	①細　白色粒　片岩 ②良　③灰黄色 ④須恵器
122図　6 埦 図版　62	口：(13.0) 高：5.6 底：6.4	約 1/8 竈北側床直	①細　白色粒　片岩 ②良　③鈍黄褐色 ④須恵器
122図　7 大甕	口：－ 高：－ 底：24.0	底部破片 覆土	①細　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
122図　8 大甕	口：－ 高：－ 底：－	頸部破片 覆土	①細　白色粒 ②不良　③橙色 ④須恵器
122図　9 羽釜 図版　63	口：(19.4) 高：－ 底：－	約 1/4 竈内	①細　石英　白色粒 片岩　②普通　③暗褐色　④須恵器
122図　10 羽釜 図版　62	口：(21.0) 高：－ 底：－	約 1/3 竈北袖前床直	①細　石英　白色粒 片岩　②普通　③橙色 ④須恵器
122図　11 大甕	口：－ 高：－ 底：－	体部破片 覆土中位	①細　白色粒 ②良　③灰白色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
123図　12 平瓦 図版　63	1.6	鈍黄橙 酸化	粗　石英 片岩	凸；撫で 凹；筵目 側；2回　端；2回
123図　13 平瓦 図版　63	1.8	暗褐色 酸化	粗　石英 片岩 黒色鉱物	凸；無文叩　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
124図　14 丸瓦 図版　63	1.3	黄灰色 還元	粗　石英	凸；平行叩 凹；布目 側；2回　端；2回
124図　15 平瓦 図版　63	1.6	灰白色 還元	粗　石英	凸；無文叩　撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
125図　16 丸瓦 図版　63	1.8	鈍黄橙 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目 側；2回　端；1回

図　番号 種　類	大　き　さ （長さ×幅cm；重量）
124図　17 鉄鏃図版63	5.5×0.7；5.68 g　逆刺は深く、頸部は関部に近づくにつれ厚みを増す。茎は先端部欠失し短めである。

54号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
128図　1 坏 図版　63	口：(12.2) 高：3.8 底：5.0	約 1/3 床直	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③黒 褐色　④須恵器
128図　2 坏 図版　63	口：(10.2) 高：3.7 底：4.7	約 1/2 床直	①粗　石英　白色粒 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
128図　3 坏	口：－ 高：－ 底：(5.8)	底部約 1/2 覆土下位	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
128図　4 埦 図版　63	口：(11.0) 高：4.3 底：6.0	約 1/2 覆土下位	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
128図　5 埦 図版　63	口：12.0 高：4.6 底：(6.0)	約 3/4 覆土	①粗　石英 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
128図　6 埦 図版　63	口：(13.7) 高：6.5 底：8.0	約 2/3 床直	①粗　白色粒　片岩 ②不良　③鈍黄橙色 ④須恵器
128図　7 埦　灰釉 図版　63	口：(13.2) 高：4.2 底：(6.5)	約 1/4 覆土中位	①緻密 ②良　③灰黄色 ④大原2号
128図　8 埦 図版　63	口：12.4 高：5.0 底：6.0	約 1/2 床直	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黄褐色 ④須恵器
128図　9 小型甕	口：(12.7) 高：－ 底：－	口縁部破片 南壁上	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
128図　10 甕	口：－ 高：－ 底：(6.8)	底部約 1/4 床直	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　②普通　③明赤 褐色　④須恵器

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
128図 11 甕	口：　－ 高：　－ 底：(9.0)	底部破片 覆土下位	①粗 石英 白色粒 ②良 ③灰黄色 ④須恵器
128図 12 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土中位	①細 石英 白色粒 ②良 ③灰黄色 ④須恵器
128図 13 片口鉢	口：(24.5) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/6 覆土中位	①粗 石英 白色粒 礫 ②普通 ③鈍赤褐色 ④須恵器
128図 14 羽釜	口：(21.6) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土中位	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
128図 15 羽釜	口：(22.0) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/6 覆土下位	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③明黄褐色 ④須恵器

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
128図 16 丸瓦	1.7	鈍黄橙 酸化	粗 石英 白色粒	凸；撫で 凹；布目 側；1回

55号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
130図 1 坏 図版 64	口：(10.3) 高：　3.1 底：　4.7	約 2/3 東群	①粗 石英 褐色粒 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
130図 2 坏	口：　－ 高：　－ 底：(5.7)	底部約 1/2 東群	①細 白色粒 ②普通 ③淡黄色 ④須恵器
130図 3 坏 図版 64	口：　11.7 高：　4.0 底：　4.9	完形 西群	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
130図 4 坏 図版 64	口：　11.4 高：　4.1 底：　5.0	ほぼ完形 西群	①粗 石英 黒色鉱物 ②普通 ③鈍橙色 ④須恵器
130図 5 坏 図版 64	口：　12.2 高：　4.4 底：　5.4	ほぼ完形 西群	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③鈍黄褐色 ④須恵器
130図 6 坏 図版 64	口：　12.4 高：　4.6 底：　5.8	ほぼ完形 西群	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍褐色 ④須恵器
130図 7 坏	口：　－ 高：　－ 底：　5.8	底部のみ 東群	①細 石英 褐色鉱物 礫 ②普通 ③黒褐色 ④須恵器
130図 8 坏 図版 64	口：　13.7 高：　6.1 底：　5.9	ほぼ完形 西壁上	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器
130図 9 椀 図版 64	口：　12.4 高：　4.3 底：　7.0	ほぼ完形 東群	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③明黄褐色 ④須恵器
130図 10 椀 図版 64	口：　12.4 高：　4.0 底：　6.3	完形 西群	①粗 石英 黒色鉱物 礫 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
130図 11 椀 図版 64	口：　12.0 高：　4.2 底：　5.4	完形 西群	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③黒褐色 ④須恵器
130図 12 椀 図版 64	口：　12.3 高：　4.5 底：　5.3	ほぼ完形 東群	①粗 石英 黒色鉱物 片岩 礫 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
130図 13 椀 灰釉 図版 64	口：(9.3) 高：　3.1 底：(4.6)	約 1/2 覆土	①緻密 ②良 ③灰白色 ④虎渓山1号
130図 14 椀	口：　－ 高：　－ 底：　7.2	底部のみ 東群	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②不良 ③鈍黄褐色 ④須恵器
130図 15 椀 図版 64	口：　12.6 高：　4.8 底：　5.5	完形 西群	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
130図 16 高盤脚部 図版 64	口：　－ 高：　－ 底：　11.5	脚部約 3/4 東群	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③褐色 ④須恵器
130図 17 椀	口：　－ 高：　－ 底：　7.3	脚部のみ 西群	①粗 石英 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
130図 18 高盤	口：　14.6 高：　9.1 底：　12.4	ほぼ完形 西群	①細 石英 白色粒 片岩 ②良 ③灰黄色 ④須恵器
131図 19 小型甕 図版 64	口：(11.8) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/6 覆土	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③橙色 ④須恵器
131図 20 羽釜 図版 64	口：(17.4) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 約 1/4 覆土	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③鈍黄褐色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
131図 21 大甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①細 白色粒 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器

57号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
132図 1 坏 図版 64	口：(13.2) 高：3.9 底：(7.0)	約 1/4	①細 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③黒色 ④須恵器
132図 2 坏 図版 64	口：(12.6) 高：3.8 底：(7.0)	約 1/6	①粗 褐色粒 ②普通 ③暗褐灰色 ④須恵器
132図 3 椀 図版 64	口：　－ 高：　－ 底：(6.0)	破片	①細 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
132図 4 椀 図版 64	口：12.4 高：4.8 底：5.7	完形	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
132図 5 椀 図版 64	口：(14.6) 高：　－ 底：　－	約 1/4	①粗 石英 片岩 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
132図 6 椀 図版 64	口：(12.7) 高：4.4 底：(5.0)	約 1/4	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③灰褐色 ④須恵器
132図 7 椀 図版 64	口：(13.7) 高：6.3 底：(7.7)	約 1/8	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③明褐色 ④須恵器
132図 8 椀 図版 64	口：　－ 高：　－ 底：6.0	約 1/3	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍橙色 ④須恵器
132図 9 大甕 図版 64	口：(23.4) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗 石英 黒色鉱物 片岩 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器

58号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
134図 1 椀 図版 64	口：12.0 高：4.3 底：6.2	約 3/4	①粗 黒色鉱物 ②普通 ③鈍橙色 ④須恵器
134図 2 椀	口：(15.8) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗 石英 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
134図 3 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	肩部破片	①粗 石英 ②良 ③灰色 ④須恵器
134図 4 羽釜	口：(19.5) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
134図 5 羽釜	口：(19.1) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③淡黄色 ④須恵器
134図 6 大甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
134図 7 大甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
134図 8 大甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③灰白色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
134図 9 平瓦	1.1	灰黄色 還元	細 石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目

図　番号 種　類	大きさ (長さ×幅cm；重量)
134図 10 鉸具？図版64	3.8×0.4；4.00g　鉸具の刺金(さすが)の一部と考えられる。輪金(わがね)は完全に欠損か。

59号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
135図 1 羽釜 図版 64	口：21.0 高：　－ 底：　－	約 3/5	①粗 石英 黒色鉱物 片岩 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
135図 2 羽釜 図版 64	口：(21.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①細 石英 白色粒 ②普通 ③橙色 ④須恵器

図　番号 種　類	大きさ (長さ×幅cm；重量)
135図 3 鉄釘図版64	5.3×0.8；9.13g　足端部欠損。木質遺存なし。

60号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
137図 1 小皿 図版 64	口： 9.5 高： 2.0 底： 5.3	完形 南東隅	①粗 石英 片岩 ②良 ③明褐色 ④灯明皿
137図 2 土釜 図版 65	口：(23.0) 高： － 底： －	口縁部約2/3 竈内	①粗 石英 片岩 ②普通 ③黄橙色 ④須恵器
137図 3 甕 図版 64	口： － 高： － 底： 11.6	底部のみ 竈内	①細 石英 片岩 ②普通 ③鈍赤褐色 ④須恵器
137図 4 甕 図版 64	口： － 高： － 底：(10.0)	底部～体部 約 1/2 竈前庭部	①粗 石英 片岩 ②不良 ③明赤褐色 ④須恵器
137図 5 羽釜 図版 65	口：(20.0) 高： － 底： －	口縁部約1/2 床直	①細 白色粒 片岩 ②良 ③灰黄色 ④須恵器
137図 6 羽釜 図版 65	口：(20.0) 高： － 底： －	口縁部約1/4 床面	①細 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③浅黄 色 ④須恵器
137図 7 羽釜 図版 65	口：(24.5) 高：29.0 底： 7.8	約 1/2 竈内	①粗 石英 片岩 ②普通 ③橙色 ④須恵器
137図 8 甕	口： － 高： － 底：(26.0)	底部破片 西辺寄り	①粗 石英 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
137図 9 甕	口： － 高： － 底： －	体部破片 竈前庭部	①粗 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器
138図 10 甕 図版 65	口： － 高： － 底： －	体部破片 北辺寄り	①粗 石英 ②良 ③灰色 ④須恵器
138図 11 甕	口： － 高： － 底： －	体部破片 中央南寄り	①粗 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
138図 12 甕	口： － 高： － 底： －	体部破片 床直	①粗 石英 ②良 ③灰色 ④須恵器

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
138図 13 平瓦	2.0	灰白色 還元	粗 石英 白色粒	凸；縦撫で 凹；布目 側；2回
138図 14 平瓦 図版 65	1.9	橙色 酸化	粗 石英 片岩	凸；縦撫で 凹；布目 端；2回
138図 15 丸瓦 図版 65	1.7	鈍黄橙 酸化	粗 石英 片岩	凸；無文叩 縦撫で 凹；布目 側；1回 端；1回
139図 16 丸瓦	1.8	褐色 酸化	粗 石英 片岩	凸；無文叩 凹；布目 側；1回 端；1回

図番号 種類	大きさ (長さ×幅cm；重量)
139図 17 鉄釘図版65	5.3×0.6；5.20g 頭部欠失。木質遺存なし。

61号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
141図 1 坏 図版 65	口： 10.9 高： 3.9 底： 4.9	完形 貯蔵穴上	①細 石英 片岩 ②普通 ③橙色 ④須恵器
141図 2 坏 図版 65	口： 13.2 高： 4.4 底： 5.0	完形 床直上	①細 石英 白色粒 片岩 ②良 ③鈍黄橙 色 ④須恵器
141図 3 椀 図版 65	口： 11.6 高： 4.4 底： 6.0	ほぼ完形 床直	①細 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③灰 白色 ④須恵器
141図 4 椀 図版 65	口：(15.8) 高： 6.3 底： 8.2	約 1/3 床直上	①粗 黒色鉱物 白色 粒 ②普通 ③淡黄色 ④須恵器
141図 5 蓋	口：(23.8) 高： － 鈕： －	約 1/6 覆土上層	①細 黒色鉱物 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
141図 6 甕	口： － 高： － 底： 6.4	底部のみ 覆土上層	①粗 石英 白色粒 ②不良 ③オリーブ黒 ④須恵器
141図 7 羽釜 図版 65	口：(25.4) 高： － 底： －	口縁部約1/2 竈内	①細 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍 黄色 ④須恵器
141図 8 羽釜 図版 65	口：(19.6) 高： － 底： －	約 1/5 覆土	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③灰黄 褐色 ④須恵器
141図 9 羽釜 図版 65	口：(20.0) 高： － 底： －	口縁部約1/4 竈内	①細 石英 白色粒 ②普通 ③鈍黄褐色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
141図　10 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部約　1/2 貯蔵穴周辺	①細　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③暗 灰黄色　④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ （長さ×幅cm；重量）
141図　11 刀子図版65	20.4×1.6；19.61ｇ　茎の刃部側は刃部より引き続いて刃様に鋭く造り出している。

62号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
143図　1 椀 図版　66	口：(12.4) 高：　4.1 底：　6.0	約　2/3 貯蔵穴	①細　石英　礫 ②不良　③鈍黄橙色 ④須恵器
143図　2 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.3	約　1/5 床直	①粗　石英　片岩 ②普通　③淡黄色 ④須恵器
143図　3 椀	口：　－ 高：　－ 底：(　7.0)	底部破片 覆土	①細　石英　白色粒 ②不良　③灰白色 ④須恵器
143図　4 椀 図版　66	口：17.2 高：　6.4 底：　9.2	ほぼ完形 西壁寄り床直	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄色 ④須恵器
143図　5 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①細　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
143図　6 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗　石英　白色粒 ②不良　③灰白色 ④須恵器
143図　7 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗　石英 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
143図　8 平瓦 図版　66	2.0	オリーブ黄色 還元	粗　石英	凸；縦撫で 凹；布目 側；1回　端；2回

64号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
146図　1 坏 図版　66	口：11.8 高：　3.8 底：(　4.8)	約　1/2 覆土	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③黄灰色 ④須恵器
146図　2 坏 図版　66	口：12.3 高：　2.8 底：　5.7	ほぼ完形 覆土中位	①粗　石英　褐色鉱物 ②普通　③淡黄色 ④須恵器
146図　3 椀 図版　66	口：14.0 高：　5.1 底：　6.4	ほぼ完形 覆土	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
146図　4 椀 図版　66	口：14.0 高：　5.1 底：　6.0	約　3/4 南西隅床直	①粗　白色粒　片岩 ②不良　③黒色 ④須恵器
146図　5 椀 図版　66	口：(12.6) 高：　4.4 底：　5.3	約　2/5 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 褐色鉱物　②良　③灰 白色　④須恵器
146図　6 椀 図版　66	口：(11.2) 高：　3.9 底：(　6.4)	約　1/4 覆土	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
146図　7 皿　灰釉	口：　－ 高：　－ 底：(　7.0)	底部破片 覆土	①緻密 ②良　③灰白色 ④光ケ丘1号
146図　8 皿 図版　66	口：14.0 高：　3.7 底：　6.0	ほぼ完形 竈内	①粗　石英　褐色鉱物 片岩　②普通　③浅黄 色　④須恵器
146図　9 蓋 図版　66	口：　9.1 高：　－ 鈕：　－	約　1/2 覆土	①粗　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
146図　10 甕 図版　66	口：　－ 高：　－ 底：　5.3	底部のみ 東壁際床直上	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
146図　11 甕	口：(18.5) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　石英　褐色鉱物 白色粒　②普通　③橙 色　④土師器
146図　12 甕	口：(18.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　石英　白色粒 ②不良　③暗褐色 ④土師器
146図　13 甕 図版　66	口：(20.8) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①細　白色粒　片岩 ②良　③明赤褐色 ④土師器
146図　14 羽釜 図版　66	口：(19.2) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 約　1/5 覆土	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
146図　15 羽釜	口：(18.5) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　石英　片岩　礫 ②普通　③灰黄色 ④須恵器

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
146図 16 羽釜	口：(19.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗 褐色鉱物 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器
146図 17 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗 石英 ②良 ③灰色 ④須恵器

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
147図 18 平瓦 図版 66	1.3	灰色 還元	細 石英	凸；叩 縦撫で 凹；布目 側；1回 端；1回
147図 19 平瓦 図版 66	1.8	灰色 還元	細	凸；叩 撫で 凹；布目 側；2回 端；1回
147図 20 平瓦 図版 66	1.9	灰色 還元	粗 石英	凸；叩 撫で 凹；布目 側；3回
147図 21 平瓦 図版 66	2.0	暗灰黄 還元	粗 石英 片岩	凸；無文叩 縦撫で 凹；布目 両側；2回

65号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
149図 1 坏 図版 67	口：12.4 高：4.1 底：5.6	完形 覆土中位	①粗 石英 片岩 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
149図 2 坏 図版 67	口：11.5 高：4.8 底：4.3	ほぼ完形 北東隅床直上	①粗 石英 白色粒 ②良 ③明赤褐色 ④土師器
149図 3 椀 図版 67	口：(12.8) 高：　－ 底：　－	約 1/2 竈覆土	①粗 石英 褐色鉱物 片岩 礫 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
149図 4 椀 図版 67	口：13.4 高：5.2 底：6.0	約 4/5 竈西壁際	①粗 石英 褐色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍黄色 ④須恵器
149図 5 椀 図版 67	口：13.1 高：4.0 底：5.7	ほぼ完形 竈前庭部床直	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③オリーブ黒 ④須恵器
149図 6 椀 図版 67	口：(14.6) 高：6.4 底：(6.6)	約 1/2 東壁覆土下位	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
149図 7 椀 図版 67	口：14.3 高：6.8 底：7.3	約 3/4 南西隅床直	①粗 白色粒 礫 ②普通 ③鈍橙色 ④須恵器
149図 8 椀 図版 67	口：　－ 高：　－ 底：(6.4)	底部のみ 竈内	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③黄褐色 ④須恵器
149図 9 鉢	口：　－ 高：　－ 底：(21.2)	破片 覆土上層	①粗 石英 白色粒 片岩 ②良 ③灰白色 ④須恵器
149図 10 小型甕 図版 67	口：(11.6) 高：12.0 底：(6.0)	約 2/3 竈内	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
149図 11 小型甕 図版 67	口：12.8 高：13.4 底：6.0	約 1/2 覆土下位	①粗 石英 ②普通 (やや軟) ③灰黄褐色 ④須恵器
149図 12 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗 黒色粒 褐色粒 片岩 ②普通 ③明黄褐色 ④須恵器
149図 13 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 竈内	①粗 黒色粒 褐色粒 片岩 ②普通 ③明黄褐色 ④須恵器
149図 14 羽釜 図版 67	口：(21.4) 高：　－ 底：　－	口縁部約 1/5 東壁際床直	①粗 石英 褐色粒 片岩 ②普通 ③橙色 ④須恵器
149図 15 羽釜 図版 67	口：　－ 高：　－ 底：(7.4)	約 1/5 覆土	①粗 石英 片岩 ②普通 ③鈍黄褐色 ④須恵器
150図 16 羽釜 図版 67	口：19.3 高：　－ 底：　－	約 1/2 竈煙道端部	①細 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③灰黄褐色 ④須恵器
150図 17 甕把手 図版 67	口：　－ 高：　－ 底：　－	把手のみ 覆土	①細 石英 黒色鉱物 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
150図 18 平瓦	2.0	灰オリーブ 還元	粗 石英	凸；平行叩 撫で 凹；布目 側；3回
150図 19 平瓦 図版 67	1.3	灰色 還元	粗 石英	凸；縦撫で 凹；布目 側；2回 端；2回
151図 20 平瓦 図版 67	0.9	黄褐色 酸化	粗 石英 片岩	凸；撫で 凹；布目 側；1回 端；1回

67号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
153図　1 坏 図版　68	口：11.4 高：3.5 底：4.8	約 3/4 竈内	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄褐色　④須恵器
153図　2 椀 図版　68	口：(15.4) 高：6.6 底：7.0	約 3/5 床直上	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍褐色　④須恵器
153図　3 鉢	口：(27.6) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③灰黄褐色　④須恵器
153図　4 羽釜 図版　68	口：(20.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 竈内	①粗　白色粒 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
153図　5 羽釜 図版　68	口：(21.0) 高：－ 底：－	約 1/5 南壁際床直	①粗　石英　片岩 ②普通　③灰白色 ④須恵器
153図　6 羽釜 図版　68	口：(23.6) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 床直	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
153図　7 羽釜 図版　68	口：(21.4) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 竈内	①粗　石英　片岩 ②普通　③黄褐色 ④須恵器
153図　8 甕. 図版　68	口：(22.0) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 竈内	①粗　石英　白色粒 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
153図　9 羽釜	口：－ 高：－ 底：－	体部のみ 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③浅黄色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
153図　10 丸瓦 図版　68	1.6	暗灰黄 還元	粗　石英 片岩	凸；平行叩　撫で 凹；布目指撫で 側；1回　端；1回

68号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
155図　1 坏 図版　68	口：11.6 高：4.1 底：5.0	約 5/6 竈覆土	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍黄褐色 ④須恵器
155図　2 坏 図版　68	口：11.3 高：3.6 底：5.0	約 3/4 床直	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③黄褐色　④須恵器
155図　3 坏 図版　68	口：11.0 高：3.0 底：4.5	完形 竈内	①粗　褐色粒　白色粒　石英　②普通　③橙色　④須恵器
155図　4 坏 図版　68	口：(11.0) 高：3.4 底：5.0	約 3/4 竈奥壁	①粗　石英　黒色鉱物　褐色鉱物　②普通　③鈍褐色　④須恵器
155図　5 坏 図版　68	口：11.8 高：3.1 底：4.8	約 3/4 竈前庭部床直	①粗　石英　白色粒 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
155図　6 椀 図版　68	口：(13.2) 高：5.8 底：6.8	約 1/2 竈覆土上層	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
155図　7 椀 図版　68	口：(13.6) 高：5.1 底：6.8	約 1/3 覆土	①粗　石英　黒色鉱物　片岩　②普通　③黄褐色　④須恵器
155図　8 椀 図版　68	口：13.5 高：6.0 底：(5.8)	約 5/6 覆土	①粗　石英　褐色鉱物　礫　②良　③橙色 ④須恵器
155図　9 椀 図版　68	口：11.8 高：4.5 底：(6.3)	約 3/4 竈奥壁	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
155図　10 椀 図版　68	口：(15.0) 高：－ 底：－	約 1/4 床直	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③浅黄色　④須恵器
155図　11 羽釜 図版　68	口：20.3 高：25.4 底：6.4	約 2/3 竈内	①細　石英　白色粒 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
155図　12 羽釜 図版　68	口：(22.0) 高：－ 底：－	約 1/2 竈内	①粗　石英　片岩 ②普通　③浅黄色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
155図　13 平瓦	1.5	明黄褐 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目 側；1回
155図　14 平瓦 図版　69	1.2	鈍黄橙 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目

69号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) (　)推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
156図　1 坏 図版　69	口：(15.2) 高：　3.7 底：　－	約　1/3 覆土	①細　黒色鉱物　白色粒　②不良　③明褐色　④土師器
156図　2 椀	口：　－ 高：　－ 底：　7.0	底部のみ 竈前庭部	①粗　石英　褐色粒　片岩　②不良　③明黄褐色　④須恵器
156図　3 坏	口：(12.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①細　石英　白色粒　②普通　③橙色　④須恵器
156図　4 坏	口：　－ 高：　－ 底：(6.8)	底部破片 覆土	①細　白色粒　②良　③灰白色　④須恵器
156図　5 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗　石英　白色粒　②良　③灰白色　④須恵器

70号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) (　)推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
157図　1 羽釜	口：(24.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 体部破片 竈～貯蔵穴	①細　黒色鉱物　片岩　白色粒　②普通　③鈍褐色　④須恵器
157図　2 羽釜	口：(18.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 床面中央	①粗　石英　白色粒　②不良　③黄橙色　④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
157図　3 刀子図版69	5.8×1.2；5.60g　刃部先端・茎端部欠損。刃部は小形で細身。茎は長めで木質が一部遺存する。

71号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) (　)推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
158図　1 椀 図版　69	口：(15.8) 高：　5.7 底：(8.6)	約　1/3 床直上	①細　白色粒　片岩　②普通　③明赤褐色　④須恵器
158図　2 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：(5.7)	底部破片 北東隅床直	①粗　白色粒　片岩　②普通　③鈍褐色　④須恵器
158図　3 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	肩部～体部 破片 覆土	①粗　黒色鉱物　片岩　白色粒　②不良　③鈍橙色　④須恵器
158図　4 甕 図版　69	口：　－ 高：　－ 底：　9.6	約　1/3 覆土	①細　石英　黒色鉱物　白色粒　②良　③黒褐色　④須恵器
158図　5 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 竈覆土上層	①粗　黒色鉱物　片岩　白色粒　②普通　③明褐色　④須恵器

73号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) (　)推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
161図　1 坏 図版　69	口：10.7 高：　2.7 底：　4.4	完形 床直	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③橙色　④須恵器
161図　2 坏 図版　69	口：10.2 高：　3.0 底：　4.4	完形 覆土下位	①粗　白色粒　片岩　②良　③鈍橙色　④須恵器
161図　3 坏 図版　69	口：10.4 高：　2.9 底：　4.2	完形 覆土中位	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③浅黄色　④須恵器
161図　4 杯 図版　69	口：11.2 高：　2.9 底：　5.0	ほぼ完形 竈内	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
161図　5 坏 図版　69	口：12.4 高：　4.4 底：　5.5	ほぼ完形 覆土下位	①粗　石英　白色粒　片岩　礫　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
161図　6 坏 図版　69	口：　9.8 高：　3.0 底：　4.4	約　2/3 床直	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍橙色　④須恵器
161図　7 坏 図版　69	口：10.3 高：　3.0 底：　4.4	約　3/4 床直	①粗　白色粒　片岩　礫　②良　③鈍橙色　④須恵器
161図　8 坏 図版　69	口：(10.8) 高：　2.6 底：(4.6)	約　1/2 南壁寄床直上	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
161図　9 坏 図版　69	口：(12.2) 高：　4.6 底：(5.2)	約　2/5 覆土	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
161図　10 坏 図版　69	口：(10.8) 高：　3.0 底：(4.4)	約　1/4 竈覆土	①粗　白色粒　片岩　②良　③明黄褐色　④須恵器
161図　11 坏 図版　69	口：(12.0) 高：　4.8 底：(5.0)	約　2/3 竈覆土中位	①粗　石英　白色粒　礫　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
161図　12 坏 図版　69	口：12.6 高：4.0 底：5.4	約 1/2 覆土	①粗　白色粒 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
161図　13 坏 図版　69	口：－ 高：－ 底：(5.5)	約 1/5 住居南西隅外	①粗　黒色鉱物　白色粒　②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
161図　14 坏 図版　69	口：11.5 高：3.7 底：4.4	約 3/4 竈内	①細　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③灰黄褐色　④須恵器
161図　15 坏 図版　69	口：(10.2) 高：3.7 底：(5.2)	約 1/4 覆土	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
161図　16 椀 図版　69	口：14.0 高：6.1 底：8.0	完形 床直	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　礫　②普通 ③鈍黄橙色　④須恵器
161図　17 椀 図版　69	口：12.0 高：4.6 底：5.6	完形 南壁上端	①粗　白色粒 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
161図　18 椀 図版　69	口：12.2 高：4.5 底：6.2	完形 覆土	①粗　石英　白色粒　片岩　②普通　③灰色 ④須恵器
162図　19 椀 図版　69	口：12.0 高：4.0 底：5.6	完形 床直	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②良　③褐灰色　④須恵器
162図　20 椀	口：－ 高：－ 底：6.7	底部のみ 南壁上端	①粗　石英 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
162図　21 椀 図版　69	口：(15.6) 高：6.2 底：(7.6)	約 1/4 住居跡外南側	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
162図　22 椀 図版　69	口：(13.7) 高：－ 底：(6.4)	約 1/5 (高台部欠損) 床直上	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰白色 ④須恵器
162図　23 椀	口：－ 高：－ 底：6.2	底部のみ 覆土下位	①細　黒色鉱物　白色粒　②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
162図　24 椀 図版　69	口：17.8 高：－ 底：－	口縁部約1/3 覆土中位	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③浅黄橙色 ④須恵器
162図　25 椀	口：－ 高：－ 底：12.0	台部のみ 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③浅黄橙色 ④墨書土器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
162図　26 台付瓶	口：－ 高：－ 底：12.5	底部破片 竈北袖上	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
162図　27 皿　灰釉 図版　69	口：(13.8) 高：2.5 底：(8.0)	約 1/5 竈内	①緻密 ②良　③灰白色 ④光ケ丘1号
162図　28 高盤脚部 図版　69	口：－ 高：－ 底：(12.2)	脚部約 1/2 住居跡外南側	①粗　黒色鉱物　白色粒　②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
162図　29 鉢 図版　69	口：(28.0) 高：－ 底：－	口縁部約1/3 床直	①細　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③淡黄色　④須恵器
162図　30 小型甕 図版　69	口：(18.8) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 床直	①粗　石英 ②普通　③明赤褐色 ④須恵器
162図　31 小型甕 図版　69	口：(9.8) 高：－ 底：－	約 1/5 床直	①粗　黒色鉱物 ②良　③鈍橙色 ④須恵器
162図　32 小型甕 図版　69	口：(15.0) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 覆土中位	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③灰黄褐色 ④須恵器
162図　33 小型甕 図版　69	口：(15.5) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片 覆土下位	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③橙色 ④須恵器
162図　34 羽釜	口：－ 高：－ 底：(8.4)	底部破片 床直上	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰白色 ④須恵器
162図　35 羽釜	口：－ 高：－ 底：5.6	底部破片 覆土下位	①粗　白色粒 ②普通　③灰白色 ④須恵器
162図　36 羽釜	口：(20.0) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土中位	①粗　石英　片岩 ②普通　③灰色 ④須恵器
162図　37 羽釜 図版　69	口：21.9 高：－ 底：－	口縁～体部 約 1/3 竈北袖下端	①細　石英　白色粒　片岩　②普通　③黄橙色　④須恵器
163図　38 羽釜 図版　69	口：(18.7) 高：－ 底：－	口縁～体部 約 1/4 竈袖上	①細　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③灰黄色　④須恵器
163図　39 羽釜 図版　70	口：19.4 高：－ 底：－	口縁～体部 約 1/3 貯蔵穴	①細　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
163図　40 羽釜 図版　69	口：(22.6) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/4 覆土上層	①細　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③灰 黄褐色　④須恵器
163図　41 羽釜 図版　70	口：18.0 高：　－ 底：　－	体部上半 約　1/2 竈内	①粗　石英　白色粒 ②普通　③橙色 ④須恵器
163図　42 羽釜 図版　70	口：(22.5) 高：　－ 底：　－	体部上半 約　1/5 竈北袖上	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③鈍 黄橙色　④須恵器
163図　43 羽釜 図版　70	口：20.8 高：　－ 底：(5.8)	約　1/3 竈北袖下端	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③灰 白色　④須恵器
163図　44 羽釜 図版　70	口：　－ 高：　－ 底：6.8	体部下半 約　1/2 竈内	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③鈍 黄橙色　④須恵器
163図　45 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 南壁上端	①粗　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
164図　46 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部のみ 住居跡外南側	①粗　白色粒　片岩 礫　②普通　③灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
164図　47 丸瓦 図版　70	1.1	鈍黄色 酸化	粗 白色粒	凸；縦撫で 凹；布目 側；2回
164図　48 丸瓦	1.7	灰色 還元	粗　石英	凸；無文叩　縦撫で 凹；布目 側；2回
164図　49 丸瓦	1.2	灰色 還元	粗　石英	凸；平行叩　縦撫で 凹；布目 側；2回
164図　50 丸瓦 図版　70	1.2	鈍黄橙 酸化	粗　石英	凸；無文叩　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
165図　51 丸瓦	1.6	鈍黄橙 酸化	粗　石英	凸；平行叩　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；2回
165図　52 平瓦	1.5	鈍黄橙 酸化	粗　石英	凸；平行叩　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；3回

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
165図　53 平瓦 図版　70	2.1	鈍黄橙 酸化	粗　石英 片岩	凸；叩　縦撫で 凹；布目剝ぎ取り痕 側；1回　端；1回
166図　54 平瓦 図版　71	1.8	灰色 還元	粗　石英	凸；縦撫で 凹；布目 側；2回　端；2回
166図　55 平瓦 図版　71	1.1	灰色 還元	粗　石英	凸；平行叩 凹；布目 側；1回　端；1回
166図　56 鬼瓦	－	灰色 酸化	細　石英	凸；撫で
166図　57 軒丸瓦 図版　71	1.7	灰白色 還元	細　白色 粒	四弁

74号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
168図　1 坏 図版　71	口：(9.0) 高：　2.9 底：　5.0	約　2/3 覆土	①細　黒色鉱物　片岩 白色粒　②不良　③明 橙色　④土師質
168図　2 皿 図版　71	口：(10.6) 高：　2.0 底：(4.6)	約　1/3 覆土	①粗　石英　白色粒 ②不良　③明赤褐色 ④土師質
168図　3 椀 図版　71	口：(13.6) 高：　5.2 底：(6.2)	約　2/3 竈内	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②不良　③明 橙色　④土師質
168図　4 椀 図版　71	口：(13.4) 高：　4.6 底：(6.4)	約　1/3 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　白色粒　②不良 ③明橙色　④須恵器
168図　5 椀 図版　71	口：(15.8) 高：　6.5 底：　7.8	約　2/3 竈南袖下端	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②不良　③明 橙色　④土師質
168図　6 椀 図版　71	口：(14.0) 高：　7.5 底：　7.5	約　2/3 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②不良　③暗 灰色　④土師質
168図　7 椀 図版　71	口：(18.6) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③鈍黄 褐色　④須恵器
168図　8 椀　灰釉 図版　71	口：　－ 高：　－ 底：(8.2)	約　1/2 覆土下位	①緻密 ②良　③灰黄色 ④丸石2号

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
168図　9 椀　灰釉 図版　71	口：　－ 高：　－ 底：（7.0）	底部破片 覆土	①緻密 ②良　③灰白色 ④虎渓山1号か丸石2号
168図　10 甕 図版　71	口：　－ 高：　－ 底：　－	底部破片 （高台部欠損） 竈南袖上端	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
168図　11 片口鉢 図版　71	口：23.2 高：13.2 底：（11.4）	ほぼ完形 竈南袖上	①細　石英 ②普通　③橙色 ④須恵器
168図　12 甕 図版　71	口：（25.0） 高：　－ 底：　－	約　1/6 竈前庭部	①粗　石英　白色粒 片岩　②やや軟　③鈍 橙色　④須恵器
168図　13 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	肩部約　1/4 竈内	①細　石英　白色粒 ②普通　③橙色 ④須恵器
168図　14 羽釜 図版　71	口：（24.8） 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈内	①粗　石英　黒色鉱物 褐色粒　②普通　③浅 黄色　④須恵器
168図　15 羽釜 図版　71	口：（24.8） 高：　－ 底：　－	口縁部約1/4 竈南袖中位	①粗　白色粒　褐色粒 石英　片岩　②普通 ③鈍黄橙色　④須恵器
169図　16 羽釜 図版　72	口：（23.4） 高：　－ 底：　－	約　1/2 覆土	①細　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③鈍橙色 ④須恵器
169図　17 羽釜 図版　72	口：（22.2） 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片 竈内	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③明 黄褐色　④須恵器
169図　18 羽釜 図版　72	口：（18.6） 高：　－ 底：　－	約　1/5 上～中層	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②良　③明橙色 ④須恵器
169図　19 羽釜 図版　72	口：（23.8） 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片 竈北袖上端	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③鈍橙色 ④須恵器
169図　20 羽釜 図版　71	口：（21.4） 高：　－ 底：　－	約　1/5 竈南袖下端	①粗　石英　白色粒 片岩　②やや軟　③鈍 橙色　④須恵器
169図　21 羽釜	口：（25.8） 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈北袖上	①粗　黒色鉱物　褐色 粒　白色粒　②普通 ③鈍黄橙色　④須恵器
169図　22 羽釜 図版　71	口：（23.6） 高：　－ 底：　－	口縁部破片 竈北袖上	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③鈍黄 橙色　④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
169図　23 羽釜 図版　72	口：（21.6） 高：　－ 底：　－	口縁部約 1/5 貯蔵穴上	①細　石英　白色粒 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
169図　24 羽釜 図版　72	口：　－ 高：　－ 底：10.6	体部～底部 竈覆土中位	①粗　黒色鉱物　片岩 白色粒　②普通　③鈍 褐色　④須恵器
169図　25 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①粗　石英 ②普通　③灰色 ④須恵器
170図　26 甕 図版　72	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土中位	①粗　石英　白色粒 ②良　③褐灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
170図　27 丸瓦	1.1	橙色 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目 側；1回　端；1回
170図　28 平瓦 図版　72	1.4	鈍黄色 酸化	粗　石英 片岩	凸；撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
170図　29 丸瓦	1.9	鈍黄色 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目 側；1回　端；1回
170図　30 丸瓦 図版　72	1.3	橙色 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目 側；1回　端；1回
170図　31 平瓦 図版　72	1.8	灰白色 還元	粗　石英	凸；縦撫で 凹；布目

75号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
172図　1 坏 図版　73	口：（12.7） 高：　3.7 底：（6.0）	約　1/4 覆土	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
172図　2 坏 図版　73	口：14.0 高：　3.9 底：　6.0	ほぼ完形 南壁西寄床直	①細　石英　白色粒 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
172図　3 椀 図版　73	口：（13.2） 高：　4.2 底：　5.8	約　3/5 覆土中位	①細　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
172図　4 椀 図版　73	口：(13.8) 高：　－ 底：　－	約　2/3 (高台欠損) 南壁際覆土	①細　白色粒　褐色粒 片岩　②普通　③灰白 色　④須恵器
172図　5 椀 図版　73	口：(14.6) 高：　4.5 底：　6.2	約　3/5 南西隅床直	①細　石英　褐色粒 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
172図　6 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.6	底部のみ 南壁際覆土	①粗　褐色粒　白色粒 石英　片岩　②不良 ③淡黄色　④須恵器
172図　7 椀	口：　－ 高：　－ 底：　6.2	底部のみ 南壁上端	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　②不良　③明黄 褐色　④須恵器
172図　8 椀	口：　－ 高：　－ 底：　5.6	底部のみ 北壁下端床直	①粗　片岩 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
172図　9 皿 図版　73	口：14.2 高：　2.6 底：　7.2	完形 南壁下端床直	①粗　石英　白色粒 片岩　礫　②普通　③ 鈍橙色　④須恵器
172図　10 皿 図版　73	口：(14.8) 高：　3.9 底：(　7.3)	約　1/3 覆土	①細　白色粒　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
172図　11 皿 図版　73	口：(13.4) 高：　3.2 底：　5.8	約　3/4 覆土	①細　白色粒　片岩 ②普通　③灰色 ④須恵器
172図　12 皿 図版　73	口：13.3 高：　2.6 底：　7.1	約　2/3 南壁際覆土	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③浅黄 色　④須恵器
172図　13 皿 図版　73	口：(19.3) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
172図　14 甕 図版　73	口：(21.2) 高：　－ 底：　－	口縁部約 1/2 床直	①細　石英　片岩 ②良　③暗灰色 ④須恵器
172図　15 壺	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 床直上	①粗　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
172図　16 高台付瓶 図版　73	口：　－ 高：　－ 底：(12.6)	底部破片 覆土	①細　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
172図　17 鉢	口：(21.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①細　石英　白色粒 片岩　②不良　③浅黄 色　④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
172図　18 甕 図版　73	口：　－ 高：　－ 底：14.2	体部約　1/3 竈前庭部	①粗　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
172図　19 甕	口：　－ 高：　－ 底：(15.4)	体部～底部 約　1/2 南壁際	①細　石英　白色粒 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
173図　20 甕	口：　－ 高：　－ 底：(14.3)	体部約　1/6 覆土	①細　石英　白色粒 ②良　③鈍褐色 ④須恵器
173図　21 甕 図版　73	口：　－ 高：　－ 底：　－	頸部～肩部 破片 覆土	①細　石英　片岩 ②良　③灰色 ④須恵器
173図　22 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土	①細　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
173図　23 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 竈内	①粗　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
173図　24 平瓦 図版　73	1.9	鈍黄橙 酸化	細　石英	凸；撫で 凹；布目 側；3回　端；2回
173図　25 平瓦	1.7	灰白色 還元	細　石英 片岩	凸；縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
173図　26 平瓦	1.2	灰オリ ーブ 還元	細　石英	凸；撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
173図　27 丸瓦	1.2	灰白色 還元	粗 白色粒	凸；縦撫で 凹；布目
173図　28 平瓦	1.0	灰オリ ーブ 還元	細　石英	凸；撫で 凹；布目 側；1回

76号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
175図　1 坏 図版　73	口：13.8 高：　3.6 底：　5.6	約　1/5 覆土上層	①粗　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
175図 2 坏 図版 73	口：12.0 高：3.7 底：7.0	約 3/4 南壁際床直上	①細 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③暗褐色 ④土師器
175図 3 椀 図版 73	口：－ 高：－ 底：6.0	底部のみ 床直	①やや軟 石英 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器
175図 4 椀 図版 73	口：－ 高：－ 底：5.6	体部～底部 竈南床直	①粗 石英 片岩 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
175図 5 椀	口：－ 高：－ 底：6.4	約 1/4 覆土上層	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
175図 6 椀	口：(15.6) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土下位	①粗 白色粒 片岩 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
175図 7 椀	口：(17.1) 高：－ 底：－	口縁部破片 覆土	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③暗赤褐色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
175図 8 丸瓦	2.0	灰色 還元	粗 石英 白色粒	凸；縦撫で 凹；布目 側；1回

77号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
176図 1 坏 図版 73	口：13.8 高：3.9 底：6.3	約 3/4 中央南西寄り	①粗 褐色粒 白色粒 片岩 ②普通 ③明橙色 ④須恵器
176図 2 坏	口：－ 高：－ 底：5.3	底部のみ 覆土	①粗 黒色鉱物 片岩 白色粒 ②良 ③灰黄色 ④須恵器
176図 3 椀	口：(16.2) 高：6.9 底：(6.8)	約 1/6 中央東寄り	①粗 褐色粒 白色粒 ②不良 ③灰黄色 ④須恵器
176図 4 椀	口：－ 高：－ 底：4.5	底部のみ 覆土	①粗 白色粒 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
176図 5 椀	口：－ 高：－ 底：5.0	底部のみ 北西部床直	①粗 白色粒 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
176図 6 椀	口：－ 高：－ 底：6.8	底部のみ 中央東寄り	①粗 褐色粒 白色粒 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
176図 7 椀 図版 73	口：－ 高：－ 底：(7.0)	底部のみ 覆土	①粗 石英 黒色鉱物 褐色粒 ②普通 ③淡褐色 ④須恵器
176図 8 甕	口：(22.6) 高：－ 底：－	口縁部破片 南西隅	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
176図 9 平瓦	1.7	橙色 酸化	粗 石英	凸；縦撫で 凹；布目 端；2回

78号住居跡

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
179図 1 坏 図版 73	口：12.4 高：2.7 底：9.8	ほぼ完形 覆土下位	①細 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③明赤褐色 ④土師器
179図 2 坏	口：11.0 高：3.4 底：6.0	ほぼ完形 覆土	①粗 石英 ②良 ③青灰色 ④転用硯
179図 3 坏	口：12.5 高：4.0 底：6.0	完形 南壁際覆土	①細 石英 黒色鉱物 ②普通 ③明橙色 ④墨書土器
179図 4 坏 図版 73	口：(13.0) 高：－ 底：－	約 1/2 住居外南東隅	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③明赤褐色 ④土師器
179図 5 坏 図版 73	口：(13.6) 高：4.5 底：7.0	約 1/4 覆土	①粗 石英 褐色粒 片岩 ②普通 ③黄褐色 ④須恵器
179図 6 坏	口：－ 高：－ 底：6.0	底部のみ 覆土	①粗 黒色鉱物 片岩 白色粒 礫 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
179図 7 坏	口：－ 高：－ 底：7.0	底部のみ 南壁覆土上層	①細 石英 ②良 ③青灰色 ④転用硯
179図 8 坏	口：－ 高：－ 底：7.3	底部のみ 覆土	①細 白色粒 ②普通 ③灰黄色 ④土師器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
179図　9 椀 図版　73	口：(14.4) 高：　6.0 底：(　7.8)	約　1/3 南壁寄り覆土	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③灰白色色　④須恵器
179図　10 椀 図版　73	口：(16.3) 高：　－ 底：　－	約　1/2 覆土	①細　石英　片岩 ②良　③青黒色 ④須恵器
179図　11 皿	口：　－ 高：　－ 底：　7.1	底部のみ 南壁覆土上層	①粗　褐色粒　白色粒 ②普通　③明赤褐色 ④墨書土器
179図　12 皿	口：13.1 高：　2.7 底：　5.9	ほぼ完形 床直上	①粗　黒色鉱物　片岩 ②不良　③灰黄色 ④刻書土器
179図　13 小型甕	口：(10.6) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土	①細　黒色鉱物　白色粒　②普通　③橙色 ④須恵器
180図　14 瓶	口：　－ 高：　－ 底：　8.9	底部のみ 床直上	①細　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④転用硯か
180図　15 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片 覆土下位	①粗　石英　白色粒 ②普通　③褐灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
180図　16 平瓦	1.9	橙色 酸化	粗　石英 片岩	凸；撫で 凹；布目 側；2回
180図　17 平瓦	2.0	黄橙色 酸化	粗　石英 片岩	凸；撫で 凹；布目 端；2回

図　番号 種　類	大　き　さ （長さ×幅cm；重量）
180図　18 鉄釘図版73	4.5×0.6；2.13g　頭部・足端部欠損。木質遺存なし。

79号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
181図　1 坏 図版　73	口：(12.2) 高：　4.0 底：(　5.6)	約　1/6 覆土	①粗　褐色粒　白色粒　石英　②普通　③浅黄色　④須恵器
181図　2 椀 図版　73	口：(16.8) 高：　8.0 底：(　9.0)	約　1/6 住居跡外北側	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
181図　3 椀	口：(17.6) 高：　－ 底：　－	口縁部破片 覆土下位	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
181図　4 甕 図版　73	口：21.4 高：　－ 底：　－	約　1/2 北西部床直上	①細　黒色鉱物　白色粒　②良　③明赤褐色 ④土師器
181図　5 小型甕	口：(12.7) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片 覆土	①細　石英　黒色鉱物　白色粒　②不良　③明褐色　④土師器

80号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
181図　1 坏 図版　73	口：(10.2) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/6 覆土	①細　黒色鉱物　白色粒　②普通　③暗灰黄色　④土師質
183図　2 坏 図版　73	口：(11.2) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 約　1/3 覆土	①細　褐色粒　片岩 ②良　③黄褐色 ④土師質
183図　3 坏 図版　73	口：(11.8) 高：　4.0 底：　5.4	約　1/3 覆土	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③明黄褐色　④須恵器
183図　4 坏 図版　73	口：(11.0) 高：　3.8 底：(　5.3)	約　1/4 覆土	①粗　石英　褐色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
183図　5 坏 図版　73	口：(10.0) 高：　3.0 底：　4.8	約　1/2 覆土	①粗　石英　黒色鉱物　白色粒　②普通　③淡黄色　④須恵器
183図　6 椀 図版　73	口：(12.6) 高：　4.2 底：(　4.0)	約　1/2 （高台部欠損） 覆土	①細　石英　黒色鉱物　白色粒　②良　③鈍黄色　④須恵器
183図　7 椀 図版　73	口：　－ 高：　－ 底：　5.8	約　1/2 覆土	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③暗灰黄色 ④須恵器
183図　8 椀 図版　73	口：(13.4) 高：　－ 底：　－	口縁部約 1/3 覆土	①粗　石英　褐色粒　片岩　②普通　③浅黄橙色　④須恵器
183図　9 瓶　灰釉 図版　74	口：　－ 高：　－ 底：(　6.0)	底部破片 覆土	①細　白色粒 ②良　③灰白色 ④須恵器
183図　10 皿　灰釉 図版　73	口：　－ 高：　－ 底：　6.3	底部のみ 覆土	①緻密 ②良　③灰白色 ④転用硯か

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
183図　11 椀 図版　74	口：14.4 高：7.0 底：8.2	約 3/4 床直	①細　黒色鉱物　片岩 ②普通　③鈍褐色 ④須恵器
183図　12 椀 図版　74	口：(15.4) 高：7.0 底：(7.7)	約 1/2 竈内	①細　黒色鉱物　片岩 ②良　③鈍黄橙色 ④須恵器
183図　13 小型甕 図版　74	口：(12.6) 高：－ 底：－	約 1/8 覆土	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②良　③鈍橙 色　④須恵器
183図　14 鉢 図版　74	口：(21.0) 高：－ 底：－	約 1/4 覆土	①粗　白色粒 ②良　③灰白色 ④須恵器
183図　15 羽釜 図版　74	口：－ 高：－ 底：(5.8)	底部破片 東壁北床直上	①粗　黒色鉱物　片岩 ②普通　③褐色 ④須恵器
183図　16 小型甕 図版　74	口：(19.2) 高：－ 底：－	約 1/3 覆土	①粗　黒色鉱物　片岩 白色粒　②普通　③鈍 褐色　④須恵器
183図　17 羽釜	口：(19.7) 高：－ 底：－	口縁部破片 竈前庭部	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③橙色 ④須恵器
184図　18 甕	口：－ 高：－ 底：18.0	底部約 1/4 床直上	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
184図　19 羽釜 図版　74	口：(23.8) 高：－ 底：－	口縁部破片 床直	①粗　石英 ②不良　③黒褐色 ④須恵器
184図　20 羽釜 図版　74	口：(26.0) 高：－ 底：－	口縁部約1/4 竈前庭部	①細　石英　片岩　礫 ②普通　③鈍褐色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
184図　21 平瓦 図版　74	2.5	極暗赤 褐色 還元	粗　石英	凸；無文叩　撫で 凹；布目斜め篦撫で 側；3回　端；3回
184図　22 平瓦	1.9	鈍黄橙 酸化	粗　石英	凸；撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
185図　23 丸瓦 図版　74	1.2	黄灰色 還元	細　石英	凸；縦篦削り 凹；布目 側；2回　端；2回
185図　24 平瓦 図版　74	2.2	黄灰色 還元	粗　石英	凸；撫で 凹；布目 側；3回

土坑

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
209図　1 椀 2坑	口：－ 高：－ 底：6.8	底部のみ	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　片岩　②普通 ③灰色　④須恵器
209図　2 皿　図版75 2坑　灰釉	口：(18.6) 高：3.7 底：(7.6)	約 1/4	①細　黒色粒　白色粒 ②良　③灰白色 ④虎渓山1号

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
209図　3 丸瓦 3坑	1.8	橙色 酸化	粗　石英	凸；撫で 凹；布目 端；2回

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
209図　4 椀　図版75 4坑	口：(16.4) 高：6.6 底：7.8	約 2/3	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　片岩　②普通 ③黒褐色　④須恵器
209図　5 甕　図版75 5坑	口：(23.8) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③橙色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
209図　6 平瓦 6坑	1.9	淡黄色 還元	粗　石英	凸；縦撫で 凹；布目 側；2回　端；2回

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
209図　7 坏　図版75 7坑	口：(12.2) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③橙色 ④土師器
209図　8 椀　図版75 7坑	口：(12.3) 高：3.3 底：(6.2)	約 1/5	①緻密　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
209図　9 坏　図版75 7坑	口：(12.4) 高：－ 底：－	口縁部破片	①細　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③橙色 ④土師器
209図　10 椀　図版75 7坑	口：－ 高：－ 底：6.4	約 1/3	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③灰色 ④須恵器
209図　11 甕 7坑	口：(23.4) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③明褐色 ④土師器

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
209図 12 椀 8坑	口：－ 高：－ 底：(7.0)	底部破片	①粗 片岩 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
209図 13 大甕 9坑	口：－ 高：－ 底：－	体部破片	①細 石英 白色粒 ②良 ③灰黄褐色 ④須恵器

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
209図 14 平瓦 10坑	1.3	灰白色 還元	粗 白色粒	凸；撫で 凹；布目

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
210図 15 大甕図版75 10坑	口：(24.2) 高：－ 底：－	約 3/4 (底面欠損)	①細 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③鈍黄 橙色 ④須恵器
210図 16 椀高台部 13坑	口：－ 高：－ 底：(10.6)	底部破片	①細 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍 黄橙色 ④須恵器
210図 17 椀高台部 15坑	口：－ 高：－ 底：－	底部破片	①粗 石英 ②普通 ③灰色 ④須恵器
210図 18 椀 図版75 15坑	口：－ 高：－ 底：6.3	約 1/2	①粗 石英 片岩 ②普通 ③橙色 ④須恵器
210図 19 坏 図版75 20坑	口：－ 高：－ 底：6.0	底部のみ	①粗 石英 褐色粒 片岩 ②普通 ③鈍黄 橙色 ④須恵器
210図 20 坏 図版75 20坑	口：13.2 高：3.7 底：5.4	約 3/4	①粗 片岩 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
210図 21 椀 図版75 20坑	口：－ 高：－ 底：6.0	約 1/4	①粗 石英 ②普通 ③褐灰色 ④須恵器
210図 22 椀 図版75 20坑	口：－ 高：－ 底：6.0	約 1/2	①粗 石英 黒色鉱物 褐色鉱物 ②普通 ③ 灰黄色 ④須恵器
210図 23 皿 図版75 20坑	口：(13.8) 高：2.9 底：(6.8)	約 1/2	①細 白色粒 片岩 ②普通 ③鈍黄褐色 ④須恵器
210図 24 皿 20坑 灰釉	口：－ 高：－ 底：(6.6)	底部破片	①緻密 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
210図 25 鉢 20坑	口：(34.0) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗 白色粒 片岩 ②普通 ③鈍橙色 ④須恵器
210図 26 大甕 20坑	口：－ 高：－ 底：－	口縁～肩部 破片	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器
210図 27 大甕 20坑	口：－ 高：－ 底：－	肩部破片	①粗 白色粒 ②良 ③灰黄色 ④須恵器
210図 28 大甕 20坑	口：－ 高：－ 底：－	体部破片	①粗 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
211図 29 大甕 20坑	口：－ 高：－ 底：－	体部破片	①粗 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
211図 30 甕 図版75 20坑 把手	口：－ 高：－ 底：－	把手のみ	①粗 石英 ②普通 ③灰色 ④須恵器

図番号 種類	大きさ (長さ×幅cm；重量)
211図31·32 鉄釘図版75	11.1×1.0；25.61 g 大形。足端部が屈曲。木質遺存無。5.7×0.6；5.05 g 頭部欠失。木質遺存無。20坑

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
211図 33 坏 図版75 21坑	口：(11.5) 高：3.9 底：(6.2)	口縁部破片	①粗 石英 片岩 ②軟質 ③灰白色 ④須恵器
211図 34 椀 図版75 21坑	口：(14.8) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗 石英 片岩 ②普通 ③灰色 ④須恵器
211図 35 椀 21坑	口：－ 高：－ 底：(7.2)	底部破片	①粗 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器
211図 36 椀 21坑	口：－ 高：－ 底：－	底部破片	①細 白色粒 多孔質 ②普通 ③灰色 ④須恵器
211図 37 甕 21坑	口：－ 高：－ 底：－	肩部破片	①粗 石英 ②良 ③黒色 ④須恵器
211図 38 甕 21坑	口：(16.7) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗 石英 ②良 ③黒色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
211図　39 大甕 21坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
211図　40 大甕 21坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①粗　石英 ②良　③暗灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
211図　41 平瓦 21坑	1.8	鈍黄 酸化橙	粗　石英 白色粒	凸；撫で 凹；布目 側；1回　端；2回

図　番号 種　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
211図　42 鉄釘図版75	9.8×0.75；14.62g　大形の釘。頭部欠失。木質遺存なし。　21坑

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
212図　43 軒平瓦 21坑	1.6	灰オリーブ 還元	粗　石英	段顎 格子目文

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
212図　44 甕 22坑	口：(18.6) 高：　－ 底：　－	破片	①粗　白色粒 ②普通　③暗赤褐色 ④土師器
212図　45 甕　図版75 22坑	口：(19.6) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③褐色 ④土師器
212図　46 坏 26坑	口：　－ 高：　－ 底：(6.6)	約　1/3	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③灰色 ④須恵器
212図　47 椀 26坑	口：　－ 高：　－ 底：(6.8)	約　1/3	①粗　黒色粒　白色粒 ②普通　③灰黄色 ④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
212図　48 鉄釘図版75	8.3×0.8；29.54g　大形の釘。足端部欠失。頭部がやや屈曲する。木質遺存なし。　27坑

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
212図　49 坏 50坑	口：(10.5) 高：　3.2 底：(4.5)	口縁部破片	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
212図　50 坏　図版75 50坑	口：(11.0) 高：　3.3 底：(5.0)	口縁部破片	①粗　石英　白色粒　片岩　②普通　③黄橙色　④須恵器
212図　51 大甕 59坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①粗　大粒の石英 ②良　③灰色 ④須恵器
212図　52 大甕 59坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	肩部破片	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
212図　53 椀　図版75 69坑	口：(12.0) 高：　4.0 底：(6.0)	約　1/5	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰黄色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
212図　54 平瓦 73坑	1.2	灰色 還元	細　白色 粗	凹；布目 側；1回　端；1回
212図　55 平瓦 73坑	1.4	浅黄色 酸化	粗　石英 白色粒 黒色鉱物	凸；無文叩 凹；布目 側；1回

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
213図　56 坏　図版75 80坑	口：11.5 高：　4.2 底：　5.6	ほぼ完形	①粗　黒色鉱物　片岩　白色粒　②普通　③鈍黄褐色　④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
213図　57 砥石	11.4×4.8；163.8g　80坑
213図　58 鉄釘図版75	7.8×0.8；20.41g　大形の釘。頭部の一部・足端部欠失。頭部は直角に屈曲する。木質遺存なし。80坑
213図　59 鉄釘図版75	7.1×0.8；14.01g　足端部欠失。足端部屈曲する。木質遺存なし。　80坑
213図　60 鉄釘図版75	6.8×0.6；9.77g　足端部欠失。木質遺存なし。　80坑
213図　61 鋏　図版75	9.7×0.8(0.6)；18.45g　足部片方欠失。大形の鋏(かすがい)である。　80坑
213図　62 鉄釘図版75	6.5×0.7；11.22g　頭部一部欠失。木質遺存なし。　80坑

図番号 種類	大きさ (長さ×幅cm；重量)
213図　63 鉄釘図版75	4.6×0.5；6.19g　足端部欠失。木質遺存なし。 80坑

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
213図　64 坏　図版75 81坑	口：(10.2) 高：　3.4 底：　5.1	約　1/5	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黄褐色 ④須恵器
213図　65 坏　図版75 81坑	口：10.6 高：　3.0 底：　4.2	ほぼ完形	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　礫　②普通　③ 鈍黄橙色　④須恵器
213図　66 椀　図版75 81坑	口：11.6 高：　4.6 底：　6.2	約　3/4	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③鈍 黄橙色　④須恵器
213図　67 椀　図版75 81坑	口：(13.7) 高：　6.6 底：(7.4)	約　2/5	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
213図　68 椀　図版76 81坑	口：(13.3) 高：　－ 底：　－	約　2/5	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
213図　69 椀　図版75 81坑	口：14.5 高：　－ 底：　－	約　1/2	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③鈍黄色 ④須恵器
213図　70 高足椀 81坑	口：　－ 高：　－ 底：(9.8)	高台部約1/3	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
213図　71 大甕 81坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	頸部破片	①細　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
214図　72 大甕図版75 81坑	口：21.0 高：40.2 底：14.2	ほぼ完形	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
214図　73 大甕 81坑	口：(35.6) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　②やや軟　③明 黄橙色　④須恵器

図番号 種類	大きさ (長さ×幅cm；重量)
214図　74 鎹　図版76	9.9×0.8(0.6)；18.25g　足部一部欠失。足端部直角に屈曲。打ち込まれた材の木質が遺存する。81坑
214図　75 図版　76	4.8×3.9；58.71g　本来の形状不明。直方体状を呈していた可能性高い。側片の一側面は稜線を有する。 81坑
214図　76 鉄釘図版76	6.3×0.7；12.22g　足端部欠失。頭部の造作が大きい。木質遺存なし。 81坑

図番号 種類	大きさ (長さ×幅cm；重量)
214図　77 紡錘車 図版　76	7.8×0.4；10.03g　軸部の両端部欠失。円板部は完存。小形の製品である。 81坑
214図　78 鎹　図版76	11.6×0.7(0.6)；32.64g　大形品。木質遺存なし。 81坑
214図　79 鉄釘図版76	8.4×0.6；20.22g　大形品の頭部の造り大きい。足端部直角に屈曲する。75とほぼ同じ大きさ。81坑
214図　80 鉄釘図版76	8.0×0.6；15.78g足端部欠失。大形で頭部の造り大。身部の造りは細め、足端部は直角に屈曲。木質遺存無。
214図　81 鉄釘図版76	7.1×0.7；13.50g頭部・足端部欠失。木質遺存無。残存状況より、頭部の造りが大きく、82と近い形態か。
214図　82 鉄釘図版76	7.5×0.8；11.96g　足端部欠失。頭部の造りが大きい。 81坑

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
215図　83 平瓦 89坑	1.3	橙色 酸化	粗　石英	凸；無文叩 凹；布目

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
215図　84 大甕 90坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①粗　石英　白色粒 ②良　③黒褐色 ④須恵器
215図　85 大甕 90坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①粗　石英　白色粒 ②良　③黒褐色 ④須恵器
215図　86 大甕 90坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰色 ④転用硯

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
215図　87 平瓦 110坑	1.4	鈍黄橙 酸化	粗 白色粒	凸；撫で 凹；布目 側；1回

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
215図　88 大甕 112坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	頸部破片	①細　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器

図　番号 種　　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
215図　89 平瓦 112坑	1.8	灰色 還元	粗　石英	凸；撫で 凹；布目 側；2回　端；2回
215図　90 平瓦 112坑	1.1	鈍黄褐 酸化	粗 白色粒	凸；撫で 凹；布目 側；1回

図　番号 器　　種	法　量 (cm) (　)推定値	残　存　率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
216図　91 甕 115坑	口：　－ 高：　－ 底：(14.0)	底部破片	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③橙 色④須恵器

図　番号 種　　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
216図　92 鉄釘図版76	7.1×0.9；23.66 g　頭部欠失。身部の厚みがあり、しっかりとした造り。対象物の木質が遺存。　115坑

図　番号 器　　種	法　量 (cm) (　)推定値	残　存　率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
216図　93 坏　図版76 120坑	口：(10.8) 高：　2.8 底：(6.2)	約　1/3	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③浅 黄色　須恵器④
216図　94 大甕 120坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①細　石英　白色粒 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
216図　95 坏　図版76 122坑	口：12.0 高：　3.8 底：　6.2	完形	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黄灰色 ④須恵器
216図　96 羽釜図版76 122坑	口：(16.8) 高：　－ 底：　－	口縁～体部 破片	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③黄 灰色　④須恵器

図　番号 種　　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
216図　97 平瓦 122坑	1.1	灰白色 還元	粗 白色粒	凸；縦撫で 凹；布目 側；1回
216図　98 平瓦 122坑	1.5	鈍黄橙 酸化	粗　石英 白色粒	凸；平行叩 凹；布目 側；1回

図　番号 器　　種	法　量 (cm) (　)推定値	残　存　率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
216図　99 椀　図版76 123坑	口：15.0 高：　6.6 底：　7.3	完形	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③灰 色　④須恵器

図　番号 器　　種	法　量 (cm) (　)推定値	残　存　率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
216図　100 小型甕図版76 123坑	口：(18.4) 高：　6.6 底：　6.8	約　3/5	①粗　黒色鉱物　片岩 白色粒　②普通　③鈍 赤褐色　④須恵器

図　番号 種　　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
217図　101 平瓦 129坑	2.0	鈍橙色 酸化	粗　片岩 白色粒	凸；無文叩 凹；布目 側；1回　端；2回

図　番号 種　　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
217図　102 刀子図版76	9.2×0.9；9.22 g　茎欠失。刃部は極端に細身で長い。木質遺存なし。　130坑

図　番号 器　　種	法　量 (cm) (　)推定値	残　存　率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
217図　103 羽釜 131坑	口：(18.8) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　②普通　③黄褐 色　④須恵器
217図　104 椀　図版76 132坑	口：(14.8) 高：　－ 底：　－	約　1/4 (高台欠損)	①粗　石英　白色粒 ②普通　③褐灰色 ④須恵器
217図　105 椀 133坑	口：　－ 高：　－ 底：　6.9	約　1/2	①粗　石英 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
217図　106 椀 133坑	口：(13.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③浅黄 色　④須恵器
217図　107 大甕 133坑	口：(37.2) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英 ②良　③灰色 ④須恵器
217図　108 大甕 133坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①粗　石英 ②普通　③黄灰色 ④須恵器
217図　109 大甕 133坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①粗　石英 ②普通　③褐灰色 ④須恵器
217図　110 大甕 133坑	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①細　石英 ②良　③灰色 ④須恵器

図　番号 種　　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
217図　111 丸瓦 133坑	1.0	灰色 還元	細　石英	凸；縦削り 凹；布目

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
217図 112 坏 図版76 144坑	口：(12.8) 高： 3.7 底： 5.4	約 1/2	①粗 褐色粒 片岩 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
217図 113 坏 図版76 144坑	口： 13.2 高： 3.4 底： 5.8	約 2/3	①粗 黒色鉱物 褐色粒 片岩 ②普通 ③灰色 ④須恵器
217図 114 坏 144坑	口： － 高： － 底：(5.6)	底部約 1/2	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③黄褐色 ④須恵器
217図 115 皿 図版76 144坑	口： 14.5 高： 3.7 底： 7.2	完形	①粗 石英 片岩 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
217図 116 椀 144坑	口： － 高： － 底：(6.0)	口縁部欠損	①粗 褐色粒 片岩 ②不良 ③灰黄色 ④須恵器
217図 117 大甕 144坑	口：(46.2) 高： － 底： －	口縁部破片	①緻密 白色粒 粗粒含む ②良 ③暗灰色 ④須恵器
218図 118 羽釜図版76 162坑	口：(22.4) 高： － 底： －	口縁部破片	①粗 石英 片岩 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
218図 119 平瓦 158坑	1.2	灰色 還元	粗 白色粒	凸；無文叩 縦撫で 凹；布目 側；1回 端；1回

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
218図 120 坏 図版76 164坑	口： 11.6 高： 4.2 底： 5.2	ほぼ完形	①粗 石英 片岩 ②不良 ③鈍黄褐色 ④須恵器
218図 121 椀 図版76 164坑	口：(11.8) 高： 4.6 底： 5.6	約 2/3	①粗 石英 片岩 ②不良 ③灰黄色 ④須恵器
218図 122 羽釜図版76 164坑	口：(21.2) 高： － 底： －	約 1/4	①粗 石英 ②普通 ③鈍黄褐色 ④須恵器
218図 123 甕 164坑	口： － 高： － 底： －	体部約 1/4	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
218図 124 大甕図版76 164坑	口：(30.0) 高： － 底： －	口縁部約 1/4	①細 石英 黒色鉱物 片岩 ②普通 ③明黄褐色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
218図 125 坏 166坑	口：(13.4) 高： 4.4 底：(6.0)	約 1/4	①粗 黒色鉱物 片岩 白色粒 ②普通 ③鈍褐色 ④須恵器
218図 126 椀 166坑	口：(11.2) 高： 5.1 底：(6.0)	約 1/5	①粗 白色粒 ②良 ③灰白色 ④須恵器
218図 127 椀 灰釉 166坑	口： － 高： － 底：(6.8)	約 1/5	①緻密 白色粒 ②良 ③灰黄色 ④転用硯か
218図 128 長頸壺 166坑	口： － 高： － 底： －	肩部破片	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③黒褐色 ④須恵器
218図 129 羽釜 166坑	口： － 高： － 底： 7.6	底部のみ	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
218図 130 大甕 166坑	口： － 高： － 底： －	頸部破片	①粗 石英 白色粒 ②良 ③灰白色 ④須恵器
218図 131 羽釜 166坑	口：(22.8) 高： － 底： －	口縁部破片	①粗 石英 片岩 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
218図 132 羽釜 166坑	口：(14.1) 高： － 底： －	口縁部破片	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
219図 133 平瓦図版77 166坑	2.1	黄橙色 酸化	粗 石英 片岩 黒色鉱物	凸；無文叩 凹；布目密磨滅 側；1回 端；1回
219図 134 平瓦図版76 166坑	1.5	灰色 還元	粗 石英 白色粒	凸；無文叩 凹；布目 側；2回 端；1回

図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
219図 135 坏 180坑	口：(13.8) 高： － 底： －	口縁部破片	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③黄灰色 ④須恵器
219図 136 甕 180坑	口：(21.6) 高： － 底： －	口縁部破片	①粗 石英 白色粒 ②良 ③淡黄色 ④須恵器
219図 137 椀 図版77 181坑	口： 11.6 高： 4.4 底： 6.1	ほぼ完形	①粗 石英 黒色鉱物 片岩 ②普通 ③鈍褐色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
219図　138 椀　図版77 184坑	口：12.2 高：4.8 底：5.3	約　1/2	①粗　石英　片岩 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
219図　139 椀 184坑	口：(17.8) 高：6.3 底：(8.0)	約　1/5	①粗　褐色粒　白色粒 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
219図　140 椀　灰釉 184坑	口：－ 高：－ 底：6.0	底部約　1/2	①緻密　白色粒 ②良　③灰白色 ④虎渓山1号
219図　141 椀　灰釉 184坑	口：(11.8) 高：－ 底：－	口縁部破片	①緻密 ②良　③灰白色 ④須恵器
219図　142 椀　灰釉 184坑	口：(14.2) 高：－ 底：－	口縁部破片	①緻密 ②良　③灰白色 ④虎渓山1号
219図　143 皿　灰釉 184坑	口：－ 高：－ 底：(7.0)	底部約　2/5	①緻密 ②良　③灰白色 ④虎渓山1号
219図　144 羽釜 184坑	口：(20.2) 高：－ 底：－	口縁部約1/5	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　②不良　③橙色 ④須恵器
220図　145 大甕図版77 184坑	口：(25.6) 高：－ 底：－	口縁部約1/3	①粗　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	大　き　さ （長さ×幅cm；重量）
220図　146 鉈　図版77	8.5×2.0；6.40g　大形の鉈で、茎は欠失。刃部は長大かつ幅広でしっかりとした造りをなしている。
220図　147 図版　77	11.7×1.3；17.87g　何等かの工具の柄部と考えられる。　184坑
220図　148 鉈　図版77	15.0×1.3(0.5)；20.00g大形で刃部と茎の長さがほぼ等しい。明瞭な関を有し刃部は長く幅広である。

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
220図　149 坏 185坑	口：(11.6) 高：3.9 底：(5.6)	約　1/5	①粗　石英　片岩 ②良　③灰白色 ④須恵器
220図　150 坏 185坑	口：(10.4) 高：3.1 底：4.6	約　3/5	①粗　石英　片岩 ②普通　③淡黄色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
220図　151 椀 185坑	口：(21.0) 高：－ 底：－	約　1/6 (高台部欠損)	①粗　石英 ②普通　③灰白色 ④須恵器
220図　152 坏　図版77 186坑	口：10.7 高：3.3 底：5.5	約　3/4	①粗　石英　片岩 ②普通　③浅黄橙色 ④須恵器
220図　153 椀　図版77 186坑	口：11.2 高：3.9 底：(5.2)	ほぼ完形	①粗　石英　片岩 ②不良　③橙色 ④須恵器
220図　154 皿　図版77 186坑　灰釉	口：12.0 高：2.7 底：6.4	完形	①緻密 ②良　③灰白色 ④大原2号
220図　155 皿　図版77 186坑　灰釉	口：(12.2) 高：2.5 底：(6.2)	約　1/2	①緻密 ②良　③灰色 ④大原2号
220図　156 椀　図版77 186坑　灰釉	口：－ 高：－ 底：7.0	底部約　1/4	①緻密 ②良　③灰白色 ④虎渓山1号
220図　157 皿　灰釉 186坑	口：－ 高：－ 底：(6.2)	底部約　1/3	①緻密　黒色粒　白色粒　②良　③灰白色 ④大原2号
220図　158 皿　灰釉 186坑	口：(12.8) 高：－ 底：－	口縁部約　1/4	①緻密 ②良　③灰白色 ④
220図　159 皿　図版77 186坑　灰釉	口：(12.5) 高：2.7 底：6.0	約　1/3	①緻密 ②良　③灰白色 ④大原2号
220図　160 皿　灰釉 186坑	口：(11.8) 高：－ 底：－	口縁部約1/6	①緻密 ②良　③灰白色 ④
220図　161 坏　図版77 187坑	口：(13.4) 高：4.6 底：(5.5)	約　1/3	①粗　黒色鉱物　片岩　白色粒　②普通　③灰黄褐色　④須恵器
220図　162 椀　図版77 191坑	口：(12.9) 高：5.9 底：(7.0)	約　1/2	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③鈍黄橙色　④須恵器
220図　163 坏　図版77 204坑	口：(11.2) 高：2.8 底：5.8	約　1/2	①粗　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器

1号井戸

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
221図 1 椀	口：－ 高：－ 底：6.8	底部のみ	①細 石英 黒色鉱物 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
221図 2 平瓦 図版 78	1.4	灰黄色 酸化	粗 石英 片岩	凹；筵目 側；2回 端；2回
221図 3 平瓦 図版 78	1.6	鈍黄橙 酸化	粗 石英 片岩	凸；無文叩 撫で 凹；布目 側；1回 端；1回
221図 4 平瓦 図版 78	1.2	灰黄色 還元	細 白色粒	凸；無文叩 縦撫で 凹；布目 側；2回 端；3回
222図 5 丸瓦 図版 78	1.0	灰色 還元	粗 石英 片岩	凸；平行叩 縦撫で 凹；布目 側；1回 端；2回

2号掘立

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
227図 1 坏 図版 77	口：11.3 高：3.9 底：5.1	ほぼ完形 溝西側	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③灰 色 ④須恵器
227図 2 坏 図版 77	口：11.8 高：4.0 底：4.0	ほぼ完形 溝西側	①粗 白色粒 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
227図 3 椀 図版 77	口：(19.0) 高：9.7 底：8.4	約 3/4 溝西側	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③黒 色 ④須恵器
227図 4 皿 灰釉 図版 77	口：(11.9) 高：2.0 底：(6.0)	約 1/3 覆土	①緻密 ②良 ③灰黄色 ④虎渓山1号
227図 5 皿 灰釉	口：－ 高：－ 底：(7.3)	底部破片 貯蔵穴西	①緻密 ②良 ③灰白色 ④大原2号 転用硯か
227図 6 皿 灰釉 図版 77	口：13.4 高：2.7 底：6.8	約 3/4 溝西側	①緻密 ②良 ③灰白色 ④虎渓山1号
227図 7 高盤脚部	口：－ 高：－ 底：－	脚部破片 覆土	①粗 白色粒 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
227図 8 甕 図版 77	口：(26.4) 高：－ 底：－	口縁部破片 貯蔵穴南側	①粗 石英 片岩 ②普通 ③鈍黄褐色 ④須恵器
227図 9 甕	口：－ 高：－ 底：－	肩部破片 覆土	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
227図 10 小型甕 図版 77	口：(16.8) 高：－ 底：－	口縁部破片 溝東側	①粗 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍 橙色 ④須恵器
227図 11 大甕 図版 77	口：25.4 高：－ 底：－	約 1/3 溝西側	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
227図 12 羽釜	口：(21.6) 高：－ 底：－	口縁部破片 貯蔵穴西側	①粗 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器
227図 13 甕	口：－ 高：－ 底：(7.6)	底部破片 貯蔵穴西側	①粗 石英 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
227図 14 羽釜 図版 77	口：(20.8) 高：－ 底：－	口縁部破片 溝西側	①粗 片岩 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③灰 褐色 ④須恵器
228図 15 土錘 図版 78	長：4.4	完形 覆土	①粗 石英 片岩 ②普通 ③褐色 ④須恵器
228図 16 大甕	口：－ 高：－ 底：－	頸部破片 覆土	①粗 白色粒 ②良 ③灰色 ④須恵器
228図 17 大甕	口：－ 高：－ 底：－	体部破片 東端貯蔵穴内	①粗 石英 ②良 ③灰色 ④須恵器

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
228図 18 丸瓦 図版 78	1.2	橙色 酸化	粗 石英 片岩	凸；平行叩 凹；筵目 側；1回 端；5回
228図 19 平瓦	1.4	灰色 還元	粗 石英	凸；無文叩 撫で 凹；布目 縦指撫で 側；2回 端；1回
229図 20 平瓦	1.5	灰褐色 酸化	粗 石英 片岩	凸；無文叩 凹；布目 側；2回 端；1回

図　番号 種　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
229図　21 平瓦 図版　78	1.1	明赤橙 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩　撫で 凹；筵目 側；3回　端；1回
229図　22 平瓦	1.2	浅黄色 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩　縦削り 凹；布目 側；1回

1溝・5溝・7溝

図　番号 器　種	法量(cm) (　)推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
230図　1 甕　図版78 1溝	口：　－ 高：　－ 底：(9.2)	底部破片	①細　石英 ②普通　③灰黄色 ④須恵器
230図　2 坏 5溝	口：12.0 高：3.7 底：5.0	約　1/4	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③褐灰色 ④須恵器
230図　3 椀　図版78 5溝	口：(13.2) 高：4.2 底：5.4	約　1/2 (高台欠損)	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　片岩　②普通 ③鈍黄橙色　④須恵器
230図　4 椀　図版78 5溝	口：　－ 高：　－ 底：7.2	底部のみ	①細　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③黄灰色 ④須恵器
230図　5 甕 5溝	口：　－ 高：　－ 底：　－	体部破片	①細　白色粒 ②普通　③褐灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
230図　6 平瓦 5溝	1.7	明黄褐 酸化	粗　石英 片岩 白色粒	凸；平行叩　撫で 凹；布目　縦撫で 側；2回　端；2回
230図　7 平瓦 5溝	1.7	鈍橙色 酸化	細　石英 片岩	凸；無文叩　撫で 凹；布目
230図　8 軒丸瓦 5溝	1.8	黄灰色 還元	細	凸； 凹；布目

図　番号 器　種	法量(cm) (　)推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
230図　9 皿　図版78 7溝　灰釉	口：13.6 高：2.6 底：7.0	ほぼ完形	①緻密　白色粒 ②良　③灰色 ④
230図　10 甕 7溝	口：　－ 高：　－ 底：6.0	底部のみ	①細　還元焰 ②普通　③灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
230図　11 丸瓦 7溝	1.4	鈍橙色 酸化	細	凸；撫で 凹；布目 側；1回

1号遺物集積

図　番号 器　種	法量(cm) (　)推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
232図　1 坏 図版　79	口：10.1 高：3.0 底：5.4	ほぼ完形	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②良　③橙 色　④須恵器
232図　2 皿　灰釉 図版　79	口：(14.2) 高：2.5 底：(7.6)	約　1/4	①緻密 ②良　③灰白色 ④
232図　3 大甕	口：(33.0) 高：　－ 底：　－	口縁部約1/6	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③暗灰黄 色　④須恵器
232図　4 大甕	口：(30.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
232図　5 羽釜	口：(19.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③黄灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚　さ (cm)	色　調 焼　成	胎　土	整形等の特徴
232図　6 丸瓦 図版　79	1.9	灰黄褐 酸化	粗　石英 片岩	凸；平行叩 凹；布目 側；1回　端；1回
232図　7 丸瓦	1.7	橙色 酸化	粗　石英 片岩	凸；無文叩 凹；布目 側；2回　端；1回
232図　8 丸瓦	1.6	橙色 酸化	粗　石英	凸；無文叩 凹；布目 側；1回　端；1回
232図　9 丸瓦 図版　79	1.6	明赤褐 酸化	粗　片岩 石英	凸；無文叩 凹；布目 側；1回　端；1回
234図　10 平瓦	1.5	明黄褐 酸化	細　石英	凸；無文叩　縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
232図　11 平瓦 図版　79	1.7	橙色 酸化	細　石英 白色粒	凸；平行叩 凹；筵目 側；2回　端；2回

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
234図 12 軒平瓦	1.8	灰オリーブ 還元	粗 石英	段顎 格子目

図番号 種類	大きさ (長さ×幅cm；重量)
234図 13 刀子図版79	5.8×0.8；4.69g　刀子の茎と考えられる。木質遺存なし。
234図 14 鉄斧図版79	10.7×3.7(3.4)；159.62g　無茎袋状斧。身中央がくびれ、袋柄端と刃部が拡がる形態のものである。

2号遺物集積

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
238図 1 坏 図版 79	口：(11.0) 高： 3.8 底：(6.0)	約 1/4	①細 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍橙色 ④須恵器
238図 2 坏 図版 79	口：(11.0) 高： 3.7 底：(5.0)	約 1/5	①細 白色粒 ②普通 ③浅黄橙色 ④須恵器
238図 3 坏 図版 79	口：(10.4) 高： 3.4 底： 5.0	約 1/4	①細 黒色鉱物 片岩 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
238図 4 椀 図版 79	口：(11.0) 高： 4.1 底：(5.4)	約 1/3	①細 黒色鉱物 片岩 白色粒 ②良 ③鈍黄褐色 ④須恵器
238図 5 椀 図版 79	口：(18.0) 高： － 底： －	約 1/4	①細 石英 片岩 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
238図 6 椀 図版 79	口：(15.4) 高： － 底： －	約 1/3	①細 石英 黒色鉱物 白色粒 ②良 ③鈍黄橙色 ④須恵器
238図 7 椀 図版 79	口：(12.0) 高： 4.7 底： 5.7	約 1/3	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
238図 8 椀 図版 79	口：(11.8) 高： 4.5 底： 6.2	約 1/3	①細 石英 黒色鉱物 ②普通 ③灰オリーブ ④須恵器
238図 9 椀 図版 79	口：(13.6) 高： － 底： －	口縁部約1/4	①細 黒色鉱物 白色粒 ②良 ③黒褐色 ④須恵器
238図 10 椀 図版 79	口： － 高： － 底： 6.0	約 1/4	①細 石英 黒色鉱物 ②普通 ③淡黄色 ④須恵器
238図 11 椀 図版 79	口： － 高： － 底：(6.0)	底部破片	①細 白色粒 ②不良 ③灰オリーブ ④須恵器
238図 12 椀 灰釉 図版 79	口：(16.4) 高： 5.2 底： 8.1	約 1/2	①緻密 白色粒 ②良 ③浅黄色 ④百代寺
238図 13 椀	口： － 高： － 底： 5.6	底部のみ	①細 石英 白色粒 ②普通 ③鈍橙色 ④須恵器
238図 14 椀	口： － 高： － 底： 6.4	底部のみ	①細 白色粒 片岩 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
238図 15 椀高台部 図版 79	口： － 高： － 底： 8.0	底部のみ	①細 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③橙色 ④須恵器
238図 16 椀高台部	口： － 高： － 底： 8.4	底部のみ	①細 石英 黒色鉱物 片岩 ②良 ③鈍橙色 ④須恵器
238図 17 鉢	口：(20.0) 高： － 底： －	口縁部破片	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②不良 ③浅黄橙色 ④須恵器
238図 18 甕 図版 79	口：(14.0) 高： － 底： －	口縁～胴部 約 1/4	①細 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③橙色 ④須恵器
238図 19 甕 図版 79	口：(13.0) 高： － 底： －	口縁部約1/3	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③鈍褐色 ④須恵器
238図 20 甕	口：(14.0) 高： － 底： －	口縁部破片	①細 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
238図 21 甕	口：(19.0) 高： － 底： －	約 1/6	①細 石英 片岩 ②普通 ③浅黄橙色 ④須恵器
239図 22 大甕 図版 80	口：(30.0) 高： － 底： －	約 1/3	①細 石英 黒色鉱物 白色粒 ②良 ③明黄褐色 ④須恵器
239図 23 大甕 図版 80	口：(25.0) 高： 39.0 底：(17.0)	約 1/3	①粗 石英 白色粒 ②良 ③浅黄色 ④須恵器
239図 24 大甕 図版 80	口：(21.2) 高： 31.0 底：(16.0)	約 1/2	①細 石英 黒色鉱物 片岩 白色粒 ②良 ③黄灰色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
240図　25 大甕 図版　80	口：(22.6) 高：36.3 底：12.2	約　2/5	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　白色粒　②普通 ③明黄褐色　④須恵器
240図　26 大甕 図版　80	口：(22.0) 高：36.2 底：13.0	約　1/2	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　白色粒　②普通 ③鈍黄橙色　④須恵器
240図　27 大甕 図版　81	口：(33.0) 高：(50.4) 底：(18.8)	約　1/3	①粗　黒色鉱物　白色 粒　②普通　③橙色 ④須恵器
241図　28 大甕 図版　81	口：(42.0) 高：－ 底：－	口縁部約 1/4	①緻密　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
241図　29 大甕 図版　81	口：(42.0) 高：(69.0) 底：－	約　1/2	①細　石英　白色粒 片岩　②良　③黒色 ④須恵器
242図　30 大甕 図版　80	口：33.6 高：－ 底：－	口縁部のみ	①細　石英　白色粒 片岩　②良　③灰黄色 ④須恵器
242図　31 大甕	口：－ 高：－ 底：－	体部のみ	①細　石英　白色粒 片岩②良　③灰黄色 ④須恵器
242図　32 大甕	口：－ 高：－ 底：11.4	底部のみ	①細　石英　白色粒 片岩　②良　③灰黄色 ④須恵器
243図　33 大甕	口：－ 高：－ 底：－	破片	①粗　白色粒 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
243図　34 大甕 図版　81	口：－ 高：－ 底：－	体部～底部 約　1/4	①細　石英　黒色鉱物 片岩　②良　③橙色 ④須恵器
244図　35 甕 図版　81	口：－ 高：－ 底：－	肩部破片	①細　石英　白色粒 ②良　③暗灰黄色 ④須恵器
244図　36 甕 図版　81	口：－ 高：－ 底：－	破片	①細　石英　白色粒 ②良　③灰オリーブ ④須恵器
244図　37 甕 図版　82	口：－ 高：－ 底：(16.0)	約　1/4	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　②普通　③鈍橙 色　④須恵器
245図　38 甕	口：－ 高：－ 底：－	頸部～体部 破片	①粗　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
245図　39 大甕	口：－ 高：－ 底：－	頸部破片	①粗　白色粒 ②普通　③鈍黄色 ④須恵器
245図　40 大甕	口：－ 高：－ 底：－	破片	①粗　白色粒 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
245図　41 大甕	口：－ 高：－ 底：－	破片	①粗　白色粒 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
245図　42 甕	口：－ 高：－ 底：－	破片	①緻密　石英　白色粒 ②良　③灰オリーブ ④須恵器
246図　43 甕	口：－ 高：－ 底：－	破片	①緻密　石英　白色粒 ②良　③灰オリーブ ④須恵器
246図　44 大甕 図版　81	口：－ 高：－ 底：－	破片	①細　石英　片岩 ②不良　③鈍橙色 ④須恵器
246図　45 羽釜 図版　82	口：(30.4) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗　石英　片岩 ②普通　③灰黄褐色 ④須恵器
246図　46 羽釜 図版　82	口：(18.2) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黄褐色 ④須恵器
246図　47 羽釜 図版　82	口：(22.0) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
246図　48 羽釜 図版　82	口：(20.8) 高：－ 底：－	口縁部約1/3	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③鈍 黄褐色　④須恵器

図　番号 種　類	厚さ （cm）	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
247図　49 平瓦	1.9	鈍橙色 酸化	細　礫 片岩 白色粒	凸；平行叩　撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
247図　50 平瓦	1.6	鈍橙色 酸化	粗　石英 片岩 白色粒	凸；縦撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
247図　51 平瓦	1.6	鈍黄褐 酸化	粗　石英 片岩 黒色鉱物	凸； 凹；布目 側；1回　端；2回

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
247図　52 平瓦	1.6	橙色 酸化	細 白色粒	凸；撫で 凹；布目 側；3回
247図　53 軒平瓦	4.4	灰オリーブ 還元	細　石英	段顎 綾杉

3号遺物集積

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
249図　1 坏 図版　82	口：(12.6) 高：　3.7 底：(6.0)	約　1/5	①細　石英　片岩 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
249図　2 坏 図版　82	口：(12.2) 高：　4.2 底：(6.0)	約　1/4	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②不良　③鈍 黄橙色　④須恵器
249図　3 杯 図版　82	口：(12.4) 高：　4.9 底：(4.6)	約　1/3	①細　石英　黒色鉱物 ②良　③鈍黄褐色 ④須恵器
249図　4 坏 図版　82	口：(12.2) 高：　3.4 底：　6.0	約　1/2	①細　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③鈍 黄褐色　④須恵器
249図　5 椀 図版　82	口：13.6 高：　3.9 底：　6.3	約　2/3	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　片岩　②普通 ③暗褐色　④須恵器
249図　6 椀	口：(14.0) 高：(4.1) 底：(7.0)	約　1/6	①細　白色粒　片岩 ②普通　③灰黄褐色 ④須恵器
249図　7 椀 図版　82	口：13.9 高：　4.5 底：　6.2	約　2/3	①粗　石英 ②普通　③淡黄色 ④須恵器
249図　8 坏 図版　82	口：(12.8) 高：　5.8 底：　5.6	約　1/4	①粗　石英　白色粒 片岩　②不良　③黒褐 色　④須恵器
249図　9 椀 図版　82	口：13.3 高：　5.4 底：　6.3	完形	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰白色 ④須恵器
249図　10 椀 図版　82	口：(14.0) 高：　6.9 底：　7.4	約　1/2	①細　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③黒 褐色　④須恵器
249図　11 椀 図版　82	口：(14.6) 高：　4.8 底：(5.0)	約　1/2	①細　石英　白色粒 ②普通　③黒褐色 ④須恵器
249図　12 椀 図版　82	口：(13.8) 高：(5.2) 底：(6.2)	約　1/3	①細　石英　白色粒 ②良　③灰黄褐色 ④須恵器
249図　13 椀 図版　82	口：(11.0) 高：　4.5 底：　4.8	約　1/4	①粗　石英　黒色鉱物 白色粒　②普通　③黄 褐色　④須恵器
249図　14 椀 図版　82	口：(11.6) 高：　4.2 底：(5.6)	約　1/3	①粗　石英　片岩 ②普通　③橙色 ④須恵器
249図　15 椀高台部	口：　－ 高：　－ 底：　7.2	底部のみ	①細　石英　白色粒 片岩　②良　③鈍黄橙 色　④須恵器
249図　16 鉢	口：(26.4) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①細　石英　片岩 ②良　③鈍黄褐色 ④須恵器
249図　17 甕	口：　－ 高：　－ 底：　－	胴部約　1/4	①細　石英　白色粒 片岩　②普通　③橙色 ④須恵器
249図　18 甕	口：　－ 高：　－ 底：　6.4	底部破片	①粗　石英　片岩 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
249図　19 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：　－	底部破片	①粗　石英　片岩 ②普通　③黄褐色 ④須恵器
249図　20 羽釜 図版　82	口：(20.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英　白色粒 ②普通　③暗灰黄色 ④須恵器
249図　21 羽釜 図版　82	口：(22.2) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③褐色 ④須恵器
250図　22 羽釜 図版　83	口：(18.2) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英　片岩 ②普通　③灰黄褐色 ④須恵器
250図　23 羽釜 図版　82	口：(18.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英　褐色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
250図　24 羽釜 図版　82	口：(19.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英　白色粒 ②普通　③明黄褐色 ④須恵器
250図　25 羽釜 図版　83	口：(20.0) 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英　黒色鉱物 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
250図　26 羽釜 図版　83	口：(19.8) 高：　－ 底：　－	約　1/4	①粗　石英　黒色鉱物 片岩　②普通　③鈍黄 橙色　④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
250図　27 丸瓦	1.6	灰色 還元	粗　石英 白色粒	凸；平行叩 凹；布目 側；1回　端；1回
250図　28 丸瓦	1.6	灰黄色 還元	粗　石英 片岩	凸；叩後撫で 凹；布目 側；1回
250図　29 丸瓦	1.7	黒褐色 酸化	粗　石英 片岩	凸；叩後撫で 凹；布目 側；2回
250図　30 平瓦	1.6	赤褐色 酸化	粗　石英 片岩	凸；叩後撫で 凹；布目 側；1回　端；1回
251図　31 平瓦 図版　83	2.0	灰色 還元	粗　石英 片岩	凸；撫で 凹；布目 端；3回
251図　32 平瓦	1.9	黄灰色 還元	粗　石英 片岩	凸；撫で 凹；布目 側；3回
251図　33 軒平瓦	1.6	灰黄色 還元	粗　石英 片岩	凸；撫で 凹；布目 側；2回
251図　34 軒平瓦	－	灰色 還元	粗　石英 片岩	段顎？

図　番号 種　類	大　き　さ （長さ×幅cm；重量）
251図　35 釘？図版83	3.8×1.4；12.57ｇ　頭部・足端部欠失か。身の造りは厚くしっかりとしている。92と近い形態を有する。

A斜面．B斜面．E斜面

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
252図　1 椀 A斜図版83	口：(14.6) 高：　4.8 底：　7.6	約　1/4	①粗　白色粒　片岩 ②普通　③橙色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
252図　2 丸瓦 A斜図版83	1.5	灰黄色 還元	細　石英 白色粒	凸；撫で　凹；布目 1条の横撫で 側；3回　端；2回
253図　3 丸瓦 A斜図版83	1.4	鈍黄色 還元	細 白色粒	凸；平行叩　撫で 凹；布目　左側；3回　右側；2回
252図　4 平瓦 A斜	1.9	灰黄色 還元	細　石英 白色粒	凸；平行叩　縦削り 凹；布目、横撫で 側；2回　端；3回
253図　5 平瓦 A斜	1.0	鈍黄橙 酸化	粗　石英 片岩	凸； 凹；筵目 側；1回　端；1回
253図　6 軒平瓦 A斜	1.6	灰オリーブ 還元	粗　石英 片岩	段顎 鋸歯文
253図　7 平瓦 A斜図版83	1.4	橙色 酸化	粗　石英 白色粒	凸；無文叩　撫で 凹；布目 側；1回　端；1回

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
253図　8 坏 B斜図版84	口：12.3 高：　4.0 底：　5.5	完形	①粗　石英　白色粒 ②不良　③黄褐色 ④須恵器
253図　9 甕 B斜図版83	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片	①粗　石英 ②普通　③灰色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
253図　10 軒丸瓦 B斜	1.4	浅黄色 還元	粗 白色粒	凸；無文叩 凹；布目
253図　11 軒丸瓦 B斜	1.5	灰黄色 還元	粗　石英	四弁 凹；布目
254図　12 平瓦 B斜図版84	2.1	暗灰色 還元	細　石英 片岩	凸；無文叩 凹；布目　横撫で 側；1回　端；1回

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
254図　13 大甕 E斜図版84	口：　－ 高：　－ 底：　－	破片	①粗　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器

庚申山1号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
258図 1 坏 図版 85	口：12.8 高：3.4 底：－	ほぼ完形	①細 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③鈍橙色 ④土師器
258図 2 坏 図版 85	口：(13.3) 高：4.0 底：6.0	約 2/3	①粗 石英 片岩 礫 ②普通 ③黄褐色 ④須恵器
258図 3 坏 図版 85	口：(12.0) 高：4.0 底：5.2	約 1/3	①粗 石英 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器
258図 4 坏 図版 85	口：(12.8) 高：4.2 底：8.0	約 2/3	①細 白色粒 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
258図 5 椀 図版 85	口：(12.2) 高：4.9 底：5.8	約 2/3	①粗 石英 黒色鉱物 片岩 白色粒 ②良 ③鈍橙色 ④須恵器
258図 6 椀 図版 85	口：(13.8) 高：5.5 底：6.2	約 3/4	①粗 石英 黒色鉱物 片岩 礫 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
258図 7 椀 図版 85	口：(14.4) 高：5.0 底：6.0	約 1/2	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
258図 8 椀 図版 85	口：(13.3) 高：4.8 底：5.7	約 3/4	①粗 褐色粒 白色粒 石英 ②普通 ③鈍橙色 ④須恵器
258図 9 椀 図版 85	口：(15.3) 高：5.6 底：(7.0)	約 1/3	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③橙色 ④須恵器
258図 10 椀 図版 85	口：(14.8) 高：5.5 底：6.8	約 1/3	①粗 褐色粒 白色粒 片岩 ②普通 ③灰オリーブ ④須恵器
258図 11 椀	口：(15.6) 高：6.3 底：7.5	約 1/3	①粗 石英 褐色粒 ②不良 ③橙色 ④須恵器
258図 12 皿 図版 85	口：(12.8) 高：－ 底：－	約 1/2	①粗 黒色鉱物 片岩 白色粒 ②良 ③鈍橙色 ④須恵器
258図 13 皿 図版 85	口：14.5 高：3.3 底：6.8	約 1/2	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
258図 14 蓋 図版 85	口：18.3 高：－ 鈕：－	約 1/4	①細 石英 ②良 ③灰黄色 ④須恵器
258図 15 蓋 図版 85	口：－ 高：－ 鈕：3.2	約 1/3	①細 石英 白色粒 ②普通 ③灰白色 ④須恵器
258図 16 長頸壺	口：－ 高：－ 底：－	体部約 3/4	①緻密 白色粒 ②良 ③灰白色 ④須恵器
258図 17 小型甕 図版 85	口：(23.6) 高：16.5 底：(11.0)	約 1/2	①細 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
258図 18 羽釜 図版 85	口：(16.4) 高：－ 底：－	約 1/3	①細 石英 黒色鉱物 白色粒 ②普通 ③灰褐色 ④須恵器

図番号 種類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
258図 19 平瓦 図版 85	2.0	灰色 還元	粗 石英	凸；縦撫で 凹；布目 側；2回 端；1回
259図 20 平瓦 図版 86	2.1	灰色 還元	粗 石英	凸；撫で 凹；布目 端；2回
259図 21 平瓦	1.0	灰色 還元	粗 石英	凸；縦撫で 凹；布目 側；2回 端；1回
259図 22 平瓦 図版 85	1.4	灰色 還元	粗 石英	凸；縦撫で 凹；布目 側；2回
259図 23 軒丸瓦	1.6	灰オリーブ 還元	粗 石英	凸；四弁？ 凹；布目
260図 24 丸瓦 図版 85	1.6	明黄褐 酸化	粗 片岩 石英	凸；無文叩 縦撫で 凹；布目 側；1回 端；1回

庚申山2号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
262図 1 坏 図版 86	口：14.4 高：3.9 底：9.6	完形	①細 石英 片岩 ②良 ③鈍褐色 ④土師器
262図 2 坏 図版 86	口：13.8 高：4.0 底：－	ほぼ完形	①緻密 黒色鉱物 白色粒 片岩 ②良 ③鈍赤褐色 ④土師器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
262図　3 坏 図版　86	口：13.4 高：3.4 底：－	ほぼ完形	①細　黒色鉱物　片岩白色粒　②良　③鈍赤褐色　④土師器
262図　4 坏 図版　86	口：13.3 高：3.4 底：－	ほぼ完形	①細　黒色鉱物　片岩白色粒　②良　③明赤褐色　④土師器
262図　5 坏 図版　86	口：13.9 高：4.3 底：9.0	ほぼ完形	①細　石英　片岩 ②普通　③明赤褐色 ④土師器
262図　6 甕 図版　86	口：22.8 高：28.4 底：5.8	ほぼ完形	①細　黒色鉱物　白色粒　②不良　③橙色 ④土師器

庚申山3号住居跡

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
263図　1 坏 図版　86	口：13.1 高：4.5 底：5.7	ほぼ完形	①粗　石英　黒色鉱物片岩　②普通　③灰白色　④須恵器
263図　2 椀 図版　86	口：12.2 高：5.0 底：5.5	約　2/3	①粗　石英　片岩 ②普通　③橙色 ④須恵器
263図　3 椀 図版　86	口：(13.0) 高：4.7 底：7.2	約　2/5	①粗　石英 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
263図　4 椀 図版　86	口：(14.0) 高：4.7 底：6.6	約　1/3	①粗　石英　片岩 ②普通　③黄褐色 ④須恵器
263図　5 椀 図版　86	口：(13.0) 高：4.9 底：6.1	約　1/3	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黄灰色 ④須恵器
263図　6 椀 図版　86	口：(14.0) 高：5.5 底：(7.0)	約　2/5	①粗　石英　褐色粒片岩　②良　③鈍橙色 ④須恵器
263図　7 椀 図版　86	口：(13.8) 高：4.8 底：5.8	約　1/4	①粗　石英　片岩 ②不良　③橙色 ④須恵器
263図　8 椀 図版　86	口：(13.0) 高：4.5 底：(7.5)	約　1/4	①粗　石英　片岩　白色粒　②普通　③鈍黄色　④須恵器
263図　9 椀 図版　86	口：－ 高：－ 底：(6.9)	約　1/4	①粗　石英　白色粒 ②普通　③黄褐色 ④須恵器

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
263図　10 羽釜 図版　86	口：(17.0) 高：－ 底：－	口縁～胴部 約　1/5	①細　石英　黒色鉱物白色粒　②普通　③明黄褐色　④須恵器
263図　11 羽釜 図版　86	口：(17.6) 高：－ 底：－	約　1/5	①細　石英　片岩 ②普通　③黄褐色 ④須恵器

庚申山土坑

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
266図　1 甕 庚1坑	口：(28.0) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
266図　2 坏 庚6坑	口：－ 高：－ 底：7.2	約　1/2	①粗　石英　白色粒 ②普通　③浅黄色 ④須恵器
266図　3 甕 庚6坑	口：(23.6) 高：－ 底：－	口縁～体部 破片	①粗　白色粒 ②良　③灰白色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
266図　4 平瓦 庚6坑	1.6	灰色 還元	粗　石英	凸；縦撫で 凹；布目 側；3回　端；2回

庚申山1溝

図　番号 器　種	法量（cm） （　）推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
267図　1 坏	口：－ 高：－ 底：(8.0)	底部約　1/4	①粗　石英　白色粒 ②普通　③灰色 ④須恵器
267図　2 甕	口：(20.4) 高：－ 底：－	口縁部約 1/2	①細　石英　白色粒 ②良　③灰色 ④須恵器
267図　3 甕	口：(28.2) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③灰白色 ④須恵器
267図　4 甕	口：－ 高：－ 底：(16.4)	底部破片	①粗　黒色鉱物　白色粒　②普通　③灰黄色 ④須恵器
267図　5 甕	口：－ 高：－ 底：－	体部破片	①粗　石英　白色粒 ②良　③褐灰色 ④須恵器

庚申山グリッド

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
267図 6 坏 図版 86	口：13.6 高：4.3 底：6.0	ほぼ完形	①粗 石英 片岩 ②普通 ③黄褐色 ④須恵器
267図 7 坏 図版 86	口：(12.8) 高：3.4 底：6.8	約 2/3	①粗 白色粒 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
267図 8 椀 図版 86	口：(10.6) 高：4.0 底：6.8	約 2/3	①細 白色粒 石英 ②良 ③灰色 ④須恵器
267図 9 甕	口：－ 高：－ 底：－	胴部破片	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器
267図 10 甕	口：－ 高：－ 底：－	破片	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器

グリッド

図番号 器種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他
268図 1 坏	口：(9.3) 高：3.2 底：(5.0)	約 1/3	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③黒褐色 ④須恵器
268図 2 坏	口：(10.7) 高：2.7 底：(4.8)	約 1/2	①粗 黒色粒 白色粒 ②普通 ③灰色 ④須恵器
268図 3 坏	口：13.2 高：3.8 底：6.8	ほぼ完形	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
268図 4 坏	口：(11.9) 高：3.8 底：(11.0)	約 1/4	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③黄灰色 ④須恵器
268図 5 台付坏	口：11.2 高：4.0 底：6.7	ほぼ完形	①粗 石英 白色粒 ②不良 ③灰白色 ④須恵器
268図 6 椀	口：11.8 高：4.7 底：5.6	ほぼ完形	①粗 石英 片岩 ②普通 ③鈍黄色 ④須恵器
268図 7 椀	口：13.6 高：6.9 底：6.6	完形	①粗 石英 白色粒 礫 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
268図 8 椀	口：13.8 高：5.1 底：6.8	約 1/3	①粗 白色粒 片岩粒 ②普通 ③黒褐色 ④須恵器
268図 9 椀	口：13.6 高：5.1 底：6.0	約 1/2	①粗 白色粒 ②普通 ③灰黄色 ④須恵器
268図 10 椀	口：14.1 高：5.4 底：5.7	約 3/4	①粗 白色粒 礫 ②普通 ③黄灰色 ④須恵器
268図 11 椀	口：(15.3) 高：7.1 底：(10.0)	約 1/3	①粗 白色粒 ②普通 ③明褐色 ④須恵器
268図 12 皿	口：13.3 高：2.8 底：5.4	約 3/4	①粗 石英 片岩 ②普通 ③オリーブ黒色 ④須恵器
268図 13 緑釉段皿	口：－ 高：－ 底：7.6	約 1/5	①細 胎土は白色 ②良 ③灰白色 ④
268図 14 皿 灰釉	口：(11.7) 高：2.2 底：6.5	約 1/4	①緻密 白色粒 ②良 ③灰白色 ④
268図 15 皿	口：(14.0) 高：2.3 底：6.6	約 1/3	①粗 褐色鉱物 片岩 白色粒 ②普通 ③浅黄色 ④須恵器
268図 16 皿 灰釉	口：(12.3) 高：2.6 底：7.0	約 1/4	①緻密 白色粒 ②良 ③灰色 ④
268図 17 瓶子	口：3.2 高：7.8 底：6.4	完形	①粗 黒色鉱物 白色粒 ②良 ③浅黄色 ④須恵器
268図 18 椀 灰釉	口：－ 高：－ 底：9.2	底部のみ	①緻密 白色粒 ②良 ③浅黄色 ④
268図 19 耳皿	口：－ 高：－ 底：4.0	約 2/3	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③黒褐色 ④須恵器
269図 20 甕	口：(33.8) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗 石英 白色粒 ②普通 ③褐灰色 ④須恵器
269図 21 甕	口：(26.0) 高：－ 底：－	口縁部破片	①粗 石英 白色粒 片岩 ②普通 ③灰オリーブ色 ④
269図 22 甕(脚部)	口：－ 高：－ 底：(21.1)	脚部破片	①粗 石英 片岩粒 ②普通 ③鈍黄橙色 ④須恵器

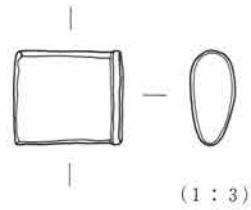
図　番号 器　種	法量(cm) ( )推定値	残存率 出土状態	①胎土　②焼成 ③色調　④その他
269図　23 短頸瓶	口：(5.0) 高：　－ 底：　－	上半約　1/3	①粗　白色粒 ②普通　③灰白色 ④須恵器
269図　24 長頸瓶	口：　－ 高：　－ 底：　－	頸部のみ	①粗　石英　白色粒 片岩　②普通　③黄褐 色　④須恵器
269図　25 甕	口：(18.0) 高：　－ 底：　－	約　1/8	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍橙色 ④須恵器
269図　26 羽釜	口：14.3 高：　－ 底：　－	約　2/3	①細　石英　白色粒 ②良　③橙色 ④須恵器
269図　27 土釜	口：(24.0) 高：　－ 底：　－	約　1/4	①粗　石英　黒色鉱物 ②良　③鈍橙色 ④
269図　28 羽釜	口：(21.2) 高：　－ 底：　－	約　1/3	①粗　石英　白色粒 ②普通　③鈍黄橙色 ④須恵器
269図　29 羽釜	口：　－ 高：　－ 底：　－	口縁部破片	①粗　石英　白色粒 ②良　③橙色 ④須恵器

図　番号 種　類	厚さ (cm)	色調 焼成	胎土	整形等の特徴
270図　30 平瓦	1.8	明褐色 酸化	細　石英 片岩	凸；叩後縦篦削り 凹；布目 側；1回　端；2回
270図　31 丸瓦	1.9	明褐色 酸化	細　石英 片岩	凸；無文叩 凹；布目 側；1回　端；1回
271図　32 軒平瓦	2.3	橙色 酸化	細　石英	凸；横撫で、指横撫で 凹；布目　縫合痕有
271図　33 軒平瓦	2.0	鈍橙色 酸化	縞状 石英	凸；平行叩　横撫で 凹；布目
271図　34 軒平瓦	1.2	灰白色 還元	細　石英 白色粒	凸；縦刷撫で 顎；横撫で
271図　35 軒丸瓦	1.6	灰色 還元	粗 白色粒	凸；四弁 凹；布目

補　遺

入稿後、筒金具1点が記載漏れであることが判明した。章末であるが、観察表と実測を記載する。

尚、出土地点のG区c－11グリッドは、12・15号土坑が位置するが、時期不明の土坑であり本筒金具の帰属する遺構・時期は残念ながら不明である。



(1：3)

図　番号 種　類	大　き　さ (長さ×幅cm；重量)
筒金具	3.6×4.2；26.2g　断面倒卵形の青銅製筒金具。鞘口金具として使用したものと考えられる。

第Ⅲ章　成果と問題点

1．出土土器について

神　谷　佳　明

はじめに

黒熊中西遺跡は、発掘調査によって奈良時代から平安時代にかけての集落跡と、平安時代の寺院跡が検出されている。平安時代の寺院跡は、1992年に刊行された㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第135集『黒熊中西遺跡（1）』で礎石建物、テラス、道路、鍛冶遺構などの寺院の主体部分の遺構・遺物について報告されている。

今回『黒熊中西遺跡（1）』で未報告であった集落跡の竪穴住居跡76軒をはじめとする土坑・溝などの遺構・遺物について整理が行われ報告されるが、前回報告されている寺院跡主体部分との関係や集落跡の時期設定などを行うため竪穴住居跡出土土器についての検討をおこなってみた。

竪穴住居跡より出土した土器には、土師器杯、須恵器杯、椀、皿、高杯、灰釉陶器椀、皿などの供膳具、須恵器長頸壺、短頸壺、小型甕などの貯蔵具、土師器甕、須恵器羽釜、甑などの煮沸具が出土している。

出土土器の検討にあたっては、各竪穴住居跡から普遍的に出土している土師器杯、甕、須恵器杯、椀、羽釜などについてその形態と整形技法の面から分類を行い、各竪穴住居跡でのそれぞれの共伴関係を考慮して各期の設定を行った。

1　分類

各器種の分類にあたっては、前記のように土師器杯、甕、須恵器杯、椀、羽釜の２種類５器種について行った。これらの土器群は、各期の竪穴住居跡において供膳形態および煮沸形態の主体を占める土器であり、竪穴住居跡からは普遍的に出土しているものであることから竪穴住居跡の属する時期の判断に最も有効であると考えられる。

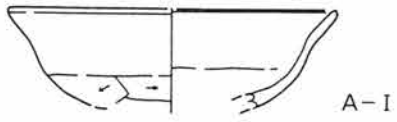
（供膳具分類）

土師器杯

土師器杯は、16・38・42・47・49・69号住居跡などから出土しているが、土師器杯を共伴する時期の住居跡が少ないためか出土量は僅かである。

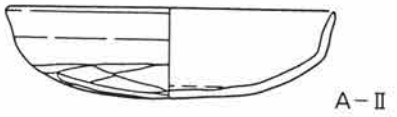
Ａ－Ⅰ

須恵器の蓋受をもつ杯の杯蓋の模倣形態。口縁部下に明瞭ではないが弱い稜をもち、口縁部は外反する。底部は丸みをもつ。整形は口縁部が横ナデ、底部はヘラ削りである。



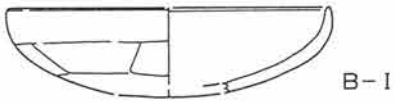
Ａ－Ⅱ

須恵器の蓋受をもつ杯の杯蓋の模倣形態。口縁部下に明瞭ではないが弱い稜もち、口縁部は垂直ぎみで口唇部で僅かに外反する。底部は丸みをもつ。整形は口縁部が横ナデ、底部はヘラ削りである。



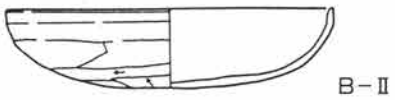
B－Ⅰ

口縁部は内湾ぎみに立ち上がり、底部は丸みをもつ。整形は口縁部が横ナデ、底部はヘラ削りである。



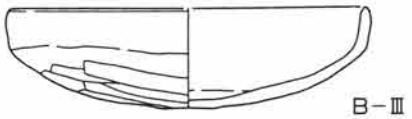
B－Ⅱ

口縁部は下半がやや丸みをもち開き、上半がほぼ垂直ぎみに立ち上がる。底部はごく緩い丸みをもつ。整形は口縁部が横ナデ、底部はヘラ削りである。



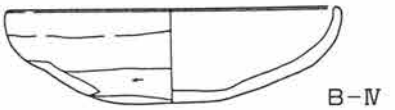
B－Ⅲ

口縁部は垂直ぎみに立ち上がり、底部はごく緩い丸みをもつ。整形は口縁部上半が横ナデ、下半に無調整部分が残り、底部はヘラ削りである。



B－Ⅳ

口縁部は下半が大きく開き、上半は垂直ぎみに立ち上がる。底部はほぼ平坦である。整形は口縁部上半が横ナデ、下半がヘラ削り、底部はヘラ削りである。

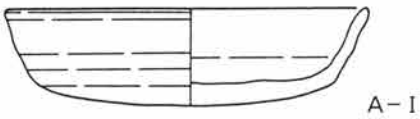


須恵器杯

黒熊中西遺跡の竪穴住居跡から最も多く出土している土器の器種である。出土した須恵器杯の大部分は底部の切り放し技法が回転糸切りによるものであり、焼成も還元焔より酸化焔ぎみや酸化焔によるものが大部分である。

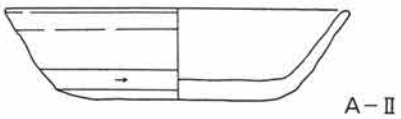
A－Ⅰ

口縁部は直線的に開き、底部はごく緩い丸みをもつ。整形はロクロ使用で底部は回転ヘラ削りが施されている。



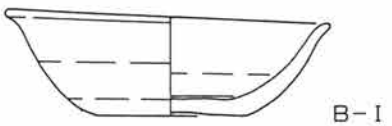
A－Ⅱ

口縁部は直線的に開き、底部は平坦である。整形はロクロ使用で底部は回転ヘラ削りが施され、口縁部最下位にも回転ヘラ削りが及ぶ。

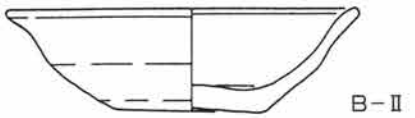


B－Ⅰ

口縁部は上半が外反し、下半は緩い丸みをもち開く。底径／口径比は46～55を示す。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切りである。



B－Ⅰの形態のなかでも焼成が還元焔と酸化焔とがみられたり、成形が丁寧、粗雑なものや器厚の差がみられるなどの変化が存在する。

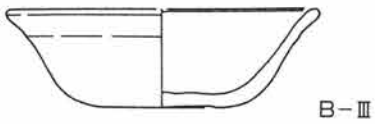


B－Ⅱ

整形はB－Ⅰと同様であるが、口縁部の開きはB－Ⅰより大きい。底径／口径比は39～44を示す。

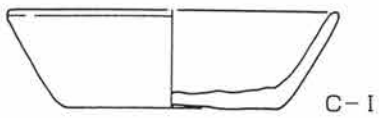
B－Ⅲ

口縁部は上半が外反し、下半は丸みをもち開く。底部と口縁部の境は明確ではない。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切りである。



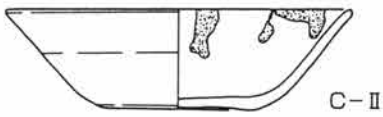
C－Ⅰ

口縁部は直線的でやや開く。底径／口径比は、58・66を示す。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切り。



C－Ⅱ

口縁部は直線的でC－Ⅰより大きく開く。底径／口径比は43・48を示す。整形はC－Ⅰと同様である。

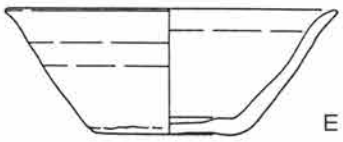


D

口縁部は下半が丸みをもち開く。底径／口径比は45～55を示す。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切りである。

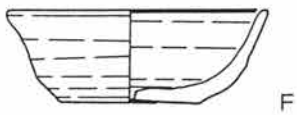
E

器高がやや高く、口縁部は直線的に大きく開き、口唇部は僅かに外反するものも見られる。底径／口径比は37～52を示す。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切りである。



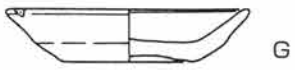
F

口縁部は下半が丸みをもち、上半がやや外反する。底径／口径比は50～55を示す。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切りである。



G

器高が低く、口縁部は直線的に開く。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切りである。

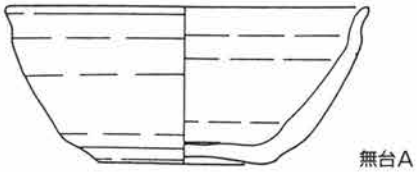


須恵器椀

須恵器椀は、須恵器杯に次いで多く見られる器種である。須恵器椀も須恵器杯と同様に底部の切り放し技法が回転糸切りにより、焼成も酸化焔ぎみや酸化焔によるものが大部分である。

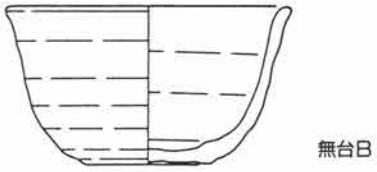
無台A

口縁部はごく緩い丸みをもち開き、口唇部は外反する。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切りである。



無台B

口縁部は最下位が丸みをもち開く、上は垂直ぎみに立ち上がり、口唇部で僅かに外反する。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切りである。



無台C－Ⅰ

口縁部は下半が緩い丸みをもち開き、口唇部がごく僅かに外反するものも見られる。底径／口径比は42～46を示す。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切りである。

無台C－Ⅱ

口縁部の丸みは無台B－Ⅰより大きい。整形は無台B－Ⅰと同様である。

有台A－Ⅰ

器高が高く、体部から口縁部にかけては直線的であまり開かない。高台は底部の若干内側に貼付され「ハ」字状に開く。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切りである。

有台A－Ⅱ

器高が高く、口縁部は直線的でやや開き、口唇部は僅かに外反する。高台は断面三角形や四角形などがあり18号住－10のように粗雑なものも見られる。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切り、高台は貼付されている。

有台A－Ⅲ

形態や整形は、A－Ⅱと同様であるが、口縁部の開きはA－Ⅱより大きい。高台は断面四角形で「ハ」の字状を呈す。

有台B－Ⅰ

口縁部は下半に緩い丸みをもち開き、上半は外反する。高台は断面三角形や四角形などがあり、整形の粗雑なものも多く見られる。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切り、高台は貼付されている。

有台B－Ⅱ

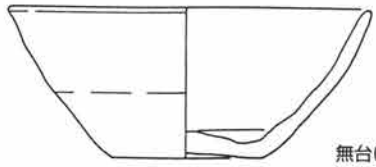
形態や整形は、B－Ⅰと同様であるが、口縁部の開きはB－Ⅰより大きい。

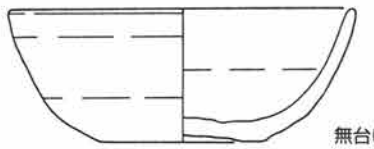
有台B－Ⅲ

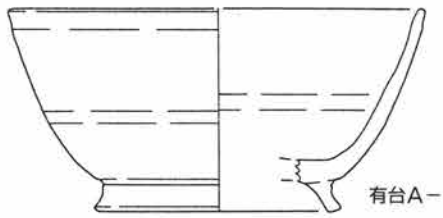
形態や整形は、B－Ⅱと同様であるが、器高がやや低く、口縁部の開きはB－Ⅱより大きい。

有台C－Ⅰ

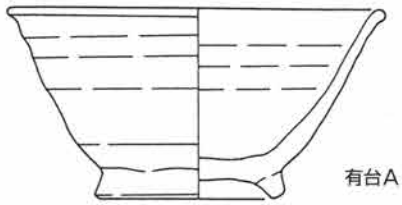
器高がやや高く、口縁部は下半が腰が張るような丸みをもち開き、上半は外反する。高台は断面三角

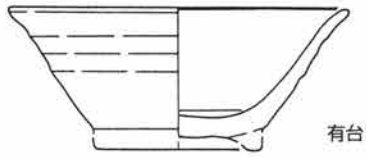

無台C－Ⅰ

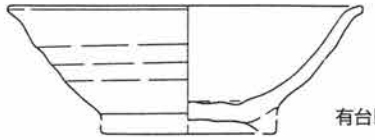

無台C－Ⅱ

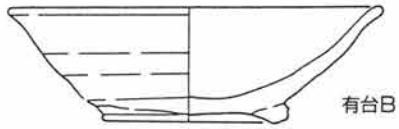

有台A－Ⅰ

有台A－Ⅱ


有台A－Ⅲ


有台B－Ⅰ


有台B－Ⅱ


有台B－Ⅲ

形と四角形がある。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切り、高台は貼付されている。

有台C－Ⅱ

器高がやや高く、口縁部は下半が腰が張るような丸みをもち開き、上半はあまり外反がみられず立ち上がる。高台は断面三角形と四角形があり74号住－４・５、79号住－２のように高いものも見られる。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切り、高台は貼付されている。

有台C－Ⅲ

器高が高く、口縁部はほぼ直線的か下半にごく緩い丸みをもち開き、口唇部で若干外反する。高台は高く、「ハ」字状に開く。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切り、高台は貼付されている。

有台C－Ⅳ

器高が高く、口縁部は下半が丸みをもち開き、上半は大きく外反する。高台はC－Ⅳより更に高く「ハ」状に大きく開く。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切り、高台は貼付されている。

有台C－Ⅴ

器高が高く、口縁部は直線的に開き、口唇部は大きく外反する。高台は底部の端部よりやや内側に貼付されており、下半が外側に反るように大きく開く。整形はロクロ使用で底部の切り放し技法は回転糸切り、高台は貼付されている。

（煮沸具分類）

土師器甕

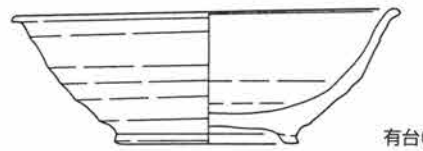
土師器甕は、土師器杯と同様に該当する時期の竪穴住居跡が少ないためか少量であるが、その形態は「く」の字状口縁、「コ」の字状口縁、土釜などと呼称されているものが見られる。

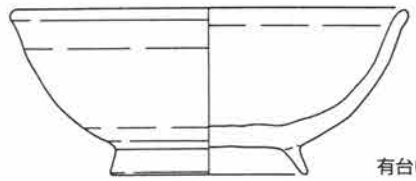
土師器甕－Ⅰ

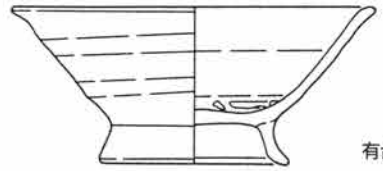
口縁部は直線的に開き、頸部は「く」の字状を呈す。胴部は緩い膨らみをもつ。整形は口縁部が横ナデ、胴部はヘラ削りである。

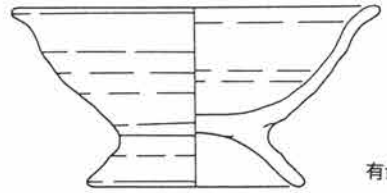
土師器甕－Ⅱ

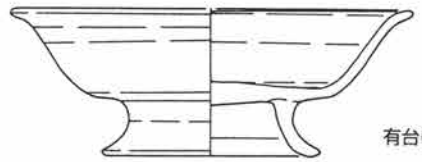
口縁部は、「コ」の字状を呈し、胴部上位で最大径をもつように張る。成形は輪積みである。整形は口縁部か

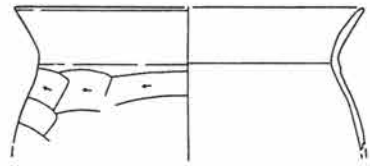

有台C－Ⅰ

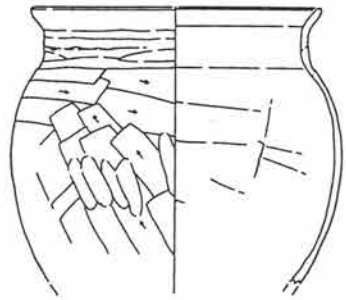

有台C－Ⅱ

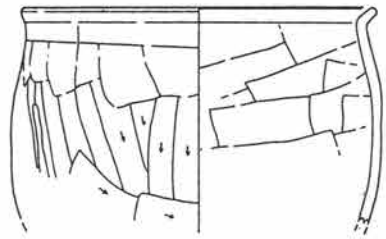

有台C－Ⅲ


有台C－Ⅳ


有台C－Ⅴ


土師器甕－Ⅰ


土師器甕－Ⅱ


土師器甕－Ⅲ

ら頸部にかけて横ナデ、胴部は上位が横方向ヘラ削り、中位以下は斜め方向のヘラ削りが施されている。

土師器甕－Ⅲ

一般的に土釜と呼称されている甕。口縁部は短く「く」字状に開く、胴部はあまり膨らまない。整形は口縁部が横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。

羽釜

黒熊中西遺跡の竪穴住居跡より出土した煮沸具のなかでは、最も多い形態である。

羽釜Ａ－Ⅰ

器高はそれほど高くない。口縁部は直線的で直立かやや内傾し口唇部端部は平坦で外側は引き出されている。、胴部は膨らみをもたない。鍔は胴部より突出し、機能をもっている。整形はロクロ使用で胴部下半は縦方向のヘラ削りと底部付近は横方向ヘラ削りが施されている。

羽釜Ａ－Ⅱ

器高は羽釜Ａ－Ⅰより高い。口縁部は直線的で直立かやや内傾し、口唇部端部は平坦で外側は引き出されている。胴部は羽釜Ａ－Ⅰより膨らみをもつが、あまり膨らみをもたない。鍔は水平にのび、胴部より突出し、機能をもっている。整形はロクロ使用で胴部下半は縦方向のヘラ削りと底部付近は横方向ヘラ削りが施されている。

羽釜Ａ－Ⅲ

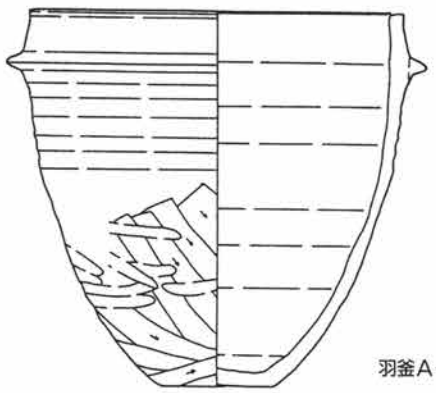
羽釜Ａ－Ⅱに形態や整形は類似するが、鍔は小型化し形骸化している。

羽釜Ｂ－Ⅰ

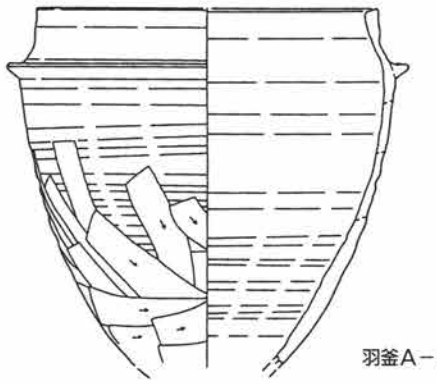
口縁部は内傾しており、口唇部端部は平坦で外側に引き出されているものも見られる。胴部は口縁部からのつづきで膨らむ。鍔は小型で形骸化している。整形は羽釜Ａと同様にロクロ使用で胴部下半は縦方向のヘラ削りと底部付近は横方向ヘラ削りが施されているが、12号住－11のように胴部上位まで及ぶものも見られる。

羽釜Ｂ－Ⅱ

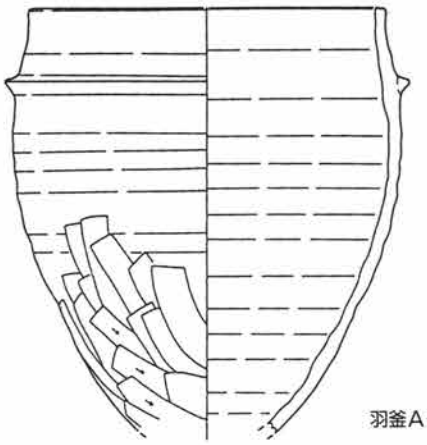
口縁部は鍔の上位で大きく内傾し、口唇部端部外側の多くは引き出されている。胴部は膨らみをもち、



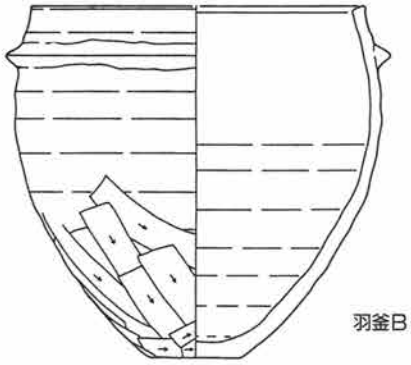
羽釜Ａ－Ⅰ



羽釜Ａ－Ⅱ



羽釜Ａ－Ⅲ



羽釜Ｂ－Ⅰ

鍔は形骸化している。整形は羽釜B－Ⅰと同様であるが、ヘラ削りが胴部上位まで及ぶものが多く見られる。

羽釜C

口縁部は鍔の上位で大きく内傾し、口唇部端部外側の多くは引き出されている。胴部は「く」の字状に膨らみをもち、鍔は形骸化している。整形はロクロ使用で胴部は、底部から上位から中位にかけて縦方向ヘラ削りと底部付近は横方向ヘラ削りが施されている。

羽釜D－Ⅰ

器高に比べて口径が大きい。口縁部は鍔の上位で大きく内傾し、口唇部端部外側の多くは引き出されている。胴部は中位で球状の膨らみをもち、鍔は形骸化している。整形はロクロ使用で胴部のヘラ削りは中位までである。

羽釜D－Ⅱ

形態や整形は羽釜D－Ⅰと同様であるが、胴部の球状の丸みは羽釜D－Ⅰより大きい。鍔は小型で形骸化している。

羽釜D－Ⅲ

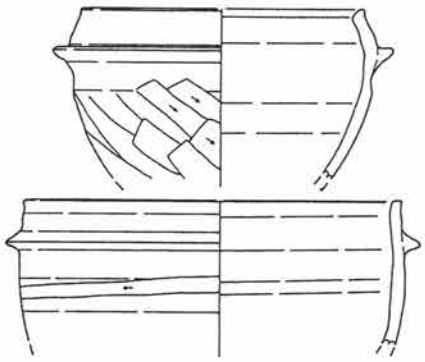
口径が大きく、器高が低い。口縁部から胴部にかけては羽釜D－Ⅰ・Ⅱと同様に球状を呈し、口唇部端部は平坦である。鍔は小型で形骸化している。整形はロクロ使用で胴部は上位まで縦方向か斜め方向のヘラ削りが施されている。

羽釜E－Ⅰ

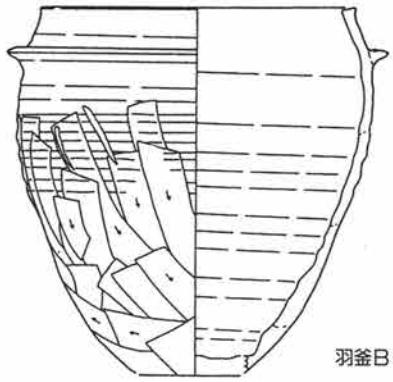
口縁部から胴部上半分の残存しかないため詳細は不明ではあるが、口径が大きく口縁部は直立し、口唇部端部は大部分が平坦である。胴部はほとんど膨らみをもたない。鍔は小型で形骸化している。整形はロクロ使用で胴部は一部に上位までヘラ削りが施されている。

羽釜E－Ⅱ

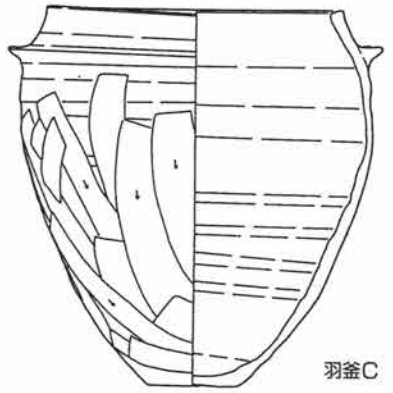
羽釜E－Ⅰに類似しているが、鍔はより小型化し、全く形骸化している。整形はロクロ使用で胴部は底部から上位にかけてヘラ削りが施されている。



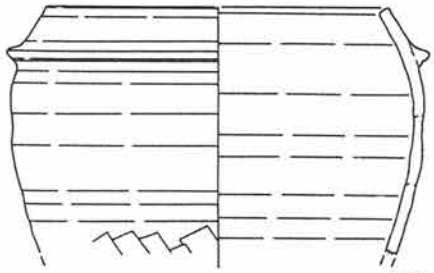
羽釜D－Ⅲ



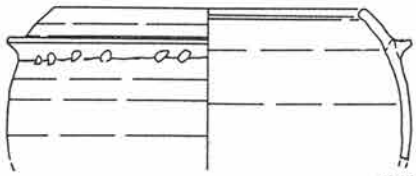
羽釜B－Ⅱ



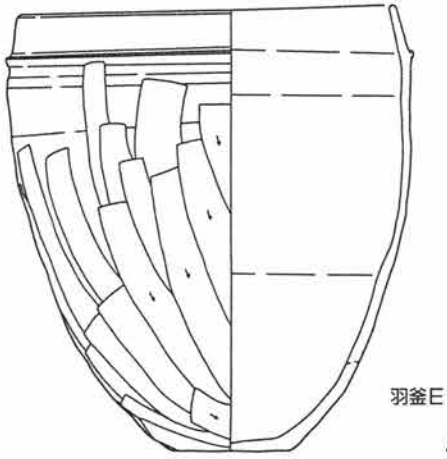
羽釜C



羽釜D－Ⅰ



羽釜D－Ⅱ



羽釜E－Ⅱ

2　各期の特徴

黒熊中西遺跡の竪穴住居跡出土の土器は、1期から10期までに設定できるが、1期から3期までの間は該当する竪穴住居跡の軒数も少なく土器量も少ない。それに対して5期から8期にかけては該当する軒数も多く土器量も多く見られる。

各期の特徴は、以下のとおりである。

1期

16号住居跡、49号住居跡に代表される。土師器杯A－Ⅱ、B－Ⅱ、B－Ⅲ、B－Ⅳ、須恵器杯A－Ⅰ、盤、須恵器長頸壺、土師器小型甕、土師器甕－Ⅰなどで構成される。

須恵器杯では、蓋も存在するが出土している杯身の中には蓋を伴う形態のものは存在していない。杯蓋は、環状の摘をもち、内面にカエリをもつものと端部を折り曲げているものとが共伴している。須恵器盤は、口径24.0cmと大型で口縁部がほぼ直立し口唇部端部に蓋受状を呈するものである。須恵器長頸壺は、肩部に明瞭な稜をもち、肩部の周辺部に2条の凹線で区画された中に列点文が施されている。土師器小型甕は、球状の胴部を呈する。

供膳具の割合は土師器杯が多くを占めている。

2期

38号住居跡、42号住居跡に代表される。土師器杯B－Ⅰ～Ⅳ、須恵器杯A－Ⅱ、C－Ⅰ、D、須恵器椀、須恵器長頸壺、短頸壺、甕、土師器甕－Ⅰで構成される。須恵器杯は、底部の切り放し技法が回転ヘラ削りと回転糸切りが見られるが、回転糸切りのほうが多い。また、38号住－4のように底部切り放し技法は回転糸切りで口縁部下位に回転ヘラ削りが施されているものも見られる。須恵器杯蓋は、端部が折り曲げられたものであるが、摘は環状と偏平なものが見られ、38号住居跡のものは器高の低い偏平な形態を呈する。須恵器椀は、底部から体部にかけての破片だけであるためその形態は不明確である。

3期

79号住居跡に代表され、須恵器杯C－Ⅱ、須恵器椀有台A－Ⅰ、土師器甕－Ⅱで構成される。土師器の甕は、79号住－5のような台付甕は口縁部がほぼ「コ」の字状を呈するのに対して大型の甕はまだ明瞭な「コ」の字状を呈していない。

3期に該当する住居跡は、79号住居跡だけであるが供膳具の構成から土師器は見られない。

4期

5号住居跡、31号住居跡、32号住居跡、78号住居跡に代表される。土師器杯、須恵器杯B－Ⅰ・Ⅱ、C－Ⅱ、須恵器椀A－Ⅰ、B－Ⅰ・Ⅱ、C－Ⅰ、皿、土師器台付甕、土師器甕－Ⅱで構成される。土師器甕の口縁部は、明瞭な「コ」の字状を呈す。土師器杯は、78号住居跡より出土しているが、口縁部は上半が横ナデで下半が指頭痕が残るが無調整、底部は著しく雑なヘラ削りである。

4期では、供膳具に須恵器の皿が出現し、須恵器杯や椀の焼成が還元焔だけでなく酸化焔ぎみのものが見られる。

5期

10号住居跡、14号住居跡、46号住居跡、50号住居跡に代表される。須恵器杯B－Ⅰ、E、須恵器椀無台A－Ⅰ、B－Ⅰ、B－Ⅱ、有台B－Ⅰ～Ⅲ、須恵器皿、須恵器壺、甕、土師器甕B－Ⅱ、須恵器甑などで構成される。土師器甕は、口縁部の「コ」の字状がやや退化している。須恵器杯や椀は、4期と同様に還元焔だけでなく酸化焔ぎみや酸化焔によるものが見られ、その割合は4期よりおおくなる。

6期

3号住居跡、18号住居跡、29号住居跡、35号住居跡、43号住居跡、44号住居跡、53号住居跡に代表される。須恵器杯B－Ⅰ～Ⅲ、E、須恵器椀無台C－Ⅰ、無台A－Ⅱ、B－Ⅰ、C－Ⅲ、須恵器皿、灰釉陶器椀、皿、須恵器長頸壺、小型甕、甕、土師器台付甕、羽釜A－Ⅲ、B－Ⅰ、B－Ⅱ、C、須恵器甑などで構成される。6期では、煮沸具が土師器甕から須恵器羽釜へ主体が変化する。須恵器杯や椀は、焼成が5期以上に酸化焔ぎみ、酸化焔のものが多く見られる。灰釉陶器は、大原2号窯式期のものである。

7期

7号住居跡、12号住居跡、17号住居跡、19号住居跡、22号住居跡、23号住居跡、33号住居跡、36号住居跡、54号住居跡、65号住居跡、67号住居跡、80号住居跡に代表される。土師器椀、須恵器杯B－Ⅰ、B－Ⅱ、E、須恵器椀無台A－Ⅰ、B、C－Ⅰ、有台A－Ⅱ、A－Ⅲ、B－Ⅰ～Ⅲ、C－Ⅰ～Ⅳ、須恵器皿、灰釉陶器椀、須恵器小型長頸壺、広口壺、須恵器小型甕、甕、土師器台付甕、土師器甕－Ⅲ、須恵器羽釜A－Ⅰ～Ⅲ、B－Ⅰ、B－Ⅱ、C、D－Ⅰ～Ⅲ、E－Ⅰで構成される。65号住－2の土師器椀は、体部上半に指頭痕がのこり、下半は縦方向のヘラ削りが施されている。須恵器の焼成は、大部分が酸化焔ぎみまたは酸化焔によるものである。灰釉陶器は、大原2号窯式期のものである。

8期

55号住居跡、61号住居跡、68号住居跡、73号住居跡に代表される。須恵器杯は、B－Ⅰ～Ⅲ、D、E、F、須恵器椀無台C－Ⅰ、有台B－Ⅰ、C－Ⅱ、C－Ⅲ、須恵器皿、須恵器鉢、灰釉陶器椀、皿、須恵器小型甕、羽釜A－Ⅱ、A－Ⅲ、B－Ⅰ、B－Ⅱ、C、E－Ⅱで構成される。須恵器皿の中には、55号住－18のように高台が高くなる高足のものが見られる。須恵器の焼成は、すべて酸化焔ぎみか酸化焔によるものである。灰釉陶器は、大原2号窯式期と虎渓山1号窯式期のものが見られる。

9期

74号住居跡に代表され、須恵器椀無台C－Ⅱ、有台B－Ⅰ、C－Ⅱ、須恵器皿、須恵器片口鉢、広口壺、甕、羽釜A－Ⅰ、D－Ⅲ、E－Ⅰ、E－Ⅱなどで構成される。

9期の羽釜は、形態や成形などの面で粗雑化し、鍔は全く形骸化している。

10期

60号住居跡に代表され、須恵器皿、須恵器甕、土師器甕－Ⅲ、須恵器羽釜D－Ⅰ、E－Ⅱなどで構成される。10期では、9期まで見られた杯や椀などの供膳具が見られず、60号住－1のような小型の皿だけである。土師器甕－Ⅲは、口径が大きく口縁部の短いものである。

3　実年代について

黒熊中西遺跡の竪穴住居跡出土の土器は、各器種の画期によって10期に区分できたが、それらの土器群に年代を付与することは土器そのものに紀年銘の記載でもない限り難しい点がある。しかし、黒熊中西遺跡では、そのものには紀年銘の記載はないが10号住居跡から出土した砥石に「元慶四年」（西暦880年）の紀年銘が記載されている。10号住居跡より出土している土器群は、その形態から5期に相当しており、5期の土器群の年代観はこの砥石の紀年銘の年代を前後する年代を付与できると考えられることから9世紀第4四半期に相当すると想定される。

上記のように5期の年代観が想定されるとその前後の4期、6期は、土器群の形態的変化に連続性が見られることから4期は9世紀第3四半期、6期は10世紀第1四半期に想定できる。

第Ⅲ章　成果と問題点

1期から3期にかけては、該当する竪穴住居跡や共伴する土器群が少ないこともあり年代観を付与するのは難しい点があるが、1期の須恵器杯蓋にカエリのあるものとないものが存在している点を今までの県内の成果を援用して推定すると1期は8世紀前半代、3期は9世紀前半代の年代観が想定される。

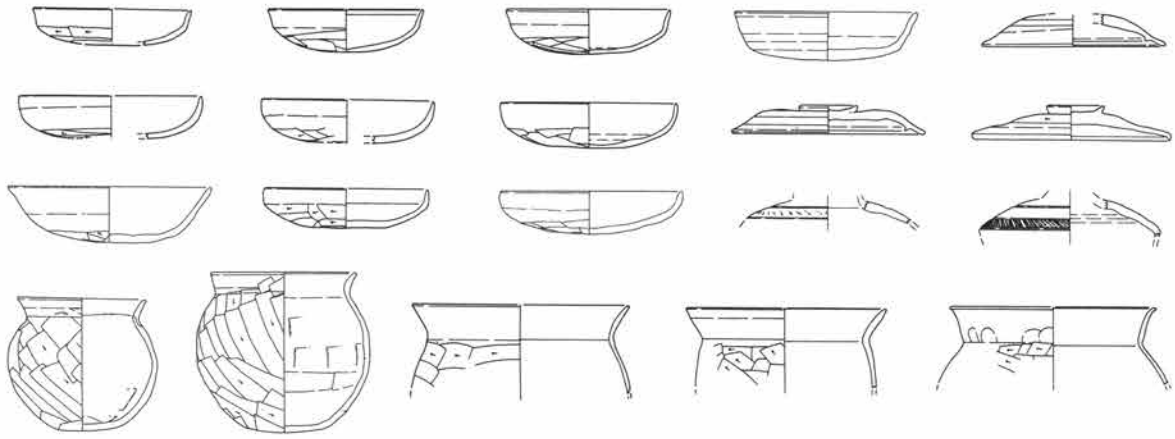
7期以降の年代観は、8期の灰釉陶器に虎渓山1号窯式期の椀が出現しており、灰釉陶器の年代観を援用して8期の年代観を想定すれば10世紀の後半代の年代が付与される。

9期・10期については、年代観を付与する根拠はないが、8期の年代観から類推して10世紀末から11世紀代の年代観が付与される。

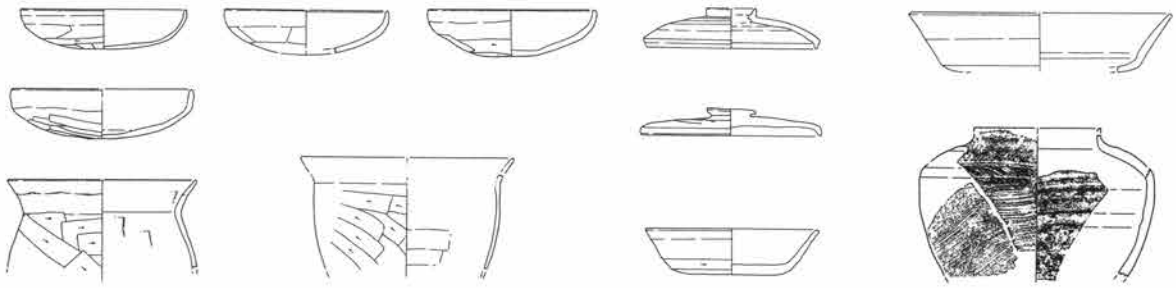
以上のように黒熊中西遺跡の竪穴住居跡から出土した土器群は、概ね8世紀前半代から11世紀代の年代観が付与される。

参考文献

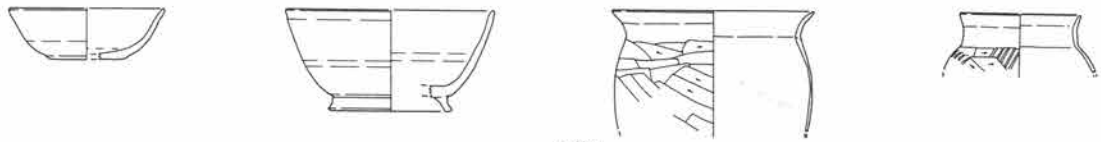
1978　井上唯雄「群馬県下の歴史時代の土器」『群馬県史研究』第8号
1981　田辺昭三「須恵器大成」角川書店
　　中沢悟「出土土器の分類と編年」『清里陣場遺跡』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
1983　綿貫綾子「出土土器の分類と編年」『有馬条理遺跡』渋川市教育委員会
1984　坂口一・三浦京子『中尾遺跡（遺物編）』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
　　小島敦子「賀茂遺跡出土の平安時代の土器について」『賀茂遺跡』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
　　唐沢保之「奈良・平安時代の土器の分類」『芳賀団地遺跡群』第1巻（芳賀東部団地遺跡Ⅰ）前橋市教育委員会
1986　坂口一・三浦京子「奈良・平安時代の土器の編年－住居の重複と供伴関係による土器型式組列の検討－」『群馬県史研究』24号
　　小林敏夫「出土土器の編年」『大久保A遺跡』吉岡村教育委員会
　　外山政子「平安時代の土器について」『下佐野遺跡Ⅱ地区』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
1987　三浦京子「出土土器について」『下東西遺跡』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
　　桜岡正信「土器の分類と時期設定」『上野国分僧寺・尼寺中間地域』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
1988　中沢悟・飯田陽一「奈良時代の須恵器について」『研究紀要』5　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
　　綿貫邦男「成果と課題－各段階の土器様相－」『鳥羽遺跡Ⅰ・J・K区』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
　　徳江秀夫「出土土器の検討」『荒砥天之宮遺跡』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
　　唐沢保之・前原照子「土器の分類」『芳賀団地遺跡群第2巻芳賀東部団地遺跡Ⅱ』前橋市教育委員会
　　依田治雄「出土土器の分類」『田篠上平遺跡』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
1989　徳江秀夫「出土土器について」『荒砥洗橋遺跡・荒砥宮西遺跡』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
1991　桜岡正信「7世紀代以降の土師器坏の画期とその要因について－群馬県地域を中心として－」『群馬考古学手帳』Vol.2群馬土器観会
1992　綿貫邦男「群馬県における歴史時代の土器について－年代基準資料の現状－」『群馬考古学手帳』Vol.3群馬土器観会



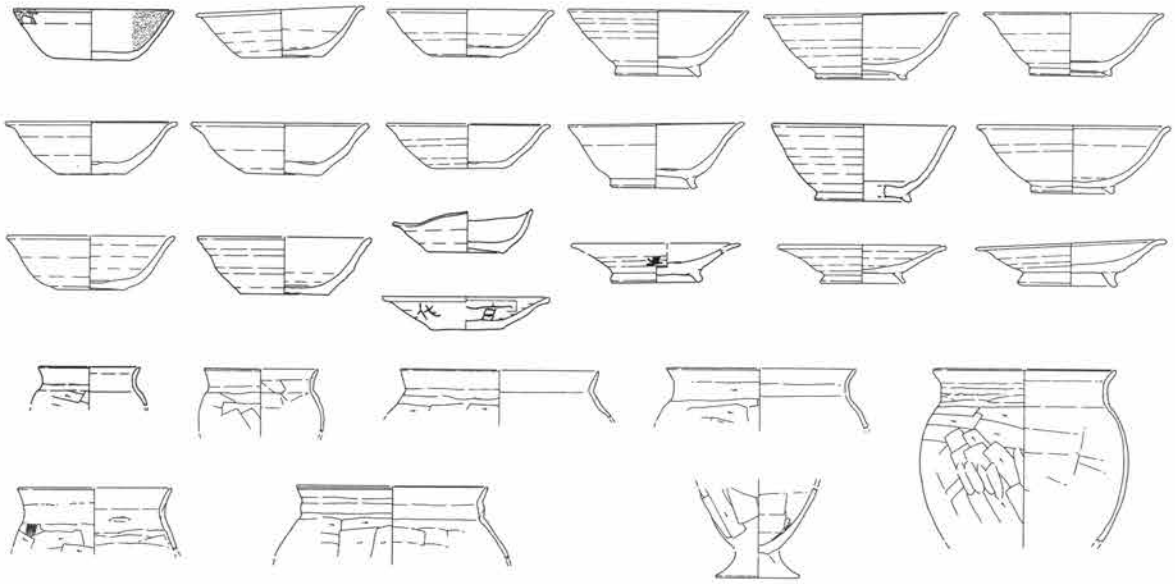
1期



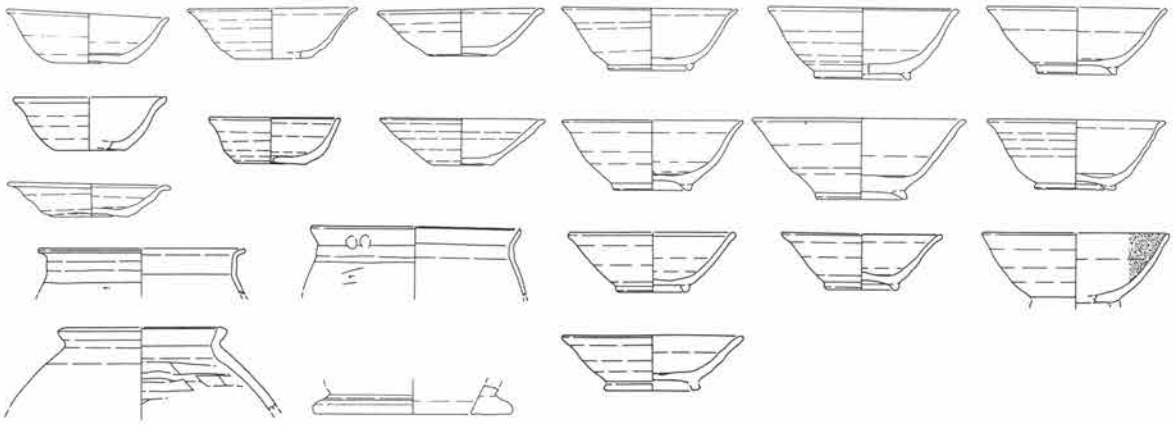
2期



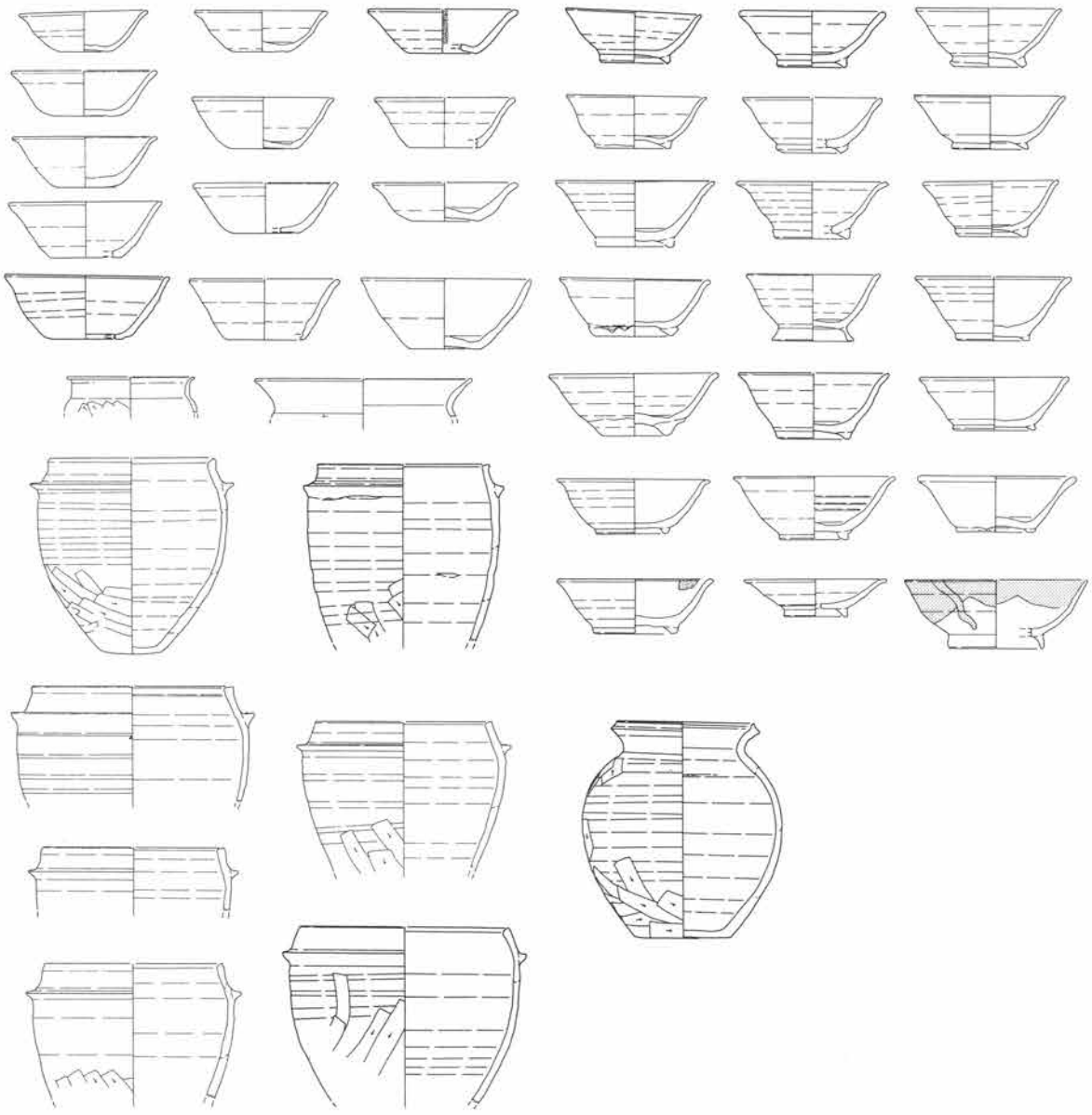
3期



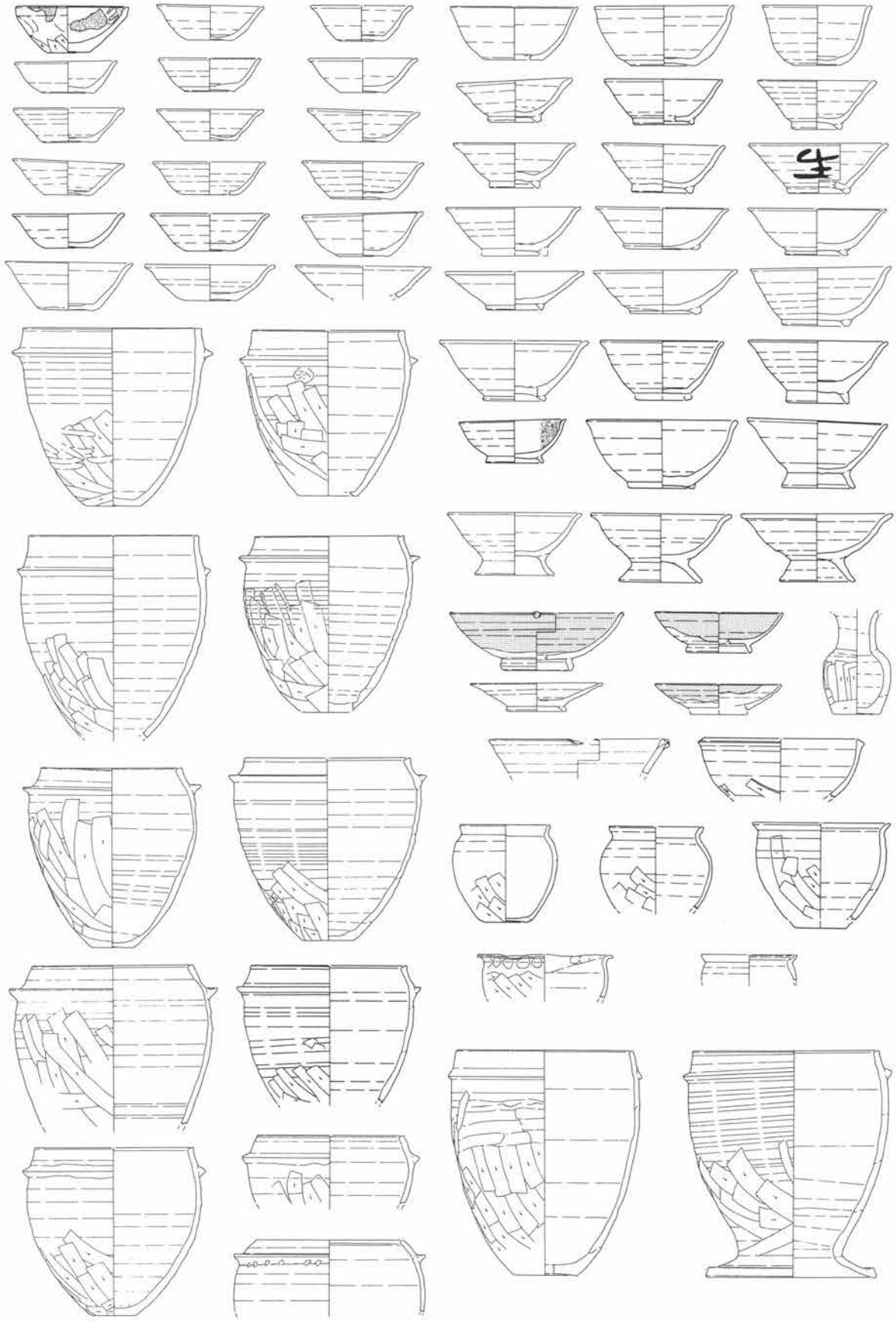
4期



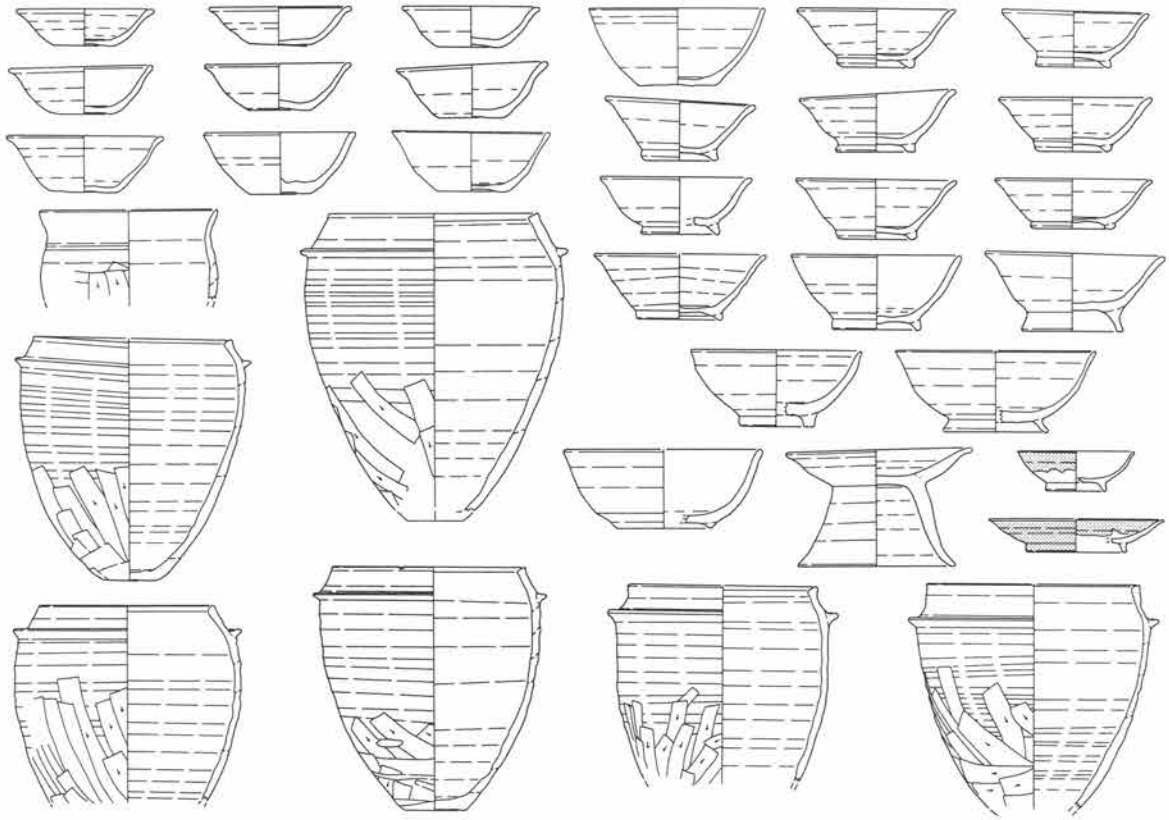
5期



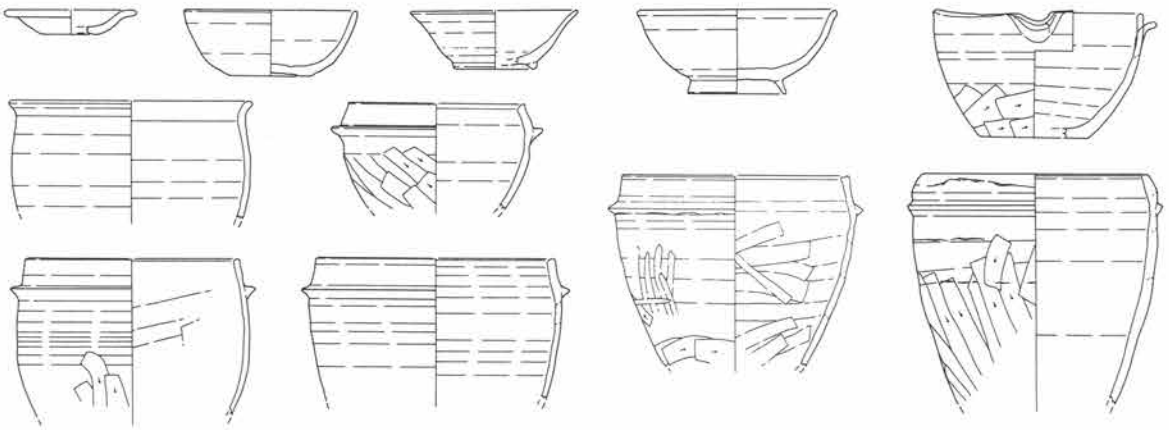
6期



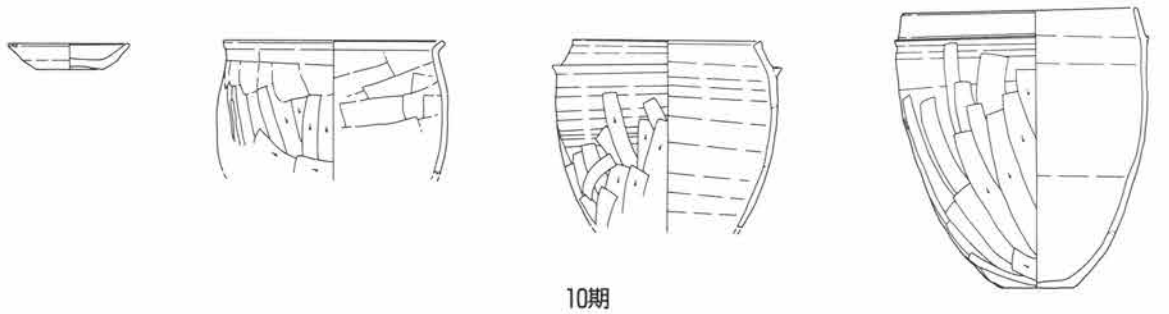
7期



8期



9期



10期

2．まとめにかえて

山　口　逸　弘

黒熊中西遺跡は、複数の礎石建物を中心とした平安時代の寺院跡を検出し、当該期の寺院研究、信仰に関して良好な資料を提示した。この寺院跡は、前報告である『黒熊中西遺跡（1）』において、詳細に報告されており、本書は、この寺院跡周辺で検出された集落跡を中心に報告した。無論、前報告においても指摘されたように、集落跡といえども寺院跡と密接な関連が想起されており、一概に該期の一般集落のような単純な認定はできない。住居跡と寺院跡との関係と接点を見いだした分析・整理が必要である。

ただし、出土遺物の整理・抽出にあたっては、寺院跡関連遺物に傾斜する事なく、遺存度・出土位置等を考慮し、等質な視点で掲載したつもりである。また、個々の遺構についても、断定的な性格付けはなるべく避け、様々な可能性を指摘した。これらについては本文を参照していただきたい。

その結果、住居跡出土遺物については供膳具である坏・椀類の他、土釜・羽釜等の煮沸具を含めた日常什器類、竈構築材等に再利用された瓦類が報告できた。また、2号遺物集積遺構からは、須恵器甕類の集中が見られ、22号住居跡や73号住居跡では窯跡群からの直接的な搬入とも思われる未使用に近い羽釜等の一括廃棄が見られた。このように本遺跡出土遺物は量的にも器種的にも豊富な様相を呈しながらも一方、宗教遺物の占める割合は、寺院跡規模に比して、非常に少ない傾向が把握できよう。

住居跡群も、狭小な丘陵性の台地に、ある程度の重複関係が存在しながらも、全体的に単独の占地状況を見せ、その規模・主軸方位さらに住居内外の施設も平安時代の一般集落とほぼ同様の景観が看取された。

つまり住居跡および出土遺物の様相は、寺院跡へ直接的に結びつく要素が希薄であり、住居居住者は、特殊集団としては捉えられないのである。

以上の要件を念頭に置き、寺院跡を包括した黒熊中西遺跡の位置付けを考えてみると、第1章第1節でも述べたように、周辺の遺跡とのかかわりが非常に重視されるのである。

すなわち、

1　本遺跡南側の山地に展開する窯跡群

2　鏑川右岸の段丘上に立地する、矢田遺跡等の集落遺跡

3　本遺跡に代表される丘陵地に連続する寺院跡

当地域では以上の三様相が、相互に関連を重ねて該期地域相を形成したものと考えられる。上記に挙げた三者の相互関連は、現状の研究段階では明らかにはなっておらず、今後の課題となっており、そのうえ、集落間、寺院跡間、窯跡間の位相ともいうべき差異も明確ではない。本遺跡の場合、2・3の要素を兼ね備え、かつ窯跡群に近距離に位置する地理的な要因が加わる。このような様相は、集落遺跡としては特筆すべき項目であり、相互関連が明らかになっていない以上、その性格付けに際しては慎重な分析が望まれよう。

その中で、当地域の寺院跡と集落遺跡の動態を考えると、本遺跡周辺の濃密な寺院跡分布を鑑みて、集落とセットで設営される寺院の存在を予想しておきたい。例えば、寺院設営・修復・移動の際には、ある程度の労働力や技術集団が必要であり、また様々な施設からなる寺院を維持・運営するための集団の存在も考えられよう。これらの集団を包括する集落は、本遺跡に見られるように、住居跡出土遺物は日常の什器中心となり、少量の宗教遺物が伴うのではないだろうか。住居跡のみで構成される単独型集落とは性格を異にすることから、本報告では「寺院併設型集落」として本遺跡集落跡を位置付けたい。

また本報告第Ⅲ章では、この日常什器類に視点をあて出土土器の分類をおこない、8世紀前半～11世紀に至

る土器様相を提示した。本遺跡出土土器のみを扱った作業ではあるが、当地域の古代土器群の一側面を明確にした。これによって得られた年代観を、各住居跡の時間的な位置付け、さらに寺院跡の設営～廃絶時期を推定する際に参考にしていただきたい。特に、10号住居跡出土の「元慶四年□・・」(880年) と刻字された砥石と少量ながらも伴出した土器群は、将来、該期編年作業を構築・再構築する際に、検証されるべき資料である。ただ、本文中にも記したが、短絡的な実年代比定は研究の混乱を招く恐れがある。結論的な編年作業は避けるべきである。該期土器のもつ性質を更に吟味して、土器のもつ意味を更に探る必要があろう。土器は年代基準を与える資料ではあるが、同時に当時の日常生活を具現化する絶好の資料である。さらに、流通経路等の把握も土器の観察から果たせ、他地域との相互交渉を明確にし得る資料の筈である。また敢えて、編年作業を考える際にも、当地域の該期土器年代を10号住居跡出土遺物のみで確定せず、周辺遺跡の資料との比較・分析によって、年代を推論しなければならないだろう。勿論、出土状態・使用痕跡の観察も重要な項目であり、分析する要素は多岐にわたる。一つの地域相を把握する作業には余りにも多くの手続きが必要なのである。本書掲載の遺構・遺物および考察が、その作業の一助となり得れば良いのだが。

最後に再度、寺院跡について考えてみたい。確かに前冊『黒熊中西遺跡（1）』において、検出された礎石建物を中心にした寺院跡を、山地寺院としての方向性を模索した。しかしあくまでも可能性を指摘したに過ぎず、山地寺院（山岳寺院）としての性格付けは確定していない。

にもかかわらず、前冊刊行後、本遺跡検出の寺院跡を山岳寺院として引用される例が見られる。確かに、丘陵の頂部に占地すること、礎石建物の様相からも、山岳寺院に密接な関連を持つ天台宗の存在が想起され、本遺跡の寺院跡を山岳寺院として位置付ける要素ともなる。しかしながら、集落が近接することや、周辺に古代寺院跡が群在する要素を考えると、この丘陵に独立して存在した山岳寺院とは捉え難い。むしろ、横列する丘陵性地形に占地する古代寺院跡群の一つとした地形的な位置付けと、単独の寺院跡との区分からも「集落併設型寺院」として、先に述べた「寺院併設型集落」と対応させた性格付けが妥当であろう。

古代寺院跡を考える場合、平地寺院あるいは山岳寺院という二極化した対立構造に視座を置かず、様々な形態の寺院跡を類型化し、個々の類型と出土遺物の特徴あるいは周辺遺跡との相関関係を適格に捉える必要があるのではないだろうか。あらゆる方法論・分析方法を模索する必要があろう。

本報告は、古代寺院跡周辺の集落遺跡が中心であり、寺院跡そのものの分析には至らないが、検出遺構、出土遺物は当地域の特徴を備えた古代集落様相を示唆することから、周辺遺跡の報告が整い次第、分析の俎上に乗る資料として自負する。しかしながら、編者の不勉強故、この良好な資料群を生かしきれていない点があり、多くの反省と課題を残した。今後はこの反省を教訓に、山積する課題の一つでも明らかにしていきたい。先学諸氏のご叱責とご助言を切に望む。

写　真　図　版

遺跡全景

図版 2

1 号住居跡

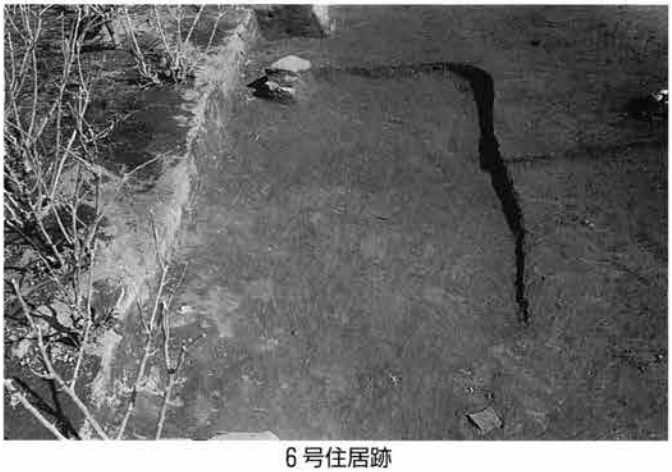
2 号住居跡

3 号住居跡

3 号住居跡竈

4 号住居跡

5 号住居跡



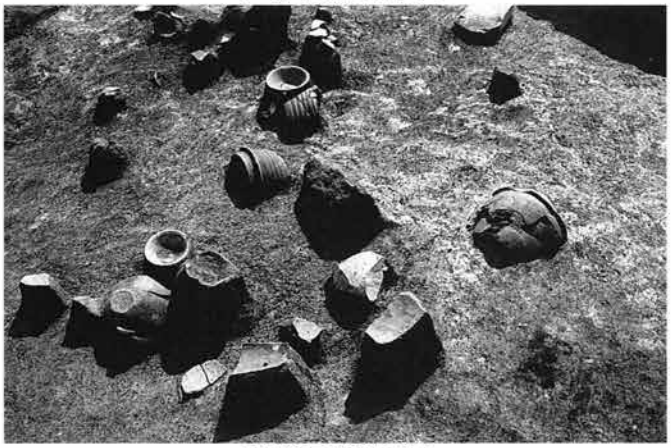
6 号住居跡

図版 4

7 号住居跡

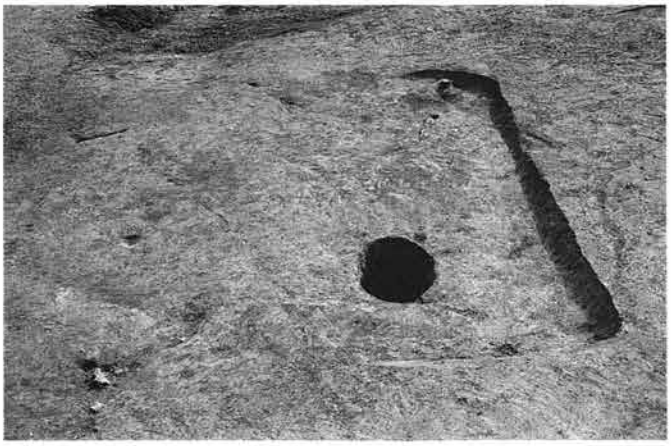
7 号住居跡遺物出土

7 号住居跡竈



7 号住居跡遺物出土

7 ・ 8 号住居跡



9 号住居跡

10号住居跡

11号住居跡

12号住居跡

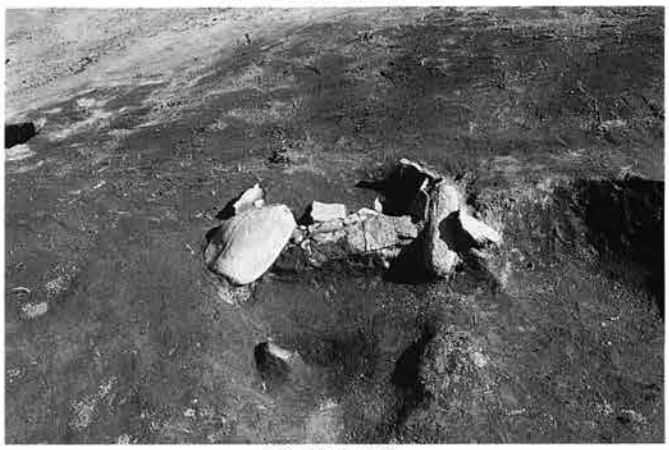
12号住居跡竈

図版 6

12号住居跡竈

12号住居跡床面甑出土

13号住居跡

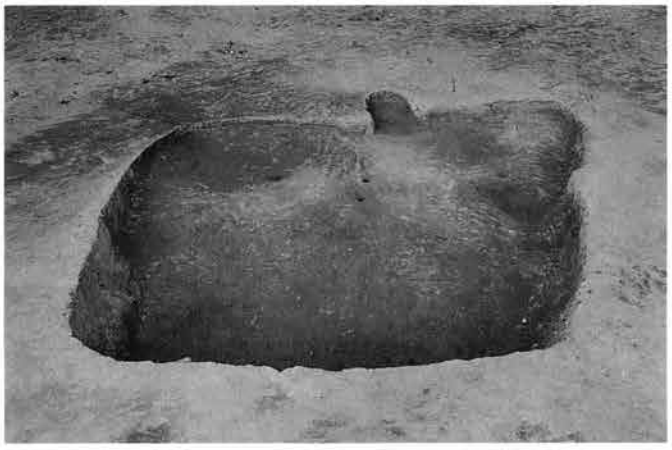

13号住居跡竈

14号住居跡

14号住居跡竈

16号住居跡

16号住居跡竈



17号住居跡

18号住居跡

18・19号住居跡

19号住居跡

20・21号住居跡

図版 8

22号住居跡遺物出土

22号住居跡竈

22号住居跡竈

22号住居跡遺物出土

22号住居跡遺物出土

22号住居跡遺物出土

22号住居跡遺物出土

22号住居跡使用面

22号住居跡掘り方

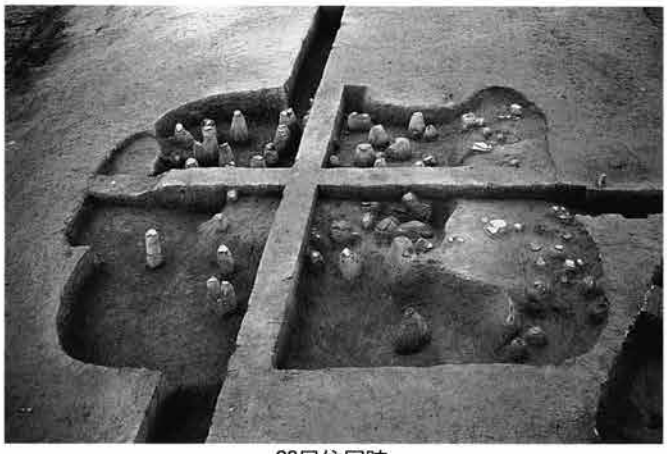
22号住居跡・西尾根斜面

図版10

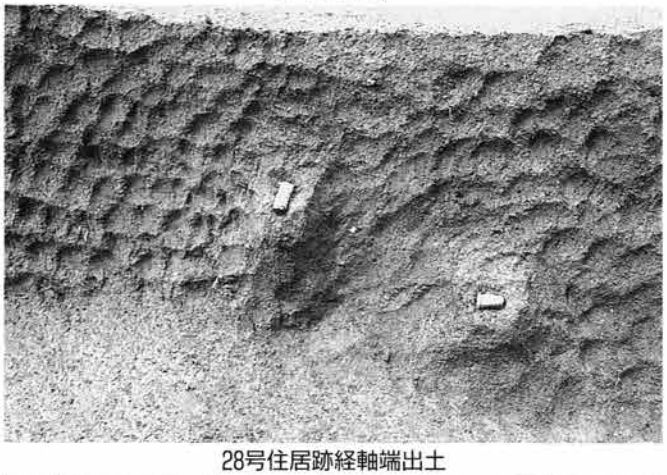
23号住居跡

25・26号住居跡

27号住居跡



28号住居跡



28号住居跡経軸端出土

28号住居跡竈

28号住居跡遺物出土

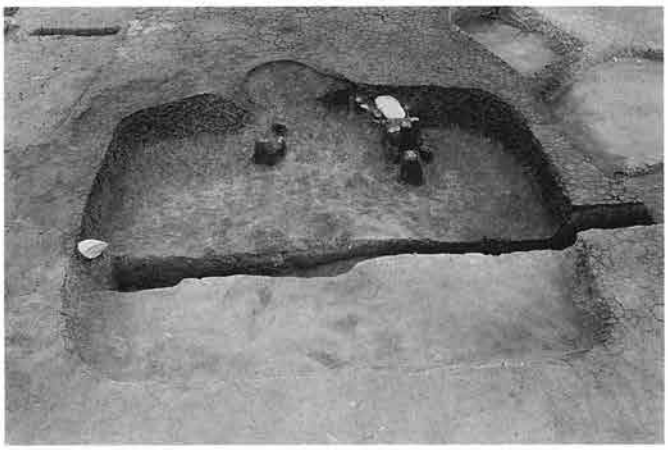
28・66号住居跡

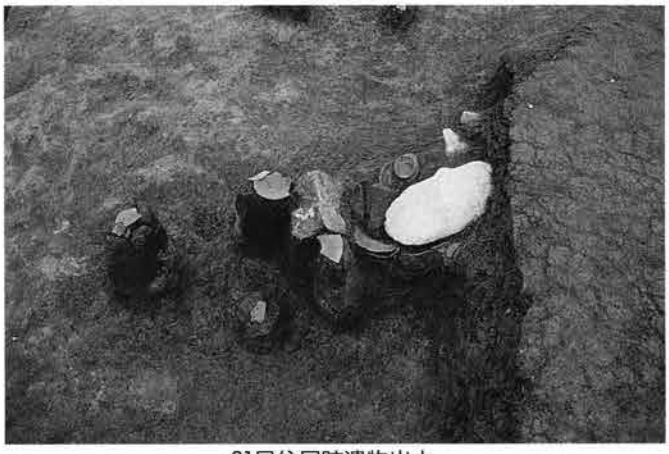
29号住居跡

29号住居跡竈

30号住居跡

30号住居跡竈


31号住居跡


31号住居跡遺物出土

32号住居跡

32号住居跡遺物出土

図版12

33号住居跡

33号住居跡竈

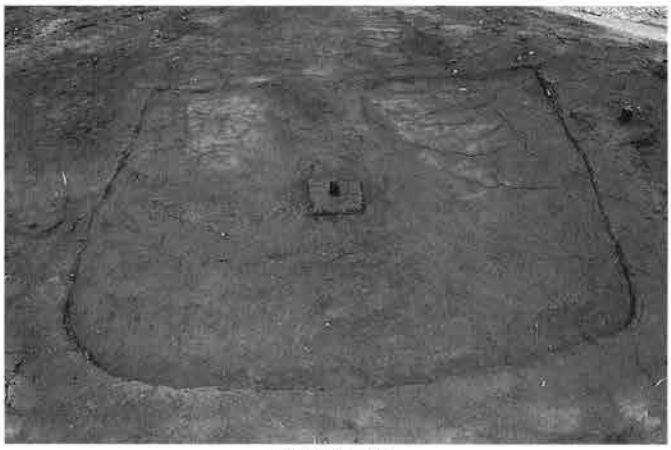
33号住居跡遺物出土

34号住居跡

35号住居跡

35号住居跡竈

35号住居跡竈掘り方


36号住居跡

37号住居跡

38号住居跡

38号住居跡竈

40号住居跡

40号住居跡竈

図版14

41号住居跡

41号住居跡遺物出土

41号住居跡竈

41号住居跡掘り方

42号住居跡

43号住居跡

43号住居跡竈

43号住居跡遺物出土

43号住居跡遺物出土

43号住居跡掘り方

図版16

44号住居跡

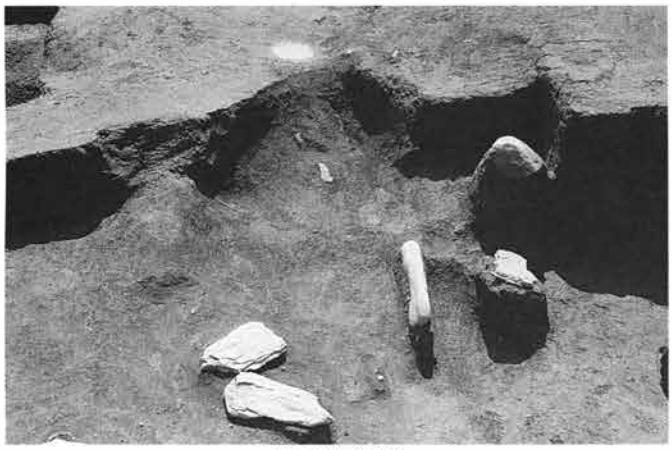
46・60号住居跡

46号住居跡竈

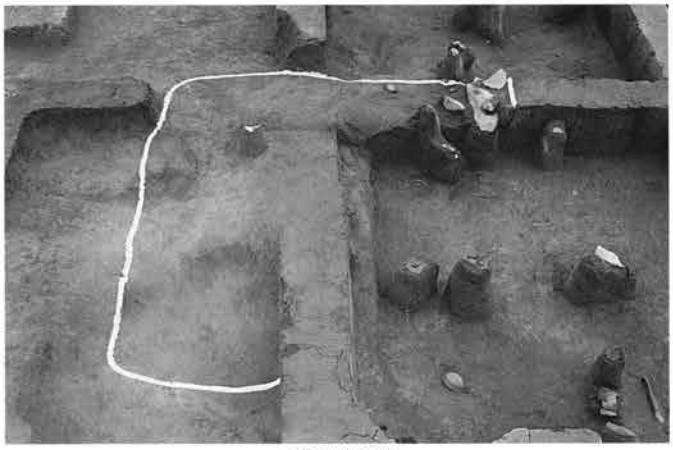
46号住居跡遺物出土

47号住居跡

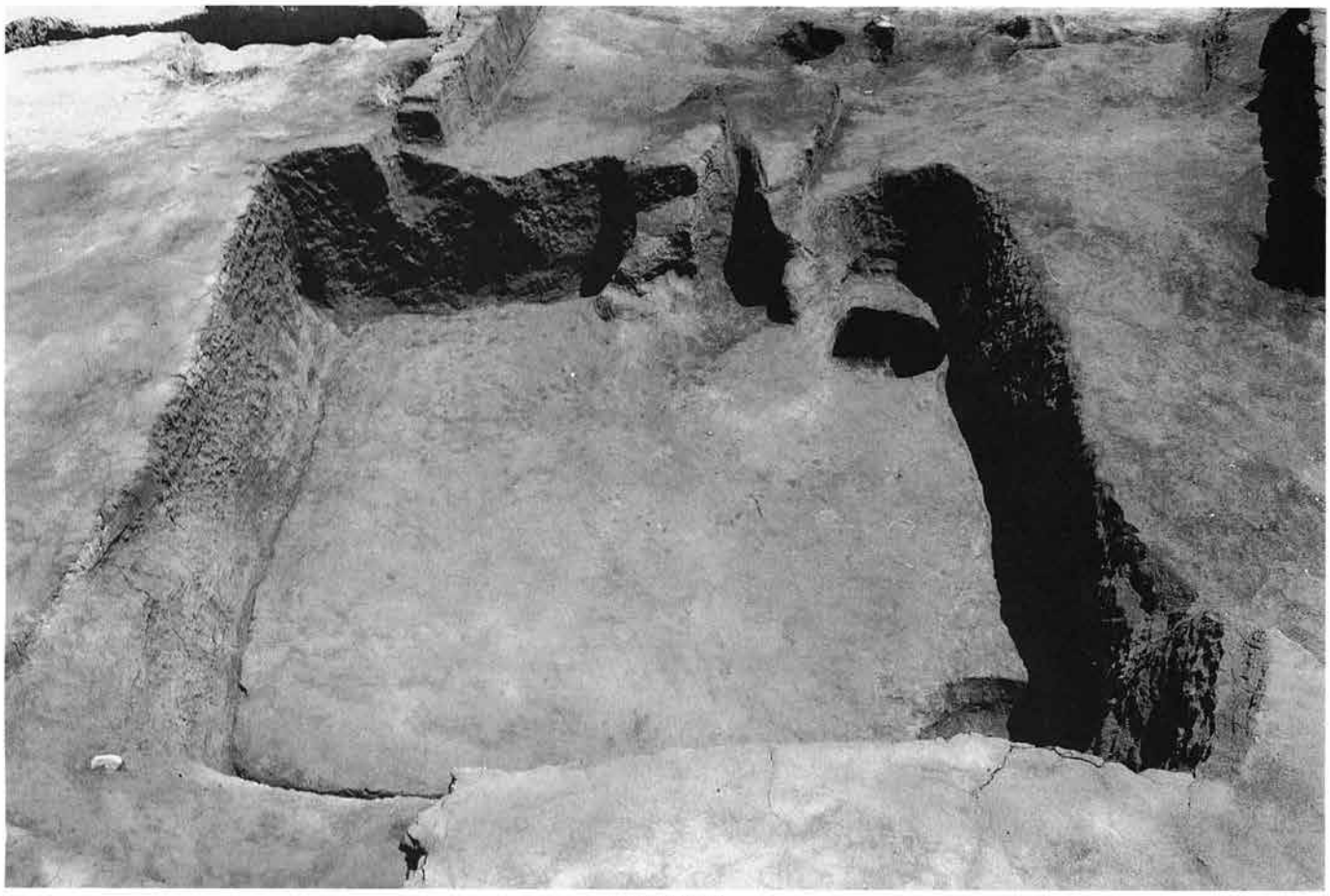
47号住居跡遺物出土



47号住居跡竈



48号住居跡



49号住居跡

49号住居跡竈

49号住居跡（北から）

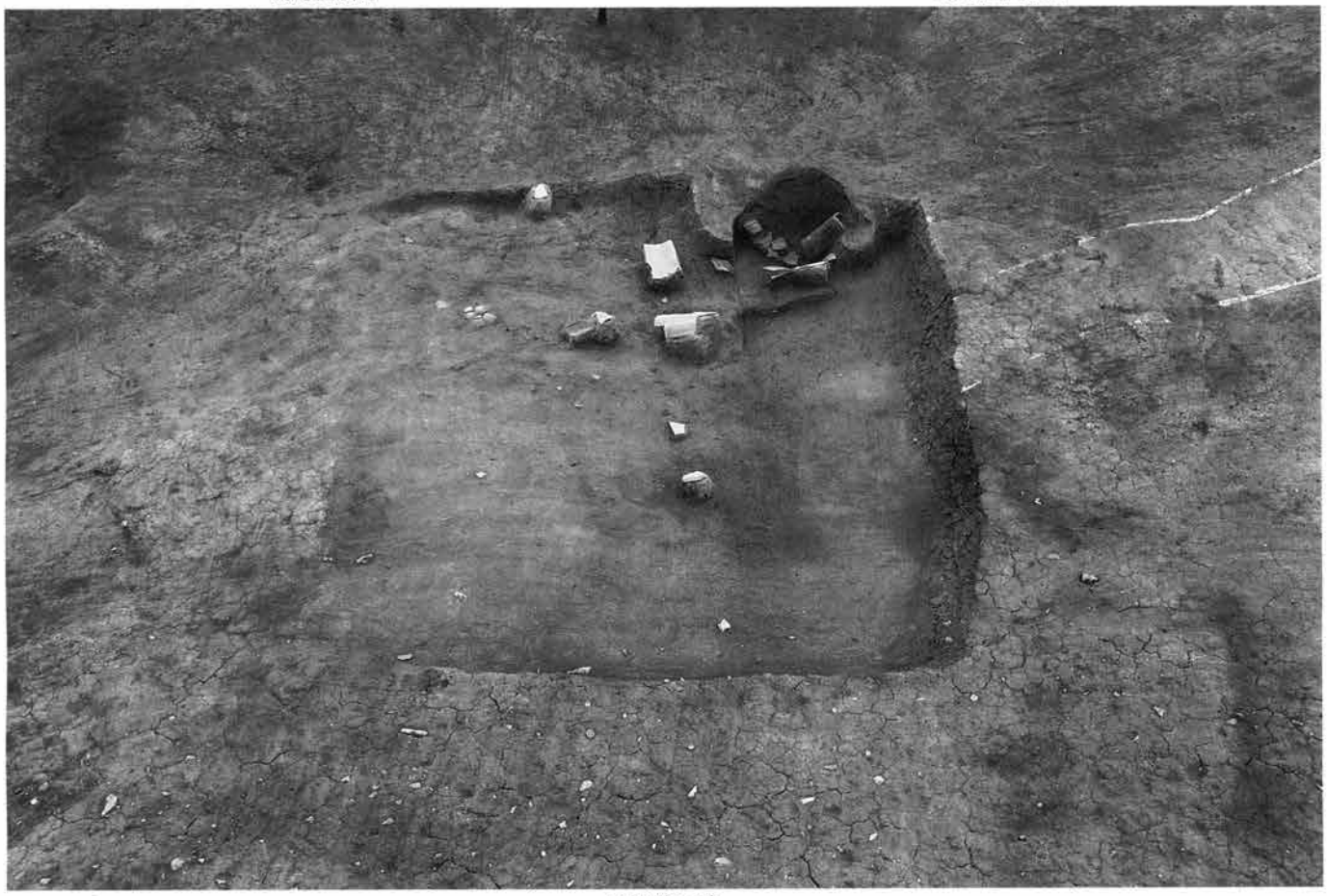
49号住居跡遺物出土

49号住居跡掘り方

図版18

50号住居跡

50号住居跡竈



53号住居跡

54号住居跡遺物出土

54号住居跡

55号住居跡

55号住居跡遺物出土

55号住居跡遺物出土

55号住居跡遺物出土

55号住居跡遺物出土

図版20

58・59号住居跡

60号住居跡

60号住居跡遺物出土

60号住居跡竈

61号住居跡

61号住居跡竈

62号住居跡

63号住居跡

64号住居跡

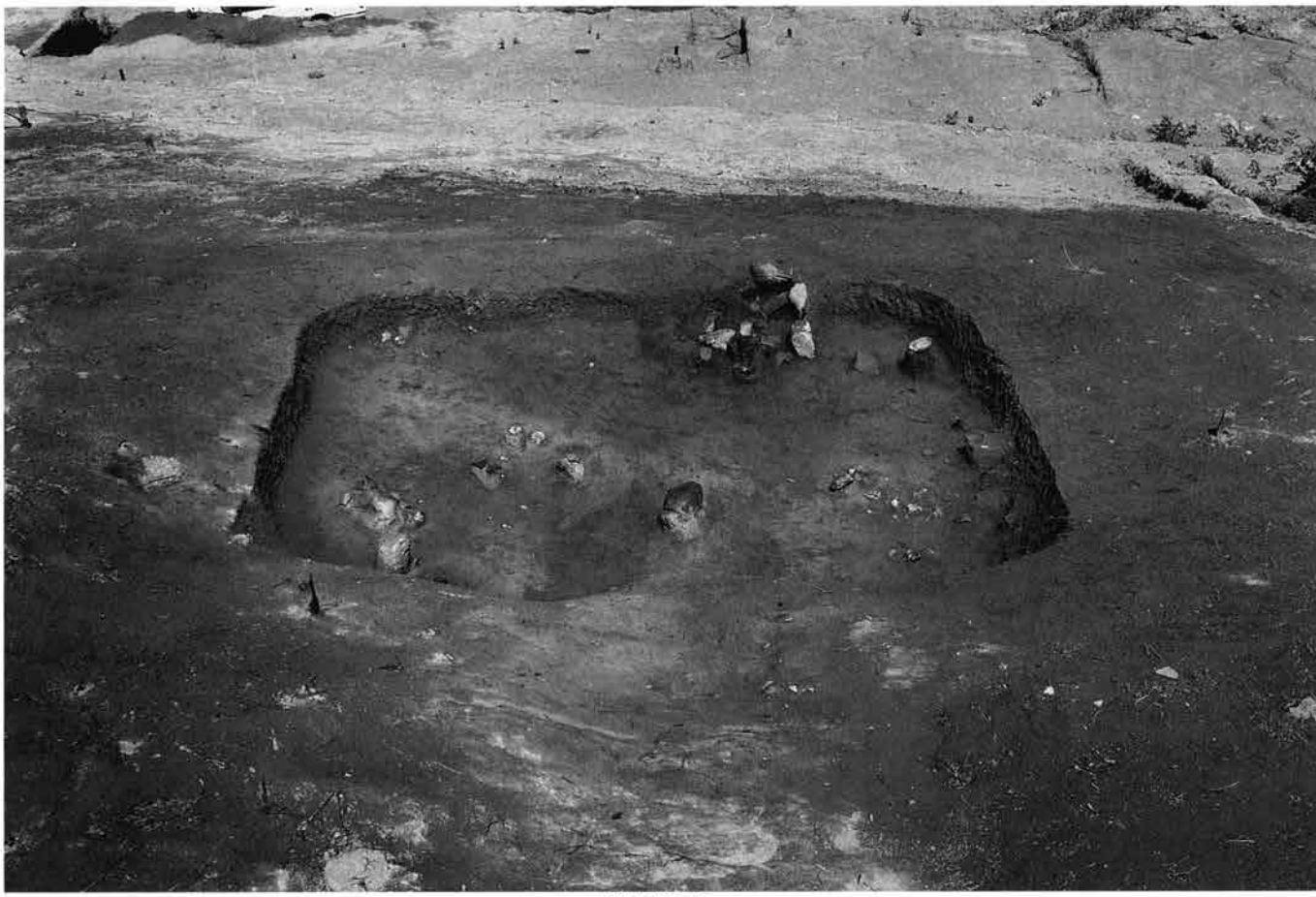
64号住居跡遺物出土

64号住居跡竈

64号住居跡遺物出土

64号住居跡遺物出土

図版22

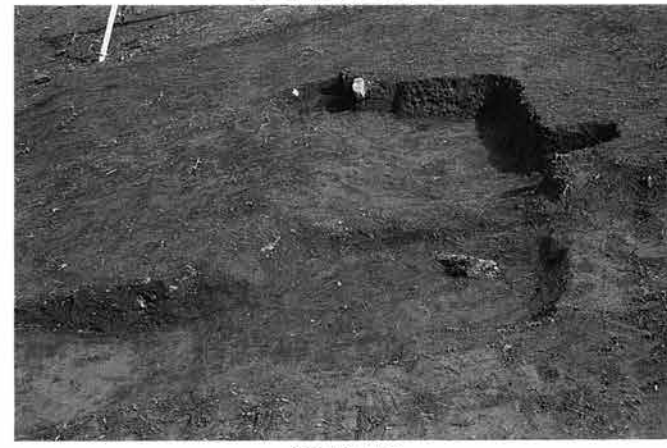


65号住居跡

65号住居跡竈

65号住居跡遺物出土

67号住居跡遺物出土



67号住居跡

68号住居跡竈

68号住居跡

68号住居跡竈

69号住居跡

70号住居跡

71号住居跡

73号住居跡遺物出土

73号住居跡

73号住居跡竈

73号住居跡遺物出土

74号住居跡遺物出土

74号住居跡

74号住居跡遺物出土

74号住居跡竈

74号住居跡掘り方

75号住居跡

76号住居跡

77号住居跡

78号住居跡竈

79号住居跡竈

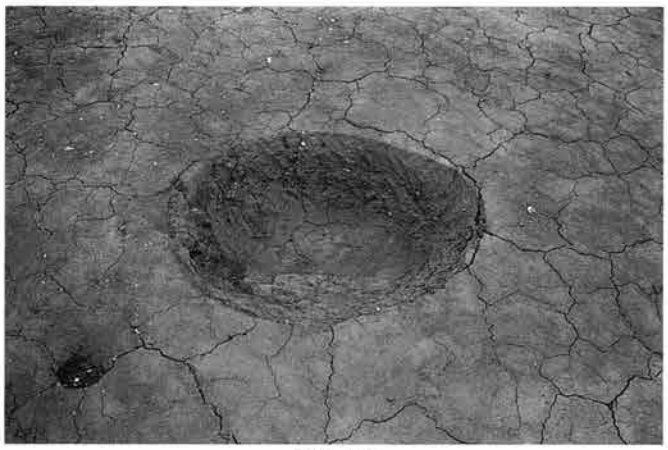
78・79号住居跡

80号住居跡

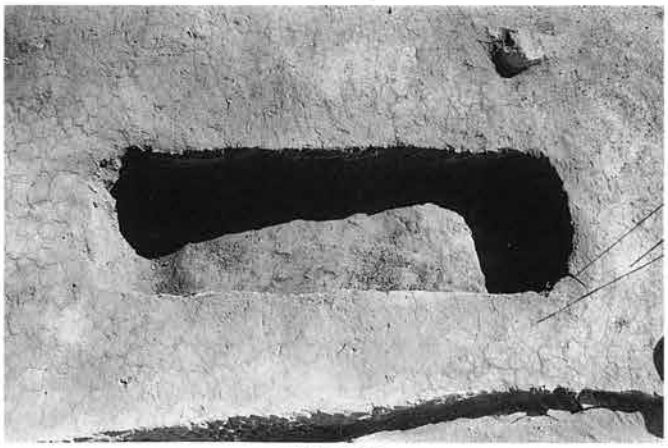
図版28

50号土坑

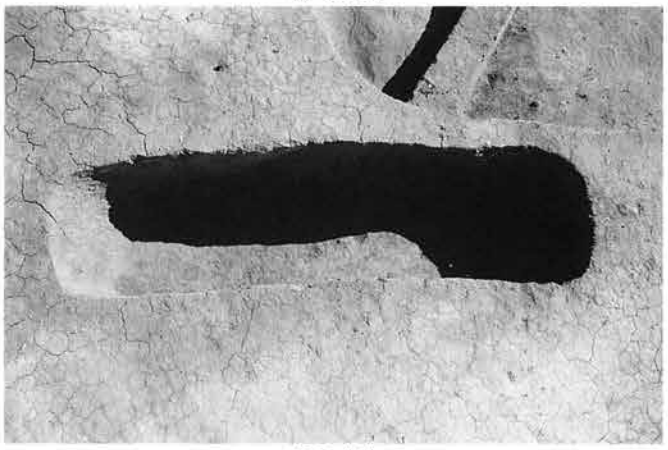
51・52・54号土坑



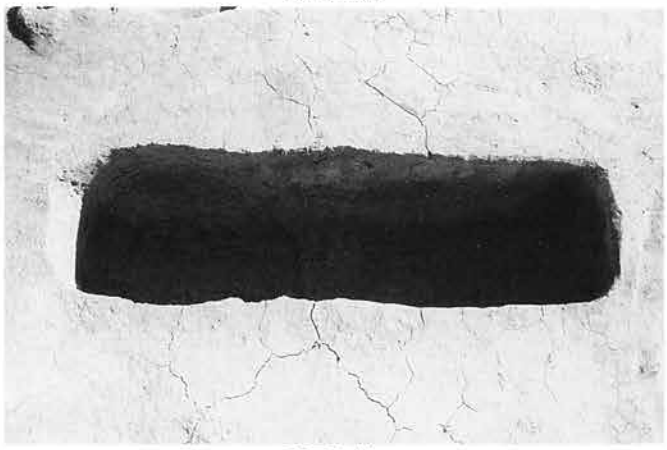
55号土坑



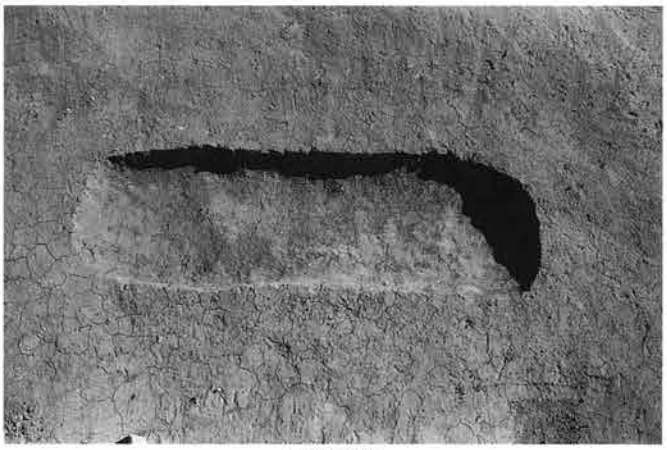
57号土坑



58号土坑



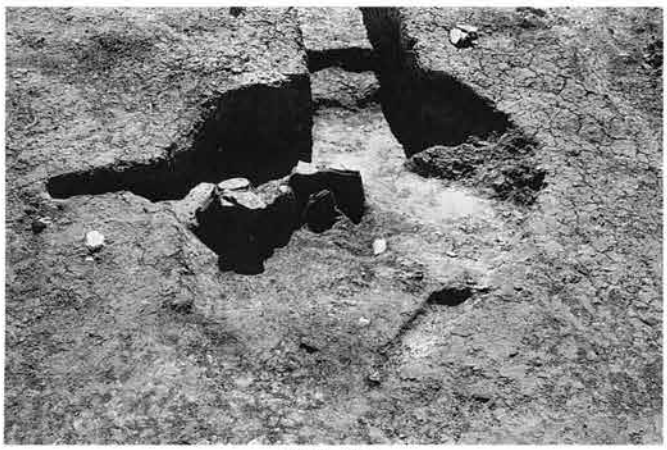
59号土坑



60号土坑

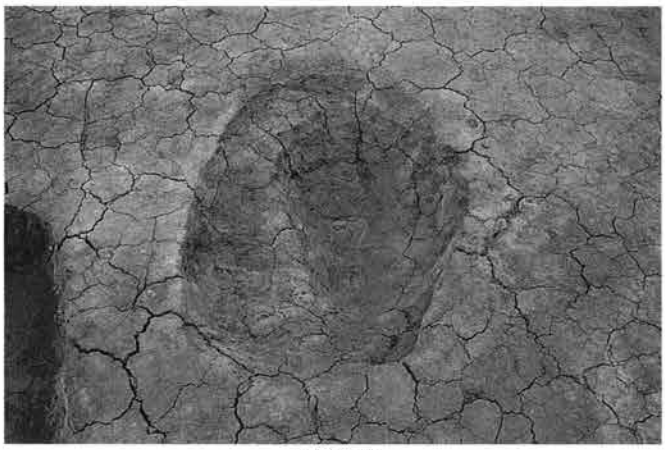
61・62号土坑

63・64号土坑


65号土坑

66号土坑

67～70・72号土坑


71号土坑

73号土坑

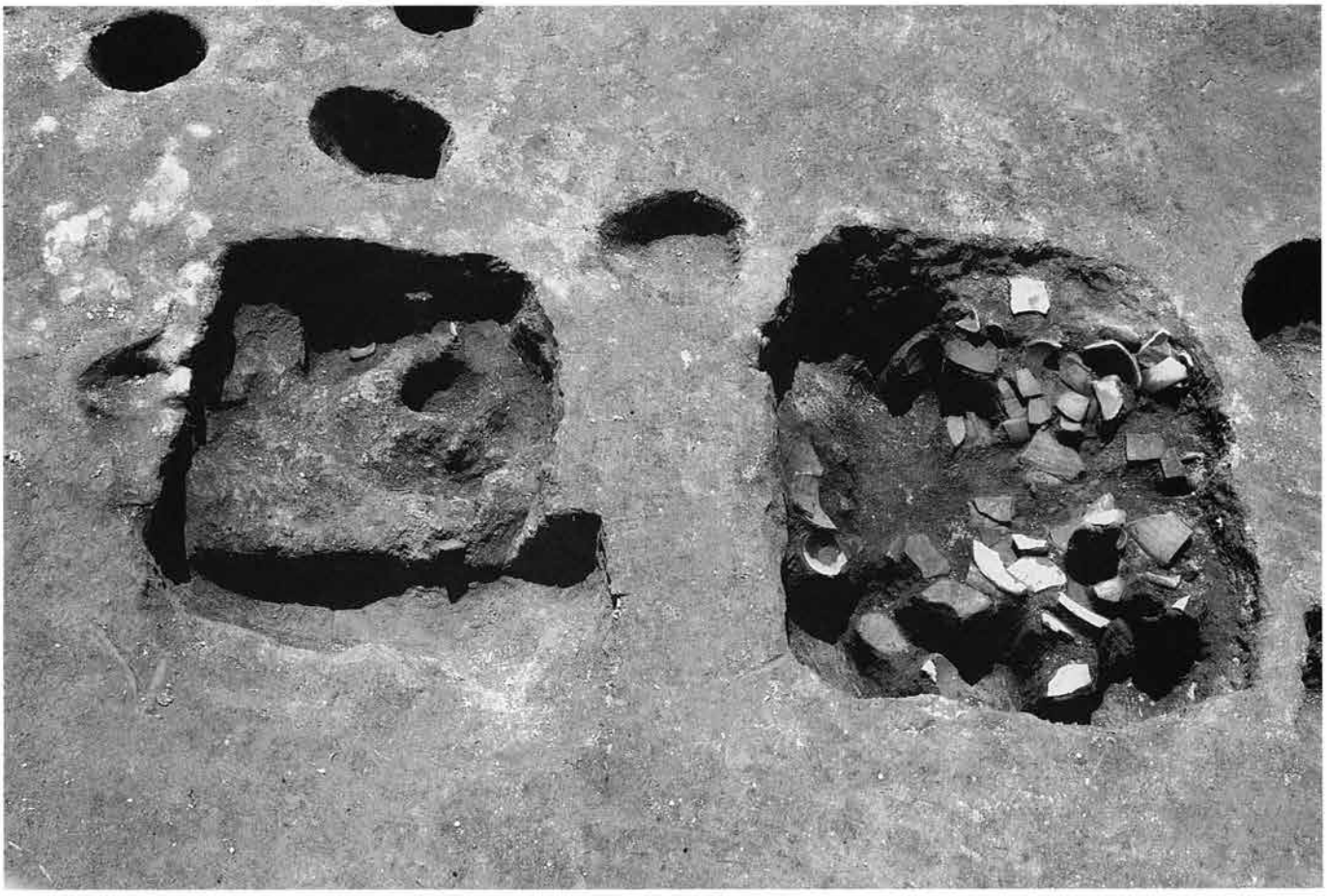
75号土坑

76号土坑

図版30

77・78号土坑

80号土坑



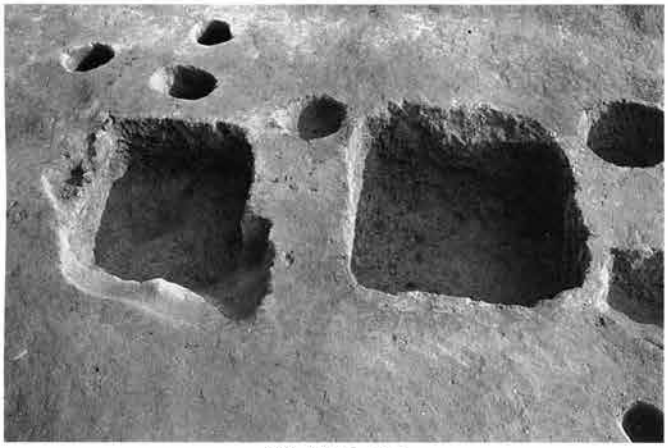
80・81号土坑

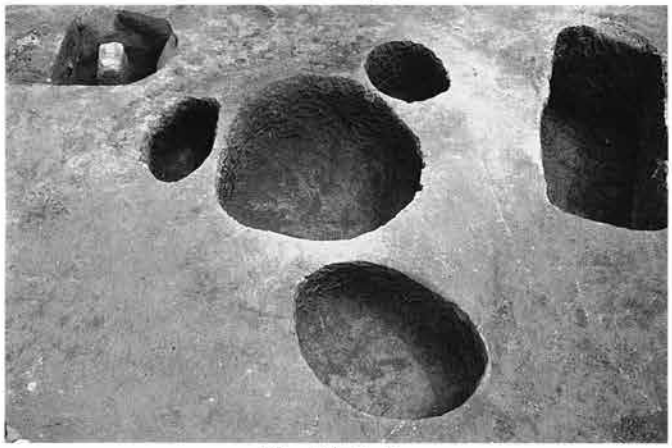
81号土坑

81号土坑遺物出土

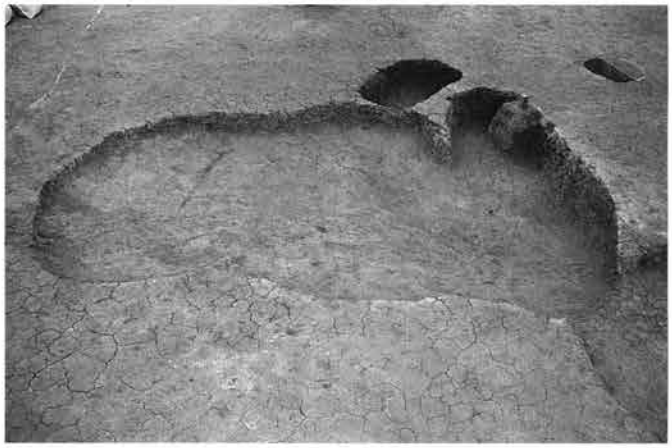
81号土坑遺物出土

81号土坑遺物出土


80・81号土坑


85～88号土坑

90号土坑


93～95号土坑

103号土坑

104号土坑

図版32

106号土坑

108号土坑

109号土坑

110号土坑

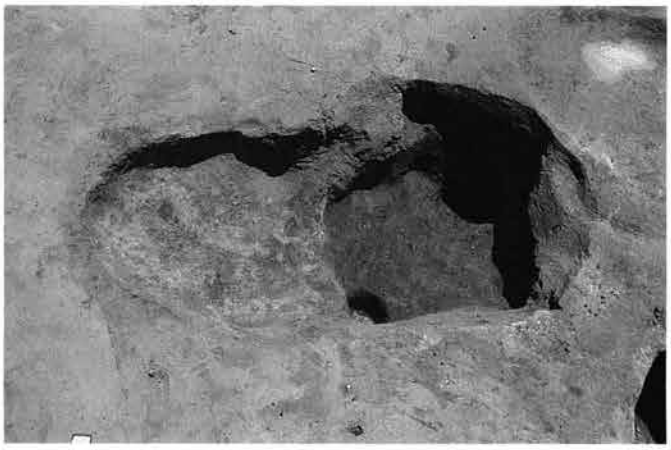
111号土坑

112号土坑

113～117号土坑

118号土坑

119号土坑



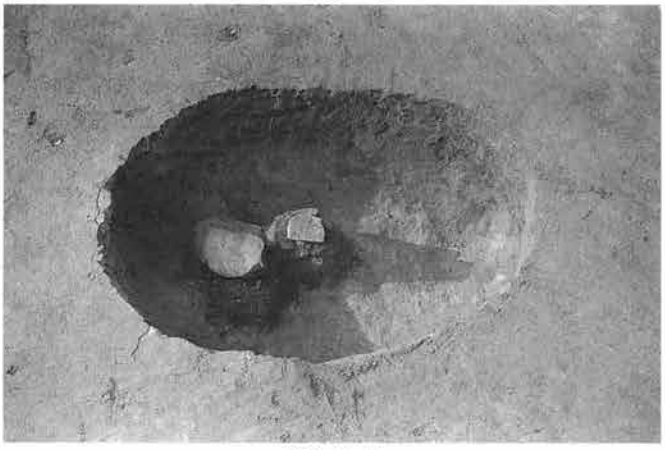
120号土坑

122号土坑

122号土坑

123号土坑

125・126号土坑



129号土坑

130号土坑

図版34

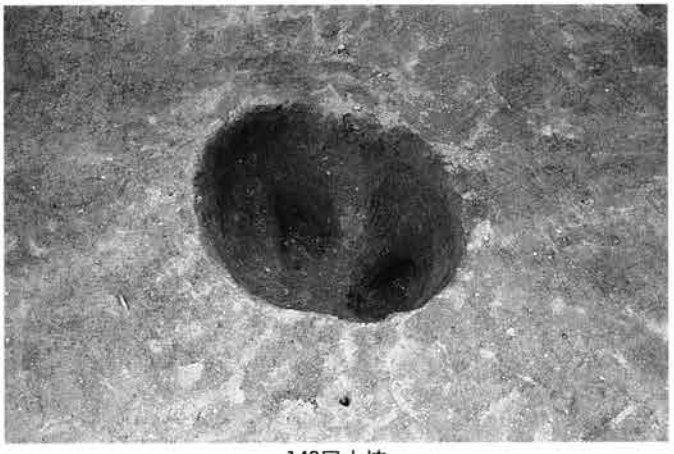
131号土坑

133号土坑

144号土坑

144号土坑

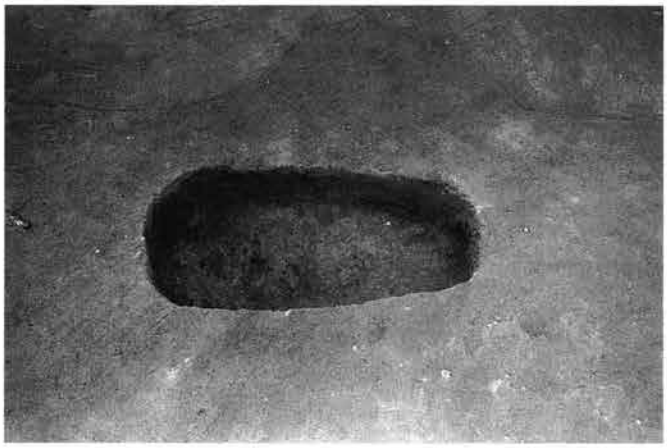
145号土坑



146号土坑

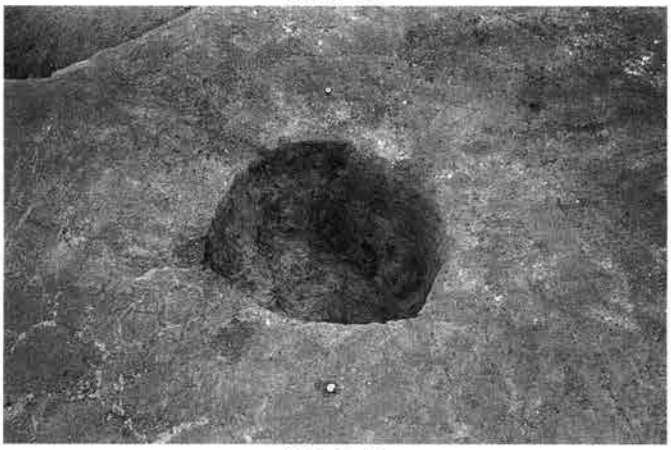
147号土坑

148号土坑

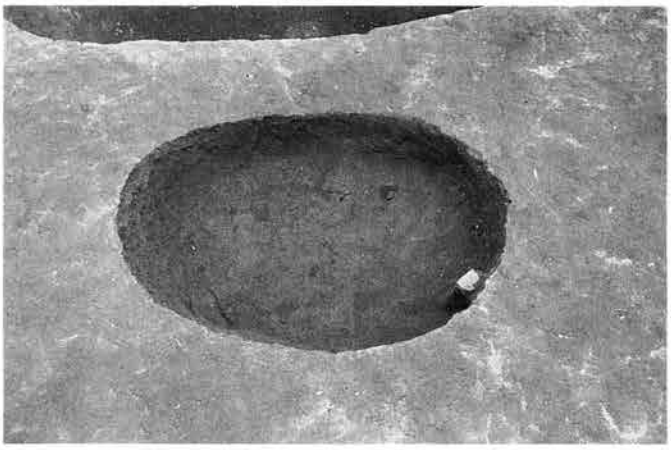

149号土坑

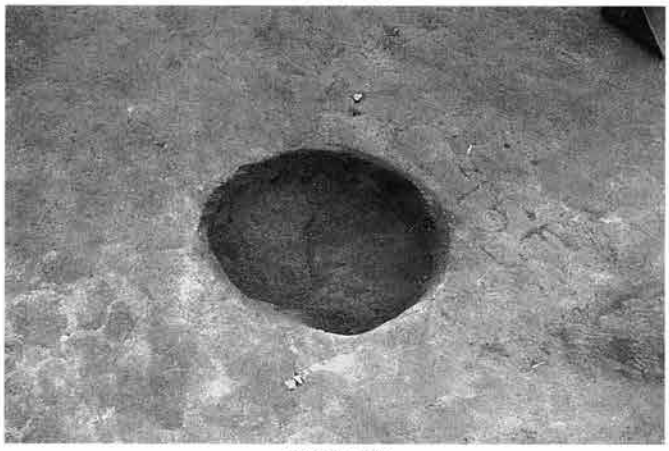
150号土坑

151号土坑


152号土坑

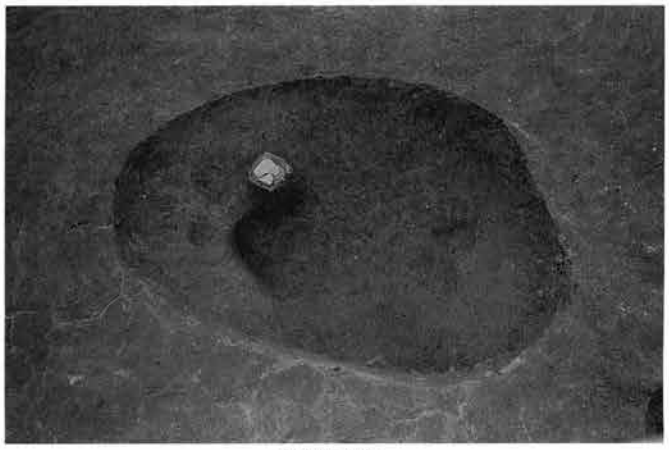
153号土坑


154号土坑

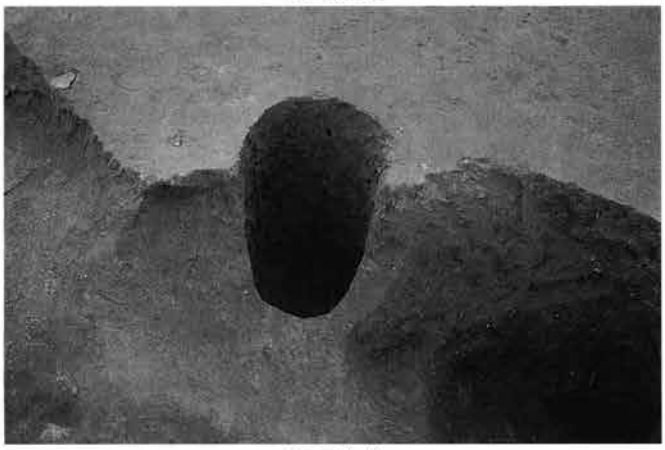

155号土坑

156号土坑

157号土坑



158号土坑



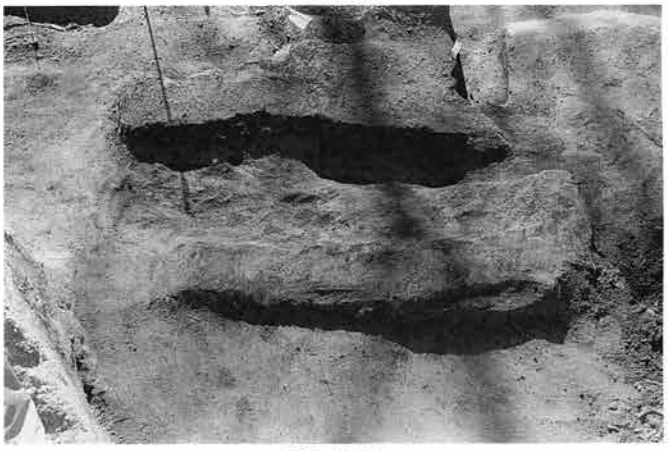
159号土坑

160号土坑

181号土坑

181号土坑

184号土坑



210号土坑

1号掘立柱建物跡

1号集積遺構

図版38

2号集積遺構

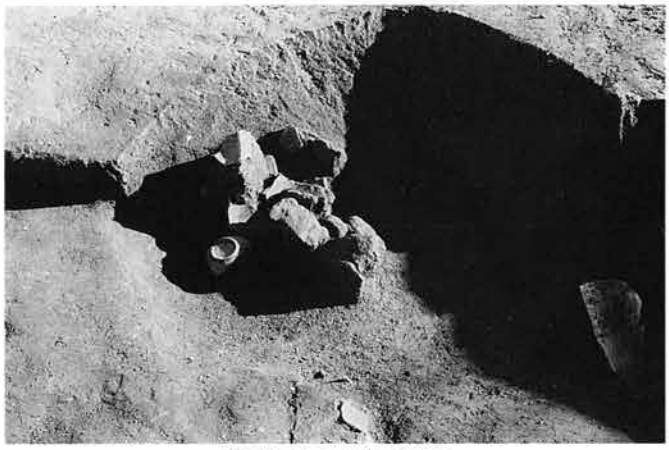
2号集積遺構

庚申山区１号住居跡

庚申山区１号住居跡

庚申山区１号住居跡遺物出土

庚申山区１号住居跡竈



庚申山区１号住居跡竈

庚申山区２号住居跡

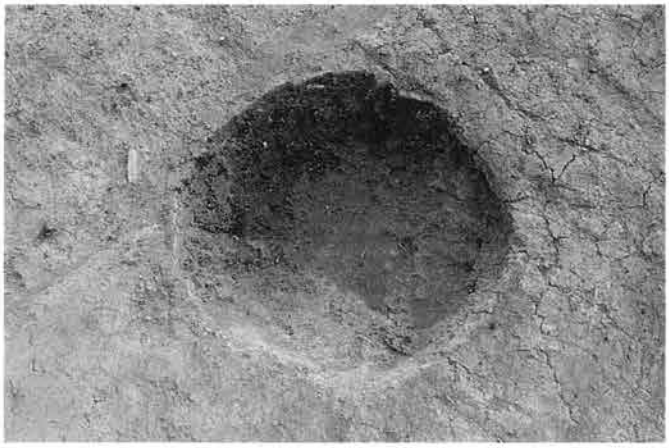
庚申山区２号住居跡竈

庚申山区２号住居跡遺物出土

庚申山区３号住居跡竈

庚申山区３号住居跡竈

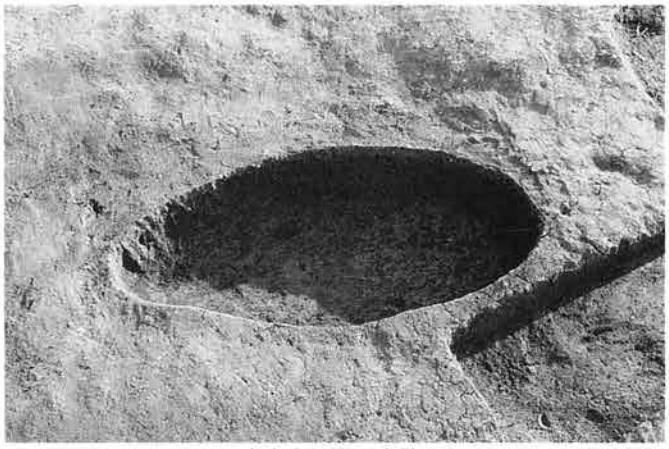
庚申山区１号土坑


庚申山区２号土坑

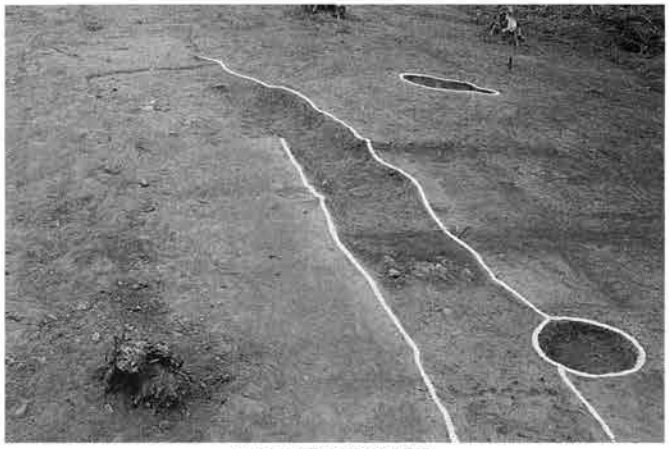
庚申山区３号土坑

庚申山区５号土坑

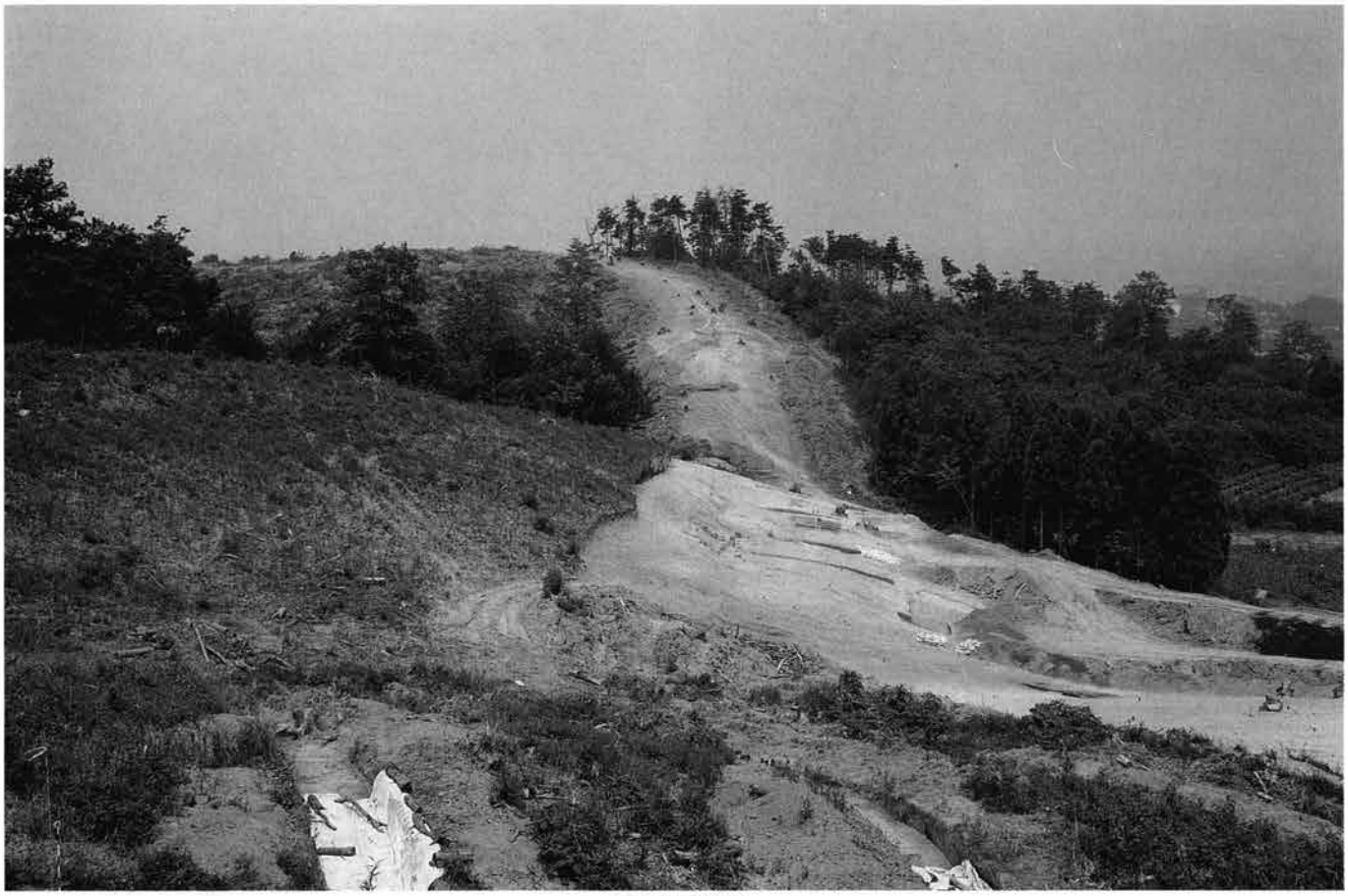
庚申山区６号土坑


庚申山区７号土坑

庚申山区道路状遺構


庚申山区道路状遺構

図版42



庚申山区遠景

作業風景

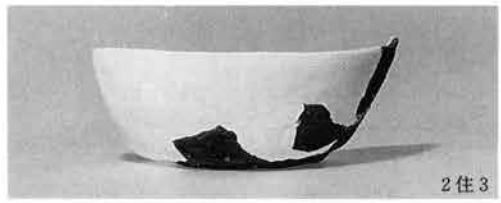
1住1

2住1

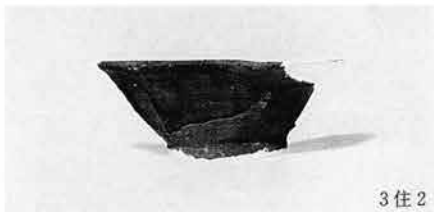
2住8

1住2

2住2

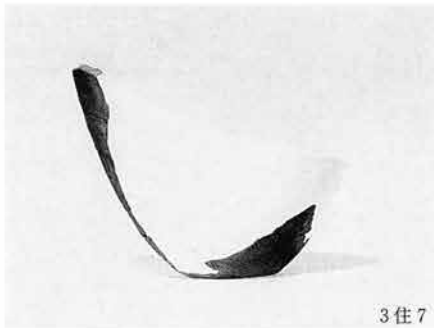

2住3

3住1


3住2

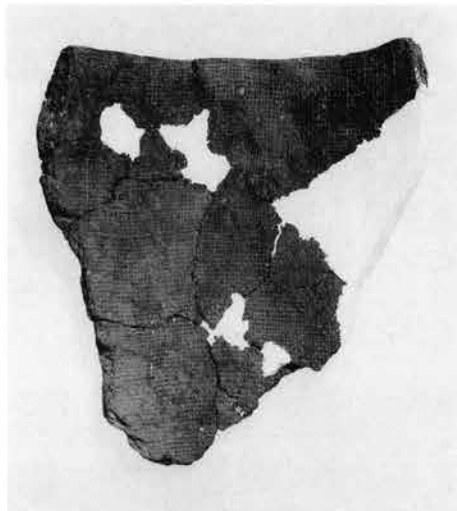
3住5

3住6


3住7

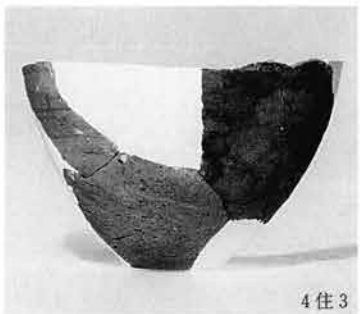
3住10

3住羽口

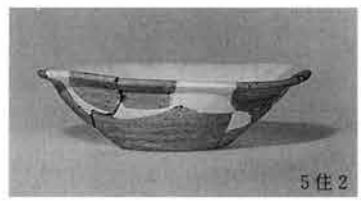


3住9

4住2


4住3

5住1


5住2

5住3

5住6

5住5

5住8

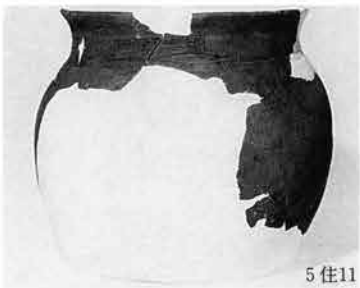
図版44

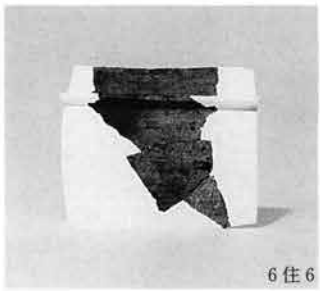
5住4

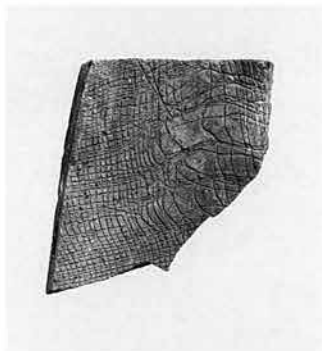
5住10

5住12

5住13

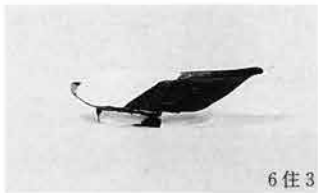

5住11


6住6



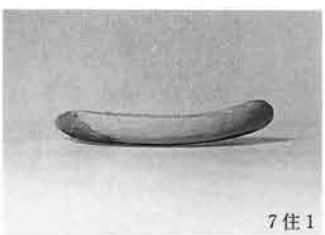
5住19

5住15


6住3

6住5

6住7


7住1

7住2

7住3

7住4

7住5

7住6

7住7

7住9

7住10

7住15

7住11

7住14

7住16

7住13

7住8

7住12

7住20

7 住21

7 住22

7 住23

7 住25

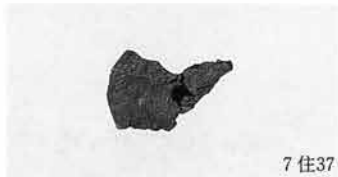
7 住26

7 住27

7 住28

7 住30

7 住31


7 住37

7 住33

7 住34

図版46

7 住36

8 住 1

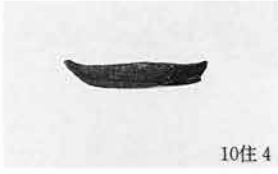
10住 1

10住 3

10住 6

10住11

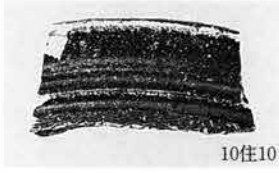
10住 7



10住 4

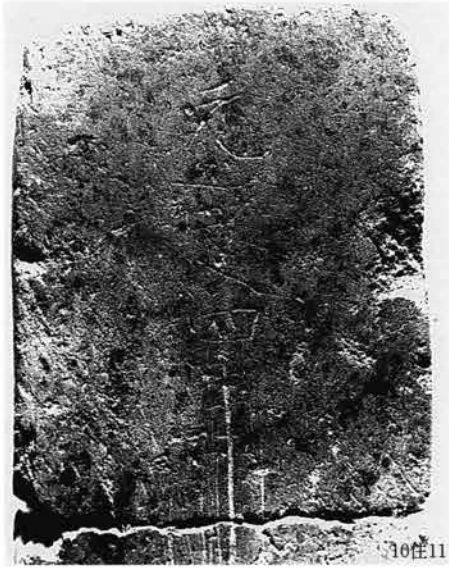
10住 9

10住 8



10住10

10住15



10住11

11住 1

11住 6

11住 3

11住 5

11住 4

12住 5

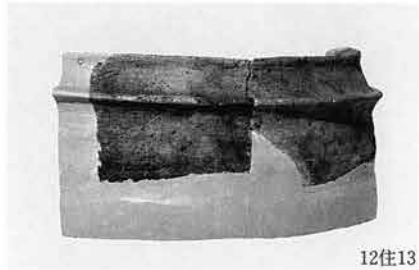
12住 6

12住 9

12住12

12住10

12住11


12住13

12住16

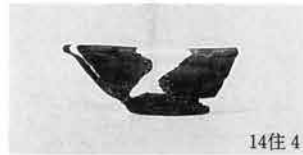
12住15

12住14

14住 1

14住 2

14住 3

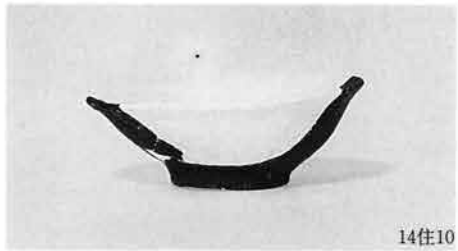

14住 4

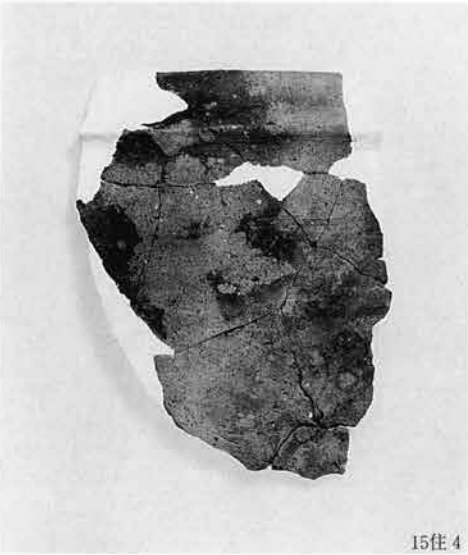
14住 9

14住 8

14住 7

14住11


14住10

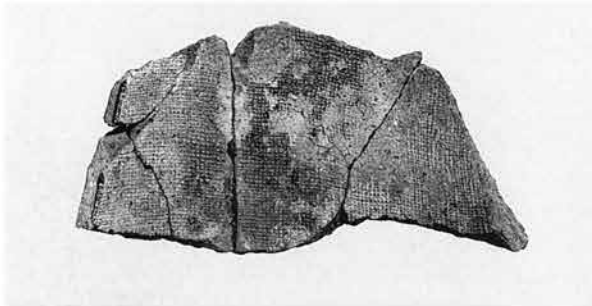

15住 4

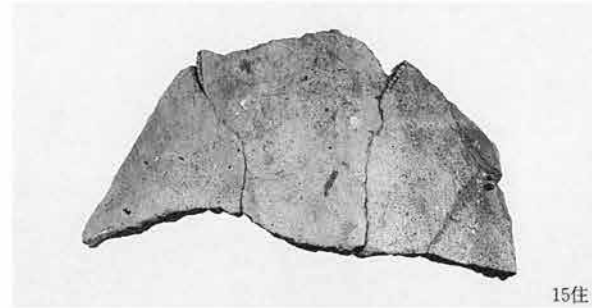
15住 7

図版48

15住 6

15住 5





15住 8

16住 1

16住 2

16住 3

16住 5

16住 4

16住 7

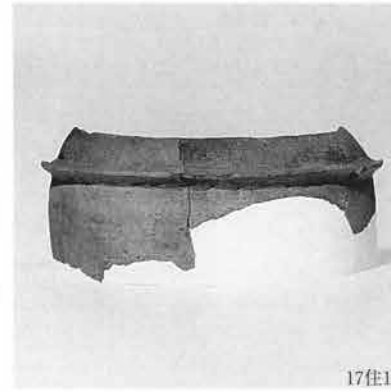
16住 6

16住 8

16住 9

17住 1

17住 5



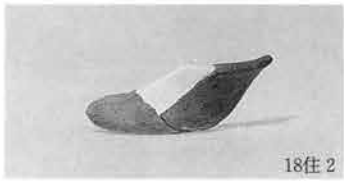
17住10

17住 7

17住 9

17住 6

18住 1


18住 2

18住 3

18住 7

18住 6

18住 9

18住10

18住11

18住12

18住18

18住20

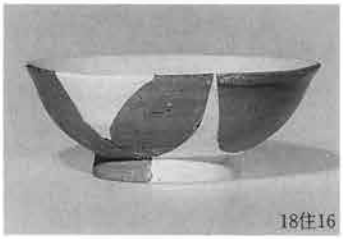
18住19

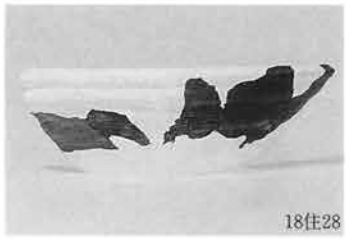
18住15

18住 5

18住33

18住32


18住16


18住28

18住23

18住29

18住27

18住34

18住35

19住 1

19住 2

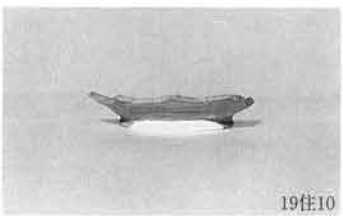
19住16

20住 1

19住 5

19住 4

20住 2


19住10

19住11

19住17

20住 5

図版50

20住 4

20住 6

22住 1

22住 2

22住 3

22住 4

22住 5

22住 6

22住 7

22住 8

22住 9

22住10

22住11

22住13

22住12

22住14

22住15

22住16

22住17

22住18

22住19

22住20

22住21

22住22

22住23

22住24

22住25

22住26

22住27

22住28

22住29

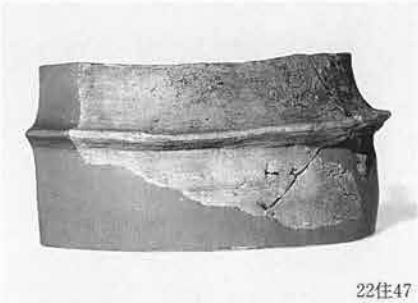
22住30

22住31

22住35

22住32

22住33


22住47

22住44

22住52

22住41

22住40

22住39

22住38

22住36

22住37

22住42

22住43

22住62

22住65

図版52

22住59

22住61

22住48

22住49

22住60

22住58

22住54

22住55

22住57

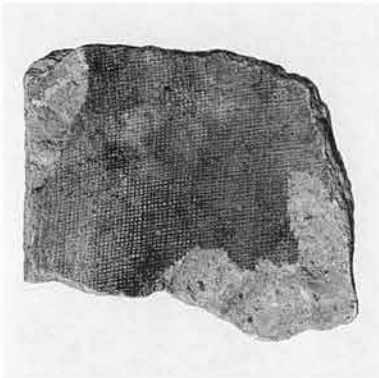
22住51

22住46

22住56

22住53

22住45



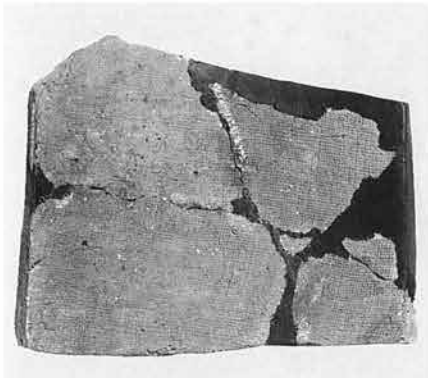
22住63

23住 2

23住 3

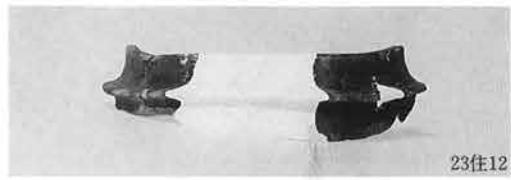
23住 4

23住 8

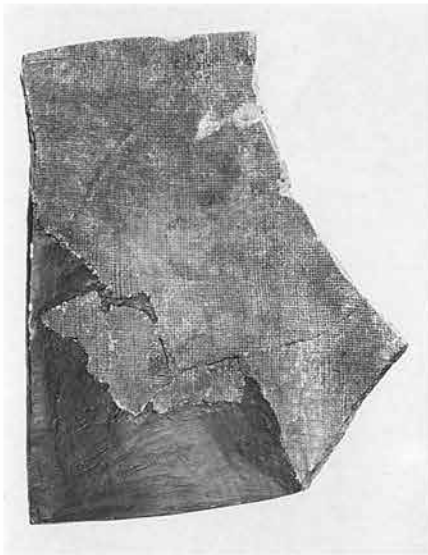


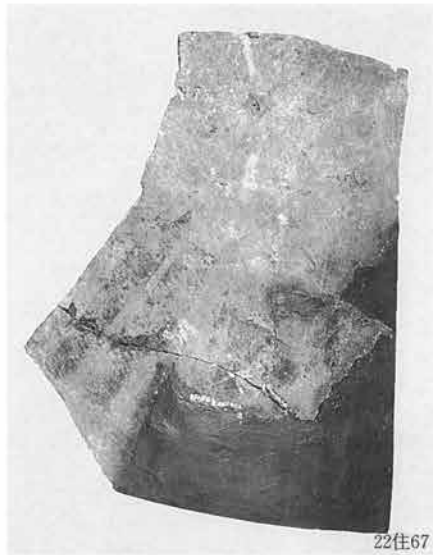
22住64

23住 7

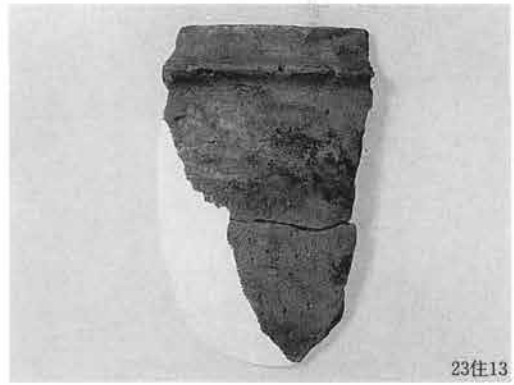


23住12



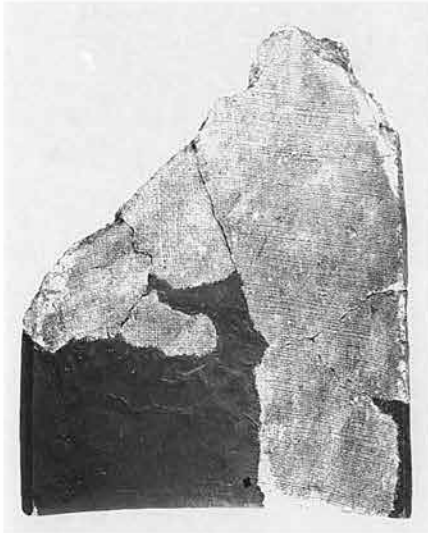


22住67



23住13

23住14



22住68

23住16

図版54

25住 1

26住 3

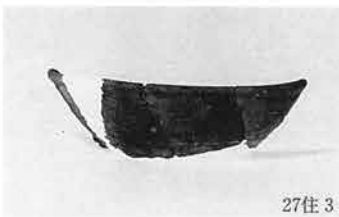
26住 7

26住 5

26住 6

27住 1

27住 4


27住 3

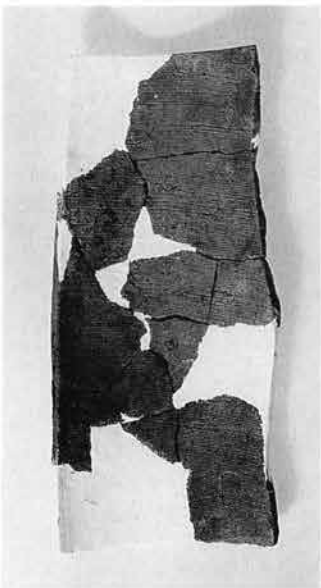
27住 6

28住 2

28住 9

28住 6

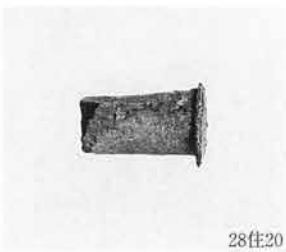
28住 7

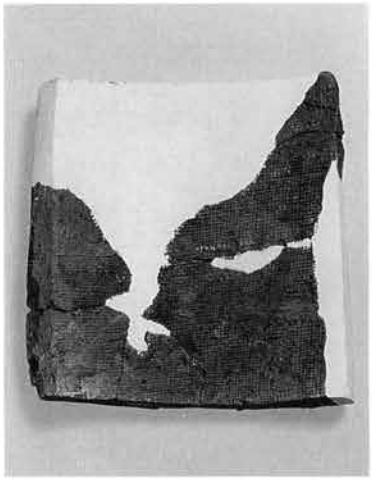


28住19

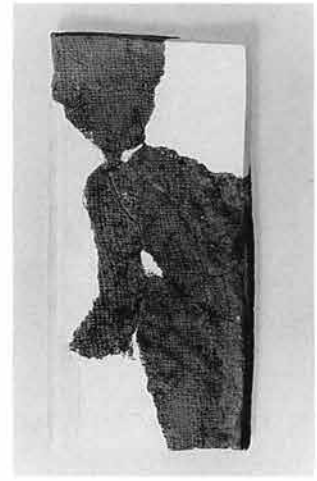
28住18

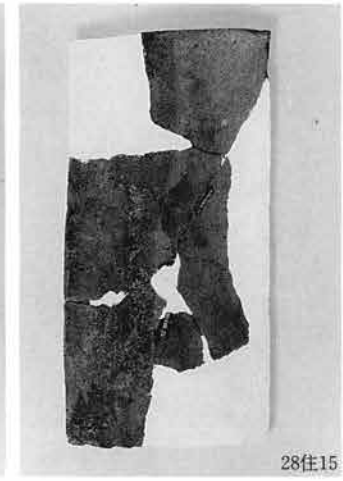
28住14


28住20



28住17





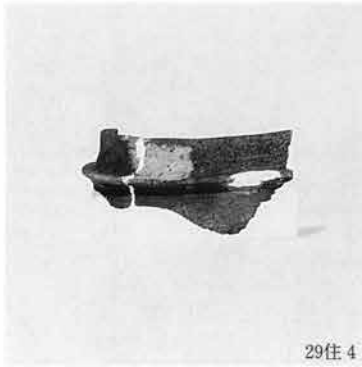
28住15

29住 1

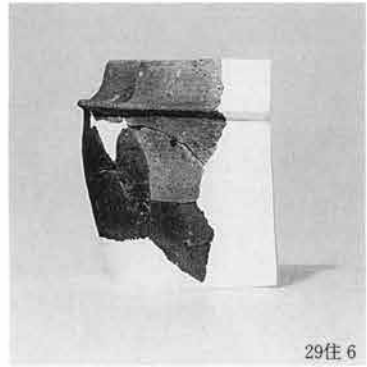
29住 2

29住 3

29住10

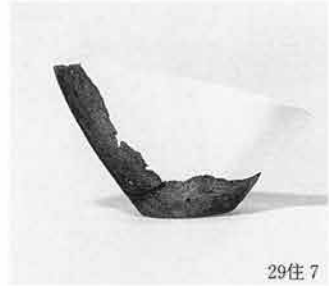


29住 4

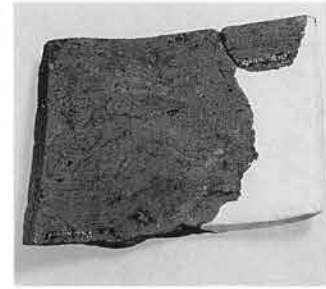


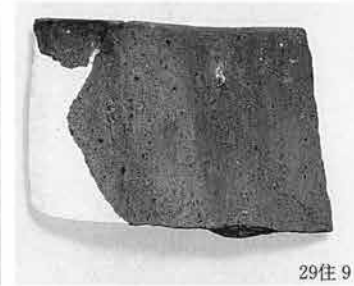
29住 6

29住 5

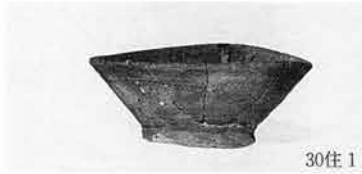


29住 7





29住 9

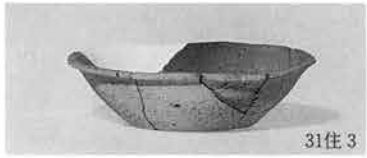


30住 1

30住 2

31住 1

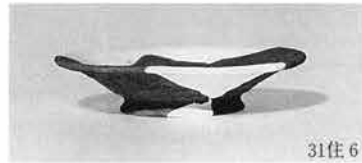
31住 2



31住 3

31住 4

31住 5

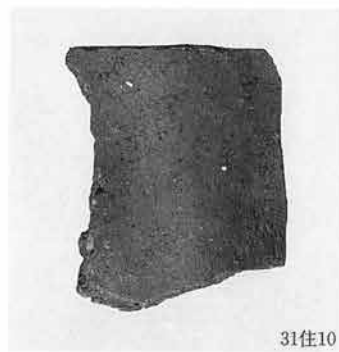


31住 6

31住 8

図版56

31住 9



31住10

31住11

32住 1

32住 2

32住 3

32住 4

32住 6

32住 5

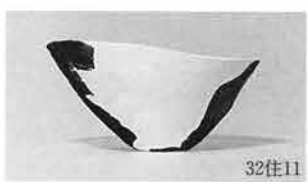
32住 7

32住 8

32住10

32住 9

32住12



32住11

32住14

32住19

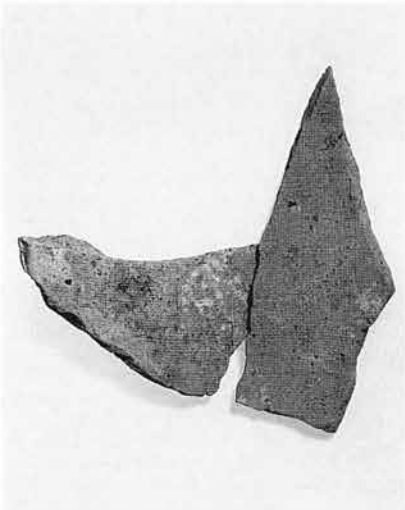
32住18

32住17

33住 1

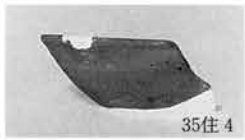
33住 5

33住 6



33住 7

35住 1


35住 4

35住 3

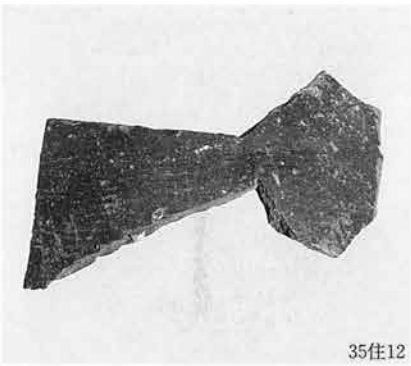
35住 5

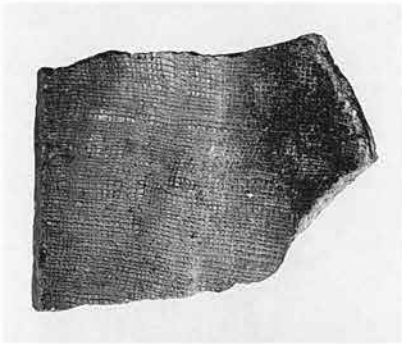
35住 9

35住 8

35住11

35住13


35住12



35住16

35住15

35住17

35住18

図版58

35住19

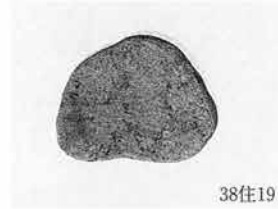
36住 1

36住 2

36住 3

36住 4

37住 4

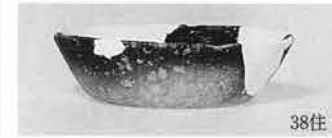


38住19

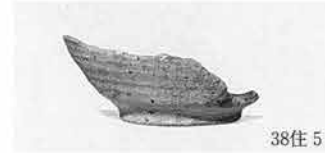
38住 1

38住 3

38住 4

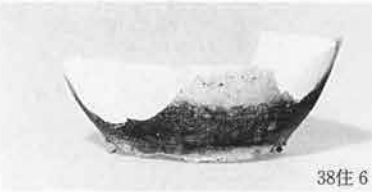


38住 2

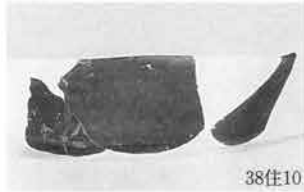


38住 5

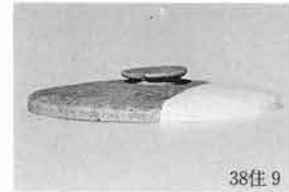
38住 8



38住 6

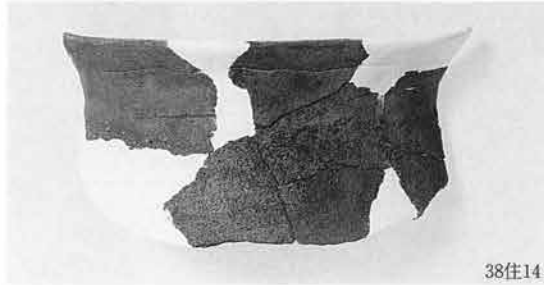


38住10

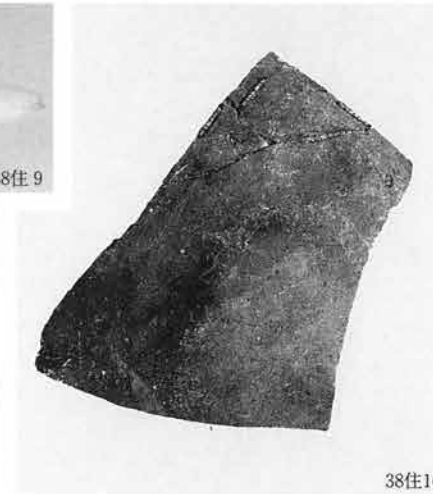


38住 9

38住11



38住14



38住16

38住17

38住18

38住13

39住 1

39住 2

39住 3

40住 1

41住11

41住 1

41住 2

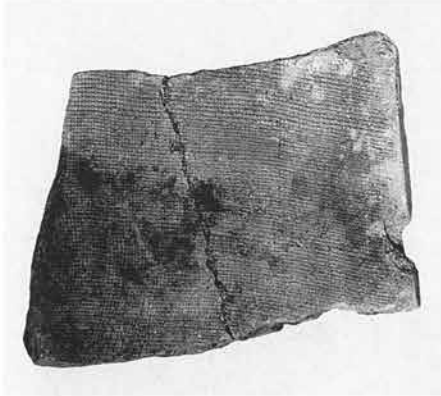
41住 3

41住 5

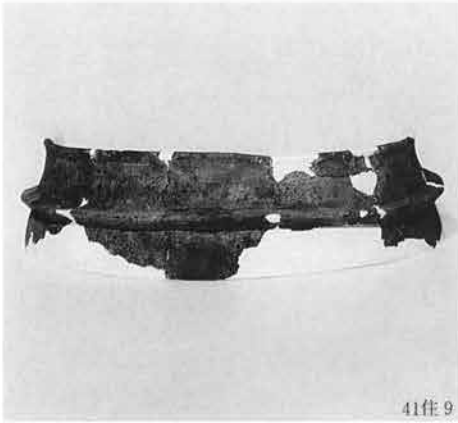
41住 7

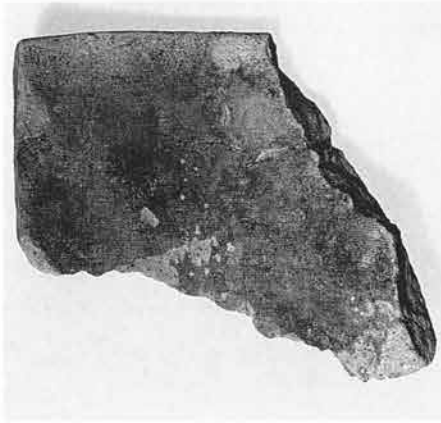
41住14

41住10



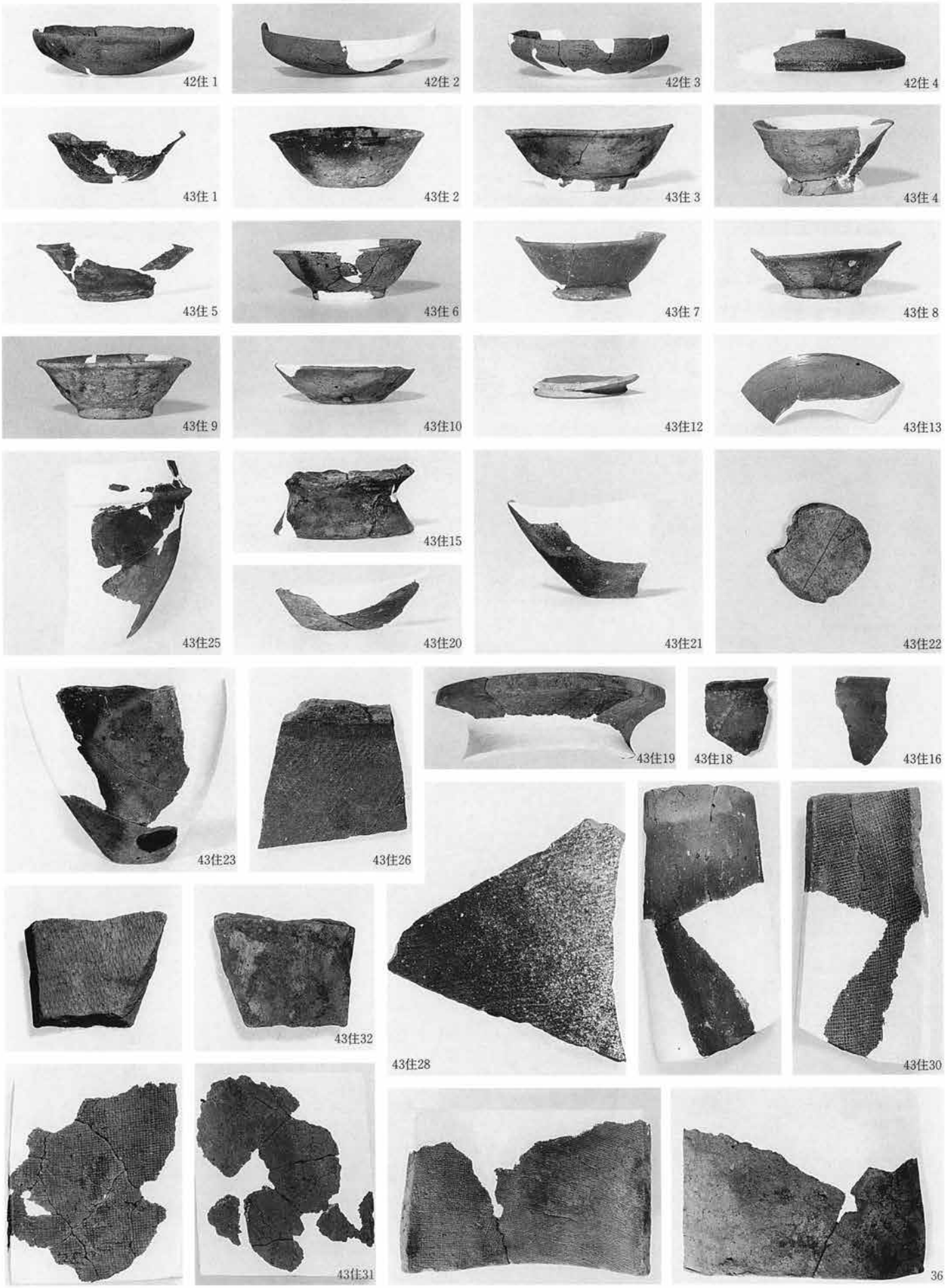
41住12


41住 9



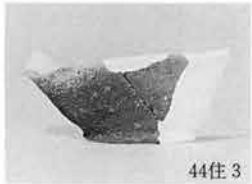
41住13

図版60


42住 1
42住 2
42住 3
42住 4
43住 1
43住 2
43住 3
43住 4
43住 5
43住 6
43住 7
43住 8
43住 9
43住10
43住12
43住13
43住25
43住15
43住20
43住21
43住22
43住23
43住26
43住19
43住18
43住16
43住32
43住28
43住30
43住31
36

43住33

44住 1

44住 2

44住 3

44住 4

44住 6

43住 5

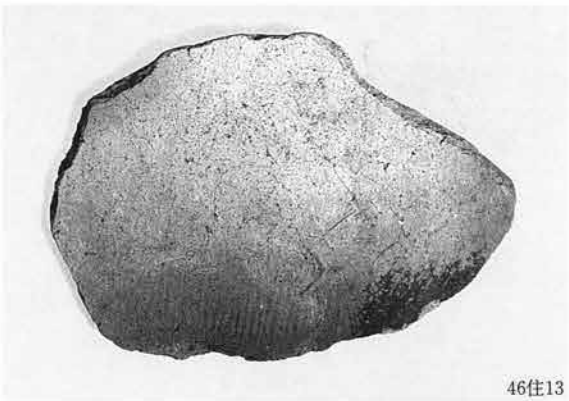
43住37

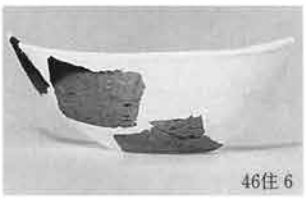
44住11

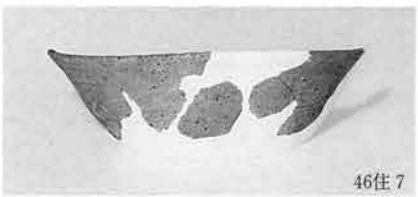
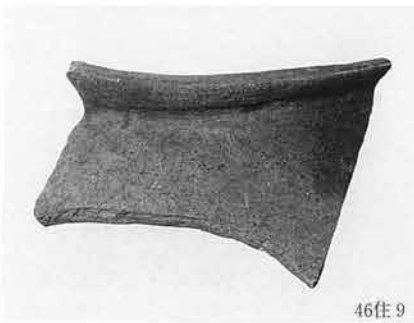
44住 7

46住 2

46住 3

46住 4

46住13

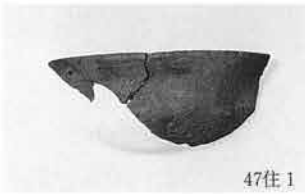
46住 5

46住 6

46住10

46住 7

46住 9

46住17

46住15

図版62


47住 1

47住 2

48住 2

49住 1

47住 3

47住 4

48住 4

49住 2

49住 3

49住 4

49住 5

49住 6

49住 8

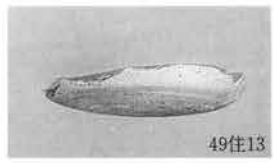
49住 9

49住12

49住18

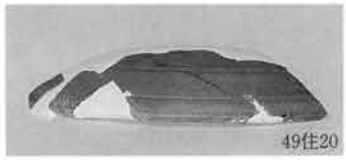
49住16

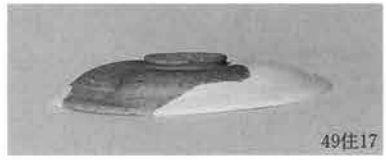
49住15


49住13

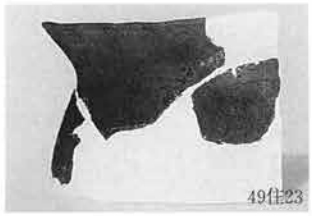
49住19

49住14

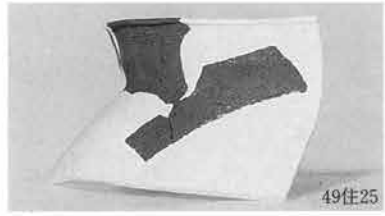

49住20

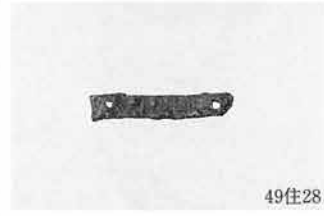

49住17

49住22


49住23

49住27

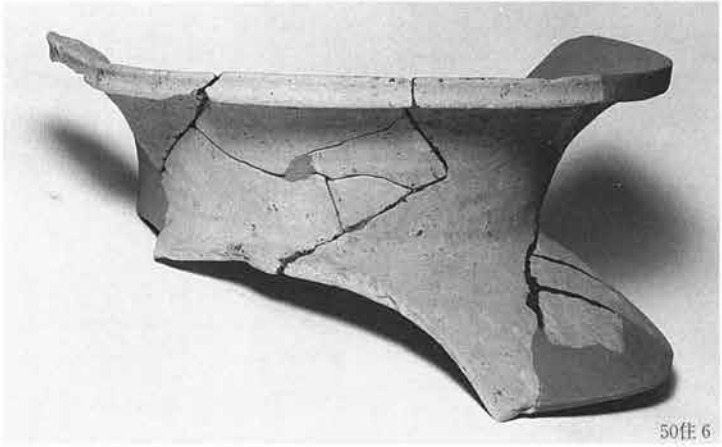

49住25


49住28

50住 1

53住 2

53住 3

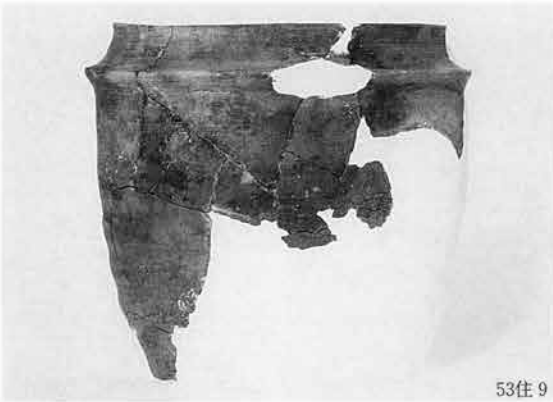

50住 6

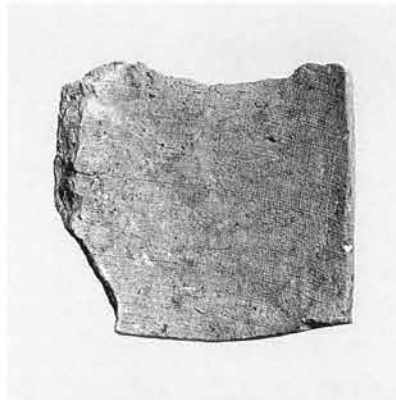
53住 4

53住 5

53住 6

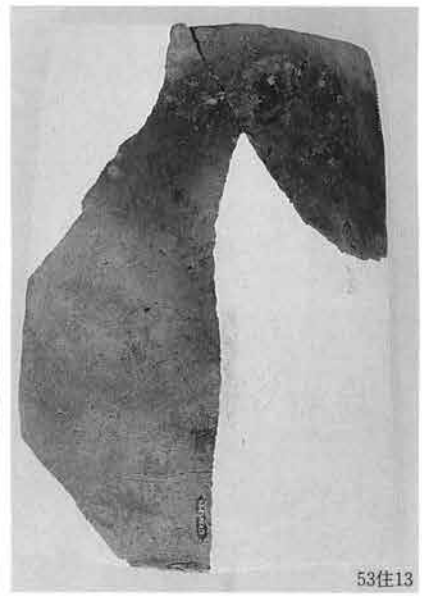
53住10


53住 9



53住15

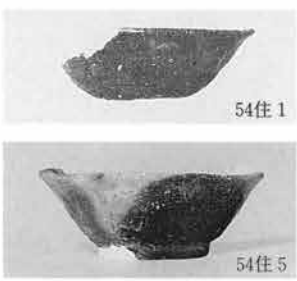
53住14


53住13

53住16

53住12

53住17


54住 1

54住 2

54住 4

54住 6

54住 5

54住 8

54住 7

図版64

55住 1

55住 3

55住 4

55住 5

55住 6

55住 8

55住 9

55住10

55住11

55住12

55住13

55住15

55住16

55住19

55住20

57住 1

57住 2

57住 3

57住 4

57住 5

57住 6

57住 7

57住 8

57住 9

58住 1

59住 1

59住 2

59住 3

58住10

60住 1

60住 3

60住 4

60住 7

60住 6

60住 5

60住 2

60住10

60住14

60住15

60住17

61住 1

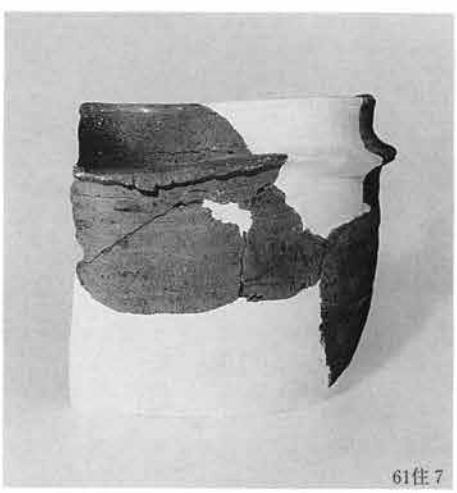
61住 2

61住 3

61住 4

61住11

61住 8


61住 7

61住 9

図版66

62住 1

62住 4

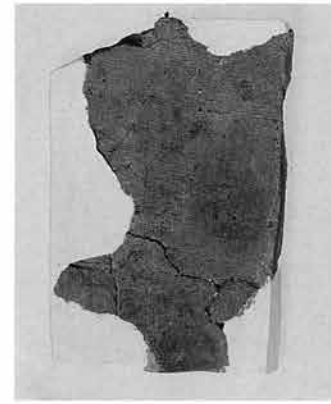
62住 8

64住 1

64住 2

64住 3

64住 4

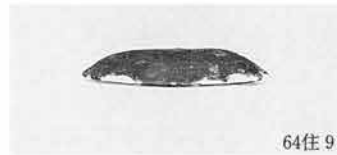


64住18

64住 5

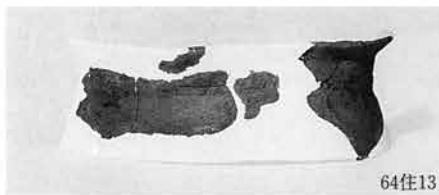
64住 8

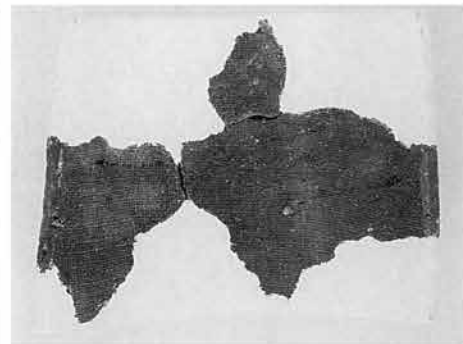
64住 6

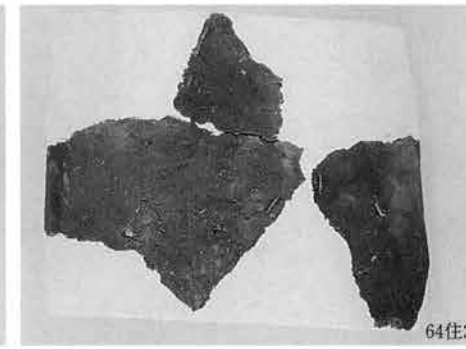

64住 9

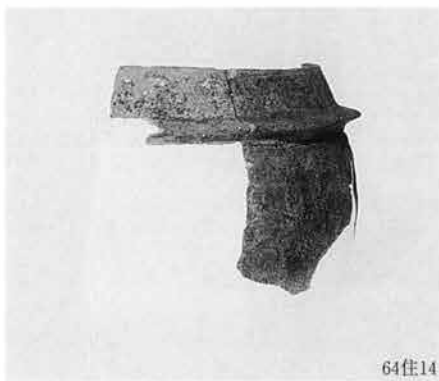
64住19

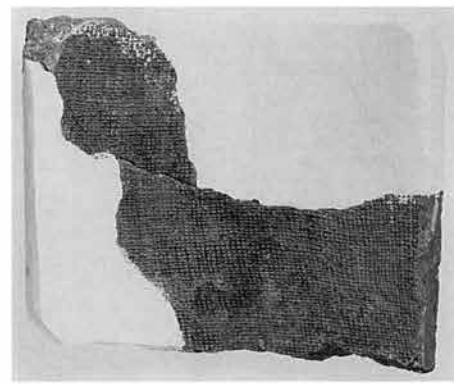
64住10

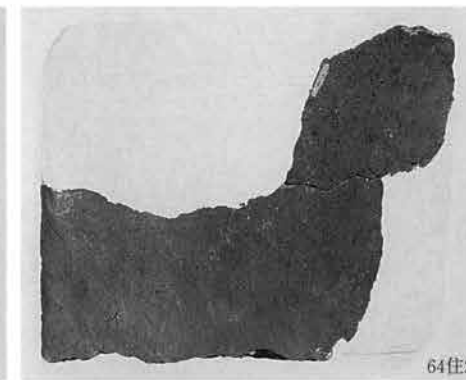

64住13




64住21


64住14




64住20

65住 1

65住 2

65住 3

65住 4

65住 5

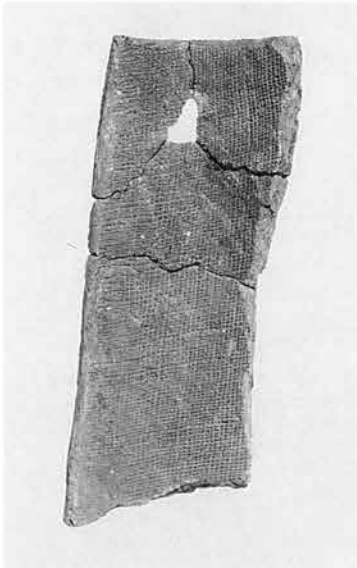
65住 6

65住 7

65住 8

65住10

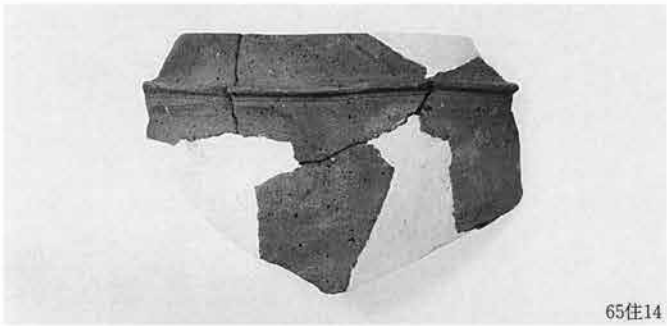
65住11

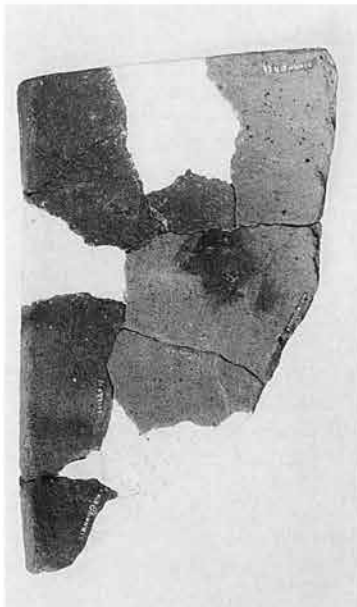


65住19

65住15

65住17


65住14



65住20

65住16

66住 1

66住 5

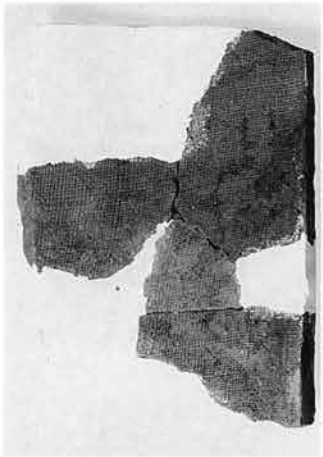
66住 6

66住 2

66住 7

66住 9

図版68



66住12

67住 1

67住 2

67住 8

67住 4

67住 5

67住 6

67住 7

67住10

68住 1

68住 2

68住 3

68住 4

68住 5

68住 7

68住 9

68住 6

68住 8

68住10

68住11

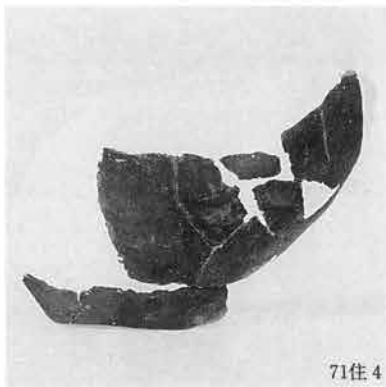
68住12

68住14

69住 1

70住 3

71住 1


71住 4

73住 1

73住 2

73住 3

73住 4

73住 5

73住 6

73住 7

73住 8

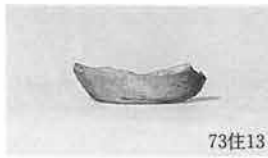
73住10

73住 9

73住11

73住12

73住14

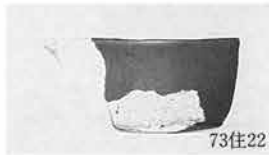

73住13

73住15

73住17

73住18

73住19


73住22

73住16

73住24

73住21

73住27

73住28

73住29

73住32

73住31

73住30

73住37

73住33

73住38

73住40

図版70

73住41

73住43

73住42

73住39

73住47

73住44

73住50

73住53

73住54

73住55

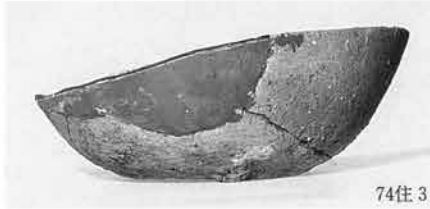
74住 1

74住 2

74住 4

73住57

74住 5



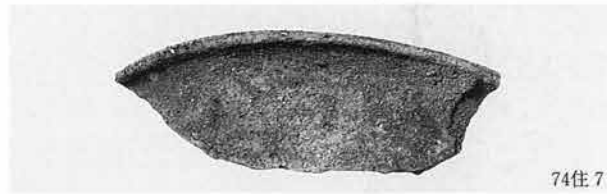
74住 3

74住 6

74住 8

74住 9

74住10



74住 7

74住11

74住20

74住12

74住15

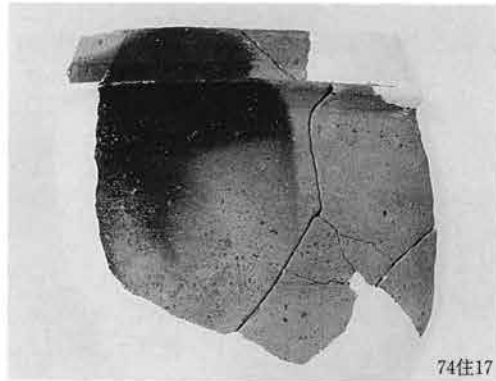
74住14

74住22

図版72

74住18

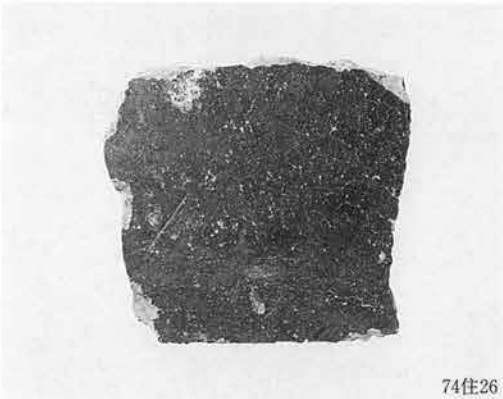
74住23

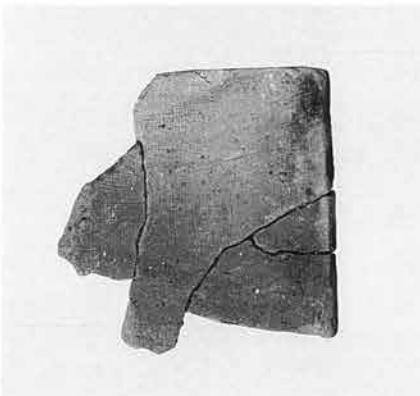

74住17

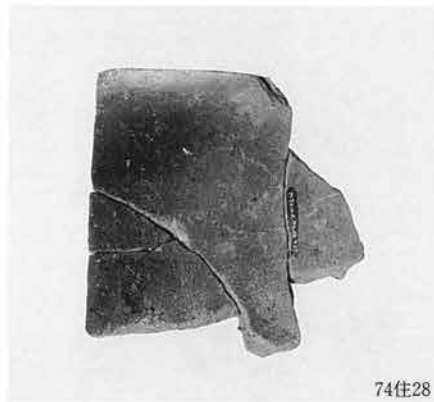
74住16

74住19

74住24


74住26




74住28

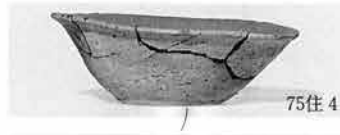
74住30

74住31

75住 1

75住 3

75住 2


75住 4

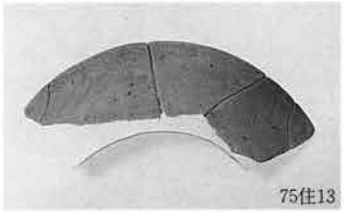
75住10

75住 5

75住11

75住12

75住 9


75住13

75住16

75住14

75住18

75住21

75住24

76住 1

76住 2

76住 3

76住 4

77住 1

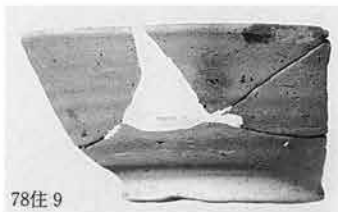
77住 7

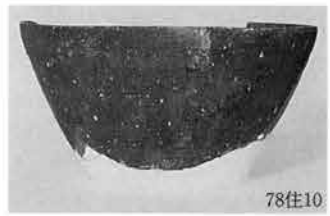
78住 1

78住 4

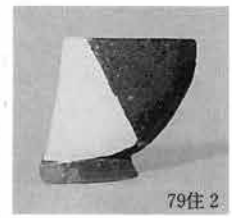
78住 5

78住18


78住 9


78住10

79住 1


79住 2

79住 4

80住 1

80住 2

80住 3

80住 4

80住 5

80住 6

80住 7

80住 8

80住10

図版74

80住 9

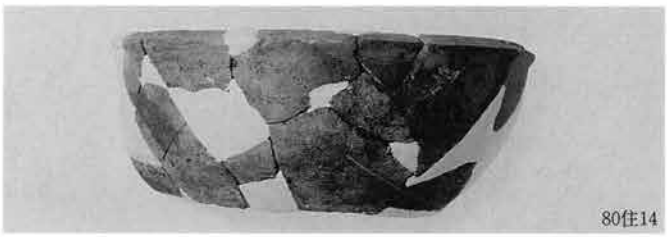
80住11

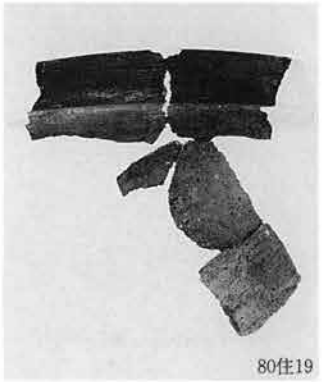
80住12

80住15

80住13

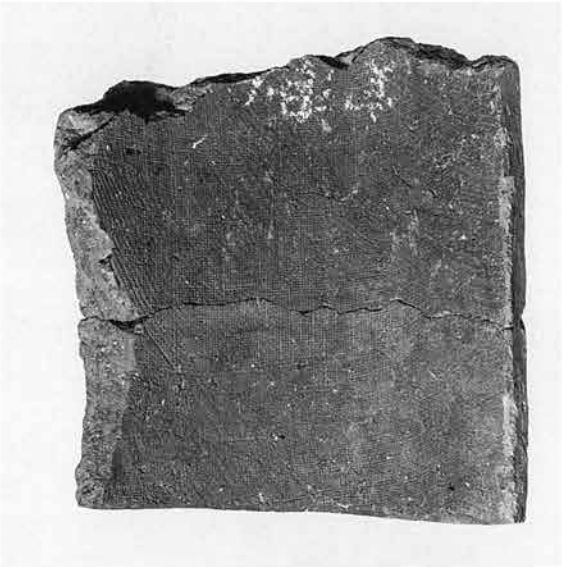
80住16


80住14

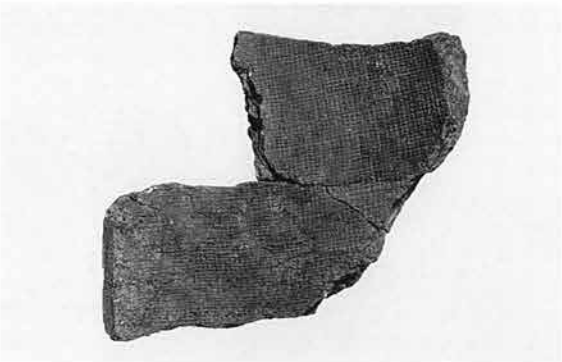

80住19

80住20

80住23



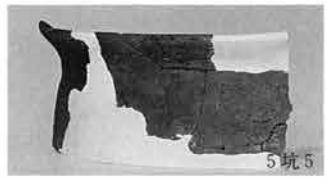
80住21



80住24

2坑2

4坑4


5坑5

7坑7

7坑8

7坑9

7坑10

15坑18

20坑19

20坑23

10坑15

20坑20

20坑32

20坑31

20坑21

20坑14

20坑22

21坑33

21坑42

22坑45

27坑48

50坑50

21坑34

69坑53

80坑56

80坑61

80坑63

80坑58

80坑59

80坑60

80坑62

81坑66

81坑69

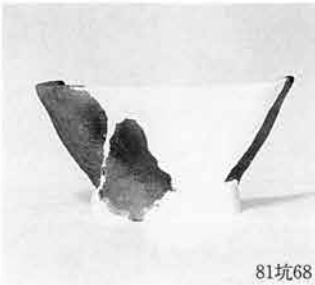
81坑64

81坑65

81坑67

81坑72

図版76


81坑68

81坑75

81坑76

81坑77

81坑79

81坑80

81坑81

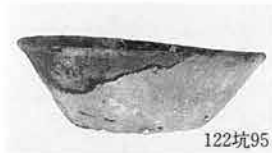
81坑82

81坑74

81坑78

115坑92

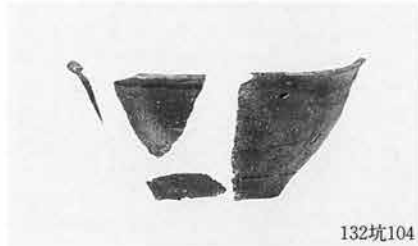
120坑93


122坑95

122坑96

123坑99

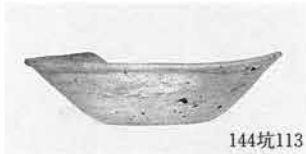
123坑100


132坑104

130坑102

162坑118

144坑112


144坑113

144坑115

164坑120

164坑121

164坑124

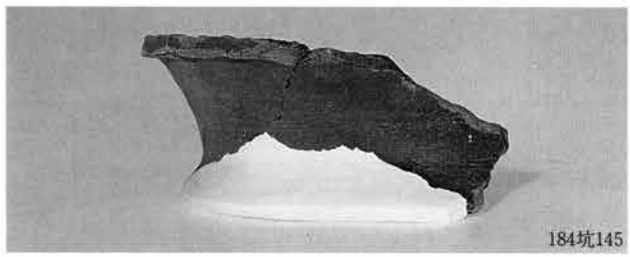
164坑122

166坑134

166坑133

181坑137

184坑138



184坑145

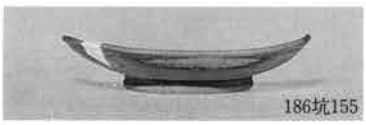
186坑152

186坑153

184坑147

184坑146

184坑148



186坑155

186坑154

186坑159

186坑156

187坑161

191坑162

204坑163

2掘立1

2掘立2

2掘立3

2掘立4

2掘立6

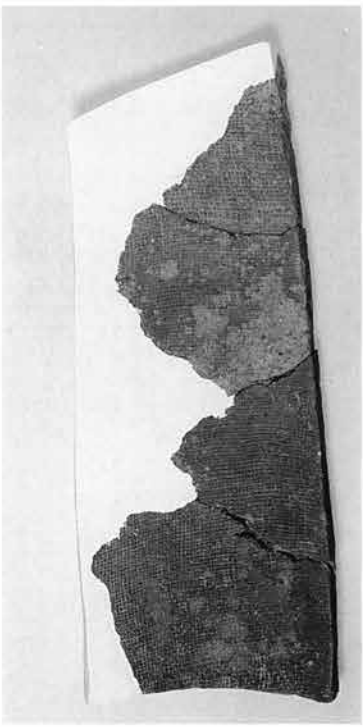
2掘立10

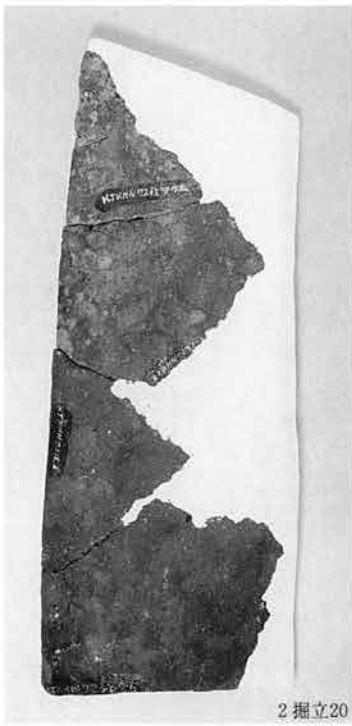
2掘立8

2掘立14

2掘立11

図版78





2掘立20

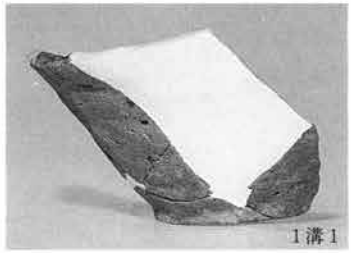
2掘立18

2掘立21

1井戸4

1井戸5

1井戸3



1溝1

5溝3

5溝2

7溝9

1集9

1集6

1集11

1集13

1集14

1集2

1集1

2集1

2集2

2集3

2集4

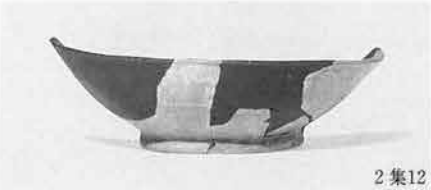
2集8

2集5

2集6

2集7

2集9



2集12

2集15

2集18

2集19

2集10

2集11

図版80

2集24

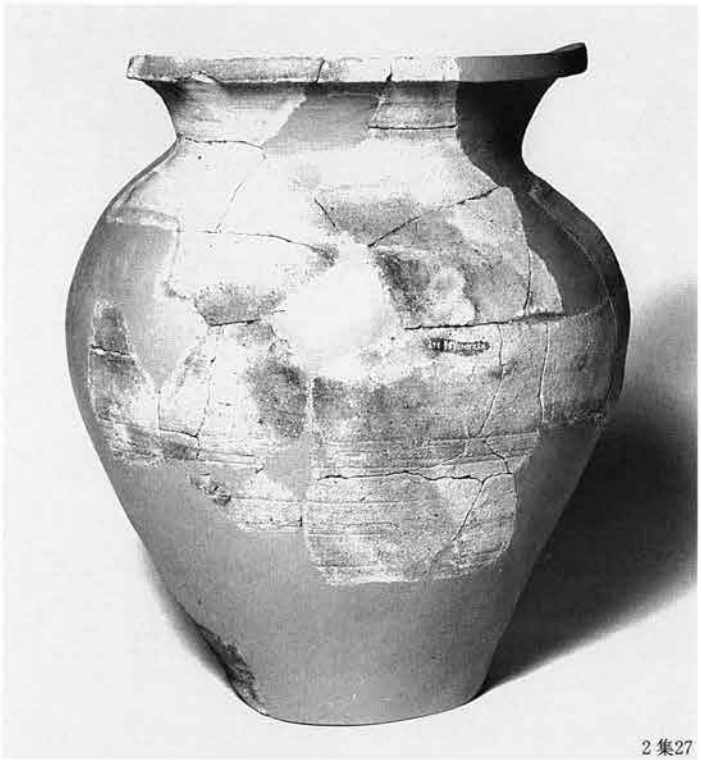
2集25

2集23

2集26

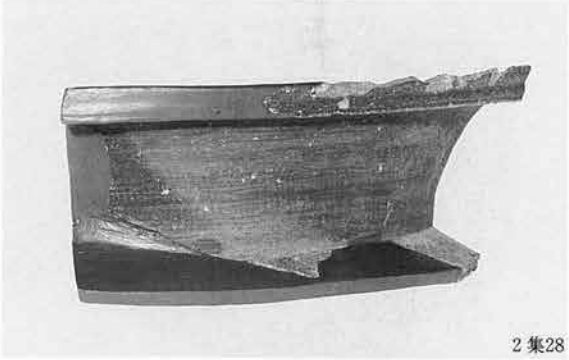
2集22

2集30

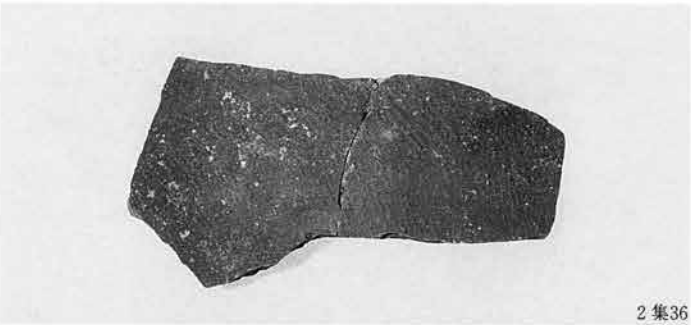

2集27

2集29

2集34


2集28

2集35


2集36

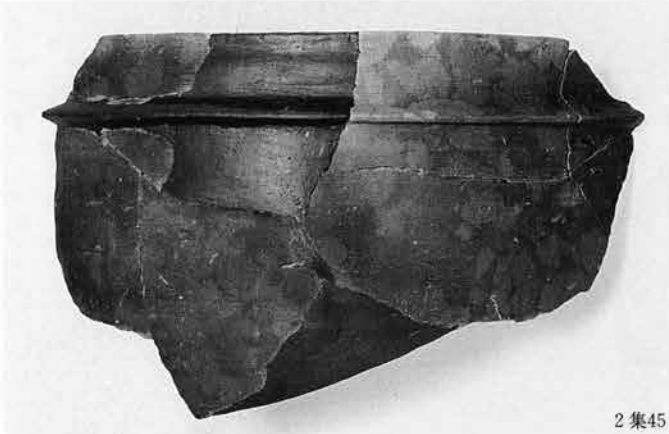
2集44

図版82

2集37

2集47

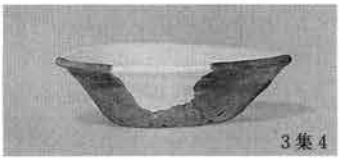
2集46


2集45

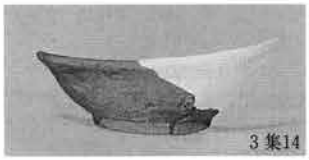
2集48

3集5

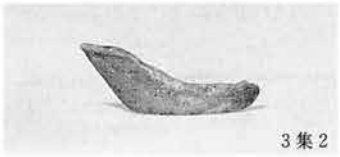
3集8


3集4

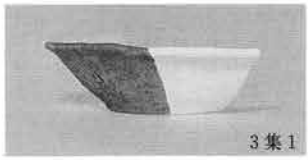
3集3


3集14

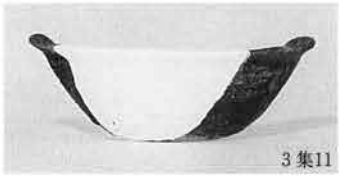
3集9

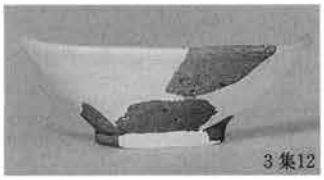

3集2

3集13

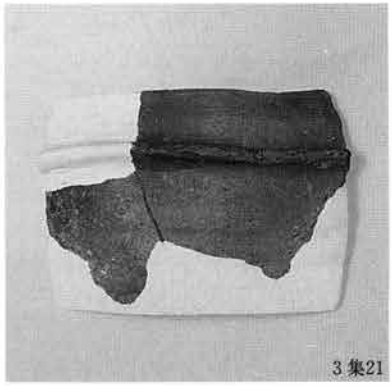

3集1

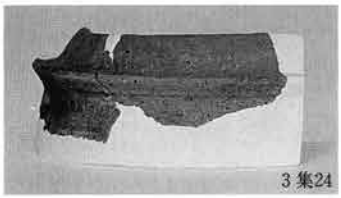
3集7


3集11


3集12

3集10


3集21

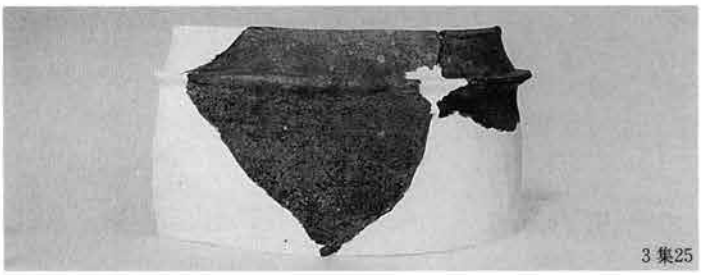

3集24

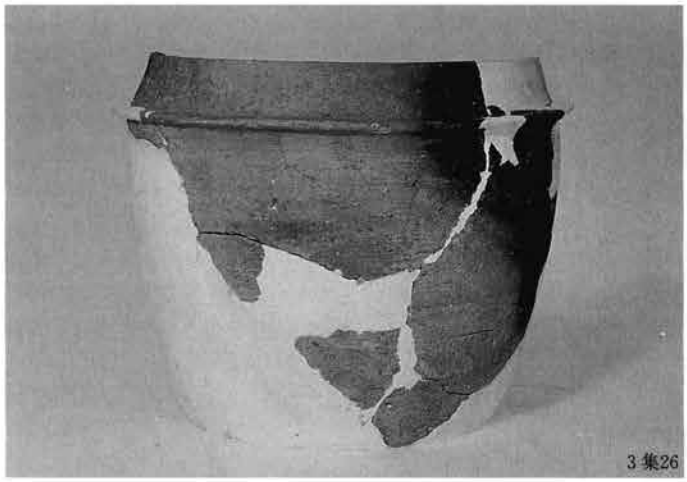
3集20

3集23

3集35

3集22

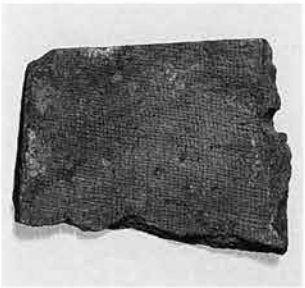

3集25


3集26

3集31

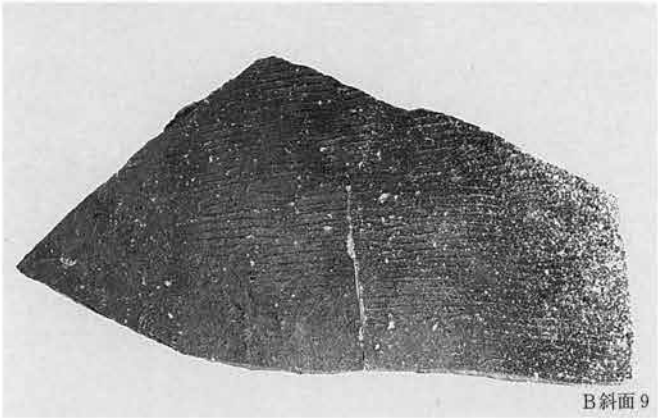
A斜面1

A斜面2



A斜面7

A斜面3


B斜面9

B斜面12

B斜面8

E斜面13

2号集積出土遺物

庚1住3

庚1住5

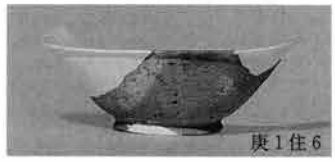
庚1住2

庚1住1

庚1住4

庚1住12

庚1住10


庚1住6

庚1住8

庚1住9

庚1住7

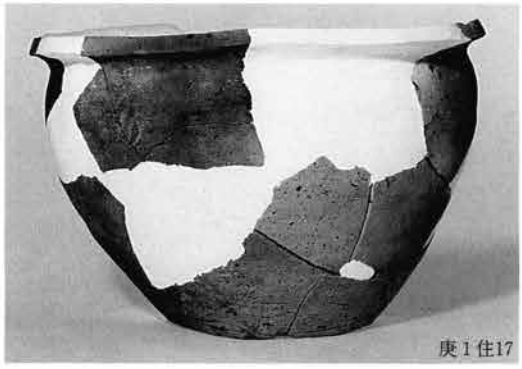
庚1住11

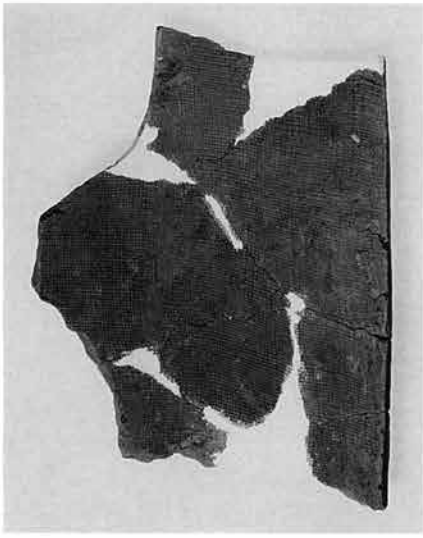
庚1住13

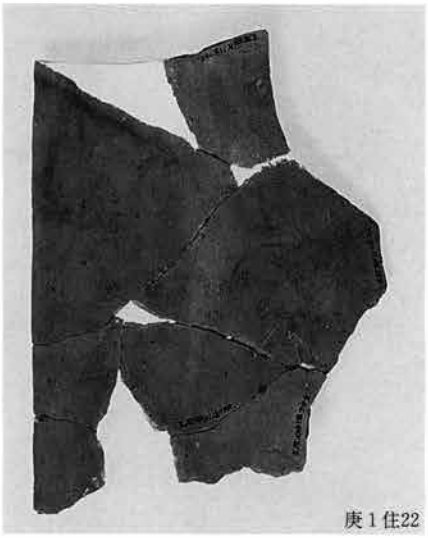
庚1住14

庚1住19

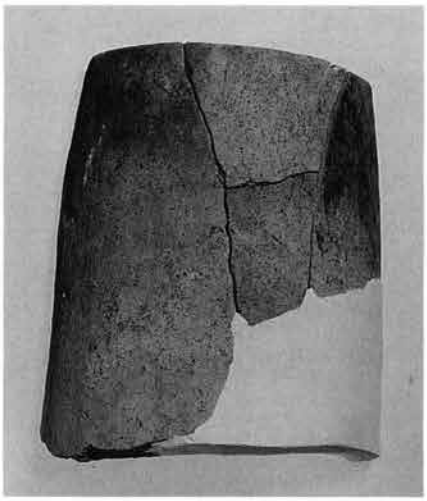
庚1住15

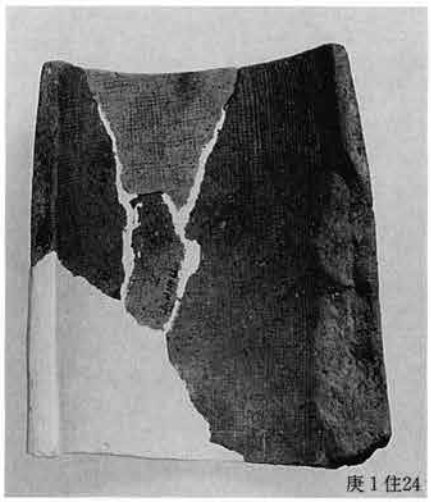

庚1住17



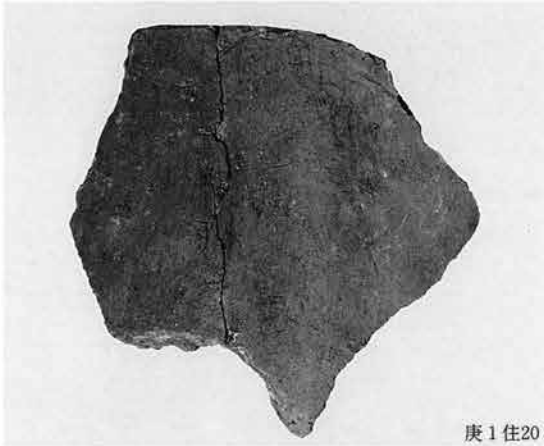

庚1住22

庚1住18




庚1住24

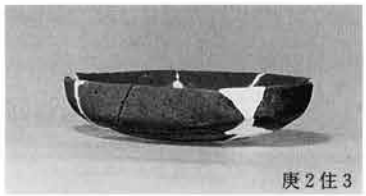
図版86



庚1住20

庚2住1

庚2住5



庚2住3

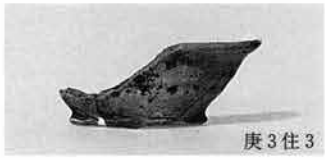
庚2住2

庚2住4

庚2住6

庚3住1

庚3住2



庚3住3

庚3住4

庚3住5

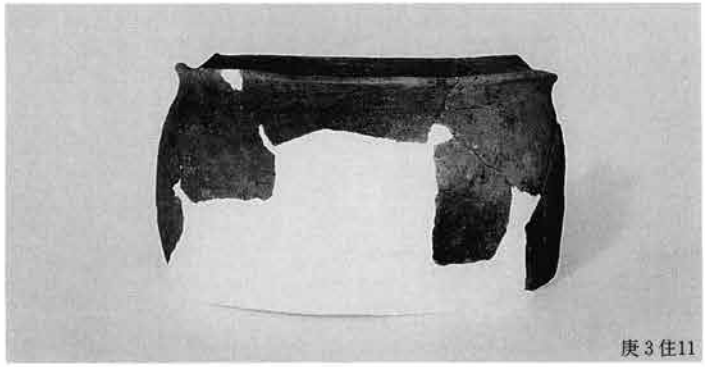
庚3住6

庚3住7

庚3住8

庚3住9

庚3住10



庚3住11

庚グリッド6

庚グリッド7

庚グリッド8

㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告第169集

黒熊中西遺跡(2)

関越自動車道（上越線）地域埋蔵
文化財発掘調査報告書　第23集

平成6年3月15日　印刷
平成6年3月25日　発行

編集／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377　勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2
電話(0279)52－2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
〒377　勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2
電話(0279)52－2511(代表)

印刷／上毛新聞社出版局